

**2023年度
経営学部
講義概要 (シラバス)**



法政大学

科目一覽

[発行日: 2023/5/1] 最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

- 〈他〉: 他学部公開科目
 〈優〉: 成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
 〈S〉: サーティフィケートプログラム_SDGs
 〈ダ〉: サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ
 〈グ〉: グローバル・オープン科目
 〈実〉: 実務経験のある教員による授業科目
 〈ア〉: サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
 〈未〉: サーティフィケートプログラム_未来教室

専門入門科目 100 番台	情報学入門 I/II (2019 年度以降入学者)・情報科学実習 I/II (2018 年度以前入学者) []	1
専門入門科目 100 番台	[A4001] 組織論入門 [長岡 健] 春学期授業/Spring	3
専門入門科目 100 番台	[A4002] 組織論入門 [小川 憲彦] 秋学期授業/Fall	5
専門入門科目 100 番台	[A4003] 組織論入門 [橋本 諭] 春学期授業/Spring	7
専門入門科目 100 番台	[A4004] 組織論入門 [橋本 諭] 秋学期授業/Fall	8
専門入門科目 100 番台	[A4005] 戦略論入門 [安藤 直紀] 春学期授業/Spring	9
専門入門科目 100 番台	[A4006] 戦略論入門 [工藤 悟志] 春学期授業/Spring	10
専門入門科目 100 番台	[A4007] 戦略論入門 [福島 英史] 秋学期授業/Fall	11
専門入門科目 100 番台	[A4008] 戦略論入門 [工藤 悟志] 秋学期授業/Fall	12
専門入門科目 100 番台	[A4009] マーケティング入門 [竹内 淑恵] 春学期授業/Spring	13
専門入門科目 100 番台	[A4010] マーケティング入門 [竹内 淑恵] 秋学期授業/Fall	15
専門入門科目 100 番台	[A4011] マーケティング入門 [長谷川 翔平] 春学期授業/Spring	17
専門入門科目 100 番台	[A4012] マーケティング入門 [長谷川 翔平] 秋学期授業/Fall	18
専門入門科目 100 番台	[A4013] ファイナンス入門 [山崎 輝] 春学期授業/Spring	19
専門入門科目 100 番台	[A4014] ファイナンス入門 [岸本 直樹] 秋学期授業/Fall	20
専門入門科目 100 番台	[A4015] ファイナンス入門 [金 瑠晋] 秋学期授業/Fall	21
専門入門科目 100 番台	[A4016] 経済学入門 [高橋 理香, 大木 良子] 春学期授業/Spring	22
専門入門科目 100 番台	[A4017] 経済学入門 [大木 良子, 高橋 理香] 春学期授業/Spring	24
専門入門科目 100 番台	[A4018] 経済学入門 [横内 正雄, 大木 良子] 秋学期授業/Fall	26
専門入門科目 100 番台	[A4019] 経済学入門 [大木 良子, 横内 正雄] 秋学期授業/Fall	28
専門入門科目 100 番台	[A4020] 統計学入門 [猪狩 良介] 春学期授業/Spring	30
専門入門科目 100 番台	[A4021] 統計学入門 [猪狩 良介] 秋学期授業/Fall	31
専門入門科目 100 番台	[A4022] 統計学入門 [高橋 慎] 春学期授業/Spring	32
専門入門科目 100 番台	[A4023] 統計学入門 [高橋 慎] 秋学期授業/Fall	33
専門入門科目 100 番台	[A4024] 簿記入門 I [大下 勇二] 春学期授業/Spring	34
専門入門科目 100 番台	[A4025] 簿記入門 II [大下 勇二] 秋学期授業/Fall	35
専門入門科目 100 番台	[A4026] 簿記入門 I [川島 健司] 春学期授業/Spring	36
専門入門科目 100 番台	[A4027] 簿記入門 II [川島 健司] 秋学期授業/Fall	38
専門入門科目 100 番台	[A4028] 簿記入門 I [神谷 健司] 春学期授業/Spring	40
専門入門科目 100 番台	[A4029] 簿記入門 II [神谷 健司] 秋学期授業/Fall	41
専門入門科目 100 番台	[A4030] 簿記入門 I [神谷 健司] 春学期授業/Spring	42
専門入門科目 100 番台	[A4031] 簿記入門 II [神谷 健司] 秋学期授業/Fall	43
専門入門科目 100 番台	[A4038] 情報学入門 I (表計算) (2019 年度以降入学者) [根岸 良征] 春学期授業/Spring	44
専門入門科目 100 番台	[A4039] 情報学入門 II (表計算) (2019 年度以降入学者) [根岸 良征] 秋学期授業/Fall	45
専門入門科目 100 番台	[A4040] 情報学入門 I (表計算) (2019 年度以降入学者) [上野 京子] 春学期授業/Spring	46
専門入門科目 100 番台	[A4041] 情報学入門 II (表計算) (2019 年度以降入学者) [上野 京子] 秋学期授業/Fall	47
専門入門科目 100 番台	[A4042] 情報学入門 I (表計算) (2019 年度以降入学者) [上野 京子] 春学期授業/Spring	48
専門入門科目 100 番台	[A4043] 情報学入門 II (表計算) (2019 年度以降入学者) [上野 京子] 秋学期授業/Fall	49
専門入門科目 100 番台	[A4044] 情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者) [根岸 良征] 春学期授業/Spring	50
専門入門科目 100 番台	[A4045] 情報学入門 II (データ演習) (2019 年度以降入学者) [根岸 良征] 秋学期授業/Fall	51
専門入門科目 100 番台	[A4046] 情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者) [三宅 修平] 春学期授業/Spring	52
専門入門科目 100 番台	[A4047] 情報学入門 II (データ演習) (2019 年度以降入学者) [三宅 修平] 秋学期授業/Fall	53
専門入門科目 100 番台	[A4048] 情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者) [飯塚 康至] 春学期授業/Spring	54
専門入門科目 100 番台	[A4049] 情報学入門 II (データ演習) (2019 年度以降入学者) [飯塚 康至] 秋学期授業/Fall	55
専門入門科目 100 番台	[A4050] 情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者) [三宅 修平] 春学期授業/Spring	56

専門入門科目 100 番台 【A4098】 情報学入門Ⅰ (空間情報処理) (2019 年度以降入学者) [小寺 浩二] 春学期授業/Spring	102
専門入門科目 100 番台 【A4099】 情報学入門Ⅱ (空間情報処理) (2019 年度以降入学者) [小寺 浩二] 秋学期授業/Fall	103
専門入門科目 100 番台 【A4100】 情報学入門Ⅰ (空間情報処理) (2019 年度以降入学者) [小寺 浩二] 春学期授業/Spring	104
専門入門科目 100 番台 【A4101】 情報学入門Ⅱ (空間情報処理) (2019 年度以降入学者) [小寺 浩二] 秋学期授業/Fall	105
専門入門科目 100 番台 【A4102】 情報学入門Ⅰ (空間情報処理) (2019 年度以降入学者) [永保 敏伸] 春学期授業/Spring	106
専門入門科目 100 番台 【A4103】 情報学入門Ⅱ (空間情報処理) (2019 年度以降入学者) [永保 敏伸] 秋学期授業/Fall	108
専門入門科目 100 番台 【A4104】 情報学入門Ⅰ (メディア情報処理) (2019 年度以降入学者) [築城 厚三] 春学期授業/Spring	110
専門入門科目 100 番台 【A4105】 情報学入門Ⅱ (メディア情報処理) (2019 年度以降入学者) [築城 厚三] 秋学期授業/Fall	111
専門入門科目 100 番台 【A4106】 情報学入門Ⅰ (言語データ処理) (2019 年度以降入学者) [石川 潔] 春学期授業/Spring	112
専門入門科目 100 番台 【A4107】 情報学入門Ⅱ (言語データ処理) (2019 年度以降入学者) [石川 潔] 秋学期授業/Fall	113
【A4108】 情報科学実習Ⅰ (a コース) (2018 年度入学者) [根岸 良征] 春学期授業/Spring	114
【A4109】 情報科学実習Ⅱ (a コース) (2018 年度入学者) [根岸 良征] 秋学期授業/Fall	115
【A4110】 情報科学実習Ⅰ (a コース) (2018 年度入学者) [上野 京子] 春学期授業/Spring	116
【A4111】 情報科学実習Ⅱ (a コース) (2018 年度入学者) [上野 京子] 秋学期授業/Fall	117
【A4112】 情報科学実習Ⅰ (a コース) (2018 年度入学者) [上野 京子] 春学期授業/Spring	118
【A4113】 情報科学実習Ⅱ (a コース) (2018 年度入学者) [上野 京子] 秋学期授業/Fall	119
【A4114】 情報科学実習Ⅰ (b コース) (2018 年度入学者) [根岸 良征] 春学期授業/Spring	120
【A4115】 情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学者) [根岸 良征] 秋学期授業/Fall	121
【A4116】 情報科学実習Ⅰ (b コース) (2018 年度入学者) [三宅 修平] 春学期授業/Spring	122
【A4117】 情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学者) [三宅 修平] 秋学期授業/Fall	123
【A4118】 情報科学実習Ⅰ (b コース) (2018 年度入学者) [飯塚 康至] 春学期授業/Spring	124
【A4119】 情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学者) [飯塚 康至] 秋学期授業/Fall	125
【A4120】 情報科学実習Ⅰ (b コース) (2018 年度入学者) [三宅 修平] 春学期授業/Spring	126
【A4121】 情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学者) [三宅 修平] 秋学期授業/Fall	127
【A4122】 情報科学実習Ⅰ (b コース) (2018 年度入学者) [島田 由美子] 春学期授業/Spring	128
【A4123】 情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学者) [島田 由美子] 秋学期授業/Fall	129
【A4124】 情報科学実習Ⅰ (b コース) (2018 年度入学者) [高田 美樹] 春学期授業/Spring	130
【A4125】 情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学者) [高田 美樹] 秋学期授業/Fall	131
【A4126】 情報科学実習Ⅰ (b コース) (2018 年度入学者) [高田 美樹] 春学期授業/Spring	132
【A4127】 情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学者) [高田 美樹] 秋学期授業/Fall	133
【A4128】 情報科学実習Ⅰ (b コース) (2018 年度入学者) [高田 美樹] 春学期授業/Spring	134
【A4129】 情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学者) [高田 美樹] 秋学期授業/Fall	135
【A4130】 情報科学実習Ⅰ (b コース) (2018 年度入学者) [三宅 修平] 春学期授業/Spring	136
【A4131】 情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学者) [三宅 修平] 秋学期授業/Fall	137
【A4134】 情報科学実習Ⅰ (b コース) (2018 年度入学者) [島田 由美子] 春学期授業/Spring	138
【A4135】 情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学者) [島田 由美子] 秋学期授業/Fall	139
【A4136】 情報科学実習Ⅰ (b コース) (2018 年度入学者) [根岸 良征] 春学期授業/Spring	140
【A4137】 情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学者) [根岸 良征] 秋学期授業/Fall	141
【A4138】 情報科学実習Ⅰ (b コース) (2018 年度入学者) [根岸 良征] 春学期授業/Spring	142
【A4139】 情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学者) [根岸 良征] 秋学期授業/Fall	143
【A4140】 情報科学実習Ⅰ (b コース) (2018 年度入学者) [児玉 靖司] 春学期授業/Spring	144
【A4141】 情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学者) [児玉 靖司] 秋学期授業/Fall	145
【A4142】 情報科学実習Ⅰ (b コース) (2018 年度入学者) [島田 由美子] 春学期授業/Spring	146
【A4143】 情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学者) [島田 由美子] 秋学期授業/Fall	147
【A4144】 情報科学実習Ⅰ (b コース) (2018 年度入学者) [島田 由美子] 春学期授業/Spring	148
【A4145】 情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学者) [島田 由美子] 秋学期授業/Fall	149
【A4146】 情報科学実習Ⅰ (b コース) (2018 年度入学者) [田中 元一郎] 春学期授業/Spring	150
【A4147】 情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学者) [田中 元一郎] 秋学期授業/Fall	151
【A4148】 情報科学実習Ⅰ (b コース) (2018 年度入学者) [高田 美樹] 春学期授業/Spring	152
【A4149】 情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学者) [高田 美樹] 秋学期授業/Fall	153
【A4150】 情報科学実習Ⅰ (b コース) (2018 年度入学者) [高田 美樹] 春学期授業/Spring	154

【A4151】	情報科学実習Ⅱ	(bコース)	(2018年度入学者)	[高田 美樹]	秋学期授業/Fall	155
【A4152】	情報科学実習Ⅰ	(bコース)	(2018年度入学者)	[田中 元一郎]	春学期授業/Spring	156
【A4153】	情報科学実習Ⅱ	(bコース)	(2018年度入学者)	[田中 元一郎]	秋学期授業/Fall	157
【A4154】	情報科学実習Ⅰ	(bコース)	(2018年度入学者)	[木村 昌史]	春学期授業/Spring	158
【A4155】	情報科学実習Ⅱ	(bコース)	(2018年度入学者)	[木村 昌史]	秋学期授業/Fall	159
【A4156】	情報科学実習Ⅰ	(bコース)	(2018年度入学者)	[田中 元一郎]	春学期授業/Spring	160
【A4157】	情報科学実習Ⅱ	(bコース)	(2018年度入学者)	[田中 元一郎]	秋学期授業/Fall	161
【A4158】	情報科学実習Ⅰ	(bコース)	(2018年度入学者)	[田中 元一郎]	春学期授業/Spring	162
【A4159】	情報科学実習Ⅱ	(bコース)	(2018年度入学者)	[田中 元一郎]	秋学期授業/Fall	163
【A4162】	情報科学実習Ⅰ	(dコース)	(2018年度入学者)	[渡辺 英人]	春学期授業/Spring	164
【A4163】	情報科学実習Ⅱ	(dコース)	(2018年度入学者)	[渡辺 英人]	秋学期授業/Fall	165
【A4164】	情報科学実習Ⅰ	(dコース)	(2018年度入学者)	[渡辺 英人]	春学期授業/Spring	166
【A4165】	情報科学実習Ⅱ	(dコース)	(2018年度入学者)	[渡辺 英人]	秋学期授業/Fall	167
【A4166】	情報科学実習Ⅰ	(dコース)	(2018年度入学者)	[木村 昌史]	春学期授業/Spring	168
【A4167】	情報科学実習Ⅱ	(dコース)	(2018年度入学者)	[木村 昌史]	秋学期授業/Fall	169
【A4168】	情報科学実習Ⅰ	(fコース)	(2018年度入学者)	[小寺 浩二]	春学期授業/Spring	170
【A4169】	情報科学実習Ⅱ	(fコース)	(2018年度入学者)	[小寺 浩二]	秋学期授業/Fall	171
【A4170】	情報科学実習Ⅰ	(fコース)	(2018年度入学者)	[小寺 浩二]	春学期授業/Spring	172
【A4171】	情報科学実習Ⅱ	(fコース)	(2018年度入学者)	[小寺 浩二]	秋学期授業/Fall	173
【A4172】	情報科学実習Ⅰ	(fコース)	(2018年度入学者)	[永保 敏伸]	春学期授業/Spring	174
【A4173】	情報科学実習Ⅱ	(fコース)	(2018年度入学者)	[永保 敏伸]	秋学期授業/Fall	176
【A4174】	情報科学実習Ⅰ	(fコース)	(2018年度入学者)	[築城 厚三]	春学期授業/Spring	178
【A4175】	情報科学実習Ⅱ	(fコース)	(2018年度入学者)	[築城 厚三]	秋学期授業/Fall	179
【A4176】	情報科学実習Ⅰ	(fコース)	(2018年度入学者)	[石川 潔]	春学期授業/Spring	180
【A4177】	情報科学実習Ⅱ	(fコース)	(2018年度入学者)	[石川 潔]	秋学期授業/Fall	181
【A4178】	情報科学実習Ⅰ	(2016~2017年度入学者)		[根岸 良征]	春学期授業/Spring	182
【A4179】	情報科学実習Ⅱ	(2016~2017年度入学者)		[根岸 良征]	秋学期授業/Fall	183
【A4180】	情報科学実習Ⅰ	(2016~2017年度入学者)		[上野 京子]	春学期授業/Spring	184
【A4181】	情報科学実習Ⅱ	(2016~2017年度入学者)		[上野 京子]	秋学期授業/Fall	185
【A4182】	情報科学実習Ⅰ	(2016~2017年度入学者)		[上野 京子]	春学期授業/Spring	186
【A4183】	情報科学実習Ⅱ	(2016~2017年度入学者)		[上野 京子]	秋学期授業/Fall	187
【A4184】	情報科学実習Ⅰ	(2016~2017年度入学者)		[根岸 良征]	春学期授業/Spring	188
【A4185】	情報科学実習Ⅱ	(2016~2017年度入学者)		[根岸 良征]	秋学期授業/Fall	189
【A4186】	情報科学実習Ⅰ	(2016~2017年度入学者)		[三宅 修平]	春学期授業/Spring	190
【A4187】	情報科学実習Ⅱ	(2016~2017年度入学者)		[三宅 修平]	秋学期授業/Fall	191
【A4188】	情報科学実習Ⅰ	(2016~2017年度入学者)		[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	192
【A4189】	情報科学実習Ⅱ	(2016~2017年度入学者)		[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	193
【A4190】	情報科学実習Ⅰ	(2016~2017年度入学者)		[三宅 修平]	春学期授業/Spring	194
【A4191】	情報科学実習Ⅱ	(2016~2017年度入学者)		[三宅 修平]	秋学期授業/Fall	195
【A4192】	情報科学実習Ⅰ	(2016~2017年度入学者)		[島田 由美子]	春学期授業/Spring	196
【A4193】	情報科学実習Ⅱ	(2016~2017年度入学者)		[島田 由美子]	秋学期授業/Fall	197
【A4194】	情報科学実習Ⅰ	(2016~2017年度入学者)		[高田 美樹]	春学期授業/Spring	198
【A4195】	情報科学実習Ⅱ	(2016~2017年度入学者)		[高田 美樹]	秋学期授業/Fall	199
【A4196】	情報科学実習Ⅰ	(2016~2017年度入学者)		[高田 美樹]	春学期授業/Spring	200
【A4197】	情報科学実習Ⅱ	(2016~2017年度入学者)		[高田 美樹]	秋学期授業/Fall	201
【A4198】	情報科学実習Ⅰ	(2016~2017年度入学者)		[高田 美樹]	春学期授業/Spring	202
【A4199】	情報科学実習Ⅱ	(2016~2017年度入学者)		[高田 美樹]	秋学期授業/Fall	203
【A4200】	情報科学実習Ⅰ	(2016~2017年度入学者)		[三宅 修平]	春学期授業/Spring	204
【A4201】	情報科学実習Ⅱ	(2016~2017年度入学者)		[三宅 修平]	秋学期授業/Fall	205
【A4204】	情報科学実習Ⅰ	(2016~2017年度入学者)		[島田 由美子]	春学期授業/Spring	206
【A4205】	情報科学実習Ⅱ	(2016~2017年度入学者)		[島田 由美子]	秋学期授業/Fall	207
【A4206】	情報科学実習Ⅰ	(2016~2017年度入学者)		[根岸 良征]	春学期授業/Spring	208
【A4207】	情報科学実習Ⅱ	(2016~2017年度入学者)		[根岸 良征]	秋学期授業/Fall	209
【A4208】	情報科学実習Ⅰ	(2016~2017年度入学者)		[根岸 良征]	春学期授業/Spring	210
【A4209】	情報科学実習Ⅱ	(2016~2017年度入学者)		[根岸 良征]	秋学期授業/Fall	211
【A4210】	情報科学実習Ⅰ	(2016~2017年度入学者)		[児玉 靖司]	春学期授業/Spring	212
【A4211】	情報科学実習Ⅱ	(2016~2017年度入学者)		[児玉 靖司]	秋学期授業/Fall	213

【A4212】	情報科学実習Ⅰ (2016~2017年度入学者)	[島田 由美子]	春学期授業/Spring	214
【A4213】	情報科学実習Ⅱ (2016~2017年度入学者)	[島田 由美子]	秋学期授業/Fall	215
【A4214】	情報科学実習Ⅰ (2016~2017年度入学者)	[島田 由美子]	春学期授業/Spring	216
【A4215】	情報科学実習Ⅱ (2016~2017年度入学者)	[島田 由美子]	秋学期授業/Fall	217
【A4216】	情報科学実習Ⅰ (2016~2017年度入学者)	[田中 元一朗]	春学期授業/Spring	218
【A4217】	情報科学実習Ⅱ (2016~2017年度入学者)	[田中 元一朗]	秋学期授業/Fall	219
【A4218】	情報科学実習Ⅰ (2016~2017年度入学者)	[高田 美樹]	春学期授業/Spring	220
【A4219】	情報科学実習Ⅱ (2016~2017年度入学者)	[高田 美樹]	秋学期授業/Fall	221
【A4220】	情報科学実習Ⅰ (2016~2017年度入学者)	[高田 美樹]	春学期授業/Spring	222
【A4221】	情報科学実習Ⅱ (2016~2017年度入学者)	[高田 美樹]	秋学期授業/Fall	223
【A4222】	情報科学実習Ⅰ (2016~2017年度入学者)	[田中 元一朗]	春学期授業/Spring	224
【A4223】	情報科学実習Ⅱ (2016~2017年度入学者)	[田中 元一朗]	秋学期授業/Fall	225
【A4224】	情報科学実習Ⅰ (2016~2017年度入学者)	[木村 昌史]	春学期授業/Spring	226
【A4225】	情報科学実習Ⅱ (2016~2017年度入学者)	[木村 昌史]	秋学期授業/Fall	227
【A4226】	情報科学実習Ⅰ (2016~2017年度入学者)	[田中 元一朗]	春学期授業/Spring	228
【A4227】	情報科学実習Ⅱ (2016~2017年度入学者)	[田中 元一朗]	秋学期授業/Fall	229
【A4228】	情報科学実習Ⅰ (2016~2017年度入学者)	[田中 元一朗]	春学期授業/Spring	230
【A4229】	情報科学実習Ⅱ (2016~2017年度入学者)	[田中 元一朗]	秋学期授業/Fall	231
【A4230】	情報科学実習Ⅰ (2016~2017年度入学者)	[渡辺 英人]	春学期授業/Spring	232
【A4231】	情報科学実習Ⅱ (2016~2017年度入学者)	[渡辺 英人]	秋学期授業/Fall	233
【A4232】	情報科学実習Ⅰ (2016~2017年度入学者)	[渡辺 英人]	春学期授業/Spring	234
【A4233】	情報科学実習Ⅱ (2016~2017年度入学者)	[渡辺 英人]	秋学期授業/Fall	235
【A4234】	情報科学実習Ⅰ (2016~2017年度入学者)	[木村 昌史]	春学期授業/Spring	236
【A4235】	情報科学実習Ⅱ (2016~2017年度入学者)	[木村 昌史]	秋学期授業/Fall	237
【A4236】	情報科学実習Ⅰ (2016~2017年度入学者)	[小寺 浩二]	春学期授業/Spring	238
【A4237】	情報科学実習Ⅱ (2016~2017年度入学者)	[小寺 浩二]	秋学期授業/Fall	239
【A4238】	情報科学実習Ⅰ (2016~2017年度入学者)	[小寺 浩二]	春学期授業/Spring	240
【A4239】	情報科学実習Ⅱ (2016~2017年度入学者)	[小寺 浩二]	秋学期授業/Fall	241
【A4240】	情報科学実習Ⅰ (2016~2017年度入学者)	[永保 敏伸]	春学期授業/Spring	242
【A4241】	情報科学実習Ⅱ (2016~2017年度入学者)	[永保 敏伸]	秋学期授業/Fall	244
【A4242】	情報科学実習Ⅰ (2016~2017年度入学者)	[築城 厚三]	春学期授業/Spring	246
【A4243】	情報科学実習Ⅱ (2016~2017年度入学者)	[築城 厚三]	秋学期授業/Fall	247
【A4244】	情報科学実習Ⅰ (2016~2017年度入学者)	[石川 潔]	春学期授業/Spring	248
【A4245】	情報科学実習Ⅱ (2016~2017年度入学者)	[石川 潔]	秋学期授業/Fall	249
専門入門科目 200 番台	【A4301】	会計学入門Ⅰ [神谷 健司]	春学期授業/Spring	250
専門入門科目 200 番台	【A4302】	会計学入門Ⅱ [神谷 健司]	秋学期授業/Fall	251
専門入門科目 200 番台	【A4303】	会計学入門Ⅰ [坂上 学]	春学期授業/Spring	252
専門入門科目 200 番台	【A4304】	会計学入門Ⅱ [坂上 学]	秋学期授業/Fall	253
専門入門科目 200 番台	【A4305】	会計学入門Ⅰ [倉田 幸路]	春学期授業/Spring	254
専門入門科目 200 番台	【A4306】	会計学入門Ⅱ [木下 貴博]	秋学期授業/Fall	255
専門入門科目 200 番台	【A4307】	基礎統計学Ⅰ [猪狩 良介]	春学期授業/Spring	256
専門入門科目 200 番台	【A4308】	基礎統計学Ⅱ [高橋 慎]	秋学期授業/Fall	257
専門入門科目 200 番台	【A4309】	基礎統計学Ⅰ [猪狩 良介]	春学期授業/Spring	258
専門入門科目 200 番台	【A4310】	基礎統計学Ⅱ [高橋 慎]	秋学期授業/Fall	259
専門入門科目 200 番台	【A4311】	ミクロ経済学入門Ⅰ (2019年度以降入学者)	[塚田 憲史] 春学期授業/Spring	260
専門入門科目 200 番台	【A4312】	ミクロ経済学入門Ⅱ (2019年度以降入学者)	[塚田 憲史] 秋学期授業/Fall	261
専門入門科目 200 番台	【A4313】	ミクロ経済学入門Ⅰ (2019年度以降入学者)	[大木 良子] 春学期授業/Spring	262
専門入門科目 200 番台	【A4314】	ミクロ経済学入門Ⅱ (2019年度以降入学者)	[大木 良子] 秋学期授業/Fall	264
専門入門科目 200 番台	【A4315】	情報学基礎 (2019年度以降入学者)	[児玉 靖司] 春学期授業/Spring	265
【A4317】	経営管理論Ⅰ (2018年度以前入学者)	[稲垣 保弘]	春学期授業/Spring	266
【A4318】	経営管理論Ⅱ (2018年度以前入学者)	[稲垣 保弘]	秋学期授業/Fall	267
【A4319】	経営管理論Ⅰ (2018年度以前入学者)	[稲垣 保弘]	春学期授業/Spring	268
【A4320】	経営管理論Ⅱ (2018年度以前入学者)	[稲垣 保弘]	秋学期授業/Fall	269
【A4321】	経営戦略論Ⅰ (2018年度以前入学者)	[吉田 健二]	春学期授業/Spring	270
【A4322】	経営戦略論Ⅱ (2018年度以前入学者)	[吉田 健二]	秋学期授業/Fall	271
【A4323】	経営戦略論Ⅰ (2018年度以前入学者)	[李 瑞雪]	春学期授業/Spring	272
【A4324】	経営戦略論Ⅱ (2018年度以前入学者)	[李 瑞雪]	秋学期授業/Fall	273

【A4325】	マーケティング論Ⅰ [竹内 淑恵] 春学期授業/Spring	274
【A4326】	マーケティング論Ⅱ [竹内 淑恵] 秋学期授業/Fall	276
【A4329】	金融論Ⅰ (2018年度以前入学者) [片桐 満] 春学期授業/Spring.....	278
【A4330】	金融論Ⅱ (2018年度以前入学者) [片桐 満] 秋学期授業/Fall.....	279
経営学科専門科目 200 番台	【A4351】 経営管理論Ⅰ (2019年度以降入学者) [稲垣 保弘] 春学期授業/Spring....	280
経営学科専門科目 200 番台	【A4352】 経営管理論Ⅱ (2019年度以降入学者) [稲垣 保弘] 秋学期授業/Fall	281
経営学科専門科目 200 番台	【A4353】 経営管理論Ⅰ (2019年度以降入学者) [稲垣 保弘] 春学期授業/Spring....	282
経営学科専門科目 200 番台	【A4354】 経営管理論Ⅱ (2019年度以降入学者) [稲垣 保弘] 秋学期授業/Fall	283
経営学科専門科目 200 番台	【A4355】 経営社会学Ⅰ [藤本 真] 春学期授業/Spring	284
経営学科専門科目 200 番台	【A4356】 経営社会学Ⅱ [藤本 真] 秋学期授業/Fall	286
経営学科専門科目 200 番台	【A4357】 検定会計Ⅰ (2019年度以降入学者) [倉田 幸路] 春学期授業/Spring	288
経営学科専門科目 200 番台	【A4358】 検定会計Ⅱ (2019年度以降入学者) [倉田 幸路] 春学期授業/Spring	289
経営学科専門科目 200 番台	【A4359】 組織行動論Ⅰ [西川 真規子] 春学期授業/Spring	290
経営学科専門科目 300 番台	【A4360】 組織行動論Ⅱ [西川 真規子] 秋学期授業/Fall.....	291
経営学科専門科目 200 番台	【A4361】 キャリア・マネジメントⅠ (2019年度以降入学者) [小川 憲彦] 春学期授 業/Spring	292
経営学科専門科目 200 番台	【A4362】 キャリア・マネジメントⅡ (2019年度以降入学者) [小川 憲彦] 秋学期授 業/Fall	294
経営学科専門科目 300 番台	【A4363】 経営組織論Ⅰ [長岡 健] 春学期授業/Spring	295
経営学科専門科目 300 番台	【A4364】 経営組織論Ⅱ [長岡 健] 秋学期授業/Fall	297
経営学科専門科目 300 番台	【A4367】 経営情報論Ⅰ [岸 眞理子] 春学期授業/Spring.....	299
経営学科専門科目 300 番台	【A4368】 経営情報論Ⅱ [岸 眞理子] 秋学期授業/Fall	300
経営学科専門科目 300 番台	【A4369】 人的資源管理Ⅰ [佐野 嘉秀] 春学期授業/Spring	301
経営学科専門科目 300 番台	【A4370】 人的資源管理Ⅱ [佐野 嘉秀] 秋学期授業/Fall.....	303
経営学科専門科目 300 番台	【A4375】 財務会計論Ⅰ [川島 健司] 春学期授業/Spring	305
経営学科専門科目 300 番台	【A4376】 財務会計論Ⅱ [川島 健司] 秋学期授業/Fall	307
経営学科専門科目 300 番台	【A4377】 監査論Ⅰ [坂上 学] 春学期授業/Spring	309
経営学科専門科目 300 番台	【A4378】 監査論Ⅱ [坂上 学] 秋学期授業/Fall	310
経営学科専門科目 300 番台	【A4379】 税務会計論Ⅰ [大下 勇二] 春学期授業/Spring	311
経営学科専門科目 300 番台	【A4380】 税務会計論Ⅱ [大下 勇二] 秋学期授業/Fall	312
経営学科専門科目 300 番台	【A4381】 管理会計論Ⅰ [北田 皓嗣] 春学期授業/Spring	313
経営学科専門科目 300 番台	【A4382】 管理会計論Ⅱ [北田 皓嗣] 秋学期授業/Fall	314
経営学科専門科目 300 番台	【A4383】 原価計算論Ⅰ [福田 淳児] 春学期授業/Spring.....	315
経営学科専門科目 300 番台	【A4384】 原価計算論Ⅱ [福田 淳児] 秋学期授業/Fall	316
経営学科専門科目 300 番台	【A4385】 国際会計論Ⅰ [筒井 知彦] 春学期授業/Spring	317
経営学科専門科目 300 番台	【A4386】 国際会計論Ⅱ [筒井 知彦] 秋学期授業/Fall	318
経営学科専門科目 300 番台	【A4387】 原価計算論Ⅰ (教職用) [福田 淳児] 春学期授業/Spring.....	319
経営学科専門科目 300 番台	【A4388】 原価計算論Ⅱ (教職用) [福田 淳児] 秋学期授業/Fall.....	320
経営学科専門科目 300 番台	【A4393】 組織経済学 [奥西 好夫] 春学期授業/Spring	321
【A4394】	組織経済学Ⅰ (2018年度以前入学者) [奥西 好夫] 春学期授業/Spring.....	322
経営戦略学科専門科目 200 番台	【A4401】 経営戦略論Ⅰ (2019年度以降入学者) [吉田 健二] 春学期授業/Spring	323
経営戦略学科専門科目 200 番台	【A4402】 経営戦略論Ⅱ (2019年度以降入学者) [吉田 健二] 秋学期授業/Fall ..	324
経営戦略学科専門科目 200 番台	【A4403】 経営戦略論Ⅰ (2019年度以降入学者) [李 瑞雪] 春学期授業/Spring .	325
経営戦略学科専門科目 200 番台	【A4404】 経営戦略論Ⅱ (2019年度以降入学者) [李 瑞雪] 秋学期授業/Fall.....	326
経営戦略学科専門科目 200 番台	【A4405】 国際経営論Ⅰ [洞口 治夫] 春学期授業/Spring	327
経営戦略学科専門科目 200 番台	【A4406】 国際経営論Ⅱ [洞口 治夫] 秋学期授業/Fall	329
経営戦略学科専門科目 200 番台	【A4407】 国際経済論Ⅰ [高橋 理香] 春学期授業/Spring	331
経営戦略学科専門科目 200 番台	【A4408】 国際経済論Ⅱ [高橋 理香] 秋学期授業/Fall	332
経営戦略学科専門科目 200 番台	【A4409】 戦略的意思決定論Ⅰ [福島 英史] 春学期授業/Spring.....	333
経営戦略学科専門科目 200 番台	【A4410】 戦略的意思決定論Ⅱ [福島 英史] 秋学期授業/Fall	334
経営戦略学科専門科目 200 番台	【A4411】 日本経済論Ⅰ [平田 英明] 春学期授業/Spring	335
経営戦略学科専門科目 200 番台	【A4412】 日本経済論Ⅱ [平田 英明] 秋学期授業/Fall	336
経営戦略学科専門科目 200 番台	【A4413】 産業史Ⅰ [韓 載香] 春学期授業/Spring	337
経営戦略学科専門科目 200 番台	【A4414】 産業史Ⅱ [韓 載香] 秋学期授業/Fall	339
経営戦略学科専門科目 200 番台	【A4415】 中小企業論Ⅰ [稲垣 京輔] 春学期授業/Spring	341
経営戦略学科専門科目 200 番台	【A4416】 中小企業論Ⅱ [稲垣 京輔] 秋学期授業/Fall	342
経営戦略学科専門科目 300 番台	【A4419】 国際金融論Ⅰ [横内 正雄] 春学期授業/Spring	343

経営戦略学科専門科目 300 番台	[A4420]	国際金融論Ⅱ [横内 正雄] 秋学期授業/Fall	344
経営戦略学科専門科目 300 番台	[A4421]	グローバル経営戦略論Ⅰ [安藤 直紀] 春学期授業/Spring	345
経営戦略学科専門科目 300 番台	[A4422]	グローバル経営戦略論Ⅱ [安藤 直紀] 秋学期授業/Fall	346
経営戦略学科専門科目 300 番台	[A4423]	日本経営史Ⅰ [二階堂 行宣] 春学期授業/Spring	347
経営戦略学科専門科目 300 番台	[A4424]	日本経営史Ⅱ [二階堂 行宣] 秋学期授業/Fall	349
経営戦略学科専門科目 300 番台	[A4425]	企業評価論Ⅰ [高橋 美穂子] 春学期授業/Spring	351
経営戦略学科専門科目 300 番台	[A4426]	企業評価論Ⅱ [高橋 美穂子] 秋学期授業/Fall	352
経営戦略学科専門科目 300 番台	[A4427]	経営分析論Ⅰ [福多 裕志] 春学期授業/Spring	353
経営戦略学科専門科目 300 番台	[A4428]	経営分析論Ⅱ [福多 裕志] 秋学期授業/Fall	354
経営戦略学科専門科目 300 番台	[A4429]	経営のための統計学Ⅰ [猪狩 良介] 春学期授業/Spring	355
経営戦略学科専門科目 300 番台	[A4430]	経営のための統計学Ⅱ [高橋 慎] 秋学期授業/Fall	356
経営戦略学科専門科目 300 番台	[A4431]	システム管理論Ⅰ [児玉 靖司] 春学期授業/Spring	357
経営戦略学科専門科目 300 番台	[A4432]	システム管理論Ⅱ [児玉 靖司] 秋学期授業/Fall	358
経営戦略学科専門科目 300 番台	[A4433]	日本経営史Ⅰ (教職用) [二階堂 行宣] 春学期授業/Spring	359
経営戦略学科専門科目 300 番台	[A4434]	日本経営史Ⅱ (教職用) [二階堂 行宣] 秋学期授業/Fall	361
経営戦略学科専門科目 200 番台	[A4435]	産業史Ⅰ (教職用) [韓 載香] 春学期授業/Spring	363
経営戦略学科専門科目 200 番台	[A4436]	産業史Ⅱ (教職用) [韓 載香] 秋学期授業/Fall	365
	[A4437]	経営分析Ⅰ [高橋 美穂子] 春学期授業/Spring	367
	[A4438]	経営分析Ⅱ [高橋 美穂子] 秋学期授業/Fall	368
	[A4439]	経営分析Ⅲ [福多 裕志] 春学期授業/Spring	369
	[A4440]	経営分析Ⅳ [福多 裕志] 秋学期授業/Fall	370
	[A4443]	国際経営戦略論Ⅰ [安藤 直紀] 春学期授業/Spring	371
	[A4444]	国際経営戦略論Ⅱ [安藤 直紀] 秋学期授業/Fall	372
	[A4445]	統計学Ⅰ [猪狩 良介] 春学期授業/Spring	373
	[A4446]	統計学Ⅱ [高橋 慎] 秋学期授業/Fall	374
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4451]	マーケティング・マネジメント論Ⅰ [竹内 淑恵] 春学期授業/Spring	375
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4452]	マーケティング・マネジメント論Ⅱ [竹内 淑恵] 秋学期授業/Fall	377
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4455]	金融論Ⅰ (2019年度以降入学者) [片桐 満] 春学期授業/Spring	379
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4456]	金融論Ⅱ (2019年度以降入学者) [片桐 満] 秋学期授業/Fall	380
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4457]	マーケティング・リサーチ論Ⅰ (2019年度以降入学者) [西川 英彦] 春学期授業/Spring	381
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4458]	マーケティング・リサーチ論Ⅱ (2019年度以降入学者) [西川 英彦] 秋学期授業/Fall	383
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4459]	消費者行動論Ⅰ [赤松 直樹] 春学期授業/Spring	385
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4460]	消費者行動論Ⅱ [新倉 貴士] 秋学期授業/Fall	386
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4461]	流通論Ⅰ [金 雲鎬] 春学期授業/Spring	387
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4462]	流通論Ⅱ [金 雲鎬] 秋学期授業/Fall	388
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4463]	サービス・マネジメント論Ⅰ [木村 純子] 春学期授業/Spring	389
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4464]	サービス・マネジメント論Ⅱ [木村 純子] 秋学期授業/Fall	390
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4465]	日本経営論Ⅰ [金 容度] 春学期授業/Spring	391
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4466]	日本経営論Ⅱ [金 容度] 秋学期授業/Fall	392
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4467]	製品開発論Ⅰ [田路 則子] 春学期授業/Spring	393
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4468]	製品開発論Ⅱ [田路 則子] 秋学期授業/Fall	394
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4469]	コーポレートファイナンス入門Ⅰ (2019年度以降入学者) [金 瑠晋] 春学期授業/Spring	395
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4470]	コーポレートファイナンス入門Ⅱ (2019年度以降入学者) [金 瑠晋] 秋学期授業/Fall	396
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4471]	デリバティブ入門Ⅰ (2019年度以降入学者) [山崎 輝] 春学期授業/Spring	397
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4472]	デリバティブ入門Ⅱ (2019年度以降入学者) [山崎 輝] 秋学期授業/Fall	398
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4473]	投資入門 (2019年度以降入学者) [岸本 直樹] 春学期授業/Spring	399
市場経営学科専門科目 200 番台	[A4474]	ポートフォリオ理論入門 (2019年度以降入学者) [岸本 直樹] 秋学期授業/Fall	400
市場経営学科専門科目 300 番台	[A4475]	産業組織論Ⅰ [大木 良子] 春学期授業/Spring	401
市場経営学科専門科目 300 番台	[A4476]	産業組織論Ⅱ [大木 良子] 秋学期授業/Fall	402
市場経営学科専門科目 300 番台	[A4477]	情報技術論Ⅰ [入戸野 健] 春学期授業/Spring	403
市場経営学科専門科目 300 番台	[A4478]	情報技術論Ⅱ [入戸野 健] 秋学期授業/Fall	404
市場経営学科専門科目 300 番台	[A4479]	技術管理論Ⅰ [大神 正道] 春学期授業/Spring	405

市場経営学科専門科目 300 番台 【A4480】 技術管理論Ⅱ [大神 正道] 秋学期授業/Fall	406
市場経営学科専門科目 300 番台 【A4481】 経営のための経済学 [大橋 賢裕] サマーセッション/Summer Session	407
【A4483】 マーケティング・リサーチⅠ (2018 年度以前入学者) [西川 英彦] 春学期授業/Spring.....	409
【A4484】 マーケティング・リサーチⅡ (2018 年度以前入学者) [西川 英彦] 秋学期授業/Fall.....	411
【A4485】 企業財務論Ⅰ (2018 年度以前入学者) [金 瑠晋] 春学期授業/Spring.....	413
【A4486】 企業財務論Ⅱ (2018 年度以前入学者) [金 瑠晋] 秋学期授業/Fall	414
【A4487】 ファイナンス論Ⅰ (2018 年度以前入学者) [山崎 輝] 春学期授業/Spring.....	415
【A4488】 ファイナンス論Ⅱ (2018 年度以前入学者) [山崎 輝] 秋学期授業/Fall	416
【A4489】 証券経済論Ⅰ (2018 年度以前入学者) [岸本 直樹] 春学期授業/Spring	417
【A4490】 証券経済論Ⅱ (2018 年度以前入学者) [岸本 直樹] 秋学期授業/Fall.....	418
市場経営学科専門科目 300 番台 【A4495】 Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ [山崎 輝] 秋学期授業/Fall	419
市場経営学科専門科目 300 番台 【A4496】 広告論 [宮井 弘之] 秋学期授業/Fall	420
【A4497】 応用経済学Ⅰ [大橋 賢裕] サマーセッション/Summer Session.....	421
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4501】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [秋友 一広] 春学期授業/Spring	422
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4502】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [秋友 一広] 秋学期授業/Fall	424
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4503】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [川島 健司] 春学期授業/Spring	426
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4504】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [北田 皓嗣] 春学期授業/Spring	427
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4505】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [北田 皓嗣] 秋学期授業/Fall	428
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4506】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [高橋 理香] 春学期授業/Spring	429
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4507】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [福多 裕志] 春学期授業/Spring	430
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4508】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [福多 裕志] 秋学期授業/Fall	431
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4509】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [洞口 治夫] 春学期授業/Spring	432
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4510】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [川島 健司] 秋学期授業/Fall	433
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4511】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [片桐 満] 春学期授業/Spring	434
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4512】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [岡本 慶子] 秋学期授業/Fall	435
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4513】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [片桐 満] 秋学期授業/Fall	436
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4514】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [依田 光広] 春学期授業/Spring	437
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4515】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [韓 載香] 春学期授業/Spring	439
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4516】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [依田 光広] 秋学期授業/Fall	441
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4517】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [荻原 啓佑] 春学期授業/Spring	443
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4519】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [檜野 智子] 春学期授業/Spring	444
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4520】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [檜野 智子] 秋学期授業/Fall	445
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4521】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [鴨志田 晃] 春学期授業/Spring	446
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4522】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [鴨志田 晃] 秋学期授業/Fall	447
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4523】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [高橋 理香] 秋学期授業/Fall	448
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4524】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [鴨志田 晃] 春学期授業/Spring	449
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4525】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [THOMAS G POWER] 秋	
学期授業/Fall	450
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4526】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [福多 裕志] 春学期授業/Spring	451
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4527】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [福多 裕志] 秋学期授業/Fall	452
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4528】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [稲垣 京輔] 春学期授業/Spring	453
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4529】 入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者) [稲垣 京輔] 秋学期授業/Fall	454
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4531】 国際コミュニケーション論Ⅰ (2019 年度以降入学者) [THOMAS G	
POWER] 春学期授業/Spring	455
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4532】 国際コミュニケーション論Ⅱ (2019 年度以降入学者) [THOMAS G	
POWER] 秋学期授業/Fall.....	456
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4533】 ビジネス英語Ⅰ (初級) [ジョナサン・エイブル] 春学期授業/Spring..	457
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4534】 ビジネス英語Ⅱ (初級) [ジョナサン・エイブル] 秋学期授業/Fall	458
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4535】 ビジネス英語Ⅰ (中級) [ジョナサン・エイブル] 春学期授業/Spring..	459
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A4536】 ビジネス英語Ⅱ (中級) [ジョナサン・エイブル] 秋学期授業/Fall	460
【A4541】 入門外国語経営学Ⅰ (2018 年度以前入学者) [秋友 一広] 春学期授業/Spring	461
【A4542】 入門外国語経営学Ⅰ (2018 年度以前入学者) [秋友 一広] 秋学期授業/Fall	463
【A4543】 入門外国語経営学Ⅰ (2018 年度以前入学者) [川島 健司] 春学期授業/Spring	465
【A4544】 入門外国語経営学Ⅰ (2018 年度以前入学者) [北田 皓嗣] 春学期授業/Spring	466
【A4545】 入門外国語経営学Ⅰ (2018 年度以前入学者) [北田 皓嗣] 秋学期授業/Fall	467
【A4546】 入門外国語経営学Ⅰ (2018 年度以前入学者) [高橋 理香] 春学期授業/Spring	468
【A4547】 入門外国語経営学Ⅰ (2018 年度以前入学者) [福多 裕志] 春学期授業/Spring	469

【A4548】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[福多 裕志]	秋学期授業/Fall	470
【A4549】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[洞口 治夫]	春学期授業/Spring	471
【A4550】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[川島 健司]	秋学期授業/Fall	472
【A4551】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[片桐 満]	春学期授業/Spring	473
【A4552】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[岡本 慶子]	秋学期授業/Fall	474
【A4553】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[片桐 満]	秋学期授業/Fall	475
【A4554】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[依田 光広]	春学期授業/Spring	476
【A4555】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[韓 載香]	春学期授業/Spring	478
【A4556】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[依田 光広]	秋学期授業/Fall	480
【A4557】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[荻原 啓佑]	春学期授業/Spring	482
【A4559】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[檜野 智子]	春学期授業/Spring	483
【A4560】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[檜野 智子]	秋学期授業/Fall	484
【A4561】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[鴨志田 晃]	春学期授業/Spring	485
【A4562】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[鴨志田 晃]	秋学期授業/Fall	486
【A4563】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[高橋 理香]	秋学期授業/Fall	487
【A4564】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[鴨志田 晃]	春学期授業/Spring	488
【A4565】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[THOMAS G POWER]	秋学期授業/Fall	489
【A4566】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[福多 裕志]	春学期授業/Spring	490
【A4567】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[福多 裕志]	秋学期授業/Fall	491
【A4568】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[稲垣 京輔]	春学期授業/Spring	492
【A4569】	入門外国語経営学Ⅰ (2018年度以前入学者)	[稲垣 京輔]	秋学期授業/Fall	493
【A4583】	国際コミュニケーション論Ⅰ (2018年度以前入学者)	[THOMAS G POWER]	春学期授業/Spring	494
【A4584】	国際コミュニケーション論Ⅱ (2018年度以前入学者)	[THOMAS G POWER]	秋学期授業/Fall	495
【A4585】	検定会計Ⅰ (2018年度以前入学者)	[倉田 幸路]	春学期授業/Spring	496
【A4586】	検定会計Ⅱ (2018年度以前入学者)	[倉田 幸路]	春学期授業/Spring	497
【A4587】	キャリア・マネジメントⅠ (2018年度以前入学者)	[小川 憲彦]	春学期授業/Spring	498
【A4588】	キャリア・マネジメントⅡ (2018年度以前入学者)	[小川 憲彦]	秋学期授業/Fall	499
演習【A4601】	入門演習 (2019年度以降入学者)	[稲垣 保弘]	春学期授業/Spring	500
演習【A4602】	入門演習 (2019年度以降入学者)	[稲垣 保弘]	秋学期授業/Fall	501
演習【A4603】	入門演習 (2019年度以降入学者)	[工藤 悟志]	春学期授業/Spring	502
演習【A4604】	入門演習 (2019年度以降入学者)	[工藤 悟志]	秋学期授業/Fall	503
演習【A4605】	入門演習 (2019年度以降入学者)	[小林 一夫]	春学期授業/Spring	504
演習【A4606】	入門演習 (2019年度以降入学者)	[小林 一夫]	秋学期授業/Fall	506
演習【A4610】	入門演習 (2019年度以降入学者)	[李 瑞雪]	春学期授業/Spring	508
演習【A4612】	入門演習 (2019年度以降入学者)	[長谷川 翔平]	秋学期授業/Fall	509
演習【A4613】	入門演習 (2019年度以降入学者)	[鈴木 眞奈美]	春学期授業/Spring	510
【A4621】	入門演習 (2018年度以前入学者)	[稲垣 保弘]	春学期授業/Spring	512
【A4622】	入門演習 (2018年度以前入学者)	[稲垣 保弘]	秋学期授業/Fall	513
【A4623】	入門演習 (2018年度以前入学者)	[工藤 悟志]	春学期授業/Spring	514
【A4624】	入門演習 (2018年度以前入学者)	[工藤 悟志]	秋学期授業/Fall	515
【A4625】	入門演習 (2018年度以前入学者)	[小林 一夫]	春学期授業/Spring	516
【A4626】	入門演習 (2018年度以前入学者)	[小林 一夫]	秋学期授業/Fall	518
【A4630】	入門演習 (2018年度以前入学者)	[李 瑞雪]	春学期授業/Spring	520
【A4632】	入門演習 (2018年度以前入学者)	[長谷川 翔平]	秋学期授業/Fall	521
【A4633】	入門演習 (2018年度以前入学者)	[鈴木 眞奈美]	春学期授業/Spring	522
演習【A4651】	演習 1 [安藤 直紀]		春学期授業/Spring	524
演習【A4652】	演習 2 [安藤 直紀]		秋学期授業/Fall	525
演習【A4653】	演習 3 [安藤 直紀]		春学期授業/Spring	526
演習【A4654】	演習 4 [安藤 直紀]		秋学期授業/Fall	527
演習【A4655】	演習 5 [安藤 直紀]		春学期授業/Spring	528
演習【A4656】	演習 6 [安藤 直紀]		秋学期授業/Fall	529
演習【A4657】	演習 1 [猪狩 良介]		春学期授業/Spring	530
演習【A4658】	演習 2 [猪狩 良介]		秋学期授業/Fall	532
演習【A4659】	演習 3 [猪狩 良介]		春学期授業/Spring	534
演習【A4660】	演習 4 [猪狩 良介]		秋学期授業/Fall	536
演習【A4661】	演習 5 [猪狩 良介]		春学期授業/Spring	538
演習【A4662】	演習 6 [猪狩 良介]		秋学期授業/Fall	540

演習	[A4663]	演習 1	[池田 宏一郎]	春学期授業/Spring	542
演習	[A4664]	演習 2	[池田 宏一郎]	秋学期授業/Fall	543
演習	[A4665]	演習 3	[池田 宏一郎]	春学期授業/Spring	544
演習	[A4666]	演習 4	[池田 宏一郎]	秋学期授業/Fall	545
演習	[A4667]	演習 5	[池田 宏一郎]	春学期授業/Spring	546
演習	[A4668]	演習 6	[池田 宏一郎]	秋学期授業/Fall	547
演習	[A4669]	演習 1	[稲垣 京輔]	春学期授業/Spring	548
演習	[A4670]	演習 2	[稲垣 京輔]	秋学期授業/Fall	549
演習	[A4671]	演習 3	[稲垣 京輔]	春学期授業/Spring	550
演習	[A4672]	演習 4	[稲垣 京輔]	秋学期授業/Fall	551
演習	[A4673]	演習 5	[稲垣 京輔]	春学期授業/Spring	552
演習	[A4674]	演習 6	[稲垣 京輔]	秋学期授業/Fall	553
演習	[A4675]	演習 1	[稲垣 保弘]	春学期授業/Spring	554
演習	[A4676]	演習 2	[稲垣 保弘]	秋学期授業/Fall	555
演習	[A4677]	演習 3	[稲垣 保弘]	春学期授業/Spring	556
演習	[A4678]	演習 4	[稲垣 保弘]	秋学期授業/Fall	557
演習	[A4679]	演習 5	[稲垣 保弘]	春学期授業/Spring	558
演習	[A4680]	演習 6	[稲垣 保弘]	秋学期授業/Fall	559
演習	[A4681]	演習 1	[大木 良子]	春学期授業/Spring	560
演習	[A4682]	演習 2	[大木 良子]	秋学期授業/Fall	561
演習	[A4683]	演習 3	[大木 良子]	春学期授業/Spring	562
演習	[A4684]	演習 4	[大木 良子]	秋学期授業/Fall	563
演習	[A4685]	演習 5	[大木 良子]	春学期授業/Spring	564
演習	[A4686]	演習 6	[大木 良子]	秋学期授業/Fall	565
演習	[A4687]	演習 1	[大下 勇二]	春学期授業/Spring	566
演習	[A4688]	演習 2	[大下 勇二]	秋学期授業/Fall	567
演習	[A4689]	演習 3	[大下 勇二]	春学期授業/Spring	568
演習	[A4690]	演習 4	[大下 勇二]	秋学期授業/Fall	569
演習	[A4691]	演習 5	[大下 勇二]	春学期授業/Spring	570
演習	[A4692]	演習 6	[大下 勇二]	秋学期授業/Fall	571
演習	[A4693]	演習 1	[小川 憲彦]	春学期授業/Spring	572
演習	[A4694]	演習 2	[小川 憲彦]	秋学期授業/Fall	574
演習	[A4695]	演習 3	[小川 憲彦]	春学期授業/Spring	576
演習	[A4696]	演習 4	[小川 憲彦]	秋学期授業/Fall	578
演習	[A4697]	演習 5	[小川 憲彦]	春学期授業/Spring	580
演習	[A4698]	演習 6	[小川 憲彦]	秋学期授業/Fall	582
演習	[A4699]	演習 1	[奥西 好夫]	春学期授業/Spring	584
演習	[A4700]	演習 2	[奥西 好夫]	秋学期授業/Fall	585
演習	[A4701]	演習 3	[奥西 好夫]	春学期授業/Spring	586
演習	[A4702]	演習 4	[奥西 好夫]	秋学期授業/Fall	587
演習	[A4703]	演習 5	[奥西 好夫]	春学期授業/Spring	588
演習	[A4704]	演習 6	[奥西 好夫]	秋学期授業/Fall	589
演習	[A4705]	演習 1	[片桐 満]	春学期授業/Spring	590
演習	[A4706]	演習 2	[片桐 満]	秋学期授業/Fall	591
演習	[A4707]	演習 3	[片桐 満]	春学期授業/Spring	592
演習	[A4708]	演習 4	[片桐 満]	秋学期授業/Fall	593
演習	[A4709]	演習 5	[片桐 満]	春学期授業/Spring	594
演習	[A4710]	演習 6	[片桐 満]	秋学期授業/Fall	595
演習	[A4711]	演習 1	[神谷 健司]	春学期授業/Spring	596
演習	[A4712]	演習 2	[神谷 健司]	秋学期授業/Fall	597
演習	[A4713]	演習 3	[神谷 健司]	春学期授業/Spring	598
演習	[A4714]	演習 4	[神谷 健司]	秋学期授業/Fall	599
演習	[A4715]	演習 5	[神谷 健司]	春学期授業/Spring	600
演習	[A4716]	演習 6	[神谷 健司]	秋学期授業/Fall	601
演習	[A4717]	演習 1	[川島 健司]	春学期授業/Spring	602
演習	[A4718]	演習 2	[川島 健司]	秋学期授業/Fall	603
演習	[A4719]	演習 3	[川島 健司]	春学期授業/Spring	604

演習 【A4720】	演習 4	[川島 健司]	秋学期授業/Fall	605
演習 【A4721】	演習 5	[川島 健司]	春学期授業/Spring	606
演習 【A4722】	演習 6	[川島 健司]	秋学期授業/Fall	607
演習 【A4723】	演習 1	[河内谷 幸子]	春学期授業/Spring	608
演習 【A4724】	演習 2	[河内谷 幸子]	秋学期授業/Fall	609
演習 【A4725】	演習 3	[河内谷 幸子]	春学期授業/Spring	610
演習 【A4726】	演習 4	[河内谷 幸子]	秋学期授業/Fall	611
演習 【A4727】	演習 5	[河内谷 幸子]	春学期授業/Spring	612
演習 【A4728】	演習 6	[河内谷 幸子]	秋学期授業/Fall	613
演習 【A4729】	演習 1	[岸 真理子]	春学期授業/Spring	614
演習 【A4730】	演習 2	[岸 真理子]	秋学期授業/Fall	616
演習 【A4731】	演習 3	[岸 真理子]	春学期授業/Spring	617
演習 【A4732】	演習 4	[岸 真理子]	秋学期授業/Fall	618
演習 【A4733】	演習 5	[岸 真理子]	春学期授業/Spring	619
演習 【A4734】	演習 6	[岸 真理子]	秋学期授業/Fall	620
演習 【A4735】	演習 1	[岸本 直樹]	春学期授業/Spring	621
演習 【A4736】	演習 2	[岸本 直樹]	秋学期授業/Fall	623
演習 【A4737】	演習 3	[岸本 直樹]	春学期授業/Spring	625
演習 【A4738】	演習 4	[岸本 直樹]	秋学期授業/Fall	627
演習 【A4739】	演習 5	[岸本 直樹]	春学期授業/Spring	629
演習 【A4740】	演習 6	[岸本 直樹]	秋学期授業/Fall	631
演習 【A4741】	演習 1	[北田 皓嗣]	春学期授業/Spring	633
演習 【A4742】	演習 2	[北田 皓嗣]	秋学期授業/Fall	634
演習 【A4743】	演習 3	[北田 皓嗣]	春学期授業/Spring	635
演習 【A4744】	演習 4	[北田 皓嗣]	秋学期授業/Fall	636
演習 【A4745】	演習 5	[北田 皓嗣]	春学期授業/Spring	637
演習 【A4746】	演習 6	[北田 皓嗣]	秋学期授業/Fall	638
演習 【A4747】	演習 1	[木原 章]	春学期授業/Spring	639
演習 【A4748】	演習 2	[木原 章]	秋学期授業/Fall	640
演習 【A4749】	演習 3	[木原 章]	春学期授業/Spring	641
演習 【A4750】	演習 4	[木原 章]	秋学期授業/Fall	642
演習 【A4751】	演習 5	[木原 章]	春学期授業/Spring	643
演習 【A4752】	演習 6	[木原 章]	秋学期授業/Fall	644
演習 【A4753】	演習 1	[金 瑢晋]	春学期授業/Spring	645
演習 【A4754】	演習 2	[金 瑢晋]	秋学期授業/Fall	646
演習 【A4755】	演習 3	[金 瑢晋]	春学期授業/Spring	647
演習 【A4756】	演習 4	[金 瑢晋]	秋学期授業/Fall	648
演習 【A4757】	演習 5	[金 瑢晋]	春学期授業/Spring	649
演習 【A4758】	演習 6	[金 瑢晋]	秋学期授業/Fall	650
演習 【A4759】	演習 1	[金 容度]	春学期授業/Spring	651
演習 【A4760】	演習 2	[金 容度]	秋学期授業/Fall	652
演習 【A4761】	演習 3	[金 容度]	春学期授業/Spring	653
演習 【A4762】	演習 4	[金 容度]	秋学期授業/Fall	654
演習 【A4763】	演習 5	[金 容度]	春学期授業/Spring	655
演習 【A4764】	演習 6	[金 容度]	秋学期授業/Fall	656
演習 【A4765】	演習 1	[木村 純子]	春学期授業/Spring	657
演習 【A4766】	演習 2	[木村 純子]	秋学期授業/Fall	658
演習 【A4767】	演習 3	[木村 純子]	春学期授業/Spring	659
演習 【A4768】	演習 4	[木村 純子]	秋学期授業/Fall	660
演習 【A4769】	演習 5	[木村 純子]	春学期授業/Spring	661
演習 【A4770】	演習 6	[木村 純子]	秋学期授業/Fall	662
演習 【A4771】	演習 1	[倉田 俊彦]	春学期授業/Spring	663
演習 【A4772】	演習 2	[倉田 俊彦]	秋学期授業/Fall	664
演習 【A4773】	演習 3	[倉田 俊彦]	春学期授業/Spring	665
演習 【A4774】	演習 4	[倉田 俊彦]	秋学期授業/Fall	666
演習 【A4775】	演習 5	[倉田 俊彦]	春学期授業/Spring	667
演習 【A4776】	演習 6	[倉田 俊彦]	秋学期授業/Fall	668

演習	【A4777】	演習 1	[児玉 靖司]	春学期授業/Spring	669
演習	【A4778】	演習 2	[児玉 靖司]	秋学期授業/Fall	670
演習	【A4779】	演習 3	[児玉 靖司]	春学期授業/Spring	671
演習	【A4780】	演習 4	[児玉 靖司]	秋学期授業/Fall	672
演習	【A4781】	演習 5	[児玉 靖司]	春学期授業/Spring	673
演習	【A4782】	演習 6	[児玉 靖司]	秋学期授業/Fall	674
演習	【A4783】	演習 1	[近能 善範]	春学期授業/Spring	675
演習	【A4784】	演習 2	[近能 善範]	秋学期授業/Fall	676
演習	【A4785】	演習 3	[近能 善範]	春学期授業/Spring	677
演習	【A4786】	演習 4	[近能 善範]	秋学期授業/Fall	678
演習	【A4787】	演習 5	[近能 善範]	春学期授業/Spring	679
演習	【A4788】	演習 6	[近能 善範]	秋学期授業/Fall	680
演習	【A4789】	演習 1	[坂上 学]	春学期授業/Spring	681
演習	【A4790】	演習 2	[坂上 学]	秋学期授業/Fall	682
演習	【A4791】	演習 3	[坂上 学]	春学期授業/Spring	683
演習	【A4792】	演習 4	[坂上 学]	秋学期授業/Fall	684
演習	【A4793】	演習 5	[坂上 学]	春学期授業/Spring	685
演習	【A4794】	演習 6	[坂上 学]	秋学期授業/Fall	686
演習	【A4795】	演習 1	[佐野 哲]	春学期授業/Spring	687
演習	【A4796】	演習 2	[佐野 哲]	秋学期授業/Fall	688
演習	【A4797】	演習 3	[佐野 哲]	春学期授業/Spring	689
演習	【A4798】	演習 4	[佐野 哲]	秋学期授業/Fall	690
演習	【A4799】	演習 5	[佐野 哲]	春学期授業/Spring	691
演習	【A4800】	演習 6	[佐野 哲]	秋学期授業/Fall	692
演習	【A4801】	演習 1	[佐野 嘉秀]	春学期授業/Spring	693
演習	【A4802】	演習 2	[佐野 嘉秀]	秋学期授業/Fall	695
演習	【A4803】	演習 3	[佐野 嘉秀]	春学期授業/Spring	697
演習	【A4804】	演習 4	[佐野 嘉秀]	秋学期授業/Fall	698
演習	【A4805】	演習 5	[佐野 嘉秀]	春学期授業/Spring	699
演習	【A4806】	演習 6	[佐野 嘉秀]	秋学期授業/Fall	700
演習	【A4807】	演習 1	[高橋 慎]	春学期授業/Spring	701
演習	【A4808】	演習 2	[高橋 慎]	秋学期授業/Fall	702
演習	【A4809】	演習 3	[高橋 慎]	春学期授業/Spring	703
演習	【A4810】	演習 4	[高橋 慎]	秋学期授業/Fall	704
演習	【A4811】	演習 5	[高橋 慎]	春学期授業/Spring	705
演習	【A4812】	演習 6	[高橋 慎]	秋学期授業/Fall	706
演習	【A4813】	演習 1	[高橋 美穂子]	春学期授業/Spring	707
演習	【A4814】	演習 2	[高橋 美穂子]	秋学期授業/Fall	708
演習	【A4815】	演習 3	[高橋 美穂子]	春学期授業/Spring	710
演習	【A4816】	演習 4	[高橋 美穂子]	秋学期授業/Fall	711
演習	【A4817】	演習 5	[高橋 美穂子]	春学期授業/Spring	713
演習	【A4818】	演習 6	[高橋 美穂子]	秋学期授業/Fall	714
演習	【A4819】	演習 1	[高橋 理香]	春学期授業/Spring	716
演習	【A4820】	演習 2	[高橋 理香]	秋学期授業/Fall	717
演習	【A4821】	演習 3	[高橋 理香]	春学期授業/Spring	718
演習	【A4822】	演習 4	[高橋 理香]	秋学期授業/Fall	719
演習	【A4823】	演習 5	[高橋 理香]	春学期授業/Spring	720
演習	【A4824】	演習 6	[高橋 理香]	秋学期授業/Fall	721
演習	【A4825】	演習 1	[竹内 淑恵]	春学期授業/Spring	722
演習	【A4826】	演習 2	[竹内 淑恵]	秋学期授業/Fall	724
演習	【A4827】	演習 3	[竹内 淑恵]	春学期授業/Spring	725
演習	【A4828】	演習 4	[竹内 淑恵]	秋学期授業/Fall	727
演習	【A4829】	演習 5	[竹内 淑恵]	春学期授業/Spring	728
演習	【A4830】	演習 6	[竹内 淑恵]	秋学期授業/Fall	730
演習	【A4831】	演習 1	[田路 則子]	春学期授業/Spring	731
演習	【A4832】	演習 2	[田路 則子]	秋学期授業/Fall	732
演習	【A4833】	演習 3	[田路 則子]	春学期授業/Spring	733

演習	【A4834】	演習 4	[田路 則子]	秋学期授業/Fall	734
演習	【A4835】	演習 5	[田路 則子]	春学期授業/Spring	735
演習	【A4836】	演習 6	[田路 則子]	秋学期授業/Fall	736
演習	【A4837】	演習 1	[筒井 知彦]	春学期授業/Spring	737
演習	【A4838】	演習 2	[筒井 知彦]	秋学期授業/Fall	738
演習	【A4839】	演習 3	[筒井 知彦]	春学期授業/Spring	739
演習	【A4840】	演習 4	[筒井 知彦]	秋学期授業/Fall	740
演習	【A4841】	演習 5	[筒井 知彦]	春学期授業/Spring	741
演習	【A4842】	演習 6	[筒井 知彦]	秋学期授業/Fall	742
演習	【A4843】	演習 1	[長岡 健]	春学期授業/Spring	743
演習	【A4844】	演習 2	[長岡 健]	秋学期授業/Fall	745
演習	【A4845】	演習 3	[長岡 健]	春学期授業/Spring	747
演習	【A4846】	演習 4	[長岡 健]	秋学期授業/Fall	749
演習	【A4847】	演習 5	[長岡 健]	春学期授業/Spring	751
演習	【A4848】	演習 6	[長岡 健]	秋学期授業/Fall	753
演習	【A4855】	演習 1	[赤松 直樹]	春学期授業/Spring	755
演習	【A4856】	演習 2	[新倉 貴士]	秋学期授業/Fall	756
演習	【A4857】	演習 3	[赤松 直樹]	春学期授業/Spring	757
演習	【A4858】	演習 4	[新倉 貴士]	秋学期授業/Fall	758
演習	【A4859】	演習 5	[赤松 直樹]	春学期授業/Spring	759
演習	【A4860】	演習 6	[新倉 貴士]	秋学期授業/Fall	760
演習	【A4861】	演習 1	[二階堂 行宣]	春学期授業/Spring	761
演習	【A4862】	演習 2	[二階堂 行宣]	秋学期授業/Fall	762
演習	【A4863】	演習 3	[二階堂 行宣]	春学期授業/Spring	763
演習	【A4864】	演習 4	[二階堂 行宣]	秋学期授業/Fall	764
演習	【A4865】	演習 5	[二階堂 行宣]	春学期授業/Spring	765
演習	【A4866】	演習 6	[二階堂 行宣]	秋学期授業/Fall	766
演習	【A4867】	演習 1	[西川 英彦]	春学期授業/Spring	767
演習	【A4868】	演習 2	[西川 英彦]	秋学期授業/Fall	768
演習	【A4869】	演習 3	[西川 英彦]	春学期授業/Spring	769
演習	【A4870】	演習 4	[西川 英彦]	秋学期授業/Fall	770
演習	【A4871】	演習 5	[西川 英彦]	春学期授業/Spring	771
演習	【A4872】	演習 6	[西川 英彦]	秋学期授業/Fall	772
演習	【A4873】	演習 1	[西川 真規子]	春学期授業/Spring	773
演習	【A4874】	演習 2	[西川 真規子]	秋学期授業/Fall	774
演習	【A4875】	演習 3	[西川 真規子]	春学期授業/Spring	775
演習	【A4876】	演習 4	[西川 真規子]	秋学期授業/Fall	776
演習	【A4877】	演習 5	[西川 真規子]	春学期授業/Spring	777
演習	【A4878】	演習 6	[西川 真規子]	秋学期授業/Fall	778
演習	【A4879】	演習 1	[入戸野 健]	春学期授業/Spring	779
演習	【A4880】	演習 2	[入戸野 健]	秋学期授業/Fall	780
演習	【A4881】	演習 3	[入戸野 健]	春学期授業/Spring	781
演習	【A4882】	演習 4	[入戸野 健]	秋学期授業/Fall	782
演習	【A4883】	演習 5	[入戸野 健]	春学期授業/Spring	783
演習	【A4884】	演習 6	[入戸野 健]	秋学期授業/Fall	784
演習	【A4885】	演習 1	[長谷川 翔平]	春学期授業/Spring	785
演習	【A4886】	演習 2	[長谷川 翔平]	秋学期授業/Fall	786
演習	【A4887】	演習 3	[長谷川 翔平]	春学期授業/Spring	787
演習	【A4888】	演習 4	[長谷川 翔平]	秋学期授業/Fall	788
演習	【A4889】	演習 5	[長谷川 翔平]	春学期授業/Spring	789
演習	【A4890】	演習 6	[長谷川 翔平]	秋学期授業/Fall	790
演習	【A4891】	演習 1	[韓 載香]	春学期授業/Spring	791
演習	【A4892】	演習 2	[韓 載香]	秋学期授業/Fall	793
演習	【A4893】	演習 3	[韓 載香]	春学期授業/Spring	794
演習	【A4894】	演習 4	[韓 載香]	秋学期授業/Fall	796
演習	【A4895】	演習 5	[韓 載香]	春学期授業/Spring	797
演習	【A4896】	演習 6	[韓 載香]	秋学期授業/Fall	799

演習	[A4897]	演習 1	[平田 英明]	春学期授業/Spring	800
演習	[A4898]	演習 2	[平田 英明]	秋学期授業/Fall	801
演習	[A4899]	演習 3	[平田 英明]	春学期授業/Spring	802
演習	[A4900]	演習 4	[平田 英明]	秋学期授業/Fall	803
演習	[A4901]	演習 5	[平田 英明]	春学期授業/Spring	804
演習	[A4902]	演習 6	[平田 英明]	秋学期授業/Fall	805
演習	[A4903]	演習 1	[福島 英史]	春学期授業/Spring	806
演習	[A4904]	演習 2	[福島 英史]	秋学期授業/Fall	807
演習	[A4905]	演習 3	[福島 英史]	春学期授業/Spring	808
演習	[A4906]	演習 4	[福島 英史]	秋学期授業/Fall	809
演習	[A4907]	演習 5	[福島 英史]	春学期授業/Spring	810
演習	[A4908]	演習 6	[福島 英史]	秋学期授業/Fall	811
演習	[A4909]	演習 1	[福田 淳児]	春学期授業/Spring	812
演習	[A4910]	演習 2	[福田 淳児]	秋学期授業/Fall	813
演習	[A4911]	演習 3	[福田 淳児]	春学期授業/Spring	814
演習	[A4912]	演習 4	[福田 淳児]	秋学期授業/Fall	815
演習	[A4913]	演習 5	[福田 淳児]	春学期授業/Spring	816
演習	[A4914]	演習 6	[福田 淳児]	秋学期授業/Fall	817
演習	[A4915]	演習 1	[福多 裕志]	春学期授業/Spring	818
演習	[A4916]	演習 2	[福多 裕志]	秋学期授業/Fall	819
演習	[A4917]	演習 3	[福多 裕志]	春学期授業/Spring	820
演習	[A4918]	演習 4	[福多 裕志]	秋学期授業/Fall	821
演習	[A4919]	演習 5	[福多 裕志]	春学期授業/Spring	822
演習	[A4920]	演習 6	[福多 裕志]	秋学期授業/Fall	823
演習	[A4921]	演習 1	[藤村 博之]	春学期授業/Spring	824
演習	[A4922]	演習 2	[藤村 博之]	秋学期授業/Fall	825
演習	[A4923]	演習 3	[藤村 博之]	春学期授業/Spring	827
演習	[A4924]	演習 4	[藤村 博之]	秋学期授業/Fall	828
演習	[A4925]	演習 5	[藤村 博之]	春学期授業/Spring	830
演習	[A4926]	演習 6	[藤村 博之]	秋学期授業/Fall	831
演習	[A4927]	演習 1	[洞口 治夫]	春学期授業/Spring	833
演習	[A4928]	演習 2	[洞口 治夫]	秋学期授業/Fall	835
演習	[A4929]	演習 3	[洞口 治夫]	春学期授業/Spring	837
演習	[A4930]	演習 4	[洞口 治夫]	秋学期授業/Fall	839
演習	[A4931]	演習 5	[洞口 治夫]	春学期授業/Spring	841
演習	[A4932]	演習 6	[洞口 治夫]	秋学期授業/Fall	843
演習	[A4933]	演習 1	[宮澤 信二郎]	春学期授業/Spring	845
演習	[A4934]	演習 2	[宮澤 信二郎]	秋学期授業/Fall	846
演習	[A4935]	演習 3	[宮澤 信二郎]	春学期授業/Spring	847
演習	[A4936]	演習 4	[宮澤 信二郎]	秋学期授業/Fall	848
演習	[A4937]	演習 5	[宮澤 信二郎]	春学期授業/Spring	849
演習	[A4938]	演習 6	[宮澤 信二郎]	秋学期授業/Fall	850
演習	[A4939]	演習 1	[山崎 輝]	春学期授業/Spring	851
演習	[A4940]	演習 2	[山崎 輝]	秋学期授業/Fall	852
演習	[A4941]	演習 3	[山崎 輝]	春学期授業/Spring	853
演習	[A4942]	演習 4	[山崎 輝]	秋学期授業/Fall	854
演習	[A4943]	演習 5	[山崎 輝]	春学期授業/Spring	855
演習	[A4944]	演習 6	[山崎 輝]	秋学期授業/Fall	856
演習	[A4945]	演習 1	[横内 正雄]	春学期授業/Spring	857
演習	[A4946]	演習 2	[横内 正雄]	秋学期授業/Fall	858
演習	[A4947]	演習 3	[横内 正雄]	春学期授業/Spring	859
演習	[A4948]	演習 4	[横内 正雄]	秋学期授業/Fall	860
演習	[A4949]	演習 5	[横内 正雄]	春学期授業/Spring	861
演習	[A4950]	演習 6	[横内 正雄]	秋学期授業/Fall	862
演習	[A4951]	演習 1	[金 雲鎬、横山 齐理]	春学期授業/Spring	863
演習	[A4952]	演習 2	[金 雲鎬、横山 齐理]	秋学期授業/Fall	864
演習	[A4953]	演習 3	[金 雲鎬、横山 齐理]	春学期授業/Spring	865

演習 【A4954】 演習 4 [金 雲鎬、横山 斉理] 秋学期授業/Fall	866
演習 【A4955】 演習 5 [金 雲鎬、横山 斉理] 春学期授業/Spring	867
演習 【A4956】 演習 6 [金 雲鎬、横山 斉理] 秋学期授業/Fall	868
演習 【A4957】 演習 1 [吉田 健二] 春学期授業/Spring	869
演習 【A4958】 演習 2 [吉田 健二] 秋学期授業/Fall	870
演習 【A4959】 演習 3 [吉田 健二] 春学期授業/Spring	871
演習 【A4960】 演習 4 [吉田 健二] 秋学期授業/Fall	872
演習 【A4961】 演習 5 [吉田 健二] 春学期授業/Spring	873
演習 【A4962】 演習 6 [吉田 健二] 秋学期授業/Fall	874
演習 【A4963】 演習 1 [吉田 康伸] 春学期授業/Spring	875
演習 【A4964】 演習 2 [吉田 康伸] 秋学期授業/Fall	876
演習 【A4965】 演習 3 [吉田 康伸] 春学期授業/Spring	877
演習 【A4966】 演習 4 [吉田 康伸] 秋学期授業/Fall	878
演習 【A4967】 演習 5 [吉田 康伸] 春学期授業/Spring	879
演習 【A4968】 演習 6 [吉田 康伸] 秋学期授業/Fall	880
演習 【A4969】 演習 1 [李 瑞雪] 春学期授業/Spring.....	881
演習 【A4970】 演習 2 [李 瑞雪] 秋学期授業/Fall	882
演習 【A4971】 演習 3 [李 瑞雪] 春学期授業/Spring.....	883
演習 【A4972】 演習 4 [李 瑞雪] 秋学期授業/Fall	884
演習 【A4973】 演習 5 [李 瑞雪] 春学期授業/Spring.....	885
演習 【A4974】 演習 6 [李 瑞雪] 秋学期授業/Fall	886
情報関係科目 【A5201】 プログラミング言語Ⅰ (C言語) (2019年度以降入学者) [寺脇 由紀] 春学期授業/Spring	887
情報関係科目 【A5202】 プログラミング言語Ⅱ (C言語) (2019年度以降入学者) [寺脇 由紀] 秋学期授業/Fall..	888
情報関係科目 【A5203】 プログラミング言語Ⅰ (C言語) (2019年度以降入学者) [寺脇 由紀] 春学期授業/Spring	889
情報関係科目 【A5204】 プログラミング言語Ⅱ (C言語) (2019年度以降入学者) [寺脇 由紀] 秋学期授業/Fall..	890
情報関係科目 【A5205】 プログラミング言語Ⅰ (JAVA) (2019年度以降入学者) [飯塚 康至] 春学期授業/Spring	891
情報関係科目 【A5206】 プログラミング言語Ⅱ (JAVA) (2019年度以降入学者) [飯塚 康至] 秋学期授業/Fall...	892
情報関係科目 【A5207】 プログラミング言語Ⅰ (JAVA) (2019年度以降入学者) [飯塚 康至] 春学期授業/Spring	893
情報関係科目 【A5208】 プログラミング言語Ⅱ (JAVA) (2019年度以降入学者) [飯塚 康至] 秋学期授業/Fall...	894
情報関係科目 【A5209】 プログラミング言語Ⅰ (JAVA) (2019年度以降入学者) [寺脇 由紀] 春学期授業/Spring	895
情報関係科目 【A5210】 プログラミング言語Ⅱ (JAVA) (2019年度以降入学者) [寺脇 由紀] 秋学期授業/Fall...	896
情報関係科目 【A5211】 プログラミング言語Ⅰ (VBA) (2019年度以降入学者) [高田 美樹] 春学期授業/Spring	897
情報関係科目 【A5212】 プログラミング言語Ⅱ (VBA) (2019年度以降入学者) [高田 美樹] 秋学期授業/Fall....	898
情報関係科目 【A5213】 プログラミング言語Ⅰ (スクリプト言語) (2019年度以降入学者) [入戸野 健] 春学期授 業/Spring	899
情報関係科目 【A5214】 プログラミング言語Ⅱ (スクリプト言語) (2019年度以降入学者) [入戸野 健] 秋学期授 業/Fall	900
【A5215】 プログラミング言語Ⅰ (C言語) (2018年度入学者) [寺脇 由紀] 春学期授業/Spring.....	901
【A5216】 プログラミング言語Ⅱ (C言語) (2018年度入学者) [寺脇 由紀] 秋学期授業/Fall	902
【A5217】 プログラミング言語Ⅰ (C言語) (2018年度入学者) [寺脇 由紀] 春学期授業/Spring.....	903
【A5218】 プログラミング言語Ⅱ (C言語) (2018年度入学者) [寺脇 由紀] 秋学期授業/Fall	904
【A5219】 プログラミング言語Ⅰ (JAVA) (2018年度入学者) [飯塚 康至] 春学期授業/Spring.....	905
【A5220】 プログラミング言語Ⅱ (JAVA) (2018年度入学者) [飯塚 康至] 秋学期授業/Fall	906
【A5221】 プログラミング言語Ⅰ (JAVA) (2018年度入学者) [飯塚 康至] 春学期授業/Spring.....	907
【A5222】 プログラミング言語Ⅱ (JAVA) (2018年度入学者) [飯塚 康至] 秋学期授業/Fall	908
【A5223】 プログラミング言語Ⅰ (JAVA) (2018年度入学者) [寺脇 由紀] 春学期授業/Spring.....	909
【A5224】 プログラミング言語Ⅱ (JAVA) (2018年度入学者) [寺脇 由紀] 秋学期授業/Fall	910
【A5225】 プログラミング言語Ⅰ (BASIC) (2018年度入学者) [高田 美樹] 春学期授業/Spring	911
【A5226】 プログラミング言語Ⅱ (BASIC) (2018年度入学者) [高田 美樹] 秋学期授業/Fall	912
【A5229】 プログラミング言語Ⅰ (2016～2017年度入学者) [寺脇 由紀] 春学期授業/Spring.....	913
【A5230】 プログラミング言語Ⅱ (2016～2017年度入学者) [寺脇 由紀] 秋学期授業/Fall	914
【A5231】 プログラミング言語Ⅰ (2016～2017年度入学者) [寺脇 由紀] 春学期授業/Spring.....	915
【A5232】 プログラミング言語Ⅱ (2016～2017年度入学者) [寺脇 由紀] 秋学期授業/Fall	916
【A5233】 プログラミング言語Ⅰ (2016～2017年度入学者) [飯塚 康至] 春学期授業/Spring.....	917
【A5234】 プログラミング言語Ⅱ (2016～2017年度入学者) [飯塚 康至] 秋学期授業/Fall	918
【A5235】 プログラミング言語Ⅰ (2016～2017年度入学者) [飯塚 康至] 春学期授業/Spring.....	919
【A5236】 プログラミング言語Ⅱ (2016～2017年度入学者) [飯塚 康至] 秋学期授業/Fall	920

【A5237】	プログラミング言語Ⅰ（2016～2017年度入学者）	[寺脇 由紀]	春学期授業/Spring	921	
【A5238】	プログラミング言語Ⅱ（2016～2017年度入学者）	[寺脇 由紀]	秋学期授業/Fall	922	
【A5239】	プログラミング言語Ⅰ（2016～2017年度入学者）	[高田 美樹]	春学期授業/Spring	923	
【A5240】	プログラミング言語Ⅱ（2016～2017年度入学者）	[高田 美樹]	秋学期授業/Fall	924	
情報関係科目	【A5260】	情報学応用Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）	[木村 昌史]	春学期授業/Spring	925
情報関係科目	【A5261】	情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）	[木村 昌史]	秋学期授業/Fall	926
情報関係科目	【A5262】	情報学応用Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）	[木村 昌史]	春学期授業/Spring	927
情報関係科目	【A5263】	情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）	[木村 昌史]	秋学期授業/Fall	928
情報関係科目	【A5264】	情報学応用Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）	[三宅 修平]	春学期授業/Spring	929
情報関係科目	【A5265】	情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）	[三宅 修平]	秋学期授業/Fall	930
情報関係科目	【A5266】	情報学応用Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）	[三宅 修平]	春学期授業/Spring	931
情報関係科目	【A5267】	情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）	[三宅 修平]	秋学期授業/Fall	932
情報関係科目	【A5268】	情報学応用Ⅰ（データ可視化）（2019年度以降入学者）	[田中 元一朗]	春学期授業/Spring	933
情報関係科目	【A5269】	情報学応用Ⅱ（データ可視化）（2019年度以降入学者）	[田中 元一朗]	秋学期授業/Fall	934
情報関係科目	【A5270】	情報学応用Ⅰ（データ可視化）（2019年度以降入学者）	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	935
情報関係科目	【A5271】	情報学応用Ⅱ（データ可視化）（2019年度以降入学者）	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	936
情報関係科目	【A5272】	情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	937
情報関係科目	【A5273】	情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	938
情報関係科目	【A5274】	情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	939
情報関係科目	【A5275】	情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	940
情報関係科目	【A5276】	情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	941
情報関係科目	【A5277】	情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	942
情報関係科目	【A5278】	情報学応用Ⅰ（空間情報）（2019年度以降入学者）	[沼尻 治樹]	春学期授業/Spring	943
情報関係科目	【A5279】	情報学応用Ⅱ（空間情報）（2019年度以降入学者）	[沼尻 治樹]	秋学期授業/Fall	944
【A5280】	データ処理論Ⅰ（データベース）（2018年度入学者）	[木村 昌史]	春学期授業/Spring	945	
【A5281】	データ処理論Ⅱ（データベース）（2018年度入学者）	[木村 昌史]	秋学期授業/Fall	946	
【A5282】	データ処理論Ⅰ（データベース）（2018年度入学者）	[木村 昌史]	春学期授業/Spring	947	
【A5283】	データ処理論Ⅱ（データベース）（2018年度入学者）	[木村 昌史]	秋学期授業/Fall	948	
【A5284】	データ処理論Ⅰ（データベース）（2018年度入学者）	[三宅 修平]	春学期授業/Spring	949	
【A5285】	データ処理論Ⅱ（データベース）（2018年度入学者）	[三宅 修平]	秋学期授業/Fall	950	
【A5286】	データ処理論Ⅰ（データベース）（2018年度入学者）	[三宅 修平]	春学期授業/Spring	951	
【A5287】	データ処理論Ⅱ（データベース）（2018年度入学者）	[三宅 修平]	秋学期授業/Fall	952	
【A5288】	データ処理論Ⅰ（CG）（2018年度入学者）	[田中 元一朗]	春学期授業/Spring	953	
【A5289】	データ処理論Ⅱ（CG）（2018年度入学者）	[田中 元一朗]	秋学期授業/Fall	954	
【A5290】	データ処理論Ⅰ（CG）（2018年度入学者）	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	955	
【A5291】	データ処理論Ⅱ（CG）（2018年度入学者）	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	956	
【A5292】	データ処理論Ⅰ（プレゼンテーション）（2018年度入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	957	
【A5293】	データ処理論Ⅱ（プレゼンテーション）（2018年度入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	958	
【A5294】	データ処理論Ⅰ（プレゼンテーション）（2018年度入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	959	
【A5295】	データ処理論Ⅱ（プレゼンテーション）（2018年度入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	960	
【A5296】	データ処理論Ⅰ（プレゼンテーション）（2018年度入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	961	
【A5297】	データ処理論Ⅱ（プレゼンテーション）（2018年度入学者）	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	962	
【A5298】	データ処理論Ⅰ（空間情報システム）（2018年度入学者）	[沼尻 治樹]	春学期授業/Spring	963	
【A5299】	データ処理論Ⅱ（空間情報システム）（2018年度入学者）	[沼尻 治樹]	秋学期授業/Fall	964	
【A5300】	データ処理論Ⅰ（2016～2017年度入学者）	[木村 昌史]	春学期授業/Spring	965	
【A5301】	データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）	[木村 昌史]	秋学期授業/Fall	966	
【A5302】	データ処理論Ⅰ（2016～2017年度入学者）	[木村 昌史]	春学期授業/Spring	967	
【A5303】	データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）	[木村 昌史]	秋学期授業/Fall	968	
【A5304】	データ処理論Ⅰ（2016～2017年度入学者）	[三宅 修平]	春学期授業/Spring	969	
【A5305】	データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）	[三宅 修平]	秋学期授業/Fall	970	
【A5306】	データ処理論Ⅰ（2016～2017年度入学者）	[三宅 修平]	春学期授業/Spring	971	
【A5307】	データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）	[三宅 修平]	秋学期授業/Fall	972	
【A5308】	データ処理論Ⅰ（2016～2017年度入学者）	[田中 元一朗]	春学期授業/Spring	973	
【A5309】	データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）	[田中 元一朗]	秋学期授業/Fall	974	
【A5310】	データ処理論Ⅰ（2016～2017年度入学者）	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	975	
【A5311】	データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	976	
【A5312】	データ処理論Ⅰ（2016～2017年度入学者）	[上野 京子]	春学期授業/Spring	977	

【A5313】	データ処理論Ⅱ (2016～2017年度入学者)	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	978	
【A5314】	データ処理論Ⅰ (2016～2017年度入学者)	[上野 京子]	春学期授業/Spring	979	
【A5315】	データ処理論Ⅱ (2016～2017年度入学者)	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	980	
【A5316】	データ処理論Ⅰ (2016～2017年度入学者)	[上野 京子]	春学期授業/Spring	981	
【A5317】	データ処理論Ⅱ (2016～2017年度入学者)	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	982	
【A5318】	データ処理論Ⅰ (2016～2017年度入学者)	[沼尻 治樹]	春学期授業/Spring	983	
【A5319】	データ処理論Ⅱ (2016～2017年度入学者)	[沼尻 治樹]	秋学期授業/Fall	984	
情報関係科目	【A5330】	情報学発展Ⅰ (情報通信ネットワーク) (2019年度以降入学者)	[入戸野 健]	春学期授業/Spring	985
情報関係科目	【A5331】	情報学発展Ⅱ (情報通信ネットワーク) (2019年度以降入学者)	[入戸野 健]	秋学期授業/Fall	986
情報関係科目	【A5332】	情報学発展Ⅰ (情報通信ネットワーク) (2019年度以降入学者)	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	987
情報関係科目	【A5333】	情報学発展Ⅱ (情報通信ネットワーク) (2019年度以降入学者)	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	988
情報関係科目	【A5334】	情報学発展Ⅰ (ホームページ) (2019年度以降入学者)	[上野 京子]	春学期授業/Spring	989
情報関係科目	【A5335】	情報学発展Ⅱ (ホームページ) (2019年度以降入学者)	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	990
情報関係科目	【A5336】	情報学発展Ⅰ (ホームページ) (2019年度以降入学者)	[高田 美樹]	春学期授業/Spring	991
情報関係科目	【A5337】	情報学発展Ⅱ (ホームページ) (2019年度以降入学者)	[高田 美樹]	秋学期授業/Fall	992
情報関係科目	【A5338】	情報学発展Ⅰ (ホームページ) (2019年度以降入学者)	[上野 京子]	春学期授業/Spring	993
情報関係科目	【A5339】	情報学発展Ⅱ (ホームページ) (2019年度以降入学者)	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	994
情報関係科目	【A5340】	情報学発展Ⅰ (システム科学) (2019年度以降入学者)	[高田 美樹]	春学期授業/Spring	995
情報関係科目	【A5341】	情報学発展Ⅱ (システム科学) (2019年度以降入学者)	[高田 美樹]	秋学期授業/Fall	996
	【A5342】	ネットワーク論Ⅰ (通信ネットワーク) (2018年度入学者)	[入戸野 健]	春学期授業/Spring	997
	【A5343】	ネットワーク論Ⅱ (通信ネットワーク) (2018年度入学者)	[入戸野 健]	秋学期授業/Fall	998
	【A5344】	ネットワーク論Ⅰ (通信ネットワーク) (2018年度入学者)	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	999
	【A5345】	ネットワーク論Ⅱ (通信ネットワーク) (2018年度入学者)	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	1000
	【A5346】	ネットワーク論Ⅰ (ホームページ) (2018年度入学者)	[上野 京子]	春学期授業/Spring	1001
	【A5347】	ネットワーク論Ⅱ (ホームページ) (2018年度入学者)	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	1002
	【A5348】	ネットワーク論Ⅰ (ホームページ) (2018年度入学者)	[高田 美樹]	春学期授業/Spring	1003
	【A5349】	ネットワーク論Ⅱ (ホームページ) (2018年度入学者)	[高田 美樹]	秋学期授業/Fall	1004
	【A5350】	ネットワーク論Ⅰ (ホームページ) (2018年度入学者)	[上野 京子]	春学期授業/Spring	1005
	【A5351】	ネットワーク論Ⅱ (ホームページ) (2018年度入学者)	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	1006
	【A5354】	ネットワーク論Ⅰ (2016～2017年度入学者)	[入戸野 健]	春学期授業/Spring	1007
	【A5355】	ネットワーク論Ⅱ (2016～2017年度入学者)	[入戸野 健]	秋学期授業/Fall	1008
	【A5356】	ネットワーク論Ⅰ (2016～2017年度入学者)	[飯塚 康至]	春学期授業/Spring	1009
	【A5357】	ネットワーク論Ⅱ (2016～2017年度入学者)	[飯塚 康至]	秋学期授業/Fall	1010
	【A5358】	ネットワーク論Ⅰ (2016～2017年度入学者)	[上野 京子]	春学期授業/Spring	1011
	【A5359】	ネットワーク論Ⅱ (2016～2017年度入学者)	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	1012
	【A5360】	ネットワーク論Ⅰ (2016～2017年度入学者)	[高田 美樹]	春学期授業/Spring	1013
	【A5361】	ネットワーク論Ⅱ (2016～2017年度入学者)	[高田 美樹]	秋学期授業/Fall	1014
	【A5362】	ネットワーク論Ⅰ (2016～2017年度入学者)	[上野 京子]	春学期授業/Spring	1015
	【A5363】	ネットワーク論Ⅱ (2016～2017年度入学者)	[上野 京子]	秋学期授業/Fall	1016
連環科目	【A5381】	民法 [松田 佳久]	年間授業/Yearly	1017	
連環科目	【A5382】	会社法 [鬼頭 俊泰]	年間授業/Yearly	1019	
特殊講義	【A5401】	広告論 [宮井 弘之]	秋学期授業/Fall	1021	
特殊講義	【A5408】	国際経済協力論Ⅰ	春学期授業/Spring	1022	
特殊講義	【A5409】	国際経済協力論Ⅱ	秋学期授業/Fall	1024	
特殊講義	【A5410】	寄附講座・資本市場の役割と証券投資 [原 宏敏]	秋学期授業/Fall	1026	
特殊講義	【A5411】	寄附講座・日本の物流と企業経営 [李 瑞雪]	秋学期授業/Fall	1028	
特殊講義	【A5412】	寄附講座・上場会社におけるディスクロージャー制度 [谷口 義幸]	春学期授業/Spring	1029	

情報学入門 I / II (2019 年度以降入学者)・情報科学実習 I / II (2018 年度以前入学者)

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1~4 年次 / 2 単位

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

最近では、様々な場面においてコンピュータが利用され、必須のものとなっている。さらに、スマートフォン、携帯端末に代表されるように、コンピュータネットワークに接続し、コンピュータを用いて情報交換ができるようになって来た。我々の生活のあらゆる場面で広く活用され、道具として使いこなすことは、誰にとっても当然のこととして要求されるようになってきている。

情報学に関する専門基礎科目の目標は、皆さんが PC や情報ネットワークに慣れ親しみ、情報化社会の中で問題を解決するために有効に活用することができる能力を養うことである。

具体的には、第一に、コンピュータである情報通信機器に慣れ親しみ、「読み・書き・算盤」に相当する情報リテラシーを学ぶことであり、不自由なく PC や情報通信ネットワークを使いこなすことができるようにすることである。第二に、既存のソフトウェアを扱うことができるようになるだけでなく、独自のプログラムを作成し、自分自身で問題解決ができるようになることである。第三は、情報リテラシーを学ぶことによって、情報を使いこなしながら生活していく基礎能力を養うことである。

皆さんが高校までに習得した一般的な基礎に加えて、大学生にふさわしくさらに進んだ情報学基礎を学ぶことができるように、本実習科目では以下の6つのコースを設けている。自分の興味にあったコースを選び、さらに力をつけましょう。

【到達目標】

情報学の基礎となる概念と技術を学び、技術を理解することを目標とする。評価に関わる目標は、各コース毎に異なる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

〔表計算コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するために表計算ソフトウェアを用いて様々なデータの整理、分析を行い、ワークシート上での様々な計算をする方法やグラフの作成法等を学ぶ。

〔データ演習コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するために初級プログラミング言語として一般的な Visual Basic for Applications を用いた初歩的なプログラミングを行う。結果として、様々な問題に対する解決のための思考能力を養う。

〔データベースコース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するためにデータベースソフトウェアを用いてデータの収集・整理・計算・管理方法を学び、グラフの作成法等も学ぶ。

〔空間情報処理コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、後半には各教員の専門に近い形でのテーマ設定により問題解決能力を養う。例えば、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易 GIS ソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

〔メディア情報処理コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、後半には各教員の専門に近い形でのテーマ設定により問題解決能力を養う。例えば、画像編集ソフトを利用した基礎的な画像加工ができる。描画ソフトを利用した描画の基礎的な方法を知る。DTP ソフトを利用した紙面デザインの基礎的な技術を習得する。

〔言語データ処理コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、後半には各教員の専門に近い形でのテーマ設定により問題解決能力を養う。例えば、文字ベースのデータおよび音声データの入手や分析に必要な IT スキルの基本を学ぶ。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
各コース	各コースのページを参照。	各コースのページを参照。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各コースのページを参照。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

各コースのページを参照。

【参考書】

各コースのページを参照。

【成績評価の方法と基準】

各コースのページを参照。

【学生の意見等からの気づき】

各コースのページを参照。

【学生が準備すべき機器他】

各コースのページを参照。

【その他の重要事項】

各コースのページを参照。

【関連科目】

各コースのページを参照。

【Outline (in English)】

The goal of these courses of informatics is to get the ability for you to become familiar with PCs and information networks and to use them effectively to solve problems in the information society.

Specifically, the first is to become familiar with information and communication equipment and to learn information literacy. Students will not only be able to work with existing software, but will be able to create your own programs and solve problems yourself.

The following six courses are set up in this practical subject so that students can learn the basics of informatics.

MAN100FA

組織論入門

長岡 健

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 A～E

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「経営という活動/現象を深く理解する」という視点と、「優れた経営活動をいかに実践するか」という問いを意識しながら、組織論の基礎を学んでいきます。具体的には、人材組織マネジメントに関連した経営学の概念・理論（＝組織論）をもとに、組織における人々の行動や、組織を動かす仕組みについて考察を進め、「経営学的なモノの見方/考え方」を身につけると同時に、ポスト・コロナ時代の企業活動や人々の働き方に対する問題意識を磨いていくことを目指します。

【到達目標】

学習目標については、この授業が経営学の初学者を対象としていることを踏まえ、以下の3点とします。

- (1) 組織論の基礎的な用語・概念を用いて、ビジネスやマネジメントに関わる様々な活動/現象について議論することができる。
- (2) 次年度以降の専門科目講義やゼミにおいて、「何を学んでいくか（＝学習の方向性）」に関する明確なビジョンをもつ。
- (3) 暗記するだけの勉強ではなく、「主体的に考えることを通じて学ぶ」という脱受験勉強型の学習スタイルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この授業では、①経営学的な視点からビジネスを考える、②組織における人々の行動と思考を理解する、③組織をうまく動かす仕組みと仕掛けをつくる、④組織のあり方と人々の働き方の未来を予測する、という4つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、関連する概念や理論をもとに、「グループ/チーム/組織における人々の行動と思考」の諸側面を読み解いていきます。さらに、「グループ/チーム/組織のパフォーマンスをいかに高めるか」についての考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、2週を1モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行います。受講者が主体的に考え、発言する機会（twitterを使用）をできる限り設けていく予定です。さらに、各モジュールの前後の事例研究（ゲスト講義・ビデオ鑑賞）では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論/概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	経営学的なモノの見方について考える①	・「問題解決」という活動 ・視点/視野/視座の違い
第3回	経営学的なモノの見方について考える②	・政府/企業/家計の関係 ・利潤最大化と自己責任
第4回	事例研究①	組織マネジメントの事例に関するゲスト講義

第5回 組織における人々の行動と思考を理解する①

・経営に求められる能力
・動機付けの理論と実践
①

第6回 組織における人々の行動と思考を理解する②

・コミュニケーションの意味
・リーダーシップの多様性
②

第7回 事例研究②

組織マネジメントの事例に関するゲスト講義

第8回 組織を動かす仕組みと仕掛けをつくる①

・経営組織の生産性
・分業と権限の設計

第9回 組織を動かす仕組みと仕掛けをつくる②

・企業組織の形態
・組織設計の限界

第10回 事例研究③

組織マネジメントの事例に関するゲスト講義

第11回 組織のあり方と働き方の未来を予測する①

・日本の経営とその変化
・生産性から創造性へ

第12回 組織のあり方と働き方の未来を予測する②

・働き方改革の進展
・SDGsと企業経営

第13回 事例研究④

組織マネジメントの事例に関するゲスト講義

第14回 ラップアップ

授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、学習支援システムにアップされた資料を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。

(2) テキスト・参考書以外に、各テーマに関連する文献を授業中に適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。

(3) 第6回授業と第9回授業の終了後、授業内容に関する振り返りレポートを作成します（合計2回）。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中40%）。

(4) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上にPDFファイルでアップしますので、各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】

- (1) 金井壽宏 『経営組織』（日経文庫）日本経済新聞社
- (2) 鈴木竜太 『経営組織論』 東洋経済新報社
- (3) 高尾義明 『はじめての経営組織論』 有斐閣

【成績評価の方法と基準】

(1) 最終レポート（1回）：40%

(2) 振り返りレポート（2回）：20% x 2回 = 40%

(3) ゲスト講義へのコメント（4回）：5% x 4回 = 20%

【学生の意見等からの気づき】

今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

(1) zoomを使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）を受講するための機器と環境は各自で準備してください（詳細については事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください）。

(2) 受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、**twitter** を活用する予定です。受講者は **twitter** のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。

(3) 上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】

オンライン受講の準備については、事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください。

【担当教員のウェブサイト】

(1) プロフィール

<http://www.tnlab.net/profile.html>

(2) ゼミ活動

<http://www.tnlab.net/seminar/>

(3) フェイスブック

<https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9>

(4) ツイッター

<https://twitter.com/TakeruNagaoka>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In this course, we learn the basics of organisation studies, in order to understand what is called "management", and to answer the question of how to realise good management practice. Especially, our learning activities are going to analysing of human behaviours in organisations, and of mechanism of managing organisations, by using the conceptual tools of human resource and organisational management, which have been developed in the field of Management Studies. Through those learning activities, we try to deepen our understanding of the core perspectives of Management Studies, as well as to sharpen our insights into business corporations and individual work-styles in the post-Covid 19 world.

[Learning Objectives]

The objectives of this course are :

(1) to deepen the understanding of various activities and phenomena relevant to business and management, from the perspectives of organisation studies,

(2) to sharpen the vision for further learning, especially in relation to the field of human resource and organisational management, and

(3) to unlearn a passive attitude of just acquiring knowledge from text books, and to develop an active attitude toward learning.

[Learning Activities outside of Classroom]

Before/after each class meeting, the learners are expected to spend 2 hours to understand the course content, by reading the texts and references, and writing reflection papers about the guest lectures and the video materials.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on the term-end academic essay (40%), the mid term academic essay (20%), and 4 reflection papers about the guest lectures and video learning materials (40%).

MAN100FA

組織論入門

小川 憲彦

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 F~K

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の企業経営は組織によって成り立っています。ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源を経営目標の達成に向けて上手く活用するためには組織の力が不可欠です。組織、ここでは特にヒトの労働力を統合し、方向づけ、活用する仕組みとその過程について、基本的な知識を習得することを目的とします。

This class aims to provide students with fundamental knowledge of organization and business administration theories including the terms, the themes, and an overview of the field.

【到達目標】

大まかに言えば、組織論がどういった学問であるのかを理解します。そのためには経営学という学問体系の中において、それがどのような位置づけにあるのか知る必要があります。つまり他の専門領域との関係の中で組織論はどのような領域なのかを知ってほしいと思います。また、その歴史的な発展の流れについて学びながら、組織論の基本的な用語についても知ってほしいと思います。これらは経営学を学ぶ上でのイロハになりますので、半期を通じて慣れて行って下さい。

具体的には以下を目標とします。

- ①経営学の中で組織論がどのような位置づけにある領域かを説明できること
- ②組織論における二つのアプローチについて説明できること
- ③組織論の基本的な言葉・概念を知っておりその意味が説明できること
- ④主要な理論について概要を知っていること

Students who complete this course will be expected to:

- (1) understand where the organization theories could be placed in the business administration academic field,
- (2) understand two major approaches in the organization theories,
- (3) have the knowledge of the basic concepts and terms in this field and be able to explain the meaning of those terms.
- (4) have an overview of major organization theories.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

・初回の授業を除き、基本的に対面講義を実施します。それが難しい状況の場合は Zoom を用いたリアルタイムのオンライン授業を行います。

・リアクションペーパー等を適宜課します。

・グループでの話し合いなども適宜行う予定です。

・The format for conducting the class is basically in person except the first class by online. However, the format (in person, online, or hybrid of them) depends on situations such as COVID-19.

・Students are required submit reaction paper and/or some assignments as necessary.

・Group discussions might be held in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義概要や参加要件について

第 2 回	経営学と組織論	経営学はどんな学問か、その中の組織論はどんな領域か
第 3 回	組織とは何か	組織の定義について
第 4 回	組織構造	官僚制、有機的組織、マトリクス型組織など
第 5 回	組織と外部環境、戦略	オープンシステムとしての組織と環境との関係
第 6 回	組織のライフサイクル	組織の発展過程
第 7 回	組織過程（個人①）	モチベーションの内容理論
第 8 回	組織過程（個人②）	モチベーションの過程理論
第 9 回	組織過程（集団①）	リーダーシップの古典理論
第 10 回	組織過程（集団②）	近年のリーダーシップ論
第 11 回	組織文化①	企業文化論
第 12 回	組織文化②	組織文化と適合
第 13 回	意思決定論	合理的意思決定
第 14 回	近年の組織論	ポストモダンの組織論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を課すことがあります。入門科目ですから、あまり難しい事は求めません。新聞、ニュース、アルバイトやインターンなどをきっかけにして、興味のある業界・会社について調べたりしながら参加すると理解が深まるでしょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Assignments which include reaction papers to the lectures will be given at the instructor's discretion.

【テキスト（教科書）】

坂下昭宣 (2014) 『経営学への招待 新装版』白桃書房。(分かりやすい良い教科書ですが購入の必要は必ずしもありません。授業は配布資料に沿って行います。)

【参考書】

金井壽宏 (1999) 『経営組織—経営学入門シリーズ』日経文庫。(分かりやすい良い教科書ですが購入の必要は必ずしもありません。授業は配布資料に沿って行います。)

【成績評価の方法と基準】

提出物やディスカッション、発言等を含む平常点 50%、期末試験 50%。ただしコロナの蔓延状況等により期末試験の実施の可否などが不明ですので、流動的です。

完全にオンライン授業になった場合は、各回のリアクション・ペーパーが評価の対象になると思います。それが 100 % 換算されるか、試験もしくはレポート (50 %) を実施し平常点として 50 % になるかは、今後次第です。

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

【学生の意見等からの気づき】

可能な範囲で時々復習しながら進めたいと思います。

【その他の重要事項】

・配られた資料を見るだけでなく、ノートを取る癖をつけて下さい。
・具体例を新聞等で探しながら復習をすると理解が深まります。
・出席状況は評価に加味しませんが、出席せずにリアクション・ペーパーのみを提出することは不正とみなします。

【関連科目】

経営管理論、経営組織論、組織行動論等

【Outline (in English)】

This class aims to provide students with fundamental knowledge of organization and business administration theories including the terms, the themes, and an overview of the field. Learning objectives

Students who complete this course will be expected to:

- (1) have an overview of major themes in organization theories,
- (2) understand where the organization theories could be placed in the academic field of business administration,
- (3) understand two major approaches in the organization theories,
- (4) have the knowledge of the basic concepts and terms in this field.

Learning activities outside of classroom

Assignments which include reaction papers to the lectures will be given at the instructor's discretion.

Grading criteria/policy

Grading will be based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

MAN100FA

組織論入門

橋本 諭

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
 営 1 年 L～Q

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織論入門は、3つの特徴があります。

1) 経営学における組織論に関する基礎的な内容を広く学習する
 経営学が対象とする分野は多岐にわたります。中でも組織や人が関係する
 内容について初学者に向けて基礎的な内容から全体像を把握できるように体系的
 に学びます

2) 経営学のモノの見方を学ぶ

現実の諸現象（たとえば企業を取り巻く諸現象）を経営学ではどのように捉え
 るのかについて、事例を元に学びます

3) 今後の学習へのガイド

多様な分野がある経営学の中で専門とすべき内容を選択するためのガイドと
 なるよう、学習内容に沿って今後のキャリアを意識した情報提供を行います

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。

1) 組織論の基礎的な内容について、主要なキーワード、概念について説明
 することができる

2) 経営学としてのモノの見方を意識し、日常生活の現象を経営学の観点から
 説明することができる

3) その後の発展的な内容の学習につながる学習プランを作成することができる

また、これらを通じて主体的に考えるというマインドを身に付ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
 を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
 成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

・7回の教室での対面授業および7回の zoom を用いたリアルタイム配信型
 オンライン授業で行う。

・対面およびオンライン授業ではグループワークを実施する。

・初回授業の際に、接続テストなど受講環境のチェックを行う。

・詳細は、学習支援システムに記載する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明 と導入講義
第2回	経営学とは何か (1)	企業経営とは何か： 株式会社とは何か、企業を取り巻くス テークホルダー
第3回	経営学とは何か (2)	現代の働き方：採用、キャリア、転職に関する課題
第4回	組織マネジメント (1 - 1)	組織マネジメントとは： 組織をマネジメントするとはどういう ことか
第5回	組織マネジメント (1 - 2)	組織マネジメントの現代的課題： 現代の企業を取り巻く課題
第6回	事例講義 (ゲスト講義 1)	現在の組織課題に関連する事例学習
第7回	組織マネジメント (2 - 1)	組織文化： 組織文化は変革できるのか
第8回	組織マネジメント (2 - 2)	組織開発： 組織開発の光と闇
第9回	人材マネジメント (1 - 1)	人材マネジメント概要： 人材マネジメントの範囲と内容
第10回	人材マネジメント (1 - 2)	人材マネジメントの現代的課題： 人材マネジメント上の問題点とは何か
第11回	事例講義 (ゲスト講義 2)	現在の組織課題に関連する事例学習
第12回	人材マネジメント (2 - 1)	リクルーティング： 就職活動と採用活動
第13回	人材マネジメント (2 - 2)	人材育成： 人材育成の現代的課題と論点
第14回	ラップアップ	授業の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業項目、授業内容を確認して授業に参加すること。また、授業後に該
 当分野に関連する事例を生活の中で探すこと、そしてそれをきっかけとした
 学びを深めることを期待している。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時
 間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布する。資料は「学習支援システム」上に PDF
 ファイルにて配布する。

【参考書】

1) 平野 光俊 江夏 幾多郎 (2018) 『人事管理』有斐閣。

2) 桑田耕太郎 田尾雅夫 (2010) 『組織論 補訂版』有斐閣。
 その他、授業と合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りとする。

最終レポート：40% 小レポート：60%

小レポートについては授業中に出題し、内容は授業内でのグループワークの振
 り返し、ゲスト講義への感想、授業項目に関連するトピックを予定している。

【学生の意見等からの気づき】

身近なテーマをもとにした内容について好評を得た。このクラスについても、
 時事ネタを取り入れながら進めていく

【学生が準備すべき機器他】

対面授業に加えて、リアルタイム配信型 (zoom を利用) のオンライン授業形
 式で進める。

オンラインでの学習ができるように、インターネット環境、PC 環境、カメラ
 オンで授業に参加できる環境を用意すること。

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

なし

【Outline (in English)】

Course outline

This is an introductory course designed to help you develop an under-
 standing and awareness of organizations. This course includes three
 topics; Basics of business management, organizational management,
 human resource management. It aims to become a course leading to
 future advanced learning.

Learning Objectives

- (1) Be able to explain with major keywords and concepts related to the
 basic
 content of organization theory.
- (2) Be able to explain everyday phenomena from the perspective of
 business administration.
- (3) Be able to develop a study plan that leads to the study of advanced
 content.

Learning activities outside of classroom

Review of each class

Grading Criteria / Policy

Final report: 40% Sub-report: 60%

MAN100FA

組織論入門

橋本 諭

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
 営 1 年 R～U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織論入門は、3つの特徴があります。

- 1) 経営学における組織論に関する基礎的な内容を広く学習する
 経営学が対象とする分野は多岐にわたります。中でも組織や人が関係する内容について初学者に向けて基礎的な内容から全体像を把握できるように体系的に学びます
- 2) 経営学のモノの見方を学ぶ
 現実の諸現象（たとえば企業を取り巻く諸現象）を経営学ではどのように捉えるのかについて、事例を元に学びます
- 3) 今後の学習へのガイド
 多様な分野がある経営学の中で専門とすべき内容を選択するためのガイドとなるよう、学習内容に沿って今後のキャリアを意識した情報提供を行います

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。

- 1) 組織論の基礎的な内容について、主要なキーワード、概念について説明することができる
 - 2) 経営学としてのモノの見方を意識し、日常生活の現象を経営学の観点から説明することができる
 - 3) その後の発展的な内容の学習につながる学習プランを作成することができる
- また、これらを通じて主体的に考えるというマインドを身に付ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

- ・7回の教室での対面授業および7回の zoom を用いたリアルタイム配信型オンライン授業で行う。
- ・対面およびオンライン授業ではグループワークを実施する。
- ・初回授業の際に、接続テストなど受講環境のチェックを行う。
- ・詳細は、学習支援システムに記載する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	経営学とは何か (1)	企業経営とは何か： 株式会社とは何か、企業を取り巻くステークホルダー
第3回	経営学とは何か (2)	現代の働き方： 採用、キャリア、転職に関する課題
第4回	組織マネジメント (1-1)	組織マネジメントとは： 組織をマネジメントするとはどういうことか
第5回	組織マネジメント (1-2)	組織マネジメントの現代的課題： 現代の企業を取り巻く課題
第6回	事例講義 (ゲスト講義 1)	現在の組織課題に関連する事例学習
第7回	組織マネジメント (2-1)	組織文化： 組織文化は変革できるのか
第8回	組織マネジメント (2-2)	組織開発： 組織開発の光と闇
第9回	人材マネジメント (1-1)	人材マネジメント概要： 人材マネジメントの範囲と内容
第10回	人材マネジメント (1-2)	人材マネジメントの現代的課題： 人材マネジメント上の問題点とは何か
第11回	事例講義 (ゲスト講義 2)	現在の組織課題に関連する事例学習
第12回	人材マネジメント (2-1)	リクルーティング： 就職活動と採用活動
第13回	人材マネジメント (2-2)	人材育成： 人材育成の現代的課題と論点
第14回	ラップアップ	授業の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業項目、授業内容を確認して授業に参加すること。また、授業後に該当分野に関連する事例を生活の中で探すこと、そしてそれをきっかけとした学びを深めることを期待している。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布する。資料は「学習支援システム」上に PDF ファイルにて配布する。

【参考書】

- 1) 平野 光俊 江夏 幾多郎 (2018) 『人事管理』有斐閣。
 - 2) 桑田耕太郎 田尾雅夫 (2010) 『組織論 補訂版』有斐閣。
- その他、授業と合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りとする。

最終レポート：40% 小レポート：60%

小レポートについては授業中に出題し、内容は授業内でのグループワークの振り返り、ゲスト講義への感想、授業項目に関連するトピックを予定している。

【学生の意見等からの気づき】

身近なテーマをもとにした内容について好評を得た。このクラスについても、時事ネタを取り入れながら進めていく

【学生が準備すべき機器他】

対面授業に加えて、リアルタイム配信型 (zoom を利用) のオンライン授業形式で進める。
 オンラインでの学習ができるように、インターネット環境、PC 環境、カメラオンで授業に参加できる環境を用意すること。

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

なし

【Outline (in English)】

Course outline

This is an introductory course designed to help you develop an understanding and awareness of organizations. This course includes three topics; Basics of business management, organizational management, human resource management. It aims to become a course leading to future advanced learning.

Learning Objectives

- (1) Be able to explain with major keywords and concepts related to the basic content of organization theory.
- (2) Be able to explain everyday phenomena from the perspective of business administration.
- (3) Be able to develop a study plan that leads to the study of advanced content.

Learning activities outside of classroom

Review of each class

Grading Criteria / Policy

Final report: 40% Sub-report: 60%

MAN100FA

戦略論入門

安藤 直紀

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 F～K

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

好業績の企業と、そうでない企業を分けるものは何でしょうか。様々な要素が考えられますが、経営戦略は1つの要因として挙げられます。この講義では、大学で経営戦略を学んでいくために必要とされる基礎的な事項を学びます。企業の経営戦略を理解し、分析するための理論的な基礎を習得することを目指します。

【到達目標】

1. 外部環境分析の基礎を習得します。
2. 経営資源分析の基礎を習得します。
3. 経営戦略の基本類型を理解します。
4. 多角化戦略の基礎を理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この講義の形態は、対面形式とします。一部、オンライン形式でも行います。授業方式の詳細は、学習支援システム（Hoppii）に掲載しますので、開講前に確認してください。

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義で使用するスライド等の資料は、学習支援システムの教材フォルダーの中に置きます。理論の説明だけでなく、事例を交えて講義していきます。インタラクティブな講義にするために、講義中に意見等を求めます。また、授業内で課題にも取り組んでもらいます。課題の提出は学習支援システムを活用します。課題や質問へのフィードバックは、講義内や学習支援システムを通して適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義に関するオリエンテーション
第 2 回	経営戦略とは	経営戦略とは 競争優位とは
第 3 回	経営戦略の基本的な分析手法	経営戦略策定のための基本的な分析手法
第 4 回	外部環境分析（1）	外部環境とは
第 5 回	外部環境分析（2）	ファイブ・フォース・モデルとは
第 6 回	外部環境分析（3）	ファイブ・フォース・モデルからの示唆
第 7 回	内部環境分析（1）	経営資源とは
第 8 回	内部環境分析（2）	経営資源と競争優位
第 9 回	事業レベルの戦略（1）	戦略の類型
第 10 回	事業レベルの戦略（2）	コスト・リーダーシップ戦略とは
第 11 回	事業レベルの戦略（3）	差別化戦略とは
第 12 回	企業レベルの戦略（1）	多角化戦略とは
第 13 回	企業レベルの戦略（2）	多角化戦略と企業業績
第 14 回	まとめ	これまでの学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の後、次の授業までの間に、配布資料やノートの読み直し等、復習を行うことが求められます。

課題が出た場合は、課題を行うことが求められます。

講義のための準備・復習時間は、各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。補助的な材料として、学習支援システムにパワーポイント資料を掲載します。

【参考書】

井上達彦・中川功一・川瀬真紀『経営戦略ベーシック+』中央経済社、2019 年
その他参考文献に関しては、講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

下記の比率で評価します。

定期試験：80%

講義内で出される課題：20%

講義内での発言等に対して、プラス点を加算します。プラス点が加算された場合、合計点が100点を超えることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

企業の事例を紹介する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

数回、オンライン形態をとりますので、オンライン講義を受講するための情報機器が必要です。

【関連科目】

関連科目は、経営戦略論 I/II、経営管理論 I/II、マーケティング論 I/II、戦略的意思決定論 I/II、技術管理論 I/II、製品開発論 I/II、グローバル経営戦略論 I/II、中小企業論 I/II、日本経営論 I/II、経営情報論 I/II などです。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What determines firms' success? Among various factors, strategy is considered one of fundamental factors for firms' success. This course introduces students to key concepts and frameworks of strategic management. Students learn basic theoretical frameworks to understand and analyze firms' competitive strategy.

(Learning objectives)

The goal of this course is to understand basics of strategic management, which includes external environment analysis, the resource-based view, business-level strategy, and corporate-level strategy.

(Learning activities outside of classroom)

Students are required to complete assignments, read assigned reading materials, and review the notes they took. Time for preparatory study and review for this class will be at least 2 hours each.

(Grading Criteria/Policies)

Students will be evaluated on term-end examination (80%) and in-class assignments (20%).

MAN100FA

戦略論入門

工藤 悟志

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 R～U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経営戦略を俯瞰的に学び、経営戦略の役割や効果、その代表的な理論や分析のフレームワークについて取り上げます。本講義の目的は、経営戦略の概要の理解です。経営戦略とは、「企業が実現したいと考える目標、およびそれを実現させるために何をどのように行っていくのか」という道筋を示す、基本的な構想や指針のこと」を意味します。経営戦略に関する基礎的な内容を、さまざまな業界の実際の事例を取り入れながら、なるべく分かりやすく説明していきます。

【到達目標】

経営戦略の概要が説明できる
経営戦略に関わる基礎的理論が理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

経営学を俯瞰的に理解するために、代表的な理論や分析のフレームワークを実際の企業のケースにあてはめて説明します。課題として、学んだ理論や分析のフレームワークを利用して、実際の企業にあてはめるなどの演習を予定しています。

なお、本講義に関する連絡事項や課題の掲載・提出は、学習支援システムを通じておこないます。特に第 1 回の講義は Zoom を利用したオンライン講義です。その連絡も学習支援システムに掲載します。受講希望者は、必ず学習支援システムを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	①ガイダンス ②身近な経営戦略
第 2 回	経営戦略とは	①経営戦略の意義・概念 ②経営戦略の研究の流れ ③経営戦略の二面性
第 3 回	事業領域の定義	①企業ドメイン ②事業ドメイン ③企業の成長とドメインの変化
第 4 回	戦略策定 (1)	①企業戦略の策定 ②事業戦略の策定 ③外部環境の分析
第 5 回	戦略策定 (2)	①経営資源の分析 ②セグメンテーション ③経営資源と戦略
第 6 回	競争戦略	①競争地位 ②リーダーの戦略 ③チャレンジャーの戦略 ④ニッチャーの戦略 ⑤フォロワーの戦略
第 7 回	新規事業創造の戦略	①新規事業創造の意義 ②大企業における新規事業創造
第 8 回	ベンチャー企業の成長戦略	①ベンチャー企業の成長 ②経営資源の突出
第 9 回	ネットワーク戦略	①ネットワーク組織 ②垂直型ネットワーク組織 ③ハイテク産業のバーチャル組織
第 10 回	グローバル戦略	①グローバル戦略と経営環境 ②グローバル戦略と経営組織
第 11 回	地域企業の戦略	①地域企業の戦略的特徴 ②地域企業のネットワーク戦略とクラスター
第 12 回	知的財産	①知財戦略とは ②アライアンス
第 13 回	オープン・イノベーション	①オープン・イノベーションとは ②研究開発と技術開発 ③製品開発
第 14 回	経営戦略と社会	①企業と社会 ②企業の社会的責任と CSR 経営 ③企業のガバナンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は、身近な興味のある企業のホームページをみて、企業概要、事業内容、IR 情報などからその企業のビジネスの流れや特徴を見つける練習をしてください。

復習は、次の授業までに講義資料やノート、参考書の該当箇所等を読み直し、復習を行うことが求められます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない

【参考書】

- ・網倉久永、新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版、2011。
- ・沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略（新版）』有斐閣、2008。
- ・青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』東洋経済新報社、2012。
- ・マイケル E. ポーター『競争戦略論 I・II』ダイヤモンド社、2018。
- ・入山章栄『ビジネススクールでは学べない 世界最先端の経営学』日経 BP、2015。
- ・琴坂将広『経営戦略原論』東洋経済新報社、2018。

【成績評価の方法と基準】

課題・小テスト：50 %

期末試験：50 %

* 課題等の締め切りは、厳守してください。

* 欠席が 4 回を超えると、原則として単位取得不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

企業の具体的な事例をなるべく数多く取り入れる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

授業は法政大学授業支援システムを使用します。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【関連科目】

経営戦略論 I/II、経営管理論 I/II、マーケティング論 I/II、戦略的意思決定論 I/II、技術管理論 I/II、製品開発論 I/II、国際経営戦略論 I/II、中小企業論 I/II、日本経営論 I/II、経営情報論 I/II

【Outline (in English)】

In this course, you will learn basic management strategies and discuss the roles and effects of management strategies, as well as representative theories and frameworks of analysis. The purpose of this course is to understand the outline of management strategy.

The purpose of this course is that (1) the outline of the management strategy can be explained, and (2) the basic theories related to the management strategy can be understood.

The evaluations are (1) 50% of the reaction paper (in-class assignments), and (2) 50% of the final examinations.

MAN100FA

戦略論入門

福島 英史

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
 営 1 年 A～E

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営戦略とは、「企業が実現したいと考える目標、およびそれを実現させるために何をどのように行っていくのか」という道筋を示す、基本的な構想や指針のこと」を意味しています。この授業では、こうした経営戦略に関する基礎的な内容を、さまざまな業界の実際の事例を交えながら、なるべく分かりやすく説明していきます。

【到達目標】

経営戦略論の基礎的事項が習得できる
 競争戦略の概念・理論の基礎を理解できる
 企業戦略の概念・理論の基礎を理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心に進めます。また、理解を助けるために、ビデオ教材を適宜取り入れます。オンライン開講へ変更になる場合は学習支援システムでお知らせします。授業中に、トピックスに関連したエクササイズ（経営学クイズ）を解く課題があります。その際、発言を求められることがあります。教員のコメントや良答を紹介する等します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス、導入ストーリー
第 2 回	経営戦略論では何を学ぶか	経営学の中での経営戦略論の位置づけ、経営戦略の定義
第 3 回	経営戦略の基本的な考え方と分析手法（Ⅰ）	PEST 分析および 3C 分析と、その考え方
第 4 回	経営戦略の基本的な考え方と分析手法（Ⅱ）	SWOT 分析の考え方
第 5 回	業界構造分析	5 Forces 分析と、その考え方
第 6 回	競争戦略の類型	三つの基本戦略の考え方
第 7 回	資源ベース論	VRIO 分析と、その考え方
第 8 回	競争戦略の事例	事例による競争戦略の理解と確認
第 9 回	成長戦略と海外展開	成長ベクトルとグローバル経営の二軸
第 10 回	企業戦略（Ⅰ）	企業の境界、事業の多角化
第 11 回	企業戦略（Ⅱ）	事業ドメインと PPM 分析
第 12 回	知識のマネジメント	知識とイノベーション過程
第 13 回	ベンチャー企業と戦略	新興企業の戦略
第 14 回	まとめ、試験	学習のまとめ・成果の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講義について復習するとともに、身近な事例についてその意味を考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。担当教員が作成した教材を配布します。

【参考書】

- ・沼上幹 (2008) 『わかりやすいマーケティング戦略 (新版)』有斐閣。
- ・浅羽茂・牛島辰男 (2010) 『経営戦略をつかむ』有斐閣。
- ・M.E. ホーター (1995) 『競争の戦略 (新訂)』ダイヤモンド社。
- ・網倉久永・新宅純二郎 (2011) 『経営戦略入門』日本経済新聞出版。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (86 %) と各回の課題 (14 %) の合計 (100 %) で評価します。期末試験を受けなかった場合、E 評価になりますのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズ課題の時間をしっかりと、企業等の事例を引き続き充実させていきます

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに、急なお知らせや関連資料が掲載されることがあります。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】

授業中の私語や、携帯電話の音声・撮影は、他の学生に迷惑がかかるので厳禁です。注意しても直らない場合、教室からご退席いただきます。授業中の迷惑行為が目にする場合、本授業の単位を付与しません。関連科目は、戦略的意思決定論や経営戦略論、日本経営論、技術管理論、国際経営戦略論、マーケティング等です。

【Outline (in English)】

This course deals with introductory knowledge on strategic management, which is one of the core subjects in business administration. The goal of this course is to learn basic concepts and theories related to corporate strategy and business strategy as preparation for studying after the second grade. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and understand the course content. Grading will be decided based on semester-end examination (86%), and each class assignments (14%).

MAN100FA

戦略論入門

工藤 悟志

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
 営 1 年 L～Q

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経営戦略を俯瞰的に学び、経営戦略の役割や効果、その代表的な理論や分析のフレームワークについて取り上げます。本講義の目的は、経営戦略の概要の理解です。経営戦略とは、「企業が実現したいと考える目標、およびそれを実現させるために何をどのように行っていくのか」という道筋を示す、基本的な構想や指針のこと」を意味します。経営戦略に関する基礎的な内容を、さまざまな業界の実際の事例を取り入れながら、なるべく分かりやすく説明していきます。

【到達目標】

経営戦略の概要が説明できる
 経営戦略に関わる基礎的理論が理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

経営学を俯瞰的に理解するために、代表的な理論や分析のフレームワークを実際の企業のケースにあてはめて説明します。課題として、学んだ理論や分析のフレームワークを利用して、実際の企業にあてはめるなどの演習を予定しています。

なお、本講義に関する連絡事項や課題の掲載・提出は、学習支援システムを通じておこないます。特に第 1 回の講義は Zoom を利用したオンライン講義です。その連絡も学習支援システムに掲載します。受講希望者は、必ず学習支援システムを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	①ガイダンス ②身近な経営戦略
第 2 回	経営戦略とは	①経営戦略の意義・概念 ②経営戦略の研究の流れ ③経営戦略の二面性
第 3 回	事業領域の定義	①企業ドメイン ②事業ドメイン ③企業の成長とドメインの変化
第 4 回	戦略策定 (1)	①企業戦略の策定 ②事業戦略の策定 ③外部環境の分析
第 5 回	戦略策定 (2)	①経営資源の分析 ②セグメンテーション ③経営資源と戦略
第 6 回	競争戦略	①競争地位 ②リーダーの戦略 ③チャレンジャーの戦略 ④ニッチャーの戦略 ⑤フォロワーの戦略
第 7 回	新規事業創造の戦略	①新規事業創造の意義 ②大企業における新規事業創造
第 8 回	ベンチャー企業の成長戦略	①ベンチャー企業の成長 ②経営資源の突出
第 9 回	ネットワーク戦略	①ネットワーク組織 ②垂直型ネットワーク組織 ③ハイテク産業のバーチャル組織
第 10 回	グローバル戦略	①グローバル戦略と経営環境 ②グローバル戦略と経営組織
第 11 回	地域企業の戦略	①地域企業の戦略的特徴 ②地域企業のネットワーク戦略とクラスター
第 12 回	知的財産	①知財戦略とは ②アライアンス
第 13 回	オープン・イノベーション	①オープン・イノベーションとは ②研究開発と技術開発 ③製品開発
第 14 回	経営戦略と社会	①企業と社会 ②企業の社会的責任と CSR 経営 ③企業のガバナンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は、身近な興味のある企業のホームページをみて、企業概要、事業内容、IR 情報などからその企業のビジネスの流れや特徴を見つける練習をしてください。

復習は、次の授業までに講義資料やノート、参考書の該当箇所等を読み直し、復習を行うことが求められます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない

【参考書】

- ・網倉久永、新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版、2011。
- ・沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略（新版）』有斐閣、2008。
- ・青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』東洋経済新報社、2012。
- ・マイケル E. ポーター『競争戦略論 I・II』ダイヤモンド社、2018。
- ・入山章栄『ビジネススクールでは学べない 世界最先端の経営学』日経 BP、2015。
- ・琴坂将広『経営戦略原論』東洋経済新報社、2018。

【成績評価の方法と基準】

課題・小テスト：50 %

期末試験：50 %

* 課題等の締め切りは、厳守してください。

* 欠席が 4 回を超えると、原則として単位取得不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

企業の具体的な事例をなるべく数多く取り入れる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

授業は法政大学授業支援システムを使用します。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【関連科目】

経営戦略論 I/II、経営管理論 I/II、マーケティング論 I/II、戦略的意思決定論 I/II、技術管理論 I/II、製品開発論 I/II、国際経営戦略論 I/II、中小企業論 I/II、日本経営論 I/II、経営情報論 I/II

【Outline (in English)】

In this course, you will learn basic management strategies and discuss the roles and effects of management strategies, as well as representative theories and frameworks of analysis. The purpose of this course is to understand the outline of management strategy.

The purpose of this course is that (1) the outline of the management strategy can be explained, and (2) the basic theories related to the management strategy can be understood.

The evaluations are (1) 50% of the reaction paper (in-class assignments), and (2) 50% of the final examinations.

MAN100FA

マーケティング入門

竹内 淑恵

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 A～E

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済のサービス化、グローバル化、ICT の進展や消費者ニーズの多様化等、市場環境は変化しています。こうした環境変化や取引対象の変化に伴って、マーケティングの概念や対象にも変遷があります。しかしながら、その本質は、消費者ニーズを満たす価値を提供する仕組みづくりに集約されるでしょう。本講義では、顧客創造に焦点を当て、企業の現場で直面するマーケティング上の課題に対してどのように取り組めばよいのか、どのような解決策があるのかを学びます。毎回、皆さんもよくご存知の事例を取り上げ、具体的なケースを通じてマーケティングの基礎を習得します。

【到達目標】

- ・マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの意義や役割を説明できるようになる。
- ・消費者購買行動の特徴を理解し、顧客の視点からマーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身につける。
- ・マーケティングを通じて企業経営に対して興味・関心を持ち、新製品・新サービスの情報など市場の動向に敏感に反応する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この授業は 1 回目はオンラインで、2 回目以降は対面で実施します。オンラインに切り替える場合には学習支援システムでお知らせします。
 ・毎週授業前日の木曜日に、講義資料を学習支援システムの「教材」にアップします。教室での資料配布は行いません。各自ダウンロードしてください。
 ・授業の進め方と方法については初回授業（オンラインで実施）で説明します。こちらの資料も上記と同様に「教材」に「ガイダンス資料」というファイル名で掲載する予定です。
 ・中間レポート課題のテーマは Google Classroom に掲載します。提出先も Google Classroom です。
 ・Google Classroom への登録が別途必要となります。クラスコード等の詳細は学習支援システムの「お知らせ」に掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス 第 1 章 マーケティング 発想法	講義の進め方について説明します。 ニューコークとタイドを事例に、マーケティングの定義や目的、発想法を学びます。
第 2 回	第 2 章 マーケティング・ミックスによる顧客創造	キットカットを事例に、STP マーケティングとマーケティング・ミックス（製品、価格、チャネル、コミュニケーション）の基礎を学びます。
第 3 回	第 3 章 製品による顧客創造	マスキングテープ「mt」を事例に、新製品開発による顧客創造を学びます。
第 4 回	第 4 章 価格による顧客創造	ザ・プレミアムモルツを事例に、価格戦略による顧客創造を学びます。
第 5 回	第 5 章 チャネルによる顧客創造	ネスカフェ アンバサダーを事例に、流通チャネルの構築による顧客創造を学びます。
第 6 回	第 6 章 コミュニケーションにおける顧客創造	ヒートテックを事例に、消費者とのコミュニケーションによる顧客創造を学びます。
第 7 回	第 7 章 顧客理解	Ban 汗ブロックロールオンを事例に、顧客理解のためのマーケティング・リサーチ（市場調査）を学びます。
第 8 回	第 8 章 関係構築	パズドラを事例に、企業と顧客間の継続的な関係構築の方法を学びます。
第 9 回	第 9 章 デジタル・マーケティング	ウコンの力を事例に、マーケティング活動におけるデジタルの活用方法を学びます。
第 10 回	第 10 章 デイモンドチェーン	カルビー ポテトチップスを事例に、在庫の管理方法とサプライチェーン・マネジメントを学びます。
第 11 回	第 11 章 ブランド構築	マンダム ギャツピーを事例に、ブランドを構築・維持・強化する方法を学びます。
第 12 回	第 12 章 営業活動	カゴメ 瀬戸内レモンを事例に、企業における営業戦略、営業活動の多様性を学びます。

第 13 回 第 13 章 マーケティングの戦略展開
花王 ヘルシア緑茶を事例に、市場分析とマーケティング戦略の立案方法を学びます。

第 14 回 第 14 章 社会共生
トヨタ プリウスを事例に、マーケティングと社会との関わりを学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 私たち消費者は、日々の暮らしの中で企業が提供するさまざまな製品やサービスを使っています。これは使用者としての立場ですが、授業では提供者の側、すなわち、マーケターの視点を持ってください。マーケティングは身近な学問です。自分がいつも使っている製品やサービスのマーケティングを通じて、理解が進むと思います。

【テキスト（教科書）】

・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編著『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎（2016）

【参考書】

・石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1 からのマーケティング 第 4 版』碩学舎（2020）。
 ・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略 第 5 版』有斐閣アルマ（2016）。
 ・西尾チゾル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版（2007）。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①+②の合計 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

①中間レポート

・提出締め切り日の 1 ヶ月前にはテーマを発表します。

・40 点満点で採点します。

<レポート提出の注意事項>

・レポート課題を作成する際の剽窃行為は厳に慎んでください。web などから文章や図表、画像を引用する場合は URL、記事タイトル、アクセス日を明記してください。

・提出物のファイル名、本文の冒頭に学生証番号と氏名を記載してください。本科目には受講生が多数います。他の受講生の提出物と識別できるよう、各自このルールを守ってください。

・レポート課題は基本的に書かれた内容で評価しますが、指定文字数よりも少ない場合には減点の対象になります。

・中間レポート未提出の場合、成績評価に大きく影響しますので、必ず提出してください。

・一人ひとりにコメントを戻す予定ですが、コメントに基づいて修正・再提出の必要はありません。

②学期末テスト

・学期末テストの期間中に教室にて実施するか、あるいは学習支援システムの「テスト/アンケート」にて実施するかについては現時点では確定できません。詳細は決まり次第、お知らせします。

・すべて 3 択形式、60 点満点ですが、設問数等の詳細は未定です。

【学生の意見等からの気づき】

この 3 年間、提出されたレポート課題については、一人ひとりに良い点、改善点などをフィードバックしました。多くの受講生から、次回レポートを書くときに役立てたい、参考にしますという反応がありました。一人ひとりにコメントを書くのはとても時間がかかりますが、頑張ってフィードバックしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンでは画面が小さく、視聴しづらいので、タブレットやノート PC などを準備の上、受講するようお願いします。

【その他の重要事項】

・本科目は、マーケティング系の専門科目の基盤となる科目です。下記の関連科目を次年度以降履修することを予定している学生や、マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属したいと考えている学生は受講することをお勧めします。

・メーカーのマーケティング本部広告制作部、広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を持つ教員が、理論と実務の融合を目的に、毎回具体的な事例を取り上げて、マーケティングの本質について解説します。

【関連科目】

・マーケティング・マネジメント論 I/II
 ・マーケティング・リサーチ論 I/II
 ・消費者行動論 I/II
 ・流通論 I/II
 ・サービス・マネジメント論 I/II

【Outline (in English)】

Course outline: Market environments, such as progress of the service economy, globalization, ICT and diversification of consumer needs, are changing. With changes of those environments and transaction objectives, there have been transitions in the concept and objective of marketing. However, its essence is ultimately to create a mechanism providing value to satisfy consumer needs. In this course, we will focus on customer creation and learn how to deal with marketing problems and solve them.

Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the characteristics of consumer behavior and develop the ability to carry out marketing activities systematically and rationally from the customer's perspective.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), and term-end examination (60%).

MAN100FA

マーケティング入門

竹内 淑恵

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 F～K

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済のサービス化、グローバル化、ICT の進展や消費者ニーズの多様化等、市場環境は変化しています。こうした環境変化や取引対象の変化に伴って、マーケティングの概念や対象にも変遷があります。しかしながら、その本質は、消費者ニーズを満たす価値を提供する仕組みづくりに集約されるでしょう。本講義では、顧客創造に焦点を当て、企業の現場で直面するマーケティング上の課題に対してどのように取り組めばよいのか、どのような解決策があるのかを学びます。毎回、皆さんもよくご存知の事例を取り上げ、具体的なケースを通じてマーケティングの基礎を習得します。

【到達目標】

- ・マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの意義や役割を説明できるようになる。
- ・消費者購買行動の特徴を理解し、顧客の視点からマーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身につける。
- ・マーケティングを通じて企業経営に対して興味・関心を持ち、新製品・新サービスの情報など市場の動向に敏感に反応する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この授業は 1 回目はオンラインで、2 回目以降は対面で実施します。オンラインに切り替える場合には学習支援システムでお知らせします。
 ・毎週授業前日の木曜日に、講義資料を学習支援システムの「教材」にアップします。教室での資料配布は行いません。各自ダウンロードしてください。
 ・授業の進め方と方法については初回授業（オンラインで実施）で説明します。こちらの資料も上記と同様に「教材」に「ガイダンス資料」というファイル名で掲載する予定です。
 ・中間レポート課題のテーマは Google Classroom に掲載します。提出先も Google Classroom です。
 ・Google Classroom への登録が別途必要となります。クラスコード等の詳細は学習支援システムの「お知らせ」に掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス 第 1 章 マーケティング 発想法	講義の進め方について説明します。 ニューコークとタイドを事例に、マーケティングの定義や目的、発想法を学びます。
第 2 回	第 2 章 マーケティング・ミックスによる顧客創造	キットカットを事例に、STP マーケティングとマーケティング・ミックス（製品、価格、チャネル、コミュニケーション）の基礎を学びます。
第 3 回	第 3 章 製品による顧客創造	マスキングテープ「mt」を事例に、新製品開発による顧客創造を学びます。
第 4 回	第 4 章 価格による顧客創造	ザ・プレミアムモルツを事例に、価格戦略による顧客創造を学びます。
第 5 回	第 5 章 チャネルによる顧客創造	ネスカフェ アンバサダーを事例に、流通チャネルの構築による顧客創造を学びます。
第 6 回	第 6 章 コミュニケーションにおける顧客創造	ヒートテックを事例に、消費者とのコミュニケーションによる顧客創造を学びます。
第 7 回	第 7 章 顧客理解	Ban 汗ブロックロールオンを事例に、顧客理解のためのマーケティング・リサーチ（市場調査）を学びます。
第 8 回	第 8 章 関係構築	パズドラを事例に、企業と顧客間の継続的な関係構築の方法を学びます。
第 9 回	第 9 章 デジタル・マーケティング	ウコンの力を事例に、マーケティング活動におけるデジタルの活用方法を学びます。
第 10 回	第 10 章 デイモンドチェーン	カルビー ポテトチップスを事例に、在庫の管理方法とサプライチェーン・マネジメントを学びます。
第 11 回	第 11 章 ブランド構築	マンダム ギャツピーを事例に、ブランドを構築・維持・強化する方法を学びます。
第 12 回	第 12 章 営業活動	カゴメ 瀬戸内レモンを事例に、企業における営業戦略、営業活動の多様性を学びます。

第 13 回 第 13 章 マーケティングの戦略展開
花王 ヘルシア緑茶を事例に、市場分析とマーケティング戦略の立案方法を学びます。

第 14 回 第 14 章 社会共生
トヨタ プリウスを事例に、マーケティングと社会との関わりを学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 私たち消費者は、日々の暮らしの中で企業が提供するさまざまな製品やサービスを使っています。これは使用者としての立場ですが、授業では提供者の側、すなわち、マーケターの視点を持ってください。マーケティングは身近な学問です。自分がいつも使っている製品やサービスのマーケティングを通じて、理解が進むと思います。

【テキスト（教科書）】

・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編著『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎（2016）

【参考書】

・石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1 からのマーケティング 第 4 版』碩学舎（2020）。
 ・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略 第 5 版』有斐閣アルマ（2016）。
 ・西尾チゾル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版（2007）。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①+②の合計 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

①中間レポート

・提出締め切り日の 1 ヶ月前にはテーマを発表します。

・40 点満点で採点します。

<レポート提出の注意事項>

・レポート課題を作成する際の剽窃行為は厳に慎んでください。web などから文章や図表、画像を引用する場合は URL、記事タイトル、アクセス日を明記してください。

・提出物のファイル名、本文の冒頭に学生証番号と氏名を記載してください。本科目には受講生が多数います。他の受講生の提出物と識別できるよう、各自このルールを守ってください。

・レポート課題は基本的に書かれた内容で評価しますが、指定文字数よりも少ない場合には減点の対象になります。

・中間レポート未提出の場合、成績評価に大きく影響しますので、必ず提出してください。

・一人ひとりにコメントを戻す予定ですが、コメントに基づいて修正・再提出の必要はありません。

②学期末テスト

・学期末テストの期間中に教室にて実施するか、あるいは学習支援システムの「テスト/アンケート」にて実施するかについては現時点では確定できません。詳細は決まり次第、お知らせします。

・すべて 3 択形式、60 点満点ですが、設問数等の詳細は未定です。

【学生の意見等からの気づき】

この 3 年間、提出されたレポート課題については、一人ひとりに良い点、改善点などをフィードバックしました。多くの受講生から、次回レポートを書くときに役立てたい、参考にしますという反応がありました。一人ひとりにコメントを書くのはとても時間がかかりますが、頑張ってフィードバックしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンでは画面が小さく、視聴しづらいので、タブレットやノート PC などを準備の上、受講するようお願いします。

【その他の重要事項】

・本科目は、マーケティング系の専門科目の基盤となる科目です。下記の関連科目を次年度以降履修することを予定している学生や、マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属したいと考えている学生は受講することをお勧めします。

・メーカーのマーケティング本部広告制作部、広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を持つ教員が、理論と実務の融合を目的に、毎回具体的な事例を取り上げて、マーケティングの本質について解説します。

【関連科目】

・マーケティング・マネジメント論 I/II
 ・マーケティング・リサーチ論 I/II
 ・消費者行動論 I/II
 ・流通論 I/II
 ・サービス・マネジメント論 I/II

【Outline (in English)】

Course outline: Market environments, such as progress of the service economy, globalization, ICT and diversification of consumer needs, are changing. With changes of those environments and transaction objectives, there have been transitions in the concept and objective of marketing. However, its essence is ultimately to create a mechanism providing value to satisfy consumer needs. In this course, we will focus on customer creation and learn how to deal with marketing problems and solve them.

Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the characteristics of consumer behavior and develop the ability to carry out marketing activities systematically and rationally from the customer's perspective.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), and term-end examination (60%).

MAN100FA

マーケティング入門

長谷川 翔平

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 L～Q

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マーケティングを取り巻く環境は時代と共に変化してきている。近年では、インターネットやスマートフォン、人工知能の普及により、消費者と企業を取り巻く環境が大きく変わった。インターネットやスマートフォンによって、消費者は製品・サービスの比較や購入が時間と場所を問わず容易に行えるようになり、企業は SNS 等を利用して消費者と双方向のコミュニケーションが行えるようになった。消費者の行動データが大量に収集・利用できるようになったこと、人工知能のマーケティングへの応用も広がっている。一方で、環境が変わったとしてもマーケティングの本質的な目的である「ニーズを満たす価値を消費者に届ける仕組みを作ること」は変わらない。

本授業はマーケティングの初学者を対象として、STP マーケティングやマーケティング・ミックスなどのマーケティングの基礎概念を学ぶことを目的とし、学んだ知識を現実のマーケティングに応用できる能力を身につけることを目指す。

【到達目標】

- ・マーケティングの基礎概念を説明できる
- ・身近な製品・サービスのマーケティング戦略を説明できる
- ・マーケティング課題に対して適切な戦略の提案ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

1 回の授業で教科書 1 章分を取り上げ、授業前半はスライドを用いた講義、後半はグループワークを行う。グループワークでは、その日の授業で扱ったテーマに関するマーケティング課題をグループ内で議論し、クラス全体で議論内容を報告してもらう。その後、報告してもらった意見に対して教員からフィードバックを行う。議論するマーケティング課題は 1 週間前の授業時に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マーケティング発想法	マーケティングの定義や目的、発想法を学ぶ
第 2 回	マーケティング・ミックス	STP マーケティングとマーケティング・ミックス（製品、価格、チャネル、コミュニケーション）の基礎を学ぶ
第 3 回	製品戦略	新製品開発による顧客創造を学ぶ
第 4 回	価格戦略	価格戦略による顧客創造を学ぶ
第 5 回	チャネル戦略	流通チャネルの構築による顧客創造を学ぶ
第 6 回	コミュニケーション戦略	消費者とのコミュニケーションによる顧客創造を学ぶ
第 7 回	顧客理解	顧客理解のためのマーケティング・リサーチ（市場調査）を学ぶ
第 8 回	関係構築	企業と顧客間の継続的な関係構築の方法を学ぶ
第 9 回	デジタル・マーケティング	マーケティング活動におけるデジタルの活用方法を学ぶ
第 10 回	ダイヤモンド・チェーン	在庫の管理方法とサプライチェーン・マネジメントを学ぶ
第 11 回	ブランド構築	ブランドを構築・維持・強化する方法を学ぶ
第 12 回	営業活動	営業活動の多様さとネットワーク構築を学ぶ
第 13 回	マーケティングの戦略展開	市場分析とマーケティング戦略の立案方法を学ぶ
第 14 回	社会共生	マーケティングと社会との関わりを学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私たち消費者にとってマーケティングは非常に身近なものである。自分が普段使っている製品・サービスはどのようなマーケティングが展開されているか、よく観察して欲しい。新聞やニュースを見ることも勧める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎（2016）

【参考書】

- ・石井淳蔵・廣田章光『1 からのマーケティング 第 4 版』碩学舎（2019）
- ・久保進彦・澁谷寛・須永努『はじめてのマーケティング 新版』有斐閣（2022）

・小川孔輔『マーケティング入門』日本経済新聞出版社（2009）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 100 %

【学生の意見等からの気づき】

グループワークでは実際の企業や商品を例として扱う。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料やグループワーク課題は Google クラウドを通じて配信する。授業内のグループワークで利用するため、授業にはノートパソコンを持参することが望ましい。

【関連科目】

- ・マーケティング・マネジメント論 I/II
- ・マーケティング・リサーチ論 I/II
- ・消費者行動論 I/II
- ・流通論 I/II
- ・サービス・マネジメント論 I/II

【Outline (in English)】

This is an introductory marketing course. Students will learn important marketing theories such as STP marketing and marketing mix (product, price, promotion, place). The goal of this course is to obtain basic marketing knowledge and skills to develop marketing strategies for business issues. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (100%).

MAN100FA

マーケティング入門

長谷川 翔平

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 R～U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マーケティングを取り巻く環境は時代と共に変化してきている。近年では、インターネットやスマートフォン、人工知能の普及により、消費者と企業を取り巻く環境が大きく変わった。インターネットやスマートフォンによって、消費者は製品・サービスの比較や購入が時間と場所を問わず容易に行えるようになり、企業は SNS 等を利用して消費者と双方向のコミュニケーションが行えるようになった。消費者の行動データが大量に収集・利用できるようになった。人工知能のマーケティングへの応用も広がっている。一方で、環境が変わったとしてもマーケティングの本質的な目的である「ニーズを満たす価値を消費者に届ける仕組みを作ること」は変わらない。

本授業はマーケティングの初学者を対象として、STP マーケティングやマーケティング・ミックスなどのマーケティングの基礎概念を学ぶことを目的とし、学んだ知識を現実のマーケティングに応用できる能力を身につけることを目指す。

【到達目標】

- ・マーケティングの基礎概念を説明できる
- ・身近な製品・サービスのマーケティング戦略を説明できる
- ・マーケティング課題に対して適切な戦略の提案ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

1 回の授業で教科書 1 章分を取り上げ、授業前半はスライドを用いた講義、後半はグループワークを行う。グループワークでは、その日の授業で扱ったテーマに関するマーケティング課題をグループ内で議論し、クラス全体で議論内容を報告してもらう。その後、報告してもらった意見に対して教員からフィードバックを行う。議論するマーケティング課題は 1 週間前の授業時に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マーケティング発想法	マーケティングの定義や目的、発想法を学ぶ
第 2 回	マーケティング・ミックス	STP マーケティングとマーケティング・ミックス（製品、価格、チャネル、コミュニケーション）の基礎を学ぶ
第 3 回	製品戦略	新製品開発による顧客創造を学ぶ
第 4 回	価格戦略	価格戦略による顧客創造を学ぶ
第 5 回	チャネル戦略	流通チャネルの構築による顧客創造を学ぶ
第 6 回	コミュニケーション戦略	消費者とのコミュニケーションによる顧客創造を学ぶ
第 7 回	顧客理解	顧客理解のためのマーケティング・リサーチ（市場調査）を学ぶ
第 8 回	関係構築	企業と顧客間の継続的な関係構築の方法を学ぶ
第 9 回	デジタル・マーケティング	マーケティング活動におけるデジタルの活用方法を学ぶ
第 10 回	ダイヤモンド・チェーン	在庫の管理方法とサプライチェーン・マネジメントを学ぶ
第 11 回	ブランド構築	ブランドを構築・維持・強化する方法を学ぶ
第 12 回	営業活動	営業活動の多様さとネットワーク構築を学ぶ
第 13 回	マーケティングの戦略展開	市場分析とマーケティング戦略の立案方法を学ぶ
第 14 回	社会共生	マーケティングと社会との関わりを学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私たち消費者にとってマーケティングは非常に身近なものである。自分が普段使っている製品・サービスはどのようなマーケティングが展開されているか、よく観察して欲しい。新聞やニュースを見ることも勧める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎（2016）

【参考書】

- ・石井淳蔵・廣田章光『1 からのマーケティング 第 4 版』碩学舎（2019）
- ・久保進彦・澁谷寛・須永努『はじめてのマーケティング 新版』有斐閣（2022）

・小川孔輔『マーケティング入門』日本経済新聞出版社（2009）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 100 %

【学生の意見等からの気づき】

グループワークでは実際の企業や商品を例として扱う。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料やグループワーク課題は Google クラウドを通じて配信する。授業内のグループワークで利用するため、授業にはノートパソコンを持参することが望ましい。

【関連科目】

- ・マーケティング・マネジメント論 I/II
- ・マーケティング・リサーチ論 I/II
- ・消費者行動論 I/II
- ・流通論 I/II
- ・サービス・マネジメント論 I/II

【Outline (in English)】

This is an introductory marketing course. Students will learn important marketing theories such as STP marketing and marketing mix (product, price, promotion, place). The goal of this course is to obtain basic marketing knowledge and skills to develop marketing strategies for business issues. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (100%).

ECN100FA

ファイナンス入門

山崎 輝

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 A～F

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ファイナンスの入門的な内容を講義します。ほとんどの学生がこの授業で初めてファイナンスを学ぶことになると思いますが、現代のすべての人にとって、ファイナンスの対象領域である金融取引や証券投資の基礎知識は必須です。経営学部の多くの卒業生が金融機関や企業の財務部門で活躍していますが、ファイナンスの理論がそれらのビジネスの基礎になっています。また個人でも、資産形成や老後資金確保のためにはファイナンスの知識や思考が欠かせません。本講義では、主に (1) 金融取引や証券市場の仕組み、(2) 将来価値と現在価値の概念、(3) 債券と株式の初歩的な分析手法、について学びます。これらの内容は 2 年次以降で学習するファイナンス関連科目の基礎になります。

【到達目標】

次の 4 つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 利率や将来価値、現在価値の概念を理解し、それらに関する基本的な計算ができる。
- (3) 債券のしくみを理解し、利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
- (4) 株式のしくみを理解し、配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式の対面授業ですが、初回のみオンライン授業となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。初回オンライン授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 2 回	金融・証券市場の概観 (1)	債券市場、株式市場、短期金融市場などの概説
第 3 回	金融・証券市場の概観 (2)	市場参加者および政府、中央銀行の役割
第 4 回	利率、将来価値、現在価値 (1)	将来価値および複利と単利の概念
第 5 回	利率、将来価値、現在価値 (2)	現在価値の概念と複数のキャッシュフローがある場合の価値評価
第 6 回	利率、将来価値、現在価値 (3)	様々な複利期間と利率の計算
第 7 回	債券入門 (1)	債券の基本的なしくみと用語
第 8 回	債券入門 (2)	最終利回りと債券投資のリスク
第 9 回	債券分析の基礎	信用リスクと社債分析
第 10 回	株式入門 (1)	株式の基本的なしくみと用語
第 11 回	株式入門 (2)	配当割引モデルと株式評価のための指標
第 12 回	株式分析の基礎	同業他社間比較による株式分析の実際
第 13 回	デリバティブ入門	先物取引とオプション取引のしくみ
第 14 回	現代ポートフォリオ理論の紹介	効率的市場仮説、ポートフォリオのリスクとリターン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定テキスト（教科書）の予習・復習をしっかりと行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
- (2) 講義資料（配付方法は初回授業で説明します）

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験（80 %）と授業期間中の小テスト（20 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ファイナンス特有の概念や理論の解説は特にゆっくりと丁寧に説明します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してよい）を用意してください。

【関連科目】

投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門 I/II、デリバティブ入門 I/II、Excel で学ぶファイナンス理論 I/II

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融市場調査などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course offers an introduction to finance to students who start learning finance. [Learning objectives] It has three objectives: (1) To provide students with fundamental knowledge of financial transactions, securities, and financial markets. (2) To teach the concepts of the future value and the present value of a cash flow. (3) To give students basic tools for analyzing bonds and stocks. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN100FA

ファイナンス入門

岸本 直樹

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 O～U

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ファイナンスの入門的な内容を講義します。一部の学生にとってこの授業の内容は馴染みがないものかもしれません。しかし、ファイナンスで学ぶ金融取引や証券投資の知識は、社会に出る皆さんにとって必須です。なぜならば、ひとつには、金融機関あるいは企業の財務部門においてファイナンスの知識が必須だからです。また、個人としても、債券、株式、投資信託等への投資のほか、年金のタイプによってはその運用のための投資の知識が欠かせないからです。本講義で皆さんは、金融取引や証券市場の仕組み、将来価値と現在価値の概念と計算方法、債券および株式に関する初歩的な分析手法を学びます。さらに、デリバティブ、リスクとリターンのトレードオフ、効率的市場仮説についても初歩的な内容を学習します。

【到達目標】

受講者は次に挙げた知識や技術を学びます。

- ①金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- ②利子率や将来価値、現在価値の概念を理解し、それらに関する基本的な計算ができる。
- ③債券の仕組みを理解し、利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
- ④株式の仕組みを理解し、配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。
- ⑤主要なデリバティブである先渡取引と先物取引、さらにオプションの基本的な仕組みと初歩的な利用方法を理解する。
- ⑥リスクとリターンのトレードオフという考え方を理解する。
- ⑦情報が資産価格に及ぼす影響を効率的市場仮説と呼ばれる仮説に基づいて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。授業中にパソコン上で Excel を使った計算を説明します。したがって、Excel がインストールされたパソコンを持参するか、大学から借りてください。もちろん、Excel はタブレットやスマートフォンでも利用できるため、パソコンの代わりにタブレットかスマートフォンを持参してもよいです。ただし、タブレットやスマートフォン上における Excel の操作は、パソコンのそれと、若干異なります。時間の制約があるため、授業では、それらの点について説明しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションおよび金融・証券市場の概観	授業の進め方や成績評価方法などの説明をする。さらに、金融市場を概観する。
第 2 回	利子率、将来価値、現在価値（1）	将来価値、現在価値の計算ほか、複利と単利の違いを学習する。
第 3 回	利子率、将来価値、現在価値（2）	将来価値、現在価値の計算をキャッシュフローが複数ある場合に拡張する。
第 4 回	債券市場と債券入門（1）	債券の基本的な仕組みと用語を学習する。また、債券市場を概観する。
第 5 回	債券入門（2）	最終利回りの定義式を学習する。
第 6 回	債券入門（3）	最終利回りの性質を学習する。
第 7 回	債券入門（4）	債券投資のリスクを学習する。
第 8 回	株式市場の概観および株式入門（1）	株式市場を概観した後、株式の基本的な仕組みと用語を学習する。
第 9 回	株式入門（2）	配当割引モデルと株式評価のための指標を学習する。
第 10 回	デリバティブ入門（1）	先渡取引と先物取引の仕組みのほか、これらの取引の利用方法を学習する。
第 11 回	デリバティブ入門（2）	オプションの仕組みや初歩的なオプションの利用方法を学習する。
第 12 回	リスクとリターンのトレードオフ	Capital Asset Pricing Model を学習する。
第 13 回	効率的市場仮説と資産の評価方法の概観	効率的市場仮説を学習した後に、資産の価格付けを概観する。
第 14 回	期末テスト	この科目で学習した内容全般についてテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定テキスト（教科書）の予習・復習をしっかりと行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹・池田昌幸共著、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣（製本されたもののほか、e-book もある）

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

成績評価では、期末テストが 70%、授業中に実施するクイズと授業参加が 30%のウェイトを占める。

【学生の意見等からの気づき】

さらに分かりやすい授業になるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

Excel がインストールされたパソコン、タブレット、あるいは、スマートフォンを用意してください。

【その他の重要事項】

授業中は私語等を控え、講義に集中してください。なお、担当教員は、博士課程に入学する前に、東京およびニューヨークにおいて日系証券会社の調査部門で日米の証券市場の調査に従事した。

【関連科目】

夜間コースのファイナンス基礎、コーポレート・ファイナンス、経営学部のポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門 I / II。

【Outline (in English)】

Outline: This course provides an introduction to finance. Its content may be unfamiliar to some students. However, the knowledge taught in this course is essential for those who will enter the workforce. This is because, for one thing, finance theory is essential for both financial institutions and finance departments of nonfinancial corporations. In addition, the knowledge on finance is essential for individuals to invest in bonds, stocks, mutual funds, and pension funds. In this course, you will learn the basics of financial transactions and securities markets, the concepts and calculation methods of future value and present value, and elementary analysis for bonds and stocks. In addition, you will learn the rudiments of derivatives, risk and return tradeoff, and efficient market hypothesis.

Objectives: Students will learn the following knowledge and skills.

- (1) To be able to understand financial news properly based on essential knowledge of financial markets and securities.
- (2) Concepts of interest rates and the basic calculations of future values and present values.
- (3) Institutional knowledge of bonds and elementary analysis of bonds.
- (4) Institutional knowledge of stocks and elementary analysis of stocks based on dividend discount model.
- (5) Basic institutional knowledge of forwards/futures contracts and options.
- (6) Risk and return tradeoff.
- (7) Relationship of information and asset prices in terms of what is called the efficient market hypothesis.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to read the designated sections of the textbook before class and review the contents covered in class after class. The standard preparation and review time for each class is 2 hours.

Grading Criteria: The final exam will account for 70% of the grade, and quizzes and class participation will account for 30% of the grade.

ECN100FA

ファイナンス入門

金 瑠晋

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
 営 1 年 G～N

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ファイナンスの入門的な内容を講義します。ほとんどの学生がこの授業で初めてファイナンスを学ぶことになると思いますが、現代のすべての社会人にとって、ファイナンスの対象領域である金融取引や証券投資の基礎知識は必須です。経営学部の多くの卒業生が金融機関や企業の財務部門で活躍していますが、ファイナンスの理論がそれらのビジネスの基礎になっています。また個人でも、株式投資や年金運用のためにはファイナンスの知識や思考が欠かせません。本講義では、金融取引や証券市場の仕組み、将来価値と現在価値の概念、債券と株式の初歩的な分析手法、デリバティブの仕組みについて学びます。これらの内容は 2 年次以降で学習するファイナンス関連科目の基礎になります。

【到達目標】

- 1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- 2) 利率や将来価値、現在価値の概念を理解し、それらに関する基本的な計算ができる。
- 3) 債券の仕組みを理解し、利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
- 4) 株式の仕組みを理解し、配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。
- 5) 先渡取引と先物取引、オプションの基本的な仕組みと初歩的な利用方法を理解する。
- 6) 資本資産価格モデルの意味合いを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は講義資料を用いた講義形式になります。また、授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してよい）を持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの紹介。金融市場・資本市場の概観
第 2 回	将来価値、現在価値、利率 (1)	将来価値、複利と単利
第 3 回	将来価値、現在価値、利率 (2)	現在価値、複利期間、利率の計算
第 4 回	債券入門 (1)	債券の仕組みと用語 債券の種類
第 5 回	債券入門 (2)	スポットレート、債券の評価
第 6 回	債券入門 (3)	最終利回り、債券投資のリスク
第 7 回	債券入門 (4)	社債の評価、信用リスク
第 8 回	株式入門 (1)	株式の仕組みと用語
第 9 回	株式入門 (2)	株式発行市場、流通市場
第 10 回	株式入門 (3)	配当割引モデル
第 11 回	デリバティブ入門 (1)	先渡取引と先物取引の仕組みと商品
第 12 回	デリバティブ入門 (2)	オプションの仕組みと商品
第 13 回	資本資産価格モデル (CAPM)	リスクとリターンとのトレードオフ、ベータの推定、CAPM の利用例
第 14 回	効率的市場仮説	効率的市場仮説の定義、アノマリー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の予習・復習をしっかりと行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹・池田昌幸共著、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%、クイズ 20%

【学生の意見等からの気づき】

更に分かり易い説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してよい）を持参してください。

【関連科目】

投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門 I/II、デリバティブ入門 I/II、Excel で学ぶファイナンス理論 I/II

【実務経験のある教員による授業】

民間シンクタンクの金融部門で財務意思決定や金融市場調査などの金融実務に携わりました。授業では、ファイナンスの基礎理論と実際についてわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

This course offers an introduction to finance to students without prior knowledge about finance. It aims to help students understand (1) the fundamental aspects of financial transactions, securities, and financial markets, (2) the concepts of the future and present values of cash flows, (3) the basic tools for analyzing bonds and stocks, and (4) the structure of derivatives such as forwards/futures and options.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. understand financial news more deeply.
- B. understand the concepts of interest rates and time value of money.
- C. understand the structure and value of bonds.
- D. understand the structure and value of stocks.
- E. understand the structure of derivatives.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, Quizzes : 20%.

ECN100FA

経済学入門

高橋 理香, 大木 良子

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
 営 1 年 A~E

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経営学を学ぶとするみなさんは、個々人や個々の企業の選択、そしてその土台となる経済の仕組みやその動きなどについて強い関心を持っていると思います。経済学を学ぶことで、それらの読み解き方を身につけることができます。この講義によって、その経済学の学びの最初の一步を踏み出すことができます。

14 回の講義は、実証編 7 回と理論編 7 回で構成されています。

実証編では、日本経済と国際経済の実態やトレンド、そして経済のしくみについて、具体的な数字や事象の解説を通じて理解を深めます。理論編では、消費者行動や企業行動を論理的に考えるために必要なミクロ経済学の基礎を学びます。

【到達目標】

市場、インセンティブ、競争、バブル、金融、為替など、身近な経済学の基本用語の定義を正しく理解した上で、経済の仕組みの基本を身につける。また、履修を通じて学んだ経済学の基本的な理論や経済の仕組みを現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP3」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業では、教員の専門性を活かし、実証編 7 回を担当する教員 1 名 (高橋) と理論編 7 回を担当する教員 1 名 (大木) とで協力して授業を進めます。また、オンライン教材などを活用して宿題を出題し、簡単な問題を自分の力で考えて解くトレーニングを積み重ねていきます。

各回、教員がレクチャーを行います。宿題はオンラインで提出して頂きます。学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、受講者とインタラクティブな機会を持つ機会を確保します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション+実証編第 1 回：日本のマクロ経済動向	授業の概要を確認するとともに、経済学とはどのような学問か？ 経済学ではどのような考え方をするのか？ 経営学部生が経済学を学ぶ意義は何か？ という疑問について、一緒に考えていきます。 ①授業概要の紹介 ②経済とは？ 経済学とは？ ③経済学の考え方 ④経済学を学ぶ意義 引き続き、実証編第 1 回として、日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で、時系列的・横断的にデータを使って経済動向を考察してみます。 ①マクロ経済のプレイヤー ②マクロ経済を把握する方法 1 (時系列的考察) ③マクロ経済を把握する方法 2 (横断面的考察) ④戦後日本経済の長期的概観
第 2 回	実証編第 2 回：戦後日本経済のあゆみ (1)	第二次世界大戦後の日本経済は、占領期の制度変化を経て、「高度成長」と呼ばれる歴史的な経済成長を経験します。高度成長が終焉し、安定成長へ移行する 1970 年代までの日本経済の動向について、経済政策や企業側の対応にも目配りしながら概観します。 ①戦後復興 ②高度成長 ③高度成長の終焉

第 3 回	実証編第 3 回：戦後日本経済のあゆみ (2)	1980 年代の日本経済ではバブルが発生、それが崩壊した後は「失われた 20 年」と呼ばれる長期的低迷、さらに世界金融危機を経験します。この間 2000 年代までの日本経済の動向について、様々な経済データを用いながら概観し、現状への理解を深めます。 ①安定成長からバブル経済へ ②バブル崩壊と平成不況 ③世界金融危機の発生 皆さんは数年後に社会に出ます。すると、皆さんは消費者であると同時に、社会人 (労働者) ともなります。皆さんの飛び込む労働市場はどのような特徴を持った市場なのか概観し、近年のトピックを紹介していきます。 ①失業率と有効求人倍率 ②労働時間と賃金 ③就業形態と労働力率
第 4 回	実証編第 4 回：日本の労働	日本はモノ・サービス・カネ・ヒトの国際移動を通じて、多くの国とさまざまな関わりを持っています。この回では日本と他国とのモノやサービスの移動に焦点をあて、日本の貿易の特徴についてデータを用いながら概観します。 ①日本の貿易の現状 ②日本の貿易政策の転換 モノやサービスの国際取引が行われると、その裏で必ずカネの国際間移動が起きます。この回では日本と他国と国際取引で用いられるカネに焦点をあて、為替の仕組みや制度を理解し、国際金融にまつわる大きな出来事の及ぼす影響を概観します。 ①為替レートとは ②円ドル為替レートの軌跡 ③国際通貨体制の変遷 ④金融危機 (アジア通貨危機、世界金融危機) による日本経済への影響
第 5 回	実証編第 5 回：日本の世界経済とのかかわり (1)	近年、他国と協力して経済のルールやシステムを構築しようとする経済統合の動きと各国が自己の利益を追求する動きの両方がせめぎあっています。過去の経緯や近年のトピックを紹介しながら主要な地域経済統合の構造や動向を考察します。また、実証編のまとめ、理論編とのつながり、2 年次以降の専門科目との関連性についても説明します。 ①多様な国際通商システム (GATT-WTO, RTA) ②地域経済統合の形態 ③ EU とユーロ ④グローバル経済への批判と保護主義への回帰
第 6 回	実証編第 6 回：日本の世界経済とのかかわり (2)	⑤実証編のまとめ ミクロ経済学の全体像、考え方を紹介します。市場経済を機能させている最も重要な要素である需要と供給について学びます。「猛暑がアイスクリームの需要を増加させる」「台風が農作物の供給を減少させる」など現実に観察される現象について、グラフを描いて考察します。 ①市場と競争 ②需要 (需要の決まり方、需要曲線のシフト) ③供給 (供給の決まり方、供給曲線のシフト)
第 7 回	実証編第 7 回：地域経済統合とグローバル経済の変遷	理論編第 1 回：需要と供給 理論編第 2 回：市場と需要・供給 (1)
第 8 回	理論編第 1 回：需要と供給	
第 9 回	理論編第 2 回：市場と需要・供給 (1)	

第 10 回	理論編第 3 回：市場と需要・供給 (2)	需要と供給は 1 つ 1 つの財の生産量と販売価格を決定します。市場において、売り手と買い手がどのように行動し、影響し合うのかを考察します。 ①市場均衡 (需要と供給を一緒に考える) ②需要と供給の弾力性 (価格などの変化に対して、需要や供給はどのように変化するか?)
第 11 回	理論編第 4 回：ミクロ経済学理論を応用した問題演習	いくつかの例題を通してここまで学んだ内容を組み合わせ、より詳細に市場とその均衡の変化を分析します。 ①税金が上がると市場均衡はどう変わる? ②猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなって砂糖の価格が上がったら、アイス市場の均衡はどう変わる? ③売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益 (ベネフィット) について考え、どうすればそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。 ④消費者余剰とは? (買い手はどれくらい満足しているの?) ⑤生産者余剰とは? (売り手はどれくらい満足しているの?) ⑥市場の効率性 (売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ?) ⑦課税の死荷重 (課税によって失われるものがある?) (時間があれば)
第 12 回	理論編第 5 回：市場の効率性	売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益 (ベネフィット) について考え、どうすればそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。 ①消費者余剰とは? (買い手はどれくらい満足しているの?) ②生産者余剰とは? (売り手はどれくらい満足しているの?) ③市場の効率性 (売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ?) ④課税の死荷重 (課税によって失われるものがある?) (時間があれば)
第 13 回	理論編第 6 回：市場の失敗 (1)	市場に任せておくと問題が生じる場合として、取引当事者以外の満足に影響を及ぼすような場合と公共財と呼ばれる特殊な財を取引しようとする場合について考えます。 ①外部性 (取引当事者以外の満足に影響を及ぼす場合) ②公共財 (特殊な性格を持つ財を取引しようとする場合)
第 14 回	理論編第 7 回：市場の失敗 (2)	市場に任せておくと問題が生じる場合として、売り手が一人または少数しかいない状況について考えます。また、理論編のまとめを行います。さらに、より現実的な経済の現象を説明するために使われるミクロ経済学の分析道具を紹介します。 ①独占と寡占 (売り手が一人または少数の場合) ②理論編のまとめ ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが次回以降の予習につながります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

理論編では、以下のテキストを使用します。テキストに準拠したオンライン教材を使って宿題を提出して頂きます。

マンキュー (足立ほか訳)『マンキュー経済学 ミクロ編 (第 4 版)』東洋経済新報社 2019 年

実証編では、テキストを指定しません。毎回、授業で使用する資料を配布する予定です。

【参考書】

理論編の学習には以下の参考書が役に立ちます。

伊藤元重 『ミクロ経済学 (第 3 版)』日本評論社 2018 年

伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社 2007 年

安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣 2013 年

実証編では、適宜参考になる文献を授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

実証編の評価 50 % と理論編の評価 50 % で成績を付けます。

実証編は、期末テスト (60 %)、授業中の小テストや宿題 (40 %) で評価します。

理論編は、期末テスト (60 %)、授業中の中間テストと宿題 (40 %) で評価します。

期末テストや中間テスト、宿題等の詳細については、確定次第、学習支援システム、また授業内で説明しますので、各自頻りにチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからのフィードバックを反映しながら、政治・経済関連科目初学者の方も高校で学ばれた方にも配慮した授業内容となるように心がけています。スライドを投影したり、黒板をつかったり、オンライン教材を使ったり、ワークシートを配布するなど複数種類の教材を活用して学習効果の向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインシステム (学習支援システム) を活用し、授業資料の配布や重要なお知らせなどを行います。詳細は第 1 回の授業で説明します。学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【関連科目】

『マクロ経済学』(ILAC 科目)、『ミクロ経済学入門』、『経営のための経済学』、『産業組織論』、『日本経済論』、『金融論』、『組織経済学』、『国際金融論』、『国際経済論』、『日本経営史』、『産業史』

【実務経験のある教員による授業】

該当なし

【Outline (in English)】

Everyone who wants to study business may have a strong interest in decision-making of individuals and firms and the fundamental structure of economy in a whole society. By learning economics, you can understand them. This class is the first step for you to study economics. This class consists of two parts: theoretical and empirical studies. In the theoretical study, we will learn principles of microeconomics necessary to grasp consumer and corporate behavior logically. In the empirical study, we will deepen our understanding of mechanisms and trends of the Japanese and the world economies through data, history, and current topics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Theoretical part 50%, Empirical part 50%. Final grade of theoretical part is based on term-end examination (60%) and homework and mid-term exam (40%). Final grade of empirical part is based on term-end examination (40%) and homework and quiz (60%).

ECN100FA

経済学入門

大木 良子, 高橋 理香

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
 営 1 年 F~K

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経営学を学ぼうとするみなさんは、個々人や個々の企業の選択、そしてその土台となる経済の仕組みやその動きなどについて強い関心を持っていると思います。経済学を学ぶことで、それらの読み解き方を身につけることができます。この講義によって、その経済学の学びの最初の一步を踏み出すことができます。

14 回の講義は、理論編 7 回と実証編 7 回で構成されています。

理論編では、消費者行動や企業行動を論理的に考えるために必要なミクロ経済学の基礎を学びます。実証編では、日本経済と国際経済の実態やトレンド、そして経済のしくみについて、具体的な数字や事象の解説を通じて理解を深めます。

【到達目標】

市場、インセンティブ、競争、バブル、金融、為替など、身近な経済学の基本用語の定義を正しく理解した上で、経済の仕組みの基本を身につける。また、履修を通じて学んだ経済学の基本的な理論や経済の仕組みを現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP3」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業では、教員の専門性を活かし、理論編 7 回を担当する教員 1 名 (大木) と実証編 7 回を担当する教員 1 名 (高橋) とで協力して授業を進めます。また、オンライン教材などを活用して宿題を出題し、簡単な問題を自分の力で考えて解くトレーニングを積み重ねていきます。各回、教員がレクチャーを行います。宿題はオンラインで提出して頂きます。学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、受講者とインタラクションを持つ機会を確保します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション + 理論編第 1 回：ミクロ経済学とは？	授業の概要を確認するとともに、経済学とはどのような学問か？ 経済学ではどのような考え方をするのか？ 経営学部生が経済学を学ぶ意義は何か？ という疑問について、一緒に考えていきます。 ①授業概要の紹介 ②経済とは？ 経済学とは？ ③経済学の考え方 ④経済学を学ぶ意義 引き続き、理論編第 1 回として、ミクロ経済学の全体像、考え方を紹介します。
第 2 回	理論編第 2 回：市場と需要・供給 (1)	市場経済を機能させている最も重要な要素である需要と供給について学びます。「猛暑がアイスクリームの需要を増加させる」「台風が農作物の供給を減少させる」など現実に観察される現象について、グラフを描いて考察します。 ①市場と競争 ②需要 (需要の決め方、需要曲線のシフト) ③供給 (供給の決め方、供給曲線のシフト)
第 3 回	理論編第 3 回：市場と需要・供給 (2)	需要と供給は 1 つ 1 つの財の生産量と販売価格を決定します。市場において、売り手と買い手がどのように行動し、影響し合うのかを考察します。 ①市場均衡 (需要と供給を一緒に考える) ②需要と供給の弾力性 (価格などの変化に対して、需要や供給はどのように変化するか?)

第 4 回	理論編第 4 回：ミクロ経済学理論を応用した問題演習	いくつかの例題を通してここまで学んだ内容を組み合わせて、より詳細に市場とその均衡の変化を分析します。 ①税金が上がると市場均衡はどう変わる？ ②猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなって砂糖の価格が上がったら、アイス市場の均衡はどう変わる？
第 5 回	理論編第 5 回：市場の効率性	売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益 (ベネフィット) について考え、どうすればそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。 ①消費者余剰とは？ (買い手はどれくらい満足しているの？) ②生産者余剰とは？ (売り手はどれくらい満足しているの？) ③市場の効率性 (売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ？) ④課税の死荷重 (課税によって失われるものがある？) (時間があれば)
第 6 回	理論編第 6 回：市場の失敗 (1)	市場に任せておく問題が生じる場合として、取引当事者以外の満足に影響を及ぼすような場合と公共財と呼ばれる特殊な財を取引しようとする場合について考えます。 ①外部性 (取引当事者以外の満足に影響を及ぼす場合) ②公共財 (特殊な性格を持つ財を取引しようとする場合)
第 7 回	理論編第 7 回：市場の失敗 (2)	市場に任せておく問題が生じる場合として、売り手が一人または少数しかいない状況について考えます。また、理論編のまとめを行います。さらに、より現実的な経済の現象を説明するために使われるミクロ経済学の分析道具を紹介します。 ①独占と寡占 (売り手が一人または少数の場合) ②理論編のまとめ ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介
第 8 回	実証編第 1 回：日本のマクロ経済動向	日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で、時系列的・横断的にデータを使って経済動向を考察してみます。 ①マクロ経済のプレイヤー ②マクロ経済を把握する方法 1 (時系列的考察) ③マクロ経済を把握する方法 2 (横断的考察)
第 9 回	実証編第 2 回：戦後日本経済のあゆみ (1)	④戦後日本経済の長期的概観 第二次世界大戦後の日本経済は、占領期の制度変化を経て、「高度成長」と呼ばれる歴史的な経済成長を経験します。高度成長が終焉し、安定成長へ移行する 1970 年代までの日本経済の動向について、経済政策や企業側の対応にも目配りしながら概観します。 ①戦後復興 ②高度成長 ③高度成長の終焉
第 10 回	実証編第 3 回：戦後日本経済のあゆみ (2)	1980 年代の日本経済ではバブルが発生、それが崩壊した後は「失われた 20 年」と呼ばれる長期の低迷、さらに世界金融危機を経験します。この間 2000 年代までの日本経済の動向について、様々な経済データを用いながら概観し、現状への理解を深めます。 ①安定成長からバブル経済へ ②バブル崩壊と平成不況 ③世界金融危機の発生

- 第 11 回 実証編第 4 回：日本の労働
皆さんは数年後に社会に出ます。すると、皆さんは消費者であると同時に、社会人（労働者）ともなります。皆さんの飛び込む労働市場はどのような特徴を持った市場なのか概観し、近年のトピックを紹介していきます。
①失業率と有効求人倍率
②労働時間と賃金
③就業形態と労働力率
- 第 12 回 実証編第 5 回：日本の世界経済とのかかわり (1)
日本はモノ・サービス・カネ・ヒトの国際移動を通じて、多くの国とさまざまな関わりを持っています。この回では日本と他国とのモノやサービスの移動に焦点をあて、日本の貿易の特徴についてデータを用いながら概観します。
①日本の貿易の現状
②日本の貿易政策の転換
- 第 13 回 実証編第 6 回：日本の世界経済とのかかわり (2)
モノやサービスの国際取引が行われると、その裏で必ずカネの国際間移動が起きます。この回では日本と他国と国際取引で用いられるカネに焦点をあて、為替の仕組みや制度を理解し、国際金融にまつわる大きな出来事の影響を概観します。
①為替レートとは
②円ドル為替レートの軌跡
③国際通貨体制の変遷
④金融危機（アジア通貨危機、世界金融危機）による日本経済への影響
- 第 14 回 実証編第 7 回：地域経済統合とグローバル経済の変遷
近年、他国と協力して経済のルールやシステムを構築しようとする経済統合の動きと各国が自己の利益を追求する動きの両方がせめぎあっています。過去の経緯や近年のトピックを紹介しながら主要な地域経済統合の構造や動向を考察します。また、実証編のまとめ、理論編とのつながり、2 年次以降の専門科目との関連性についても説明します。
①多様な国際通商システム（GATT-WTO, RTA）
②地域経済統合の形態
③ EU とユーロ
④グローバル経済への批判と保護主義への回帰
⑤実証編のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてこれまで学んだ内容を定着させることが次回以降の予習につながります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

理論編では、以下のテキストを使用します。テキストに準拠したオンライン教材を使って宿題を提出して頂きます。
マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第 4 版）』東洋経済新報社 2019 年
実証編では、テキストを指定しません。毎回、授業で使用する資料を配布する予定です。

【参考書】

理論編の学習には以下の参考書が役に立ちます。
伊藤元重 『ミクロ経済学（第 3 版）』日本評論社 2018 年
伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社 2007 年
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣 2013 年
実証編では、適宜参考になる文献を授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

実証編の評価 50 % と理論編の評価 50 % で成績を付けます。
実証編は、期末テスト（60 %）、授業中の小テストや宿題（40 %）で評価します。
理論編は、期末テスト（60 %）、中間テストや宿題（40 %）で評価します。
期末テストや中間テスト、小テストや宿題の詳細については、確定次第、学習支援システム、また授業内で説明しますので、各自頻繁にチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからのフィードバックを反映しながら、政治・経済関連科目初学者の方も高校で学ばれた方にも配慮した授業内容となるように心がけています。スライドを投影したり、黒板をつかったり、オンライン教材を使ったり、ワークシートを配布するなど複数種類の教材を活用して学習効果の向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインシステム（学習支援システム）を活用し、授業資料の配布や重要なお知らせなどを行います。詳細は第 1 回の授業で説明します。
学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【関連科目】

『マクロ経済学』（ILAC 科目）、『ミクロ経済学入門』、『経営のための経済学』、『産業組織論』、『日本経済論』、『金融論』、『組織経済学』、『国際金融論』、『国際経済論』、『日本経営史』、『産業史』

【実務経験のある教員による授業】

該当なし

【Outline (in English)】

Everyone who wants to study business may have a strong interest in decision-making of individuals and firms and the fundamental structure of economy in a whole society. By learning economics, you can understand them. This class is the first step for you to study economics. This class consists of two parts: theoretical and empirical studies. In the theoretical study, we will learn principles of microeconomics necessary to grasp consumer and corporate behavior logically. In the empirical study, we will deepen our understanding of mechanisms and trends of the Japanese and the world economies through data, history, and current topics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process:

Theoretical part 50%, Empirical part 50%. Final grade of theoretical part is based on term-end examination (60%) and homework and mid-term exam (40%). Final grade of empirical part is based on term-end examination (40%) and homework and quiz (60%).

ECN100FA

経済学入門

横内 正雄, 大木 良子

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
 営 1 年 L~Q

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経営学を学ぶとするみなさんは、個々人や個々の企業の選択、そしてその土台となる経済の仕組みやその動きなどについて強い関心を持っていると思います。経済学を学ぶことで、それらの読み解き方を身につけることができます。この講義によって、その経済学の学びの最初の一步を踏み出すことができます。

14 回の講義は、実証編 7 回と理論編 7 回で構成されています。

実証編では、日本経済と国際経済の実態やトレンド、そして経済のしくみについて、具体的な数字や事象の解説を通じて理解を深めます。理論編では、消費者行動や企業行動を論理的に考えるために必要なミクロ経済学の基礎を学びます。

【到達目標】

市場、インセンティブ、競争、バブル、金融、為替など、身近な経済学の基本用語の定義を正しく理解した上で、経済の仕組みの基本を身につける。また、履修を通じて学んだ経済学の基本的な理論や経済の仕組みを現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP3」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業では、教員の専門性を活かし、実証編 7 回を担当する教員 1 名 (横内) と理論編 7 回を担当する教員 1 名 (大木) とで協力して授業を進めます。また、オンライン教材などを活用して宿題を出題し、簡単な問題を自分の力で考えて解くトレーニングを積み重ねていきます。

各回、教員がレクチャーを行います。宿題はオンラインで提出して頂きます。学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、受講者とインタラクティブな機会を持つ機会を確保します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション+実証編第 1 回：日本のマクロ経済動向	授業の概要を確認するとともに、経済学とはどのような学問か？ 経済学ではどのような考え方をするのか？ 経営学部生が経済学を学ぶ意義は何か？ という疑問について、一緒に考えていきます。 ①授業概要の紹介 ②経済とは？ 経済学とは？ ③経済学の考え方 ④経済学を学ぶ意義 引き続き、実証編第 1 回として、日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で、時系列的・横断的にデータを使って経済動向を考察してみます。 ①マクロ経済のプレイヤー ②マクロ経済を把握する方法 1 (時系列的考察) ③マクロ経済を把握する方法 2 (横断的考察) ④戦後日本経済の長期的概観
第 2 回	実証編第 2 回：戦後日本経済のあゆみ (1)	第二次世界大戦後の日本経済は、占領期の制度変化を経て、「高度成長」と呼ばれる歴史的な経済成長を経験します。高度成長が終焉し、安定成長へ移行する 1970 年代までの日本経済の動向について、経済政策や企業側の対応にも目配りしながら概観します。 ①戦後復興 ②高度成長 ③高度成長の終焉

第 3 回	実証編第 3 回：戦後日本経済のあゆみ (2)	1980 年代の日本経済ではバブルが発生、それが崩壊した後は「失われた 20 年」と呼ばれる長期的低迷、さらに世界金融危機を経験します。この間 2000 年代までの日本経済の動向について、様々な経済データを用いながら概観し、現状への理解を深めます。 ①安定成長からバブル経済へ ②バブル崩壊と平成不況 ③世界金融危機の発生 皆さんは数年後に社会に出ます。すると、皆さんは消費者であると同時に、社会人 (労働者) ともなります。皆さんの飛び込む労働市場はどのような特徴を持った市場なのか概観し、近年のトピックを紹介していきます。 ①失業率と有効求人倍率 ②労働時間と賃金 ③就業形態と労働力率
第 4 回	実証編第 4 回：日本の労働	日本はモノ・サービス・カネ・ヒトの国際移動を通じて、多くの国とさまざまな関わりを持っています。この回では日本と他国とのモノやサービスの移動に焦点をあて、日本の貿易の特徴についてデータを用いながら概観します。 ①日本の貿易の現状 ②日本の貿易政策の転換 モノやサービスの国際取引が行われると、その裏で必ずカネの国際間移動が起きます。この回では日本と他国と国際取引で用いられるカネに焦点をあて、為替の仕組みや制度を理解し、国際金融にまつわる大きな出来事の及ぼす影響を概観します。 ①為替レートとは ②円ドル為替レートの軌跡 ③国際通貨体制の変遷 ④金融危機 (アジア通貨危機、世界金融危機) による日本経済への影響
第 5 回	実証編第 5 回：日本の世界経済とのかかわり (1)	近年、他国と協力して経済のルールやシステムを構築しようとする経済統合の動きと各国が自己の利益を追求する動きの両方がせめぎあっています。過去の経緯や近年のトピックを紹介しながら主要な地域経済統合の構造や動向を考察します。また、実証編のまとめ、理論編とのつながり、2 年次以降の専門科目との関連性についても説明します。 ①多様な国際通商システム (GATT-WTO, RTA) ②地域経済統合の形態 ③ EU とユーロ ④グローバル経済への批判と保護主義への回帰
第 6 回	実証編第 6 回：日本の世界経済とのかかわり (2)	⑤実証編のまとめ ミクロ経済学の全体像、考え方を紹介します。市場経済を機能させている最も重要な要素である需要と供給について学びます。「猛暑がアイスクリームの需要を増加させる」「台風が農作物の供給を減少させる」など現実に観察される現象について、グラフを描いて考察します。 ①市場と競争 ②需要 (需要の決まり方、需要曲線のシフト) ③供給 (供給の決まり方、供給曲線のシフト)
第 7 回	実証編第 7 回：地域経済統合とグローバル経済の変遷	
第 8 回	理論編第 1 回：需要と供給	
第 9 回	理論編第 2 回：市場と需要・供給 (1)	

第 10 回	理論編第 3 回：市場と需要・供給 (2)	需要と供給は 1 つ 1 つの財の生産量と販売価格を決定します。市場において、売り手と買い手がどのように行動し、影響し合うのかを考察します。 ①市場均衡 (需要と供給を一緒に考える) ②需要と供給の弾力性 (価格などの変化に対して、需要や供給はどのように変化するか?)
第 11 回	理論編第 4 回：ミクロ経済学理論を応用した問題演習	いくつかの例題を通してここまで学んだ内容を組み合わせ、より詳細に市場とその均衡の変化を分析します。 ①税金が上がると市場均衡はどう変わる? ②猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなって砂糖の価格が上がったら、アイス市場の均衡はどう変わる? ③売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益 (ベネフィット) について考え、どうすればそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。 ④消費者余剰とは? (買い手はどれくらい満足しているの?) ⑤生産者余剰とは? (売り手はどれくらい満足しているの?) ⑥市場の効率性 (売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ?) ⑦課税の死荷重 (課税によって失われるものがある?) (時間があれば)
第 12 回	理論編第 5 回：市場の効率性	売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益 (ベネフィット) について考え、どうすればそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。 ①消費者余剰とは? (買い手はどれくらい満足しているの?) ②生産者余剰とは? (売り手はどれくらい満足しているの?) ③市場の効率性 (売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ?) ④課税の死荷重 (課税によって失われるものがある?) (時間があれば)
第 13 回	理論編第 6 回：市場の失敗 (1)	市場に任せておくと問題が生じる場合として、取引当事者以外の満足に影響を及ぼすような場合と公共財と呼ばれる特殊な財を取引しようとする場合について考えます。 ①外部性 (取引当事者以外の満足に影響を及ぼす場合) ②公共財 (特殊な性格を持つ財を取引しようとする場合)
第 14 回	理論編第 7 回：市場の失敗 (2)	市場に任せておくと問題が生じる場合として、売り手が一人または少数しかいない状況について考えます。また、理論編のまとめを行います。さらに、より現実的な経済の現象を説明するために使われるミクロ経済学の分析道具を紹介します。 ①独占と寡占 (売り手が一人または少数の場合) ②理論編のまとめ ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが次回以降の予習につながります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

理論編では、以下のテキストを使用します。テキストに準拠したオンライン教材を使って宿題を提出して頂きます。

マンキュー (足立ほか訳)『マンキュー経済学 ミクロ編 (第 4 版)』東洋経済新報社 2019 年

実証編では、テキストを指定しません。毎回、授業で使用する資料を配布する予定です。

【参考書】

理論編の学習には以下の参考書が役に立ちます。

伊藤元重 『ミクロ経済学 (第 3 版)』日本評論社 2018 年

伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社 2007 年

安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣 2013 年

実証編では、適宜参考になる文献を授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

実証編の評価 50 % と理論編の評価 50 % で成績を付けます。

実証編は、期末テストもしくは期末レポート (40 %)、授業中の小テストや宿題 (60 %) で評価します。

理論編は、期末テスト (60 %)、授業中の中間テストと宿題 (40 %) で評価します。

期末テストや中間テスト、宿題等の詳細については、確定次第、学習支援システム、また授業内で説明しますので、各自頻繁にチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからのフィードバックを反映しながら、政治・経済関連科目初学者の方も高校で学ばれた方にも配慮した授業内容となるように心がけています。スライドを投影したり、黒板をつかったり、オンライン教材を使ったり、ワークシートを配布するなど複数種類の教材を活用して学習効果の向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインシステム (学習支援システム) を活用し、授業資料の配布や重要なお知らせなどを行います。詳細は第 1 回の授業で説明します。学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【関連科目】

『マクロ経済学』(ILAC 科目)、『ミクロ経済学入門』、『経営のための経済学』、『産業組織論』、『日本経済論』、『金融論』、『組織経済学』、『国際金融論』、『国際経済論』、『日本経営史』、『産業史』

【実務経験のある教員による授業】

該当なし

【Outline (in English)】

Everyone who wants to study business may have a strong interest in decision-making of individuals and firms and the fundamental structure of economy in a whole society. By learning economics, you can understand them. This class is the first step for you to study economics. This class consists of two parts: theoretical and empirical studies. In the theoretical study, we will learn principles of microeconomics necessary to grasp consumer and corporate behavior logically. In the empirical study, we will deepen our understanding of mechanisms and trends of the Japanese and the world economies through data, history, and current topics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Theoretical part 50%, Empirical part 50%. Final grade of theoretical part is based on term-end examination (60%) and homework and mid-term exam (40%). Final grade of empirical part is based on term-end examination (40%) and homework and quiz (60%).

ECN100FA

経済学入門

大木 良子, 横内 正雄

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
 営 1 年 R~U

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経営学を学ぼうとするみなさんは、個々人や個々の企業の選択、そしてその土台となる経済の仕組みやその動きなどについて強い関心を持っていると思います。経済学を学ぶことで、それらの読み解き方を身につけることができます。この講義によって、その経済学の学びの最初の一步を踏み出すことができます。

14 回の講義は、理論編 7 回と実証編 7 回で構成されています。

理論編では、消費者行動や企業行動を論理的に考えるために必要なミクロ経済学の基礎を学びます。実証編では、日本経済と国際経済の実態やトレンド、そして経済のしくみについて、具体的な数字や事象の解説を通じて理解を深めます。

【到達目標】

市場、インセンティブ、競争、バブル、金融、為替など、身近な経済学の基本用語の定義を正しく理解した上で、経済の仕組みの基本を身につける。また、履修を通じて学んだ経済学の基本的な理論や経済の仕組みを現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP3」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業では、教員の専門性を活かし、理論編 7 回を担当する教員 1 名 (大木) と実証編 7 回を担当する教員 1 名 (横内) とで協力して授業を進めます。また、オンライン教材などを活用して宿題を出題し、簡単な問題を自分の力で考えて解くトレーニングを積み重ねていきます。各回、教員がレクチャーを行います。宿題はオンラインで提出して頂きます。学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、受講者とインタラクティブを持つ機会を確保します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション + 理論編第 1 回：ミクロ経済学とは？	授業の概要を確認するとともに、経済学とはどのような学問か？ 経済学ではどのような考え方をするのか？ 経営学部生が経済学を学ぶ意義は何か？ という疑問について、一緒に考えていきます。 ①授業概要の紹介 ②経済とは？ 経済学とは？ ③経済学の考え方 ④経済学を学ぶ意義 引き続き、理論編第 1 回として、ミクロ経済学の全体像、考え方を紹介します。
第 2 回	理論編第 2 回：市場と需要・供給 (1)	市場経済を機能させている最も重要な要素である需要と供給について学びます。「猛暑がアイスクリームの需要を増加させる」「台風が農作物の供給を減少させる」など現実に観察される現象について、グラフを描いて考察します。 ①市場と競争 ②需要 (需要の決め方、需要曲線のシフト) ③供給 (供給の決め方、供給曲線のシフト)
第 3 回	理論編第 3 回：市場と需要・供給 (2)	需要と供給は 1 つ 1 つの財の生産量と販売価格を決定します。市場において、売り手と買い手がどのように行動し、影響し合うのかを考察します。 ①市場均衡 (需要と供給を一緒に考える) ②需要と供給の弾力性 (価格などの変化に対して、需要や供給はどのように変化するか？)

第 4 回	理論編第 4 回：ミクロ経済学理論を応用した問題演習	いくつかの例題を通してここまで学んだ内容を組み合わせて、より詳細に市場とその均衡の変化を分析します。 ①税金が上がると市場均衡はどう変わる？ ②猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなって砂糖の価格が上がったら、アイス市場の均衡はどう変わる？
第 5 回	理論編第 5 回：市場の効率性	売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益 (ベネフィット) について考え、どうすればそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。 ①消費者余剰とは？ (買い手はどれくらい満足しているの？) ②生産者余剰とは？ (売り手はどれくらい満足しているの？) ③市場の効率性 (売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ？) ④課税の死荷重 (課税によって失われるものがある？) (時間があれば)
第 6 回	理論編第 6 回：市場の失敗 (1)	市場に任せておく問題が生じる場合として、取引当事者以外の満足に影響を及ぼすような場合と公共財と呼ばれる特殊な財を取引しようとする場合について考えます。 ①外部性 (取引当事者以外の満足に影響を及ぼす場合) ②公共財 (特殊な性格を持つ財を取引しようとする場合)
第 7 回	理論編第 7 回：市場の失敗 (2)	市場に任せておく問題が生じる場合として、売り手が一人または少数しかいない状況について考えます。また、理論編のまとめを行います。さらに、より現実的な経済の現象を説明するために使われるミクロ経済学の分析道具を紹介します。 ①独占と寡占 (売り手が一人または少数の場合) ②理論編のまとめ ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介
第 8 回	実証編第 1 回：日本のマクロ経済動向	日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で、時系列的・横断的にデータを使って経済動向を考察してみます。 ①マクロ経済のプレイヤー ②マクロ経済を把握する方法 1 (時系列的考察) ③マクロ経済を把握する方法 2 (横断的考察)
第 9 回	実証編第 2 回：戦後日本経済のあゆみ (1)	④戦後日本経済の長期的概観 第二次世界大戦後の日本経済は、占領期の制度変化を経て、「高度成長」と呼ばれる歴史的な経済成長を経験します。高度成長が終焉し、安定成長へ移行する 1970 年代までの日本経済の動向について、経済政策や企業側の対応にも目配りしながら概観します。 ①戦後復興 ②高度成長 ③高度成長の終焉
第 10 回	実証編第 3 回：戦後日本経済のあゆみ (2)	1980 年代の日本経済ではバブルが発生、それが崩壊した後は「失われた 20 年」と呼ばれる長期の低迷、さらに世界金融危機を経験します。この間 2000 年代までの日本経済の動向について、様々な経済データを用いながら概観し、現状への理解を深めます。 ①安定成長からバブル経済へ ②バブル崩壊と平成不況 ③世界金融危機の発生

- 第 11 回 実証編第 4 回：日本の労働
皆さんは数年後に社会に出ます。すると、皆さんは消費者であると同時に、社会人（労働者）ともなります。皆さんの飛び込む労働市場はどのような特徴を持った市場なのか概観し、近年のトピックを紹介していきます。
①失業率と有効求人倍率
②労働時間と賃金
③就業形態と労働力率
- 第 12 回 実証編第 5 回：日本の世界経済とのかかわり (1)
日本はモノ・サービス・カネ・ヒトの国際移動を通じて、多くの国とさまざまな関わりを持っています。この回では日本と他国とのモノやサービスの移動に焦点をあて、日本の貿易の特徴についてデータを用いながら概観します。
①日本の貿易の現状
②日本の貿易政策の転換
- 第 13 回 実証編第 6 回：日本の世界経済とのかかわり (2)
モノやサービスの国際取引が行われると、その裏で必ずカネの国際間移動が起きます。この回では日本と他国と国際取引で用いられるカネに焦点をあて、為替の仕組みや制度を理解し、国際金融にまつわる大きな出来事の影響を概観します。
①為替レートとは
②円ドル為替レートの軌跡
③国際通貨体制の変遷
④金融危機（アジア通貨危機、世界金融危機）による日本経済への影響
- 第 14 回 実証編第 7 回：地域経済統合とグローバル経済の変遷
近年、他国と協力して経済のルールやシステムを構築しようとする経済統合の動きと各国が自己の利益を追求する動きの両方がせめぎあっています。過去の経緯や近年のトピックを紹介しながら主要な地域経済統合の構造や動向を考察します。また、実証編のまとめ、理論編とのつながり、2 年次以降の専門科目との関連性についても説明します。
①多様な国際通商システム（GATT-WTO, RTA）
②地域経済統合の形態
③ EU とユーロ
④グローバル経済への批判と保護主義への回帰
⑤実証編のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてこれまで学んだ内容を定着させることが次回以降の予習につながります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

理論編では、以下のテキストを使用します。テキストに準拠したオンライン教材を使って宿題を提出して頂きます。
マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第 4 版）』東洋経済新報社 2019 年
実証編では、テキストを指定しません。毎回、授業で使用する資料を配布する予定です。

【参考書】

理論編の学習には以下の参考書が役に立ちます。
伊藤元重 『ミクロ経済学（第 3 版）』日本評論社 2018 年
伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社 2007 年
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣 2013 年
実証編では、適宜参考になる文献を授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

実証編の評価 50 % と理論編の評価 50 % で成績を付けます。
実証編は、期末テスト（40 %）、授業中の小テストや宿題（60 %）で評価します。
理論編は、期末テスト（60 %）、中間テストや宿題（40 %）で評価します。
期末テストや中間テスト、小テストや宿題の詳細については、確定次第、学習支援システム、また授業内で説明しますので、各自頻繁にチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからのフィードバックを反映しながら、政治・経済関連科目初学者の方も高校で学ばれた方にも配慮した授業内容となるように心がけています。スライドを投影したり、黒板をつかったり、オンライン教材を使ったり、ワークシートを配布するなど複数種類の教材を活用して学習効果の向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインシステム（学習支援システム）を活用し、授業資料の配布や重要なお知らせなどを行います。詳細は第 1 回の授業で説明します。
学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【関連科目】

『マクロ経済学』（ILAC 科目）、『ミクロ経済学入門』、『経営のための経済学』、『産業組織論』、『日本経済論』、『金融論』、『組織経済学』、『国際金融論』、『国際経済論』、『日本経営史』、『産業史』

【実務経験のある教員による授業】

該当なし

【Outline (in English)】

Everyone who wants to study business may have a strong interest in decision-making of individuals and firms and the fundamental structure of economy in a whole society. By learning economics, you can understand them. This class is the first step for you to study economics. This class consists of two parts: theoretical and empirical studies. In the theoretical study, we will learn principles of microeconomics necessary to grasp consumer and corporate behavior logically. In the empirical study, we will deepen our understanding of mechanisms and trends of the Japanese and the world economies through data, history, and current topics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process:

Theoretical part 50%, Empirical part 50%. Final grade of theoretical part is based on term-end examination (60%) and homework and mid-term exam (40%). Final grade of empirical part is based on term-end examination (40%) and homework and quiz (60%).

PRI100FA

統計学入門

猪狩 良介

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 F～K

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が注目されています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。この授業では、統計学の基本的な理論について学びます。具体的には、データの記述および代表的な確率分布、統計的推定について学びます。

【到達目標】

- ・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
- ・データの整理・要約ができる。
- ・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・講義資料に沿って進めます。資料は Hoppii の「教材」より配布します。
- ・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。
- ・授業後によく復習をする必要があります。
- ・当授業は対面で実施する予定です。

※授業の進め方はシラバス作成時点の予定です。今後変更になる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：統計学とは	授業の概要と進め方について説明します。統計学とはどのようなものか、経営分野において統計学がどのように利用されているかについて学びます。
第 2 回	統計データの記述 (1) ヒストグラム	データの特徴を浮き彫りにする方法を学びます。度数分布表とヒストグラムについて学びます。
第 3 回	統計データの記述 (2) 中心を表す指標	データの特徴 (中心) を見るための、平均値や中央値などについて学びます。
第 4 回	統計データの記述 (3) ばらつきを表す指標	データの散らばり具合を見積もる分散と標準偏差について学びます。
第 5 回	統計データの記述 (4) 標準化と偏差値	標準化および偏差値について学びます。
第 6 回	相関 (1) 散布図 / 共分散	2 変数の関係を散布図を描いて把握します。また、変数間の関係性を数値により把握する共分散を学びます。
第 7 回	相関 (2) 相関係数 / 相関係数の注意点	変数間の関係を表す相関係数を学びます。また、相関の注意点を学びます。
第 8 回	相関 (3) 相関と回帰	回帰分析について学びます。また、相関と回帰の違いについて学びます。
第 9 回	確率と確率分布 (1)	確率の基礎概念と、確率変数について学びます。
第 10 回	確率と確率分布 (2)	2 項分布や正規分布などの代表的な確率分布を学びます。
第 11 回	確率と確率分布 (3)	中心極限定理を用いた確率変数の和や平均の分布を学びます。
第 12 回	母数の推定 (1)	母集団と標本、また推定と推定量の概念を学びます。母割合や母平均の点推定およびその統計的性質を学びます。
第 13 回	母数の推定 (2)	母割合や母平均の区間推定を学びます。
第 14 回	まとめ	本授業で学習した内容を復習し、まとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
- ・テキストにある練習問題を宿題として解きます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

David M. Diez, Mine Cetinkaya-Rundel, Christopher D. Barr (著), 国友直人, 小暮厚之, 吉田靖 (訳) (2021) 「データ分析のための統計学入門」日本統計協会

以下より無料版 PDF を入手可能です。

[http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-3Open\(S\).pdf](http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-3Open(S).pdf)

【参考書】

- ・藪友良 (2012) 『入門実践する統計学』 東洋経済新報社。
- ・日花弘子 (2016) 『できるビジネスパーソンのための Excel 統計解析入門』 SB クリエイティブ

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験：100%

【学生の意見等からの気づき】

より実践的な内容を扱います。

【学生が準備すべき機器他】

・授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる電卓またはエクセルを使える端末（スマートフォン、タブレット、パソコン等）が必要となります。

【その他の重要事項】

・実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

基礎統計学 I / II
経営のための統計学 I / II

【Outline (in English)】

【Course outline】

Statistics has attracted attention from business as well as academia. Making good decisions in business, such as marketing and investment strategies, require objective evidence based on data, that is, Statistics. In this course, we learn basic theories of Statistics. Specifically, we will learn about data description, major probability distributions, and statistical estimation.

【Learning Objectives】

Students understand the basic concepts of statistics and can explain them to others.

Students can organize and summarize data.

Students can summarize data and discuss trends from data and graphs

【Learning activities outside of classroom】

After the class, students will review the text and materials to check their understanding of the basic concepts.

Students are expected to solve the exercises in the textbook as homework.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Final exam:100%.

PRI100FA

統計学入門

猪狩 良介

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 A~E

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が注目されています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。この授業では、統計学の基本的な理論について学びます。具体的には、データの記述および代表的な確率分布、統計的推定について学びます。

【到達目標】

- ・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
- ・データの整理・要約ができる。
- ・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・講義資料に沿って進めます。資料は Hoppii の「教材」より配布します。
- ・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。
- ・授業後によく復習をする必要があります。
- ・当授業は対面で実施する予定です。

※授業の進め方はシラバス作成時点の予定ですので、今後変更になる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：統計学とは	授業の概要と進め方について説明します。統計学とはどのようなものか、経営分野において統計学がどのように利用されているかについて学びます。
第 2 回	統計データの記述 (1) ヒストグラム	データの特徴を浮き彫りにする方法を学びます。度数分布表とヒストグラムについて学びます。
第 3 回	統計データの記述 (2) 中心を表す指標	データの特徴 (中心) を見るための、平均値や中央値などについて学びます。
第 4 回	統計データの記述 (3) ばらつきを表す指標	データの散らばり具合を見積もる分散と標準偏差について学びます。
第 5 回	統計データの記述 (4) 標準化と偏差値	標準化および偏差値について学びます。
第 6 回	相関 (1) 散布図 / 共分散	2 変数の関係を散布図を描いて把握します。また、変数間の関係性を数値により把握する共分散を学びます。
第 7 回	相関 (2) 相関係数 / 相関係数の注意点	変数間の関係を表す相関係数を学びます。また、相関の注意点を学びます。
第 8 回	相関 (3) 相関と回帰	回帰分析について学びます。また、相関と回帰の違いについて学びます。
第 9 回	確率と確率分布 (1)	確率の基礎概念と、確率変数について学びます。
第 10 回	確率と確率分布 (2)	2 項分布や正規分布などの代表的な確率分布を学びます。
第 11 回	確率と確率分布 (3)	中心極限定理を用いた確率変数の和や平均の分布を学びます。
第 12 回	母数の推定 (1)	母集団と標本、また推定と推定量の概念を学びます。母割合や母平均の点推定およびその統計的性質を学びます。
第 13 回	母数の推定 (2)	母割合や母平均の区間推定を学びます。
第 14 回	まとめ	本授業で学習した内容を復習し、まとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
- ・テキストにある練習問題を宿題として解きます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

David M. Diez, Mine Cetinkaya-Rundel, Christopher D. Barr (著), 国友直人, 小暮厚之, 吉田靖 (訳) (2021) 「データ分析のための統計学入門」日本統計協会

以下より無料版 PDF を入手可能です。

[http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-3Open\(S\).pdf](http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-3Open(S).pdf)

【参考書】

- ・藪友良 (2012) 『入門実践する統計学』 東洋経済新報社。
- ・日花弘子 (2016) 『できるビジネスパーソンのための Excel 統計解析入門』 SB クリエイティブ

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験：100%

【学生の意見等からの気づき】

より実践的な内容を扱います。

【学生が準備すべき機器他】

・授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる電卓またはエクセルを使える端末（スマートフォン、タブレット、パソコン等）が必要となります。

【その他の重要事項】

・実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

基礎統計学 I / II
経営のための統計学 I / II

【Outline (in English)】

【Course outline】

Statistics has attracted attention from business as well as academia. Making good decisions in business, such as marketing and investment strategies, require objective evidence based on data, that is, Statistics. In this course, we learn basic theories of Statistics. Specifically, we will learn about data description, major probability distributions, and statistical estimation.

【Learning Objectives】

Students understand the basic concepts of statistics and can explain them to others.

Students can organize and summarize data.

Students can summarize data and discuss trends from data and graphs

【Learning activities outside of classroom】

After the class, students will review the text and materials to check their understanding of the basic concepts.

Students are expected to solve the exercises in the textbook as homework.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Final exam:100%.

PRI100FA

統計学入門

高橋 慎

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 R~U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が注目を集めています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。この授業では、統計学の基本的な理論について学びます。

【到達目標】

- ・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
- ・データの整理・要約ができる。
- ・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
- ・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。
- ・練習問題の提出期限後の授業で、解答と解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス/統計学とは	授業の概要と進め方について説明します。また、データと母集団などの統計学の基本的概念を学びます。
第 2 回	データの記述 1：図表の作成	データをわかりやすく図表にまとめる方法として、度数分布表とヒストグラムの作り方を学びます。
第 3 回	データの記述 2：中心を表す標本特性値	データの中心を表す 3 つの特性値（平均、中央値、最頻値）の定義と特徴および利用方法を学びます。
第 4 回	データの記述 3：ばらつきを表す標本特性値	データのばらつきをの程度を表す分散と標準偏差を学びます。
第 5 回	データの記述 4：範囲と割合の関係	データの範囲と分布の割合について、経験的な関係とその応用例を学びます。
第 6 回	相関 1：散布図/共分散	散布図を利用して 2 つの変数の大まかな相互関係を把握する方法を学びます。また、2 つの変数間の相関関係を表す共分散を学びます。
第 7 回	相関 2：相関係数/相関係数の注意点	2 つの変数間の相関関係を表す相関係数を学びます。また、相関と因果関係の違いなど、相関係数の見方や解釈について注意すべき点を学びます。
第 8 回	確率変数と確率分布	確率変数と確率分布の定義、期待値や分散などの基本概念を学びます。
第 9 回	主要な確率分布 1：離散確率分布	代表的な離散確率分布として、ベルヌーイ分布と二項分布を学びます。
第 10 回	主要な確率分布 2：連続確率分布	代表的な連続確率分布として、正規分布を学びます。
第 11 回	母数の推定 1：基本概念	データから母集団の特性値（母数）を推測すること（推定）の考え方、推定量と推定値などの基本概念を学びます。
第 12 回	母数の推定 2：点推定	母集団の平均（母平均）の推定量の統計的性質を学びます。
第 13 回	母数の推定 3：区間推定	母平均が存在すると思われる区間の推定（区間推定）を学びます。
第 14 回	まとめ	授業で扱った内容を復習し、発展的なトピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
- ・練習問題を宿題として解きます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Diez・Cetinkaya-Rundel・Barr 著、国友・小暮・吉田訳 (2021) 『データ分析のための統計学入門』 ("OpenIntro Statistics, 4th Edition") 日本統計協会、ISBN 978-4-8223-4105-3

PDF 版は以下のリンクからダウンロードできます。

[http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-30Open\(S\).pdf](http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-30Open(S).pdf)

【参考書】

- ・藪友良 (2012) 『入門 実践する統計学』 東洋経済新報社
- ・その他の参考書は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・練習問題：40%
- ・期末課題：60%

【学生の意見等からの気づき】

より発展的な内容も参考文献とともに紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる電卓またはエクセル（あるいは Google スプレッドシート）を使える端末（スマートフォン、タブレット、パソコン等）が必要となります。

【その他の重要事項】

- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

基礎統計学 I / II
経営のための統計学 I / II

【Outline (in English)】

Recently, statistics has attracted attention from both business and academia. Making good business decisions, such as marketing and investment strategies, requires objective evidence based on data, i.e. statistics. In this course, we will learn the basic theories of statistics.

The primary goals of this course are: to understand the basic concepts of statistics and to be able to explain them to others; to be able to organize and summarize data; and to be able to discuss trends in data from summary statistics and graphs.

You will be expected to review the textbook and materials after class to check your understanding of the basic concepts. You will be required to complete practice questions as assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be based on 40% assignments and 60% final exam.

PRI100FA

統計学入門

高橋 慎

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
 営 1 年 L~Q

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が注目を集めています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。この授業では、統計学の基本的な理論について学びます。

【到達目標】

- ・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
- ・データの整理・要約ができる。
- ・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
- ・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。
- ・練習問題の提出期限後の授業で、解答と解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス/統計学とは	授業の概要と進め方について説明します。また、データと母集団などの統計学の基本的概念を学びます。
第 2 回	データの記述 1：図表の作成	データをわかりやすく図表にまとめる方法として、度数分布表とヒストグラムの作り方を学びます。
第 3 回	データの記述 2：中心を表す標本特性値	データの中心を表す 3 つの特性値（平均、中央値、最頻値）の定義と特徴および利用方法を学びます。
第 4 回	データの記述 3：ばらつきを表す標本特性値	データのばらつきをの程度を表す分散と標準偏差を学びます。
第 5 回	データの記述 4：範囲と割合の関係	データの範囲と分布の割合について、経験的な関係とその応用例を学びます。
第 6 回	相関 1：散布図/共分散	散布図を利用して 2 つの変数の大まかな相互関係を把握する方法を学びます。また、2 つの変数間の相関関係を表す共分散を学びます。
第 7 回	相関 2：相関係数/相関係数の注意点	2 つの変数間の相関関係を表す相関係数を学びます。また、相関と因果関係の違いなど、相関係数の見方や解釈について注意すべき点を学びます。
第 8 回	確率変数と確率分布	確率変数と確率分布の定義、期待値や分散などの基本概念を学びます。
第 9 回	主要な確率分布 1：離散確率分布	代表的な離散確率分布として、ベルヌーイ分布と二項分布を学びます。
第 10 回	主要な確率分布 2：連続確率分布	代表的な連続確率分布として、正規分布を学びます。
第 11 回	母数の推定 1：基本概念	データから母集団の特性値（母数）を推測すること（推定）の考え方、推定量と推定値などの基本概念を学びます。
第 12 回	母数の推定 2：点推定	母集団の平均（母平均）の推定量の統計的性質を学びます。
第 13 回	母数の推定 3：区間推定	母平均が存在すると思われる区間の推定（区間推定）を学びます。
第 14 回	まとめ	授業で扱った内容を復習し、発展的なトピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
- ・練習問題を宿題として解きます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Diez・Cetinkaya-Rundel・Barr 著、国友・小暮・吉田訳 (2021) 『データ分析のための統計学入門』 ("OpenIntro Statistics, 4th Edition") 日本統計協会、ISBN 978-4-8223-4105-3

PDF 版は以下のリンクからダウンロードできます。

[http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-30Open\(S\).pdf](http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-30Open(S).pdf)

【参考書】

- ・藪友良 (2012) 『入門 実践する統計学』 東洋経済新報社
- ・その他の参考書は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・練習問題：40%
- ・期末課題：60%

【学生の意見等からの気づき】

より発展的な内容も参考文献とともに紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる電卓またはエクセル（あるいは Google スプレッドシート）を使える端末（スマートフォン、タブレット、パソコン等）が必要となります。

【その他の重要事項】

- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

基礎統計学 I / II
 経営のための統計学 I / II

【Outline (in English)】

Recently, statistics has attracted attention from both business and academia. Making good business decisions, such as marketing and investment strategies, requires objective evidence based on data, i.e. statistics. In this course, we will learn the basic theories of statistics.

The primary goals of this course are: to understand the basic concepts of statistics and to be able to explain them to others; to be able to organize and summarize data; and to be able to discuss trends in data from summary statistics and graphs.

You will be expected to review the textbook and materials after class to check your understanding of the basic concepts. You will be required to complete practice questions as assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be based on 40% assignments and 60% final exam.

MAN100FA

簿記入門Ⅰ

大下 勇二

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 L～Q

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

【到達目標】

簿記入門Ⅰの受講により、学生は、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成することができる。具体的には複式簿記の原理、帳簿記入の方法および決算の概要を理解し、帳簿の作成とそれに基づいた決算書の作成方法を習得し、簿記入門Ⅱとあわせて日商簿記検定の 3 級程度のレベルに到達することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

今年度の授業は対面授業を基本としています（初回は Zoom によるオンライン授業です）。学習支援システムには、毎回テキストを要約した講義スライドと小テスト（全 12 回）をアップロードしますので、授業を受講した後小テストを受ける形で学習していきます。また、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	簿記の意義としくみ (1)	簿記の意義と基礎について解説します。
第 2 回	簿記の意義としくみ (2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産（資本）について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第 3 回	簿記の意義としくみ (3)	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第 4 回	仕訳と転記 (1)	勘定の意義、勘定科目の分類、勘定記入を学習します。
第 5 回	仕訳と転記 (2)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第 6 回	仕訳と転記 (3)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」と「転記」について学習します。
第 7 回	仕訳帳と元帳 (1)	帳簿組織の種類と役割、複式簿記の原理に基づいて、仕訳帳への記入練習を行います。
第 8 回	仕訳帳と元帳 (2)	勘定記入、仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。
第 9 回	決算 (1)	決算の意味と手続き、試算表の作成、合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第 10 回	決算 (2)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きを学習します。
第 11 回	決算 (3)	精算表の仕組み、6 桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第 12 回	現金と預金	現金・預金の記帳、現金出納帳、現金過不足、当座預金、その他の預金、小口現金の処理を学習します。
第 13 回	計算演習 (1)	小テストとレポート課題の解答を解説します。
第 14 回	計算演習 (2)	総合計算問題演習を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストと講義スライド（パワーポイントのスライド）で予習・復習する形で学習を進めて下さい。テキストを良く読んでおき、テキストの例題・練習問題、ワークブックの問題を解くことが大切です。レポート、小テスト、最終試験の実施を予定しております。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡部・片山・北村『検定 簿記講義 3 級』（最新版）中央経済社。
『検定 簿記ワークブック 3 級』（最新版）中央経済社。

【参考書】

最初の授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上での「小テスト」（第 1 回～第 12 回）、課題レポート」（1 回程度）および「最終テスト」の 3 つに基づいて評価します。各評価の配分は、小テスト（全 12 回）45%、課題レポート 5%、定期試験による最終試験 50%です。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で仕訳トレーニングの問題を実際に解いてもらい、授業内容の理解を深めながら授業を進めて行きます。また、小テストの結果を定期的に観覧して、授業の理解をその都度確認する取組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびパワーポイント、さらに初回のオンライン授業では Zoom を用いますので、これを利用できる環境を準備して下さい。

【その他の重要事項】

【関連科目】

この講義は、2 年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4 年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、監査論Ⅰ/Ⅱ、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅲ/Ⅳなど会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。

【その他注意事項】

簿記を習得するためには、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with the book-keeping of an introductory level. Accounting based on Bookkeeping is called the language of business. Income statements and balance sheets published by companies are prepared based on accounting books that record their economic activities according to bookkeeping technique and certain accounting rules. This course deals with this bookkeeping technique from journal entry to settlement of accounts.

Learning objectives

By the end of the course, students should be able to understand the basics of bookkeeping technique from journal entry to settlement of accounts, the double-entry system and basic accounting process.

Learning activities outside of classroom

Before/after each meeting, students will be expected to spend at least four hours to understand the course content. Students will be expected to have completed the quiz after each meeting (on-line test) and mid-term report.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided based on the following:

Quiz after each meeting (on-line test) (45%), mid-term report (5%), term-end examination (50%).

MAN100FA

簿記入門Ⅱ

大下 勇二

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 L～Q

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。簿記入門Ⅱでは、簿記入門Ⅰで学習した仕訳から決算までの簿記の基礎を前提として、さまざまな取引を取り上げその具体的な処理を学習していきます。

【到達目標】

簿記入門Ⅱでは、受講生は、簿記入門Ⅰで学習した簿記の基礎に基づいて、複式簿記による帳簿記録のルールの理解と簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを出発点として、具体的な各種取引の会計処理、帳簿組織の仕組み、決算整理と 8 桁精算表および貸借対照表・損益計算書の作成方法を修得し、最終的に日商簿記 3 級程度のレベルへ到達することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

簿記入門Ⅱは対面授業を基本としています（初回、第 8 回および第 11 回は Zoom によるオンライン授業の予定です）。学習支援システムには、毎回テキストを要約した講義スライドと小テスト（全 12 回）をアップロードしますので、授業を受講した後に小テストを受ける形で学習していきます。また、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	繰越商品・仕入・売上 (1)	3 分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売上の記帳を学習します。
第 2 回	繰越商品・仕入・売上 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを学習します。
第 3 回	売掛金と買掛金	掛取引の記帳、売掛金・買掛金、人名勘定、売掛金元帳・買掛金元帳などを学習します。
第 4 回	その他の債権と債務	貸付金・借入金、未収金・未払金、立替金・預り金、仮払金・仮受金、商品券等の処理を学習します。
第 5 回	受取手形と支払手形	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、受取手形記入帳・支払手形記入帳、手形貸付金・手形借入金、電子記録債権・電子記録債務等の処理を学習します。
第 6 回	有形固定資産	有形固定資産の取得・売却、減価償却の計算と会計処理を学習します。
第 7 回	貸倒損失と貸倒引当金	貸倒れの処理、貸倒れの見積りと引当での処理を学習します。
第 8 回	資本	株式会社の設立と株式の発行、繰越利益剰余金、配当等の処理を学習します。
第 9 回	収益と費用	収益と費用の未収・未払と前受けと前払いの処理とその意義、消耗品の処理等を学習します。
第 10 回	税金	税金の処理を学習します。
第 11 回	伝票	伝票を用いた記入方法を学習します。
第 12 回	財務諸表	決算手続き、決算整理の処理、8 桁精算表および財務諸表の作成方法を学習します。
第 13 回	計算演習 (1)	小テストと課題レポートの解答を解説します。
第 14 回	計算演習 (2)	総合計算問題演習を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストと講義スライド（パワーポイントのスライド）で予習・復習する形で学習を進めてください。テキストを良く読んでおき、テキストの例題・練習問題、ワークブックの問題を解くことが大切です。レポート、小テスト、最終テストの実施を予定しております。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡部・片山・北村「検定簿記講義 3 級」（最新版）中央経済社。
『検定簿記ワークブック 3 級』（最新版）中央経済社。

【参考書】

最初の授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上での「小テスト」（第 1 回～第 12 回）、「課題レポート」（1 回程度）および「最終テスト」（1 月実施）の 3 つに基づいて評価します。各評価の配分は、小テスト（全 12 回）45%、課題レポート 5%、定期テスト 50%です。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で仕訳トレーニングの問題を実際に解いてもらい、授業内容の理解の程度に注意しながら授業を進めていきます。また、小テストの結果を定期的に観察して、授業の理解をその都度確認する取組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびパワーポイント、さらにオンライン授業では Zoom を用いますので、これを利用できる環境を準備して下さい。

【その他の重要事項】

[関連科目]

この講義は、2 年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4 年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、監査論Ⅰ/Ⅱ、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅲ/Ⅳなど会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。

[その他注意事項]

簿記を習得するためには、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with the book-keeping of an intermediate level and the preparation of balance sheet(B/S) and income statement(P/L).In this course,we will take up various transactions and learn the specific processing based on the bookkeeping technique leaned in "Introduction to Bookkeeping I".

Learning Objectives

By the end of the course,students should be able to understand the introductory accounting practices for merchant(Nishou-Boki-kentei 3-kyu level).

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the quiz after each meeting(on-line test)and mid-term report.Before/after each meeting,students will be expected to spend at least four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided based on the following:

Quiz after each meeting(on-line test)(45%),mid-term report(5%),term-end examination(50%).

MAN100FA

簿記入門Ⅰ

川島 健司

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 F～K

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、初めて簿記会計を学習する学生を対象として、簿記の基礎的な事項を理解してもらい、日商簿記検定 3 級に合格することである。簿記の「なぜ？」に答えることを重視するため（なぜ日常の家計簿の延長では不十分・不合理なのか？、なぜ複式、なぜ借方・貸方なのか？、なぜ加法にこだわるのか？、なぜ決算整理が必要なのか？ 等々）、資格試験の授業計画とは異なるが、学習の範囲、扱う内容、演習問題の量は日商簿記検定 3 級の標準的授業と同じである。

この授業では 2, 3 年次で会計関係の専門科目を学習する際の基礎となる事項を学習する。それは社会人になった時にビジネスの常識として必要となる基本的事項でもある。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下のとおりである。
・基本的な取引の内容を理解し、それを記帳・要約して財務諸表を作成する技術を習得する。
・作成した財務諸表から、会社の実態を推論する技術を習得する。
・財務諸表の作成と読解を通じて、会計上の諸論点の存在を理解し、それらを議論するために必要な概念を理解する。
・日商簿記検定 3 級に合格できる知識、および同 2 級の受験準備としての知識を習得する。
・簿記に関する一般教養的な知識を習得する（文化・歴史・経済との関係等）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。授業内容は簿記入門Ⅰと簿記入門Ⅱを合わせた年間 28 回の授業を以下の 4 つに分割し、それぞれテーマと問題意識を共有しながら授業を進める。

- 第 1 部 簿記の基礎概念を理解する（第 2-7 回）
- 第 2 部 記録と要約の方法を理解する（第 8-13 回）、以上「簿記入門Ⅰ」
- 第 3 部 簿記検定試験の対策（第 16-21 回）
- 第 4 部 簿記検定試験から会計学への発展（第 22-27 回）、以上「簿記入門Ⅱ」

なお、第 1 回・第 15 回はガイダンス、第 14 回・第 28 回は総合問題の解説にあてて。

本授業では単に簿記処理の技術を説明するだけでなく、簿記の歴史、文化的側面、経済発展への貢献などを解説することを通じて、簿記に関する教養的知識の習得を受講生に促す。

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、適宜、質疑応答の機会を設ける。受講生は授業内容について理解できなかった点や関心をもった点などを質問票に記述し（任意）、その質問票の内容を教員が整理・体系化し、それに公開回答するかたちをとる。公開された質問者には成績評価の際に加点する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	簿記の役割、簿記会計を学ぶ意義等について説明する
第 2 回	会社経営に関する概念	簿記の記録対象となる会社の取引とその実態や仕組みについて概観する。
第 3 回	財政状態に関する概念	経営に必要な資金の調達源泉とその運用形態に関する記録を学ぶ。
第 4 回	収支計算に関する概念	日常生活の記帳の延長として、一般に認められた方法により現金出納帳と収支計算書を作成する方法を解説する。
第 5 回	利益計算に関する概念	利益計算の方法と損益計算書等について学習する。収益・費用の概念を収入・支出と対比させて解説する。
第 6 回	簿記一巡の手続きに関する概念	取引を記録・要約して財務諸表が作成されるまでの一連の手続きについて概観する。
第 7 回	決算整理に関する概念	合理的な期間損益計算のために行われる決算時の修正手続きについて学ぶ。
第 8 回	資金調達と現金預金	資金調達と現金預金について解説する。
第 9 回	商品の仕入／買掛金／販売／売上債権	商品の仕入／買掛金／販売／売上債権の各取引について解説する。

第 10 回 固定資産の購入と売却 / 固定資産の購入と売却 / 未払金と未収金 / 未払金と未収金 / その他の債権・債務 / 税金 / 配当

第 11 回 決算① 売上原価の算定 / 売上原価の算定 / 貸倒引当金について解説する。

第 12 回 決算② 減価償却 / 減価償却について解説する。

第 13 回 決算③ 経過勘定項目 / 経過勘定項目について解説する。

第 14 回 総合的演習問題 / 仕訳、総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切り、財務諸表の作成等について総合的に学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回講義で学習した例題の復習と関連する部分の演習問題を解いておくこと。

【テキスト（教科書）】

教員が作成した資料を配信する。

【参考書】

- ・川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021 年。
- ・黒澤清『新講 商業簿記』千倉書房, 1947 年。
- ・大下勇二・福多裕志・神谷健司・筒井知彦『簿記講義ノート』白桃書房, 1998 年。
- ・中村忠『新編・現代会計学』九訂版, 白桃書房, 2005 年。
- ・中村忠『簿記の考え方・学び方』六訂版, 税務経理協会, 2006 年。
- ・新田忠誓・佐々木隆他『会計学・簿記入門』第 12 版, 白桃書房, 2014 年。

【成績評価の方法と基準】

以下の 5 点にもとづいて評価する（括弧内はウエイト）。

- ① 動画視聴履歴の状況（10 %）
 - ② 対面授業の出席状況（10 %）
 - ③ 対面授業時の発言状況（10 %）
 - ④ 各授業回の確認テスト（40 %）
 - ⑤ 各授業回の質問票への記述状況（30 %）
- 質問票は、各回の授業終了後に受講生は質問や感想を Google Form を通じて提出する。その内容は全受講生に匿名で公表する。その提出状況と記述内容は、授業への参画と貢献に対する評価として、成績に反映する。

【学生の意見等からの気づき】

復習のための課題をより多く課したい。また毎回の確認テストと質疑応答により、受講者の理解度を段階的に確かめていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業動画を視聴するための PC。表計算ソフトウェアの Excel があることが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意されたい（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、第 1 回授業の際に説明する。
2. 本授業では、簿記処理の技術のみならず、簿記に関する一般教養的知識（文化・歴史・経済との関わり等）についても解説し、これらについても期末試験において多く出題する。本学の会計専門職講座をはじめ各種資格試験講座を受講している学生もぜひ受講してほしい。

【関連科目】

この科目はすべての会計関係の基礎となる科目であり、経営関係の科目の学習においても重要な科目である。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to get knowledge of fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance in the near future. This lecture includes technique, principle, history, and practice of bookkeeping. The goals of this class are as follows.

- (1) Understand the contents of basic transactions, and acquire the technology to record and summarize them to prepare financial statements.
- (2) Learn the methods to infer business situations from the prepared financial statements.
- (3) Understand the existence of accounting issues and the concepts necessary to discuss them through the preparation and reading of financial statements.
- (4) Acquire the knowledge to pass the official business skill test in Bookkeeping 3rd grade.
- (5) Acquire general liberal arts knowledge about bookkeeping. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each, including solve the exercises learned in each lecture. Evaluate based on the following two points (weights in parentheses). (1) Viewing history status (20%)

(2) Confirmation test each time (40%)

(3) Questionnaire description status (40%)

Students submit questions and impressions through the Google Form after each class. The description will be announced anonymously to all students. The submission status and description will be reflected in the grades as an evaluation of participation and contribution to the class.

MAN100FA

簿記入門Ⅱ

川島 健司

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 F～K

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、初めて簿記会計を学習する学生を対象として、簿記の基礎的な事項を理解してもらい、日商簿記検定 3 級に合格することである。この簿記入門Ⅱでは、簿記原理の知識を踏まえうえて、日商簿記検定 3 級の合格を目指し、その受験対策を行う。ただし、専門学校の簿記教材とは異なり、日商簿記検定 3 級の問題を題材に、会計学や財務諸表分析といった簿記の発展や応用に関するテーマを扱う。試験対策をしながら、簿記の魅力について知ってもらうことに主眼をおいている。

簿記の「なぜ？」に答えることを重視するため（なぜ日常の家計簿の延長では不十分・不合理なのか？、なぜ複式、なぜ借方・貸方なのか？、なぜ加法にこだわるのか？、なぜ決算整理が必要なのか？等々）、資格試験の授業計画とは異なるが、学習の範囲、扱う内容、演習問題の量は日商簿記検定 3 級の標準的授業と同じである。

この授業では 2、3 年次で会計関係の専門科目を学習する際の基礎となる事項を学習する。それは社会人になった時にビジネスの常識として必要となる基本的事項でもある。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下のとおりである。
・基本的な取引の内容を理解し、それを記帳・要約して財務諸表を作成する技術を習得する。
・作成した財務諸表から、会社の実態を推論する技術を習得する。
・財務諸表の作成と読解を通じて、会計上の諸論点の存在を理解し、それらを議論するために必要な概念を理解する。
・日商簿記検定 3 級に合格できる知識、および同 2 級の受験準備としての知識を習得する。
・簿記に関する一般教養的知識を身につける（文化・歴史・経済との関わり等）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。授業内容は簿記入門Ⅰと簿記入門Ⅱを合わせた年間 28 回の授業を以下の 4 つに分割し、それぞれテーマと問題意識を共有しながら授業を進める。

- 第 1 部 簿記の基礎概念を理解する（第 2-7 回）
- 第 2 部 記録と要約の方法を理解する（第 8-13 回）、以上「簿記入門Ⅰ」
- 第 3 部 簿記検定試験の対策（第 16-21 回）
- 第 4 部 簿記検定試験から会計学への発展（第 22-27 回）、以上「簿記入門Ⅱ」

※簿記入門Ⅱの履修にあたり、簿記入門Ⅰが履修済みであることを推奨するが、必須条件ではない。

本授業では単に簿記処理の技術を説明するだけでなく、簿記の歴史、文化的側面、経済発展への貢献などを解説することを通じて、簿記に関する教養的知識の習得を受講生に促す。

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、適宜、質疑応答の機会を設ける。受講生は授業内容について理解できなかった点や関心をもった点などを質問票に記述し（任意）、その質問票の内容を教員が整理・体系化し、それに公開回答するかたちをとる。公開された質問者には成績評価の際に加点する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	日商簿記検定の概要、学習方法、検定取得の意義等について説明する。
第 2 回	日商簿記検定 3 級 第 1 問の対策	取引の仕訳問題の対策。問題文から取引の様子を具体的にイメージし、指定された勘定科目を用いて仕訳を行う。
第 3 回	日商簿記検定 3 級 第 2 問の対策	勘定口座の作成や、商品有高帳をはじめとする補助簿の作成などの問題を扱う。
第 4 回	日商簿記検定 3 級 第 3 問の対策	残高試算表、合計試算表、または合計残高試算表を作成する問題を扱う。
第 5 回	日商簿記検定 3 級 第 4 問の対策	伝票について、示された伝票から仕訳を行う問題、または示された取引から伝票を作成する問題を扱う。

第 6 回	日商簿記検定 3 級 第 5 問の対策	精算表について、試算表が与えられて、それに決算整理事項を反映させて、精算表を作成させる問題、または与えられた精算表から試算表を推論させる問題を扱う。
第 7 回	日商簿記検定 3 級 総合模擬試験	日商簿記検定 3 級の第 1 問から第 5 問を通して、本番と同じ要領で解答することで、理解度を確かめる。
第 8 回	第 1 問の復習と「費用収益対応の原則」	第 1 問の問題を題材に、会計学の中心テーマの 1 つである「費用収益対応の原則」について理解・考察する。
第 9 回	第 2 問の復習と「資産の会計」	第 2 問の問題を題材に、会計学の中心テーマの 1 つである「資産とは何か」について理解・考察する。
第 10 回	第 3 問の復習と「収益の会計」	第 3 問の問題を題材に、会計学の中心テーマの 1 つである収益の認識について理解・考察する。
第 11 回	第 4 問の復習と「簿記の歴史」	第 4 問の問題を題材に、簿記の歴史について理解を深める。
第 12 回	第 5 問の復習と「財務諸表分析」	第 5 問で作成する財務諸表を題材に、財務諸表分析の手法を学び、実際に分析を試みる。
第 13 回	総合模擬試験と「会社の価値評価」	総合模擬試験の中で作成する財務諸表を題材に、会社の価値評価の考え方を学び、実際に分析を試みる。
第 14 回	簿記と会計学の専門科目との関係	この授業に続く発展的科目の内容を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の授業で学習した例題の復習と関連する部分の演習問題を解いておくこと。

【テキスト（教科書）】

教員が作成した資料を配信する。

【参考書】

- ・川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社、2021 年。
- ・黒澤清『新講 商業簿記』千倉書房、1947 年。
- ・大下勇二・福多裕志・神谷健司・筒井知彦『簿記講義ノート』白桃書房、1998 年。
- ・中村忠『新編・現代会計学』九訂版、白桃書房、2005 年。
- ・中村忠『簿記の考え方・学び方』六訂版、税務経理協会、2006 年。
- ・新田忠督・佐々木隆他『会計学・簿記入門』第 12 版、白桃書房、2014 年。

【成績評価の方法と基準】

以下の 5 点にもとづいて評価する（括弧内はウエイト）。

- ①動画視聴履歴の状況（10 %）
 - ②対面授業の出席状況（10 %）
 - ③対面授業時の発言状況（10 %）
 - ④各授業回の確認テスト（40 %）
 - ⑤各授業回の質問票への記述状況（30 %）
- 質問票は、各回の授業終了後に受講生は質問や感想を Google Form を通じて提出する。その内容は全受講生に匿名で公表する。その提出状況と記述内容は、授業への参画と貢献に対する評価として、成績に反映する。

【学生の意見等からの気づき】

復習のための課題をより多く課したい。毎回の確認テストと質疑応答により、受講生の理解度を段階的に確かめていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド動画を視聴するための PC。表計算ソフトウェアの Excel があることが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意されたい（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、第 1 回授業の際に説明する。
2. 本授業では、簿記処理の技術のみならず、簿記に関する一般教養的知識（文化・歴史・経済との関わり等）についても解説し、これらについても期末試験において多く出題する。本学の会計専門職講座をはじめ各種資格試験講座を受講している学生もぜひ受講してほしい。

【関連科目】

この科目はすべての会計関係の基礎となる科目であり、経営関係の科目の学習においても重要な科目である。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to get knowledge of fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance in the near future. This lecture includes technique, principle, history, and practice of bookkeeping.

The goals of this class are as follows.

- (1) Understand the contents of basic transactions, and acquire the technology to record and summarize them to prepare financial statements.
- (2) Learn the methods to infer business situations from the prepared financial statements.
- (3) Understand the existence of accounting issues and the concepts necessary to discuss them through the preparation and reading of financial statements.
- (4) Acquire the knowledge to pass the official business skill test in Book-keeping 3rd grade.
- (5) Acquire general liberal arts knowledge about bookkeeping.

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each, including solve the exercises learned in each lecture.

Evaluate based on the following two points (weights in parentheses). (1)

Viewing history status (20%)

(2) Confirmation test each time (40%)

(3) Questionnaire description status (40%)

Students submit questions and impressions through the Google Form after each class. The description will be announced anonymously to all students. The submission status and description will be reflected in the grades as an evaluation of participation and contribution to the class.

MAN100FA

簿記入門 I

神谷 健司

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
 営 1 年 R～U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学びます。簿記のレベルとしては、春季は日商簿記検定 3 級の範囲のうちの基礎的な部分を扱います。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容であると思います。大学で最終的に会計関係を専門としようとする学生はもちろん、それ以外の学生にとってもこの科目は、「会計学入門」と並んでもっとも重要な科目の 1 つです。簿記の 3 級の試験を目指して学習することも 1 つのやり方です。

【到達目標】

簿記入門 I・II の授業内容を理解することによって、日商簿記検定の 3 級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力を身に着けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

対面授業で行うことを予定しています。まず説明を行って、例題等の問題を解いて受講生の皆さんの理解を確認します。毎回の授業終了後、各自、復習を十分に行っておくことが必要です

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第 2 回	簿記の意義と仕組み	簿記の意義、簿記の基礎、貸借対照表、損益計算書、貸借対照表と損益計算書の関係
第 3 回	仕訳と転記（1）	勘定、取引の意義と種類、取引 8 要素と結合関係、
第 4 回	仕訳と転記（2）	仕訳と転記
第 5 回	仕訳帳と元帳	帳簿の種類、仕訳帳から元帳への転記
第 6 回	今までの範囲の問題演習	仕訳と転記の部分を中心とした演習を行う
第 7 回	決算（1）	決算の意義と手続、試算表の作成
第 8 回	決算（2）	帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表
第 9 回	現金と預金（1）	現金、現金化不足の会計処理
第 10 回	現金と預金（2）	当座預金と当座借越、小口現金
第 11 回	繰越商品・仕入・売上（1）	3 分法、諸掛と返品
第 12 回	繰越商品・仕入・売上（2）	仕入帳と売上帳、商品有高長
第 13 回	売掛金と買掛金（1）	売掛金と買掛金、元帳、明細表
第 14 回	売掛金と買掛金（2）と春学期の総括	クレジット売掛金、前払金、前受金と春学期でやった内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連するワークブックの問題を解くことが必要です。3 級レベルではそれだけの繰り返しで十分マスターできます。

【テキスト（教科書）】

渡辺裕豆、片山覚、北村敬子編『検定簿記講義 3 級（最新版）』中央経済社

【参考書】

渡辺裕豆、片山覚、北村敬子編『検定簿記ワークブック 3 級（最新版）』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト（30 点）と定期試験（70 点）の合計で最終的な評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

問題演習の時間をもう少し多くして欲しいという要望があった。100 分授業であるので、説明した後には毎回練習問題を解く時間を設けたい。

【学生が準備すべき機器他】

対面で授業を行う予定であるので、特にありません。

【その他の重要事項】

この科目は、経営学部の 1 年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に付けて欲しい内容です。また 2 年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」、「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2 年次、3 年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. Grading will be decided based on mid-term examination(30%), and term-end examination(70%).

term

30

MAN100FA

簿記入門Ⅱ

神谷 健司

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
 営 1 年 R～U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日商簿記検定試験 3 級の範囲の後半部分の各勘定科目各論と、決算、財務諸表の作成を中心とした部分を学習します。この授業までの部分が理解できるようになれば、簿記の基礎がマスターでき、3 級の検定試験の問題もできるようになります。

【到達目標】

この授業の内容が理解できれば、簿記会計の基本的事項全体が理解できるようになり、3 級の検定試験にも合格できる力が身につきます。また 2 年次以降の会計分野の学習をするための基礎も身に着けることもできます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

各回、重要項目を説明したのち、例題を解き、受講生の理解を確かめながら進めていきたいと思えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	その他の債権債務	売掛金と買掛金以外の債権債務を学習する
第 2 回	受取手形と支払手形	手形の種類としくみについて学習する
第 3 回	有形固定資産と減価償却	有形固定資産の購入時、決算時、売却時の会計処理を学習する
第 4 回	貸倒損失と貸倒引当金	貸倒の意義、貸倒損失、貸倒引当金の計上を学習する
第 5 回	資本	株式会社の設立と株式の発行、繰越利益剰余金の計上、配当の決議と支払に関する会計処理を学習する
第 6 回	収益と費用	収益・費用の意義、経過勘定項目、消耗品費と貯蔵品の会計処理を学習する
第 7 回	税金	利益額に基づいて貸される税金と利益以外の金額に基づいて貸される税金の会計処理を学ぶ
第 8 回	伝票	伝票を利用して取引の内容を記入する方法を学習する
第 9 回	財務諸表（1）	決算と手続、試算表の作成、精算表の作成について学習する
第 10 回	財務諸表（2）	精算表の作成について学習する
第 11 回	財務諸表（3）	財務諸表の作成について学習する
第 12 回	問題演習	秋学期に学習した内容と 3 級の検定試験に出題された内容について問題演習を行う
第 13 回	基本的な財務諸表を読む	実際の企業の財務諸表を読んで、そこから何が理解できるかを学習する
第 14 回	秋学期の総括と問題演習	秋学期に学習した内容の総復習とその中の重要問題についての演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ今回の授業では何をやるのかを確認しておき、講義を聞いた後は重要事項の確認をしたのち、ワークブックの基本的な問題を解きなおすことが効率的にマスターするやり方である。1 時間の講義を聞いた後、同じ時間で問題を解くことの繰り返しで、3 級はマスターできます。

【テキスト（教科書）】

渡辺裕巨、片山覚、北村敬子編著『検定簿記講義 3 級（最新版）』中央経済社

【参考書】

渡辺裕巨、片山覚、北村敬子編著『検定簿記ワークブック 3 級（最新版）』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

授業中に行われる 3 回の小テスト（30 点）と定期試験（70 点）の合計で最終的な評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

問題演習の時間をもう少し多くして欲しいという要望があった。100 分授業であるので、説明した後に毎回練習問題を解く時間を設けたい。

【学生が準備すべき機器他】

この科目は、経営学部の 1 年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に付けて欲しい内容です。また 2 年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」、「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2 年次、3 年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【その他の重要事項】

授業においてわからない点があれば、その都度質問して確認して欲しい。また授業終了後の各自の講義内容の復習と、関連するワークブックの問題を解くことは、3 級の内容を理解する上で最も効率的な学習のやり方です

【関連科目】

この授業は、2 年次以降の会計関連科目を学習する際の小曾となる科目である。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transaction. The objective of This class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. Grading will be decided based on mid-term examination(30%), and term-end examination(70%).

MAN100FA

簿記入門 I

神谷 健司

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
 営 1 年 A～E

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学びます。簿記のレベルとしては、春季は日商簿記検定 3 級の範囲のうちの基礎的な部分を扱います。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容であると思います。大学で最終的に会計関係を専門としようとする学生はもちろん、それ以外の学生にとってもこの科目は、「会計学入門」と並んでもっとも重要な科目の 1 つです。簿記の 3 級の試験を目指して学習することも 1 つのやり方です。

【到達目標】

簿記入門 I・II の授業内容を理解することによって、日商簿記検定の 3 級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力を身に着けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

対面授業で行うことを予定しています。まず説明を行って、例題等の問題を解いて受講生の皆さんの理解を確認します。毎回の授業終了後、各自、復習を十分に行っておくことが必要です

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第 2 回	簿記の意義と仕組み	簿記の意義、簿記の基礎、貸借対照表、損益計算書、貸借対照表と損益計算書の関係
第 3 回	仕訳と転記（1）	勘定、取引の意義と種類、取引 8 要素と結合関係、
第 4 回	仕訳と転記（2）	仕訳と転記
第 5 回	仕訳帳と元帳	帳簿の種類、仕訳帳から元帳への転記
第 6 回	今までの範囲の問題演習	仕訳と転記の部分を中心とした演習を行う
第 7 回	決算（1）	決算の意義と手続、試算表の作成
第 8 回	決算（2）	帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表
第 9 回	現金と預金（1）	現金、現金化不足の会計処理
第 10 回	現金と預金（2）	当座預金と当座借越、小口現金
第 11 回	繰越商品・仕入・売上（1）	3 分法、諸掛と返品
第 12 回	繰越商品・仕入・売上（2）	仕入帳と売上帳、商品有高長
第 13 回	売掛金と買掛金（1）	売掛金と買掛金、元帳、明細表
第 14 回	売掛金と買掛金（2）と春学期の総括	クレジット売掛金、前払金、前受金と春学期でやった内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連するワークブックの問題を解くことが必要です。3 級レベルではそれだけの繰り返しで十分マスターできます。

【テキスト（教科書）】

渡辺裕豆、片山覚、北村敬子編『検定簿記講義 3 級（最新版）』中央経済社

【参考書】

渡辺裕豆、片山覚、北村敬子編『検定簿記ワークブック 3 級（最新版）』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト（30 点）と定期試験（70 点）の合計で最終的な評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

問題演習の時間をもう少し多くして欲しいという要望があった。100 分授業であるので、説明した後には毎回練習問題を解く時間を設けたい。

【学生が準備すべき機器他】

対面で授業を行う予定であるので、特にありません。

【その他の重要事項】

この科目は、経営学部の 1 年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に付けて欲しい内容です。また 2 年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」、「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2 年次、3 年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. Grading will be decided based on mid-term examination(30%), and term-end examination(70%).

term

30

MAN100FA

簿記入門Ⅱ

神谷 健司

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
 営 1 年 A～E

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日商簿記検定試験 3 級の範囲の後半部分の各動定科目各論と、決算、財務諸表の作成を中心とした部分を学習します。この授業までの部分が理解できるようになれば、簿記の基礎がマスターでき、3 級の検定試験の問題もできるようになります。

【到達目標】

この授業の内容が理解できれば、簿記会計の基本的事項全体が理解できるようになり、3 級の検定試験にも合格できる力が身につきます。また 2 年次以降の会計分野の学習をするための基礎も身に付けることもできます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

各回、重要項目を説明したのち、例題を解き、受講生の理解を確かめながら進めていきたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	その他の債権債務	売掛金と買掛金以外の債権債務を学習する
第 2 回	受取手形と支払手形	手形の種類としくみについて学習する
第 3 回	有形固定資産と減価償却	有形固定資産の購入時、決算時、売却時の会計処理を学習する
第 4 回	貸倒損失と貸倒引当金	貸倒の意義、貸倒損失、貸倒引当金の計上を学習する
第 5 回	資本	株式会社の設立と株式の発行、繰越利益剰余金の計上、配当の決議と支払に関する会計処理を学習する
第 6 回	収益と費用	収益・費用の意義、経過勘定項目、消耗品費と貯蔵品の会計処理を学習する
第 7 回	税金	利益額に基づいて貸される税金と利益以外の金額に基づいて貸される税金の会計処理を学ぶ
第 8 回	伝票	伝票を利用して取引の内容を記入する方法を学習する
第 9 回	財務諸表（1）	決算と手続、試算表の作成、精算表の作成について学習する
第 10 回	財務諸表（2）	精算表の作成について学習する
第 11 回	財務諸表（3）	財務諸表の作成について学習する
第 12 回	問題演習	秋学期に学習した内容と 3 級の検定試験に出題された内容について問題演習を行う
第 13 回	基本的な財務諸表を読む	実際の企業の財務諸表を読んで、そこから何が理解できるかを学習する
第 14 回	秋学期の総括と問題演習	秋学期に学習した内容の総復習とその中の重要問題についての演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ今回の授業では何をやるのかを確認しておき、講義を聞いた後は重要事項の確認をしたのち、ワークブックの基本的な問題を解きなすことが効率的にマスターするやり方である。1 時間の講義を聞いた後、同じ時間で問題を解くことの繰り返しで、3 級はマスターできます。

【テキスト（教科書）】

渡辺裕巨、片山覚、北村敬子編著『検定簿記講義 3 級』中央経済社、最新版

【参考書】

渡辺裕巨、片山覚、北村敬子編著『検定簿記ワークブック 3 級』中央経済社、最新版

【成績評価の方法と基準】

授業中に行われる 3 回の小テスト（30 点）と定期試験（70 点）の合計で最終的な評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

問題演習の時間をもう少し多くして欲しいという要望があった。100 分授業であるので、説明した後に毎回練習問題を解く時間を設けたい。

【学生が準備すべき機器他】

問題演習の時間をもう少し多くして欲しいという要望があった。100 分授業であるので、説明した後に毎回練習問題を解く時間を設けたい。

【その他の重要事項】

授業においてわからない点があれば、その都度質問して確認して欲しい。また授業終了後の各自の講義内容の復習と、関連するワークブックの問題を解くことは、3 級の内容を理解する上で最も効率的な学習のやり方です

【関連科目】

この授業は、2 年次以降の会計関連科目を学習する際の小曾となる科目である。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transaction. The objective of This class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. Grading will be decided based on mid-term examination(30%), and term-end examination(70%).

PRI100FA

情報学入門 I (表計算) (2019 年度以降入学者)

根岸 良征

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windows の基本操作を学習する。
第 2 回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第 3 回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第 4 回	インターネット検索	各種の Web サイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第 5 回	文書の入力	日本語ワープロソフト (Microsoft Word) での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第 6 回	文書編集の基本操作	Word による基本的な文書編集操作を学習する。
第 7 回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第 8 回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第 9 回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第 10 回	表計算の基礎知識	表計算ソフト (Microsoft Excel) を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第 11 回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第 12 回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第 13 回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第 14 回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習 (60%) を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します (テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PR1100FA

情報学入門Ⅱ（表計算）（2019年度以降入学者）

根岸 良征

専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム（Hoppii）で提示することがあります。課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を学ぶ。
第 2 回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第 3 回	ワークシート編集の基礎	Excel での複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第 4 回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第 5 回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第 6 回	応用的な関数の利用	if 関数や lookup 関数を利用した集計処理を学習する。
第 7 回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第 8 回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第 9 回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第 10 回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど）の作成について学ぶ。
第 11 回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第 12 回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第 13 回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第 14 回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度（20%）、定期的な課題提出（20%）を考慮して評価します（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります）。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報学入門 I (表計算) (2019 年度以降入学者)

上野 京子

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windows の基本操作を学習する。
第 2 回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第 3 回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第 4 回	インターネット検索	各種の Web サイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第 5 回	文書の入力	日本語ワープロソフト (Microsoft Word) での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第 6 回	文書編集の基本操作	Word による基本的な文書編集操作を学習する。
第 7 回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第 8 回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第 9 回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第 10 回	表計算の基礎知識	表計算ソフト (Microsoft Excel) を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第 11 回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第 12 回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第 13 回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第 14 回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習 (60%) を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します (テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PR1100FA

情報学入門Ⅱ（表計算）（2019年度以降入学者）

上野 京子

専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム（Hoppii）で提示することがあります。課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を学ぶ。
第 2 回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成方法を学習する。
第 3 回	ワークシート編集の基礎	Excel での複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第 4 回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第 5 回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第 6 回	応用的な関数の利用	if 関数や lookup 関数を利用した集計処理を学習する。
第 7 回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第 8 回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第 9 回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第 10 回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど）の作成について学ぶ。
第 11 回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第 12 回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第 13 回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第 14 回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度（20%）、定期的な課題提出（20%）を考慮して評価します（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります）。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報学入門 I (表計算) (2019 年度以降入学者)

上野 京子

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windows の基本操作を学習する。
第 2 回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第 3 回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第 4 回	インターネット検索	各種の Web サイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第 5 回	文書の入力	日本語ワープロソフト (Microsoft Word) での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第 6 回	文書編集の基本操作	Word による基本的な文書編集操作を学習する。
第 7 回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第 8 回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第 9 回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第 10 回	表計算の基礎知識	表計算ソフト (Microsoft Excel) を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第 11 回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第 12 回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第 13 回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第 14 回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習 (60%) を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します (テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PR1100FA

情報学入門Ⅱ（表計算）（2019年度以降入学者）

上野 京子

専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム（Hoppii）で提示することがあります。課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を学ぶ。
第 2 回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第 3 回	ワークシート編集の基礎	Excel での複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第 4 回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第 5 回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第 6 回	応用的な関数の利用	if 関数や lookup 関数を利用した集計処理を学習する。
第 7 回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第 8 回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第 9 回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第 10 回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど）の作成について学ぶ。
第 11 回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第 12 回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第 13 回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第 14 回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度（20%）、定期的な課題提出（20%）を考慮して評価します（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります）。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

根岸 良征

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

根岸 良征

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

三宅 修平

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

三宅 修平

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

飯塚 康至

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

飯塚 康至

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

三宅 修平

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

三宅 修平

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

島田 由美子

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース] ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

島田 由美子

専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

高田 美樹

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

高田 美樹

専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

高田 美樹

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

高田 美樹

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

高田 美樹

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

高田 美樹

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

三宅 修平

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

三宅 修平

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

島田 由美子

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース] ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

島田 由美子

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

島田 由美子

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

島田 由美子

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

根岸 良征

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

根岸 良征

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

根岸 良征

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

根岸 良征

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

児玉 靖司

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

児玉 靖司

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

島田 由美子

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

島田 由美子

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

島田 由美子

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

島田 由美子

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中 元一郎

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム（hoppii）を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中 元一郎

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

高田 美樹

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

高田 美樹

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

高田 美樹

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

高田 美樹

専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

田中 元一郎

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中 元一郎

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

木村 昌史

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

木村 昌史

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

田中 元一郎

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中 元一郎

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データ演習) (2019 年度以降入学者)

田中 元一郎

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中 元一郎

専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門 I (データベース) (2019 年度以降入学者)

渡辺 英人

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word, Excel, PowerPoint, そして Access などの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会で活躍するようになってからも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人になるための基礎力が身につく！ 在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータ:ハードウェアとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。初心者や苦手意識のある人ほど参加して欲しい。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

在学中のみならず、社会に出てからも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターとは何か (ハードウェアとソフトウェア)	情報処理の基礎
第 2 回	キーボード入力練習	情報処理の基礎
第 3 回	機器の取扱いと Windows の操作法	情報処理の基礎
第 4 回	電子メールやソーシャルメディアの利用	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。
第 5 回	インターネットと大学生の研究・学習	インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
第 6 回	ワープロ操作 (Word による文章入力の練習)	情報処理の基礎。文書作成法。
第 7 回	ワープロ操作 (Word による文章入力の練習)	プレゼンテーション用資料作成の方法。
第 8 回	インターネットと Word を使った課題作成	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
第 9 回	Excel の操作法 (基本操作)	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
第 10 回	Excel の操作法 (計算機能と関数)	表計算ソフトの計算機能について解説。
第 11 回	Excel の操作法 (表作成)	表計算ソフトの表作成機能について解説。
第 12 回	Excel の操作法 (グラフの作成)	表計算ソフトのグラフ作成機能について解説。
第 13 回	Excel とインターネットを使ってデータ収集、再利用方法 (Excel データベース入門)	インターネット上から、統計資料、データをダウンロードして、効率よく処理蓄積し、再利用する方法を解説。
第 14 回	Excel とプレゼンテーション (データベースと資料作成)	プレゼンテーションに効果的な Excel 資料の作成方法について解説。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に指定する。USB フラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期に試験 (課題作成：50%) を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況 (平常点：50%) を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】

データ保存用に USB フラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】

実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！ 大切なことは「意欲がある」ことだけ！ 「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【関連科目】

大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

It is an introductory information and technology science course for university students. Using leading software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access to learn social sciences, humanities, etc., everyone at university knows the useful knowledge and technology even after becoming active in society, I will explain it easily and surely master it. How to find useful information from the literature and the Internet, searching, collecting, efficient sorting, effective use and practical content. I will acquire the fundamental power as a college student, the basic ability to become a society person! It will definitely help not only during your studies, but also for the future!

All students will learn how to deepen their research and learning by efficiently using information equipment, especially personal computers: hardware and software, to solve various problems in "social science" and "humanities" studied at university. The goal is to be able to understand and apply it accurately. I want beginners and people who are not good at it to participate. Let's acquire "useful" skills not only while in college but also after going out to society!

If necessary, we will distribute materials that describe the content of the lesson in advance, so please do not only review but also prepare for the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Exams (assignment creation: 50%) will be held in the spring and fall semesters. We will evaluate each person's level of understanding and participation in the class (normal score: 50%).

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）

渡辺 英人

専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word, Excel, PowerPoint, そして Access などの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会で活躍するようになってからも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人になるための基礎力が身につく！ 在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータ:ハードウェアとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、活用できるようになることが目標です。初心者や苦手意識のある人ほど参加して欲しい。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

在学中のみならず、社会に出てからも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターとは何か（ハードウェアとソフトウェア）Ⅱ	情報処理の基礎
第 2 回	キーボード入力練習Ⅱ	情報処理の基礎
第 3 回	機器の取扱いと Windows の操作Ⅱ	情報処理の基礎
第 4 回	電子メールやソーシャルメディアの利用。とくに情報利用の倫理と法的問題を学ぶ。	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーや法的問題など解説する。
第 5 回	インターネットと大学生の研究・学習。データベースについて考える。	インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
第 6 回	Excel の基本操作と応用Ⅱ	Excel 情報処理の基礎。表やグラフ作成法。
第 7 回	Excel を使ってデータベースを作る。	Excel によるデータベースを学習や研究に活用する方法。
第 8 回	Excel とインターネットを使った課題作成。	インターネットを利用した情報検索、収集と Excel を使って情報分析課題作成。
第 9 回	Excel とインターネットを使って、オープンソース・データ分析の方法解説。	表計算ソフト Excel を使って、公開情報（オープンソース）データの収集、入力、読み込み、保存、分析。
第 10 回	Access の基本と操作法、とくに Excel との違いや使い分けについて	データベースソフト Access と表計算ソフト Excel の比較や相互利用・活用について解説。
第 11 回	Access とインターネットを使って、オープンソース・データ分析の方法解説。	データベースソフト Access を使って、公開情報（オープンソース）データの収集、蓄積、再利用、活用法の解説。
第 12 回	Access を使って、インターネット上の情報をデータベース化する。	データベースソフト Access を使い、自分でデータベースの設計、情報収集、蓄積、再利用を実践する。
第 13 回	Access および Excel とインターネットを使ってデータ収集、再利用方法。課題作成。	インターネット上から、統計資料、データをダウンロードして、効率よく処理蓄積し、再利用する方法を解説。課題作成。

第 14 回 大学生にとって必要な情報学習や研究に、そして社会人基礎力と情報収集、蓄積、分析手法としての情報処理と応用について考える。について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定する。USB フラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期に試験（課題作成：50%）を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況（平常点：50%）を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】

データ保存用に USB フラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】

実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【関連科目】

大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

It is an introductory information and technology science course for university students. Using leading software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access to learn social sciences, humanities, etc., everyone at university knows the useful knowledge and technology even after becoming active in society, I will explain it easily and surely master it. How to find useful information from the literature and the Internet, searching, collecting, efficient sorting, effective use and practical content. I will acquire the fundamental power as a college student, the basic ability to become a society person! It will definitely help not only during your studies, but also for the future!

All students will learn how to deepen their research and learning by efficiently using information equipment, especially personal computers: hardware and software, to solve various problems in "social science" and "humanities" studied at university. The goal is to be able to understand and apply it accurately. I want beginners and people who are not good at it to participate. Let's acquire "useful" skills not only while in college but also after going out to society!

If necessary, we will distribute materials that describe the content of the lesson in advance, so please do not only review but also prepare for the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Exams (assignment creation: 50%) will be held in the spring and fall semesters. We will evaluate each person's level of understanding and participation in the class (normal score: 50%).

PRI100FA

情報学入門 I (データベース) (2019 年度以降入学者)

渡辺 英人

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word, Excel, PowerPoint, そして Access などの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会で活躍するようになってからも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人になるための基礎力が身につく！ 在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータ:ハードウェアとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。初心者や苦手意識のある人ほど参加して欲しい。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

在学中のみならず、社会に出てからも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターとは何か (ハードウェアとソフトウェア)	情報処理の基礎
第 2 回	キーボード入力練習	情報処理の基礎
第 3 回	機器の取扱いと Windows の操作法	情報処理の基礎
第 4 回	電子メールやソーシャルメディアの利用	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。
第 5 回	インターネットと大学生の研究・学習	インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
第 6 回	ワープロ操作 (Word による文章入力の練習)	情報処理の基礎。文書作成法。
第 7 回	ワープロ操作 (Word による文章入力の練習)	プレゼンテーション用資料作成の方法。
第 8 回	インターネットと Word を使った課題作成	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
第 9 回	Excel の操作法 (基本操作)	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
第 10 回	Excel の操作法 (計算機能と関数)	表計算ソフトの計算機能について解説。
第 11 回	Excel の操作法 (表作成)	表計算ソフトの表作成機能について解説。
第 12 回	Excel の操作法 (グラフの作成)	表計算ソフトのグラフ作成機能について解説。
第 13 回	Excel とインターネットを使ってデータ収集、再利用方法 (Excel データベース入門)	インターネット上から、統計資料、データをダウンロードして、効率よく処理蓄積し、再利用する方法を解説。
第 14 回	Excel とプレゼンテーション (データベースと資料作成)	プレゼンテーションに効果的な Excel 資料の作成方法について解説。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に指定する。USB フラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期に試験 (課題作成：50%) を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況 (平常点：50%) を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】

データ保存用に USB フラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】

実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！ 大切なことは「意欲がある」ことだけ！ 「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【関連科目】

大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

It is an introductory information and technology science course for university students. Using leading software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access to learn social sciences, humanities, etc., everyone at university knows the useful knowledge and technology even after becoming active in society, I will explain it easily and surely master it. How to find useful information from the literature and the Internet, searching, collecting, efficient sorting, effective use and practical content. I will acquire the fundamental power as a college student, the basic ability to become a society person! It will definitely help not only during your studies, but also for the future!

All students will learn how to deepen their research and learning by efficiently using information equipment, especially personal computers: hardware and software, to solve various problems in "social science" and "humanities" studied at university. The goal is to be able to understand and apply it accurately. I want beginners and people who are not good at it to participate. Let's acquire "useful" skills not only while in college but also after going out to society!

If necessary, we will distribute materials that describe the content of the lesson in advance, so please do not only review but also prepare for the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Exams (assignment creation: 50%) will be held in the spring and fall semesters. We will evaluate each person's level of understanding and participation in the class (normal score: 50%).

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）

渡辺 英人

専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word, Excel, PowerPoint, そして Access などの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会で活躍するようになってからも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人になるための基礎力が身につく！ 在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータ:ハードウェアとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、活用できるようになることが目標です。初心者や苦手意識のある人ほど参加して欲しい。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

在学中のみならず、社会に出てからも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターとは何か（ハードウェアとソフトウェア）Ⅱ	情報処理の基礎
第 2 回	キーボード入力練習Ⅱ	情報処理の基礎
第 3 回	機器の取扱いと Windows の操作Ⅱ	情報処理の基礎
第 4 回	電子メールやソーシャルメディアの利用。とくに情報利用の倫理と法的問題を学ぶ。	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーや法的問題など解説する。
第 5 回	インターネットと大学生の研究・学習。データベースについて考える。	インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
第 6 回	Excel の基本操作と応用Ⅱ	Excel 情報処理の基礎。表やグラフ作成法。
第 7 回	Excel を使ってデータベースを作る。	Excel によるデータベースを学習や研究に活用する方法。
第 8 回	Excel とインターネットを使った課題作成。	インターネットを利用した情報検索、収集と Excel を使って情報分析課題作成。
第 9 回	Excel とインターネットを使って、オープンソース・データ分析の方法解説。	表計算ソフト Excel を使って、公開情報（オープンソース）データの収集、入力、読み込み、保存、分析。
第 10 回	Access の基本と操作法、とくに Excel との違いや使い分けについて	データベースソフト Access と表計算ソフト Excel の比較や相互利用・活用について解説。
第 11 回	Access とインターネットを使って、オープンソース・データ分析の方法解説。	データベースソフト Access を使って、公開情報（オープンソース）データの収集、蓄積、再利用、活用法の解説。
第 12 回	Access を使って、インターネット上の情報をデータベース化する。	データベースソフト Access を使い、自分でデータベースの設計、情報収集、蓄積、再利用を実践する。
第 13 回	Access および Excel とインターネットを使ってデータ収集、再利用方法。課題作成。	インターネット上から、統計資料、データをダウンロードして、効率よく処理蓄積し、再利用する方法を解説。課題作成。

第 14 回 大学生にとって必要な情報学習や研究に、そして社会人基礎力と情報収集、蓄積、分析手法としての情報処理と応用について考える。について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定する。USB フラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期に試験（課題作成：50%）を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況（平常点：50%）を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】

データ保存用に USB フラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】

実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【関連科目】

大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

It is an introductory information and technology science course for university students. Using leading software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access to learn social sciences, humanities, etc., everyone at university knows the useful knowledge and technology even after becoming active in society, I will explain it easily and surely master it. How to find useful information from the literature and the Internet, searching, collecting, efficient sorting, effective use and practical content. I will acquire the fundamental power as a college student, the basic ability to become a society person! It will definitely help not only during your studies, but also for the future!

All students will learn how to deepen their research and learning by efficiently using information equipment, especially personal computers: hardware and software, to solve various problems in "social science" and "humanities" studied at university. The goal is to be able to understand and apply it accurately. I want beginners and people who are not good at it to participate. Let's acquire "useful" skills not only while in college but also after going out to society!

If necessary, we will distribute materials that describe the content of the lesson in advance, so please do not only review but also prepare for the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Exams (assignment creation: 50%) will be held in the spring and fall semesters. We will evaluate each person's level of understanding and participation in the class (normal score: 50%).

PRI100FA

情報学入門 I (データベース) (2019 年度以降入学者)

木村 昌史

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎としてまず PC を用いた文書の作成、プレゼンテーション、表計算、ネットワーク利用による情報収集する方法を学ぶ。データベースコースでは特に Excel と Access を基礎としたデータ処理法とデータベースや他ソフトウェアとの連携の方法を学び、現代のネットワークで重要になっているデータベースの基礎を理解する。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのデータ処理の基礎を理解することを目標とする。さらにデータベースの基礎と活用法を学び、実務に必要な問題解決の事例を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの利用、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションの方法等を学習する。以上と PC のキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データベースコース」では標準的なソフトウェアである Excel と連携しながら Access や Web によるデータベースの基礎などを学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的なデータの例題を取り上げ、独自のデータ処理のために PC を活用できるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに小さい課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

原則として対面授業で行う予定だが、情勢によってはオンライン授業になる場合もある。その場合には学習支援システム (Hoppii) 等で提示するので参照のこと。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力と練習とブライントタッチについて学ぶ。
第 3 回	Microsoft Word の基本操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	Microsoft PowerPoint の基本操作	PowerPoint の基本的な使い方、プレゼンテーションについて学ぶ。
第 5 回	Google Workspace の利用法	電子メールの書き方、クラウドサービスの活用について学ぶ。
第 6 回	Microsoft Excel の基本操作	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	Excel による基本集計	表計算による基本集計、関数の利用について学ぶ。
第 8 回	Excel によるデータ処理	表計算の応用として簡単なデータ処理について学ぶ。
第 9 回	Excel によるクロス集計	表計算の応用としてピボットテーブルによるクロス集計について学ぶ。
第 10 回	Excel によるデータ分析 (1)	2 種類のデータについての分析方法について学ぶ。 また Excel マクロについて学ぶ。
第 11 回	Excel によるデータ分析 (2)	2 種類以上のデータについての分析方法について学ぶ。また Excel マクロの応用について学ぶ。
第 12 回	Excel によるデータベース的処理 (1)	データベース関数の役割と利用法について学ぶ。
第 13 回	Excel によるデータベース的処理 (2)	外部データとの交換を含む処理方法について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめと総合レポートの作成を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

PC の基本操作、各種ソフトウェアやクラウドサービスについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。
各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】

Access 2019 基礎 セミナーテキスト (2019)

発行：日経 BP

【成績評価の方法と基準】

春学期に 1 回のテスト (または総合レポートの提出) 40 % と各回授業の課題提出 60 % により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度に課題の進捗状況の確認を行い、受講者の理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。
法政大学からライセンス利用できる Office 365 ProPlus を自宅 PC などに導入することも推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータ処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。
また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

This course introduces Infomatics to students taking this course.

As an introduction to Informatics we first learn documentation, presentation and spreadsheet using a PC and methods of information collection using network. Next in this course we learn data processing and ways of connections to database and other softwares, especially using Excel's operations.

The goal of this course are to understand basic concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）

木村 昌史

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎としてまず PC を用いた文書の作成、プレゼンテーション、表計算、ネットワーク利用による情報収集する方法を学ぶ。データベースコースでは特に Excel と Access を基礎としたデータ処理法とデータベースや他ソフトウェアとの連携の方法を学び、現代のネットワークで重要になっているデータベースの基礎を理解する。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのデータ処理の基礎を理解することを目標とする。さらにデータベースの基礎と活用法を学び、実務に必要な問題解決の事例を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの利用、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションの方法等を学習する。以上と PC のキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データベースコース」では標準的なソフトウェアである Excel と連携しながら Access や Web によるデータベースの基礎などを学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的なデータの例題を取り上げ、独自のデータ処理のために PC を活用できるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに小さい課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

原則として対面授業で行う予定だが、情勢によってはオンライン授業になる場合もある。その場合には学習支援システム（Hoppii）等で提示するので参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	データベースの基本	ネットワークにおいて重要なデータベースの考え方について学ぶ。
第 2 回	データの収集	ネットワーク上の公開データの活用方法について学ぶ。
第 3 回	Excel とデータベースの関係	Office の中の Excel と Access などの役割の違いについて学ぶ。
第 4 回	Excel データのエクスポート	Excel を中心としたデータ交換について学ぶ。
第 5 回	Access の基本 (1)	データベースの例として Access の基本操作について学ぶ。
第 6 回	Access の基本 (2)	Access による基本的検索方法について学ぶ。
第 7 回	クエリの利用 (1)	データベースにおけるクエリの役割について学ぶ。
第 8 回	クエリの利用 (2)	データベースにおけるクエリの種類と利用について学ぶ。
第 9 回	SQLite データベースの利用 (1)	処理の自動化のための Excel マクロの役割について学ぶ。
第 10 回	SQLite データベースの利用 (2)	Excel マクロによるデータ処理について学ぶ。
第 11 回	SQL の基本 (1)	データベースの操作における SQL の役割について学ぶ。
第 12 回	SQL の基本 (2)	データベースの操作における SQL の使い方について学ぶ。
第 13 回	Web データとの関係	ネットワーク上のデータベースの処理方法について学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめと総合レポートの作成を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PC の基本操作、各種ソフトウェアやクラウドサービスについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】

Access 2019 応用 セミナーテキスト (2019)

発行：日経 BP

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつのテスト（または総合レポートの提出）40 % と各回授業の課題提出 60 % により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度に課題の進捗状況の確認を行い、受講者の理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。

法政大学からライセンス利用できる Office 365 ProPlus を自宅 PC などに導入することも推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータ処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】

実際に、データベースに関連した業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

This course introduces Informatics to students taking this course.

As an introduction to Informatics we already learned documentation, presentation and spreadsheet using a PC and methods of information collection using network. Continuously in this course we learn data processing and ways of connections to database and other softwares, especially using Excel's and Access' operations.

The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

PRI100FA

情報学入門 I (空間情報処理) (2019 年度以降入学者)

小寺 浩二

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学で、様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。特に応用面では、現在、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易GISソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。
特に、空間情報解析の基礎能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

前半は、総合的な情報リテラシーを重視した内容で、ワープロ・電子メール・インターネット・表計算ソフト・プレゼンテーションを利用した表現法などについて学ぶ。各学部学科や、個人的に興味のあるテーマに沿って総合的な情報リテラシー活用法を身につけた上で、後半では、電子地図・衛星画像・統計情報などを利用して様々なマップ(分布図)を作り、様々な地域環境情報の活用法を習得する。利用するのは、高度なGISソフトではなく、無料で手に入り、誰でも使えるフリーソフトなので、今後の様々なレポート作成などにも活用することができる貴重な能力を身につけることができる。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報リテラシーについて	情報リテラシーについて、学び、調べ、まとめる
第 2 回	コンピュータの構成 (ハードウェア)	コンピュータの構成 (ハードウェア) について、学び、調べ、まとめる
第 3 回	コンピュータの構成 (ソフトウェア)	コンピュータの構成 (ソフトウェア) について、学び、調べ、まとめる
第 4 回	ワープロ入門	Word による文章入力
第 5 回	ワープロ応用	Word による文書体裁など
第 6 回	表計算ソフト入門	Excel の基本操作習熟
第 7 回	表計算ソフト活用	Excel での表・図の作成
第 8 回	表計算ソフト応用	Excel での統計解析
第 9 回	プレゼンテーション入門	PowerPoint の基礎
第 10 回	プレゼンテーション応用	PowerPoint の応用
第 11 回	空間情報解析入門	GIS の基礎 (MANDARA による都道府県別データの図化)
第 12 回	空間情報解析活用	GIS の活用 (MANDARA による市町村別データの図化)
第 13 回	空間情報解析応用	GIS の応用 (MANDARA による町丁目データの図化)
第 14 回	総合実習	個別テーマによる総合実習

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

できる限り本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。

同様に、様々な講義で扱う地域環境情報について、分布図を作成し、時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

前半：第 1 回授業時に指示。「情報リテラシー」に関する教科書。後半：後藤真太郎ほか(2013)：『MANDARA と EXCEL による市民のためのGIS講座(第3版)』,古今書院

【参考書】

・中村和郎ほか(2002)：『地理情報システムを学ぶ』,古今書院
・佐土原 聡ほか(2005)：『図解! Arc GIS 身近な事例で学ぼう』,古今書院
・川崎昭如ほか(2008)：『図解! Arc GIS Part2 GIS 実践に向けてのステップアップ』,古今書院
その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)、課題(30%)、試験(40%)をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、配点を変更することもあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のPCで実習を行う。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目
SIS
GIS

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学
<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

When advancing learning of the various fields at a university, necessary basis of information literacy and application ability are acquired. It's often used by the various learning fields and business categories at present by the application area in particular, and the basis ability of the spatial information analysis using the electronic map it was, how to handle it statistics information with position information, a creating method of a distribution map using those and simple GIS software is learned.

Acquire the basics and applied abilities of information literacy.

In particular, develop the basic ability of spatial information analysis.

In the spring semester, students will learn about word processors, e-mail, the Internet, spreadsheet software, and presentation methods, with an emphasis on comprehensive information literacy. After learning comprehensive literacy utilization methods according to each faculty and department and the theme of personal interest, in the fall semester, various maps using electronic maps, satellite images, statistical information, etc. (Make a distribution map) and learn how to use various regional environmental information. It is not an advanced GIS software, but a free software that can be obtained for free and can be used by anyone, so you can acquire valuable abilities that can be used for creating various reports in the future.

Spring semester: Make efforts to work on various learning and assignment creation by using what you learned in this class as much as possible.

Autumn semester: Similarly, create a distribution map of regional environmental information handled in various lectures and try spatiotemporal analysis. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）

小寺 浩二

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で、様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。特に応用面では、現在、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易GISソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。
特に、空間情報解析の基礎・応用の能力を育成する。
様々な空間情報を入力し、加工し、解析して、図化する総合的な能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

I で学んだ総合的な情報リテラシーを活用し、各学部学科独自のテーマや個人的に興味のあるテーマに沿って、電子地図・衛星画像・統計情報などを利用して様々なマップ（分布図）を作り、様々な地域環境情報の活用法を習得する。利用するのは、高度なGISソフトではなく、無料で手に入り、誰でも使えるフリーソフトなので、今後の様々なレポート作成などにも活用することができる貴重な能力を身につけることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地理情報システム（GIS）について	地理情報システムの基礎を学ぶ
第 2 回	広域の空間情報解析	日本全体のデータをもとに空間解析を学ぶ
第 3 回	都道府県別の空間情報解析	都道府県別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第 4 回	市町村別の空間情報解析	市町村別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第 5 回	町丁目別の空間情報解析	町丁目別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第 6 回	地点データの登録と活用	緯度経度による地点データの登録と活用を学ぶ
第 7 回	バッファリング	バッファリングの基礎と応用について学ぶ
第 8 回	土地利用データ解析の基礎	土地利用データ解析の基礎について学ぶ
第 9 回	土地利用データ解析の活用	複数年の土地利用データの解析と連続表示について学ぶ
第 10 回	土地利用データ解析の応用	複数年の土地利用の変化について解析する方法について学ぶ
第 11 回	総合実習①	個別テーマに沿って、空間情報を収集し、マップを作成する
第 12 回	総合実習②	様々な地域空間情報を用いて図化する
第 13 回	総合実習③	図化された様々な地域空間情報を総合的に解析する
第 14 回	まとめ	総合実習の結果をもとに発表し、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期に学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。

自ら選んだテーマに沿って、様々な地域環境情報を収集し、分布図を作成し、時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第 1 回授業時に指示。

【参考書】

・後藤真太郎ほか（2013）：『MANDARA と EXCEL による市民のためのGIS講座（第3版）』、古今書院
 ・中村和郎ほか（2002）：『地理情報システムを学ぶ』、古今書院
 ・佐土原 聡ほか（2005）：『図解！ Arc GIS 身近な事例で学ぼう』、古今書院
 ・川崎昭如ほか（2008）：『図解！ Arc GIS Part2 GIS 実戦に向けてのステップアップ』、古今書院

その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、課題（30%）、最終成果発表（40%）をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、配点を変更することもあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広く情報リテラシーの応用能力を育成した上で、各専門分野の興味に従った地域空間情報解析の対応ができるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のPCで実習を行う。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

SIS

GIS

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

When advancing learning of the various fields at a university, necessary basis of information literacy and application ability are acquired. It's often used by the various learning fields and business categories at present by the application area in particular, and the basis ability of the spatial information analysis using the electronic map it was, how to handle it statistics information with position information, a creating method of a distribution map using those and simple GIS software is learned.

Acquire the basics and applied abilities of information literacy.

In particular, develop the basic ability of spatial information analysis.

In the spring semester, students will learn about word processors, e-mail, the Internet, spreadsheet software, and presentation methods, with an emphasis on comprehensive information literacy. After learning comprehensive literacy utilization methods according to each faculty and department and the theme of personal interest, in the fall semester, various maps using electronic maps, satellite images, statistical information, etc. (Make a distribution map) and learn how to use various regional environmental information. It is not an advanced GIS software, but a free software that can be obtained for free and can be used by anyone, so you can acquire valuable abilities that can be used for creating various reports in the future.

Spring semester: Make efforts to work on various learning and assignment creation by using what you learned in this class as much as possible.

Autumn semester: Similarly, create a distribution map of regional environmental information handled in various lectures and try spatiotemporal analysis. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Comprehensive evaluation will be made by combining normal points (30%), tasks (30%), and exams (40%). Depending on the progress of the lesson, the points may be changed.

PRI100FA

情報学入門 I (空間情報処理) (2019 年度以降入学者)

小寺 浩二

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学で、様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。特に応用面では、現在、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易GISソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。
特に、空間情報解析の基礎能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

前半は、総合的な情報リテラシーを重視した内容で、ワープロ・電子メール・インターネット・表計算ソフト・プレゼンテーションを利用した表現法などについて学ぶ。各学部学科や、個人的に興味のあるテーマに沿って総合的な情報リテラシー活用法を身につけた上で、後半では、電子地図・衛星画像・統計情報などを利用して様々なマップ(分布図)を作り、様々な地域環境情報の活用法を習得する。利用するのは、高度なGISソフトではなく、無料で手に入り、誰でも使えるフリーソフトなので、今後の様々なレポート作成などにも活用することができる貴重な能力を身につけることができる。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報リテラシーについて	情報リテラシーについて、学び、調べ、まとめる
第 2 回	コンピュータの構成 (ハードウェア)	コンピュータの構成 (ハードウェア) について、学び、調べ、まとめる
第 3 回	コンピュータの構成 (ソフトウェア)	コンピュータの構成 (ソフトウェア) について、学び、調べ、まとめる
第 4 回	ワープロ入門	Word による文章入力
第 5 回	ワープロ応用	Word による文書体裁など
第 6 回	表計算ソフト入門	Excel の基本操作習熟
第 7 回	表計算ソフト活用	Excel での表・図の作成
第 8 回	表計算ソフト応用	Excel での統計解析
第 9 回	プレゼンテーション入門	PowerPoint の基礎
第 10 回	プレゼンテーション応用	PowerPoint の応用
第 11 回	空間情報解析入門	GIS の基礎 (MANDARA による都道府県別データの図化)
第 12 回	空間情報解析活用	GIS の活用 (MANDARA による市町村別データの図化)
第 13 回	空間情報解析応用	GIS の応用 (MANDARA による町丁目データの図化)
第 14 回	総合実習	個別テーマによる総合実習

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

できる限り本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。

同様に、様々な講義で扱う地域環境情報について、分布図を作成し、時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

前半：第 1 回授業時に指示。「情報リテラシー」に関する教科書。後半：後藤真太郎ほか(2013)：『MANDARA と EXCEL による市民のためのGIS講座(第3版)』,古今書院

【参考書】

・中村和郎ほか(2002)：『地理情報システムを学ぶ』,古今書院
・佐土原 聡ほか(2005)：『図解! Arc GIS 身近な事例で学ぼう』,古今書院
・川崎昭如ほか(2008)：『図解! Arc GIS Part2 GIS 実戦に向けてのステップアップ』,古今書院
その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)、課題(30%)、試験(40%)をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、配点を変更することもあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のPCで実習を行う。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

SIS

GIS

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

When advancing learning of the various fields at a university, necessary basis of information literacy and application ability are acquired. It's often used by the various learning fields and business categories at present by the application area in particular, and the basis ability of the spatial information analysis using the electronic map it was, how to handle it statistics information with position information, a creating method of a distribution map using those and simple GIS software is learned.

Acquire the basics and applied abilities of information literacy.

In particular, develop the basic ability of spatial information analysis.

In the spring semester, students will learn about word processors, e-mail, the Internet, spreadsheet software, and presentation methods, with an emphasis on comprehensive information literacy. After learning comprehensive literacy utilization methods according to each faculty and department and the theme of personal interest, in the fall semester, various maps using electronic maps, satellite images, statistical information, etc. (Make a distribution map) and learn how to use various regional environmental information. It is not an advanced GIS software, but a free software that can be obtained for free and can be used by anyone, so you can acquire valuable abilities that can be used for creating various reports in the future.

Spring semester: Make efforts to work on various learning and assignment creation by using what you learned in this class as much as possible.

Autumn semester: Similarly, create a distribution map of regional environmental information handled in various lectures and try spatiotemporal analysis. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）

小寺 浩二

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で、様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。特に応用面では、現在、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易GISソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。
特に、空間情報解析の基礎・応用の能力を育成する。
様々な空間情報を入力し、加工し、解析して、図化する総合的な能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

Iで学んだ総合的な情報リテラシーを活用し、各学部学科独自のテーマや個人的に興味のあるテーマに沿って、電子地図・衛星画像・統計情報などを利用して様々なマップ（分布図）を作り、様々な地域環境情報の活用法を習得する。利用するのは、高度なGISソフトではなく、無料で手に入り、誰でも使えるフリーソフトなので、今後の様々なレポート作成などにも活用することができる貴重な能力を身につけることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理情報システム（GIS）について	地理情報システムの基礎を学ぶ
第2回	広域の空間情報解析	日本全体のデータをもとに空間解析を学ぶ
第3回	都道府県別の空間情報解析	都道府県別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第4回	市町村別の空間情報解析	市町村別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第5回	町丁目別の空間情報解析	町丁目別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第6回	地点データの登録と活用	緯度経度による地点データの登録と活用を学ぶ
第7回	バッファリング	バッファリングの基礎と応用について学ぶ
第8回	土地利用データ解析の基礎	土地利用データ解析の基礎について学ぶ
第9回	土地利用データ解析の活用	複数年の土地利用データの解析と連続表示について学ぶ
第10回	土地利用データ解析の応用	複数年の土地利用の変化について解析する方法について学ぶ
第11回	総合実習①	個別テーマに沿って、空間情報を収集し、マップを作成する
第12回	総合実習②	様々な地域空間情報を用いて図化する
第13回	総合実習③	図化された様々な地域空間情報を総合的に解析する
第14回	まとめ	総合実習の結果をもとに発表し、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期に学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。

自ら選んだテーマに沿って、様々な地域環境情報を収集し、分布図を作成し、時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第1回授業時に指示。

【参考書】

・後藤真太郎ほか（2013）：『MANDARA と EXCEL による市民のためのGIS講座（第3版）』、古今書院
・中村和郎ほか（2002）：『地理情報システムを学ぶ』、古今書院
・佐土原 聡ほか（2005）：『図解！ Arc GIS 身近な事例で学ぼう』、古今書院
・川崎昭如ほか（2008）：『図解！ Arc GIS Part2 GIS 実戦に向けてのステップアップ』、古今書院

その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、課題（30%）、最終成果発表（40%）をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、配点を変更することもあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広く情報リテラシーの応用能力を育成した上で、各専門分野の興味に従った地域空間情報解析の対応ができるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のPCで実習を行う。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

SIS

GIS

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

When advancing learning of the various fields at a university, necessary basis of information literacy and application ability are acquired. It's often used by the various learning fields and business categories at present by the application area in particular, and the basis ability of the spatial information analysis using the electronic map it was, how to handle it statistics information with position information, a creating method of a distribution map using those and simple GIS software is learned.

Acquire the basics and applied abilities of information literacy.

In particular, develop the basic ability of spatial information analysis.

In the spring semester, students will learn about word processors, e-mail, the Internet, spreadsheet software, and presentation methods, with an emphasis on comprehensive information literacy. After learning comprehensive literacy utilization methods according to each faculty and department and the theme of personal interest, in the fall semester, various maps using electronic maps, satellite images, statistical information, etc. (Make a distribution map) and learn how to use various regional environmental information. It is not an advanced GIS software, but a free software that can be obtained for free and can be used by anyone, so you can acquire valuable abilities that can be used for creating various reports in the future.

Spring semester: Make efforts to work on various learning and assignment creation by using what you learned in this class as much as possible.

Autumn semester: Similarly, create a distribution map of regional environmental information handled in various lectures and try spatiotemporal analysis. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Comprehensive evaluation will be made by combining normal points (30%), tasks (30%), and exams (40%). Depending on the progress of the lesson, the points may be changed.

PRI100FA

情報学入門 I (空間情報処理) (2019 年度以降入学者)

永保 敏伸

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学入門<空間情報処理>コース情報科学実習< f コース>

大学において様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する

特に応用面では、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法を習得する。

その際、簡易 GIS ソフト (MANDARA) を用いた空間情報解析の基礎能力を身につけることを目的とした作業を行う

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。

特に基礎部分では Excel を用いた処理技術に重点を置く。応用部分において、身に着けた Excel での処理技術を用いて準備する空間情報解析のデータセットを利用した空間情報解析の基礎能力を獲得することが目標である

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

講義は原則的に実習形式 (講義 → 実習 → まとめ) で行う。必要に応じて学生の成果を発表してもらうこともある

また、提供した情報を基に、各自が問題解決の手段として活用できるよう実習を行う。

講義の進捗は、当該年度に履修登録した学生の習熟度を考慮し決める授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

+++++++
オンライン講義の場合
+++++++

Zoom を用いたリアルタイム授業で行います。

オンライン講義の場合に、受講端末は、スマホではなく、シラバス記載のアプリケーションが操作可能なパソコンをお勧めします。リアルタイムでそれらのアプリケーションの操作しながら講義を進めることが多いです。

講義開始直前の情報は、学習支援システム (hoppii) の授業内掲示板を用いて行います。必ず情報を受け取れるようにしておいてください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコン (Windows) の仕組み	ハードウェアと、ソフトウェアの解説
第 2 回	ビジネスツールとしての電子メール	相手に意図を伝える為のマナーと作法
第 3 回	クラウドコンピューティング	Onedrive や GoogleDrive などを用いたデータの保管方法
第 4 回	ワープロ基礎 (Word online)	基本操作の確認とクラウドサービスの活用を知る
第 5 回	ワープロ応用 (Word)	テンプレートを活用した文章構成の練習
第 6 回	プレゼンテーション① (Impress, Powerpoint online)	講義やゼミで使うプレゼン資料を作成する環境を整える
第 7 回	プレゼンテーション② (Impress, Powerpoint)	基本操作の確認

第 8 回	プレゼンテーション③ (Impress, Powerpoint)	表・図形・写真の投影方法
第 9 回	表計算ソフト① (Excel)	基本操作の確認
第 10 回	表計算ソフト② (Excel)	データに応じた図表の作成方法確認
第 11 回	表計算ソフト③ (Excel)	オートフィルタを用いた数値の処理
第 12 回	表計算ソフト④ (Excel)	関数を用いた基礎的な集計処理
第 13 回	空間情報解析の導入 (MANDARA)	条件式など複雑な関数を用いた処理
第 14 回	総合実習	GIS ソフトを用いた主題図作成
		春学期の習熟度を確認する小テストなどの総合実習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

春学期：
本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する

秋学期：
様々な講義で扱う地域環境情報について分布図を作成し時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

春学期：
授業時に指示。「情報リテラシー」に関する教科書。

秋学期：
谷 謙二 (2018)：『フリー GIS ソフト MANDARA10 入門：かんたん!オリジナル地図を作ろう』、古今書院。

※ 教科書は、学期始めに改めて提示する (変更の可能性あり)

【参考書】

・岡本 敏雄ほか 2017. 『改訂新版 よくわかる情報リテラシー』、技術評論社

・佐土原 聡ほか 2005. 『図解! Arc GIS 身近な事例で学ぼう』、古今書院

・川崎昭如ほか 2008. 『図解! Arc GIS Part2 GIS 実践に向けてのステップアップ』、古今書院

その他、授業の進捗に合わせて適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回該当講義で紹介した実習に関わる小課題を課す。この作業結果をもって平常点 (30%) とする。

2. 主たる講義内容ごとにまとめを主眼とした課題 (30%) を課す

3. 最後に、当該学期を総括する学期末試験 (40%) を行う

上記 1. ~ 3. をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、試験や課題の有無や配分を変更することもあり得る

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、秋学期では、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の PC で実習を行う

【その他の重要事項】

本講義は情報実習室でパソコンを用いた実習を行う

*** 【厳守】 ***

・初回講義時までに、大学のパソコンにログインするための ID とパスワードを取得すること

・受講者多数の場合は、抽選を行うので初回講義に必ず出席すること

秋学期は、春学期に習得する技術を前提とした内容となっている。特に Excel に関して関数の使用方法に自信のある学生以外は、原則的に春学期、秋学期連続して受講すること。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

【オフィス・アワー】

授業前後に質問を受け付ける。また、問い合わせフォームを常設する。

【Outline (in English)】

【Course outline & Learning Objectives】

Introduction to Informatics < Geospatial information processing > course

Learn the fundamentals and applied capabilities of information literacy necessary for promoting learning in various fields at university.

Particularly in application aspect, we learn how to handle electronic maps and statistical information with location information that are frequently used in various disciplines and industries, and how to create distribution maps using them.

For doing this, to acquire the basic ability of spatial information analysis using free GIS software (MANDARA) is the purpose of this lecture.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution : 30 % ,short reports: 30%,Term-end examination: 40%

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）

永保 敏伸

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学入門＜空間情報処理＞コース情報科学実習＜f コース＞

大学において様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する

特に応用面では、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法を習得する。

その際、簡易GISソフト（MANDARA）を用いた空間情報解析の基礎能力を身につけることを目的とした作業を行う

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。

特に基礎部分では Excel を用いた処理技術に重点を置く。応用部分において、身につけた Excel での処理技術を用いて準備する空間情報解析のデータセットを利用した空間情報解析の基礎能力を獲得することが目標である

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

講義は原則的に実習形式（講義 → 実習 → まとめ）で行う。必要に応じて学生の成果を発表してもらうこともある

また、提供した情報を基に、各自が問題解決の手段として活用できるよう実習を行う。

講義の進捗は、当該年度に履修登録した学生の習熟度を考慮し決める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地域環境情報とは？ GIS と SIS	地域科学・環境科学と様々な情報、そして、地理情報システムと空間情報システムの概要
第 2 回	地域環境情報とその収集・管理・活用法	インターネット上に公開されている各種統計情報を扱う
第 3 回	地図（主題図）作成	MANDARA を用いた階級区分図の作成
第 4 回	地図情報の取得	国土地理院などが提供している各種地図データを扱う
第 5 回	測地系と座標変換	地図を作成する前提条件を確認する
第 6 回	ジオコーディング入門	住所や GPS を用いて位置情報を取得する
第 7 回	位置情報の活用	地図上に任意の地点（緯度経度）を描く
第 8 回	属性データの加工	1 次データに追加作業を行い、必要なデータを整える
第 9 回	主題図作成実習	自由に階級区分図を描くための準備をする
第 10 回	データの種類と表現方法	階級区分を考える上で、重要な度数分布の検討を行う
第 11 回	主題図の重ね合わせ	作成した複数の主題図を重ねて 1 枚の図で表現する
第 12 回	Google Earth 活用	MANDARA で作成した主題図を Google Earth へ出力する
第 13 回	総合実習 1	GIS ソフトによる主題図作成と解析
第 14 回	総合実習 2	秋学期の習熟度を確認する小テストなどの総合実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期：

本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する

秋学期：

様々な講義で扱う地域環境情報について分布図を作成し時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

春学期：

授業時に指示、「情報リテラシー」に関する教科書。

秋学期：

谷謙二（2018）：『フリー GIS ソフト MANDARA10 入門：かんたん！オリジナル地図を作ろう』、古今書院。

※ 教科書は、学期始めに改めて提示する（変更の可能性あり）

【参考書】

・岡本 敏雄ほか 2017. 『改訂新版 よくわかる情報リテラシー』、技術評論社

・佐土原 聡ほか 2005. 『図解！ Arc GIS 身近な事例で学ぼう』、古今書院

・川崎昭如ほか 2008. 『図解！ Arc GIS Part2 GIS 実践に向けてのステップアップ』、古今書院

その他、授業の進捗に合わせて適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回該当講義で紹介した実習に関わる小課題を課す。この作業結果をもって平常点（30%）とする。

2. 主たる講義内容ごとにまとめを主眼とした課題（30%）を課す

3. 最後に、当該学期を総括する学期末試験（40%）を行う

上記 1. ～ 3. をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、試験や課題の有無や配分を変更することもあり得る

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、秋学期では、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の PC で実習を行う

【その他の重要事項】

本講義は情報実習室でパソコンを用いた実習を行う

*** 【厳守】 ***

・初回講義時までに、大学のパソコンにログインするための ID とパスワードを取得すること

・受講者多数の場合は、抽選を行うので初回講義に必ず出席すること

秋学期は、春学期に習得する技術を前提とした内容となっている。特に Excel に関して関数の使用方法に自信のある学生以外は、原則的に春学期、秋学期連続して受講すること。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

【オフィス・アワー】

授業前後に質問を受け付ける。また、問い合わせフォームを常設する。

【Outline (in English)】

【Course outline & Learning Objectives】

Introduction to Informatics < Geospatial information processing > course

Learn the fundamentals and applied capabilities of information literacy necessary for promoting learning in various fields at university.

Particularly in application aspect, we learn how to handle electronic maps and statistical information with location information that are frequently used in various disciplines and industries, and how to create distribution maps using them.

For doing this, to acquire the basic ability of spatial information analysis using free GIS software (MANDARA) is the purpose of this lecture.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution : 30 % ,short reports: 30%,Term-end examination: 40%

PRI100FA

情報学入門 I (メディア情報処理) (2019 年度以降入学者)

築城 厚三

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学で様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。春学期は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基礎に触れ、画像編集ソフトの基本的な使い方までを学ぶ。秋学期は描画ソフト、DTP (DeskTop Publishing) ソフトの活用法までを学ぶ。

【到達目標】

【春学期】大学での学習に必要な情報の収集、整理、発信にかかわる基礎的能力を習得する。画像編集ソフトを利用した基礎的な画像加工ができる。

【秋学期】描画ソフトを利用した描画の基礎的な方法を知る。DTP ソフトを利用した紙面デザインの基礎的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

基本的に通年での履修を前提として進めます。

初めの 10 回は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを学ぶ。その後、春学期は Adobe Photoshop (画像編集ソフト) までを扱い、秋学期には Illustrator (描画ソフト) と InDesign (DTP ソフト) を用いて基本的な操作方法から画像の編集、デザインの方法までを学ぶ。最終的に InDesign で冊子の見開きページを作成する。どのようにすれば簡潔かつ確に内容を伝えることができるか、いくつかのサンプルを元に考え、実際に形にしてみるという経験を積む。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	PC スキルおよび知りたい内容等に関する簡単なアンケート。データの保存に関して。タイピング練習。
第 2 回	ワープロソフトの基本操作 1	基礎的な文書作成、画像の挿入、レポート、論文の書き方、ショートカット等。
第 3 回	ワープロソフトの基本操作 2	基礎的な文書作成、画像の挿入、レポート、論文の書き方、ショートカット等。
第 4 回	ワープロソフトの基本操作 3	レポート、論文の書き方について、課題提示。
第 5 回	表計算ソフトの基本操作 1	基本操作から簡単な関数。
第 6 回	表計算ソフトの基本操作 2	よく使う関数や実用的な関数の使用方法。
第 7 回	表計算ソフトの基本操作 3	データベース、グラフ機能、課題提示。
第 8 回	表計算ソフトの基本操作 4	実習、課題について回答例提示、解説。
第 9 回	プレゼンテーションソフトの基本操作 1	アニメーション、スライドマスタ、効果的なプレゼン方法。
第 10 回	プレゼンテーションソフトの基本操作 2	アニメーション、スライドマスタ、効果的なプレゼン方法。画像編集ソフトに触れてみる。
第 11 回	画像編集ソフトの基本操作 1	これから使うソフトのできること。
第 12 回	画像編集ソフトの基本操作 2	写真の加工、レイヤーについて。
第 13 回	画像編集ソフトの基本操作 3	色域選択、トーンカーブ等、使える技術。
第 14 回	画像編集ソフト実習	素材加工実習、課題提示。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各ソフトの操作解説後に課題を与える。また、授業で使用了資料、解説した主な内容、作業途中のファイルなどは、授業終了後に学習支援システムにアップする。必要に応じて復習する、欠席した際には確認するなど、自主的に時間外学習に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。学習支援システムに資料をアップしておき、授業時に作業の指示をする。

【参考書】

築城厚三『ACA アドビ認定アソシエイト対応 Photoshop CC 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ

築城厚三『ACA アドビ認定アソシエイト対応 Illustrator CC 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ

『Photoshop 独習ナビ』および『Illustrator 独習ナビ』インプレスジャパン

瀧野福子『よくわかる InDesign の教科書』マイナビ

筒井美希『なるほどデザイン』MdN

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)、課題の質と意欲 (50%)。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や疑問点、より深く知りたい内容については、リアクションペーパーやメールから随時受け付け、これらの質問に対して授業冒頭に回答しながら授業を進める。教卓からの一方通行でなく、双方向性のある授業をめざす。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の PC を使用する。教材配布は学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

コンピュータの数に限りがあるため、履修者数が多い場合は抽選を行う (上限数は実施教室による)。

文学部科目「編集実務 A」「編集実務 B」(DTP による誌面構成の方法) を履修したい学生は、事前に本科目を履修しておくことをお勧めします (当科目を履修していなくても「編集実務 A」「編集実務 B」は履修可能です)。

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn the basic and applied skill of information literacy necessary to learn in various fields at university. At first, We will study basics of word processing, spreadsheet, presentation software. Afterwards we will learn image editing software to drawing software and how to use DTP (DeskTop Publishing) software.

【Learning Objectives】

[Spring semester] To acquire basic abilities related to collecting, organizing, and disseminating information necessary for studying at university. You will be able to perform basic image processing with image editing software.

[Autumn semester] Learn the basic method of drawing using drawing software, and the basic technology of paper design using DTP software.

【Learning activities outside of classroom】

Give a task after explaining the operation of each software. The materials used in the lesson, handouts, the files in the middle of the work, etc. will be uploaded to the learning support system after the lesson. Voluntarily engage in outside of classroom learning, such as reviewing as necessary and confirming when you are absent. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Normal score: 50%, quality and willingness of the task: 50%.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（メディア情報処理）（2019年度以降入学者）

築城 厚三

専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。春学期は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基礎に触れ、画像編集ソフトまでを学ぶ。秋学期は描画ソフト、DTP (DeskTop Publishing) ソフトの活用法までを学ぶ。

【到達目標】

【春学期】大学での学習に必要な情報の収集、整理、発信にかかわる基礎的能力を習得する。画像編集ソフトを利用した基礎的な画像加工ができる。

【秋学期】描画ソフトを利用した描画の基礎的な方法を知る。DTP ソフトを利用した紙面デザインの基礎的技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

基本的に通年での履修を前提として進めます。

初めの 10 回は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを学ぶ。その後、春学期は Adobe Photoshop (画像編集ソフト) までを扱い、秋学期には Illustrator (描画ソフト) と InDesign (DTP ソフト) を用いて基本的な操作方法から画像の編集、デザインの方法までを学ぶ。最終的に InDesign で冊子の見開きページを作成する。どのようにすれば簡潔かつ確に内容を伝えることができるか、いくつかのサンプルを元に考え、実際に形にしてみるという経験を積む。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	画像編集ソフト復習、DTP について	実習、素材加工。
第 2 回	描画ソフトの操作方法 1	シェイプの作成、塗りと線、パスの描き方。
第 3 回	描画ソフトの操作方法 2	レイヤー、オブジェクトの結合、切り抜き等。
第 4 回	描画ソフトの操作方法 3	色について、パスの練習、さまざまな機能。
第 5 回	描画ソフトの操作方法 4	パスの練習、さまざまな機能。
第 6 回	描画ソフト実習 1	実習、ロゴ等の作成。
第 7 回	描画ソフト実習 2	実習、ロゴ等の作成。
第 8 回	DTP ソフトの操作方法 1	DTP ソフトで何ができるか概観。級、歯、フォント、縦組みと横組み。
第 9 回	DTP ソフトの操作方法 2	レイアウトグリッドとフレームグリッド。各部の名称とマスターページ、ドキュメントページ。
第 10 回	DTP ソフトの操作方法 3	テキストの流し込み、文字の編集。
第 11 回	DTP ソフトの操作方法 4	画像配置、タイトルの作成、デザイン、編集。
第 12 回	DTP ソフト実習 1	課題に沿って、与えたデータを正確に組む。
第 13 回	DTP ソフト実習 2	最終課題提示、実習、課題作成。
第 14 回	DTP ソフト実習 3	実習、課題作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各ソフトの操作手順解説後に課題を与える。また、授業で使用した資料、解説した主な内容、作業途中のファイルなどは、授業終了後に学習支援システムにアップする。必要に応じて復習する、欠席した際には確認するなど、自主的に時間外学習に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。学習支援システムに資料をアップしておき、授業時に作業の指示をする。

【参考書】

築城厚三『ACA アドビ認定アソシエイト対応 Photoshop CC 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ

築城厚三『ACA アドビ認定アソシエイト対応 Illustrator CC 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ

『Photoshop 独習ナビ』および『Illustrator 独習ナビ』インプレスジャパン

瀧野福子『よくわかる InDesign の教科書』マイナビ

筒井美希『なるほどデザイン』MdN

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)、課題の質と意欲 (50%)。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や疑問点、より深く知りたい内容については、リアクションペーパーやメールから随時受け付け、これらの質問に対して授業冒頭に回答ながら授業を進める。教卓からの一方通行でなく、双方向性のある授業をめざす。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の PC を使用する。教材配布は学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

コンピュータの数に限りがあるため、履修者数が多い場合は抽選を行う（上限数は実施教室による）。

文学部科目「編集実務 A」「編集実務 B」（DTP による誌面構成の方法）を履修したい学生は、事前に本科目を履修しておくことをお勧めします（当科目を履修していなくても「編集実務 A」「編集実務 B」は履修可能です）。

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn the basic and applied skill of information literacy necessary to learn in various fields at university. At first, We will study basics of word processing, spreadsheet, presentation software. Afterwards we will learn image editing software to drawing software and how to use DTP (DeskTop Publishing) software.

【Learning Objectives】

【Spring semester】To acquire basic abilities related to collecting, organizing, and disseminating information necessary for studying at university. You will be able to perform basic image processing with image editing software.

【Autumn semester】Learn the basic method of drawing using drawing software, and the basic technology of paper design using DTP software.

【Learning activities outside of classroom】

Give a task after explaining the operation of each software. The materials used in the lesson, handouts, the files in the middle of the work, etc. will be uploaded to the learning support system after the lesson. Voluntarily engage in outside of classroom learning, such as reviewing as necessary and confirming when you are absent. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Normal score: 50%, quality and willingness of the task: 50%.

PRI100FA

情報学入門 I (言語データ処理) (2019 年度以降入学者)

石川 潔

専門入門科目 100 番台 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

特に (外国語) 教師になりたい場合や言語学を学びたい場合に必要となる部分に重点を置いて、入門レベルのパソコン・スキルを身につけます。

【到達目標】

パソコンを使って、レポートや卒論がきちんと書けるようになり、(外国語) 教育や言語研究で必要になるパソコン・スキルの初歩を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

パソコン実習となります。

提出課題にコメントをする予定。

授業計画は、学生の理解度その他の事情により変更となる可能性があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、環境設定	全体の説明、および各自のパソコンの環境の設定
第 2 回	パソコンって何?	大まかな仕組み
第 3 回	パソコンの基本操作	パソコンと Windows の基本操作の学習
第 4 回	文書作成の基本 1	全角・半角の区別、英字・日本語の入力の練習
第 5 回	文書作成の基本 2	テキスト・ファイル、文字サイズ、字体、フォント、など
第 6 回	文書作成の基本 3	漢字コードの使い分け、IPA (発音) 記号など
第 7 回	パソコン操作のテクニック	動かなくなった時、やり直しをしたい時などに、どうしたらいい?
第 8 回	パソコンでのメール	メールの読み書き環境、書き方、読み方
第 9 回	作文法	レポートや論文の書き方の基本
第 10 回	Word でのレポート作成術 1	字数と語数、脚注、コメントなど
第 11 回	Word でのレポート作成術 2	(例文、図、表などの) 番号と相互参照
第 12 回	Word でのレポート作成術 3	ファイルの埋め込み、など
第 13 回	Word でのレポート作成術 4	(樹形) 図の作成、など
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

趣味などのために自宅でパソコンを使うのに加えて、特に復習をやりまくってください。パソコンの入門には、一種の「スポーツ」という側面があります。つまり、「習うより慣れよ」です。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

学習支援システムで資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて適宜、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 100 %。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には良い評価をいただけたと思うのですが、一昨年の評価ほどではなかったように思います。一昨年のレベルに戻れるように頑張ります。

【その他の重要事項】

授業計画は「参考」であり、学生の理解度などに応じて柔軟に変更していくつもりです。

【関連科目】

文学部英文学科等の (言語系の) 諸科目

【実務経験のある教員による授業】

N/A.

【Outline (in English)】

(Course outline) Introductory lessons for using personal computers, especially for prospective (foreign language) teachers as well as students of linguistics.

(Learning Objectives) To be able to write up term papers/theses in a decent manner; to have acquired PC skills for conducting L2 and linguistic research.

(Learning activities outside of classroom) Practice!

(Grading Criteria / Policy) In-class assignments (100%)

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（言語データ処理）（2019年度以降入学者）

石川 潔

専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特に（外国語）教師になりたい場合や言語学を学びたい場合に必要となる部分に重点を置いて、入門レベルのパソコン・スキルを身につけます。

【到達目標】

パソコンを使って、レポートや卒論がきちんと書けるようになり、（外国語）教育や言語研究で必要になるパソコン・スキルの初歩を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

パソコン実習となります。

提出課題にコメントをする予定。

授業計画は、学生の理解度その他の事情により変更となる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Word での卒論作成術	セクション区切り、目次の自動作成、など
第 2 回	インターネットの基本	大まかな仕組み、検索法、など
第 3 回	プレゼン・ツールの基本	プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の基本操作と応用
第 4 回	Excel : 最初の一步	点数の合計や平均を計算してみる
第 5 回	Excel : セル操作	セル結合、罫線、色分け、折り返し表示、などなど
第 6 回	Excel : データ型	データ型の概念、表示の操作
第 7 回	Excel でのグラフ作成の初歩	様々な種類のグラフを作り、Word 文書にコピペ
第 8 回	Excel での成績計算 1	点数操作!!
第 9 回	Excel での成績計算 2	条件分岐および変換表による letter grade への変換
第 10 回	データ分析 1	朝食を食べると成績が良いって本当？
第 11 回	データ分析 2	「分析ツール」などの導入
第 12 回	コーパスって何？	英単語や日本語単語の頻度調査をやってみる！
第 13 回	音声の扱い 1	パソコンでの音声データの記録方式
第 14 回	音声の扱い 2	録音と編集

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

趣味などのために自宅でパソコンを使うのに加えて、特に復習をやりまくってください。パソコンの入門には、一種の「スポーツ」という側面があります。つまり、「習うより慣れよ」です。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて適宜、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 100 %。

【学生の意見等からの気づき】

悪い評価ではなかったのですが、一昨年の評価に比べると下がってしまいました。一昨年のレベルまたはそれ以上にすべく、頑張ります。

【その他の重要事項】

授業計画は「参考」であり、学生の理解度などに応じて柔軟に変更していくつもりです。

また、春学期の「情報学入門Ⅰ（言語データ処理）」と連続履修してください（履修希望者多数の場合は、春学期の初回にて選抜を行います。原則、秋学期のみの履修は受け入れておりません）。

【関連科目】

文学部英文学科等の言語系の諸科目

【実務経験のある教員による授業】

N/A.

【Outline (in English)】

(Course outline) Introductory lessons for using personal computers, especially for prospective (foreign language) teachers as well as students of linguistics.

(Learning Objectives) To be able to write up term papers/theses in a decent manner; to have acquired PC skills for conducting L2 and linguistic research.

(Learning activities outside of classroom) Practice!

(Grading Criteria/Policy) In-class assignments (100%)

PR1100FA

情報科学実習 I (a コース) (2018 年度入学者)

根岸 良征

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windows の基本操作を学習する。
第 2 回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第 3 回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第 4 回	インターネット検索	各種の Web サイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第 5 回	文書の入力	日本語ワープロソフト (Microsoft Word) での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第 6 回	文書編集の基本操作	Word による基本的な文書編集操作を学習する。
第 7 回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第 8 回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第 9 回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第 10 回	表計算の基礎知識	表計算ソフト (Microsoft Excel) を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第 11 回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第 12 回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第 13 回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第 14 回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習 (60%) を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します (テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（aコース）（2018年度入学者）

根岸 良征

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム（Hoppii）で提示することがあります。課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を学ぶ。
第 2 回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第 3 回	ワークシート編集の基礎	Excel での複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第 4 回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第 5 回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第 6 回	応用的な関数の利用	if 関数や lookup 関数を利用した集計処理を学習する。
第 7 回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第 8 回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第 9 回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第 10 回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど）の作成について学ぶ。
第 11 回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第 12 回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第 13 回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第 14 回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度（20%）、定期的な課題提出（20%）を考慮して評価します（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります）。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報科学実習 I (a コース) (2018 年度入学)

上野 京子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windows の基本操作を学習する。
第 2 回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第 3 回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第 4 回	インターネット検索	各種の Web サイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第 5 回	文書の入力	日本語ワープロソフト (Microsoft Word) での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第 6 回	文書編集の基本操作	Word による基本的な文書編集操作を学習する。
第 7 回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第 8 回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第 9 回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第 10 回	表計算の基礎知識	表計算ソフト (Microsoft Excel) を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第 11 回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第 12 回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第 13 回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第 14 回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習 (60%) を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します (テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PR1100FA

情報科学実習Ⅱ（aコース）（2018年度入学者）

上野 京子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム（Hoppii）で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を学ぶ。
第 2 回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第 3 回	ワークシート編集の基礎	Excel での複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第 4 回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第 5 回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第 6 回	応用的な関数の利用	if 関数や lookup 関数を利用した集計処理を学習する。
第 7 回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第 8 回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第 9 回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第 10 回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど）の作成について学ぶ。
第 11 回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第 12 回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第 13 回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第 14 回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度（20%）、定期的な課題提出（20%）を考慮して評価します（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります）。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報科学実習 I (a コース) (2018 年度入学)

上野 京子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windows の基本操作を学習する。
第 2 回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第 3 回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第 4 回	インターネット検索	各種の Web サイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第 5 回	文書の入力	日本語ワープロソフト (Microsoft Word) での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第 6 回	文書編集の基本操作	Word による基本的な文書編集操作を学習する。
第 7 回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第 8 回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第 9 回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第 10 回	表計算の基礎知識	表計算ソフト (Microsoft Excel) を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第 11 回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第 12 回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第 13 回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第 14 回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習 (60%) を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します (テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PR1100FA

情報科学実習Ⅱ (a コース) (2018 年度入学者)

上野 京子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の基本操作を学ぶ。
第 2 回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第 3 回	ワークシート編集の基礎	Excel での複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第 4 回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第 5 回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第 6 回	応用的な関数の利用	if 関数や lookup 関数を利用した集計処理を学習する。
第 7 回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第 8 回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第 9 回	グラフの編集	グラフの各部分 (軸や凡例等) の編集について学習する。
第 10 回	グラフの応用	応用的なグラフ (複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど) の作成について学ぶ。
第 11 回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第 12 回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第 13 回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第 14 回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習 (60%) を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します (テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報科学実習Ⅰ (bコース) (2018年度入学)

根岸 良征

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学)

根岸 良征

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅰ（bコース）（2018年度入学者）

三宅 修平

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム（hoppii）を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学)

三宅 修平

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (b コース) (2018 年度入学者)

飯塚 康至

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学)

飯塚 康至

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (b コース) (2018 年度入学者)

三宅 修平

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学)

三宅 修平

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース] ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (b コース) (2018 年度入学者)

島田 由美子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学)

島田 由美子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (b コース) (2018 年度入学者)

高田 美樹

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学者)

高田 美樹

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (b コース) (2018 年度入学者)

高田 美樹

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース] ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学)

高田 美樹

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (b コース) (2018 年度入学者)

高田 美樹

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース] ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学)

高田 美樹

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (b コース) (2018 年度入学者)

三宅 修平

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学)

三宅 修平

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (b コース) (2018 年度入学者)

島田 由美子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学)

島田 由美子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅰ（bコース）（2018年度入学者）

根岸 良征

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム（hoppii）を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学)

根岸 良征

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (b コース) (2018 年度入学者)

根岸 良征

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (bコース) (2018年度入学)

根岸 良征

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (b コース) (2018 年度入学者)

児玉 靖司

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース] ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (bコース) (2018年度入学)

児玉 靖司

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (b コース) (2018 年度入学者)

島田 由美子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学)

島田 由美子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (b コース) (2018 年度入学者)

島田 由美子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (bコース) (2018年度入学)

島田 由美子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅰ (b コース) (2018 年度入学者)

田中 元一郎

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース] ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学)

田中 元一郎

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (b コース) (2018 年度入学者)

高田 美樹

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース] ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学)

高田 美樹

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (b コース) (2018 年度入学者)

高田 美樹

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学)

高田 美樹

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (b コース) (2018 年度入学者)

田中 元一郎

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学)

田中 元一郎

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (b コース) (2018 年度入学者)

木村 昌史

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (bコース) (2018年度入学)

木村 昌史

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (b コース) (2018 年度入学者)

田中 元一郎

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学)

田中 元一郎

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (b コース) (2018 年度入学者)

田中 元一郎

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (b コース) (2018 年度入学)

田中 元一郎

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し (1)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し (2)	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化 (1)	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化 (2)	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計 (1)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計 (2)	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (1)	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方 (文字列処理) (2)	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (1)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (2)	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング (1)	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング (2)	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PR1100FA

情報科学実習 I (d コース) (2018 年度入学者)

渡辺 英人

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word, Excel, PowerPoint, そして Access などの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会で活躍するようになってからも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人になるための基礎力が身につく！ 在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータ:ハードウェアとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。初心者や苦手意識のある人ほど参加して欲しい。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

在学中のみならず、社会に出てからも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターとは何か (ハードウェアとソフトウェア)	情報処理の基礎
第 2 回	キーボード入力練習	情報処理の基礎
第 3 回	機器の取扱いと Windows の操作法	情報処理の基礎
第 4 回	電子メールやソーシャルメディアの利用	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。
第 5 回	インターネットと大学生の研究・学習	インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
第 6 回	ワープロ操作 (Word による文章入力の練習)	情報処理の基礎。文書作成法。
第 7 回	ワープロ操作 (Word による文章入力の練習)	プレゼンテーション用資料作成の方法。
第 8 回	インターネットと Word を使った課題作成	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
第 9 回	Excel の操作法 (基本操作)	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
第 10 回	Excel の操作法 (計算機能と関数)	表計算ソフトの計算機能について解説。
第 11 回	Excel の操作法 (表作成)	表計算ソフトの表作成機能について解説。
第 12 回	Excel の操作法 (グラフの作成)	表計算ソフトのグラフ作成機能について解説。
第 13 回	Excel とインターネットを使ってデータ収集、再利用方法 (Excel データベース入門)	インターネット上から、統計資料、データをダウンロードして、効率よく処理蓄積し、再利用する方法を解説。
第 14 回	Excel とプレゼンテーション (データベースと資料作成)	プレゼンテーションに効果的な Excel 資料の作成方法について解説。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に指定する。USB フラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期に試験 (課題作成：50%) を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況 (平常点：50%) を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】

データ保存用に USB フラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】

実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！ 大切なことは「意欲がある」ことだけ！ 「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【関連科目】

大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

It is an introductory information and technology science course for university students. Using leading software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access to learn social sciences, humanities, etc., everyone at university knows the useful knowledge and technology even after becoming active in society, I will explain it easily and surely master it. How to find useful information from the literature and the Internet, searching, collecting, efficient sorting, effective use and practical content. I will acquire the fundamental power as a college student, the basic ability to become a society person! It will definitely help not only during your studies, but also for the future!

All students will learn how to deepen their research and learning by efficiently using information equipment, especially personal computers: hardware and software, to solve various problems in "social science" and "humanities" studied at university. The goal is to be able to understand and apply it accurately. I want beginners and people who are not good at it to participate. Let's acquire "useful" skills not only while in college but also after going out to society!

If necessary, we will distribute materials that describe the content of the lesson in advance, so please do not only review but also prepare for the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Exams (assignment creation: 50%) will be held in the spring and fall semesters. We will evaluate each person's level of understanding and participation in the class (normal score: 50%).

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (d コース) (2018 年度入学)

渡辺 英人

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word, Excel, PowerPoint, そして Access などの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会で活躍するようになってからも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人になるための基礎力が身につく！ 在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータ:ハードウェアとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、活用できるようになることが目標です。初心者や苦手意識のある人ほど参加して欲しい。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

在学中のみならず、社会に出てからも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターとは何か (ハードウェアとソフトウェア) II	情報処理の基礎
第 2 回	キーボード入力練習 II	情報処理の基礎
第 3 回	機器の取扱いと Windows の操作法 II	情報処理の基礎
第 4 回	電子メールやソーシャルメディアの利用。とくに情報利用の倫理と法的問題を学ぶ。	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーや法的問題など解説する。
第 5 回	インターネットと大学生の研究・学習。データベースについて考える。	インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
第 6 回	Excel の基本操作と応用 II	Excel 情報処理の基礎。表やグラフ作成法。
第 7 回	Excel を使ってデータベースを作る。	Excel によるデータベースを学習や研究に活用する方法。
第 8 回	Excel とインターネットを使った課題作成。	インターネットを利用した情報検索、収集と Excel を使って情報分析課題作成。
第 9 回	Excel とインターネットを使って、オープンソース・データ分析の方法解説。	表計算ソフト Excel を使って、公開情報 (オープンソース) データの収集、入力、読み込み、保存、分析。
第 10 回	Access の基本と操作法、とくに Excel との違いや使い分けについて	データベースソフト Access と表計算ソフト Excel の比較や相互利用・活用について解説。
第 11 回	Access とインターネットを使って、オープンソース・データ分析の方法解説。	データベースソフト Access を使って、公開情報 (オープンソース) データの収集、蓄積、再利用、活用法の解説。
第 12 回	Access を使って、インターネット上の情報をデータベース化する。	データベースソフト Access を使い、自分でデータベースの設計、情報収集、蓄積、再利用を実践する。
第 13 回	Access および Excel とインターネットを使ってデータ収集、再利用方法。課題作成。	インターネット上から、統計資料、データをダウンロードして、効率よく処理蓄積し、再利用する方法を解説。課題作成。

第 14 回 大学生にとって必要な情報学習や研究に、そして社会人基礎力と情報収集、蓄積、分析手法としての情報処理と応用について考える。について。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に指定する。USB フラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期に試験 (課題作成：50%) を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況 (平常点：50%) を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】

データ保存用に USB フラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】

実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【関連科目】

大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

It is an introductory information and technology science course for university students. Using leading software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access to learn social sciences, humanities, etc., everyone at university knows the useful knowledge and technology even after becoming active in society, I will explain it easily and surely master it. How to find useful information from the literature and the Internet, searching, collecting, efficient sorting, effective use and practical content. I will acquire the fundamental power as a college student, the basic ability to become a society person! It will definitely help not only during your studies, but also for the future!

All students will learn how to deepen their research and learning by efficiently using information equipment, especially personal computers: hardware and software, to solve various problems in "social science" and "humanities" studied at university. The goal is to be able to understand and apply it accurately. I want beginners and people who are not good at it to participate. Let's acquire "useful" skills not only while in college but also after going out to society!

If necessary, we will distribute materials that describe the content of the lesson in advance, so please do not only review but also prepare for the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Exams (assignment creation: 50%) will be held in the spring and fall semesters. We will evaluate each person's level of understanding and participation in the class (normal score: 50%).

PR1100FA

情報科学実習 I (d コース) (2018 年度入学者)

渡辺 英人

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word, Excel, PowerPoint, そして Access などの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会で活躍するようになってからも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人になるための基礎力が身につく！ 在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータ:ハードウェアとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。初心者や苦手意識のある人ほど参加して欲しい。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

在学中のみならず、社会に出てからも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターとは何か (ハードウェアとソフトウェア)	情報処理の基礎
第 2 回	キーボード入力練習	情報処理の基礎
第 3 回	機器の取扱いと Windows の操作法	情報処理の基礎
第 4 回	電子メールやソーシャルメディアの利用	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。
第 5 回	インターネットと大学生の研究・学習	インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
第 6 回	ワープロ操作 (Word による文章入力の練習)	情報処理の基礎。文書作成法。
第 7 回	ワープロ操作 (Word による文章入力の練習)	プレゼンテーション用資料作成の方法。
第 8 回	インターネットと Word を使った課題作成	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
第 9 回	Excel の操作法 (基本操作)	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
第 10 回	Excel の操作法 (計算機能と関数)	表計算ソフトの計算機能について解説。
第 11 回	Excel の操作法 (表作成)	表計算ソフトの表作成機能について解説。
第 12 回	Excel の操作法 (グラフの作成)	表計算ソフトのグラフ作成機能について解説。
第 13 回	Excel とインターネットを使ってデータ収集、再利用方法 (Excel データベース入門)	インターネット上から、統計資料、データをダウンロードして、効率よく処理蓄積し、再利用する方法を解説。
第 14 回	Excel とプレゼンテーション (データベースと資料作成)	プレゼンテーションに効果的な Excel 資料の作成方法について解説。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に指定する。USB フラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期に試験 (課題作成：50%) を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況 (平常点：50%) を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】

データ保存用に USB フラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】

実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！ 大切なことは「意欲がある」ことだけ！ 「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【関連科目】

大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

It is an introductory information and technology science course for university students. Using leading software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access to learn social sciences, humanities, etc., everyone at university knows the useful knowledge and technology even after becoming active in society, I will explain it easily and surely master it. How to find useful information from the literature and the Internet, searching, collecting, efficient sorting, effective use and practical content. I will acquire the fundamental power as a college student, the basic ability to become a society person! It will definitely help not only during your studies, but also for the future!

All students will learn how to deepen their research and learning by efficiently using information equipment, especially personal computers: hardware and software, to solve various problems in "social science" and "humanities" studied at university. The goal is to be able to understand and apply it accurately. I want beginners and people who are not good at it to participate. Let's acquire "useful" skills not only while in college but also after going out to society!

If necessary, we will distribute materials that describe the content of the lesson in advance, so please do not only review but also prepare for the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Exams (assignment creation: 50%) will be held in the spring and fall semesters. We will evaluate each person's level of understanding and participation in the class (normal score: 50%).

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (d コース) (2018 年度入学者)

渡辺 英人

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word, Excel, PowerPoint, そして Access などの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会で活躍するようになってからも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人になるための基礎力が身につく！ 在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータ:ハードウェアとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、活用できるようになることが目標です。初心者や苦手意識のある人ほど参加して欲しい。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

在学中のみならず、社会に出てからも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターとは何か (ハードウェアとソフトウェア) II	情報処理の基礎
第 2 回	キーボード入力練習 II	情報処理の基礎
第 3 回	機器の取扱いと Windows の操作法 II	情報処理の基礎
第 4 回	電子メールやソーシャルメディアの利用。とくに情報利用の倫理と法的問題を学ぶ。	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーや法的問題など解説する。
第 5 回	インターネットと大学生の研究・学習。データベースについて考える。	インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
第 6 回	Excel の基本操作と応用 II	Excel 情報処理の基礎。表やグラフ作成法。
第 7 回	Excel を使ってデータベースを作る。	Excel によるデータベースを学習や研究に活用する方法。
第 8 回	Excel とインターネットを使った課題作成。	インターネットを利用した情報検索、収集と Excel を使って情報分析課題作成。
第 9 回	Excel とインターネットを使って、オープンソース・データ分析の方法解説。	表計算ソフト Excel を使って、公開情報 (オープンソース) データの収集、入力、読み込み、保存、分析。
第 10 回	Access の基本と操作法、とくに Excel との違いや使い分けについて	データベースソフト Access と表計算ソフト Excel の比較や相互利用・活用について解説。
第 11 回	Access とインターネットを使って、オープンソース・データ分析の方法解説。	データベースソフト Access を使って、公開情報 (オープンソース) データの収集、蓄積、再利用、活用法の解説。
第 12 回	Access を使って、インターネット上の情報をデータベース化する。	データベースソフト Access を使い、自分でデータベースの設計、情報収集、蓄積、再利用を実践する。
第 13 回	Access および Excel とインターネットを使ってデータ収集、再利用方法。課題作成。	インターネット上から、統計資料、データをダウンロードして、効率よく処理蓄積し、再利用する方法を解説。課題作成。

第 14 回 大学生にとって必要な情報学習や研究に、そして社会人基礎力と情報収集、蓄積、分析手法としての情報処理と応用について考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に指定する。USB フラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期に試験 (課題作成：50%) を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況 (平常点：50%) を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】

データ保存用に USB フラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】

実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【関連科目】

大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

It is an introductory information and technology science course for university students. Using leading software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access to learn social sciences, humanities, etc., everyone at university knows the useful knowledge and technology even after becoming active in society, I will explain it easily and surely master it. How to find useful information from the literature and the Internet, searching, collecting, efficient sorting, effective use and practical content. I will acquire the fundamental power as a college student, the basic ability to become a society person! It will definitely help not only during your studies, but also for the future!

All students will learn how to deepen their research and learning by efficiently using information equipment, especially personal computers: hardware and software, to solve various problems in "social science" and "humanities" studied at university. The goal is to be able to understand and apply it accurately. I want beginners and people who are not good at it to participate. Let's acquire "useful" skills not only while in college but also after going out to society!

If necessary, we will distribute materials that describe the content of the lesson in advance, so please do not only review but also prepare for the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Exams (assignment creation: 50%) will be held in the spring and fall semesters. We will evaluate each person's level of understanding and participation in the class (normal score: 50%).

PRI100FA

情報科学実習 I (d コース) (2018 年度入学者)

木村 昌史

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎としてまず PC を用いた文書の作成、プレゼンテーション、表計算、ネットワーク利用による情報収集する方法を学ぶ。データベースコースでは特に Excel と Access を基礎としたデータ処理法とデータベースや他ソフトウェアとの連携の方法を学び、現代のネットワークで重要になっているデータベースの基礎を理解する。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのデータ処理の基礎を理解することを目標とする。さらにデータベースの基礎と活用法を学び、実務に必要な問題解決の事例を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの利用、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションの方法等を学習する。以上と PC のキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データベースコース」では標準的なソフトウェアである Excel と連携しながら Access や Web によるデータベースの基礎などを学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的なデータの例題を取り上げ、独自のデータ処理のために PC を活用できるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに小さい課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

原則として対面授業で行う予定だが、情勢によってはオンライン授業になる場合もある。その場合には学習支援システム (Hoppii) 等で提示するので参照のこと。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力と練習とブライントタッチについて学ぶ。
第 3 回	Microsoft Word の基本操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	Microsoft PowerPoint の基本操作	PowerPoint の基本的な使い方、プレゼンテーションについて学ぶ。
第 5 回	Google Workspace の利用法	電子メールの書き方、クラウドサービスの活用について学ぶ。
第 6 回	Microsoft Excel の基本操作	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	Excel による基本集計	表計算による基本集計、関数の利用について学ぶ。
第 8 回	Excel によるデータ処理	表計算の応用として簡単なデータ処理について学ぶ。
第 9 回	Excel によるクロス集計	表計算の応用としてピボットテーブルによるクロス集計について学ぶ。
第 10 回	Excel によるデータ分析 (1)	2 種類のデータについての分析方法について学ぶ。 また Excel マクロについて学ぶ。
第 11 回	Excel によるデータ分析 (2)	2 種類以上のデータについての分析方法について学ぶ。また Excel マクロの応用について学ぶ。
第 12 回	Excel によるデータベース的処理 (1)	データベース関数の役割と利用法について学ぶ。
第 13 回	Excel によるデータベース的処理 (2)	外部データとの交換を含む処理方法について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめと総合レポートの作成を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

PC の基本操作、各種ソフトウェアやクラウドサービスについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。
各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】

Access 2019 基礎 セミナーテキスト (2019)

発行：日経 BP

【成績評価の方法と基準】

春学期に 1 回のテスト (または総合レポートの提出) 40 % と各回授業の課題提出 60 % により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度に課題の進捗状況の確認を行い、受講者の理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。

法政大学からライセンス利用できる Office 365 ProPlus を自宅 PC などに導入することも推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータ処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

This course introduces Infomatics to students taking this course.

As an introduction to Informatics we first learn documentation, presentation and spreadsheet using a PC and methods of information collection using network. Next in this course we learn data processing and ways of connections to database and other softwares, especially using Excel's operations.

The goal of this course are to understand basic concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ (d コース) (2018 年度入学者)

木村 昌史

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎としてまず PC を用いた文書の作成、プレゼンテーション、表計算、ネットワーク利用による情報収集する方法を学ぶ。データベースコースでは特に Excel と Access を基礎としたデータ処理法とデータベースや他のソフトウェアとの連携の方法を学び、現代のネットワークで重要になっているデータベースの基礎を理解する。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのデータ処理の基礎を理解することを目標とする。さらにデータベースの基礎と活用法を学び、実務に必要な問題解決の事例を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの利用、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションの方法等を学習する。以上と PC のキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データベースコース」では標準的なソフトウェアである Excel と連携しながら Access や Web によるデータベースの基礎などを学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的なデータの例題を取り上げ、独自のデータ処理のために PC を活用できるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに小さい課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

原則として対面授業で行う予定だが、情勢によってはオンライン授業になる場合もある。その場合には学習支援システム (Hoppii) 等で提示するので参照のこと。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	データベースの基本	ネットワークにおいて重要なデータベースの考え方について学ぶ。
第 2 回	データの収集	ネットワーク上の公開データの活用方法について学ぶ。
第 3 回	Excel とデータベースの関係	Office の中の Excel と Access などの役割の違いについて学ぶ。
第 4 回	Excel データのエクスポート	Excel を中心としたデータ交換について学ぶ。
第 5 回	Access の基本 (1)	データベースの例として Access の基本操作について学ぶ。
第 6 回	Access の基本 (2)	Access による基本的検索方法について学ぶ。
第 7 回	クエリの利用 (1)	データベースにおけるクエリの役割について学ぶ。
第 8 回	クエリの利用 (2)	データベースにおけるクエリの種類と利用について学ぶ。
第 9 回	SQLite データベースの利用 (1)	処理の自動化のための Excel マクロの役割について学ぶ。
第 10 回	SQLite データベースの利用 (2)	Excel マクロによるデータ処理について学ぶ。
第 11 回	SQL の基本 (1)	データベースの操作における SQL の役割について学ぶ。
第 12 回	SQL の基本 (2)	データベースの操作における SQL の使い方について学ぶ。
第 13 回	Web データとの関係	ネットワーク上のデータベースの処理方法について学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめと総合レポートの作成を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

PC の基本操作、各種ソフトウェアやクラウドサービスについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。
各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】

Access 2019 応用 セミナーテキスト (2019)

発行：日経 BP

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつのテスト (または総合レポートの提出) 40 % と各回授業の課題提出 60 % により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度に課題の進捗状況の確認を行い、受講者の理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。

法政大学からライセンス利用できる Office 365 ProPlus を自宅 PC などに導入することも推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータ処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】

実際に、データベースに関連した業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

This course introduces Informatics to students taking this course.

As an introduction to Informatics we already learned documentation, presentation and spreadsheet using a PC and methods of information collection using network. Continuously in this course we learn data processing and ways of connections to database and other softwares, especially using Excel's and Access' operations.

The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

PR1100FA

情報科学実習Ⅰ（fコース）（2018年度入学者）

小寺 浩二

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で、様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。特に応用面では、現在、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易GISソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。

特に、空間情報解析の基礎能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

前半は、総合的な情報リテラシーを重視した内容で、ワープロ・電子メール・インターネット・表計算ソフト・プレゼンテーションを利用した表現法などについて学ぶ。各学部学科や、個人的に興味のあるテーマに沿って総合的なリテラシー活用法を身につけた上で、後半では、電子地図・衛星画像・統計情報などを利用して様々なマップ（分布図）を作り、様々な地域環境情報の活用法を習得する。利用するのは、高度なGISソフトではなく、無料で手に入り、誰でも使えるフリーソフトなので、今後の様々なレポート作成などにも活用することができる貴重な能力を身につけることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報リテラシーについて	情報リテラシーについて、学び、調べ、まとめる
第2回	コンピュータの構成（ハードウェア）	コンピュータの構成（ハードウェア）について、学び、調べ、まとめる
第3回	コンピュータの構成（ソフトウェア）	コンピュータの構成（ソフトウェア）について、学び、調べ、まとめる
第4回	ワープロ入門	Wordによる文章入力
第5回	ワープロ応用	Wordによる文書体裁など
第6回	表計算ソフト入門	Excelの基本操作習熟
第7回	表計算ソフト活用	Excelでの表・図の作成
第8回	表計算ソフト応用	Excelでの統計解析
第9回	プレゼンテーション入門	PowerPointの基礎
第10回	プレゼンテーション応用	PowerPointの応用
第11回	空間情報解析入門	GISの基礎（MANDARAによる都道府県別データの図化）
第12回	空間情報解析活用	GISの活用（MANDARAによる市町村別データの図化）
第13回	空間情報解析応用	GISの応用（MANDARAによる町丁目データの図化）
第14回	総合実習	個別テーマによる総合実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できる限り本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。

同様に、様々な講義で扱う地域環境情報について、分布図を作成し、時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

前半：第1回授業時に指示。「情報リテラシー」に関する教科書。後半：後藤真太郎ほか（2013）：『MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座（第3版）』、古今書院

【参考書】

・中村和郎ほか（2002）：『地理情報システムを学ぶ』、古今書院
 ・佐土原 聡ほか（2005）：『図解！ ArcGIS身近な事例で学ぼう』、古今書院
 ・川崎昭如ほか（2008）：『図解！ ArcGIS Part2 GIS実戦に向けてのステップアップ』、古今書院
 その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、課題（30%）、試験（40%）をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、配点を変更することもあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のPCで実習を行う。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

SIS

GIS

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

When advancing learning of the various fields at a university, necessary basis of information literacy and application ability are acquired. It's often used by the various learning fields and business categories at present by the application area in particular, and the basis ability of the spatial information analysis using the electronic map it was, how to handle it statistics information with position information, a creating method of a distribution map using those and simple GIS software is learned.

Acquire the basics and applied abilities of information literacy.

In particular, develop the basic ability of spatial information analysis.

In the spring semester, students will learn about word processors, e-mail, the Internet, spreadsheet software, and presentation methods, with an emphasis on comprehensive information literacy. After learning comprehensive literacy utilization methods according to each faculty and department and the theme of personal interest, in the fall semester, various maps using electronic maps, satellite images, statistical information, etc. (Make a distribution map) and learn how to use various regional environmental information. It is not an advanced GIS software, but a free software that can be obtained for free and can be used by anyone, so you can acquire valuable abilities that can be used for creating various reports in the future.

Spring semester: Make efforts to work on various learning and assignment creation by using what you learned in this class as much as possible.

Autumn semester: Similarly, create a distribution map of regional environmental information handled in various lectures and try spatiotemporal analysis. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（fコース）（2018年度入学者）

小寺 浩二

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で、様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。特に応用面では、現在、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易GISソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。
特に、空間情報解析の基礎・応用の能力を育成する。
様々な空間情報を入力し、加工し、解析して、図化する総合的な能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

I で学んだ総合的な情報リテラシーを活用し、各学部学科独自のテーマや個人的に興味のあるテーマに沿って、電子地図・衛星画像・統計情報などを利用して様々なマップ（分布図）を作り、様々な地域環境情報の活用法を習得する。利用するのは、高度なGISソフトではなく、無料で手に入り、誰でも使えるフリーソフトなので、今後の様々なレポート作成などにも活用することができる貴重な能力を身につけることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地理情報システム（GIS）について	地理情報システムの基礎を学ぶ
第 2 回	広域の空間情報解析	日本全体のデータをもとに空間解析を学ぶ
第 3 回	都道府県別の空間情報解析	都道府県別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第 4 回	市町村別の空間情報解析	市町村別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第 5 回	町丁目別の空間情報解析	町丁目別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第 6 回	地点データの登録と活用	緯度経度による地点データの登録と活用を学ぶ
第 7 回	バッファリング	バッファリングの基礎と応用について学ぶ
第 8 回	土地利用データ解析の基礎	土地利用データ解析の基礎について学ぶ
第 9 回	土地利用データ解析の活用	複数年の土地利用データの解析と連続表示について学ぶ
第 10 回	土地利用データ解析の応用	複数年の土地利用の変化について解析する方法について学ぶ
第 11 回	総合実習①	個別テーマに沿って、空間情報を収集し、マップを作成する
第 12 回	総合実習②	様々な地域空間情報を用いて図化する
第 13 回	総合実習③	図化された様々な地域空間情報を総合的に解析する
第 14 回	まとめ	総合実習の結果をもとに発表し、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期に学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。

自ら選んだテーマに沿って、様々な地域環境情報を収集し、分布図を作成し、時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第 1 回授業時に指示。

【参考書】

・後藤真太郎ほか（2013）：『MANDARA と EXCEL による市民のためのGIS講座（第3版）』、古今書院
 ・中村和郎ほか（2002）：『地理情報システムを学ぶ』、古今書院
 ・佐土原 聡ほか（2005）：『図解！ Arc GIS 身近な事例で学ぼう』、古今書院
 ・川崎昭如ほか（2008）：『図解！ Arc GIS Part2 GIS 実戦に向けてのステップアップ』、古今書院

その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、課題（30%）、最終成果発表（40%）をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、配点を変更することもあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広く情報リテラシーの応用能力を育成した上で、各専門分野の興味に従った地域空間情報解析の対応ができるようになる。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のPCで実習を行う。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

SIS

GIS

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

When advancing learning of the various fields at a university, necessary basis of information literacy and application ability are acquired. It's often used by the various learning fields and business categories at present by the application area in particular, and the basis ability of the spatial information analysis using the electronic map it was, how to handle it statistics information with position information, a creating method of a distribution map using those and simple GIS software is learned.

Acquire the basics and applied abilities of information literacy.

In particular, develop the basic ability of spatial information analysis.

In the spring semester, students will learn about word processors, e-mail, the Internet, spreadsheet software, and presentation methods, with an emphasis on comprehensive information literacy. After learning comprehensive literacy utilization methods according to each faculty and department and the theme of personal interest, in the fall semester, various maps using electronic maps, satellite images, statistical information, etc. (Make a distribution map) and learn how to use various regional environmental information. It is not an advanced GIS software, but a free software that can be obtained for free and can be used by anyone, so you can acquire valuable abilities that can be used for creating various reports in the future.

Spring semester: Make efforts to work on various learning and assignment creation by using what you learned in this class as much as possible.

Autumn semester: Similarly, create a distribution map of regional environmental information handled in various lectures and try spatiotemporal analysis. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Comprehensive evaluation will be made by combining normal points (30%), tasks (30%), and exams (40%). Depending on the progress of the lesson, the points may be changed.

PR1100FA

情報科学実習 I (f コース) (2018 年度入学者)

小寺 浩二

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学で、様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。特に応用面では、現在、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易 GIS ソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。
特に、空間情報解析の基礎能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

前半は、総合的な情報リテラシーを重視した内容で、ワープロ・電子メール・インターネット・表計算ソフト・プレゼンテーションを利用した表現法などについて学ぶ。各学部学科や、個人的に興味のあるテーマに沿って総合的なリテラシー活用法を身につけた上で、後半では、電子地図・衛星画像・統計情報などを利用して様々なマップ (分布図) を作り、様々な地域環境情報の活用法を習得する。利用するのは、高度な GIS ソフトではなく、無料で手に入り、誰でも使えるフリーソフトなので、今後の様々なレポート作成などにも活用することができる貴重な能力を身につけることができる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報リテラシーについて	情報リテラシーについて、学び、調べ、まとめる
第 2 回	コンピュータの構成 (ハードウェア)	コンピュータの構成 (ハードウェア) について、学び、調べ、まとめる
第 3 回	コンピュータの構成 (ソフトウェア)	コンピュータの構成 (ソフトウェア) について、学び、調べ、まとめる
第 4 回	ワープロ入門	Word による文章入力
第 5 回	ワープロ応用	Word による文書体裁など
第 6 回	表計算ソフト入門	Excel の基本操作習熟
第 7 回	表計算ソフト活用	Excel での表・図の作成
第 8 回	表計算ソフト応用	Excel での統計解析
第 9 回	プレゼンテーション入門	PowerPoint の基礎
第 10 回	プレゼンテーション応用	PowerPoint の応用
第 11 回	空間情報解析入門	GIS の基礎 (MANDARA による都道府県別データの図化)
第 12 回	空間情報解析活用	GIS の活用 (MANDARA による市町村別データの図化)
第 13 回	空間情報解析応用	GIS の応用 (MANDARA による町丁目データの図化)
第 14 回	総合実習	個別テーマによる総合実習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

できる限り本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。

同様に、様々な講義で扱う地域環境情報について、分布図を作成し、時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

前半：第 1 回授業時に指示。「情報リテラシー」に関する教科書。後半：後藤真太郎ほか (2013)：『MANDARA と EXCEL による市民のための GIS 講座 (第 3 版)』, 古今書院

【参考書】

・中村和郎ほか (2002)：『地理情報システムを学ぶ』, 古今書院
・佐土原 聡ほか (2005)：『図解! Arc GIS 身近な事例で学ぼう』, 古今書院
・川崎昭如ほか (2008)：『図解! Arc GIS Part2 GIS 実践に向けてのステップアップ』, 古今書院
その他、授業の進捗に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)、課題 (30%)、試験 (40%) をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、配点を変更することもあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の PC で実習を行う。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

SIS

GIS

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

When advancing learning of the various fields at a university, necessary basis of information literacy and application ability are acquired. It's often used by the various learning fields and business categories at present by the application area in particular, and the basis ability of the spatial information analysis using the electronic map it was, how to handle it statistics information with position information, a creating method of a distribution map using those and simple GIS software is learned.

Acquire the basics and applied abilities of information literacy.

In particular, develop the basic ability of spatial information analysis.

In the spring semester, students will learn about word processors, e-mail, the Internet, spreadsheet software, and presentation methods, with an emphasis on comprehensive information literacy. After learning comprehensive literacy utilization methods according to each faculty and department and the theme of personal interest, in the fall semester, various maps using electronic maps, satellite images, statistical information, etc. (Make a distribution map) and learn how to use various regional environmental information. It is not an advanced GIS software, but a free software that can be obtained for free and can be used by anyone, so you can acquire valuable abilities that can be used for creating various reports in the future.

Spring semester: Make efforts to work on various learning and assignment creation by using what you learned in this class as much as possible.

Autumn semester: Similarly, create a distribution map of regional environmental information handled in various lectures and try spatiotemporal analysis. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（fコース）（2018年度入学者）

小寺 浩二

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で、様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。特に応用面では、現在、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易GISソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。
特に、空間情報解析の基礎・応用の能力を育成する。
様々な空間情報を入力し、加工し、解析して、図化する総合的な能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

I で学んだ総合的な情報リテラシーを活用し、各学部学科独自のテーマや個人的に興味のあるテーマに沿って、電子地図・衛星画像・統計情報などを利用して様々なマップ（分布図）を作り、様々な地域環境情報の活用法を習得する。利用するのは、高度なGISソフトではなく、無料で手に入り、誰でも使えるフリーソフトなので、今後の様々なレポート作成などにも活用することができる貴重な能力を身につけることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地理情報システム（GIS）について	地理情報システムの基礎を学ぶ
第 2 回	広域の空間情報解析	日本全体のデータをもとに空間解析を学ぶ
第 3 回	都道府県別の空間情報解析	都道府県別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第 4 回	市町村別の空間情報解析	市町村別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第 5 回	町丁目別の空間情報解析	町丁目別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第 6 回	地点データの登録と活用	緯度経度による地点データの登録と活用を学ぶ
第 7 回	バッファリング	バッファリングの基礎と応用について学ぶ
第 8 回	土地利用データ解析の基礎	土地利用データ解析の基礎について学ぶ
第 9 回	土地利用データ解析の活用	複数年の土地利用データの解析と連続表示について学ぶ
第 10 回	土地利用データ解析の応用	複数年の土地利用の変化について解析する方法について学ぶ
第 11 回	総合実習①	個別テーマに沿って、空間情報を収集し、マップを作成する
第 12 回	総合実習②	様々な地域空間情報を用いて図化する
第 13 回	総合実習③	図化された様々な地域空間情報を総合的に解析する
第 14 回	まとめ	総合実習の結果をもとに発表し、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期に学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。

自ら選んだテーマに沿って、様々な地域環境情報を収集し、分布図を作成し、時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第 1 回授業時に指示。

【参考書】

・後藤真太郎ほか（2013）：『MANDARA と EXCEL による市民のためのGIS講座（第3版）』、古今書院
 ・中村和郎ほか（2002）：『地理情報システムを学ぶ』、古今書院
 ・佐土原 聡ほか（2005）：『図解！ Arc GIS 身近な事例で学ぼう』、古今書院
 ・川崎昭如ほか（2008）：『図解！ Arc GIS Part2 GIS 実戦に向けてのステップアップ』、古今書院

その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、課題（30%）、最終成果発表（40%）をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、配点を変更することもあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広く情報リテラシーの応用能力を育成した上で、各専門分野の興味に従った地域空間情報解析の対応ができるようになる。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のPCで実習を行う。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

SIS

GIS

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

When advancing learning of the various fields at a university, necessary basis of information literacy and application ability are acquired. It's often used by the various learning fields and business categories at present by the application area in particular, and the basis ability of the spatial information analysis using the electronic map it was, how to handle it statistics information with position information, a creating method of a distribution map using those and simple GIS software is learned.

Acquire the basics and applied abilities of information literacy.

In particular, develop the basic ability of spatial information analysis.

In the spring semester, students will learn about word processors, e-mail, the Internet, spreadsheet software, and presentation methods, with an emphasis on comprehensive information literacy. After learning comprehensive literacy utilization methods according to each faculty and department and the theme of personal interest, in the fall semester, various maps using electronic maps, satellite images, statistical information, etc. (Make a distribution map) and learn how to use various regional environmental information. It is not an advanced GIS software, but a free software that can be obtained for free and can be used by anyone, so you can acquire valuable abilities that can be used for creating various reports in the future.

Spring semester: Make efforts to work on various learning and assignment creation by using what you learned in this class as much as possible.

Autumn semester: Similarly, create a distribution map of regional environmental information handled in various lectures and try spatiotemporal analysis. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Comprehensive evaluation will be made by combining normal points (30%), tasks (30%), and exams (40%). Depending on the progress of the lesson, the points may be changed.

PRI100FA

情報科学実習 I (f コース) (2018 年度入学者)

永保 敏伸

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学入門<空間情報処理>コース情報科学実習< f コース>

大学において様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する

特に応用面では、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法を習得する。

その際、簡易GISソフト (MANDARA) を用いた空間情報解析の基礎能力を身につけることを目的とした作業を行う

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。

特に基礎部分では Excel を用いた処理技術に重点を置く。応用部分において、身に着けた Excel での処理技術を用いて準備する空間情報解析のデータセットを利用した空間情報解析の基礎能力を獲得することが目標である

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

講義は原則的に実習形式 (講義 → 実習 → まとめ) で行う。必要に応じて学生の成果を発表してもらうこともある

また、提供した情報を基に、各自が問題解決の手段として活用できるよう実習を行う。

講義の進度は、当該年度に履修登録した学生の習熟度を考慮し決める授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

+++++++
オンライン講義の場合
+++++++

Zoom を用いたリアルタイム授業で行います。

オンライン講義の場合に、受講端末は、スマホではなく、シラバス記載のアプリケーションが操作可能なパソコンをお勧めします。リアルタイムでそれらのアプリケーションの操作しながら講義を進めることが多いです。

講義開始直前の情報は、学習支援システム (hoppii) の授業内掲示板を用いて行います。必ず情報を受け取れるようにしておいてください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコン (Windows) の仕組み	ハードウェアと、ソフトウェアの解説
第 2 回	ビジネスツールとしての電子メール	相手に意図を伝える為のマナーと作法
第 3 回	クラウドコンピューティング	Onedrive や GoogleDrive などを用いたデータの保管方法
第 4 回	ワープロ基礎 (Word online)	基本操作の確認とクラウドサービスの活用を知る
第 5 回	ワープロ応用 (Word)	テンプレートを活用した文章構成の練習
第 6 回	プレゼンテーション① (Impress, Powerpoint online)	講義やゼミで使うプレゼン資料を作成する環境を整える
第 7 回	プレゼンテーション② (Impress, Powerpoint)	基本操作の確認

第 8 回	プレゼンテーション③ (Impress, Powerpoint)	表・図形・写真の投影方法
第 9 回	表計算ソフト① (Excel)	基本操作の確認
第 10 回	表計算ソフト② (Excel)	データに応じた図表の作成方法確認
第 11 回	表計算ソフト③ (Excel)	オートフィルタを用いた数値の処理
第 12 回	表計算ソフト④ (Excel)	関数を用いた基礎的な集計処理
第 13 回	空間情報解析の導入 (MANDARA)	条件式など複雑な関数を用いた処理
第 14 回	総合実習	GIS ソフトを用いた主題図作成
		春学期の習熟度を確認する小テストなどの総合実習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

春学期：

本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する

秋学期：

様々な講義で扱う地域環境情報について分布図を作成し時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

春学期：

授業時に指示。「情報リテラシー」に関する教科書。

秋学期：

谷謙二 (2018)：『フリー GIS ソフト MANDARA10 入門：かんたん!オリジナル地図を作ろう』、古今書院。

※ 教科書は、学期始めに改めて提示する (変更の可能性あり)

【参考書】

・岡本 敏雄ほか 2017. 『改訂新版 よくわかる情報リテラシー』、技術評論社

・佐土原 聡ほか 2005. 『図解! Arc GIS 身近な事例で学ぼう』、古今書院

・川崎昭如ほか 2008. 『図解! Arc GIS Part2 GIS 実践に向けてのステップアップ』、古今書院

その他、授業の進度に合わせて適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回該当講義で紹介した実習に関わる小課題を課す。この作業結果をもって平常点 (30%) とする。

2. 主たる講義内容ごとにまとめを主眼とした課題 (30%) を課す

3. 最後に、当該学期を総括する学期末試験 (40%) を行う

上記 1. ~ 3. をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、試験や課題の有無や配分を変更することもあり得る

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、秋学期では、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の PC で実習を行う

【その他の重要事項】

本講義は情報実習室でパソコンを用いた実習を行う

*** 【厳守】 ***

・初回講義時までに、大学のパソコンにログインするための ID とパスワードを取得すること

・受講者多数の場合は、抽選を行うので初回講義に必ず出席すること

秋学期は、春学期に習得する技術を前提とした内容となっている。特に Excel に関して関数の使用方法に自信のある学生以外は、原則的に春学期、秋学期連続して受講すること。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

【オフィス・アワー】

授業前後に質問を受け付ける。また、問い合わせフォームを常設する。

【Outline (in English)】

【Course outline & Learning Objectives】

Introduction to Informatics < Geospatial information processing > course

Learn the fundamentals and applied capabilities of information literacy necessary for promoting learning in various fields at university.

Particularly in application aspect, we learn how to handle electronic maps and statistical information with location information that are frequently used in various disciplines and industries, and how to create distribution maps using them.

For doing this, to acquire the basic ability of spatial information analysis using free GIS software (MANDARA) is the purpose of this lecture.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution : 30 % ,short reports: 30%,Term-end examination: 40%

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（f コース）（2018 年度入学者）

永保 敏伸

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学入門＜空間情報処理＞コース情報科学実習＜f コース＞

大学において様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する

特に応用面では、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法を習得する。

その際、簡易GISソフト（MANDARA）を用いた空間情報解析の基礎能力を身につけることを目的とした作業を行う

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。

特に基礎部分では Excel を用いた処理技術に重点を置く。応用部分において、身につけた Excel での処理技術を用いて準備する空間情報解析のデータセットを利用した空間情報解析の基礎能力を獲得することが目標である

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

講義は原則的に実習形式（講義 → 実習 → まとめ）で行う。必要に応じて学生の成果を発表してもらうこともある

また、提供した情報を基に、各自が問題解決の手段として活用できるよう実習を行う。

講義の進捗は、当該年度に履修登録した学生の習熟度を考慮し決める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地域環境情報とは？ GIS と SIS	地域科学・環境科学と様々な情報、そして、地理情報システムと空間情報システムの概要
第 2 回	地域環境情報とその収集・管理・活用法	インターネット上に公開されている各種統計情報を扱う
第 3 回	地図（主題図）作成	MANDARA を用いた階級区分図の作成
第 4 回	地図情報の取得	国土地理院などが提供している各種地図データを扱う
第 5 回	測地系と座標変換	地図を作成する前提条件を確認する
第 6 回	ジオコーディング入門	住所や GPS を用いて位置情報を取得する
第 7 回	位置情報の活用	地図上に任意の地点（緯度経度）を描く
第 8 回	属性データの加工	1 次データに追加作業を行い、必要なデータを整える
第 9 回	主題図作成実習	自由に階級区分図を描くための準備をする
第 10 回	データの種類と表現方法	階級区分を考える上で、重要な度数分布の検討を行う
第 11 回	主題図の重ね合わせ	作成した複数の主題図を重ねて 1 枚の図で表現する
第 12 回	Google Earth 活用	MANDARA で作成した主題図を Google Earth へ出力する
第 13 回	総合実習 1	GIS ソフトによる主題図作成と解析
第 14 回	総合実習 2	秋学期の習熟度を確認する小テストなどの総合実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期：

本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する

秋学期：

様々な講義で扱う地域環境情報について分布図を作成し時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

春学期：

授業時に指示、「情報リテラシー」に関する教科書。

秋学期：

谷謙二（2018）：『フリー GIS ソフト MANDARA10 入門：かんたん！オリジナル地図を作ろう』、古今書院。

※ 教科書は、学期始めに改めて提示する（変更の可能性あり）

【参考書】

・岡本 敏雄ほか 2017. 『改訂新版 よくわかる情報リテラシー』、技術評論社

・佐土原 聡ほか 2005. 『図解！ Arc GIS 身近な事例で学ぼう』、古今書院

・川崎昭如ほか 2008. 『図解！ Arc GIS Part2 GIS 実践に向けてのステップアップ』、古今書院

その他、授業の進捗に合わせて適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回該当講義で紹介した実習に関わる小課題を課す。この作業結果をもって平常点（30%）とする。

2. 主たる講義内容ごとにまとめを主眼とした課題（30%）を課す

3. 最後に、当該学期を総括する学期末試験（40%）を行う

上記 1. ～ 3. をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、試験や課題の有無や配分を変更することもあり得る

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、秋学期では、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の PC で実習を行う

【その他の重要事項】

本講義は情報実習室でパソコンを用いた実習を行う

*** 【厳守】 ***

・初回講義時までに、大学のパソコンにログインするための ID とパスワードを取得すること

・受講者多数の場合は、抽選を行うので初回講義に必ず出席すること

秋学期は、春学期に習得する技術を前提とした内容となっている。特に Excel に関して関数の使用方法に自信のある学生以外は、原則的に春学期、秋学期連続して受講すること。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

【オフィス・アワー】

授業前後に質問を受け付ける。また、問い合わせフォームを常設する。

【Outline (in English)】

【Course outline & Learning Objectives】

Introduction to Informatics < Geospatial information processing > course

Learn the fundamentals and applied capabilities of information literacy necessary for promoting learning in various fields at university.

Particularly in application aspect, we learn how to handle electronic maps and statistical information with location information that are frequently used in various disciplines and industries, and how to create distribution maps using them.

For doing this, to acquire the basic ability of spatial information analysis using free GIS software (MANDARA) is the purpose of this lecture.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution : 30 % ,short reports: 30%,Term-end examination: 40%

PRI100FA

情報科学実習 I (f コース) (2018 年度入学者)

築城 厚三

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学で様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。春学期は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基礎に触れ、画像編集ソフトの基本的な使い方までを学ぶ。秋学期は描画ソフト、DTP (DeskTop Publishing) ソフトの活用法までを学ぶ。

【到達目標】

【春学期】大学での学習に必要な情報の収集、整理、発信にかかわる基礎的能力を習得する。画像編集ソフトを利用した基礎的な画像加工ができる。

【秋学期】描画ソフトを利用した描画の基礎的な方法を知る。DTP ソフトを利用した紙面デザインの基礎的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

基本的に通年での履修を前提として進めます。

初めの 10 回は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを学ぶ。その後、春学期は Adobe Photoshop (画像編集ソフト) までを扱い、秋学期には Illustrator (描画ソフト) と InDesign (DTP ソフト) を用いて基本的な操作方法から画像の編集、デザインの方法までを学ぶ。最終的に InDesign で冊子の見開きページを作成する。どのようにすれば簡潔かつ的確に内容を伝えることができるか、いくつかのサンプルを元に考え、実際に形にしてみるという経験を積む。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	PC スキルおよび知りたい内容等に関する簡単なアンケート。データの保存に関して。タイピング練習。
第 2 回	ワープロソフトの基本操作 1	基礎的な文書作成、画像の挿入、レポート、論文の書き方、ショートカット等。
第 3 回	ワープロソフトの基本操作 2	基礎的な文書作成、画像の挿入、レポート、論文の書き方、ショートカット等。
第 4 回	ワープロソフトの基本操作 3	レポート、論文の書き方について、課題提示。
第 5 回	表計算ソフトの基本操作 1	基本操作から簡単な関数。
第 6 回	表計算ソフトの基本操作 2	よく使う関数や実用的な関数の使用方法。
第 7 回	表計算ソフトの基本操作 3	データベース、グラフ機能、課題提示。
第 8 回	表計算ソフトの基本操作 4	実習、課題について回答例提示、解説。
第 9 回	プレゼンテーションソフトの基本操作 1	アニメーション、スライドマスタ、効果的なプレゼン方法。
第 10 回	プレゼンテーションソフトの基本操作 2	アニメーション、スライドマスタ、効果的なプレゼン方法。画像編集ソフトに触れてみる。
第 11 回	画像編集ソフトの基本操作 1	これから使うソフトのできることを。
第 12 回	画像編集ソフトの基本操作 2	写真の加工、レイヤーについて。
第 13 回	画像編集ソフトの基本操作 3	色域選択、トーンカーブ等、使える技術。
第 14 回	画像編集ソフト実習	素材加工実習、課題提示。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各ソフトの操作解説後に課題を与える。また、授業で使用した資料、解説した主な内容、作業途中のファイルなどは、授業終了後に学習支援システムにアップする。必要に応じて復習する、欠席した際には確認するなど、自主的に時間外学習に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。学習支援システムに資料をアップしておき、授業時に作業の指示をする。

【参考書】

築城厚三『ACA アドビ認定アソシエイト対応 Photoshop CC 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ

築城厚三『ACA アドビ認定アソシエイト対応 Illustrator CC 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ

『Photoshop 独習ナビ』および『Illustrator 独習ナビ』インプレスジャパン

瀧野福子『よくわかる InDesign の教科書』マイナビ

筒井美希『なるほどデザイン』Mdn

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)、課題の質と意欲 (50%)。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や疑問点、より深く知りたい内容については、リアクションペーパーやメールから随時受け付け、これらの質問に対して授業冒頭に回答しながら授業を進める。教卓からの一方通行でなく、双方向性のある授業をめざす。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の PC を使用する。教材配布は学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

コンピュータの数に限りがあるため、履修者数が多い場合は抽選を行う (上限数は実施教室による)。

文学部科目「編集実務 A」「編集実務 B」(DTP による誌面構成の方法) を履修したい学生は、事前に本科目を履修しておくことをお勧めします (当科目を履修していなくても「編集実務 A」「編集実務 B」は履修可能です)。

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn the basic and applied skill of information literacy necessary to learn in various fields at university. At first, We will study basics of word processing, spreadsheet, presentation software. Afterwards we will learn image editing software to drawing software and how to use DTP (DeskTop Publishing) software.

【Learning Objectives】

[Spring semester] To acquire basic abilities related to collecting, organizing, and disseminating information necessary for studying at university. You will be able to perform basic image processing with image editing software.

[Autumn semester] Learn the basic method of drawing using drawing software, and the basic technology of paper design using DTP software.

【Learning activities outside of classroom】

Give a task after explaining the operation of each software. The materials used in the lesson, handouts, the files in the middle of the work, etc. will be uploaded to the learning support system after the lesson. Voluntarily engage in outside of classroom learning, such as reviewing as necessary and confirming when you are absent. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Normal score: 50%, quality and willingness of the task: 50%.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（fコース）（2018年度入学者）

築城 厚三

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。春学期は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基礎に触れ、画像編集ソフトまでを学ぶ。秋学期は描画ソフト、DTP (DeskTop Publishing) ソフトの活用法までを学ぶ。

【到達目標】

【春学期】大学での学習に必要な情報の収集、整理、発信にかかわる基礎的能力を習得する。画像編集ソフトを利用した基礎的な画像加工ができる。

【秋学期】描画ソフトを利用した描画の基礎的な方法を知る。DTP ソフトを利用した紙面デザインの基礎的技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

基本的に通年での履修を前提として進めます。

初めの 10 回は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを学ぶ。その後、春学期は Adobe Photoshop (画像編集ソフト) までを扱い、秋学期には Illustrator (描画ソフト) と InDesign (DTP ソフト) を用いて基本的な操作方法から画像の編集、デザインの方法までを学ぶ。最終的に InDesign で冊子の見開きページを作成する。どのようにすれば簡潔かつ確に内容を伝えることができるか、いくつかのサンプルを元に考え、実際に形にしてみるという経験を積む。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	画像編集ソフト復習、DTP について	実習、素材加工。
第 2 回	描画ソフトの操作方法 1	シェイプの作成、塗りと線、パスの描き方。
第 3 回	描画ソフトの操作方法 2	レイヤー、オブジェクトの結合、切り抜き等。
第 4 回	描画ソフトの操作方法 3	色について、パスの練習、さまざまな機能。
第 5 回	描画ソフトの操作方法 4	パスの練習、さまざまな機能。
第 6 回	描画ソフト実習 1	実習、ロゴ等の作成。
第 7 回	描画ソフト実習 2	実習、ロゴ等の作成。
第 8 回	DTP ソフトの操作方法 1	DTP ソフトで何ができるか概観。級、歯、フォント、縦組みと横組み。
第 9 回	DTP ソフトの操作方法 2	レイアウトグリッドとフレームグリッド。各部の名称とマスターページ、ドキュメントページ。
第 10 回	DTP ソフトの操作方法 3	テキストの流し込み、文字の編集。
第 11 回	DTP ソフトの操作方法 4	画像配置、タイトルの作成、デザイン、編集。
第 12 回	DTP ソフト実習 1	課題に沿って、与えたデータを正確に組む。
第 13 回	DTP ソフト実習 2	最終課題提示、実習、課題作成。
第 14 回	DTP ソフト実習 3	実習、課題作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各ソフトの操作手順解説後に課題を与える。また、授業で使用した資料、解説した主な内容、作業途中のファイルなどは、授業終了後に学習支援システムにアップする。必要に応じて復習する、欠席した際には確認するなど、自主的に時間外学習に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。学習支援システムに資料をアップしておき、授業時に作業の指示をする。

【参考書】

築城厚三『ACA アドビ認定アソシエイト対応 Photoshop CC 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ

築城厚三『ACA アドビ認定アソシエイト対応 Illustrator CC 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ

『Photoshop 独習ナビ』および『Illustrator 独習ナビ』インプレスジャパン

瀧野福子『よくわかる InDesign の教科書』マイナビ

筒井美希『なるほどデザイン』MdN

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)、課題の質と意欲 (50%)。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や疑問点、より深く知りたい内容については、リアクションペーパーやメールから随時受け付け、これらの質問に対して授業冒頭に回答ながら授業を進める。教卓からの一方通行でなく、双方向性のある授業をめざす。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の PC を使用する。教材配布は学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

コンピュータの数に限りがあるため、履修者数が多い場合は抽選を行う（上限数は実施教室による）。

文学部科目「編集実務 A」「編集実務 B」（DTP による誌面構成の方法）を履修したい学生は、事前に本科目を履修しておくことをお勧めします（当科目を履修していなくても「編集実務 A」「編集実務 B」は履修可能です）。

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn the basic and applied skill of information literacy necessary to learn in various fields at university. At first, We will study basics of word processing, spreadsheet, presentation software. Afterwards we will learn image editing software to drawing software and how to use DTP (DeskTop Publishing) software.

【Learning Objectives】

【Spring semester】To acquire basic abilities related to collecting, organizing, and disseminating information necessary for studying at university. You will be able to perform basic image processing with image editing software.

【Autumn semester】Learn the basic method of drawing using drawing software, and the basic technology of paper design using DTP software.

【Learning activities outside of classroom】

Give a task after explaining the operation of each software. The materials used in the lesson, handouts, the files in the middle of the work, etc. will be uploaded to the learning support system after the lesson. Voluntarily engage in outside of classroom learning, such as reviewing as necessary and confirming when you are absent. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Normal score: 50%, quality and willingness of the task: 50%.

PRI100FA

情報科学実習 I (f コース) (2018 年度入学者)

石川 潔

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

特に (外国語) 教師になりたい場合や言語学を学びたい場合に必要となる部分に重点を置いて、入門レベルのパソコン・スキルを身につけます。

【到達目標】

パソコンを使って、レポートや卒論がきちんと書けるようになり、(外国語) 教育や言語研究で必要になるパソコン・スキルの初歩を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

パソコン実習となります。

提出課題にコメントをする予定。

授業計画は、学生の理解度その他の事情により変更となる可能性があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、環境設定	全体の説明、および各自のパソコンの環境の設定
第 2 回	パソコンって何?	大まかな仕組み
第 3 回	パソコンの基本操作	パソコンと Windows の基本操作の学習
第 4 回	文書作成の基本 1	全角・半角の区別、英字・日本語の入力の練習
第 5 回	文書作成の基本 2	テキスト・ファイル、文字サイズ、字体、フォント、など
第 6 回	文書作成の基本 3	漢字コードの使い分け、IPA (発音) 記号など
第 7 回	パソコン操作のテクニック	動かなくなった時、やり直しをしたい時などに、どうしたらいい?
第 8 回	パソコンでのメール	メールの読み書き環境、書き方、読み方
第 9 回	作文法	レポートや論文の書き方の基本
第 10 回	Word でのレポート作成術 1	字数と語数、脚注、コメントなど
第 11 回	Word でのレポート作成術 2	(例文、図、表などの) 番号と相互参照
第 12 回	Word でのレポート作成術 3	ファイルの埋め込み、など
第 13 回	Word でのレポート作成術 4	(樹形) 図の作成、など
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

趣味などのために自宅でパソコンを使うのに加えて、特に復習をやりまくってください。パソコンの入門には、一種の「スポーツ」という側面があります。つまり、「習うより慣れよ」です。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

学習支援システムで資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて適宜、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 100 %。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には良い評価をいただけたと思うのですが、一昨年の評価ほどではなかったように思います。一昨年のレベルに戻れるように頑張ります。

【その他の重要事項】

授業計画は「参考」であり、学生の理解度などに応じて柔軟に変更していくつもりです。

【関連科目】

文学部英文学科等の (言語系の) 諸科目

【実務経験のある教員による授業】

N/A.

【Outline (in English)】

(Course outline) Introductory lessons for using personal computers, especially for prospective (foreign language) teachers as well as students of linguistics.

(Learning Objectives) To be able to write up term papers/theses in a decent manner; to have acquired PC skills for conducting L2 and linguistic research.

(Learning activities outside of classroom) Practice!

(Grading Criteria / Policy) In-class assignments (100%)

PR1100FA

情報科学実習Ⅱ (f コース) (2018年度入学者)

石川 潔

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

特に (外国語) 教師になりたい場合や言語学を学びたい場合に必要となる部分に重点を置いて、入門レベルのパソコン・スキルを身につけます。

【到達目標】

パソコンを使って、レポートや卒論がきちんと書けるようになり、(外国語) 教育や言語研究で必要になるパソコン・スキルの初歩を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

パソコン実習となります。

提出課題にコメントをする予定。

授業計画は、学生の理解度その他の事情により変更となる可能性があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Word での卒論作成術	セクション区切り、目次の自動作成、など
第 2 回	インターネットの基本	大まかな仕組み、検索法、など
第 3 回	プレゼン・ツールの基本	プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の基本操作と応用
第 4 回	Excel : 最初の一步	点数の合計や平均を計算してみる
第 5 回	Excel : セル操作	セル結合、罫線、色分け、折り返し表示、などなど
第 6 回	Excel : データ型	データ型の概念、表示の操作
第 7 回	Excel でのグラフ作成の初歩	様々な種類のグラフを作り、Word 文書にコピペ
第 8 回	Excel での成績計算 1	点数操作!!
第 9 回	Excel での成績計算 2	条件分岐および変換表による letter grade への変換
第 10 回	データ分析 1	朝食を食べると成績が良いって本当?
第 11 回	データ分析 2	「分析ツール」などの導入
第 12 回	コーパスって何?	英単語や日本語単語の頻度調査をやってみる!
第 13 回	音声の扱い 1	パソコンでの音声データの記録方式
第 14 回	音声の扱い 2	録音と編集

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

趣味などのために自宅でパソコンを使うのに加えて、特に復習をやりまくってください。パソコンの入門には、一種の「スポーツ」という側面があります。つまり、「習うより慣れよ」です。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

学習支援システムで資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて適宜、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 100 %。

【学生の意見等からの気づき】

悪い評価ではなかったのですが、一昨年の評価に比べると下がってしまいました。一昨年のレベルまたはそれ以上にすべく、頑張ります。

【その他の重要事項】

授業計画は「参考」であり、学生の理解度などに応じて柔軟に変更していくつもりです。

また、春学期の「情報学入門Ⅰ (言語データ処理)」と連続履修してください (履修希望者多数の場合は、春学期の初回にて選抜を行います。原則、秋学期のみの履修は受け入れておりません)。

【関連科目】

文学部英文学科等の言語系の諸科目

【実務経験のある教員による授業】

N/A.

【Outline (in English)】

(Course outline) Introductory lessons for using personal computers, especially for prospective (foreign language) teachers as well as students of linguistics.

(Learning Objectives) To be able to write up term papers/theses in a decent manner; to have acquired PC skills for conducting L2 and linguistic research.

(Learning activities outside of classroom) Practice!

(Grading Criteria/Policy) In-class assignments (100%)

PRI100FA

情報科学実習 I (2016～2017 年度入学者)

根岸 良征

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windows の基本操作を学習する。
第 2 回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第 3 回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第 4 回	インターネット検索	各種の Web サイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第 5 回	文書の入力	日本語ワープロソフト (Microsoft Word) での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第 6 回	文書編集の基本操作	Word による基本的な文書編集操作を学習する。
第 7 回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第 8 回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第 9 回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第 10 回	表計算の基礎知識	表計算ソフト (Microsoft Excel) を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第 11 回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第 12 回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第 13 回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第 14 回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習 (60%) を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します (テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PR1100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

根岸 良征

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム（Hoppii）で提示することがあります。課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を学ぶ。
第 2 回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第 3 回	ワークシート編集の基礎	Excel での複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第 4 回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第 5 回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第 6 回	応用的な関数の利用	if 関数や lookup 関数を利用した集計処理を学習する。
第 7 回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第 8 回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第 9 回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第 10 回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど）の作成について学ぶ。
第 11 回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第 12 回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第 13 回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第 14 回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度（20%）、定期的な課題提出（20%）を考慮して評価します（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります）。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016～2017 年度入学者)

上野 京子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windows の基本操作を学習する。
第 2 回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第 3 回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第 4 回	インターネット検索	各種の Web サイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第 5 回	文書の入力	日本語ワープロソフト (Microsoft Word) での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第 6 回	文書編集の基本操作	Word による基本的な文書編集操作を学習する。
第 7 回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第 8 回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第 9 回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第 10 回	表計算の基礎知識	表計算ソフト (Microsoft Excel) を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第 11 回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第 12 回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第 13 回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第 14 回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習 (60%) を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します (テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PR1100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

上野 京子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム（Hoppii）で提示することがあります。課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を学ぶ。
第 2 回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第 3 回	ワークシート編集の基礎	Excel での複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第 4 回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第 5 回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第 6 回	応用的な関数の利用	if 関数や lookup 関数を利用した集計処理を学習する。
第 7 回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第 8 回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第 9 回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第 10 回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど）の作成について学ぶ。
第 11 回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第 12 回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第 13 回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第 14 回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度（20%）、定期的な課題提出（20%）を考慮して評価します（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります）。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016～2017 年度入学者)

上野 京子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。

課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windows の基本操作を学習する。
第 2 回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第 3 回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第 4 回	インターネット検索	各種の Web サイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第 5 回	文書の入力	日本語ワープロソフト (Microsoft Word) での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第 6 回	文書編集の基本操作	Word による基本的な文書編集操作を学習する。
第 7 回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第 8 回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第 9 回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第 10 回	表計算の基礎知識	表計算ソフト (Microsoft Excel) を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第 11 回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第 12 回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第 13 回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第 14 回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習 (60%) を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します (テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PR1100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

上野 京子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。

本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の基本操作を学ぶ。
第 2 回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第 3 回	ワークシート編集の基礎	Excel での複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第 4 回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第 5 回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第 6 回	応用的な関数の利用	if 関数や lookup 関数を利用した集計処理を学習する。
第 7 回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第 8 回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第 9 回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第 10 回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど）の作成について学ぶ。
第 11 回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第 12 回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第 13 回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第 14 回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行っていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習 (60%) を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します (テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります)。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.

(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016～2017 年度入学者)

根岸 良征

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

根岸 良征

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016～2017 年度入学者)

三宅 修平

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

三宅 修平

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016～2017 年度入学者)

飯塚 康至

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

飯塚 康至

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016～2017 年度入学者)

三宅 修平

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

三宅 修平

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅰ（2016～2017年度入学者）

島田 由美子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム（hoppii）を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

島田 由美子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016～2017 年度入学者)

高田 美樹

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

高田 美樹

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016~2017 年度入学者)

高田 美樹

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

高田 美樹

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016~2017 年度入学者)

高田 美樹

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

高田 美樹

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016～2017 年度入学者)

三宅 修平

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース] ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

[関連科目]

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

三宅 修平

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016～2017 年度入学者)

島田 由美子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

島田 由美子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016~2017 年度入学者)

根岸 良征

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース] ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

根岸 良征

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016～2017 年度入学者)

根岸 良征

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

根岸 良征

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース]ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016～2017 年度入学者)

児玉 靖司

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

児玉 靖司

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅰ（2016～2017年度入学者）

島田 由美子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム（hoppii）を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

島田 由美子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016～2017 年度入学者)

島田 由美子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

島田 由美子

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016~2017 年度入学者)

田中 元一郎

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

田中 元一郎

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016～2017 年度入学者)

高田 美樹

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース] ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

高田 美樹

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016～2017 年度入学者)

高田 美樹

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、[データ演習コース] ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

高田 美樹

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅰ（2016～2017年度入学者）

田中 元一郎

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム（hoppii）を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

田中 元一郎

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016~2017 年度入学者)

木村 昌史

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

木村 昌史

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016~2017 年度入学者)

田中 元一郎

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

田中 元一郎

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016~2017 年度入学者)

田中 元一郎

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング (VBA) に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要 (Course outline)】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム (hoppii) を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について (1)	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法 (2)	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法 (3)	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算 (1)	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算 (2)	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

田中 元一郎

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データ演習コース」ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

テスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【Learning Objectives】

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

【Learning Activities outside of classroom】

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016~2017 年度入学者)

渡辺 英人

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word, Excel, PowerPoint, そして Access などの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会で活躍するようになってからも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人になるための基礎力が身につく！ 在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータ:ハードウェアとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。初心者や苦手意識のある人ほど参加して欲しい。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

在学中のみならず、社会に出てからも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターとは何か (ハードウェアとソフトウェア)	情報処理の基礎
第 2 回	キーボード入力練習	情報処理の基礎
第 3 回	機器の取扱いと Windows の操作法	情報処理の基礎
第 4 回	電子メールやソーシャルメディアの利用	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。
第 5 回	インターネットと大学生の研究・学習	インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
第 6 回	ワープロ操作 (Word による文章入力の練習)	情報処理の基礎。文書作成法。
第 7 回	ワープロ操作 (Word による文章入力の練習)	プレゼンテーション用資料作成の方法。
第 8 回	インターネットと Word を使った課題作成	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
第 9 回	Excel の操作法 (基本操作)	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
第 10 回	Excel の操作法 (計算機能と関数)	表計算ソフトの計算機能について解説。
第 11 回	Excel の操作法 (表作成)	表計算ソフトの表作成機能について解説。
第 12 回	Excel の操作法 (グラフの作成)	表計算ソフトのグラフ作成機能について解説。
第 13 回	Excel とインターネットを使ってデータ収集、再利用方法 (Excel データベース入門)	インターネット上から、統計資料、データをダウンロードして、効率よく処理蓄積し、再利用する方法を解説。
第 14 回	Excel とプレゼンテーション (データベースと資料作成)	プレゼンテーションに効果的な Excel 資料の作成方法について解説。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に指定する。USB フラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期に試験 (課題作成：50%) を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況 (平常点：50%) を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】

データ保存用に USB フラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】

実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！ 大切なことは「意欲がある」ことだけ！ 「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【関連科目】

大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

It is an introductory information and technology science course for university students. Using leading software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access to learn social sciences, humanities, etc., everyone at university knows the useful knowledge and technology even after becoming active in society, I will explain it easily and surely master it. How to find useful information from the literature and the Internet, searching, collecting, efficient sorting, effective use and practical content. I will acquire the fundamental power as a college student, the basic ability to become a society person! It will definitely help not only during your studies, but also for the future!

All students will learn how to deepen their research and learning by efficiently using information equipment, especially personal computers: hardware and software, to solve various problems in "social science" and "humanities" studied at university. The goal is to be able to understand and apply it accurately. I want beginners and people who are not good at it to participate. Let's acquire "useful" skills not only while in college but also after going out to society!

If necessary, we will distribute materials that describe the content of the lesson in advance, so please do not only review but also prepare for the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Exams (assignment creation: 50%) will be held in the spring and fall semesters. We will evaluate each person's level of understanding and participation in the class (normal score: 50%).

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

渡辺 英人

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word, Excel, PowerPoint, そして Access などの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会で活躍するようになってからも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人になるための基礎力が身につく！ 在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータ:ハードウェアとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、活用できるようになることが目標です。初心者や苦手意識のある人ほど参加して欲しい。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

在学中のみならず、社会に出てからも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターとは何か (ハードウェアとソフトウェア) II	情報処理の基礎
第 2 回	キーボード入力練習 II	情報処理の基礎
第 3 回	機器の取扱いと Windows の操作法 II	情報処理の基礎
第 4 回	電子メールやソーシャル メディアの利用。とくに 情報利用の倫理と法的問題 を学ぶ。	電子メールの利用やその他のソーシャル メディアについて。操作、利用、マ ナーや法的問題など解説する。
第 5 回	インターネットと大学生 の研究・学習。データ ベースについて考える。	インターネットを利用した効率的な情 報検索、収集の基礎。
第 6 回	Excel の基本操作と応用 II	Excel 情報処理の基礎。表やグラフ作 成法。
第 7 回	Excel を使ってデータ ベースを作る。	Excel によるデータベースを学習や研 究に活用する方法。
第 8 回	Excel とインターネット を使った課題作成。	インターネットを利用した情報検索、 収集と Excel を使って情報分析課題 作成。
第 9 回	Excel とインターネット を使って、オープンソー ス・データ分析の方法解 説。	表計算ソフト Excel を使って、公開情 報（オープンソース）データの収集、 入力、読み込み、保存、分析。
第 10 回	Access の基本と操作法、 とくに Excel との違いや 使い分けについて	データベースソフト Access と表計算 ソフト Excel の比較や相互利用・活 用について解説。
第 11 回	Access とインターネッ トを使って、オープン ソース・データ分析の方 法解説。	データベースソフト Access を使って、 公開情報（オープンソース）データの 収集、蓄積、再利用、活用法の解説。
第 12 回	Access を使って、イン ターネット上の情報を データベース化する。	データベースソフト Access を使い、 自分でデータベースの設計、情報収 集、蓄積、再利用を実践する。
第 13 回	Access および Excel と インターネットを使って データ収集、再利用方法。 課題作成。	インターネット上から、統計資料、 データをダウンロードして、効率よく 処理蓄積し、再利用する方法を解説。 課題作成。

第 14 回 大学生にとって必要な情 学習や研究に、そして社会人基礎力と
報収集、蓄積、分析手法 しての情報処理と応用について考える。
について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定する。USB フラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期に試験（課題作成：50%）を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況（平常点：50%）を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】

データ保存用に USB フラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】

実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【関連科目】

大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

It is an introductory information and technology science course for university students. Using leading software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access to learn social sciences, humanities, etc., everyone at university knows the useful knowledge and technology even after becoming active in society, I will explain it easily and surely master it. How to find useful information from the literature and the Internet, searching, collecting, efficient sorting, effective use and practical content. I will acquire the fundamental power as a college student, the basic ability to become a society person! It will definitely help not only during your studies, but also for the future!

All students will learn how to deepen their research and learning by efficiently using information equipment, especially personal computers: hardware and software, to solve various problems in "social science" and "humanities" studied at university. The goal is to be able to understand and apply it accurately. I want beginners and people who are not good at it to participate. Let's acquire "useful" skills not only while in college but also after going out to society!

If necessary, we will distribute materials that describe the content of the lesson in advance, so please do not only review but also prepare for the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Exams (assignment creation: 50%) will be held in the spring and fall semesters. We will evaluate each person's level of understanding and participation in the class (normal score: 50%).

PR1100FA

情報科学実習 I (2016~2017 年度入学者)

渡辺 英人

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word, Excel, PowerPoint, そして Access などの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会で活躍するようになってからも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人になるための基礎力が身につく！ 在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータ:ハードウェアとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。初心者や苦手意識のある人ほど参加して欲しい。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

在学中のみならず、社会に出てからも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターとは何か (ハードウェアとソフトウェア)	情報処理の基礎
第 2 回	キーボード入力練習	情報処理の基礎
第 3 回	機器の取扱いと Windows の操作法	情報処理の基礎
第 4 回	電子メールやソーシャルメディアの利用	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。
第 5 回	インターネットと大学生の研究・学習	インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
第 6 回	ワープロ操作 (Word による文章入力の練習)	情報処理の基礎。文書作成法。
第 7 回	ワープロ操作 (Word による文章入力の練習)	プレゼンテーション用資料作成の方法。
第 8 回	インターネットと Word を使った課題作成	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
第 9 回	Excel の操作法 (基本操作)	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
第 10 回	Excel の操作法 (計算機能と関数)	表計算ソフトの計算機能について解説。
第 11 回	Excel の操作法 (表作成)	表計算ソフトの表作成機能について解説。
第 12 回	Excel の操作法 (グラフの作成)	表計算ソフトのグラフ作成機能について解説。
第 13 回	Excel とインターネットを使ってデータ収集、再利用方法 (Excel データベース入門)	インターネット上から、統計資料、データをダウンロードして、効率よく処理蓄積し、再利用する方法を解説。
第 14 回	Excel とプレゼンテーション (データベースと資料作成)	プレゼンテーションに効果的な Excel 資料の作成方法について解説。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に指定する。USB フラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期に試験 (課題作成：50%) を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況 (平常点：50%) を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】

データ保存用に USB フラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】

実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！ 大切なことは「意欲がある」ことだけ！ 「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【関連科目】

大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

It is an introductory information and technology science course for university students. Using leading software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access to learn social sciences, humanities, etc., everyone at university knows the useful knowledge and technology even after becoming active in society, I will explain it easily and surely master it. How to find useful information from the literature and the Internet, searching, collecting, efficient sorting, effective use and practical content. I will acquire the fundamental power as a college student, the basic ability to become a society person! It will definitely help not only during your studies, but also for the future!

All students will learn how to deepen their research and learning by efficiently using information equipment, especially personal computers: hardware and software, to solve various problems in "social science" and "humanities" studied at university. The goal is to be able to understand and apply it accurately. I want beginners and people who are not good at it to participate. Let's acquire "useful" skills not only while in college but also after going out to society!

If necessary, we will distribute materials that describe the content of the lesson in advance, so please do not only review but also prepare for the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Exams (assignment creation: 50%) will be held in the spring and fall semesters. We will evaluate each person's level of understanding and participation in the class (normal score: 50%).

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

渡辺 英人

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word, Excel, PowerPoint, そして Access などの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会で活躍するようになってからも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人になるための基礎力が身につく！ 在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータ:ハードウェアとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、活用できるようになることが目標です。初心者や苦手意識のある人ほど参加して欲しい。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

在学中のみならず、社会に出てからも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターとは何か（ハードウェアとソフトウェア）Ⅱ	情報処理の基礎
第 2 回	キーボード入力練習Ⅱ	情報処理の基礎
第 3 回	機器の取扱いと Windows の操作Ⅱ	情報処理の基礎
第 4 回	電子メールやソーシャルメディアの利用。とくに情報利用の倫理と法的問題を学ぶ。	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーや法的問題など解説する。
第 5 回	インターネットと大学生の研究・学習。データベースについて考える。	インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
第 6 回	Excel の基本操作と応用Ⅱ	Excel 情報処理の基礎。表やグラフ作成法。
第 7 回	Excel を使ってデータベースを作る。	Excel によるデータベースを学習や研究に活用する方法。
第 8 回	Excel とインターネットを使った課題作成。	インターネットを利用した情報検索、収集と Excel を使って情報分析課題作成。
第 9 回	Excel とインターネットを使って、オープンソース・データ分析の方法解説。	表計算ソフト Excel を使って、公開情報（オープンソース）データの収集、入力、読み込み、保存、分析。
第 10 回	Access の基本と操作法、とくに Excel との違いや使い分けについて	データベースソフト Access と表計算ソフト Excel の比較や相互利用・活用について解説。
第 11 回	Access とインターネットを使って、オープンソース・データ分析の方法解説。	データベースソフト Access を使って、公開情報（オープンソース）データの収集、蓄積、再利用、活用法の解説。
第 12 回	Access を使って、インターネット上の情報をデータベース化する。	データベースソフト Access を使い、自分でデータベースの設計、情報収集、蓄積、再利用を実践する。
第 13 回	Access および Excel とインターネットを使ってデータ収集、再利用方法。課題作成。	インターネット上から、統計資料、データをダウンロードして、効率よく処理蓄積し、再利用する方法を解説。課題作成。

第 14 回 大学生にとって必要な情報学習や研究に、そして社会人基礎力と情報収集、蓄積、分析手法としての情報処理と応用について考える。について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定する。USB フラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期に試験（課題作成：50%）を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況（平常点：50%）を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】

データ保存用に USB フラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】

実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【関連科目】

大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

It is an introductory information and technology science course for university students. Using leading software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access to learn social sciences, humanities, etc., everyone at university knows the useful knowledge and technology even after becoming active in society, I will explain it easily and surely master it. How to find useful information from the literature and the Internet, searching, collecting, efficient sorting, effective use and practical content. I will acquire the fundamental power as a college student, the basic ability to become a society person! It will definitely help not only during your studies, but also for the future!

All students will learn how to deepen their research and learning by efficiently using information equipment, especially personal computers: hardware and software, to solve various problems in "social science" and "humanities" studied at university. The goal is to be able to understand and apply it accurately. I want beginners and people who are not good at it to participate. Let's acquire "useful" skills not only while in college but also after going out to society!

If necessary, we will distribute materials that describe the content of the lesson in advance, so please do not only review but also prepare for the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Exams (assignment creation: 50%) will be held in the spring and fall semesters. We will evaluate each person's level of understanding and participation in the class (normal score: 50%).

PRI100FA

情報科学実習 I (2016～2017 年度入学者)

木村 昌史

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学の基礎としてまず PC を用いた文書の作成、プレゼンテーション、表計算、ネットワーク利用による情報収集する方法を学ぶ。データベースコースでは特に Excel と Access を基礎としたデータ処理法とデータベースや他ソフトウェアとの連携の方法を学び、現代のネットワークで重要になっているデータベースの基礎を理解する。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのデータ処理の基礎を理解することを目標とする。さらにデータベースの基礎と活用法を学び、実務に必要な問題解決の事例を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの利用、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションの方法等を学習する。以上と PC のキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データベースコース」では標準的なソフトウェアである Excel と連携しながら Access や Web によるデータベースの基礎などを学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的なデータの例題を取り上げ、独自のデータ処理のために PC を活用できるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに小さい課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

原則として対面授業で行う予定だが、情勢によってはオンライン授業になる場合もある。その場合には学習支援システム (Hoppii) 等で提示するので参照のこと。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力と練習とブライントタッチについて学ぶ。
第 3 回	Microsoft Word の基本操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	Microsoft PowerPoint の基本操作	PowerPoint の基本的な使い方、プレゼンテーションについて学ぶ。
第 5 回	Google Workspace の利用法	電子メールの書き方、クラウドサービスの活用について学ぶ。
第 6 回	Microsoft Excel の基本操作	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	Excel による基本集計	表計算による基本集計、関数の利用について学ぶ。
第 8 回	Excel によるデータ処理	表計算の応用として簡単なデータ処理について学ぶ。
第 9 回	Excel によるクロス集計	表計算の応用としてピボットテーブルによるクロス集計について学ぶ。
第 10 回	Excel によるデータ分析 (1)	2 種類のデータについての分析方法について学ぶ。 また Excel マクロについて学ぶ。
第 11 回	Excel によるデータ分析 (2)	2 種類以上のデータについての分析方法について学ぶ。また Excel マクロの応用について学ぶ。
第 12 回	Excel によるデータベース的処理 (1)	データベース関数の役割と利用法について学ぶ。
第 13 回	Excel によるデータベース的処理 (2)	外部データとの交換を含む処理方法について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめと総合レポートの作成を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

PC の基本操作、各種ソフトウェアやクラウドサービスについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。
各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】

Access 2019 基礎 セミナーテキスト (2019)

発行：日経 BP

【成績評価の方法と基準】

春学期に 1 回のテスト (または総合レポートの提出) 40 % と各回授業の課題提出 60 % により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度に課題の進捗状況の確認を行い、受講者の理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。

法政大学からライセンス利用できる Office 365 ProPlus を自宅 PC などに導入することも推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータ処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

This course introduces Infomatics to students taking this course.

As an introduction to Informatics we first learn documentation, presentation and spreadsheet using a PC and methods of information collection using network. Next in this course we learn data processing and ways of connections to database and other softwares, especially using Excel's operations.

The goal of this course are to understand basic concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

木村 昌史

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎としてまず PC を用いた文書の作成、プレゼンテーション、表計算、ネットワーク利用による情報収集する方法を学ぶ。データベースコースでは特に Excel と Access を基礎としたデータ処理法とデータベースや他ソフトウェアとの連携の方法を学び、現代のネットワークで重要になっているデータベースの基礎を理解する。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのデータ処理の基礎を理解することを目標とする。さらにデータベースの基礎と活用法を学び、実務に必要な問題解決の事例を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの利用、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションの方法等を学習する。以上と PC のキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、「データベースコース」では標準的なソフトウェアである Excel と連携しながら Access や Web によるデータベースの基礎などを学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的なデータの例題を取り上げ、独自のデータ処理のために PC を活用できるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに小さい課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

原則として対面授業で行う予定だが、情勢によってはオンライン授業になる場合もある。その場合には学習支援システム（Hoppii）等で提示するので参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	データベースの基本	ネットワークにおいて重要なデータベースの考え方について学ぶ。
第 2 回	データの収集	ネットワーク上の公開データの活用方法について学ぶ。
第 3 回	Excel とデータベースの関係	Office の中の Excel と Access などの役割の違いについて学ぶ。
第 4 回	Excel データのエクスポート	Excel を中心としたデータ交換について学ぶ。
第 5 回	Access の基本 (1)	データベースの例として Access の基本操作について学ぶ。
第 6 回	Access の基本 (2)	Access による基本的検索方法について学ぶ。
第 7 回	クエリの利用 (1)	データベースにおけるクエリの役割について学ぶ。
第 8 回	クエリの利用 (2)	データベースにおけるクエリの種類と利用について学ぶ。
第 9 回	SQLite データベースの利用 (1)	処理の自動化のための Excel マクロの役割について学ぶ。
第 10 回	SQLite データベースの利用 (2)	Excel マクロによるデータ処理について学ぶ。
第 11 回	SQL の基本 (1)	データベースの操作における SQL の役割について学ぶ。
第 12 回	SQL の基本 (2)	データベースの操作における SQL の使い方について学ぶ。
第 13 回	Web データとの関係	ネットワーク上のデータベースの処理方法について学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめと総合レポートの作成を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PC の基本操作、各種ソフトウェアやクラウドサービスについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】

Access 2019 応用 セミナーテキスト (2019)

発行：日経 BP

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつのテスト（または総合レポートの提出）40 % と各回授業の課題提出 60 % により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度に課題の進捗状況の確認を行い、受講者の理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。

法政大学からライセンス利用できる Office 365 ProPlus を自宅 PC などに導入することも推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータ処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】

実際に、データベースに関連した業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

This course introduces Informatics to students taking this course.

As an introduction to Informatics we already learned documentation, presentation and spreadsheet using a PC and methods of information collection using network. Continuously in this course we learn data processing and ways of connections to database and other softwares, especially using Excel's and Access' operations.

The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

PR1100FA

情報科学実習 I (2016~2017 年度入学者)

小寺 浩二

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学で、様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。特に応用面では、現在、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易GISソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。
特に、空間情報解析の基礎能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

前半は、総合的な情報リテラシーを重視した内容で、ワープロ・電子メール・インターネット・表計算ソフト・プレゼンテーションを利用した表現法などについて学ぶ。各学部学科や、個人的に興味のあるテーマに沿って総合的な情報リテラシー活用法を身につけた上で、後半では、電子地図・衛星画像・統計情報などを利用して様々なマップ(分布図)を作り、様々な地域環境情報の活用法を習得する。利用するのは、高度なGISソフトではなく、無料で手に入り、誰でも使えるフリーソフトなので、今後の様々なレポート作成などにも活用することができる貴重な能力を身につけることができる。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報リテラシーについて	情報リテラシーについて、学び、調べ、まとめる
第 2 回	コンピュータの構成 (ハードウェア)	コンピュータの構成 (ハードウェア) について、学び、調べ、まとめる
第 3 回	コンピュータの構成 (ソフトウェア)	コンピュータの構成 (ソフトウェア) について、学び、調べ、まとめる
第 4 回	ワープロ入門	Word による文章入力
第 5 回	ワープロ応用	Word による文書体裁など
第 6 回	表計算ソフト入門	Excel の基本操作習熟
第 7 回	表計算ソフト活用	Excel での表・図の作成
第 8 回	表計算ソフト応用	Excel での統計解析
第 9 回	プレゼンテーション入門	PowerPoint の基礎
第 10 回	プレゼンテーション応用	PowerPoint の応用
第 11 回	空間情報解析入門	GIS の基礎 (MANDARA による都道府県別データの図化)
第 12 回	空間情報解析活用	GIS の活用 (MANDARA による市町村別データの図化)
第 13 回	空間情報解析応用	GIS の応用 (MANDARA による町丁目データの図化)
第 14 回	総合実習	個別テーマによる総合実習

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

できる限り本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。

同様に、様々な講義で扱う地域環境情報について、分布図を作成し、時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

前半：第 1 回授業時に指示。「情報リテラシー」に関する教科書。後半：後藤真太郎ほか(2013)：『MANDARA と EXCEL による市民のためのGIS講座(第3版)』,古今書院

【参考書】

・中村和郎ほか(2002)：『地理情報システムを学ぶ』,古今書院
・佐土原 聡ほか(2005)：『図解! Arc GIS 身近な事例で学ぼう』,古今書院
・川崎昭如ほか(2008)：『図解! Arc GIS Part2 GIS 実践に向けてのステップアップ』,古今書院
その他、授業の進捗に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)、課題(30%)、試験(40%)をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、配点を変更することもあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のPCで実習を行う。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

SIS

GIS

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

When advancing learning of the various fields at a university, necessary basis of information literacy and application ability are acquired. It's often used by the various learning fields and business categories at present by the application area in particular, and the basis ability of the spatial information analysis using the electronic map it was, how to handle it statistics information with position information, a creating method of a distribution map using those and simple GIS software is learned.

Acquire the basics and applied abilities of information literacy.

In particular, develop the basic ability of spatial information analysis.

In the spring semester, students will learn about word processors, e-mail, the Internet, spreadsheet software, and presentation methods, with an emphasis on comprehensive information literacy. After learning comprehensive literacy utilization methods according to each faculty and department and the theme of personal interest, in the fall semester, various maps using electronic maps, satellite images, statistical information, etc. (Make a distribution map) and learn how to use various regional environmental information. It is not an advanced GIS software, but a free software that can be obtained for free and can be used by anyone, so you can acquire valuable abilities that can be used for creating various reports in the future.

Spring semester: Make efforts to work on various learning and assignment creation by using what you learned in this class as much as possible.

Autumn semester: Similarly, create a distribution map of regional environmental information handled in various lectures and try spatiotemporal analysis. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

小寺 浩二

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で、様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。特に応用面では、現在、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易GISソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。
特に、空間情報解析の基礎・応用の能力を育成する。
様々な空間情報を入力し、加工し、解析して、図化する総合的な能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

I で学んだ総合的な情報リテラシーを活用し、各学部学科独自のテーマや個人的に興味のあるテーマに沿って、電子地図・衛星画像・統計情報などを利用して様々なマップ（分布図）を作り、様々な地域環境情報の活用法を習得する。利用するのは、高度なGISソフトではなく、無料で手に入り、誰でも使えるフリーソフトなので、今後の様々なレポート作成などにも活用することができる貴重な能力を身につけることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理情報システム（GIS）について	地理情報システムの基礎を学ぶ
第2回	広域の空間情報解析	日本全体のデータをもとに空間解析を学ぶ
第3回	都道府県別の空間情報解析	都道府県別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第4回	市町村別の空間情報解析	市町村別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第5回	町丁目別の空間情報解析	町丁目別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第6回	地点データの登録と活用	緯度経度による地点データの登録と活用を学ぶ
第7回	バッファリング	バッファリングの基礎と応用について学ぶ
第8回	土地利用データ解析の基礎	土地利用データ解析の基礎について学ぶ
第9回	土地利用データ解析の活用	複数年の土地利用データの解析と連続表示について学ぶ
第10回	土地利用データ解析の応用	複数年の土地利用の変化について解析する方法について学ぶ
第11回	総合実習①	個別テーマに沿って、空間情報を収集し、マップを作成する
第12回	総合実習②	様々な地域空間情報を用いて図化する
第13回	総合実習③	図化された様々な地域空間情報を総合的に解析する
第14回	まとめ	総合実習の結果をもとに発表し、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期に学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。

自ら選んだテーマに沿って、様々な地域環境情報を収集し、分布図を作成し、時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第1回授業時に指示。

【参考書】

・後藤真太郎ほか（2013）：『MANDARA と EXCEL による市民のためのGIS講座（第3版）』、古今書院
 ・中村和郎ほか（2002）：『地理情報システムを学ぶ』、古今書院
 ・佐土原 聡ほか（2005）：『図解！ Arc GIS 身近な事例で学ぼう』、古今書院
 ・川崎昭如ほか（2008）：『図解！ Arc GIS Part2 GIS 実戦に向けてのステップアップ』、古今書院

その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、課題（30%）、最終成果発表（40%）をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、配点を変更することもあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広く情報リテラシーの応用能力を育成した上で、各専門分野の興味に従った地域空間情報解析の対応ができるようになる。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のPCで実習を行う。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

SIS

GIS

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

When advancing learning of the various fields at a university, necessary basis of information literacy and application ability are acquired. It's often used by the various learning fields and business categories at present by the application area in particular, and the basis ability of the spatial information analysis using the electronic map it was, how to handle it statistics information with position information, a creating method of a distribution map using those and simple GIS software is learned.

Acquire the basics and applied abilities of information literacy.

In particular, develop the basic ability of spatial information analysis.

In the spring semester, students will learn about word processors, e-mail, the Internet, spreadsheet software, and presentation methods, with an emphasis on comprehensive information literacy. After learning comprehensive literacy utilization methods according to each faculty and department and the theme of personal interest, in the fall semester, various maps using electronic maps, satellite images, statistical information, etc. (Make a distribution map) and learn how to use various regional environmental information. It is not an advanced GIS software, but a free software that can be obtained for free and can be used by anyone, so you can acquire valuable abilities that can be used for creating various reports in the future.

Spring semester: Make efforts to work on various learning and assignment creation by using what you learned in this class as much as possible.

Autumn semester: Similarly, create a distribution map of regional environmental information handled in various lectures and try spatiotemporal analysis. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Comprehensive evaluation will be made by combining normal points (30%), tasks (30%), and exams (40%). Depending on the progress of the lesson, the points may be changed.

PR1100FA

情報科学実習 I (2016～2017 年度入学者)

小寺 浩二

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学で、様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。特に応用面では、現在、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易GISソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。
特に、空間情報解析の基礎能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

前半は、総合的な情報リテラシーを重視した内容で、ワープロ・電子メール・インターネット・表計算ソフト・プレゼンテーションを利用した表現法などについて学ぶ。各学部学科や、個人的に興味のあるテーマに沿って総合的な情報リテラシー活用法を身につけた上で、後半では、電子地図・衛星画像・統計情報などを利用して様々なマップ(分布図)を作り、様々な地域環境情報の活用法を習得する。利用するのは、高度なGISソフトではなく、無料で手に入り、誰でも使えるフリーソフトなので、今後の様々なレポート作成などにも活用することができる貴重な能力を身につけることができる。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報リテラシーについて	情報リテラシーについて、学び、調べ、まとめる
第 2 回	コンピュータの構成 (ハードウェア)	コンピュータの構成 (ハードウェア) について、学び、調べ、まとめる
第 3 回	コンピュータの構成 (ソフトウェア)	コンピュータの構成 (ソフトウェア) について、学び、調べ、まとめる
第 4 回	ワープロ入門	Word による文章入力
第 5 回	ワープロ応用	Word による文書体裁など
第 6 回	表計算ソフト入門	Excel の基本操作習熟
第 7 回	表計算ソフト活用	Excel での表・図の作成
第 8 回	表計算ソフト応用	Excel での統計解析
第 9 回	プレゼンテーション入門	PowerPoint の基礎
第 10 回	プレゼンテーション応用	PowerPoint の応用
第 11 回	空間情報解析入門	GIS の基礎 (MANDARA による都道府県別データの図化)
第 12 回	空間情報解析活用	GIS の活用 (MANDARA による市町村別データの図化)
第 13 回	空間情報解析応用	GIS の応用 (MANDARA による町丁目データの図化)
第 14 回	総合実習	個別テーマによる総合実習

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

できる限り本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。

同様に、様々な講義で扱う地域環境情報について、分布図を作成し、時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

前半：第 1 回授業時に指示。「情報リテラシー」に関する教科書。後半：後藤真太郎ほか(2013)：『MANDARA と EXCEL による市民のためのGIS講座(第3版)』,古今書院

【参考書】

・中村和郎ほか(2002)：『地理情報システムを学ぶ』,古今書院
・佐土原 聡ほか(2005)：『図解! Arc GIS 身近な事例で学ぼう』,古今書院
・川崎昭如ほか(2008)：『図解! Arc GIS Part2 GIS 実践に向けてのステップアップ』,古今書院
その他、授業の進捗に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)、課題(30%)、試験(40%)をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、配点を変更することもあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のPCで実習を行う。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

SIS

GIS

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

When advancing learning of the various fields at a university, necessary basis of information literacy and application ability are acquired. It's often used by the various learning fields and business categories at present by the application area in particular, and the basis ability of the spatial information analysis using the electronic map it was, how to handle it statistics information with position information, a creating method of a distribution map using those and simple GIS software is learned.

Acquire the basics and applied abilities of information literacy.

In particular, develop the basic ability of spatial information analysis.

In the spring semester, students will learn about word processors, e-mail, the Internet, spreadsheet software, and presentation methods, with an emphasis on comprehensive information literacy. After learning comprehensive literacy utilization methods according to each faculty and department and the theme of personal interest, in the fall semester, various maps using electronic maps, satellite images, statistical information, etc. (Make a distribution map) and learn how to use various regional environmental information. It is not an advanced GIS software, but a free software that can be obtained for free and can be used by anyone, so you can acquire valuable abilities that can be used for creating various reports in the future.

Spring semester: Make efforts to work on various learning and assignment creation by using what you learned in this class as much as possible.

Autumn semester: Similarly, create a distribution map of regional environmental information handled in various lectures and try spatiotemporal analysis. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

小寺 浩二

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で、様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。特に応用面では、現在、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易GISソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。
特に、空間情報解析の基礎・応用の能力を育成する。
様々な空間情報を入力し、加工し、解析して、図化する総合的な能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

I で学んだ総合的な情報リテラシーを活用し、各学部学科独自のテーマや個人的に興味のあるテーマに沿って、電子地図・衛星画像・統計情報などを利用して様々なマップ（分布図）を作り、様々な地域環境情報の活用法を習得する。利用するのは、高度なGISソフトではなく、無料で手に入り、誰でも使えるフリーソフトなので、今後の様々なレポート作成などにも活用することができる貴重な能力を身につけることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理情報システム（GIS）について	地理情報システムの基礎を学ぶ
第2回	広域の空間情報解析	日本全体のデータをもとに空間解析を学ぶ
第3回	都道府県別の空間情報解析	都道府県別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第4回	市町村別の空間情報解析	市町村別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第5回	町丁目別の空間情報解析	町丁目別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第6回	地点データの登録と活用	緯度経度による地点データの登録と活用を学ぶ
第7回	バッファリング	バッファリングの基礎と応用について学ぶ
第8回	土地利用データ解析の基礎	土地利用データ解析の基礎について学ぶ
第9回	土地利用データ解析の活用	複数年の土地利用データの解析と連続表示について学ぶ
第10回	土地利用データ解析の応用	複数年の土地利用の変化について解析する方法について学ぶ
第11回	総合実習①	個別テーマに沿って、空間情報を収集し、マップを作成する
第12回	総合実習②	様々な地域空間情報を用いて図化する
第13回	総合実習③	図化された様々な地域空間情報を総合的に解析する
第14回	まとめ	総合実習の結果をもとに発表し、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期に学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。

自ら選んだテーマに沿って、様々な地域環境情報を収集し、分布図を作成し、時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第1回授業時に指示。

【参考書】

・後藤真太郎ほか（2013）：『MANDARA と EXCEL による市民のためのGIS講座（第3版）』、古今書院
 ・中村和郎ほか（2002）：『地理情報システムを学ぶ』、古今書院
 ・佐土原 聡ほか（2005）：『図解！ Arc GIS 身近な事例で学ぼう』、古今書院
 ・川崎昭如ほか（2008）：『図解！ Arc GIS Part2 GIS 実戦に向けてのステップアップ』、古今書院

その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、課題（30%）、最終成果発表（40%）をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、配点を変更することもあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広く情報リテラシーの応用能力を育成した上で、各専門分野の興味に従った地域空間情報解析の対応ができるようになる。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のPCで実習を行う。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

SIS

GIS

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

When advancing learning of the various fields at a university, necessary basis of information literacy and application ability are acquired. It's often used by the various learning fields and business categories at present by the application area in particular, and the basis ability of the spatial information analysis using the electronic map it was, how to handle it statistics information with position information, a creating method of a distribution map using those and simple GIS software is learned.

Acquire the basics and applied abilities of information literacy.

In particular, develop the basic ability of spatial information analysis.

In the spring semester, students will learn about word processors, e-mail, the Internet, spreadsheet software, and presentation methods, with an emphasis on comprehensive information literacy. After learning comprehensive literacy utilization methods according to each faculty and department and the theme of personal interest, in the fall semester, various maps using electronic maps, satellite images, statistical information, etc. (Make a distribution map) and learn how to use various regional environmental information. It is not an advanced GIS software, but a free software that can be obtained for free and can be used by anyone, so you can acquire valuable abilities that can be used for creating various reports in the future.

Spring semester: Make efforts to work on various learning and assignment creation by using what you learned in this class as much as possible.

Autumn semester: Similarly, create a distribution map of regional environmental information handled in various lectures and try spatiotemporal analysis. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Comprehensive evaluation will be made by combining normal points (30%), tasks (30%), and exams (40%). Depending on the progress of the lesson, the points may be changed.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016～2017 年度入学者)

永保 敏伸

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報学入門<空間情報処理>コース情報科学実習< f コース>

大学において様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する

特に応用面では、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法を習得する。

その際、簡易GISソフト (MANDARA) を用いた空間情報解析の基礎能力を身につけることを目的とした作業を行う

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。

特に基礎部分では Excel を用いた処理技術に重点を置く。応用部分において、身に着けた Excel での処理技術を用いて準備する空間情報解析のデータセットを利用した空間情報解析の基礎能力を獲得することが目標である

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

講義は原則的に実習形式 (講義 → 実習 → まとめ) で行う。必要に応じて学生の成果を発表してもらうこともある

また、提供した情報を基に、各自が問題解決の手段として活用できるよう実習を行う。

講義の進度は、当該年度に履修登録した学生の習熟度を考慮し決める授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

+++++++
オンライン講義の場合
+++++++

Zoom を用いたリアルタイム授業で行います。

オンライン講義の場合に、受講端末は、スマホではなく、シラバス記載のアプリケーションが操作可能なパソコンをお勧めします。リアルタイムでそれらのアプリケーションの操作しながら講義を進めることが多いです。

講義開始直前の情報は、学習支援システム (hoppii) の授業内掲示板を用いて行います。必ず情報を受け取れるようにしておいてください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコン (Windows) の仕組み	ハードウェアと、ソフトウェアの解説
第 2 回	ビジネスツールとしての電子メール	相手に意図を伝える為のマナーと作法
第 3 回	クラウドコンピューティング	Onedrive や GoogleDrive などを用いたデータの保管方法
第 4 回	ワープロ基礎 (Word online)	基本操作の確認とクラウドサービスの活用を知る
第 5 回	ワープロ応用 (Word)	テンプレートを活用した文章構成の練習
第 6 回	プレゼンテーション① (Impress, Powerpoint online)	講義やゼミで使うプレゼン資料を作成する環境を整える
第 7 回	プレゼンテーション② (Impress, Powerpoint)	基本操作の確認

第 8 回	プレゼンテーション③ (Impress, Powerpoint)	表・図形・写真の投影方法
第 9 回	表計算ソフト① (Excel)	基本操作の確認
第 10 回	表計算ソフト② (Excel)	データに応じた図表の作成方法確認
第 11 回	表計算ソフト③ (Excel)	オートフィルタを用いた数値の処理
第 12 回	表計算ソフト④ (Excel)	関数を用いた基礎的な集計処理
第 13 回	空間情報解析の導入 (MANDARA)	条件式など複雑な関数を用いた処理
第 14 回	総合実習	GIS ソフトを用いた主題図作成
第 15 回	総合実習	春学期の習熟度を確認する小テストなどの総合実習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

春学期：
本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する
秋学期：
様々な講義で扱う地域環境情報について分布図を作成し時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

春学期：
授業時に指示。「情報リテラシー」に関する教科書。
秋学期：
谷謙二 (2018)：『フリー GIS ソフト MANDARA10 入門：かんたん!オリジナル地図を作ろう』、古今書院。

※ 教科書は、学期始めに改めて提示する (変更の可能性あり)

【参考書】

・岡本 敏雄ほか 2017. 『改訂新版 よくわかる情報リテラシー』、技術評論社
・佐土原 聡ほか 2005. 『図解! Arc GIS 身近な事例で学ぼう』、古今書院
・川崎昭如ほか 2008. 『図解! Arc GIS Part2 GIS 実践に向けてのステップアップ』、古今書院
その他、授業の進度に合わせて適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回該当講義で紹介した実習に関わる小課題を課す。この作業結果をもって平常点 (30%) とする。
2. 主たる講義内容ごとにまとめを主眼とした課題 (30%) を課す
3. 最後に、当該学期を総括する学期末試験 (40%) を行う

上記 1. ～ 3. をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、試験や課題の有無や配分を変更することもあり得る

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、秋学期では、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の PC で実習を行う

【その他の重要事項】

本講義は情報実習室でパソコンを用いた実習を行う

*** 【厳守】 ***

・初回講義時までに、大学のパソコンにログインするための ID とパスワードを取得すること
・受講者多数の場合は、抽選を行うので初回講義に必ず出席すること

秋学期は、春学期に習得する技術を前提とした内容となっている。特に Excel に関して関数の使用方法に自信のある学生以外は、原則的に春学期、秋学期連続して受講すること。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

【オフィス・アワー】

授業前後に質問を受け付ける。また、問い合わせフォームを常設する。

【Outline (in English)】

【Course outline & Learning Objectives】

Introduction to Informatics < Geospatial information processing > course

Learn the fundamentals and applied capabilities of information literacy necessary for promoting learning in various fields at university.

Particularly in application aspect, we learn how to handle electronic maps and statistical information with location information that are frequently used in various disciplines and industries, and how to create distribution maps using them.

For doing this, to acquire the basic ability of spatial information analysis using free GIS software (MANDARA) is the purpose of this lecture.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution : 30 % ,short reports: 30%,Term-end examination: 40%

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

永保 敏伸

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学入門＜空間情報処理＞コース情報科学実習＜f コース＞

大学において様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する

特に応用面では、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法を習得する。

その際、簡易GISソフト（MANDARA）を用いた空間情報解析の基礎能力を身につけることを目的とした作業を行う

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。

特に基礎部分では Excel を用いた処理技術に重点を置く。応用部分において、身につけた Excel での処理技術を用いて準備する空間情報解析のデータセットを利用した空間情報解析の基礎能力を獲得することが目標である

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

講義は原則的に実習形式（講義 → 実習 → まとめ）で行う。必要に応じて学生の成果を発表してもらうこともある

また、提供した情報を基に、各自が問題解決の手段として活用できるよう実習を行う。

講義の進捗は、当該年度に履修登録した学生の習熟度を考慮し決める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地域環境情報とは？ GIS と SIS	地域科学・環境科学と様々な情報、そして、地理情報システムと空間情報システムの概要
第 2 回	地域環境情報とその収集・管理・活用法	インターネット上に公開されている各種統計情報を扱う
第 3 回	地図（主題図）作成	MANDARA を用いた階級区分図の作成
第 4 回	地図情報の取得	国土地理院などが提供している各種地図データを扱う
第 5 回	測地系と座標変換	地図を作成する前提条件を確認する
第 6 回	ジオコーディング入門	住所や GPS を用いて位置情報を取得する
第 7 回	位置情報の活用	地図上に任意の地点（緯度経度）を描く
第 8 回	属性データの加工	1 次データに追加作業を行い、必要なデータを整える
第 9 回	主題図作成実習	自由に階級区分図を描くための準備をする
第 10 回	データの種類と表現方法	階級区分を考える上で、重要な度数分布の検討を行う
第 11 回	主題図の重ね合わせ	作成した複数の主題図を重ねて 1 枚の図で表現する
第 12 回	Google Earth 活用	MANDARA で作成した主題図を Google Earth へ出力する
第 13 回	総合実習 1	GIS ソフトによる主題図作成と解析
第 14 回	総合実習 2	秋学期の習熟度を確認する小テストなどの総合実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期：

本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する

秋学期：

様々な講義で扱う地域環境情報について分布図を作成し時空間解析を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

春学期：

授業時に指示、「情報リテラシー」に関する教科書。

秋学期：

谷謙二（2018）：『フリー GIS ソフト MANDARA10 入門：かんたん！オリジナル地図を作ろう』、古今書院。

※ 教科書は、学期始めに改めて提示する（変更の可能性あり）

【参考書】

・岡本 敏雄ほか 2017. 『改訂新版 よくわかる情報リテラシー』、技術評論社

・佐土原 聡ほか 2005. 『図解！ Arc GIS 身近な事例で学ぼう』、古今書院

・川崎昭如ほか 2008. 『図解！ Arc GIS Part2 GIS 実践に向けてのステップアップ』、古今書院

その他、授業の進捗に合わせて適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回該当講義で紹介した実習に関わる小課題を課す。この作業結果をもって平常点（30%）とする。

2. 主たる講義内容ごとにまとめを主眼とした課題（30%）を課す

3. 最後に、当該学期を総括する学期末試験（40%）を行う

上記 1. ～ 3. をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、試験や課題の有無や配分を変更することもあり得る

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、秋学期では、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の PC で実習を行う

【その他の重要事項】

本講義は情報実習室でパソコンを用いた実習を行う

【厳守】

・初回講義時までに、大学のパソコンにログインするための ID とパスワードを取得すること

・受講者多数の場合は、抽選を行うので初回講義に必ず出席すること

秋学期は、春学期に習得する技術を前提とした内容となっている。特に Excel に関して関数の使用方法に自信のある学生以外は、原則的に春学期、秋学期連続して受講すること。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

【オフィス・アワー】

授業前後に質問を受け付ける。また、問い合わせフォームを常設する。

【Outline (in English)】

【Course outline & Learning Objectives】

Introduction to Informatics < Geospatial information processing > course

Learn the fundamentals and applied capabilities of information literacy necessary for promoting learning in various fields at university.

Particularly in application aspect, we learn how to handle electronic maps and statistical information with location information that are frequently used in various disciplines and industries, and how to create distribution maps using them.

For doing this, to acquire the basic ability of spatial information analysis using free GIS software (MANDARA) is the purpose of this lecture.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution : 30 % ,short reports: 30%,Term-end examination: 40%

PRI100FA

情報科学実習 I (2016～2017 年度入学者)

築城 厚三

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学で様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。春学期は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基礎に触れ、画像編集ソフトの基本的な使い方までを学ぶ。秋学期は描画ソフト、DTP (DeskTop Publishing) ソフトの活用法までを学ぶ。

【到達目標】

【春学期】大学での学習に必要な情報の収集、整理、発信にかかわる基礎的能力を習得する。画像編集ソフトを利用した基礎的な画像加工ができる。

【秋学期】描画ソフトを利用した描画の基礎的な方法を知る。DTP ソフトを利用した紙面デザインの基礎的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

基本的に通年での履修を前提として進めます。

初めの 10 回は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを学ぶ。その後、春学期は Adobe Photoshop (画像編集ソフト) までを扱い、秋学期には Illustrator (描画ソフト) と InDesign (DTP ソフト) を用いて基本的な操作方法から画像の編集、デザインの方法までを学ぶ。最終的に InDesign で冊子の見開きページを作成する。どのようにすれば簡潔かつ確に内容を伝えることができるか、いくつかのサンプルを元に考え、実際に形にしてみるという経験を積む。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	PC スキルおよび知りたい内容等に関する簡単なアンケート。データの保存に関して。タイピング練習。
第 2 回	ワープロソフトの基本操作 1	基礎的な文書作成、画像の挿入、レポート、論文の書き方、ショートカット等。
第 3 回	ワープロソフトの基本操作 2	基礎的な文書作成、画像の挿入、レポート、論文の書き方、ショートカット等。
第 4 回	ワープロソフトの基本操作 3	レポート、論文の書き方について、課題提示。
第 5 回	表計算ソフトの基本操作 1	基本操作から簡単な関数。
第 6 回	表計算ソフトの基本操作 2	よく使う関数や実用的な関数の使用方法。
第 7 回	表計算ソフトの基本操作 3	データベース、グラフ機能、課題提示。
第 8 回	表計算ソフトの基本操作 4	実習、課題について回答例提示、解説。
第 9 回	プレゼンテーションソフトの基本操作 1	アニメーション、スライドマスタ、効果的なプレゼン方法。
第 10 回	プレゼンテーションソフトの基本操作 2	アニメーション、スライドマスタ、効果的なプレゼン方法。画像編集ソフトに触れてみる。
第 11 回	画像編集ソフトの基本操作 1	これから使うソフトのできること。
第 12 回	画像編集ソフトの基本操作 2	写真の加工、レイヤーについて。
第 13 回	画像編集ソフトの基本操作 3	色域選択、トーンカーブ等、使える技術。
第 14 回	画像編集ソフト実習	素材加工実習、課題提示。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各ソフトの操作解説後に課題を与える。また、授業で使用了資料、解説した主な内容、作業途中のファイルなどは、授業終了後に学習支援システムにアップする。必要に応じて復習する、欠席した際には確認するなど、自主的に時間外学習に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。学習支援システムに資料をアップしておき、授業時に作業の指示をする。

【参考書】

築城厚三『ACA アドビ認定アソシエイト対応 Photoshop CC 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ

築城厚三『ACA アドビ認定アソシエイト対応 Illustrator CC 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ

『Photoshop 独習ナビ』および『Illustrator 独習ナビ』インプレスジャパン

瀧野福子『よくわかる InDesign の教科書』マイナビ

筒井美希『なるほどデザイン』MdN

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)、課題の質と意欲 (50%)。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や疑問点、より深く知りたい内容については、リアクションペーパーやメールから随時受け付け、これらの質問に対して授業冒頭に回答しながら授業を進める。教卓からの一方通行でなく、双方向性のある授業をめざす。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の PC を使用する。教材配布は学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

コンピュータの数に限りがあるため、履修者数が多い場合は抽選を行う (上限数は実施教室による)。

文学部科目「編集実務 A」「編集実務 B」(DTP による誌面構成の方法) を履修したい学生は、事前に本科目を履修しておくことをお勧めします (当科目を履修していなくても「編集実務 A」「編集実務 B」は履修可能です)。

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn the basic and applied skill of information literacy necessary to learn in various fields at university. At first, We will study basics of word processing, spreadsheet, presentation software. Afterwards we will learn image editing software to drawing software and how to use DTP (DeskTop Publishing) software.

【Learning Objectives】

[Spring semester] To acquire basic abilities related to collecting, organizing, and disseminating information necessary for studying at university. You will be able to perform basic image processing with image editing software.

[Autumn semester] Learn the basic method of drawing using drawing software, and the basic technology of paper design using DTP software.

【Learning activities outside of classroom】

Give a task after explaining the operation of each software. The materials used in the lesson, handouts, the files in the middle of the work, etc. will be uploaded to the learning support system after the lesson. Voluntarily engage in outside of classroom learning, such as reviewing as necessary and confirming when you are absent. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Normal score: 50%, quality and willingness of the task: 50%.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

築城 厚三

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。春学期は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基礎に触れ、画像編集ソフトまでを学ぶ。秋学期は描画ソフト、DTP (DeskTop Publishing) ソフトの活用法までを学ぶ。

【到達目標】

【春学期】大学での学習に必要な情報の収集、整理、発信にかかわる基礎的能力を習得する。画像編集ソフトを利用した基礎的な画像加工ができる。

【秋学期】描画ソフトを利用した描画の基礎的な方法を知る。DTP ソフトを利用した紙面デザインの基礎的技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

基本的に通年での履修を前提として進めます。

初めの 10 回は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを学ぶ。その後、春学期は Adobe Photoshop (画像編集ソフト) までを扱い、秋学期には Illustrator (描画ソフト) と InDesign (DTP ソフト) を用いて基本的な操作方法から画像の編集、デザインの方法までを学ぶ。最終的に InDesign で冊子の見開きページを作成する。どのようにすれば簡潔かつ的確に内容を伝えることができるか、いくつかのサンプルを元に考え、実際に形にしてみるという経験を積む。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	画像編集ソフト復習、DTP について	実習、素材加工。
第 2 回	描画ソフトの操作方法 1	シェイプの作成、塗りと線、パスの描き方。
第 3 回	描画ソフトの操作方法 2	レイヤー、オブジェクトの結合、切り抜き等。
第 4 回	描画ソフトの操作方法 3	色について、パスの練習、さまざまな機能。
第 5 回	描画ソフトの操作方法 4	パスの練習、さまざまな機能。
第 6 回	描画ソフト実習 1	実習、ロゴ等の作成。
第 7 回	描画ソフト実習 2	実習、ロゴ等の作成。
第 8 回	DTP ソフトの操作方法 1	DTP ソフトで何ができるか概観。級、歯、フォント、縦組みと横組み。
第 9 回	DTP ソフトの操作方法 2	レイアウトグリッドとフレームグリッド。各部の名称とマスターページ、ドキュメントページ。
第 10 回	DTP ソフトの操作方法 3	テキストの流し込み、文字の編集。
第 11 回	DTP ソフトの操作方法 4	画像配置、タイトルの作成、デザイン、編集。
第 12 回	DTP ソフト実習 1	課題に沿って、与えたデータを正確に組む。
第 13 回	DTP ソフト実習 2	最終課題提示、実習、課題作成。
第 14 回	DTP ソフト実習 3	実習、課題作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各ソフトの操作手順解説後に課題を与える。また、授業で使用した資料、解説した主な内容、作業途中のファイルなどは、授業終了後に学習支援システムにアップする。必要に応じて復習する、欠席した際には確認するなど、自主的に時間外学習に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。学習支援システムに資料をアップしておき、授業時に作業の指示をする。

【参考書】

築城厚三『ACA アドビ認定アソシエイト対応 Photoshop CC 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ

築城厚三『ACA アドビ認定アソシエイト対応 Illustrator CC 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ

『Photoshop 独習ナビ』および『Illustrator 独習ナビ』インプレスジャパン

瀧野福子『よくわかる InDesign の教科書』マイナビ

筒井美希『なるほどデザイン』MdN

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)、課題の質と意欲 (50%)。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や疑問点、より深く知りたい内容については、リアクションペーパーやメールから随時受け付け、これらの質問に対して授業冒頭に回答ながら授業を進める。教卓からの一方通行でなく、双方向性のある授業をめざす。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の PC を使用する。教材配布は学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

コンピュータの数に限りがあるため、履修者数が多い場合は抽選を行う（上限数は実施教室による）。

文学部科目「編集実務 A」「編集実務 B」（DTP による誌面構成の方法）を履修したい学生は、事前に本科目を履修しておくことをお勧めします（当科目を履修していなくても「編集実務 A」「編集実務 B」は履修可能です）。

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn the basic and applied skill of information literacy necessary to learn in various fields at university. At first, We will study basics of word processing, spreadsheet, presentation software. Afterwards we will learn image editing software to drawing software and how to use DTP (DeskTop Publishing) software.

【Learning Objectives】

【Spring semester】To acquire basic abilities related to collecting, organizing, and disseminating information necessary for studying at university. You will be able to perform basic image processing with image editing software.

【Autumn semester】Learn the basic method of drawing using drawing software, and the basic technology of paper design using DTP software.

【Learning activities outside of classroom】

Give a task after explaining the operation of each software. The materials used in the lesson, handouts, the files in the middle of the work, etc. will be uploaded to the learning support system after the lesson. Voluntarily engage in outside of classroom learning, such as reviewing as necessary and confirming when you are absent. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Normal score: 50%, quality and willingness of the task: 50%.

PRI100FA

情報科学実習 I (2016~2017 年度入学者)

石川 潔

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

特に (外国語) 教師になりたい場合や言語学を学びたい場合に必要となる部分に重点を置いて、入門レベルのパソコン・スキルを身につけます。

【到達目標】

パソコンを使って、レポートや卒論がきちんと書けるようになり、(外国語) 教育や言語研究で必要になるパソコン・スキルの初歩を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

パソコン実習となります。

提出課題にコメントをする予定。

授業計画は、学生の理解度その他の事情により変更となる可能性があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、環境設定	全体の説明、および各自のパソコンの環境の設定
第 2 回	パソコンって何？	大まかな仕組み
第 3 回	パソコンの基本操作	パソコンと Windows の基本操作の学習
第 4 回	文書作成の基本 1	全角・半角の区別、英字・日本語の入力の練習
第 5 回	文書作成の基本 2	テキスト・ファイル、文字サイズ、字体、フォント、など
第 6 回	文書作成の基本 3	漢字コードの使い分け、IPA (発音) 記号など
第 7 回	パソコン操作のテクニック	動かなくなった時、やり直しをしたい時などに、どうしたらいい？
第 8 回	パソコンでのメール	メールの読み書き環境、書き方、読み方
第 9 回	作文法	レポートや論文の書き方の基本
第 10 回	Word でのレポート作成術 1	字数と語数、脚注、コメントなど
第 11 回	Word でのレポート作成術 2	(例文、図、表などの) 番号と相互参照
第 12 回	Word でのレポート作成術 3	ファイルの埋め込み、など
第 13 回	Word でのレポート作成術 4	(樹形) 図の作成、など
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

趣味などのために自宅でパソコンを使うのに加えて、特に復習をやりまくってください。パソコンの入門には、一種の「スポーツ」という側面があります。つまり、「習うより慣れよ」です。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

学習支援システムで資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて適宜、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 100 %。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には良い評価をいただけたと思うのですが、一昨年の評価ほどではなかったように思います。一昨年のレベルに戻れるように頑張ります。

【その他の重要事項】

授業計画は「参考」であり、学生の理解度などに応じて柔軟に変更していくつもりです。

【関連科目】

文学部英文学科等の (言語系の) 諸科目

【実務経験のある教員による授業】

N/A.

【Outline (in English)】

(Course outline) Introductory lessons for using personal computers, especially for prospective (foreign language) teachers as well as students of linguistics.

(Learning Objectives) To be able to write up term papers/theses in a decent manner; to have acquired PC skills for conducting L2 and linguistic research.

(Learning activities outside of classroom) Practice!

(Grading Criteria / Policy) In-class assignments (100%)

PR1100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

石川 潔

専門基礎科目 A 群 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特に（外国語）教師になりたい場合や言語学を学びたい場合に必要となる部分に重点を置いて、入門レベルのパソコン・スキルを身につけます。

【到達目標】

パソコンを使って、レポートや卒論がきちんと書けるようになり、（外国語）教育や言語研究で必要になるパソコン・スキルの初歩を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

パソコン実習となります。

提出課題にコメントをする予定。

授業計画は、学生の理解度その他の事情により変更となる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Word での卒論作成術	セクション区切り、目次の自動作成、など
第 2 回	インターネットの基本	大まかな仕組み、検索法、など
第 3 回	プレゼン・ツールの基本	プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の基本操作と応用
第 4 回	Excel : 最初の一步	点数の合計や平均を計算してみる
第 5 回	Excel : セル操作	セル結合、罫線、色分け、折り返し表示、などなど
第 6 回	Excel : データ型	データ型の概念、表示の操作
第 7 回	Excel でのグラフ作成の初歩	様々な種類のグラフを作り、Word 文書にコピペ
第 8 回	Excel での成績計算 1	点数操作!!
第 9 回	Excel での成績計算 2	条件分岐および変換表による letter grade への変換
第 10 回	データ分析 1	朝食を食べると成績が良いって本当？
第 11 回	データ分析 2	「分析ツール」などの導入
第 12 回	コーパスって何？	英単語や日本語単語の頻度調査をやってみる！
第 13 回	音声の扱い 1	パソコンでの音声データの記録方式
第 14 回	音声の扱い 2	録音と編集

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

趣味などのために自宅でパソコンを使うのに加えて、特に復習をやりまくってください。パソコンの入門には、一種の「スポーツ」という側面があります。つまり、「習うより慣れよ」です。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて適宜、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 100 %。

【学生の意見等からの気づき】

悪い評価ではなかったのですが、一昨年の評価に比べると下がってしまいました。一昨年のレベルまたはそれ以上にすべく、頑張ります。

【その他の重要事項】

授業計画は「参考」であり、学生の理解度などに応じて柔軟に変更していくつもりです。

また、春学期の「情報学入門Ⅰ（言語データ処理）」と連続履修してください（履修希望者多数の場合は、春学期の初回にて選抜を行います。原則、秋学期のみの履修は受け入れておりません）。

【関連科目】

文学部英文学科等の言語系の諸科目

【実務経験のある教員による授業】

N/A.

【Outline (in English)】

(Course outline) Introductory lessons for using personal computers, especially for prospective (foreign language) teachers as well as students of linguistics.

(Learning Objectives) To be able to write up term papers/theses in a decent manner; to have acquired PC skills for conducting L2 and linguistic research.

(Learning activities outside of classroom) Practice!

(Grading Criteria/Policy) In-class assignments (100%)

MAN200FA

会計学入門 I

神谷 健司

専門入門科目 200 番台専門基礎科目 B 群 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
 営 2 年 A～G

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計学入門 I では、会計情報の役割から考えていき、企業が公表している損益計算書や貸借対照表の構造、またそこから何が読み取れるかを考えていきたい。また売上原価の計算や有形固定資産の費用処理といった財務会計の基本的な問題について考えていく。さらに利益構造の分析や管理会計における原価管理といった手法についても学んでいく。この講義は、会計学総論的な入門講義であるといえる。

【到達目標】

会計情報の社会的役割について理解するとともに、損益計算書と貸借対照表の構造を理解してもらいたい。また企業が獲得する利益の源泉についての分析や利益構造の分析についても一定の理解を得て欲しい。最終的には財務会計と管理会計の基本的会計思考を身に付けて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

テキストに基づいてレジュメを用いた講義を行う予定である。わかりにくい事例については具体例を用いて説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	会計情報の役割	会計情報の社会的役割と財務会計と管理会計の性格と機能について学ぶ。
第 2 回	会計制度と社会	株式会社の仕組みと、会社法、金融商品取引法、法人税法に基づいて行われる会計について学ぶ。
第 3 回	会計の仕組み	基本的な貸借対照表、損益計算書の構造について学ぶ。
第 4 回	貸借対照表	貸借対照表の構造と資産・負債・資本の細目について学ぶ。
第 5 回	在庫品の会計	商品の取得原価、製品の製造原価の計算と売上原価の計算、期末在庫品の評価方法について学ぶ。
第 6 回	生産設備の会計	有形固定資産の取得、減価償却、減損処理について学ぶ。
第 7 回	金融資産の会計	金融資産の種類、現金・預金の範囲、有価証券の評価について学ぶ。
第 8 回	負債と資本の会計	自己資本と他人資本による資金調達法と純資産の内訳と配当について学ぶ。
第 9 回	損益計算書	損益計算書の仕組み、利益算出の流れ、業種ごとの損益計算書の特徴について学ぶ。
第 10 回	営業活動の会計	企業の営業活動と営業循環、売上代金の回収と収益の認識、代金回収の不確実性について学ぶ。
第 11 回	儲かる仕組みの分析	収益性の分析、ROE の 3 分解、安全性の分析について学ぶ。
第 12 回	利益構造の分析	損益分岐点分析にみる利益構造、内部経営分析としての CVP 分析について学ぶ。
第 13 回	経営管理と会計	原価管理の手法等について学ぶ。
第 14 回	会計学の諸領域と会計を活用する仕事	会計分野の各専門科目の内容と、会計を本格的に学習した後に就ける仕事について考えていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストを読んでおき、授業後はテキスト各章末の問題について解答を作ることが求められる。章末問題は自分で考える問題が多いが、そのヒントは授業中に十分話したい。なお本授業の準備・復習時間は、合計で 2 時間程度は必要である。

【テキスト（教科書）】

谷武幸・桜井久他編『1 からの会計（第 2 版）』中央経済社、2021 年
 なお、テキストの各省末には、参考書のリストが掲載されている。

【参考書】

桜井久勝、須田一幸『財務会計・入門（第 16 版）』有斐閣、2023 年、および日商簿記 3 級の各種テキスト

【成績評価の方法と基準】

レポートも数回提出してもらおう事を予定している。定期試験（70 %）、レポート（30 %）の合計によって最終的な評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。本年度から担当。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

日商簿記 3 級程度の知識があれば良いが、まだ簿記の基礎を学習していない学生は「簿記入門 I」を並履修して欲しい。

この科目履修後の会計関連専門科目として、『財務会計論』、『国際会計論』、『原価計算論』、『管理会計論』、『監査論』、『税務会計』、『経営分析論』といった会計科目があげられる。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand disclosure systems in Japan, and the specific accounting procedures in applying accounting standards. We learn accounting standards of assets items, liabilities items, and shareholders' equity items, revenues, and expenses items. We also will learn the basic subjects of cost accounting and management accounting.

Before/after each lectures, student will be expected to read text book at least 2 hours. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report(30%), term-end examination(70%).

MAN200FA

会計学入門Ⅱ

神谷 健司

専門入門科目 200 番台専門基礎科目 B 群 2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 2 年 A～G

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計学入門Ⅰでは、会計学領域の全般的な内容について基礎的な知識を身に付けることを行ってきた。続く会計学入門Ⅱでは、財務諸表の読み方や財務諸表分析の手法を中心に学んでいく。

【到達目標】

財務会計の基本的な考え方、重要な項目についての具体的な会計処理の方法、財務諸表分析の基本的な方法について学んでいく。また財務データを用いた企業の変節点の分析についても各自ができるような一定の知識を身に付けて欲しい。またテキストに出てくる重要な概念、専門用語については十分理解していただきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

テキストに基づいてパワーポイントを用いた講義を行う。わかりにくい事例については具体的な計算例やケースをあげて説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	財務データの入手方法と企業研究の方法（1）	さまざまな財務データの入手方法と企業研究の 1 つのやり方について学ぶ。
第 2 回	企業研究の方法（2）	企業研究の 1 つのやり方としての変節点の分析と企業ドメインの変更について学ぶ。
第 3 回	ある企業の変節点の分析	実際の企業のケースを用いて変節点の分析を行う。
第 4 回	財務諸表と貸借対照表（1）	財務諸表の体系と資産の項目の会計処理について学ぶ。
第 5 回	貸借対照表（2）	負債、純資産項目の会計処理について学ぶ。
第 6 回	損益計算書（1）	損益計算書の仕組みと営業利益までの計算・表示について学ぶ。
第 7 回	損益計算書（2）	経常利益、税引前当期純利益、当期純利益迄の計算・票について学ぶ。
第 8 回	キャッシュ・フロー計算書	キャッシュ・フロー計算書の構造、役割について学ぶ。
第 9 回	財務諸表分析（1）	百分比財務諸表分析、成長性分析について学ぶ。
第 10 回	財務諸表分析（2）	安全性の分析、キャッシュ・フロー情報の分析
第 11 回	財務諸表分析（3）	収益性の分析、1 株当たりの分析について学ぶ。
第 12 回	企業価値とバリュエーション（1）	企業価値の評価方法について学ぶ。
第 13 回	企業価値とバリュエーション（2）	会計利益による企業評価モデルを学ぶとともに乗数アプローチを用いた企業評価の方法についても考える。
第 14 回	後期授業のまとめ	後期授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にテキストの章末の研究問題を解くことが求められる。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大阪商工会議所編『ビジネス会計検定試験公式テキスト 3 級（第 5 版）』中央経済社、2023 年

【参考書】

桜井久勝『財務諸表分析（第 8 版）』中央経済社、2020 年

【成績評価の方法と基準】

レポートも数回提出してもらう事を予定している。定期試験（70%）、レポート（30%）の合計によって最終的な評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。本年度から担当。

【学生が準備すべき機器他】

各自関心のある会社 1、2 社の有価証券報告書をプリントアウトして、ファイルで保管しているとあらゆる場面で有効に利用できる。

【その他の重要事項】

日商簿記 3 級程度の知識があればよいが、まだ簿記の基礎を学習していない学生は簿記の基本的な学習を並行して進めて欲しい。

この科目履修後の会計関連専門科目として、『財務会計論』、『国際会計論』、『原価計算論』、『管理会計論』、『監査論』、『税務会計』、『経営分析論』といった科目があげられる。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand disclosure systems in Japan, and the specific accounting procedures in applying accounting standards. We learn accounting standards of assets items, liabilities items, and shareholders' equity items, revenues, and expenses items. And we learn basic analysis of financial statements.

Before/after each lecture, student will be expected to read text book at least 2 hours.

Final grade will be calculated according to the following process : Mid-term report(30%), term-end examination(70%).

MAN200FA

会計学入門 I

坂上 学

専門入門科目 200 番台専門基礎科目 B 群 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 2 年 Q～U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 年次以降に会計学の専門分野を中心に学習しようと思っている学生だけでなく、経営学部のすべての学生が経営学分野を学習する際に会計学の基礎知識が必要です。この講義は企業会計における損益計算の仕組みや収益費用の具体的計算等の財務会計の基本的事項と財務諸表の読み方・分析を中心に企業会計の基礎を学びます。最終的には企業会計の基本的ルールの理解と財務諸表分析の基本的枠組みを理解し、必要に応じて財務諸表が読めるようになることを目標とします。

【到達目標】

企業の財務会計が、どのようにして企業活動の実態を会計情報へと描き出すのか、また人々はその情報をどのように利用して企業の状況を調べよいかを総合的に解説し、財務諸表の作成プロセスだけでなく、実際に公表される財務諸表を基礎として、利用者が企業の経営分析を行えるための基礎知識を習得することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って講義を進める予定である。途中、1～2 回ほどミニテスト・ミニレポートを実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要と進め方
第 2 回	会計の種類と役割	会計にはどのような種類があるのか、どのような役割があるかについて解説する。
第 3 回	財務会計のシステム（1）	複式簿記システムのもとで、どのように会計情報が生み出されるのかについて解説する。
第 4 回	財務会計のシステム（2）	前回に引き続き、複式簿記システムのもとで、どのように会計情報が生み出されるのかについて解説する。
第 5 回	財務会計の基本原則	財務会計の基本原則にはどのようなものがあるのかを解説する。
第 6 回	企業の設立の会計	企業の設立に関して、会計がどのように関わっているかについて解説する。
第 7 回	企業の資金調達会計	企業が営業活動をおこなうにあたって必要となる資金調達がどのようにおこなわれているかについて解説する。
第 8 回	仕入活動の会計	企業の仕入活動について、どのように会計処理がなされるかについて解説する。
第 9 回	生産活動の会計	企業の生産活動について、どのように原価を把握しているかについて解説する。
第 10 回	販売活動の会計（1）	企業の販売活動について、どのように会計処理をおこなうかについて解説する。
第 11 回	販売活動の会計（2）	前回に引き続き、企業の販売活動について、どのように会計処理をおこなうかについて解説する。
第 12 回	設備投資の会計	設備投資に関わって、減価償却などの会計処理について解説する。
第 13 回	研究開発の会計	研究開発に関わる会計処理について解説する。
第 14 回	本講義のまとめ	本講義のまとめとして、重点学習項目を示しながら、解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講する前に、必ずテキストを読んで予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』有斐閣アルマ、第 15 版（もしくは最新版）

【参考書】

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、最新版

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評点をつける予定である。

-ミニテスト：20%

-期末テスト：80%

評点を基に、以下のとおり評価を行う。

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

期末テスト未受験: E

【学生の意見等からの気づき】

静かで落ち着いた環境で講義が受けられるように配慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

特に特別な機器等は必要ない。

【その他の重要事項】

【関連科目】

科目の性格上、1 年次に「簿記入門」を受講していることが望ましい。まったく簿記の知識がない者が受講する場合、講義を理解するのは難しいかもしれないので、同時並行で簿記の学習を行うことを強く推奨する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The objective of the course is to provide an introductory knowledge of accounting to students of all fields such as accounting, finance, marketing and business administration. Students will be introduced to financial statements and frameworks for understanding them, as well as ways in which to prepare financial data. Students will also be expected to apply these skills to the analysis of real companies, and to interpret their respective financial statements accordingly.

(Learning Objectives)

Students will obtain basic knowledge of accounting and financial reporting, which are critical for understanding financial statements. Students also will become literate in the basic content of accounting for further course-work in accounting.

(Learning activities outside of classroom)

The lectures will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grades will be calculated as follows:

-Quiz: 20%

-Final Examination: 80%

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No final examination: E

MAN200FA

会計学入門Ⅱ

坂上 学

専門入門科目 200 番台専門基礎科目 B 群 2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 2 年 Q～U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 年次以降に会計学の専門分野を中心に学習しようと思っている学生だけでなく、経営学部のすべての学生が経営学分野を学習する際に会計学の基礎知識は必要です。この講義は企業会計における損益計算の仕組みや収益費用の具体的計算等の財務会計の基本的事項と財務諸表の読み方・分析を中心に企業会計の基礎を学びます。最終的には企業会計の基本的ルールの理解と財務諸表分析の基本的枠組みを理解し、必要に応じて財務諸表が読めるようになることを目標とします。

【到達目標】

企業の財務会計が、どのようにして企業活動の実態を会計情報へと書き出すのか、また人々はその情報をどのように利用して企業の状況を調べよいかを総合的に解説し、財務諸表の作成プロセスだけでなく、実際に公表される財務諸表を基礎として、利用者が企業の経営分析を行えるための基礎知識を習得することを目標としている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って講義を進める。途中、1～2回ほどミニテスト・ミニレポートを実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要と進め方
第 2 回	資金の管理と運用（1）	余剰資金の運用活動と貸借対照表・損益計算書における表示について解説する。
第 3 回	資金の管理と運用（2）	キャッシュフロー計算書とデリバティブ取引について解説する。
第 4 回	国際活動（1）	企業活動の国際化に伴う会計の問題について解説する。
第 5 回	国際活動（2）	外貨換算会計と国際会計基準について解説する。
第 6 回	税金	企業活動と税金について解説する。
第 7 回	配当	剰余金の配当について解説する。
第 8 回	財務諸表の作成と公開（1）	財務諸表の公開と損益計算書・貸借対照表について解説する。
第 9 回	財務諸表の作成と公開（2）	株主資本等変動計算書・四半期財務諸表について解説する。
第 10 回	企業集団の財務報告（1）	連結貸借対照表について解説する。
第 11 回	企業集団の財務報告（2）	連結損益計算書と会社の合併について解説する。
第 12 回	財務諸表による経営分析（1）	分析の視点と収益性の分析について解説する。
第 13 回	財務諸表による経営分析（2）	安全性の分析について解説する。
第 14 回	本講義のまとめ	本講義のまとめとして、重点的な学習項目を示しながら解説をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講する前に、必ずテキストを読んで予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』有斐閣アルマ、第 15 版（もしくは最新版）。

【参考書】

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、最新版

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評点をつける予定である。

-ミニテスト：20%

-期末テスト：80%

評点を基に、以下のとおり評価を行う。

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

期末テスト未受験: E

【学生の意見等からの気づき】

静かで落ち着いた環境で講義が受けられるように配慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

特に特別な機器等は必要ない。

【その他の重要事項】

科目の性格上、1 年次に「簿記入門」を受講していることが望ましい。まったく簿記の知識がない者が受講する場合、講義を理解するのは難しいかもしれないので、同時並行で簿記の学習を行うことを強く推奨する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The objective of the course is to provide an introductory knowledge of accounting to students of all fields such as accounting, finance, marketing and business administration. Students will be introduced to financial statements and frameworks for understanding them, as well as ways in which to prepare financial data. Students will also be expected to apply these skills to the analysis of real companies, and to interpret their respective financial statements accordingly.

(Learning Objectives)

Students will obtain basic knowledge of accounting and financial reporting, which are critical for understanding financial statements. Students also will become literate in the basic content of accounting for further course-work in accounting.

(Learning activities outside of classroom)

The lectures will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grades will be calculated as follows:

-Quiz: 20%

-Final Examination: 80%

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No final examination: E

MAN200FA

会計学入門 I

倉田 幸路

専門入門科目 200 番台専門基礎科目 B 群 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 2 年 H～O

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計学（特に財務会計）の基礎的な考え方、会計処理の方法等を理解できるようにします。会計に関する基礎的概念を理解することにより、会計報告書の内容を理解したり、財務諸表を作成する助けとなります。また、企業の実際の状況をより理解できるようになります。

【到達目標】

会計学における基礎的な概念を習得し、企業の経済活動がどのように表現されているか理解し、適切な財務諸表を作成できる能力をつける。企業活動の実態分析する能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

対面で講義形式で授業を行います。数回コメントカードを提出してもらいます。初回は人数が確定しないので、Zoom を用いて、オンタイムで授業を行います。学修支援システム（Hoppii）にレジュメ、講義のお知らせ（Zoom のアドレス）をアップします。初回以降は、原則として対面で授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	I 会計の種類と役割 1	会計の種類および財務会計への法規制について講義します。
第 2 回	I 会計の種類と役割 2	各利害関係者の立場から、会計の役割について講義します。
第 3 回	II 財務会計のシステムと基本原則 1	財務会計のシステムと複式簿記の構造（仕訳）について講義します。
第 4 回	II 財務会計のシステムと基本原則 2	複式簿記の構造（転記と決算）について講義します。
第 5 回	II 財務会計のシステムと基本原則 3	損益計算の方法と会計基準について講義します。
第 6 回	II 財務会計のシステムと基本原則 4	損益計算の基本原則と資産評価の基本原則について講義します。
第 7 回	III 企業の設立と資金調達 1	企業の諸形態と株式会社の設立について講義します。
第 8 回	III 企業の設立と資金調達 2	企業の資金調達と社債について講義します。
第 9 回	IV 仕入・生産活動 1	営業循環と棚卸資産、商品の仕入と買入債務について講義します。
第 10 回	IV 仕入・生産活動 2	製品の製造原価、人材の雇用と人件費について講義します。
第 11 回	V 販売活動 1	売上認識と測定、売上原価の計算について講義します。
第 12 回	V 販売活動 2	売上代金の回収、棚卸資産の期末評価について講義します。
第 13 回	VI 設備投資と研究開発 1	固定資産の種類、有形固定資産の取得原価、減価償却の方法について講義します。
第 14 回	VI 設備投資と研究開発 2	減価償却の実務、固定資産の減損、研究開発活動と無形固定資産について講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習として、各回に該当するテキストの箇所を読み、分からない単語等をしらべるこ、また復習として、各回の授業の後でもう一度テキストとレジュメを読み、理解を定着させることに各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

桜井久勝・須田一幸著『財務会計・入門（第 15 版）』有斐閣アルマ、2022 年。

【参考書】

特に指定しません。財務会計に関する著書を利用してください。

【成績評価の方法と基準】

数回の課題（コメント）30 %、筆記試験 70 %（対面で試験が可能な場合）。もし対面で試験ができない場合は、課題（コメント）50 %、レポート 50 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

各回のコメントに対して、次の授業で解説することにより、復習の効果があると思いました。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom を用いてオンタイムで授業する場合には、パソコン等が必要になります。計算が必要になる場合がありますので、電卓を用意してください。

【その他の重要事項】

I 年次の「簿記入門」を履修していることが望ましい。未習得の場合は、平行履修すること。初回に関しては、Zoom を用いてオンタイムで授業します。授業のお知らせ（Zoom のアドレス）、レジュメは、Hoppii を通して行います。

【関連科目】

I 年次の「簿記入門」を履修していることが望ましい。未習得の場合は、平行履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

You can understand the basic idea in accounting (especially, financial accounting) and the method of accounting treatment. And you can understand the situation of enterprise.

(Learning objectives)

The goals of this course are to be A, B and C.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policies)

Final grade will be calculated according to the following process. Each time comment card 50%, Term-end examination 50%.

MAN200FA

会計学入門Ⅱ

木下 貴博

専門入門科目 200 番台専門基礎科目 B 群 2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 2 年 H～O

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学を専攻する学生だけでなく、現代社会を生きる私達にとって、会計学の基礎知識は必要不可欠なものとなっています。この講義は、会計学（特に財務会計）の基礎、会計処理の方法を理解することを目標とします。会計の基礎的な概念を理解することにより、企業の会計報告書の内容を理解したり、財務諸表を作成することができるようになります。また、財務諸表の分析の基礎を理解すれば、企業の経営状況を自分で読み解くことができるようになります。会計学の基礎を理解し、自ら企業を分析する力を身に付けることは、皆さんの将来の武器になるでしょう。

【到達目標】

会計学の基礎的な概念を習得し、企業の経済活動が財務諸表上どのように表されているかを理解し、適切な財務諸表を作成する能力を身につけることを目標とします。併せて、財務諸表の分析方法を用いて、企業が公表する財務諸表とその他の情報とを使い、企業活動の実態を分析する能力をつけることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、講義形式で授業を行います。学修支援システム（Hoppii）にレジュメ、課題、Zoom アドレス、授業のお知らせ等をアップロードしますので、毎回確認してください。また、計 2 回のレポート課題を課し、フィードバックは講義内において行います。なお、初回の講義は、Zoom によるオンラインで授業を行います。その他の回においては対面を基本とし、状況に応じてハイフレックス形式となる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	I 資金の管理と運用①	余剰資金の運用、現金および預金、有価証券について学びます。
第 2 回	I 資金の管理と運用②	キャッシュ・フロー計算書、デリバティブについて学びます。
第 3 回	II 国際活動	企業活動の国際化に伴う会計問題、会計基準のコンバージェンスなどについて学びます。
第 4 回	III 税金と配当①	企業活動と税金、株主総会の開催と会計報告、剰余金の配当について学びます。
第 5 回	III 税金と配当②	配当制限と債権者保護、剰余金の処分について学びます。
第 6 回	IV 財務諸表の作成と公開①	財務諸表の体系と公開について学びます。
第 7 回	IV 財務諸表の作成と公開②	損益計算書・貸借対照表の内容について学びます。
第 8 回	IV 財務諸表の作成と公開③	株主資本等変動計算書の内容、附属明細表と個別注記表、四半期財務諸表について学びます。
第 9 回	V 企業集団の財務報告①	連結財務諸表の重要性や連結貸借対照表について学びます。
第 10 回	V 企業集団の財務報告②	連結損益計算書、持分法による投資利益について学びます。
第 11 回	V 企業集団の財務報告③	連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、セグメント情報について学びます。
第 12 回	VI 財務諸表による経営分析①	経営分析の基礎および収益性の分析について学びます。
第 13 回	VI 財務諸表による経営分析②	安全性の分析について学びます。
第 14 回	VI 財務諸表による経営分析③	ケーススタディーを中心に、経営分析について総合的に学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習としては、テキストやダウンロードした資料をよく読み、疑問点をあらかじめ整理しておいてください。事後学習としては、テキストの演習問題に取り組むとともに、経済・社会の動きに関心を払い、日頃からニュースなどに目を通すようにしてください。本授業の事前・事後学習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

桜井久勝・須田一幸著『財務会計・入門（第 15 版）』有斐閣アルマ、2022 年 3 月。

【参考書】

特に指定しません。財務会計、経営分析に関する著書を利用してください。

【成績評価の方法と基準】

平常レポート計 2 回 30 %、期末試験 70%。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合、Zoom を用いますので、インターネット環境が必要になります。また、経営分析以外にも計算が必要な回があるので、電卓を用意して下さい。

【その他の重要事項】

会計学入門Ⅰの知識を前提として講義します。Zoom を用いたオンライン授業の場合、Zoom のアドレスは、Hoppii を通して連絡します。

【関連科目】

1 年次の「簿記入門」を履修していることが望ましい。もし、未履修の場合は、平行履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Basics of accounting are necessary for us living in modern economy. The goal of this course is to understand the fundamentals of accounting (especially, financial accounting). Particularly, we will learn the accounting methods, financial reporting, and financial analysis.

(Learning Objectives)

Students will learn fundamentals of accounting and financial reporting. These are necessary for businessperson to understand financial statements. Students also will be able to analyze operations of companies.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class, students are expected to download materials provided via the Hoppii and read the indicated pages of the textbook. (2 hours) Students are advised to read news with an interest in recent economic trends in particular, and to focus on news regarding accounting. (2 hours)

(Grading Criteria/Policy)

Final grades will be calculated as follows:

- Mid-term Report: 30%
- Final Examination: 70%

PRI200FA

基礎統計学 I

猪狩 良介

専門入門科目 200 番台専門基礎科目 B 群 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 2 年 K～U

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が注目されています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。この授業では、統計学の基本的な理論について学びます。具体的には、データの記述および確率と確率変数、代表的な確率分布について学びます。

【到達目標】

- ・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
- ・データの整理・要約ができる。
- ・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・講義資料に沿って進めます。資料は Hoppii の「教材」より配布します。
 - ・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。
 - ・授業後によく復習をする必要があります。
 - ・当授業は対面で実施する予定です。
- ※授業の進め方はシラバス作成時点の予定ですので、今後変更になる可能性があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：統計学の概要	本授業の概要と進め方について説明します。統計学とはどのようなものか、経営分野において統計学がどのように利用されているかについて学びます。
第 2 回	データの記述 (1) 図表の作成 / 中心を表す標本特性値	データの特徴を把握するための、度数分布表とヒストグラムを学びます。また、データの特徴 (中心) を見るための、平均・中央値・最頻値を学びます。
第 3 回	データの記述 (2) ばらつきを表す標本特性値 / 標準化	データの特徴 (ばらつき) を見るための、分散と標準偏差を学びます。また、標準化を学びます。
第 4 回	相関 (1) 散布図 / 共分散	2 変数の関係を散布図を描いて把握します。また、変数間の関係性を数値により把握する共分散を学びます。
第 5 回	相関 (2) 相関係数 / 相関係数の注意点	変数間の関係を表す相関係数を学びます。また、相関と因果関係の違いなどの注意点を学びます。
第 6 回	確率 (1) 確率の基礎概念 / 様々な確率	標本空間と確率の定義や、基本的な確率の計算方法を学びます。また、先験的確率・経験的確率・主観的確率について学びます。
第 7 回	確率 (2) 和・積事象の確率 / ベイズの定理	和事象および積事象の確率を学びます。また、ベイズの定理を学びます。
第 8 回	確率変数と確率分布 (1) 単一の確率変数	確率変数と確率分布の定義や、単一の確率変数についての期待値と分散を学びます。
第 9 回	確率変数と確率分布 (2) 複数の確率変数	複数の確率変数の期待値や分散について学びます。
第 10 回	主要な確率分布 (1) 離散確率分布	代表的な離散確率分布であるベルヌーイ分布と 2 項分布を学びます。
第 11 回	主要な確率分布 (2) 連続確率分布	代表的な連続確率分布である正規分布を学びます。
第 12 回	主要な確率分布 (3) 確率変数の和と平均の分布	中心極限定理を用いた確率変数の和や平均の分布を学びます。
第 13 回	まとめ (1)	春学期に学習した内容を復習し、まとめを行います。
第 14 回	まとめ (2)	発展トピックスについて紹介します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
- ・テキストにある練習問題を宿題として解きます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

メインテキスト：藪友良 (2012) 『入門 実践する統計学』 東洋経済新報社。

サブテキスト：David M. Diez, Mine Cetinkaya-Rundel, Christopher D. Barr (著), 国友直人, 小暮厚之, 吉田靖 (訳) (2021) 「データ分析のための統計学入門」 日本統計協会
以下より無料版 PDF を入手可能です。
[http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-3Open\(S\).pdf](http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-3Open(S).pdf)

【参考書】

日花弘子 (2016) 『できるビジネスパーソンのための Excel 統計解析入門』 SB クリエイティブ

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験：100%

【学生の意見等からの気づき】

- ・経営学分野における統計学の話題を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる電卓またはエクセルを使える端末 (スマートフォン、タブレット、パソコン等) が必要となります。

【その他の重要事項】

- ・実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

統計学入門
基礎統計学 II
経営のための統計学 I / II

【Outline (in English)】

【Course outline】

Statistics has attracted attention not only in the academic field but also in the field of business. In the management field, to make decisions such as marketing strategy or investment behavior appropriately, it is necessary to objectively decide based on data. Statistics is used there. In this course, we will learn about the basic theory of statistics. Specifically, we will learn about data description, probability, random variables and major probability distributions.

【Learning Objectives】

Students understand the basic concepts of statistics and can explain them to others.

Students can organize and summarize data.

Students can summarize data and discuss trends from data and graphs [Learning activities outside of classroom]

After the class, students will review the text and materials to check thier understanding of the basic concepts.

Students are expected to solve the exercises in the textbook as homework.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Final exam:100%.

PRI200FA

基礎統計学Ⅱ

高橋 慎

専門入門科目 200 番台専門基礎科目 B 群 2~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 2 年 K~U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを収集・整理し、データの背後にある構造を捉えることは、分野を問わず重要なスキルです。収集されたデータをまとめて、見やすく整理する方法は「記述統計」と呼ばれます。一方、データを生み出した背後の構造を推論することは「推測統計」あるいは「統計的推測」と呼ばれます。この授業では、「確率論」に基づく「推測統計」の基礎的事項を学びます。

【到達目標】

- ・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
- ・データの整理・要約ができる。
- ・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
- ・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。
- ・練習問題の提出期限後の授業で、解答と解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス/統計学とは	授業の進め方と学習法、受講態度、必要な予備知識について説明します。また、データと母集団などの統計学の基本的概念を学びます。
第 2 回	母数の推定 1：基本概念/点推定	データから母集団の特性値（母数）を推測すること（推定）の考え方、推定量と推定地などの基本概念を学びます。また、母集団の平均（母平均）の推定量の統計的性質を学びます。
第 3 回	母数の推定 2：区間推定	母平均が存在すると思われる区間の推定（区間推定）を学びます。
第 4 回	仮説検定 1：母平均の仮説検定	母数についての仮説とデータが整合的かどうかを検証する方法（仮説検定）の手順と基本概念を学びます。
第 5 回	仮説検定 2：差の検定	2 つの母集団の間の「母数の差の有無」を検定する方法を学びます。
第 6 回	正規分布の派生分布 1：カイ 2 乗分布	カイ 2 乗分布の定義とそれを用いた母分散の区間推定を学びます。
第 7 回	正規分布の派生分布 2：t 分布	t 分布の定義とそれを用いた母平均の推定と検定（t 検定）を学びます。
第 8 回	回帰分析の基礎 1：基本概念/最小 2 乗法	変数間の関係を数量的に測る方法のひとつである回帰分析の基本概念を学びます。また、代表的な推定法である最小 2 乗法を学びます。
第 9 回	回帰分析の基礎 2：最小 2 乗推定量の導出/決定係数	最小 2 乗法による推定量の求め方を学びます。また、当てはまりの尺度である決定係数の定義と性質を学びます。
第 10 回	単回帰分析 1：確率的モデル/標準的仮定/最小 2 乗推定量の確率的性質	単回帰分析を通じて、最小 2 乗推定量の確率的性質を学びます。
第 11 回	単回帰分析 2：信頼区間と仮説検定/決定係数についての考察	母数に関する信頼区間の求め方や仮説検定の方法を学びます。また、決定係数を用いる際の注意点を学びます。
第 12 回	重回帰分析 1：自由度修正済み決定係数/多重共線性/ダミー変数	重回帰分析で決定係数を用いる際の注意点を学びます。また、重回帰分析に特有の問題を学びます。
第 13 回	重回帰分析 2：回帰分析で直面する問題	回帰分析で直面しがちな問題への対処法を学びます。
第 14 回	まとめ	授業で扱った内容を復習し、発展的トピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
- ・練習問題を宿題として解きます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・藪友良 (2012) 『入門 実践する統計学』 東洋経済新報社

・Diez・Cetinkaya-Rundel・Barr 著、国友・小暮・吉田訳（2021）『データ分析のための統計学入門』（"OpenIntro Statistics, 4th Edition"）日本統計協会、ISBN 978-4-8223-4105-3
PDF 版は以下のリンクからダウンロードできます。

[http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-3Open\(S\).pdf](http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-3Open(S).pdf)

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・練習問題：40%
- ・期末試験：60%

【学生の意見等からの気づき】

経営学分野における統計学の話題を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる電卓またはエクセル（あるいは Google スプレッドシート）を使える端末（スマートフォン、タブレット、パソコン等）が必要となります。

【その他の重要事項】

- ・基礎統計学Ⅰの内容を前提とします。
- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

- ・統計学入門
- ・基礎統計学Ⅰ
- ・経営のための統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

Collecting/summarizing data and capturing the structure behind the data are important skills regardless of the field. A collection of methods for summarizing the data so that we can easily see its characteristics is called "descriptive statistics". On the other hand, a collection of methods for inferring the data-generating structure is called "inferential statistics" or "statistical inference". In this course, we will learn the basic elements of "inferential statistics" based on "probability theory". The primary goals of this course are: to understand the basic concepts of statistics and to be able to explain them to others; to be able to organize and summarize data; and to be able to discuss trends in data from summary statistics and graphs.

You will be expected to review the textbook and materials after class to check your understanding of the basic concepts. You will be required to complete practice questions as assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be based on 40% assignments and 60% final exam.

PRI200FA

基礎統計学 I

猪狩 良介

専門入門科目 200 番台専門基礎科目 B 群 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 2 年 A～J

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が注目されています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。この授業では、統計学の基本的な理論について学びます。具体的には、データの記述および確率と確率変数、代表的な確率分布について学びます。

【到達目標】

- ・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
- ・データの整理・要約ができる。
- ・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・講義資料に沿って進めます。資料は Hoppii の「教材」より配布します。
 - ・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。
 - ・授業後によく復習をする必要があります。
 - ・当授業は対面で実施する予定です。
- ※授業の進め方はシラバス作成時点の予定ですので、今後変更になる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：統計学の概要	本授業の概要と進め方について説明します。統計学とはどのようなものか、経営分野において統計学がどのように利用されているかについて学びます。
第 2 回	データの記述 (1) 図表の作成 / 中心を表す標本特性値	データの特徴を把握するための、度数分布表とヒストグラムを学びます。また、データの特徴 (中心) を見るための、平均・中央値・最頻値を学びます。
第 3 回	データの記述 (2) ばらつきを表す標本特性値 / 標準化	データの特徴 (ばらつき) を見るための、分散と標準偏差を学びます。また、標準化を学びます。
第 4 回	相関 (1) 散布図 / 共分散	2 変数の関係を散布図を描いて把握します。また、変数間の関係性を数値により把握する共分散を学びます。
第 5 回	相関 (2) 相関係数 / 相関係数の注意点	変数間の関係を表す相関係数を学びます。また、相関と因果関係の違いなどの注意点を学びます。
第 6 回	確率 (1) 確率の基礎概念 / 様々な確率	標本空間と確率の定義や、基本的な確率の計算方法を学びます。また、先験的確率・経験的確率・主観的確率について学びます。
第 7 回	確率 (2) 和・積事象の確率 / ベイズの定理	和事象および積事象の確率を学びます。また、ベイズの定理を学びます。
第 8 回	確率変数と確率分布 (1) 単一の確率変数	確率変数と確率分布の定義や、単一の確率変数についての期待値と分散を学びます。
第 9 回	確率変数と確率分布 (2) 複数の確率変数	複数の確率変数の期待値や分散について学びます。
第 10 回	主要な確率分布 (1) 離散確率分布	代表的な離散確率分布であるベルヌーイ分布と 2 項分布を学びます。
第 11 回	主要な確率分布 (2) 連続確率分布	代表的な連続確率分布である正規分布を学びます。
第 12 回	主要な確率分布 (3) 確率変数の和と平均の分布	中心極限定理を用いた確率変数の和や平均の分布を学びます。
第 13 回	まとめ (1)	春学期に学習した内容を復習し、まとめを行います。
第 14 回	まとめ (2)	発展トピックスについて紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
- ・テキストにある練習問題を宿題として解きます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

メインテキスト：藪友良 (2012) 『入門 実践する統計学』 東洋経済新報社。

サブテキスト：David M. Diez, Mine Cetinkaya-Rundel, Christopher D. Barr (著), 国友直人, 小暮厚之, 吉田靖 (訳) (2021) 「データ分析のための統計学入門」 日本統計協会
以下より無料版 PDF を入手可能です。
[http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-3Open\(S\).pdf](http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-3Open(S).pdf)

【参考書】

日花弘子 (2016) 『できるビジネスパーソンのための Excel 統計解析入門』 SB クリエイティブ

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験：100%

【学生の意見等からの気づき】

- ・経営学分野における統計学の話題を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる電卓またはエクセルを使える端末（スマートフォン、タブレット、パソコン等）が必要となります。

【その他の重要事項】

- ・実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

統計学入門
基礎統計学 II
経営のための統計学 I / II

【Outline (in English)】

【Course outline】

Statistics has attracted attention not only in the academic field but also in the field of business. In the management field, to make decisions such as marketing strategy or investment behavior appropriately, it is necessary to objectively decide based on data. Statistics is used there. In this course, we will learn about the basic theory of statistics. Specifically, we will learn about data description, probability, random variables and major probability distributions.

【Learning Objectives】

Students understand the basic concepts of statistics and can explain them to others.

Students can organize and summarize data.

Students can summarize data and discuss trends from data and graphs [Learning activities outside of classroom]

After the class, students will review the text and materials to check thier understanding of the basic concepts.

Students are expected to solve the exercises in the textbook as homework.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Final exam:100%.

PRI200FA

基礎統計学Ⅱ

高橋 慎

専門入門科目 200 番台専門基礎科目 B 群 2~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 2 年 A~J

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを収集・整理し、データの背後にある構造を捉えることは、分野を問わず重要なスキルです。収集されたデータをまとめて、見やすく整理する方法は「記述統計」と呼ばれます。一方、データを生み出した背後の構造を推論することは「推測統計」あるいは「統計的推測」と呼ばれます。この授業では、「確率論」に基づく「推測統計」の基礎的事項を学びます。

【到達目標】

- ・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
- ・データの整理・要約ができる。
- ・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
- ・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。
- ・練習問題の提出期限後の授業で、解答と解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス/統計学とは	授業の進め方と学習法、受講態度、必要な予備知識について説明します。また、データと母集団などの統計学の基本的概念を学びます。
第 2 回	母数の推定 1：基本概念/点推定	データから母集団の特性値（母数）を推測すること（推定）の考え方、推定量と推定地などの基本概念を学びます。また、母集団の平均（母平均）の推定量の統計的性質を学びます。
第 3 回	母数の推定 2：区間推定	母平均が存在すると思われる区間の推定（区間推定）を学びます。
第 4 回	仮説検定 1：母平均の仮説検定	母数についての仮説とデータが整合的かどうかを検証する方法（仮説検定）の手順と基本概念を学びます。
第 5 回	仮説検定 2：差の検定	2つの母集団の間の「母数の差の有無」を検定する方法を学びます。
第 6 回	正規分布の派生分布 1：カイ 2 乗分布	カイ 2 乗分布の定義とそれを用いた母分散の区間推定を学びます。
第 7 回	正規分布の派生分布 2：t 分布	t 分布の定義とそれを用いた母平均の推定と検定（t 検定）を学びます。
第 8 回	回帰分析の基礎 1：基本概念/最小 2 乗法	変数間の関係を数量的に測る方法のひとつである回帰分析の基本概念を学びます。また、代表的な推定法である最小 2 乗法を学びます。
第 9 回	回帰分析の基礎 2：最小 2 乗推定量の導出/決定係数	最小 2 乗法による推定量の求め方を学びます。また、当てはまりの尺度である決定係数の定義と性質を学びます。
第 10 回	単回帰分析 1：確率的モデル/標準的仮定/最小 2 乗推定量の確率的性質	単回帰分析を通じて、最小 2 乗推定量の確率的性質を学びます。
第 11 回	単回帰分析 2：信頼区間と仮説検定/決定係数についての考察	母数に関する信頼区間の求め方や仮説検定の方法を学びます。また、決定係数を用いる際の注意点を学びます。
第 12 回	重回帰分析 1：自由度修正済み決定係数/多重共線性/ダミー変数	重回帰分析で決定係数を用いる際の注意点を学びます。また、重回帰分析に特有の問題を学びます。
第 13 回	重回帰分析 2：回帰分析で直面する問題	回帰分析で直面しがちな問題への対処法を学びます。
第 14 回	まとめ	授業で扱った内容を復習し、発展的トピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
- ・練習問題を宿題として解きます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・藪友良 (2012) 『入門 実践する統計学』 東洋経済新報社

・Diez・Cetinkaya-Rundel・Barr 著、国友・小暮・吉田訳（2021）『データ分析のための統計学入門（"OpenIntro Statistics, 4th Edition"）』日本統計協会、ISBN 978-4-8223-4105-3
PDF 版は以下のリンクからダウンロードできます。
[http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-30Open\(S\).pdf](http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-30Open(S).pdf)

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・練習問題：40%
- ・期末試験：60%

【学生の意見等からの気づき】

経営学分野における統計学の話題を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる電卓またはエクセル（あるいは Google スプレッドシート）を使える端末（スマートフォン、タブレット、パソコン等）が必要となります。

【その他の重要事項】

- ・基礎統計学Ⅰの内容を前提とします。
- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

- ・統計学入門
- ・基礎統計学Ⅰ
- ・経営のための統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

Collecting/summarizing data and capturing the structure behind the data are important skills regardless of the field. A collection of methods for summarizing the data so that we can easily see its characteristics is called "descriptive statistics". On the other hand, a collection of methods for inferring the data-generating structure is called "inferential statistics" or "statistical inference". In this course, we will learn the basic elements of "inferential statistics" based on "probability theory". The primary goals of this course are: to understand the basic concepts of statistics and to be able to explain them to others; to be able to organize and summarize data; and to be able to discuss trends in data from summary statistics and graphs.

You will be expected to review the textbook and materials after class to check your understanding of the basic concepts. You will be required to complete practice questions as assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be based on 40% assignments and 60% final exam.

ECN200FA

ミクロ経済学入門Ⅰ（2019年度以降入学者）

塚田 憲史

専門入門科目 200 番台専門基礎科目 A 群 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
 営 2 年 A～O

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は人間社会のすべての経済現象に関心があり、その分析対象には、経営学の関心対象である「経営」も含まれます。ミクロ経済学は、消費者や企業がどのように意思決定をするのか、そしてその決定が経済全体にどのような影響を与えるのかを分析します。経済学のモノの見方を用いて「経営」を分析した結果と経営学のモノの見方を用いたときの結果を比較検討することにより、より重層的に分析することができるようになることを目指します。

【到達目標】

ミクロ経済学の基本的な理論を理解し、それを応用した現実のビジネスや消費者行動の事例分析ができるようになることを目標とします。身近なトピックを通じて人生のいろいろな場面で役立つミクロ経済学の知識を身につけ、ミクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考える力を鍛えます。経営学と経済学は、非常に密接に関係している学問分野です。この科目では、今後、経済学系の科目だけでなく、経営学系の科目を履修する上でもとても大事な内容を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎回の授業ではスライドを用いてレクチャーを行います。演習課題を解くことで実践的なミクロ経済学の課題解決能力を身につけます。春学期のミクロ経済学入門Ⅰでは、需要、供給、価格、余剰などミクロ経済学で必要になる基本的なコンセプトを一通り紹介します。理想的な競争状況である完全競争と、その対極にある独占市場、寡占市場について詳しく紹介します。学習支援システム上の掲示板によって、受講生とのインタラクションの機会を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この授業のテーマについて説明します。また、演習課題の提出方法などこの授業の進め方について詳しく説明します。また、ミクロ経済学の全体像について説明します。オンラインで実施します。
第 2 回	需要と供給、市場均衡	モノやサービスの買い手の思考（需要）と売り手の思考（供給）から出発して、需要曲線と供給曲線の形状の理由について学びます。また市場均衡でどのような価格と取引量が実現するのかを学びます。（教科書第 4 章に対応）
第 3 回	需要供給曲線のシフト要因と市場均衡の変化	環境の変化によって需要供給曲線にどのような変化が引き起こされ、市場均衡がどのように変化するかを学びます。（教科書第 4 章に対応）
第 4 回	消費者・生産者・市場の効率性	市場取引から人々がどのような嬉しさを得ているのか、余剰分析を導入し、市場均衡がもつ効率性について学びます。（教科書第 7 章に対応）
第 5 回	演習 1	第 2 回目から第 4 回目の内容に関わる演習課題についてオンラインで解説します。
第 6 回	政府の政策とその費用	政府による価格規制や数量規制、課税によってどのように市場が影響を受けるのかを学びます。（教科書第 6 章に対応）
第 7 回	弾力性とその応用	値段が上がったら、どのくらいモノが売れなくなる？弾力性の定義と計算方法、その応用について学びます。（教科書第 5 章に対応）
第 8 回	生産の費用	企業が生産活動を行う際の費用について学ぶ。平均費用や限界費用はグラフでどのように表せるかを学びます。（教科書第 13 章に対応）

第 9 回	競争市場における企業	競争市場における企業の利潤最大化行動について学びます。（教科書第 14 章に対応）
第 10 回	演習 2	第 6 回目から第 9 回目までの内容に関わる演習問題についてオンラインで解説する。
第 11 回	独占市場の分析	独占市場の企業行動について学びます。（教科書第 15 章に対応）
第 12 回	ゲーム理論	寡占市場の分析の準備として、最先端のミクロ経済学で広く使われるゲーム理論について学びます。（教科書 16 章に対応）
第 13 回	寡占市場の分析	寡占市場においては各企業の行動が他の企業に影響を与えます。ゲーム理論を通して寡占市場における企業の行動について学びます。（教科書 16 章に対応）
第 14 回	演習 3	第 11 回から第 13 回の内容に関わる演習問題についてオンラインで解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業レジュメと教科書の該当章を読み予習復習を進めましょう。演習課題は事前に配布されるので、授業を受けながら該当する箇所の演習課題をこなしていけば自然とミクロ経済学の実力がつくように指導していきます。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第四版）』東洋経済新報社 2019 年

【参考書】

計算問題の練習には次の参考書を利用すると良いでしょう。
 岩田伸一郎『ミクロ経済学ワークブック アクティブに学ぶ書き込み式』2016 年
 ミクロ経済理論のより深い理解のためには次の教科書を利用すると良いでしょう。
 神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社 2014 年

【成績評価の方法と基準】

・演習課題:40%
 ・期末試験:60%
 演習課題、期末試験の詳細については、決定次第、授業内また学習支援システムで詳細の説明をしますので、頻りにチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんの理解度や感想をなるべく反映して授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関連する資料や、演習課題、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。また演習課題の提出はオンラインで行います。学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱは続けて履修することを前提にしています。必ず春学期に「ミクロ経済学入門Ⅰ」を履修した上で、秋学期の「ミクロ経済学入門Ⅱ」を履修してください。この授業は、2 年次以降の経済学関連科目（たとえば、「日本経済論Ⅰ／Ⅱ」や「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」「経営のための経済学」「国際経済論Ⅰ／Ⅱ」）の基礎となるものです。この授業によって、ミクロ経済学の基礎を自分のものにするので、今後の経済学関連科目の学習が格段に楽に、そして楽しくなります。

【関連科目】

「日本経済論Ⅰ／Ⅱ」「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」「経営のための経済学」「国際経済論Ⅰ／Ⅱ」

【Outline (in English)】

Economics is interested in all economic phenomena of human society, which includes business administration. Microeconomics analyzes how companies and consumers make decisions and how those decisions affect the economy. Taking this course enables you to use the perspective of economics and the economic way of thinking. You will be able to analyze economic phenomena in a more multilayered way.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated based on term-end examination (60%) and homework (40%).

ECN200FA

ミクロ経済学入門Ⅱ（2019年度以降入学者）

塚田 憲史

専門入門科目 200 番台専門基礎科目 A 群 2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 2 年 A～O

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は人間社会のすべての経済現象に関心があり、その分析対象には、経営学の関心対象である「経営」も含まれます。ミクロ経済学は、消費者や企業がどのように意思決定をするのか、そしてその決定が経済全体にどのような影響を与えるのかを分析します。経済学のモノの見方を用いて「経営」を分析した結果と経営学のモノの見方を用いたときの結果を比較検討することにより、より重層的に分析することができるようになることを目指します。

【到達目標】

ミクロ経済学の基本的な理論を理解し、それを応用した現実のビジネスや消費者行動の事例分析ができるようになることを目標とします。身近なトピックを通じて人生のいろいろな場面で役立つミクロ経済学の知識を身につけ、ミクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考える力を鍛えます。経営学と経済学は、非常に密接に関係している学問分野です。この科目では、今後、経済学系の科目だけでなく、経営学系の科目を履修する上でもとても大事な内容を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎回の授業ではスライドを用いてレクチャーを行います。演習課題と解くことで授業内容の定着を図ります。秋学期のミクロ経済学入門Ⅱでは、「市場の失敗」を引き起こす4つの要因とその対処法について学びます。加えて、Iで学んだ内容を発展させ、消費者と生産者の意思決定について詳しく学び、一般均衡の理論についても学びます。学習支援システム上の掲示板によって受講生とのインタラクションの機会を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期の学習内容を確認し、秋学期の内容を概観します
第2回	市場の失敗(1) 自然独占	1学期に勉強した独占の理論を復習し、インフラなどの費用逓減産業が引き起こす自然独占の問題と、その対処法について学びます。(教科書第15章に対応)
第3回	市場の失敗(2) 外部性	経済活動が市場を介さず他の経済主体に影響を与える公害に代表される外部性の問題と、その対処法について学びます。(教科書10章に対応)
第4回	市場の失敗(3) 公共財	公共財の定義とは何かを勉強し、公共財の引き起こすフリーライダーの問題と、その対処法について学びます(教科書第11章に対応)
第5回	市場の失敗(4) 情報の非対称性	情報の非対称性が引き起こす逆選択とモラルハザードの問題と、その対処法について学びます。(教科書第22章に対応)
第6回	演習1	第2回目から5回目の内容についての演習課題についてオンラインで解説する。
第7回	消費者選択の理論(1) 効用最大化	需要関数を構成する消費者選択の理論についてより深く勉強します。複数の財を組み合わせるような消費者はどのような選択をするのでしょうか？(教科書第21章に対応)
第8回	消費者選択の理論(2) 所得と価格の変化に対する消費者行動の変化	所得や価格が変化したときに消費者行動がどのように変化するかを考えます。(教科書第21章に対応)
第9回	消費者選択の理論(3) 労働市場への応用	消費者選択の理論を労働市場に応用します。(教科書第21章に対応)
第10回	演習2	第7回から第9回までの内容に関する演習課題についてオンラインで解説する。
第11回	生産者の理論	生産要素市場における生産者の行動について分析します。(教科書第18章に対応)

第12回 一般均衡分析(1)

2財1消費者1生産者の一般均衡に関する計算問題を解くことで、市場で何が行われているのかをより深く学びます。

第13回 一般均衡分析(2)

2財2消費者1生産者の一般均衡をグラフィカルに解説し、市場均衡で何が行われているかをより深く学びます。第11回から第13回までの内容に関する演習課題についてオンラインで解説する。

第14回 演習3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業レジュメと教科書の該当章を読み予習復習を進めましょう。演習課題は事前に配布されるので、授業を受けながら該当する箇所の演習課題をこなしていけば自然とミクロ経済学の実力がつくように指導していきます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第四版）』東洋経済新報社 2019年

【参考書】

計算問題の練習には次の参考書を利用すると良いでしょう。
岩田伸一郎『ミクロ経済学ワークブック アクティブに学ぶ書き込み式』2016年
ミクロ経済理論のより深い理解のためには次の教科書を利用すると良いでしょう。
神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社 2014年

【成績評価の方法と基準】

・演習課題:40%
・期末試験:60%

演習課題、期末試験の詳細については、決定次第、授業内また学習支援システムで詳細の説明をしますので、頻りにチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんの理解度や感想をなるべく反映して授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関連する資料や、演習課題、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。
また演習課題の提出はオンラインで行います。
学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱは続けて履修することを前提にしています。必ず春学期に「ミクロ経済学入門Ⅰ」を履修した上で、秋学期の「ミクロ経済学入門Ⅱ」を履修してください。
この授業は、2年次以降の経済学関連科目（たとえば、「日本経済論Ⅰ／Ⅱ」や「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」「経営のための経済学」「国際経済論Ⅰ／Ⅱ」）の基礎となるものです。この授業によって、ミクロ経済学の基礎を自分のものにするので、今後の経済学関連科目の学習が格段に楽に、そして楽しくなります。

【関連科目】

日本経済論Ⅰ／Ⅱ「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」「経営のための経済学」「国際経済論Ⅰ／Ⅱ」

【Outline (in English)】

Economics is interested in all economic phenomena of human society, which includes business administration. Microeconomics analyzes how companies and consumers make decisions and how those decisions affect the economy. Taking this course enables you to use the perspective of economics and the economic way of thinking. You will be able to analyze economic phenomena in a more multilayered way.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated based on term-end examination (60%) and homework (40%).

ECN200FA

ミクロ経済学入門Ⅰ（2019年度以降入学者）

大木 良子

専門入門科目 200 番台専門基礎科目 A 群 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 2 年 Q～U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は人間社会のすべての経済現象に関心があり、その分析対象には、経営学の関心対象である「経営」も含まれます。ミクロ経済学は、消費者や企業がどのように意思決定をするのか、そしてその決定が経済全体にどのような影響を与えるのかを分析します。経済学のモノの見方を用いて「経営」を分析した結果と経営学のモノの見方を用いたときの結果を比較検討することにより、より重層的に分析することができるようになることを目指します。

【到達目標】

ミクロ経済学の基本的な理論を理解し、それを応用した現実のビジネスや消費者行動の事例分析ができるようになることを目標とします。身近なトピックを通じて人生のいろいろな場面で役立つミクロ経済学の知識を身につけ、ミクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考える力を鍛えます。経営学と経済学は、非常に密接に関係している学問分野です。この科目では、今後、経済学系の科目だけでなく、経営学系の科目を履修する上でとても大事な内容を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎回の授業ではスライドを用いてレクチャーを行います。学習支援システムに教材ファイルを掲載します。また、オンライン教材を用い、毎週数回の簡単なクイズを宿題として出題します。復習を習慣づけることにより、知識の定着を図ります。

春学期のミクロ経済学入門Ⅰでは、需要、供給、価格、余剰などミクロ経済学で必要になる基本的なコンセプトを一通り紹介します。理想的な競争状況である完全競争と、その対極にある独占市場について詳しく紹介します。

学習支援システム上の掲示板や、オフィスパワーによって、受講生とのインタラクションの機会を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この授業のテーマについて説明します。また、宿題の提出方法などこの授業の進め方について詳しく説明します。また、ミクロ経済学の全体像について説明し、経済学入門で学んだ内容とのリンクを取ります。
第 2 回	需要と供給	モノやサービスの買い手の思考（需要）と売り手の思考（供給）：安く買いたい！高く売りたい！
第 3 回	市場均衡（1）	たばこの需要量を減らす方法とは？ 需要と供給の一致：市場が「落ち着く」ところを探す。 猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなったら、アイスの値段はどうなる？
第 4 回	消費者・生産者・市場の効率性	今のモノの価格で売り手と買い手はどのくらい満足している？ 臓器を売買する市場は存在すべき？
第 5 回	政府の政策とその費用	政府の出番はどこにある？ 消費税率アップは私たちの生活にどのような影響を及ぼすのか？
第 6 回	弾力性とその応用	値段が上がったら、どのくらいモノが売れなくなる？ 麻薬の禁止は麻薬に関係する犯罪を減らすか、増やすか？
第 7 回	中間試験	6 回目までの授業内容から出題します。終了後、解説を行います。
第 8 回	外部性	他者のせいで迷惑を被っている影響や恩恵を受けている影響をどう評価する？ なぜガソリンには重税が課せられるのか？
第 9 回	生産の費用（1）	費用とは何か？生産にかかる様々な費用について学ぶ。
第 10 回	生産と費用（2）	短期の費用と長期の費用との関係を整理する。 規模に関する収穫とは何か？

第 11 回	競争市場における企業（1）	競争的な市場において、企業はどのような意思決定を行うのか？ 利潤の最大化をどのように分析するか？
第 12 回	競争市場における企業（2）	費用と供給曲線はどのように関係しているのか？短期と長期の市場供給はどのように異なるのか？
第 13 回	独占（1）	独占企業と競争に晒される企業は何が違うだろうか？ 独占企業はどのように意思決定を行うのか？
第 14 回	独占（2） 春学期のまとめ	独占に対してどのような政策を採るべきか？ 春学期の内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが新しい内容への予習につながります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第四版）』東洋経済新報社 2019 年
宿題や復習に、この教科書に準拠したオンライン教材を使用します。オンライン教材使用にあたり手続きが必要ですので、必ず第 1 回授業内の指示に従ってください。（4 月上旬に手続きを締め切ります）

【参考書】

適宜以下の文献も活用します。参考にした際に改めて書名を紹介します。
アセモグル・レイブソン・リスト『ミクロ経済学』東洋経済新報社 2020 年
伊藤元重『ミクロ経済学（第 3 版）』日本評論社 2018 年
伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社 2007 年
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣 2013 年
神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社 2014 年
神取道宏『ミクロ経済学の技』日本評論社 2018 年

【成績評価の方法と基準】

・宿題：50%（オンラインシステムを使い教科書に準拠した問題を出題します）
・中間試験：10%
・期末試験：40%
中間・期末試験の詳細については、決定次第、授業内また学習支援システムで詳細の説明をしますので、頻りにチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんの理解度や感想をなるべく反映して授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関連する資料や、宿題、中間試験、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。
また宿題の提出はオンラインで行います。（教科書準拠のオンライン教材を使用）
学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】

宿題を提出するためには、オンライン教材の利用手続きが必要です。必ず第 1 回の授業をその日に受講し、きちんと手続きをしてください。
ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱは続けて履修することを前提にしています。必ず春学期に「ミクロ経済学入門Ⅰ」を履修した上で、秋学期の「ミクロ経済学入門Ⅱ」を履修してください。
この授業は、2 年次以降の経済学関連科目（たとえば、「日本経済論Ⅰ／Ⅱ」や「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」「経営のための経済学」「国際経済論Ⅰ／Ⅱ」）の基礎となるものです。この授業によって、ミクロ経済学の基礎を自分のものにするので、今後の経済学関連科目の学習が格段に楽に、そして楽しくなります。

【関連科目】

「日本経済論Ⅰ／Ⅱ」「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」「経営のための経済学」「国際経済論Ⅰ／Ⅱ」

【Outline (in English)】

Economics is interested in all economic phenomena of human society, which includes business administration. Microeconomics analyzes how companies and consumers make decisions and how those decisions affect the economy. Taking this course enables you to use the perspective of economics and the economic way of thinking. You will be able to analyze economic phenomena in a more multilayered way.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated based on term-end examination (40%) and homework (50%) and mid-term exam (10%).

ECN200FA

ミクロ経済学入門Ⅱ（2019年度以降入学者）

大木 良子

専門入門科目 200 番台専門基礎科目 A 群 2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 2 年 Q～U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は人間社会のすべての経済現象に関心があり、その分析対象には、経営学の関心対象である「経営」も含まれます。ミクロ経済学は、消費者や企業がどのように意思決定をするのか、そしてその決定が経済全体にどのような影響を与えるのかを分析します。経済学のモノの見方を用いて「経営」を分析した結果と経営学のモノの見方を用いたときの結果を比較検討することにより、より重層的に分析することができるようになることを目指します。

【到達目標】

ミクロ経済学の基本的な理論を理解し、それを応用した現実のビジネスや消費者行動の事例分析ができるようになることを目標とします。身近なトピックを通じて人生のいろいろな場面で役立つミクロ経済学の知識を身につけ、ミクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考える力を鍛えます。経営学と経済学は、非常に密接に関係している学問分野です。この科目では、今後、経済学系の科目だけでなく、経営学系の科目を履修する上でもとても大事な内容を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎回の授業ではスライドを用いてレクチャーを行います。学習支援システムに教材ファイルに掲載します。また、オンライン教材を用い、毎週数回の簡単なクイズを宿題として出題します。復習を習慣づけることで、知識の定着を図ります。

秋学期のミクロ経済学入門Ⅱでは、完全競争と独占の中間に位置づけられる寡占市場の考え方を解説します。企業間のインタラクションを考える際に必要となるゲーム理論も紹介します。加えて、I で学んだ内容を発展させ、消費者、生産者の意思決定について詳しく学びます

学習支援システム上の掲示板や、オフィスアワーによって、受講生とのインタラクションの機会を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の学習内容を確認し、秋学期の内容を概観します
第 2 回	寡占	相手の行動を読みながら動く少数の売り手しかいない＝寡占市場における企業の意思決定を考える。マイクロソフトの戦略は違法？
第 3 回	ゲーム理論 (1)	入門ゲーム理論：寡占企業はゲームをしている！？
第 4 回	ゲーム理論 (2)	時間の経過を考慮に入れた、より複雑なゲームについて学ぶ。
第 5 回	市場の失敗 (1)	市場が失敗する様々なケースを紹介し、全体像を整理する。また市場の失敗に対する対応策を検討する。
第 6 回	市場の失敗 (2)	市場の失敗と情報との関係。モラルハザードは倫理の欠如？
第 7 回	中間試験	第 6 回目までの授業内容から出題します。終了後、解説を行います。
第 8 回	消費者の理論 (1)	消費者は何を買うことができるか？消費者は何を望むのか？
第 9 回	消費者の理論 (2)	消費者はなにを選ぶのか？需要曲線の裏側にあった消費者の意思決定とは？
第 10 回	消費者の理論 (3)	消費者の理論に関する問題演習。
第 11 回	生産者の理論 (1)	生産に関係する費用についての復習。
第 12 回	生産者の理論 (2)	利潤最大化を目指す企業の費用とは？生産者要素市場（生産に投入する労働、土地、資本の市場）の均衡を考える。
第 13 回	市場均衡（応用編）	すべての市場の消費者とすべての市場の生産者の均衡とは？市場がもたらす資源配分は本当に消費者、生産者のニーズに合っているのか？
第 14 回	秋学期のまとめ	ミクロ経済学の全体像をもう一度振り返る。秋学期に学んだ内容を応用した問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが新しい内容への予習につながります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第四版）』東洋経済新報社 2019 年

宿題や復習に、この教科書に準拠したオンライン教材を使用します。オンライン教材使用にあたり手続きが必要ですので、必ず第 1 回授業内の指示に従ってください。（9 月中旬に手続きを締め切ります）

【参考書】

適宜以下の文献も活用します。参考にした際に改めて書名を紹介します。
アセモグル・レイブソン・リスト『ミクロ経済学』東洋経済新報社 2020 年
伊藤元重『ミクロ経済学（第 3 版）』日本評論社 2018 年
伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社 2007 年
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣 2013 年
神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社 2014 年
神取道宏『ミクロ経済学の技』日本評論社 2018 年

【成績評価の方法と基準】

・宿題：50 %（オンラインシステムを使い教科書に準拠した問題を出題します）

・中間試験：10 %

・期末試験：40 %

中間・期末試験の詳細については、決定次第、学習支援システムまた授業内で詳細の説明をします。学習支援システムは頻繁にチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんの理解度や感想をなるべく反映して授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業の資料や、宿題、中間試験、期末試験に関する重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。

宿題の提出はオンラインで行います。（教科書準拠のオンライン教材を使用）詳細は第 1 回の授業で説明します。

学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】

宿題を提出するためには、オンライン教材の利用手続きが必要です。必ず第 1 回の授業に出席し、きちんと手続きをしてください。

ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱは続けて履修することを前提にしています。必ず春学期に「ミクロ経済学入門Ⅰ」を履修した上で、秋学期の「ミクロ経済学入門Ⅱ」を履修してください。

この授業は、2 年次以降の経済学関連科目（たとえば、「日本経済論Ⅰ／Ⅱ」や「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」「経営のための経済学」「国際経済論Ⅰ／Ⅱ」）の基礎となるものです。この授業によって、ミクロ経済学の基礎を自分のものにする

ことで、今後の経済学関連科目の学習が格段に楽に、そして楽しくなります。

【関連科目】

日本経済論Ⅰ／Ⅱ「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」「経営のための経済学」「国際経済論Ⅰ／Ⅱ」

【Outline (in English)】

Economics is interested in all economic phenomena of human society, which includes business administration. Microeconomics analyzes how companies and consumers make decisions and how those decisions affect the economy. Taking this course enables you to use the perspective of economics and the economic way of thinking. You will be able to analyze economic phenomena in a more multilayered way.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated based on term-end examination (40%) and homework (50%) and mid-term exam (10%).

PRI200FA

情報学基礎 (2019 年度以降入学者)

児玉 靖司

専門入門科目 200 番台 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

コンピュータの発達に伴い経営活動に関係ある情報学の基礎を学ぶ。前半では、コンピュータの仕組みから情報の表現、情報通信ネットワークについて学ぶ。後半では、オペレーティングシステム、プログラミング言語などの基本ソフトウェアと応用技術、その他、情報セキュリティ、アルゴリズム、人工知能などについて学ぶ。情報学の幅広い範囲を学ぶので、事前学習をすることが望ましい。

【到達目標】

情報学の基礎についてコンピュータ科学を中心とした知識を一通り理解することを目標とする。知識を学ぶと同時に、将来の ICT を活用した社会について概観し、考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】 情報学として必要な様々な概念について学ぶ。

【授業の方法】 授業は基本的に教科書 (資料) に沿って行う。専門性の高い分野に関する講義の場合は、別途、参考文献を指定する場合がある。原則として毎回簡単な小テスト (確認テスト) を行い、理解度を調査しながら進める。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムと Google Classroom でその都度提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報学全体の概要について学ぶ。
第 2 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの仕組みについて学ぶ。
第 3 回	情報の表現 (1)	コンピュータ上で情報を表現する方法についての基礎を学ぶ。
第 4 回	情報の表現 (2)	コンピュータ上で情報を表現する方法についての応用を学ぶ。
第 5 回	情報通信ネットワーク	最近のコンピュータに必須の情報通信ネットワークについて学ぶ。
第 6 回	オペレーティングシステム	基本ソフトウェアであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 7 回	プログラミング言語	ソフトウェアを記述するプログラミング言語について学ぶ。
第 8 回	アルゴリズムとデータ構造 (1)	ソフトウェアの設計図にあたるアルゴリズムとデータ構造の基礎について学ぶ。
第 9 回	アルゴリズムとデータ構造 (2)	アルゴリズムとデータ構造の応用について学ぶ。
第 10 回	情報セキュリティと暗号化	情報セキュリティと暗号化について学ぶ。
第 11 回	IoT と社会	IoT(Internet of Things) と社会について学ぶ。
第 12 回	データ解析	コンピュータを使ったデータ解析について学ぶ。
第 13 回	人工知能	人工知能の概略について学ぶ。
第 14 回	まとめ	情報学全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

開講後、指定する。原則としてパワーポイント (PDF) による資料を Classroom より配布する。

教科書は、「情報学基礎」(培風館) ISBN978-4-563-01605-0

http://www.baifukan.co.jp/cgi-bin/db/baifu_new_search.pl?ISBN=4-563-01605-5

【参考書】

講義開講後、指定する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験を実施するので、以下のように評価する。

定期試験 (80%)、出席点 < 確認試験およびアンケート > (20%)

【補足】

具体的な内容は学習支援システムと Google Classroom で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

動画を多用し、分かりやすい授業となるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

PC 上でのパワーポイントによるプレゼンテーションを多用する。

【その他の重要事項】

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、外資系コンピュータメーカー研究開発本部にてシステム設計および基本ソフトウェア開発を行った経験を活かし、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関連する科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Learning the fundamentals of informatics related to business activities with the development of computers. In the first half, students learn about the expression of information and communication networks from the mechanism of computers. In the second half, you can learn basic software and applied technologies such as operating systems and programming languages, as well as information security, algorithms and artificial intelligence.

【Learning Objectives】

The goal is to gain a general understanding of the basics of informatics, centered on computer science. It is desirable to be able to think about the future society at the same time as learning knowledge.

【Learning Activities Outside of Classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Since a regular test will be conducted, it will be evaluated as follows.

Regular examination (80%), attendance points < confirmation examination and questionnaire > (20%)

MAN200FB

経営管理論 I (2018 年度以前入学者)

稲垣 保弘

専門基礎科目 B 群 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
 営 2 年 A～D

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経営管理の主要な理論の中でもマネジメントについて考察する上で基礎となる理論について理解し、それに基づいて組織活動をどのようにマネジメントしていくのかを基本的なレベルで検討し、学生は経営学的な思考方法の基礎を身に付けることができます。

【到達目標】

授業のテーマ(組織のマネジメントの理論と実践)について、学生の知識と論理的思考力などの向上を図り、それにもとづいて組織の現実を理解し、適切に対応できるような能力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

受講者数や教室にもよりますが、講義形式の予定です(質問の時間は授業の終わりにとります)。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、テキスト、参考文献などについて説明。
第 2 回	経営管理とは何か	経営管理=マネジメントの全体像の説明。
第 3 回	管理過程論とバーナード理論による管理の定義	代表的な定義によるマネジメントについての理解。
第 4 回	管理=マネジメントの変容の方向性	前回の内容に基づいてマネジメントの変化の方向を検討する。
第 5 回	科学的管理法	科学的管理法の内容と現代的な意味。
第 6 回	人間関係論	人間関係論の内容と現代的な意味。
第 7 回	人間資源論	人間資源論の内容と現代的な意味。
第 8 回	目標管理	目標管理の内容と企業への導入。マネジメントの手法としてだけでなく、日本の経営の変容の中でその意味を理解する。
第 9 回	成果主義	日本企業における成果主義について。
第 10 回	管理過程理論	ファヨールの理論とアメリカの管理過程論について。
第 11 回	管理原則と組織	管理原則の内容と意味。
第 12 回	バーナード理論	バーナード理論の概要の説明。
第 13 回	インフォーマル組織と排除のメカニズム	インフォーマル組織の形成条件と、そこで作用する排除のメカニズムについて。
第 14 回	まとめ	春学期の内容を総合的にまとめる。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各時間ごとに、予習・復習の内容を指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で配布する資料などを有効に活用してください。

【テキスト(教科書)】

稲垣保弘『組織の解釈学』白桃書房(2002年)を予定。その他、配布プリントなどについて授業の開講時に説明します。

【参考書】

稲垣保弘『経営の解釈学』白桃書房(2013年)。経営管理の重要なテーマについて解釈学の視点から検討しているため、授業での理論的説明をより深く理解できます。その他は必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価は定期試験が中心ですが、平常点も加味する予定です。詳細については開講時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

開講時に授業の進め方に関連して説明します。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

関連科目：経営戦略論 I/II、経営組織論 I/II

この科目を受講する前に、上記『組織の解釈学』『経営の解釈学』について図書館で目次くらい目を通しておくのは、担当教員について知る上でも大切なことです(この科目に限ったことではありません)。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The course deals with basic management and organization theories. On the basis of understanding these theories, students will interpret management and organizational activities by applying theories to actual cases.

【Learning objectives】

By the end of the course, students will learn logical way of thinking about management and organization.

【Learning activities outside of classroom】

This course will be given by lecture. Students will be expected to spend time enough to review the course content.

【Grading criteria】

Grading will be decided mainly based on term examination.

MAN200FB

経営管理論Ⅱ（2018年度以前入学者）

稲垣 保弘

専門基礎科目 B 群 2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
 営 2 年 A～D

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営管理論Ⅰの延長であり、マネジメントについての主要な理論の中で応用的なもの、あるいは斬新な内容を含むものを取り上げ、パワー作用などハウツウ的な知識も包括して、組織活動のマネジメントについて検討し、学生は経営学的な思考を身に付けることができます。

【到達目標】

やや応用的な新しい理論を理解することで、学生は論理的かつ創造的な思考に慣れて、現実の企業や組織について、多面的な検討ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

受講者数にもよりますが、講義形式を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、テキスト、参考文献、授業の予習・復習についての説明。
第 2 回	H. サイモンの意思決定理論Ⅰ	H. サイモン理論における人間観と「制約された合理性」について
第 3 回	H. サイモン理論Ⅱ	H. サイモン理論における意思決定と組織階層
第 4 回	組織のコンティンジェンシー理論Ⅰ	コンティンジェンシー理論と実証研究について
第 5 回	組織のコンティンジェンシー理論Ⅱ	ローレンス＝ローシュの理論について
第 6 回	コンフリクトの解消について	フォレット、ローレンス＝ローシュ、日本の経営などに見られるコンフリクトの解消方法について
第 7 回	意思決定のゴミ箱モデル	マーチ＝オルセンの意思決定理論とそれが意味するものについて
第 8 回	組織の進化論的モデルⅠ	K. ワイクの進化論的モデルと組織現象を流れとして理解することの意味について
第 9 回	組織の進化論的モデルⅡ	ルースカプリング、イナクトメントといったコンセプトの組織活動への意味
第 10 回	リーダーシップⅠ	リーダーシップはどのようなものかについて
第 11 回	リーダーシップⅡ	リーダーシップの主要な理論とその意味
第 12 回	組織のパワー現象	組織におけるパワー作用とパワーベースについて
第 13 回	企業文化	企業文化とその作用、そしてその根底にあるものについて
第 14 回	まとめ	秋学期の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習と復習についてはオリエンテーションで説明しますが、授業で配布する資料などを有効に活用してください。

【テキスト（教科書）】

稲垣保弘『経営の解釈学』白桃書房。

【参考書】

稲垣保弘『組織の解釈学』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

定期試験での評価が中心となりますが、平常点も加味されます。詳細はオリエンテーションで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も対面授業なのでオンラインとは違った成果が期待できると思います。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

授業を受講する前に、図書館などで上記『経営の解釈学』と『組織の解釈学』の目次くらいには目を通して、担当教員について知っておくことは大切です（この授業に限ったことではありませんけど）。

【関連科目】

経営組織論

【Outline (in English)】

【Course outline】

The course deals with applied theories of management and organizations. Students will interpret management and organizational activities by applying theories to actual cases.

【Learning objectives】

By the end of the course ,students will learn logical and creative way of thinking about management and organizations.

【Learning activities outside of classroom】

This course will be given by lecture. Students will be expected to spent time enough to review the course content.

【Grading Criteria】

Grading will be decided mainly based on term examination.

MAN200FB

経営管理論 I (2018 年度以前入学者)

稲垣 保弘

専門基礎科目 B 群 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
 営 2 年 E～H

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経営管理の主要な理論の中でもマネジメントについて考察する上で基礎となる理論について理解し、それに基づいて組織活動をどのようにマネジメントしていくのかを基本的なレベルで検討し、学生は経営学的な思考方法の基礎を身に付けることができます。

【到達目標】

授業のテーマ(組織のマネジメントの理論と実践)について、学生の知識と論理的思考力などの向上を図り、それにもとづいて組織の現実を理解し、適切に対応できるような能力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

受講者数や教室にもよりますが、講義形式の予定です(質問の時間は授業の終わりにとります)。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、テキスト、参考文献などについて説明。
第 2 回	経営管理とは何か	経営管理=マネジメントの全体像の説明。
第 3 回	管理過程論とバーナード理論による管理の定義	代表的な定義によるマネジメントについての理解。
第 4 回	管理=マネジメントの変容の方向性	前回の内容に基づいてマネジメントの変化の方向を検討する。
第 5 回	科学的管理法	科学的管理法の内容と現代的な意味。
第 6 回	人間関係論	人間関係論の内容と現代的な意味。
第 7 回	人間資源論	人間資源論の内容と現代的な意味。
第 8 回	目標管理	目標管理の内容と企業への導入。マネジメントの手法としてだけでなく、日本の経営の変容の中でその意味を理解する。
第 9 回	成果主義	日本企業における成果主義について。
第 10 回	管理過程理論	ファヨールの理論とアメリカの管理過程論について。
第 11 回	管理原則と組織	管理原則の内容と意味。
第 12 回	バーナード理論	バーナード理論の概要の説明。
第 13 回	インフォーマル組織と排除のメカニズム	インフォーマル組織の形成条件と、そこで作用する排除のメカニズムについて。
第 14 回	まとめ	春学期の内容を総合的にまとめる。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各時間ごとに、予習・復習の内容を指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で配布する資料などを有効に活用してください。

【テキスト(教科書)】

稲垣保弘『組織の解釈学』白桃書房(2002年)を予定。その他、配布プリントなどについて授業の開講時に説明します。

【参考書】

稲垣保弘『経営の解釈学』白桃書房(2013年)。経営管理の重要なテーマについて解釈学の視点から検討しているため、授業での理論的説明をより深く理解できます。その他は必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価は定期試験が中心ですが、平常点も加味する予定です。詳細については開講時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

開講時に授業の進め方に関連して説明します。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

関連科目：経営戦略論 I/II、経営組織論 I/II

この科目を受講する前に、上記『組織の解釈学』『経営の解釈学』について図書館で目次くらい目を通しておくのは、担当教員について知る上でも大切なことです(この科目に限ったことではありません)。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The course deals with basic management and organization theories. On the basis of understanding these theories, students will interpret management and organizational activities by applying theories to actual cases.

【Learning objectives】

By the end of the course, students will learn logical way of thinking about management and organization.

【Learning activities outside of classroom】

This course will be given by lecture. Students will be expected to spend time enough to review the course content.

【Grading criteria】

Grading will be decided mainly based on term examination.

MAN200FB

経営管理論Ⅱ（2018年度以前入学者）

稲垣 保弘

専門基礎科目 B 群 2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
 営 2 年 E～H

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営管理論Ⅰの延長であり、マネジメントについての主要な理論の中で応用的なもの、あるいは斬新な内容を含むものを取り上げ、パワー作用などハウツ的な知識も包括して、組織活動のマネジメントについて検討し、学生は経営学的な思考を身に付けることができます。

【到達目標】

やや応用的な新しい理論を理解することで、学生は論理的かつ創造的な思考に慣れて、現実の企業や組織について、多面的な検討ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

受講者数にもよりますが、講義形式を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、テキスト、参考文献、授業の予習・復習についての説明。
第 2 回	H. サイモンの意思決定理論Ⅰ	H. サイモン理論における人間観と「制約された合理性」について
第 3 回	H. サイモン理論Ⅱ	H. サイモン理論における意思決定と組織階層
第 4 回	組織のコンティンジェンシー理論Ⅰ	コンティンジェンシー理論と実証研究について
第 5 回	組織のコンティンジェンシー理論Ⅱ	ローレンス＝ローシュの理論について
第 6 回	コンフリクトの解消について	フォレット、ローレンス＝ローシュ、日本の経営などに見られるコンフリクトの解消方法について
第 7 回	意思決定のゴミ箱モデル	マーチ＝オルセンの意思決定理論とそれが意味するものについて
第 8 回	組織の進化論的モデルⅠ	K. ワイクの進化論的モデルと組織現象を流れとして理解することの意味について
第 9 回	組織の進化論的モデルⅡ	ルースカプリング、イナクトメントといったコンセプトの組織活動への意味
第 10 回	リーダーシップⅠ	リーダーシップはどのようなものかについて
第 11 回	リーダーシップⅡ	リーダーシップの主要な理論とその意味
第 12 回	組織のパワー現象	組織におけるパワー作用とパワーベースについて
第 13 回	企業文化	企業文化とその作用、そしてその根底にあるものについて
第 14 回	まとめ	秋学期の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習と復習についてはオリエンテーションで説明しますが、授業で配布する資料などを有効に活用してください。

【テキスト（教科書）】

稲垣保弘『経営の解釈学』白桃書房。

【参考書】

稲垣保弘『組織の解釈学』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

定期試験での評価が中心となりますが、平常点も加味されます。詳細はオリエンテーションで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も対面授業なのでオンラインとは違った成果が期待できると思います。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

授業を受講する前に、図書館などで上記『経営の解釈学』と『組織の解釈学』の目次くらいには目を通して、担当教員について知っておくことは大切です（この授業に限ったことではありませんけど）。

【関連科目】

経営組織論

【Outline (in English)】

【Course outline】

The course deals with applied theories of management and organizations. Students will interpret management and organizational activities by applying theories to actual cases.

【Learning objectives】

By the end of the course ,students will learn logical and creative way of thinking about management and organizations.

【Learning activities outside of classroom】

This course will be given by lecture. Students will be expected to spent time enough to review the course content.

【Grading Criteria】

Grading will be decided mainly based on term examination.

MAN200FB

経営戦略論 I (2018 年度以前入学者)

吉田 健二

専門基礎科目 B 群 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義では、経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】

経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業は、ハイフレックス授業形式で行います。対面授業をオンラインでもリアルタイムで配信します。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業形式になるかもしれません。

授業内で、提出されたレポートに対してフィードバックを行います。講義を行います。ときどきビデオを使って、なるべく分かりやすいようにするつもりです。

板書されないことでも自分が重要だと思ったことは、ノートに書くようにして下さい。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コースの説明	コースの概要と進め方等の説明
第 2 回	経営戦略の概念 (1)	経営戦略とは何か
第 3 回	経営戦略の概念 (2)	戦略的なものの見方
第 4 回	経営戦略の概念 (3)	経営戦略の 3 つのレベル
第 5 回	経営戦略の策定プロセス (1)	経営戦略の策定プロセス
第 6 回	経営戦略の策定プロセス (2)	SWOT 分析
第 7 回	経営理念	経営理念
第 8 回	企業ドメイン	企業ドメイン
第 9 回	外部環境分析 (1)	顧客分析
第 10 回	外部環境分析 (2)	競争業者分析
第 11 回	外部環境分析 (3)	業界分析
第 12 回	外部環境分析 (4)	マクロ環境分析
第 13 回	自社能力分析 (1)	自社能力分析
第 14 回	自社能力分析 (2)	VRIO フレームワーク、 コア・コンピタンス、 バリューチェーン

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業内容の復習とテキストの指定された部分を事前に読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略 [新版]』有斐閣、2008 年。
より良いテキストが見つかった場合には、変更する可能性があります。

【参考書】

- ① 網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011 年。
 - ② 清水勝彦『戦略の原点』日経 BP 社、2007 年。
 - ③ 三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2013 年。
 - ④ ジェイ・バーニー、ウィリアム・ヘスター『[新版] 企業戦略論 (上・中・下)』ダイヤモンド社、2021 年。
 - ⑤ マイケル・ヒット、デュエーン・アイルランド、ロバート・ホスキソン『戦略経営論 <改訂新版>』センゲージラーニング、2014 年。
 - ⑥ デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002 年。
 - ⑦ M.E. ポーター『競争の戦略 (新訂版)』ダイヤモンド社、1995 年。
 - ⑧ M.E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985 年。
- ①②④⑤⑥は経営戦略論のテキストで、③は経営戦略論の 100 年の流れを描いた本で、⑦と⑧は経営戦略論の古典といわれる本です。
他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験 (80%)、レポート (20%)
詳細は、第 1 回目の授業で説明します。
当たり前のことですが、真面目に授業に出席しないと、単位が取れないようです。

【学生の意見等からの気づき】

経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすい授業にするつもりです。
また、見やすいように板書することに努めます。

【その他の重要事項】

春学期(経営戦略論 I)と秋学期(経営戦略論 II)を続けて受講することをお勧めします。

1 年生で戦略論入門を受講していることが望ましいですが、受講していても構いません。

マーケティング・マネジメント論 I/II と関連していますので、それらの科目も合わせて履修することをお勧めします。

専門科目で国際経営戦略論 I/II、国際経営論 I/II、戦略的意思決定論 I/II、中小企業論 I/II、技術管理論 I/II を履修したい人は、履修することをお勧めします。

「がっちりマンデー!!」(TBS テレビ、日曜日)、「カンブリア宮殿」(テレビ東京、木曜日)、「ガイアの夜明け」(テレビ東京、金曜日)のテレビ番組は、企業や経営者などを理解するのに役立ちますので、それらの番組を見ることをお勧めします。

【Outline (in English)】

This course deals with concepts and theories of strategic management and their applications to companies.

At the end of the course, students are expected to develop their perspective on what is a strategy and to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for a class.

Final grade will be decided based on term-end examination(80%) and mid-term report(20%).

MAN200FB

経営戦略論Ⅱ（2018年度以前入学者）

吉田 健二

専門基礎科目 B 群 2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】

経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業は、ハイフレックス授業形式で行います。対面授業をオンラインでもリアルタイムで配信します。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業形式になるかもしれません。

授業内で、提出されたレポートに対してフィードバックを行います。

講義を行います。ときどきビデオを使って、なるべく分かりやすいようにするつもりです。

板書されないことでも自分が重要だと思ったことは、ノートに書くようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コースの説明	コースの説明と春学期の復習
第 2 回	事業戦略（1）	3つの基本戦略
第 3 回	事業戦略（2）	コスト・リーダーシップ 差別化 集中
第 4 回	事業戦略（3）	ブルー・オーシャン戦略
第 5 回	事業戦略（4）	先発優位・後発優位
第 6 回	事業戦略（5）	競争地位別の戦略
第 7 回	事業戦略（6）	製品のライフサイクル
第 8 回	企業戦略（1）	製品・市場マトリックス
第 9 回	企業戦略（2）	多角化戦略
第 10 回	企業戦略（3）	参入戦略
第 11 回	企業戦略（4）	垂直統合戦略
第 12 回	企業戦略（5）	PPM
第 13 回	経営戦略の実行（1）	経営戦略の実行
第 14 回	経営戦略の実行（2）	戦略の実行の分析フレームワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習とテキストの指定された部分を事前に読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略〔新版〕』有斐閣、2008年。

より良いテキストが見つかった場合には、変更する可能性があります。

【参考書】

① 網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年。

② 清水勝彦『戦略の原点』日経 BP 社、2007年。

③ 三谷宏治『経営戦略全史』デイスカヴァー・トゥエンティワン、2013年。

④ ジェイ・バーニー、ウィリアム・ヘスタリー『〔新版〕企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社、2021年。

⑤ マイケル・ヒット、デュエーン・アイルランド、ロバート・ホスキソン『戦略経営論 <改訂新版>』センゲージラーニング、2014年。

⑥ デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002年。

⑦ M.E. ポーター『競争の戦略（新訂版）』ダイヤモンド社、1995年。

⑧ M.E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985年。

①②④⑤⑥は経営戦略論のテキストで、③は経営戦略論の 100 年の流れを描いた本で、⑦と⑧は経営戦略論の古典といわれる本です。

他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験（80%）、レポート（20%）

詳細は、第 1 回目の授業で説明します。

当たり前のことですが、真面目に授業に出席しないと、単位が取れないようです。

【学生の意見等からの気づき】

経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすい授業にするつもりです。また、見やすいように板書することに努めます。

【その他の重要事項】

春学期（経営戦略論Ⅰ）と秋学期（経営戦略論Ⅱ）を続けて受講することをお勧めします。

1 年生で戦略論入門を受講していることが望ましいですが、受講していても構いません。

マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱと関連していますので、それらの科目も合わせて履修することをお勧めします。

専門科目で国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、国際経営論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、中小企業論Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱを履修したい人は、履修することをお勧めします。

「がっちりマンデー!!」（TBS テレビ、日曜日）、「カンパリア宮殿」（テレビ東京、木曜日）、「ガイアの夜明け」（テレビ東京、金曜日）のテレビ番組は、企業や経営者などを理解するのに役立ちますので、それらの番組を見ることをお勧めします。

【Outline (in English)】

This course deals with concepts and theories of strategic management and their applications to companies.

At the end of the course, students are expected to develop their perspective on what is a strategy and to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies.

Before each class meeting, students are expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for a class.

Final grade will be decided based on term-end examination(80%) and mid-term report(20%).

MAN200FB

経営戦略論 I (2018 年度以前入学者)

李 瑞雪

専門基礎科目 B 群 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概念的講義です。経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養います。

【到達目標】

主要な経営戦略に関する理論と概念を使って、現実の経営戦略を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ある程度大人数となることが予想されるため、基本的には講義方式で行いますが、講義中で具体的なケースを用いた作業 (小レポート、ディスカッションなど) を適宜行う予定です。事前に講義資料を学習支援システムにアップロードし予習を求めます。質問や発言等は講義中にも随時受け付けます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 講 イントロダクション	講義内容の構成、戦略の定義、経営戦略の定義、経営ビジョンと経営戦略などの説明
第 2 回	第 2 講 プランニング・アプローチ (I)	製品・市場ポートフォリオ、戦略的意思決定と業務的意思決定、成長ベクトル、シナジー、企業目標のヒエラルキー
第 3 回	第 3 講 プランニング・アプローチ (II)	戦略策定の手順、SWOT 分析、PPM、ビジネス・スクリーン、バランスド・スコアカード
第 4 回	第 4 講 ポジショニング・アプローチ (I)	S-C-P モデル (産業構造-企業行動-経営業績モデル)、ファイブ・フォース・モデル、ハーフィンダール指数、参入障壁
第 5 回	第 5 講 ポジショニング・アプローチ (II)	PIMS モデル、戦略グループ、移動障壁
第 6 回	第 6 講 ポジショニング・アプローチ (III)	産業構造と戦略的機会 (前半)。集約・統合戦略、先行者優位、市場リーダーシップ戦略、ニッチ戦略、収穫戦略、撤退産業、勝者総取り戦略など
第 7 回	第 7 講 ポジショニング・アプローチ (IV)	産業構造と戦略的機会 (後半)。グローバル戦略、マルチショナル戦略、トランスショナル戦略、デファクト・スタンダード戦略、勝者総取り戦略、先制破壊戦略、埋没コスト、破滅的競争など
第 8 回	第 8 講 リソース・ベース・アプローチ (I)	経営資源、経営資源の異質性と固着性、VRIO 分析フレームワーク、一時的競争優位と持続的競争優位
第 9 回	第 9 講 リソース・ベース・アプローチ (II)	経営資源模倣困難の要因、経路依存性、社会的複雑性のある経営資源、経営資源保有のパラドックス、経営資源蓄積のメカニズム、戦略的意図、コア・コンピタンスの探究など
第 10 回	第 10 講 ゲーム・アプローチ、コーペティション (I)	価値相関図 (バリュー・ネット)、「付加価値」の概念、競争と協調、顧客への「本質的サービス」の分析視点
第 11 回	第 11 講 ゲーム・アプローチ、コーペティション (II)	「価値」貢献度、明示的ルールと暗黙の認識、MFC 条項と MCC 条項、戦略的補完関係、意図的抑止 (contrived deterrence)
第 12 回	第 12 講 学習アプローチ、創発戦略 (I)	分析型・計画型アプローチとの違い、意図された戦略と実現された戦略、プロセス重視・学習重視、間接的戦略、帰納的戦略
第 13 回	第 13 講 学習アプローチ、創発戦略 (I)	学習の「場」、実験による学習、「反省」の重視、ダイナミック・シナジ
第 14 回	第 14 講 競争優位と一般戦略	競争優位とその累計、スタック・イン・ザ・ミドル、三つの一般戦略、見える差別化と見えざる差別化、垂直的差別化と水平的差別化

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweek などの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身につけ、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

とくにテキストを指定し購入を求めることはありません。事前に講義資料を学習支援システムにアップロードします。毎回の授業に先だって必ず該当する資料を予習してください。授業中は必ずしっかりとノートをとってください。

【参考書】

- 1) 青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』有斐閣
- 2) 沼上幹『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社
- 3) M.E. ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社
- 4) ジェイ・B・バーニー『企業戦略論』(上、中、下) ダイヤモンド社
- 5) G. サローナーほか『経営戦略論』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション参加 (+a)、小レポートなど平常点 (40%)、期末テスト (60%)、授業中の私語や携帯使用 (-a)。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を勘案しながら授業スピードを適宜調整するように心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

経営戦略論 I と経営戦略論 II は、一貫した講義構成になっているため、通年で履修することをお勧めします。とくに、秋学期 (経営戦略論 II) のみの履修では、内容の理解において困難を伴う可能性があります。ご注意ください。主な関連科目として、経営学総論 I/II、国際経営戦略論 I/II、戦略的意思決定論 I/II、経営分析 I/II、III/IV、日本経営論 I/II、経営組織論 I/II、マーケティング論 I/II、経営管理論 I/II などが挙げられます。

【Outline (in English)】

This course is an basic lecture on strategic management which is one of the core areas in business administration. The main objectives include understanding the basic theories and concepts of strategic management and cultivating the ability to analyze strategic behaviors by reviewing some real cases related to companies. The final grade will be calculated according to the following process. Term-end examination: 60%, Short reports: 20%, and in-class contribution: 20%.

MAN200FB

経営戦略論Ⅱ（2018年度以前入学者）

李 瑞雪

専門基礎科目 B 群 2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概論的講義です。経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養います。

【到達目標】

主要な経営戦略に関する理論と概念を使って、現実の経営戦略を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

秋学期は対面授業を実施する予定である。状況によってオンライン開催を余儀なくされる場合、講義形式などの詳細について適宜提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 講 イントロダクション、一般戦略	春学期（経営戦略論Ⅰ）の内容の復習、秋学期講義内容の構成、3 つの一般戦略と競争優位
第 2 回	第 2 講 ゲームアプローチ	価値相関図（バリュー・ネット）、戦略的補完関係、「付加価値」と価値貢献度、競争と協調、顧客への「本質的サービス」、明示的ルールと暗黙的認識、MFC 条項と MCC 条項、意図的抑止意図された戦略と実現された戦略、プロセス重視・学習重視、間接的戦略、帰納的戦略、学習の「場」、実験と「反省」による学習、ダイナミック・シナジ
第 3 回	第 3 講 学習アプローチと創発戦略	隔離メカニズム、強みの源泉の専有化、経営資源の不確実性、暗黙知と形式知、強みの累積、先手の連鎖、戦略フィット、活動システム、柔道ストラテジー
第 4 回	第 4 講 競争優位の持続可能性	ネットワーク外部性、互換性、デファクト・スタンダード獲得戦略（クロズド戦略とオープン戦略）、クリティカル・マス、プラットフォーム戦略
第 5 回	第 5 講 ネットワーク外部性と競争優位	イノベーションの定義と分類、イノベーションの特徴とそのマネジメント、イノベーションと競争優位との関係、イノベーションのジレンマ、「死の谷（デスバレー）」、知的財産戦略（イノベーションの収益化）、オープン・イノベーション、リハース・イノベーション、フルガール・イノベーション
第 7 回	第 7 講 吸収合併（M&A）	M&A の類型、戦略的関連性の源泉、M&A 戦略の動機、M&A 戦略と企業パフォーマンス、ピディング企業の経営者の規範、ターゲット企業の経営者の原則、ターゲット企業の行動、ターゲット企業の対抗策
第 8 回	第 8 講 戦略的提携	戦略的提携の定義と形態、戦略提携と業務提携、戦略的提携と業界構造、戦略的提携の動機、提携におけるリスク、アウトソーシング
第 9 回	第 9 講 垂直統合と競争優位	垂直方向の事業展開、垂直統合度、Make or Buy の意思決定、第 3 の取引形態、取引統治メカニズムの類型（スポット市場契約やクランなど）、垂直統合と持続的競争優位との関係、垂直統合のための組織
第 10 回	第 10 講 サプライチェーンマネジメント（SCM）の戦略	SCM の定義、サプライチェーンのプロセス（SCOR モデル）、プロセス統合、企業の競争基盤とサプライチェーンの貢献、SCM 戦略の構成要素、制約理論（TOC）、投機と延期

第 11 回 第 11 講 調達戦略

Make or Buy の意思決定、調達戦略の多様な目標、TCO の最小化、調達方式の 4 類型、調達戦略のマトリクス、調達プロセスの基本原則、調達戦略と企業間コラボレーション

第 12 回 第 12 講 製造戦略と生産プロセス

ETO、MTO、ATO、MTO、ジョブショップ、バッチフロー、ライン・フロー、連続フロー、製品・工程マトリクス、製品・工程ライフサイクルと生産性ジレンマ、マスカスタマイゼーション、リーン生産システム

第 13 回 第 13 講 ロジスティクス戦略と競争優位

スピードの経済とロジスティクス戦略、ロジスティクス戦略の類型、ジャストインタイムの物流、サードパーティ・ロジスティクス（3PL）、共同物流

第 14 回 第 14 講 秋学期の内容のまとめ

1 回目から 13 回目までの授業内容のまとめ・総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweek などの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身につけ、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストを指定し購入を求めることはありません。事前に講義資料とリーディング資料を授業支援システムにアップロードします。毎回の授業に先だって必ず該当する資料を予習しておいてください。授業中は必ずしっかりとノートをとってください。

【参考書】

- 1) 青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』有斐閣
- 2) 沼上幹『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社
- 3) M.E. ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社
- 4) ジェイ・B・バーニー『企業戦略論』（上、中、下）ダイヤモンド社
- 5) G. サローナーほか『経営戦略論』東洋経済新報社
- 6) デビッド・コリス&シンシア・モンゴメリー『資源ベースの経営戦略論』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

「平常点」20%、「小テスト」30%、「期末テスト」50%

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を勘案しながら授業スピードを適宜調整するように心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

経営戦略論Ⅰと経営戦略論Ⅱは、一貫した講義構成になっているため、通年で履修することをお勧めします。とくに、秋学期（経営戦略論Ⅱ）のみの履修では、内容の理解において困難を伴う可能性があります。ご注意ください。主な関連科目として、戦略論入門、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、日本の物流と企業経営、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱなどが挙げられます。

【Outline (in English)】

This course is a basic lecture on strategic management which is one of the core areas in business administration. The main objectives include understanding the basic theories and concepts of strategic management and cultivating the ability to analyze strategic behaviors by reviewing some real cases related to companies. Students will be expected to have read the relevant chapters from the references and other materials suggested by the teacher before each class meeting. The final grade will be calculated according to the following process. Term-end examination: 50%, Short reports: 30%, and in-class contribution: 20%.

MAN200FA

マーケティング論 I

竹内 淑恵

専門基礎科目 B 群 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、マーケティング・マネジメントについて学びます。STP (セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング) やマーケティングの 4 P (製品、価格、プロモーション、流通) などの伝統的なマーケティング概念、および先進的なマーケティング戦略を習得します。内容は 5 つの主要なテーマで構成されています。

1. マーケティングの本質と市場競争への対応
2. 顧客価値の発見と理解
3. 顧客価値の創造と提供
4. 顧客価値の説得と伝達
5. マーケティングの革新

なお、本講義では主にテーマ 1～3 を取り上げ、テーマ 3～5 はマーケティング・マネジメント論 II で学びます。

【到達目標】

- ・マーケティングの知識とスキルを習得し、マーケティングの重要性と役割を説明できるようになる。
- ・今日のマーケティングの本質を捉えた、顧客価値と顧客関係のための革新的なフレームワークを理解する。
- ・課題に取り組むことにより、文章作成力、情報収集と分析力を身につける。
- ・マーケティング理論やそれに関連したケーススタディを通じて企業経営に対して関心を持つ。
- ・生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」と「DP-5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業は 1 回目はオンラインで、2 回目以降は対面で実施します。オンラインに切り替える場合には学習支援システムでお知らせします。
 ・毎週授業前日の火曜日に、講義資料を学習支援システムの「教材」にアップします。教室での資料配布は行いません。各自ダウンロードしてください。
 ・授業の進め方と方法については初回授業 (オンラインで実施) で説明します。こちらの資料も上記と同様に「教材」に「ガイダンス資料」というファイル名で掲載する予定です。
 ・中間レポート課題のテーマは Google Classroom に掲載します。提出先も Google Classroom です。

・Google Classroom への登録が別途必要となります。クラスコード等の詳細は学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。
 ・ゲストスピーカーによるマーケティング実務の講義を検討していますが、対面ではなく、オンラインによる講義になる可能性が高いです。なお、講演者名、テーマ、日程等の詳細は未定です。決まり次第、お知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス テーマ 1 : マーケティングの本質と市場競争 第 1 章 マーケティングの本質①	授業ガイダンスを行います。あわせてマーケティングの定義について学びます。
第 2 回	テーマ 1 : マーケティングの本質と市場競争 第 1 章 マーケティングの本質②	マーケティングの 5 つのステップについて学びます。
第 3 回	テーマ 1 : マーケティングの本質と市場競争 第 2 章 企業とマーケティング戦略①	顧客主導型マーケティング戦略の設計について学びます。
第 4 回	テーマ 1 : マーケティングの本質と市場競争 第 2 章 企業とマーケティング戦略②	マーケティング・プログラムの設計について学びます。
第 5 回	テーマ 1 : マーケティングの本質と市場競争 第 3 章 競争優位の創造①	競合他社の明確化と競合他社の分析、競合他社に対する自社のポジションの規定について学びます。
第 6 回	テーマ 1 : マーケティングの本質と市場競争 第 3 章 競争優位の創造②	特定の市場における競争優位を得るための競争的マーケティング戦略について学びます。

第 7 回	テーマ 2 : 顧客価値の発見と理解 第 4 章 マーケティングの基本枠組み①	STP の S(市場細分化) と T(ターゲティング) について学びます。
第 8 回	テーマ 2 : 顧客価値の発見と理解 第 4 章 マーケティングの基本枠組み②	STP の P(ポジショニング) と差別化について学びます。
第 9 回	テーマ 2 : 顧客価値の発見と理解 第 5 章 マーケティング情報とカスタマー・インサイト①	マーケティング情報の抽出、カスタマー・インサイトについて学びます。
第 10 回	テーマ 2 : 顧客価値の発見と理解 第 5 章 マーケティング情報とカスタマー・インサイト②	マーケティング情報の分析と利用、マーケティング・リサーチについて学びます。
第 11 回	テーマ 2 : 顧客価値の発見と理解 第 6 章 消費者の購買行動①	消費者行動に影響を与える特性、購買行動のタイプについて学びます。
第 12 回	テーマ 2 : 顧客価値の発見と理解 第 6 章 消費者の購買行動②	購買者の意思決定プロセスについて学びます。
第 13 回	テーマ 3 : 第 3 部 : 顧客価値の創造と提供 第 7 章 製品、サービス、ブランド①	製品とは何か、サービス・マーケティングについて学びます。
第 14 回	テーマ 3 : 第 3 部 : 顧客価値の創造と提供 第 7 章 製品、サービス、ブランド②	ブランド・エクイティ、ブランディングについて学びます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
- ・教科書には、基本的な理論の説明やそれに関連する事例の紹介があります。マーケティングを知るには、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報に敏感になること、また、実際の売り場を見ることも大切です。教科書による学習だけでなく、「今、市場で起こっていること」に興味を持ち、自分の目と耳で確認するよう心掛けてください。

【テキスト (教科書)】

- ・フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人著 『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版 (2014 年)。

【参考書】

- ・西尾ナヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版 (2007 年)。
- ・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦 『マーケティング戦略第 5 版』有斐閣アルマ (2016 年)。
- ・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編集『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎 (2016 年)。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①+②の合計 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

- ①中間レポート
 ・提出締め切り日の 1 ヶ月前にはテーマを発表します。
 ・40 点満点で採点します。
 <レポート提出の注意事項>
 ・レポート課題を作成する際の剽窃行為は厳に慎んでください。web などから文章や図表、画像を引用する場合は URL、記事タイトル、アクセス日を明記してください。
 ・提出物のファイル名、本文の冒頭に学生証番号と氏名を記載してください。本科目には受講生が多数います。他の受講生の提出物と識別できるように、各自このルールを守ってください。
 ・レポート課題は基本的に書かれた内容で評価しますが、指定文字数よりも少ない場合には減点の対象となります。
 ・中間レポート未提出の場合、成績評価に大きく影響しますので、必ず提出してください。
 ・一人ひとりにコメントを戻す予定ですが、コメントに基づいて修正・再提出の必要はありません。
- ②学期末テスト
 ・学期末テストの期間中に教室にて実施するか、あるいは学習支援システムの「テスト/アンケート」にて実施するかについては現時点では確定できません。詳細は決まり次第お知らせします。
 ・3 択形式と穴埋め形式、60 点満点です。設問数等の詳細についても上記同様決まり次第お知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

この3年間、提出されたレポート課題については、一人ひとりに良い点、改善点などをフィードバックしました。提出したレポートが褒められると励みになった、という声が寄せられました。一人ひとりにコメントを書くのはとても時間がかかりますが、頑張ってフィードバックしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンでは画面が小さく、視聴しづらいので、タブレットやノートPCなどを準備の上、受講するようお願いいたします。

【その他の重要事項】

・マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱは、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱなどマーケティング系の専門科目の基盤となる科目です。マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属する、あるいは所属したいと考えている学生は受講することをお勧めします。

・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計20年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論をわかりやすく講義します。

【Outline (in English)】

Course outline: The objectives of this course are to learn marketing management. Students will learn the traditional marketing concepts such as STP (segmentation, targeting, positioning), marketing 4P's (product, price, promotion, place), and advanced marketing strategies. The content consists of five main themes:

1. Essence of marketing and addressing market competition,
2. Identifying and understanding customer value,
3. Creating and delivering customer value,
4. Persuading and communicating customer value,
5. Innovation in marketing.

Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), and term-end examination (60%).

MAN200FA

マーケティング論 II

竹内 淑恵

専門基礎科目 B 群 2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、マーケティング・マネジメントについて学びます。STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）やマーケティングの 4 P（製品、価格、プロモーション、流通）などの伝統的なマーケティング概念、および先進的なマーケティング戦略を習得します。内容は 5 つの主要なテーマで構成されています。

1. マーケティングの本質と市場競争への対応
2. 顧客価値の発見と理解
3. 顧客価値の創造と提供
4. 顧客価値の説得と伝達
5. マーケティングの革新

なお、本講義はマーケティング・マネジメント論 I に続いて開講します。II からの履修も可能ですが、扱うテーマは 3 以降になります。

【到達目標】

・マーケティングの知識とスキルを習得し、マーケティングの重要性と役割を説明できるようになる。
 ・今日のマーケティングの本質を捉えた、顧客価値と顧客関係のための革新的なフレームワークを理解する。
 ・課題に取り組むことにより、文章作成力、情報収集と分析力を身につける。
 ・マーケティング理論やそれに関連したケーススタディを通じて企業経営に対して関心を持つ。
 ・生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」と「DP-5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業は 1 回目はオンラインで、2 回目以降は対面で実施します。オンラインに切り替える場合には学習支援システムでお知らせします。
 ・毎週授業前日の火曜日に、講義資料を学習支援システムの「教材」にアップします。教室での資料配布は行いません。各自ダウンロードしてください。
 ・授業の進め方と方法については初回授業（オンラインで実施）で説明します。こちらの資料も上記と同様に「教材」に「ガイダンス資料」というファイル名で掲載する予定です。
 ・中間レポート課題のテーマは Google Classroom に掲載します。提出先も Google Classroom です。

・Google Classroom への登録が別途必要となります。クラスコード等の詳細は学習支援システムの「お知らせ」に掲載します。
 ・ゲストスピーカーによるマーケティング実務の講義を検討していますが、対面ではなく、オンラインによる講義になる可能性が高いです。なお、講演者名、テーマ、日程等の詳細は未定です。決まり次第、お知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマ 3：顧客価値の創造と提供 第 8 章 新製品開発と製品ライフサイクル戦略①	新製品開発のプロセス、マネジメントについて、また製品ライフサイクル学びます。
第 2 回	テーマ 3：顧客価値の創造と提供 第 8 章 新製品開発と製品ライフサイクル戦略②	製品ライフサイクルの戦略について学びます。
第 3 回	テーマ 3：顧客価値の創造と提供 第 9 章 マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供①	サプライ・チェーンと価格提供ネットワーク、チャネル・コンフリクトについて学びます。
第 4 回	テーマ 3：顧客価値の創造と提供 第 9 章 マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供②	マーケティング・システム、チャネル設計に関する意思決定について学びます。
第 5 回	テーマ 4：顧客価値の説得と伝達 第 10 章 価格設定①	市場状況と価格設定戦略について学びます。
第 6 回	テーマ 4：顧客価値の説得と伝達 第 10 章 価格設定②	価格調整戦略、価格変更について学びます。

第 7 回	テーマ 4：顧客価値の説得と伝達 第 11 章 コミュニケーションによる顧客価値の説得①①	統合型マーケティング・コミュニケーションについて学びます。
第 8 回	テーマ 4：顧客価値の説得と伝達 第 11 章 コミュニケーションによる顧客価値の説得②	マーケティング・コミュニケーションの開発プロセス、予算設定について学びます。
第 9 回	テーマ 4：顧客価値の説得と伝達 第 12 章 広告とパブリック・リレーションズ①	広告戦略の展開について学びます。
第 10 回	テーマ 4：顧客価値の説得と伝達 第 12 章 広告とパブリック・リレーションズ②	広告媒体の選定、パブリック・リレーションズについて学びます。
第 11 回	テーマ 4：顧客価値の説得と伝達 第 13 章 人的販売と販売促進①	人的販売、セールス・フォースの管理について学びます。
第 12 回	テーマ 4：顧客価値の説得と伝達 第 13 章 人的販売と販売促進②	販売促進について学びます。
第 13 回	テーマ 5：マーケティングの革新 第 14 章 ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング①	ダイレクト・マーケティングの捉え方と形態について学びます。
第 14 回	テーマ 5：マーケティングの革新 第 14 章 ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング②	オンライン・マーケティングの実施について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 ・教科書には、基本的な理論の説明やそれに関連する事例の紹介があります。マーケティングを知るには、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報に敏感になること、また、実際の売り場を見ることも大切です。教科書による学習だけでなく、「今、市場で起こっていること」に興味を持ち、自分の目と耳で確認するよう心掛けてください。

【テキスト（教科書）】

・フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人著 『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版（2014 年）。

【参考書】

・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版（2007 年）。
 ・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦 『マーケティング戦略第 5 版』有斐閣アルマ（2016 年）。
 ・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編集 『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎（2016 年）。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①+②の合計 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

- ①中間レポート
 ・提出締め切り日の 1 ヶ月前にはテーマを発表します。
 ・40 点満点で採点します。
 <レポート提出の注意事項>
 ・レポート課題を作成する際の剽窃行為は厳に慎んでください。web などから文章や図表、画像を引用する場合は URL、記事タイトル、アクセス日を明記してください。
 ・提出物のファイル名、本文の冒頭に学生証番号と氏名を記載してください。本科目には受講生が多数います。他の受講生の提出物と識別できるように、各自このルールを守ってください。
 ・レポート課題は基本的に書かれた内容で評価しますが、指定文字数よりも少ない場合には減点の対象となります。
 ・中間レポート未提出の場合、成績評価に大きく影響しますので、必ず提出してください。
 ・一人ひとりにコメントを戻す予定ですが、コメントに基づいて修正・再提出の必要はありません。

②学期末テスト

・学期末テストの期間中に教室にて実施するか、あるいは学習支援システムの「テスト/アンケート」にて実施するかについては現時点では確定できません。

詳細は決まり次第お知らせします。

・3 択形式と穴埋め形式、60 点満点です。設問数等の詳細についても上記同様決まり次第お知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

この 3 年間、提出されたレポート課題については、一人ひとりに良い点、改善点などをフィードバックしました。提出したレポートが褒められると励みになった、という声が寄せられました。一人ひとりにコメントを書くのはとても時間がかかりますが、頑張ってフィードバックしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンでは画面が小さく、視聴しづらいので、タブレットやノート PC などを準備の上、受講するようお願いします。

【その他の重要事項】

・マーケティング・マネジメント論 I/II は、消費者行動論 I/II、マーケティング・リサーチ I/II、サービス・マネジメント論 I/II、流通論 I/II、製品開発論 I/II などマーケティング系の専門科目の基盤となる科目です。マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属する、あるいは所属したいと考えている学生は受講することをお勧めします。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論をわかりやすく講義します。

【Outline (in English)】

Course outline: The objectives of this course are to learn marketing management. Students will learn the traditional marketing concepts such as STP (segmentation, targeting, positioning), marketing 4P's (product, price, promotion, place), and advanced marketing strategies. The content consists of five main themes:

1. Essence of marketing and addressing market competition,
2. Identifying and understanding customer value,
3. Creating and delivering customer value,
4. Persuading and communicating customer value,
5. Innovation in marketing.

Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), and term-end examination (60%).

ECN200FA

金融論 I (2018 年度以前入学者)

片桐 満

専門基礎科目 B 群 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

投資やお金に関して学ぶことは、将来、社会で生きていくために必須の知識になりつつあります。また、金融業界への就職やフィナンシャルプランナーなど金融に関する資格の取得を考えている学生はもちろん、金融以外の業種で働く人たちも、仕事を進めていく上で金融に関する様々な知識が求められます。このコースでは、投資やお金について、個人が生活していく上で必要な金融の知識や、経済における金融機関の役割など、金融論の基礎を学びます (秋学期の後半部分では、こうした金融の基礎知識を前提として、金融政策など金融に関わる政策や、財政や税金の仕組みなど、金融の公的側面について学びます)。

【到達目標】

このコースでは、金融理論が、個人々の生活や社会に出てからビジネスにおいてどのように役立つのか、という実務的な視点を重視します。実務と理論のつながりを理解し、金融に関する課題について、自分なりの解決方法が見いだすことができるだけの十分な知識を身につけることが、このコースの到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

特にテキストは指定せず、毎回、スライドに基づいた授業を行います。理論的な内容を含む授業は、動画を見直しながら学習できるようオンデマンド方式で配信し、そのほかの授業は、対面での授業を行います。現時点では、オンデマンド方式が 7 回、対面授業が 7 回の予定ですが、変更する可能性があります。また、実務とのつながりを重視する観点から、授業と関連する新聞や雑誌の記事を紹介し、授業の内容と関連付けながら解説します。オンデマンド授業については、リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	金融論 I の概要	金融論 I で学ぶ内容を概観します。
第 2 回	金利と債券	金利の役割を学んだのち、債券について解説します。
第 3 回	株式	株式市場について、証券会社の役割も含めて解説します。
第 4 回	資産価格の決定理論	CAPM やファクターモデルなど、資産価格 (= 株価) の決定理論を学びます。
第 5 回	デリバティブ (先物とオプション)	デリバティブの仕組みと金融市場での役割について解説します。
第 6 回	投資信託と保険	身近な金融商品である投資信託と保険について学びます。
第 7 回	間接金融の役割	金融機関を介した金融仲介について、金融市場との違いを中心に学びます。
第 8 回	金融仲介機関 (銀行)	銀行を中心として、金融仲介機関が間接金融で果たす役割を学びます。
第 9 回	金融のデジタル化	電子マネーや暗号資産など、金融のデジタル化について解説します。
第 10 回	為替レートと海外投資	金融のグローバル化に伴う海外投資と為替レートについて学びます。
第 11 回	為替レートの決定	為替レートを決定する理論として、購買力平価と金利平価について学びます。
第 12 回	企業の資本調達	株式や借入れなど、企業の資金調達手段の選択について解説します。
第 13 回	資産運用のプラン	これまでの授業を踏まえ、資産運用について発表・ディスカッションします。
第 14 回	起業とベンチャーキャピタル	ベンチャーキャピタルとは何かを解説し、起業における役割を学びます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。復習では、以下に挙げる参考文献のほか、関連する新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えてください。

【テキスト (教科書)】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考文献として、以下の教科書を参照します。

・内田浩史「金融」(有斐閣)

・ブリーリー他「コーポレート・ファイナンス 第 10 版 (上)」(日経 BP)

【成績評価の方法と基準】

評価は、中間レポート (30%) と期末試験 (70%) に基づいて決定します。リアクションペーパーは、提出しなかったり、内容が著しくひどかったりした場合のみ、テストの点から減点していきます。

【学生の意見等からの気づき】

・ 期末試験だけではなく、授業への参加度を評価に加えて欲しいという要望があったため、オンデマンド授業について、リアクションペーパーの提出を求めることにします。

・ グループディスカッションの機会を設けて欲しいという意見があったため、今学期から、中間レポートに基づくディスカッションを取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

教材の共有のため学習支援システムを利用します。オンデマンドの映像教材も含まれるため、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

・ 春学期・秋学期の金融論 I/II を連続で履修することを推奨します。

・ 日本銀行や国際通貨基金 (IMF) において、金融の実務に 15 年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

【関連科目】

「ファイナンス入門」を受講していることが望ましいです (必須ではありません)。そのほか、コーポレートファイナンス I/II、デリバティブ入門 I/II、国際金融論 I/II と関連しています。

【Outline (in English)】

Learning about investments and money is becoming essential knowledge for future life in society. In addition, students who wish to work in the financial industry after graduation, as well as those who work in non-financial industries, are required to have a variety of knowledge about finance in order to carry out their work. In this course, students will learn the basics of financial theory necessary for individuals to live their lives, as well as the role of financial institutions in the economy. (In the latter part of the fall semester, based on this basic knowledge of finance, students will learn about policies related to finance, such as monetary policy, and the public sector of finance, including fiscal and tax systems). The goal of this course is for students to understand the connection between practice and theory and to acquire sufficient knowledge to be able to find their own solutions to financial problems. After the class, students are expected to review what they learned in class and read articles in newspapers and magazines related to the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The grades are based on the final exam (70%) and mid-term report (30%).

ECN200FA

金融論Ⅱ（2018年度以前入学者）

片桐 満

専門基礎科目 B 群 2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

投資やお金に関して学ぶことは、将来、社会で生きていくために必須の知識になりつつあります。また、金融業界への就職やフィナンシャルプランナーなど金融に関する資格の取得を考えている学生はもちろん、金融以外の業種で働く人たちも、仕事を進めていく上で金融に関する様々な知識が求められます。このコースでは、春学期の金融論Ⅰで学んだ金融の基礎知識を前提として、金融政策や金融規制など金融に関わる政策や、財政の仕組み（年金、社会保険、税金など）について学びます。

【到達目標】

このコースでは、金融理論が個人や社会に出てからのビジネスにおいてどのように役立つのか、という実務的な視点を重視します。実務と理論のつながりを理解し、金融に関するビジネス上の課題について、自分なりの解決方法が見いだせるだけの十分な知識を身につけることが、このコースの到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

特にテキストは指定せず、毎回、スライドに基づいた授業を行います。理論的な内容を含む授業は、動画を見直しながら学習できるようオンデマンド方式で配信し、そのほかの授業は、対面での授業を行います。現時点では、オンデマンド方式が7回、対面授業が7回の予定ですが、変更する可能性があります。また、実務とのつながりを重視する観点から、授業と関連する新聞や雑誌の記事を紹介し、授業の内容と関連付けながら解説します。毎回、リアクションペーパーの提出を求め、それに基づき授業内容などを微修正する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	金融論Ⅱの概要	金融政策や金融規制、財政の仕組みなど、金融論Ⅱを概観します。
第2回	金融政策の手段	伝統的な金融政策の基本となる金融調節と短期金融市場について学びます。
第3回	金融政策の効果	金融政策が、経済活動やインフレ率に影響する仕組みを学びます。
第4回	金融政策の運営	金融政策がどう決定されているか（されるべきか）を学びます。
第5回	非伝統的金融政策	資産買入政策やゼロ金利政策等、新たな金融政策の枠組みを学びます。
第6回	財政1：税の仕組み	生活やビジネスで必須となる様々な税の仕組みを学びます。
第7回	財政2：年金と社会保険	個人の資金計画で重要な年金と社会保険（介護、医療など）を学びます。
第8回	財政3：財政と金融政策	国債発行と財政インフレを中心に、金融政策と財政の関係を学びます。
第9回	為替市場と通貨危機	為替介入や通貨危機の原因・帰結について学びます。
第10回	日本の財政・金融政策	授業内容を踏まえ、日本の財政・金融政策について発表・議論します。
第11回	金融危機の発生と影響	金融危機の発生メカニズムとその影響について学びます。
第12回	事後のブルーデンス政策	金融危機への政策対応として、銀行の破綻処理などについて学びます。
第13回	事前のブルーデンス政策	金融危機を未然に防ぐ政策として、自己資本比率規制などを学びます。
第14回	デジタル通貨	デジタル通貨と金融・ブルーデンス政策との関係について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。復習では、以下に挙げる参考文献のほか、関連ある新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考文献として、以下の教科書を参照します。

- ・内田浩史「金融」（有斐閣）
- ・小林照義「金融政策（ベーシック+）」（中央経済社）

- ・白川方明「中央銀行—セントラルバンカーの経験した39年」（東洋経済新報社）
- ・土居丈朗「入門 財政学 [第2版]」（日本評論社）

【成績評価の方法と基準】

評価は、中間レポート（30%）と期末試験（70%）に基づいて決定します。リアクションペーパーは、提出しなかったり、内容が著しく酷かったりした場合、テストの点から減点していきます。

【学生の意見等からの気づき】

- ・期末試験だけでなく、授業への参加度を評価に加えて欲しいという要望があったため、オンデマンド授業について、リアクションペーパーの提出を求めことにします。
- ・グループディスカッションの機会を設けて欲しいという意見があったため、今学期から、中間レポートに基づくディスカッションを取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

教材の共有のため学習支援システムを利用します。オンデマンドの映像教材も含まれるため、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

- ・春学期・秋学期の金融論Ⅰ/Ⅱを連続で履修することを推奨します。
- ・日本銀行や国際通貨基金（IMF）において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

【関連科目】

ミクロ経済学、マクロ経済学が関連科目ですが、事前履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

Financial economics is essential knowledge for businesspersons in any industry. In this class, students study introductory financial economics such as the role of financial markets and financial institutions in the spring term and then learn about public policy including monetary policy and financial regulations in the fall term. The goal of this class is to acquire sufficient knowledge about financial economics for resolving business challenges. After the class, students are expected to review what they learned in class and read articles in newspapers and magazines related to the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The grades are based on (1) the final exam (70%), and (2) the mid-term report (30%).

MAN200FB

経営管理論 I (2019 年度以降入学者)

稲垣 保弘

経営学科専門科目 200 番号 2~4 (経営学科) 3~4 (経営戦略学科・市場経営学科) 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 2 年 A~D

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経営管理の主要な理論の中でもマネジメントについて考察する上で基礎となる理論について理解し、それに基づいて組織活動をどのようにマネジメントしていくのかを基本的なレベルで検討し、学生は経営学的な思考方法の基礎を身に付けることができます。

【到達目標】

授業のテーマ (組織のマネジメントの理論と実践) について、学生の知識と論理的思考力などの向上を図り、それにもとづいて組織の現実を理解し、適切に対応できるような能力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

受講者数や教室にもよりますが、講義形式の予定です (質問の時間は授業の終わりにとります)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、テキスト、参考文献などについて説明。
第 2 回	経営管理とは何か	経営管理=マネジメントの全体像の説明。
第 3 回	管理過程論とバーナード理論による管理の定義	代表的な定義によるマネジメントについての理解。
第 4 回	管理=マネジメントの変容の方向性	前回の内容に基づいてマネジメントの変化の方向を検討する。
第 5 回	科学的管理法	科学的管理法の内容と現代的な意味。
第 6 回	人間関係論	人間関係論の内容と現代的な意味。
第 7 回	人間資源論	人間資源論の内容と現代的な意味。
第 8 回	目標管理	目標管理の内容と企業への導入。マネジメントの手法としてだけでなく、日本の経営の変容の中でその意味を理解する。
第 9 回	成果主義	日本企業における成果主義について。
第 10 回	管理過程理論	ファヨールの理論とアメリカの管理過程論について。
第 11 回	管理原則と組織	管理原則の内容と意味。
第 12 回	バーナード理論	バーナード理論の概要の説明。
第 13 回	インフォーマル組織と排除のメカニズム	インフォーマル組織の形成条件と、そこで作用する排除のメカニズムについて。
第 14 回	まとめ	春学期の内容を総合的にまとめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各時間ごとに、予習・復習の内容を指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で配布する資料などを有効に活用してください。

【テキスト (教科書)】

稲垣保弘『組織の解釈学』白桃書房 (2002 年) を予定。その他、配布プリントなどについて授業の開講時に説明します。

【参考書】

稲垣保弘『経営の解釈学』白桃書房 (2013 年)。経営管理の重要なテーマについて解釈学の視点から検討しているため、授業での理論的説明をより深く理解できます。その他は必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価は定期試験が中心ですが、平常点も加味する予定です。詳細については開講時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

開講時に授業の進め方に関連して説明します。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

関連科目：経営戦略論 I/II、経営組織論 I/II

この科目を受講する前に、上記『組織の解釈学』『経営の解釈学』について図書館で目次くらい目を通しておくのは、担当教員について知る上でも大切なことです (この科目に限ったことではありません)。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The course deals with basic management and organization theories. On the basis of understanding these theories, students will interpret management and organizational activities by applying theories to actual cases.

【Learning objectives】

By the end of the course, students will learn logical way of thinking about management and organization.

【Learning activities outside of classroom】

This course will be given by lecture. Students will be expected to spend time enough to review the course content.

【Grading criteria】

Grading will be decided mainly based on term examination.

MAN200FB

経営管理論Ⅱ（2019年度以降入学者）

稲垣 保弘

経営学科専門科目 200 番号 2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]
 営 2 年 A～D

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営管理論Ⅰの延長であり、マネジメントについての主要な理論の中で応用的なもの、あるいは斬新な内容を含むものを取り上げ、パワー作用などハウツー的な知識も包括して、組織活動のマネジメントについて検討し、学生は経営学的な思考を身に付けることができます。

【到達目標】

やや応用的な新しい理論を理解することで、学生は論理的かつ創造的な思考に慣れて、現実の企業や組織について、多面的な検討ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

受講者数にもよりますが、講義形式を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、テキスト、参考文献、授業の予習・復習についての説明。
第 2 回	H. サイモンの意思決定理論Ⅰ	H. サイモン理論における人間観と「制約された合理性」について
第 3 回	H. サイモン理論Ⅱ	H. サイモン理論における意思決定と組織階層
第 4 回	組織のコンティンジェンシー理論Ⅰ	コンティンジェンシー理論と実証研究について
第 5 回	組織のコンティンジェンシー理論Ⅱ	ローレンス＝ローシュの理論について
第 6 回	コンフリクトの解消について	フォレット、ローレンス＝ローシュ、日本の経営などに見られるコンフリクトの解消方法について
第 7 回	意思決定のゴミ箱モデル	マーチ＝オルセンの意思決定理論とそれが意味するものについて
第 8 回	組織の進化論的モデルⅠ	K. ワイクの進化論的モデルと組織現象を流れとして理解することの意味について
第 9 回	組織の進化論的モデルⅡ	ルースカプリング、イナクトメントといったコンセプトの組織活動への意味
第 10 回	リーダーシップⅠ	リーダーシップはどのようなものかについて
第 11 回	リーダーシップⅡ	リーダーシップの主要な理論とその意味
第 12 回	組織のパワー現象	組織におけるパワー作用とパワーベースについて
第 13 回	企業文化	企業文化とその作用、そしてその根底にあるものについて
第 14 回	まとめ	秋学期の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習と復習についてはオリエンテーションで説明しますが、授業で配布する資料などを有効に活用してください。

【テキスト（教科書）】

稲垣保弘『経営の解釈学』白桃書房。

【参考書】

稲垣保弘『組織の解釈学』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

定期試験での評価が中心となりますが、平常点も加味されます。詳細はオリエンテーションで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も対面授業なのでオンラインとは違った成果が期待できると思います。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

授業を受講する前に、図書館などで上記『経営の解釈学』と『組織の解釈学』の目次くらいには目を通して、担当教員について知っておくことは大切です（この授業に限ったことではありませんけど）。

【関連科目】

経営組織論

【Outline (in English)】

【Course outline】

The course deals with applied theories of management and organizations. Students will interpret management and organizational activities by applying theories to actual cases.

【Learning objectives】

By the end of the course ,students will learn logical and creative way of thinking about management and organizations.

【Learning activities outside of classroom】

This course will be given by lecture. Students will be expected to spent time enough to review the course content.

【Grading Criteria】

Grading will be decided mainly based on term examination.

MAN200FB

経営管理論 I (2019 年度以降入学者)

稲垣 保弘

経営学科専門科目 200 番号 2~4 (経営学科) 3~4 (経営戦略学科・市場経営学科) 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 2 年 E~H

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経営管理の主要な理論の中でもマネジメントについて考察する上で基礎となる理論について理解し、それに基づいて組織活動をどのようにマネジメントしていくのかを基本的なレベルで検討し、学生は経営学的な思考方法の基礎を身に付けることができます。

【到達目標】

授業のテーマ(組織のマネジメントの理論と実践)について、学生の知識と論理的思考力などの向上を図り、それにもとづいて組織の現実を理解し、適切に対応できるような能力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

受講者数や教室にもよりますが、講義形式の予定です(質問の時間は授業の終わりにとります)。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、テキスト、参考文献などについて説明。
第 2 回	経営管理とは何か	経営管理=マネジメントの全体像の説明。
第 3 回	管理過程論とバーナード理論による管理の定義	代表的な定義によるマネジメントについての理解。
第 4 回	管理=マネジメントの変容の方向性	前回の内容に基づいてマネジメントの変化の方向を検討する。
第 5 回	科学的管理法	科学的管理法の内容と現代的な意味。
第 6 回	人間関係論	人間関係論の内容と現代的な意味。
第 7 回	人間資源論	人間資源論の内容と現代的な意味。
第 8 回	目標管理	目標管理の内容と企業への導入。マネジメントの手法としてだけでなく、日本の経営の変容の中でその意味を理解する。
第 9 回	成果主義	日本企業における成果主義について。
第 10 回	管理過程理論	ファヨールの理論とアメリカの管理過程論について。
第 11 回	管理原則と組織	管理原則の内容と意味。
第 12 回	バーナード理論	バーナード理論の概要の説明。
第 13 回	インフォーマル組織と排除のメカニズム	インフォーマル組織の形成条件と、そこで作用する排除のメカニズムについて。
第 14 回	まとめ	春学期の内容を総合的にまとめる。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各時間ごとに、予習・復習の内容を指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で配布する資料などを有効に活用してください。

【テキスト(教科書)】

稲垣保弘『組織の解釈学』白桃書房(2002年)を予定。その他、配布プリントなどについて授業の開講時に説明します。

【参考書】

稲垣保弘『経営の解釈学』白桃書房(2013年)。経営管理の重要なテーマについて解釈学の視点から検討しているため、授業での理論的説明をより深く理解できます。その他は必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価は定期試験が中心ですが、平常点も加味する予定です。詳細については開講時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

開講時に授業の進め方に関連して説明します。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

関連科目：経営戦略論 I/II、経営組織論 I/II

この科目を受講する前に、上記『組織の解釈学』『経営の解釈学』について図書館で目次くらい目を通しておくのは、担当教員について知る上でも大切なことです(この科目に限ったことではありません)。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The course deals with basic management and organization theories. On the basis of understanding these theories, students will interpret management and organizational activities by applying theories to actual cases.

【Learning objectives】

By the end of the course, students will learn logical way of thinking about management and organization.

【Learning activities outside of classroom】

This course will be given by lecture. Students will be expected to spend time enough to review the course content.

【Grading criteria】

Grading will be decided mainly based on term examination.

MAN200FB

経営管理論Ⅱ（2019年度以降入学者）

稲垣 保弘

経営学科専門科目 200 番号 2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]
 営 2 年 E～H

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営管理論Ⅰの延長であり、マネジメントについての主要な理論の中で応用的なもの、あるいは斬新な内容を含むものを取り上げ、パワー作用などハウツー的な知識も包括して、組織活動のマネジメントについて検討し、学生は経営学的な思考を身に付けることができます。

【到達目標】

やや応用的な新しい理論を理解することで、学生は論理的かつ創造的な思考に慣れて、現実の企業や組織について、多面的な検討ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

受講者数にもよりますが、講義形式を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、テキスト、参考文献、授業の予習・復習についての説明。
第 2 回	H. サイモンの意思決定理論Ⅰ	H. サイモン理論における人間観と「制約された合理性」について
第 3 回	H. サイモン理論Ⅱ	H. サイモン理論における意思決定と組織階層
第 4 回	組織のコンティンジェンシー理論Ⅰ	コンティンジェンシー理論と実証研究について
第 5 回	組織のコンティンジェンシー理論Ⅱ	ローレンス＝ローシュの理論について
第 6 回	コンフリクトの解消について	フォレット、ローレンス＝ローシュ、日本の経営などに見られるコンフリクトの解消方法について
第 7 回	意思決定のゴミ箱モデル	マーチ＝オルセンの意思決定理論とそれが意味するものについて
第 8 回	組織の進化論的モデルⅠ	K. ワイクの進化論的モデルと組織現象を流れとして理解することの意味について
第 9 回	組織の進化論的モデルⅡ	ルースカプリング、イナクトメントといったコンセプトの組織活動への意味
第 10 回	リーダーシップⅠ	リーダーシップはどのようなものかについて
第 11 回	リーダーシップⅡ	リーダーシップの主要な理論とその意味
第 12 回	組織のパワー現象	組織におけるパワー作用とパワーベースについて
第 13 回	企業文化	企業文化とその作用、そしてその根底にあるものについて
第 14 回	まとめ	秋学期の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習と復習についてはオリエンテーションで説明しますが、授業で配布する資料などを有効に活用してください。

【テキスト（教科書）】

稲垣保弘『経営の解釈学』白桃書房。

【参考書】

稲垣保弘『組織の解釈学』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

定期試験での評価が中心となりますが、平常点も加味されます。詳細はオリエンテーションで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も対面授業なのでオンラインとは違った成果が期待できると思います。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

授業を受講する前に、図書館などで上記『経営の解釈学』と『組織の解釈学』の目次くらいには目を通して、担当教員について知っておくことは大切です（この授業に限ったことではありませんけど）。

【関連科目】

経営組織論

【Outline (in English)】

【Course outline】

The course deals with applied theories of management and organizations. Students will interpret management and organizational activities by applying theories to actual cases.

【Learning objectives】

By the end of the course ,students will learn logical and creative way of thinking about management and organizations.

【Learning activities outside of classroom】

This course will be given by lecture. Students will be expected to spent time enough to review the course content.

【Grading Criteria】

Grading will be decided mainly based on term examination.

SOC200FB

経営社会学 I

藤本 真

経営学科専門科目 200 番台経営学科専門科目 2~4 (経営学科) 3~4 (経営戦略学科・市場経営学科) 年次/2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、「大多数の人々がモノやサービスの生産・販売に携わり、そこから得た収入により生活を営む社会」=「産業社会」の中で、企業経営がいかに行われ、企業経営をめぐる社会関係がいかに形作られているのかについて理解することを目的とする。「産業社会」の動向とそれに伴う社会全体へのインパクトを、この授業ではいくつかの「〇〇化」として捉え、それぞれの「〇〇化」に関連した、企業経営に関連する現象を取り上げる。「経営社会学 I」では、「産業化」と「都市化」に焦点を当てる。

【到達目標】

①企業経営のあり方が、「産業社会」の形成過程である「産業化」の下、どのように形成され、変化してきているか、②「企業経営をめぐる社会関係」がどのように形成され、変化しているか、③「産業化」に伴う社会全体の変化とみることができる「都市化」の進行と、「都市化」が、企業経営や企業経営に携わる個人、企業経営をめぐる社会関係にとどのような影響を及ぼすか、いった点を論理的・体系的に理解することを授業の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。レジュメ・資料をプリントとして配布し、それに沿って講義をすすめます。各回で予定しているテーマは、授業計画を参照して下さい。ただし、講義するテーマの順序等は下記と変わる場合があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「産業社会」と企業経営	この講義の対象について～「産業社会」の変化と「企業経営をめぐる社会関係」「産業化」のプロセス、「産業化」の前提条件、社会関係の「場」としての市場
第 2 回	「産業化」と「市場」	産業化の進展と経営組織
第 3 回	産業化の進展と経営組織	産業化の進展と大規模組織の発生、所有と経営の分離、官僚制の普及・発達と課題、企業経営をめぐる社会関係のレベル、様々な立場の個人と企業経営
第 4 回	「雇用者」の出現と「労働時間」の発生	「雇用者」の出現、「働く時間」の組織による管理、労働時間に対する規制、人事労務管理の発生
第 5 回	「職場」の機能	職場の持つ様々な機能、ホーソン実験、インフォーマルな人間関係の重要性
第 6 回	経営組織とキャリア形成	大規模経営組織におけるキャリア形成、企業横断的なキャリア形成、「正社員」の出現
第 7 回	企業をめぐる社会関係におけるリスクへの対応	事業経営のリスクと倒産法制、労働市場のセーフティネット形成、社会保障制度の確立
第 8 回	サービス経済化と経営組織・仕事	工業化・脱工業化・大衆消費社会、サービス経済化の過程 (ベティ・クラークの法則)、サービス経済化が組織や仕事に与える影響
第 9 回	ブルーカラーからホワイトカラー、感情労働へ	大規模組織の出現とサービス経済化による求められる「スキル」の変化、「スキル」の変化に伴う人々の働き方の変化、「感情労働」の特徴と発生過程、「感情労働」の管理、「感情労働」の増加に伴う課題
第 10 回	多様な雇用・就業形態の出現と拡大	正社員以外の雇用・就業形態の拡大、拡大に伴う「格差問題」の発生と問題への対応
第 11 回	「都市化」の進行と企業経営	都市への人口集中と多様な産業の発生との循環、地方の過疎化、産業化がもたらす労働市場の地域間格差、U/I/J ターンの課題
第 12 回	高学歴化～「都市化」のもう一つの要因	産業化に伴う「高学歴化」の要請、急速な高学歴化の進展、「高学歴化」が招く若年者の地域間移動
第 13 回	国家の諸政策と企業	企業経営と政府・政策、「市場の失敗」、ケインズ理論、福祉国家、「政府の失敗」、新自由主義、格差問題とカジノ資本主義

第 14 回 大衆消費社会の形成・限界・克服 大量生産・大量消費社会、「成長の限界」、「沈黙の春」、「スモール・イズ・ビューティフル」、公害、企業活動に対する規制と対応、SDGs

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から、参考書や新聞記事等を読んで理解を深める。②インターンシップやアルバイトなど、企業経営や産業社会と接する機会を通じて、講義で学習した議論や理論をもとに、企業経営をめぐる社会関係についての実態や課題を考え、授業での学習内容について理解を深める。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

とくに教科書は指定しません。授業内で配布する資料・プリントをもとに講義をすすめます。

【参考書】

各自が自習するための参考書として、①小川慎一・山田信行・今野美奈子・山下充 (2015) 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学【有斐閣アルマ】、②上林千恵子編著 (2012) 「よくわかる産業社会学」(ミネルヴァ書房) を挙げておきます。このうち①は現代産業社会の仕事や組織にまつわる主要トピックの理解に、②は経営社会学で取り上げられる様々な事項が 1 事項あたり見開き 2 ページでまとめられており、知識の整理に役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験 (60 点満点) と期末レポート (40 点満点) の結果を基に実施します。

・期末試験では授業内で学習した論点や理論について、十分に理解できているかを重視して採点します。

・期末レポートは、授業で取り上げたトピックに関連する課題図書を読んだうえでの読書レポートとします。内容の理解力や、読書を踏まえたうえでの主張の論理性・独創性、文章表現力などを評価項目として、評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

経営社会学は、①「社会のなかにおける企業経営」と、②「企業経営における社会関係 (人間関係)」について理解することを目的とした講義です。各回のトピックを取り上げる際には、この 2 点について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。板書を基本としますが、プリントの図表の説明等では、投影設備の利用も適宜行います。

【学生が準備すべき機器他】

各自パソコンを持ち込み、講義を受けながら (わからない概念等について) その都度ワード検索をかけることと便利です。

【その他の重要事項】

春学期の「経営社会学 I」と秋学期の「経営社会学 II」をすべて受講することで、経営社会学の全体像が体系的に明らかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマは異なるため、関心にしたがって春学期のみ、秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。

【Outline (in English)】

【Outline】

The purpose of this course are (1) to understand how corporate management is conducted under "industrialization" and "urbanization" and (2) to understand how social relations are formed around corporate management and how they affect corporate organizations and the individuals who work in them

【Learning Objectives】

By the end of the course, students are expected to understand the followings:

- (1) How the state of corporate management has been formed and changed under the process of "industrialization," which is the formation process of "industrial society.
- (2) How "social relations surrounding corporate management" are being formed and changed.
- (3) The progress of "urbanization," which can be viewed as a change in society as a whole accompanying "industrialization," and how "urbanization" affects business management, individuals involved in business management, and social relations surrounding business management.

【Learning activities outside of classroom)】

Students are expected to do the followings. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

- (1) To deepen understanding of the themes and issues studied in lectures by reading reference books, newspaper articles, etc. on a regular basis.
- (2) Through internships, part-time jobs, and other opportunities to interact with corporate management and industrial society, think about the realities and issues concerning social relations related to corporate management based on the discussions and theories learned in the lectures, and deepen understanding of what is learned in class.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the term-end examination(60%) and the term-end essay(40%) which you are required to write.

SOC200FB

経営社会学Ⅱ

藤本 真

経営学科専門科目 200 番台経営学科専門科目 2～4 (経営学科) 3～4 (経営戦略学科・市場経営学科) 年次/2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、「大多数の人々がモノやサービスの生産・販売に携わり、そこから得た収入により生活を営む社会」=「産業社会」の変化の中で、企業経営がいかに行われ、企業経営をめぐる社会関係がいかに形作られているのかについて理解することを目的とする。「経営社会学Ⅱ」では、日本の産業社会と企業経営の今後について考えていく上で、とりわけ重要な、「高齢化」、「グローバル化」、「デジタル化」、「多様化」に焦点を当てていく。

【到達目標】

①「産業化」に伴う社会全体の変化とみることができる「高齢化」・「グローバル化」・「デジタル化」・「多様化」の進行と、それぞれの変化が企業経営、社会関係、働く個人にもたらす影響を論理的・体系的に理解すること、②「産業社会・日本」の全体像とそこでの企業経営、社会関係について考察し、自らの生活・キャリアを描いていくきっかけをつかむこと、を授業の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。レジュメ・資料をプリントとして配布し、それに沿って講義をすすめます。各回で予定しているテーマは、授業計画を参照して下さい。ただし、講義するテーマの順序等は下記と変わる場合があります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「産業社会」の形成・変化と企業経営	「経営社会学Ⅰ」の振り返りと「経営社会学Ⅱ」の概要
第2回	産業化と高齢化の関係と高齢化の企業経営への影響	「産業化が進展すると少子化・高齢化が進展する」というプロセス(産業化と家族、労働力確保と「福祉国家」維持の課題)
第3回	経営組織における「年齢」と「定年」	仕事上のキャリア形成における年齢の意味、定年制度、高齢までの就業を促進する政策と組織・職場・個人
第4回	高齢化の中での企業組織の取組み	「ワーク・ライフ・バランス」施策、仕事と育児の両立に向けた取組み、仕事と介護の両立に向けた取組み
第5回	産業化・グローバル化・企業経営	「グローバル化」とは、「産業化」の進展と「グローバル化」、「グローバル化」と企業経営
第6回	グローバル化の下での企業経営と人的資源管理	多国籍企業の活動と経営管理、グローバル人事労務管理、「タレント・マネジメント」の実施と影響
第7回	技術革新と企業・仕事への影響	産業化と技術革新、ME化/OA・FA化/IT化とその影響、「第4次産業革命」
第8回	デジタル化の進展と仕事・組織の変化	デジタル化と「仕事の変化」、DX(デジタル・トランスフォーメーション)、デジタル化と企業・労働者
第9回	「しぼられない働き方」の拡大か? ~マルチプル・ジョブ、テレワーク、フリーランス、ギグワーク~	マルチプル・ジョブ(副業・兼業・複業)、テレワークという働き方、フリーランスとギグ・ワーカー
第10回	企業・職場・仕事の領域における女性	産業化の進展と女性の仕事、「M字カーブ」をめぐる社会関係、性別職域分離の現状と課題
第11回	企業・職場・仕事の領域における外国人	産業化と外国人労働、外国人労働者受入政策の歴史・現状と課題、日本企業における外国人の受入れ・活用と課題
第12回	「多様化」の進展とダイバーシティ・マネジメント	「多様化」の要因、様々な「ダイバーシティ」、ダイバーシティ・マネジメントの進展、日本企業のダイバーシティ・マネジメントにおける課題
第13回	職業キャリア形成のこれまでとこれから	キャリアの面から見た「日本的雇用」、「ジョブ型」と「メンバーシップ型」、「キャリア自律」、キャリアの「停滞」、「ライフ・シフト」とリカレント/リスクリング

第14回 産業社会・日本の可能性と企業・社会のこれから 人口減少社会、労働供給制約社会、市場の縮小と稼ぎ方の変化、産業社会としての「持続可能性」、「再興」の兆しと可能性

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から、参考書や新聞記事等を読んで理解を深める。②インターンシップやアルバイトなど、企業経営や産業社会と接する機会を通じて、講義で学習した議論や理論をもとに、企業経営をめぐる社会関係についての実態や課題を考え、授業での学習内容について理解を深める。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

とくに教科書は指定しません。授業内で配布する資料・プリントをもとに講義をすすめます。

【参考書】

各自が自習するための参考書として、①小川慎一・山田信行・今野美奈子・山下充(2015)「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学(有斐閣アルマ)、②上林千恵子編著(2012)「よくわかる産業社会学」(ミネルヴァ書房)を挙げておきます。このうち①は現代産業社会の仕事や組織にまつわる主要トピックの理解に、②は経営社会学で取り上げられる様々な事項が1事項あたり見開き2ページでまとめられており、知識の整理に役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験(60点満点)と期末レポート(40点満点)の結果を基に実施します。

・期末試験では授業内で学習した論点や理論について、十分に理解できているかを重視して採点します。

・期末レポートは、授業で取り上げたトピックに関連する課題図書を読んだうえでの読書レポートとします。内容の理解力や、読書を踏まえたうえでの主張の論理性・独創性、文章表現力などを評価項目として、評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

経営社会学は、①「社会のなかにおける企業経営」と、②「企業経営における社会関係(人間関係)」について理解することを目的とした講義です。各回のトピックを取り上げる際には、この2点について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。板書を基本としますが、プリントの図表の説明等では、投影設備の利用も適宜行います。

【学生が準備すべき機器他】

各自パソコンを持ち込み、講義を受けながら(わからない概念等について)その都度ワード検索をかけることと便利です。

【その他の重要事項】

春学期の「経営社会学Ⅰ」と秋学期の「経営社会学Ⅱ」をすべて受講することで、経営社会学の全体像が体系的に明らかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマは異なるため、関心にしたがって春学期のみ、秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。

【Outline (in English)】

【Outline】

The objectives of this class are: (1) to understand how corporate management is conducted under the progress of "aging," "globalization," "digitalization," and "diversification"; (2) to understand how social relations are formed around corporate management and how they affect corporate organizations and the individuals who work in them; and (3) to consider corporate management and social relations under "industrial society of Japan" and to get an opportunity to envision one's own life and career.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

(1) To understand logically and systematically the progression of "aging," "globalization," "digitalization," and "diversification," which can be viewed as changes in society as a whole that accompany "industrialization," and the impact of each change on corporate management, social relations, and workers.

(2) To consider the overall picture of "industrial society of Japan" and the corporate management and social relations therein, and to grasp the opportunity to draw one's own life and career.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to do the followings. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(1) To deepen understanding of the themes and issues studied in lectures by reading reference books, newspaper articles, etc. on a regular basis.

(2) Through internships, part-time jobs, and other opportunities to interact with corporate management and industrial society, think about the realities and issues concerning social relations related to corporate management based on the discussions and theories learned in the lectures, and deepen understanding of what is learned in class.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the term-end examination(60%) and the term-end essay(40%) which you are required to write.

MAN200FA

検定会計Ⅰ（2019年度以降入学者）

倉田 幸路

経営学科専門科目 200 番台 2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

株式会社における簿記処理（商業簿記）を理解することを目的とします（特に、取引の仕訳（資産、負債、純資産））。この科目を履修することにより、会計専門科目（財務会計、国際会計等）の入門として役立ちます。

【到達目標】

検定会計Ⅱと合わせて、日商簿記検定 2 級程度の商業簿記の習得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

授業は対面で講義形式で行います。初回は、人数が確定しないので、Zoom を用いてオンタイムで授業します。初回については、授業のレジュメ、授業のお知らせ等は、学修支援システム（Hoppii）にアップします。授業は、レジュメにそって行います。テキストは指定しませんが、参考書のうちいずれか一冊は用意してください。ほぼ毎回課題（小テスト）を行います。次の授業の時に解説します。実際に自分で書き、計算することが必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	取引の記帳 (1) 現金預 金取引 1	現金の範囲、現金過不足、小口現金 について講義します。
第 2 回	取引の記帳 (1) 現金預 金取引 2	銀行勘定調整表について講義します。
第 3 回	取引の記帳 (2) 債権・ 債務取引 1	クレジット売掛金、電子記録債権・ 債務、手形の種類について講義します。
第 4 回	取引の記帳 (2) 債権・ 債務取引 2	手形の裏書と割引、不渡手形、手形 の貸借、営業外手形、貸倒の見積もり について講義します。
第 5 回	取引の記帳 (3) 有価証 券取引	有価証券の分類、有価証券の取得原 価、有価証券の評価について講義しま す。
第 6 回	取引の記帳 (4) 商品売 買取引 1	商品売買取引の記録方法について講 義します。
第 7 回	取引の記帳 (4) 商品売 買取引 2	棚卸資産の取得原価、棚卸資産の原 価配分、商品有高帳について講義しま す。
第 8 回	取引の記帳 (5) 固定資 産取引 1	固定資産の分類、有形固定資産の取 得原価、資本的支出と収益的支出、建 設仮勘定について講義します。
第 9 回	取引の記帳 (5) 固定資 産取引 2	減価償却、固定資産の売却・除却に ついて講義します。
第 10 回	取引の記帳 (5) 固定資 産取引 3	無形固定資産、投資その他の資産に ついて講義します。
第 11 回	取引の記帳 (6) 負債取 引 1	負債の分類、引当金の種類について 講義します。
第 12 回	取引の記帳 (6) 負債取 引 2	各種引当金について講義します。
第 13 回	取引の記帳 (7) 資本 (純資産) 取引 1	株式会社の概要、会社法における純 資産の区分、設立時の会計処理、増資 の会計処理、新株予約権について講義 します。
第 14 回	取引の記帳 (7) 資本 (純資産) 取引 2	減資の会計処理、自己株式、受贈資 本と評価替資本について講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習として、各回に該当する参考書の箇所をよく読み準備すること、また復習として、各回に授業で解説した箇所について、参考書に準拠した問題集等の問題を自ら解くことにより、理解を定着させることに各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しませんが、下記の参考書のうちいずれか一冊用意してください。

【参考書】

【合格テキスト日商簿記検定 2 級（商業簿記）Ver.16.0】TAC 出版、2022 年、2,400 円（税別）。渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著『検定簿記講義 2 級商業簿記 2022 年度版』中央経済社、2022 年、850 円（税別）。

【成績評価の方法と基準】

ほぼ毎回行われる課題（小テスト）30%、期末試験 70%（対面で試験が実施できる場合）。対面で試験が実施できない場合は、ほぼ毎回行われる課題（小テスト）100%とします。

【学生の意見等からの気づき】

ほぼ毎回小テストを行い、次の授業で解説します。

【学生が準備すべき機器他】

初回の授業は、Zoom を用いてオンタイムで授業しますので、パソコン等が必要。電卓を用意してください。

【その他の重要事項】

検定会計Ⅱも合わせて履修してください。初回の講義は、Zoom を用いてオンタイムで授業します。授業のお知らせ（Zoom のアドレス）、レジュメ等は Hoppii を通して行います。初回以降は対面で授業を行います。状況により、オンラインに変更になる場合があります。

【関連科目】

会計専門科目（特に、会計学入門Ⅰ・Ⅱ、財務会計論、国際会計論）と関連します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This lecture purpose to understand bookkeeping (commercial bookkeeping) for corporation (ex. journalizing of transaction (assets, liability, net assets)). To understand this lecture, it may help the introduction of accounting subject (for example financial accounting, international accounting etc.).

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A,B and C.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process. Each time comment card 50%, Term-end examination 50%.

MAN200FA

検定会計Ⅱ（2019年度以降入学者）

倉田 幸路

経営学科専門科目 200 番台 2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

株式会社における会計処理（商業簿記）のうち、特に、収益・費用の処理、個別問題（リース会計、外貨換算会計、税効果会計、本店支店会計、決算に関する総合演習、連結財務諸表）について講義します。これらのテーマを理解することにより、会計専門科目（財務会計、国際会計等）の入門として役立ちます。

【到達目標】

検定会計Ⅰと合わせて、日商簿記検定 2 級程度の商業簿記の習得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

初回は、Zoom を用いてオンタイムで授業します。授業のレジュメ、授業のお知らせ（Zoom のアドレス）、課題等は学修支援システム（Hoppii）を用います。授業は、原則として、対面で行います。レジュメにそって授業します。テキストは指定しませんが、参考書のうちいずれか一冊を用意してください。実際に、自分で書き、計算することが必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	I 収益・費用 1	収益・費用の認識基準、費用・収益の区分、具体的収益の認識について講義します。
第 2 回	I 収益・費用 2	税金の種類、消費税の処理について講義します。
第 3 回	II リース会計	リース取引の分類、ファイナンスリースの借手の処理、オペレーティングリースの処理について講義します。
第 4 回	III 外貨換算会計	外貨建取引の換算、為替予約、外貨建取引の期末評価について講義します。
第 5 回	IV 税効果会計	税効果会計の方法、一時差異と繰延税金資産・負債について講義します。
第 6 回	V 決算に関する総合演習 1	決算手続きと決算整理（商品勘定の整理、外貨建債権・債務の換算、貸倒引当金の設定）について講義します。
第 7 回	V 決算に関する総合演習 2	決算整理（有価証券の評価、固定資産の減価償却、収益・費用の見越・繰延）について講義します。
第 8 回	V 決算に関する総合演習 3	精算表について講義します。
第 9 回	V 決算に関する総合演習 4	財務諸表の体系（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書）について講義します。
第 10 回	VI 本店支店会計 1	本店支店会計の意義および本店支店間の取引、支店相互間の取引について講義します。
第 11 回	VI 本店支店会計 2 VII 合併と事業継承	本店支店合併財務諸表の作成について講義します。
第 12 回	VIII 連結会計 1	合併と事業継承について講義します。連結財務諸表の内容および投資と資本の相殺消去について講義します。
第 13 回	VIII 連結会計 2	支配獲得後の連結および連結精算表について講義します。
第 14 回	VIII 連結会計 3	成果連結および内部取引、債権・債務の相殺消去、未実現利益の控除について講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習として、各回の該当する参考書の箇所をよく読み準備すること。また、復習として、各回の授業で解説した箇所について、参考書に準拠した問題集等の問題を自ら解くことにより、理解を定着させることに各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しませんが、下記の参考書のうちいずれか一冊用意してください。

【参考書】

『合格テキスト日商簿記検定 2 級（商業簿記）Ver.16.0』TAC 出版、2022 年、2,400 円（税別）、渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『検定簿記 2 級商業簿記 2022 年度版』中央経済社、2022 年、850 円（税別）。

【成績評価の方法と基準】

ほぼ毎回行われる課題（小テスト）30%、期末試験 70%（対面で試験を実施できる場合）。対面で試験が実施できない場合は、ほぼ毎回行われる課題（小テスト）100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

なるべくわかりやすく授業するように心がけています。ほぼ毎回小テストを行い、次の時間に解説します。

【学生が準備すべき機器他】

初回は Zoom を用いてオンタイムで授業しますので、パソコン等が必要です。電卓を用意してください。

【その他の重要事項】

検定会計Ⅰの知識を前提とします。初回の講義のお知らせ（Zoom のアドレス等）、レジュメは学修支援システム（Hoppii）を通して行います。状況によっては、Zoom を用いてオンタイムで授業する用に変更されるかもしれません。

【関連科目】

会計専門科目（特に、会計学入門Ⅰ・Ⅱ、財務会計論、国際会計論）と関連します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This lecture purpose to understand bookkeeping (commercial bookkeeping) for enterprise (ex. accounting for lease, foreign transaction, tax consequence, closing procedure, consolidate financial statements). To understand this lecture, it may help the introduction of subject (ex. financial accounting, international accounting etc.).

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A,B and C.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course content.

(Grading Criteria/Policies)

Final grade will be calculated according to the following process. Each time examination 50%, Term-end examination 50%.

MAN200FB

組織行動論 I

西川 真規子

経営学科専門科目 200 番台経営学科専門科目 2~4 (経営学科) 3~4 (経営戦略学科・市場経営学科) 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

組織におけるひとに関わる課題・問題に対して、社会心理学、社会学を中心とした学際的知見を応用し解決をはかるのが組織行動論です。組織行動論 I では、個人一般に焦点をあてます。社会環境と相互作用する際の個人の内面での働きや変化、さらには個人から社会環境への働きかけを中心に理解を深めます。

【到達目標】

①個人が組織と関わる際の態度や行動に関する基礎概念や基本理論を理解する。②学んだ概念や理論を自らの集団活動上の経験に応用できるようになる。③集団でのひとに関わる課題や問題に対する改善策・解決策を自ら考え実践に生かす力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「社会学」、「心理学」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

①各回のテーマに関係する概念や理論を講義動画やテキストを通じて理解します。②各回のテーマに沿った自らの体験を振りかえる **Exercise** を実施します。③学んだ概念、理論を実体験に応用するための **Reflection** を実施します。④各自で講義内容を踏まえ組織行動論の観点から **Exercise**、**Reflection** の内容を振り返り分析します。⑤授業内容に関する質疑応答は学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学習の進め方の理解
第 2 回	組織における態度と行動	組織行動論とは 組織と集団 アイデンティティ集団と組織集団 所属集団の影響
第 3 回	組織・集団・個人	個人・集団・組織 組織の中の個人の態度・行動 組織の中の個人 集団の中の個人
第 4 回	個人の学習	学習とは何か 条件付け学習 ヒトの学習
第 5 回	組織の中の学習	集団での学習 実践を通じた学習 知識社会とナレッジワーカー 体系的学習と実践的学習
第 6 回	認知	アートと認知 認知とは何か 認知プロセス 対人認知とステレオタイプ
第 7 回	認知の歪み 原因の帰属	認知の歪み 認知される私 認知する私 内集団と外集団 原因の帰属
第 8 回	感情	感情の役割 感情と文化 感情的知性 感情労働
第 9 回	モチベーションと自己	モチベーションとは何か モチベーションへのアプローチ マズローの欲求段階説 X 理論・Y 理論 自己決定理論
第 10 回	モチベーションと比較	モチベーションと比較 認知不協和 公平理論 組織公正
第 11 回	モチベーションと目標	モチベーションとゴール 内発的、外発的モチベーション 個人とゴール 組織とゴール 目標による管理

第 12 回 モチベーションと期待 モチベーションと期待

予測される価値

予測される結果

第 13 回 意思決定

行動と行為、選択

機会と選好

意思決定と合理性

合理性の限界

学習内容の振り返り

第 14 回 まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

次のテーマに進む前に、各回の **Exercise**、**Reflection** 完成させてください (テキストに **Exercise**、**Reflection** の記述欄が設けられています)。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

西川真規子『はじめての組織行動論』新世社、2021 年

ISBN 978-4-88384-326-8

このテキストには書き込み欄が設けられおり、ノート併用になっています。**Exercise** や **Reflection** の他にも授業内容を踏まえ気づいた点など積極的に書き込みを行ってください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

進行状況に合わせて小テストを数回実施します。各小テストには実施期間が設けられています。実施期間を過ぎるとテストを受けることができませんので注意してください。小テストの総合点を 50 点、期末テストの総合点を 50 点、合計 100 点満点として、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

分析的視点・応用力が身につくという本授業のメリットを、**Exercise** や **Reflection** の実施を通じてさらに高めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関するお知らせ、授業内容に関する質問等は学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

この授業はオンデマンド授業です。初回「オリエンテーション」で、テキストの活用方法を含め、授業の進め方、質問の仕方、評価方法等について詳しい説明を行います。受講希望者は必ず初回授業を受講してください。組織行動論の理解を深めるため、組織行動論 I/II 両方の受講を勧めます。但し、組織行動論 II は 3 年生以降が受講対象となります。

【関連科目】

組織行動論 II

人的資源管理 I/II

【Outline (in English)】

Course Outline

Organizational behavior seeks to understand human behavior in organizational contexts. Students will learn the basic concepts and theories of organizational behavior, mainly developed in social psychology, and sociology. This course will focus on the attitudes and behavior of people in general, such as individual perception, learning, motivation, and decision making.

Learning Objectives

The goal of this course is to 1) understand the basic concepts and theories of organizational behavior, 2) apply the concepts and theories to their own experiences, and 3) propose the appropriate solutions.

Learning activities outside of classroom

Every week students will be expected to read a chapter in the textbook, and complete the exercises and reflection in the chapter by themselves. This will require at least 4 hours of self-study as a whole.

Grading Criteria/Policy

Students will be required to take small tests which will be given occasionally. The grading will be based on the results of the small tests (50%) and of the final examination (50%).

MAN300FB

組織行動論Ⅱ

西川 真規子

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織におけるひとに関わる課題・問題に対して、社会心理学、社会学を中心とした学際的知見を応用し解決をはかるのが組織行動論です。組織行動論Ⅱは、集団・組織の一員としての個人に焦点をあてます。集団内での人間関係を促進したり阻害したりする要因についての理解を深めていきます。

【到達目標】

①個人が組織と関わる際の態度や行動に関する基礎概念や基本理論を理解する。②学んだ概念や理論を自らの集団活動上の経験に応用できるようになる。③集団でのひとに関わる課題や問題に対する改善策・解決策を自ら考え実践に生かす力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「社会学」、「心理学」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

各回において、①自らの体験を振り返る **Exercise** を実施します。②その後、各回のテーマに沿った講義を行います。講義では、アルバイトやサークル、ゼミ活動等受講生の体験にも十分活用できるレベルでの理論や概念の説明を行います。また講義後に **Reflection** を行い、各自の体験を振り返り、概念・理論の応用をはかります。③最後に、講義内容を踏まえ組織行動論の視点から **Exercise** の内容を再度振り返ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と評価方法 組織行動論とは 組織行動論Ⅱの学習内容
第 2 回	集団	集団の種類 集団の発達 集団の意思決定
第 3 回	チーム	チームの種類 チームと業績
第 4 回	コミュニケーション 1	相互作用としてのコミュニケーション コミュニケーション上の障害
第 5 回	コミュニケーション 2	効果的なコミュニケーション コミュニケーションスキル
第 6 回	コンフリクト	コンフリクトの捉え方 コンフリクトのプロセス コンフリクトのマネジメント
第 7 回	ストレス	ストレス発生のプロセス ストレスとパフォーマンス コーピング
第 8 回	リーダーシップ 1	リーダーシップとは何か リーダーシップと資質、スキル、行動
第 9 回	リーダーシップ 2	コンティンジェンシー理論 1
第 10 回	リーダーシップ 3	コンティンジェンシー理論 2
第 11 回	リーダーシップ 4	現代のリーダーシップ論
第 12 回	パワーと影響力	パワーと依存 パワーの行使
第 13 回	ケーススタディ	これまでの学習内容を踏まえてケース 分析を実施
第 14 回	まとめ	学習内容の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で **Exercise**、**Reflection** を実施します。授業時間中にこの作業が完了しなかった場合は、次回までに完成してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。
授業に使用する資料を事前に学習支援システムを通じて毎週配布します。この資料は、講義中にノートがとれるよう余白が設定されていますので、各自授業前に印刷してください。尚、配布資料に記載されているのは要点のみなので、毎回授業中に講義ノートをできるだけ詳しく取ってください。

【参考書】

この授業では組織行動論Ⅰの内容を引用することがあります。組織行動論Ⅰの内容については、西川真規子『はじめての組織行動論』新世社、2021 を参考にしてください。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施します。試験では授業内で取り上げた概念や理論の理解度 (50%) と、その実体験への応用力 (50%) について審査します。

【学生の意見等からの気づき】

分析的視点・応用力が身につくという本授業のメリットを、**Exercise** や **Reflection** の実施を通じてさらに高めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料を事前に学習支援システム上で公開しています。受講生はこの資料を授業前に印刷して授業に臨んでください。授業に関するお知らせ等についても学習支援システムを通じて行っていますので、受講希望者は秋学期開始後速やかに学習支援システムに登録を行ってください。

【その他の重要事項】

組織行動論の理解を深めるため、組織行動論Ⅰ/Ⅱ両方の受講を勧めます。但し、組織行動論Ⅰと組織行動論Ⅱは、授業内容のみならず授業方法が異なります。授業方法の詳細は初回で説明しますので、組織行動論Ⅱの受講希望者は初回オリエンテーションを必ず受講してください。

【関連科目】

組織行動論Ⅰ
人的資源管理Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

Course Outline

Organizational behavior seeks to understand human behavior in organizational contexts. Students will learn the basic concepts and theories of organizational behavior, mainly developed in social psychology, and sociology. This course will examine the behavior of people in group and organization, such as teamwork, communication, and leadership.

Learning Objectives

The goal of this course is to understand 1) the basic concepts and theories of organizational behavior, 2) apply the concepts and theories to their own experiences, and 3) propose the solutions.

Learning activities outside of classroom

Every class will require students to do some exercises. Students will be expected to complete these exercises if not having completed in the class meeting. Students will also need to reflect on the contents of the lecture after the class. Preparation and reflection will take at least 4 hours every week.

Grading Criteria/Policy

Students will be required to take the final examination. The grading will be based on the understanding of the concepts and theories of organizational behavior (50%) and the effective application of the concepts and theories to their own experiences (50%).

MAN200FA

キャリア・マネジメント I (2019 年度以降入学者)

小川 憲彦

経営学科専門科目 200 番台 2~4 (経営学科) 3~4 (経営戦略学科・市場経営学科) 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリア論の基本について学習します。その中で、キャリアを歩んでいく上での考え方、就職活動のことに加えて、会社のこと、会社組織を取り巻く社会環境についてもお話したいと考えています。自分の考えと照らし合わせながら参加できるように、適宜ディスカッション等を行います。

The purpose of this class is to learn fundamental career theories including the basic mind for career development, the process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and the social environment surrounding an individual career and organizations at which you will work.

【到達目標】

- ①キャリアの基本理論の概要やこれに関わる術語を知っていること
- ②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について、暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めるようになること

Students who complete the course will be expected to:

- (1) understand the basic terms and concepts of the career development theories,
- (2) begin preparations for job-hunting, using your own thoughts, as the first step for lifelong career development/management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・初回は Zoom を用いたオンライン、以降は原則的に対面での講義を実施します。対面の場合の参加ルールは以下です。詳細は授業で伝えます。

- ①他人の迷惑になる行為を行わないこと
- ②授業に関係のないことをしないこと
- ③その他については、教員の指示に従うこと

Zoom の場合の参加は以下が加わります。詳細は授業で伝えます。

- ①音声は指示がない場合は原則としてオフ
- ②動画カメラは原則オン
(ただし電波状況が悪い場合は、氏名と学籍番号をチャットで伝えたくうえで

オフを許可します)

- ③表示する氏名は漢字
(仮名表記の名前の方はそれで結構です。外国人の方はアルファベットでも可)

- ・適宜リアクションペーパーを課します。
- ・グループ・ディスカッションを行うことがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第 2 回	キャリアとは	経営学におけるキャリア論の位置づけやキャリアという概念の理解
第 3 回	キャリアを取り巻く環境の変化	これからの世の中で、どのような変化が生じうるのか、その上でどのようなキャリアが求められるのか
第 4 回	企業の新卒採用活動 (1)	採用側の理論について

第 5 回	企業の新卒採用活動 (2)	採用研究について紹介します
第 6 回	企業の新卒採用活動 (3)	面接研究について紹介します
第 7 回	企業の採用活動事例の紹介 (1)	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました (業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります)
第 8 回	企業の採用活動事例の紹介 (2)	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました (業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります)
第 9 回	職場適応の理論 (1)	入社した後の会社への適応について (概要)
第 10 回	職場適応の理論 (2)	入社した後の会社への適応について (人間関係)
第 11 回	キャリア発達の理論 (1)	長期にわたるキャリアの見通しについて
第 12 回	キャリア発達の理論 (2)	長期にわたるキャリアの見通しについて
第 13 回	キャリア・トランジション論	転職など、キャリアの移行期について
第 14 回	近年のキャリア論	偶発性アプローチの紹介など

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

任意の宿題 (レポート等) を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

金井壽宏 (2002) 『働くひとのためのキャリア・デザイン』 PHP 研究所。良い本ですが必ずしも購入する必要はありません。授業は配布資料を基に進めます。参考書も同様です。

【参考書】

大久保幸夫 (2006) 『キャリアデザイン入門 (1) 基礎力編』・『キャリアデザイン入門 (2) 専門力編』 日経文庫。
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏 (訳) (2003) 『キャリア・アンカー —自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル—職務と役割の戦略的プランニング』 白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

・期末試験ないしレポート (50%)、平常点 (50% : 参加態度、リアクションペーパー、課題等含む)

【学生の意見等からの気づき】

平日の時間帯なので難しいかもしれませんが、可能であればキャリア・マネジメント II のようにゲストを招く回を設けたいと思っています。

【その他の重要事項】

I は理論編、II は事例編です。前者は講義が中心ですが、後者では社会人ゲストを呼んで業界のことや仕事、キャリアについて具体的に話してもらいます。II は現役社会人ゲストを呼ぶので土曜日開講ですが、1 回 1 回の授業が OBOG 訪問のような場になりますので、2、3 年生の早いうちから受講することを勧めます。どのようなゲストかは II のシラバスを見てください (22 年度のゲストなので同じ方々ではありませんが、多様な業界職種の方をお呼びしています。)

【Outline (in English)】

Outline

The purpose of this class is to learn fundamental career theories including the basic mind for career development, the process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and the social environment surrounding an individual career and organizations at which you will work.

Learning objectives

Students who complete the course will be expected to:

- (1) understand the basic terms and concepts of the career development theories,
- (2) begin preparations for job-hunting, using your own thoughts, as the first step for lifelong career development/management.

Learning activities outside of classroom

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion. Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

Grading criteria/policy

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

MAN200FA

キャリア・マネジメントⅡ（2019年度以降入学者）

小川 憲彦

経営学科専門科目 200 番台 2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアマネジメントⅠの知識を前提に、やや応用的な内容について扱います。また、この授業では各界の老若男女様々な社会人ゲストをお呼びして、業界や仕事の紹介、ご自身のキャリアについて話をしてもらいながら、質疑応答を行います。様々な働き方・考え方に触れることで視野を広げながら、自分自身のキャリアについて考える契機として下さい。

The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall, and you will be able to learn a lot from them.

【到達目標】

- ① 社会人との交流が適切に行えること
- ② 就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考えを持って臨めること

Students who complete the course will be expected to:

- (1) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner,
- (2) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGs and internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゲストを招くことで社会人とのコミュニケーションの場を設けます。仕事世界やキャリアに関する知見・視野を広げてほしいと思います。また、キャリア形成に関する理論、研究、事例等の紹介等も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明、キャリア・マネジメント論Ⅰの振り返り
第 2 回	就職活動について	学生の就職活動報告を共有し気付きを共有します
第 3 回	企業の採用活動	就職活動を企業の側から、すなわち採用活動について具体的な選抜方法やその視点について紹介します
第 4 回	ゲスト（キャリアセンター職員）	キャリア・センターの活用と30代の女性職員の方のキャリア
第 5 回	ゲスト（非営利組織職員）	新卒1年目で非営利組織（フードリボン等）を展開）で働く若手 OB
第 6 回	ゲスト（野村証券）	証券会社3年目の若手 OB
第 7 回	ゲスト（ベンチャー企業）	化粧品などを扱っている広報畑の OG
第 8 回	ゲスト（物流）	世界各地で事業展開をしている物流会社の初級管理職 OB
第 9 回	ゲスト（IT）	楽天の常務執行役員。上場企業の社長などの経験があります。
第 10 回	ゲスト（中小企業）	印刷会社の40代の経営者です。
第 11 回	ゲスト（クリエイティブ産業）	現在はアニメプロデューサーをしていますが、ゲーム会社でのシナリオライターなどの経験もあります。
第 12 回	ゲスト（鉄道）	鉄道会社の管理職 OB です。
第 13 回	境界なきキャリア	転職等の効果について
第 14 回	出世について	大企業での出世や昇進のメカニズムについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

任意の宿題（レポートや読書）を適宜出します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

【テキスト（教科書）】

金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 研究所。良い本ですが必ずしも購入の必要はありません。参考書も同様です。授業はゲストの用意した資料等に基づいて行われます。

【参考書】

大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門（1）基礎力編』・『キャリアデザイン入門（2）専門力編』日経文庫。

エドガー・H・シャイン（著）・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー ―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プランニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

・期末試験か期末レポート（50%）、平常点（50%：リアクションペーパーや小レポート等含む）

・出席は取りませんが適宜課題を出すことがあります。

・レポートも課題は任意ですが、内容が不十分であれば加点はしません。コピペ、内容のないもの、不十分と思われるもの、読めないものなどは減点もあります。

・参加しないで出されたリアクションペーパーは不正とみなします。

・参加する際の注意事項（その他参照）が守られない場合、私の判断で大幅な減点や単位不認定があります。

・詳細は授業で指示します。

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination or the report (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ男女バランスよくゲストをお呼びしたいと思います。

【その他の重要事項】

①各回の内容は前年度のもので、ゲストは毎年変更しています。

②不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。

③初回講義で具体的な注意など指示し、以降は無条件で②のような対応をします。なお、携帯電話の電源を切って鞆にしまう、写真や動画をとったりUPしたりしない、関係のないおしゃべりをしない、帽子やサングラスをしない等は基本です。

関連科目：キャリア・マネジメントⅠ

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall, and you will be able to learn a lot from them.

Learning objectives

Students who complete the course will be expected to:

- (1) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner,
- (2) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGs and internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management.

Learning activities outside of classroom

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

Grading criteria/policy

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

MAN300FB

経営組織論 I

長岡 健

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないのでしょうか。

この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】

- (1) 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における組織の諸側面について多面的かつ批判的に考察できる。
- (2) 経営組織論の視点から、組織における個人・集団の振る舞いや、現代社会における組織の活動の意味を説明することができる。
- (3) 組織における個人・集団の活動や、現代社会における組織の活動に関する本質的な「問い」を主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

春学期の授業（経営組織論 I）では、「組織と個人の創造的関係」という視点から、関連する概念や理論をもとに、振る舞いの背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、①個人の振る舞い、②キャリア開発、③集団の振る舞い、④組織と個人の関係、という4つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、2週を1モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行います。受講者が主体的に考え、発言する機会（twitterを使用）をできる限り設けていく予定です。さらに、ゲスト講義では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	個人の振る舞い①	仕事の中での「学習と成長」に関する基礎概念
第3回	個人の振る舞い②	組織における「モチベーション」に関する基礎概念
第4回	事例研究①	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第5回	キャリア開発①	組織における「キャリア・デザイン」の基礎概念
第6回	キャリア開発②	組織における「専門職」の意味／意義／位置づけ
第7回	事例研究②	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義

第8回	集団の振る舞い①	経営学における「グループ」の意味／意義／位置づけ
第9回	集団の振る舞い②	組織における「創造的コラボレーション」の可能性と課題
第10回	事例研究③	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第11回	組織と個人の関係①	組織における「対話的コミュニケーション」の可能性と課題
第12回	組織と個人の関係②	組織における「リーダーシップ」の基礎概念
第13回	事例研究④	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第14回	ラップアップ	春学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、参考書(1)『経営組織』の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。
- (2) テキスト・参考書以外に、各テーマに関連する文献を適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。
- (3) 各テーマ（モジュール）ごとに振り返りレポートを作成します（合計4回）。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中40％）。
- (4) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上に PDF ファイルでアップします。各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】

以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この3冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を紹介していきます。

- (1) 金井壽宏『経営組織』（日経文庫）日本経済新聞社
- (2) ロビンス, S. P.『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社
- (3) グロービス経営大学院『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

- (1) 最終レポート（1回）：40％
- (2) 振り返りレポート（4回）：40％
- (3) ゲスト講義へのコメント（4回）：20％

【学生の意見等からの気づき】

今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

- (1) zoom を使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）を受講するための機器と環境は各自で準備してください（詳細については事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください）。
- (2) 受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、twitter を活用する予定です。受講者は twitter のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。
- (3) 上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】

- (1) オンライン受講の準備については、事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください。
- (2) 『経営学総論Ⅰ/Ⅱ』もしくは『組織論入門』を事前に履修していることが望ましい。

【担当教員のウェブサイト】

- (1) プロフィール
<http://www.tnlab.net/profile.html>
- (2) ゼミ活動
<http://www.tnlab.net/seminar/>
- (3) フェイスブック
<https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9>
- (4) ツイッター
<https://twitter.com/TakeruNagaoka>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.

In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; (1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; (2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; (3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.

[Learning Objectives]

The objectives of this course are :

- (1) to deepen the understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and
- (2) to sharpen the insight into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

[Learning Activities outside of Classroom]

The learners in this course are expected to have read the relevant chapters from the texts, as well as to complete the required assignments, which are the term-end academic essay, 4 short reports about guest lectures, and 4 reflection papers about the lectures.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on the term-end academic essay (40%), 4 short reports about guest lectures (20%), and 4 reflection papers about the lectures (40%).

MAN300FB

経営組織論Ⅱ

長岡 健

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないのでしょうか。

この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】

- (1) 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における組織の諸側面について多面的かつ批判的に考察できる。
- (2) 経営組織論の視点から、組織における個人・集団の振る舞いや、現代社会における組織の活動の意味を説明することができる。
- (3) 組織における個人・集団の活動や、現代社会における組織の活動に関する本質的な「問い」を主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業（経営組織論Ⅱ）では、「組織変革とマネジメント」という視点から、関連する概念や理論をもとに、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、①組織構造、②組織文化、③社会と組織、④変化と適応、という4つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、2週を1モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行います。受講者が主体的に考え、発言する機会（twitterを使用）をできる限り設けていく予定です。さらに、ゲスト講義では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	組織構造①	組織設計の視点とピラミッド型組織の基本原則
第3回	組織構造②	組織形態のフラット化・ネットワーク化の進展
第4回	事例研究①	「組織変革とマネジメント」の事例に関するゲスト講義
第5回	組織文化①	企業文化論から見た日本的経営の特徴
第6回	組織文化②	日本的経営から働き方改革への移行
第7回	事例研究②	「組織変革とマネジメント」の事例に関するゲスト講義

第8回 社会と組織①

働き方の変化（第四次産業革命とSDGs）

第9回 社会と組織②

ダイバーシティ・マネジメントの可能性と課題

第10回 事例研究③

「組織変革とマネジメント」の事例に関するゲスト講義

第11回 事例研究④

「組織変革とマネジメント」の事例に関するゲスト講義

第12回 変化と適応①

組織変革を阻む振る舞いとマインドセット

第13回 変化と適応②

学習棄却（アンラーニング）の意味と方法

第14回 ラップアップ

秋学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、参考書(1)『経営組織』の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。
- (2) テキスト・参考書以外に、各テーマに関連する文献を適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。
- (3) 各テーマ（モジュール）ごとに振り返りレポートを作成します（合計4回）。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中40％）。
- (4) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上にPDFファイルでアップします。各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】

以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この3冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を紹介していきます。

- (1) 金井壽宏『経営組織』（日経文庫）日本経済新聞社
- (2) ロビンス, S. P.『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社
- (3) グロービス経営大学院『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

- (1) 最終レポート（1回）：40％
- (2) 振り返りレポート（4回）：40％
- (3) ゲスト講義へのコメント（4回）：20％

【学生の意見等からの気づき】

今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

- (1) zoomを使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）を受講するための機器と環境は各自で準備してください（詳細については事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください）。
- (2) 受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、twitterを活用する予定です。受講者はtwitterのアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。
- (3) 上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】

- (1) オンライン受講の準備については、事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください。
- (2) 『経営学総論 I/II』もしくは『組織論入門』を事前に履修していることが望ましい。

【担当教員のウェブサイト】

- (1) プロフィール
<http://www.tnlab.net/profile.html>
- (2) ゼミ活動
<http://www.tnlab.net/seminar/>
- (3) フェイスブック
<https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9>
- (4) ツイッター
<https://twitter.com/TakeruNagaoka>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.

In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; (1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; (2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; (3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.

[Learning Objectives]

The objectives of this course are :

- (1) to deepen the understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and
- (2) to sharpen the insight into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

[Learning Activities outside of Classroom]

The learners in this course are expected to have read the relevant chapters from the texts, as well as to complete the required assignments, which are the term-end academic essay, 4 short reports about guest lectures, and 4 reflection papers about the lectures.

[Grading Criteria/Policies]

Grading will be decided based on the term-end academic essay (40%), 4 short reports about guest lectures (20%), and 4 reflection papers about the lectures (40%).

MAN300FB

経営情報論 I

岸 真理子

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営情報論は、企業をはじめとする様々な組織を対象とし、組織を何らかの目標を追求する、広い意味での情報処理システムとして捉え、検討する学問領域です。

この授業では、情報通信技術（ICT）が飛躍的に発展し続けている今日、企業をはじめとする組織にとって、いかに ICT やそれが生み出す多様で大量の情報によって、効率的・効果的に経営活動を行うかが、組織の存続や発展に関わる、変わらぬ根幹の課題であること、加えて、昨今の ICT の劇的な進展は、ICT や情報が、もはや、競争優位や収益性を創出する手段であるだけでなく、その取扱いそのものが、「経営（マネジメント）」であるという課題について学習します。

経営情報論 I では、主に、経営に情報をいかに活用するか、いわば「情報で経営する」という経営情報学の標準的な切り口から、現象を説明するための基礎となる理論やモデルを学習していきます。

【到達目標】

経営情報論が扱う領域は広範で、しかも激しく変化しているため、現象を追いかけると一体何を学んでいるのかが、わかりにくくなるという問題に直面します。これを克服するために、「システムのなものの見方」を採用することにより、複雑で混沌として、しかも激動する対象領域を、網羅的というより、むしろ整合的で体系的に捉えられることを学びます。つまり、日々変化する経営情報を巡る現象を統一的な「ものの見方」に基づいて体系的に捉えることで、情報によっていかに経営するか、すなわち「情報で経営する」という基本的な課題に加え、情報そのものをいかに経営するか、すなわち「情報を経営する」という新たな課題についても理解する糸口をつかみます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

現段階（2023 年 2 月）では、時間割通りの時間に行う対面授業と、各自が自分のペースで行うオンデマンド教材を活用した課題研究とを併用する予定です。具体的な実施方法については、最初の授業時間に説明するとともに、学習支援システム上でもお知らせします。受講を検討している人は、必ず、学習支援システムで仮登録をするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	経営情報論 I のガイダンス (Zoom による)
第 2 回	経営情報論という学問領域	経営情報論とは
第 3 回	システムのなものの見方	経営情報論の体系的な捉え方
第 4 回	経営情報論への接近方法	課題研究 (1)
第 5 回	組織のシステムモデル	システムモデルによる組織の捉え方
第 6 回	経営情報と組織 (1)	組織の情報処理と組織論
第 7 回	組織と情報処理	課題研究 (2)
第 8 回	経営情報と組織の意思決定	組織の中核機能としての意思決定

第 9 回	経営情報と組織のコミュニケーション	組織を支えるコミュニケーション
第 10 回	コミュニケーションとメディア活用	課題研究 (3)
第 11 回	経営情報と組織 (2)	組織の情報処理と戦略論
第 12 回	組織と戦略	オープン/クローズドな組織戦略
第 13 回	経営戦略と情報活用	課題研究 (4)
第 14 回	総括	経営情報論 I のまとめ 経営情報論 I の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストやオンデマンド教材で関連箇所を何度も学習することで、理解をより深めることができます。また、課題研究で、実際の企業事例を取り上げられるように、各回に関連させた事例分析を常に心がけていると、学習効果をより高めることができます。

この授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

木嶋恭一・岸真理子『経営情報学－理論と現象をつなぐ論理－』有斐閣、2023 年。

【参考書】

岸真理子・佐藤亮編著『経営情報学入門』放送大学教育振興会、2023 年。

【成績評価の方法と基準】

現段階（2023 年 2 月）では、①対面授業内で行う小レポート（60%）と、②学期末までに提出する課題レポート（40%）で評価を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド教材の利用は好評でしたので、徐々に対面に切り替えながら継続して活用する予定です。また、ゲスト・スピーカーによるスピーチも、状況をみながら、できるだけ機会をつくりたいと思います。さらに、他の学生の意見を聞く機会も積極的に設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

PC あるいはスマートフォンなど、授業時に Hoppii に入力できるデバイス

【関連科目】

経営組織論 I/II、組織行動論 I/II、戦略的意思決定論 I/II、情報技術論 I/II、システム管理論 I/II など。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Organizations and Information Management is designed to learn the theories and models of organizations as information processing systems, apply it to practice and develop it, and at the same time obtain practical knowledge from actual cases of organizational information processing activities to generalize into an academic field.

【Learning Objectives】

The purpose of this course is to learn about how an organization works as an effective information processing system on the premise of the ICT environment.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant materials. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on the short reports during each class meeting (60%) and the term-end reports/ the term-end examination (40%).

MAN300FB

経営情報論Ⅱ

岸 真理子

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営情報論は、企業をはじめとする様々な組織を対象とし、組織を何らかの目標を追求する、広い意味での情報処理システムとして捉え、検討する学問領域です。

この授業では、情報通信技術（ICT）が飛躍的に発展し続けている今日、企業をはじめとする組織にとって、いかに ICT やそれが生み出す多様で大量の情報によって、効率的・効果的に経営活動を行うかが、組織の存続や発展に関わる、変わらぬ根幹の課題であること、加えて、昨今の ICT の劇的な進展は、ICT や情報が、もはや、競争優位や収益性を創出する手段であるだけでなく、その取扱いそのものが、「経営（マネジメント）」であるという課題について学習します。

経営情報論Ⅱでは、経営に情報をいかに活用するか、いわば「情報で経営する」という経営情報学の標準的な切り口から現象を説明するための理論やモデルを学習するだけでなく、「情報を経営する」という切り口から日々変化する現象にアプローチし、これを理解することを試みます。

【到達目標】

経営情報論が扱う領域は広範で、しかも激しく変化しているため、現象を追いかけると一体何を学んでいるのかが、わかりにくくなるという問題に直面します。これを克服するために、「体系的なものの見方」を採用することにより、複雑・混沌として、しかも激動する対象領域を、網羅的というより、むしろ整合的で体系的に捉えられることを学びます。つまり、日々変化する経営情報を巡る現象を統一的な「ものの見方」に基づいて体系的に捉えることで、情報によっていかに経営するか、すなわち「情報で経営する」という基本的な課題に加え、情報そのものをいかに経営するか、すなわち「情報を経営する」という新たな課題についても理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

現段階（2023年2月）では、時間割通りの時間に行う対面授業と、各自が自分のペースで行うオンデマンド教材を活用した課題研究とを併用する予定です。具体的な実施方法については、最初の授業時間に説明するとともに、学習支援システム上でもお知らせします。受講を検討している人は、必ず、学習支援システムで仮登録をするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	経営情報論Ⅱのガイダンス (Zoomによる)
第2回	経営情報論という学問領域	経営情報論とは
第3回	経営情報と技術	組織と技術、組織と情報システム
第4回	情報システムと組織変革	課題研究（1）
第5回	ICTと組織変革	ネットワーク・システム
第6回	ナレッジ・マネジメント	個人知と組織知
第7回	組織における知識の活用と創造	課題研究（2）
第8回	ICTと問題解決	問題解決を行う方法
第9回	ICTと価値創造	価値を生み出すプロセス

第10回	ヒトと技術の融合	課題研究（3）
第11回	超スマート社会と情報経営	新しいビジネスモデル
第12回	ネットビジネスの展開	ネットビジネスの実際
第13回	情報処理システムとしての組織再考	課題（4）
第14回	総括	経営情報論Ⅱのまとめ 経営情報論Ⅱの展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストやオンデマンド教材で関連箇所を何度も学習することで、理解をより深めることができます。また、課題研究で、実際の企業事例を取り上げられるように、各回に関連させた事例分析を常に心がけていると、学習効果をより高めることができます。

この授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

木嶋恭一・岸真理子『経営情報学－理論と現象をつなぐ論理－』有斐閣、2023年。

【参考書】

岸真理子・佐藤亮編著『経営情報学入門』放送大学教育振興会、2023年。

【成績評価の方法と基準】

現段階（2023年2月）では、①対面授業内で行う小レポート（60%）と②学期末までに提出する課題レポート（40%）で評価を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド教材の利用は好評でしたので、徐々に対面に切り替えながら継続して活用する予定です。また、ゲスト・スピーカーによるスピーチも、状況をみながら、できるだけ機会をつくりたいと思います。さらに、他の学生の意見を聞く機会も積極的に設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

PCあるいはスマートフォンなど、授業時に Hoppii に入力できるデバイス

【関連科目】

経営組織論Ⅰ/Ⅱ、組織行動論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、情報技術論Ⅰ/Ⅱ、システム管理論Ⅰ/Ⅱなど。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Organizations and Information Management is designed to learn the theories and models of organizations as information processing systems, apply it to practice and develop it, and at the same time obtain practical knowledge from actual cases of organizational information processing activities to generalize into an academic field.

【Learning Objectives】

The purpose of this course is to learn about how an organization works as an effective information processing system on the premise of the ICT environment.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant materials. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on the short reports during each class meeting (60%) and the term-end reports/ the term-end examination (40%).

MAN300FB

人的資源管理 I

佐野 嘉秀

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「人的資源管理（HRM = Human Resource Management）」の基礎を体系的に学習します。人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（Human Resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（Management）」の対象は人です。一筋縄にはいきません。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個人に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】

1) 人的資源管理の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
2) 人的資源管理の領域として、①採用、②人材育成、③雇用区分、④配置転換、⑤昇進・昇格、⑥人事評価、⑦賃金管理などの領域について学ぶ。このうち、人的資源管理 I では①～③、人的資源管理 II では④～⑦を中心に学習することで、各領域に関する基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式の授業です。「人的資源管理 I」「人的資源管理 II」とともに学習支援システム上の教材（スライド資料およびスライド資料を音声解説した映像資料）に基づく学習を基本とします。これをもとに各自学習を進めてください。また学習する領域の区切りごとに、小テストを受験して理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、人的資源管理を学ぶ視点	「人的資源管理 I / II」の学習範囲、人的資源管理（HRM）の目的と担い手、等
第 2 回	人的資源管理の考え方	経営学の中での HRM の位置づけ、人的資源管理の定義、等
第 3 回	人的資源管理の考え方	HRM の担い手、人事部とライン管理者の権限配分、人事部不要論の検討、等
第 4 回	採用管理①：採用計画と要員計画	採用管理のプロセス、採用管理と要員管理、要員管理のアプローチ、等
第 5 回	採用管理②：中途採用と新卒採用	中途採用の目的、新卒採用の合理性、企業特殊技能と採用、等
第 6 回	採用管理③：人材募集の方法	多様な採用ルート、RJP（リアリスティック・ジョブ・プレビュー）、等
第 7 回	人材育成①：HRM と HRD	HRM と HRD（人材育成）、技能の性格と人材育成、人材育成の方法、等
第 8 回	人材育成②：分業と教育訓練	分業と教育訓練、多能工と単能工、幅広い OJT と知的熟練、等
第 9 回	人材育成③：OJT と of f-JT	OJT と of f-JT、教育訓練の測定、OJT が機能する条件、等

第 10 回	人材育成④：教育訓練投資	「投資」としての教育訓練、教育訓練の費用、人材の定着と教育訓練、等
第 11 回	雇用区分①：正社員と非正社員	雇用区分を分ける理由、正社員と非正社員の相違、非正社員の基幹化、等
第 12 回	雇用区分②：多様な就業形態の活用	柔軟な企業モデル、派遣社員・請負社員の活用、等
第 13 回	雇用区分③：正社員の多様化	正社員の多様化、限定正社員、雇用区分の合理性、等
第 14 回	春学期のまとめ	春学期の授業で学んだことの整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から、参考書や新聞記事等を読んで理解を深める。②インターンシップやアルバイト、部活動・サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに教科書は指定しません。学習支援システム上の教材をもとに学習を進めてください。

【参考書】

各自が自習するための参考書として、上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房に収められた「Ⅲ企業内キャリアと人事管理」の章は、担当教員による人的資源管理に関する解説であり、本授業の内容に対応しています。また今野浩一郎・佐藤博樹著『人事管理入門（第3版）』日本経済新聞出版は、人的資源管理に関する発展的な理解に役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストの受験による）：30%

期末試験：70%

春学期と秋学期ともに、小テストの受験による平常点と期末試験の得点をもとに成績をつけます。授業内で学習した人的資源管理に関わる概念や理論、考え方や議論について、十分に理解できているかを問う試験問題とします。

定期試験期間中に教室での期末試験を実施します。形式はマークシート方式。資料は持ち込み不可です。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。オンデマンドの教材による授業であるため、いっそう丁寧な説明をするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いて教材を共有します。映像資料も含まれるので、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

春学期に開講する人的資源管理 I と秋学期に開講する人的資源管理 II の授業をすべて受講すると、人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、組織論入門が挙げられます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Our objective is to Learn and understand basic human resource management theories and practices. We focus on HRM practices in Japan from comparative perspectives. HRM practices can be understood as a system.

We are to focus on each area of HRM system respectively. Theories of HRM, wage system, appraisal, recruiting and selection, training and development, internal promotion and welfare are main areas of HRM.

【Learning Objectives】

(1) To understand and be able to explain the basic concept of human resource management.

(2) Students will learn about the areas of human resource management, including (1) recruitment, (2) human resource development, (3) employment classification, (4) reassignment, (5) internal promotion, (6) personnel evaluation, and (7) wage management. By focusing on (1) to (3) in Human Resource Management I and (4) to (7) in Human Resource Management II, students will be able to understand and explain the basic concepts of each area.

【Learning activities outside of classroom】

1) Deepen your understanding of the themes and issues studied in the lecture by reading reference books and newspaper articles on a daily basis.

2) Deepen your understanding of the content of the class by thinking about the actual situation and issues of human resource management based on the theories learned in the lecture while engaging in activities related to human resource management, such as internships, part-time jobs, club activities and circle activities.

The standard preparation study and review time for the lecture is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary marks (based on taking short tests): 30%.

Examination: 70%.

In both the spring and autumn semesters, students will be graded on the basis of their performance on the ordinary marks (based on taking short tests) and the examination. The examination questions will be designed to test whether students have a sufficient understanding of the concepts, theories, ideas and arguments related to human resource management studied in the lecture.

The examination will be held in classrooms during the regular examination period. The format is mark-sheet based. Students are not allowed to bring in any materials.

MAN300FB

人的資源管理Ⅱ

佐野 嘉秀

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「人的資源管理（HRM = Human Resource Management）」の基礎を体系的に学習します。人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（Human Resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（Management）」の対象は人です。一筋縄にはいきません。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個人々に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】

1) 人的資源管理の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
2) 人的資源管理の領域として、①採用、②人材育成、③雇用区分、④配置転換、⑤昇進・昇格、⑥人事評価、⑦賃金管理などの領域について学ぶ。このうち、人的資源管理Ⅰでは①～③、人的資源管理Ⅱでは④～⑦を中心に学習することで、各領域に関する基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式の授業です。「人的資源管理Ⅰ」「人的資源管理Ⅱ」とともに学習支援システム上の教材（スライド資料およびスライド資料を音声解説した映像資料）に基づく学習を基本とします。これをもとに各自学習を進めてください。また学習する領域の区切りごとに、小テストを受験して理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	配置転換①：配置転換の機能	配置転換の種類、配置転換の機能、日本企業における配置転換、等
第 2 回	配置転換②：配置転換と人材育成	幅広い仕事経験と技能、配置転換の人材育成機能、配置転換の範囲、等
第 3 回	配置転換③：個人選択型の配置転換	個人選択型の配置転換、自己申告制度、社内公募制度、個人選択型への転換の背景と課題、等
第 4 回	社員格付け制度①：格付け基準の多様性	社員格付け制度と賃金制度、格付け基準の条件と多様性、2重のランキング・システム、等
第 5 回	社員格付け制度②：社員格付け制度の変化	年功制から職能資格制度へ、「能力主義」から「成果主義」へ、社員格付け制度の変化、等
第 6 回	昇進管理①：昇進の機能と実態	昇進の機能、「トーナメント移動」としての昇進、キャリアツリー、等
第 7 回	昇進管理②：「遅い」選抜	選抜のタイミングと機能、「遅い」選抜、日本型ファスト・トラック、等

第 8 回	昇進管理③：昇進の変化と専門職制度	組織のフラット化と昇進機会、「部下のいない管理職」、専門職制度の導入と変化、等
第 9 回	人事評価①：人事評価の設計と運用	人事評価の機能、人事評価の設計と運用、絶対評価と相対評価、等
第 10 回	人事評価②：評価基準の選択	多様な評価要素、「成果主義」と人事評価、目標管理制度、等
第 11 回	賃金管理①：賃金管理の機能	賃金管理の機能、動機づけ要因としての賃金、労使関係の安定と賃金管理、等
第 12 回	賃金管理②：賃金の総額管理と個別管理	賃金の総額管理と個別管理、能力給と職務給、「年功的」賃金プロファイルの普遍性、等
第 13 回	福利厚生	法定福利と法定外福利、福利厚生の機能と変化、等
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期の授業で学んだことの整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から、参考書や新聞記事等を読んで理解を深める。②インターンシップやアルバイト、部活動・サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに教科書は指定しません。学習支援システム上の教材をもとに学習を進めてください。

【参考書】

各自が自習するための参考書として、上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房に収められた「Ⅲ企業内キャリアと人事管理」の章は、担当教員による人的資源管理に関する解説であり、本授業の内容に対応しています。また今野浩一郎・佐藤博樹著『人事管理入門（第3版）』日本経済新聞出版は、人的資源管理に関する発展的な理解に役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストの受験による）：30%

期末試験：70%

春学期と秋学期ともに、小テストの受験による平常点と期末試験の得点をもとに成績をつけます。授業内で学習した人的資源管理に関わる概念や理論、考え方や議論について、十分に理解できているかを問う試験問題とします。

定期試験期間中に教室での期末試験を実施します。形式はマークシート方式。資料は持ち込み不可です。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。オンデマンドの教材による授業であるため、いっそう丁寧な説明をするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いて教材を共有します。映像資料も含まれるので、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

春学期に開講する人的資源管理Ⅰと秋学期に開講する人的資源管理Ⅱの授業をすべて受講すると、人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、組織論入門が挙げられます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Our objective is to Learn and understand basic human resource management theories and practices. We focus on HRM practices in Japan from comparative perspectives. HRM practices can be understood as a system.

We are to focus on each area of HRM system respectively. Theories of HRM, wage system, appraisal, recruiting and selection, training and development, internal promotion and welfare are main areas of HRM.

【Learning Objectives】

(1) To understand and be able to explain the basic concept of human resource management.

(2) Students will learn about the areas of human resource management, including (1) recruitment, (2) human resource development, (3) employment classification, (4) reassignment, (5) internal promotion, (6) personnel evaluation, and (7) wage management. By focusing on (1) to (3) in Human Resource Management I and (4) to (7) in Human Resource Management II, students will be able to understand and explain the basic concepts of each area.

【Learning activities outside of classroom】

1) Deepen your understanding of the themes and issues studied in the lecture by reading reference books and newspaper articles on a daily basis.

2) Deepen your understanding of the content of the class by thinking about the actual situation and issues of human resource management based on the theories learned in the lecture while engaging in activities related to human resource management, such as internships, part-time jobs, club activities and circle activities.

The standard preparation study and review time for the lecture is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary marks (based on taking short tests): 30%.

Examination: 70%.

In both the spring and autumn semesters, students will be graded on the basis of their performance on the ordinary marks (based on taking short tests) and the examination. The examination questions will be designed to test whether students have a sufficient understanding of the concepts, theories, ideas and arguments related to human resource management studied in the lecture.

The examination will be held in classrooms during the regular examination period. The format is mark-sheet based. Students are not allowed to bring in any materials.

MAN300FB

財務会計論 I

川島 健司

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な簿記・会計（簿記入門Ⅰ／Ⅱ、会計学入門Ⅰ／Ⅱ）を習得した学生を対象に、財務会計の制度・理論とその活用方法を体系的に講義する。財務会計の学習においては、財務諸表の「作り方」と「読み方」を同時に学ぶことが効率的であり、本講義では財務諸表の作り手と読み手の双方の視点を通して、財務会計の実務を理解することを目指す。

財務諸表の作り方の視点を通じては、基本的な会計原則と会計基準を解説する。これには、財務会計の目的と機能、複式簿記の原理、利益計算の考え方、会計規制の考え方、資産評価の考え方、会計情報の質的特性、資産・負債・収益・費用の各概念に関する財務会計の議論などが含まれる。時間の制約上、各項目について詳細に解説することには限界があるが、各項目間の関係性を理解し、財務会計の体系全体を俯瞰することを目標にする。

財務諸表の読み方の視点を通じては、代替的な会計処理の手続きの種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のパターンを解説し、公表された会計数値の意味をいかに解釈するかについて議論する。また、代表的な財務指標を解説し、実際の公表財務諸表から企業実態を推論する技法について講義する。近年、財務会計の主要な目的は「投資家の意思決定に資する有用な情報を提供すること」とされており、受講生には実際に投資家の視点で財務諸表を読む経験を通じて、財務会計情報の特性や限界について考察してもらいたい。

【到達目標】

- ①各取引をどのように会計処理すべきかについて会計に関する語彙（概念）を用いて考察する力、さらにはそれを他者に対して説明する力を習得する。
- ②日本の会計基準、および IFRS（国際財務報告基準）を読解することに必要基礎概念について理解する。
- ③会計数値の背後にある財務諸表作成者の意図を読み解く力を習得する。
- ④財務諸表（英文財務諸表を含む）から企業実態を推論する力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「法学」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本授業は基本的にオンラインによるオンデマンド方式で行う。

【各回の授業構成】

各回とも授業は前半と後半に分割する。前半では財務会計の制度・理論・歴史について解説する。簿記や会計というと技術的・制度的な印象を強くもたれがちだが、本講義ではこれらの側面を踏まえながらも、さらに各取引内容の理解とその会計処理の背後にある理論的根拠や歴史的経緯に触れながら講義を進める。

後半では実際の公表財務諸表を用いて会計処理や企業実態の様子を観察・分析する。財務会計の制度と理論にもとづいて、それらを企業が実際にどのように適用して財務諸表を作成しているかを観察する。また、主要な財務指標を解説したうえで、財務諸表から企業実態を推論・分析する。とくに、公表された財務数値が企業によってどのように作られ、そこにそこからどのような企業の意図が読み取れるかを分析することに主眼を置く。

【仮想ではないリアルな教材】

会計という「ビジネスの言語」の仕組みを理解し、会計を通して会社のリアルな様子を見たり表現したりする方法を学ぶために、教材は仮想ではなく、リアルな会社・人物・取引を用いる。授業の終盤では、その当事者と実際に対話する機会も設ける予定である。ルールを暗記するしかないと思われがちな会計を、理屈・実話・実データによって学習する。会計を学ぶにつれて、会社の実態の見え方が変わっていく感覚を体験してもらえはらずである。

【本講義で学習する主な財務指標】

売上高利益率、流動比率、自己資本比率、固定長期適合率、インタレスト・カバレッジ・レシオ、総資本回転率、棚卸資産回転率、総資産利益率、自己資本利益率 (ROE)、1 株当たり当期純利益 (EPS)、時価簿価比率 (PBR)、経済的付加価値 (EVA)

【問題意識の共有と質疑応答】

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを作文し、その内容を一覧にして共有し、それに対して受講生間で意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	財務会計とは何か、どのように学ぶか	講義全体の学習内容と講義計画を説明。会計システムの構造を解説し、財務会計の主な論点を認識する。
第 2 回	起業ストーリーⅠ：会社の創業	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が創業する時点のケースから理解を深める。

第 3 回	会社経営と財政状態	財政状態の意味と記録法を説明する。また、財務会計の目的と役割を明確化し、利害調整と情報提供という目的観を併せて解説。
第 4 回	収支計算と損益計算	日常でも実践される収支計算と、営利企業で行われる損益計算について、両者の相違に焦点をあてながら解説。
第 5 回	複式簿記の方法	複式簿記の原理を理解した上で、簿記一巡の手続きについて解説。
第 6 回	複式簿記の実践	実際の会社の取引に基づいて、簿記一巡の手続きを説明する。
第 7 回	起業ストーリーⅡ：会社の拡大	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が事業拡大するケースから理解を深める。
第 8 回	利益計算の会計	損益法と財産法の特徴を考察する。収益・費用の認識基準について、現金主義と発生主義を対比させながら解説。
第 9 回	資産の会計	資産の認識・測定・開示の方法について解説する。
第 10 回	負債と資本の会計	負債と資本の認識・測定・開示の方法について解説する。
第 11 回	会計学の実践	実際の会社の取引にもとづき、会計学の考察法に基づいて会計処理を実践する。
第 12 回	簿記・会計の発展史	明治期から現在に至る日本の簿記・会計の歩みを概観する。
第 13 回	CFO との対話実践	経営者を招き、簿記・会計の知識にもとづいた対話を実践する。
第 14 回	簿記・会計の学びの先へ	簿記・会計の知識をいかに発展・活用していくかについて解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業の IR 資料を教材として活用する。受講生は各自、企業のホームページから教材として指定された書類を入手・持参すること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社、2021 年。

※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【参考書】

- 1 伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2022 年 4 月現在の最新版。
- 2 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、2022 年 4 月現在の最新版。
- 3 飯野利夫『財務会計論』三訂版、同文館、1993 年。
- 4 佐藤信彦『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ・基本論点編』第 9 版、中央経済社、2015 年。同『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ・応用論点編』第 9 版、中央経済社、2015 年。
- 5 W・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』第 3 版、白桃書房、2010 年。
- 6 W・R・スコット著・太田康広他訳『財務会計の理論と実証』中央経済社、2008 年。
- 7 Craig, D. Financial Accounting Theory, 3rd, McGraw-Hill, 2009.
- 8 Kieso, D.E. et al. Intermediate Accounting, 15th, Wiley, 2013.

【成績評価の方法と基準】

以下の 4 点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。

- ①授業動画の視聴状況 (10%)
 - ②各回の確認テスト (40%)
 - ③各回の課題作文 (30%)：各回の授業終了後に受講生は質問や感想を Google Form で提出する。その内容は、匿名にして全受講生で共有する。
 - ④指定教科書の書き込み状況 (20%)：上記③の課題文章と同様に、書き込み状況の画像を提出し、受講生間で共有する。
- ※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題を増やしてほしいという要望があり、対応する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業動画を視聴するための PC。表計算ソフトの Excel。

【その他の重要事項】

・課題作文・指定教科書への書き込みの状況は成績評価の対象であるため、自分自身が書いたものでないものを提出した場合には「不正行為」として厳重に対処する。
・「簿記入門Ⅰ／Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ／Ⅱ」を履修していることを前提に授業を進める。もし未履修の場合には、日商簿記検定 3 級の内容を学んでおくこと。その場合、各種専門学校 (TAC, 大原簿記学校等) が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

[Outline (in English)]

This lecture explains the system and theory of financial accounting and its application method. In learning of financial accounting, it is efficient to learn "how to make" and "how to read" financial statements at the same time, and this lecture aims to understand accounting practices through both viewpoints of the financial statement preparers and readers.

Regarding how to prepare financial statements, I will explain basic accounting principles and accounting standards. This includes discussions on the concepts of financial accounting purposes, functions of double entry bookkeeping, concept of profit calculation, concept of accounting regulation, concept of asset valuation, and qualitative characteristics of accounting information, assets, liabilities, income and expenses.

With regard to how to read financial statements, I will discuss the types of alternative accounting procedures and the motivation patterns of financial statement preparers on their choices, and discuss how to interpret the meaning of the published accounting figures. In addition, I will explain representative financial indicators and techniques to infer the realities of companies from the actual published financial statements.

The goals of this lecture are as follows.

- (1) Acquire the ability to consider how each transaction should be accounted for using accounting vocabulary (concepts), and the ability to explain it to others.
- (2) Understand Japanese accounting standards and the basic concepts necessary for reading IFRS (International Financial Reporting Standards).
- (3) To acquire the ability to understand the intention of the financial statement preparers behind the accounting figures.
- (4) Acquire the ability to infer the actual state of the company from financial statements.

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

Evaluate based on the following two points. Weights in parentheses. (1) Confirmation test for each lesson (50%)

(2) Composition for each assignment (50%): Students submit questions and impressions on the Google Form after each lesson. The descriptions will be anonymous and shared with all students.

MAN300FB

財務会計論Ⅱ

川島 健司

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な簿記・会計（簿記入門Ⅰ／Ⅱ、会計学入門Ⅰ／Ⅱ）を習得した学生を対象に、財務会計の制度・理論とその活用方法を体系的に講義する。本講義では財務諸表の作り手と読み手の双方の視点を通して財務会計の実務を理解することを旨とするが、この財務会計論Ⅱでは特に後者の視点を通じて、代替的な会計処理の手続きの種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のパターンを解説し、公表された会計数値の意味をいかに解釈するかについて議論する。また、代表的な財務指標を解説し、実際の公表財務諸表から企業実態を推論する技法について講義する。

近年、財務会計の主要な目的は「投資家の意思決定に資する有用な情報を提供すること」とされており、受講生には実際に投資家の視点で伝統的な財務諸表分析の技法から企業価値の評価に必要な基礎的なファイナンスの知識を習得して応用するまでの知見を踏まえて、財務会計情報の特性や限界について考察してもらいたい。

【到達目標】

①簿記の技術と会計学における基礎的な語彙（概念）を習得し、その技術と語彙を用いて、経済活動をどのように会計的に表現しうるかを考察し、適切な財務諸表を作成する能力をつける、②財務諸表分析の技法とファイナンスの知識を用いて、企業が公表する財務諸表と各種 IR 情報を利用しながら、企業活動の実態を推論する能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「法学」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

秋学期の全体を以下の 2 つのパートに分割する。「財務諸表分析」（秋学期・第 1 回～第 7 回）、「会社の価値分析」（秋学期・第 8 回～第 14 回）

会社の価値分析は、財務諸表の読み方のみならず、近年では財務諸表を作成するためにも必要な知識である（例えば、社債償却、リース会計、減損会計、退職給付会計、ストック・オプション会計等）。なお、財務会計論Ⅰと財務会計論Ⅱは、どちらの順番で履修しても差し支えない。

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを作文し、その内容を一覧にして共有し、それに対して受講生間で意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の目標と構成	本授業の概要を説明する。
第 2 回	起業ストーリーⅢ：会社の上場	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が株式上場するケースから理解を深める。
第 3 回	貸借対照表の読み方	貸借対照表の様式と分析方法を理解する。項目の並び順、分類基準、金額の意味を踏まえた上で、流動比率や自己資本比率などの代表的な分析指標について学ぶ。
第 4 回	損益計算書の読み方	損益計算書の様式と分析方法を学習する。段階的利益の意味を理解し、ROS や損益分岐点などの分析指標の他、貸借対照表のデータを併用する ROA、回転率、ROE などの指標を学ぶ。
第 5 回	キャッシュ・フローの分析	キャッシュフロー計算書の様式と分析方法を学習する。営業活動・投資活動・財務活動に分類した収支データの見方のほか、CCC 分析により資金回収の速さを評価する。
第 6 回	財務分析の実践	実際の財務データを題材に、財務分析の活用機会を認識したうえで、財務データを用いた仮説・検証の分析を実践する。
第 7 回	起業ストーリーⅣ：ポスト IPO	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が株式上場した後の経営（ポスト IPO）に関するケースから理解を深める。
第 8 回	会社の価値と資本コスト	会社の価値を金額として測定・評価する基本的な考え方を理解する。そこで鍵になる概念である資本コストの意味や計測方法について学習する。

第 9 回 DCF モデル

割引現在価値（DCF）モデルとよばれる価値評価モデルを学習する。このモデルを用いた会計処理である現存会計や退職給付会計の解説も行う。

第 10 回 残余利益モデル

残余利益モデルとよばれる損益計算書と貸借対照表のデータにもとづく価値評価モデルをその利点とともに理解する。

第 11 回 価値分析の実践

実際の財務データと証券市場データにもとづき、実際に価値の測定と評価を競合会社との比較を通じて実践する。財務分析・価値分析の歴史を財務会計と関連づけて概観する。

第 12 回 財務分析・価値分析の歴史

実際に活躍される経営者を授業に招き、財務分析・価値分析の知識を用いて対話を実践する

第 13 回 経営者との対話実践

本授業の全体をまとめ、実務での活用とキャリア形成について議論する

第 14 回 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では有価証券報告書や IR 資料を副教材として用いる。これらは受講生が各自、会社のホームページからダウンロードする。入手方法の詳細は授業内で説明する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社、2021 年。

※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【参考書】

- ・伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2022 年 4 月現在の最新版。
- ・伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞社、2022 年 4 月現在の最新版。
- ・中村忠『新稿・現代会計学』九訂版、白桃書房、2005 年。
- ・新田忠誓・佐々木隆他『会計学・簿記入門』第 12 版、白桃書房、2014 年。
- ・中野誠『戦略的コーポレートファイナンス』日経文庫、2016 年。
- ・岸本直樹・池田昌幸『入門・証券投資論』有斐閣ブックス、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

以下の 4 点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。

- ①授業動画の視聴状況（10 %）
 - ②各回の確認テスト（40 %）
 - ③各回の課題作文（30 %）：各回の授業終了後に受講生は質問や感想を Google Form で提出する。その内容は、匿名にして全受講生で共有する。
 - ④指定教科書の書き込み状況（20 %）：上記③の課題文章と同様に、書き込み状況の画像を提出し、受講生間で共有する。
- ※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題を増やしてほしいという要望があった。対応する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業動画を視聴するための PC。表計算ソフトの Excel。

【その他の重要事項】

- ・課題作文・指定教科書への書き込みの状況は成績評価の対象であるため、自分自身が書いたものでないものを提出した場合には「不正行為」として厳重に対処する。
- ・「簿記入門Ⅰ／Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ／Ⅱ」を履修していることを前提に授業を進める。もし未履修の場合には、日商簿記検定 3 級の内容を学んでおくとよい。その場合、各種専門学校（TAC、大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

【Outline (in English)】

This lecture explains the system and theory of financial accounting and its application method. In learning of financial accounting, it is efficient to learn "how to make" and "how to read" financial statements at the same time, and this lecture aims to understand accounting practices through both viewpoints of the financial statement preparers and readers.

Regarding how to prepare financial statements, I will explain basic accounting principles and accounting standards. This includes discussions on the concepts of financial accounting purposes, functions of double entry bookkeeping, concept of profit calculation, concept of accounting regulation, concept of asset valuation, and qualitative characteristics of accounting information, assets, liabilities, income and expenses.

With regard to how to read financial statements, I will discuss the types of alternative accounting procedures and the motivation patterns of financial statement preparers on their choices, and discuss how to interpret the meaning of the published accounting figures. In addition, I will explain representative financial indicators and techniques to infer the realities of companies from the actual published financial statements.

The goals of this lecture are as follows.

- (1) Acquire the ability to consider how each transaction should be accounted for using accounting vocabulary (concepts), and the ability to explain it to others.
- (2) Understand Japanese accounting standards and the basic concepts necessary for reading IFRS (International Financial Reporting Standards).
- (3) To acquire the ability to understand the intention of the financial statement preparers behind the accounting figures.
- (4) Acquire the ability to infer the actual state of the company from financial statements.

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

Evaluate based on the following two points. Weights in parentheses. (1)

Confirmation test for each lesson (50%)

(2) Composition for each assignment (50%): Students submit questions and impressions on the Google Form after each lesson. The descriptions will be anonymous and shared with all students.

MAN300FB

監査論 I

坂上 学

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、保証業務を含む監査の基本的な知識を提供する。とりわけ財務諸表監査の概念的、理論的、実務的な側面について扱う。保証業務を含む監査業務に対し、どのように監査基準や監査手続を適用すべきかということが理解できるようになることを目的としている。

【到達目標】

監査の基本知識として、理論的な基礎と制度の概要を理解し、監査報告書を読んだ時に、それが何を意味するのかを十分に理解できることを到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-4」、「法律」、「数学」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなう。各章ごとに対面授業を 2 回、オンライン授業でケーススタディを 1 回実施する。オンライン授業の回は、各自で Hoppii にログインし、資料のダウンロードと講義動画の視聴をおこなって欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期講義の概要と進め方、そして評価方法について説明します。
第 2 回	監査のフレームワーク (1)	テキスト第 1 章の前半部分について学習します。
第 3 回	監査のフレームワーク (2)	テキスト第 1 章の後半部分について学習します。
第 4 回	ケーススタディ (1)	テキスト第 1 章に関連する事例研究をおこないます。ミニテストを実施する予定です。
第 5 回	監査制度のフレームワーク (1)	テキスト第 2 章の前半部分について学習します。
第 6 回	監査制度のフレームワーク (2)	テキスト第 2 章のフレームワーク」後半部分について学習します。
第 7 回	ケーススタディ (2)	テキスト第 2 章に関連する事例研究をおこないます。ミニテストを実施する予定です。
第 8 回	監査規範の意義とわが国の監査基準 (1)	テキスト第 3 章の前半部分について学習します。
第 9 回	監査規範の意義とわが国の監査基準 (2)	テキスト第 3 章の後半部分について学習します。
第 10 回	ケーススタディ (3)	テキスト第 3 章に関連する事例研究をおこないます。ミニテストを実施する予定です。
第 11 回	監査意見形成のプロセス (1)	テキスト第 4 章の前半部分について学習します。
第 12 回	監査意見形成のプロセス (2)	テキスト第 4 章の後半部分について学習します。
第 13 回	ケーススタディ (4)	テキスト第 4 章に関連する事例研究をおこないます。ミニテストを実施する予定です。
第 14 回	まとめ	春学期講義のまとめと期末テストの傾向と対策をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所を熟読しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊豫田隆俊・林隆敏・松本祥尚『ベーシック監査論（八訂版）』（同文館出版、2019、税込 4,180 円）

※旧版は、基準等が改正されていて内容が大きく異なるので、必ず八訂版を購入すること。

【参考書】

盛田良久・蟹江章・長吉眞一『スタンダードテキスト監査論（第 5 版）』（中央経済社、2020、税込 5,060 円）

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評点をつける予定である。

-ミニテスト： 20%

-期末テスト： 80%

評点を基に、以下のとおり評価を行う。

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

期末テスト未受験: E

【学生の意見等からの気づき】

真面目に授業に臨んでいる学生をちゃんと評価して欲しいという要望が多く寄せられている。これまで以上に、私語を注意してくれて良かったという感想も多く寄せられるので、授業に集中できるように静かな環境で授業を受けられるよう、最大限の配慮を行う。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の回では、講義動画の視聴と資料のダウンロードができるパソコン環境が必要。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

会計学の基本的な知識があることを前提として講義を進めるので、「簿記入門 I/II」と「会計学入門 I/II」を履修していることが望ましい。また財務諸表に関する知識も必要になるので、「財務会計論 I/II」を平行して履修するなどして知識の獲得に努めてほしい。

【Outline (in English)】

〔Learning Objectives〕

This course provides a foundation in assurance, attestation, and auditing fundamentals. The emphasis of this course is on conceptual, theoretical and practical aspects of auditing financial statements. Upon completion of this course, students will be able to apply professional auditing standards and appropriate audit and other procedures to auditing, assurance and attestation engagements.

〔Learning activities outside of classroom〕

The lectures will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

〔Grading Criteria/Policy〕

Final grades will be calculated as follows:

-Quiz: 20%

-Final Examination: 80%

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No final examination: E

MAN300FB

監査論Ⅱ

坂上 学

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、保証業務を含む監査の基本的な知識を提供する。とりわけ財務諸表監査の概念的、理論的、実務的な側面について扱う。保証業務を含む監査業務に対し、どのように監査基準や監査手続を適用すべきかということが理解できるようになることを目的としている。

【到達目標】

監査の基本知識として、理論的な基礎と制度の概要を理解し、監査報告書を読んだ時に、それが何を意味するのかを十分に理解できることを到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-4」、「法律」、「数学」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなう。各章ごとに対面授業を 2 回、オンライン授業でケーススタディを 1 回実施する。オンライン授業の回は、各自で Hoppii にログインし、資料のダウンロードと講義動画の視聴をおこなって欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	秋学期講義の概要と進め方、そして評価方法について説明します。
第 2 回	リスク・アプローチと監査戦略（1）	テキスト第 5 章の前半部分について学習します。
第 3 回	リスク・アプローチと監査戦略（2）	テキスト第 5 章の後半部分について学習します。
第 4 回	ケーススタディ（1）	テキスト第 5 章に関連する事例研究をおこないます。ミニテストを実施する予定です。
第 5 回	リスク評価、リスク対応および監査の完了（1）	テキスト第 6 章の前半部分について学習します。
第 6 回	リスク評価、リスク対応および監査の完了（2）	テキスト第 6 章の後半部分について学習します。
第 7 回	ケーススタディ（2）	テキスト第 6 章に関連する事例研究をおこないます。ミニテストを実施する予定です。
第 8 回	監査報告書と情報提供機能（1）	テキスト第 7 章の前半部分について学習します。
第 9 回	監査報告書と情報提供機能（2）	テキスト第 7 章の後半部分について学習します。
第 10 回	ケーススタディ（3）	テキスト第 7 章に関連する事例研究をおこないます。ミニテストを実施する予定です。
第 11 回	開示情報の多様化と保証機能（1）	テキスト第 8 章の前半部分について学習します。
第 12 回	開示情報の多様化と保証機能（2）	テキスト第 8 章の後半部分について学習します。
第 13 回	ケーススタディ（4）	テキスト第 8 章に関連する事例研究をおこないます。ミニテストを実施する予定です。
第 14 回	まとめ	秋学期講義のまとめと期末テストの傾向と対策をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所を熟読しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊豫田隆俊・林隆敏・松本祥尚『ベーシック監査論（八訂版）』（同文館出版、2019、税込 4,180 円）

※旧版は、基準等が改正されていて内容が大きく異なるので、必ず八訂版を購入すること。

【参考書】

盛田良久・蟹江章・長吉眞一『スタンダードテキスト監査論（第 5 版）』（中央経済社、2020、税込 5,060 円）

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評点をつける予定である。

-ミニテスト：20%

-期末テスト：80%

評点を基に、以下のとおり評価を行う。

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

期末テスト未受験: E

【学生の意見等からの気づき】

真面目に授業に臨んでいる学生をちゃんと評価して欲しいという要望が多く寄せられている。これまで以上に、私語を注意してくれて良かったという感想も多く寄せられるので、授業に集中できるように静かな環境で授業を受けられるよう、最大限の配慮を行う。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の回では、講義動画の視聴と資料のダウンロードができるパソコン環境が必要。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

会計学の基本的な知識があることを前提として講義を進めるので、「簿記入門 I/II」と「会計学入門 I/II」を履修していることが望ましい。また財務諸表に関する知識も必要になるので、「財務会計論 I/II」を平行して履修するなどして知識の獲得に努めてほしい。

【関連科目】

None

【Outline (in English)】

(Learning Objectives)

This course provides a foundation in assurance, attestation, and auditing fundamentals. The emphasis of this course is on conceptual, theoretical and practical aspects of auditing financial statements. Upon completion of this course, students will be able to apply professional auditing standards and appropriate audit and other procedures to auditing, assurance and attestation engagements.

(Learning activities outside of classroom)

The lectures will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grades will be calculated as follows:

-Quiz: 20%

-Final Examination: 80%

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No final examination: E

MAN300FB

税務会計論 I

大下 勇二

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎とその基本的な考え方を学習します。例えば、法人税の性質、会計利益と課税所得、売買損益、受取配当、売上原価、有価証券譲渡原価、固定資産の減価償却、繰延資産の償却等、課税所得計算の基礎を取り上げます。これにより、税務会計の基礎を修得し、財務会計との関係と考え方の違いを理解した上で、今日的な企業課税の諸問題を的確に議論できる基礎的能力の涵養を目的とします。

【到達目標】

受講生は、経営学部の学生として必要と思われる法人税の基礎、課税所得計算の基礎、益金の計算、原価配分を中心とした損金の計算など、法人税法における課税所得計算の基本的なフレームワークを理解し、財務会計と比較しながら税務会計特有の考え方を理解することができる。これにより、法人課税上の諸問題を理論的に考え整理できる基礎的能力を修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本としています（初回のみ Zoom によるオンライン授業です）。学習支援システム上には、毎回、講義スライドと小テスト（第 1 回～第 13 回）をアップロードしますので、授業を受講した後に小テストを受ける形で学習していきます。また、必要に応じて、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定にしております。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	法人税の基礎 (1)	法人税の基礎を学習し、法人課税の基本的考え方を理解する。
第 2 回	法人税の基礎 (2)	法人税の基礎を学習し、法人課税の特徴を理解する。
第 3 回	課税所得計算の基礎 (1)	課税所得計算の基礎を学習し、財務会計の利益計算との関係を理解する。
第 4 回	課税所得計算の基礎 (2)	課税所得計算の基礎を学習し、課税取得計算の特徴を理解する。
第 5 回	売買損益等の計算 (1)	売上収益の認識等を中心に、売買損益計算の基礎を学習する。
第 6 回	売買損益等の計算 (2)	売上収益の原則的な認識基準に対する例外的な処理を学習する。
第 7 回	その他の収益の計算 (1)	受贈益、受取配当等（前半）の営業外収益の計算の基礎を学習する。
第 8 回	その他の収益の計算 (2)	受取配当等（後半）の営業外収益の計算の基礎を学習する。
第 9 回	売上原価の計算 (1)	売上原価の計算の仕組みを学習する。
第 10 回	売上原価の計算 (2)	棚卸資産の期末評価の考え方を学習する。
第 11 回	有価証券の譲渡原価の計算	有価証券の譲渡原価の仕組みを学習し、有価証券の期末評価の考え方を学習する。
第 12 回	固定資産の減価償却 (1)	減価償却計算の仕組み、償却の特例および取得原価の算定の考え方を学習する。
第 13 回	固定資産の減価償却 (2) および繰延資産の償却	固定資産の減価償却 (2) では耐用年数、残存価額および償却方法の考え方を理解し、償却限度額の計算を学習します。さらに繰延資産の償却では、税法上の繰延資産を取り上げ、その考え方を学習します。
第 14 回	総合問題演習	総合問題演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義スライドで予習・復習する形で学習を進めて下さい。レポート、小テスト、最終テストの実施を予定しております。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義スライド(学習支援システムの「教材」にアップロード)。

【参考書】

・大下勇二著『税務会計 I・II』(2019 年) 法政大学通信教育テキスト (図書館蔵)
・渡辺・山本著『法人税の考え方・読み方』税務経理協会

・成松洋一著『法人税法 理論と計算』税務経理協会

【成績評価の方法と基準】

今期の成績評価の方法と基準は以下のとおりです。

- 1) 毎回、学習支援システム上の「テスト」で、小テスト（第 1 回～第 13 回）を受けてもらい、これを成績に反映します。
 - 2) 課題レポートを提出してもらい、これを成績に反映します（1 回程度）。
 - 3) 最終テストを受けてもらい、これを成績に反映します。
- 成績評価の配分は、小テスト（全 13 回）45%、課題レポート（1 回程度）5%、最終テスト 50%です。

【学生の意見等からの気づき】

小テストの結果を定期的に観察して、授業内容の理解をその都度確認する取り組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、パワーポイント、さらには初回のオンライン授業では Zoom を用いますので、これを利用できる環境を準備して下さい。学習支援システムの「お知らせ」「教材」「課題」「テスト」などを定期的に見るようにしてください。

【その他の重要事項】

本科目は会計関連の専門科目と密接に関連しています。1 年次の簿記入門 I/II、2 年次の会計学入門 I/II を履修しておくことが望ましく、また、平行して、財務会計論 I/II、国際会計論 I/II を履修し、会計学の基礎を理解しておくこと、本講義の理解がより一層促進されます。法人税等の税金関連の新聞記事をほぼ理解できるように頑張りましょう。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with corporate income tax and the basic framework of tax accounting in Japan. You will learn the basics of taxable income of corporate income tax which is the core tax of the company (for example, nature of corporate income tax, accounting profit and taxable income, sales of products, securities and fixed assets, depreciation of fixed assets, amortization of deferred assets, revenues of dividends etc).

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to understand the basic concepts and principles of corporate income tax and basic structure of taxable income compared to accounting profit. This course also enhances the development of students' skill in tax accounting practice.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the quiz after each meeting (on-line test) and mid-term report. Before/after each meeting, students will be expected to spend at least four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided based on the following:

Quiz after each meeting (on-line test) (45%), mid-term report (5%), term-end examination (50%).

MAN300FB

税務会計論Ⅱ

大下 勇二

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「税務会計Ⅰ」で会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎を学んだ上で、今日的な企業課税の諸問題（新しい事業体の問題、交際費・寄附金の課税問題、役員給与の課税問題、不良債権の課税問題、減価償却の諸問題、企業組織再編とグループ課税の問題、国際課税の問題など）を取り上げ、法人税課税の基礎的な考え方から理論的にこれら諸問題をいかに整理し考察するのかを学習します。

【到達目標】

受講生は、法人税課税の基礎的な考え方に基づいて、新しい事業体の課税問題、交際費・寄附金と企業の社会的責任、給与の新しい支給形態、不良債権の償却、組織再編と企業集団化、経済活動の国際化など、今日の法人課税上の重要な諸問題を個別具体的に考え、これを理論的に考察できる能力を修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業を基本としています（初回、第 8 回および第 11 回は Zoom によるオンライン授業です）。学習支援システム上には、講義スライドと小テスト（全 13 回）をアップロードしますので、授業を受講した後に小テスト受ける形で学習していきます。また、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	事業形態の多様化と課税問題	ベイ・スルー課税、パス・スルー課税を取り上げ、新しい事業体の出現により、いかなる課税問題が生じているかを学習する。
第 2 回	企業の社会的責任と交際費課税	交際費課税の基本的考え方を学習し、損金算入制限を企業の社会的責任の観点から考える。
第 3 回	企業の社会的責任と寄附金課税	寄附金課税の基本的考え方を学習し、損金算入制限を企業の社会的責任の観点から考える。
第 4 回	給与の支給形態の多様化と課税問題 (1)	最近の役員給与の支給形態の変化と課税の問題を学習する。
第 5 回	給与の支給形態の多様化と課税問題 (2)	役員給与の損金算入制限の考え方を理解し、役員給与の課税の問題を学習する。
第 6 回	不良債権の償却の課税問題 (1)	不良債権の償却の問題につき、法人税法の貸倒損失の処理の考え方を学習する。
第 7 回	不良債権の償却の課税問題 (2)	不良債権の償却の問題につき、法人税法の貸倒引当金の処理の考え方を学習する。
第 8 回	固定資産の減価償却-その 2(1)	増加償却・陳腐化償却、評価減の考え方を学習する。
第 9 回	固定資産の減価償却-その 2(2)	修繕費と資本的支出、除却、特別償却の考え方を理解する。
第 10 回	企業活動の集団化と課税問題 (1)	合併・分割・株式交換・株式移転等の組織再編税制の考え方を学習する。
第 11 回	企業活動の集団化と課税問題 (2)	グループ法人税制（グループ法人単体課税制度、旧連結納税制度およびグループ通算制度）の特徴とその考え方を学習する。
第 12 回	企業活動の国際化と課税問題 (1)	国際課税の基礎理論を学習する。
第 13 回	企業活動の国際化と課税問題 (2)	国際課税の考え方を海外事業展開の例を用いて理解し、移転価格税制、過少資本税制、タックス・ヘイブン税制等の基礎を学習する。
第 14 回	総合問題演習	総合問題演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義スライドで予習・復習する形で学習を進めて下さい。レポート、小テスト、最終テストの実施を予定しております。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義スライド（学習支援システムの「教材」にアップロード）

【参考書】

・大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ』（2019 年）法政大学通信教育テキスト（図書館所蔵）
 ・成松洋一著『法人税法 理論と計算』（最新版）税務経理協会
 ・渡辺淑夫著『法人税法』（最新版）中央経済社
 ・大河原健・マーク・キャンベル・水野正夫著『税務コストの減らし方』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

今期の成績評価の方法と基準は以下のとおりです。

- 1) 毎回、学習支援システム上の「テスト」で、小テスト（第 1 回～第 13 回）を受けてもらいますが、これを成績に反映します。
 - 2) 課題レポートを提出してもらい、これを成績に反映します（1 回程度）。
 - 3) 最終テストを受けてもらい、これを成績に反映します。
- 成績評価の配分は、小テスト（全 13 回）45%、課題レポート（1 回程度）5%、最終テスト（50%）です。

【学生の意見等からの気づき】

小テストの結果を定期的に観察して授業内容の理解をその都度確認する取り組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、パワーポイント、さらにはオンライン授業では Zoom を用いますので、これを利用できる環境を準備して下さい。学習支援システムの「お知らせ」「教材」「課題」「テスト」などを定期的に見るようにしてください。

【その他の重要事項】

本科目は会計関連の専門科目と密接に関連しています。春学期の「税務会計論Ⅰ」を履修しておくことが望ましく、税務会計の基礎を理解しておく、本講義の理解がより一層促進されます。会社の法人課税の今日的な問題をほぼ理解できるように頑張りましょう。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with the problems of the current corporate income taxation in Japan. In this course, after learning the basics of taxable income of corporate income tax in "Tax Accounting I", we will take up various problems of current corporate income taxation (for example, new business entities, executive compensation, entertainment expense, donation, disposal of bad loans, corporate reorganization, group taxation and international taxation).

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to understand the relationship and differences between tax accounting and financial accounting.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the quiz after each meeting (on-line test) and mid-term report. Before/after each meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided based on the following:

Quiz after each meeting (on-line test) (45%), mid-term report (5%), term-end examination (50%).

MAN300FB

管理会計論 I

北田 皓嗣

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理会計とは、組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に計算テクニックを使えるというだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では、企業の構想を実現するための会計の仕組みについて、組織構造との関係のなかで理解を試みる。

【到達目標】

経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。管理会計情報が経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のコンテンツを配信し、中間試験、期末試験により理解度の確認を行います。授業中に提示される問題についても、適宜、解答するようにしてお願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、費用の考え方の紹介
第 2 回	固定費と変動費 1	固定費と変動費、貢献利益
第 3 回	固定費と変動費 2	損益分岐点
第 4 回	固定費と変動費 3	固定費のマネジメント
第 5 回	固定費と変動費 4	固定費とビジネスモデル
第 6 回	固定費と変動費 5	セールズミックス
第 7 回	固定費と変動費 6	固定分解
第 8 回	マネジメントコントロールシステム 1	PDCA サイクル
第 9 回	マネジメントコントロールシステム 2	上司と部下の関係
第 10 回	マネジメントコントロールシステム 3	4つのコントロール
第 11 回	マネジメントコントロールシステム 4	コストセンター・プロフィットセンター
第 12 回	経営計画 1	計画の種類
第 13 回	経営計画 2	中期経営計画とその改定
第 14 回	経営計画 3	短期利益計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

谷武幸 (2013) 『エッセンシャル管理会計（第 3 版）』中央経済社
浅田孝幸監訳 (2008) 『管理会計のエッセンス』同文館

【成績評価の方法と基準】

メディアコンテンツの視聴 (30%)

中間試験 (30%)

期末試験 (40%)

なお、状況を鑑みて、期末試験はオンラインではなく、大学で実施する可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

- Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.

- This course aims to provide students with knowledge of the relationship between business management issues and management accounting.

- Please review after the lecture to acquire knowledge. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

- Media content viewing (30%), mid-term exam (30%), final exam (40%)

MAN300FB

管理会計論Ⅱ

北田 皓嗣

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理会計とは、組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に計算テクニックを使えるというだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では、企業の構想を実現するため会計の仕組みについて、組織構造との関係のなかで理解を試みる。

- Please review after the lecture to acquire knowledge. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

- Media content viewing (30%), mid-term exam (30%), final exam (40%)

【到達目標】

経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。管理会計情報が経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のコンテンツを配信し、中間試験、期末試験により理解度の確認を行います。授業中に提示される問題についても、適宜、解答するようにしてお願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	管理会計の基本	授業の概要と、費用の考え方の紹介
第 2 回	責任センター	コストセンター、プロフィットセンター
第 3 回	事業部制組織の管理会計 1	事業部の業績評価、内部振替価格、事業部の利益概念
第 4 回	事業部制組織の管理会計 2	ROCE, RI, 本社費・共通費の配賦
第 5 回	バランスド・スコアカード (BSC)	4つの視点
第 6 回	コストマネジメント 1	原価計算の考え方
第 7 回	コストマネジメント 2	ABC と ABM
第 8 回	コストマネジメント 3	原価企画
第 9 回	コストマネジメント 4	原価維持, 原価低減
第 10 回	CSR 1	企業を取り巻く社会課題
第 11 回	CSR 2	CSR マネジメントの基礎
第 12 回	ESG 投資	環境, 社会, ガバナンスを考慮した投資活動
第 13 回	環境管理会計と環境コスト	企業の内部管理に特化した環境会計
第 14 回	MFCA (マテリアルフローコスト会計)	資源生産性の管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

浅田孝幸監訳 (2008) 『管理会計のエッセンス』 同文館
谷武幸 (2013) 『エッセンシャル管理会計 (第 3 版)』 中央経済社

【成績評価の方法と基準】

メディアコンテンツの視聴 (30%)

中間試験 (30%)

期末試験 (40%)

なお、状況を鑑みて、期末試験はオンラインではなく、大学で実施する可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

- Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.

- This course aims to provide students with knowledge of the relationship between business management issues and management accounting.

MAN300FB

原価計算論 I

福田 淳児

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品単位当たりの製造原価を計算するための一連の手続きです。この手続きは費目別原価計算、部門別原価計算そして製品別原価計算に分けられます。この授業では、原価計算論を学習する上で必要となる基本的な用語および諸概念を理解し、それらの用語を自分の言葉で説明することができることを目的とします。また、原価計算の一連の計算手続きを理解するとともに、それらの手続きの背後にある理論を説明できることを目的とします。

【到達目標】

原価計算論 I の到達目標は次の諸点です。第 1 に、原価計算に関連した基本的な用語および概念を簡潔に自分の言葉で説明できること。第 2 に、原価計算の一連の手続きである費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算のそれぞれを理解すること。第 3 に、その理解に基づいて、基本的な計算問題を解けるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

原価計算論 I は対面授業を想定しています。ただし、第 1 回目の授業は受講者数が確定していないために、zoom で実施します。

授業では学習支援システムを通じて事前配布した資料に基づいて、原価計算の一連の手続き、およびその背後にある理論などを説明します。授業中に折り紙を利用した模擬生産を行い、原価計算の概念やその計算方法を確認します。また、計算問題を解いてみることで理解を深めます。確認および応用問題を課題として出すこともありますので、必ず自分の力で問題を解いて次の時間に持ってくるようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要説明	本授業の目的、内容また授業の実施方法や評価方法などの概要を説明する。
第 2 回	原価計算の目的と諸概念	原価計算の意義・目的および原価の一般概念について説明する。また、これから原価計算を学習する上で特に必要となる重要ないくつかの原価分類について紹介する。
第 3 回	材料費の計算	材料費の意味、その内訳および材料費の計算について、そのプロセスを追いながら説明する。問題演習も行なう。
第 4 回	労務費の計算	直接労務費と間接労務費の区別を説明する。その後、直接労務費の計算方法を中心に説明する。
第 5 回	製造間接費の計算	製造間接費の意義およびその配賦の問題を説明する。特に、製造間接費の配賦基準の選択、またその背後にある論理を詳しく説明する。
第 6 回	個別原価計算の特徴およびその計算プロセス 折り紙による模擬生産	製品別原価計算の一つである個別原価計算が適する生産形態および個別原価計算の一連の計算手続きについて説明する。折り紙による模擬生産を行い、自分たちで個別原価計算表を作成する。
第 7 回	個別原価計算における仕損の評価	個別原価計算における仕損じの評価方法及びその計算例を紹介する。
第 8 回	部門別原価計算の意義	部門別原価計算を伴う個別原価計算を前提に、部門別原価計算を行う意義について説明する。
第 9 回	部門別原価計算の計算手続	部門別原価計算の一連の計算手続きを説明する。さらに、その具体的な計算プロセスを例題を解きながら説明する。
第 10 回	総合原価計算の特徴	見込み生産形態に適した製品別原価計算の方法である総合原価計算の特徴を個別原価計算との対比で説明する。
第 11 回	総合原価計算における仕掛品評価の意味及びその具体的な計算方法について	総合原価計算における仕掛品の評価が持つ重要性及びその基本的な計算メカニズムについて説明する。
第 12 回	総合原価計算における仕掛品の評価方法の計算例	総合原価計算における仕掛品評価方法のうち、先入先出法と平均法について例題を解きながら説明する。

第 13 回 工程別総合原価計算の意義と累加法及び非累加法 工程別総合原価計算の意味また累加法による計算手続について説明する。非累加法という方法についても紹介する予定である。

第 14 回 講義のまとめ 原価計算論 I の内容のまとめ、および補足説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義を受ける前に、各回のテーマに関連するテキストの該当箇所を必ず読んでおくこと。また、学習支援システムを通じて事前配布した資料にも必ず目を通しておいてください。さらに、テキストの例題を自分なりに解いてみて、わからない箇所を明確にして講義に望んでください。必要に応じて、授業後に課題を提示することがあります。これは授業で学んだ内容を復習するため、さらに発展的学習のための問題です。これらの問題については、次回の講義で特に誤りの多かった問題およびその解答を紹介しつつ、詳しい説明を行う予定です。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は、各 2 時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社 2016 年(2,640 円)

【参考書】

参考文献や自主学習において役立つと考えられる文献については、講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原価計算論 I の評価は期末試験および毎回の授業での課題の提出によって評価します。なお、成績評価の配分は期末テスト 75 %、授業中また授業後の課題の提出 25 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容について、比較的やさしいという学生と難しいという学生がいます。授業では、初学者を対象に基礎的なところから説明を始めます。その上で、発展的な内容についてはできるだけ課題およびその解説の形で補足を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は学習支援システムを通じて配布しますので、必ず資料をダウンロードしておいてください。

【その他の重要事項】

関連科目として管理会計論 I / II および財務会計論 I / II などがありますので同時に履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

Cost accounting is a series of procedures for calculating the manufacturing cost per unit of product. This procedure is divided into costing by item, costing by department, and costing by product. The purpose of this module is to help students understand the basic terms and concepts necessary for learning costing theory, and to be able to explain these terms in their own words. The objective of this module is to understand a series of calculation procedures of cost accounting and to be able to explain the theories behind these procedures.

The objectives of this course are as follows. First, to be able to concisely explain basic terms and concepts related to cost accounting in one's own words. Second, to understand a series of cost accounting procedures: cost accounting by item, cost accounting by department, and cost accounting by product. Third, to be able to solve basic problems based on this understanding.

Before attending the lecture, be sure to read the relevant part of the textbook related to the theme of each session. Also, be sure to read through the materials distributed in advance through the learning support system. In addition, please try to solve the examples in the textbook in your own way and clarify the parts you do not understand before attending the lecture. If necessary, assignments will be given after each class. These are problems related to the content learned in the class, as well as problems for further study. These problems will be explained in detail in the next lecture, with the problems with the most errors and their solutions introduced. The standard study time for preparation and review of this class is 2 hours each.

Grading in Cost Accounting I is based on the final exam and the assignments submitted in each class. The distribution of grades is 75% for the final exam and 25% for the homework (assignment).

MAN300FB

原価計算論Ⅱ

福田 淳児

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算論Ⅱでは、原価計算システムを通じて提供される原価情報が、企業における原価管理および短期利益計画といった経営管理に果たす役割を理解することを目的とします。また、1980 年代に実務の観察に基づいて提唱された Activity-Based Costing の計算メカニズムまたそれが経営意思決定にもたらす影響を伝統的な製造間接費の配賦方法との対比で理解することを目的とします。

【到達目標】

原価計算論Ⅱでは、原価計算システムによる経営管理目的に有用な情報の提供について理解することを目標とします。具体的には、以下の点を目標とします。第 1 に、経営管理目的での原価計算としての標準原価計算や直接原価計算および CVP 分析が提供する原価情報の役立ちを説明できること。第 2 に、1980 年代に登場した Activity-Based Costing の基本的なメカニズムを伝統的な製造間接費の配賦方法と比較して説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

原価計算論Ⅱは対面授業を想定しています。ただし、第 1 回目の授業は受講者数が確定していないために、zoom で実施します。原価計算論Ⅱでは、原価管理目的に有用な原価計算である標準原価計算、短期利益計画の策定に有用な直接原価計算ならびに CVP 分析、さらに伝統的な製造間接費の配賦方法との比較を行うことで Activity-Based Costing のメカニズムについて学習します。標準原価計算による原価標準の設定および原価差異分析を理解してもらうために、折り紙による模擬生産を行います。また、必要に応じて授業中また授業終了後に課題を提示します。特に間違いの多かった問題については誤りの多かった解答例を紹介するとともに、その理由を含め授業内において詳しく解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要紹介	原価計算論Ⅱで取り扱うテーマの概要および評価方法について説明する。
第 2 回	コスト・マネジメントのための諸技法および標準原価計算の意義及びその目的	コスト・マネジメントのための技法としての原価企画・原価改善について簡単に紹介するとともに、標準原価計算の意義とその目的について、原価管理目的への役立ちを中心に説明する。
第 3 回	標準原価計算における原価標準の設定 折り紙による模擬生産	標準直接材料費、標準直接労務費および製造間接費標準の設定方法について説明する。
第 4 回	標準原価計算における原価差異分析（四分法を中心に）	製造直接費および製造間接費の差異分析について説明する。なお、製造間接費の差異分析については多様な方法があるが、本授業では四分法を中心に説明する。
第 5 回	標準原価計算の現代的な意義	現在の製造環境のもとでの標準原価による原価管理の有用性について、いくつかの文献を手掛かりに議論を紹介する。
第 6 回	CVP 分析の意義	CVP 分析の意義、ならびに貢献利益（限界利益）の意味およびその役立ちを説明する。
第 7 回	CVP 分析の例題	CVP 分析にかかわる様々な計算問題を解いてみることで、その計算方法を確認する。
第 8 回	直接原価計算の意義とその目的	全部原価計算との対比で直接原価計算の意義および直接原価計算の短期利益計画目的での有用性について説明する。
第 9 回	直接原価計算および全部原価計算に基づく損益計算書の作成とその比較	直接原価計算に基づく損益計算書の作成を全部原価計算に基づく損益計算書との対比で、例題を交えながら説明する。
第 10 回	直接原価計算と全部原価計算における営業利益の比較	直接原価計算と全部原価計算に基づく損益計算書において営業利益に差異が生じる状況ならびに差異が生じる原因を明らかにする。
第 11 回	ABC の基礎的な概念	ABC がアメリカで生成した歴史的な背景および基本的な用語や概念について説明する。

第 12 回 ABC と伝統的な製造間接費の配賦との比較

ABC と伝統的な製造間接費の配賦方法との違いを両者の相違点に焦点を当てて説明する。

第 13 回 ABM および TBABC

ABC で得られた情報を原価管理目的で利用する具体的な方法及びその事例を考察する。さらに、時間主導型の ABC についても例題を交え説明を行う。

第 14 回 講義のまとめ

原価計算論Ⅱで学習した内容を振り返り、必要に応じて補足説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義を受ける前に、各回のテーマに関連するテキストの該当箇所を必ず読んでおくこと。また、学習支援システムを通じて事前配布した資料にも必ず目を通しておいてください。さらに、テキストの例題を自分なりに解いてみて、わからない箇所を明確にして講義に望んでください。必要に応じて、授業後に課題を提示することがあります。これは授業で学んだ内容を復習するため、さらに発展的学習のための問題です。これらの問題については、次回の講義で特に誤りの多かった問題およびその解答を紹介しつつ、詳しい説明を行う予定です。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は、各 2 時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社 2016 年 (2400 円税別)

【参考書】

参考文献または自主学習に役立つと考えられる文献については、講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原価計算論Ⅱの成績評価は、期末試験および毎回の授業での課題の提出に基づきます。成績評価の配分は期末テスト 75 %、課題または宿題の提出 25 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

折り紙による模擬生産について楽しいという意見をもらっています。できるだけ身近なもので生産という活動を体験し、なお原価計算が理解できる方法を考えたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は学習支援システムを通じて配布します。

【Outline (in English)】

The objective of Cost Accounting II is to understand how cost information provided through cost accounting systems plays a role in cost control and short-term profit planning in companies. It also aims to understand the calculation mechanism of activity-based costing, which was proposed based on practical observations in the 1980s, and its impact on management decision making.

In this module, the objective is to understand that cost accounting systems can provide useful information for business management purposes. Specifically, the following points are targeted. First, to be able to explain the usefulness of accounting information provided by standard costing, direct costing, and CVP analysis as costing for business management purposes. Secondly, to be able to explain the basic mechanism of Activity-Based Costing, which was introduced in the 1980s, in comparison with the traditional method of allocating manufacturing overhead.

Before attending the lecture, be sure to read the relevant part of the textbook related to the theme of each session. In addition, please be sure to read through the materials distributed in advance through the learning support system. In addition, please try to solve the examples in the textbook in your own way and clarify the parts you do not understand before attending the lecture. If necessary, assignments will be given after each class. These are problems related to the content learned in the class, as well as problems for further study. These problems will be explained in detail in the next lecture, with the problems with the most errors and their solutions introduced. The standard study time for preparation and review of this class is 2 hours each.

Grading in Cost Accounting I is based on the final exam and the assignments submitted in each class. The distribution of grades is 75% for the final exam and 25% for the homework (assignment).

MAN300FB

国際会計論 I

筒井 知彦

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国際会計論 I では、会計基準の国際的な多様化と調和化について講義します。企業が直面する環境は国によって異なり、それが各国の会計基準の相違を生み出す原因となっています。春学期は、このような会計基準の多様化について取り上げます。具体的には会計と環境（経済的・法的・社会的・文化的環境）、会計基準の国際的多様性（アメリカ、ヨーロッパ、発展途上国等）、多様化に伴う弊害について講義します。

【到達目標】

- (1) 国際会計基準の基本的な考え方が理解できる。
- (2) 日本的経営と会計の関係が理解できる。
- (3) 日本が会計を巡って現在置かれている状況と対応が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

資料を配布し、動画を視聴するオンデマンド形式で講義を行います。数回に一回、海外企業の具体的な事例も取り上げます。適宜、計算問題により理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、会計および経営と環境の関係
第 2 回	環境変化が企業経営に及ぼす影響①	規制強化が企業経営に及ぼす影響：牛井業界の事例
第 3 回	環境変化が企業経営に及ぼす影響②	規制緩和が企業経営に及ぼす影響：家電量販業界
第 4 回	会計と環境：経済的環境①	経済の発展レベル、政治および経済の安定性
第 5 回	会計と環境：経済的環境②	外国為替、円高と円安、外貨建て取引の会計、為替リスクへの対処、インフレーション
第 6 回	経営指標①	ROE、ROA、ROEとROAの比較
第 7 回	会計と環境：法的環境	成文法と慣習法
第 8 回	会計と環境：政治的環境	政治体制、共産主義、政府による資産の収用
第 9 回	会計と環境：資本市場	証券取引所、資本市場、負債市場
第 10 回	経営指標②	ROEの3分解、ドットとスターボックスを事例とした計算問題
第 11 回	近年改訂された会計基準①	減損会計基準、減価償却と減損、費用配分と評価、公正価値
第 12 回	近年改訂された会計基準②	企業結合会計基準、パーチェス法、プーリング法、のれんの償却と減損
第 13 回	近年改訂された会計基準③	退職給付会計基準、棚卸資産会計基準
第 14 回	まとめ	春学期の講義の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前にプリントを予習し、講義後にはプリントを読み直すこと。プリントにある計算問題について実際に解いてみる。講義やプリントで関心を持った部分について自ら調べてみるとよい。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。毎回、PDF の資料を配布します。

【参考書】

定評のあるテキストとして、桜井久勝『テキスト国際会計基準新訂版』（2018 年）白桃書房、橋本尚『IFRS 会計学基本テキスト』（2018 年）中央経済社などがある。国際会計基準が網羅されている辞書的な文献として企業会計基準委員会『IFRS 基準』（2020 年）中央経済社がある。

【成績評価の方法と基準】

レポート (70%)、平常点 (小テストなど 30 %) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ①動画にできるだけノイズが入らないようにします。
- ②リアクションペーパーに質問やコメントを書いてもらい、それについて授業内でフィードバックします。
- ②適宜、問題演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】

電卓を利用することがあります。

【その他の重要事項】

関連科目：会計学入門 I/II を履修していることが望ましい。財務会計論 I/II を並行履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This unit provides an overview of the accounting issues uniquely confronted by companies involved in international business. This includes how accounting is practiced in countries around the world. In addition, focus will also be on global rules and regulations issued by international organizations such as IFRS (International Financial Reporting Standards) and IASB (International Accounting Standards Board) which are evolving due to international entities requiring global standardization.

(Learning Objectives)

① Explain the impact of globalisation on financial reporting and analyse some of the current key issues faced by multinational enterprises from different countries.

② Evaluate and critically analyse the importance of enforcement agencies.

(Learning activities outside of classroom)

Review each lesson's material and do homework.

(Grading Criteria/Policy)

Test:70%, Normal point:30%

MAN300FB

国際会計論Ⅱ

筒井 知彦

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際会計論Ⅱでは、企業の事業活動の国際化、資本市場の国際化等が進むなかで、国際的に共通の物差しを作り、企業の収益や財政状態の国際的な比較を容易にするよう求める声が強まっていることから、会計基準の国際的調和化を取り上げます。具体的には、国際会計基準の設定の経緯、国際会計基準の基本的考え方、日本的経営と会計、日本基準と国際会計基準の相違、アメリカの会計・監査の変遷と会計不正について講義します。

【到達目標】

- (1) 国際会計基準の基本的な考え方が理解できる。
- (2) 日本的経営と会計の関係が理解できる。
- (3) 日本が会計を巡って現在置かれている状況と対応が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

資料を配布し、動画を視聴するオンデマンド形式で講義を行います。ビデオを数回、視聴します。適宜、計算問題により理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、会計ルールの多様化、調和化、コンバージェンス、アドプション、エンドースメント
第 2 回	会計ルールの変遷	会計ビッグバン前後の会計基準の変遷
第 3 回	会計ビッグバン①	会計ビッグバンまでの日本：日本的経営、株式の持ち合い、含み益、外国人投資家、資本効率
第 4 回	会計ビッグバン②	会計ビッグバンに伴う会計基準の改訂、ビデオ①
第 5 回	国際会計基準の設定①	I A S C の設立、4 つの転換点、I O S C O の支援、コアスタンダードの完成
第 6 回	国際会計基準の設定②	I A S B への改組、ノーウオーク合意、東京合意
第 7 回	国際会計基準への対応	国際会計基準への我が国の対応
第 8 回	国際会計基準の基礎①	概念フレームワーク、資産負債アプローチと収益費用アプローチ
第 9 回	国際会計基準の基礎②	公正価値と取得原価、原則主義と細則主義、ビデオ②
第 10 回	国際会計基準の基礎③	退職給付会計の仕組み、確定給付型年金と確定拠出型年金
第 11 回	国際会計基準の基礎④	ビデオ③、退職給付会計の計算問題
第 12 回	アメリカの会計制度の変遷	大恐慌以前、大恐慌後（証券法、証券取引法）、S E C の設立、F A S B による会計基準の設定
第 13 回	アメリカの監査制度の変遷	会計不正と規制強化
第 14 回	まとめ	秋学期の講義の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前にプリントを予習し、講義後にはプリントを読み直すこと。プリントにある計算問題について実際に解いてみる。講義やプリントで関心を持った部分について自ら調べてみるとよい。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

定評のあるテキストとして、桜井久勝『テキスト国際会計基準新訂版』（2018 年）白桃書房、橋本尚『I F R S 会計学基本テキスト』（2018 年）中央経済社などがある。国際会計基準が網羅されている辞書的な文献として企業会計基準委員会『IFRS 基準』（2020 年）中央経済社がある。

【成績評価の方法と基準】

定期試験またはレポート（70%）、平常点（小テストなど 30%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ①リアクションペーパーに質問やコメントを書いてもらい、それについて授業内でフィードバックします。
- ②適宜、問題演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】

電卓を利用することがあります。

【その他の重要事項】

関連科目：会計学入門Ⅰ/Ⅱを履修していることが望ましい。財務会計論Ⅰ/Ⅱを並行履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This unit provides an overview of the accounting issues uniquely confronted by companies involved in international business. This includes how accounting is practiced in countries around the world. In addition, focus will also be on global rules and regulations issued by international organizations such as IFRS(International Financial Reporting Standards) and IASB(International Accounting Standards Board) which are evolving due to international entities requiring global standardization.

(Learning Objectives)

① Explain the impact of globalisation on financial reporting and analyse some of the current key issues faced by multinational enterprises from different countries.

② Evaluate and critically analyse the importance of enforcement agencies.

(Learning activities outside of classroom)

Review each lesson's material and do homework.

(Grading Criteria /Policy)

Test:70% , Normal point:30%

MAN300FB

原価計算論 I (教職用)

福田 淳児

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

原価計算は、製品単位当たりの製造原価を計算するための一連の手続きです。この手続きは費目別原価計算、部門別原価計算そして製品別原価計算に分けられます。この授業では、原価計算論を学習する上で必要となる基本的な用語および諸概念を理解し、それらの用語を自分の言葉で説明することができることを目的とします。また、原価計算の一連の計算手続きを理解するとともに、それらの手続きの背後にある理論を説明できることを目的とします。

【到達目標】

原価計算論 I の到達目標は次の諸点です。第 1 に、原価計算に関連した基本的な用語および概念を簡潔に自分の言葉で説明できること。第 2 に、原価計算の一連の手続きである費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算のそれぞれを理解すること。第 3 に、その理解に基づいて、基本的な計算問題を解けるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

原価計算論 I は対面授業を想定しています。ただし、第 1 回目の授業は受講者数が確定していないために、zoom で実施します。

授業では学習支援システムを通じて事前配布した資料に基づいて、原価計算の一連の手続き、およびその背後にある理論などを説明します。授業中に折り紙を利用した模擬生産を行い、原価計算の概念やその計算方法を確認します。また、計算問題を解いてみることで理解を深めます。確認および応用問題を課題として出すこともありますので、必ず自分の力で問題を解いて次の時間に持ってくるようにしてください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要説明	本授業の目的、内容また授業の実施方法や評価方法などの概要を説明する。
第 2 回	原価計算の目的と諸概念	原価計算の意義・目的および原価の一般概念について説明する。また、これから原価計算を学習する上で特に必要となる重要ないくつかの原価分類について紹介する。
第 3 回	材料費の計算	材料費の意味、その内訳および材料費の計算について、そのプロセスを追いながら説明する。問題演習も行なう。
第 4 回	労務費の計算	直接労務費と間接労務費の区別を説明する。その後、直接労務費の計算方法を中心に説明する。
第 5 回	製造間接費の計算	製造間接費の意義およびその配賦の問題を説明する。特に、製造間接費の配賦基準の選択、またその背後にある論理を詳しく説明する。
第 6 回	個別原価計算の特徴およびその計算プロセス 折り紙による模擬生産	製品別原価計算の一つである個別原価計算が適する生産形態および個別原価計算の一連の計算手続きについて説明する。折り紙による模擬生産を行い、自分たちで個別原価計算表を作成する。
第 7 回	個別原価計算における仕損の評価	個別原価計算における仕損じの評価方法及びその計算例を紹介する。
第 8 回	部門別原価計算の意義	部門別原価計算を伴う個別原価計算を前提に、部門別原価計算を行う意義について説明する。
第 9 回	部門別原価計算の計算手続	部門別原価計算の一連の計算手続きを説明する。さらに、その具体的な計算プロセスを例題を解きながら説明する。
第 10 回	総合原価計算の特徴	見込み生産形態に適した製品別原価計算の方法である総合原価計算の特徴を個別原価計算との対比で説明する。
第 11 回	総合原価計算における仕掛品評価の意味及びその具体的な計算方法について	総合原価計算における仕掛品の評価が持つ重要性及びその基本的な計算メカニズムについて説明する。
第 12 回	総合原価計算における仕掛品の評価方法の計算例	総合原価計算における仕掛品評価方法のうち、先入先出法と平均法について例題を解きながら説明する。

第 13 回 工程別総合原価計算の意義と累加法及び非累加法 工程別総合原価計算の意味また累加法による計算手続について説明する。非累加法という方法についても紹介する予定である。

第 14 回 講義のまとめ 原価計算論 I の内容のまとめ、および補足説明を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義を受ける前に、各回のテーマに関連するテキストの該当箇所を必ず読んでおくこと。また、学習支援システムを通じて事前配布した資料にも必ず目を通しておいてください。さらに、テキストの例題を自分なりに解いてみて、わからない箇所を明確にして講義に望んでください。必要に応じて、授業後に課題を提示することがあります。これは授業で学んだ内容を復習するため、さらに発展的学習のための問題です。これらの問題については、次回の講義で特に誤りの多かった問題およびその解答を紹介しつつ、詳しい説明を行う予定です。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は、各 2 時間を標準としています。

【テキスト (教科書)】

山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社 2016 年 (2,640 円)

【参考書】

参考文献や自主学習において役立つと考えられる文献については、講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原価計算論 I の評価は期末試験および毎回の授業での課題の提出によって評価します。なお、成績評価の配分は期末テスト 75 %、授業中また授業後の課題の提出 25 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容について、比較的やさしいという学生と難しいという学生がいます。授業では、初学者を対象に基礎的なところから説明を始めます。その上で、発展的な内容についてはできるだけ課題およびその解説の形で補足を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は学習支援システムを通じて配布しますので、必ず資料をダウンロードしておいてください。

【その他の重要事項】

関連科目として管理会計論 I / II および財務会計論 I / II などがありますので同時に履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

Cost accounting is a series of procedures for calculating the manufacturing cost per unit of product. This procedure is divided into costing by item, costing by department, and costing by product. The purpose of this module is to help students understand the basic terms and concepts necessary for learning costing theory, and to be able to explain these terms in their own words. The objective of this module is to understand a series of calculation procedures of cost accounting and to be able to explain the theories behind these procedures.

The objectives of this course are as follows. First, to be able to concisely explain basic terms and concepts related to cost accounting in one's own words. Second, to understand a series of cost accounting procedures: cost accounting by item, cost accounting by department, and cost accounting by product. Third, to be able to solve basic problems based on this understanding.

Before attending the lecture, be sure to read the relevant part of the textbook related to the theme of each session. Also, be sure to read through the materials distributed in advance through the learning support system. In addition, please try to solve the examples in the textbook in your own way and clarify the parts you do not understand before attending the lecture. If necessary, assignments will be given after each class. These are problems related to the content learned in the class, as well as problems for further study. These problems will be explained in detail in the next lecture, with the problems with the most errors and their solutions introduced. The standard study time for preparation and review of this class is 2 hours each.

Grading in Cost Accounting I is based on the final exam and the assignments submitted in each class. The distribution of grades is 75% for the final exam and 25% for the homework (assignment).

MAN300FB

原価計算論Ⅱ（教職用）

福田 淳児

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算論Ⅱでは、原価計算システムを通じて提供される原価情報が、企業における原価管理および短期利益計画といった経営管理に果たす役割を理解することを目的とします。また、1980 年代に実務の観察に基づいて提唱された Activity-Based Costing の計算メカニズムまたそれが経営意思決定にもたらす影響を伝統的な製造間接費の配賦方法との対比で理解することを目的とします。

【到達目標】

原価計算論Ⅱでは、原価計算システムによる経営管理目的に有用な情報の提供について理解することを目標とします。具体的には、以下の点を目標とします。第 1 に、経営管理目的での原価計算としての標準原価計算や直接原価計算および CVP 分析が提供する原価情報の役立ちを説明できること。第 2 に、1980 年代に登場した Activity-Based Costing の基本的なメカニズムを伝統的な製造間接費の配賦方法と比較して説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

原価計算論Ⅱは対面授業を想定しています。ただし、第 1 回目の授業は受講者数が確定していないために、zoom で実施します。原価計算論Ⅱでは、原価管理目的に有用な原価計算である標準原価計算、短期利益計画の策定に有用な直接原価計算ならびに CVP 分析、さらに伝統的な製造間接費の配賦方法との比較を行うことで Activity-Based Costing のメカニズムについて学習します。標準原価計算による原価標準の設定および原価差異分析を理解してもらうために、折り紙による模擬生産を行います。また、必要に応じて授業中また授業終了後に課題を提示します。特に間違いの多かった問題については誤りの多かった解答例を紹介するとともに、その理由を含め授業内において詳しく解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要紹介	原価計算論Ⅱで取り扱うテーマの概要および評価方法について説明する。
第 2 回	コスト・マネジメントのための諸技法および標準原価計算の意義及びその目的	コスト・マネジメントのための技法としての原価企画・原価改善について簡単に紹介するとともに、標準原価計算の意義とその目的について、原価管理目的への役立ちを中心に説明する。
第 3 回	標準原価計算における原価標準の設定 折り紙による模擬生産	標準直接材料費、標準直接労務費および製造間接費標準の設定方法について説明する。
第 4 回	標準原価計算における原価差異分析（四分法を中心に）	製造直接費および製造間接費の差異分析について説明する。なお、製造間接費の差異分析については多様な方法があるが、本授業では四分法を中心に説明する。
第 5 回	標準原価計算の現代的な意義	現在の製造環境のもとでの標準原価による原価管理の有用性について、いくつかの文献を手掛かりに議論を紹介する。
第 6 回	CVP 分析の意義	CVP 分析の意義、ならびに貢献利益（限界利益）の意味およびその役立ちを説明する。
第 7 回	CVP 分析の例題	CVP 分析にかかわる様々な計算問題を解いてみることで、その計算方法を確認する。
第 8 回	直接原価計算の意義とその目的	全部原価計算との対比で直接原価計算の意義および直接原価計算の短期利益計画目的での有用性について説明する。
第 9 回	直接原価計算および全部原価計算に基づく損益計算書の作成とその比較	直接原価計算に基づく損益計算書の作成を全部原価計算に基づく損益計算書との対比で、例題を交えながら説明する。
第 10 回	直接原価計算と全部原価計算における営業利益の比較	直接原価計算と全部原価計算に基づく損益計算書において営業利益に差異が生じる状況ならびに差異が生じる原因を明らかにする。
第 11 回	ABC の基礎的な概念	ABC がアメリカで生成した歴史的な背景および基本的な用語や概念について説明する。

第 12 回 ABC と伝統的な製造間接費の配賦との比較

ABC と伝統的な製造間接費の配賦方法との違いを両者の相違点に焦点を当てて説明する。

第 13 回 ABM および TBABC

ABC で得られた情報を原価管理目的で利用する具体的な方法及びその事例を考察する。さらに、時間主導型の ABC についても例題を交え説明を行う。

第 14 回 講義のまとめ

原価計算論Ⅱで学習した内容を振り返り、必要に応じて補足説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義を受ける前に、各回のテーマに関連するテキストの該当箇所を必ず読んでおくこと。また、学習支援システムを通じて事前配布した資料にも必ず目を通しておいてください。さらに、テキストの例題を自分なりに解いてみて、わからない箇所を明確にして講義に望んでください。必要に応じて、授業後に課題を提示することがあります。これは授業で学んだ内容を復習するため、さらに発展的学習のための問題です。これらの問題については、次回の講義で特に誤りの多かった問題およびその解答を紹介しつつ、詳しい説明を行う予定です。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は、各 2 時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社 2016 年 (2400 円税別)

【参考書】

参考文献また自主学習に役立つと考えられる文献については、講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原価計算論Ⅱの成績評価は、期末試験および毎回の授業での課題の提出に基づきます。成績評価の配分は期末テスト 75 %、課題または宿題の提出 25 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

折り紙による模擬生産について楽しいという意見をもらっています。できるだけ身近なもので生産という活動を体験し、なお原価計算が理解できる方法を考えたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は学習支援システムを通じて配布します。

【Outline (in English)】

The objective of Cost Accounting II is to understand how cost information provided through cost accounting systems plays a role in cost control and short-term profit planning in companies. It also aims to understand the calculation mechanism of activity-based costing, which was proposed based on practical observations in the 1980s, and its impact on management decision making.

In this module, the objective is to understand that cost accounting systems can provide useful information for business management purposes. Specifically, the following points are targeted. First, to be able to explain the usefulness of accounting information provided by standard costing, direct costing, and CVP analysis as costing for business management purposes. Secondly, to be able to explain the basic mechanism of Activity-Based Costing, which was introduced in the 1980s, in comparison with the traditional method of allocating manufacturing overhead.

Before attending the lecture, be sure to read the relevant part of the textbook related to the theme of each session. In addition, please be sure to read through the materials distributed in advance through the learning support system. In addition, please try to solve the examples in the textbook in your own way and clarify the parts you do not understand before attending the lecture. If necessary, assignments will be given after each class. These are problems related to the content learned in the class, as well as problems for further study. These problems will be explained in detail in the next lecture, with the problems with the most errors and their solutions introduced. The standard study time for preparation and review of this class is 2 hours each.

Grading in Cost Accounting I is based on the final exam and the assignments submitted in each class. The distribution of grades is 75% for the final exam and 25% for the homework (assignment).

ECN300FB

組織経済学

奥西 好夫

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980 年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システム（Hoppii）にアップするので、各自ダウンロードすること。

・原則として全て対面授業で行う。万一、コロナ感染の状況等によってそれが困難な場合は、適宜 Zoom を用いて行う。アクセスに必要な ID、PW は Hoppii を通じて連絡する。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。

・課題提出等も Hoppii を通じて指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第 2 回	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
第 3 回	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
第 4 回	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
第 5 回	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第 6 回	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
第 7 回	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
第 8 回	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第 9 回	組織デザイン (1)	・組織構造
第 10 回	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
第 11 回	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
第 12 回	インセンティブ問題 (1)	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第 13 回	インセンティブ問題 (2)	・賃金制度への応用
第 14 回	講義内容の応用	・応用問題として、日本の賃金停滞の理由と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・学生は、授業前に Hoppii にアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小課題の回答を求められることがあるので、それらを誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は Hoppii を通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版、1997 年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。

・エドワード・P・ラジアー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017 年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT 出版、2005 年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013 年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016 年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011 年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992 年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】

・学期中に 2、3 回程度の課題提出を行い、それらの合計点でコース全体の評価結果とする。なお、最終課題は教室での定期試験（期末試験）として行う可能性がある（コロナの収束状況等による）。また、各回のウェイトは課題に要する時間、難易度等によって異なる場合がある。

・課題の内容は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2021 年度は、全て Zoom で行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。

・2022 年度は、全て対面で行ったが、冬期の月曜 1 限ということもあり、出席状況は良くなかった。今年度は春学期の開催でもあり、積極的に出席し、不明な点は質問等をしてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

・Hoppii へのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能な PC ないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】

・本科目は以前、I、II の通年開講授業であったが、2018 年度以降、新カリキュラムに合わせて I のみの開講となる。このため II の主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細に GBP 用の「HRM I/II」（I は秋学期、II は春学期）でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理 I/II」との重複履修は不可）。

・担当教員は、1980～89 年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit occasional assignments diligently.

・The final grade depends on the total points of the assignments.

ECN300FB

組織経済学 I (2018 年度以前入学者)

奥西 好夫

経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980 年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・授業内容の概要を記した教材 (ハンドアウト) は、学習支援システム (Hoppii) にアップするので、各自ダウンロードすること。

・原則として全て対面授業で行う。万一、コロナ感染の状況等によってそれが困難な場合は、適宜 Zoom を用いて行う。アクセスに必要な ID、PW は Hoppii を通じて連絡する。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。

・課題提出等も Hoppii を通じて指示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第 2 回	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
第 3 回	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
第 4 回	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
第 5 回	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第 6 回	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
第 7 回	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
第 8 回	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第 9 回	組織デザイン (1)	・組織構造
第 10 回	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
第 11 回	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
第 12 回	インセンティブ問題 (1)	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第 13 回	インセンティブ問題 (2)	・賃金制度への応用
第 14 回	講義内容の応用	・応用問題として、日本の賃金停滞の理由と課題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・学生は、授業前に Hoppii にアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。(その方が、受講生全員の理解向上につながるため。)

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は Hoppii を通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版、1997 年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017 年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT 出版、2005 年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013 年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016 年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011 年。経済学者が重用する「効率性」(功利主義)以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992 年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】

・学期中に 2、3 回程度の課題提出を行い、それらの合計点でコース全体の評価結果とする。なお、最終課題は教室での定期試験 (期末試験) として行う可能性がある (コロナの収束状況等による)。また、各回のウェイトは課題に要する時間、難易度等によって異なる場合がある。

・課題の内容は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2021 年度は、全て Zoom で行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。

・2022 年度は、全て対面で行ったが、冬期の月曜 1 限ということもあり、出席状況は良くなかった。今年度は春学期の開催でもあり、積極的に出席し、不明な点は質問等をしてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

・Hoppii へのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能な PC ないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】

・本科目は以前、I、II の通年開講授業であったが、2018 年度以降、新カリキュラムに合わせて I のみの開講となる。このため II の主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細に GBP 用の「HRM I/II」(I は秋学期、II は春学期) でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい (ただし、日本語の「人的資源管理 I/II」との重複履修は不可)。

・担当教員は、1980 ~ 89 年、(旧) 労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit occasional assignments diligently.

・The final grade depends on the total points of the assignments.

MAN200FC

経営戦略論 I (2019年度以降入学者)

李 瑞雪

経営戦略学科専門科目 200 番台 2~4 (経営戦略学科) 3~4 (経営学科・市場経営学科) 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 2 年 M~O

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概念的講義です。経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養います。

【到達目標】

主要な経営戦略に関する理論と概念を使って、現実の経営戦略を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ある程度大人数となることが予想されるため、基本的には講義方式で行いますが、講義中で具体的なケースを用いた作業 (小レポート、ディスカッションなど) を適宜行う予定です。事前に講義資料を学習支援システムにアップロードし予習を求めます。質問や発言等は講義中にも随時受け付けます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 講 イントロダクション	講義内容の構成、戦略の定義、経営戦略の定義、経営ビジョンと経営戦略などの説明
第 2 回	第 2 講 プランニング・アプローチ (I)	製品・市場ポートフォリオ、戦略的意思決定と業務的意思決定、成長ベクトル、シナジー、企業目標のヒエラルキー
第 3 回	第 3 講 プランニング・アプローチ (II)	戦略策定の手順、SWOT 分析、PPM、ビジネス・スクリーン、バランスド・スコアカード
第 4 回	第 4 講 ポジショニング・アプローチ (I)	S-C-P モデル (産業構造-企業行動-経営業績モデル)、ファイブ・フォース・モデル、ハーフィンダール指数、参入障壁
第 5 回	第 5 講 ポジショニング・アプローチ (II)	PIMS モデル、戦略グループ、移動障壁
第 6 回	第 6 講 ポジショニング・アプローチ (III)	産業構造と戦略的機会 (前半)。集約・統合戦略、先行者優位、市場リーダーシップ戦略、ニッチ戦略、収獲戦略、撤退産業、勝者総取り戦略など
第 7 回	第 7 講 ポジショニング・アプローチ (IV)	産業構造と戦略的機会 (後半)。グローバル戦略、マルチショナル戦略、トランスショナル戦略、デファクト・スタンダード戦略、勝者総取り戦略、先制破壊戦略、埋没コスト、破滅的競争など
第 8 回	第 8 講 リソース・ベース・アプローチ (I)	経営資源、経営資源の異質性と固着性、VRIO 分析フレームワーク、一時的競争優位と持続的競争優位
第 9 回	第 9 講 リソース・ベース・アプローチ (II)	経営資源模倣困難の要因、経路依存性、社会的複雑性のある経営資源、経営資源保有のパラドックス、経営資源蓄積のメカニズム、戦略的意図、コア・コンピタンスの探究など
第 10 回	第 10 講 ゲーム・アプローチ、コーペティション (I)	価値相関図 (バリュー・ネット)、「付加価値」の概念、競争と協調、顧客への「本質的サービス」の分析視点
第 11 回	第 11 講 ゲーム・アプローチ、コーペティション (II)	「価値」貢献度、明示的ルールと暗黙の認識、MFC 条項と MCC 条項、戦略的補完関係、意図的抑止 (contrived deterrence)
第 12 回	第 12 講 学習アプローチ、創発戦略 (I)	分析型・計画型アプローチとの違い、意図された戦略と実現された戦略、プロセス重視・学習重視、間接的戦略、帰納的戦略
第 13 回	第 13 講 学習アプローチ、創発戦略 (I)	学習の「場」、実験による学習、「反省」の重視、ダイナミック・シナジ

第 14 回 第 14 講 競争優位と一般戦略 競争優位とその累計、スタック・イン・ザ・ミドル、三つの一般戦略、見える差別化と見えない差別化、垂直的差別化と水平的差別化

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweek などの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身につけ、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

とくにテキストを指定し購入を求めることはありません。事前に講義資料を学習支援システムにアップロードします。毎回の授業に先だって必ず該当する資料を予習してください。授業中は必ずしっかりとノートをとってください。

【参考書】

- 1) 青島久一・加藤俊彦『競争戦略論』有斐閣
- 2) 沼上幹『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社
- 3) M.E. ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社
- 4) ジェイ・B・バーニー『企業戦略論』(上、中、下) ダイヤモンド社
- 5) G. サローナーほか『経営戦略論』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション参加 (+a)、小レポートなど平常点 (40%)、期末テスト (60%)、授業中の私語や携帯使用 (-a)。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を勘案しながら授業スピードを適宜調整するように心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

経営戦略論 I と経営戦略論 II は、一貫した講義構成になっているため、通年で履修することをお勧めします。とくに、秋学期 (経営戦略論 II) のみの履修では、内容の理解において困難を伴う可能性があります。ご注意ください。主な関連科目として、経営学総論 I/II、国際経営戦略論 I/II、戦略的意思決定論 I/II、経営分析 I/II、III/IV、日本経営論 I/II、経営組織論 I/II、マーケティング論 I/II、経営管理論 I/II などが挙げられます。

【Outline (in English)】

This course is an basic lecture on strategic management which is one of the core areas in business administration. The main objectives include understanding the basic theories and concepts of strategic management and cultivating the ability to analyze strategic behaviors by reviewing some real cases related to companies. The final grade will be calculated according to the following process. Term-end examination: 60%, Short reports: 20%, and in-class contribution: 20%.

MAN200FC

経営戦略論Ⅱ（2019年度以降入学者）

李 瑞雪

経営戦略学科専門科目 200 番台 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall] 営 2 年 M～O

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概念的講義です。経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養います。

【到達目標】

主要な経営戦略に関する理論と概念を使って、現実の経営戦略を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

秋学期は対面授業を実施する予定である。状況によってオンライン開催を余儀なくされる場合、講義形式などの詳細について適宜提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 講 イントロダクション、一般戦略	春学期（経営戦略論Ⅰ）の内容の復習、秋学期講義内容の構成、3 つの一般戦略と競争優位
第 2 回	第 2 講 ゲームアプローチ	価値相関図（バリュー・ネット）、戦略的補完関係、「付加価値」と価値貢献度、競争と協調、顧客への「本質的サービス」、明示的ルールと暗黙の認識、MFC 条項と MCC 条項、意図的抑止意図された戦略と実現された戦略、プロセス重視・学習重視、間接的戦略、帰納的戦略、学習の「場」、実験と「反省」による学習、ダイナミック・シナジ
第 3 回	第 3 講 学習アプローチと創発戦略	隔離メカニズム、強みの源泉の専有化、経営資源の不確実性、暗黙知と形式知、強みの累積、先手の連鎖、戦略フィット、活動システム、柔道ストラテジー
第 4 回	第 4 講 競争優位の持続可能性	ネットワーク外部性、互換性、デファクト・スタンダード獲得戦略（クローズド戦略とオープン戦略）、クリティカル・マス、プラットフォーム戦略
第 5 回	第 5 講 ネットワーク外部性と競争優位	イノベーションの定義と分類、イノベーションの特徴とそのマネジメント、イノベーションと競争優位との関係、イノベーションのジレンマ、「死の谷（デスバレー）」、知的財産戦略（イノベーションの収益化）、オープン・イノベーション、リバース・イノベーション、フル・ガール・イノベーション
第 6 回	第 6 講 イノベーションと競争優位	M&A の類型、戦略的関連性の源泉、M&A 戦略の動機、M&A 戦略と企業パフォーマンス、ピディング企業の経営者の規範、ターゲット企業の経営者の原則、ターゲット企業の行動、ターゲット企業の対抗策
第 7 回	第 7 講 吸収合併（M&A）	戦略的提携の定義と形態、戦略提携と業務提携、戦略的提携と業界構造、戦略的提携の動機、提携におけるリスク、アウトソーシング
第 8 回	第 8 講 戦略的提携	垂直統合と競争優位
第 9 回	第 9 講 垂直統合と競争優位	垂直方向の事業展開、垂直統合度、Make or Buy の意思決定、第 3 の取引形態、取引統治メカニズムの類型（スポット市場契約やクランなど）、垂直統合と持続的競争優位との関係、垂直統合のための組織
第 10 回	第 10 講 サプライチェーンマネジメント（SCM）の戦略	SCM の定義、サプライチェーンのプロセス（SCOR モデル）、プロセス統合、企業の競争基盤とサプライチェーンの貢献、SCM 戦略の構成要素、制約理論（TOC）、投機と延期

第 11 回 第 11 講 調達戦略

Make or Buy の意思決定、調達戦略の多様な目標、TCO の最小化、調達方式の 4 類型、調達戦略のマトリクス、調達プロセスの基本原則、調達戦略と企業間コラボレーション

第 12 回 第 12 講 製造戦略と生産プロセス

E/O、M/O、A/O、M/O、ジョブショップ、バッチフロー、ライン・フロー、連続フロー、製品・工程マトリクス、製品・工程ライフサイクルと生産性ジレンマ、マスカスタマイゼーション、リーン生産システム

第 13 回 第 13 講 ロジスティクス戦略と競争優位

スピードの経済とロジスティクス戦略、ロジスティクス戦略の類型、ジャストインタイムの物流、サードパーティ・ロジスティクス（3PL）、共同物流

第 14 回 第 14 講 秋学期の内容のまとめ

1 回目から 13 回目までの授業内容のまとめ・総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweek などの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身につけ、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストを指定し購入を求めることはありません。事前に講義資料とリーディング資料を授業支援システムにアップロードします。毎回の授業に先だって必ず該当する資料を予習しておいてください。授業中は必ずしっかりとノートをとってください。

【参考書】

- 1) 青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』有斐閣
- 2) 沼上幹『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社
- 3) M.E. ボーター『競争の戦略』ダイヤモンド社
- 4) ジェイ・B・バーニー『企業戦略論』（上、中、下）ダイヤモンド社
- 5) G. サローナーほか『経営戦略論』東洋経済新報社
- 6) デビッド・コリス&シンシア・モンゴメリー『資源ベースの経営戦略論』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

「平常点」20%、「小テスト」30%、「期末テスト」50%

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を勘案しながら授業スピードを適宜調整するように心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

経営戦略論Ⅰと経営戦略論Ⅱは、一貫した講義構成になっているため、通年で履修することをお勧めします。とくに、秋学期（経営戦略論Ⅱ）のみの履修では、内容の理解において困難を伴う可能性があります。ご注意ください。主な関連科目として、戦略論入門、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、日本の物流と企業経営、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱなどが挙げられます。

【Outline (in English)】

This course is a basic lecture on strategic management which is one of the core areas in business administration. The main objectives include understanding the basic theories and concepts of strategic management and cultivating the ability to analyze strategic behaviors by reviewing some real cases related to companies. Students will be expected to have read the relevant chapters from the references and other materials suggested by the teacher before each class meeting. The final grade will be calculated according to the following process. Term-end examination: 50%, Short reports: 30%, and in-class contribution: 20%.

MAN200FC

国際経営論 I

洞口 治夫

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論とは、企業経営の国際化に伴う諸問題を解決に導く方途を研究する学問の総称です。トヨタ、全日空（ANA）、東京ディズニーランド、吉野家とマクドナルドなど、豊富な事例を学びながら、企業経営の課題を学びます。国際経営論の目的は、グローバル化を進める企業経営の実態を知り、経営の失敗を避ける方途を社会的に示すことにあります。どのような企業が製品開発を海外で行ったり、国際的なマーケティングを行っているのでしょうか。国家間の通貨安競争や国境を越えた人的資源管理などの課題を持つ日本の多国籍企業はいかに行動すべきでしょうか。こうした問題を考えるための基礎的な概念を学んでいきます。

【到達目標】

この授業では国際経営論の入門を解説します。国際経営論は「国際」的に行われる「経営」を「論」ずる、という意味ですから、経営学の学習を行うとともに、国境を越えた企業経営の基礎を学びます。つまり、経営とは何か、とともに、国家とは何か、を論ずる必要もあります。そうした講義によって、学生諸君が、将来、国際的なビジネスで活躍するときに必要となる基礎知識を学習します。

多国籍企業が現代社会に対してどのような影響を与えているのかを知り、また、多国籍企業に関する理論を学習して、その動向への見通しを立てること、および、理論的な考え方の面白さを知ることを目標とします。国家による経済政策を理解することで、さらに長期的な視点を獲得します。国際経営に関する日本語および英語の新聞記事を読み、国際ビジネスの理論と見識を現実に応用できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

< 2023 年 4 月から始まる春学期第 1 回目の授業は、他の授業と同様に Zoom を利用して遠隔（リモート）で行います。第 2 回目以降は対面での授業を予定しています。Zoom の接続 URL は「学習支援システム」（Hoppii）の「お知らせ」に掲示しますので確認して下さい。>

授業ではグループを分け、教科書や配布資料の音読を軸としたグループワークを行うので教科書の予習をして参加して下さい。ノート・テイキングを確実にしながら授業を進めます。ビジネスの世界では、営業先での会話や交渉のやりとり、会社内で受ける上司からの指示や会議内容の議事メモ作成などは、自らノートにとって整理する必要があります。英文資料を読み、ビジネス用語を学ぶとともに英語力の確認をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際経営論の概要説明	講義目的と概要、経営学の理論と実務との関連。教科書第 1 章、国際経営とは。国際経営と資本主義、グローバルゼーション。
第 2 回	企業の組織	教科書第 1 章、第 2 章、多国籍企業の参入形態。組織論の基礎。科学的管理法とリーダーシップ。組織としての国家。資本主義の発展と進化。
第 3 回	企業の戦略	教科書第 2 章、多国籍企業の組織と戦略。チャンドラー、ペンローズ、ポーター。参考書第 3 章、組織構造の構築。職能別、事業部制、マトリックス組織。
第 4 回	競争戦略論と資源戦略論	教科書第 3 章、多国籍企業の経営学説。戦略と資源をめぐる論争。ハイマー、キンドルバーガー、マグリイス、ティース。
第 5 回	戦略と組織の認知	教科書第 3 章、多国籍企業の経営学説。戦略と資源をめぐる論争。コース、ウィリアムソン、ダニング、ラグマン、バックリー、カッソン。
第 6 回	戦略策定と会計情報	参考書第 7 章、財務と情報。投資決定の基準。利子率、割引率、インカムゲイン、キャピタルゲイン、損益計算書と貸借対照表。NPV、IRR とその投資への利用。

第 7 回	企業成長と組織	教科書第 4 章、多国籍企業とリスク。リスクと不確実性。確率分布。正規分布と一様分布。
第 8 回	国際経営と日本の経営	教科書第 4 章、多国籍企業とリスク。テロリズム、フォーカルポイント、ゲーム理論、囚人のジレンマ、両性の闘い、ナッシュ均衡、イテレイテッド・ストリクト・ドミナンス。
第 9 回	多国籍企業と文化	教科書第 5 章、多国籍企業と文化。ホフステッドの研究。不確実性の回避、権力格差、個人主義・集団主義、男性性と女性性。
第 10 回	多国籍企業の知識管理とイナクトメント	教科書第 6 章、多国籍企業の知識と技術。知識創造の理論。暗黙知、形式知、集合知。科学哲学。
第 11 回	創造性のマネジメント	教科書第 6 章、多国籍企業の知識と技術。芸術と契約。コアとコピー。プロデューサーとディレクター。クリエイティブ・インダストリーの国際化、創造性のマネジメント。
第 12 回	国際経営とイノベーション	教科書第 7 章、技術移転のサブシステム。参考書第 6 章、経営戦略とイノベーション。研究開発競争と多国籍企業。産業集積、クラスター、ローカル・ミリュー。
第 13 回	国際経営研究の最前線	教科書第 1 章から第 7 章までの復習。参考書、第 3 章、第 6 章、第 7 章の復習。多国籍企業の管理。
第 14 回	企業倫理と CSR。授業内試験ないしレポート試験。	地域貢献と働き方。戦略的 CSR。法人税の動向。授業内試験ないしレポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に参加する前にテキスト（教科書）、原田順子・洞口治夫編著『改訂新版 国際経営』2019 年、放送大学教育振興会、を読み、わからない用語の意味を調べる必要があります。また、参考書、洞口治夫・行本勢基著『入門 経営学（第 2 版）』2012 年、同友館、の該当章を読み、わからない用語の意味を調べる必要があります。期末試験問題は、この教科書と参考書から出題されます。日本語、英語で新聞記事が配布された回には、内容を理解する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) 原田順子・洞口治夫編著 (2019) 『改訂新版 国際経営』(放送大学教材) 放送大学教育振興会。<まったく同名の旧著、原田順子・洞口治夫編著 (2013) 『新訂 国際経営』(放送大学教材) 放送大学教育振興会が、まだ販売されていますので、間違えないようにして下さい。古い版とは内容が異なります。授業では、理解を確認するために授業内で音読をします。>
(2) そのほか適宜、講義資料を配布します。配布資料には英語も含まれます。

【参考書】

(1) 洞口治夫・行本勢基 (2012) 『入門 経営学（第 2 版）』同友館。<期末試験問題は教科書 (1) および参考書 (1) から出題されます。試験で高得点を目指す学生諸君には購入を薦めます。>
(2) 洞口治夫 (2018) 『MBA のナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文眞堂。<大学院進学して MBA 取得を考える大学生のためのスタディ・ガイドです。この参考書からは期末試験問題は出題しません。>
(3) Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2015) International Business: Environments and Operations, Pearson, 15th edition.(Global Edition). <海外留学を目指す大学生のための参考書です。本書は授業内容に関連しています。分厚い本なので図書館などで参照すると良いでしょう。>

【成績評価の方法と基準】

成績評価は下記の項目を総合的に判断して行います。

(1) 授業参加（授業支援システム応答ないし課題レポート）(35%)

(2) 期末試験（授業内筆記試験）(65%)

良い成績を取るためには毎回の授業に出席することが望ましいでしょう。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは「大学らしい授業で学んだ気がした」、「大学の学問と、ビジネス実務とのつながりが理解できた」、「授業内容が就職活動に役立つ」といった感謝の言葉が並びました。学生おとして議論するグループワークについても「満足している」という意見が寄せられました。意外なことに「雑談が面白い」という意見も多く、この授業からの「気づき」といえます。

【学生が準備すべき機器他】

授業内のテストに回答するためのスマホ、あるいは、Wi-Fi の利用できるパソコン。ノートテイキングのためのノートと筆記用具。グーグル検索のためのスマホ。英和辞書機能つき電子辞書なしスマホ。授業支援システムが閲覧でき、課題のワードファイルなどをダウンロードかつアップロードできるパソコンなしスマホ。

【その他の重要事項】

新型コロナ対策に関する法政大学からの指針にもとづき第 1 回目の授業はリモートで行う予定です。授業開講方式については、大学からの指示に注意してください。

毎年、やる気のある学生諸君が授業に参加しています。授業開始 5 分前には教室に来て授業の準備をして「もうすぐ社会人」となることを意識して礼節を欠かさぬよう心掛けてほしいと思います。洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

International management theory is a general term to study how to lead to solutions to various problems associated with the internationalization of corporate management. Students learn about the challenges of corporate management by studying a wealth of case studies, including Toyota, All Nippon Airways (ANA), Tokyo Disneyland, Yoshinoya, and McDonald's. The purpose of international management theory is to learn about the realities of corporate management that are promoting globalization and to show how to avoid management failures from a social science perspective. What kind of companies are developing products overseas or conducting international marketing? How should Japanese multinational corporations, which face challenges such as currency depreciation competition among nations and cross-border human resource management, act? We will learn the basic concepts for thinking about these issues.

【Learning Objectives】

This class will provide an introduction to international management theory. We will study business administration and the basics of cross-border corporate management. In other words, it is necessary to discuss not only what management is, but also what a nation is. Through such lectures, students will learn the basic knowledge they will need to be active in international business in the future.

The goal of this course is for students to learn how multinational corporations are affecting modern society, to learn theories about multinational corporations, to gain a perspective on these trends, and to learn the fun of theoretical thinking. By understanding the economic policies of nations, students will gain a more long-term perspective. The goal is to be able to apply theories and insights of international business to reality by reading newspaper articles on international management in Japanese and English.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before participating in the class, you need to read the textbook "Introduction to Business Administration (2nd Edition)" and look up any terms you do not understand. It is necessary to understand the contents of newspaper articles in Japanese and English when they are distributed. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Textbooks:(1) Junko Harada and Haruo Horaguchi eds. (2019), Kokusai Keiei (International Business) (Kaitei shinban, 2nd Edition), Housoudaigaku kyoiku shinkokai, in Japanese.

(2) In addition, lecture materials will be distributed as needed. (2) In addition, lecture materials will be handed out as needed, including English.

References: (1) Haruo Horaguchi and Seiki Yukimoto (2012), Nyumon Keieigaku (Introduction to Business Administration) (2nd Edition), Doyukan, in Japanese.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on a comprehensive evaluation of the following items.

(1) Class participation (learning support system responses to the quiz in classes and/or assignment reports) (35%)

(2) Final exam (Written exam through the learning support system) (65%)

The students should attend every class in order to get higher grades.

MAN200FC

国際経営論Ⅱ

洞口 治夫

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論の目的は、グローバル化を進める企業経営の実態を知り、経営の失敗を避ける方途を社会科学的に示すことにあります。国際経営論とは、企業経営の国際化に伴う諸問題を解決に導くための研究をする学問の総称です。三菱商事、三菱 UFJ 銀行、日産自動車、楽天、ユニクロなど豊富な事例を学びながら企業経営の課題を学びます。どのような企業が製品開発を海外で行ったか、国際的なマーケティングを行っているのかを、さらに、世界各国の政治、経済、文化、歴史が多国籍企業にどのような影響を与えてきたかを学習します。多国籍企業に関する理論を学習し、その動向への見通しを立てることの面白さを知ることを目標とします。国際経営に関する日本語および英語の新聞記事を読み、「ものの見方」として経営理論の内容を検討し、国際ビジネスの理論と見識を現実に応用できるようになることが目標です。国際経営に関する標準的な教科書を読破することで、独自に国際経営の専門書を読めるようになるための学習をします。

【到達目標】

この授業では学生諸君が、将来、国際ビジネスで活躍するときに必要となる基礎知識を学習し、経営理論と関係づけて理解することを目標とします。マーケティングや人事労務管理という専門領域の理解を目標とします。多国籍企業が現代社会にどのような影響を与えているのかを知り、さらに、世界各国の政治、経済、文化、歴史が多国籍企業にどのような影響を与えてきたかを学習します。多国籍企業に関する理論を学習し、その動向への見通しを立てることの面白さを知ることを目標とします。国際経営に関する日本語および英語の新聞記事を読み、「ものの見方」として経営理論の内容を検討し、国際ビジネスの理論と見識を現実に応用できるようになることが目標です。国際経営に関する標準的な教科書を読破することで、独自に国際経営の専門書を読めるようになるための学習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業では輸出・直接投資・ライセンスに代表される多国籍企業の経営活動について説明します。パワーポイントや動画などの補助教材も利用しつつ、ノート・テイキングを確実に行うことを確認しながら授業を進めます。ビジネスでは営業先での会話や交渉、会社内で受ける上司からの指示や会議内容の議事メモ作成など、自らノートにとって整理する必要があります。参加学生によるグループワークや音読も行い、専門用語の理解を確認します。様々な資料からの英文を読み、ビジネス用語を学ぶとともに英語力の確認をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際経営論の概要説明	教科書第 8 章。講義目的と概要、経営理論と実務との関連。歴史・地理・政治と国際経営。M&A、株式投資、コーポレート・ガバナンス。
第 2 回	多国籍企業と M&A	教科書第 8 章。多国籍企業の参入形態。輸出・輸入、海外直接投資、ライセンス。デューデリジェンス、減損。
第 3 回	グローバル競争と企業の進化論	教科書第 9 章。経営資源、取引費用。参考書第 4 章、マルチナショナルとトランスナショナル、進化論の適用。
第 4 回	多国籍企業の事例研究	教科書第 9 章。企業経営の進化。参考書第 5 章、組織論の発展。
第 5 回	韓国・台湾・中国と世界情勢	教科書第 10 章、新興国企業の成長。参考書第 4 章、国際経営。TSMC の重要度。
第 6 回	学習と組織能力	教科書第 10 章、第 11 章、第 6 章。JIT 生産、小集団活動、トヨタ生産システム。経営進化理論の展開。
第 7 回	日本企業の衰退	教科書第 12 章。参考書第 2 章。イノベーションのジレンマと統合型企業のジレンマ。
第 8 回	多国籍企業の組織とコーポレート・ガバナンス	教科書第 12 章、日本企業の現状。組織ルーティンの進化。
第 9 回	外国為替レートの基礎理論	教科書第 13 章、購買力平価、金利平価、オーバーシュート、ランダムウォーク。
第 10 回	外国為替レートと投資	教科書第 13 章、直物、先物、オプション。オーバーシュートと確率分布。

第 11 回 人事部の仕事

教科書第 14 章、日本の人事慣行とワークライフバランス。職務と人事評価。

第 12 回 組織管理の国際潮流

教科書第 15 章、ダイバーシティ・マネジメントと女性活躍推進。

第 13 回 投資と投機

株式投資の成果。配当と利回り。第 8 章から第 15 章の復習。

第 14 回 組織理念

授業内試験（筆記試験またはレポート提出）。21 世紀の経営課題。地球環境問題と SDGs。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業に参加する前に教科書『改定新版 国際経営』の該当箇所を読み、わからない用語を調べることがあります。日本語、英語で新聞記事が配布された回には、内容を理解する必要があります。

【テキスト（教科書）】

(1) 原田順子・洞口治夫編著 (2019)『改定新版 国際経営』（放送大学教材）放送大学教育振興会。＜授業では、理解を確認するために授業内で音読をします。この教科書から試験問題を出題します。まったく同名の旧著、原田順子・洞口治夫編著 (2013)『新訂 国際経営』（放送大学教材）放送大学教育振興会が、まだ販売されていますので、間違えないようにして下さい。『改定新版 国際経営』は、古い版（『新訂 国際経営』）とは内容が異なります。＞
(2) 授業内に、適宜、講義資料を配布します。配布資料には英語も含まれます。

【参考書】

(1) 洞口治夫・行本勢基 (2012)『入門 経営学（第 2 版）』同友館。＜秋学期の参考書ですが、試験問題はこの教科書からも出題されます。＞
(2) 洞口治夫 (2018)『MBA のナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文眞堂。＜大学院進学して MBA 取得を考える大学生のためのスタディ・ガイドです。＞
(3) Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2015) International Business: Environments and Operations, Pearson, 15th edition.(Global Edition). <海外留学を目指す大学生のための参考書です。＞

【成績評価の方法と基準】

成績評価は下記の項目を総合的に判断して行います。

(1) 授業参加（授業支援システム応答ないし課題レポート）(35%)

(2) 期末試験（授業内筆記試験）(65%)

良い成績を取るためには毎回の授業に出席することが望ましいでしょう。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは「大学らしい授業で学んだ気がした」、「大学での学問と、ビジネス実務とのつながりが理解できた」といった言葉が並んでいます。授業内容が就職活動に役立つことは、この授業からの「気づき」といえます。20 年近くにわたって一時間に授業時間が設定されてきましたが「国際経営論を一時限以外の時間に開講して欲しい」という声も、長年、学生諸君から寄せられてきました。学生諸君の声にこたえて木曜日の二時限開講になりました。遅刻しないように授業に参加して下さい。

【学生が準備すべき機器他】

授業内試験および期末試験に回答するためのスマホないしパソコン。ノートテイキングのためのノートと筆記用具。英和辞書、グーグル検索用のスマホ。授業支援システムが閲覧でき、課題のワードファイルなどをダウンロードおよびアップロードできるパソコン。

【その他の重要事項】

洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。この授業で実務と理論とのつながりを理解してもらいたいと願っています。毎年、やる気のある学生諸君が授業に参加しています。授業開始 5 分前には教室に来て授業の準備をして「もうすぐ社会人」となることを意識して常識と礼節を欠かさぬよう心掛けてほしいと思います。春学期と同様にグループワークを行うので「心の準備」をして参加して下さい。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The purpose of learning international management is to understand the reality of corporate management that is promoting globalization and to show how to avoid management failure from a social scientific perspective. International management theory is a general term for the study of problems associated with the internationalization of corporate management and how they can be solved. Students learn about the challenges of corporate management by studying a wealth of case studies, including Mitsubishi Corporation, Mitsubishi UFJ Bank, Nissan Motor, Rakuten, and Uniqlo. What kind of companies are developing products overseas or conducting international marketing? How should Japanese multinational corporations act in the face of challenges such as currency depreciation competition among nations and cross-border human resource management? We will learn the basic concepts for thinking about these issues.

[Learning Objectives]

This course aims to provide students with the basic knowledge needed to be active in international business in the future and to understand it in relation to management theory. This course aims to provide students with an understanding of the specialized areas of marketing and human resource management. Students will learn how multinational corporations have influenced modern society, and how the politics, economics, culture, and history of countries around the world have influenced multinational corporations. The goal of this course is to have fun learning theories about multinational corporations. The goal is to be able to read newspaper articles in Japanese and English on international management, examine the content of management theory as a "way of looking at things," and apply the theory and insights of international business to reality. In this class, the management activities of multinational corporations as represented by exports, direct investment, and licensing will be explained. We will use supplementary materials such as PowerPoint and videos while making sure that students are taking notes. In business, it is necessary to take notes and organize themselves for conversations and negotiations in sales offices, instructions from superiors in the company, and making memos of meetings. Participating students will also do group work and read aloud to confirm their understanding of technical terms. Students will learn business terms and check their English skills by reading English texts from various sources.

[Learning Activities Outside of Classroom]

The standard preparation time for this class is 2 hours. The standard review time for this class is 2 hours. You need 4 hours in total. Before participating in the class, students should read the relevant sections of the textbook "Kokusai Keiei, Kaitei shinban (International Management, Revised Edition)" and look up technical terms you do not understand. It is necessary to understand the contents of newspaper articles in Japanese and English whenever they are distributed.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be based on a comprehensive evaluation of the following items.

- (1) Mid-term exam (assigned report or in-class exam) (30%)
- (2) Responses to quizzes/assignments/homework (submitted through the class support system or reports) (10%)
- (3) Final exam (assigned report or in-class written exam) (60%)

It is recommended that you attend every class in order to get a good grade.

ECN200FC

国際経済論 I

高橋 理香

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 2~4 (経営戦略学科) 3~4 (経営学科・市場経営学科) 年次/2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年、グローバル化が進む中で、国際取引やその取引を支えるルールや世界の枠組みが大きく変わろうとしています。本授業では、理論的な分析ツールや諸資料を活用しながら、日本と諸外国の間では現在どのような国際取引がどのようなルール・枠組みの下で行われており、これらがどう変化してきたのかを考察することで、現実の経済に対する理解を深めます。国際経済論 I では主に貿易の基本構造や労働・資本の国際間移動について、国際経済論 II では主に貿易政策や国際通商システムについて、理論・実証・歴史的な観点から分析し、現代の国際社会において重要とされるトピックスをとりあげて問題点を解明します。

【到達目標】

この授業を通して、以下のスキルを身につけます

1. 現代の複雑な国際経済のメカニズムをシンプルなモデルを用いて理論的に考察できる。
2. データを用いて日本と世界の経済取引や経済政策の在り方を考察できる。
3. 日本と世界の経済取引や経済政策の歴史的経緯と現代の国際経済の諸問題を関連付けて考察できる。
4. これらの学習を通じて、現実におきている国際経済にまつわる出来事に関心を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式の講義を行います。各回の講義ノートを配布した上で、パワーポイントのスライドを使って講義を展開します。理解を深めるために、統計データなどの諸資料も参照しながら解説します。国際経済に関する時事的なトピックスとして、新聞記事 (日本語・英語) を紹介しながら解説します。また、宿題の解説などを行うこともあります。また、学習支援システムの掲示板やオフィスパワーを通じて、受講者とインタラクションを持つ機会を設けます。授業に関する告知や講義ノート・宿題の問題等は、学習支援システムを使って配信しますので、各自が適宜確認してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この授業の概要とルール
第 2 回	日本の貿易の特徴	データで学ぶ日本の貿易
第 3 回	貿易と市場 1	市場メカニズム (需要・供給分析)
第 4 回	貿易と市場 2	市場の資源配分 (余剰分析)
第 5 回	貿易と市場 3	貿易による利益と市場競争
第 6 回	技術の違いと貿易パターン 1	データで学ぶ国際分業と日本の比較優位
第 7 回	技術の違いと貿易パターン 2	比較優位理論
第 8 回	技術の違いと貿易パターン 3	比較優位と貿易
第 9 回	新しい貿易理論と日本の貿易 1	消費の多様性と貿易
第 10 回	新しい貿易理論と日本の貿易 2	生産工程の細分化と貿易
第 11 回	新しい貿易理論と日本の貿易 3	企業の技術力の違いと貿易
第 12 回	生産要素の国際間移動 1	日本の外国人労働
第 13 回	生産要素の国際間移動 2	生産要素の国際移動の理論
第 14 回	まとめ	春学期の内容のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。宿題を出しますので、指定された日時までに必ず解いて提出してください。また、学習支援システムを通じて配信された講義ノートを各自ダウンロード・印刷して授業時に持ってきてください。

【テキスト (教科書)】

テキストは指定しません。毎回配布する授業ノートを基に進めていきます。ただし、下記の参考書のうち、少なくともどれか 1 冊を入手して読むことを勧めます。参考書の特徴や難易度については、春学期・秋学期それぞれ第 1 回の授業で説明しますので、その説明を聞いてからどれを読むかを決めるのが良いと思います。

【参考書】

【テキスト】

石川城太・棕寛・菊地徹『国際経済学をつかむ 第 2 版』有斐閣、2013 年。
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学 15 講』新世社、2022 年。
伊藤万里・田中鮎夢『現実からまなぶ国際経済学』有斐閣、2023 年。
多和田眞・近藤健児『国際経済学の基礎「100 項目」 第 5 版』創成社、2022 年。
友原章典『理論と実証から学ぶ 新しい国際経済学』ミネルヴァ書房、2018 年。
古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022 年。
若杉隆平編『基礎から学ぶ国際経済と地域経済』文真堂、2020 年。

クルーグマン, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2022) *International Economics: Theory and Policy*, 12th edition, Pearson.

【読み物】

清田耕造『日本の比較優位- 国際貿易の変遷と源泉-』慶應義塾大学出版会、2016 年。
田中鮎夢『新々貿易理論とは何か- 企業の異質性と 21 世紀の国際経済』ミネルヴァ書房、2015 年。
棕寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

宿題・レポート：40 %

期末テスト：60 %

宿題・レポート・期末テストの詳細については、学習支援システム上で適宜お知らせします。各自、注意して確認下さい。

【学生の意見等からの気づき】

現実のトピックに関心を持つ学生が多いことから、国際経済学にまつわる新聞記事の紹介と簡単な解説を行います。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業を動画配信しますので、音声・動画を視聴できるデバイスを準備してください。また、授業ノートや資料の配信・課題の提出・連絡事項は学習支援システムを使います。宿題・課題は Microsoft Word, Excel, Powerpoint やそれらに準ずるソフトを用いて作成することが求められます。オフィスパワーは Zoom で行う予定ですので、オフィスパワーの利用希望者はその準備をして下さい。

【その他の重要事項】

① I と II を通年で履修することを強く勧めます。

② ミクロ経済学の知識があったほうが良いでしょう。経済学入門やミクロ経済学入門 I/II を履修していない人は、本授業と同時並行で履修するか自習することを勧めます。

【関連科目】

経済学入門・ミクロ経済学入門・マクロ経済学・日本経済論・国際金融論・経営の経済学・産業組織論

【実務経験のある教員】

該当なし

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this class is to capture international transactions conducted in Japan and other countries, and to understand how these transactions have changed economies in these countries by using theoretical analysis tools and a variety of materials. In International Economics I, students study the basic and fundamental structure of trade and the international mobility of labor and capital, and in International Economics II, students study trade policies and global economic systems, theoretically and historically.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be expected to:

- (1) Understand key trade models.
- (2) Understand key concepts with respect to trade.
- (3) Analyze and evaluate daily life topics and current and past news topics from the viewpoint of trade theory and policy.
- (4) Solve problem sets.
- (5) Read newspaper articles written in English.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to download, print out, and read assigned handouts before class and do homework after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Office hours may occasionally be held during the first period of Thursday. Although these are for master's students, undergraduate students are also welcome to participate.

【Grading Criteria】

Homework and Exercises: 40 %

Final Examination: 60%

ECN200FC

国際経済論Ⅱ

高橋 理香

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、グローバル化が進む中で、国際取引やその取引を支えるルールや世界の枠組みが大きく変わろうとしています。本授業では、理論的な分析ツールや諸資料を活用しながら、日本と諸外国の間では現在どのような国際取引がどのようなルール・枠組みの下で行われており、これらがどう変化してきたのかを考察することで、現実の経済に対する理解を深めます。国際経済論Ⅰでは主に貿易の基本構造や労働・資本の国際間移動について、国際経済論Ⅱでは主に貿易政策や国際通商システムについて、理論・実証・歴史的な観点から分析し、現代の国際社会において重要とされるトピックスをとりあげて問題点を解明します。

【到達目標】

この授業を通して、以下のスキルを身につけます

1. 現代の複雑な国際経済のメカニズムをシンプルなモデルを用いて理論的に考察できる。
2. データを用いて日本と世界の経済取引や経済政策の在り方を考察できる。
3. 日本と世界の経済取引や経済政策の歴史的経緯と現代の国際経済の諸問題を関連付けて考察できる。
4. これらの学習を通じて、現実におきている国際経済にまつわる出来事に関心を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式の講義を行います。各回の講義ノートを配布した上で、パワーポイントのスライドを使って講義を展開します。理解を深めるために、統計データなどの諸資料も参照しながら解説します。国際経済に関する時事的なトピックスとして、新聞記事（日本語・英語）を紹介しながら解説します。また、宿題の解説などを行うこともあります。また、学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを通じて、受講者とインタラクションを持つ機会を設けます。授業に関する告知や講義ノート・宿題の問題等は、学習支援システムを使って配信しますので、各自が適宜確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	データで学ぶ日本の貿易政策
第 2 回	日米貿易摩擦と日本の貿易政策の変遷	歴史的観点から学ぶ日本の貿易政策
第 3 回	関税政策 1	関税政策の理論
第 4 回	関税政策 2	日本と外国の関税政策の実態
第 5 回	非関税障壁 1	輸入数量制限と日本の農業
第 6 回	非関税障壁 2	輸出自主規制と日本の自動車産業
第 7 回	国内不完全競争政策 1	国内不完全競争政策と日本の流通市場
第 8 回	国内不完全競争政策 2	国内不完全競争政策と関税政策の比較
第 9 回	戦略的貿易政策	戦略的相互依存関係と世界の航空産業
第 10 回	ダンピング 1	ダンピングの不当性
第 11 回	ダンピング 2	日米関係におけるアンチダンピング政策
第 12 回	国際経済システム 1	多角間交渉（GATT/WTO）
第 13 回	国際経済システム 2	地域経済統合（RTA, TPP, RCEP）
第 14 回	まとめ	秋学期の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。宿題を出しますので、指定された日時までに必ず解いて提出してください。また、学習支援システムを通じて配信された講義ノートを各自ダウンロード・印刷して授業時に持ってきてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。毎回配布する授業ノートを基に進めていきます。ただし、下記の参考書のうち、少なくともどれか 1 冊を入手して読むことを勧めます。参考書の特徴や難易度については、春学期・秋学期それぞれ第 1 回の授業で説明しますので、その説明を聞いてからどれを読むかを決めるのが良いと思います。

【参考書】

【テキスト】

石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ 第 2 版』有斐閣、2013 年。
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学 15 講』新世紀社、2022 年。
伊藤萬里・田中鮎夢『現実からまなぶ国際経済学』有斐閣、2023 年。
多和田眞・近藤健児『国際経済学の基礎「100 項目」第 5 版』創成社、2022 年。

友原章典『理論と実証から学ぶ 新しい国際経済学』ミネルヴァ書房、2018 年。
古沢泰治『国際経済学入門』新世紀社、2022 年。
若杉隆平編『基礎から学ぶ国際経済と地域経済』文真堂、2020 年。
クルーグマン, P.R., M. オブストフェルド, M. J. メリッツ『クルーグマン国際経済学-理論と政策- [原書第 10 版] 上・貿易編』山形浩生・守岡桜訳、丸善出版、2017 年。

Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2022) *International Economics: Theory and Policy*, 12th edition, Pearson.

【読み物】

阿部顕三『貿易自由化の理念と現実』NTT 出版、2015 年。

飯野文『WTO FTA CPTPP-国際貿易・投資のルールを比較で学ぶ』弘文堂、2019 年。

小林友彦ほか『WTO・FTA 法入門-グローバル経済のルールを学ぶ』法律文芸社、2016 年。

椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

宿題・レポート：40 %

期末テスト：60 %

宿題・レポート・テストの詳細については、学習支援システム上で適宜お知らせします。各自、注意して確認下さい。

【学生の意見等からの気づき】

現実のトピックに関心を持つ学生が多いことから、国際経済学にまつわる新聞記事の紹介と簡単な解説を行います。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業を動画配信しますので、音声・動画を視聴できるデバイスを準備してください。また、授業ノートや資料の配信・課題の提出・連絡事項は学習支援システムを使います。宿題・課題は Microsoft Word, Excel, Powerpoint やそれらに準ずるソフトを用いて作成することが求められます。オフィスアワーは Zoom で行う予定ですので、オフィスアワーの利用希望者はその準備をして下さい。

【その他の重要事項】

① I と II を通年で履修することを強く勧めます。

② ミクロ経済学の知識があったほうが良いでしょう。経済学入門やミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱを履修していない人は、本授業と同時並行で履修するか自習することを勧めます。

【関連科目】

経済学入門・ミクロ経済学入門・マクロ経済学・日本経済論・国際金融論・経営の経済学・産業組織論

【実務経験のある教員】

該当なし

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this class is to understand international transactions conducted in Japan and other countries and to focus how such transactions have changed these economies by using theoretical analysis tools and various materials. In International Economics I, we will learn the basic and fundamental structures of trade and international movement of labor and capital, and in International Economics II, we will learn trade policies and the international economic system theoretically and historically.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be expected to:

- (1) Understand key trade models.
- (2) Understand key concepts with respect to trade.
- (3) Analyze and evaluate daily life topics and current and past news topics from the viewpoint of trade theory and policy.
- (4) Solve problem sets.
- (5) Read newspaper articles written in English.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to download, print out, and read assigned handouts before class and do homework after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Office hours may occasionally be held during the first period of Thursday. Although these are for master's students, undergraduate students are also welcome to participate.

【Grading Criteria】

Homework and Exercises: 40 %

Final Examination: 60%

MAN200FC

戦略的意思決定論 I

福島 英史

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、経営戦略的意思決定について考えるための概念、論理、視角を学習することにあります。経営現象は、組織内及び組織外での様々な意思決定の連鎖と合成から理解することができます。この授業では、日々の業務に直接関わる業務的意思決定や、開発・生産・販売といった機能分野ごとの管理的意思決定ではなく、特に戦略性をもった思考が必要とされる企業のあり方・事業のあり方に関わる問題をテーマとして考えます。現実の事例についても織り交ぜながら学んでいきます。

【到達目標】

経営事象を織りなす様々な戦略的意思決定とその合成過程について、論理的に理解し、説明できるようになることが到達目標です。戦略的意思決定の背後にどのような経営上の基本的な考え方があるのか。また、自社のみならず、他社の意思決定を考えた場合に、結果としてどのような状況が産業に生じるのか。現実の会社がなぜ M&A 等で規模を拡大しようとするのか。産業で市場地位の交代が起きるのはなぜか。一見直接の関係がなさそうな会社に出資したり支援したりするのはなぜか。こういった問題について基本的な説明経路の理解を進めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本年は基本的に対面形式で開講されることになりました。オンライン開講へ変更になる場合は学習支援システムでお知らせします。事業モデルの選択と競争上の位置取り、環境変化への対応の背後にある戦略上の論理を理解するための枠組みを学びます。ある産業、あるいは企業が収益力において勝るのはなぜか、といった問題にアプローチします。

講義中に、トピックスに関連したエクササイズ（経営学クイズ）を解く課題があります。その際、発言を求められることがあります。教員のコメントや良答を紹介する等します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
第 2 回	事業の組立と市場戦略 1	製品事業の基本的観点
第 3 回	事業の組立と市場戦略 2	市場戦略の枠組み
第 4 回	競争の構造と収益性 1	競争構造の基本的観点
第 5 回	競争の構造と収益性 2	プレイヤー間の代替関係
第 6 回	競争の構造と収益性 3	プレイヤー間の補完関係
第 7 回	産業のライフサイクルと費用構造 1	市場変動と費用構造
第 8 回	産業のライフサイクルと費用構造 2	キャパシティ
第 9 回	事業背景と参入・撤退の決定 1	参入企業の事業背景と競争
第 10 回	事業背景と参入・撤退の決定 2	事業投資の意思決定と収益性
第 11 回	事業システムの視点 1	事業システムの基本枠組み
第 12 回	事業システムの視点 2	システム内外の競争と協調
第 13 回	利益配分とパワー構造の変革 1	パワー分布と利益配分
第 14 回	利益配分とパワー構造の変革 2	構造の変革

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講義について復習するとともに、身近な事例についてその意味を考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。担当教員が作成した教材を学習支援システムに掲載します。

【参考書】

講義中に適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（86%）と各回の課題（14%）の合計（100%）で評価します。期末試験を受けなかった場合、E 評価になりますのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズ課題の時間をしっかりととり、企業等の事例を引き続き充実させていきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに、急なお知らせや関連資料が掲載されることがあります。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】

授業中の私語や、携帯電話の音声は、他の学生に迷惑がかかるので厳禁です。授業中の迷惑行為が目に見える場合、本授業の単位を付与しません。理解の促進のため、戦略的意思決定論Ⅱ（秋学期）と併せて履修することが望ましいです。関連科目は、経営戦略や組織論、技術管理論、日本経営論、マーケティング等です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand theory and cases about strategic decision making of firms, which leads subordinate operational or functional decisions. The goals of this course are to understand the logic, interaction, mechanism, and dynamism of strategic management. Students will be expected to explain firms' move and industrial change using those logic and concepts. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and understand the course content. Grading will be decided based on semester-end examination (86%), and each class assignments (14%).

MAN200FC

戦略的意思決定論Ⅱ

福島 英史

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、経営戦略的意思決定について考えるための概念、論理、視角を学習することにあります。経営現象は、組織内及び組織外での様々な意思決定の連鎖と合成から理解することができます。この授業では、日々の業務に直接関わる業務的意思決定や、開発・生産・販売といった機能分野ごとの管理的意思決定ではなく、特に戦略性をもった思考が必要とされる企業のあり方・事業のあり方に関わる問題をテーマとして考えます。現実の事例についても織り交ぜながら学んでいきます。

【到達目標】

経営事象を織りなす様々な戦略的意思決定とその合成過程について、論理的に理解し、説明できるようになることが到達目標です。戦略的意思決定の背後にどのような経営上の基本的な考え方があるのか。また、自社のみならず、他社の意思決定を考えた場合に、結果としてどのような状況が産業に生じるのか。現実の会社がなぜ M&A 等で規模を拡大しようとするのか。産業で市場地位の交代が起きるのはなぜか。一見直接の関係がなさそうな会社に出資したり支援したりするのはなぜか。こういった問題について基本的な説明経路の理解を進めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本年は基本的に対面形式で開講されることになりました。オンライン開講へ変更になる場合は学習支援システムでお知らせします。事業モデルの選択と競争上の位置取り、環境変化への対応の背後にある戦略上の論理を理解するための枠組みを学びます。ある産業、あるいは企業が収益力において勝るのはなぜか、といった問題にアプローチします。

講義中に、トピックスに関連したエクササイズ（経営学クイズ）を解く課題があります。その際、発言を求められることがあります。教員のコメントや良答を紹介する等します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
第 2 回	企業の成果尺度	企業戦略の成果を見る基本指標
第 3 回	ゲーム理論的発想 1	基本枠組みの理解
第 4 回	ゲーム理論的発想 2	競争戦略の新たな視点
第 5 回	基本戦略と大規模化 1	規模を追う戦略の論理
第 6 回	基本戦略と大規模化 2	規模を追わない戦略の論理
第 7 回	技術革新と基本戦略 1	技術革新のライフサイクル
第 8 回	技術革新と基本戦略 2	複数戦略の同時追求とコモディティ化の論理
第 9 回	技術革新と基本戦略 3	技術・市場の発展と日米の戦略観
第 10 回	技術革新と市場地位	市場地位の交代が生じる論理
第 11 回	経営資源アプローチ 1	狭義のリソース・ベースド・ビュー
第 12 回	経営資源アプローチ 2	学習を重視する戦略観と日本企業の現状
第 13 回	全社的な意思決定 1	企業の垂直的範囲と合理化の意思決定
第 14 回	全社的な意思決定 2	事業の多様化と集約化の意思決定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講義について復習するとともに、身近な事例についてその意味を考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。担当教員が作成した教材を学習支援システムに掲載します。

【参考書】

講義中に適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（86%）と各回の課題（14%）の合計（100%）で評価します。期末試験を受けなかった場合、E 評価になりますのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズ課題の時間をしっかりと、企業等の事例を引き続き充実させていきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに、急なお知らせや関連資料が掲載されることがあります。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】

授業中の私語や、携帯電話の音声は、他の学生に迷惑がかかるので厳禁です。授業中の迷惑行為が目にする場合、本授業の単位を付与しません。理解の促進のため、戦略的意思決定論Ⅱ（秋学期）と併せて履修することが望ましいです。関連科目は、経営戦略や組織論、技術管理論、日本経営論、マーケティング等です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand theory and cases about strategic decision making of firms, which leads subordinate operational or functional decisions. The goals of this course are to understand the logic, interaction, mechanism, and dynamism of strategic management. Students will be expected to explain firms' move and industrial change using those logic and concepts. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and understand the course content. Grading will be decided based on semester-end examination (86%), and each class assignments (14%).

ECN200FC

日本経済論 I

平田 英明

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 2～4 (経営戦略学科) 3～4 (経営学科・市場経営学科) 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には (日本経済について) かなり悲観的だ。」「もし私がいま 10 歳の日本人ならば……この国を去ることを選ぶ」「いま 10 歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言をしています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界 10 大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「(良い意味で) ヤバイ」のでしょうか、それとも「(悪い意味で) ヤバイ」のでしょうか。

海外との取引の拡大している中で日本の経済は影響をどのように受け、どのような影響を与えるのでしょうか。Covid-19 の経済への影響は？ ウクライナ戦争を受けた分断の下の諸政策の影響は？ そして、これらの影響をどう分析すればいいのでしょうか。

皆さんは経営学部所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには「the answer(s)」があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中核の人々が、経営的な視点から経済の何をみる (べきな) のか、どう見る (べきな) のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかると思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目先の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

今年度はオンデマンドと対面の組み合わせで授業を行います。正式な日程は学期始めに示します。オンデマンドは、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。対面はアクティブラーニングを中心に行います。

授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

例年、授業内で数回講演してもらっています (過去の登壇者の例：国会議員、政府・日銀の要人、実務家、学者など)。皆さんの意見も踏まえ、今年度は財務省の役人と医療スタートアップを手がける医師にご講演頂く予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業説明 財政問題 1	授業計画の紹介と 7 章について講義します。
第 2 回	財政問題 2	7 章の続きを講義します。
第 3 回	講演 1 (財務省)	財政に関する問題について、財務省の役人にお話し頂きます。
第 4 回	財政問題 GS	財政問題に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第 5 回	マクロ的視点からの経済の捉え方 1	1 - 3 章について講義します。
第 6 回	マクロ的視点からの経済の捉え方 2	1 - 3 章の続きを講義します。
第 7 回	マクロ的視点からの経済の捉え方 GS	マクロ的視点からの経済の捉え方に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第 8 回	日本の企業とその特徴 1	4 章について講義します。
第 9 回	日本の企業とその特徴 2	4 章の続きを講義します。

第 10 回	日本の企業とその特徴 GS	日本の企業とその特徴に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第 11 回	講演 2 (医者)	医療スタートアップの実例について、ご講演頂きます。
第 12 回	グローバル化と景気の国際連動	グローバル化と景気の国際連動の基本理論を理解します
第 13 回	グローバル化と景気の国際連動 GS	グローバル化と景気の国際連動に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第 14 回	春学期の復習	春学期の学習内容を振り返ります

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定です。予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

浅子・飯塚・篠塚『入門・日本経済』(有斐閣、2020) を必ず購入してください。旧版ではなく最新版の第 6 版を購入してください。

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介 (授業支援システムに掲載)。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験 (と GS) によって評価を行います。なお、+a として授業内での発言や等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。詳細は以下の 1 の通りです。

1. 単位の評価は 2 つの方法で行います (期末試験時に学生が選択)。詳細は授業にて説明します。【1】期末試験 70% + GS 30% + a の 2 要素で成績評価を行います。【2】期末試験 100% + a の 2 要素で成績評価を行います。【3】問題数を絞った期末試験のみで成績評価を行います。【1】と【2】については、S～D の評価になるのに対し、【3】は C～D の評価になります。
2. 例年、サボっていた学生から救済措置等を求める連絡が来ますが、本科目だけの特別な措置はしません。
3. 単位取得率は例年 95% 程度 (昨年度は 97%) であり、落第者の大半は殆ど授業に出席しておらず、とてつもなく低い点数をとる学生です。なお、持ち込み可であるからといって、スライドの記述をすればそのまま点数を取れるような問題ではないので、授業から学び、復習等をすることがきちんと成績を取るために必要です。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価の方式を複数用意し、多くの学生のニーズに応えられるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでのスタンダードな授業環境を用意してくれば大丈夫です。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験も有します。また、国際通貨基金や世界銀行におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【関連科目】

I、II を連続履修することを薦めます。マクロ経済学 I/II、ミクロ経済学入門 I/II 等が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples. I try to help you understand why they can be so very powerful. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

- (a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).
- (b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN200FC

日本経済論Ⅱ

平田 英明

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。」「もし私がいま 10 歳の日本人ならば……この国を去ることを選ぶ」「いま 10 歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言をしています。その一方で、毎年注目に値するユーラシア・グループによる「世界 10 大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「（良い意味で）ヤバイ」のでしょうか、それとも「（悪い意味で）ヤバイ」のでしょうか。

海外との取引の拡大している中で日本の経済は影響をどのように受け、どのような影響を与えるのでしょうか。Covid-19 の経済への影響は？ ウクライナ戦争を受けた分断の下の諸政策の影響は？ そして、これらの影響をどう分析すればいいのでしょうか。

皆さんは経営学部にも所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには「the answer(s)」があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中核の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかってきます。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

今年度はオンデマンドと対面の組み合わせで授業を行います。正式な日程は学期始めに示します。オンデマンドは、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。対面はアクティブラーニングを中心にを行います。

授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

例年、授業内で数回講演してもらっています（過去の登壇者の例：国会議員、政府・日銀の要人、実務家、学者など）。皆さんの意見も踏まえ、今年度は財務省の役人と医療スタートアップを手がける医師にご講演頂く予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業説明 労働問題 1	授業計画の紹介と 5 章について講義します。
第 2 回	労働問題 2	5 章の続きを講義します。
第 3 回	講演 1（未定）	労働に関する問題について、専門家にお話し頂きます。
第 4 回	労働問題 GS	労働問題に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第 5 回	社会保障問題 1	6 章について講義します。
第 6 回	社会保障問題 2	6 章の続きを講義します。
第 7 回	社会保障問題 GS	社会保障の問題に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第 8 回	金融の基本 1	8 章について講義します。
第 9 回	金融の基本 2	8 章の続きを講義します。
第 10 回	金融の基本 GS	金融の基本に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第 11 回	講演 2（未定）	金融の実務家にご講演頂きます。
第 12 回	国際間の貿易 1	9 章について講義します。

第 13 回 国際間の貿易 GS

国際貿易の問題に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。秋学期の学習内容を振り返ります

第 14 回 秋学期の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定です。予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅子・飯塚・篠塚【入門・日本経済】（有斐閣、2020）を必ず購入してください。旧版ではなく最新版の第 6 版を購入してください。

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験（と GS）によって評価を行います。なお、 $+a$ として授業内での発言や等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。詳細は以下の 1 の通りです。

1. 単位の評価は 2 つの方法で行います（期末試験時に学生が選択）。詳細は授業にて説明します。【1】期末試験 70% + GS 30% + a の 2 要素で成績評価を行います。【2】期末試験 100% + a の 2 要素で成績評価を行います。【3】問題数を絞った期末試験のみで成績評価を行います。【1】と【2】については、S～D の評価になるのに対し、【3】は C～D の評価になります。
2. 例年、サボっていた学生から救済措置等を求める連絡が来ますが、本科目だけの特別な措置はしません。
3. 単位取得率は例年 95% 程度（昨年度は 97%）であり、落第者の大半は殆ど授業に出席しておらず、とてつもなく低い点数をとる学生です。なお、持ち込み可であるからといって、スライドの記述をすればそのまま点数を取れるような問題ではないので、授業から学び、復習等をすることがきちんと成績を取るために必要です。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価の方式を複数用意し、多くの学生のニーズに応えられるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでのスタンダードな授業環境を用意してくれば大丈夫です。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金や世界銀行におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけています。

【関連科目】

I、II を連続履修することを薦めます。マクロ経済学 I/II、ミクロ経済学入門 I/II 等が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples. I try to help you understand why they can be so very powerful. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN200FC

産業史 I

韓 載香

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 2～4 (経営戦略学科) 3～4 (経営学科・市場経営学科) 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、第 2 次世界大戦までを対象とし、欧米と日本を含むアジアの諸国における代表的産業を時代別に取り上げながら、産業のあり方の変化に光を充て、産業を成り立たせる基盤 (市場、システムなど) や成長要因 (技術、政策、マネジメント、労働等) について説明します。特定の国において、特定の時期に、ある産業が形成、成長し、時には衰退するあり様に注目し、その背景となる経済発展及び競争条件や企業者活動によるダイナミックな変化を織り込みながら、企業活動の舞台となる産業を歴史立体的に理解することを目的とします。

【到達目標】

- (1) 産業とは何かについて説明することができる。
- (2) 産業発展の背景となったマクロ的な経済の特徴について述べることができる。
- (3) 産業が成長する条件や基盤について、特定分野を取り上げて説明することができる。
- (4) 特定産業の形成、成長、成熟までを、外部環境の条件を考慮しながら、企業活動に関連付けて解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP2-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講生は事前に教員が提示する参考資料 (Hoppii) を読んでおいてください。

講義形式によって進めますが、講義中に課題を提出してもらう場合やグループで議論することがあります。期末テストを受けるためには課題の提出が必須ですので、ご留意ください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	産業史 I のためのイントロダクション	「企業と産業と経済発展の歴史」から学ぶこと
第 2 回	I 産業史という方法	産業構造変化の国際比較
		：経済発展の鳥瞰
第 3 回	I 産業史という方法	「日本標準産業分類」から学ぶ
		：産業とは？
第 4 回	I 産業史という方法	産業構造を捉える
		：統計から発見する産業活動
第 5 回	II 欧米	階級とファッション—繊維産業勃興の条件
第 6 回	II 欧米	①産業革命前夜
		②産業革命と綿工業と資本主義
第 7 回	II 欧米	グローバル経済とドイツの鉄工業
		③産業競争のダイナミズム
第 8 回	II 欧米	アメリカの自動車産業
		④大量生産方式の定着とその意義

第 9 回	III 日本	①経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題：産銅業の産業化と環境問題	生産の急増は自然が提供する原料の供給量とのバランスを狂わせたが、自然との調和のなかで営んでいた鉱山周辺の農業にも影響を及ぼし、環境問題を発生させた。その結果としての企業の対応過程を追いかけ、その意味合いについて考える。
第 10 回	III 日本	②経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題：別子暴動事件	産業化と働くということ：急激な需要増加によって生産増加が要求されたとき、産業内、企業はどのように対応し、産業成長の軌道に乗ることができるのでしょうか。労働の管理方法の変化やそれによる働き方の変容が見えてきます。
第 11 回	III 日本	③経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題 ：製糸業 (1)	輸出産業化とジェンダー：繊維産業の発展は多くの国において女子労働に支えられる特徴を持っている。産業の在り方にジェンダーの側面がどのように関連したか、就労の意思決定に影響する要因はなにか、労働過程における労働管理の在り方に与えた結果に注目しながら、産業成長と日本経済の発展についてジェンダーの視点から考える。
第 12 回	III 日本	④経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題 ：製糸業 (2)	輸出産業化とジェンダー：繊維産業の発展は多くの国において女子労働に支えられる特徴を持っている。産業の在り方にジェンダーの側面がどのように関連したか、就労の意思決定に影響する要因はなにか、労働過程における労働管理の在り方に与えた結果に注目しながら、産業成長と日本経済の発展についてジェンダーの視点から考える。
第 13 回	III 日本	⑤経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題 ：都市化と電力業と鉄道業	都市化現象を支えた産業群の台頭と、その中で広がるビジネスチャンス事業として生かし、新しい領域を切り開いた企業に光を当てる。
第 14 回	総まとめ		第 2 次世界大戦までの産業発展の特徴

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定された資料 (文献・論文) を事前に読んでください。毎回出される課題を提出してください。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

指定教科書なし。
参考資料あり (Hoppii)

【参考書】

川北稔『洒落たちのイギリス史』平凡社、1993年、S.D. チャップマン(佐村明知訳)『産業革命のなかの綿工業』見洋書房、1990年、角山栄編『講座西洋経済史Ⅱ産業革命の時代』同文館 1979年、井上昭一『GMの研究：アメリカ自動車経営史』ミネルヴァ書房、1982年、ジョン・B.レイ(岩崎玄他訳)『アメリカの自動車：その歴史的展望』小川出版、1969年、湯沢威他編『国際競争力の経営史』有斐閣、2009年、武田晴人『日本経済史の事件簿』日本経済評論社、2008年、ジャネット・ハンター『日本の工業化と女性労働』阿部武司他訳、有斐閣、2008年、中林真幸『近代資本主義の組織』東京大学出版会、2003年、橘川武郎『日本電力発展のダイナミズム』名古屋大学出版会、2004年、宮本又郎他編『1からの経営史』碩学舎、2014年、加藤健太・大石直樹『ケースに学ぶ日本企業』有斐閣、2013年、武田晴人『日本産業発展のダイナミズム』東京大学出版会、1995年、ジェームズ・P・ウォーマック他『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える。最強の日本車メーカーを欧米が追い越す日』経済界、1990年、和田一夫『ものづくりの寓話』名古屋大学出版会、2009年

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 100 %評価です。

ただし、テストを受けるためには講義中に課された課題提出が必要です。初回の授業にて詳しく説明します。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 時事的な問題に関して歴史的観点からどのような理解が可能かを取り上げて解説します。
- (2) 学生から受けた質問を受講者全員に共有していただけるように解説します。
- (3) 担当教員の講義以外の学習方法を積極的に導入します。
 - ・ 産業関連の研究者のゲスト講師を招き、深い知識習得の機会を与えます。
 - ・ 関連映画や動画なども使用し、多方面の知的刺激を受けるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

【オフィスアワー】

- ・ 金曜日 12 : 00～
- ・ 事前に教員のメール宛に連絡をください。メールアドレスは Hoppii の産業史 I に提示します。

【関連科目】

None

【Outline (in English)】

【Course Outline】 The purpose of this course is to understand the industry's history as the stage of business activities until the end of World War 2. In this course, while focusing on representative industries in Asian countries including Europe, the United States and Japan by era, I will examine the foundations (market, systems, etc.) that made up the industry and growth factors (technology, policies, management, labor policies etc.), shedding light on the changes in the state of industry. I will pay attention to how an industry forms, grows, and sometimes declines in a specific country and incorporates three dimensions in the underlying economic development, competitive conditions, and dynamic changes due to corporate activities.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do following:

To explain what industry is.

To explain how an industry develops and conditions and foundations for the growth dividing the time periods based on the example of that industry.

To explain the formation, growth, and maturity of a specific industry in relation to corporate activities, considering the conditions of the external environment.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend one or two hours to read the material provided by me. Students are expected to submit assignments when I give them in class.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to final examination (100 %). Please note that students should submit assignments for taking examination that I will explain in the first week class.

ECN200FC

産業史Ⅱ

韓 載香

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、第二次世界大戦後を対象とし、欧米と日本を含むアジアの諸国における代表的産業を時代別に取り上げながら、産業のあり方の変化に光を充て、産業を成り立たせる基盤（市場、システムなど）や成長要因（技術、政策、マネジメント、労働等）について説明します。特定の国において、特定の時期に、ある産業が形成、成長し、時には衰退するあり様に注目し、その背景となる経済発展及び競争条件や企業者活動によるダイナミックな変化を織り込みながら、企業活動の舞台となる産業を歴史立体的に理解することを目的とします。

【到達目標】

- (1) 産業とは何かについて説明することができる。
- (2) 産業発展の背景となったマクロ的な経済の特徴について述べることができる。
- (3) 産業が成長する条件や基盤について、特定分野を取り上げて説明することができる。
- (4) 特定産業の形成、成長、成熟までを、外部環境の条件を考慮しながら、企業活動に関連付けて解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP2-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講生は事前に教員が提示する参考資料（Hoppii）を読んでおいてください。講義形式によって進めますが、講義中に課題を提出してもらった場合やグループで議論することがあります。期末テストを受けるためには課題の提出が必須ですので、ご留意ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	産業史Ⅱのためのイントロダクション	第 2 次世界大戦後の世界経済
第 2 回	IV 日本 (2) 高成長を支える産業：戦後の鉄鋼業における合理化	高度成長期の準備：短期間で国際競争力を獲得した日本の鉄鋼業の合理化投資について、政策、市場基盤、調整された積極的な投資に注目して説明します。鉄鋼業の近代化は次回にみる自動車産業の発展するための基盤になります。
第 3 回	IV 日本 (2) 機械産業の発展とトヨタ生産方式①	機械産業は中小企業を含む広い範囲の諸産業との関連性があり、且つ大量の雇用を生み出すため、高度成長をけん引する分野として意義深いです。日本と他国の自動車産業を比較します。
第 4 回	IV 日本 (2) 機械産業の発展とトヨタ生産方式②	トヨタ生産方式の長い道のりと今日の意義についてみていきます。
第 5 回	IV 日本 (2) 機械工業と部品工業①	中小企業群は技術的制約から成長に対しては懐疑的見方で見られていました。中小企業の成長可能性について、成長していく自動車における組立メーカーと部品企業の深い取引関係から考えます。
第 6 回	IV 日本 (2) 機械工業と部品工業②	電気機械の成長における部品企業の役割について説明します。
第 7 回	IV 日本 (2) マイノリティビジネスの発展と経済環境	民族マイノリティが関わる分野について、ドキュメンタリー映画「在日」から、彼らのおかれた環境に注目して考えます。
第 8 回	IV 日本 (2) サービス産業化①——パチンコ産業の成長	自明ではない産業が存続していく過程、その結果巨大市場を築いていったことを歴史的に検証します。日本の経済発展に関連づけながら、規制の枠組みのなかで作られていく独創的な仕組みと、新しい可能性を発見していく個別企業の取り組みを紹介します。

第 9 回 IV 日本 (2)
サービス産業化②——映画鑑賞「焼肉ドラゴン」から焼肉レストランの発祥について考える

日本に定着した焼肉食文化はどのようにして始まったのでしょうか。マイノリティ集住地域に注目して、この点について考えます。

第 10 回 IV 日本 (2)
サービス産業化②——多様なニーズをビジネスに、焼肉の普及

娯楽業のなかでも大きな市場規模をもつのが外食産業ですが、独特な文化背景もつた焼肉レストランの定着に注目します。

第 11 回 V アジア
東アジアにおける半導体産業の発展①

日本、台湾、韓国における半導体産業の発展にはグローバル経済による興味深い連鎖的作用が影響し、また今日のようなあり方が予定されていたわけでも、国際競争力が約束されていたわけでもありませんでした。国別の特徴を持ちながら同地域で発展していく成長過程をたどります。台湾の半導体産業を取り上げます。

第 12 回 V アジア
東アジアにおける半導体産業の発展②

現在半導体業界で世界で最も競争力を持っているのが台湾です。どのようにして台湾の半導体は発展したのでしょうか。第一人者にその歴史について話をさせていただきます。

第 13 回 V アジア
K-POP の成長史

従来の産業発展の発端は、製品にしても、生産方法にしても多くの場合、欧米の諸国を発祥地とし、発展途上国はそれを受容する過程でした。K-POP はアジアで生まれ、世界に広がりはじめた事例としてユニークな文化産業です。ただし、このような拡散は最初の段階に戻れば、決して約束されたものではありませんでした。約 30 年にわたる K-POP ビジネスの誕生から進化を追いかけます。産業史から学んだこと

第 14 回 総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された資料（文献・論文）を事前に読んでください。毎回出される課題を提出してください。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定教科書なし。
参考資料あり（Hoppii）

【参考書】

武田晴人『日本産業発展のダイナミズム』東京大学出版会、1995 年、ジェームズ・P・ウォーマック他『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える。最強の日本車メーカーを欧米が追い越す日』経済界、1990 年、和田一夫『ものづくりの寓話』名古屋大学出版会、2009 年、中島裕喜『日本の電子部品産業 国際競争優位を生み出したもの』名古屋大学出版会、2019 年、浅沼万里『日本の企業組織 核心的適応のメカニズム 長期取引関係の構造と機能』東洋経済新報社、1997 年、川上桃子『圧縮された産業発展—台湾ノートパソコン企業の成長メカニズム』名古屋大学出版会、2012 年、韓載香『在日企業の産業経済史』名古屋大学出版会、2010 年、韓載香『パチンコ産業史』名古屋大学出版会、2018 年、金成政『K-POP 新感覚のメディア』岩波書店、2018 年

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 100 % 評価です。
ただし、テストを受けるためには講義中に課された課題提出が必要です。初回の授業にて詳しく説明します。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 時事的な問題に関して歴史的観点からどのような理解が可能かをとり上げて解説します。
- (2) 学生から受けた質問を受講者全員に共有していただけるように解説します。
- (3) 担当教員の講義以外の学習方法を積極的に導入します。
 - ・産業関連の研究者のゲスト講師を招き、深い知識習得の機会を与えます。
 - ・関連映画や動画なども使用し、多方面の知的刺激を受けるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

【オフィスアワー】

・金曜日 12：00～

・事前に教員のメール宛に連絡をください。メールアドレスは Hoppii の産業史Ⅱに提示します。

【関連科目】

None

【Outline (in English)】

【Course Outline】 The purpose of this course is to understand the industry's history as the stage of business activities after the end of World War 2. In this course, while focusing on representative industries in Asian countries including Europe, the Unites States and Japan by era, I will examine the foundations (market, systems, etc.) that made up the industry and growth factors (technology, policies, management, labor policies etc.), shedding light on the changes in the state of industry. I will pay attention to how an industry forms, grows, and sometimes declines in a specific country and incorporates three dimensions in the underlying economic development, competitive conditions, and dynamic changes due to corporate activities.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do following:

To explain what industry is.

To explain how an industry develops and conditions and foundations for the growth dividing the time periods based on the example of that industry.

To explain the formation, growth, and maturity of a specific industry in relation to corporate activities, considering the conditions of the external environment.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend one or two hours to read the material provided by me. Students are expected to submit assignments when I give them in class.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to final examination (100 %). Please note that students should submit assignments for taking examination that I will explain in the first week class.

MAN200FC

中小企業論 I

稲垣 京輔

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 2~4 (経営戦略学科) 3~4 (経営学科・市場経営学科) 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、創業初期段階にある企業の事業創造プロセス、あるいは成熟化を乗り越えようとする企業のマネジメントと組織行動について学びます。経営組織論と戦略論を理論的なベースとしながら、変革の主体としての中小企業、あるいはベンチャー企業の活動を事例を通じて理解を深めます。

【到達目標】

中小企業論 I では、中小企業間の連携やネットワークといった企業間の関係のマネジメントを主にみていきます。グローバル化、技術や市場ニーズの急激な変化に対応する過程で、新たなビジネスモデルを構築し、経済の活性化に貢献する中小企業にフォーカスします。中小企業の中で、そうした突出した能力を持つ企業がなぜ現れるのか、彼らのマネジメントスキルについて知ることが課題です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

講義は、Youtube で録画したものをオンデマンドで配信されます。各回の PDF 版資料は、講義前日までにホームページ上にアップしますので、事前に各自でダウンロードした上で、視聴してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	イントロダクション 講義の進め方 中小企業とは何か ネットワーク組織論
第 2 回	ネットワークと組織 (1)	市場・組織・ネットワーク
第 3 回	ネットワークと組織 (2)	企業間のネットワーク 企業内ネットワーク
第 4 回	中小企業の戦略的ネットワーク (1)	下請け型ネットワークからの脱却
第 5 回	中小企業の戦略的ネットワーク (2)	中小企業のハブ グローバルニッチトップ企業
第 6 回	相互行為のネットワーク (1)	ネットワークの 2 面性について考える
第 7 回	相互行為のネットワーク (2)	連携と協働
第 8 回	ソーシャルキャピタル	新しい価値創造におけるネットワーク 開発 ネットワーク構築による事業再生
第 9 回	地域とネットワーク (1)	中小企業のネットワーク化
第 10 回	地域とネットワーク (2)	地域ネットワークが育む企業か活動と 協働
第 11 回	中小企業のネットワーク活用	場の形成、コミュニティ、ワーク ショップによる開かれた協働の形
第 12 回	事業創造型のネットワーク構築	オープン型ネットワーク クローズド型ネットワーク
第 13 回	まとめ	これまでのまとめ
第 14 回	期末テスト	論述形式

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内で学んだことを復習し、さらに課題では、講義とは異なる事例を各自で検索すること。本授業の復習時間は、4 時間を標準とします。

Review what you have learned in the class, and search for other cases that are different from the lecture in the assignment. The standard review time for this class is 4 hours.

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

【参考書】

講義資料は、各自でダウンロードすること。
毎回の講義で用いた文献については、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

1 期末の定期試験：70 点満点 (35 点未満は単位無効)

2 小テスト：30% (0 回, 1 回のみ受験は無効)

※小テストは 3 回おこない、講義内で指示する。

Regular exam at the end of the term: out of 70 points (invalid if less than 40 points)

Quizzes: 30% (takes 0 times, only 1 time are invalid)

* The quiz will be given 3 times and will be instructed in the lecture.

【学生の意見等からの気づき】

期末試験だけでなく、より平常点や課題への積極的な取り組みを反映した評価をおこなうようにしました。

【学生が準備すべき機器他】

毎週、Youtube で動画配信しますので、視聴できる環境を準備してください。

【関連科目】

経営社会学 I / II、経営組織論 I / II、組織行動論 I / II、戦略的意思決定論 I / II、経営管理論 I / II、経営戦略論 I / II、日本経営論 I / II

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn about the business creation process of a company in the early stages of its founding, and the managements and organizational behaviors to overcome maturity. Especially, we will deepen our understanding of the activities of small and medium-sized enterprises or venture companies as the main actors of change through some case studies based on the theory of business organization and strategy.

this lecture we mainly have a goal to learn on the management of relationships between SMEs such as collaboration and networks between SMEs. In the process of responding to globalization and rapid changes in technology and market needs, we will focus on SMEs that contribute to the revitalization of the economy by building new business models. The challenge is to learn why some SMEs with such outstanding abilities emerge and their management skills. Lectures will be delivered on demand on Youtube recordings. The PDF version of each session will be posted on the website by the day before the lecture, so please download it yourself before viewing.

Review what you have learned in class, and in the assignment, search for cases that are different from the lecture.

MAN200FC

中小企業論Ⅱ

稲垣 京輔

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、創業初期段階にある企業の事業創造プロセス、あるいは成熟化を乗り越えようとする企業のマネジメントと組織行動について学びます。経営組織論と戦略論を理論的なベースとしながら、変革の主体としての中小企業、あるいはベンチャー企業の活動を事例を通じて理解を深めます。

【到達目標】

本講義の目標は、一つは事業創造と起業について学ぶことです。第二に、中小企業のマネジメントについて学ぶことです。グローバル化、技術や市場ニーズの急激な変化に対応する過程で、新たなビジネスモデルを構築し、経済の活性化に貢献する中小企業が存在します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

講義は、Youtube で録画したものをオンデマンドで配信されます。各回の PDF 版資料は、講義前日までにホームページ上にアップしますので、事前に各自でダウンロードした上で、視聴してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	イントロダクション 講義の進め方 起業の担い手、起業家を育む環境について
第 2 回	日本の事業創造の担い手	事業機会型と非事業機会型組織の事業創造
第 3 回	企業のしくみ (1)	【文献を読む】 小規模企業の組織
第 4 回	企業のしくみ (2)	大企業の組織と中小企業の比較
第 5 回	事業創造プロセス (1)	事業構想とスタートアップ・プロセス
第 6 回	事業創造プロセス (2)	事業発展のプロセス ベンチャー企業の成長と資源
第 7 回	事業創造プロセス (3)	企業家活動と戦略形成
第 8 回	事業戦略と組織マネジメント (1)	内なる戦略と競争優位性
第 9 回	事業戦略と組織マネジメント (2)	外への戦略と競争優位性
第 10 回	中小企業の変革マネジメント	プロジェクトベース組織 事業創造型組織 リーダーシップ
第 11 回	事業創造の支援 (1)	社内ベンチャーと事業創造戦略
第 12 回	事業創造の支援 (2)	大学発ベンチャーと産学官民連携
第 13 回	事業創造の支援 (3)	インキュベーションと 企業家活動の活性化
第 14 回	まとめ	これまでの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で学んだことを復習し、さらに課題では、講義とは異なる事例を各自で検索すること。本授業の復習時間は、4 時間を標準とします。

Review what you have learned in the class, and search for other cases that are different from the lecture in the assignment. The standard review time for this class is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

講義資料は、各自でダウンロードすること。
毎回の講義で用いた文献については、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

1 期末の定期試験：70 点満点（35 点未満は単位無効）

2 小テスト：30%（0 回、1 回のみ受験は無効）

※小テストは 3 回おこない、講義内で指示する。

Regular exam at the end of the term: out of 70 points (invalid if less than 40 points)

Quizzes: 30% (takes 0 times, only 1 time are invalid)

* The quiz will be given 3 times and will be instructed in the lecture.

【学生の意見等からの気づき】

期末試験だけでなく、より平常点や課題への積極的な取り組みを反映した評価をおこなうようにしました。

【学生が準備すべき機器他】

毎週、Youtube で動画配信しますので、視聴できる環境を準備してください。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn about the business creation process of a company in the early stages of its founding, and the managements and organizational behaviors to overcome maturity. Especially, we will deepen our understanding of the activities of small and medium-sized enterprises or venture companies as the main actors of change through some case studies based on the theory of business organization and strategy.

This lecture has the two main goal ; 1) to learn start-up and business creation; 2) to learn about SME management. In the process of responding to globalisation and rapid changes in technology and market needs, there are small and medium-sized enterprises that contribute to the revitalisation of the economy by building new business models.

Lectures will be delivered on demand on Youtube recordings. The PDF version of each session will be posted on the website by the day before the lecture.

As your homework you will be asked to submit an assignment report once every three times, so review what you have learned in class, and in the assignment, search for cases that are different from the lecture.

Regular exam at the end of the term: out of 70 points (invalid if less than 40 points)

Reports: 30% (takes 0 times, only 1 time are invalid)

The reports will be given 3 times and will be instructed in the lecture.

ECN300FC

国際金融論 I

横内 正雄

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国際金融論 I は、外国為替や国際収支などの国際金融に関する基礎的な概念と理論を学ぶ。

【到達目標】

国際金融論 I は、現実の世界における様々な国際金融現象の背後にある基礎的な理論を理解し、その意味を理解することを目標とする。国際金融の歴史と現状を学ぶ国際金融論 II とあわせて現在進行している金融グローバル化現象の本質と意味を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

講義は、対面での講義を基本とする。講義はパワーポイントを利用し、一部補足動画を用いる。受講者は、毎回授業支援システムを利用して簡単な小テストを提出することになる。詳しい進め方は最初の講義で説明する予定である。なお、初回の講義はオンラインで行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	国際金融論の講義計画と学び方について説明する
第 2 回	国際収支	国際収支の概念・項目と国際収支表の作成原理について学ぶ
第 3 回	国際取引と外国為替	国際貿易取引と国際送金の流れと外国為替の本質について学ぶ
第 4 回	外国為替相場	外国為替相場の類型について学ぶ
第 5 回	外国為替市場	外国為替市場の構造と銀行による為替リスク管理について学ぶ
第 6 回	為替相場制度と為替介入	固定相場制および変動相場制のメカニズムと外国為替市場への介入について学ぶ
第 7 回	先物為替と金利平価	金利裁定取引とその結果成立する金利平価について学ぶ
第 8 回	外国為替相場の理論 (1)	外国為替相場に関する国際収支説、為替心理説、購買力平価説を学ぶ
第 9 回	外国為替相場の理論 (2)	アセットアプローチの考え方とそのモデルについて学ぶ
第 10 回	為替リスクの管理	為替リスクの種類とその管理手法としてのデリバティブについて学ぶ
第 11 回	国際通貨	国際通貨の生成と円の国際化について学ぶ
第 12 回	国際収支の理論 (1)	弾力性アプローチの考え方を学ぶ
第 13 回	国際収支の理論 (2)	貯蓄投資バランスアプローチの考え方を学ぶ
第 14 回	国際金融とマクロ経済政策	マンデルフレミングモデルとその政策的インプリケーションを学ぶ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業支援システムには事前に講義資料等がアップロードされるのでそれを読んで講義に臨んでほしい。また、各回に練習問題が設定されているのでそれを解いてみることは講義の復習となる。練習問題の解答は順次授業支援システムにアップロードされる。さらに授業支援システムに毎回小テストが設定されているが、成績評価の対象となるので必ず受験してほしい。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準としている。

【テキスト (教科書)】

横内正雄『国際金融論 I』法政大学通信教育部、2000 年。

※テキストは生協で購入できます。

【参考書】

参考書の一覧は最初の講義で提示するが、毎回の講義でもその講義の参考になる著書を紹介する。以下は、手軽に購入可能でやさしい参考書として推薦できるものである。

西村陽造・佐久間浩司『新・国際金融のしくみ』有斐閣、2020 年

佐々木百合『国際金融論入門』新世社、2017 年

上川孝夫・藤田誠一編『現代国際金融論 [第 4 版]』有斐閣、2012 年

中條誠一『現代の国際金融を学ぶ [新版]』勁草書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した毎回の小テスト (50 %)、学期末試験 (50 %) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

国際金融論の講義は難解だとも言われるが、講義ではできる限り丁寧に説明することを心掛ける。また、講義と助けとなる動画を交えて講義を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

国際金融論 I と国際金融論 II はセメスター科目として独立して履修可能であるが、国際金融論 II は国際金融論 I の知識を前提とする場合があるので通年で履修することが望ましい。

【関連科目】

国際経済論 I/II、金融論 I/II、証券経済論 I/II、日本経済論 I/II、経済学入門

【関連科目】

国際経済論 I/II、金融論 I/II、証券経済論 I/II、日本経済論 I/II、経済学入門

【Outline (in English)】

In the course of International Finance I, students learn basic concepts and theories of international finance such as foreign exchange and balance of payments. The goal of this lecture is to understand the nature of financial globalization that is currently underway.

Students are required to take weekly quizzes outside of class using the learning support system. Evaluation will be based on quizzes using the learning support system (40%) and the final exam (60%).

ECN300FC

国際金融論Ⅱ

横内 正雄

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論Ⅱは、国際金融論Ⅰの理解を前提として国際金本位制に始まる国際金融の歴史と現状を学ぶ。具体的には、国際金本位制、ブレトンウッズ体制、変動相場制などの国際通貨体制の変遷をたどるとともに、通貨危機、通貨統合、グローバルインバランスなどのトピックを取り上げる。

【到達目標】

国際金融論Ⅱは、国際金融の歴史と現状について学び、それを通じて現在進行している金融グローバル化現象の本質と意味を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

講義は、対面での講義を基本とする。講義はパワーポイントを利用し、一部補足動画を用いる。受講者は、毎回学習支援システムを利用して簡単な小テストを提出することになる。詳しい進め方は最初の講義で説明する。なお、初回の講義はオンラインで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 次大戦前の国際金本位制	固定相場制度としての金本位制の仕組みについて学ぶ
第 2 回	両大戦間期の国際通貨システム	再建金本位制の仕組みとそれが失敗に終わった要因について学ぶ
第 3 回	MF の形成	1930 年代の国際通貨上の教訓から IMF が成立したことを説明する
第 4 回	ブレトンウッズ体制 (1)	固定相場制度としてのブレトンウッズ体制の基本的性格について学ぶ
第 5 回	ブレトンウッズ体制 (2)	ブレトンウッズ体制が崩壊した要因について学ぶ
第 6 回	変動為替相場制度	変動為替相場制度の長所・短所と様々な為替相場制度について説明する
第 7 回	石油危機と累積債務問題	オイルマネーの環流を中心に石油危機と累積債務問題の関連を学ぶ
第 8 回	日米経常収支不均衡	レーガノミックスの結果生じたアメリカの「双子の赤字」について学ぶ
第 9 回	国際金融の政策協調	政策協調の理論とブラザフ意以降の政策協調の流れについて学ぶ
第 10 回	欧州通貨統合	最適通貨圏の理論と EU の通貨統合の歴史・現状について学ぶ
第 11 回	通貨危機	1990 年代に発生した 3 つの通貨危機と通貨危機の理論について学ぶ
第 12 回	通貨危機から金融危機へ	東アジア通貨危機からリーマンショックまでの国際金融について学ぶ
第 13 回	ユーロ危機	ギリシャ危機が明らかにしたユーロ圏が抱える問題について学ぶ
第 14 回	円ドル相場の 30 年	過去 30 年間の円ドル相場の動きを振り返りながら国際金融の現状と将来について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムには事前に講義資料等がアップロードされるのでそれを読んで講義に臨んでほしい。また、各回に練習問題が設定されているのでそれを解いてみることは講義の復習となる。練習問題の解答は順次授業支援システムにアップロードされる。さらに授業支援システムには毎回小テストが設定されているが、成績評価の対象となるので必ず受験してほしい。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準としている。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

参考書の一覧は最初の講義で提示するが、毎回の講義でもその講義の参考になる著書を紹介する。以下は、手軽に購入可能でやさしい参考書として推薦できるものである。

横内正雄『国際金融論Ⅰ』法政大学通信教育部、2020 年
 西村陽造・佐久間浩司『新・国際金融のしくみ』有斐閣、2020 年
 佐々木百合『国際金融論入門』新世社、2017 年
 上川孝夫・藤田誠一編『現代国際金融論 [第 4 版]』有斐閣、2012 年
 中條誠一『現代の国際金融を学ぶ [新版]』勁草書房、2016 年
 上川孝夫・矢後和彦編『国際金融史』有斐閣、2007 年
 神田眞人編『図説 国際金融 2015-2016 年版』財経詳報社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した毎回の小テスト (50%)、学期末試験 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

国際金融論の講義は難解だとも言われるが、講義ではできる限り丁寧に説明することを心掛ける。また、講義とともにその助けとなる動画を交えて講義を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

国際金融論Ⅰと国際金融論Ⅱはセメスター科目として独立して履修可能であるが、国際金融論Ⅱは国際金融論Ⅰの知識を前提とする場合があるので通年で履修することが望ましい。

【関連科目】

国際経済論Ⅰ/Ⅱ、金融論Ⅰ/Ⅱ、証券経済論Ⅰ/Ⅱ、日本経済論Ⅰ/Ⅱ、経済学入門

【関連科目】

国際経済論Ⅰ/Ⅱ、金融論Ⅰ/Ⅱ、証券経済論Ⅰ/Ⅱ、日本経済論Ⅰ/Ⅱ、経済学入門

【Outline (in English)】

In the course of International Finance II, students will learn the history and current status of international finance, starting with the international gold standard, based on their understanding of International Finance I. The goal of this lecture is to understand the nature of financial globalization that is currently underway. Students are required to take weekly quizzes outside of class using the learning support system. Evaluation will be based on quizzes using the learning support system (40%) and the final exam (60%).

MAN300FC

グローバル経営戦略論 I

安藤 直紀

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

グローバル化が進化した現在、多くの企業が海外に進出し、企業活動を行っています。これは大企業に限ったことではなく、中小企業やスタートアップ企業も外国企業や外国市場にかかわる機会が増加しています。このため、グローバル経営戦略は、企業の経営戦略の重要な部分を占めるようになってきました。ですが、海外市場は日本とは異なる市場であり、日本と同じ方法で競争しても競争優位を得られるとは限りません。異なる環境下において、どのように競争優位を獲得するかは企業にとって重要な経営課題です。本講義では、本国とは異なるビジネス環境の中で、どのようにすれば現地のライバル企業に対して競争優位を得られるのかを学生が理解し、企業のグローバル経営戦略を分析できるようになることを目指します。このために必要とされるグローバル経営戦略に関連する理論を体系的に学びます。

【到達目標】

1. 学生は、企業が海外で直面するビジネス環境を理解します。
2. 海外市場への参入戦略、現地での経営戦略など、グローバル経営戦略を構成する各要素を理解します。
3. グローバル経営戦略の基礎的な理論を理解します。
4. グローバル経営戦略を理解するために必要な経営学や経済学の理論を理解します。
5. 企業のグローバル経営戦略を分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」と「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この講義の形態は、オンライン形式(オンデマンド)とします。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム(Hoppi)に掲載しますので、開講前に確認してください。2回目以降の参加方法は、学習支援システムに掲載します。

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義で使用するスライド等の資料は、学習支援システムの教材の中に置きます。理論や現状の説明だけでなく、事例研究も行います。授業の中で、課題にも取り組んでもらいます。課題の提出は学習支援システムを活用します。課題や質問へのフィードバックも学習支援システムを使用して行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	講義に関するオリエンテーション 国際経営とは何か
第2回	グローバル化	グローバル化の促進要因と企業への影響
第3回	グローバル・ビジネス環境(1)	企業が外国で直面する本国とは異なる政治・経済・法システム
第4回	グローバル・ビジネス環境(2)	新興経済と移行経済
第5回	文化的距離(1)	企業が外国で直面する本国とは異なる社会文化
第6回	文化的距離(2)	文化的距離のコミュニケーションへの影響
第7回	海外直接投資	海外直接投資の現状 海外直接投資の動機と類型
第8回	多国籍企業	多国籍企業の特徴
第9回	新興国からの多国籍企業	新興国を本国とする多国籍企業の特徴
第10回	企業の国際化理論(1)	企業の海外進出の動機を説明する理論
第11回	企業の国際化理論(2)	OLIパラダイム 内部化理論
第12回	企業の国際化理論(3)	企業の地理的多角化を説明する理論
第13回	エントリー戦略(1)	いつ、どこに参入するのか
第14回	エントリー戦略(2)	エントリー・モードの類型と各類型の特徴

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義のための準備・復習時間は、各回2時間を標準とします。毎回の授業の後、次の授業までの間に、配布資料やノートの読み直し等、復習を行うことが求められます。

課題が出た場合は、課題を行うことが求められます。

下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。

1-2回：身近なグローバル化の例を見つける

3-4回：国を1つ選び、日本とのビジネス環境の違いを調べる

5-6回：国を1つ選び、文化の違いを調べる

7-8回：企業を1つ選び、海外進出の状況を調べる

9回：新興国を本国とする企業を1つ選び、海外進出の状況を調べる

10-12回：企業の国際化に関する理論を調べる

13-14回：完全子会社とジョイント・ベンチャーの違いを調べる

【テキスト(教科書)】

テキストは使用しません。補助的な材料として、学習支援システムにパワーポイント資料を掲載します。

【参考書】

浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003年

【成績評価の方法と基準】

下記の比率で評価します。

定期試験：100%

ただし、講義中に行う課題をプラス点として評価し、定期試験の点数に加算します。プラス点が加算された場合、合計点が100点を超えることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

理論の説明を補完するために、より多く企業の事例や各国の事情に関して言及します。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインによる講義を受講可能な情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

経営戦略論I/IIを履修しておくことと理解がより深まると思います。

【関連科目】

経営戦略論I/II

【Outline (in English)】

(Course outline)

As the world gets globalized, firms cross the national borders. Those including small- and medium-sized firms and startups are getting more engaged in international business. That is, global business strategy is an integral part of the strategic management. However, because of differences between the foreign markets and the home market, firms often fail to gain competitive advantages.

This course introduces students to key concepts and frameworks of international business studies. Students will understand how firms gain competitive advantages in foreign markets, and acquire a skill to analyze firms' success and failure in foreign markets.

(Learning objectives)

The goal of this course is to understand basics of global business strategy, which includes global business environment, foreign direct investment, and entry strategy. Students are also expected to understand the theoretical foundation of global business strategy. At the end of this course, students are expected to develop an ability to analyze firms' success and failure in foreign countries.

(Learning activities outside of classroom)

Students are required to complete assignments, read materials, and review the notes they took. Time for preparatory study and review for this class will be at least 2 hours each.

(Grading Criteria/Policies)

Students will be evaluated on term-end examination (100%). In-class exercises are added to term-end examination as bonus points.

MAN300FC

グローバル経営戦略論Ⅱ

安藤 直紀

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進化した現在、多くの企業が海外に進出し、企業活動を行っています。これは大企業に限ったことではなく、中小企業やスタートアップ企業も外国企業や外国市場にかかわる機会が増加しています。このため、グローバル経営戦略は、企業の経営戦略の重要な部分を占めるようになってきました。ですが、海外市場は日本とは異なる市場であり、日本と同じ方法で競争しても競争優位を得られるとは限りません。異なる環境下において、どのように競争優位を獲得するかは企業にとって重要な経営課題です。本講義では、本国とは異なるビジネス環境の中で、どのようにすれば現地のライバル企業に対して競争優位を得られるのかを学生が理解し、企業のグローバル経営戦略を分析できるようになることを目指します。このために必要とされるグローバル経営戦略に関連する理論を体系的に学びます。

【到達目標】

1. 学生は、企業が海外で直面するビジネス環境を理解します。
2. 国際人材戦略、国際提携戦略など、グローバル経営戦略を構成する各要素を理解します。
3. グローバル経営戦略の基礎的な理論を理解します。
4. グローバル経営戦略を理解するために必要な経営学や経済学の理論を理解します。
5. 企業のグローバル経営戦略を分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」と「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この講義の形態は、オンライン形式（オンデマンド）とします。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム（Hoppii）に掲載しますので、開講前に確認してください。2回目以降の参加方法は、学習支援システムに掲載します。

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義で使用するスライド等の資料は、学習支援システムの教材の中に置きます。理論や現状の説明だけでなく、事例研究も行います。

授業の中で、課題にも取り組んでもらいます。課題の提出は学習支援システムを活用します。課題や質問へのフィードバックも学習支援システムを使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	講義に関するオリエンテーション グローバル経営戦略Ⅰの復習
第 2 回	国際経営戦略（1）	経営戦略の基礎 グローバル・インテグレーションと ローカル・レスポンスビジネス
第 3 回	国際経営戦略（2）	グローバル戦略
第 4 回	国際経営戦略（3）	マルチドメスティック戦略
第 5 回	国際経営戦略（4）	多国籍企業が戦略を実行するための組織
第 6 回	多国籍企業の地域戦略	多国籍企業の地域内拡大 地域内拡大のベネフィット
第 7 回	国際提携戦略（1）	国際戦略的提携の締結
第 8 回	国際提携戦略（2）	国際戦略的提携のマネジメント
第 9 回	国際提携戦略（3）	国際戦略的提携のリスク
第 10 回	言語障壁（1）	多国籍企業内での言語の役割
第 11 回	言語障壁（2）	言語障壁が多国籍企業に及ぼす影響
第 12 回	多国籍企業の人材戦略（1）	多国籍企業の人材政策の類型
第 13 回	多国籍企業の人材戦略（2）	海外派遣者のマネジメント
第 14 回	多国籍企業の人材戦略（3）	海外子会社の現地化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義のための準備・復習時間は、各回2時間を標準とします。毎回の授業の後、次の授業までの間に、配布資料やノートの読み直し等、復習を行うことが求められます。

課題が出た場合は、課題を行うことが求められます。

下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。

- 1 回：グローバル経営戦略Ⅰの内容の復習
- 2-5 回：製品やサービスを1つ選び、どのように海外に販売するか考える
- 6 回：全世界にビジネスを拡大することと、ヨーロッパや東南アジアなど地域内でのみビジネスを拡大することの違いを考える
- 7-9 回：国際戦略的提携の事例を調べる

10-11 回：言葉の壁が多国籍企業の経営に与える影響を考える

12-14 回：どのような場合に海外子会社の人材現地化を進めるべきか考える

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。補助的な材料として、学習支援システムにパワーポイント資料を掲載します。

【参考書】

浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003 年

【成績評価の方法と基準】

下記の比率で評価します。

定期試験：100 %

ただし、講義中に行う課題をプラス点として評価し、定期試験の点数に加算します。プラス点が加算された場合、合計点が100点を超えることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

理論の説明を補完するために、より多く企業の事例や各国の事情に関して言及します。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインによる講義を受講可能な情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

グローバル経営戦略論Ⅰと併せて履修してください。
経営戦略論Ⅰ/Ⅱを履修しておくとう理解がより深まると思います。

【関連科目】

経営戦略論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course outline】

As the world gets globalized, firms cross the national borders. Those including small- and medium-sized firms and startups are getting more engaged in international business. That is, global business strategy is an integral part of the strategic management. However, because of differences between the foreign markets and the home market, firms often fail to gain competitive advantages.

This course introduces students to key concepts and frameworks of international business studies. Students will understand how firms gain competitive advantages in foreign markets, and acquire a skill to analyze firms' success and failure in foreign markets.

【Learning objectives】

The goal of this course is to understand basics of global business strategy, which includes foreign subsidiary staffing, global strategic alliance, and standardization and localization strategies. Students are also expected to understand the theoretical foundation of global business strategy. At the end of this course, students are expected to develop an ability to analyze firms' success and failure in foreign countries.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to complete assignments, read materials, and review the notes they took. Time for preparatory study and review for this class will be at least 2 hours each.

【Grading Criteria/Policies】

Students will be evaluated on term-end examination (100%). In-class exercises are added to term-end examination as bonus points.

MAN300FC

日本経営史 I

二階堂 行宣

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・19 世紀後半～20 世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。
 ・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。
 ・「各時代における経済・経営環境の変化 → ビジネス・チャンスの発生 → 企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。
 ・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「歴史学」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・オンデマンド型の授業です。
 ・現時点では、以下のような授業運営方法を想定しています。
 ①学習支援システム等から教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。
 ②学習の到達度を確認するため、学習支援システム上で定期的に出題される論述課題（2～3 回を予定 / 提出期限あり）をこなす。
 ③学期末には、学習支援システム上で期末課題を出題する。
 ・感染状況によって、運営方法を変更する場合があります。ただし、授業で扱う内容・トピックについては、このシラバスから変更する予定はありません。
 ・授業動画は、100 分 × 14 回の形でアップロードするのではなく、各章ごとにアップロードします。ただし、総時間数は 1400 分以内になるようにします。
 ・「100 分の動画を毎週アップロード」という形ではないので、毎週の受講ペースは各自で調整していただく必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
第 2 回	幕末維新期の経営	概説：幕末維新期の日本経済
第 3 回	幕末維新期の経営	幕末維新期の新興商人：丁吟と吉村屋の発展
第 4 回	幕末維新期の経営	大店の明治維新：三井家と三野村利左衛門
第 5 回	幕末維新期の経営	海運業の発展：内海船と北前船
第 6 回	明治前期の経営	概説：明治前期の日本経済
第 7 回	明治前期の経営	政商の登場：三菱の創始者・岩崎弥太郎
第 8 回	明治前期の経営	政商の登場：住友の事業再編と池田幸平
第 9 回	明治前期の経営	企業家活動の組織化：「会社」の誕生と渋沢栄一
第 10 回	産業革命期の経営	概説：日本の産業革命
第 11 回	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三菱合資会社と荘田平五郎
第 12 回	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三井の財閥化と中上川彦次郎
第 13 回	産業革命期の経営	地方からの産業革命：安川敬一郎とその時代
第 14 回	まとめ	幕末～産業革命期のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に 18 世紀以降の歴史の大まかな流れを予習してください。
 ・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。
 ・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。
 ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・使用しない。

【参考書】

- ①経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣、2004 年）。
- ②宮本又郎・阿部武司ほか『日本経営史 [新版]』（有斐閣、2007 年）。
- ③三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会、2010 年）。
- ④宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣、2011 年）。
- ⑤三和良一『概説日本経済史 近現代（第 3 版）』（東京大学出版会、2012 年）。
- ⑥粕谷誠『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会、2012 年）。
- ⑦宮本又郎『企業家たちの挑戦』（中央公論新社、2013 年）。
- ⑧沢井実・谷本雅之『日本経済史』（有斐閣、2016 年）。
- ⑨武田晴人『日本経済史』（有斐閣、2019 年）。

【成績評価の方法と基準】

・論述課題 60 %（実施回数で均等配分）、期末課題 40 % で評価します。単位取得の条件は、期末課題を提出すること、かつ合計点が 60 点以上であること、の 2 点です。
 ・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。
 ・科目の性格上、課題はすべて長文の論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。

【学生の意見等からの気づき】

・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説をしてほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。
 ・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。
 ・障害学生支援の観点から、授業動画は担当教員の顔が映る形でアップロードとします。

【学生が準備すべき機器他】

・資料の配布や連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。
 ・法政大学のメールアドレスを設定し、常にメールを確認できるようにしてください。

【その他の重要事項】

・論述課題や期末課題を評価する際、不正行為（他者の答案や、過年度の授業資料の無断引用を含む）には厳しく対処します。
 ・法政大学が定める不正行為の定義と、処分の基準については、下記を参照してください。

https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_.pdf

【関連科目】

- ・産業史 I / II
- ・日本経営論 I / II
- ・日本経済論 I / II

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・Business History of Modern Japan.
 ・In this lesson, we will explain the development of modern enterprises in the latter half of the 19th century to 20th century and the activities of entrepreneurs who took charge of it.
 ・We will learn the significance of analyzing various social phenomena from a long-term perspective through classes and aim to deepen their understanding of the current Japanese economy and corporate management.
 【Learning Objectives】
 ・Learn basic knowledge about the history of economic and business development in modern Japan.
 ・Clarify the series of flows of "changes in the economy and business environment-> generation of business opportunities-> concrete activities of entrepreneurs" for each era.
 ・Explain what you learned in the lecture in objective and logical Japanese.
 【Learning Activities outside of Classroom】

・Students who have not selected Japanese history or world history in high school should prepare in advance the general flow of history after the 18th century using high school textbooks.

・After class, please use the relevant parts of the reference book, handouts and notebooks to thoroughly review.

・To take this course and earn credits, you need to have a level of Japanese writing ability suitable for a university student. If you are not good at writing long logical sentences, please repeat the voluntary training.

・The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

- Evaluate with 60% for essay assignments and 40% for term-end assignments. There are two conditions for earning credits: submitting a term-end assignment and having a total score of 60 points or more.
- When evaluating grades, it is more important to have the ability to logically systematize and explain historical facts rather than memorizing knowledge.
- Due to the nature of the subject, all assignments will be essay-style. There are no plans to ask questions about the mark type and the symbol selection type.

MAN300FC

日本経営史Ⅱ

二階堂 行宣

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・19 世紀後半～20 世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。
・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。
・「各時代における経済・経営環境の変化 → ビジネス・チャンスの発生 → 企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。
・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「歴史学」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・オンデマンド型の授業です。
・現時点では、以下のような授業運営方法を想定しています。
①学習支援システム等から教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。
②学習の到達度を確認するため、学習支援システム上で定期的に出題される論述課題（2～3 回を予定 / 提出期限あり）を何度かこなす。
③学期末には、学習支援システム上で期末課題を出題する。
・感染状況によって、運営方法を変更する場合があります。ただし、授業で扱う内容・トピックについては、このシラバスから変更する予定はありません。
・授業動画は、100 分 × 14 回の形でアップロードするのではなく、各省ごとにアップロードします。ただし、総時間数は 1400 分以内になるようにします。
・「100 分の動画を毎週アップロード」という形ではないので、毎週の受講ペースは各自で調整していただく必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
第 2 回	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済①
第 3 回	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済②
第 4 回	第一次大戦期の経営	大戦ブームと企業者活動：鈴木商店と金子直吉
第 5 回	両大戦間期の経営	概説：1920～30 年代の日本経済①
第 6 回	両大戦間期の経営	概説：1920～30 年代の日本経済②
第 7 回	両大戦間期の経営	都市型産業の発展：小林一三と阪急
第 8 回	両大戦間期の経営	新興コンツェルンの発展：日本産業と日本窒素肥料
第 9 回	戦後期の経営	概説：復興から高度経済成長へ
第 10 回	戦後期の経営	概説：高度成長の終焉と日本経済
第 11 回	戦後期の経営	概説：バブルの発生と崩壊
第 12 回	戦後期の経営	大衆消費社会の到来
第 13 回	戦後期の経営	規制緩和によるビジネス・チャンス
第 14 回	まとめ	近現代日本のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に 18 世紀以降の歴史の大きな流れを予習してください。
・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。
・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・使用しない。

【参考書】

- ①経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣、2004 年）。
- ②宮本又郎・阿部武司ほか『日本経営史【新版】』（有斐閣、2007 年）。
- ③三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会、2010 年）。
- ④宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣、2011 年）。
- ⑤三和良一『概説日本経済史 近現代（第 3 版）』（東京大学出版会、2012 年）。

⑥粕谷誠『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会、2012 年）。

⑦宮本又郎『企業家たちの挑戦』（中央公論新社、2013 年）。

⑧沢井実・谷本雅之『日本経済史』（有斐閣、2016 年）。

⑨武田晴人『日本経済史』（有斐閣、2019 年）。

【成績評価の方法と基準】

・論述課題 60 %（実施回数で均等配分）、期末課題 40 % で評価します。単位取得の条件は、期末課題を提出すること、かつ合計点が 60 点以上であること、の 2 点です。

・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。

・科目の性格上、課題はすべて長文の論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。

【学生の意見等からの気づき】

・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説をしてほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。

・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。

・障害学生支援の観点から、授業動画は担当教員の顔が映る形でのアップロードとします。

【学生が準備すべき機器他】

・資料の配布や連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。
・法政大学のメールアドレスを設定し、常にメールを確認できるようにしてください。

【その他の重要事項】

・論述課題や期末試験答案を評価する際、不正行為（他者の答案や、過年度の授業資料の無断引用を含む）には厳しく対処します。

・法政大学が定める不正行為の定義と、処分の基準については、下記を参照してください。

https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_.pdf

【関連科目】

- ・産業史Ⅰ / Ⅱ
- ・日本経営論Ⅰ / Ⅱ
- ・日本経済論Ⅰ / Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・Business History of Modern Japan.

・In this lesson, we will explain the development of modern enterprises in the latter half of the 19th century to 20th century and the activities of entrepreneurs who took charge of it.

・We will learn the significance of analyzing various social phenomena from a long-term perspective through classes and aim to deepen their understanding of the current Japanese economy and corporate management.

【Learning Objectives】

・Learn basic knowledge about the history of economic and business development in modern Japan.

・Clarify the series of flows of "changes in the economy and business environment-> generation of business opportunities-> concrete activities of entrepreneurs" for each era.

・Explain what you learned in the lecture in objective and logical Japanese.

【Learning Activities outside of Classroom】

・Students who have not selected Japanese history or world history in high school should prepare in advance the general flow of history after the 18th century using high school textbooks.

・After class, please use the relevant parts of the reference book, handouts and notebooks to thoroughly review.

・To take this course and earn credits, you need to have a level of Japanese writing ability suitable for a university student. If you are not good at writing long logical sentences, please repeat the voluntary training.

・The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

・Evaluate with 60% for essay assignments and 40% for term-end assignments. There are two conditions for earning credits: submitting a term-end assignment and having a total score of 60 points or more.

・When evaluating grades, it is more important to have the ability to logically systematize and explain historical facts rather than memorizing knowledge.

・ Due to the nature of the subject, all assignments will be essay-style.
There are no plans to ask questions about the mark type and the symbol
selection type.

MAN300FC

企業評価論 I

高橋 美穂子

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論 I では、企業の過去から現在までの実績や特徴を分析する方法、企業評価論 II では、過去の実績に基づいて将来分析を行い、それを企業価値評価につなげる方法に焦点をあてて学びます。

企業評価論 I の授業では、はじめに、企業について調べたい、何らかの分析を行いたいと考えた時に、その企業を分析する上で有益な情報とその入手方法を説明します。次に、企業の経営環境や事業内容を理解するための情報や分析ツールを解説します。続いて、企業活動の成果や事業の特徴が財務諸表にどのように反映されるのかを理解するために、財務諸表の見方を解説します。最後に、収益性や安全性などの企業特性を評価するための財務比率や経営指標を説明します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 企業活動と関連付けて財務諸表を読むことができる
2. 財務比率や経営指標の内容が理解できる
3. 分析の目的に応じて（上記 2 の）財務比率や経営指標を活用できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は第 1 回はオンライン、第 2 回以降は対面で行います。初回のオンライン授業のリンクや講義に関する連絡事項は学習支援システム（Hoppii）でお知らせします。履修を希望される方は授業開始前に Hoppii の「お知らせ」を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、経営分析、企業評価の意義と全体像
第 2 回	情報収集	重要な情報とその入手方法
第 3 回	事業の理解（1）	マクロ経済分析・産業分析
第 4 回	事業の理解（2）	企業戦略分析
第 5 回	事業の理解（3）	セグメント分析
第 6 回	会計分析（1）	財務諸表の構成要素と体系・会計情報の特徴
第 7 回	会計分析（2）	損益計算書の見方
第 8 回	会計分析（3）	貸借対照表の見方
第 9 回	会計分析（4）	キャッシュフロー計算書の見方
第 10 回	財務比率分析（1）	収益性の分析・ROA と ROE の関係、ROE の基本分解
第 11 回	財務比率分析（2）	利益率の分析
第 12 回	財務比率分析（3）	回転率の分析
第 13 回	財務比率分析（4）	安全性の分析
第 14 回	財務比率分析（5）	成長性の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

S.H. ペンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018 年。

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015 年

K.G. バレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記 3 級程度（簿記入門 I/II、会計学入門 I/II）の内容は理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、簿記や会計の基礎的な知識を修得してから本授業を履修してください。

【関連科目】

財務会計論 I/II、国際会計論 I/II

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. Students learn a framework for analyzing and evaluating firms by using financial information and other related information.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Understand financial statements in relation to corporate activities
2. Understand major financial ratios and performance indicators
3. Utilize financial ratios and indicators (as described in 2. above) according to the purpose of analysis

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content since the contents of each class are highly related.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on term-end exam (100%).

MAN300FC

企業評価論Ⅱ

高橋 美穂子

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論Ⅱでは、企業評価論Ⅰで学んだ内容を掘り下げて、企業の過去の実績を分析するとともに、予測財務諸表を作成し、それを企業価値評価につなげる方法を学びます。

授業では、はじめに企業評価論Ⅰ（春学期）の内容で取り上げた主要な財務比率を復習します。次に、ROE を事業活動の成果と財務活動の効果に分解する上級 ROE 分解を解説し、事業活動の成果と資本構成の影響が ROE に与える影響を切り離して理解することを目指します。さらに、主要な財務比率に基づいて予測財務諸表を作成し、それをを用いて株主価値を推定する枠組みを解説します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 財務比率や経営指標の意味を理解した上で、企業特性を把握するために利用できる
2. 資本利益率 (ROA・ROE) と資本コスト、企業 (株主) 価値の理論的關係が理解できる
3. 過去の実績や仮定に基づいて予測財務諸表を作成できる
4. 予測財務諸表を用いて株主価値を推定する方法が理解できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は第1回はオンライン、第2回以降は対面で行います。初回のオンライン授業のリンクや講義に関する連絡事項は学習支援システム (Hoppii) でお知らせします。履修を希望される方は授業開始前に Hoppii の「おしらせ」を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
第2回	春学期の復習 (1)	財務諸表の構成要素と体系
第3回	春学期の復習 (2)	ROE の基本分解
第4回	収益性の分析 (1)	ROE の上級分解 (1)：純事業資産利益率・有利子負債のコスト・レバレッジの関係を理解する
第5回	収益性の分析 (2)	ROE の上級分解 (2)：純事業資産利益率・純金融資産利益率・レバレッジの関係を理解する
第6回	収益性の分析 (3)	ROE の上級分解 (3)：純金融資産の保有が ROE に与える影響を理解する
第7回	成長性の分析	売上高成長率の仮定とサステナブル成長率を理解する
第8回	レバレッジの分析	信用分析とデフォルトの関係を理解する
第9回	企業価値評価の考え方と手法	マーケットアプローチ・インカムアプローチ・コストアプローチによる評価方法の特徴を理解する
第10回	貸借対照表項目の予測	過去の財務比率や将来の仮定に基づいて予測貸借対照表を作成する
第11回	損益計算書項目の予測	過去の財務比率や将来の仮定に基づいて予測損益計算書を作成する
第12回	貨幣の時間的価値と割引計算・資本コスト	資本コストの推定方法を学習する
第13回	株主価値評価の理論①	配当割引モデルと超過利益モデルを学習する
第14回	株主価値評価の理論②	予測財務諸表と超過利益モデルから株主価値を推定する方法を学習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

S.H. ペンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリエーション』、有斐閣、2018 年。

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015 年

K.G. バレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記 3 級程度 (簿記入門 I/II、会計学入門 I/II) ならびに企業評価Ⅰ (春学期) の内容を理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、該当科目を履修してからこの授業を受講してください。

【関連科目】

財務会計論 I/II

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. In this course, students will learn more advanced content from Business Analysis and Valuation I. Topics that will be covered are advanced ROE analysis, preparation of forecasted financial statements and valuation models.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Comprehend financial ratios and performance indicators and be able to utilize them to understand the underlying corporate characteristics
2. Understand the relationship between return on capital (ROA and ROE), cost of capital, and corporate (shareholder) value
3. To be able to prepare forecasted financial statements
4. Understand how to estimate shareholder value using forecasted financial statements

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content since the contents of each class are highly related.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on term-end exam (100%).

MAN300FC

経営分析論 I

福多 裕志

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1982 年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下す。本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。まず春学期では、製造業の財務諸表データに基づき各種の財務比率を計算し、企業や業界が内包する「問題点の所在の推定」を目指す。

【到達目標】

本講義では、経営分析の領域の一つである財務諸表分析にはほぼ焦点を絞り講義する。経営分析 I では、実在する上場製造企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、財務体質の基本的な捉え方を学習する。この結果、参加者は、(1) 財務諸表分析の基本手続き (2) データベースを利用した財務指標の算出、(3) 安全性、効率性、収益性、成長性に関する具体的指標の算出と解釈について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するのので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【重要】

第 1 回目の授業（ZOOM）を除き、キャンパス内での対面授業を実施する予定です。不明な点は、当授業の「授業内掲示板」までお尋ねください。ZOOM ID は、第 1 回目の授業迄に、当サイト上の「お知らせ」にて発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画の説明
第 2 回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的およびインターネット上の入手可能財務データの検索
第 3 回	財務諸表の枠組み：BS と IS	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念説明
第 4 回	財務諸表の枠組み：CFS	キャッシュ・フロー計算書および百分率財務諸表の構造。基本統計量のまとめ
第 5 回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標 - 流動比率、当座比率等の説明
第 6 回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標 - 自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等の説明
第 7 回	効率性：その 1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標 - 総資本回転率、棚卸資産回転率等の説明
第 8 回	効率性：その 2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、付加価値等の説明
第 9 回	収益性：その 1	収益性の意味および主として売上高や資産と関連する指標 - ROS、ROE、ROA 等について説明
第 10 回	収益性：その 2	オペレーティング・レバレッジ、変動費、固定費、総費用等の諸概念の確認
第 11 回	損益分岐点分析の基本	固定分解、最小二乗法
第 12 回	損益分岐点分析 - 短期利益計画への応用：その 1	損益分岐点比率、安全余裕率
第 13 回	損益分岐点分析 - 短期利益計画への応用：その 2	エクセル上での損益分岐点分析の展開

第 14 回 成長性および総括

代表的なストック項目およびフロー項目に関する増減率等の説明および春学期全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男編著『要説 経営分析 六訂版』森山書店、2022 年。
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会、1995 年。
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社、1999 年。
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社、2002 年。
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房、1994 年。
- 6) 國貞克則『財務 3 表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版、2012 年。
- 7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社、1996 年。
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第 2 版』東洋経済新報社、2006 年。
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会、2003 年。
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010 年。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 80%、発表 20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PC を持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。関連科目：管理会計論 I / II、経営管理論 I / II、基礎統計学 I / II

【重要事項】

感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもありうることを予めご了承ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「経営分析論 I」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【Outline (in English)】

【Course outline and objectives】

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we will focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools.

【Learning activities outside of classroom】

Participants are expected to ensure that they prepare and review for the class by solving assignments.

【Grading criteria】

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN300FC

経営分析論Ⅱ

福多 裕志

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1982年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下す。本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。秋学期では、製造業の財務諸表データに基づき幾つかの財務比率を計算し、その後、企業の合理的な経済的意思決定モデルと創出した会計情報の価値を算出する。

【到達目標】

本講義では、実在する上場企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、秋学期は株価関連指標から学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下での意思決定モデルを考察する。最終段階では、創出した財務情報の価値、価格付け等について学習する。この結果、参加者は、(1) 株価関連指標、(2) 総合評価の方法、(3) リスクおよび不確実性下での意思決定モデル、(4) 創出情報の価値算出等について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

当授業では、インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【重要】

第1回目の授業（ZOOM）を除き、キャンパス内での対面授業を実施する予定です。不明な点は、当授業の「授業内掲示板」までお尋ねください。ZOOM ID は、第1回目の授業迄に、当サイト上の「お知らせ」にて発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期講義計画および株価関連指標：その1	一株当たり利益、株価収益率等の検討
第2回	株価関連指標：その2	株価純資産倍率、株価キャッシュ・フロー倍率の説明と評価
第3回	外国企業の財務諸表分析：その1	オンライン・データベースよりグローバル企業の財務データ抽出と国際比較
第4回	外国企業の財務諸表分析：その2	EDGARより米国企業の財務情報入手し、日米企業の財務体質比較
第5回	総合評価：その1	学習した各指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察
第6回	総合評価：その2	学習したさまざまな財務指標を活用し、企業の財務体質を統計的手法に基づき評価する方法を考察
第7回	経営分析の応用：その1	財務諸表分析情報に基づき、リスク下における意思決定原理－要求水準原理、最尤未来原理等－について考察
第8回	経営分析の応用：その2	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下における意思決定原理－ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等の考察
第9回	経営分析の応用：その3	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第10回	経営分析の応用：その4	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第11回	会計情報の価値Ⅰ	会計情報の一般的定義および情報価値計算の手続き
第12回	会計情報の価値Ⅱ	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズ定理等の学習
第13回	会計情報の価値Ⅲ	創出されたさまざまな情報の価値計算
第14回	会計情報の価値Ⅳ	会計情報の価値に関する問題演習とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男編著『要説 経営分析 六訂版』森山書店、2022年。
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会、1995年。
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社、1999年。
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社、2002年。
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房、1994年。
- 6) 國貞克則『財務3表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版、2012年。
- 7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社、1996年。
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第2版』東洋経済新報社、2006年。
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会、2003年。
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010年。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 80%、発表 20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【重要事項】

感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもありうることを予めご了解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「経営分析論Ⅱ」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【Outline (in English)】

【Course outline and objectives】

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we focused our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. In 'Business Analysis II' comprehensive evaluation and decision-making process will be discussed based on ratios discussed in the spring semester.

【Learning activities outside of classroom】

Participants are expected to ensure that they prepare and review for each class by solving assignments.

【Grading criteria】

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

PRI300FC

経営のための統計学 I

猪狩 良介

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、経営／ビジネスの現場において統計学とデータ分析のニーズが非常に高まっています。経営／ビジネスの場面で意思決定を適切に行うには、統計理論とデータに基づいて客観的に判断する必要があり、そのためには統計学の知識が必要です。本講義は、統計学の基礎的な理論と統計モデリングを学ぶとともに、それを経営分野のデータに応用することを目的としています。また、フリーの統計ソフト R を利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身につけます。

【到達目標】

- ・統計理論および様々な統計モデルを習得し、他の人に説明できる。
- ・統計ソフト R の使い方を習得し、実際のデータ分析を行うことができる。
- ・分析結果を解釈し、他の人に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・講義資料に沿って進めます。資料は Hoppii の「教材」より配布します。
 - ・講義と統計ソフトを利用したデータ分析演習の双方を行います。
 - ・この授業は対面で実施する予定です。
- ※授業の進め方はシラバス作成時点の予定ですので、今後変更になる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／R のインストール	講義概要について説明します。また、統計ソフト R のインストールについて紹介します。
第 2 回	記述統計／R の基本操作 (1)	データの特徴を見るための、平均・分散・標準偏差などを学びます。また、統計ソフト R の基本的な使い方を勉強します。
第 3 回	相関／R の基本操作 (2)	複数の変数間の関係性を分析する共分散や相関について学習します。また、統計ソフト R の基本的な使い方を勉強します。
第 4 回	確率変数と確率分布	確率変数と主要な確率分布について学習します。
第 5 回	統計的推定	母集団と標本について学習します。また、点推定と区間推定について学習します。
第 6 回	仮説検定 (1)	母平均と母比率の仮説検定について学びます。
第 7 回	仮説検定 (2)	2 つの母集団の母平均と母比率の差の検定について学びます。
第 8 回	単回帰分析 (1)	単回帰分析と母数の推定法である最小 2 乗法について学びます。
第 9 回	単回帰分析 (2)	回帰係数の検定と決定係数について学びます。
第 10 回	重回帰分析 (1)	重回帰分析について学びます。
第 11 回	重回帰分析 (2)	多重共線性や変数選択について学びます。
第 12 回	ロジスティック回帰分析 (1)	2 値データを目的変数としたロジスティック回帰分析について学習します。また、最尤法について学習します。
第 13 回	ロジスティック回帰分析 (2)	ロジスティック回帰分析の予測値的中率の算出方法、AIC などについて学びます。
第 14 回	まとめ	本授業の復習とまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内に出題した演習課題をレポートとして提出します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

本橋永至 (2015) 「R で学ぶ統計データ分析」 オーム社

【参考書】

・小暮厚之 (2009) 「R による統計データ分析入門」 朝倉書店。
・金明哲 (2017) 「R によるデータサイエンス - データ解析の基礎から最新手法まで 第 2 版」 森北出版。

【成績評価の方法と基準】

- ・演習レポート (2~3 回を予定) : 50%
- ・期末レポート : 50%

【学生の意見等からの気づき】

データを用いた演習に重点を置き、より実践的な内容を扱います。

【学生が準備すべき機器他】

フリーの統計ソフト R を利用するパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

統計学入門
基礎統計学 I / II
経営のための統計学 II

【Outline (in English)】

【Course outline】

In recent years, the skills of Statistics and data analysis are required even in the management / business field. In addition, to properly make decisions in the management / business context, it is necessary to make objective judgments based on statistical theory and data, and that requires knowledge of statistics. In this course, we will learn about basic theory of Statistics and some statistical modeling, and apply them to data in the management field. In addition, we will acquire practical skills by performing actual data analysis using free statistical software R.

【Learning Objectives】

Students learn statistical theory and various statistical models, and can explain them to others.

Students learn how to use the statistical software R, and can perform actual data analysis.

Students can interpret the results of analysis and explain them to others.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to submit reports on the exercises given in the class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Exercise reports (several times): 50%.

Final report: 50%.

PRI300FC

経営のための統計学Ⅱ

高橋 慎

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計データ分析は、分野を問わず重要なスキルです。本講義では、経済学や経営学を含む社会科学で扱うさまざまな種類のデータ（横断面・パネル・時系列・空間・テキストデータ）の分析について、基本理論と実証手法を学びます。また、フリーの統計ソフト R を利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身につけます。

【到達目標】

- ・統計データ分析の理論を習得する。
- ・統計ソフト R の使い方を習得し、実際のデータ分析を行うことができる。
- ・分析結果を解釈し、他の人に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
- ・授業で学習した内容について、演習課題を行い理解を深めます。
- ・演習課題の提出期限後の授業で、解答と解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要について説明します。また、データ分析の流れとデータの種類を概観します。
第 2 回	春学期の復習 1	統計ソフト R の基本操作と記述統計について復習します。
第 3 回	春学期の復習 2	回帰分析と一般化線形モデルについて復習します。
第 4 回	パネルデータ分析 1	差の差分分析を学びます。
第 5 回	パネルデータ分析 2	固定効果モデル、変量効果モデルを学びます。
第 6 回	時系列分析 1	時系列データの種類、自己相関関数を学びます。
第 7 回	時系列分析 2	自己回帰法とモデルの診断方法を学びます。
第 8 回	時系列分析 3	移動平均法、自己回帰移動平均法、モデルの選択方法を学びます。
第 9 回	空間データ分析 1	地図による空間パターンの視覚化を学びます。
第 10 回	空間データ分析 2	空間パターンのアニメーションを学びます。
第 11 回	テキストデータ分析 1	未加工のテキストの前処理、文書-用語行列、トピックの発見を学びます。
第 12 回	テキストデータ分析 2	テキストの類似性による著者の予測、予測の正確性を評価する手法（交差検証）を学びます。
第 13 回	データ分析事例の紹介	授業で扱った分析手法に関連する事例を紹介します。
第 14 回	まとめ	授業で扱った内容を復習し、発展的トピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・演習課題を解いて授業内容の復習と知識の定着を図ります。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

- ・山本勲 (2015) 『実証分析のための計量経済学』中央経済社
- ・今井耕介 (著)、粕谷祐子、原田勝孝、久保浩樹 (訳) (2018) 『社会科学のためのデータ分析入門 (上) (下)』岩波書店
- ・本橋永至 (2015) 『R で学ぶ統計データ分析』オーム社
- ・授業内でも適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習課題：50%
期末課題：50%

【学生の意見等からの気づき】

実践的な内容を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

フリーの統計ソフト R を利用するパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

- ・基礎統計学 I/II および経営のための統計学 I の知識を前提とします。
- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。
- ・受講人数が多い場合は、小テストを行い、その結果をもとに履修制限を行うことがあります。

【関連科目】

- ・統計学入門
- ・基礎統計学 I/II
- ・経営のための統計学 I

【Outline (in English)】

Statistical data analysis is an important skill in any field. In this course we learn the basic theory and empirical methods for analysing different types of data (cross-sectional, panel, time series, spatial and textual data). We will also acquire practical skills by performing real data analysis using the free statistical software R.

The main aims of the course are: to learn the theory of statistical data analysis; to learn how to use the statistical software R and to perform actual data analysis; and to be able to interpret and explain the results of the analysis to others.

You will be required to submit reports on the exercises. The standard preparation and revision time for this course is 2 hours each.

Grades will be based 50% on the exercises and 50% on the final reports.

INF300FC

システム管理論 I

児玉 靖司

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期 (I) は、ICT(情報通信技術)の基本的な知識の修得を目的とする。具体的にはシステムとは何かを学び、システム設計法を中心に学ぶ。特に、近年注目されている要求定義手法について学ぶ。

【到達目標】

情報学の基礎として ICT(情報通信技術)の基本的な知識を活用し、上位者の指導の下で、業務の分析と解決およびシステム化の支援を行うための手法を学ぶ。経営学に必要な数理的分析に関する素養や、離散数学的素養をつけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】 経営情報学として必要な様々な概念について学習する。
【授業の方法】 授業は基本的に資料に沿って行う。専門性の高い分野に関する講義の場合は、別途、参考文献を指定する場合がある。原則として毎回簡単な小テスト(確認テスト)を行い、理解度を調査しながら進める。さらに、本年度は米国滞在 2 年間の話題に触れ、最新情報を講義するように努力する。

【補足】

本年度は、原則として「オンデマンド授業」である。各回の講義動画を受講し、アンケート、チェックテストに回答することで出席となる。各回の授業計画の変更については学習支援システムと Google Classroom でその都度提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータのはじまり等	システム開発をする上で基本的なコンピュータに関する知識を学ぶ。
第 2 回	システム開発	システム開発の全体的な流れについて学ぶ。
第 3 回	システム開発プロセス	システム開発プロセス全体について、種々の開発方法を学ぶ。
第 4 回	要求分析 (1)	要求分析について概説し、要求獲得について学ぶ。
第 5 回	要求分析 (2)	要求分析について概説し、要求表現、要求検証について学ぶ。
第 6 回	外部設計 (1)	システムへの入出力について主に設計する外部設計について学ぶ。
第 7 回	外部設計 (2)	外部設計の具体的事例について学ぶ。
第 8 回	内部設計	内部設計について学ぶ。
第 9 回	テスト手法について (1)	システム開発におけるテスト手法について学ぶ。
第 10 回	オブジェクト指向設計	オブジェクトとは何か、さらに、オブジェクトを用いた設計方法について学ぶ。
第 11 回	IOT と社会 (1)	IOT を用いた情報社会の基礎について学ぶ。
第 12 回	IOT と社会 (2)	IOT を用いた情報社会の応用について学ぶ。
第 13 回	人工知能	人工知能について学ぶ。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

原則として毎回簡単な確認テストを行い、次の時間に解説を行うので、予習、復習を行うこと。授業中に紹介する参考図書等も読むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

開講後、指定する。原則としてパワーポイント(PDF)による資料を Classroom より配布する。

【参考書】

「情報学基礎」(培風館) ISBN978-4-563-01605-0
http://www.baifukan.co.jp/cgi-bin/db/baifu_new_search.pl?ISBN=4-563-01605-5
 (後半の講義で使用)

【成績評価の方法と基準】

(課題) 定期試験 (80%)、確認テストおよび取り組み姿勢 (20%)

【補足】

本年度は、オンデマンド授業であるので、具体的な内容は学習支援システムと Google Classroom で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC 上でのパワーポイントによるプレゼンテーションを多用する。

【その他の重要事項】

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、外資系コンピュータメーカー研究開発本部にてシステム設計および基本ソフトウェア開発を行った経験を活かし、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

As a professional person, you can learn the basic knowledge of ICT (Information and Communication Technology), and learn the techniques to analyze works, to solve problems under the guidance of superiors. We aim to establish a knowledge on mathematical problems necessary for business management.

【Learning Objectives】

Utilize basic knowledge of ICT (Information and Communication Technology) as the basis of informatics, and learn methods for supporting business analysis, solution, and systematization under the guidance of superiors. The goal is to acquire a background in mathematical analysis necessary for business administration and a background in discrete mathematics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

We will do a simple confirmation test each time and explain next time. It is advisable to read the reference books introduced during the class. The standard preparatory / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Regular examination (80%), Confirmation test (20%)

INF300FC

システム管理論Ⅱ

児玉 靖司

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期（Ⅱ）は、ICT に関わる問題分析手法について学ぶ。具体的には、情報セキュリティ、新聞売り子問題、作業工程分析、ゲーム理論、線形計画法等である。

【到達目標】

情報学の基礎として ICT(情報通信技術)の基本的な知識を活用し、上位者の指導の下で、業務の分析と解決およびシステム化の支援を行うための手法を学ぶ。経営学に必要な数理的分析に関する素養や、離散数学的素養をつけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】経営情報学として必要な様々な概念について学習する。
【授業の方法】授業は基本的に資料に沿って行う。専門性の高い分野に関する講義の場合は、別途、参考文献を指定する場合がある。原則として毎回簡単な小テスト（確認テスト）を行い、理解度を調査しながら進める。さらに、本年度は米国滞在 2 年間の話題に触れ、最新情報を講義するように努力する。

【補足】

各回の授業計画の変更については学習支援システムと Google Classroom でその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、情報とは	データ、情報、知識の違いについて概説し、情報学の定義について学ぶ。
第 2 回	情報セキュリティ	コンピュータウイルスを中心にセキュリティについて学ぶ。共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式を中心に学ぶ。
第 3 回	新聞売り子の問題（1）	新聞売り子の問題について学ぶ。
第 4 回	新聞売り子の問題（2）	新聞売り子の問題について応用事情について学ぶ。
第 5 回	プロジェクト管理（1）	プロジェクト管理に重要な作業工程分析について学ぶ。
第 6 回	プロジェクト管理（2）	作業工程分析について応用事例について学ぶ。
第 7 回	ゲーム理論（1）戦略をたてる	ゲーム理論全体について学ぶ。
第 8 回	ゲーム理論（2）ミニマックス戦略	ミニマックス戦略について学ぶ。
第 9 回	ゲーム理論（3）確率用いたモデル	確率モデルを用いた戦略について学ぶ。
第 10 回	データ理論（4）基本定理	ゲーム理論の基本定理について学ぶ。
第 11 回	データ理論（5）囚人のジレンマ	囚人のジレンマについて学ぶ。
第 12 回	線形計画法（1）	線形計画法について戦略を学ぶ。
第 13 回	線形計画法（2）	線形計画法の応用を学ぶ。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として毎回簡単な確認テストを行い、次の時間に解説を行うので、予習、復習を行うこと。授業中に紹介する参考図書等も読むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講後、指定する。原則としてパワーポイント(PDF)による資料を Classroom より配布する。

【参考書】

開講後、指定する。

【成績評価の方法と基準】

(課題) 確認テストおよび取り組み姿勢 (30%)、定期試験 (70%)

【補足】

具体的な内容は学習支援システムと Google Classroom で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。板書が出来るように、授業の進め方を工夫(進度をやや遅く)する。

【学生が準備すべき機器他】

PC 上でのパワーポイントによるプレゼンテーションを多用する。

【その他の重要事項】

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、外資系コンピュータメーカー研究開発本部にてシステム設計および基本ソフトウェア開発を行った経験を活かし、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

As a professional person, you can learn the basic knowledge of ICT (Information and Communication Technology), and learn the techniques to analyze works, to solve problems under the guidance of superiors. We aim to establish a knowledge on mathematical problems necessary for business management.

【Learning Objectives】

Utilize basic knowledge of ICT (Information and Communication Technology) as the basis of informatics, and learn methods for supporting business analysis, solution, and systematization under the guidance of superiors. The goal is to acquire a background in mathematical analysis necessary for business administration and a background in discrete mathematics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

We will do a simple confirmation test each time and explain next time. It is advisable to read the reference books introduced during the class. The standard preparatory / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Regular examination (80%), Confirmation test (20%)

MAN300FC

日本経営史 I (教職用)

二階堂 行宣

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・19 世紀後半～20 世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。
 ・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。
 ・「各時代における経済・経営環境の変化 → ビジネス・チャンスの発生 → 企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。
 ・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「歴史学」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・オンデマンド型の授業です。
 ・現時点では、以下のような授業運営方法を想定しています。
 ①学習支援システム等から教材 (講義資料や説明音声・動画) をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。
 ②学習の到達度を確認するため、学習支援システム上で定期的に出題される論述課題 (2~3 回を予定 / 提出期限あり) をこなす。
 ③学期末には、学習支援システム上で期末課題を出題する。
 ・感染状況によって、運営方法を変更する場合があります。ただし、授業で扱う内容・トピックについては、このシラバスから変更する予定はありません。
 ・授業動画は、100 分 × 14 回の形でアップロードするのではなく、各章ごとにアップロードします。ただし、総時間数は 1400 分以内になるようにします。
 ・「100 分の動画を毎週アップロード」という形ではないので、毎週の受講ペースは各自で調整していただく必要があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
第 2 回	幕末維新期の経営	概説：幕末維新期の日本経済
第 3 回	幕末維新期の経営	幕末維新期の新興商人：丁吟と吉村屋の発展
第 4 回	幕末維新期の経営	大店の明治維新：三井家と三野村利左衛門
第 5 回	幕末維新期の経営	海運業の発展：内海船と北前船
第 6 回	明治前期の経営	概説：明治前期の日本経済
第 7 回	明治前期の経営	政商の登場：三菱の創始者・岩崎弥太郎
第 8 回	明治前期の経営	政商の登場：住友の事業再編と池田幸平
第 9 回	明治前期の経営	企業家活動の組織化：「会社」の誕生と渋沢栄一
第 10 回	産業革命期の経営	概説：日本の産業革命
第 11 回	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三菱合資会社と荘田平五郎
第 12 回	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三井の財閥化と中上川彦次郎
第 13 回	産業革命期の経営	地方からの産業革命：安川敬一郎とその時代
第 14 回	まとめ	幕末～産業革命期のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に 18 世紀以降の歴史の大まかな流れを予習してください。
 ・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。
 ・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。
 ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

・使用しない。

【参考書】

- ①経営史学会編『日本経営史の基礎知識』(有斐閣、2004 年)。
- ②宮本又郎・阿部武司ほか『日本経営史 [新版]』(有斐閣、2007 年)。
- ③三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』(東京大学出版会、2010 年)。
- ④宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』(有斐閣、2011 年)。
- ⑤三和良一『概説日本経済史 近現代 (第 3 版)』(東京大学出版会、2012 年)。
- ⑥粕谷誠『ものづくり日本経営史』(名古屋大学出版会、2012 年)。
- ⑦宮本又郎『企業家たちの挑戦』(中央公論新社、2013 年)。
- ⑧沢井実・谷本雅之『日本経済史』(有斐閣、2016 年)。
- ⑨武田晴人『日本経済史』(有斐閣、2019 年)。

【成績評価の方法と基準】

・論述課題 60 % (実施回数で均等配分)、期末課題 40 % で評価します。単位取得の条件は、期末課題を提出すること、かつ合計点が 60 点以上であること、の 2 点です。
 ・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。
 ・科目の性格上、課題はすべて長文の論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。

【学生の意見等からの気づき】

・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説をしてほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。
 ・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。
 ・障害学生支援の観点から、授業動画は担当教員の顔が映る形でのアップロードとします。

【学生が準備すべき機器他】

・資料の配布や連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。
 ・法政大学のメールアドレスを設定し、常にメールを確認できるようにしてください。

【その他の重要事項】

・論述課題や期末課題を評価する際、不正行為 (他者の答案や、過年度の授業資料の無断引用を含む) には厳しく対処します。
 ・法政大学が定める不正行為の定義と、処分の基準については、下記を参照してください。

https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_.pdf

【関連科目】

- ・産業史 I / II
- ・日本経営論 I / II
- ・日本経済論 I / II

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・Business History of Modern Japan.
 ・In this lesson, we will explain the development of modern enterprises in the latter half of the 19th century to 20th century and the activities of entrepreneurs who took charge of it.
 ・We will learn the significance of analyzing various social phenomena from a long-term perspective through classes and aim to deepen their understanding of the current Japanese economy and corporate management.
 【Learning Objectives】
 ・Learn basic knowledge about the history of economic and business development in modern Japan.
 ・Clarify the series of flows of "changes in the economy and business environment-> generation of business opportunities-> concrete activities of entrepreneurs" for each era.
 ・Explain what you learned in the lecture in objective and logical Japanese.
 【Learning Activities outside of Classroom】

・Students who have not selected Japanese history or world history in high school should prepare in advance the general flow of history after the 18th century using high school textbooks.

・After class, please use the relevant parts of the reference book, handouts and notebooks to thoroughly review.

・To take this course and earn credits, you need to have a level of Japanese writing ability suitable for a university student. If you are not good at writing long logical sentences, please repeat the voluntary training.

・The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

- Evaluate with 60% for essay assignments and 40% for term-end assignments. There are two conditions for earning credits: submitting a term-end assignment and having a total score of 60 points or more.
- When evaluating grades, it is more important to have the ability to logically systematize and explain historical facts rather than memorizing knowledge.
- Due to the nature of the subject, all assignments will be essay-style. There are no plans to ask questions about the mark type and the symbol selection type.

MAN300FC

日本経営史Ⅱ（教職用）

二階堂 行宣

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・19 世紀後半～20 世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。
・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。
・「各時代における経済・経営環境の変化 → ビジネス・チャンスの発生 → 企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。
・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「歴史学」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・オンデマンド型の授業です。
・現時点では、以下のような授業運営方法を想定しています。
①学習支援システム等から教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。
②学習の到達度を確認するため、学習支援システム上で定期的に出題される論述課題（2～3 回を予定 / 提出期限あり）を何度かこなす。
③学期末には、学習支援システム上で期末課題を出題する。
・感染状況によって、運営方法を変更する場合があります。ただし、授業で扱う内容・トピックについては、このシラバスから変更する予定はありません。
・授業動画は、100 分 × 14 回の形でアップロードするのではなく、各省ごとにアップロードします。ただし、総時間数は 1400 分以内になるようにします。
・「100 分の動画を毎週アップロード」という形ではないので、毎週の受講ペースは各自で調整していただく必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
第 2 回	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済①
第 3 回	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済②
第 4 回	第一次大戦期の経営	大戦ブームと企業者活動：鈴木商店と金子直吉
第 5 回	両大戦間期の経営	概説：1920～30 年代の日本経済①
第 6 回	両大戦間期の経営	概説：1920～30 年代の日本経済②
第 7 回	両大戦間期の経営	都市型産業の発展：小林一三と阪急
第 8 回	両大戦間期の経営	新興コンツェルンの発展：日本産業と日本窒素肥料
第 9 回	戦後期の経営	概説：復興から高度経済成長へ
第 10 回	戦後期の経営	概説：高度成長の終焉と日本経済
第 11 回	戦後期の経営	概説：バブルの発生と崩壊
第 12 回	戦後期の経営	大衆消費社会の到来
第 13 回	戦後期の経営	規制緩和によるビジネス・チャンス
第 14 回	まとめ	近現代日本のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に 18 世紀以降の歴史の大きな流れを予習してください。
・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。
・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・使用しない。

【参考書】

- ①経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣、2004 年）。
- ②宮本又郎・阿部武司ほか『日本経営史 [新版]』（有斐閣、2007 年）。
- ③三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会、2010 年）。
- ④宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣、2011 年）。
- ⑤三和良一『概説日本経済史 近現代（第 3 版）』（東京大学出版会、2012 年）。

⑥粕谷誠『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会、2012 年）。

⑦宮本又郎『企業家たちの挑戦』（中央公論新社、2013 年）。

⑧沢井実・谷本雅之『日本経済史』（有斐閣、2016 年）。

⑨武田晴人『日本経済史』（有斐閣、2019 年）。

【成績評価の方法と基準】

・論述課題 60 %（実施回数で均等配分）、期末課題 40 % で評価します。単位取得の条件は、期末課題を提出すること、かつ合計点が 60 点以上であること、の 2 点です。

・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。

・科目の性格上、課題はすべて長文の論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。

【学生の意見等からの気づき】

・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説をしてほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。

・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。

・障害学生支援の観点から、授業動画は担当教員の顔が映る形でのアップロードとします。

【学生が準備すべき機器他】

・資料の配布や連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。
・法政大学のメールアドレスを設定し、常にメールを確認できるようにしてください。

【その他の重要事項】

・論述課題や期末試験答案を評価する際、不正行為（他者の答案や、過年度の授業資料の無断引用を含む）には厳しく対処します。

・法政大学が定める不正行為の定義と、処分の基準については、下記を参照してください。

https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_.pdf

【関連科目】

- ・産業史Ⅰ / Ⅱ
- ・日本経営論Ⅰ / Ⅱ
- ・日本経済論Ⅰ / Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・Business History of Modern Japan.

・In this lesson, we will explain the development of modern enterprises in the latter half of the 19th century to 20th century and the activities of entrepreneurs who took charge of it.

・We will learn the significance of analyzing various social phenomena from a long-term perspective through classes and aim to deepen their understanding of the current Japanese economy and corporate management.

【Learning Objectives】

・Learn basic knowledge about the history of economic and business development in modern Japan.

・Clarify the series of flows of "changes in the economy and business environment-> generation of business opportunities-> concrete activities of entrepreneurs" for each era.

・Explain what you learned in the lecture in objective and logical Japanese.

【Learning Activities outside of Classroom】

・Students who have not selected Japanese history or world history in high school should prepare in advance the general flow of history after the 18th century using high school textbooks.

・After class, please use the relevant parts of the reference book, handouts and notebooks to thoroughly review.

・To take this course and earn credits, you need to have a level of Japanese writing ability suitable for a university student. If you are not good at writing long logical sentences, please repeat the voluntary training.

・The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

・Evaluate with 60% for essay assignments and 40% for term-end assignments. There are two conditions for earning credits: submitting a term-end assignment and having a total score of 60 points or more.

・When evaluating grades, it is more important to have the ability to logically systematize and explain historical facts rather than memorizing knowledge.

・ Due to the nature of the subject, all assignments will be essay-style.
There are no plans to ask questions about the mark type and the symbol
selection type.

ECN200FC

産業史 I (教職用)

韓 載香

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、第 2 次世界大戦までを対象とし、欧米と日本を含むアジアの諸国における代表的産業を時代別に取り上げながら、産業のあり方の変化に光を当て、産業を成り立たせる基盤 (市場、システムなど) や成長要因 (技術、政策、マネジメント、労働等) について説明します。特定の国において、特定の時期に、ある産業が形成、成長し、時には衰退するあり様に注目し、その背景となる経済発展及び競争条件や企業者活動によるダイナミックな変化を織り込みながら、企業活動の舞台となる産業を歴史立体的に理解することを目的とします。

【到達目標】

- (1) 産業とは何かについて説明することができる。
- (2) 産業発展の背景となったマクロ的な経済の特徴について述べることができる。
- (3) 産業が成長する条件や基盤について、特定分野を取り上げて説明することができる。
- (4) 特定産業の形成、成長、成熟までを、外部環境の条件を考慮しながら、企業活動に関連付けて解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP2-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講生は事前に教員が提示する参考資料 (Hoppii) を読んでおいてください。講義形式によって進めますが、講義中に課題を提出してもら場合やグループで議論することがあります。期末テストを受けるためには課題の提出が必須ですので、ご注意ください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	産業史 I のためのイントロダクション	「企業と産業と経済発展の歴史」から学ぶこと
第 2 回	I 産業史という方法：経済発展の鳥瞰	産業構造変化の国際比較
第 3 回	I 産業史という方法：産業とは？	「日本標準産業分類」から学ぶ
第 4 回	I 産業史という方法：統計から発見する産業活動	産業構造を捉える
第 5 回	II 欧米 ①産業革命前夜	階級とファッション—繊維産業勃興の条件
第 6 回	II 欧米 ②産業革命と綿工業と資本主義	グローバル経済とイギリスの綿工業
第 7 回	II 欧米 ③産業競争のダイナミズム	グローバル経済とドイツの鉄工業
第 8 回	II 欧米 ④大量生産方式の定着とその意義	アメリカの自動車産業
第 9 回	III 日本 ①経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題：産銅業の産業化と環境問題	生産の急増は自然が提供する原料の供給量とのバランスを狂わせたが、自然との調和のなかで営んでいた鉱山周辺の農業にも影響を及ぼし、環境問題を発生させた。その結果としての企業の対応過程を追いかけ、その意味合いについて考える。
第 10 回	III 日本 ②経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題：別子暴動事件	産業化と働くということ：急激な需要増加によって生産増加が要求されたとき、産業内、企業はどのように対応し、産業成長の軌道に乗ることができるのでしょうか。労働の管理方法の変化やそれによる働き方の変容が見えてきます。

第 11 回 III 日本
③経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題：製糸業 (1)

輸出産業化とジェンダー：繊維産業の発展は多くの国において女子労働に支えられる特徴を持っている。産業の在り方にジェンダーの側面がどのように関連したか、就労の意思決定に影響する要因はなにか、労働過程における労働管理の在り方に与えた結果に注目しながら、産業成長と日本経済の発展についてジェンダーの視点から考える。

第 12 回 III 日本
④経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題：製糸業 (2)

輸出産業化とジェンダー：繊維産業の発展は多くの国において女子労働に支えられる特徴を持っている。産業の在り方にジェンダーの側面がどのように関連したか、就労の意思決定に影響する要因はなにか、労働過程における労働管理の在り方に与えた結果に注目しながら、産業成長と日本経済の発展についてジェンダーの視点から考える。都市化現象を支えた産業群の台頭と、その中で広がるビジネスチャンスを事業として生かし、新しい領域を切り開いた企業に光を当てる。

第 14 回 総まとめ

第 2 次世界大戦までの産業発展の特徴

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定された資料 (文献・論文) を事前に読んでください。毎回出される課題を提出してください。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

指定教科書なし。
参考資料あり (Hoppii)

【参考書】

川北稔『洒落たちのイギリス史』平凡社、1993 年、S.D. チャップマン (佐村明知)『産業革命のなかの綿工業』見洋書房、1990 年、角山栄編『講座西洋経済史 II 産業革命の時代』同文館 1979 年、井上昭一『GM の研究：アメリカ自動車経営史』ミネルヴァ書房、1982 年、ジョン・B. レイ (岩崎丈他訳)『アメリカの自動車：その歴史的展望』小川出版、1969 年、湯沢威他編『国際競争力の経営史』有斐閣、2009 年、武田晴人『日本経済史の事件簿』日本経済評論社、2008 年、ジャネット・ハンター『日本の工業化と女性労働』阿部武司他訳、有斐閣、2008 年、中林真幸『近代資本主義の組織』東京大学出版会、2003 年、橋川武郎『日本電力発展のダイナミズム』名古屋大学出版会、2004 年、宮本二郎他編『1 からの経営史』碩学舎、2014 年、加藤健太・大石直樹『ケースに学ぶ日本企業』有斐閣、2013 年、武田晴人『日本産業発展のダイナミズム』東京大学出版会、1995 年、ジェームズ・P・ウォーマック他『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える。最強の日本車メーカーを欧米が追い越す日』経済界、1990 年、和田一夫『ものづくりの寓話』名古屋大学出版会、2009 年

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 100 % 評価です。
ただし、テストを受けるためには講義中に課された課題提出が必要です。初回の授業にて詳しく説明します。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 時事的な問題に関して歴史的観点からどのような理解が可能かをとり上げて解説します。
- (2) 学生から受けた質問を受講者全員に共有していただけるように解説します。
- (3) 担当教員の講義以外の学習方法を積極的に導入します。
 - ・ 産業関連の研究者のゲスト講師を招き、深い知識習得の機会を与えます。
 - ・ 関連映画や動画なども使用し、多面的な知的刺激を受けるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

【オフィスアワー】

・ 金曜日 12 : 00 ~
・ 事前に教員のメール宛に連絡をください。メールアドレスは Hoppii の産業史 I に提示します。

【関連科目】

None

[Outline (in English)]

[Course Outline] The purpose of this course is to understand the industry's history as the stage of business activities until the end of World War 2. In this course, while focusing on representative industries in Asian countries including Europe, the United States and Japan by era, I will examine the foundations (market, systems, etc.) that made up the industry and growth factors (technology, policies, management, labor policies etc.), shedding light on the changes in the state of industry. I will pay attention to how an industry forms, grows, and sometimes declines in a specific country and incorporates three dimensions in the underlying economic development, competitive conditions, and dynamic changes due to corporate activities.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do following:

To explain what industry is.

To explain how an industry develops and conditions and foundations for the growth dividing the time periods based on the example of that industry.

To explain the formation, growth, and maturity of a specific industry in relation to corporate activities, considering the conditions of the external environment.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students will be expected to spend one or two hours to read the material provided by me. Students are expected to submit assignments when I give them in class.

[Grading Criteria /Policy]

Final grade will be calculated according to final examination (100%). Please note that students should submit assignments for taking examination that I will explain in the first week class.

ECN200FC

産業史Ⅱ（教職用）

韓 載香

経営戦略学科専門科目 200 番台経営戦略学科専門科目 2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、第二次世界大戦後を対象とし、欧米と日本を含むアジアの諸国における代表的産業を時代別に取り上げながら、産業のあり方の変化に光を充て、産業を成り立たせる基盤（市場、システムなど）や成長要因（技術、政策、マネジメント、労働等）について説明します。特定の国において、特定の時期に、ある産業が形成、成長し、時には衰退するあり様に注目し、その背景となる経済発展及び競争条件や企業者活動によるダイナミックな変化を織り込みながら、企業活動の舞台となる産業を歴史立体的に理解することを目的とします。

【到達目標】

- (1) 産業とは何かについて説明することができる。
- (2) 産業発展の背景となったマクロ的な経済の特徴について述べることができる。
- (3) 産業が成長する条件や基盤について、特定分野を取り上げて説明することができる。
- (4) 特定産業の形成、成長、成熟までを、外部環境の条件を考慮しながら、企業活動に関連付けて解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP2-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講生は事前に教員が提示する参考資料（Hoppii）を読んでおいてください。講義形式によって進めますが、講義中に課題を提出してもらった場合やグループで議論することがあります。期末テストを受けるためには課題の提出が必須ですので、ご留意ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	産業史Ⅱのためのイントロダクション	第 2 次世界大戦後の世界経済
第 2 回	IV 日本 (2) 高成長を支える産業；戦後の鉄鋼業における合理化	高度成長期の準備： 短期間で国際競争力を獲得した日本の鉄鋼業の合理化投資について、政策、市場基盤、調整された積極的な投資に注目して説明します。鉄鋼業の近代化は次回にみる自動車産業の発展するための基盤になります。
第 3 回	IV 日本 (2) 機械産業の発展とトヨタ生産方式①	機械産業は中小企業を含む広い範囲の諸産業との関連性があり、且つ大量の雇用を生み出すため、高度成長をけん引する分野として意義深いです。日本と他国の自動車産業を比較します。
第 4 回	IV 日本 (2) 機械産業の発展とトヨタ生産方式②	トヨタ生産方式の長い道のりと今日の意義についてみていきます。
第 5 回	IV 日本 (2) 機械工業と部品工業①	中小企業群は技術的制約から成長に対しては懐疑的見方で見られていました。中小企業の成長可能性について、成長していく自動車における組立メーカーと部品企業の深い取引関係から考えます。
第 6 回	IV 日本 (2) 機械工業と部品工業②	電気機械の成長における部品企業の役割について説明します。
第 7 回	IV 日本 (2) マイノリティビジネスの発展と経済環境	民族マイノリティが関わる分野について、ドキュメンタリー映画「在日」から、彼らのおかれた環境に注目して考えます。
第 8 回	IV 日本 (2) サービス産業化①——パチンコ産業の成長	自明ではない産業が存続していく過程、その結果巨大市場を築いていったことを歴史的に検証します。日本の経済発展に関連づけながら、規制の枠組みのなかで作り上げていく独創的な仕組みと、新しい可能性を発見していく個別企業の取り組みを紹介します。
第 9 回	IV 日本 (2) サービス産業化②——映画鑑賞「焼肉ドラゴン」から焼肉レストランの発祥について考える	日本に定着した焼肉食文化はどのようにして始まったのでしょうか。マイノリティ集住地域に注目して、この点について考えます。

- 第 10 回 IV 日本 (2)
サービス産業化②——多様なニーズをビジネスに、焼肉の普及
- 第 11 回 V アジア
東アジアにおける半導体産業の発展①

娯楽業のなかでも大きな市場規模をもつのが外食産業ですが、独特な文化背景とあつた焼肉レストランの定着に注目します。

日本、台湾、韓国における半導体産業の発展にはグローバル経済による興味深い連鎖的作用が影響し、また今日のようなあり方が予定されていたわけでもありませんでした。国別の特徴を持ちながら同地域で発展していく成長過程をたどります。台湾の半導体産業を取り上げます。

- 第 12 回 V アジア
東アジアにおける半導体産業の発展②

現在半導体業界で世界で最も競争力を持っているのが台湾です。どのようにして台湾の半導体は発展したのでしょうか。第一人者にその歴史について話をさせていただきます。

- 第 13 回 V アジア
K-POP の成長史

従来の産業発展の発端は、製品にしても、生産方法にしても多くの場合、欧米の諸国を発祥地とし、発展途上国はそれを受容する過程でした。

K-POP はアジアで生まれ、世界に広がり始めた事例としてユニークな文化産業です。ただし、このような拡散は最初の段階に戻れば、決して約束されたものではありませんでした。約 30 年にわたる K-POP ビジネスの誕生から進化を追いかけます。産業史から学んだこと

- 第 14 回 総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された資料（文献・論文）を事前に読んでください。毎回出される課題を提出してください。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定教科書なし。
参考資料あり（Hoppii）

【参考書】

武田晴人『日本産業発展のダイナミズム』東京大学出版会、1995 年、ジェームズ・P・ウォーマック他『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える。最強の日本車メーカーを欧米が追い越す日』経済界、1990 年、和田一夫『ものづくりの寓話』名古屋大学出版会、2009 年、中島裕喜『日本の電子部品産業 国際競争優位を生み出したもの』名古屋大学出版会、2019 年、浅沼萬里『日本の企業組織 核心的適応のメカニズム 長期取引関係の構造と機能』東洋経済新報社、1997 年、川上桃子『圧縮された産業発展—台湾ノートパソコン企業の成長メカニズム』名古屋大学出版会、2012 年、韓載香『在日企業の産業経済史』名古屋大学出版会、2010 年、韓載香『パチンコ産業史』名古屋大学出版会、2018 年、金成政『K-POP 新感覚のメディア』岩波書店、2018 年

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 100 % 評価です。ただし、テストを受けるためには講義中に課された課題提出が必要です。初回の授業にて詳しく説明します。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 時事的な問題に関して歴史的観点からどのような理解が可能かをとり上げて解説します。
- (2) 学生から受けた質問を受講者全員に共有していただけるように解説します。
- (3) 担当教員の講義以外の学習方法を積極的に導入します。
 - ・産業関連の研究者のゲスト講師を招き、深い知識習得の機会を与えます。
 - ・関連映画や動画なども使用し、多方面の知的刺激を受けるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

【オフィスアワー】
・金曜日 12 : 00～
・事前に教員のメール宛に連絡をください。メールアドレスは Hoppii の産業史 I に提示します。

【関連科目】

None

[Outline (in English)]

[Course Outline] The purpose of this course is to understand the industry's history as the stage of business activities after the end of World War 2. In this course, while focusing on representative industries in Asian countries including Europe, the United States and Japan by era, I will examine the foundations (market, systems, etc.) that made up the industry and growth factors (technology, policies, management, labor policies etc.), shedding light on the changes in the state of industry. I will pay attention to how an industry forms, grows, and sometimes declines in a specific country and incorporates three dimensions in the underlying economic development, competitive conditions, and dynamic changes due to corporate activities.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do following:

To explain what industry is.

To explain how an industry develops and conditions and foundations for the growth dividing the time periods based on the example of that industry.

To explain the formation, growth, and maturity of a specific industry in relation to corporate activities, considering the conditions of the external environment.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students will be expected to spend one or two hours to read the material provided by me. Students are expected to submit assignments when I give them in class.

[Grading Criteria /Policy]

Final grade will be calculated according to final examination (100%). Please note that students should submit assignments for taking examination that I will explain in the first week class.

MAN300FC

経営分析 I

高橋 美穂子

経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論 I では、企業の過去から現在までの実績や特徴を分析する方法、企業評価論 II では、過去の実績に基づいて将来分析を行い、それを企業価値評価につなげる方法に焦点をあてて学びます。

企業評価論 I の授業では、はじめに、企業について調べたい、何らかの分析を行いたいと考えた時に、その企業を分析する上で有益な情報とその入手方法を説明します。次に、企業の経営環境や事業内容を理解するための情報や分析ツールを解説します。続いて、企業活動の成果や事業の特徴が財務諸表にどのように反映されるのかを理解するために、財務諸表の見方を解説します。最後に、収益性や安全性などの企業特性を評価するための財務比率や経営指標を説明します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 企業活動と関連付けて財務諸表を読むことができる
2. 財務比率や経営指標の内容が理解できる
3. 分析の目的に応じて（上記 2 の）財務比率や経営指標を活用できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は第 1 回はオンライン、第 2 回以降は対面で行います。初回のオンライン授業のリンクや講義に関する連絡事項は学習支援システム（Hoppii）でお知らせします。履修を希望される方は授業開始前に Hoppii の「お知らせ」を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、経営分析、企業評価の意義と全体像
第 2 回	情報収集	重要な情報とその入手方法
第 3 回	事業の理解（1）	マクロ経済分析・産業分析
第 4 回	事業の理解（2）	企業戦略分析
第 5 回	事業の理解（3）	セグメント分析
第 6 回	会計分析（1）	財務諸表の構成要素と体系・会計情報の特徴
第 7 回	会計分析（2）	損益計算書の見方
第 8 回	会計分析（3）	貸借対照表の見方
第 9 回	会計分析（4）	キャッシュフロー計算書の見方
第 10 回	財務比率分析（1）	収益性の分析・ROA と ROE の関係、ROE の基本分解
第 11 回	財務比率分析（2）	利益率の分析
第 12 回	財務比率分析（3）	回転率の分析
第 13 回	財務比率分析（4）	安全性の分析
第 14 回	財務比率分析（5）	成長性の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

S.H. ペンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018 年。

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015 年

K.G. バレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記 3 級程度（簿記入門 I/II、会計学入門 I/II）の内容は理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、簿記や会計の基礎的な知識を修得してから本授業を履修してください。

【関連科目】

財務会計論 I/II、国際会計論 I/II

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. Students learn a framework for analyzing and evaluating firms by using financial information and other related information.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Understand financial statements in relation to corporate activities
2. Understand major financial ratios and performance indicators
3. Utilize financial ratios and indicators (as described in 2. above) according to the purpose of analysis

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content since the contents of each class are highly related.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on term-end exam (100%).

MAN300FC

経営分析Ⅱ

高橋 美穂子

経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論Ⅱでは、企業評価論Ⅰで学んだ内容を掘り下げて、企業の過去の実績を分析するとともに、予測財務諸表を作成し、それを企業価値評価につなげる方法を学びます。

授業では、はじめに企業評価論Ⅰ（春学期）の内容で取り上げた主要な財務比率を復習します。次に、ROE を事業活動の成果と財務活動の効果に分解する上級 ROE 分解を解説し、事業活動の成果と資本構成の影響が ROE に与える影響を切り離して理解することを目指します。さらに、主要な財務比率に基づいて予測財務諸表を作成し、それをを用いて株主価値を推定する枠組みを解説します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 財務比率や経営指標の意味を理解した上で、企業特性を把握するために利用できる
2. 資本利益率 (ROA・ROE) と資本コスト、企業 (株主) 価値の理論的關係が理解できる
3. 過去の実績や仮定に基づいて予測財務諸表を作成できる
4. 予測財務諸表を用いて株主価値を推定する方法が理解できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は第1回はオンライン、第2回以降は対面で行います。初回のオンライン授業のリンクや講義に関する連絡事項は学習支援システム (Hoppii) でお知らせします。履修を希望される方は授業開始前に Hoppii の「おしらせ」を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
第2回	春学期の復習 (1)	財務諸表の構成要素と体系
第3回	春学期の復習 (2)	ROE の基本分解
第4回	収益性の分析 (1)	ROE の上級分解 (1)：純事業資産利益率・有利子負債のコスト・レバレッジの関係を理解する
第5回	収益性の分析 (2)	ROE の上級分解 (2)：純事業資産利益率・純金融資産利益率・レバレッジの関係を理解する
第6回	収益性の分析 (3)	ROE の上級分解 (3)：純金融資産の保有が ROE に与える影響を理解する
第7回	成長性の分析	売上高成長率の仮定とサステナブル成長率を理解する
第8回	レバレッジの分析	信用分析とデフォルトの関係を理解する
第9回	企業価値評価の考え方と手法	マーケットアプローチ・インカムアプローチ・コストアプローチによる評価方法の特徴を理解する
第10回	貸借対照表項目の予測	過去の財務比率や将来の仮定に基づいて予測貸借対照表を作成する
第11回	損益計算書項目の予測	過去の財務比率や将来の仮定に基づいて予測損益計算書を作成する
第12回	貨幣の時間的価値と割引計算・資本コスト	資本コストの推定方法を学習する
第13回	株主価値評価の理論①	配当割引モデルと超過利益モデルを学習する
第14回	株主価値評価の理論②	予測財務諸表と超過利益モデルから株主価値を推定する方法を学習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

S.H. ペンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリエーション』、有斐閣、2018 年。

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015 年

K.G. バレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記 3 級程度 (簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ) ならびに企業評価Ⅰ (春学期) の内容を理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、該当科目を履修してからこの授業を受講してください。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. In this course, students will learn more advanced content from Business Analysis and Valuation I. Topics that will be covered are advanced ROE analysis, preparation of forecasted financial statements and valuation models.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Comprehend financial ratios and performance indicators and be able to utilize them to understand the underlying corporate characteristics
2. Understand the relationship between return on capital (ROA and ROE), cost of capital, and corporate (shareholder) value
3. To be able to prepare forecasted financial statements
4. Understand how to estimate shareholder value using forecasted financial statements

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content since the contents of each class are highly related.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on term-end exam (100%).

MAN300FC

経営分析Ⅲ

福多 裕志

経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1982年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下す。本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。まず春学期では、製造業の財務諸表データに基づき各種の財務比率を計算し、企業や業界が内包する「問題点の所在の推定」を目指す。

【到達目標】

本講義では、経営分析の領域の一つである財務諸表分析にはほぼ焦点を絞り講義する。経営分析Ⅰでは、実在する上場製造企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、財務体質の基本的な捉え方を学習する。この結果、参加者は、(1) 財務諸表分析の基本手続き (2) データベースを利用した財務指標の算出、(3) 安全性、効率性、収益性、成長性に関する具体的指標の算出と解釈について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【重要】

第1回目の授業（ZOOM）を除き、キャンパス内での対面授業を実施する予定です。不明な点は、当授業の「授業内掲示板」までお尋ねください。ZOOM ID は、第1回目の授業迄に、当サイト上の「お知らせ」にて発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画の説明
第2回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的およびインターネット上の入手可能財務データの検索
第3回	財務諸表の枠組み：BSとIS	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念説明
第4回	財務諸表の枠組み：CFS	キャッシュ・フロー計算書および百分率財務諸表の構造。基本統計量のまとめ
第5回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標 - 流動比率、当座比率等の説明
第6回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標 - 自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等の説明
第7回	効率性：その1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標 - 総資本回転率、棚卸資産回転率等の説明
第8回	効率性：その2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、付加価値等の説明
第9回	収益性：その1	収益性の意味および主として売上高や資産と関連する指標 - ROS、ROE、ROA 等について説明
第10回	収益性：その2	オペレーティング・レバレッジ、変動費、固定費、総費用等の諸概念の確認
第11回	損益分岐点分析の基本	固定分解、最小二乗法
第12回	損益分岐点分析 - 短期利益計画への応用：その1	損益分岐点比率、安全余裕率
第13回	損益分岐点分析 - 短期利益計画への応用：その2	エクセル上での損益分岐点分析の展開

第14回 成長性および総括

代表的なストック項目およびフロー項目に関する増減率等の説明および春学期全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男編著『要説 経営分析 六訂版』森山書店、2022年。
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会、1995年。
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社、1999年。
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社、2002年。
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房、1994年。
- 6) 國貞克則『財務3表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版、2012年。
- 7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社、1996年。
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第2版』東洋経済新報社、2006年。
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会、2003年。
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010年。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 80%、発表 20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【重要事項】

感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもありうることを予めご了承ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「経営分析論Ⅰ」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【Outline (in English)】

【Course outline and objectives】

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we will focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools.

【Learning activities outside of classroom】

Participants are expected to ensure that they prepare and review for the class by solving assignments.

【Grading criteria】

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN300FC

経営分析Ⅳ

福多 裕志

経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1982年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下す。本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。秋学期では、製造業の財務諸表データに基づき幾つかの財務比率を計算し、その後、企業の合理的な経済的意思決定モデルと創出した会計情報の価値を算出する。

【到達目標】

本講義では、実在する上場企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、秋学期は株価関連指標から学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下での意思決定モデルを考察する。最終段階では、創出した財務情報の価値、価格付け等について学習する。この結果、参加者は、(1) 株価関連指標、(2) 総合評価の方法、(3) リスクおよび不確実性下での意思決定モデル、(4) 創出情報の価値算出等について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

当授業では、インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻りに同システムへのアクセスを推奨したい。

【重要】

第1回目の授業（ZOOM）を除き、キャンパス内での対面授業を実施する予定です。不明な点は、当授業の「授業内掲示板」までお尋ねください。ZOOM ID は、第1回目の授業迄に、当サイト上の「お知らせ」にて発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期講義計画および株価関連指標：その1	一株当たり利益、株価収益率等の検討
第2回	株価関連指標：その2	株価純資産倍率、株価キャッシュ・フロー倍率の説明と評価
第3回	外国企業の財務諸表分析：その1	オンライン・データベースよりグローバル企業の財務データ抽出と国際比較
第4回	外国企業の財務諸表分析：その2	EDGARより米国企業の財務情報を入力し、日米企業の財務体質比較
第5回	総合評価：その1	学習した各指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察
第6回	総合評価：その2	学習したさまざまな財務指標を活用し、企業の財務体質を統計的手法に基づき評価する方法を考察
第7回	経営分析の応用：その1	財務諸表分析情報に基づき、リスク下における意思決定原理－要求水準原理、最尤未来原理等－について考察
第8回	経営分析の応用：その2	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下における意思決定原理－ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等の考察
第9回	経営分析の応用：その3	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第10回	経営分析の応用：その4	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第11回	会計情報の価値Ⅰ	会計情報の一般的定義および情報価値計算の手続き
第12回	会計情報の価値Ⅱ	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズ定理等の学習
第13回	会計情報の価値Ⅲ	創出されたさまざまな情報の価値計算
第14回	会計情報の価値Ⅳ	会計情報の価値に関する問題演習とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻りにアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男編著『要説 経営分析 六訂版』森山書店、2022年。
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会、1995年。
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社、1999年。
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社、2002年。
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房、1994年。
- 6) 國貞克則『財務3表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版、2012年。
- 7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社、1996年。
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第2版』東洋経済新報社、2006年。
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会、2003年。
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010年。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 80%、発表 20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【重要事項】

感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもありうることを予めご了解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「経営分析論Ⅱ」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【Outline (in English)】

【Course outline and objectives】

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we focused our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. In 'Business Analysis II' comprehensive evaluation and decision-making process will be discussed based on ratios discussed in the spring semester.

【Learning activities outside of classroom】

Participants are expected to ensure that they prepare and review for each class by solving assignments.

【Grading criteria】

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN300FC

国際経営戦略論 I

安藤 直紀

経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

グローバル化が進化した現在、多くの企業が海外に進出し、企業活動を行っています。これは大企業に限ったことではなく、中小企業やスタートアップ企業も外国企業や外国市場にかかわる機会が増加しています。このため、グローバル経営戦略は、企業の経営戦略の重要な部分を占めるようになってきました。ですが、海外市場は日本とは異なる市場であり、日本と同じ方法で競争しても競争優位を得られるとは限りません。異なる環境下において、どのように競争優位を獲得するかは企業にとって重要な経営課題です。本講義では、本国とは異なるビジネス環境の中で、どのようにすれば現地のライバル企業に対して競争優位を得られるのかを学生が理解し、企業のグローバル経営戦略を分析できるようになることを目指します。このために必要とされるグローバル経営戦略に関連する理論を体系的に学びます。

【到達目標】

1. 学生は、企業が海外で直面するビジネス環境を理解します。
2. 海外市場への参入戦略、現地での経営戦略など、グローバル経営戦略を構成する各要素を理解します。
3. グローバル経営戦略の基礎的な理論を理解します。
4. グローバル経営戦略を理解するために必要な経営学や経済学の理論を理解します。
5. 企業のグローバル経営戦略を分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」と「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この講義の形態は、オンライン形式(オンデマンド)とします。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム(Hoppi)に掲載しますので、開講前に確認してください。2回目以降の参加方法は、学習支援システムに掲載します。

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義で使用するスライド等の資料は、学習支援システムの教材の中に置きます。理論や現状の説明だけでなく、事例研究も行います。授業の中で、課題にも取り組んでもらいます。課題の提出は学習支援システムを活用します。課題や質問へのフィードバックも学習支援システムを使用して行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	講義に関するオリエンテーション 国際経営とは何か
第2回	グローバル化	グローバル化の促進要因と企業への影響
第3回	グローバル・ビジネス環境(1)	企業が外国で直面する本国とは異なる政治・経済・法システム
第4回	グローバル・ビジネス環境(2)	新興経済と移行経済
第5回	文化的距離(1)	企業が外国で直面する本国とは異なる社会文化
第6回	文化的距離(2)	文化的距離のコミュニケーションへの影響
第7回	海外直接投資	海外直接投資の現状 海外直接投資の動機と類型
第8回	多国籍企業	多国籍企業の特徴
第9回	新興国からの多国籍企業	新興国を本国とする多国籍企業の特徴
第10回	企業の国際化理論(1)	企業の海外進出の動機を説明する理論
第11回	企業の国際化理論(2)	OLIパラダイム 内部化理論
第12回	企業の国際化理論(3)	企業の地理的多角化を説明する理論
第13回	エンタリー戦略(1)	いつ、どこに参入するのか
第14回	エンタリー戦略(2)	エンタリー・モードの類型と各類型の特徴

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義のための準備・復習時間は、各回2時間を標準とします。毎回の授業の後、次の授業までの間に、配布資料やノートの読み直し等、復習を行うことが求められます。

課題が出た場合は、課題を行うことが求められます。

下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。

1-2回：身近なグローバル化の例を見つける

3-4回：国を1つ選び、日本とのビジネス環境の違いを調べる

5-6回：国を1つ選び、文化の違いを調べる

7-8回：企業を1つ選び、海外進出の状況を調べる

9回：新興国を本国とする企業を1つ選び、海外進出の状況を調べる

10-12回：企業の国際化に関する理論を調べる

13-14回：完全子会社とジョイント・ベンチャーの違いを調べる

【テキスト(教科書)】

テキストは使用しません。補助的な材料として、学習支援システムにパワーポイント資料を掲載します。

【参考書】

浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003年

【成績評価の方法と基準】

下記の比率で評価します。

定期試験：100%

ただし、講義中に行う課題をプラス点として評価し、定期試験の点数に加算します。プラス点が加算された場合、合計点が100点を超えることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

理論の説明を補完するために、より多く企業の事例や各国の事情に関して言及します。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインによる講義を受講可能な情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

経営戦略論I/IIを履修しておくことと理解がより深まると思います。

【関連科目】

経営戦略論I/II

【Outline (in English)】

(Course outline)

As the world gets globalized, firms cross the national borders. Those including small- and medium-sized firms and startups are getting more engaged in international business. That is, global business strategy is an integral part of the strategic management. However, because of differences between the foreign markets and the home market, firms often fail to gain competitive advantages.

This course introduces students to key concepts and frameworks of international business studies. Students will understand how firms gain competitive advantages in foreign markets, and acquire a skill to analyze firms' success and failure in foreign markets.

(Learning objectives)

The goal of this course is to understand basics of global business strategy, which includes global business environment, foreign direct investment, and entry strategy. Students are also expected to understand the theoretical foundation of global business strategy. At the end of this course, students are expected to develop an ability to analyze firms' success and failure in foreign countries.

(Learning activities outside of classroom)

Students are required to complete assignments, read materials, and review the notes they took. Time for preparatory study and review for this class will be at least 2 hours each.

(Grading Criteria/Policies)

Students will be evaluated on term-end examination (100%). In-class exercises are added to term-end examination as bonus points.

MAN300FC

国際経営戦略論Ⅱ

安藤 直紀

経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進化した現在、多くの企業が海外に進出し、企業活動を行っています。これは大企業に限ったことではなく、中小企業やスタートアップ企業も外国企業や外国市場にかかわる機会が増加しています。このため、グローバル経営戦略は、企業の経営戦略の重要な部分を占めるようになっています。ですが、海外市場は日本とは異なる市場であり、日本と同じ方法で競争しても競争優位を得られるとは限りません。異なる環境下において、どのように競争優位を獲得するかは企業にとって重要な経営課題です。本講義では、本国とは異なるビジネス環境の中で、どのようにすれば現地のライバル企業に対して競争優位を得られるのかを学生が理解し、企業のグローバル経営戦略を分析できるようにすることを目指します。このために必要とされるグローバル経営戦略に関連する理論を体系的に学びます。

【到達目標】

1. 学生は、企業が海外で直面するビジネス環境を理解します。
2. 国際人材戦略、国際提携戦略など、グローバル経営戦略を構成する各要素を理解します。
3. グローバル経営戦略の基礎的な理論を理解します。
4. グローバル経営戦略を理解するために必要な経営学や経済学の理論を理解します。
5. 企業のグローバル経営戦略を分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」と「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この講義の形態は、オンライン形式（オンデマンド）とします。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム（Hoppii）に掲載しますので、開講前に確認してください。2回目以降の参加方法は、学習支援システムに掲載します。

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義で使用するスライド等の資料は、学習支援システムの教材の中に置きます。理論や現状の説明だけでなく、事例研究も行います。

授業の中で、課題にも取り組んでもらいます。課題の提出は学習支援システムを活用します。課題や質問へのフィードバックも学習支援システムを使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	講義に関するオリエンテーション グローバル経営戦略Ⅰの復習
第 2 回	国際経営戦略（1）	経営戦略の基礎 グローバル・インテグレーションと ローカル・レスポンスビジネス
第 3 回	国際経営戦略（2）	グローバル戦略
第 4 回	国際経営戦略（3）	マルチドメスティック戦略
第 5 回	国際経営戦略（4）	多国籍企業が戦略を実行するための組織
第 6 回	多国籍企業の地域戦略	多国籍企業の地域内拡大 地域内拡大のベネフィット
第 7 回	国際提携戦略（1）	国際戦略的提携の締結
第 8 回	国際提携戦略（2）	国際戦略的提携のマネジメント
第 9 回	国際提携戦略（3）	国際戦略的提携のリスク
第 10 回	言語障壁（1）	多国籍企業内での言語の役割
第 11 回	言語障壁（2）	言語障壁が多国籍企業に及ぼす影響
第 12 回	多国籍企業の人材戦略（1）	多国籍企業の人材政策の類型
第 13 回	多国籍企業の人材戦略（2）	海外派遣者のマネジメント
第 14 回	多国籍企業の人材戦略（3）	海外子会社の現地化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義のための準備・復習時間は、各回2時間を標準とします。毎回の授業の後、次の授業までの間に、配布資料やノートの読み直し等、復習を行うことが求められます。

課題が出た場合は、課題を行うことが求められます。

下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。

- 1 回：グローバル経営戦略Ⅰの内容の復習
- 2-5 回：製品やサービスを1つ選び、どのように海外に販売するか考える
- 6 回：全世界にビジネスを拡大することと、ヨーロッパや東南アジアなど地域内でのみビジネスを拡大することの違いを考える
- 7-9 回：国際戦略的提携の事例を調べる

10-11 回：言葉の壁が多国籍企業の経営に与える影響を考える

12-14 回：どのような場合に海外子会社の人材現地化を進めるべきか考える

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。補助的な材料として、学習支援システムにパワーポイント資料を掲載します。

【参考書】

浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003 年

【成績評価の方法と基準】

下記の比率で評価します。

定期試験：100 %

ただし、講義中に行う課題をプラス点として評価し、定期試験の点数に加算します。プラス点が加算された場合、合計点が100点を超えることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

理論の説明を補完するために、より多く企業の事例や各国の事情に関して言及します。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインによる講義を受講可能な情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

グローバル経営戦略論Ⅰと併せて履修してください。
経営戦略論Ⅰ/Ⅱを履修しておくとう理解がより深まると思います。

【関連科目】

経営戦略論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course outline】

As the world gets globalized, firms cross the national borders. Those including small- and medium-sized firms and startups are getting more engaged in international business. That is, global business strategy is an integral part of the strategic management. However, because of differences between the foreign markets and the home market, firms often fail to gain competitive advantages.

This course introduces students to key concepts and frameworks of international business studies. Students will understand how firms gain competitive advantages in foreign markets, and acquire a skill to analyze firms' success and failure in foreign markets.

【Learning objectives】

The goal of this course is to understand basics of global business strategy, which includes foreign subsidiary staffing, global strategic alliance, and standardization and localization strategies. Students are also expected to understand the theoretical foundation of global business strategy. At the end of this course, students are expected to develop an ability to analyze firms' success and failure in foreign countries.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to complete assignments, read materials, and review the notes they took. Time for preparatory study and review for this class will be at least 2 hours each.

【Grading Criteria/Policies】

Students will be evaluated on term-end examination (100%). In-class exercises are added to term-end examination as bonus points.

PRI300FC

統計学 I

猪狩 良介

経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、経営／ビジネスの現場において統計学とデータ分析のニーズが非常に高まっています。経営／ビジネスの場面で意思決定を適切に行うには、統計理論とデータに基づいて客観的に判断する必要があり、そのためには統計学の知識が必要です。本講義は、統計学の基礎的な理論と統計モデリングを学ぶとともに、それを経営分野のデータに応用することを目的としています。また、フリーの統計ソフト R を利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身につけます。

【到達目標】

- ・統計理論および様々な統計モデルを習得し、他の人に説明できる。
- ・統計ソフト R の使い方を習得し、実際のデータ分析を行うことができる。
- ・分析結果を解釈し、他の人に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・講義資料に沿って進めます。資料は Hoppii の「教材」より配布します。
 - ・講義と統計ソフトを利用したデータ分析演習の双方を行います。
 - ・この授業は対面で実施する予定です。
- ※授業の進め方はシラバス作成時点の予定です。今後変更になる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス / R のインストール	講義概要について説明します。また、統計ソフト R のインストールについて紹介します。
第 2 回	記述統計 / R の基本操作 (1)	データの特徴を見るための、平均・分散・標準偏差などを学びます。また、統計ソフト R の基本的な使い方を勉強します。
第 3 回	相関 / R の基本操作 (2)	複数の変数間の関係性を分析する共分散や相関について学習します。また、統計ソフト R の基本的な使い方を勉強します。
第 4 回	確率変数と確率分布	確率変数と主要な確率分布について学習します。
第 5 回	統計的推定	母集団と標本について学習します。また、点推定と区間推定について学習します。
第 6 回	仮説検定 (1)	母平均と母比率の仮説検定について学びます。
第 7 回	仮説検定 (2)	2 つの母集団の母平均と母比率の差の検定について学びます。
第 8 回	単回帰分析 (1)	単回帰分析と母数の推定法である最小 2 乗法について学びます。
第 9 回	単回帰分析 (2)	回帰係数の検定と決定係数について学びます。
第 10 回	重回帰分析 (1)	重回帰分析について学びます。
第 11 回	重回帰分析 (2)	多重共線性や変数選択について学びます。
第 12 回	ロジスティック回帰分析 (1)	2 値データを目的変数としたロジスティック回帰分析について学習します。また、最尤法について学習します。
第 13 回	ロジスティック回帰分析 (2)	ロジスティック回帰分析の予測値的中率の算出方法、AIC などについて学びます。
第 14 回	まとめ	本授業の復習とまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内に出題した演習課題をレポートとして提出します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

本橋永至 (2015) 「R で学ぶ統計データ分析」 オーム社

【参考書】

- ・小暮厚之 (2009) 「R による統計データ分析入門」 朝倉書店。
- ・金明哲 (2017) 「R によるデータサイエンス - データ解析の基礎から最新手法まで 第 2 版」 森北出版。

【成績評価の方法と基準】

- ・演習レポート (2～3 回を予定) : 50%
- ・期末レポート : 50%

【学生の意見等からの気づき】

データを用いた演習に重点を置き、より実践的な内容を扱います。

【学生が準備すべき機器他】

フリーの統計ソフト R を利用するパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

統計学入門
基礎統計学 I / II
経営のための統計学 II

【Outline (in English)】

【Course outline】

In recent years, the skills of Statistics and data analysis are required even in the management / business field. In addition, to properly make decisions in the management / business context, it is necessary to make objective judgments based on statistical theory and data, and that requires knowledge of statistics. In this course, we will learn about basic theory of Statistics and some statistical modeling, and apply them to data in the management field. In addition, we will acquire practical skills by performing actual data analysis using free statistical software R.

【Learning Objectives】

Students learn statistical theory and various statistical models, and can explain them to others.

Students learn how to use the statistical software R, and can perform actual data analysis.

Students can interpret the results of analysis and explain them to others.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to submit reports on the exercises given in the class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Exercise reports (several times): 50%.

Final report: 50%.

PRI300FC

統計学Ⅱ

高橋 慎

経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計データ分析は、分野を問わず重要なスキルです。本講義では、経済学や経営学を含む社会科学で扱うさまざまな種類のデータ（横断面・パネル・時系列・空間・テキストデータ）の分析について、基本理論と実証手法を学びます。また、フリーの統計ソフト R を利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身につけます。

【到達目標】

- ・統計データ分析の理論を習得する。
- ・統計ソフト R の使い方を習得し、実際のデータ分析を行うことができる。
- ・分析結果を解釈し、他の人に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
- ・授業で学習した内容について、演習課題を行い理解を深めます。
- ・演習課題の提出期限後の授業で、解答と解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要について説明します。また、データ分析の流れとデータの種類を概観します。
第 2 回	春学期の復習 1	統計ソフト R の基本操作と記述統計について復習します。
第 3 回	春学期の復習 2	回帰分析と一般化線形モデルについて復習します。
第 4 回	パネルデータ分析 1	差の差分分析を学びます。
第 5 回	パネルデータ分析 2	固定効果モデル、変量効果モデルを学びます。
第 6 回	時系列分析 1	時系列データの種類、自己相関関数を学びます。
第 7 回	時系列分析 2	自己回帰法とモデルの診断方法を学びます。
第 8 回	時系列分析 3	移動平均法、自己回帰移動平均法、モデルの選択方法を学びます。
第 9 回	空間データ分析 1	地図による空間パターンの視覚化を学びます。
第 10 回	空間データ分析 2	空間パターンのアニメーションを学びます。
第 11 回	テキストデータ分析 1	未加工のテキストの前処理、文書-用語行列、トピックの発見を学びます。
第 12 回	テキストデータ分析 2	テキストの類似性による著者の予測、予測の正確性を評価する手法（交差検証）を学びます。
第 13 回	データ分析事例の紹介	授業で扱った分析手法に関連する事例を紹介します。
第 14 回	まとめ	授業で扱った内容を復習し、発展的トピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・演習課題を解いて授業内容の復習と知識の定着を図ります。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

- ・山本勲 (2015) 『実証分析のための計量経済学』中央経済社
- ・今井耕介 (著)、粕谷祐子、原田勝孝、久保浩樹 (訳) (2018) 『社会科学のためのデータ分析入門 (上) (下)』岩波書店
- ・本橋永至 (2015) 『R で学ぶ統計データ分析』オーム社
- ・授業内でも適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習課題：50%
期末課題：50%

【学生の意見等からの気づき】

実践的な内容を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

フリーの統計ソフト R を利用するパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

- ・基礎統計学 I/II および経営のための統計学 I の知識を前提とします。
- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。
- ・受講人数が多い場合は、小テストを行い、その結果をもとに履修制限を行うことがあります。

【関連科目】

- ・統計学入門
- ・基礎統計学 I/II
- ・経営のための統計学 I

【Outline (in English)】

Statistical data analysis is an important skill in any field. In this course we learn the basic theory and empirical methods for analysing different types of data (cross-sectional, panel, time series, spatial and textual data). We will also acquire practical skills by performing real data analysis using the free statistical software R.

The main aims of the course are: to learn the theory of statistical data analysis; to learn how to use the statistical software R and to perform actual data analysis; and to be able to interpret and explain the results of the analysis to others.

You will be required to submit reports on the exercises. The standard preparation and revision time for this course is 2 hours each.

Grades will be based 50% on the exercises and 50% on the final reports.

MAN200FD

マーケティング・マネジメント論 I

竹内 淑恵

市場経営学科専門科目 200 番台 2~4 (市場経営学科) 3~4 (経営学科・経営戦略学科) 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
 営 2 年 Q~U

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、マーケティング・マネジメントについて学びます。STP (セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング) やマーケティングの 4 P (製品、価格、プロモーション、流通) などの伝統的なマーケティング概念、および先進的なマーケティング戦略を習得します。内容は 5 つの主要なテーマで構成されています。

1. マーケティングの本質と市場競争への対応
2. 顧客価値の発見と理解
3. 顧客価値の創造と提供
4. 顧客価値の説得と伝達
5. マーケティングの革新

なお、本講義では主にテーマ 1~3 を取り上げ、テーマ 3~5 はマーケティング・マネジメント論 II で学びます。

【到達目標】

- ・マーケティングの知識とスキルを習得し、マーケティングの重要性と役割を説明できるようになる。
- ・今日のマーケティングの本質を捉えた、顧客価値と顧客関係のための革新的なフレームワークを理解する。
- ・課題に取り組むことにより、文章作成力、情報収集と分析力を身につける。
- ・マーケティング理論やそれに関連したケーススタディを通じて企業経営に対して関心を持つ。
- ・生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」と「DP-5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- この授業は 1 回目はオンラインで、2 回目以降は対面で実施します。オンラインに切り替える場合には学習支援システムでお知らせします。
- ・毎週授業前日の火曜日に、講義資料を学習支援システムの「教材」にアップします。教室での資料配布は行いません。各自ダウンロードしてください。
 - ・授業の進め方と方法については初回授業 (オンラインで実施) で説明します。こちらの資料も上記と同様に「教材」に「ガイダンス資料」というファイル名で掲載する予定です。
 - ・中間レポート課題のテーマは Google Classroom に掲載します。提出先も Google Classroom です。
 - ・Google Classroom への登録が別途必要となります。クラスコード等の詳細は学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。
 - ・ゲストスピーカーによるマーケティング実務の講義を検討していますが、対面ではなく、オンラインによる講義になる可能性が高いです。なお、講演者名、テーマ、日程等の詳細は未定です。決まり次第、お知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス テーマ 1 : マーケティングの本質と市場競争 第 1 章 マーケティングの本質①	授業ガイダンスを行います。あわせてマーケティングの定義について学びます。
第 2 回	テーマ 1 : マーケティングの本質と市場競争 第 1 章 マーケティングの本質②	マーケティングの 5 つのステップについて学びます。
第 3 回	テーマ 1 : マーケティングの本質と市場競争 第 2 章 企業とマーケティング戦略①	顧客主導型マーケティング戦略の設計について学びます。
第 4 回	テーマ 1 : マーケティングの本質と市場競争 第 2 章 企業とマーケティング戦略②	マーケティング・プログラムの設計について学びます。
第 5 回	テーマ 1 : マーケティングの本質と市場競争 第 3 章 競争優位の創造①	競合他社の明確化と競合他社の分析、競合他社に対する自社のポジションの規定について学びます。
第 6 回	テーマ 1 : マーケティングの本質と市場競争 第 3 章 競争優位の創造②	特定の市場における競争優位を得るための競争的マーケティング戦略について学びます。

第 7 回	テーマ 2 : 顧客価値の発見と理解 第 4 章 マーケティングの基本枠組み①	STP の S(市場細分化) と T(ターゲティング) について学びます。
第 8 回	テーマ 2 : 顧客価値の発見と理解 第 4 章 マーケティングの基本枠組み②	STP の P(ポジショニング) と差別化について学びます。
第 9 回	テーマ 2 : 顧客価値の発見と理解 第 5 章 マーケティング情報とカスタマー・インサイト①	マーケティング情報の抽出、カスタマー・インサイトについて学びます。
第 10 回	テーマ 2 : 顧客価値の発見と理解 第 5 章 マーケティング情報とカスタマー・インサイト②	マーケティング情報の分析と利用、マーケティング・リサーチについて学びます。
第 11 回	テーマ 2 : 顧客価値の発見と理解 第 6 章 消費者の購買行動①	消費者行動に影響を与える特性、購買行動のタイプについて学びます。
第 12 回	テーマ 2 : 顧客価値の発見と理解 第 6 章 消費者の購買行動②	購買者の意思決定プロセスについて学びます。
第 13 回	テーマ 3 : 第 3 部 : 顧客価値の創造と提供 第 7 章 製品、サービス、ブランド①	製品とは何か、サービス・マーケティングについて学びます。
第 14 回	テーマ 3 : 第 3 部 : 顧客価値の創造と提供 第 7 章 製品、サービス、ブランド②	ブランド・エクイティ、ブランディングについて学びます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
- ・教科書には、基本的な理論の説明やそれに関連する事例の紹介があります。マーケティングを知るには、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報に敏感になること、また、実際の売り場を見ることも大切です。教科書による学習だけでなく、「今、市場で起こっていること」に興味を持ち、自分の目と耳で確認するよう心掛けてください。

【テキスト (教科書)】

- ・フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人著 『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版 (2014 年)。

【参考書】

- ・西尾ナツル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版 (2007 年)。
- ・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦 『マーケティング戦略第 5 版』有斐閣アルマ (2016 年)。
- ・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編集 『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎 (2016 年)。

【成績評価の方法と基準】

- 成績評価は、①+②の合計 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。
- ①中間レポート
- ・提出締め切り日の 1 ヶ月前にはテーマを発表します。
 - ・40 点満点で採点します。
- <レポート提出の注意事項>
- ・レポート課題を作成する際の剽窃行為は厳に慎んでください。web などから文章や図表、画像を引用する場合は URL、記事タイトル、アクセス日を明記してください。
 - ・提出物のファイル名、本文の冒頭に学生証番号と氏名を記載してください。本科目には受講生が多数います。他の受講生の提出物と識別できるように、各自このルールを守ってください。
 - ・レポート課題は基本的に書かれた内容で評価しますが、指定文字数よりも少ない場合には減点の対象となります。
 - ・中間レポート未提出の場合、成績評価に大きく影響しますので、必ず提出してください。
 - ・一人ひとりにコメントを戻す予定ですが、コメントに基づいて修正・再提出の必要はありません。
- ②学期末テスト
- ・学期末テストの期間中に教室にて実施するか、あるいは学習支援システムの「テスト/アンケート」にて実施するかについては現時点では確定できません。詳細は決まり次第お知らせします。
 - ・3 択形式と穴埋め形式、60 点満点です。設問数等の詳細についても上記同様決まり次第お知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

この3年間、提出されたレポート課題については、一人ひとりに良い点、改善点などをフィードバックしました。提出したレポートが褒められると励みになった、という声が寄せられました。一人ひとりにコメントを書くのはとても時間がかかりますが、頑張ってフィードバックしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンでは画面が小さく、視聴しづらいので、タブレットやノートPCなどを準備の上、受講するようお願いします。

【その他の重要事項】

・マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱは、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱなどマーケティング系の専門科目の基盤となる科目です。マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属する、あるいは所属したいと考えている学生は受講することをお勧めします。

・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計20年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論をわかりやすく講義します。

【Outline (in English)】

Course outline: The objectives of this course are to learn marketing management. Students will learn the traditional marketing concepts such as STP (segmentation, targeting, positioning), marketing 4P's (product, price, promotion, place), and advanced marketing strategies. The content consists of five main themes:

1. Essence of marketing and addressing market competition,
2. Identifying and understanding customer value,
3. Creating and delivering customer value,
4. Persuading and communicating customer value,
5. Innovation in marketing.

Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), and term-end examination (60%).

MAN200FD

マーケティング・マネジメント論Ⅱ

竹内 淑恵

市場経営学科専門科目 200 番台 2~4 (市場経営学科) 3~4 (経営学科・経営戦略学科) 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、マーケティング・マネジメントについて学びます。STP (セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング) やマーケティングの 4 P (製品、価格、プロモーション、流通) などの伝統的なマーケティング概念、および先進的なマーケティング戦略を習得します。内容は 5 つの主要なテーマで構成されています。

1. マーケティングの本質と市場競争への対応
2. 顧客価値の発見と理解
3. 顧客価値の創造と提供
4. 顧客価値の説得と伝達
5. マーケティングの革新

なお、本講義はマーケティング・マネジメント論Ⅰに続いて開講します。Ⅱからの履修も可能ですが、扱うテーマは 3 以降になります。

【到達目標】

- ・マーケティングの知識とスキルを習得し、マーケティングの重要性と役割を説明できるようになる。
- ・今日のマーケティングの本質を捉えた、顧客価値と顧客関係のための革新的なフレームワークを理解する。
- ・課題に取り組むことにより、文章作成力、情報収集と分析力を身につける。
- ・マーケティング理論やそれに関連したケーススタディを通じて企業経営に対して関心を持つ。
- ・生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」と「DP-5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- この授業は 1 回目はオンラインで、2 回目以降は対面で実施します。オンラインに切り替える場合には学習支援システムでお知らせします。
- 毎週授業前日の火曜日に、講義資料を学習支援システムの「教材」にアップします。教室での資料配布は行いません。各自ダウンロードしてください。
- 授業の進め方と方法については初回授業 (オンラインで実施) で説明します。こちらの資料も上記と同様に「教材」に「ガイダンス資料」というファイル名で掲載する予定です。
- 中間レポート課題のテーマは Google Classroom に掲載します。提出先も Google Classroom です。
- Google Classroom への登録が別途必要となります。クラスコード等の詳細は学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。
- ゲストスピーカーによるマーケティング実務の講義を検討していますが、対面ではなく、オンラインによる講義になる可能性が高いです。なお、講演者名、テーマ、日程等の詳細は未定です。決まり次第、お知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマ 3 : 顧客価値の創造と提供 第 8 章 新製品開発と製品ライフサイクル戦略①	新製品開発のプロセス、マネジメントについて、また製品ライフサイクル学びます。
第 2 回	テーマ 3 : 顧客価値の創造と提供 第 8 章 新製品開発と製品ライフサイクル戦略②	製品ライフサイクルの戦略について学びます。
第 3 回	テーマ 3 : 顧客価値の創造と提供 第 9 章 マーケティング・チャンネルによる顧客価値の提供①	サプライ・チェーンと価格提供ネットワーク、チャンネル・コンフリクトについて学びます。
第 4 回	テーマ 3 : 顧客価値の創造と提供 第 9 章 マーケティング・チャンネルによる顧客価値の提供②	マーケティング・システム、チャンネル設計に関する意思決定について学びます。
第 5 回	テーマ 4 : 顧客価値の説得と伝達 第 10 章 価格設定①	市場状況と価格設定戦略について学びます。
第 6 回	テーマ 4 : 顧客価値の説得と伝達 第 10 章 価格設定②	価格調整戦略、価格変更について学びます。

第 7 回	テーマ 4 : 顧客価値の説得と伝達 第 11 章 コミュニケーションによる顧客価値の説得①①	統合型マーケティング・コミュニケーションについて学びます。
第 8 回	テーマ 4 : 顧客価値の説得と伝達 第 11 章 コミュニケーションによる顧客価値の説得②	マーケティング・コミュニケーションの開発プロセス、予算設定について学びます。
第 9 回	テーマ 4 : 顧客価値の説得と伝達 第 12 章 広告とパブリック・リレーションズ①	広告戦略の展開について学びます。
第 10 回	テーマ 4 : 顧客価値の説得と伝達 第 12 章 広告とパブリック・リレーションズ②	広告媒体の選定、パブリック・リレーションズについて学びます。
第 11 回	テーマ 4 : 顧客価値の説得と伝達 第 13 章 人的販売と販売促進①	人的販売、セールス・フォースの管理について学びます。
第 12 回	テーマ 4 : 顧客価値の説得と伝達 第 13 章 人的販売と販売促進②	販売促進について学びます。
第 13 回	テーマ 5 : マーケティングの革新 第 14 章 ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング①	ダイレクト・マーケティングの捉え方と形態について学びます。
第 14 回	テーマ 5 : マーケティングの革新 第 14 章 ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング②	オンライン・マーケティングの実施について学びます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
- ・教科書には、基本的な理論の説明やそれに関連する事例の紹介があります。マーケティングを知るには、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報に敏感になること、また、実際の売り場を見ることも大切です。教科書による学習だけでなく、「今、市場で起こっていること」に興味を持ち、自分の目と耳で確認するように心がけてください。

【テキスト (教科書)】

- ・フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人著 『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版 (2014 年)。

【参考書】

- ・西尾チズル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版 (2007 年)。
- ・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦 『マーケティング戦略第 5 版』有斐閣アルマ (2016 年)。
- ・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編集 『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎 (2016 年)。

【成績評価の方法と基準】

- 成績評価は、①+②の合計 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。
- ①中間レポート
 - ・提出締め切り日の 1 ヶ月前にはテーマを発表します。
 - ・40 点満点で採点します。
 - <レポート提出の注意事項>
 - ・レポート課題を作成する際の剽窃行為は厳に慎んでください。web などから文章や図表、画像を引用する場合は URL、記事タイトル、アクセス日を明記してください。
 - ・提出物のファイル名、本文の冒頭に学生証番号と氏名を記載してください。本科目には受講生が多数います。他の受講生の提出物と識別できるよう、各自このルールを守ってください。
 - ・レポート課題は基本的に書かれた内容で評価しますが、指定文字数よりも少ない場合には減点の対象となります。
 - ・中間レポート未提出の場合、成績評価に大きく影響しますので、必ず提出してください。
 - ・一人ひとりにコメントを戻す予定ですが、コメントに基づいて修正・再提出の必要はありません。
- ②学期末テスト

・学期末テストの期間中に教室にて実施するか、あるいは学習支援システムの「テスト／アンケート」にて実施するかについては現時点では確定できません。詳細は決まり次第お知らせします。

・3 択形式と穴埋め形式、60 点満点です。設問数等の詳細についても上記同様決まり次第お知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

この3 年間、提出されたレポート課題については、一人ひとりに良い点、改善点などをフィードバックしました。提出したレポートが褒められると励みになった、という声が寄せられました。一人ひとりにコメントを書くのはとても時間がかかりますが、頑張ってフィードバックしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンでは画面が小さく、視聴しづらいので、タブレットやノート PC などを準備の上、受講するようお願いいたします。

【その他の重要事項】

・マーケティング・マネジメント論 I/II は、消費者行動論 I/II、マーケティング・リサーチ I/II、サービス・マネジメント論 I/II、流通論 I/II、製品開発論 I/II などマーケティング系の専門科目の基盤となる科目です。マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属する、あるいは所属したいと考えている学生は受講することをお勧めします。

・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論をわかりやすく講義します。

【Outline (in English)】

Course outline: The objectives of this course are to learn marketing management. Students will learn the traditional marketing concepts such as STP (segmentation, targeting, positioning), marketing 4P's (product, price, promotion, place), and advanced marketing strategies. The content consists of five main themes:

1. Essence of marketing and addressing market competition,
2. Identifying and understanding customer value,
3. Creating and delivering customer value,
4. Persuading and communicating customer value,
5. Innovation in marketing.

Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), and term-end examination (60%).

ECN200FD

金融論 I (2019 年度以降入学者)

片桐 満

市場経営学科専門科目 200 番台 2~4 (市場経営学科) 3~4 (経営学科・経営戦略学科) 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

投資やお金に関して学ぶことは、将来、社会で生きていくために必須の知識になりつつあります。また、金融業界への就職やフィナンシャルプランナーなど金融に関する資格の取得を考えている学生はもちろん、金融以外の業種で働く人たちも、仕事を進めていく上で金融に関する様々な知識が求められます。このコースでは、投資やお金について、個人が生活していく上で必要な金融の知識や、経済における金融機関の役割など、金融論の基礎を学びます (秋学期の後半部分では、こうした金融の基礎知識を前提として、金融政策など金融に関わる政策や、財政や税金の仕組みなど、金融の公的側面について学びます)。

【到達目標】

このコースでは、金融理論が、個人々の生活や社会に出てからビジネスにおいてどのように役立つのか、という実務的な視点を重視します。実務と理論のつながりを理解し、金融に関する課題について、自分なりの解決方法が見いだすことができるだけの十分な知識を身につけることが、このコースの到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

特にテキストは指定せず、毎回、スライドに基づいた授業を行います。理論的な内容を含む授業は、動画を見直しながら学習できるようオンデマンド方式で配信し、そのほかの授業は、対面での授業を行います。現時点では、オンデマンド方式が 7 回、対面授業が 7 回の予定ですが、変更する可能性があります。また、実務とのつながりを重視する観点から、授業と関連する新聞や雑誌の記事を紹介し、授業の内容と関連付けながら解説します。オンデマンド授業については、リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	金融論 I の概要	金融論 I で学ぶ内容を概観します。
第 2 回	金利と債券	金利の役割を学んだのち、債券について解説します。
第 3 回	株式	株式市場について、証券会社の役割も含めて解説します。
第 4 回	資産価格の決定理論	CAPM やファクターモデルなど、資産価格 (= 株価) の決定理論を学びます。
第 5 回	デリバティブ (先物とオプション)	デリバティブの仕組みと金融市場での役割について解説します。
第 6 回	投資信託と保険	身近な金融商品である投資信託と保険について学びます。
第 7 回	間接金融の役割	金融機関を介した金融仲介について、金融市場との違いを中心に学びます。
第 8 回	金融仲介機関 (銀行)	銀行を中心として、金融仲介機関が間接金融で果たす役割を学びます。
第 9 回	金融のデジタル化	電子マネーや暗号資産など、金融のデジタル化について解説します。
第 10 回	為替レートと海外投資	金融のグローバル化に伴う海外投資と為替レートについて学びます。
第 11 回	為替レートの決定	為替レートを決定する理論として、購買力平価と金利平価について学びます。
第 12 回	企業の資本調達	株式や借入れなど、企業の資金調達手段の選択について解説します。
第 13 回	資産運用のプラン	これまでの授業を踏まえ、資産運用について発表・ディスカッションします。
第 14 回	起業とベンチャーキャピタル	ベンチャーキャピタルとは何かを解説し、起業における役割を学びます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。復習では、以下に挙げる参考文献のほか、関連する新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えてください。

【テキスト (教科書)】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考文献として、以下の教科書を参照します。

・内田浩史「金融」(有斐閣)

・ブリーリー他「コーポレート・ファイナンス 第 10 版 (上)」(日経 BP)

【成績評価の方法と基準】

評価は、中間レポート (30%) と期末試験 (70%) に基づいて決定します。リアクションペーパーは、提出しなかったり、内容が著しくひどかったりした場合のみ、テストの点から減点していきます。

【学生の意見等からの気づき】

・ 期末試験だけではなく、授業への参加度を評価に加えて欲しいという要望があったため、オンデマンド授業について、リアクションペーパーの提出を求めることにします。

・ グループディスカッションの機会を設けて欲しいという意見があったため、今学期から、中間レポートに基づくディスカッションを取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

教材の共有のため学習支援システムを利用します。オンデマンドの映像教材も含まれるため、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

・ 春学期・秋学期の金融論 I/II を連続で履修することを推奨します。

・ 日本銀行や国際通貨基金 (IMF) において、金融の実務に 15 年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

【関連科目】

「ファイナンス入門」を受講していることが望ましいです (必須ではありません)。そのほか、コーポレートファイナンス I/II、デリバティブ入門 I/II、国際金融論 I/II と関連しています。

【Outline (in English)】

Learning about investments and money is becoming essential knowledge for future life in society. In addition, students who wish to work in the financial industry after graduation, as well as those who work in non-financial industries, are required to have a variety of knowledge about finance in order to carry out their work. In this course, students will learn the basics of financial theory necessary for individuals to live their lives, as well as the role of financial institutions in the economy. (In the latter part of the fall semester, based on this basic knowledge of finance, students will learn about policies related to finance, such as monetary policy, and the public sector of finance, including fiscal and tax systems). The goal of this course is for students to understand the connection between practice and theory and to acquire sufficient knowledge to be able to find their own solutions to financial problems. After the class, students are expected to review what they learned in class and read articles in newspapers and magazines related to the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The grades are based on the final exam (70%) and mid-term report (30%).

ECN200FD

金融論Ⅱ（2019年度以降入学者）

片桐 満

市場経営学科専門科目 200 番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

投資やお金に関して学ぶことは、将来、社会で生きていくために必須の知識になりつつあります。また、金融業界への就職やフィナンシャルプランナーなど金融に関する資格の取得を考えている学生はもちろん、金融以外の業種で働く人たちも、仕事を進めていく上で金融に関する様々な知識が求められます。このコースでは、春学期の金融論Ⅰで学んだ金融の基礎知識を前提として、金融政策や金融規制など金融に関わる政策や、財政の仕組み（年金、社会保険、税金など）について学びます。

【到達目標】

このコースでは、金融理論が個々人の生活や社会に出てからのビジネスにおいてどのように役立つのか、という実務的な視点を重視します。実務と理論のつながりを理解し、金融に関するビジネス上の課題について、自分自身の解決方法が見いだせるだけの十分な知識を身につけることが、このコースの到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

特にテキストは指定せず、毎回、スライドに基づいた授業を行います。理論的な内容を含む授業は、動画を見直しながら学習できるようオンデマンド方式で配信し、そのほかの授業は、対面での授業を行います。現時点では、オンデマンド方式が7回、対面授業が7回の予定ですが、変更する可能性があります。また、実務とのつながりを重視する観点から、授業と関連する新聞や雑誌の記事を紹介し、授業の内容と関連付けながら解説します。毎回、リアクションペーパーの提出を求め、それに基づき授業内容などを微修正する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	金融論Ⅱの概要	金融政策や金融規制、財政の仕組みなど、金融論Ⅱを概観します。
第2回	金融政策の手段	伝統的な金融政策の基本となる金融調節と短期金融市場について学びます。
第3回	金融政策の効果	金融政策が、経済活動やインフレ率に影響する仕組みを学びます。
第4回	金融政策の運営	金融政策がどう決定されているか（されるべきか）を学びます。
第5回	非伝統的金融政策	資産買入政策やゼロ金利政策等、新たな金融政策の枠組みを学びます。
第6回	財政1：税の仕組み	生活やビジネスで必須となる様々な税の仕組みを学びます。
第7回	財政2：年金と社会保険	個人の資金計画で重要な年金と社会保険（介護、医療など）を学びます。
第8回	財政3：財政と金融政策	国債発行と財政インフレを中心に、金融政策と財政の関係を学びます。
第9回	為替市場と通貨危機	為替介入や通貨危機の原因・帰結について学びます。
第10回	日本の財政・金融政策	授業内容を踏まえ、日本の財政・金融政策について発表・議論します。
第11回	金融危機の発生と影響	金融危機の発生メカニズムとその影響について学びます。
第12回	事後のブルーデンス政策	金融危機への政策対応として、銀行の破綻処理などについて学びます。
第13回	事前のブルーデンス政策	金融危機を未然に防ぐ政策として、自己資本比率規制などを学びます。
第14回	デジタル通貨	デジタル通貨と金融・ブルーデンス政策との関係について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。復習では、以下に挙げる参考文献のほか、関連ある新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考文献として、以下の教科書を参照します。

- ・内田浩史「金融」（有斐閣）
- ・小林照義「金融政策（ベーシック+）」（中央経済社）

- ・白川方明「中央銀行—セントラルバンカーの経験した39年」（東洋経済新報社）
- ・土居丈朗「入門 財政学 [第2版]」（日本評論社）

【成績評価の方法と基準】

評価は、中間レポート（30%）と期末試験（70%）に基づいて決定します。リアクションペーパーは、提出しなかったり、内容が著しく酷かったりした場合、テストの点から減点していきます。

【学生の意見等からの気づき】

- ・期末試験だけではなく、授業への参加度を評価に加えて欲しいという要望があったため、オンデマンド授業について、リアクションペーパーの提出を求めることにします。
- ・グループディスカッションの機会を設けて欲しいという意見があったため、今学期から、中間レポートに基づくディスカッションを取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

教材の共有のため学習支援システムを利用します。オンデマンドの映像教材も含まれるため、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

- ・春学期・秋学期の金融論Ⅰ/Ⅱを連続で履修することを推奨します。
- ・日本銀行や国際通貨基金（IMF）において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

【関連科目】

ミクロ経済学、マクロ経済学が関連科目ですが、事前履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

Financial economics is essential knowledge for businesspersons in any industry. In this class, students study introductory financial economics such as the role of financial markets and financial institutions in the spring term and then learn about public policy including monetary policy and financial regulations in the fall term. The goal of this class is to acquire sufficient knowledge about financial economics for resolving business challenges. After the class, students are expected to review what they learned in class and read articles in newspapers and magazines related to the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The grades are based on (1) the final exam (70%), and (2) the mid-term report (30%).

MAN200FD

マーケティング・リサーチ論 I (2019 年度以降入学者)

西川 英彦

市場経営学科専門科目 200 番台 2~4 (市場経営学科) 3~4 (経営学科・経営戦略学科) 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

たくさんの商品企画の実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。

はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、講義を行う。本授業は、インタビュー法や観察法など、定性的調査の理論と実践を学ぶことを目的としている。

なお、マーケティング・リサーチ論 I (春学期) はインタビュー法などの定性的調査、II (秋学期) はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

【到達目標】

到達目標は、以下の 2 点である。

① ケースをもとに、インタビュー法や観察法、リード・ユーザー法などの定性調査のスキルを身につける。

② 簡単な定性調査を行い、商品企画の仮説となるレポート (企画書) を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

＜授業の進め方＞

授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深める。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行う。

＜教科書による事前学習＞

事前に教科書を読み、該当章の重要なキーワードや、その理由を学習支援システムの「テスト/アンケート」の項目から提出する (採点対象：3 点 x9 回分=27 点満点)。講師は、重要なコメントをいくつか選び、匿名 (ニックネーム) にして、電子テキストにアップする。授業で紹介時に、発言された場合には加点する (1 点)。

さらに、講師が、授業の補足情報を、電子テキストにアップするので、予習や復習がしやすくなる。

そのため、教科書は、大学生協の電子テキストを購入すること。なお、こうした双方向型の授業をおこなうために、講師は生協より電子テキストへのメーカーやコメントなどの個人ログデータの提供をうける場合がある。

＜授業中の課題＞

授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に簡単な課題に回答する (採点対象：2 点 x14 回=28 点満点)。

＜事後の課題＞

授業後に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出する。講師はいくつか選び、匿名 (ニックネーム) にして、次の授業でフィードバックを行う。なお、授業で紹介し、発言された場合は加点する (1 点)。

＜レポート＞

定性調査を用いた商品企画について、パワーポイントやキーノート等を用いて企画書を作成して、PDF 形式で提出する (採点対象：45 点満点)。詳細は授業の中で説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	商品企画プロセスにおけるリサーチの重要性	テキスト第 1 章：ライオン「トップナノックス」の商品企画プロセス+教科書について
第 2 回	リサーチの最前線 (ゲスト講師①)	「日清食品のマーケティングとリサーチ」深澤勝義氏 (日清食品ホールディングス株式会社 執行役員・CMO 兼 欧州総代) 講演
第 3 回	インタビュー法	テキスト第 2 章：資生堂「マジョリカ マajorカ」のインタビュー法
第 4 回	観察法	テキスト第 3 章：デザイン企業 IDEO による ATM 開発の観察法
第 5 回	リード・ユーザー法	テキスト第 4 章：フェリシモ「生活雑貨大賞」のリード・ユーザー法

第 6 回	アイデア発想	テキスト第 5 章：TOTO「クラッソ」のアイデア創出 + 最終レポートの詳細説明
第 7 回	コンセプト開発	テキスト第 6 章：エースコック「JANJAN ソース焼きそば」のコンセプト開発
第 8 回	リサーチの最前線 (ゲスト講師②)	「ワークマンの商品企画とリサーチ」林知幸氏 (株式会社ワークマン営業企画部 広報部 部長) 講演
第 9 回	プロトタイピング (試作品)	テキスト第 7 章：IDEO「ショッピング・カート」のプロトタイピング
第 10 回	コンセプトテスト (定量調査)	テキスト第 10 章：ハウス「C1000 ビタミンレモンカラーゲン」の顧客ニーズの確認
第 11 回	企画書作成	テキスト第 14 章：フジッコ「フルーツセラビー」の企画書作成
第 12 回	プレゼンテーション	テキスト第 15 章：グリコ「メンズポッキー」のプレゼンテーション
第 13 回	早期優秀レポートの報告	早期優秀レポート作成者によるプレゼンテーション
第 14 回	優秀レポートの報告	優秀レポート作成者によるプレゼンテーション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前学習として、電子テキストの次回の章を読んで、該当章の重要なキーワードや、その理由を学習支援システムに提出する。また、授業終了後は、授業の感想や質問を学習支援システムに提出する。さらに、レポートを授業時間外に作成して、学期末に提出する。

【テキスト (教科書)】

教科書として、『1 からの商品企画』(西川英彦・廣田章光編著、碩学舎 2012 年)の大学生協の電子テキストを使用する。大学生協にて、電子テキスト (税別生協定価 2,000 円) を購入のこと。なお、紙版 (税別定価 2,400 円) もあるが、授業やフィードバックは電子テキストをもとに進めるので注意すること。

法政大学生協のホームページを確認して、早めに購入すること。

https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html

電子テキストを購入後に、以下の URL からログインして、電子テキスト (EDX UniText) を利用する。

<https://app.d-text-service.jp/api/v2/soshiki-cd-nyuryoku>

なお、組織コードは、10035 である。ログイン ID、パスワードは、購入後に設定できる。

【参考書】

ベルク・フィッシャー・コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年

【成績評価の方法と基準】

・事前学習 (教科書を読んだコメント)：27% 授業で紹介時に、発言された場合には加点する。

・授業中の課題 (授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」への回答)：28%

・レポート (いずれかの定性調査と、それを利用した商品企画アイデア)：45%

・授業中の発言：加点 (1 点) あり。

・授業後の課題 (学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出)：授業で紹介時に、発言された場合には加点 (1 点) する。

・早期レポートの提出者・報告者：全体のレポートの質向上のために、早期提出者には全員加点 (10 点) ありだが、その目的のため、当日参加 (授業中課題の提出) が条件。教員の指名した優秀レポートの報告者には 2 点加点。

・最終レポートの報告者：教員の指名した優秀レポートの報告者には 2 点加点。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が難しかったプロセスを考慮して、2 点を改善した。

① レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。

② 全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

【学生が準備すべき機器他】

電子テキストを利用するため、パソコンあるいはタブレットを用意すること。スマホでも閲覧可能だが、パソコンやタブレットを推奨する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論、基礎統計学 I/II、統計学 I/II である。

授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

【Outline (in English)】

Let's learn the basics and methods of marketing research through many empirical examples of product development. In order to make it easier for students who learn marketing research for the first time to understand, the lecture will be based on actual cases and specific examples of research on the theme of "product development" where marketing research is often used.

The purpose of this class is to learn the theory and practice of qualitative research, such as interview and observation methods. Students are required to read the textbook before the class, submit comments after the class, and submit a report (a proposal for product planning) at the end of the semester.

Grades will be determined by prior study (27%), in-class exercises (28%), and a final report (45%).

In Marketing Research I (spring semester), students will learn qualitative research such as interview methods, and in Marketing Research II (fall semester), students will learn quantitative research such as questionnaire creation and data analysis. By studying both, a synergistic effect can be expected.

MAN200FD

マーケティング・リサーチ論Ⅱ（2019年度以降入学者）

西川 英彦

市場経営学科専門科目 200 番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

たくさんの実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。

はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」や「マーケティング」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、双方の講義と簡単な演習を行う。

なお、I（春学期）はインタビューや観察法などの定性的調査、II（秋学期）はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

【到達目標】

到達目標は、以下の2点である。

- ①具体例をもとに、アンケート作成やデータ分析などの定量調査のスキルを身につける。
- ②簡単な定量調査を行い、商品企画の仮説を検証するレポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

＜授業の進め方＞

授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深める。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行う。

演習は、無料統計ソフト R を用いるが、配布するマニュアル通りに入力すれば分析できるので、数学が苦手な学生でも大丈夫である。講義では、学生アシスタントの操作画面を映しつつ、説明する。難しい数式は、使いませんので安心ください。

＜授業中の課題＞

授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に簡単な課題に回答する（採点対象 56%）。講師は、重要なコメントをいくつか選び、匿名（ニックネーム）にして、電子テキストにアップする。授業で紹介時に、発言された場合には加点する。

＜事後課題＞

授業後に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出する。講師は、いくつか選び、匿名（ニックネーム）にして、電子テキストにアップする。授業で紹介時に、発言された場合には加点する。

＜レポート＞

主に定量調査を用いた商品（サービス）の調査書や、パワーポイントやキーノート等を用いて作成して、PDF 形式で提出する。詳細は授業の中で説明する（採点対象 44%）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	定量調査の楽しさ	定量調査の概要 ・勘と経験ではダメな理由 ・データ分析が必要な理由 リサーチプロセスを知ろう！
第 2 回	リサーチデザイン	・課題の定義と仮説、探索的調査と検証的調査、R の使い方 お弁当の売上の「平均」と「標準偏差」を知ろう！ ・「平均」 ・「標準偏差」
第 3 回	データの特徴	SNS のフォロワー数と投稿数の関係を知ろう！ ・相関分析 ・無相関検定
第 4 回	データの関係①	バナー広告とクリック有無の関係を調べよう！ ・独立性の検定 ・適合度の検定
第 5 回	データの関係②	

第 6 回	データの差	クーポン配信前後の購入数を比較して、クーポンの効果があるかを検証しよう！ ・t 検定
第 7 回	因果関係	ドリンクの売上に影響を与えている要因は何だろうか！ ・回帰分析
第 8 回	データの集約	ノートパソコンの価値を要約しよう！ ・因子分析
第 9 回	報告書	SNS での実名と匿名ユーザーの行動の報告書など ・レポートの説明
第 10 回	アンケート	アンケートのつくり方 ・尺度、Google アンケート
第 11 回	サンプリング	大学生対象時のサンプルの選び方 ・サンプリング
第 12 回	リアルタイム講義 リサーチの最前線（ゲスト講演）	高垣敦郎氏（元ハウス食品 お客様生活研究センター長） ・講演と質疑 ・高垣氏の著書は参考文献に記載
第 13 回	リアルタイム講義 早期優秀レポートの報告	早期レポートの報告とフィードバック ・成果の共有
第 14 回	リアルタイム講義 優秀レポートの報告	優秀レポートの報告とフィードバック ・成果の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習をしつつ、最終レポートを授業時間外に作成すること。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストとして、レジュメを授業支援システムにアップする。

【参考書】

恩蔵直人・富田健司『1 からのマーケティング分析（第 2 版）』碩学舎、2022 年
山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年
高垣敦郎『「おいしい」のマーケティングリサーチ』碩学舎、2015 年

【成績評価の方法と基準】

・授業中の課題（授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」への回答）：56%

・レポート（いずれかの定量調査と分析結果）：44%

・授業中の発言：加点あり

・授業後の課題（学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出）：教員が紹介したコメントには加点あり。

・早期レポートの提出・報告者：全員加点あり（早期レポート制度）。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が難しかったプロセスを考慮して、3 点を改善した。

①レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。

②全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告を提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

③基本編と解説編を分けて説明する。

【学生が準備すべき機器他】

第 2 回以降は、統計ソフト R を利用するため、パソコンをご用意ください。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング・リサーチ論Ⅰ、マーケティング入門、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。

授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

【Outline (in English)】

Let's learn the basics and methods of marketing research through examples of many product planning. To make it easier for students to learn about marketing and research for the first time, this class gives interactive lectures and exercises based on actual corporate cases with the theme of "product planning" and "marketing" where research is often used and the concrete examples of research. In the spring semester, students will study qualitative surveys such as interviews and observation methods, and in the fall semester, they will study quantitative surveys such as questionnaire creation and data analysis. By learning both, a synergistic effect can be expected.

The goals are as follows.

(1) To acquire skills in quantitative research, such as questionnaire creation and data analysis, based on specific examples.

(2) To be able to conduct simple quantitative research and create a report to verify a hypothesis for product planning.

In addition to the class time, students are expected to review this class and prepare a final report. The standard preparation and review time for this class is one hour each.

Grades will be determined by in-class exercises (56%) and reports (44%).

MAN200FD

消費者行動論 I

赤松 直樹

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 2~4 (市場経営学科) 3~4 (経営学科・経営戦略学科) 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

消費者の行動は、非常に微妙なものに左右されてしまいます。昨日まで飛ぶように売れていたブランドが、突然売れなくなってしまいます。一体何が消費者の行動を規定しているのでしょうか。当授業では、このような消費者行動について、さまざまな角度から講義します。履修者は、消費者行動に関する体系的な知識を獲得できるようにし、マーケティング戦略の構築との関連性を意識して、より効果的な消費者戦略を想定しながら受講することが必要になります。

【到達目標】

当日の履修者は、消費者行動に関する基礎的な知識獲得のために、2020 年までに展開されてきた消費者行動研究の枠組みとその流れを把握できるようになることを目的とし、また消費者認知・消費者態度・消費者行動という3つの視点を置きながら、消費者とマーケティング戦略に関する応用的な知識の獲得を目指します。とりわけ、ブランドマーケティングの実践を想定した消費者に関する知識の獲得ができるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

本年度は、オンライン型での開講を予定しています。「消費者行動論 I」では、消費者行動に関する体系的な基礎知識を学習します。特に消費者の行動を規定する消費者の心理プロセスに着目し、消費者行動モデルを基にして、その行動を規定する様々な要因を考察していきます。

【授業の方法】

当科目は、主に講義形式 (オンデマンド (動画配信) 型) により授業を進めます。加えて、毎回、配布資料 (pdf) を使用します。授業内容の復習として、授業中ないし授業後に取り組み課題 (数問) を学習支援システムから課す場合があります。第 2 回以降の授業の構成は下記になります。

- ①予習：配布資料、教科書を読み込む
- ②授業中：ネット配信によるオンデマンド (動画配信) 型の講義を視聴
- ③復習：次回の授業までに学習支援システムから数問の設問に回答、もしくは、配布資料やその他関連資料を用いて復習

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	消費者行動とマーケティング	消費者行動とマーケティングとの関係を中心にして、当科目の概要を説明します。
第 2 回	消費者行動の分析フレーム	消費者行動の分析レベル、購買行動分析の視点と枠組み、消費者行動の分析モデルを解説します。
第 3 回	消費者行動研究の系譜	消費者行動研究の源流とその系譜について解説します。
第 4 回	消費行動と消費パターンの分析	生活資源配分と消費行動、消費様式の選択メカニズムについて解説します。また、消費者行動の変化、家事の外部化と消費の多様化、インターネットが変える消費者行動について解説します。
第 5 回	情報処理メカニズム	情報処理メカニズム、処理能力と処理資源、情報処理モデルについて解説します。
第 6 回	銃砲処理の動機づけと能力	動機、動機づけ、動機づけられるメカニズム、関与について解説します。
第 7 回	購買意思決定の分析	購買意思決定プロセスを中心に情報処理の多様性を解説します。
第 8 回	購買前の情報処理	情報の探索と解釈について解説します。
第 9 回	購買時の情報処理	低関与・情報処理、情報処理のモード、相互適応的な情報処理について解説します。
第 10 回	購買後の情報処理	購買後の再評価、再評価と満足、消費者間の社会的相互作用について解説します。
第 11 回	購買意思決定プロセスとマーケティング	情報処理プロセスをベースにして、購買意思決定とマーケティングとのかわりを解説します。

第 12 回	店舗内における消費者行動 (1)	店舗内における消費者の行動と心理について解説します。
第 13 回	店舗内における消費者行動 (2)	小売店舗が管理するブランド (プライベートブランド) と消費者の認知について解説します。
第 14 回	消費者行動とブランド	今日の消費者を取り巻く環境を整理した上で、ブランドの重要性について解説します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容に関する消費者の認知・態度・行動について、自分もしくは身近な隣人の様子を観察して、ノートに整理してください。授業で詳解する様々な理論やモデルを適用して、その様子を自分なりに分析してください。そして、それに対応する有効なブランドマーケティング戦略を考案してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012 年
青木幸弘『消費者行動の知識』、日経文庫、2010 年
田中洋・清水聰、『消費者・コミュニケーション戦略』、有斐閣アルマ、2006 年
新倉貢士、『消費者の認知世界』、千倉書房、2005 年

【成績評価の方法と基準】

ネット配信によるオンデマンド (動画配信) 型の講義となり、復習課題 (学習支援システムから課す数問の設問) への回答 (20%) とレポート課題 (80%) によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの担当なので、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットを利用できる機器を準備してください。
配布資料 (pdf) を用意する予定です。

【関連科目】

マーケティング論 I / II、マーケティング・リサーチ I / II

【Outline (in English)】

This class provides the skills and ability required to use knowledge of consumer behavior theory. Students will gain a methodology for better brand marketing practices.

Major course objectives are;

-To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.

-To acquire the ability to use knowledge of consumer behavior theory.

The grade is based on the responses to the lecture tasks (the questions asked from the learning support system) (20%) and the report task (80%).

MAN200FD

消費者行動論Ⅱ

新倉 貴士

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

消費者の行動は、非常に微妙なものに左右されてしまいます。昨日まで飛ぶように売れていたブランドが、突然売れなくなってしまいます。一体何が消費者の行動を規定しているのでしょうか。当授業では、このような消費者行動について、さまざまな角度から講義します。履修者は、消費者行動に関する体系的な知識を獲得できるようにし、マーケティング戦略の構築との関連性を意識して、より効果的な消費者戦略を想定しながら受講することが必要になります。

【到達目標】

当日の履修者は、消費者行動に関する基礎的な知識獲得のために、これまでに展開されてきた消費者行動研究の枠組みとその流れを把握できるようにすることを目的とし、また消費者認知・消費者態度・消費者行動という3つの視点を置きながら、消費者とマーケティング戦略に関する応用的な知識の獲得を目指します。とりわけ、ブランドマーケティングの実践を想定した消費者に関する知識の獲得ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

授業の形態は、講義として進めます。講義中に紹介するアカデミックな内容について、実際の消費現象やマーケティング戦略と関連ながら理解を深めるように授業に取り組んでください。

「消費者行動論Ⅰ」では、消費者行動に関する体系的な基礎知識を学習します。特に消費者の行動を規定する消費者の心理プロセスに着目し、消費者行動モデルを基にして、その行動を規定する様々な要因を考察していきます。これらを踏まえた「消費者行動論Ⅱ」では、メーカーと消費者との橋渡し役をするブランドに着目して、両者のコミュニケーションのあり方を様々な角度から理解していきます。

【授業の方法】

オンデマンドによる講義形式により授業を進めます。

毎回パワーポイントによるスライドを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	当科目についての全体的な概要を説明します。
第2回	消費者行動とブランドマーケティング	ブランドをベースにした消費者行動とマーケティングとの関係を説明します。
第3回	ブランドのアイデンティティとイメージ	メーカーの理想的なブランドアイデンティティが、消費者のブランドイメージにどのように変換されるかを説明します。
第4回	ブランド認知	ブランド認知について、その分類や機能を説明します。
第5回	ブランド連想	消費者の知識構造をベースにした連想のあり方を説明します。
第6回	ブランド態度①	ブランド態度の機能や構造について説明します。
第7回	ブランド態度②	ブランド態度の形成や変容のプロセスについて説明します。
第8回	ブランドロイヤルティ	ブランドロイヤルティ概念について様々な角度から説明します。
第9回	ブランドエンゲージメント	ブランドエンゲージメントについて説明します。
第10回	ブランドスイッチング	ブランドスイッチングについて説明します。
第11回	ブランドの信頼	ブランドへの信頼とはどのようにあるべきかを説明します。
第12回	ブランドマーケティングの事例	ブランドマーケティングの事例について紹介します。
第13回	消費者行動研究とブランドマーケティング研究の歴史	消費者行動研究とブランドマーケティング研究の歴史的展開について説明します。
第14回	授業のまとめ	これまでの授業内容の総括を行い、体系的な知識の確認をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各8時間を標準とします。授業内容に関する消費者の認知・態度・行動について、自分もしくは身近な隣人の様子を観察して、ノートに整理してください。授業で詳解する様々な理論やモデルを適用して、その様子を自分なりに分析してください。そして、それに対応する有効なブランドマーケティング戦略を考案してください。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012年

青木幸弘『消費者行動の知識』、日経文庫、2010年

田中洋・清水聰、『消費者・コミュニケーション戦略』、有斐閣アルマ、2006年

新倉貴士、『消費者の認知世界』、千倉書房、2005年

【成績評価の方法と基準】

消費者行動論Ⅱ：最終試験（100%）にて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

適切な速度で授業を進めるように予定しています。

読みやすい資料となるように予定しています。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドに対応できるように情報処理機器を準備して下さい。

【その他の重要事項】

【関連科目】

マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ

【受講上の注意】

マーケティング論Ⅰ/Ⅱを履修した上で受講することが望ましい。

消費者行動論Ⅰを履修した上で受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is a series of lectures, structured to give students some of the basic, fundamental understandings on consumer behavior and brand marketing strategy.

To understand consumer, students will learn consumer's cognition, attitude, and behavior.

Major course objectives are;

-To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.

-To learn consumer information processing.

-To understand brand marketing strategy.

-To get creative skills of marketing plans.

MAN200FD

流通論 I

金 雲 鎬

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済の基本は生産と消費ですが、高度に分業化されている現代社会では、生産と消費を結びつける流通が不可欠です。ところが、多くの人は流通を「商品の流れ?」「お店?」「トラックでの配送?」といったように、曖昧に認識しているのが現状です。この授業では、日用用語レベルで何となく知っている「流通」について、体系的に深く理解することを目指します。

【到達目標】

到達目標は、流通というものの全体像を把握し、現実には起きている流通に関する出来事（たとえば、都市型ミニスーパーの誕生や、コンビニとメーカーの共同開発など）を流通論の視点から分析できるようになることです。この目標のために、この授業では、流通の理論や分析アプローチなどを体系的に学びます。適宜、事例を学び、それを活用しながら理論や分析アプローチを体系的に理解していきます。

さらに流通はマーケティングとコインの表裏関係にあります。マーケティング理論の知識をうまく活用することによって流通知識を深めることもできますので、授業では、適時、マーケティング理論を取上げながら流通観点を再解釈を行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

受講者数が多いので、基本的にオンデマンド（映像・資料配信）での開講となります。

春学期は、流通論の理論や分析アプローチ、そして主要概念を体系的に学んでいきます。出来る限り、現実の問題と関連させて学習を進めていきます。

秋学期は、春学期で学んだことを現実のビジネスと対応させて深く理解のために、われわれ消費者にもっとも身近な流通業である小売業に焦点を当て、そのビジネスの特徴を現実のケースを通じて多面的に学んでいきます。秋学期の小売ビジネスのケースを通じた学習により、抽象的になりがちな学習内容を現実と結びつけて理解できるようになると思います。

なお、秋学期の内容を深く理解するためには、春学期の内容をpushしておくほうがよいため、通年で履修をお勧めします。

*オンデマンド授業ですが、授業動画をずっと溜めておいて試験直前にまとめて受講するとあまり学習効果が期待できません。授業動画がアップデートされたら 2 週間以内に受講するようにしてください。もちろんこの期間は何度受講してもかまいません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	マーケティングと流通の関係 1	マーケティングとは何か。さまざまなマーケティング。商学の学び方、授業の進め方について解説する。
第 2 回	マーケティングと流通の関係 2	S-T-P パラダイムと流通
第 3 回	流通とは何か	流通とは何か、その全体像を学ぶ。商業者の存在意義について学ぶ。
第 4 回	流通とマーケティング 1	製品差別化と流通
第 5 回	流通とマーケティング 2	流通系列化とチャネル
第 6 回	流通におけるパワー関係の変化 1	パワーとは何か。信頼とは何か。
第 7 回	流通におけるパワー関係の変化 2	小売チェーン経営
第 8 回	小売主導の流通 1	製販統合について学ぶ
第 9 回	小売主導の流通 2	PB について学ぶ
第 10 回	小売と卸売	小売と卸売の異質性について学ぶ
第 11 回	流通における革新	業態が革新を中心に学ぶ
第 12 回	流通におけるデジタル化 1	流通企業の在庫管理と IT、サプライヤーとの関係と IT について学ぶ
第 13 回	流通におけるデジタル化 2	IT を活用した顧客関係の管理について学ぶ
第 14 回	総括	全体授業内容を総括し、復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、予習より復習が重要です。オンデマンド映像を視聴した後で、復習として、授業計画の「内容」に示されたテキストや参考書の該当章を読み直すことが求められます。加えて、日々の生活において、流通に関する現象を意識して観察しておく、授業の理解がよりスムーズになると思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。適時、資料を配布（事前にダウンロードできるようにします）します。

【参考書】

横山斉理（2019）『小売構造ダイナミクス』有斐閣、4180 円（税込）
高嶋克義・高橋郁夫（2020）『小売経営論』有斐閣、2860 円（税込）
高嶋克義・桑原秀史（2008）『現代マーケティング論』有斐閣、2200 円（税込）
高嶋克義（2012）『現代商業学』有斐閣アルマ、2090 円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 = 100 %。
成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の受講環境を考慮した対応をとります。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【その他の重要事項】

流通はマーケティングの前提となる現象ですので、マーケティング関係科目に興味がある人は流通論を積極的に履修してください。マーケティング・マネジメント論 I/II、マーケティング・リサーチ論 I/II、消費者行動論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II は特に流通論と関連が深い科目です。学びに相乗効果が見込めます。

【Outline (in English)】

The basis of the economy is production and consumption, but in a highly divided modern society, distribution that connects production and consumption is indispensable. However, many people are vaguely aware of distribution. In this class, we aim to systematically and deeply understand distribution. The objective of the class is for students to be able to grasp the overall picture of distribution phenomena and to be able to analyze real-life events from the perspective of distribution theory. Students are expected to spend two hours each on preparation and review for the class. Grades will be based on the final exam score, with a score of 60 out of 100 being acceptable.

MAN200FD

流通論Ⅱ

金 雲鎬

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済の基本は生産と消費ですが、高度に分業化されている現代社会では、生産と消費を結びつける流通が不可欠です。ところが、多くの人は流通を「商品の流れ?」「お店?」「トラックでの配送?」といったように、曖昧に認識しているのが現状です。この授業では、日用用語レベルで何となく知っている「流通」について、体系的に深く理解することを目指します。

【到達目標】

到達目標は、流通というものの全体像を把握し、現実起きている流通に関する出来事（たとえば、都市型のミニスーパーの誕生や、コンビニとメーカーの共同開発など）を流通論の視点から分析できるようになることです。この目標のために、この授業では、流通の理論や分析アプローチなどを体系的に学びます。適宜、事例を学び、それを活用しながら理論や分析アプローチを体系的に理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

受講者数が多いので、基本的にオンデマンド（映像・資料配信）での開講となります。

春学期は、流通論の理論や分析アプローチ、そして主要概念を体系的に学んでいきます。出来る限り、現実の問題と関連させて学習を進めていきます。秋学期は、春学期で学んだことを現実のビジネスと対応させて深く理解ために、構造と関係、そして行動の観点で流通を捉えます。さまざまな流通現象が起こるメカニズムについても説明しますが、皆さんが考える授業を作りたいと思っています。

*オンデマンド授業ですが、授業動画をずっと溜めておいて試験直前にまとめて受講するとあまり学習効果が期待できません。授業動画がアップデートされたら 2 週間以内に受講するようにしてください。もちろんこの期間は何度受講してもかまいません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	商業とは何か	商業者の存在意義と流通費用
第 2 回	小売商業の構造	日本型流通の特質①
第 3 回	卸売商業の構造	日本型流通の特質②
第 4 回	生産者による流通系列化	日本型流通の特質③
第 5 回	パワー関係	流通におけるパワー関係はいかに形成されるか
第 6 回	信頼関係	ビジネス関係において信頼はいかに形成されるのか
第 7 回	チェーンストア理論	小売企業がいかにパワーを形成するようになったのか。チェーンストア経営のメリットと課題は何か
第 8 回	製販統合	小売業者が主導する流通現象①
第 9 回	PB 開発	小売業者が主導する流通現象②
第 10 回	商業におけるイノベーション	商業におけるイノベーションは何か。他の産業と何か違うのか。新しい小売業態はいかに生まれるのか。
第 11 回	デジタルと流通①	小売企業のデジタル戦略について伝統的なものから最新の取組まで紹介する
第 12 回	デジタルと流通②	前回の授業に続き、小売企業のデジタル戦略について事例を挙げながら解説
第 13 回	変化する卸売	卸売はいかに進化してきたのかを解説
第 14 回	流通論Ⅱのふりかえり	流通論Ⅱで何を学んだのかを内省する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、予習より復習が重要です。授業資料を毎回配布しますが、できるだけ詳細な内容を入れます。復習の際には動画と授業資料を参考にしながら、教科書も読んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高嶋克義 『現代商業学』 有斐閣

【参考書】

特に指定しません

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。内訳は、期末試験が 100 % です。

【学生の意見等からの気づき】

学生の受講環境を考慮した対応をとります。レポートの剽窃などの不正行為を防ぐための対応をとります。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【その他の重要事項】

流通はマーケティングの前提となる現象です。マーケティング関係科目に興味がある人は積極的に流通論を履修してください。マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチ論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱは特に流通論と関連が深い科目です。学びに相乗効果が見込めるのでオススメです。

【Outline (in English)】

The basis of the economy is production and consumption, but in a highly divided modern society, distribution that connects production and consumption is indispensable. However, many people are vaguely aware of distribution. In this class, we aim to systematically and deeply understand distribution. The objective of the class is for students to be able to grasp the overall picture of distribution phenomena and to be able to analyze real-life events from the perspective of distribution theory. Students are expected to spend two hours each on preparation and review for the class. Grades will be based on the final exam score, with a score of 60 out of 100 being acceptable.

MAN200FD

サービス・マネジメント論 I

木村 純子

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【就活でも休めない対面授業】

本講義はサービス・マネジメント論を机上の空論にするのではなく、各受講生がサービス・イノベーションにかかわるリサーチ・クエストを設定し、理論枠組みを説明し、仮説を導出し、データを集め、仮説を検証します。複数のアクティビティを通じて受講生は現実と理論を架橋する力を身につけます。スポーツに例えるならルールを知り技術を上げることになります。サービス・マネジメントの理論を用いて、研究とは何か（「ルール」）を理解し、授業内課題に複数回取り組むことで練習を重ね自身の研究の「技術」を高めます。

【到達目標】

サービス・マネジメント論の理論を理解し、研究の方法も学びます。各章でサービス・イノベーションに成功した事例を取り上げます。現象を説明するための理論枠組みを理解し、分析概念を定義した上で、取り上げた事例の具体的なデータを用いて自身の仮説を検証していきます。

活動を通じて、4 つの力を習得することを本講義の達成目標とします。

- 1) 自分で問題意識（リサーチ・クエスト）を設定する力
- 2) 具体的な事例からデータを収集する力
- 3) データを用いて自身の仮説を検証する力
- 4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP5」に関連が特に強く、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は毎週金曜日 13 時 10 分～14 時 50 分まで対面授業を実施します。

成績評価の方法は授業内レポート 100%です。

毎回、レポート課題を D、C-、C、C+、B-、B、B+、A-、A、A+、S の 11 段階で評価します。成績記入表をお配りしますので、みなさんはご自身の評価を書き留めておくようにしてください。平均点が本科目のあなたの成績になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 本講義の特徴	1) 【就活中でも休めない授業】が キャッチコピーの本講義の説明を します。 2) マーケティングの基本的概念
第 2 回	サービス・イノベーション①	サービス・イノベーション①の理論枠 組みの説明
第 3 回	サービス・イノベーション①	サービス・イノベーション①の理論を 用いた事例研究
第 4 回	サービス・イノベーション②	サービス・イノベーション②の理論枠 組みの説明
第 5 回	サービス・イノベーション②	サービス・イノベーション②の理論を 用いた事例研究
第 6 回	サービス・イノベーション③	サービス・イノベーション③の理論枠 組みの説明
第 7 回	サービス・イノベーション③	サービス・イノベーション③の理論を 用いた事例研究
第 8 回	ゲストスピーカー	調整中
第 9 回	サービス・イノベーション④	サービス・イノベーション④の理論枠 組みの説明
第 10 回	サービス・イノベーション④	サービス・イノベーション④の理論を 用いた事例研究
第 11 回	ゲストスピーカー	調整中
第 12 回	サービス・イノベーション⑤	サービス・イノベーション⑤の理論枠 組みの説明
第 13 回	サービス・イノベーション⑤	サービス・イノベーション⑤の理論を 用いた事例研究
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題に沿ったフィールドワークやインタビューなどの調査を行う場合があります。

本授業の準備学習と復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムを通じて適宜配布します。

【参考書】

適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

授業内レポート 100%

回数に関する事前予告なし。

毎回、レポート課題を D、C-、C、C+、B-、B、B+、A-、A、A+、S の 11 段階で評価します。成績記入表をお配りしますので、みなさんはご自身の評価を書き留めておくようにしてください。平均点が本科目のあなたの成績になります。

【欠席の扱い】

欠席 4 回以上で不合格（成績は D）。

第 1 回授業を除く 13 回中 3 回以下（出席率 77%以上）まで可能とします。

欠席が 4 回以上（欠席率 23%）は D 評価となり不合格です。欠席回数が増える
と平均点が D(0.7 未満)となる可能性があるのでご注意ください。

就職活動は欠席の理由になりません。欠席に対して別の課題をお出しすることは
ありません。コロナウイルスをはじめ体調にはくれぐれもご留意され授業に
取り組んでください。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ではなく学生同士のインタラクティブな演習形式を望む声がありましたので、
講義形式のみならず教員と学生、学生同士のインタラクティブな演習形式も
適宜取り入れることを試みます。

【その他の重要事項】

履修すべき関連科目「マーケティング論」「マーケティング・リサーチ」「消費者行動論」「製品開発論」「流通論」「国際マーケティング論」

著作権と肖像権の問題から講義資料のスマートフォン等を用いたあらゆる撮
影と録音を禁止させていただきます。

授業内レポートに取組む日の就職活動による「サービス・マネジメント論 I」「
サービス・マネジメント論 II」の欠席は欠席扱いといたします。理由は以下の
通りです。

(1) 4 年生春学期は就職活動で忙しくなる

4 年生の春学期は就職活動で授業を欠席する日が多くなるということは、1 年
生、2 年生、3 年生のころから先輩を見て知っていたはずですが、当該学期は単
位が取りにくくなることは織り込み済みだったわけですからどのように対処
すべきかも考えておくべきです。

(2) 本シラバスに記載されている

本講義の成績評価は授業内レポートに取組むことが明記されています。

(3) 欠席理由の確認が取れない

本当に就職活動で欠席したのかどうかを確認する手立てを講師は持っていま
せん。欠席者の中には企業からのメールを提出できるかもしれませんが、メ
ールがあることが実際に面接に行ったことの証拠にはなりません。場合によ
ってはメールではなく電話で企業から連絡が来る場合もあり、その学生との公
平性を欠くこととなります。

(4) 公平性

就活生を特別扱いするということが、毎週真面目に授業に出席し課題に取り
組んでいる学生に対する逆差別となります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, each student learns to, instead of making service
management theory mere a theory on the desk, 1) set a research question
related to service innovation, 2) explain the theoretical framework, 3)
form propositions (hypotheses), 4) collect data, and 5) verify hypotheses.
Through multiple activities, students gain the ability to bridge reality
and theory. Just like any types of sports, students learn academic
research rules and improve research skills.

【Learning Objectives】

Using the theory of service management, they understand what
research is (rules), and practice repeatedly by working on in-class tasks
over times to enhance their research skills.

【Learning activities outside of classroom】

You study this lecture with an emphasis on after class review. After
attending the lecture, please read and review the assigned sections
of the textbook. Assignments will be given in class as needed. The
standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Each time, the report assignment will be graded as a GP on a scale of
11: D, C-, C, C+, B-, B, B+, A-, A, A+, S. Your semester grade will be the
average of the total divided by the number of times given (GPA for this
course).

MAN200FD

サービス・マネジメント論Ⅱ

木村 純子

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 2～4 (市場経営学科) 3～4 (経営学科・経営戦略学科) 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

秋学期のキャッチコピー「出席しているだけでは受からない授業」
本講義はサービス・マネジメント論を机上の空論にするのではなく、各受講生がサービス・イノベーションにかかわるリサーチ・クエスチョンを設定し、理論枠組みを説明し、仮説を導出し、データを集め、仮説を検証します。複数のアクティビティを通じて受講生は現実と理論を架橋する力を身につけます。スポーツに例えるならルールを用いて、技術を上げることとなります。サービス・マネジメントの理論を用いて、研究とは何か(「ルール」)を理解し、授業内課題に複数回取り組むことで練習を重ね自身の研究の「技術」を高めます。

【到達目標】

サービス・マネジメント論の理論を理解し、研究の方法も学びます。
各章でサービス・イノベーションに成功した事例を取り上げます。現象を説明するための理論枠組みを理解し、分析概念を定義した上で、取り上げた事例の具体的なデータを用いて自身の仮説を検証していきます。

活動を通じて、4 つの力を習得することを本講義の達成目標とします。

- 1) 自分で問題意識(リサーチ・クエスチョン)を設定する力
- 2) 具体的な事例からデータを収集する力
- 3) データを用いて自身の仮説を検証する力
- 4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP5」に関連が特に強く、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は毎週金曜日 13 時 10 分～14 時 50 分まで対面授業を実施します。

授業の進め方と方法

教員のレクチャーによってサービス・マネジメントの理論を理解します。各受講生が理解したかどうかは毎回の授業内レポート課題によって確認します。レポートは学習支援システムを通じて 14 時 30 分までに提出します。(当日の授業の 14 時 50 分までに提出されたレポートのみ受け付けます。) 授業後や後日の提出は不可です。

成績評価の方法は授業内レポート 100%です。毎回、レポート課題を D、C-、C、C+、B-、B、B+、A-、A、A+、S の 11 段階で評価します。成績記入表をお配りしますので、みなさんはご自身の評価を書き留めておくようにしてください。平均点が本科目のあなたの成績になります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 本講義の特徴	1) [就活中でも休めない授業] がキャッチコピーの本講義の説明をします。 2) マーケティングの基本的概念
第 2 回	サービス・イノベーション①	サービス・イノベーション①の理論枠組みの説明
第 3 回	サービス・イノベーション①	サービス・イノベーション①の理論を用いた事例研究
第 4 回	サービス・イノベーション②	サービス・イノベーション②の理論枠組みの説明
第 5 回	サービス・イノベーション②	サービス・イノベーション②の理論を用いた事例研究
第 6 回	サービス・イノベーション③	サービス・イノベーション③の理論枠組みの説明
第 7 回	サービス・イノベーション③	サービス・イノベーション③の理論を用いた事例研究
第 8 回	ゲストスピーカー	調整中
第 9 回	サービス・イノベーション④	サービス・イノベーション④の理論枠組みの説明
第 10 回	サービス・イノベーション④	サービス・イノベーション④の理論を用いた事例研究
第 11 回	ゲストスピーカー	調整中
第 12 回	サービス・イノベーション⑤	サービス・イノベーション⑤の理論枠組みの説明
第 13 回	サービス・イノベーション⑤	サービス・イノベーション⑤の理論を用いた事例研究
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

課題に沿ったフィールドワークやインタビューなどの調査を行う場合があります。

本授業の準備学習と復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

授業支援システムを通じて適宜配布します。

【参考書】

適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

授業内レポート 100%

回数に関する事前予告なし。

毎回、レポート課題を D、C-、C、C+、B-、B、B+、A-、A、A+、S の 11 段階で評価します。成績記入表をお配りしますので、みなさんはご自身の評価を書き留めておくようにしてください。平均点が本科目のあなたの成績になります。

【欠席の扱い】

欠席 4 回以上で不合格(成績は D)。

第 1 回授業(4 月 24 日)を除く 13 回中 3 回以下(出席率 77%以上)まで可能とします。欠席が 4 回以上(欠席率 23%)は D 評価となり不合格です。欠席回数が増えると平均点が D(0.7 未満)となる可能性があるのご注意ください。

就職活動は欠席の理由になりません。欠席に対して別の課題をお出しすることはありません。コロナウイルスをはじめ体調にはくれぐれもご留意され授業に取組んでください。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ではなく学生同士のインタラクションを望む声がありましたので、講義形式のみならず教員と学生、学生同士のインタラクティブな演習形式も適宜取り入れることを試みます。

【その他の重要事項】

履修すべき関連科目「マーケティング論」「マーケティング・リサーチ」「消費者行動論」「製品開発論」「流通論」「国際マーケティング論」
著作権と肖像権の問題から講義資料のスマートフォン等を用いたあらゆる撮影と録音を禁止させていただきます。

授業内レポートに取組む日の就職活動による「サービス・マネジメント論Ⅰ」「サービス・マネジメント論Ⅱ」の欠席は欠席扱いといたします。理由は以下の通りです。

(1) 4 年生春学期は就職活動で忙しくなる

4 年生の春学期は就職活動で授業を欠席する日が多くなるということは、1 年生、2 年生、3 年生のころから先輩を見て知っていたはずですが。当該学期は単位が取りにくくなることは織り込み済みだったわけですからどのように対処すべきかも考えておくべきです。

(2) 本シラバスに記載されている

本講義の成績評価は授業内レポートに取組むことが明記されています。

(3) 欠席理由の確認が取れない

本当に就職活動で欠席したのかどうかを確認する手立てを講師は持っていません。欠席者の中には企業からのメールを提出できるかもしれませんが、メールがあることが実際に面接に行ったことの証拠にはなりません。場合によってはメールではなく電話で企業から連絡が来る場合もあり、その学生との公平性を欠くこととなります。

(4) 公平性

就活生を特別扱いするという事は、毎週真面目に授業に出席し課題に取り組んでいる学生に対する逆差別となります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, each student learns to, instead of making service management theory mere a theory on the desk, 1) set a research question related to service innovation, 2) explain the theoretical framework, 3) form propositions (hypotheses), 4) collect data, and 5) verify hypotheses. Through multiple activities, students gain the ability to bridge reality and theory. Just like any types of sports, students learn academic research rules and improve research skills.

【Learning Objectives】

Using the theory of service management, they understand what research is (rules), and practice repeatedly by working on in-class tasks over times to enhance their research skills.

【Learning activities outside of classroom】

You study this lecture with an emphasis on after class review. After attending the lecture, please read and review the assigned sections of the textbook. Assignments will be given in class as needed. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Each time, the report assignment will be graded as a GP on a scale of 11: D, C-, C, C+, B-, B, B+, A-, A, A+, S. Your semester grade will be the average of the total divided by the number of times given (GPA for this course).

MAN200FD

日本経営論 I

金 容 度

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第 1 に、国際比較を通じて日本の企業システムの特殊性と普遍性を理解すること、第 2 に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第 3 に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、学期ごとに 1 回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
第 2 回	日本の企業システムの特徴	企業内部の組織と活動、企業間関係などの特徴を概観する。
第 3 回	日本企業のトップマネジメント	戦後日本の経営者の属性とキャリア、経営上の特性、経営者報酬などについて講義する。
第 4 回	トップマネジメントの日米比較	20 世紀の日米企業の経営者にどのような共通点と相違点があるかを講義する。
第 5 回	日本のコーポレートガバナンス	日本企業のコーポレートガバナンス（企業統治）の特徴を検討する。
第 6 回	日本のコーポレートガバナンスの変化	1990 年代以降、日本のコーポレートガバナンスはどのように変化しているかを講義する。
第 7 回	コーポレートガバナンスの日独比較	日本とドイツのコーポレートガバナンスにどのような共通点と相違点を講義する。
第 8 回	コーポレートガバナンスの日米比較	日本とアメリカのコーポレートガバナンスにどのような共通点と相違点を講義する。
第 9 回	日本企業の研究開発	戦後日本企業の研究及び開発活動の特徴を講義する。
第 10 回	労使関係・人的資源管理の日米比較①	日本的経営の「3 種の神器」といわれるのがすべて労使関係及び人的資源管理と絡んでいる点に着目して、工業化初期における日米の労使関係・人的資源管理の共通点について講義する。
第 11 回	労使関係・人的資源管理の日米比較②	内部労働市場が形成された戦後日米企業で、70 年代まで、労使関係・人的資源管理上にどのような共通点と相違点があったかを講義する。
第 12 回	労使関係・人的資源管理の日米比較③	1980 年代以降最近まで、日米企業の労使関係・人的資源管理においてどのような共通点と相違点があったかを講義する。
第 13 回	日本企業の資金調達	戦後日本企業の資金調達行動を時期別に分析、講義する。
第 14 回	日本の企業経営の展望	今後の日本の企業経営の展望について講義、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストで毎週の授業分の内容を読んでから授業に参加すること。なお、授業補助資料がある週の授業には、「授業支援システム」にアップロードする授業補助資料を読んでから参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

金容度 (2023) 『日本経営論』博英社。なお、授業の補助資料は授業支援システムに掲載する。

【参考書】

- ①橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直 (2018) 『現代日本経済第 4 版』有斐閣
- ②金容度 (2021) 『日本の企業間取引』有斐閣
- ③小池和男 (1991)(2005) 『仕事の経済学』東洋経済新報社、第 1 版及び第 3 版
- ④鈴木良隆・大東英祐・武田晴人 (2004) 『ビジネスの歴史』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準は、期末試験 (70 %)、授業中の小試験 (30 %) である。授業中の小試験は 3 回行われる。また、ディスカッション時の発言者には加算点を与える上、ディスカッション・シート、授業中に作成する感想文 (1 回) についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション・シートなどで提出される受講者からの質問に答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語は絶対禁ずる。

【Outline (in English)】

【Course outline】Every week class consists of lecture, discussion on business management in Japan and Q&A. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on Japanese management by lecture, discussion and Q&A.

【Learning Objectives】The Learning Objective of this course is to understand business management in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.

【Learning activities outside of classroom】Attend every week class after reading the references. The references of every week class will be uploaded to the "Hoppii" one week before. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria /Policy】Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

MAN200FD

日本経営論Ⅱ

金 容 度

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視角から日本の企業間関係の現状と歴史を講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。具体的に、メインバンクシステム、企業間のもの取引（鉄鋼、自動車部品、半導体、液晶部材）が取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツである。

それによって、日本の企業間関係についての理解を深めると共に、企業間関係の諸現象を論理的に考える能力を高めることが本授業の目的である。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第 1 に、国際比較を通じて日本の企業間関係の特殊性と普遍性を理解すること、第 2 に、日本の企業間関係における組織性と市場性の両面を理解すること、第 3 に、日本の企業間関係の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、学期ごとに 1 回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業間関係をみる理由と視点	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義する。
第 2 回	日本の企業間関係の特徴と日米共通点	日本の企業間関係の特徴を概観すると共に、国際比較の視点から、企業間関係の日米共通点を考察する。
第 3 回	メインバンクシステム 1	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
第 4 回	メインバンクシステム 2	日本のメインバンクシステムの機能を考察する。
第 5 回	メインバンクシステム 3(日独比較)	ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する。
第 6 回	メインバンクシステム 4(新たな展開)	メインバンクシステムにおける新たな動きについて検討する。
第 7 回	自動車部品の企業間取引 1(日本の特徴)	日本のサプライヤーシステムの代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
第 8 回	自動車部品の企業間取引 2(日米比較)	日米の共通点に着目して、1900 年代～1910 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
第 9 回	自動車部品の企業間取引 3(日米比較②)	日米の共通点に着目して、1920 年代～40 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
第 10 回	自動車部品の企業間取引 4(日独比較)	ドイツと日本の自動車部品取引の共通点と相違点を分析する。
第 11 回	鉄鋼の企業間関係 1	「産業の米」といわれる素材、鉄鋼の企業間取引について検討する。
第 12 回	鉄鋼の企業間関係 2(日米比較)	自動車向け鉄鋼の企業間取引を事例に、日米間にどのような共通点と相違点が現れるかを考察する。
第 13 回	液晶部材の企業間関係	日本企業の競争力が極めて高い液晶部材産業を取上げ、企業間取引を検討する。
第 14 回	日本の企業間関係の展望	今後の日本の企業間関係の展望について講義、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストで毎週の授業分の内容を読んでから授業に参加すること。なお、授業補助資料がある週の授業には、「授業支援システム」にアップロードする授業補助資料を読んでから参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

金容度 (2023)『日本経営論』博英社。なお、授業の補助資料は授業支援システムに掲載する。

【参考書】

- ①金容度 (2021)『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造』有斐閣
- ② Kim,Yongdo(2015).The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd.
- ③金容度 (2006)『日本 IC 産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会
- ④浅沼萬里 (1997)『日本の企業組織革新的適応のメカニズム:長期取引関係の構造と機能』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

日本経営論Ⅱの成績評価基準は、期末試験 70 %、授業中の小テスト 30 % (1 回 10 % ×3 回)。また、ディスカッション時の発言者には加算点を与える上、ディスカッション・シート、授業中に作成する感想文 (1 回) についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

授業中、質問を受け付け、答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語を禁じる

【Outline (in English)】

【Course outline】 Every week class consists of lecture, discussion on the inter-firm relationships in Japan and Q&A. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on the inter-firm relationships by lecture, discussion and Q&A.

【Learning Objectives】 The Learning Objective of this course is to understand the inter-firm relationships in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.

【Learning activities outside of classroom】 Attend every week class after reading the references. The references of every week class will be uploaded to the "Hoppii" one week before. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria /Policy】 Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

MAN200FD

製品開発論 I

田路 則子

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 2~4 (市場経営学科) 3~4 (経営学科・経営戦略学科) 年次/2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

PC、TV、スマートフォン等ハイテク製品の進歩は目覚しく、我々の生活に便益を与えている。そのハイテク製品とは、どのような技術知識が統合されているのか、製品として世に出るまでにどのようなプロセスをたどるのか、どのような組織で製品開発は行われているのかを学ぶ。

顧客の満足度を高めるために、サイエンスを製品化することが製品開発である。サイエンスそのものを追求して研究することは理工系人材の仕事であるが、戦略上の位置づけを考えると、組織の設計や運営は、社会科学系人材の役割である。ハイテク産業のマネジメントについて理解を深めることが目標である。

【到達目標】

以下に関する知識を習得し、将来、製品開発に携わる職務に就いた際に役立つ考察力と判断力の基礎を固めることが目標である。

ハイテク製品を生み出す製品開発を学ぶ意義

・サイエンスとビジネスの関係、ハイテク製品がもたらす便益、製品開発を文科系が学ぶ意義

ハイテク製品の構造

・統合される多様な技術知識

・コスト構造

製品開発のプロセス

・研究、開発、製造、販売までのプロセス

・コンセプト・デザインの重要性

・マニファクチャリング (製造)

イノベーション

・市場と技術の関係

・イノベーションの定義

・ドミナント・デザインの決定

製品開発戦略

・競争戦略論と資源蓄積論

・ライセンス、アウトソーシング、アライアンス、ハイテク・スタートアップ

製品開発組織

・研究所と事業部

・プロジェクト・マネージャーの仕事

・グローバル市場への対応

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

原則、オンデマンド形式の講義となる。解説をする講義の映像を試聴しながら、ビジネスケースを読んだり、ビジネス映像を見て理解を深める。製品の感覚や製品開発の仕事のイメージが持てるようなメニューを用意している。

ほとんどの事例は、ビジネスケースが用意されているので、指示に従って、事前または事後に読むことが望ましい。ケースは大学院レベルのものを使用しているため、かなり難解である。ビジネス映像と解説講義を試聴した後に、受講生は設問に対する考察を、提出する必要がある。

春学期はラディカルイノベーション、コモディティ化、技術蓄積のテーマを扱う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	時計 (セイコーのクォーツ 1)	ラディカル・イノベーションとインクリメンタル・イノベーション
第2回	時計 (セイコーのクォーツ 2)	コモディティ化と統合型企業のジレンマ
第3回	時計 (セイコーのクォーツ 3)	コモディティ化の考察解説とその後のイノベーション
第4回	時計 (カシオの G-Shock1)	製品開発と事業化
第5回	時計 (カシオの G-Shock2)	グローバルブランドの構築
第6回	スイッチ (NKK1)	技術蓄積
第7回	スイッチ (NKK2)	海外展開と新市場創出
第8回	アライアンスとオープン・イノベーション	戦略的提携と外部資源の活用
第9回	医療機器 (テルモ 1)	組織改革
第10回	医療機器 (テルモ 2)	技術蓄積
第11回	医療機器 (テルモ 3)	事業ドメインの構築

第12回 炭素繊維 (東レ 1)

素材の製品開発と市場開拓

第13回 炭素繊維 (東レ 2)

川上から川下に広がる事業ドメイン

第14回 液晶テレビ (シャープ)

電子半導体産業におけるコモディティ化

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前または事後にビジネスケースを読む必要がある。事前にケースを読んだり、課題提出のために、2 時間程度の子習と、受講後の復習に 2 時間程度が必要となる。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

①「イノベーション・マネジメント」近能善範・高井文子 新世社 2010 年

②『ハイテク・スタートアップの経営戦略—オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子 東洋経済新報社 2010 年

③『MOT“技術経営”入門』延岡健太郎 日経新聞社 2006 年

【成績評価の方法と基準】

全部で 4 回程度の課題の提出及び最終課題 (またはテスト) によって評価する。毎回の課題の合計 (50%) と最終課題 (50%)。なお、映像とビジネスケースを理解しなければ、課題に答えることは難しいので、すべてを習得してほしい。

【学生の意見等からの気づき】

なじみのない製品を扱う回もあるが、映像や写真等を使うことにより、「製品を理解することができた」という意見は多かった。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドであるため、PC と wifi 環境がなければ、学習できない。

【その他の重要事項】

関連科目は、技術管理論 I/II、経営戦略論 I/II、国際経営論 I/II 等

【教員の研究テーマ】

「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」

「グローバル戦略」

「ハイテク・スタートアップの成長」

【主要研究業績】

①「起業プロセスと不確実性のマネジメント」田路則子 白桃書房 2020 年

②「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子「一橋ビジネスレビュー」第 65 巻号,pp172-184,2017 年。

③「IT ビジネスの興隆を支える移民のシリアル・アントレプレナー」田路則子・新谷優「研究技術計画」30 巻,pp.312-325,2016 年

④「Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,」Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287,2014

⑤「ハイテク産業における研究開発者のキャリア」田路則子『日本のキャリア論—専門職編』金井壽宏・鈴木竜太編著 白桃書房,pp.133 ~ 159,2013 年。

⑥「WEB ビジネスの起業家像—シリコンバレーのモバイル&ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第 10 巻 10 号, pp.753-774,2011 年

⑦「ハイテク・スタートアップの経営戦略—オープン・イノベーションの源泉」田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社,2010 年

⑧「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第 8 巻,5 号,pp211-231,2009 年

⑨「アーキテクチャル・イノベーション」田路則子, 白桃書房,2005 年

【Outline (in English)】

【Outline & Objectives】: Students learn how to integrate technological knowledge and manage the process of product development. Product development is to commercialize science/technology in order to increase customer satisfaction. Research & development is a task of engineering people. On the other hand, making a strategy and designing and operating organization is a task of people related to social science. This class has an objective of deep understanding management in high-tech industries.

【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases before or after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】: About four small reports and a final report/test

MAN200FD

製品開発論Ⅱ

田路 則子

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC、TV、スマートフォン等ハイテク製品の進歩は目覚しく、我々の生活に便益を与えている。そのハイテク製品とは、どのような技術知識が統合されているのか、製品として世に出るまでにどのようなプロセスをたどるのか、どのような組織で製品開発は行われているのかを学ぶ。

顧客の満足度を高めるために、サイエンスを製品化することが製品開発である。サイエンスそのものを追求して研究することは理工系人材の仕事であるが、戦略上の位置づけを考えること、組織の設計や運営は、社会科学系人材の役割である。ハイテク産業のマネジメントについて理解を深めることが目標である。

【到達目標】

以下に関する知識を習得し、将来、製品開発に携わる職務に就いた際に役立つ考察力と判断力の基礎を固めることが目標である。

ハイテク製品を生み出す製品開発を学ぶ意義

・サイエンスとビジネスの関係、ハイテク製品がもたらす便益、製品開発を文科系が学ぶ意義

ハイテク製品の構造

・統合される多様な技術知識

・コスト構造

製品開発のプロセス

・研究、開発、製造、販売までのプロセス

・コンセプト・デザインの重要性

・マニュファクチャリング（製造）

イノベーション

・市場と技術の関係

・イノベーションの定義

・ドミナント・デザインの決定

製品開発戦略

・競争戦略論と資源蓄積論

・ライセンス、アウトソーシング、アライアンス、ハイテク・スタートアップ

製品開発組織

・研究所と事業部

・プロジェクト・マネージャーの仕事

・グローバル市場への対応

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

原則、オンデマンド形式の講義となる。解説をする講義の映像を試聴しながら、ビジネスケースを読んだり、ビジネス映像を見て理解を深める。製品の感覚や製品開発の仕事のイメージが持てるようなメニューを用意している。

ほとんどの事例は、ビジネスケースが用意されているので、指示に従って、事前または事後に読むことが望ましい。ケースは大学院レベルのものを使用しているため、かなり難解である。ビジネス映像と解説講義を試聴した後に、受講生は設問に対する考察を考え、提出する必要がある。

秋学期はビジネスプラットフォーム、グローバル化、日米のスタートアップの事例を扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	カメラ（コダック）	イノベーションとドミナント・デザイン
第2回	カメラ（コダックと富士フィルム）	イノベーターのジレンマ
第3回	イメージセンサー（ソニー）	イノベーターズ・ジレンマと統合型企業のジレンマ
第4回	PC(Apple)	PCの誕生と進化
第5回	PC&スマートフォン (Apple)	ビジネス・プラットフォームの構築
第6回	ビジネスプラットフォーム	ビジネス・プラットフォーム
第7回	空調機（ダイキン工業 1）	欧州におけるローカリゼーション
第8回	空調機（ダイキン工業 2）	ダイキンのグローバル展開と人材育成・中国展開
第9回	スタートアップとは	スタートアップとは
第10回	シリコンバレーのスタートアップ 1	シリコンバレーの起業エコシステム

第11回 シリコンバレーのスタートアップ 2 シリコンバレーの IT ビジネス

第12回 日本のスタートアップ 1 IT ビジネスの起業プロセス・グラモ

第13回 日本のスタートアップ 2 半導体ビジネスの起業プロセス・RAYTEX

第14回 シリコンバレーのスタートアップ 3 半導体ビジネスの連続起業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前または事後にビジネスケースを読む必要がある。事前にケースを読んだり、課題提出のために、2時間程度の子習と、受講後の復習に2時間程度が必要となる。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

①『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年
②『ハイテク・スタートアップの経営戦略—オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子 東洋経済新報社 2010年

【成績評価の方法と基準】

全部で4回程度の課題の提出及び最終課題（またはテスト）によって評価する。毎回の課題の合計（50%）と最終課題（50%）。なお、映像とビジネスケースを理解しなくては、課題に答えることは難しいので、すべてを習得してほしい。

【学生の意見等からの気づき】

なじみのない製品を扱う回もあるが、VTRや写真等を使うことにより、「製品を理解することができた」という意見は多かった。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドであるため、PCとwifi環境がなければ、学習できない。

【その他の重要事項】

関連科目は、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、国際経営論Ⅰ/Ⅱ等

【教員の研究テーマ】

「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」

「グローバル戦略」

「ハイテク・スタートアップの成長」

【主要研究業績】

①『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年
②「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」櫻波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻号,pp172-184,2017年.
③「ITビジネスの興隆を支える移民のシリアル・アントレプレナー」田路則子・新谷優『研究技術計画』30巻,pp.312-325,2016年
④「Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,」Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287, 2014
⑤「ハイテク産業における研究開発者のキャリア」田路則子『日本のキャリア論—専門職編』金井壽宏・鈴木竜太編著 白桃書房, pp.133 ~ 159, 2013年.
⑥「WEBビジネスの起業家像—シリコンバレーのモバイル&ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第10巻10号, pp.753-774, 2011年
⑦『ハイテク・スタートアップの経営戦略—オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社, 2010年
⑧「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也, 『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第8巻, 5号, pp211-231, 2009年
⑨『アーキテクチャル・イノベーション』田路則子, 白桃書房, 2005年

【Outline (in English)】

【Outline & Objectives】: Students learn how to integrate technological knowledge and manage the process of product development. Product development is to commercialize science/technology in order to increase customer satisfaction. Research & development is a task of engineering people. On the other hand, making a strategy and designing and operating organization is a task of people related to social science. This class has an objective of deep understanding management in high-tech industries.

【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases before or after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】: About four small reports and a final report/test

ECN200FD

コーポレートファイナンス入門Ⅰ（2019年度以降入学者）

金 瑠 晋

市場経営学科専門科目 200 番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CFO と呼ばれる最高財務責任者は、様々な財務意思決定問題の解決策を見出さなければなりません。ここで、財務意思決定とは、投資案の評価、資金調達手段の選択、企業価値の評価、ペイアウト政策、買収・合併の決定、新規株式公開の決定、コーポレート・ガバナンス、財務リスク管理、国際財務管理など等があり、多岐に渡ります。なお、最高財務責任者が合理的な財務意思決定を行うためには、資金提供者である投資家の行動原理を理解する必要があります。例えば、企業価値の評価は、企業の経営者と投資家の両方の意思決定において極めて重要なプロセスです。この授業では、企業価値向上に関わる様々な財務意思決定問題を取り上げ、企業の最高財務責任者が、どのような考え方にに基づき、その問題を解決すべきかについて検討します。

【到達目標】

- ・キャッシュフローの時間価値の重要性が分かるようになります。
- ・投資案・金融資産・企業の価値が評価できるようになります。
- ・株式会社の経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
- ・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
- ・資金調達手段の選択について理解が深まります。
- ・配当・自社株買いに関する理解が深まります。
- ・財務リスクについて理解が深まります。
- ・経済・金融関連のニュースをより身近に感じるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP2-2」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を高く評価します。電卓（関数電卓を含む）を持参し、授業中に使用して構いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業と資本市場	企業組織の形態、株式会社の仕組みの理解、投資家とステークホルダー、資本市場の役割
第 2 回	財務諸表と情報	財務諸表からの情報と財務意思決定、市価と簿価、キャッシュフローの重要性
第 3 回	キャッシュフローの時間価値 1	キャッシュフローの割引現在価値・将来価値、資産評価と無裁定均衡の理解
第 4 回	キャッシュフローの時間価値 2	特殊なキャッシュフローを持つ場合の割引現在価値の計算、表計算ソフトを用いた計算例
第 5 回	債券と株式の評価	マネーの時間価値の応用、債券の理論価格、債券の利回り、株式の理論価格、配当割引モデル、企業成長と株価値
第 6 回	投資の意思決定 1	プロジェクト評価の諸手法、正味現在価値、内部収益率、回収期間法、収益性指標
第 7 回	投資の意思決定 2	内部収益率法の落とし穴、資金制約がある場合のプロジェクト評価、日米企業における投資案評価の実際
第 8 回	証券のリターンとリスク 1	株式の投資収益率、ポートフォリオ理論の基礎、分散可能なリスクと体系的リスクの理解、体系的リスクの尺度
第 9 回	証券のリターンとリスク 2	市場均衡、均衡におけるリターンとリスクとの関係、ベータ値の推定、資本資産評価モデルの理解、マルチファクターモデルの紹介
第 10 回	資本コストの推定	株主資本コスト、株式のベータ、負債の資本コスト、加重平均資本コストの推定、負債利用の節税効果の含意
第 11 回	企業価値評価 1	DCF 法 (WACC 法)
第 12 回	企業価値評価 2	APV 法、FTE 法、RI 法
第 13 回	企業価値評価 3	EVA、MVA、諸企業価値評価手法の関係
第 14 回	総括	補足と纏め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容について理解を深めるためにも日頃経済関連記事、経済ニュースなどに目を配りましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

朝岡大輔・砂川 伸幸・岡田紀子著（著）『ゼミナール コーポレートファイナンス』、日本経済新聞出版、2022
 新井富雄・高橋文朗・芹田敏夫（著）『コーポレート・ファイナンス』、中央経済社、2016
 久保田敬一・芹田敏夫・竹原均・徳永俊史（訳）『コーポレートファイナンス、入門編、第 2 版』、丸善出版、2014

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、クイズ 20 %

【学生の意見等からの気づき】

更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓や表計算ソフトウェアの使い方に慣れて置きましょう。

【その他の重要事項】

授業では、初歩的な計算を行います。特に前提知識は要りません。奮ってご参加下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間シンクタンクの金融部門で財務意思決定や金融市場調査などの金融実務に携わりました。授業では、ファイナンスの基礎理論と実際についてわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of corporate finance. Topics include investment projects analysis, capital structure, valuation of the firm, payout policy, M&A decision, financial risk management, and international financial management.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. understand how the concept of time value of money is applied in financial decisions.
- B. understand the relation between management and investors.
- C. understand how shareholders and debtholders are different.
- D. understand the difference between financing choices.
- E. understand how to cope with financial risks.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, Quizzes : 20%.

ECN200FD

コーポレートファイナンス入門Ⅱ（2019年度以降入学者）

金 瑠 晋

市場経営学科専門科目 200 番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CFO と呼ばれる最高財務責任者は、様々な財務意思決定問題の解決策を見出さなければなりません。ここで、財務意思決定とは、投資案の評価、資金調達手段の選択、企業価値の評価、ペイアウト政策、買収・合併の決定、新規株式公開の決定、コーポレート・ガバナンス、財務リスク管理、国際財務管理など等があり、多岐に渡ります。なお、最高財務責任者が合理的な財務意思決定を行うためには、資金提供者である投資家の行動原理を理解する必要があります。例えば、企業価値の値評は、企業の経営者と投資家の両方の意思決定において極めて重要なプロセスです。この授業では、企業価値向上に関わる様々な財務意思決定問題を取り上げ、企業の最高財務責任者が、どのような考え方にに基づき、その問題を解決すべきかについて検討します。

【到達目標】

- ・キャッシュフローの時間価値の重要性が分かるようになります。
- ・投資案・金融資産・企業の価値が評価出できるようになります。
- ・株式会社の経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
- ・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
- ・資金調達手段の選択について理解が深まります。
- ・配当・自社株買いに関する理解が深まります。
- ・財務リスクについて理解が深まります。
- ・経済・金融関連のニュースをより身近に感じるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP2-2」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を高く評価します。電卓（関数電卓を含む）を持参し、授業中に使用して構いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	資本構成理論 1	完全資本市場、資本構成理論の基礎、無裁定均衡の理解、MM の命題 I と命題 II、レバレッジと株主資本コストの関係
第 2 回	資本構成理論 2	節税効果、修正 MM の命題 I と II、倒産コストの考慮、トレードオフ理論
第 3 回	資本構成理論 3	資金調達意思決定とエージェンシー費用、ペッキングオーダー仮説、実務における資本構成、資本構成理論のまとめ
第 4 回	ペイアウト政策 1	内部留保 vs. ペイアウト
第 5 回	ペイアウト政策 2	配当 vs. 自社株買い
第 6 回	ペイアウト政策 3	ペイアウト政策に関する MM の無関連命題
第 7 回	エクイティファイナンス 1	現金保有のメリット・デメリット
第 8 回	エクイティファイナンス 2	ベンチャーファイナンス、新規株式公開
第 9 回	エクイティファイナンス 3	公募増資、エクイティファイナンスの直接費用と間接費用
第 10 回	デットファイナンス	社債発行 vs. 借入
第 11 回	合併・買収	デットファイナンスの費用
第 12 回	コーポレートガバナンス	M&A の経済的メリット、M&A の意思決定
第 13 回	財務リスク管理	コーポレートガバナンスの仕組み、株主と利害関係者
第 14 回	国際財務管理	財務リスクの管理、ヘッジ
第 15 回	総括	海外投資プロジェクトの評価、為替リスクのヘッジ、国際資金調達
第 16 回	総括	補足とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容について理解を深めるためにも日頃経済関連記事、経済ニュースなどに目を配りましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

朝岡大輔・砂川 伸幸・岡田紀子著（著）『ゼミナール コーポレートファイナンス』、日本経済新聞出版、2022

新井富雄・高橋文朗・芹田敏夫（著）『コーポレート・ファイナンス』、中央経済社、2016

久保田敬一・芹田敏夫・竹原均・徳永俊史（訳）『コーポレートファイナンス、入門編、第 2 版』、丸善出版、2014

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、クイズ 20 %

【学生の意見等からの気づき】

更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓や表計算ソフトウェアの使い方に慣れて置きましょう。

【その他の重要事項】

授業では、初歩的な計算を行います。特に前提知識は要りません。奮ってご参加下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間シンクタンクの金融部門で財務意思決定や金融市場調査などの金融実務に携わりました。授業では、ファイナンスの基礎理論と実際についてわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of corporate finance. Topics include investment projects analysis, capital structure, valuation of the firm, payout policy, M&A decision, financial risk management, and international financial management.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A. understand how the concept of time value of money is applied in financial decisions.

B. understand the relation between management and investors.

C. understand how shareholders and debtholders are different.

D. understand the difference between financing choices.

E. understand how to cope with financial risks.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, Quizzes : 20%.

ECN200FD

デリバティブ入門Ⅰ（2019年度以降入学者）

山崎 輝

市場経営学科専門科目 200 番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。まずは「デリバティブとはなにか？」から始まりますが、すぐに金融や財務の様々な場面でデリバティブ取引が活用されていることが理解できるでしょう。ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提とするデリバティブの価格決定理論を学ぶことが講義の主目的となりますが、それと並行して金融実務での活用例も詳しく解説します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「将来の為替レートは予想できるのか？」や「中央銀行の金融政策を占うには？」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」に関連しています。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 先渡取引や先物取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論がわかる。
- (4) 金融市場やデリバティブ取引の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	金融・証券市場の基礎知識 (1)	債券市場、株式市場、外国為替市場などの概説
第3回	金融・証券市場の基礎知識 (2)	デリバティブ市場の概説
第4回	キャッシュフローと現在価値 (1)	将来価値と現在価値の概念
第5回	キャッシュフローと現在価値 (2)	複利、付利期間、割引因子などの概念
第6回	効率的市場と無裁定価格	株式市場を巡る論争と効率的市場仮説、無裁定条件と無裁定価格
第7回	先渡取引 (1)	先渡取引の概要、為替予約とその活用方法
第8回	先渡取引 (2)	先渡価格の決定理論、フォワード・プレミアム・パズル
第9回	先物取引 (1)	先物取引の概要、日経平均先物とその活用方法
第10回	先物取引 (2)	先物価格の決定理論
第11回	債券と金利の関係 (1)	債券価格と利回り計算
第12回	債券と金利の関係 (1)	スポットレート、バーレート、短期金利
第13回	先渡取引 (3)	FRA とその活用方法
第14回	先渡取引 (4)	先渡金利の決定理論、中央銀行の金融政策を占う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『うかる！証券外務員一種必修テキスト 2022-2023年版』、2022年、日本経済新聞出版社

- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社

- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験（80%）と授業期間中の小テスト（20%）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での事例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅱ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN200FD

デリバティブ入門Ⅱ（2019年度以降入学者）

山崎 輝

市場経営学科専門科目 200 番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。特に、最も重要なデリバティブである「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的となります。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例も詳しく説明します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「様々な相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買い付け（企業買収）の分析」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」に関連しています。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) スワップ取引やオプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論がわかる。
- (4) 金融市場やデリバティブ取引の簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 2 回	デリバティブ入門Ⅰの復習	現在価値、無裁定条件、先物取引、先物取引、債券価格と利回り計算などの復習
第 3 回	スワップ取引 (1)	IRS とその活用方法
第 4 回	スワップ取引 (2)	通貨スワップとその活用方法
第 5 回	スワップ取引 (3)	スワップレートの決定理論
第 6 回	オプション取引 (1)	コールとプット、プット・コール・パリティ
第 7 回	オプション取引 (2)	オプションの活用方法
第 8 回	ファイナンスのための確率論入門	確率、確率変数、期待値などの諸概念
第 9 回	オプション価格理論 (1)	1 期間 2 項モデルによるオプション価格の算出
第 10 回	オプション価格理論 (2)	リスク中立確率とデリバティブの価格評価
第 11 回	オプション価格理論 (3)	Yahoo! JAPAN による ZOZO の株式公開買い付け
第 12 回	オプション価格理論 (4)	2 期間 2 項モデルによるオプション価格の算出
第 13 回	オプション価格理論 (5)	動的複製ポートフォリオとデルタ
第 14 回	オプション価格理論 (6)	ブラック・ショールズ理論の概説と最近の動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料を各自でダウンロードしてください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。

【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『わかる！証券外務員一種必修テキスト 2022-2023 年版』、2022 年、日本経済新聞出版社
- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験（80 %）と授業期間中の小テスト（20 %）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅰ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN200FD

投資入門（2019年度以降入学者）

岸本 直樹

市場経営学科専門科目 200 番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、債券および株式について、「ファイナンス入門」で学んだ内容を定着させるだけでなく、さらに発展した内容を学習します。たとえば、債券については、仮に利利率がほんの少し変化したとき、分析対象の債券の価格がどの程度変化するかを表す指標（デュレーションと呼ばれます）を学習します。また、株式については、実務家に多用される様々な指標を、実際に存在する企業を例にとって学びます。さらに、海外の債券市場や株式市場についても言及します。

ちなみに、債券や株式の価格は、それらを発行する企業あるいは組織に関するニュースのほか、経済・社会全般に関するニュースによって大きく動きまわります。したがって、ファイナンスでは、それらの情報と価格との関係に強い関心を持っています。たとえば、効率的市場仮説と呼ばれる仮説は、それらの情報は債券あるいは株式の価格に瞬時にかつ正確に織り込まれると主張します。この科目では、効率的市場仮説を介して情報が証券価格に及ぼす影響を検討します。

【到達目標】

次の5つを到達目標に掲げます。

- ①「ファイナンス入門」で学んだ債券に関する基礎的知識の定着を促し、それを的確に適用することができる。
- ②デュレーション、イールドカーブについて基礎的な知識を習得する。
- ③「ファイナンス入門」で学んだ株式評価の手法の定着を促し、それを複雑な問題に対して適用することができる。
- ④株式に対する主な投資方法について基礎的な知識を習得する。
- ⑤効率的市場仮説について基礎的な理解を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

基本的には講義によって授業を進めます。ただし、授業中に学生が公式を数値例に適用する時間を設けます。さらに、学生が Excel を利用できる環境が整っていれば、授業中に学生が Excel を使って計算問題を解く時間を設けます。なお、授業内容がしっかり理解できているかどうかを確認するために、学期の中途に簡単なクイズを実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	将来価値と現在価値	将来価値と現在価値の復習。
第2回	様々な複利期間に関する金利計算	様々な複利期間に関して将来価値と現在価値を解説する。
第3回	金利計算の実例	住宅ローンや年金に関して種々の金利計算を学ぶ。
第4回	債券の基礎知識（1）	債券に関する基本用語、債券の種類、債券市場の概説。
第5回	債券の基礎知識（2）	債券の利回り計算、利回りと債券価格の関係。
第6回	債券の基礎知識（3）	債券投資のリスクと債券属性。
第7回	利利率に対する債券価格の感応度（1）	デュレーションの導出、計算方法、性質。
第8回	利利率に対する債券価格の感応度（2）および金利の期間構造（1）	デュレーションの性質の続き。さらに、イールドカーブの概説。
第9回	金利の期間構造（2）	イールドカーブに基づいた債券の理論価格の計算。
第10回	株式と株式市場	株式と株式市場の概説。
第11回	株式評価	配当割引モデルの計算、性質、拡張。
第12回	株式評価と株式投資	マルチプル・メソッドの概説とその適用のほか、投資家に多用される株式投資の方法、株式投資のリスクとリターンについて解説する。
第13回	効率的市場仮説	効率的市場仮説を介した情報と証券価格の検討。
第14回	復習	この科目で扱った内容を全体を復習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定テキスト（教科書）の予習・復習をしっかりと行ってください。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹・池田昌幸共著、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末テストが70%、授業で実施する小テストと授業参加が30%のウエイトを占める。

【学生の意見等からの気づき】

学生とのQ&Aをさらに活性化する。

【学生が準備すべき機器他】

Excelがインストールされたパソコン、タブレット、あるいは、スマートフォンのいずれかを用意してください。ちなみに、iPhone用のExcelは無料です（他のスマートフォンについては知りません）。

【その他の重要事項】

授業中の私語は厳禁です。

【関連科目】

ファイナンス入門（必須）、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ、金融論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

Course outline: In this course, students not only review the materials taught in Introduction to Finance but also learn more advanced topics about bonds and stocks than taught in Introduction to Finance. For example, students learn how a bond price changes relative to a small change in market interest rates, which is measured by what is called duration. Or students study financial ratios that are widely used by practitioners. Furthermore, students study bond and stock markets in foreign countries.

In general, prices of bonds and stocks change abruptly as new information about the companies or institutions that have issued those bonds and stocks enters into the market. A hypothesis called efficient market hypothesis claims that information will be incorporated into the prices of bonds and stocks immediately and correctly. The efficient market hypothesis is the last topic covered in this course.

Learning objectives: The following five objectives are set for this course.

- (1) To reinforce the understanding of the knowledge about bonds learned in "Introduction to Finance" so that students can apply it effectively.
- (2) To acquire the knowledge of duration and yield curve analysis.
- (3) To reinforce the understanding of stock valuation methods learned in "Introduction to Finance" so that students can apply it to more complex problems.
- (4) To learn major investment strategies for stocks.
- (5) To learn the efficient market hypothesis.

Learning activities outside of classroom: Preparatory study and review of materials provided by the instructor. Students are expected to spend about four hours on them for each class.

Grading criteria/policy: The final exam will account for 70% of the grade, while quizzes and class participation will account for 30% of the grade.

ECN200FD

ポートフォリオ理論入門（2019年度以降入学者）

岸本 直樹

市場経営学科専門科目 200 番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融資産は、学生にとってはまだ馴染みが薄いでしょうが、卒業後、確定拠出年金等への投資を通じて直接運用に関わらざるを得なくなるでしょう。「ポートフォリオ理論入門」の前半では、投資に当たって、投資対象である資産のどの点に注目し、どのような方法で意思決定すればよいかについて、学術的に標準アプローチとして知られる手法を学習します。次に、「ポートフォリオ理論入門」の後半では、CAPM と呼ばれるモデルを使って、様々な資産の間に成立していると考えられるリスクとリターンを学習します。

【到達目標】

「ポートフォリオ理論入門」の前半では、資金をどのように資産に配分するかという問題についてよく知られているアプローチ（ポートフォリオ理論）を学習します。また、後半では、CAPM と呼ばれる、資産のリスクとリターンに関する理論モデルを学習します。具体的には、次の点を達成することを目標とします。

- ①資産に投資した結果得られる収益率について期待値、標準偏差、共分散、さらに、相関係数を計算できる。
- ②ポートフォリオ理論の概要を理解し、第三者に説明できる。
- ③資産のリスクとリターンの関係を資本資産評価モデル（CAPM）に沿って説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」と「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

講義形式です。ただし、授業時間中に学生各自が練習問題を解く時間を設け、ランダムに学生に質問します。また、学期中に授業内小テスト（クイズ）を実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	収益率の期待値、分散、標準偏差	収益率、確率変数を説明した後、期待値、分散、標準偏差の計算方法を学習します。
第 2 回	共分散	異なる資産の収益率の同方向あるいは逆方向の変動の特徴を捉える共分散について概観し、計算方法を学びます。
第 3 回	相関係数	相関係数について学習します。
第 4 回	ポートフォリオ理論（1）	投資家が投資資金を各資産にどのように配分するのがよいかという問題について、マーコウィッツが提唱した方法（ポートフォリオ理論と呼ばれる）を概観します。また、ポートフォリオ理論の仮定を学習します。
第 5 回	ポートフォリオ理論（2）	ポートフォリオの収益率の期待値、分散、標準偏差を計算する公式を学習します。
第 6 回	ポートフォリオ理論（3）	安全資産が存在しない場合について投資機会集合を学習します。
第 7 回	ポートフォリオ理論（4）	安全資産が存在する場合について投資機会集合を学習します。
第 8 回	ポートフォリオ理論（5）	安全資産が存在する場合の投資機会集合の議論を続けます。
第 9 回	ポートフォリオ理論（6）	ポートフォリオの最適化について学習します。
第 10 回	ポートフォリオ理論（7）	ポートフォリオ理論の応用とメッセージを概観します。
第 11 回	資本資産評価モデル（1）	投資家は資産のリスクが高ければより高い期待収益率を要求するだろうとの直観を、一定の仮定の下で妥当とする資本資産評価モデルを概観します。またその仮定も学習します。
第 12 回	資本資産評価モデル（2）	市場ポートフォリオとベータについて学習したあと、資本資産評価モデルの導出について学習します。
第 13 回	効率的市場仮説	情報が資産価格に及ぼす影響を、効率的市場仮説の観点から検討します。
第 14 回	授業内容全体の復習	この授業で学習した内容を概説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の予習及び復習。本授業の準備学習・復習時間は、1 回の授業ごとに 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹・池田昌幸共著、『入門・証券投資論』、有斐閣

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末テストが 70%、授業で実施する小テストと授業参加が 30% のウェイトを占める。

【学生の意見等からの気づき】

より分かりやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

【予備知識】

授業で期待値、標準偏差、共分散を使いますが、これらは授業中に説明するので、それらの予備知識は必ずしも必要ではありません。

【注意事項】

「投資入門」は「ポートフォリオ理論入門」の理解を助けるので、「ポートフォリオ理論入門」の履修を予定する学生は「投資入門」を必ず履修するようにしてください。なお、「ポートフォリオ理論入門」は「積み上げ式」です。すなわち、授業に毎回出席していなければ授業内容を十分に理解することが難しくなります。したがって、授業に毎回出席することを強く求めます。

なお、授業中の私語やその他の授業の迷惑になる行為は厳に慎んでください。悪質な場合は、適切に注意し、場合によっては教室から退室して貰ったり、授業評価に反映することがあります。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、基礎統計学 I / II

【Outline (in English)】

Course outline: Not many students are familiar with financial assets, yet they will face situations where they have to make investment decisions for their defined contributions and etc. In this course, students learn an approach that helps them to understand what features of assets do look at and how to decide on when they make investment decisions. Next, students study the relationship that is expected to hold between risk and return on various assets from the point of view of what is called the CAPM.

Learning objectives: In Introduction to Portfolio Theory, students will learn about the well-known approach to the problem of how to allocate funds among assets (portfolio theory). In addition, students will learn a theoretical model of risk and return on assets, called the CAPM. Specifically, the course aims to achieve the following objectives.

(1) To be able to calculate the expected value and the standard deviation of the rate of return on an asset, as well as covariance and correlation coefficient between the rates of return on a pair of assets.

(2) To understand the portfolio theory and to be able to explain it to a third party.

(3) To be able to explain the relationship between risk and return of assets in accordance with the Capital Asset Pricing Model (CAPM).

Learning activities outside of classroom: Preparatory study and review of materials provided by the instructor. Students are expected to spend about four hours on it for each class.

Grading criteria/policy: The final exam will account for 70% of the grade, while quizzes and class participation will account for 30% of the grade.

ECN300FD

産業組織論 I

大木 良子

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学のモノの見方を通して、企業の意思決定や産業の構造について考察する方法を学ぶ。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の分析手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかにする力をつけることを目指す。

具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、それに対応する現実の事例について、理論分析の結果と現実との一致や相違点について考察する。

I では、まず、より現実的な市場競争の構造である寡占市場を理論的に分析する方法を学ぶ。カルテルや価格差別など市場で実際に見られる競争政策上の問題についても理論的に分析する。

【到達目標】

産業組織論の基本的な考え方・もの見方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場について自分の考えを論述することができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド型オンライン授業として、全 14 回、YouTube による動画配信で授業を実施する。

全て講義形式で行い、講義にはスライドを用いる。授業内課題として、授業で学んだ理論を企業の事例に応用する問題や、理論的な理解を問う問題を出題し、それを宿題として提出することにより、各回の講義内容の理解を深める。学習内容の確認のために、オンラインでの中間試験、また期末試験を行う。学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、随時、受講者とインタラクションを持つ機会を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ミクロ経済学で「企業」「市場（産業）」「政府」はどのように扱われているか？ 企業の数と競争の度合いとの関係（市場集中度） 独占市場、完全競争市場、寡占市場とは？
第 2 回	ミクロ経済学の復習と産業組織論のトピックの概観	企業は何を決めることができるのか？ 企業の利潤はどのように決まるのか？ 完全競争市場、独占市場それぞれのメカニズムを確認する。
第 3 回	独占	独占企業の行動と完全競争市場における企業の行動との違いとは？ なぜ独占になるのか？（規模の経済・自然独占）
第 4 回	価格差別（1）	価格差別の定義と経済モデルの紹介
第 5 回	価格差別（2）	価格差別が市場競争に与える影響と競争政策
第 6 回	価格差別（3）	価格差別の現実の事例を理論的に分析する（携帯電話や飛行機チケットなど）
第 7 回	中間試験	これまでの学習内容について計算問題・論述問題を出题。試験終了後解説を行う。
第 8 回	寡占（1）	数量を決定して競争する場合（クールノー競争）企業の数が増えたり減ったりすると競争はどのように変わっていくか？
第 9 回	寡占（2）	価格を決定して競争する場合（バルトラン競争） クールノー競争との違い
第 10 回	ゲーム理論（1）	ゲーム理論とはなにか？ ゲーム理論を使うとどのような分析が可能になるのか？
第 11 回	ゲーム理論（2）	いろいろなゲームの均衡を求める。
第 12 回	ゲーム理論（3）	ゲーム理論を用いて寡占市場における数量競争・価格競争を再考する。
第 13 回	競争政策と産業組織論・事例分析	競争政策の基礎を学ぶ。 現実に競争政策上問題とされた事件を産業組織論を用いて分析する。

第 14 回 問題演習

春学期に学んだ内容について練習問題を解き解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。

『産業組織とビジネスの経済学』花崗誠著、有斐閣、2018 年

『ミクロ経済学』伊藤元重著、日本評論社、2018 年

『入門 ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004 年

『プラクティカル 産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013 年

『産業組織の経済学 第 2 版』長岡・平尾著、日本評論社、2013 年

『イノベーション時代の競争政策』小田切宏著、有斐閣、2016 年

『競争政策論 第 2 版』小田切宏著、日本評論社、2017 年

『経営の経済学 第 3 版』丸山雅祥著、有斐閣、2017 年

【成績評価の方法と基準】

宿題 20 %

中間試験 15 %

期末試験 65 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業動画の URL、関連するスライド等の資料や、宿題、中間試験、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。

宿題も、学習支援システムを通じて提出して頂きます。学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学について基本的な知識を習得していること、または同時に履修して学習していることを受講の前提とします。

産業組織論 I と II は密接に関係しているため、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期の I の内容を前提として秋学期の II が進められます。I を履修せず II を履修する場合は、関連する箇所については自習によってキャッチアップしてください）

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門 I / II、経営のための経済学と強く関連しています。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門 I / II、経営のための経済学

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies.

Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated based on term-end examination (65%) and homework (20%) and mid-term exam (15%).

ECN300FD

産業組織論Ⅱ

大木 良子

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学のモノの見方を通して、企業の意思決定や産業の構造について考察する方法を学ぶ。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の分析手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかにする力をつけることを目指す。

具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをマイクロ経済学の理論を道具として分析し、それに対応する現実の事例について、理論分析の結果と現実との一致や相違点について考察する。

Ⅱでは、春学期の産業組織論Ⅰで学んだ内容を前提とし、製品差別化や垂直的取引制限など現実によく観察される企業の行動を経済学的に考察するツールを学ぶ。その中で競争政策上問題とされる行動について事例を通じて理解する。

【到達目標】

産業組織論の基本的な考え方・モノの見方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場について自分の考えを論述することができるようにすることを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド型オンライン授業として、全 14 回、YouTube による動画配信で授業を実施する。

全て講義形式で行い、講義にはスライドを用いる。授業内課題として、授業で学んだ理論を企業の事例に応用する問題や、理論的な理解を問う問題を出題し、それを宿題として提出することにより、各回の講義内容の理解を深める。学習内容の確認のために、オンラインでの中間試験、また期末試験を行う。学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、随時、受講者とインテラクションを持つ機会を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	近年競争政策上問題となった事例の紹介
第 2 回	競争政策の復習	競争政策と産業組織論の関係について、春学期に学習した内容を概観し、秋学期の内容の位置づけを確認する。
第 3 回	製品差別化と競争 (1)	差別化の源泉は何か？（立地、ブランド）
第 4 回	製品差別化と競争 (2)	垂直的な製品差別化の経済モデルの紹介
第 5 回	製品差別化と競争 (3)	水平的な製品差別化の経済モデルの紹介
第 6 回	参入と退出・参入阻止	市場における企業の数はどのように決まるのか？ 参入阻止と市場競争との関係 参入阻止を可能にする企業の戦略
第 7 回	合併	合併の経済モデルの紹介、合併が市場競争に与える影響
第 8 回	中間試験	これまで学習した経済理論について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う
第 9 回	垂直的取引制限 (1)	垂直的取引制限とはなにか？ 競争政策上問題とされる具体的な事例の紹介
第 10 回	垂直的取引制限 (2)	様々な垂直的取引制限と市場競争との関係を理論分析する
第 11 回	研究開発と特許	技術開発・特許制度と市場競争との関係
第 12 回	ネットワーク外部性 (1)	ネットワーク外部性の定義とそれが見られる具体的な市場の紹介（検索エンジンや SNS のビジネスモデル）
第 13 回	ネットワーク外部性 (2)	プラットフォーム間競争と競争政策、最近の事例の紹介
第 14 回	事例研究	これまでの学習内容を最近の競争政策上問題とされた企業の事例を用いて考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。

『産業組織とビジネスの経済学』花崗誠著 有斐閣 2018 年
『マイクロ経済学』伊藤元重著、日本評論社、2018 年
『入門 ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004 年
『プラクティカル 産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013 年
『産業組織の経済学 第 2 版』長岡・平尾著、日本評論社、2013 年
『イノベーション時代の競争政策』小田切宏之著、有斐閣、2016 年
『競争政策論 第 2 版』小田切宏之著、日本評論社、2017 年
『経営の経済学 第 3 版』丸山雅祥著、有斐閣、2017 年

【成績評価の方法と基準】

宿題 20 %
中間試験 15 %
期末試験 65 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業動画の URL、関連するスライド等の資料や、宿題、中間試験、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。宿題も、学習支援システムを通じて提出して頂きます。学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が必要になります。

【その他の重要事項】

マイクロ経済学について基本的な知識を習得していること、または同時に履修して学習していることを受講の前提とします。産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期のⅠの内容を前提として秋学期のⅡが進められます。Ⅰを履修せずⅡを履修する場合は、関連する箇所については自習によってキャッチアップしてください）この授業は、経済学入門、マイクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学と強く関連しています。

【関連科目】

経済学入門、マイクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies.

Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated based on term-end examination (65%) and homework (20%) and mid-term exam (15%).

COT300FD

情報技術論 I

入戸野 健

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータを中心とした様々な情報技術や通信ネットワークについて仕組みや役割を体系的に理解することを目的とします。

【到達目標】

情報技術、通信技術の現状を理解し、発展的な活用方法を見出すための基礎知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

コンピュータの構成や仕組みなどについての基礎知識から、われわれの生活のあらゆる場面に浸透したパソコン、スマートフォン、インターネットに関する利用技術まで、最近の話題を織り交ぜながら体系的に解説します。また、それらのビジネスへの展開や活用事例についても取り上げて行きます。

この科目の授業は原則として、学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用してオンデマンド形式で行います。毎回の授業では学習支援システムで提示される教材 (講義資料) の内容に沿って学習を進めてください。合わせて出題される課題などについて期限までに提出してください。

課題等についての講評は適宜、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの発展	計算の道具としてのコンピュータの変遷について解説する。
第 2 回	デジタル表現とコンピュータ	コンピュータの内部処理について概観する。
第 3 回	情報の量	ビット、バイトといった情報の量の表わし方について説明する。
第 4 回	アナログとデジタル	アナログとデジタルの違いについて考察する。
第 5 回	情報のデジタル化	情報のデジタル化の考え方について解説する。
第 6 回	コンピュータの動作と仕組み	コンピュータの動作原理について概観する。
第 7 回	論理演算とコンピュータ	コンピュータ内で行われる論理演算について説明する。
第 8 回	基数の変換	数の表現方法として 10 進数・2 進数などの性質や変換の方法について解説する。
第 9 回	コンピュータ内部の数と文字の表現	数や文字の内部表現や符号化について解説する。
第 10 回	コンピュータの構成装置 (1)	演算装置、制御装置、主記憶装置の機能と役割について解説する。
第 11 回	コンピュータの構成装置 (2)	補助記憶装置、入出力装置の機能と役割について解説する。
第 12 回	周辺機器の接続とインターフェース	各種機器を PC へ接続するためのインターフェースについて説明する。
第 13 回	IC とデジタル回路	論理演算を基にしたデジタル回路とその集積回路 (IC) の基礎について解説する。
第 14 回	デジタル機器とデジタル家電	PC やスマートフォンと連携する各種の身の回りのデジタル家電を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定がある場合はその範囲について文献やインターネットの情報等を参考にして予習をしておいてください。授業後は各自で授業内容の要点を整理してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。

【参考書】

授業の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (15 %) : 毎回の授業で出題されるクイズや受講確認を提出してください。

課題レポート (15 %) : 授業内容の理解を深めるために講義内容に沿った課題を授業内で 2~3 回程度出題します。

期末考査 (70 %) : 期末には期末レポートを作成して提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

資料スライドの構成や図表等の提示方法について工夫を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用します。

【関連科目】

情報学基礎 I / II

プログラミング言語 I / II

情報学発展 I / II

【Outline (in English)】

(Course outline) This course focuses on a variety of information technologies and communication networks. The course aims at systematic understanding on the mechanisms and roles of the technologies mainly based on computers.

(Learning Objectives) The goal of this course is to understand the current information and communication technologies and to acquire the basic knowledge to find ways to use them in an advanced way.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to prepare for the classes by referring to the literature and the Internet and to review the points after the classes.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on quiz in every class (15%), mid-term reports (15%), and term-end report (70%).

COT300FD

情報技術論Ⅱ

入戸野 健

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータを中心とした様々な情報技術や通信ネットワークについて仕組みや役割を体系的に理解することを目的とします。

【到達目標】

情報技術、通信技術の現状を理解し、発展的な活用方法を見出すための基礎知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

コンピュータの構成や仕組みなどについての基礎知識から、われわれの生活のあらゆる場面に浸透したパソコン、スマートフォン、インターネットに関する利用技術まで、最近の話題を織り交ぜながら体系的に解説します。また、それらのビジネスへの展開や活用事例についても取り上げて行きます。

この科目の授業は原則として、学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用してオンデマンド形式で行います。毎回の授業では学習支援システムで提示される教材 (講義資料) の内容に沿って学習を進めてください。合わせて出題される課題などについて期限までに提出してください。

課題等についての講評は適宜、学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ソフトウェアとプログラム	ソフトウェアの特性について解説する。
第 2 回	基本ソフトとカーネル	基本ソフト（オペレーティングシステム）とカーネルの役割について説明する。
第 3 回	プログラミング言語の概要	主要なプログラミング言語の種類と用途について解説する。
第 4 回	情報インフラストラクチャーと通信ネットワーク	情報インフラとしての通信ネットワークの変遷について概観する。
第 5 回	LAN とその発展	LAN や小規模なネットワークからその発展による広域化について解説する。
第 6 回	インターネットの構成と利用技術	インターネットの仕組みとその利用技術について解説する。
第 7 回	Web 技術と e コマース	Web によるサービスの展開方法を解説し e コマースの事例を考察する。
第 8 回	マルチメディアとその応用	マルチメディアに必要となる各種の技術について解説する。
第 9 回	コンピュータグラフィックスとその応用	コンピュータグラフィックスの技法を概観し各種分野への応用事例を紹介する。
第 10 回	移動体通信と携帯電話	スマートフォンや携帯電話等の移動体通信の仕組みを解説する。
第 11 回	情報とセキュリティ	高度情報化に伴う問題・課題と必要となるセキュリティについて考察する。
第 12 回	情報技術とインターネットビジネス	インターネットを利用したビジネスモデルを考察する。
第 13 回	情報化と社会活動	新しい情報ツールが日常生活や組織活動へ与える影響について展望する
第 14 回	応用と展望	IoT (モノのインターネット) や AI (人工知能) 等の応用技術を考察し今後を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定がある場合はその範囲について文献やインターネットの情報等を参考にして予習を行ってください。授業後は各自で授業内容の要点を整理してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。

【参考書】

授業の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (15%) : 毎回の授業で出題されるクイズや受講確認を提出してください。

課題レポート (15%) : 授業内容の理解を深めるために講義内容に沿った課題を授業内で 2～3 回程度出題します。

期末考査 (70%) : 期末には期末レポートを作成して提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

資料スライドの構成や図表等の提示方法について工夫を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用します。

【関連科目】

情報学基礎Ⅰ/Ⅱ

プログラミング言語Ⅰ/Ⅱ

情報学発展Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline) This course focuses on a variety of information technologies and communication networks. The course aims at systematic understanding on the mechanisms and roles of the technologies mainly based on computers.

(Learning Objectives) The goal of this course is to understand the current information and communication technologies and to acquire the basic knowledge to find ways to use them in an advanced way.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to prepare for the classes by referring to the literature and the Internet and to review the points after the classes.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on quiz in every class (15%), mid-term reports (15%), and term-end report (70%).

MAN300FD

技術管理論 I

大神 正道

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、技術に関するマネジメントについて、経営学（主に組織論と戦略論）の観点から体系的に説明します。とりわけ、新しい製品・サービスを生み出すために企業はどのような難題を乗り越えなければならないのか、その生み出した新しい価値が多くのお客様に認められるためにはどのような行動をすべきなのか、そして利益を得るための仕組みづくりとはどのようなものかといった点に着目します。

【到達目標】

本講義の学修到達目標は、技術管理論に関する考え方や概念等を理解し、身の回りの現実に応用できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド講義形式で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 技術管理論とはどのような学問か	授業の進め方や成績判定に関する確認 イノベーションとは何か
第 2 回	イノベーションのプロセス (1)	イノベーション・プロセスのモデル
第 3 回	イノベーションのプロセス (2)	イノベーション・プロセスの 3 つの関門
第 4 回	イノベーションのパターン (1)	製品ライフサイクル
第 5 回	イノベーションのパターン (2)	イノベーションの普及と技術進歩の S 字曲線
第 6 回	イノベーションのパターン (3)	産業発展とイノベーションの発生頻度の推移パターン
第 7 回	イノベーションのパターン (4)	A-U モデルとラディカルイノベーション
第 8 回	なぜ大企業は失敗するのか (1)	チャレンジ精神の喪失
第 9 回	なぜ大企業は失敗するのか (2)	組織的な柔軟性の喪失
第 10 回	なぜ大企業は失敗するのか (3)	過去の資産の負債化
第 11 回	イノベーションと企業の競争力	能力増強型イノベーション・破壊型イノベーション
第 12 回	イノベーションと企業の競争力	アーキテクチャル・イノベーション
第 13 回	イノベーションと企業の競争力	分断的イノベーション
第 14 回	学習成果の確認	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は復習に時間をかけてください。毎回授業後に、講義で学んだ考え方や概念について復習してください。さらに、ニュース等でとりあげられた企業行動や技術、あるいは産業の変化について、学んだ考え方や概念を当てはめてみて、その確からしさを自分なりに検証してみてください。準備学習に 1 時間・復習とその応用に 3 時間程度割くことを標準とします。

【テキスト（教科書）】

近能善範・高井文子（2010）『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』新世社。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

技術管理論 I・II とも、毎週の授業内での課題（小テストあるいはレポート）が 80 点、期末レポートが 20 点の合計で評価します。期末レポートが未提出の場合は、毎週の授業内の課題で 60 点を超過していたとしても「E」評価になることを注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく多くの事例を交えて説明するつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の配布や小テストは法政大学授業支援システムや Google Forms 等を利用する予定です。情報機器の準備し、通信環境に問題がないかについて事前に確認してください。

【その他の重要事項】

技術管理論 II と併せて履修することが望ましいです。

【関連科目】

関連科目は、技術管理論 II、経営学総論 I/II、経営管理論 I/II、経営戦略論 I/II、マーケティング論 I/II、製品開発論 I/II、戦略的意思決定論 I/II、国際経営戦略論 I/II、中小企業論 I/II、日本経営論 I/II、経営情報論 I/II などです。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to provide students with a systematic understanding of management related to technology from the perspective of business administration (mainly organizational and strategic theory) and to enable them to apply this knowledge to the realities of the world around them. In particular, we will focus on how companies that create new products and services act to ensure that their value is accepted by the market and that they are able to earn profits.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to understand the ideas and concepts related to technology and operation management and to be able to apply them to the real world around you.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to spend time reviewing this lecture. After each class, students will review the ideas and concepts learned in the lecture. In addition, try to apply the ideas and concepts you have learned to corporate behavior, technology, or industry changes reported in the news, etc., and verify the validity of the ideas and concepts in your own way. The standard allotment is one hour for preparatory study and three hours for review and application.

【Grading Criteria/Policy】

Both Technology Management I and II will be graded on the basis of a total of 80 % for weekly in-class assignments (quizzes or reports) and 20 % for the final report. Please note that if the final report is not submitted, the student will receive an "E" grade, even if he/she has exceeded 60 points on the weekly in-class assignments.

MAN300FD

技術管理論Ⅱ

大神 正道

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、技術に関するマネジメントについて、経営学（主に組織論と戦略論）の観点から体系的に説明します。とりわけ、新しい製品・サービスを生み出すために企業はどのような難題を乗り越えなければならないのか、その生み出した新しい価値が多くのお客様に認められるためにはどのような行動をすべきなのか、そして利益を得るための仕組みづくりとはどのようなものかといった点に着目します。

【到達目標】

本講義の学修到達目標は、技術管理論に関する考え方や概念等を理解し、身の回りの現実に応用できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド講義形式で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 研究・技術開発のマネジメント (1)	研究・技術開発マネジメントの難しさ
第 2 回	研究・技術開発のマネジメント (2)	技術ロードマップの作成と活用
第 3 回	製品アーキテクチャのマネジメント (1)	製品アーキテクチャとは何か 製品アーキテクチャの分類軸
第 4 回	製品アーキテクチャのマネジメント (2)	モジュラー型とインテグラル型の特徴 とメリット・デメリット オープン型とクローズド型の特徴
第 5 回	新製品開発のマネジメント (1)	新製品開発のプロセス 製品コンセプトの開発
第 6 回	新製品開発のマネジメント (2)	事業収益性の評価・検討 製品開発と市場導入
第 7 回	新製品開発のマネジメント (3)	新製品開発のパフォーマンスと組織デザイン のマネジメント
第 8 回	新製品開発のマネジメント (4)	プロジェクト・マネージャーのリーダーシップ行動 コンカレント・エンジニアリング
第 9 回	企業間関係のマネジメント (1)	企業間マネジメントとは
第 10 回	企業間関係のマネジメント (2)	企業間分業の境界線
第 11 回	企業間関係のマネジメント (3)	企業間連携のマネジメント
第 12 回	ビジネスモデルのマネジメント (1)	ビジネスモデルとは何か
第 13 回	ビジネスモデルのマネジメント (2)	収益モデルの工夫
第 14 回	学習成果の確認	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は復習に時間をかけてください。毎回授業後に、講義で学んだ考え方や概念について復習してください。さらに、ニュース等でとりあげられた企業行動や技術、あるいは産業の変化について、学んだ考え方や概念を当てはめてみて、その確からしさを自分なりに検証してみてください。準備学習に 1 時間・復習とその応用に 3 時間程度割くことを標準とします。

【テキスト（教科書）】

近能善範・高井文子（2010）『コア・テキスト インノベーション・マネジメント』新世社。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

技術管理論Ⅰ・Ⅱとも、毎週の授業内での課題（小テストあるいはレポート）が 80 点、期末レポートが 20 点の合計で評価します。期末レポートが未提出の場合は、毎週の授業内の課題で 60 点を越えていたとしても「E」評価になることを注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく多くの事例を交えて説明するつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の配布や小テストは法政大学授業支援システムや Google Forms 等を利用する予定です。情報機器の準備し、通信環境に問題がないかについて事前に確認してください。

【その他の重要事項】

技術管理論Ⅰと併せて履修することが望ましいです。

【関連科目】

関連科目は、技術管理論Ⅰ、経営学総論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、中小企業論Ⅰ/Ⅱ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営情報論Ⅰ/Ⅱなどです。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to provide students with a systematic understanding of management related to technology from the perspective of business administration (mainly organizational and strategic theory) and to enable them to apply this knowledge to the realities of the world around them. In particular, we will focus on how companies that create new products and services act to ensure that their value is accepted by the market and that they are able to earn profits.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to understand the ideas and concepts related to technology and operation management and to be able to apply them to the real world around you.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to spend time reviewing this lecture. After each class, students will review the ideas and concepts learned in the lecture. In addition, try to apply the ideas and concepts you have learned to corporate behavior, technology, or industry changes reported in the news, etc., and verify the validity of the ideas and concepts in your own way. The standard allotment is one hour for preparatory study and three hours for review and application.

【Grading Criteria/Policy】

Both Technology Management I and II will be graded on the basis of a total of 80 % for weekly in-class assignments (quizzes or reports) and 20 % for the final report. Please note that if the final report is not submitted, the student will receive an "E" grade, even if he/she has exceeded 60 points on the weekly in-class assignments.

ECN300FD

経営のための経済学

大橋 賢裕

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [サマーセッション/Summer Session]

授業実施日：8 月 1 日 (火) ～5 日 (土)

1～4 日は 2,3,4 限

5 日は 1,2 限

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではゲーム理論と行動経済学の初歩を紹介します。受講生は、人の意思決定において現れる戦略的思考と認知バイアスについて、学術的にわかっていることを知ることができます。

【到達目標】

(1) 受講生は、自分の行動の善し悪しが、自分の行動だけでなく、他人の行動に依存して決まる状況において、いかに行動すべきか（いかに行動すべきでないか）を判断するための思考ツールを身につけることができる。(2) 人間の認知における癖が人の行動に与える影響とその対策、そしてそれらを利用する方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」と「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

講義形式です。理解確認のためその場で行う演習を含む場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゲーム理論：ゲームの定義と解	ゲーム理論の初歩として、「ゲームとは何か」「ゲームをどう分析するか／どう解くか」といった基本的な事柄を、例を用いながら解説する。
第 2 回	ゲーム理論：戦略とナッシュ均衡	ゲーム理論で用いられる戦略とは何か。そして戦略を用いてゲームの解として代表的なナッシュ均衡について解説する。
第 3 回	ゲーム理論：混合戦略	行動を確率的に選ぶという混合戦略の考え方と、混合戦略まで含めればナッシュ均衡が必ず存在するというナッシュの定理について解説する。
第 4 回	ゲーム理論：応用例	これまで学んだゲーム理論を使って、現実の経済問題を分析した例を解説する。
第 5 回	ゲーム理論：逐次手番ゲーム	他の人の行動を観察したあとに自分の行動を選べるという状況を分析するための考え方と解概念について解説する。
第 6 回	ゲーム理論：繰り返しゲーム	経済活動における長期的関係を前提とした行動は、同じゲームを何回も繰り返すゲームとして記述できる。そうした繰り返しゲームにおける戦略と均衡、そしてよく知られた「フォーク定理」について解説する。

第 7 回	行動経済学：ヒューリスティックとバイアス	行動経済学の初歩では、人間の意思決定の仕方とそのから生まれる歪み（バイアス）について学ぶ。すでに知られているいくつかの思考の癖と歪みについて紹介する。
第 8 回	行動経済学：二重過程理論	認知における性質について学ぶ。認知システムには、速い思考と遅い思考がある。それらの特性について、事例を交えて紹介する。
第 9 回	行動経済学：確率判断にともなうバイアス	人間は確率を伴う意思決定における判断が苦手であることを学ぶ。確率を伴う意思決定における傾向についても紹介する。
第 10 回	行動経済学：プロスペクト理論	人間は、得をするより損をすることを嫌う傾向があることを事例を通じて紹介する。次いでその傾向を記述するプロスペクト理論を学ぶ。
第 11 回	行動経済学：現在バイアス	異時点間の消費における動学的非整合性の問題を事例と共に紹介する。次いで人間の「せっかちさ」を記述するモデルを紹介する。
第 12 回	行動経済学：社会的選好	経済学が仮定する合理的個人では説明のできない、社会における人間の振るまいについて解説する。扱うのは最後通牒ゲームや公共財ゲームである。
第 13 回	ゲーム理論と行動経済学	これまでの授業のふりかえりとして、ゲーム理論の枠組みに行動経済学の発想を融合させることができるかを考える。戦略的思考と人間の思考、それぞれの特徴をつかんで、よりよい制度を作ることを考える。
第 14 回	確認試験と解説	授業内容確認のための筆記試験とその解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の復習時間は 1 時間を標準とします。1 日 3 回授業がある場合は 3 時間です。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

岡田章「ゲーム理論の見方・考え方」（勁草書房、2022 年）
 岡田章「新版 ゲーム理論・入門」（有斐閣、2014 年）
 大竹文雄「行動経済学の使い方」（岩波新書、2019 年）
 リチャード・セイラー（遠藤真美・訳）「行動経済学の逆襲（上／下）」（早川書房、2019 年）

【成績評価の方法と基準】

授業内試験の成績、50%・平常点、50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

担当教員の連絡先
 大橋 賢裕（おおはし よしひろ）

ohashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline) This course introduces introductory game theory and introductory behavioral economics to students.

(Learning objectives) Students acquire knowledge about strategic reasoning and cognitive biases. (Learning activities outside of classroom) Students are required frequent review.

(Grading criteria) test and quizzes

MAN300FD

マーケティング・リサーチ I (2018 年度以前入学者)

西川 英彦

市場経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性: 〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

たくさんの商品企画の実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。

はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、講義を行う。本授業は、インタビュー法や観察法など、定性的調査の理論と実践を学ぶことを目的としている。

なお、マーケティング・リサーチ論 I (春学期) はインタビュー法などの定性的調査、II (秋学期) はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

【到達目標】

到達目標は、以下の 2 点である。

① ケースをもとに、インタビュー法や観察法、リード・ユーザー法などの定性的調査のスキルを身につける。

② 簡単な定性調査を行い、商品企画の仮説となるレポート (企画書) を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

〈授業の進め方〉

授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深める。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行う。

〈教科書による事前学習〉

事前に教科書を読み、該当章の重要なキーワードや、その理由を学習支援システムの「テスト/アンケート」の項目から提出する (採点対象 28%)。講師は、重要なコメントをいくつか選び、匿名 (ニックネーム) にして、電子テキストにアップする。授業で紹介時に、発言された場合には加点する。

さらに、講師が、授業の補足情報を、電子テキストにアップするので、予習や復習がしやすくなる。

そのため、教科書は、大学生協の電子テキストを購入すること。なお、こうした双方向型の授業をおこなうために、講師は生協より電子テキストへのメーカーやコメントなどの個人ログデータの提供をうける場合がある。

〈授業中の課題〉

授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に簡単な課題に回答する (採点対象 28%)。

〈事後の課題〉

授業後に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出する。講師はいくつか選び、匿名 (ニックネーム) にして、次の授業でフィードバックを行う。なお、授業で紹介し、発言された場合は加点する。

〈レポート〉

定性調査を用いた商品企画について、パワーポイントやキーノート等を用いて企画書を作成して、PDF 形式で提出する (採点対象 44%)。詳細は授業の中で説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	商品企画プロセスにおけるリサーチの重要性	テキスト第 1 章: ライオン「トップナノックス」の商品企画プロセス + 教科書について
第 2 回	リサーチの最前線 (ゲスト講師①)	「日清食品のマーケティングとリサーチ」深澤 勝義氏 (日清食品ホールディングス株式会社 執行役員・CMO 兼 欧州総代) 講演
第 3 回	インタビュー法	テキスト第 2 章: 資生堂「マジヨリカマジヨルカ」のインタビュー法
第 4 回	観察法	テキスト第 3 章: デザイン企業 IDEO による ATM 開発の観察法
第 5 回	リード・ユーザー法	テキスト第 4 章: フェリシモ「生活雑貨大賞」のリード・ユーザー法
第 6 回	アイデア発想	テキスト第 5 章: TOTO「クラッソ」のアイデア創出 + 最終レポートの詳細説明

第 7 回	コンセプト開発	テキスト第 6 章: エースコック「JANJAN ソース焼きそば」のコンセプト開発
第 8 回	リサーチの最前線 (ゲスト講師②)	「ワークマンの商品企画とリサーチ」林 知幸氏 (株式会社ワークマン営業企画部 広報部 部長) 講演
第 9 回	プロトタイピング (試作品)	テキスト第 7 章: IDEO「ショッピング・カート」のプロトタイピング
第 10 回	コンセプトテスト (定量調査)	テキスト第 10 章: ハウス「C1000 ビタミンレモンカラーゲン」の顧客ニーズの確認
第 11 回	企画書作成	テキスト第 14 章: フジッコ「フルーツセラビー」の企画書作成
第 12 回	プレゼンテーション	テキスト第 15 章: グリコ「メンズポッキー」のプレゼンテーション
第 13 回	早期優秀レポートの報告	早期優秀レポート作成者によるプレゼンテーション
第 14 回	優秀レポートの報告	優秀レポート作成者によるプレゼンテーション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前学習として、電子テキストの次の章を読んで、該当章の重要なキーワードや、その理由を学習支援システムに提出する。また、授業終了後は、授業の感想や質問を学習支援システムに提出する。さらに、レポートを授業時間外に作成して、学期末に提出する。

【テキスト (教科書)】

教科書として、『1 からの商品企画』(西川英彦・廣田章光編著、碩学舎 2012 年)の大学生協の電子テキストを使用する。大学生協にて、電子テキスト (税別生協定価 2,000 円) を購入のこと。なお、紙版 (税別定価 2,400 円) もあるが、授業やフィードバックは電子テキストをもとに進めるので注意すること。

法政大学生協のホームページを確認して、早めに購入すること。

https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html

電子テキストを購入後に、以下の URL からログインして、電子テキスト (EDX UniText) を利用する。

<https://app.d-text-service.jp/api/v2/soshiki-cd-nyuryoku>

組織コードは、10035 です。ログイン ID、パスワードは、購入後に設定できます。

https://app.d-text-service.jp/browser/start?uneidantai_ryakugo=UC&soshiki_cd=10035

【参考書】

ベルク・フィッシャー・コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年

【成績評価の方法と基準】

・事前学習 (教科書を読んだコメント): 28% 授業で紹介時に、発言された場合には加点する。

・授業中の課題 (授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」への回答): 28%

・レポート (いずれかの定性調査と、それを利用した商品企画アイデア): 44%

・授業中の発言: 加点あり。

・授業後の課題 (学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出): 授業で紹介時に、発言された場合には加点する。

・早期レポートの提出・報告者: 全員加点あり (早期レポート制度)。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が難しかったプロセスを考慮して、2 点を改善した。

① レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。

② 全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

【学生が準備すべき機器他】

電子テキストを利用するため、パソコンあるいはタブレットを用意すること。スマホでも閲覧可能だが、パソコンやタブレットを推奨する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論、基礎統計学 I/II、統計学 I/II である。

授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

[Outline (in English)]

Let's learn the basics and methods of marketing research through many empirical examples of product development. In order to make it easier for students who learn marketing research for the first time to understand, the lecture will be based on actual cases and specific examples of research on the theme of "product development" where marketing research is often used.

The purpose of this class is to learn the theory and practice of qualitative research, such as interview and observation methods. Students are required to read the textbook before the class, submit comments after the class, and submit a report (a proposal for product planning) at the end of the semester.

Grades will be determined by prior study (28%), in-class exercises (28%), and a final report (44%).

In Marketing Research I (spring semester), students will learn qualitative research such as interview methods, and in Marketing Research II (fall semester), students will learn quantitative research such as questionnaire creation and data analysis. By studying both, a synergistic effect can be expected.

MAN300FD

マーケティング・リサーチⅡ（2018年度以前入学者）

西川 英彦

市場経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

たくさんの実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。

はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」や「マーケティング」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、双方の講義と簡単な演習を行う。

なお、Ⅰ（春学期）はインタビューや観察法などの定性的調査、Ⅱ（秋学期）はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

【到達目標】

到達目標は、以下の2点である。

- ①具体例をもとに、アンケート作成やデータ分析などの定量調査のスキルを身につける。
- ②簡単な定量調査を行い、商品企画の仮説を検証するレポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

＜授業の進め方＞

授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深める。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行う。

演習は、無料統計ソフト R を用いるが、配布するマニュアル通りに入力すれば分析できるので、数学が苦手な学生でも大丈夫である。講義では、学生アシスタントの操作画面を映しつつ、説明する。難しい数式は、使いませんので安心ください。

＜授業中の課題＞

授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に簡単な課題に回答する（採点対象 56%）。講師は、重要なコメントをいくつか選び、匿名（ニックネーム）にして、電子テキストにアップする。授業で紹介時に、発言された場合には加点する。

＜事後課題＞

授業後に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出する。講師は、いくつか選び、匿名（ニックネーム）にして、電子テキストにアップする。授業で紹介時に、発言された場合には加点する。

＜レポート＞

主に定量調査を用いた商品（サービス）の調査書や、パワーポイントやキーノート等を用いて作成して、PDF 形式で提出する。詳細は授業の中で説明する（採点対象 44%）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	定量調査の楽しさ	定量調査の概要 ・勘と経験ではダメな理由 ・データ分析が必要な理由 リサーチプロセスを知ろう！
第 2 回	リサーチデザイン	・課題の定義と仮説、探索的調査と検証的調査、R の使い方 お弁当の売上の「平均」と「標準偏差」を知ろう！ ・「平均」 ・「標準偏差」
第 3 回	データの特徴	SNS のフォロワー数と投稿数の関係を知ろう！ ・相関分析 ・無相関検定
第 4 回	データの関係①	バナー広告とクリック有無の関係を調べよう！ ・独立性の検定 ・適合度の検定
第 5 回	データの関係②	

第 6 回	データの差	クーポン配信前後の購入数を比較して、クーポンの効果があるかを検証しよう！ ・t 検定
第 7 回	因果関係	ドリンクの売上に影響を与えている要因は何だろうか！ ・回帰分析
第 8 回	データの集約	ノートパソコンの価値を要約しよう！ ・因子分析
第 9 回	報告書	SNS での実名と匿名ユーザーの行動の報告書など ・レポートの説明
第 10 回	アンケート	アンケートのつくり方 ・尺度、Google アンケート
第 11 回	サンプリング	大学生対象時のサンプルの選び方 ・サンプリング
第 12 回	リアルタイム講義 リサーチの最前線（ゲスト講演）	高垣敦郎氏（元ハウス食品 お客様生活研究センター長） ・講演と質疑 ・高垣氏の著書は参考文献に記載
第 13 回	リアルタイム講義 早期優秀レポートの報告	早期レポートの報告とフィードバック ・成果の共有
第 14 回	リアルタイム講義 優秀レポートの報告	優秀レポートの報告とフィードバック ・成果の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習をしつつ、最終レポートを授業時間外に作成すること。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストとして、レジュメを授業支援システムにアップする。

【参考書】

恩蔵直人・富田健司『1 からのマーケティング分析（第 2 版）』碩学舎、2022 年
山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年
高垣敦郎『「おいしい」のマーケティングリサーチ』碩学舎、2015 年

【成績評価の方法と基準】

・授業中の課題（授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」への回答）：56%

・レポート（いずれかの定量調査と分析結果）：44%

・授業中の発言：加点あり

・授業後の課題（学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出）：教員が紹介したコメントには加点あり。

・早期レポートの提出・報告者：全員加点あり（早期レポート制度）。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が難しかったプロセスを考慮して、3 点を改善した。

①レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。

②全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告を提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

③基本編と解説編を分けて説明する。

【学生が準備すべき機器他】

第 2 回以降は、統計ソフト R を利用するため、パソコンをご用意ください。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング・リサーチ論Ⅰ、マーケティング入門、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。

授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

【Outline (in English)】

Let's learn the basics and methods of marketing research through examples of many product planning. To make it easier for students to learn about marketing and research for the first time, this class gives interactive lectures and exercises based on actual corporate cases with the theme of "product planning" and "marketing" where research is often used and the concrete examples of research. In the spring semester, students will study qualitative surveys such as interviews and observation methods, and in the fall semester, they will study quantitative surveys such as questionnaire creation and data analysis. By learning both, a synergistic effect can be expected.

The goals are as follows.

(1) To acquire skills in quantitative research, such as questionnaire creation and data analysis, based on specific examples.

(2) To be able to conduct simple quantitative research and create a report to verify a hypothesis for product planning.

In addition to the class time, students are expected to review this class and prepare a final report. The standard preparation and review time for this class is one hour each.

Grades will be determined by in-class exercises (56%) and reports (44%).

ECN300FD

企業財務論 I (2018 年度以前入学者)

金 瑠 晋

市場経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

CFO と呼ばれる最高財務責任者は、様々な財務意思決定問題の解決策を見出さなければなりません。ここで、財務意思決定とは、投資案の評価、資金調達手段の選択、企業価値の評価、ペイアウト政策、買収・合併の決定、新規株式公開の決定、コーポレート・ガバナンス、財務リスク管理、国際財務管理など等があり、多岐に渡ります。なお、最高財務責任者が合理的な財務意思決定を行うためには、資金提供者である投資家の行動原理を理解する必要があります。例えば、企業価値の値評は、企業の経営者と投資家の両方の意思決定において極めて重要なプロセスです。この授業では、企業価値向上に関わる様々な財務意思決定問題を取り上げ、企業の最高財務責任者が、どのような考え方にに基づき、その問題を解決すべきかについて検討します。

【到達目標】

- ・キャッシュフローの時間価値の重要性が分かるようになります。
- ・投資案・金融資産・企業の価値が評価出できるようになります。
- ・株式会社の経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
- ・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
- ・資金調達手段の選択について理解が深まります。
- ・配当・自社株買いに関する理解が深まります。
- ・財務リスクについて理解が深まります。
- ・経済・金融関連のニュースをより身近に感じるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP2-2」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を高く評価します。電卓 (関数電卓を含む) を持参し、授業中に使用して構いません。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業と資本市場	企業組織の形態、株式会社の仕組みの理解、投資家とステークホルダー、資本市場の役割
第 2 回	財務諸表と情報	財務諸表からの情報と財務意思決定、市価と簿価、キャッシュフローの重要性
第 3 回	キャッシュフローの時間価値 1	キャッシュフローの割引現在価値・将来価値、資産評価と無裁定均衡の理解
第 4 回	キャッシュフローの時間価値 2	特殊なキャッシュフローを持つ場合の割引現在価値の計算、表計算ソフトを用いた計算例
第 5 回	債券と株式の評価	マネーの時間価値の応用、債券の理論価格、債券の利回り、株式の理論価格、配当割引モデル、企業成長と株価
第 6 回	投資の意思決定 1	プロジェクト評価の諸手法、正味現在価値、内部収益率、回収期間法、収益性指標
第 7 回	投資の意思決定 2	内部収益率法の落とし穴、資金制約がある場合のプロジェクト評価、日米企業における投資案評価の実際
第 8 回	証券のリターンとリスク 1	株式の投資収益率、ポートフォリオ理論の基礎、分散可能なリスクと体系的リスクの理解、体系的リスクの尺度
第 9 回	証券のリターンとリスク 2	市場均衡、均衡におけるリターンとリスクとの関係、ベータ値の推定、資本資産評価モデルの理解、マルチファクターモデルの紹介
第 10 回	資本コストの推定	株主資本コスト、株式のベータ、負債の資本コスト、加重平均資本コストの推定、負債利用の節税効果の含意
第 11 回	企業価値評価 1	DCF 法 (WACC 法)
第 12 回	企業価値評価 2	APV 法、FTE 法、RI 法
第 13 回	企業価値評価 3	EVA、MVA、諸企業価値評価手法の関係
第 14 回	総括	補足と纏め

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容について理解を深めるためにも日頃経済関連記事、経済ニュースなどに目を配りましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

配布資料

【参考書】

朝岡大輔・砂川 伸幸・岡田紀子著 (著) 『ゼミナール コーポレートファイナンス』、日本経済新聞出版、2022
 新井富雄・高橋文朗・芹田敏夫 (著) 『コーポレート・ファイナンス』、中央経済社、2016
 久保田敬一・芹田敏夫・竹原均・徳永俊史 (訳) 『コーポレートファイナンス、入門編、第 2 版』、丸善出版、2014

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、クイズ 20 %

【学生の意見等からの気づき】

更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓や表計算ソフトウェアの使い方に慣れて置きましょう。

【その他の重要事項】

授業では、初歩的な計算を行います。特に前提知識は要りません。奮ってご参加下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論、デリバティブ入門 I/II、Excel で学ぶファイナンス理論 I/II

【実務経験のある教員による授業】

民間シンクタンクの金融部門で財務意思決定や金融市場調査などの金融実務に携わりました。授業では、ファイナンスの基礎理論と実際についてわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of corporate finance. Topics include investment projects analysis, capital structure, valuation of the firm, payout policy, M&A decision, financial risk management, and international financial management.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand how the concept of time value of money is applied in financial decisions.
- understand the relation between management and investors.
- understand how shareholders and debtholders are different.
- understand the difference between financing choices.
- understand how to cope with financial risks.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, Quizzes : 20%.

ECN300FD

企業財務論Ⅱ（2018年度以前入学者）

金 瑠 晋

市場経営学科専門科目 3～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CFOと呼ばれる最高財務責任者は、様々な財務意思決定問題の解決策を見出さなければなりません。ここで、財務意思決定とは、投資案の評価、資金調達手段の選択、企業価値の評価、ペイアウト政策、買収・合併の決定、新規株式公開の決定、コーポレート・ガバナンス、財務リスク管理、国際財務管理など等があり、多岐に渡ります。なお、最高財務責任者が合理的な財務意思決定を行うためには、資金提供者である投資家の行動原理を理解する必要があります。例えば、企業価値の値評は、企業の経営者と投資家の両方の意思決定において極めて重要なプロセスです。この授業では、企業価値向上に関わる様々な財務意思決定問題を取り上げ、企業の最高財務責任者が、どのような考え方にに基づき、その問題を解決すべきかについて検討します。

【到達目標】

- ・キャッシュフローの時間価値の重要性が分かるようになります。
- ・投資案・金融資産・企業の価値が評価出できるようになります。
- ・株式会社の経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
- ・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
- ・資金調達手段の選択について理解が深まります。
- ・配当・自社株買いに関する理解が深まります。
- ・財務リスクについて理解が深まります。
- ・経済・金融関連のニュースをより身近に感じるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP2-2」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を高く評価します。電卓（関数電卓を含む）を持参し、授業中に使用して構いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	資本構成理論 1	完全資本市場、資本構成理論の基礎、無裁定均衡の理解、MMの命題Iと命題II、レバレッジと株主資本コストの関係
第2回	資本構成理論 2	節税効果、修正MMの命題IとII、倒産コストの考慮、トレードオフ理論
第3回	資本構成理論 3	資金調達意思決定とエージェンシー費用、ペッキングオーダー仮説、実務における資本構成、資本構成理論のまとめ
第4回	ペイアウト政策 1	内部留保 vs. ペイアウト
第5回	ペイアウト政策 2	配当 vs. 自社株買い
第6回	ペイアウト政策 3	ペイアウト政策に関するMMの無関連命題
第7回	エクイティファイナンス 1	現金保有のメリット・デメリット
第8回	エクイティファイナンス 2	最適ペイアウト政策 ベンチャーファイナンス、新規株式公開
第9回	エクイティファイナンス 2	公募増資、エクイティファイナンスの直接費用と間接費用
第10回	デットファイナンス	社債発行 vs. 借入 デットファイナンスの費用
第11回	合併・買収	M&Aの経済的メリット 、M&Aの意思決定
第12回	コーポレートガバナンス	コーポレートガバナンスの仕組み、株主と利害関係者
第13回	財務リスク管理	財務リスクの管理、ヘッジ
第14回	国際財務管理	海外投資プロジェクトの評価、為替リスクのヘッジ、国際資金調達
第15回	総括	補足と締め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容について理解を深めるためにも日頃経済関連記事、経済ニュースなどに目を配りましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

朝岡大輔・砂川伸幸・岡田紀子著（著）『ゼミナール コーポレートファイナンス』、日本経済新聞出版、2022

新井富雄・高橋文朗・芹田敏夫（著）『コーポレート・ファイナンス』、中央経済社、2016

久保田敬一・芹田敏夫・竹原均・徳永俊史（訳）『コーポレートファイナンス、入門編、第2版』、丸善出版、2014

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%、クイズ 20%

【学生の意見等からの気づき】

更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓や表計算ソフトウェアの使い方に慣れて置きましょう。

【その他の重要事項】

授業では、初歩的な計算を行います。特に前提知識は要りません。奮ってご参加下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間シンクタンクの金融部門で財務意思決定や金融市場調査などの金融実務に携わりました。授業では、ファイナンスの基礎理論と実際についてわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of corporate finance. Topics include investment projects analysis, capital structure, valuation of the firm, payout policy, M&A decision, financial risk management, and international financial management.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand how the concept of time value of money is applied in financial decisions.
- understand the relation between management and investors.
- understand how shareholders and debtholders are different.
- understand the difference between financing choices.
- understand how to cope with financial risks.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, Quizzes : 20%.

ECN300FD

ファイナンス論 I (2018 年度以前入学者)

山崎 輝

市場経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、デリバティブ(金融派生商品)の入門的な内容を講義します。まずは「デリバティブとはなにか?」から始まりますが、すぐに金融や財務の様々な場面でデリバティブ取引が活用されていることが理解できるでしょう。ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提とするデリバティブの価格決定理論を学ぶことが講義の主目的となりますが、それと並行して金融実務での活用例も詳しく解説します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「将来の為替レートは予想できるのか?」や「中央銀行の金融政策を占うには?」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト(一次試験)」、「FP(フィナンシャル・プランナー)技能士」に関連しています。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 先渡取引や先物取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論がわかる。
- (4) 金融市場やデリバティブ取引の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業(フルオンデマンド型)となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓(関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してよい)を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	金融・証券市場の基礎知識(1)	債券市場、株式市場、外国為替市場などの概説
第3回	金融・証券市場の基礎知識(2)	デリバティブ市場の概説
第4回	キャッシュフローと現在価値(1)	将来価値と現在価値の概念
第5回	キャッシュフローと現在価値(2)	複利、付利期間、割引因子などの概念
第6回	効率的市場と無裁定価格	株式市場を巡る論争と効率的市場仮説、無裁定条件と無裁定価格
第7回	先渡取引(1)	先渡取引の概要、為替予約とその活用方法
第8回	先渡取引(2)	先渡価格の決定理論、フォワード・プレミアム・パズル
第9回	先物取引(1)	先物取引の概要、日経平均先物とその活用方法
第10回	先物取引(2)	先物価格の決定理論
第11回	債券と金利の関係(1)	債券価格と利回り計算
第12回	債券と金利の関係(1)	スポットレート、バーレート、短期金利
第13回	先渡取引(3)	FRAとその活用方法
第14回	先渡取引(4)	先渡金利の決定理論、中央銀行の金融政策を占う

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『うかる! 証券外務員一種必修テキスト2022-2023年版』、2022年、日本経済新聞出版社

- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社

- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験(80%)と授業期間中の小テスト(20%)で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓(関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してよい)を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト(一次試験)」、「FP(フィナンシャル・プランナー)技能士」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅱ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN300FD

ファイナンス論Ⅱ（2018年度以前入学者）

山崎 輝

市場経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。特に、最も重要なデリバティブである「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的となります。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例も詳しく説明します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「様々な相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買い付け（企業買収）の分析」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」に関連しています。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) スワップ取引やオプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論がわかる。
- (4) 金融市場やデリバティブ取引の簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 2 回	デリバティブ入門Ⅰの復習	現在価値、無裁定条件、先物取引、先物取引、債券価格と利回り計算などの復習
第 3 回	スワップ取引 (1)	IRS とその活用方法
第 4 回	スワップ取引 (2)	通貨スワップとその活用方法
第 5 回	スワップ取引 (3)	スワップレートの決定理論
第 6 回	オプション取引 (1)	コールとプット、プット・コール・パリティ
第 7 回	オプション取引 (2)	オプションの活用方法
第 8 回	ファイナンスのための確率論入門	確率、確率変数、期待値などの諸概念
第 9 回	オプション価格理論 (1)	1 期間 2 項モデルによるオプション価格の算出
第 10 回	オプション価格理論 (2)	リスク中立確率とデリバティブの価格評価
第 11 回	オプション価格理論 (3)	Yahoo! JAPAN による ZOZO の株式公開買い付け
第 12 回	オプション価格理論 (4)	2 期間 2 項モデルによるオプション価格の算出
第 13 回	オプション価格理論 (5)	動的複製ポートフォリオとデルタ
第 14 回	オプション価格理論 (6)	ブラック・ショールズ理論の概説と最近の動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料を各自でダウンロードしてください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。

【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『わかる！証券外務員一種必修テキスト 2022-2023 年版』、2022 年、日本経済新聞出版社
- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験（80 %）と授業期間中の小テスト（20 %）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅰ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN300FD

証券経済論 I (2018 年度以前入学者)

岸本 直樹

市場経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この科目では、債券および株式について、「ファイナンス入門」で学んだ内容を定着させるだけでなく、さらに発展した内容を学習します。たとえば、債券については、仮に利率がほんの少し変化したとき、分析対象の債券の価格がどの程度変化するかを表す指標（デュレーションと呼ばれます）を学習します。また、株式については、実務家に多用される様々な指標を、実際に存在する企業を例にとって学びます。さらに、海外の債券市場や株式市場についても言及します。

ちなみに、債券や株式の価格は、それらを発行する企業あるいは組織に関するニュースのほか、経済・社会全般に関するニュースによって大きく動きます。したがって、ファイナンスでは、それらの情報と価格との関係に強い関心を持っています。たとえば、効率的市場仮説と呼ばれる仮説は、それらの情報は債券あるいは株式の価格に瞬時にかつ正確に織り込まれると主張します。この科目では、効率的市場仮説を介して情報が証券価格に及ぼす影響を検討します。

【到達目標】

次の 5 つを到達目標に掲げます。

- ①「ファイナンス入門」で学んだ債券に関する基礎的知識の定着を促し、それを的確に適用することができる。
- ②デュレーション、イールドカーブについて基礎的な知識を習得する。
- ③「ファイナンス入門」で学んだ株式評価の手法の定着を促し、それを複雑な問題に対して適用することができる。
- ④株式に対する主な投資方法について基礎的な知識を習得する。
- ⑤効率的市場仮説について基礎的な理解を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

基本的には講義によって授業を進めます。ただし、授業中に学生が公式を数値例に適用する時間を設けます。さらに、学生が Excel を利用できる環境が整っていれば、授業中に学生が Excel を使って計算問題を解く時間を設けます。なお、授業内容がしっかり理解できているかどうかを確認するために、学期の中途に簡単なクイズを実施する予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	将来価値と現在価値	将来価値と現在価値の復習。
第 2 回	様々な複利期間に関する金利計算	様々な複利期間に関して将来価値と現在価値を解説する。
第 3 回	金利計算の実例	住宅ローンや年金に関して種々の金利計算を学ぶ。
第 4 回	債券の基礎知識 (1)	債券に関する基本用語、債券の種類、債券市場の概説。
第 5 回	債券の基礎知識 (2)	債券の利回り計算、利回りと債券価格の関係。
第 6 回	債券の基礎知識 (3)	債券投資のリスクと債券属性。
第 7 回	利率に対する債券価格の感応度 (1)	デュレーションの導出、計算方法、性質。
第 8 回	利率に対する債券価格の感応度 (2) および金利の期間構造 (1)	デュレーションの性質の続き。さらに、イールドカーブの概説。
第 9 回	金利の期間構造 (2)	イールドカーブに基づいた債券の理論価格の計算。
第 10 回	株式と株式市場	株式と株式市場の概説。
第 11 回	株式評価	配当割引モデルの計算、性質、拡張。
第 12 回	株式評価と株式投資	マルチプル・メソッドの概説とその適用のほか、投資家に多用される株式投資の方法、株式投資のリスクとリターンについて解説する。
第 13 回	効率的市場仮説	効率的市場仮説を介した情報と証券価格の検討。
第 14 回	復習	この科目で扱った内容全体を復習する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定テキスト (教科書) の予習・復習をしっかりと行ってください。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

岸本直樹・池田昌幸共著、『入門・証券投資論』, 2019 年, 有斐閣

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末テストが 70%、授業で実施する小テストと授業参加が 30% のウエイトを占める。

【学生の意見等からの気づき】

学生との Q&A をさらに活性化する。

【学生が準備すべき機器他】

Excel がインストールされたパソコン、タブレット、あるいは、スマートフォンのいずれかを用意してください。ちなみに、iPhone 用の Excel は無料です (他のスマートフォンについては知りません)。

【その他の重要事項】

授業中の私語は厳禁です。

【関連科目】

ファイナンス入門 (必須)、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門 I/II、デリバティブ入門 I/II、Excel で学ぶファイナンス理論 I/II、金融論 I/II

【Outline (in English)】

Course outline: In this course, students not only review the materials taught in Introduction to Finance but also learn more advanced topics about bonds and stocks than taught in Introduction to Finance. For example, students learn how a bond price changes relative to a small change in market interest rates, which is measured by what is called duration. Or students study financial ratios that are widely used by practitioners. Furthermore, students study bond and stock markets in foreign countries.

In general, prices of bonds and stocks change abruptly as new information about the companies or institutions that have issued those bonds and stocks enters into the market. A hypothesis called efficient market hypothesis claims that information will be incorporated into the prices of bonds and stocks immediately and correctly. The efficient market hypothesis is the last topic covered in this course.

Learning objectives: The following five objectives are set for this course.

- (1) To reinforce the understanding of the knowledge about bonds learned in "Introduction to Finance" so that students can apply it effectively.
- (2) To acquire the knowledge of duration and yield curve analysis.
- (3) To reinforce the understanding of stock valuation methods learned in "Introduction to Finance" so that students can apply it to more complex problems.
- (4) To learn major investment strategies for stocks.
- (5) To learn the efficient market hypothesis.

Learning activities outside of classroom: Preparatory study and review of materials provided by the instructor. Students are expected to spend about four hours on them for each class.

Grading criteria/policy: The final exam will account for 70% of the grade, while quizzes and class participation will account for 30% of the grade.

ECN300FD

証券経済論Ⅱ（2018年度以前入学者）

岸本 直樹

市場経営学科専門科目 3～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融資産は、学生にとってはまだ馴染みが薄いでしょうが、卒業後、確定拠出年金等への投資を通じて直接運用に関わらざるを得なくなるでしょう。「ポートフォリオ理論入門」の前半では、投資に当たって、投資対象である資産のどの点に注目し、どのような方法で意思決定すればよいのかについて、学術的に標準アプローチとして知られる手法を学習します。次に、「ポートフォリオ理論入門」の後半では、CAPMと呼ばれるモデルを使って、様々な資産の間に成立していると考えられるリスクとリターンとの関係を学習します。

【到達目標】

「ポートフォリオ理論入門」の前半では、資金をどのように資産に配分するかという問題についてよく知られているアプローチ（ポートフォリオ理論）を学習します。また、後半では、CAPMと呼ばれる、資産のリスクとリターンに関する理論モデルを学習します。具体的には、次の点を達成することを目標とします。

- ①資産に投資した結果得られる収益率について期待値、標準偏差、共分散、さらに、相関係数を計算できる。
- ②ポートフォリオ理論の概要を理解し、第三者に説明できる。
- ③資産のリスクとリターンの関係を資本資産評価モデル（CAPM）に沿って説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」と「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

講義形式です。ただし、授業時間中に学生各自が練習問題を解く時間を設け、ランダムに学生に質問します。また、学期中に授業内小テスト（クイズ）を実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	収益率の期待値、分散、標準偏差	収益率、確率変数を説明した後、期待値、分散、標準偏差の計算方法を学習します。
第2回	共分散	異なる資産の収益率の同方向あるいは逆方向の変動の特徴を捉える共分散について概観し、計算方法を学びます。
第3回	相関係数	相関係数について学習します。
第4回	ポートフォリオ理論（1）	投資家が投資資金を各資産にどのように配分するのがよいかという問題について、マーコウィッツが提唱した方法（ポートフォリオ理論と呼ばれる）を概観します。また、ポートフォリオ理論の仮定を学習します。
第5回	ポートフォリオ理論（2）	ポートフォリオの収益率の期待値、分散、標準偏差を計算する公式を学習します。
第6回	ポートフォリオ理論（3）	安全資産が存在しない場合について投資機会集合を学習します。
第7回	ポートフォリオ理論（4）	安全資産が存在する場合について投資機会集合を学習します。
第8回	ポートフォリオ理論（5）	安全資産が存在する場合の投資機会集合の議論を続けます。
第9回	ポートフォリオ理論（6）	ポートフォリオの最適化について学習します。
第10回	ポートフォリオ理論（7）	ポートフォリオ理論の応用とメッセージを概観します。
第11回	資本資産評価モデル（1）	投資家は資産のリスクが高ければより高い期待収益率を要求するだろうとの直観を、一定の仮定の下で妥当とする資本資産評価モデルを概観します。またその仮定も学習します。
第12回	資本資産評価モデル（2）	市場ポートフォリオとベータについて学習したあと、資本資産評価モデルの導出について学習します。
第13回	効率的市場仮説	情報が資産価格に及ぼす影響を、効率的市場仮説の観点から検討します。
第14回	授業内容全体の復習	この授業で学習した内容を概説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の予習及び復習。本授業の準備学習・復習時間は、1回の授業ごとに4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹・池田昌幸共著、『入門・証券投資論』、有斐閣

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末テストが70%、授業で実施する小テストと授業参加が30%のウェイトを占める。

【学生の意見等からの気づき】

より分かりやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

【予備知識】

授業で期待値、標準偏差、共分散を使いますが、これらは授業中に説明するので、それらの予備知識は必ずしも必要ではありません。

【注意事項】

「投資入門」は「ポートフォリオ理論入門」の理解を助けるので、「ポートフォリオ理論入門」の履修を予定する学生は「投資入門」を必ず履修するようにしてください。なお、「ポートフォリオ理論入門」は「積み上げ式」です。すなわち、授業に毎回出席していなければ授業内容を十分に理解することが難しくなります。したがって、授業に毎回出席することを強く求めます。

なお、授業中の私語やその他の授業の迷惑になる行為は厳に慎んでください。悪質な場合は、適切に注意し、場合によっては教室から退室して貰ったり、授業評価に反映することがあります。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

Course outline: Not many students are familiar with financial assets, yet they will face situations where they have to make investment decisions for their defined contributions and etc. In this course, students learn an approach that helps them to understand what features of assets do look at and how to decide on when they make investment decisions. Next, students study the relationship that is expected to hold between risk and return on various assets from the point of view of what is called the CAPM.

Learning objectives: In Introduction to Portfolio Theory, students will learn about the well-known approach to the problem of how to allocate funds among assets (portfolio theory). In addition, students will learn a theoretical model of risk and return on assets, called the CAPM. Specifically, the course aims to achieve the following objectives.

(1) To be able to calculate the expected value and the standard deviation of the rate of return on an asset, as well as covariance and correlation coefficient between the rates of return on a pair of assets.

(2) To understand the portfolio theory and to be able to explain it to a third party.

(3) To be able to explain the relationship between risk and return of assets in accordance with the Capital Asset Pricing Model (CAPM).

Learning activities outside of classroom: Preparatory study and review of materials provided by the instructor. Students are expected to spend about four hours on it for each class.

Grading criteria/policy: The final exam will account for 70% of the grade, while quizzes and class participation will account for 30% of the grade.

ECN300FD

Excel で学ぶファイナンス理論 I

山崎 輝

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、Microsoft 社の Excel を分析ツールとして使いながら、ファイナンスの実践的な分析手法を学びます。実際の金融取引や証券投資では、知識や理論を熟知しているだけでは不十分であり、実際のデータに基づく様々な計算が必要になります。Excel を使うことで、ファイナンスに関連する計算が簡単に出来るだけでなく、難しい理論でも直感的に理解できるという利点があります。本授業の目的は、リアルデータを取得して、ファイナンスに関する諸々の計量分析ができるようになることです。今回は (1) 企業や株式の計量分析、(2) 株式投資の意思決定、(3) 債券価格と利回り計算、(4) 不動産投資への応用、などをテーマに扱います。金融業界を志す学生はもちろんのこと、株式投資や個人の資産運用などに興味のある学生に履修をお勧めします。個人の資産形成における投資理論の役割についても詳しく解説し、近年話題となっている老後 2,000 万円問題や FIRE (Financial Independence, Retire Early)、つみたて NISA の活用方法なども考察します。初歩から始まりますが、授業後半には本格的な分析に取り組む予定です。

【到達目標】

次の 4 つを到達目標に掲げます。

- (1) ファイナンス理論を正確かつ直感的に説明できる。
- (2) 金融データの特徴を理解し、分析に必要なデータを取得することができる。
- (3) Excel を使って債券と金利に関する分析ができる。
- (4) Excel を使って株式投資の意思決定に関する分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP1-4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業は教室での対面授業で実施しますが、初回のみオンライン授業となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。初回オンライン授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。講義と Excel 演習を交互に行うことで授業を進めます。資料を用意しますが、黒板（ホワイトボード）にも板書するので、必要に応じてノートをとってください。授業内で Excel 演習の課題のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 2 回	将来価値と現在価値（講義）	キャッシュフローと矢印図、将来価値と現在価値、割引因子と連続複利
第 3 回	将来価値と現在価値（Excel 演習）	Excel による将来価値と現在価値の計算
第 4 回	債券と金利の関係（講義）	割引債と利付債の価格、複利最終利回りと所有期間利回り
第 5 回	債券と金利の関係（Excel 演習）	Excel による債券価格と利回りの計算
第 6 回	スポットレートとフォワードレート（講義）	スポットレート、フォワードレート、パーレート、ブートストラップ法
第 7 回	スポットレートとフォワードレート（Excel 演習）	Excel によるスポットレート、フォワードレート、パーレートなどの計算
第 8 回	不動産投資と REIT（講義）	マンション投資と内部収益率、REIT (Real Estate Investment Trust) とは？
第 9 回	不動産投資と REIT（Excel 演習）	Excel によるマンション投資の利回り計算、REIT と不動産投資の比較分析
第 10 回	配当割引モデルによる株式分析（講義）	配当割引モデルによる理論株価と株式分析
第 11 回	配当割引モデルによる株式分析（Excel 演習）	Excel による理論株価や期待収益率の計算、同業他社の比較分析
第 12 回	残余利益モデルによる株式分析（講義）	残余利益モデルによる理論株価と株式分析
第 13 回	残余利益モデルによる株式分析（Excel 演習）	Excel による理論株価や期待収益率の計算、同業他社の比較分析
第 14 回	株式分析の総合演習（Excel 演習）	Excel による株式投資分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excel 演習の課題をしっかりと完成させてください。指定した参考書を併用すると授業の理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。学習支援システムから授業資料を配付します。

【参考書】

- (1) 藤林宏 他、『エクセルで学ぶファイナンス 証券投資分析 第 3 版』、2009 年、金融財政事情研究会
- (2) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト 第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
- (4) 伊藤敬介 他、『新・証券投資論 II 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

Excel 演習の課題（70%）と平常点（30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生は楽しんで授業の課題に取り組んでいるようなので、引き続き実践的で楽しい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間外の学習のために、Excel の使える PC を用意してください。PC を所有していない学生は大学の施設や機器を利用してください。

【その他の重要事項】

「Excel で学ぶファイナンス理論」は I と II を毎年交互に開講しています。今年度は I の開講となります。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門 I/II、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門 I/II、Excel で学ぶファイナンス理論 II

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a practical theory of finance with Microsoft Excel as an analytical tool. [Learning objective] The objective of the course is to analyze financial markets based on real market data by using Excel. The four major subjects are: (1) quantitative analysis of individual firms and stocks; (2) rational decision making on stock investments; (3) computation of bond prices and yield to maturity; and (4) measuring the profitability of property investment. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Exercises with Excel: 70%, in class contribution: 30%.

MAN300FD

広告論

宮井 弘之

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「広告」は、「マーケティング」の中でも実際に顧客との接点をつくる活動となるため、企業の成長に決定的な役割を演じることがあり、大変重要な活動である。本講義では、「広告」に関する基本的な概念や理論を解説した上で、近年中心となっているデジタル広告などの最新の動向も解説する。また、実際に広告業に従事する様々な社会人の方に来ていただき、講義をしてもらう。以上を通じて広告に関する理論と実践論を網羅的に把握してもらうことを目的とする。

【到達目標】

広告とはどういった活動で、経営のなかでどのように役立っているかを理解し、説明できる
学術的な広告論における基本的な概念について理解し、説明できる
広告戦略や広告の計画、実施の手順について理解し、説明できる
広告ビジネスに関わる会社の業種や働くひとの職種について理解し、説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

教室による対面での授業を前提とする。ただし、ゲストスピーカーをお呼びする場合はキャンパスまで来ていただくのが難しいことがあるため、その場合 ZOOM となる可能性が高い。

何度かグループワークを通じて、リアクションペーパーを書いてもらう
広告業界に従事する主要な業種から実務家を招き、講話をいただく
実務家からいただいた講話に関して質問を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員自己紹介 授業の進め方と評価方法 広告とはなにか
第 2 回	マーケティング計画と広告	マーケティングの中の広告 マーケティング・コミュニケーションとは
第 3 回	広告業界に関わる様々な業種	広告会社とは 広告主とは 【講話】 大手広告代理店 博報堂 営業部長
第 4 回	広告計画の流れ	広告業務の流れ 広告のための様々な調査 広告以外の手法との統合
第 5 回	広告戦略の立案	広告戦略とは 広告目標の設定 セグメンテーションとターゲット設定
第 6 回	広告予算の決定方法	世界や日本の広告費の規模 広告予算の設定方法 【講話】 大手広告制作会社 プランナー
第 7 回	広告と心理学	広告コミュニケーション過程とは 広告効果測定方法
第 8 回	広告表現計画	広告表現の意味 広告表現制作プロセス 【講話】 大手広告代理店 博報堂クリエイティブ・ディレクター（録画を利用）
第 9 回	媒体計画	広告媒体の種類と特徴 媒体計画立案過程 【講話】 大手メディアレップ 博報堂 DY メディアパートナーズ テレビ担当（録画を利用）
第 10 回	インターネット広告（1）	インターネット広告とは インターネット広告の種類
第 11 回	インターネット広告（2）	インターネット広告の実例紹介
第 12 回	ブランド広告	ブランド構築における広告の役割 企業広告の実例
第 13 回	広告効果測定	広告測定の様々な手法 【講話】 ブランドコンサルタントの仕事
第 14 回	グローバル広告と法務	グローバル広告の可能性と実例 広告規制と法務

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、具体的な広告事例を収集してもらって準備学習を課す。また、復習においては習得した知識や理論で現実の広告活動を分析するよう促す。予習復習の時間は毎授業あたり 1-2 時間を想定する。

【テキスト（教科書）】

「現代広告論 第3版」岸志津恵/田中洋/嶋村和恵、有斐閣、2017

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

期末試験は行わない

- 1) 授業毎のグループワーク等を通じた、リアクションペーパーの内容 (60%)
- 2) 最終回におけるレポート課題 (40%)

授業中は私語は一切禁止するので、静かに聴講できない生徒は受講しないこと。特に 2~4 年生は入学以来オンラインが多くグループディスカッションの経験が少ないため、授業内にグループワークを取り込む。グループワークに参加できないものには単位を与えないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

就職活動など将来の進路に悩む学生も多く、実務家の講話が極めて有効であることがわかったため、本年も実務家の講話は継続する

【学生が準備すべき機器他】

実務家の講話は、オンラインになるので、視聴できる機器等を準備すること。

【その他の重要事項】

現役の実務家として博報堂で働いている経験は必要に応じて伝えていく。また広告業界の仕事は多岐にわたり様々な職種があるため、そのような実務家をなるべく多く授業に招いて講話をしてもらう予定である。広告業界に対する正しい理解を基に、興味をもった生徒は就職活動でぜひ広告業界を対象にしてほしい。

【関連科目】

マーケティング論

【Outline (in English)】

【Outline】 In this lecture, we will explain the basic concepts and theories of "advertising" and the latest trends in digital advertising. In addition, we will have various working people who are actually engaged in the advertising industry come and give lectures. Through the above, the course aims to provide students with a comprehensive understanding of the theory and practice of advertising.

【Goal】

1. understand and explain what advertising is and how it is useful in management.
2. understand and explain basic concepts in academic advertising theory.
3. understand and explain advertising strategies and procedures for planning and implementing advertising
4. understand and explain the types of companies involved in the advertising business and the types of people who work there.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

As a preparatory study, students will be asked to collect specific advertising case studies. Students are expected to analyze real-life advertising activities based on the knowledge and theories they have acquired. Students are expected to spend 1-2 hours per class for preparation and review.

【Grading criteria】

No final exam will be given.

1. reaction paper through group work in each class (60%)
2. final report assignment (40%)

No private conversation is allowed during class, so students who cannot listen quietly should not take this course.

Group work will be incorporated into the class. No credit will be given to students who cannot participate in group work.

ECN300FD

応用経済学 I

大橋 賢裕

市場経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [サマーセッション/Summer Session]

授業実施日：8 月 1 日 (火) ～5 日 (土)

1～4 日は 2,3,4 限

5 日は 1,2 限

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業ではゲーム理論と行動経済学の初歩を紹介します。受講生は、人の意思決定において現れる戦略的思考と認知バイアスについて、学術的にわかっていることを知るることができます。

【到達目標】

(1) 受講生は、自分の行動の善し悪しが、自分の行動だけでなく、他人の行動に依存して決まる状況において、いかに行動すべきか (いかに行動すべきでないか) を判断するための思考ツールを身につけることができる。(2) 人間の認知における癖が人の行動に与える影響とその対策、そしてそれらを利用する方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」と「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

講義形式です。理解確認のためその場で行う演習を含む場合があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゲーム理論：ゲームの定義と解	ゲーム理論の初歩として、「ゲームとは何か」「ゲームをどう分析するか／どう解くか」といった基本的な事柄を、例を用いながら解説する。
第 2 回	ゲーム理論：戦略とナッシュ均衡	ゲーム理論で用いられる戦略とは何か。そして戦略を用いてゲームの解として代表的なナッシュ均衡について解説する。
第 3 回	ゲーム理論：混合戦略	行動を確率的に選ぶという混合戦略の考え方と、混合戦略まで含めればナッシュ均衡が必ず存在するというナッシュの定理について解説する。
第 4 回	ゲーム理論：応用例	これまで学んだゲーム理論を使って、現実の経済問題を分析した例を解説する。
第 5 回	ゲーム理論：逐次手番ゲーム	他の人の行動を観察したあとに自分の行動を選べるという状況を分析するための考え方と解概念について解説する。
第 6 回	ゲーム理論：繰り返しゲーム	経済活動における長期的関係を前提とした行動は、同じゲームを何回も繰り返すゲームとして記述できる。そうした繰り返しゲームにおける戦略と均衡、そしてよく知られた「フォーク定理」について解説する。
第 7 回	行動経済学：ヒューリスティックとバイアス	行動経済学の初歩では、人間の意思決定の仕方とそのから生まれる歪み (バイアス) について学ぶ。すでに知られているいくつかの思考の癖と歪みについて紹介する。
第 8 回	行動経済学：二重過程理論	認知における性質について学ぶ。認知システムには、速い思考と遅い思考がある。それらの特性について、事例を交えて紹介する。
第 9 回	行動経済学：確率判断にともなうバイアス	人間は確率を伴う意思決定における判断が苦手であることを学ぶ。確率を伴う意思決定における傾向についても紹介する。
第 10 回	行動経済学：プロスペクト理論	人間は、得をするより損をすることを嫌う傾向があることを事例を通じて紹介する。次いでその傾向を記述するプロスペクト理論を学ぶ。
第 11 回	行動経済学：現在バイアス	異時点間の消費における動学的非整合性の問題を事例と共に紹介する。次いで人間の「せっかちさ」を記述するモデルを紹介する。

第 12 回 行動経済学：社会的選好 経済学が仮定する合理的個人では説明のできない、社会における人間の振るまいについて解説する。扱うのは最後通牒ゲームや公共財ゲームである。

第 13 回 ゲーム理論と行動経済学 これまでの授業のふりかえりとして、ゲーム理論の枠組みに行動経済学の発想を融合させることができるかを考える。戦略的思考と人間の思考、それぞれの特徴をつかんで、よりよい制度を作ることを考える。

第 14 回 確認試験と解説 授業内容確認のための筆記試験とその解説を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業の復習時間は 1 時間を標準とします。1 日 3 回授業がある場合は 3 時間です。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。

【参考書】

岡田章「ゲーム理論の見方・考え方」(勁草書房、2022 年)

岡田章「新版 ゲーム理論・入門」(有斐閣、2014 年)

大竹文雄「行動経済学の使い方」(岩波新書、2019 年)

リチャード・セイラー (遠藤真美・訳)「行動経済学の逆襲 (上/下)」(早川書房、2019 年)

【成績評価の方法と基準】

授業内試験の成績、50%・平常点、50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

担当教員の連絡先

大橋 賢裕 (おおはし よしひろ)

ohashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline) This course introduces introductory game theory and introductory behavioral economics to students. (Learning objectives) Students acquire knowledge about strategic reasoning and cognitive biases. (Learning activities outside of classroom) Students are required frequent review. (Grading criteria) test and quizzes

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

秋友 一広

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらおう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

【到達目標】

本授業終了後は下記の能力が備わる：

1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、パラフレーズの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できるの方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する（中間、期末試験で理解度を確認）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらおう。第一回目の授業で、“Your Career in Business”（教科書第17章 P655 - P684）、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う（例：経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケティング（含むグローバル展開）、物流、IT 他を含む）ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当てでは、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	* 本授業の概要、進め方 * 講師による教科書の第17章 Your Career in Business の説明 * 一般企業の職能別組織説明

第2回	第1章 Understanding Economic Systems & Business 第4章 Forms of Business Ownership	* 講師による第1章と第4章の説明、Q & A, Discussion * チーム編成
第3回	第14章 Using Financial Information & Accounting と 第16章 Understanding Financial Management and Securities Market	* チームによる第14章、第16章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第4回	第6章 Management and Leadership in Today's Organizations 第2章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	* チームによる第6章、第2章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第5回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	* チームによる第7章、第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第6回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	* 第5回からの継続：チームによる第7章、第8章、第9章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第7回	第11章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers' Needs 第12章 Distributing and Promoting Products and Services	* チームによる第11章、第12章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第8回	中間テスト / Mid-term exam	* テスト時間は1時間 * 残りの時間はディスカッション
第9回	第3章 Competing in the Global Marketplace 第5章 Entrepreneurship	* チームによる第3章、第5章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括

第10回	第10章 Achieving World-Class Operations Management	* チームによる第10章の説明、 Q & A、Discussion、 * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーションの方法について
第11回	第13章 Using Technology to Manage Information	* チームによる第13章の説明、 Q & A、Discussion * 講師総括 * 英語でのプレゼンテーションに使われる繋ぎの言い回し、表現について。
第12回	第15章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	* チームによる第15章、 Appendix の説明、Q & A、 Discussion * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第13回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	* 実際の MBA 授業で使われる ケース・スタディーを使って議論 してみる * 講師はファシリテータとして学 生諸君の議論を深め、最後に総括 を行う
第14回	期末テスト / Final Exam	* テスト時間は 1 時間 * コース全体の振り返りと Q & A

実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率 60%）に 41 年勤務している。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算 11 年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として 6 年間ドイツに駐在した。2018 年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務している。

【関連科目】

無し。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide undergraduate freshman students majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management itself, as well as the external environment that influences it, by using a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management is of U.S. origin, making learning the basics of business administration in the English language a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities. Students will be asked to form teams and present in English the contents of each chapter of the textbook each week. Through active questioning and discussion with other teams, as well as seasoned guidance from the instructor's years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms that are essential for modern global business management. In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons who are not only equipped with logic and substance but also are able to effectively deliver presentations in English.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容を MS パワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ2時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない類出単語のみ引くこと、速読を重視

【テキスト（教科書）】

Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

【参考書】

Principles of Management、OpenStax, Rice University.
Entrepreneurship, ibid.

【成績評価の方法と基準】

平常点（グループワーク・プレゼンテーション含む）20%– 遅刻は減点：

毎回出席を確認し、3 回以上欠席した学生は単位取得不可。

中間テストの点数: 40%

期末テストの点数: 40%

【学生の意見等からの気づき】

今年度からの担当講師につき該当しない

【学生が準備すべき機器他】

教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードした PC を持参のこと

カメラ・マイク付き PC と高速インターネット（オンラインの場合）

MS Word, PPT, エクセル搭載の PC。

【その他の重要事項】

1. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中に Web 抽選を行う。
2. 早い段階で TOEIC を受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

秋友 一広

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

【到達目標】

本授業終了後は下記の能力が備わる：

1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、パラフレーズの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する（中間、期末試験で理解度を確認）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらう。第一回目の授業で、“Your Career in Business”（教科書第17章 P655 - P684）、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う（例：経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケティング（含むグローバル展開）、物流、IT 他を含む）ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ者同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当ては、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	* 本授業の概要、進め方 * 講師による教科書の第 1 7 章 Your Career in Business の説明 * 一般企業の職能別組織説明
第 2 回	第 1 章 Understanding Economic Systems & Business 第 4 章 Forms of Business Ownership	* 講師による第 1 章と第 4 章の説明、Q & A, Discussion * チーム編成
第 3 回	第 14 章 Using Financial Information & Accounting と 第 16 章 Understanding Financial Management and Securities Market	* チームによる第 1 4 章、第 1 6 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第 4 回	第 6 章 Management and Leadership in Today's Organizations 第 2 章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	* チームによる第 6 章、第 2 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括

第 5 回	第 7 章 Designing Organizational Structures 第 8 章 Managing Human Resources and Labor Relations 第 9 章 Motivating Employees	* チームによる第 7 章、第 8 章、第 9 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第 6 回	第 7 章 Designing Organizational Structures 第 8 章 Managing Human Resources and Labor Relations 第 9 章 Motivating Employees	* 第 5 回からの継続：チームによる第 7 章、第 8 章、第 9 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第 7 回	第 11 章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers' Needs 第 12 章 Distributing and Promoting Products and Services	* チームによる第 1 1 章、第 1 2 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第 8 回	中間テスト / Mid-term exam	* テスト時間は 1 時間 * 残りの時間はディスカッション
第 9 回	第 3 章 Competing in the Global Marketplace 第 5 章 Entrepreneurship	* チームによる第 3 章、第 5 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第 10 回	第 1 0 章 Achieving World-Class Operations Management	* チームによる第 1 0 章の説明、Q & A, Discussion、 * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーションの方法について
第 11 回	第 1 3 章 Using Technology to Manage Information	* チームによる第 1 3 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 英語でのプレゼンテーションに使われる繋ぎの言い回し、表現について。
第 12 回	第 1 5 章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	* チームによる第 1 5 章、Appendix の説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第 13 回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	* 実際の MBA 授業で使われるケース・スタディーを使って議論してみる * 講師はファシリテータとして学生諸君の議論を深め、最後に総括を行う
第 14 回	期末テスト / Final Exam	* テスト時間は 1 時間 * コース全体の振り返りと Q & A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容を MS パワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ 2 時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

【テキスト（教科書）】

Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

【参考書】

Principles of Management、OpenStax, Rice University.
Entrepreneurship, ibid.

【成績評価の方法と基準】

平常点（グループワーク・プレゼンテーション含む）20% - 遅刻は減点：
毎回出席を確認し、3 回以上欠席した学生は単位取得不可。
中間テストの点数: 40%
期末テストの点数: 40%

【学生の意見等からの気づき】

今年度からの担当講師につき該当しない

【学生が準備すべき機器他】

教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードした PC を持参のこと

カメラ・マイク付き PC と高速インターネット（オンラインの場合）
MS Word, PPT, エクセル搭載の PC。

【その他の重要事項】

1. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中に Web 抽選を行う。
2. 早い段階で TOEIC を受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。
実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率 60 %）に 41 年勤務している。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算 11 年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として 6 年間ドイツに駐在した。2018 年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務している。

【関連科目】

無し。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide undergraduate freshman students majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management itself, as well as the external environment that influences it, by using a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management is of U.S. origin, making learning the basics of business administration in the English language a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities. Students will be asked to form teams and present in English the contents of each chapter of the textbook each week. Through active questioning and discussion with other teams, as well as seasoned guidance from the instructor's years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms that are essential for modern global business management. In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons who are not only equipped with logic and substance but also are able to effectively deliver presentations in English.

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

川島 健司

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英文の教材を用いて、会社の経営と決算書の読み方の基礎を学びます。まずは会社がどのように運営されているかをヒト・モノ・カネの視点から理解したうえで、その状況を表す貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書という 3 つの書類について学習します。授業では、実際の会社の決算書の分析も実践します。なお、教材は英語、授業は日本語で行います。以降は英語で記述します。

【到達目標】

Upon successful completion of the course, students should be able to:

- Analyze a company's financial statements
- Describe conclusions about profitability, efficiency, liquidity, and solvency
- Record basic debt-credit journal entries and prepare a set of financial statements

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- In case it is difficult to hold classes in the classroom due to COVID-19 or natural disasters, we will keep holding the classes using Zoom. The recorded lessons will be available until the end of the class.
- After the review, new topics are explained by the instructor, followed by group discussions and/or case analysis. Active participation is strongly recommended especially during discussions and analysis.
- Japanese company financial statements are used in case analysis.
- Questions and comments are welcomed at any time on the Zoom and Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week1	Introduction	- Basic concepts of accounting - The four financial statements
第 2 回	Basic concepts of financial statement	- Basic financial analysis ratios, - Accounting principles and standards
第 3 回	Balance sheet 1	- Assets - Liabilities - Shareholders' equity
Week4	Balance sheet 2	- Liquidity and solvency ratio - Trend and common-size analysis for balance sheet
Week5	Income statement 1	- Expenses - Revenue
Week6	Income statement 2	- Profitability ratio - Trend and common-size analysis for income statement
Week7	Intermediate exam	- Balance sheet - Income statement - Liquidity, solvency and profitability ratio
Week8	Statement of stockholders' equity 1	- Common and preferred stock - Par value and additional paid in capital
Week9	Statement of stockholders' equity 2	- Retain earnings - Treasury stock
Week10	Statement of cash flows 1	- Operating, investing and financing activities - Direct and indirect method for computing cash flow
Week11	Statement of cash flows 2	- Interpret cash flow - Trend and common-size analysis for cash flow
Week12	Inventory and property, plant and equipment 1	- Cash and cash equivalents - Account receivable
Week13	Inventory and property, plant and equipment 2	- Inventory - Property, plant, and equipment
Week14	Accounting cycle	- 10 steps of accounting cycle - Debt-Credit journal entries

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to spend an average of four hours preparing for this class, including answering assignments for each class.

- Readings and/or problems are assigned for each class. You should come to class prepared to discuss your analysis of the cases and its underlying problems. Regular class participation is critical to the learning process for both you and your classmates.
- Additional assignments will either be discussed in class or presented as additional cases for your benefit. I will disclose assignments for class discussion prior to their respective lectures.

【テキスト（教科書）】

Nothing in particular however, students are welcome to access topics concerning this course and its objectives in other related texts. The instructor is at liberty to provide further materials during the course of instruction.

【参考書】

Schoenebeck, K. P., & Holtzman, M. P. (2012). Interpreting and analyzing financial statements. Pearson Higher Ed.(6th Edition)

【成績評価の方法と基準】

Grades will be distributed according to the following weights:
Class Participation 30%
Midterm exam1 20%
Midterm exam2 20%
Final Exam 30%

【学生の意見等からの気づき】

I will cover less topics than last year to give more time to each to be covered.

【その他の重要事項】

Please note that if the number of students attending the first lesson significantly exceeds expectation, the number of students who are allowed to register for the course will be limited in order to effectively manage the class. For this reason, if you are planning to take this course, you need to attend the first lesson.

【Prerequisites】

None.

【Outline (in English)】

This course is designed to provide a basic understanding of accounting, including introductory accounting concepts, principles, and procedures. Specific attention will be devoted to the three financial statements and frameworks for understanding them, as well as ways in which to prepare financial data. Students will be expected to apply these skills to the analysis of real companies, and to interpret their respective financial statements accordingly. These cases will enable students to grasp the importance of accounting knowledge in the business world, to understand current events in terms of accounting measurements, and to communicate effectively with other professions.

This course uses English teaching materials, but will be conducted in Japanese.

The goals of this lecture are as follows.

- (1) Acquire the ability to consider how each transaction should be accounted for using accounting vocabulary (concepts), and the ability to explain it to others.
- (2) Understand Japanese accounting standards and the basic concepts necessary for reading IFRS (International Financial Reporting Standards).
- (3) To acquire the ability to understand the intention of the financial statement preparers behind the accounting figures.
- (4) Acquire the ability to infer the actual state of the company from financial statements.

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

Evaluate based on the following two points. Weights in parentheses. (1) Confirmation test for each lesson (50%)

(2) Composition for each assignment (50%): Students submit questions and impressions on the Google Form after each lesson. The descriptions will be anonymous and shared with all students.

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

北田 皓嗣

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では企業のサステナビリティ経営をテーマにします。近年、サステナビリティは経営戦略を考える上で、重要なキーワードになっています。投資家は ESG(Environmental, Social, Governance) の要素を、ますます投資評価に反映してきています。SDGs (Sustainable Development Goals) に貢献する事業を展開することで、新しいマーケットを開拓することもできます。ファッション誌でもエシカルをテーマとした特集が組まれることも多くなり、若い世代のターゲットとするアパレル企業を中心にエシカルブランドの展開され始めました。

ただし多くのトレンドはヨーロッパやアメリカから発信されるため、サステナビリティ経営を理解するためには英語で情報収集することが不可欠です。本講義では、各種団体の報告書、雑誌や新聞を題材にサステナビリティ経営について学んでいきます。

また本講義では Google 翻訳や DeepL, などの翻訳ツールや Chat GPT の積極的な利用を推奨しております。英語の文章を自力で読めることよりも、利用可能なツールを使って外国で議論されていることを知るの方がよほど重要だと考えています。英語が苦手であっても外国語で議論されていることを調べることができることを経験してもらいたいと考えています。

【到達目標】

学生は、本講義を通じて、サステナビリティ・イシューにアクセスするための媒体について理解するとともに、下記のトピックについて理解を深めます。

- ・サーキュラーエコノミー
- ・ESG 投資
- ・エシカルファッション
- ・ブランド・アカウンタビリティ
- ・プラスチック
- ・フードロス
- ・再生可能エネルギー
- ・生物多様性

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎週、課題となる資料と課題を設定し、Hoppii に各自の意見を投稿してもらうとともに、担当者を割り当てて記事の要約をプレゼンテーションしてもらいます。

資料は多少、長めになることもありますが、DeepL などの翻訳ソフトを活用して、英語が必ずしも得意でない学生にも参加してもらいたいと思っています。

授業への参加人数や、大学での授業とオンライン授業の比率にもよって、運営方法が変更になる場合もあります。

なお、このクラスは入門外国語経営学ですが、100 名規模の教室で実施するため履修しやすくなっています。

取り上げる題材については、ファッションや食品、日用雑貨など出来るだけ学生のみなさんなじみの深い企業活動を取り上げたいと思います。ただしサステナビリティ関連の話題は、エネルギーや素材産業など、しばしばなじみが薄く、技術的なトピックが多くなる傾向にあるため、一部はこれらの活動も取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	サステナビリティマネジメンツの基礎と概要	授業の進め方と、サステナビリティに関する概要を説明し、サステナビリティと QCD の関係について考えていきます。
第 2 回	エシカルファッション（過剰生産問題）	ファッション産業のサプライチェーンにおける過剰生産の問題について議論します。
第 3 回	エシカルファッション（サプライヤーの問題）	ファッション産業のサプライチェーンにおけるサプライヤーの問題について議論します。
第 4 回	エシカルファッション（人権問題）	ファッション産業のサプライチェーンにおける人権問題について議論します。
第 5 回	中間テスト 1	エシカルファッションに関連する内容の確認テストを実施します。
第 6 回	食の安全保障	食の安全保障について検討します。
第 7 回	食品の安全性	食品の安全性について検討します。
第 8 回	森林破壊	森林破壊問題の構造について検討します。

第 9 回 中間テスト 2

食料問題と森林破壊に関する確認テストを実施します。

第 10 回 気候変動問題

気候変動問題について検討します。

第 11 回 気候変動の経済性

気候変動の経済性について検討します。

第 12 回 ESG 投資

ESG 投資について検討します。

第 13 回 サーキュラーエコノミー

サーキュラーエコノミーとビジネスの関係について検討します。

第 14 回 期末テスト

気候変動、ESG、サーキュラーエコノミーに関連して確認テストを実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 1-2 時間を標準とします。毎週、課題となるドキュメントが設定されます。それを読んで、Hoppii に自身の意見をまとめてレポートを提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

オンライン上で手に入る資料を利用するため、特に教科書は指定しません。

【参考書】

興味のある人は、下記の書籍がおすすめです。

梅田靖・21 世紀政策研究所（編）(2021)『サーキュラーエコノミー：循環経済がビジネスを変える』勁草書房。

夫馬賢治 (2020)『データでわかる 2030 年 地球のすがた』日本経済新聞社。
夫馬賢治 (2020)『ESG 思考 激変資本主義 1990-2020、経営者も投資家もここまで変わった』講談社+a 新書。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート (40%: 4 ポイント × 10 回)

確認テスト (60%: 20 ポイント × 3 回)

※受講者の人数に応じて、変更する可能性があります。その場合には 2 回目の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

履修を希望する学生は、初回の授業までに Hoppii に登録して、適宜、情報を確認するようにしてください。

【その他の重要事項】

教室の収容人数を超える履修希望者がいる場合には、初回の授業で選抜を行います。その場合には、初回のみオンラインで実施する可能性があります。

【関連科目】

特にありません。

【Outline (in English)】

The theme of this class is corporate sustainability management. In recent years, sustainability has become an important keyword in business strategy. Investors are increasingly reflecting ESG (Environmental, Social, Governance) factors in their investment evaluation. By creating businesses that contribute to the SDGs (Sustainable Development Goals), we can open up new markets. Ethical brands have started to be introduced mainly by companies targeting the younger generation, as fashion magazines often feature these themes.

However, since most of the trends come from Europe and the United States, it is essential to collect information in English in order to understand sustainability management. In this lecture, we will learn about sustainability management using reports from various organizations, magazines, and newspapers.

- Each week, you will be assigned a document. You will be required to read it and post your opinion on the online board.

- Quiz (60%), Report (40%)

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

北田 皓嗣

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では企業のサステナビリティ経営をテーマにします。近年、サステナビリティは経営戦略を考える上で、重要なキーワードになっています。投資家は ESG (Environmental, Social, Governance) の要素を、ますます投資評価に反映してきています。SDGs (Sustainable Development Goals) に貢献する事業を展開することで、新しいマーケットを開拓することもできます。ファッション誌でもエシカルをテーマとした特集が組まれることも多くなり、若い世代のターゲットとするアパレル企業を中心にエシカルブランドの展開され始めました。

ただし多くのトレンドはヨーロッパやアメリカから発信されるため、サステナビリティ経営を理解するためには英語で情報収集することが不可欠です。本講義では、各種団体の報告書、雑誌や新聞を題材にサステナビリティ経営について学んでいきます。

また本講義では Google 翻訳や DeepL, などの翻訳ツールや Chat GPT の積極的な利用を推奨しております。英語の文章を自力で読めることよりも、利用可能なツールを使って外国で議論されていることを知るの方がよほど重要だと考えています。英語が苦手であっても外国語で議論されていることを調べることができることを経験してもらいたいと考えています。

【到達目標】

学生は、本講義を通じて、サステナビリティ・イシューにアクセスするための媒体について理解するとともに、下記のトピックについて理解を深めます。

- ・サーキュラーエコノミー
- ・ESG 投資
- ・エシカルファッション
- ・ブランド・アカウンタビリティ
- ・プラスチック
- ・フードロス
- ・再生可能エネルギー
- ・生物多様性

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎週、課題となる資料と課題を設定し、Hoppii に各自の意見を投稿してもらうとともに、担当者を割り当てて記事の要約をプレゼンテーションしてもらいます。

資料は多少、長めになることもありますが、DeepL などの翻訳ソフトを活用して、英語が必ずしも得意でない学生にも参加してもらえようになりたいと思っています。

授業への参加人数や、大学での授業とオンライン授業の比率にもよって、運営方法が変更になる場合もあります。

なお、このクラスは入門外国語経営学ですが、100 名規模の教室で実施するため履修しやすくなっています。

取り上げる題材については、ファッションや食品、日用雑貨など出来るだけ学生のみなさんなじみの深い企業活動を取り上げたいと思います。ただしサステナビリティ関連の話題は、エネルギーや素材産業など、しばしばなじみが薄く、技術的なトピックが多くなる傾向にあるため、一部はこれらの活動も取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	サステナビリティマネジメンツの基礎と概要	授業の進め方と、サステナビリティに関する概要を説明し、サステナビリティと QCD の関係について考えていきます。
第 2 回	エシカルファッション（過剰生産問題）	ファッション産業のサプライチェーンにおける過剰生産の問題について議論します。
第 3 回	エシカルファッション（サプライヤーの問題）	ファッション産業のサプライチェーンにおけるサプライヤーの問題について議論します。
第 4 回	エシカルファッション（人権問題）	ファッション産業のサプライチェーンにおける人権問題について議論します。
第 5 回	中間テスト 1	エシカルファッションに関連する内容の確認テストを実施します。
第 6 回	食の安全保障	食の安全保障について検討します。
第 7 回	食品の安全性	食品の安全性について検討します。
第 8 回	森林破壊	森林破壊問題の構造について検討します。

第 9 回 中間テスト 2

食料問題と森林破壊に関する確認テストを実施します。

第 10 回 気候変動問題

気候変動問題について検討します。

第 11 回 気候変動の経済性

気候変動の経済性について検討します。

第 12 回 ESG 投資

ESG 投資について検討します。

第 13 回 サーキュラーエコノミー

サーキュラーエコノミーとビジネスの関係について検討します。

第 14 回 期末テスト

気候変動、ESG、サーキュラーエコノミーに関連して確認テストを実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 1-2 時間を標準とします。毎週、課題となるドキュメントが設定されます。それを読んで、Hoppii に自身の意見をまとめてレポートを提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

オンライン上で手に入る資料を利用するため、特に教科書は指定しません。

【参考書】

興味のある人は、下記の書籍がおすすめです。

梅田靖・21 世紀政策研究所（編）(2021)『サーキュラーエコノミー：循環経済がビジネスを変える』勁草書房。

夫馬賢治 (2020)『データでわかる 2030 年 地球のすがた』日本経済新聞社。

夫馬賢治 (2020)『ESG 思考 激変資本主義 1990-2020、経営者も投資家もここまで変わった』講談社+α 新書。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート (40%: 4 ポイント × 10 回)

確認テスト (60%: 20 ポイント × 3 回)

※受講者の人数に応じて、変更する可能性があります。その場合には 2 回目の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

履修を希望する学生は、初回の授業までに Hoppii に登録して、適宜、情報を確認するようにしてください。

【その他の重要事項】

教室の収容人数を超える履修希望者がいる場合には、初回の授業で選抜を行います。その場合には、初回のみオンラインで実施する可能性があります。

【関連科目】

特にありません。

【Outline (in English)】

The theme of this class is corporate sustainability management. In recent years, sustainability has become an important keyword in business strategy. Investors are increasingly reflecting ESG (Environmental, Social, Governance) factors in their investment evaluation. By creating businesses that contribute to the SDGs (Sustainable Development Goals), we can open up new markets. Ethical brands have started to be introduced mainly by companies targeting the younger generation, as fashion magazines often feature these themes.

However, since most of the trends come from Europe and the United States, it is essential to collect information in English in order to understand sustainability management. In this lecture, we will learn about sustainability management using reports from various organizations, magazines, and newspapers.

- Each week, you will be assigned a document. You will be required to read it and post your opinion on the online board.

- Quiz (60%), Report (40%)

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

高橋 理香

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済・経営に関する時事的なトピックを中心にとりあげて英語のリーディングやリスニングのスキルアップを目指すとともに、トピックの背景にある経済学・経営学概念・知識・考え方を学びます。

【到達目標】

- ①英語に慣れて聞き取りのポイントをつかめる。
- ②英語の記事を辞書無しで読み、逐次訳することなく英語のまま概要をつかめる。
- ③英文の構成やパラグラフの役割を理解した上で、読解力と論述力を高める。
- ④現実の経済・経営に対する理解と関心を深める。
- ⑤ディスカッションを通じて、他の履修者とのコミュニケーション力を高める。英語「を」学ぶことから、英語「で」学ぶことが出来るようになるまでのきつかけをつかむことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

第2週目以降、以下の3つの内容をローテーションで行います。
 ・リスニング：リスニング教材を使って、英語のニュースの聞き取り訓練を行います。聞き取り後に関連するクイズを行うこともあります。その後、トピックに関連するテーマに対してグループディスカッションを行います。
 ・リーディング：教員の選んだ英字新聞の記事や英語の文献をその場で読んで理解します。その後、記事に関連するテーマに対してグループディスカッションを行います。
 ・レポート：英字新聞の記事に関するレポートを作成します。レポートでは、各自が記事を選び、その記事を読んで理解した上で、記事に関連する内容の調査と分析を行います。レポートでは、ディスカッションテーマも執筆者に書いてもらいます。授業時には、提出されたレポートの内容を発表してもらいます。さらに、最後に、発表者の挙げたディスカッションテーマに従って、グループディスカッションを行います。レポートは日本語または英語で作成してください。
 ※レポートの週はオンラインでの実施を予定しています。それ以外は対面授業を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の概要を説明し、今後のスケジュールを決めます。
第2回	Listening 1	リスニング：スピードを落としてニュースの聞き取りを行います。
第3回	Reading 1	リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。辞書無しで大意をつかむ方法を学びます。
第4回	Writing Report and Presentation 1	レポート：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。記事の選び方について議論します。
第5回	Listening 2	リスニング：ニュースのキーワードの聞き取りを訓練します。
第6回	Reading 2	リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。文章の全体的な構成やパラグラフの役割について学びます。
第7回	Writing Report and Presentation 2	レポート：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。レポートの書き方について学びます。
第8回	Listening 3	リスニング：聞き取りにくい音やフレーズを見つけ、音読して確認します。
第9回	Reading 3	リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。長い英文を読む時のコツを学びます。
第10回	Writing Report and Presentation 3	レポート：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。発表の仕方について学びます。
第11回	Listening 4	リスニング：少しだけスピードアップしてニュースの聞き取り訓練を行います。

第12回 Reading 4

リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。Transition Words の役割を学びます。

第13回 Writing Report and Presentation 4

レポート：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。前回の授業で学んだ文章構成やパラグラフの構成について、自分で選んだ記事において確認します。

第14回 Conclusion

授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は英字新聞のレポート作成です。復習は教員の用意したリスニングやリーディング教材に注力してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

参考文献については、初回の授業時に説明をします。授業で用いる英字新聞についても、初回の授業時に説明します。

【成績評価の方法と基準】

英字新聞のレポートと発表：40%

グループディスカッション：30%

授業への積極的な参加：30%

授業に対する姿勢や上記の項目を総合的に判断して評価します。

欠席は成績評価を大きく下げます。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の皆さんの理解度や希望をなるべく反映して授業を進めたいと考えています。少人数クラスの利点を活かし、クラスでのグループディスカッションの機会をなるべく多く設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン（Zoom）で授業を行うことがあります。その際には、ビデオオン・音声オフを基本として参加してもらいます。資料の配布やレポート提出の際に学習支援システムを使います。ワード・エクセル・パワーポイントや、インターネットを使ったデータ収集を行うことがあります。また、履修者には法政大学のアカウントを使って Financial Times の登録を行っていただきます。機器の使い方や登録方法については、初回授業で説明します。

【その他の重要事項】

初回の授業時に、授業の概要や2回目以降のスケジュールと課題についてお話ししますので、興味のある方は、初回の授業に必ず出席して下さい。この授業に関連する科目は、英語の授業全般、経営学部の専門科目全般です。また、受講者多数の場合は、初回授業で選考を行います。

【Outline (in English)】

This class aims to brush up reading and listening skills in English and understand the concepts, knowledge and thinking of economics and business administration, focusing on world news related to economics and business.

In this class, three trainings, listening, reading, and writing short reports, will be conducted four times each. In listening, students will practice listening to news at a slow speed. In reading, students will quickly read newspaper articles written in English prepared by the instructor and participate in group discussions according to the themes provided by the instructor. In writing report, students will choose a newspaper article written in English, read it, and submit a short report with respect to that article.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports and presentation: 40 %,

Group work in class: 30%,

Contribution in class: 30%.

※ If the number of students exceeds expectations, the selection will be conducted. Please be sure to attend the first class meeting.

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

福多 裕志

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

[Challenges of Global Enterprises]

当授業では、いくつかの世界的企業を取り上げ、海外メディアの記事を通してビジネスへの取り組み方や動向を学習する。授業中の言語は、和訳を行う時間帯を除き、できうる限り英語としたい。In this class, we will cover some global companies and learn about business approaches and trends through articles in overseas media. Let us try to communicate in English during class.

【到達目標】

現在、どのような領域（職場、職種、地域等）において活動するにせよ、英語の総合的運用力を求められることが多い。本授業が、受講者の英語による運用能力を向上させ、結果として長、短期の留学や各種検定試験の成功へと結びつくこと（英検準1級程度）を目指す。Currently, regardless of the field (workplace, occupation, region, etc.), it is often required to have comprehensive English proficiency. This course is designed to meet the objectives of those who wish to study abroad and the success of various examinations. This class also fits the needs of those who want the opportunity to discuss business and economic topics in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

指定教科書および配布プリントを使用し、日本語訳出、英語による発表・討論等を通し授業を進める。教科書の1章分をおよそ3回の授業で終了する。授業では日本語へ訳出する場合を除き、英語、日本語両言語を用いて行う予定である。We will try to use English during class except for the translation time. Students will be expected not only to acquire business vocabulary and expressions, but to discuss business topics from a variety of kinds of English media as well. Special emphasis will be given to communicative English skills necessary for active discussion.

【重要事項】

当コースは第1回目の授業を除き、原則として対面方式により開講します。第1回目の授業用 ZOOM ID は、授業開始日迄に当サイトの「お知らせ」に掲示します。

第1回目の授業において、授業定員を超える場合は、人数を調整するための試験等を行うこともありますので、履修を予定している方は必ず初回授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Class Orientation	年間授業計画の説明および英文記事の訳出を行う（日・英両言語）。
第2回	Walmart (1)	Walmart - Business vocabulary and reading
第3回	Walmart (2)	Walmart - Reading comprehension
第4回	Walmart (3)	Walmart - Discussion
第5回	Presentation on Job Trends in the world (1)	Participants are expected to make an effective presentation on a company or industry.
第6回	Disney (1)	Disney - Business vocabulary and reading
第7回	Disney (2)	Disney - Reading comprehension
第8回	Disney (3)	Disney - Discussion
第9回	Presentation on Job Trends in the world (2)	Participants are expected to make an effective presentation.
第10回	General Electric (1)	General Electric - Business vocabulary and reading
第11回	General Electric (2)	General Electric - Reading comprehension
第12回	General Electric (3)	General Electric - Discussion
第13回	Presentation on Job Trends in the world (3)	Participants are expected to make an effective presentation on a company or industry.
第14回	In-class term exam	60-minute written test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各英文記事の日本語訳出、英語によるグループディスカッションのための準備を毎回確実にを行うこと。学習支援システムに、随時、必要情報を掲載するので参照すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。Students are expected to make elaborate preparations for vocabulary, listening practice and discussion for each class at home to enhance their participation in classroom discussions. 2 hours of preparation time is expected.

【テキスト（教科書）】

Kayoko Shiomi, Kazumi Tsutada and Angus McGregor (2019). *Challenges of Global Enterprises*. Kinseido(金星堂). ¥2,100+tax

【参考書】

ビジネスや経済を扱う新聞、雑誌等の英語参考文献は数多い。必要に応じて学習支援システムに文献リストを掲載する。Pay attention, on a frequent basis, to the Learning Management System (LMS) that includes a reference list.

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、学期末筆記試験70%（原則的に筆記試験とするが、状況により口述試験）をもって評価する。Contributions to class activities(30%), in-class written or oral exam in some cases : No references available (70%)

【学生の意見等からの気づき】

The instructor encourages participants to express themselves clearly both in Japanese and English.

【学生が準備すべき機器他】

Feel free to use your PC in class.

【その他の重要事項】

学習支援システムを利用して授業関連情報を提供するので、同システムを積極的に活用すること。Class-related information is provided on the LMS. Feel relaxed, have fun and do your best while using English. 受講者多数の場合は、初回の授業において「何らかの試験」あるいは「抽選」を行う。

【関連科目】

経営学総論 I / II

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Participants in this class will learn how to approach business and trends covering several global enterprises in articles of foreign media.

[Learning Objectives]

Currently, regardless of the field (workplace, occupation, region, etc.), it is often required to have comprehensive English proficiency. This course is designed to meet the objectives of those who wish to study abroad and the success of various examinations. This class also fits the needs of those who want the opportunity to discuss business and economic topics in English.

[Grading Criteria]

Contributions to class activities (30%), in-class exam (70%)

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

福多 裕志

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

[Challenges of Global Enterprises]

当授業では、いくつかの世界的企業を取り上げ、海外メディアの記事を通してビジネスへの取り組み方や動向を学習する。授業中の言語は、和訳を行う時間帯を除き、できうる限り英語としたい。In this class, we will cover some global companies and learn about business approaches and trends through articles in overseas media. Let us try to communicate in English during class.

【到達目標】

現在、どのような領域（職場、職種、地域等）において活動するにせよ、英語の総合的運用力を求められることが多い。本授業が、受講者の英語による運用能力を向上させ、結果として長、短期の留学や各種検定試験の成功へと結びつくこと（英検準1級程度）を目指す。Currently, regardless of the field (workplace, occupation, region, etc.), it is often required to have comprehensive English proficiency. This course is designed to meet the objectives of those who wish to study abroad and the success of various examinations. This class also fits the needs of those who want the opportunity to discuss business and economic topics in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

指定教科書および配布プリントを使用し、日本語訳出、英語による発表・討論等を通し授業を進める。教科書の1章分をおよそ3回の授業で終了する。授業では日本語へ訳出する場合を除き、英語、日本語両言語を用いて行う予定である。We will try to use English during class except for the translation time. Students will be expected not only to acquire business vocabulary and expressions, but to discuss business topics from a variety of kinds of English media as well. Special emphasis will be given to communicative English skills necessary for active discussion.

【重要事項】

当コースは第1回目の授業を除き、原則として対面方式により開講します。第1回目の授業用 ZOOM ID は、授業開始日迄に当サイトの「お知らせ」に掲示します。

第1回目の授業において、授業定員を超える場合は、人数を調整するための試験等を行うこともありますので、履修を予定している方は必ず初回授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Class Orientation	年間授業計画の説明および英文記事の訳出を行う（日・英両言語）。
第2回	Walmart (1)	Walmart - Business vocabulary and reading
第3回	Walmart (2)	Walmart - Reading comprehension
第4回	Walmart (3)	Walmart - Discussion
第5回	Presentation on Job Trends in the world (1)	Participants are expected to make an effective presentation on a company or industry.
第6回	Disney (1)	Disney - Business vocabulary and reading
第7回	Disney (2)	Disney - Reading comprehension
第8回	Disney (3)	Disney - Discussion
第9回	Presentation on Job Trends in the world (2)	Participants are expected to make an effective presentation.
第10回	General Electric (1)	General Electric - Business vocabulary and reading
第11回	General Electric (2)	General Electric - Reading comprehension
第12回	General Electric (3)	General Electric - Discussion
第13回	Presentation on Job Trends in the world (3)	Participants are expected to make an effective presentation on a company or industry.
第14回	In-class term exam	60-minute written test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各英文記事の日本語訳出、英語によるグループディスカッションのための準備を毎回確実に行うこと。学習支援システムに、随時、必要情報を掲載するので参照すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。Students are expected to make elaborate preparations for vocabulary, listening practice and discussion for each class at home to enhance their participation in classroom discussions. 2 hours of preparation time is expected.

【テキスト（教科書）】

Kayoko Shiomi, Kazumi Tsutada and Angus McGregor (2019). *Challenges of Global Enterprises*. Kinseido(金星堂). ¥2,100+tax

【参考書】

ビジネスや経済を扱う新聞、雑誌等の英語参考文献は数多い。必要に応じて学習支援システムに文献リストを掲載する。Pay attention, on a frequent basis, to the Learning Management System (LMS) that includes a reference list.

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、学期末筆記試験70%（原則的に筆記試験とするが、状況により口述試験）をもって評価する。Contributions to class activities(30%), in-class written or oral exam in some cases : No references available (70%)

【学生の意見等からの気づき】

The instructor encourages participants to express themselves clearly both in Japanese and English.

【学生が準備すべき機器他】

Feel free to use your PC in class.

【その他の重要事項】

学習支援システムを利用して授業関連情報を提供するので、同システムを積極的に活用すること。Class-related information is provided on the LMS. Feel relaxed, have fun and do your best while using English. 受講者多数の場合は、初回の授業において「何らかの試験」あるいは「抽選」を行う。

【関連科目】

経営学総論 I / II

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Participants in this class will learn how to approach business and trends covering several global enterprises in articles of foreign media.

[Learning Objectives]

Currently, regardless of the field (workplace, occupation, region, etc.), it is often required to have comprehensive English proficiency. This course is designed to meet the objectives of those who wish to study abroad and the success of various examinations. This class also fits the needs of those who want the opportunity to discuss business and economic topics in English.

[Grading Criteria]

Contributions to class activities (30%), in-class exam (70%)

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

洞口 治夫

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【はじめての英字新聞】

この科目では英字新聞を読むための教科書を使いながら、人と組織を対象とする経営学、経営戦略、マーケティング、知識創造、ファイナンス、会計の学習との関係を理解します。また実際の英字新聞記事にも触れていきます。この授業での重点は英文を読むこと（readings）にあります。良い発音で英語を読むヒトはネイティブ・スピーカーの喋る英語も聞き取れるようになります。AI翻訳の精度が高まり、英文和訳や和文英訳は人間の仕事からAIの仕事になりました。自分の声で英語を喋り、自分の耳で英語を聞く。自分の頭で英文を考え、自分の手で英文を書く、という作業が人間の作業として残されています。自動車のほうが人間よりも速く走ることがわかっていますが、人間は、マラソンでスピードを競い、駅伝でチームワークを競い、ジョギングを楽しみます。英語を学ぶ楽しさを知る科目にしたいと思います。

【到達目標】

- ①この科目では、きれいな発音で英語が読めるようになることを目標とします。きれいな発音とは、ネイティブ・スピーカーが聞いて理解できる水準での英語の発音という意味です。
- ②英語を聞き取る能力（listening comprehension）を改善することも目標のひとつです。教科書の付属CDを聞いたり、動画を見たり、音楽を聴いたりすることで、英語を楽しみながら聞き取る練習をします。
- ③英字新聞に登場する経営関連分野の英語でのキーワードを習得します。
- ④英字新聞を読むことで、経営学の専門的分野と実際の企業経営とのつながりを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ①この科目に参加する学生は、まず、事前に指定された教科書を読み、付属のCDを聞きます。②授業では教科書をすべて音読して理解に努め、発音練習をします。またCDも利用してシャドウイングによる音読の練習をします。③教科書の内容について必要な解説を行います。④ウェブ上のサイトにアクセスして動画を視聴します。YouTube動画で音楽を聴き発音の確認をします。⑤プリント教材ないしウェブ上の文章によって追加的な説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	科目の概要説明。英字新聞と見出し。	履修者がこの科目で学習する内容の概要を説明します。教科書 Lesson 1、Lesson 2 のシャドウイング。
第2回	リード（leading paragraph）の構成 スポーツ記事とスポーツビジネス	教科書 Lesson 3。 英字新聞をいくつか紹介し、そのサイトを閲覧し、動画を視聴します。教科書 Lesson 4。 スポーツ欄の記事を読み、動画を視聴し、その内容についてディスカッションします。
第3回	天気予報とビジネス	教科書 Lesson 5。 学生諸君が天気予報に関連するビジネスの例を探し、クラス内で紹介し、そのビジネスの将来性についてディスカッションします。
第4回	テレビ欄	教科書 Lesson 6。 新聞のサイトとテレビのサイトで同じニュースの扱われ方を比較します。
第5回	求人広告と人事労務管理	教科書 Lesson 7。 https://sg.indeed.com/ から、student part time をキーワードとして検索し、シンガポールでの学生アルバイトを探します。人事労務管理の内容についてディスカッションします。
第6回	教育改革	教科書 Lesson 8。 教育、政治、防衛、経済、金融の単語を確認します。
第7回	海外諸国の政治	教科書 Lesson 9。 海外の政治とビジネスとの関係を紹介する英語記事を読み、動画を視聴し、その内容について解説します。

第8回 コラム

教科書 Lesson 10。

コラムニストの記事を読み、動画を見ます。経営、産業、エネルギー、犯罪の単語を確認します。

第9回 ビジネス欄

教科書 Lesson 11。

ビジネスを紹介する記事と動画を視聴し、その内容についてディスカッションします。

第10回 株価とファイナンス

教科書 Lesson 12。

株価の仕組みを確認し、投資シミュレーションを行います。

第11回 ビジネスと株式市場

教科書 Lesson 11 および教科書

Lesson 12 の復習とキーコンセプトの確認をします。

第12回 社説

教科書 Lesson 13。

社説の内容についてまとめたレポートの作成をします。

第13回 会話と単語

教科書の復習をします。会話と単語の確認をします。

第14回 英字新聞の理解。授業内

筆記試験ないしレポート提出による授業内期末試験の実施。英字新聞の読解。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業に備えて指定された教科書を音読して下さい。配布されたプリント、動画などの内容も確認して下さい。大学設置基準においては準備学習・復習にかけられるべき標準時間は1回の授業につき4時間です。

【テキスト（教科書）】

馬越恵美子著『NHK ラジオ「ものしり英語塾」はじめての英字新聞』株式会社 DHC、2007年、1800円＋税。<生協の教科書販売に注文してあります。また、アマゾンあるいはDHCの通販サイトで注文すると1週間以内に届きます。新本にはCDがついており授業で利用します。中古本を購入するときにはCDがついていることを確認してください。>

【参考書】

川崎芳人・久保田廣美他著『総合英語 エバーグリーン Evergreen』2017年、様々な書店、1520円＋税。
その他、授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業参加の積極性と平常点に対して 28%
- ②授業内の出席確認テスト・課題提出に対して 22%
- ③期末テスト（筆記試験ないしレポート課題）に対して 50%

【学生の意見等からの気づき】

24名定員の少人数授業ですが、さらに3～4名程度の小グループに分けた英語学習活動には、学生諸君が積極的に取り組んでくれました。

【学生が準備すべき機器他】

授業内での出席確認テストに回答するために、学習支援システムにアクセスできるパソコンないしスマホ。英和・和英辞書（電子辞書ないしスマホ）。

【その他の重要事項】

この授業は、海外の英語圏の国々に合計1か月以上滞在したことがなく、英字新聞をはじめ読む学生を対象としています。また、英文を読み、動画を視聴してその内容を理解したいと希望する学生を対象としています。履修希望者が一定数を超える場合には、第1回の授業でクイズ等を実施し、成績の高い順に履修を許可する予定です。その理由としては、この科目は、語学の授業という性格があるため、毎回の授業ですべての学生に発言等で直接的に授業に参加してもらうことを前提にして運営しているからです。2023年度は春学期のみ科目開講です。春学期に履修できなかった学生諸君は、秋学期に他の先生方が開講する同名科目の履修希望が可能です。

【Outline (in English)】

【Reading English newspapers for the first time】

In this course, students will use a textbook for reading English newspapers, which will lead them to study business administration, business strategy, marketing, finance, and accounting. Students will also be exposed to actual English newspaper articles. With the increasing accuracy of machine translation such as Google Translate, English to Japanese and Japanese to English translation has gone from being a job for humans to being a job for AI. What is left for humans to do is to speak in English with our own voices, listen to English with our own ears, think English with our own minds, and write English with our own hands. Even though we know that cars run faster than humans, humans still compete in marathons for speed, relay races for teamwork, and enjoy jogging. The emphasis in this class is on reading English. Students who can read English with good pronunciation will be able to understand English spoken by native speakers.

MAN100FA

入門外国語経営学 (2019年度以降入学者)

川島 健司

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、英文の教材を用いて、会社の経営と決算書の読み方の基礎を学びます。まずは会社がどのように運営されているかをヒト・モノ・カネの視点から理解したうえで、その状況を表す貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書という 3 つの書類について学習します。授業では、実際の会社の決算書の分析も実践します。なお、教材は英語、授業は日本語で行います。以降は英語で記述します。

【到達目標】

Upon successful completion of the course, students should be able to:

- Analyze a company's financial statements
- Describe conclusions about profitability, efficiency, liquidity, and solvency
- Record basic debt-credit journal entries and prepare a set of financial statements

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- In case it is difficult to hold classes in the classroom due to COVID-19 or natural disasters, we will keep holding the classes using Zoom. The recorded lessons will be available until the end of the class.
- After the review, new topics are explained by the instructor, followed by group discussions and/or case analysis. Active participation is strongly recommended especially during discussions and analysis.
- Japanese company financial statements are used in case analysis.
- Questions and comments are welcomed at any time on the Zoom and Google Classroom.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week1	Introduction	- Basic concepts of accounting - The four financial statements
Week2	Basic concepts of financial statement	- Basic financial analysis ratios, - Accounting principles and standards
Week3	Balance sheet 1	- Assets - Liabilities - Shareholders' equity
Week4	Balance sheet 2	- Liquidity and solvency ratio - Trend and common-size analysis for balance sheet
Week5	Income statement 1	- Expenses - Revenue
Week6	Income statement 2	- Profitability ratio - Trend and common-size analysis for income statement
Week7	Intermediate exam	- Balance sheet - Income statement - Liquidity, solvency and profitability ratio
Week8	Statement of stockholders' equity 1	- Common and preferred stock - Par value and additional paid in capital
Week9	Statement of stockholders' equity 2	- Retain earnings - Treasury stock
Week10	Statement of cash flows 1	- Operating, investing and financing activities - Direct and indirect method for computing cash flow
Week11	Statement of cash flows 2	- Interpret cash flow - Trend and common-size analysis for cash flow
Week12	Inventory and property, plant and equipment 1	- Cash and cash equivalents - Account receivable
Week13	Inventory and property, plant and equipment 2	- Inventory - Property, plant, and equipment
Week14	Accounting cycle	- 10 steps of accounting cycle - Debt-Credit journal entries

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to spend an average of four hours preparing for this class, including answering assignments for each class.

- Readings and/or problems are assigned for each class. You should come to class prepared to discuss your analysis of the cases and its underlying problems. Regular class participation is critical to the learning process for both you and your classmates.
- Additional assignments will either be discussed in class or presented as additional cases for your benefit. I will disclose assignments for class discussion prior to their respective lectures.

【テキスト (教科書)】

Nothing in particular however, students are welcome to access topics concerning this course and its objectives in other related texts. The instructor is at liberty to provide further materials during the course of instruction.

【参考書】

Schoenebeck, K. P., & Holtzman, M. P. (2012). Interpreting and analyzing financial statements. Pearson Higher Ed.(6th Edition)

【成績評価の方法と基準】

Grades will be distributed according to the following weights:

Class Participation 30%

Midterm exam1 20%

Midterm exam2 20%

Final Exam 30%

【学生の意見等からの気づき】

I will cover less topics than last year to give more time to each to be covered.

【その他の重要事項】

Please note that if the number of students attending the first lesson significantly exceeds expectation, the number of students who are allowed to register for the course will be limited in order to effectively manage the class. For this reason, if you are planning to take this course, you need to attend the first lesson.

【Prerequisites】

None.

【Outline (in English)】

This course is designed to provide a basic understanding of accounting, including introductory accounting concepts, principles, and procedures. Specific attention will be devoted to the three financial statements and frameworks for understanding them, as well as ways in which to prepare financial data. Students will be expected to apply these skills to the analysis of real companies, and to interpret their respective financial statements accordingly. These cases will enable students to grasp the importance of accounting knowledge in the business world, to understand current events in terms of accounting measurements, and to communicate effectively with other professions.

This course uses English teaching materials, but will be conducted in Japanese.

The goals of this lecture are as follows.

(1) Acquire the ability to consider how each transaction should be accounted for using accounting vocabulary (concepts), and the ability to explain it to others.

(2) Understand Japanese accounting standards and the basic concepts necessary for reading IFRS (International Financial Reporting Standards).

(3) To acquire the ability to understand the intention of the financial statement preparers behind the accounting figures.

(4) Acquire the ability to infer the actual state of the company from financial statements.

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

Evaluate based on the following two points. Weights in parentheses. (1) Confirmation test for each lesson (50%)

(2) Composition for each assignment (50%): Students submit questions and impressions on the Google Form after each lesson. The descriptions will be anonymous and shared with all students.

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

片桐 満

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済やビジネスに関する書物や記事は英語でしか存在しないことも多く、英語で学習したり情報収集したりできれば、見える世界が大きく広がります。このコースでは、経済学の初歩的な英語の教科書を用いて、経済学の基本的な考え方について英語で学び、経済やビジネスでよく用いられる英語の用語に慣れてもらいます。そのうえで、Financial Times や Wall Street Journal などの新聞記事を題材として、経済やビジネスに関する時事問題を英語で学びます。

【到達目標】

経済やビジネスに関する英語の記事や書物を独力で読み、理解できるようになることが到達目標です。Financial Times などのビジネス系の英字新聞は難しいように感じるかもしれませんが、用いられている用語や言い回しは意外に限られているほか、小説のように比喩的な表現が少ないため、努力して慣れれば理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎回、前半の 40 分は入門経済学の教科書に関する講義を行い、残りの 60 分は経済記事を題材として時事問題について英語で学びます。経済記事は、教科書でカバーした内容と関連ある記事のコピーを授業中に配布し、その場で参加者に読んでもらったのち、その内容や背景とともに重要な英語の用語や言い回しを解説します。例えば、トレードオフの概念について教科書で学んだのち、新型コロナウイルス感染拡大防止と経済活動の間のトレードオフに関する Financial Times の記事を読んでもらうなど、教科書で学んだ概念が、現実のビジネスでどの様に役立つのかという実務的な観点を重視します。初回以外は基本的に対面での授業を行い、学生に積極的に発言してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと経済記事の解説（オンデマンド方式）	初回は、授業の進め方を含むガイダンスをした後、経済記事を読みます。
第 2 回	教科書（Principle 1）、経済記事の解説	教科書の Principle 1 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 3 回	教科書（Principle 2）、経済記事の解説	教科書の Principle 2 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 4 回	教科書（Principle 3）、経済記事の解説	教科書の Principle 3 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 5 回	教科書（Principle 4）、経済記事の解説	教科書の Principle 4 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 6 回	教科書（Principle 5）、経済記事の解説	教科書の Principle 5 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 7 回	中間試験	授業で取り上げた英語表現や、英語による経済学の理解度に関する問題を出题します。終了後解説を行います。
第 8 回	教科書（Principle 6）、経済記事の解説	教科書の Principle 6 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 9 回	教科書（Case study）、経済記事の解説	教科書の Case study を学び、関連する経済記事を読みます。
第 10 回	教科書（Principle 7）、経済記事の解説	教科書の Principle 7 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 11 回	教科書（Principle 8）、経済記事の解説	教科書の Principle 8 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 12 回	教科書（Principle 9）、経済記事の解説	教科書の Principle 9 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 13 回	教科書（Principle 10）、経済記事の解説	教科書の Principle 10 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 14 回	期末試験	授業で取り上げた英語表現や、英語による経済学の理解度に関する問題を出题します。終了後解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。予習として、教科書の該当箇所を一読し、分からない単語は辞書を引いて調べるとともに、内容がつかめない部分をあらかじめ特定しておくことが求められます。

【テキスト（教科書）】

テキストとして、N. Gregory Mankiw, "Principles of Macroeconomics" の 1 章を用います（図書館でコピー可能です）。授業で読む記事については、別途、授業中に配布します。

【参考書】

参考文献は特に指定しませんが、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する英語の記事や書物を読むよう心掛けてください。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（40%）と期末試験（50%）のほか、授業中での発言（10%）で評価します（ただし、発言を求めた際に出席していなかった場合は、大幅な減点対象とします）。

【学生の意見等からの気づき】

（1）少人数制講義であるにもかかわらず発言の機会が少ない、という意見がありましたので、一方的にこちらが解説するのではなく、できるだけ各授業で一人一回は発言してもらおうほか、グループでのディスカッションの機会を設けます。（2）記事の内容について、ビジネスモデルなど経営に関するテーマが役に立ったというアンケート結果に基づき、経営に関する記事をより重点的に選ぶようにする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書を準備してください。紙の辞書でも構いませんが、持ち運びが大変ですので、電子辞書の活用をお勧めします。スマートフォンを持っている方は「英辞郎 on the WEB」の無料版アプリで十分です。

【その他の重要事項】

日本銀行や国際通貨基金（IMF）において、金融の実務に 15 年程度かかわりました。そうした経験から、いかに経済理論を実務的な問題解決に役立てるかをグローバルな観点から伝えられればと思います。

【関連科目】

内容は「経済学入門」と関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

Since business or economic articles exist only in English in many cases, the ability to learn in English greatly expands your world. In this class, students study fundamental macroeconomics in English and get used to basic English words and expressions used often in economics or business. Then, students learn about economics or business issues in newspapers such as Financial Times and Wall Street Journal. The goal of this class is to be able to read English articles about the economy and business by yourself. Before the class, students are expected to read a textbook in advance and specify which part is difficult to understand. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The grades are based on (1) the final exam (50%), (2) the mid-term exam (40%), and (3) involvement in class discussions (10%).

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

岡本 慶子

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語からだけでなく、英語からも情報を集められるようにし、集めた情報をもとに、理解を深め、さらに考え、自分の考えを理論的に述べることを学ぶ。そして、それを英語で話す、書くために、日本語と英語の違いを知って、考えることを繰り返し実践する。

【到達目標】

日本語と英語の違いを理解し、違う文化背景を持つ人たちのコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

このクラスは選抜となる可能性があります。初回授業はオンラインで行い、課題で選抜の予定です。2回目以降の授業は対面を基本とします。毎回、リーディング、リスニング等の宿題があり、授業は学生さんからの質問に答える形で進めます。質問できるレベルまで自習してください。内容を理解した後、授業ではその情報をもとに、自分の考えをまとめグループでディスカッションします。ディスカッション、まとめは日本語で行いますが、英語の構文で考えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction 対面・オンライン 選抜（予定）	Course overview Self Introduction
第2回	An Appreciation Asset vs A Depreciation Asset	A Letter from CEO of J.P Morgan to A Pretty Girl 「第2外国語としての英語」
第3回	Marketing: The Art and Science of Satisfying Customers 1	Vineyard Vines Markets the Good Life
第4回	Marketing: The Art and Science of Satisfying Customers 2	Vineyard Vines Markets the Good Life AI 翻訳
第5回	Marketing: The Art and Science of Satisfying Customers 2	"High Context vs Low Context"
第6回	Solving an Ethical Controversy 1	Banning Sugary Drinks
第7回	Solving an Ethical Controversy 2	Justify your ideas
第8回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 1	Pepsio Brands Target Different Markets
第9回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 2	PepsiCo vs Coca Cola
第10回	Global Marketing 1	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail?
第11回	Global Marketing 2	Video by Kellogg CEO
第12回	Kellogg Group Project 1	Kellogg Group Project
第13回	Kellogg Group Project 2	Kellogg Group Project Video recording 期末小レポート（日本語）
第14回	Final exam	wrap up Final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前々日の 23:59 までに授業支援システムで提出

宿題1. 課題の予習、復習、グループワークの準備

宿題2. 単語帳、質問

宿題3. 数学の問題

宿題の詳細は、授業中に逐次説明します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。課題、ワークシート、参考ウェブリンク等は Hoppi で配布します。

【参考書】

Kurtz, David L. 2016. Contemporary Marketing. Boston. Cengage Learning.

Hitt, Michael A., Ireland R. Duane, and Hoskisson, Robert E. 2017. Strategic Management: Competitiveness & Globalization. Boston, Cengage Learning.

2冊とも図書館蔵書

【成績評価の方法と基準】

授業への参加、予習、宿題の提出 40%

グループワークと個人ワーク（プレゼン、宿題含む） 40%

期末テスト、小レポート 20%

評価については初回授業で詳細に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

AI 翻訳のレベルが向上しているため活用を許可しましたが、頼りすぎてしまったという学生さんがいました。利用方法を検討する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

お知らせ、課題、宿題、資料配布等は Hoppi を利用します。

授業履修を考えている人は初回授業までに Hoppi に仮登録してください。

Hoppi で配布したもの、及び自分の宿題、予習、単語帳は授業中に参照できるようにご用意ください。

辞書または電子辞書は毎回授業に持参してください。

Google の辞書機能はお勧めしません。

【その他の重要事項】

授業定員が30名となりますので、選抜になる可能性が大きいです。履修希望者は秋学期開始日までに Hoppi に登録して、初回の ZOOM 授業に参加してください。（ZOOM アドレスは Hoppi でお知らせします）

（重要）欠員を避けるため、選抜後に履修中止の可能性のある方は、選抜へ参加しないでください。

授業の課題、内容、テストの期日等は、授業の進捗によって変更になる場合があります。

【関連科目】

なし

【実務経験のある教員による授業】

アメリカ留学中にボランティアや NPO での活動経験があり、国内外のファッション業界で勤務経験を持つ教員の授業です。

英語が上手でも言いたいことが相手に通じるとは限りません。AI 翻訳機を使っても、頭の中が整理されていなければ、伝わる英語になりません。伝えるために、どうするか、それをどうやって身につけるか。いろいろ実践してみる授業を行います。

この授業を受けてもすぐに、英語を話せるようにも書けるようにもなりません。単語、文法、慣用表現の記憶や参考書、テスト対策アプリ、過去問以外の勉強方法を模索している方、受講してみませんか。

【Outline (in English)】

[Course outline] This class is designed for Japanese students to learn English as a second language. Students will learn English through marketing & strategic management materials and middle school mathematics.

[Learning objectives] The goal of this class is to learn how to think logically for English speaking and writing.

[Learning activities outside of class room] Students are required to study at home about two hours before the class and about 30 minutes after the class.

[Grading Criteria/Policy]

Class participation & homework/preparation - 40%

Group project & Individual works (including homework) - 40%

Final exam & essay - 20%

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

片桐 満

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済やビジネスに関する書物や記事は英語でしか存在しないことも多く、英語で学習したり情報収集したりできれば、見える世界が大きく広がります。このコースでは、経済学の初歩的な英語の教科書を用いて、経済学の基本的な考え方について英語で学び、経済やビジネスでよく用いられる英語の用語に慣れてもらいます。そのうえで、Financial Times や Wall Street Journal などの新聞記事を題材として、経済やビジネスに関する時事問題を英語で学びます。

【到達目標】

経済やビジネスに関する英語の記事や書物を独力で読み、理解できるようになることが到達目標です。Financial Times などのビジネス系の英字新聞は難しいように感じるかもしれませんが、用いられている用語や言い回しは意外に限られているほか、小説のように比喩的な表現が少ないため、努力して慣れれば理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎回、前半の40分は入門経済学の教科書に関する講義を行い、残りの60分は経済記事を題材として時事問題について英語で学びます。経済記事は、教科書でカバーした内容と関連ある記事のコピーを授業中に配布し、その場で参加者に読んでもらったのち、その内容や背景とともに重要な英語の用語や言い回しを解説します。例えば、トレードオフの概念について教科書で学んだのち、新型コロナウイルス感染拡大防止と経済活動の間のトレードオフに関する Financial Times の記事を読んでもらうなど、教科書で学んだ概念が、現実のビジネスでどの様に役立つのかという実務的な観点を重視します。初回以外は基本的に対面での授業を行い、学生に積極的に発言してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと経済記事の解説（オンデマンド方式）	初回は、授業の進め方を含むガイダンスをした後、経済記事を読みます。
第2回	教科書（Principle 1）、経済記事の解説	教科書の Principle 1 を学び、関連する経済記事を読みます。
第3回	教科書（Principle 2）、経済記事の解説	教科書の Principle 2 を学び、関連する経済記事を読みます。
第4回	教科書（Principle 3）、経済記事の解説	教科書の Principle 3 を学び、関連する経済記事を読みます。
第5回	教科書（Principle 4）、経済記事の解説	教科書の Principle 4 を学び、関連する経済記事を読みます。
第6回	教科書（Principle 5）、経済記事の解説	教科書の Principle 5 を学び、関連する経済記事を読みます。
第7回	中間試験	授業で取り上げた英語表現や、英語による経済学の理解度に関する問題を出题します。終了後解説を行います。
第8回	教科書（Principle 6）、経済記事の解説	教科書の Principle 6 を学び、関連する経済記事を読みます。
第9回	教科書（Case study）、経済記事の解説	教科書の Case study を学び、関連する経済記事を読みます。
第10回	教科書（Principle 7）、経済記事の解説	教科書の Principle 7 を学び、関連する経済記事を読みます。
第11回	教科書（Principle 8）、経済記事の解説	教科書の Principle 8 を学び、関連する経済記事を読みます。
第12回	教科書（Principle 9）、経済記事の解説	教科書の Principle 9 を学び、関連する経済記事を読みます。
第13回	教科書（Principle 10）、経済記事の解説	教科書の Principle 10 を学び、関連する経済記事を読みます。
第14回	期末試験	授業で取り上げた英語表現や、英語による経済学の理解度に関する問題を出题します。終了後解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。予習として、教科書の該当箇所を一読し、分からない単語は辞書を引いて調べるとともに、内容がつかめない部分をあらかじめ特定しておくことが求められます。

【テキスト（教科書）】

テキストとして、N. Gregory Mankiw, “Principles of Macroeconomics” の1章を用います（図書館でコピー可能です）。授業で読む記事については、別途、授業中に配布します。

【参考書】

参考文献は特に指定しませんが、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する英語の記事や書物を読むよう心掛けてください。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（40%）と期末試験（50%）のほか、授業中での発言（10%）で評価します（ただし、発言を求めた際に出席していなかった場合は、大幅な減点対象とします）。

【学生の意見等からの気づき】

（1）少人数制講義であるにもかかわらず発言の機会が少ない、という意見がありましたので、一方的にこちらが解説するのではなく、できるだけ各授業で一人一回は発言してもらおうほか、グループでのディスカッションの機会を設けます。（2）記事の内容について、ビジネスモデルなど経営に関するテーマが役に立ったというアンケート結果に基づき、経営に関する記事をより重点的に選ぶようにする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書を準備してください。紙の辞書でも構いませんが、持ち運びが大変ですので、電子辞書の活用をお勧めします。スマートフォンを持っている方は「英辞郎 on the WEB」の無料版アプリで十分です。

【その他の重要事項】

日本銀行や国際通貨基金（IMF）において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに経済理論を実務的な問題解決に役立てるかをグローバルな観点から伝えられればと思います。

【関連科目】

内容は「経済学入門」と関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

Since business or economic articles exist only in English in many cases, the ability to learn in English greatly expands your world. In this class, students study fundamental macroeconomics in English and get used to basic English words and expressions used often in economics or business. Then, students learn about economics or business issues in newspapers such as Financial Times and Wall Street Journal. The goal of this class is to be able to read English articles about the economy and business by yourself. Before the class, students are expected to read a textbook in advance and specify which part is difficult to understand. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The grades are based on (1) the final exam (50%), (2) the mid-term exam (40%), and (3) involvement in class discussions (10%).

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

依田 光広

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、世界の中核産業であり最近の変革が著しい自動車（モビリティ）産業とその中の注目企業を対象に、日本語での教師による講義資料、英語での宿題を使用し、クルマの CASE 戦略（つながるクルマ Connected、自動運転 Autonomous、シェアリング・サービス Shared & Service、電動車 Electric）の先端動向を学びます。同時に基礎レベルながら、実際にビジネスの現場や海外生活でも役立つ英語のリーディング、ヒアリング、スピーキング、そして日本語でのディスカッション能力の向上をはかります。こうした勉強を通じて、就活の際や社会人・教師になってからも役立つ知見やものの見方を習得することを目指します。

準備学習は、宿題が出された時の英語の資料や動画の日本語訳などです。復習は、講義資料と宿題のレビューです。評価は、各回の講義への出席、宿題、講義での発表などにより総合的に評価します。

【到達目標】

理解力：教師による日本語での CASE 戦略の講義を一定程度理解する。
読む力：日本語のビジネス文書・図表を正しく理解する。英語のビジネス文書を正しく理解し、要点を日本語で整理することを目指す。

聞く力：英語のニュース動画を大まかに把握し、日本語で整理する力を身につける。

書く力：授業で学習した内容をもとに日本語や英語のビジネス文書を作成することを目指す。

話す力：初級のビジネス英会話を実践する。

Comprehension ability: Students will understand to some extent the teacher's lecture on CASE strategy in Japanese.

Reading ability: You aim to understand Japanese business documents and business English correctly, and summarize the points in Japanese.

Listening ability: Students will acquire the ability to roughly grasp the explanation of English news videos and summarize the points in Japanese.

Writing ability: You aim to write Japanese and English business documents based on what you learn in the class.

Speaking ability: Students will acquire the skills of introductory English conversation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は、教師による日本語での CASE 戦略に関する講義（技術戦略も含む）を中心に実施します。宿題が与えられた時は、学生は講義前までに「課題」フォルダーに提出、講義では数名が英語で発表を行います。

講義資料や動画は Automotive News、教師執筆のレポート、専門研究者の論文、日本経済新聞、マークライズ社のデータベース、日経 XTech などから引用します。

第一回講義で、授業の進め方と評価などについてオリエンテーションを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。

In the class, the teacher gives lecture about "CASE" including technical strategy in Japanese. When homework is given, students have to upload it to an assignment folder and several students should present it in English in the class.

Materials and videos are quoted from Automotive News, reports written by the teacher or other researchers, Nikkei Newspaper, database of Marklines Co., Ltd, Nikkei XTech, etc.

In the first lecture, students will be given an orientation on the class, so please be sure to attend if you wish to take the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction & Lecture	授業の概要と進め方の説明（Outline and objectives）、グローバル自動車市場（Global Automotive Market）← 任意
第 2 回	Electric (1)	電動車（BEV 等）の Trend & Background
第 3 回	Electric (2)	対象企業：日 Nissan, Toyota
第 4 回	Electric (3)	対象企業：米 Tesla
第 5 回	Connected (1)	つながるクルマの Trend & Background

第 6 回	Connected (2)	対象企業：独 Daimler etc.
第 7 回	Autonomous (1)	自動運転の Trend & Background
第 8 回	Autonomous (2)	対象企業：米 Waymo(Google)
第 9 回	Autonomous (3)	対象企業：日 Tier IV
第 10 回	Field Work	訪問先：トヨタ自動車の施設（Toyota Motor's facility）

第 11 回	Shared & Service (1)	シェアリング/サービス（MaaS）の Trend & Background
第 12 回	Shared & Service (2)	対象企業：米 Uber
第 13 回	Shared & Service (3)	対象企業：日 Toyota
第 14 回	Conclusion, Discussion	総括講義 Lecture、グループ討議 Group Discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は、宿題が出された時の英語の資料や動画の日本語訳などです。復習は、講義資料と宿題のレビューです。準備学習と復習の時間は各 2 時間を標準とします。

Preparatory study is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework. The standard time for preparatory study and review is two hours each.

【テキスト（教科書）】

講義資料は、教師がビジネスでの経験と調査研究を通じ独自に作成したものを使用します。

Lecture materials used in the class are written by the teacher.

【参考書】

木村将之 Masayuki Kimura 他 2 名『モビリティ X』(2022) 日経 BP 社 →

購入は任意

中西孝樹 Takaki Nakanishi (2018)『CASE 革命』日本経済新聞出版社 →

購入は任意

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点 (50%)、宿題の内容 (35%)、講義での発表と質疑 (15%) などにより総合的に評価します。

Comprehensive evaluation will be made based on in class contribution(50%), homework(35%) and presentation/Q&As(15%), etc.

【学生の意見等からの気づき】

最先端の CASE 戦略の動向を解説し、フィールドワークを充実します。学生の意見や希望を考慮したいと思いますので、学期内のいつでも積極的なフィードバックをお願いします。

I will explain trends in cutting-edge CASE strategies and enhance the fieldwork. I would like to consider opinions and wishes of all students, so give me your positive feedback anytime.

【学生が準備すべき機器他】

PC、Tablet、Smart Phone のいずれかを留意しておいてください。授業への持ち込みは自由です。

Get your PC, Tablet, or Smart Phone ready. Feel free to bring it to a class.

【その他の重要事項】

担当教師はトヨタ自動車 Toyota Motor Corp.（海外営業部門）ならびにトヨタ自動車子会社の国際経済研究所（Instituted for International Economic Studies）での勤務経験を有します。研究所での専門分野は、Global 経営、自動車産業・企業、CASE 戦略、IoT 戦略（Internet of Things）、コーポレートガバナンスなどです。現在は自社 Yoda Group Limited での調査研究を中心に、医療系サービス会社 Nihon Visca Co., Ltd. の相談役、自動車問題研究会の幹事、産官学団体 Robot Revolution & Industrial IoT Initiative の会員などを兼務しており、自らのビジネス経験や調査研究の成果を活かした授業を心がけます。

【関連科目】

None.

【Outline (in English)】

This class is aimed at studying the automobile (or mobility) industry, which is the core industry of the world and has been rapidly evolving recently, and its notable companies, using Japanese lecture materials and English homework. You can learn the advanced trends of CASE strategy (Connected, Autonomous, Shared & Service, Electric) and improve reading, listening and speaking skills in English, and discussion skills in Japanese. Getting in touch with the latest technologies and services of the automobile industry and English skills, you can deepen knowledge and thinking that will be useful during job seeking and after getting a job at a company or a teacher.

Preparatory learning is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework.

Comprehensive evaluation will be made based on n class contribution, homework, and presentation.

MAN100FA

入門外国語経営学 (2019 年度以降入学者)

韓 載香

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界経済の発展とともに人と資本の移動は年々増加しています。経済的目的をもった人の移動は移動先において様々な経済機会やビジネスを生み出します。そこで、入門外国語購読では、人々の異動に伴って登場するエスニック・ビジネスに関連する英語の学術論文を題材にそれらの特徴とともに理解する枠組みを習得することを目指します。具体的に、第一に何故エスニック・ビジネスに注目するかに注目して学問的意義について考えます。第二に、エスニック・ビジネスとは何かを事例に基づいてイメージづくりをします。第三に、それらの特徴を知り、適切な評価軸を得ます。第四に、ビジネスや産業構造の歴史的变化を通じてそれらの発展可能性を考察します。

【到達目標】

1. エスニック・ビジネスに注目する意義を説明することができる。
2. エスニック・ビジネスとは何かを説明することができる。
3. エスニック・ビジネスの特徴について解説することができる。
4. エスニック・ビジネスの長期的な発展の方向性について述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

参加者全員は、教員が提示する英語論文を読んで、質問を用意して授業で提出します。

参加者は、順番で各論文について報告をします。

授業では、報告者による発表を行い、(参加者の) 質問を中心に議論をしていきます。

最後に、教員から、論文に関する理論的な点について解説します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・エスニック・ビジネスとはなにか ・エスニック・ビジネスを英語で読む意義
第 2 回	エスニック・ビジネスのフレームワーク①	Muhammad Zubair, Jan Brzozowski, "Entrepreneurs from Recent Migrant Communities and Their Business Sustainability", <i>Sociologica</i> . V.12 N.2 (2018).
第 3 回	エスニック・ビジネスのフレームワーク②	Muhammad Zubair, Jan Brzozowski, "Entrepreneurs from Recent Migrant Communities and Their Business Sustainability", <i>Sociologica</i> . V.12 N.2 (2018).
第 4 回	エスニック・ビジネスのフレームワーク③	Thierry Volery, "Ethnic Entrepreneurship A Theoretical Framework" in <i>Handbook of Research on Ethnic Minority Entrepreneurship</i> edited by Léo-Paul Dana, 2007, Gloucester Edward Elgar.
第 5 回	アメリカにおけるラテン系民族のビジネスの特徴①	S. Andrew Starbird, Jill M. Martin Yacanex Posadas and Alma Gutierrez, "The Impact of Formality, Integration, and Commitment on the Performance of Latino-Owned Small Businesses", <i>Administrative Sciences</i> , 12(105), 2022.
第 6 回	アメリカにおけるラテン系民族のビジネスの特徴②	S. Andrew Starbird, Jill M. Martin Yacanex Posadas and Alma Gutierrez, "The Impact of Formality, Integration, and Commitment on the Performance of Latino-Owned Small Businesses", <i>Administrative Sciences</i> 12(105), 2022.
第 7 回	在日韓国・朝鮮人のビジネスの特徴	David Chapter, Soo im Lee, "Korean Minority Entrepreneurs in Japan" in <i>Handbook of Research on Ethnic Minority Entrepreneurship</i> edited by Léo-Paul Dana, 2007, Gloucester: Edward Elgar

第 8 回	エスニック・アントレプレナーシップ①	Lukman Raimi 1, Mirela Panait, Iza Gigauri and Simona Andreea Apostu, "Uncertainty, and Entrepreneurship Strategies of Transitional Entrepreneurship among Ethnic Minorities, Immigrants, and Women Entrepreneurs", <i>Journal of Risk and Financial Management</i> , 2023, 16: 83, https://doi.org/10.3390/jrfm16020083
第 9 回	エスニック・アントレプレナーシップ②	Md Mizanur Rahman, Ali A. Hadi Alshawi and Mehedi Hasan, "Entrepreneurship in Ethnic Enterprises: The Making of New Immigrant Businesses in New York", <i>Sustainability</i> , 2021, 13(20), https://doi.org/10.3390/su132011183
第 10 回	K-POP Businesses ①	Joseph Kim 1 and Seung-Ho Kwon, "K-Pop's Global Success and Its Innovative Production System", <i>Sustainability</i> , 14(17), 2022.
第 11 回	K-POP Businesses ②	Sustainability of the K-Pop Industry: A Structural Equation Model and Fuzzy Set Analysis", <i>Sustainability</i> , 13(11), 2021.
第 12 回	エスニック・ビジネスの展望①	Laura Helen Middermann, "Do Immigrant Entrepreneurs Have Natural Cognitive Advantages for International Entrepreneurial Activity?", <i>Sustainability</i> , 12(7), 2020.
第 13 回	エスニック・ビジネスの展望②	Laura Helen Middermann, "Do Immigrant Entrepreneurs Have Natural Cognitive Advantages for International Entrepreneurial Activity?", <i>Sustainability</i> , 12(7), 2020, Qingfan Wang, "Disparities and Divided Growth Ethnic Entrepreneurship in the Greater Los Angeles Area 1980-2015", <i>Growth and Change</i> , March 2018,
第 14 回	エスニック・ビジネスの展望③	Qingfan Wang, "Disparities and Divided Growth Ethnic Entrepreneurship in the Greater Los Angeles Area 1980-2015", <i>Growth and Change</i> , March 2018.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

参加の仕方：事前にテキストの該当内容を読み、疑問点をまとめて提出してください。

参加者は、取り上げる論文リストから担当する研究があてられ、授業で報告をします (初回にて担当論文を振り分けます)。

本授業の準備・復習時間は、各 5 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

(1)Md Mizanur Rahman, Ali A. Hadi Alshawi and Mehedi Hasan, "Entrepreneurship in Ethnic Enterprises: The Making of New Immigrant Businesses in New York", *Sustainability*, 13(20), 2021, <https://doi.org/10.3390/su132011183>

(2)Lukman Raimi 1, Mirela Panait, Iza Gigauri and Simona Andreea Apostu, "Uncertainty, and Entrepreneurship Strategies of Transitional Entrepreneurship among Ethnic Minorities, Immigrants, and Women Entrepreneurs", *Journal of Risk and Financial Management*, 16: 83, <https://doi.org/10.3390/jrfm16020083>, 2023.

(3)S. Andrew Starbird, Jill M. Martin Yacanex Posadas and Alma Gutierrez, "The Impact of Formality, Integration, and Commitment on the Performance of Latino-Owned Small Businesses", *Administrative Sciences* 12(105), 2022, <https://doi.org/10.3390/admsci12030105>

(4)Laura Helen Middermann, "Do Immigrant Entrepreneurs Have Natural Cognitive Advantages for International Entrepreneurial Activity?", *Sustainability*, 12(7), 2020, <http://dx.doi.org/10.3390/su12072791>

(5)Joseph Kim 1 and Seung-Ho Kwon, "K-Pop's Global Success and Its Innovative Production System", *Sustainability*, 14(17), 2022, <https://doi.org/10.3390/su141711101>

(6)Joon-ho Kim, Seung-hye Jung, Jung-sik Roh and Hyun-ju Choi, "Success Factors and Sustainability of the K-Pop Industry: A Structural Equation Model and Fuzzy Set Analysis", Sustainability, 13(11), 2021, <https://doi.org/10.3390/su13115927>

(7)Qingfan Wang, "Disparities and Divided Growth Ethnic Entrepreneurship in the Greater Los Angeles Area 1980-2015", Growth and Change, March 2018, <https://www.researchgate.net/publication/323802011>

(8)Muhammad Zubair, Jan Brzozowski, "Entrepreneurs from Recent Migrant Communities and Their Business Sustainability", Sociologica. V.12 N.2 (2018), <https://doi.org/10.6092/issn.1971-8853/8622>

(9)Thierry Volery, "Ethnic Entrepreneurship A Theoretical Framework" in Handbook of Research on Ethnic Minority Entrepreneurship edited by Léo-Paul Dana, 2007, Gloucester: Edward Elgar.

【参考書】

(1)Léo-Paul Dana ed. Handbook of Research on Ethnic Minority Entrepreneurship. Gloucester: Edward Elgar. 2007.

【成績評価の方法と基準】

報告 (60 %)

疑問点提示など、議論への参加度 (40 %)

【学生の意見等からの気づき】

報告、論点提示、意見交換など、全員参加の機会を充実化し、評価基準を明確にします。

【関連科目】

None.

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to acquire basic and systematic knowledge about business history. On one hand the business history emphasizes diversity, but on the other hand it should be understood from the perspective of dynamism by farm's activities that changes sometimes its environment interacting constantly with the market, the structure within the organization and its direction that can be seen in common across regions and fields. I will cover various contents in this course such as companies, organizations, entrepreneurs, technologies, industries, and systems. Specifically, I will focus on Western and Japanese companies from the 19th century to the 20th century, the environment surrounding them, the systems. You will understand the principles that can be seen through the diversity of organizational structures. In addition, I will capture notable transforms that have changed the order of the market and consider why they happened, how they developed, and what impacts they had.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do following:

To explain the meaning of why we should focus on ethnic businesses.

To explain what ethnic businesses are.

To explain what the characteristics of ethnic businesses.

To explain the changes in the industrial structure of ethnic businesses and its directions.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend a few hours to read the textbook. Students are expected to suggest points at issue to discuss regarding the textbook in class. Students should prepare to do a presentation related to the textbook in class.

【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be calculated according to the following process.

・ In-class contribution (discussion etc.) 40 percent (participation in the class including question submission)

・ Presentation regarding the textbook 60 percent

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

依田 光広

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、世界の中核産業であり最近の変革が著しい自動車（モビリティ）産業とその中の注目企業を対象に、日本語での教師による講義資料、英語での宿題を使用し、クルマの CASE 戦略（つながるクルマ Connected、自動運転 Autonomous、シェアリング・サービス Shared & Service、電動車 Electric）の先端動向を学びます。同時に基礎レベルながら、実際にビジネスの現場や海外生活でも役立つ英語のリーディング、ヒアリング、スピーキング、そして日本語でのディスカッション能力の向上をはかります。こうした勉強を通じて、就活の際や社会人・教師になってからも役立つ知見やものの見方を習得することを目指します。

準備学習は、宿題が出された時の英語の資料や動画の日本語訳などです。復習は、講義資料と宿題のレビューです。評価は、各回の講義への出席、宿題、講義での発表などにより総合的に評価します。

【到達目標】

理解力：教師による日本語での CASE 戦略の講義を一定程度理解する。
読む力：日本語のビジネス文書・図表を正しく理解する。英語のビジネス文書を正しく理解し、要点を日本語で整理することを目指す。

聞く力：英語のニュース動画を大まかに把握し、日本語で整理する力を身につける。

書く力：授業で学習した内容をもとに日本語や英語のビジネス文書を作成することを目指す。

話す力：初級のビジネス英会話を実践する。

Comprehension ability: Students will understand to some extent the teacher's lecture on CASE strategy in Japanese.

Reading ability: You aim to understand Japanese business documents and business English correctly, and summarize the points in Japanese.

Listening ability: Students will acquire the ability to roughly grasp the explanation of English news videos and summarize the points in Japanese.

Writing ability: You aim to write Japanese and English business documents based on what you learn in the class.

Speaking ability: Students will acquire the skills of introductory English conversation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は、教師による日本語での CASE 戦略に関する講義（技術戦略も含む）を中心に実施します。宿題が与えられた時は、学生は講義前までに「課題」フォルダーに提出、講義では数名が英語で発表を行います。

講義資料や動画は Automotive News、教師執筆のレポート、専門研究者の論文、日本経済新聞、マークライズ社のデータベース、日経 XTech などから引用します。

第一回講義で、授業の進め方と評価などについてオリエンテーションを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。

In the class, the teacher gives lecture about "CASE" including technical strategy in Japanese. When homework is given, students have to upload it to an assignment folder and several students should present it in English in the class.

Materials and videos are quoted from Automotive News, reports written by the teacher or other researchers, Nikkei Newspaper, database of Marklines Co., Ltd, Nikkei XTech, etc.

In the first lecture, students will be given an orientation on the class, so please be sure to attend if you wish to take the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction & Lecture	授業の概要と進め方の説明（Outline and objectives）、グローバル自動車市場（Global Automotive Market）← 任意
第 2 回	Electric (1)	電動車（BEV 等）の Trend & Background
第 3 回	Electric (2)	対象企業：日 Nissan, Toyota
第 4 回	Electric (3)	対象企業：米 Tesla
第 5 回	Connected (1)	つながるクルマの Trend & Background

第 6 回	Connected (2)	対象企業：独 Daimler etc.
第 7 回	Autonomous (1)	自動運転の Trend & Background
第 8 回	Autonomous (2)	対象企業：米 Waymo(Google)
第 9 回	Autonomous (3)	対象企業：日 Tier IV
第 10 回	Field Work	訪問先：トヨタ自動車の施設（Toyota Motor's facility）

第 11 回	Shared & Service (1)	シェアリング/サービス（MaaS）の Trend & Background
第 12 回	Shared & Service (2)	対象企業：米 Uber
第 13 回	Shared & Service (3)	対象企業：日 Toyota
第 14 回	Conclusion, Discussion	総括講義 Lecture、グループ討議 Group Discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は、宿題が出された時の英語の資料や動画の日本語訳などです。復習は、講義資料と宿題のレビューです。準備学習と復習の時間は各 2 時間を標準とします。

Preparatory study is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework. The standard time for preparatory study and review is two hours each.

【テキスト（教科書）】

講義資料は、教師がビジネスでの経験と調査研究を通じ独自に作成したものを使用します。

Lecture materials used in the class are written by the teacher.

【参考書】

木村将之 Masayuki Kimura 他 2 名『モビリティ X』(2022) 日経 BP 社 →

購入は任意

中西孝樹 Takaki Nakanishi (2018)『CASE 革命』日本経済新聞出版社 →

購入は任意

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点（50%）、宿題の内容（35%）、講義での発表と質疑（15%）などにより総合的に評価します。

Comprehensive evaluation will be made based on in class contribution(50%), homework(35%) and presentation/Q&As(15%), etc.

【学生の意見等からの気づき】

最先端の CASE 戦略の動向を解説し、フィールドワークを充実します。学生の意見や希望を考慮したいと思いますので、学期内のいつでも積極的なフィードバックをお願いします。

I will explain trends in cutting-edge CASE strategies and enhance the fieldwork. I would like to consider opinions and wishes of all students, so give me your positive feedback anytime.

【学生が準備すべき機器他】

PC、Tablet、Smart Phone のいずれかを留意しておいてください。授業への持ち込みは自由です。

Get your PC, Tablet, or Smart Phone ready. Feel free to bring it to a class.

【その他の重要事項】

担当教師はトヨタ自動車 Toyota Motor Corp.（海外営業部門）ならびにトヨタ自動車子会社の国際経済研究所（Instituted for International Economic Studies）での勤務経験を有します。研究所での専門分野は、Global 経営、自動車産業・企業、CASE 戦略、IoT 戦略（Internet of Things）、コーポレートガバナンスなどです。現在は自社 Yoda Group Limited での調査研究を中心に、医療系サービス会社 Nihon Visca Co., Ltd. の相談役、自動車問題研究会の幹事、産官学団体 Robot Revolution & Industrial IoT Initiative の会員などを兼務しており、自らのビジネス経験や調査研究の成果を活かした授業を心がけます。

【関連科目】

None.

【Outline (in English)】

This class is aimed at studying the automobile (or mobility) industry, which is the core industry of the world and has been rapidly evolving recently, and its notable companies, using Japanese lecture materials and English homework. You can learn the advanced trends of CASE strategy (Connected, Autonomous, Shared & Service, Electric) and improve reading, listening and speaking skills in English, and discussion skills in Japanese. Getting in touch with the latest technologies and services of the automobile industry and English skills, you can deepen knowledge and thinking that will be useful during job seeking and after getting a job at a company or a teacher.

Preparatory learning is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework.

Comprehensive evaluation will be made based on n class contribution, homework, and presentation.

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

荻原 啓佑

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、原価計算に関する基礎的な知識を身につけることです。製造業のビジネスを理解する上で原価計算に関する知識は、必要不可欠なものとなっています。この授業では、英語で書かれた入門書を読むことで、原価計算とはどのようなものかを理解してもらいます。会計を習ったことのない学生も歓迎します。

【到達目標】

- (1)原価計算の役割を説明できること。
- (2)代表的な原価計算手法を理解すること。
- (3)自分で単語や熟語を調べ、専門的な内容を含む英文を日本語訳できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- 各回の授業は、次のような順番で進めていきます。
- ・(1)事前課題になっている単語リストの回答例を示します。
 - ・(2)各回の課題（授業後アンケート）に関するコメントを行います。
 - ・(3)指定した箇所の日本語訳を学生に発表していただきます。
 - ・(4)鍵となる用語や手法について講師が解説します。必要に応じて計算練習なども行います。
 - ・(5)指定したテーマでグループごとに議論を行なっていただき、代表者に発表していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の概要と進め方を説明します。
第 2 回	A Very Brief Review of Accounting Basics	Accounting に関する基礎的な用語について学習します。
第 3 回	What is Cost Accounting?	Cost Accounting の目的について学習します。
第 4 回	The Flow of Costs in a Manufacturing Environment	製造業における inventory のフローについて学習します。
第 5 回	Classifying Costs: Fixed vs. Variable	Fixed cost、Variable cost について学習します。
第 6 回	Cost-Volume-Profit Analysis	Contribution Margin, Breakeven Analysis, Reaching a Target Operating Income について学習します。
第 7 回	A Hierarchy of Costs: Product and Period Costs (1)	Direct and Indirect Manufacturing Costs について学習します。
第 8 回	A Hierarchy of Costs: Product and Period Costs (2)	Direct Materials and Direct Labor, Indirect Manufacturing Costs, Conversion Costs について学習します。
第 9 回	Job Order Costing (1)	Job Order Costing の概要について学習します。
第 10 回	Job Order Costing (2)	Job Order Costing の Journal Entries について学習します。
第 11 回	Process Costing (1)	Process Costing の概要について学習します。
第 12 回	Process Costing (2)	Process Costing の Journal Entries について学習します。
第 13 回	Activity-Based Costing	Activity-Based Costing の概要について学習します。
第 14 回	まとめ	2 回から 13 回までの授業で習った内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・準備学習（授業前にやるべきこと）は、(1)指定された単語の日本語訳を調べて指定の期日までに提出すること、(2)授業までに指定された箇所を通読することです。
- ・復習（授業後にやるべきこと）は、(1)授業で習った内容に関する簡単なアンケートに答えること、(2)授業で習った箇所を再度復習することです。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Piper, M. (2017). Cost Accounting Made Simple: Cost Accounting Explained in 100 Pages or Less (English Edition).

*ペーパーブック、kindle（電子書籍）どちらでも可。

【参考書】

講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（10%）
- ・授業前課題・授業後課題（40%）
- ・期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

- ・簡単な計算問題などを解く機会をなるべく設けます。
- ・学生同士で議論する機会を引き続き設けます。
- ・原価計算実務に関する研究結果などをなるべく紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

PC、タブレット、スマートフォン等、英単語を調べることができる機器

【その他の重要事項】

- ・担当講師は非常勤のため、質問等は授業の前後の時間またはアンケートを利用してください。

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this class is to acquire basic knowledge of cost accounting area - the one which matters for the understanding about manufacturing business-. Hence, this class helps students understand what cost accounting is like by reading an introductory textbook written in English. The students who have ever unlearned accounting will be also welcome.

【Goal】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) To be able to explain the role of cost accounting.
- (2) To be able to understand typical cost accounting methods.
- (3) To be able to translate English sentences containing technical terms into Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end report: 50%, Short reports: 40%, In-class contribution: 10%

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

檜野 智子

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使用しミクロ経済学の基礎を学びます。担当箇所のプレゼンテーションを行うことにより、より深く内容を理解することができ、さらにプレゼンテーションの技術も習得できます。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の基礎を身に付ける。
- ・テーマを与えられたときに、そのテーマの背景や問題点を要約でき、その内容を他者に伝えられる。
- ・求められたときに、いつでも自分の考えを述べることができる。
- ・英語で書かれた「初級レベルの経済学の教科書」を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

<授業の進め方と方法>

- ・対面授業を行います。
- ・教科書の担当箇所について、パワーポイントを使用したプレゼンテーションをしてもらいます。

<課題に対するフィードバック方法>

- ・プレゼンテーション実施時に、スライドや発表方法について講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	個人の最適化戦略	ディシジョンツリー
第 2 回	個人の最適化戦略	現在価値
第 3 回	個人の最適化戦略	リスク
第 4 回	個人の最適化戦略	交換の利益
第 5 回	相互関係における最適化戦略	ゲーム理論
第 6 回	相互関係における最適化戦略	バレート効率性
第 7 回	相互関係における最適化戦略	囚人のジレンマ
第 8 回	相互関係における最適化戦略	オークション
第 9 回	相互関係における最適化戦略	競争市場
第 10 回	市場における最適化戦略	需要と供給
第 11 回	市場における最適化戦略	税金
第 12 回	市場における最適化戦略	限界効用
第 13 回	市場における最適化戦略	弾力性
第 14 回	市場における最適化戦略	競争のルール

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の内容を理解した上で要約し、パワーポイントのスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をしてください。本授業の準備学習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『The Cartoon Introduction to Economics: Volume One: Microeconomics』
著者:Grady Klein,Yoram Bauman 出版社:Hill & Wang Pub 出版年:2010
(電子書籍あり <https://amzn.to/3dmv46T>)

【参考書】

『この世で一番おもしろいミクロ経済学』ヨラム・パウマン、グレディ・クライン、ダイヤモンド社、2011 年 (<https://bit.ly/3qMpnZO>)
『マンキュー経済学 I ミクロ編 第 4 版』N・グレゴリー・マンキュー、東洋経済新報社、2019 年 (電子書籍あり <https://bit.ly/315Zbfg>)

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションのスライド 50%
プレゼンテーション及び授業への参加度 50 %

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・この授業では、パワーポイントを使用します。授業開始までにパワーポイントを使用できる環境を整え、使えるようにしておいてください。
- ・この授業では「学習支援システム」を使用します。授業開始までに、本科目の自己登録を済ませておいてください。

・オンライン授業では Zoom を使用します。授業開始までに Zoom でパワーポイントの画面を共有しプレゼンテーションを行えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

- ・各回の授業形態は予定です。詳細は「学習支援システム」で通知します。
- ・「学習支援システム」で連絡した内容は、全ての受講者に伝わったものとして取り扱います。

【関連科目】

経済学入門

【Outline (in English)】

This lecture deals with the basics of microeconomics with a textbook written in English. Through presentations, you can learn deeply about the content and develop your presentation skills.

At the end of the course, students are expected to understand the basic theory of microeconomics and develop their presentation skills.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Materials for presentations:50%

In class contribution and presentations:50%

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

檜野 智子

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使用しミクロ経済学の基礎を学びます。担当箇所のプレゼンテーションを行うことにより、より深く内容を理解することができ、さらにプレゼンテーションの技術も習得できます。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の基礎を身に付ける。
- ・テーマを与えられたときに、そのテーマの背景や問題点を要約でき、その内容を他者に伝えられる。
- ・求められたときに、いつでも自分の考えを述べることができる。
- ・英語で書かれた「初級レベルの経済学の教科書」を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

<授業の進め方と方法>

- ・対面授業を行います。
- ・教科書の担当箇所について、パワーポイントを使用したプレゼンテーションをしてもらいます。

<課題に対するフィードバック方法>

- ・プレゼンテーション実施時に、スライドや発表方法について講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	個人の最適化戦略	デシジョンツリー
第 2 回	個人の最適化戦略	現在価値
第 3 回	個人の最適化戦略	リスク
第 4 回	個人の最適化戦略	交換の利益
第 5 回	相互関係における最適化戦略	ゲーム理論
第 6 回	相互関係における最適化戦略	バレート効率性
第 7 回	相互関係における最適化戦略	囚人のジレンマ
第 8 回	相互関係における最適化戦略	オークション
第 9 回	相互関係における最適化戦略	競争市場
第 10 回	市場における最適化戦略	需要と供給
第 11 回	市場における最適化戦略	税金
第 12 回	市場における最適化戦略	限界効用
第 13 回	市場における最適化戦略	弾力性
第 14 回	市場における最適化戦略	競争のルール

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の内容を理解した上で要約し、パワーポイントのスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をしてください。本授業の準備学習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『The Cartoon Introduction to Economics: Volume One: Microeconomics』
著者:Grady Klein,Yoram Bauman 出版社:Hill & Wang Pub 出版年:2010
(電子書籍あり <https://amzn.to/3dmv46T>)

【参考書】

『この世で一番おもしろいミクロ経済学』ヨラム・パウマン、グレディ・クライン、ダイヤモンド社、2011 年 (<https://bit.ly/3qMpnZO>)
『マンキュー経済学 I ミクロ編 第 4 版』N・グレゴリー・マンキュー、東洋経済新報社、2019 年 (電子書籍あり <https://bit.ly/315Zbfg>)

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションのスライド 50%
プレゼンテーション及び授業への参加度 50 %

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・この授業では、パワーポイントを使用します。授業開始までにパワーポイントを使用できる環境を整え、使えるようにしておいてください。
- ・この授業では「学習支援システム」を使用します。授業開始までに、本科目の自己登録を済ませておいてください。

・オンライン授業では Zoom を使用します。授業開始までに Zoom でパワーポイントの画面を共有しプレゼンテーションを行えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

- ・各回の授業形態は予定です。詳細は「学習支援システム」で通知します。
- ・「学習支援システム」で連絡した内容は、全ての受講者に伝わったものとして取り扱います。

【関連科目】

経済学入門

【Outline (in English)】

This lecture deals with the basics of microeconomics with a textbook written in English. Through presentations, you can learn deeply about the content and develop your presentation skills.

At the end of the course, students are expected to understand the basic theory of microeconomics and develop their presentation skills.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Materials for presentations:50%

In class contribution and presentations:50%

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

鴨志田 晃

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では英語教材を用いて経営学の基本トピック、とりわけ起業とビジネス育成、マーケティング理論について学びます。毎回の授業では、テキストのなかの担当トピックの内容について学生が発表し、全体討議、総括を行って、経営学の専門用語を学び、経営学の理解を深めます。授業では、適宜、参考文献、記事等を取り上げ、ビジネスの最新トピックスへの関心と理解を深めます。

【到達目標】

本授業は、経営学における著名なテキストを用いて英語文献を読む語学力を身につけ、英語文献から得た経営学の知識を応用する力をつけることを目標とします。具体的には、経営学領域を網羅したテキストである "The Business Book: Big Ideas Simply Explained" を用いて、基礎知識をつけ、専門書を読解する力、英語で専門講義を受けるための基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講者には（何組かのグループを設定し）、担当部分の発表をしてもらいます。毎回の授業の流れは、担当グループが発表、各グループによる質問、報告に対する教員からのコメントおよび解説、ディスカッション、総括の順番で進めます。授業の後半ではビジネスに関わる原書や記事を読んで発表と議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の概要、進め方の説明
第 2 回	Start Small, Think Big ①	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 3 回	/Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 4 回	Start Small, Think Big ②	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 5 回	/Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 6 回	Lighting The Fire ①	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 7 回	/Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 8 回	Lighting The Fire ②	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 9 回	/Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 10 回	Making Money Work ①	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 11 回	/Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 12 回	Making Money Work ②	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 13 回	/Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 14 回	Working With a Vision ①/Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 15 回	Working With a Vision ②/Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 16 回	Successful Selling ①	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 17 回	/Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 18 回	Successful Selling ②	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 19 回	/Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 20 回	Successful Selling ③	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 21 回	/Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 22 回	総括	本授業で学習したトピックを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、テキストの指定箇所について精読し、予習を行う。
- ・担当個所の概要をまとめスライドにて発表する。

- ・最終レポートを作成する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・ Atkinson, S., O'Hara, S., & Sturgeon, A. (Eds.). (2014). *The Business Book: Big Ideas Simply Explained*. Dorling Kindersley Ltd.

【参考書】

・「実践 MBA 式経営学の教科書」鴨志田晃著、ぱる出版、2016 年、¥1,400
上記のほか、授業にて適宜、参考文献や記事を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（グループワーク・発表を含む）60 点

・期末レポート 40 点

成績評価は、授業での発表および参加、ならびにレポート（宿題）の成績によって総合的に評価します。毎回欠席を確認し、5 回以上欠席した学生は単位を認められません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

・毎回の講義にテキストと辞書、PC を必ず持参してください。

英語の文献を読むのは大変ですので、毎回講義に出席し、2 時間程度の予復習を欠かさずに行うようにしてください。

・カメラ・マイク付き PC（オンラインの場合）

・ある程度の速度が確保されたネット環境（オンラインの場合）

【その他の重要事項】

エントリー期間に Web 抽選を行う。詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of business administration, especially start up and business development, and marketing theory using English teaching materials.

(Learning Objectives)

By the end of this course, students should be able to do the followings:

- ・ Acquire the ability to express own opinion to others by reading English books on business management.

- ・ Acquire the basic knowledge about business management theory and understand tools for business analysis

- ・ Arouse students' awareness and interest in business management theory and business topics.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have read and completed the required assigned part of the text and prepare the slides for it. (Presentation slides would be prepared by each group.)

Your study time will be more than two hours for a class

(Grading Criteria/Policy)

Grading will be decided based upon based on "Group work/presentation and in-class contribution"(50%), "final report and other home work"(50%).

Students who are absent more than 3 times will be fail after checking attendance every time.

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

鴨志田 晃

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では英語教材を用いて経営学の基本トピック、とりわけ起業とビジネス育成、マーケティング理論について学びます。毎回の授業では、テキストのなかの担当トピックの内容について学生が発表し、全体討議、総括を行って、経営学の専門用語を学び、経営学の理解を深めます。授業では、適宜、参考文献、記事等を取り上げ、ビジネスの最新トピックスへの関心と理解を深めます。

【到達目標】

本授業は、経営学における著名なテキストを用いて英語文献を読む語学力を身につけ、英語文献から得た経営学の知識を応用する力をつけることを目標とします。具体的には、経営学領域を網羅したテキストである"The Business Book: Big Ideas Simply Explained"を用いて、基礎知識をつけ、専門書を読解する力、英語で専門講義を受けるための基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講者には（何組かのグループを設定し）、担当部分の発表をしてもらいます。毎回の授業の流れは、担当グループが発表、各グループによる質問、報告に対する教員からのコメントおよび解説、ディスカッション、総括の順番で進めます。授業の後半ではビジネスに関わる原書や記事を読んで発表と議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要、進め方の説明
第2回	Start Small, Think Big ① /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第3回	Start Small, Think Big ② /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第4回	Start Small, Think Big ③ /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第5回	Lighting The Fire ① /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第6回	Lighting The Fire ② /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第7回	Making Money Work ① /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第8回	Making Money Work ② /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第9回	Working With a Vision ① /Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第10回	Working With a Vision ② /Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第11回	Successful Selling ① /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第12回	Successful Selling ② /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第13回	Successful Selling ③ /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第14回	総括	本授業で学習したトピックを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、テキストの指定箇所について精読し、予習を行う。
- ・担当個所の概要をまとめスライドにて発表する。

- ・最終レポートを作成する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・Atkinson, S., O'Hara, S., & Sturgeon, A. (Eds.). (2014). *The Business Book: Big Ideas Simply Explained*. Dorling Kindersley Ltd.

【参考書】

・「実践MB A式経営学の教科書」鴨志田晃著、ぱる出版、2016年、¥1,400
上記のほか、授業にて適宜、参考文献や記事を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（グループワーク・発表を含む）60点

- ・期末レポート 40点

成績評価は、授業での発表および参加、ならびにレポート（宿題）の成績によって総合的に評価します。毎回欠席を確認し、5回以上欠席した学生は単位を認められません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・毎回の講義にテキストと辞書、PCを必ず持参してください。

英語の文献を読むのは大変ですので、毎回講義に出席し、2時間程度の予復習を欠かさずに行うようにしてください。

- ・カメラ・マイク付きPC（オンラインの場合）

- ・ある程度の速度が確保されたネット環境（オンラインの場合）

【その他の重要事項】

エントリー期間にWeb抽選を行う。詳細は、経営学部Web掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of business administration, especially start up and business development, and marketing theory using English teaching materials.

(Learning Objectives)

By the end of this course, students should be able to do the followings:

- ・Acquire the ability to express own opinion to others by reading English books on business management.

- ・Acquire the basic knowledge about business management theory and understand tools for business analysis

- ・Arouse students' awareness and interest in business management theory and business topics.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have read and completed the required assigned part of the text and prepare the slides for it. (Presentation slides would be prepared by each group.)

Your study time will be more than two hours for a class

(Grading Criteria/Policy)

Grading will be decided based upon based on "Group work/presentation and in-class contribution"(50%), "final report and other home work"(50%).

Students who are absent more than 3 times will be fail after checking attendance every time.

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

高橋 理香

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済・経営に関する時事的なトピックを中心にとりあげて英語のリーディングやリスニングのスキルアップを目指すとともに、トピックの背景にある経営学・経営学概念・知識・考え方を学びます。

【到達目標】

- ①英語に慣れて聞き取りのポイントをつかめる。
- ②英語の記事を辞書無しで読み、逐次訳することなく英語のまま概要をつかめる。
- ③英文の構成やパラグラフの役割を理解した上で、読解力と論述力を高める。
- ④現実の経済・経営に対する理解と関心を深める。
- ⑤ディスカッションを通じて、他の履修者とのコミュニケーション力を高める。英語「を」学ぶことから、英語「で」学ぶことが出来るようになるまでのきつかけをつかむことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

第2週目以降、以下の3つの内容をローテーションで行います。
 ・リスニング：リスニング教材を使って、英語のニュースの聞き取り訓練を行います。聞き取り後に関連するクイズを行うこともあります。その後、トピックに関連するテーマに対してグループディスカッションを行います。
 ・リーディング：教員の選んだ英字新聞の記事や英語の文献をその場で読んで理解します。その後、記事に関連するテーマに対してグループディスカッションを行います。
 ・レポート：英字新聞の記事に関するレポートを作成します。レポートでは、各自が記事を選び、その記事を読んで理解した上で、記事に関連する内容の調査と分析を行います。レポートでは、ディスカッションテーマも執筆者に書いてもらいます。授業時には、提出されたレポートの内容を発表してもらいます。さらに、最後に、発表者の挙げたディスカッションテーマに従って、グループディスカッションを行います。レポートは日本語または英語で作成してください。
 ※レポートの週はオンラインでの実施を予定しています。それ以外は対面授業を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の概要を説明し、今後のスケジュールを決めます。
第2回	Listening 1	リスニング：スピードを落としてニュースの聞き取りを行います。
第3回	Reading 1	リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。辞書無しで大意をつかむ方法を学びます。
第4回	Writing Report and Presentation 1	レポート：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。記事の選び方について議論します。
第5回	Listening 2	リスニング：ニュースのキーワードの聞き取りを訓練します。
第6回	Reading 2	リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。文章の全体的な構成やパラグラフの役割について学びます。
第7回	Writing Report and Presentation 2	レポート：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。レポートの書き方について学びます。
第8回	Listening 3	リスニング：聞き取りにくい音やフレーズを見つけ、音読して確認します。
第9回	Reading 3	リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。長い英文を読む時のコツを学びます。
第10回	Writing Report and Presentation 3	レポート：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。発表の仕方について学びます。
第11回	Listening 4	リスニング：少しだけスピードアップしてニュースの聞き取り訓練を行います。

第12回 Reading 4

リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。Transition Wordsの役割を学びます。

第13回 Writing Report and Presentation 4

レポート：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。前回の授業で学んだ文章構成やパラグラフの構成について、自分で選んだ記事において確認します。

第14回 Conclusion

授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は英字新聞のレポート作成です。復習は教員の用意したリスニングやリーディング教材に注力してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

参考文献については、初回の授業時に説明をします。授業で用いる英字新聞についても、初回の授業時に説明します。

【成績評価の方法と基準】

英字新聞のレポートと発表：40%

グループディスカッション：30%

授業への積極的な参加：30%

授業に対する姿勢や上記の項目を総合的に判断して評価します。

欠席は成績評価を大きく下げます。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の皆さんの理解度や希望をなるべく反映して授業を進めたいと考えています。少人数クラスの利点を活かし、クラスでのグループディスカッションの機会をなるべく多く設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン（Zoom）で授業を行うことがあります。その際には、ビデオオン・音声オフを基本として参加してもらいます。資料の配布やレポート提出の際に学習支援システムを使います。ワード・エクセル・パワーポイントや、インターネットを使ったデータ収集を行うことがあります。また、履修者には法政大学のアカウントを使って Financial Times の登録を行っていただきます。機器の使い方や登録方法については、初回授業で説明します。

【その他の重要事項】

初回の授業時に、授業の概要や2回目以降のスケジュールと課題についてお話ししますので、興味のある方は、初回の授業に必ず出席して下さい。この授業に関連する科目は、英語の授業全般、経営学部の専門科目全般です。また、受講者多数の場合は、初回授業で選考を行います。

【Outline (in English)】

This class aims to brush up reading and listening skills in English and understand the concepts, knowledge and thinking of economics and business administration, focusing on world news related to economics and business.

In this class, three trainings, listening, reading, and writing short reports, will be conducted four times each. In listening, students will practice listening to news at a slow speed. In reading, students will quickly read newspaper articles written in English prepared by the instructor and participate in group discussions according to the themes provided by the instructor. In writing report, students will choose a newspaper article written in English, read it, and submit a short report with respect to that article.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports and presentation: 40%,

Group work in class: 30%,

Contribution in class: 30%.

※ If the number of students exceeds expectations, the selection will be conducted. Please be sure to attend the first class meeting.

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

鴨志田 晃

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では英語教材を用いて経営学の基本トピック、とりわけ起業とビジネス育成、マーケティング理論について学びます。毎回の授業では、テキストのなかの担当トピックの内容について学生が発表し、全体討議、総括を行って、経営学の専門用語を学び、経営学の理解を深めます。授業では、適宜、参考文献、記事等を取り上げ、ビジネスの最新トピックスへの関心と理解を深めます。

【到達目標】

本授業は、経営学における著名なテキストを用いて英語文献を読む語学力を身につけ、英語文献から得た経営学の知識を応用する力をつけることを目標とします。具体的には、経営学領域を網羅したテキストである "The Business Book: Big Ideas Simply Explained" を用いて、基礎知識をつけ、専門書を読解する力、英語で専門講義を受けるための基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講者には（何組かのグループを設定し）、担当部分の発表をしてもらいます。毎回の授業の流れは、担当グループが発表、各グループによる質問、報告に対する教員からのコメントおよび解説、ディスカッション、総括の順番で進めます。授業の後半ではビジネスに関わる原書や記事を読んで発表と議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の概要、進め方の説明
第 2 回	Start Small, Think Big ① /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 3 回	Start Small, Think Big ② /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 4 回	Start Small, Think Big ③ /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 5 回	Lighting The Fire ① /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 6 回	Lighting The Fire ② /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 7 回	Making Money Work ① /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 8 回	Making Money Work ② /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 9 回	Working With a Vision ①/Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 10 回	Working With a Vision ②/Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 11 回	Successful Selling ① /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 12 回	Successful Selling ② /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 13 回	Successful Selling ③ /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評、講義）
第 14 回	総括	本授業で学習したトピックを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回、テキストの指定箇所について精読し、予習を行う。
・担当個所の概要をまとめスライドにて発表する。

・最終レポートを作成する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・ Atkinson, S., O'Hara, S., & Sturgeon, A. (Eds.). (2014). *The Business Book: Big Ideas Simply Explained*. Dorling Kindersley Ltd.

【参考書】

・「実践 MBA 式経営学の教科書」鴨志田晃著、ぱる出版、2016 年、¥1,400
上記のほか、授業にて適宜、参考文献や記事を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（グループワーク・発表を含む）60 点

・期末レポート 40 点

成績評価は、授業での発表および参加、ならびにレポート（宿題）の成績によって総合的に評価します。毎回欠席を確認し、5 回以上欠席した学生は単位を認められません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

・毎回の講義にテキストと辞書、PC を必ず持参してください。

英語の文献を読むのは大変ですので、毎回講義に出席し、2 時間程度の予復習を欠かさずに行うようにしてください。

・カメラ・マイク付き PC（オンラインの場合）

・ある程度の速度が確保されたネット環境（オンラインの場合）

【その他の重要事項】

エントリー期間に Web 抽選を行う。詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of business administration, especially start up and business development, and marketing theory using English teaching materials.

(Learning Objectives)

By the end of this course, students should be able to do the followings:

・ Acquire the ability to express own opinion to others by reading English books on business management.

・ Acquire the basic knowledge about business management theory and understand tools for business analysis

・ Arouse students' awareness and interest in business management theory and business topics.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have read and completed the required assigned part of the text and prepare the slides for it. (Presentation slides would be prepared by each group.)

Your study time will be more than two hours for a class

(Grading Criteria/Policy)

Grading will be decided based upon based on "Group work/presentation and in-class contribution"(50%), "final report and other home work"(50%).

Students who are absent more than 3 times will be fail after checking attendance every time.

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

THOMAS G POWER

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to provide students who are thinking about a career in business with an overview of the business-economic workplace and the skills needed for success in it. Students will also develop academic skills, critical thinking skills, and the ability to express ideas and opinions in English while studying fundamental principles and practices in business administration and management.

【到達目標】

The goal of the course is to help students communicate about business topics and gain confidence when speaking in English. The basic structure of a paragraph and an essay will be studied so that students are able to organize their thoughts in a logical way. This will aid students in their preparation for presentations on the topics covered. Students will listen to lectures, read articles, write reports, participate in discussions, increase business vocabulary, and give presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

The first class will be "online." Most other classes will be held in the classroom in Ichigaya campus. If it is necessary, some classes will be held by Zoom or on-demand lectures. Active participation is essential. Class activities include lectures, discussions, presentations, written reports, and group research projects. Students work in pairs and in small groups. Students will submit assignments and receive feedback through Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Syllabus, expectations & grading criteria / Writing emails
Week 2	Business and Economics	Business, product, profit, and economics; Four types of economic systems
Week 3	Business and Economics	Forces of Supply and Demand; Competition in a free-enterprise system
Week 4	Leadership Styles	How can you grow as an effective leader?; Case studies
Week 5	Cultural Awareness	Effect of culture on business interactions
Week 6	Business Ethics and Social Responsibility	Ethical issues in business; Social responsibility issues
Week 7	Mid-term Presentations	Students presentations
Week 8	International Business	Trade between countries; International trade barriers
Week 9	Options for Organizing Business	Business activities of different organizations
Week 10	Entrepreneurs / E-business	Products and services / Case studies
Week 11	The Importance of Management	Management functions; Types of management; Decision making
Week 12	Business Travel and Socializing	Foreign travel
Week 13	Preparation of Final Papers	Writing a business plan; Research skills; Writing skills
Week 14	Final papers and remarks	Final papers. Wrap-up and review.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The first class will be "online." Most other classes will be held in the classroom in Ichigaya campus. If it is necessary, some classes will be held by Zoom or on-demand lectures. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class.

University guidelines suggests preparation and review for a one-credit course to be around an hour a week.

【テキスト（教科書）】

A textbook is assigned in the first class for this course. Handouts and reading materials will be provided by the instructor.

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

Final evaluation will be based on:
Participation and regular attendance 30%
Homework and written assignments 30%
Mid-term presentation 20%
Final paper 20%
More than three absences will seriously affect your final grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【関連科目】

not applicable

【Outline (in English)】

This course is designed to provide students who are thinking about a career in business with an overview of the business-economic workplace and the skills needed for success in it. Students will also develop academic skills, critical thinking skills, and the ability to express ideas and opinions in English while studying fundamental principles and practices in business administration and management.

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

福多 裕志

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）

【Challenges of Global Enterprises】

当授業では、いくつかの世界的企業を取り上げ、海外メディアの記事を通してビジネスへの取り組み方や動向を学習する。授業中の言語は、和訳を行う時間帯を除き、できる限り英語としたい。In this class, we will cover some global companies and learn about business approaches and trends through articles in overseas media. Let us try to communicate in English during class.

当授業への登録は、3、4年生を優先しますので、まだ未履修の方は奮ってご参加ください。

【到達目標】

現在、どのような領域（職場、職種、地域等）において活動するにせよ、英語の総合的運用力を求められることが多い。本授業が、受講者の英語による運用能力を向上させ、結果として長、短期の留学や各種検定試験の成功へと結びつくこと（英検準1級程度）を目指す。Currently, regardless of the field (workplace, occupation, region, etc.), it is often required to have comprehensive English proficiency. This course is designed to meet the objectives of those who wish to study abroad and the success of various examinations. This class also fits the needs of those who want the opportunity to discuss business and economic topics in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

指定教科書および配布プリントを使用し、日本語訳出、英語による発表・討論等を通し授業を進める。教科書の1章分をおよそ3回の授業で終了する。授業では日本語へ訳出する場合を除き、英語、日本語両言語を用いて行う予定である。We will try to use English during class except for the translation time. Students will be expected not only to acquire business vocabulary and expressions, but to discuss business topics from a variety of kinds of English media as well. Special emphasis will be given to communicative English skills necessary for active discussion.

【重要事項】

当コースは第1回目の授業を除き、原則として対面方式により開講します。第1回目の授業用 ZOOM ID は、授業開始日迄に当サイトの「お知らせ」に掲載します。

第1回目の授業において、授業定員を超える場合は、人数を調整するための試験等を行うこともありますので、履修を予定している方は必ず初回授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Class Orientation	年間授業計画の説明および英文記事の訳出を行う（日・英両言語）。
第2回	Walmart (1)	Walmart - Business vocabulary and reading
第3回	Walmart (2)	Walmart - Reading comprehension
第4回	Walmart (3)	Walmart - Discussion
第5回	Presentation on Job Trends in the world (1)	Participants are expected to make an effective presentation on a company or industry.
第6回	Disney (1)	Disney - Business vocabulary and reading
第7回	Disney (2)	Disney - Reading comprehension
第8回	Disney (3)	Disney - Discussion
第9回	Presentation on Job Trends in the world (2)	Participants are expected to make an effective presentation.
第10回	General Electric (1)	General Electric - Business vocabulary and reading
第11回	General Electric (2)	General Electric - Reading comprehension
第12回	General Electric (3)	General Electric - Discussion
第13回	Presentation on Job Trends in the world (3)	Participants are expected to make an effective presentation on a company or industry.
第14回	In-class term exam	60-minute written test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各英文記事の日本語訳出、英語によるグループディスカッションのための準備を毎回確実に行うこと。学習支援システムに、随時、必要情報を掲載するので参照すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。Students are expected to make elaborate preparations for vocabulary, listening practice and discussion for each class at home to enhance their participation in classroom discussions. 2 hours of preparation time is expected.

【テキスト（教科書）】

Kayoko Shiomi, Kazumi Tsutada and Angus McGregor (2019). *Challenges of Global Enterprises*. Kinseido(金星堂). ¥2,100+tax

【参考書】

ビジネスや経済を扱う新聞、雑誌等の英語参考文献は数多い。必要に応じて学習支援システムに文献リストを掲載する。Pay attention, on a frequent basis, to the Learning Management System (LMS) that includes a reference list.

【成績評価の方法と基準】

平常点(発表、用語テスト)50%、学期末筆記試験50%(原則的に筆記試験とするが、状況により口述試験)をもって評価する。Contributions to class activities : presentation, words & phrases test (50%), in-class exam : No references available (50%)

【学生の意見等からの気づき】

The instructor encourages participants to express themselves clearly both in Japanese and English.

【学生が準備すべき機器他】

Feel free to use your PC in class.

【その他の重要事項】

学習支援システムを利用して授業関連情報を提供するので、同システムを積極的に活用すること。Class-related information is provided on the LMS. Feel relaxed, have fun and do your best while using English.

当授業への登録は、3、4年生を優先しますので、まだ未履修の方は奮ってご参加ください。

【関連科目】

経営学総論 I / II

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Participants in this class will learn how to approach business and trends covering several global enterprises in articles of foreign media.

【Learning Objectives】

Currently, regardless of the field (workplace, occupation, region, etc.), it is often required to have comprehensive English proficiency. This course is designed to meet the objectives of those who wish to study abroad and the success of various examinations. This class also fits the needs of those who want the opportunity to discuss business and economic topics in English.

【Grading Criteria】

Contributions to class activities (30%), in-class exam (70%)

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

福多 裕志

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【Challenges of Global Enterprises】

当授業では、いくつかの世界的企業を取り上げ、海外メディアの記事を通してビジネスへの取り組み方や動向を学習する。授業中の言語は、和訳を行う時間帯を除き、できる限り英語としたい。In this class, we will cover some global companies and learn about business approaches and trends through articles in overseas media. Let us try to communicate in English during class.

当授業への登録は、3、4年生を優先しますので、まだ未履修の方は奮ってご参加ください。

【到達目標】

現在、どのような領域（職場、職種、地域等）において活動するにせよ、英語の総合的運用力を求められることが多い。本授業が、受講者の英語による運用能力を向上させ、結果として長、短期の留学や各種検定試験の成功へと結びつくこと（英検準1級程度）を目指す。Currently, regardless of the field (workplace, occupation, region, etc.), it is often required to have comprehensive English proficiency. This course is designed to meet the objectives of those who wish to study abroad and the success of various examinations. This class also fits the needs of those who want the opportunity to discuss business and economic topics in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

指定教科書および配布プリントを使用し、日本語訳出、英語による発表・討論等を通し授業を進める。教科書の1章分をおよそ3回の授業で終了する。授業では日本語へ訳出する場合を除き、英語、日本語両言語を用いて行う予定である。We will try to use English during class except for the translation time. Students will be expected not only to acquire business vocabulary and expressions, but to discuss business topics from a variety of kinds of English media as well. Special emphasis will be given to communicative English skills necessary for active discussion.

【重要事項】

当コースは第1回目の授業を除き、原則として対面方式により開講します。第1回目の授業用 ZOOM ID は、授業開始日迄に当サイトの「お知らせ」に掲載します。

第1回目の授業において、授業定員を超える場合は、人数を調整するための試験等を行うこともありますので、履修を予定している方は必ず初回授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Class Orientation	年間授業計画の説明および英文記事の訳出を行う（日・英両言語）。
第2回	Walmart (1)	Walmart - Business vocabulary and reading
第3回	Walmart (2)	Walmart - Reading comprehension
第4回	Walmart (3)	Walmart - Discussion
第5回	Presentation on Job Trends in the world (1)	Participants are expected to make an effective presentation on a company or industry.
第6回	Disney (1)	Disney - Business vocabulary and reading
第7回	Disney (2)	Disney - Reading comprehension
第8回	Disney (3)	Disney - Discussion
第9回	Presentation on Job Trends in the world (2)	Participants are expected to make an effective presentation.
第10回	General Electric (1)	General Electric - Business vocabulary and reading
第11回	General Electric (2)	General Electric - Reading comprehension
第12回	General Electric (3)	General Electric - Discussion
第13回	Presentation on Job Trends in the world (3)	Participants are expected to make an effective presentation on a company or industry.
第14回	In-class term exam	60-minute written test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各英文記事の日本語訳出、英語によるグループディスカッションのための準備を毎回確実に行うこと。学習支援システムに、随時、必要情報を掲載するので参照すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。Students are expected to make elaborate preparations for vocabulary, listening practice and discussion for each class at home to enhance their participation in classroom discussions. 2 hours of preparation time is expected.

【テキスト（教科書）】

Kayoko Shiomi, Kazumi Tsutada and Angus McGregor (2019). *Challenges of Global Enterprises*. Kinseido(金星堂). ¥2,100+tax

【参考書】

ビジネスや経済を扱う新聞、雑誌等の英語参考文献は数多い。必要に応じて学習支援システムに文献リストを掲載する。Pay attention, on a frequent basis, to the Learning Management System (LMS) that includes a reference list.

【成績評価の方法と基準】

平常点(発表、用語テスト)50%、学期末筆記試験50%(原則的に筆記試験とするが、状況により口述試験)をもって評価する。Contributions to class activities : presentation, words & phrases test (50%), in-class exam : No references available (50%)

【学生の意見等からの気づき】

The instructor encourages participants to express themselves clearly both in Japanese and English.

【学生が準備すべき機器他】

Feel free to use your PC in class.

【その他の重要事項】

学習支援システムを利用して授業関連情報を提供するので、同システムを積極的に活用すること。Class-related information is provided on the LMS. Feel relaxed, have fun and do your best while using English.

当授業への登録は、3、4年生を優先しますので、まだ未履修の方は奮ってご参加ください。

【関連科目】

経営学総論 I / II

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Participants in this class will learn how to approach business and trends covering several global enterprises in articles of foreign media.

【Learning Objectives】

Currently, regardless of the field (workplace, occupation, region, etc.), it is often required to have comprehensive English proficiency. This course is designed to meet the objectives of those who wish to study abroad and the success of various examinations. This class also fits the needs of those who want the opportunity to discuss business and economic topics in English.

【Grading Criteria】

Contributions to class activities (30%), in-class exam (70%)

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

稲垣 京輔

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、経営学や企業経営に関する英語の文献、雑誌記事を読み、読解力を養うと同時に、テーマに沿って討論するノウハウや関心を高めていくことが課題です。

【到達目標】

基本的に、毎回の講義において英訳の宿題が与えられます。持ち回りの輪読ですが、かなりの頻度で回ってきます。

14回の授業を通じて、英文に慣れて、解釈できるようになること、そして文化や経済事情に関する素養を身につけることが目的です。

English translation homework is given in every lecture. It's a rotation reading, but it comes around quite often.

Through 14 classes, the purpose is to become familiar with English, to be able to interpret it, and to acquire knowledge about management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

段落ごとに割り当てられた受講者は、辞書を参照しながら訳していきます。この講義では、完璧な訳出を求めるわけではありません。むしろ、センテンス毎に内容を把握し、文章を理解するスピードを上げていくことを目的とします。したがって、頭から訳出していくことを心がけ、文章の構造を理解するように努めてください。全ての訳出が終わり、内容を理解したら、テーマに即して2つのグループに分かれて、討論をおこないます。

Students are assigned a paragraph-by-paragraph translation for each session. This lecture does not seek a perfect translation. After all the translations have been completed and you have understood the content, you will be divided into two groups based on the theme and have a discussion.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	選抜 講義の進め方
第2回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文に慣れる（基礎編）
第3回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文に慣れる（基礎編）
第4回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文に慣れる（基礎編）
第5回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文に慣れる（基礎編）
第6回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ（応用編）
第7回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ（応用編）
第8回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ（応用編）
第9回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ（応用編）

第10回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ（応用編）
第11回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ（応用編）
第12回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ（応用編）
第13回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ（応用編）
第14回	まとめ	これまでの英文記事の読み込みを復習 し、テストをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

段落ごとに割り当てられた受講者は、辞書を参照しながら訳出を事前に行ってください。その他に本授業の準備学習と復習には、それぞれ2時間程度をかけてください。

Students assigned to each paragraph should prepare the translation in advance while referring to a dictionary. In addition, please spend about 2 hours each for preparation and review of this class.

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。受講者のレベルに合わせて、企業経営に関する文献を読みたいと思います。

【参考書】

とくになし。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義での発表による評価（50％）

期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

久々の担当なので、学生からの積極的なフィードバックを期待します。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

必ず英和辞書（電子辞書でもよい）を持参してください。

[関連科目]

経営学総論

【Outline (in English)】

In this lecture we will try to read and discuss some business articles in English. The aim is to develop know-how and interest in discussions on each theme each while developing reading comprehension skills

MAN100FA

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

稲垣 京輔

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、経営学や企業経営に関する英語の文献、雑誌記事を読み、読解力を養うと同時に、テーマに沿って討論するノウハウや関心を高めていくことが課題です。

【到達目標】

基本的に、毎回の講義において英訳の宿題が与えられます。持ち回りの輪読ですが、かなりの頻度で回ってきます。

14回の授業を通じて、英文に慣れて、解釈できるようになること、そして文化や経済事情に関する素養を身につけることが目的です。

English translation homework is given in every lecture. It's a rotation reading, but it comes around quite often.

Through 14 classes, the purpose is to become familiar with English, to be able to interpret it, and to acquire knowledge about management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

段落ごとに割り当てられた受講者は、辞書を参照しながら訳していきます。この講義では、完璧な訳出を求めるわけではありません。むしろ、センテンス毎に内容を把握し、文章を理解するスピードを上げていくことを目的とします。したがって、頭から訳出していくことを心がけ、文章の構造を理解するように努めてください。全ての訳出が終わり、内容を理解したら、テーマに即して2つのグループに分かれて、討論をおこないます。

Students are assigned a paragraph-by-paragraph translation for each session. This lecture does not seek a perfect translation. After all the translations have been completed and you have understood the content, you will be divided into two groups based on the theme and have a discussion.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	選抜 講義の進め方
第2回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文に慣れる（基礎編）
第3回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文に慣れる（基礎編）
第4回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文に慣れる（基礎編）
第5回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文に慣れる（基礎編）
第6回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ（応用編）
第7回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ（応用編）
第8回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ（応用編）
第9回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ（応用編）

第10回 英文の和訳
テーマにまつわる課題を
考え、ディスカッション
する

英文記事を通じて、各国の経済事情や
文化について学ぶ（応用編）

第11回 英文の和訳
テーマにまつわる課題を
考え、ディスカッション
する

英文記事を通じて、各国の経済事情や
文化について学ぶ（応用編）

第12回 英文の和訳
テーマにまつわる課題を
考え、ディスカッション
する

英文記事を通じて、各国の経済事情や
文化について学ぶ（応用編）

第13回 英文の和訳
テーマにまつわる課題を
考え、ディスカッション
する

英文記事を通じて、各国の経済事情や
文化について学ぶ（応用編）

第14回 まとめ
これまでの英文記事の読み込みを復習
し、テストをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

段落ごとに割り当てられた受講者は、辞書を参照しながら訳出を事前に行なってください。その他に本授業の準備学習と復習には、それぞれ2時間程度をかけてください。

Students assigned to each paragraph should prepare the translation in advance while referring to a dictionary. In addition, please spend about 2 hours each for preparation and review of this class.

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。受講者のレベルに合わせて、企業経営に関する文献を読みたいと思います。

【参考書】

とくになし。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義での発表による評価（50％）

期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

久々の担当なので、学生からの積極的なフィードバックを期待します。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

必ず英和辞書（電子辞書でもよい）を持参してください。

[関連科目]

経営学総論

【Outline (in English)】

In this lecture we will try to read and discuss some business articles in English. The aim is to develop know-how and interest in discussions on each theme each while developing reading comprehension skills

MAN200FA

国際コミュニケーション論 I (2019 年度以降入学者)

THOMAS G POWER

グローバル・ビジネス/GBP 科目 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

To succeed in a globalized world, business people must possess the skills and knowledge to understand, communicate and negotiate with people from a wide range of cultures and countries. The aim of this course is to provide students with opportunities to gain a deeper understanding and appreciation of international communication, Japanese culture, and other cultures.

【到達目標】

In this course, students will (1) acquire a deeper knowledge of international communication and intercultural issues, (2) gain more confidence in expressing opinions and ideas about Japanese culture in English, (3) increase their understanding of other cultures, and (4) improve their academic and critical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

The first class will be "online." All other classes held in the classroom in Ichigaya campus unless otherwise announced. If it is necessary, some classes will be held by Zoom or on-demand lectures. Active participation is essential. Students will work in pairs and in groups and give presentations based on topics of personal interest. Students will submit assignments and receive feedback through Google Classroom. This course will be fun and exciting with the help of enthusiastic students who want to learn from each other and are committed to improving their English skills.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to International Communication I	Syllabus, expectations & grading criteria
Week 2	What is communication?	Communication styles
Week 3	What is culture?	Culture iceberg / Perspectives of culture & invisible aspects
Week 4	Japanese culture & identity	Characteristics of culture / Identity and groups
Week 5	Nonverbal communication	Paralanguage / body communication
Week 6	Communicating clearly	Communication styles / Effect of Aimai and Amae
Week 7	Mid-term presentations	All students will give a 5-minute presentation.
Week 8	Communicating clearly	Communication styles / Effect of Honne to Tatemaie
Week 9	Culture and values	Values of Japanese and Americans / Foreigners in Japan.
Week 10	Culture and values	Traveling abroad / American & British cultures
Week 11	Culture and perception	Different ways of seeing things
Week 12	Stereotypes and Generalizations	Japanese stereotypes & national stereotypes / prejudice
Week 13	Final presentations	All students will give a 4-minute presentation.
Week 14	Final papers and remarks	Oral reports about final papers / Review

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The first class will be "online." Most other classes will be held in the classroom in Ichigaya campus. If it is necessary, some classes will be held by Zoom or on-demand lectures. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email and be ready for the next class. Be sure to bring your textbook to each class. University guidelines suggests preparation and review for a one-credit course to be around an hour a week.

【テキスト (教科書)】

Vincent. P. (2017) Speaking of Intercultural Communication. Tokyo: Nan'un-do. ISBN 978-4-523-17840-8 C0082 JPY 1,900

The instructor will provide additional online resources and reading materials, including brief summaries of articles by Milton J. Bennett and Geert Hofstede,

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

You will be graded on:

20% Active participation in English

40% Weekly homework, quizzes & assignments

30% Two presentations

10% Final paper

More than three absences will seriously affect your final grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Students need access to the internet and use of Zoom with audio and video capabilities.

【関連科目】

not applicable

【Outline (in English)】

To succeed in a globalized world, business people must possess the skills and knowledge to understand, communicate and negotiate with people from a wide range of cultures and countries. The aim of this course is to provide students with opportunities to gain a deeper understanding and appreciation of international communication, Japanese culture, and other cultures.

MAN200FA

国際コミュニケーション論Ⅱ（2019年度以降入学者）

THOMAS G POWER

グローバル・ビジネス/GBP 科目 2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To succeed in a globalized world, business people must possess the skills and knowledge to understand, communicate and negotiate with people from a wide range of cultures and countries. The aim of this course is to provide students with opportunities to gain a deeper understanding and appreciation of international communication, Japanese culture, and other cultures.

【到達目標】

In this course, students will (1) acquire a deeper knowledge of international communication and intercultural issues, (2) gain more confidence in expressing opinions and ideas about Japanese culture in English, (3) increase their understanding of other cultures, and (4) improve their academic and critical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

The first class will be "online." All other classes held in the classroom in Ichigaya campus unless otherwise announced. If it is necessary, some classes will be held by Zoom or on-demand lectures. Active participation is essential. Students will work in pairs and in groups and give presentations based on topics of personal interest. Students will submit assignments and receive feedback through Google Classroom. This course will be fun and exciting with the help of enthusiastic students who want to learn from each other and are committed to improving their English skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Syllabus, expectations, & grading criteria
Week 2	Stereotypes and Generalizations	Subcultures & prejudice / Immigration policies
Week 3	Diversity	Diversity & subcultures / Prejudice
Week 4	Culture Shock	The Stress of Culture Shock
Week 5	Culture Shock	Reverse Culture Shock / Reaction Paragraph
Week 6	Culture and Change	Pros and cons of Globalization
Week 7	Culture and Change	Change and Culture / Reaction Paragraph
Week 8	Presentation Preparation	Working draft / Slides & script / Prompt cards
Week 9	Students Presentations	All students will give presentation.
Week 10	Talking about Japan	Japanese Words / Individualistic & Group-oriented Cultures
Week 11	Talking about Japan	The Changing Japanese Culture / Taboos & Subcultures
Week 12	Becoming a Global Person	Global Village / Intercultural sensitivity
Week 13	Final Presentations	All students will give a presentation.
Week 14	Final papers and remarks	Reports about final papers. Review.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The first class will be "online." Most other classes will be held in the classroom in Ichigaya campus. If it is necessary, some classes will be held by Zoom or on-demand lectures. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email and be ready for the next class. Be sure to bring your textbook to each class. University guidelines suggests preparation and review for a one-credit course to be around an hour a week.

【テキスト（教科書）】

Vincent, P. (2017) Speaking of Intercultural Communication. Tokyo: Nan'un-do. ISBN 978-4-523-17840-8 C0082 JPY 1,900

The instructor will provide additional online resources and reading materials, including brief summaries of articles by Milton J. Bennett and Geert Hofstede,

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

You will be graded on:

20% Active participation in English

40% Weekly homework, quizzes & assignments

30% Two presentations

10% Final paper

More than three absences will seriously affect your final grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【関連科目】

not applicable

【Outline (in English)】

To succeed in a globalized world, business people must possess the skills and knowledge to understand, communicate and negotiate with people from a wide range of cultures and countries. The aim of this course is to provide students with opportunities to gain a deeper understanding and appreciation of international communication, Japanese culture, and other cultures.

LAN200FA

ビジネス英語 I (初級)

ジョナサン・エイブル

グローバル・ビジネス/GBP 科目選択_外国語経営学科目 2~4 年次/2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 初級、中級の同時履修はできません。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ビジネス英語 (初級)

This is a beginners' introduction to Oral communication in English for a Business environment. Students will have writing and reading ability. This course focuses on practical spoken English.

【到達目標】

The purpose of this class is to give students confidence through practise. Part I focuses on vocabulary and practise in a business context.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

Using the textbook as a basis we will build confidence through practical exercises, using English as it is used in a Business environment.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Class selection
第 2 回	Meeting People	Introductions at work and elsewhere.
第 3 回	Your Company	What is a company? Companies in Japan and around the world.
第 4 回	Your Company 2	Company histories and how they operate.
第 5 回	Routines	Planning your days. What do you do and when?
第 6 回	Business in Progress	The workplace; the office, shopfloor and saleroom.
第 7 回	Business in Progress 2	The workplace; describing a working environment.
第 8 回	Presentation Preparation	Presentations on business themes. Topics, plans and tips on practical presentations
第 9 回	Presentations	Practical presenting in small groups to the rest of the class.
第 10 回	Businesses.	How different types of business operate in Japan.
第 11 回	Businesses 2.	international Business. How is it different and how much the same?
第 12 回	On the Telephone	Practical class on using the telephone in English. Manners and language.
第 13 回	On the Telephone 2	Situations and practice for speaking in international situations.
第 14 回	Interviews	The final self-assessment and small group interview as part of the grading process

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Occasional preparation for presentations. No fixed homework schedule. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Material provided by instructor

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Assessment is continuous. Attendance is mandatory. Testing by interview.

Classwork 40%

Presentation and Written Work 40%

Final Test/Interview 20%

【学生の意見等からの気づき】

まだアンケート結果が出ていないため、コメントできなかった。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善を試みたい。

【その他の重要事項】

【関連科目】

ビジネス英語 I/II (中級)

英語オーラル・コミュニケーション I/II

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

メールアドレスは Web 掲示板でお知らせします。

【Outline (in English)】

This is a beginners' introduction to Oral communication in English for a Business environment. Students will have writing and reading ability. This course focuses on practical spoken English.

LAN200FA

ビジネス英語Ⅱ（初級）

ジョナサン・エイブル

グローバル・ビジネス/GBP 科目選択_外国語経営学科目 2～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 初級、中級の同時履修はできません。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネス英語（初級）

This is a beginners' introduction to Oral communication in English for a Business environment. Students will have writing and reading ability. This course focuses on practical spoken English.

【到達目標】

The purpose of this class is to give students confidence through practise. part II will focus on real business environments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

Using the textbook as a basis we will build confidence through practical exercises, using English as it is used in a Business environment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction and review	Looking at the ground that we have covered and what we aim to do next.
第 2 回	Transport	How we get around by land air and even sea.
第 3 回	Travel	The reasons, destinations and practicalities of International travel.
第 4 回	Working overseas	A look at the different environments and customs we encounter working overseas.
第 5 回	Your culture	Talking about Japanese life and culture. Explaining Japan to visitors and colleagues.
第 6 回	Socialising 1	How to make visitors to Japan welcome and comfortable.
第 7 回	Socialising 2	How to cope with social situations abroad.
第 8 回	Presentation Preparation	Presentations on business themes. Topics, plans and tips on practical presentations
第 9 回	Presentations	Practical presenting in small groups to the rest of the class.
第 10 回	Meetings	Agenda, Minutes, Structure. How to prepare for meetings in English.
第 11 回	Businesses	international Business. How is it different and how much the same?
第 12 回	Products	Product description. How to put a product in front of the consumer.
第 13 回	Advertising	How to make people want the product we are selling.
第 14 回	Interviews	The final self-assessment and small group interview as part of the grading process

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Occasional preparation for presentations. No fixed homework schedule. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Material provided by instructor

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Assessment is continuous.Attendance is mandatory.Testing by interview.

Classwork 40%

Presentation and Written Work 40%

Final Test/Interview 20%

【学生の意見等からの気づき】

まだアンケート結果が出ていないため、コメントできなかった。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善を試みたい。

【その他の重要事項】

【関連科目】

ビジネス英語Ⅰ/Ⅱ（中級）

英語オーラル・コミュニケーションⅠ/Ⅱ

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

メールアドレスは Web 掲示板でお知らせします。

【Outline (in English)】

This is a beginners' introduction to Oral communication in English for a Business environment. Students will have writing and reading ability. This course focuses on practical spoken English.

LAN200FA

ビジネス英語 I (中級)

ジョナサン・エイブル

グローバル・ビジネス/GBP 科目選択_外国語経営学科目 2~4 年次/2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 初級、中級の同時履修はできません。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ビジネス英語 (中級)

This is a course for students who already have some speaking ability. It is a practical course in which the sole classroom language is English.

【到達目標】

Confident communication

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

Using the textbook as a basis we will build confidence through practical exercises, using English as it is used in a Business environment.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction.	Class selection and an introduction to the course.
第 2 回	Work.	Describing what you do now and what you may do in the future.
第 3 回	Leisure.	How we spend free time together and alone.
第 4 回	Problems.	Explaining what has gone wrong in the workplace.
第 5 回	Problems 2.	Finding solutions and assisting others.
第 6 回	Travel 1.	Getting away, getting back. Transport practicalities.
第 7 回	Travel 2.	What we need to know about foreign travel and how to make the most of the experience.
第 8 回	Presentation Preparation.	Planning a small group presentation for the classroom.
第 9 回	Presentations.	Giving presentations to your peers in the classroom.
第 10 回	Food and Entertaining.	What to eat and how from the point of view of the visitor to Japan and the Japanese traveler abroad.
第 11 回	Sales 1.	Products. How we decide on a product and describe it.
第 12 回	Sales 2.	Strategies for marketing the products we have identified.
第 13 回	Sales 3.	Advertising and Sales plans for the products we have identified.
第 14 回	Interviews	Grading process. Self-assessment and small group interviews.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Some preparation, no schedule of homework.

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Materials provided by instructor

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed continually. Attendance is mandatory.

Classwork 40%

Presentation and Written Work 40%

Final Test/Interview 20%

【学生の意見等からの気づき】

まだアンケート結果が出ていないため、コメントできなかった。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

【関連科目】

ビジネス英語 I/II (初級)

英語オーラル・コミュニケーション I/II

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

メールアドレスは Web 掲示板でお知らせします。

【Outline (in English)】

This is a course for students who already have some speaking ability. It is a practical course in which the sole classroom language is English.

LAN200FA

ビジネス英語Ⅱ（中級）

ジョナサン・エイブル

グローバル・ビジネス/GBP 科目選択_外国語経営学科目 2～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 初級、中級の同時履修はできません。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネス英語（中級）

This is a course for students who already have some speaking ability. It is a practical course in which the sole classroom language is English.

【到達目標】

Confident communication

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

Using the textbook as a basis we will build confidence through practical exercises, using English as it is used in a Business environment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction and review	Looking back at last semester and forward to the new ideas ahead.
第 2 回	Jobs	What we do now and how we do it. The practicalities of work.
第 3 回	People 1	Customers. How to deal with the public in a working environment.
第 4 回	people 2	Staff. How to talk to your colleagues both Junior and Senior.
第 5 回	Advertising 1	Images and slogans. The most communicative ideas.
第 6 回	Advertising Persentation	Campaigns. How to persuade others with effective English.
第 7 回	Markets	Who buys what from whom and why?
第 8 回	Companies 1	Describing companies and explaining their structure and history.
第 9 回	Companies 2	What company would you start? A group exercise in imaginative English.
第 10 回	Presentations 1	Preparation for group presentations
第 11 回	Presentations 2	Group presentations in class.
第 12 回	The Internet	Business on the net. The beauties and dangers of online commercial activity.
第 13 回	Diversity is good.	Why we should not be afraid of different business cultures.
第 14 回	Interviews	Grading process. Self-assessment and small group interviews.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Some preparation, no schedule of homework.

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Text book to be announced

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed continually. Attendance is mandatory.

Classwork 40%

Presentation and Written Work 40%

Final Test/Interview 20%

【学生の意見等からの気づき】

まだアンケート結果が出ていないため、コメントできなかった。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

【関連科目】

ビジネス英語Ⅰ/Ⅱ（初級）

英語オーラル・コミュニケーションⅠ/Ⅱ

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

メールアドレスは Web 掲示板でお知らせします。

【Outline (in English)】

This is a course for students who already have some speaking ability. It is a practical course in which the sole classroom language is English.

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

秋友 一広

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

【到達目標】

本授業終了後は下記の能力が備わる：

1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、パラフレーズの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する (中間、期末試験で理解度を確認)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらう。第一回目の授業で、「Your Career in Business」(教科書第 17 章 P655 - P684)、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う (例：経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケティング (含むグローバル展開)、物流、IT 他を含む) ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ者同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当ては、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	* 本授業の概要、進め方 * 講師による教科書の第 17 章 Your Career in Business の説明 * 一般企業の職能別組織説明
第 2 回	第 1 章 Understanding Economic Systems & Business 第 4 章 Forms of Business Ownership	* 講師による第 1 章と第 4 章の説明、Q & A, Discussion * チーム編成
第 3 回	第 14 章 Using Financial Information & Accounting と 第 16 章 Understanding Financial Management and Securities Market	* チームによる第 14 章、第 16 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第 4 回	第 6 章 Management and Leadership in Today's Organizations 第 2 章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	* チームによる第 6 章、第 2 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括

第 5 回	第 7 章 Designing Organizational Structures 第 8 章 Managing Human Resources and Labor Relations 第 9 章 Motivating Employees	* チームによる第 7 章、第 8 章、第 9 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第 6 回	第 7 章 Designing Organizational Structures 第 8 章 Managing Human Resources and Labor Relations 第 9 章 Motivating Employees	* 第 5 回からの継続：チームによる第 7 章、第 8 章、第 9 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第 7 回	第 11 章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers' Needs 第 12 章 Distributing and Promoting Products and Services	* チームによる第 11 章、第 12 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第 8 回	中間テスト / Mid-term exam	* テスト時間は 1 時間 * 残りの時間はディスカッション
第 9 回	第 3 章 Competing in the Global Marketplace 第 5 章 Entrepreneurship	* チームによる第 3 章、第 5 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第 10 回	第 10 章 Achieving World-Class Operations Management	* チームによる第 10 章の説明、Q & A, Discussion、 * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーションの方法について
第 11 回	第 13 章 Using Technology to Manage Information	* チームによる第 13 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 英語でのプレゼンテーションに使われる繋ぎの言い回し、表現について。
第 12 回	第 15 章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	* チームによる第 15 章、Appendix の説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第 13 回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	* 実際の MBA 授業で使われるケース・スタディーを使って議論してみる * 講師はファシリテータとして学生諸君の議論を深め、最後に総括を行う
第 14 回	期末テスト / Final Exam	* テスト時間は 1 時間 * コース全体の振り返りと Q & A

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容を MS パワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ 2 時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

【テキスト (教科書)】

Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

【参考書】

Principles of Management、OpenStax, Rice University.
Entrepreneurship, ibid.

【成績評価の方法と基準】

平常点 (グループワーク・プレゼンテーション含む) 20% - 遅刻は減点：毎回出席を確認し、3 回以上欠席した学生は単位取得不可。

中間テストの点数: 40%

期末テストの点数: 40%

【学生の意見等からの気づき】

今年度からの担当講師につき該当しない

【学生が準備すべき機器他】

教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードした PC を持参のこと

カメラ・マイク付き PC と高速インターネット（オンラインの場合）
MS Word, PPT, エクセル搭載の PC。

【その他の重要事項】

1. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中に Web 抽選を行う。
2. 早い段階で TOEIC を受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。
実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率 60 %）に 41 年勤務している。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算 11 年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として 6 年間ドイツに駐在した。2018 年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務している。

【関連科目】

無し。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide undergraduate freshman students majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management itself, as well as the external environment that influences it, by using a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management is of U.S. origin, making learning the basics of business administration in the English language a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities. Students will be asked to form teams and present in English the contents of each chapter of the textbook each week. Through active questioning and discussion with other teams, as well as seasoned guidance from the instructor's years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms that are essential for modern global business management. In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons who are not only equipped with logic and substance but also are able to effectively deliver presentations in English.

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

秋友 一広

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

【到達目標】

本授業終了後は下記の能力が備わる：

1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、パラフレーズの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する (中間、期末試験で理解度を確認)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらう。第一回目の授業で、「Your Career in Business」(教科書第 17 章 P655 - P684)、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う (例：経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケティング (含むグローバル展開)、物流、IT 他を含む) ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ者同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当ては、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	* 本授業の概要、進め方 * 講師による教科書の第 17 章 Your Career in Business の説明 * 一般企業の職能別組織説明
第 2 回	第 1 章 Understanding Economic Systems & Business 第 4 章 Forms of Business Ownership	* 講師による第 1 章と第 4 章の説明、Q & A, Discussion * チーム編成
第 3 回	第 14 章 Using Financial Information & Accounting と 第 16 章 Understanding Financial Management and Securities Market	* チームによる第 14 章、第 16 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第 4 回	第 6 章 Management and Leadership in Today's Organizations 第 2 章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	* チームによる第 6 章、第 2 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括

第 5 回	第 7 章 Designing Organizational Structures 第 8 章 Managing Human Resources and Labor Relations 第 9 章 Motivating Employees	* チームによる第 7 章、第 8 章、第 9 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第 6 回	第 7 章 Designing Organizational Structures 第 8 章 Managing Human Resources and Labor Relations 第 9 章 Motivating Employees	* 第 5 回からの継続：チームによる第 7 章、第 8 章、第 9 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第 7 回	第 11 章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers' Needs 第 12 章 Distributing and Promoting Products and Services	* チームによる第 11 章、第 12 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第 8 回	中間テスト / Mid-term exam	* テスト時間は 1 時間 * 残りの時間はディスカッション
第 9 回	第 3 章 Competing in the Global Marketplace 第 5 章 Entrepreneurship	* チームによる第 3 章、第 5 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括
第 10 回	第 10 章 Achieving World-Class Operations Management	* チームによる第 10 章の説明、Q & A, Discussion、 * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーションの方法について
第 11 回	第 13 章 Using Technology to Manage Information	* チームによる第 13 章の説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 英語でのプレゼンテーションに使われる繋ぎの言い回し、表現について。
第 12 回	第 15 章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	* チームによる第 15 章、Appendix の説明、Q & A, Discussion * 講師総括 * 効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第 13 回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	* 実際の MBA 授業で使われるケース・スタディーを使って議論してみる * 講師はファシリテータとして学生諸君の議論を深め、最後に総括を行う
第 14 回	期末テスト / Final Exam	* テスト時間は 1 時間 * コース全体の振り返りと Q & A

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容を MS パワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ 2 時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

【テキスト (教科書)】

Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

【参考書】

Principles of Management、OpenStax, Rice University.
Entrepreneurship, ibid.

【成績評価の方法と基準】

平常点 (グループワーク・プレゼンテーション含む) 20% - 遅刻は減点：毎回出席を確認し、3 回以上欠席した学生は単位取得不可。

中間テストの点数: 40%

期末テストの点数: 40%

【学生の意見等からの気づき】

今年度からの担当講師につき該当しない

【学生が準備すべき機器他】

教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードした PC を持参のこと

カメラ・マイク付き PC と高速インターネット（オンラインの場合）MS Word, PPT, エクセル搭載の PC。

【その他の重要事項】

1. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中に Web 抽選を行う。
2. 早い段階で TOEIC を受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率 60 %）に 41 年勤務している。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算 11 年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として 6 年間ドイツに駐在した。2018 年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務している。

【関連科目】

無し。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide undergraduate freshman students majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management itself, as well as the external environment that influences it, by using a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management is of U.S. origin, making learning the basics of business administration in the English language a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities. Students will be asked to form teams and present in English the contents of each chapter of the textbook each week. Through active questioning and discussion with other teams, as well as seasoned guidance from the instructor's years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms that are essential for modern global business management. In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons who are not only equipped with logic and substance but also are able to effectively deliver presentations in English.

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

川島 健司

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、英文の教材を用いて、会社の経営と決算書の読み方の基礎を学びます。まずは会社がどのように運営されているかをヒト・モノ・カネの視点から理解したうえで、その状況を表す貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書という 3 つの書類について学習します。授業では、実際の会社の決算書の分析も実践します。なお、教材は英語、授業は日本語で行います。以降は英語で記述します。

【到達目標】

Upon successful completion of the course, students should be able to:

- Analyze a company's financial statements
- Describe conclusions about profitability, efficiency, liquidity, and solvency
- Record basic debt-credit journal entries and prepare a set of financial statements

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- In case it is difficult to hold classes in the classroom due to COVID-19 or natural disasters, we will keep holding the classes using Zoom. The recorded lessons will be available until the end of the class.
- After the review, new topics are explained by the instructor, followed by group discussions and/or case analysis. Active participation is strongly recommended especially during discussions and analysis.
- Japanese company financial statements are used in case analysis.
- Questions and comments are welcomed at any time on the Zoom and Google Classroom.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week1	Introduction	- Basic concepts of accounting - The four financial statements
第 2 回	Basic concepts of financial statement	- Basic financial analysis ratios, - Accounting principles and standards
第 3 回	Balance sheet 1	- Assets - Liabilities - Shareholders' equity
Week4	Balance sheet 2	- Liquidity and solvency ratio - Trend and common-size analysis for balance sheet
Week5	Income statement 1	- Expenses - Revenue
Week6	Income statement 2	- Profitability ratio - Trend and common-size analysis for income statement
Week7	Intermediate exam	- Balance sheet - Income statement - Liquidity, solvency and profitability ratio
Week8	Statement of stockholders' equity 1	- Common and preferred stock - Par value and additional paid in capital
Week9	Statement of stockholders' equity 2	- Retain earnings - Treasury stock
Week10	Statement of cash flows 1	- Operating, investing and financing activities - Direct and indirect method for computing cash flow
Week11	Statement of cash flows 2	- Interpret cash flow - Trend and common-size analysis for cash flow
Week12	Inventory and property, plant and equipment 1	- Cash and cash equivalents - Account receivable
Week13	Inventory and property, plant and equipment 2	- Inventory - Property, plant, and equipment
Week14	Accounting cycle	- 10 steps of accounting cycle - Debt-Credit journal entries

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to spend an average of four hours preparing for this class, including answering assignments for each class.

- Readings and/or problems are assigned for each class. You should come to class prepared to discuss your analysis of the cases and its underlying problems. Regular class participation is critical to the learning process for both you and your classmates.
- Additional assignments will either be discussed in class or presented as additional cases for your benefit. I will disclose assignments for class discussion prior to their respective lectures.

【テキスト (教科書)】

Nothing in particular however, students are welcome to access topics concerning this course and its objectives in other related texts. The instructor is at liberty to provide further materials during the course of instruction.

【参考書】

Schoenebeck, K. P., & Holtzman, M. P. (2012). Interpreting and analyzing financial statements. Pearson Higher Ed.(6th Edition)

【成績評価の方法と基準】

Grades will be distributed according to the following weights:

Class Participation 30%

Midterm exam1 20%

Midterm exam2 20%

Final Exam 30%

【学生の意見等からの気づき】

I will cover less topics than last year to give more time to each to be covered.

【その他の重要事項】

Please note that if the number of students attending the first lesson significantly exceeds expectation, the number of students who are allowed to register for the course will be limited in order to effectively manage the class. For this reason, if you are planning to take this course, you need to attend the first lesson.

【Prerequisites】

None.

【Outline (in English)】

This course is designed to provide a basic understanding of accounting, including introductory accounting concepts, principles, and procedures. Specific attention will be devoted to the three financial statements and frameworks for understanding them, as well as ways in which to prepare financial data. Students will be expected to apply these skills to the analysis of real companies, and to interpret their respective financial statements accordingly. These cases will enable students to grasp the importance of accounting knowledge in the business world, to understand current events in terms of accounting measurements, and to communicate effectively with other professions.

This course uses English teaching materials, but will be conducted in Japanese.

The goals of this lecture are as follows.

(1) Acquire the ability to consider how each transaction should be accounted for using accounting vocabulary (concepts), and the ability to explain it to others.

(2) Understand Japanese accounting standards and the basic concepts necessary for reading IFRS (International Financial Reporting Standards).

(3) To acquire the ability to understand the intention of the financial statement preparers behind the accounting figures.

(4) Acquire the ability to infer the actual state of the company from financial statements.

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

Evaluate based on the following two points. Weights in parentheses. (1) Confirmation test for each lesson (50%)

(2) Composition for each assignment (50%): Students submit questions and impressions on the Google Form after each lesson. The descriptions will be anonymous and shared with all students.

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

北田 皓嗣

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では企業のサステナビリティ経営をテーマにします。近年、サステナビリティは経営戦略を考える上で、重要なキーワードになっています。投資家は ESG(Environmental, Social, Governance) の要素を、ますます投資評価に反映してきています。SDGs (Sustainable Development Goals) に貢献する事業を展開することで、新しいマーケットを開拓することもできます。ファッション誌でもエシカルをテーマとした特集が組まれることも多くなり、若い世代のターゲットとするアパレル企業を中心にエシカルブランドの展開され始めました。

ただし多くのトレンドはヨーロッパやアメリカから発信されるため、サステナビリティ経営を理解するためには英語で情報収集することが不可欠です。本講義では、各種団体の報告書、雑誌や新聞を題材にサステナビリティ経営について学んでいきます。

また本講義では Google 翻訳や DeepL, などの翻訳ツールや Chat GPT の積極的な利用を推奨しております。英語の文章を自力で読めることよりも、利用可能なツールを使って外国で議論されていることを知るの方がよほど重要だと考えています。英語が苦手であっても外国語で議論されていることを調べることができることを経験してもらいたいと考えています。

【到達目標】

学生は、本講義を通じて、サステナビリティ・イシューにアクセスするための媒体について理解するとともに、下記のトピックについて理解を深めます。

- ・サーキュラーエコノミー
- ・ESG 投資
- ・エシカルファッション
- ・ブランド・アカウントビリティ
- ・プラスチック
- ・フードロス
- ・再生可能エネルギー
- ・生物多様性

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎週、課題となる資料と課題を設定し、Hoppii に各自の意見を投稿してもらうとともに、担当者を割り当てて記事の要約をプレゼンテーションしてもらいます。

資料は多少、長めになることもありますが、DeepL などの翻訳ソフトを活用して、英語が必ずしも得意でない学生にも参加してもらえようになりたいと思っています。

授業への参加人数や、大学での授業とオンライン授業の比率にもよって、運営方法が変更になる場合もあります。

なお、このクラスは入門外国語経営学ですが、100 名規模の教室で実施するため履修しやすくなっています。

取り上げる題材については、ファッションや食品、日用雑貨など出来るだけ学生のみなさんなじみの深い企業活動を取り上げたいと思います。ただしサステナビリティ関連の話題は、エネルギーや素材産業など、しばしばなじみが薄く、技術的なトピックが多くなる傾向にあるため、一部はこれらの活動も取り上げます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	サステナビリティマネジメンツの基礎と概要	授業の進め方と、サステナビリティに関する概要を説明し、サステナビリティと QCD の関係について考えていきます。
第 2 回	エシカルファッション (過剰生産問題)	ファッション産業のサプライチェーンにおける過剰生産の問題について議論します。
第 3 回	エシカルファッション (サプライヤーの問題)	ファッション産業のサプライチェーンにおけるサプライヤーの問題について議論します。
第 4 回	エシカルファッション (人権問題)	ファッション産業のサプライチェーンにおける人権問題について議論します。
第 5 回	中間テスト 1	エシカルファッションに関連する内容の確認テストを実施します。
第 6 回	食の安全保障	食の安全保障について検討します。
第 7 回	食品の安全性	食品の安全性について検討します。
第 8 回	森林破壊	森林破壊問題の構造について検討します。

第 9 回 中間テスト 2

食料問題と森林破壊に関する確認テストを実施します。

第 10 回 気候変動問題

気候変動問題について検討します。

第 11 回 気候変動の経済性

気候変動の経済性について検討します。

第 12 回 ESG 投資

ESG 投資について検討します。

第 13 回 サーキュラーエコノミー

サーキュラーエコノミーとビジネスの関係について検討します。

第 14 回 期末テスト

気候変動、ESG、サーキュラーエコノミーに関連して確認テストを実施します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各 1-2 時間を標準とします。毎週、課題となるドキュメントが設定されます。それを読んで、Hoppii に自身の意見をまとめてレポートを提出してもらいます。

【テキスト (教科書)】

オンライン上で手に入る資料を利用するため、特に教科書は指定しません。

【参考書】

興味のある人は、下記の書籍がおすすめです。

梅田靖・21 世紀政策研究所 (編) (2021) 『サーキュラーエコノミー: 循環経済がビジネスを変える』 勁草書房。

夫馬賢治 (2020) 『データでわかる 2030 年 地球のすがた』 日本経済新聞社。

夫馬賢治 (2020) 『ESG 思考 激変資本主義 1990-2020』 経営者も投資家もここまで変わった』 講談社+α 新書。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート (40%: 4 ポイント × 10 回)

確認テスト (60%: 20 ポイント × 3 回)

※受講者の人数に応じて、変更する可能性があります。その場合には 2 回目の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

履修を希望する学生は、初回の授業までに Hoppii に登録して、適宜、情報を確認するようにしてください。

【その他の重要事項】

教室の収容人数を超える履修希望者がいる場合には、初回の授業で選抜を行います。その場合には、初回のみオンラインで実施する可能性があります。

【関連科目】

特にありません。

【Outline (in English)】

The theme of this class is corporate sustainability management. In recent years, sustainability has become an important keyword in business strategy. Investors are increasingly reflecting ESG (Environmental, Social, Governance) factors in their investment evaluation. By creating businesses that contribute to the SDGs (Sustainable Development Goals), we can open up new markets. Ethical brands have started to be introduced mainly by companies targeting the younger generation, as fashion magazines often feature these themes.

However, since most of the trends come from Europe and the United States, it is essential to collect information in English in order to understand sustainability management. In this lecture, we will learn about sustainability management using reports from various organizations, magazines, and newspapers.

- Each week, you will be assigned a document. You will be required to read it and post your opinion on the online board.

- Quiz (60%), Report (40%)

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

北田 皓嗣

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では企業のサステナビリティ経営をテーマにします。近年、サステナビリティは経営戦略を考える上で、重要なキーワードになっています。投資家は ESG(Environmental, Social, Governance) の要素を、ますます投資評価に反映してきています。SDGs (Sustainable Development Goals) に貢献する事業を展開することで、新しいマーケットを開拓することもできます。ファッション誌でもエシカルをテーマとした特集が組まれることも多くなり、若い世代のターゲットとするアパレル企業を中心にエシカルブランドの展開され始めました。

ただし多くのトレンドはヨーロッパやアメリカから発信されるため、サステナビリティ経営を理解するためには英語で情報収集することが不可欠です。本講義では、各種団体の報告書、雑誌や新聞を題材にサステナビリティ経営について学んでいきます。

また本講義では Google 翻訳や DeepL, などの翻訳ツールや Chat GPT の積極的な利用を推奨しております。英語の文章を自力で読めることよりも、利用可能なツールを使って外国で議論されていることを知るの方がよほど重要だと考えています。英語が苦手であっても外国語で議論されていることを調べることができることを経験してもらいたいと考えています。

【到達目標】

学生は、本講義を通じて、サステナビリティ・イシューにアクセスするための媒体について理解するとともに、下記のトピックについて理解を深めます。

- ・サーキュラーエコノミー
- ・ESG 投資
- ・エシカルファッション
- ・ブランド・アカウンタビリティ
- ・プラスチック
- ・フードロス
- ・再生可能エネルギー
- ・生物多様性

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎週、課題となる資料と課題を設定し、Hoppii に各自の意見を投稿してもらうとともに、担当者を割り当てて記事の要約をプレゼンテーションしてもらいます。

資料は多少、長めになることもありますが、DeepL などの翻訳ソフトを活用して、英語が必ずしも得意でない学生にも参加してもらえようになりたいと思っています。

授業への参加人数や、大学での授業とオンライン授業の比率にもよって、運営方法が変更になる場合もあります。

なお、このクラスは入門外国語経営学ですが、100 名規模の教室で実施するため履修しやすくなっています。

取り上げる題材については、ファッションや食品、日用雑貨など出来るだけ学生のみなさんなじみの深い企業活動を取り上げたいと思います。ただしサステナビリティ関連の話題は、エネルギーや素材産業など、しばしばなじみが薄く、技術的なトピックが多くなる傾向にあるため、一部はこれらの活動も取り上げます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	サステナビリティマネジメンツの基礎と概要	授業の進め方と、サステナビリティに関する概要を説明し、サステナビリティと QCD の関係について考えていきます。
第 2 回	エシカルファッション (過剰生産問題)	ファッション産業のサプライチェーンにおける過剰生産の問題について議論します。
第 3 回	エシカルファッション (サプライヤーの問題)	ファッション産業のサプライチェーンにおけるサプライヤーの問題について議論します。
第 4 回	エシカルファッション (人権問題)	ファッション産業のサプライチェーンにおける人権問題について議論します。
第 5 回	中間テスト 1	エシカルファッションに関連する内容の確認テストを実施します。
第 6 回	食の安全保障	食の安全保障について検討します。
第 7 回	食品の安全性	食品の安全性について検討します。
第 8 回	森林破壊	森林破壊問題の構造について検討します。

第 9 回 中間テスト 2

食料問題と森林破壊に関する確認テストを実施します。

第 10 回 気候変動問題

気候変動問題について検討します。

第 11 回 気候変動の経済性

気候変動の経済性について検討します。

第 12 回 ESG 投資

ESG 投資について検討します。

第 13 回 サーキュラーエコノミー

サーキュラーエコノミーとビジネスの関係について検討します。

第 14 回 期末テスト

気候変動、ESG、サーキュラーエコノミーに関連して確認テストを実施します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各 1-2 時間を標準とします。毎週、課題となるドキュメントが設定されます。それを読んで、Hoppii に自身の意見をまとめてレポートを提出してもらいます。

【テキスト (教科書)】

オンライン上で手に入る資料を利用するため、特に教科書は指定しません。

【参考書】

興味のある人は、下記の書籍がおすすめです。

梅田靖・21 世紀政策研究所 (編) (2021) 『サーキュラーエコノミー: 循環経済がビジネスを変える』 勁草書房。

夫馬賢治 (2020) 『データでわかる 2030 年 地球のすがた』 日本経済新聞社。
夫馬賢治 (2020) 『ESG 思考 激変資本主義 1990-2020』 経営者も投資家もここまで変わった』 講談社+α 新書。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート (40%: 4 ポイント × 10 回)

確認テスト (60%: 20 ポイント × 3 回)

※受講者の人数に応じて、変更する可能性があります。その場合には 2 回目の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

履修を希望する学生は、初回の授業までに Hoppii に登録して、適宜、情報を確認するようにしてください。

【その他の重要事項】

教室の収容人数を超える履修希望者がいる場合には、初回の授業で選抜を行います。その場合には、初回のみオンラインで実施する可能性があります。

【関連科目】

特にありません。

【Outline (in English)】

The theme of this class is corporate sustainability management. In recent years, sustainability has become an important keyword in business strategy. Investors are increasingly reflecting ESG (Environmental, Social, Governance) factors in their investment evaluation. By creating businesses that contribute to the SDGs (Sustainable Development Goals), we can open up new markets. Ethical brands have started to be introduced mainly by companies targeting the younger generation, as fashion magazines often feature these themes.

However, since most of the trends come from Europe and the United States, it is essential to collect information in English in order to understand sustainability management. In this lecture, we will learn about sustainability management using reports from various organizations, magazines, and newspapers.

- Each week, you will be assigned a document. You will be required to read it and post your opinion on the online board.

- Quiz (60%), Report (40%)

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

高橋 理香

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経済・経営に関する時事的なトピックを中心にとりあげて英語のリーディングやリスニングのスキルアップを目指すとともに、トピックの背景にある経済学・経営学概念・知識・考え方を学びます。

【到達目標】

- ①英語に慣れて聞き取りのポイントをつかめる。
- ②英語の記事を辞書無しで読み、逐次訳することなく英語のまま概要をつかめる。
- ③英文の構成やパラグラフの役割を理解した上で、読解力と論述力を高める。
- ④現実の経済・経営に対する理解と関心を深める。
- ⑤ディスカッションを通じて、他の履修者とのコミュニケーション力を高める。英語「を」学ぶことから、英語「で」学ぶことが出来るようになるまでのきつかけをつかむことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

第 2 週目以降、以下の 3 つの内容をローテーションで行います。
 ・リスニング：リスニング教材を使って、英語のニュースの聞き取り訓練を行います。聞き取り後に関連するクイズを行うこともあります。その後、トピックに関連するテーマに対してグループディスカッションを行います。
 ・リーディング：教員の選んだ英字新聞の記事や英語の文献をその場で読んで理解します。その後、記事に関連するテーマに対してグループディスカッションを行います。
 ・レポート：英字新聞の記事に関するレポートを作成します。レポートでは、各自が記事を選び、その記事を読んで理解した上で、記事に関連する内容の調査と分析を行います。レポートでは、ディスカッションテーマも執筆者に書いてもらいます。授業時には、提出されたレポートの内容を発表してもらいます。さらに、最後に、発表者の挙げたディスカッションテーマに従って、グループディスカッションを行います。レポートは日本語または英語で作成してください。
 ※レポートの週はオンラインでの実施を予定しています。それ以外は対面授業を予定しています。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の概要を説明し、今後のスケジュールを決めます。
第 2 回	Listening 1	リスニング：スピードを落としてニュースの聞き取りを行います。
第 3 回	Reading 1	リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。辞書無しで大意をつかむ方法を学びます。
第 4 回	Writing Report and Presentation 1	レポート：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。記事の選び方について議論します。
第 5 回	Listening 2	リスニング：ニュースのキーワードの聞き取りを訓練します。
第 6 回	Reading 2	リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。文章の全体的な構成やパラグラフの役割について学びます。
第 7 回	Writing Report and Presentation 2	レポート：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。レポートの書き方について学びます。
第 8 回	Listening 3	リスニング：聞き取りにくい音やフレーズを見つけ、音読して確認します。
第 9 回	Reading 3	リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。長い英文を読む時のコツを学びます。
第 10 回	Writing Report and Presentation 3	レポート：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。発表の仕方について学びます。
第 11 回	Listening 4	リスニング：少しだけスピードアップしてニュースの聞き取り訓練を行います。

第 12 回	Reading 4	リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。Transition Words の役割を学びます。
第 13 回	Writing Report and Presentation 4	レポート：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。前回の授業で学んだ文章構成やパラグラフの構成について、自分で選んだ記事において確認します。
第 14 回	Conclusion	授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習は英字新聞のレポート作成です。復習は教員の用意したリスニングやリーディング教材に注力してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

とくに教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

参考文献については、初回の授業時に説明をします。授業で用いる英字新聞についても、初回の授業時に説明します。

【成績評価の方法と基準】

英字新聞のレポートと発表：40 %
 グループディスカッション：30 %
 授業への積極的な参加：30 %
 授業に対する姿勢や上記の項目を総合的に判断して評価します。欠席は成績評価を大きく下げます。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の皆さんの理解度や希望をなるべく反映して授業を進めたいと考えています。少人数クラスの利点を活かし、クラスでのグループディスカッションの機会をなるべく多く設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン (Zoom) で授業を行うことがあります。その際には、ビデオオン・音声オフを基本として参加してもらいます。資料の配布やレポート提出の際に学習支援システムを使います。ワード・エクセル・パワーポイントや、インターネットを使ったデータ収集を行うことがあります。また、履修者には法政大学のアカウントを使って Financial Times の登録を行っていただきます。機器の使い方や登録方法については、初回授業で説明します。

【その他の重要事項】

初回の授業時に、授業の概要や 2 回目以降のスケジュールと課題についてお話ししますので、興味のある方は、初回の授業に必ず出席して下さい。この授業に関連する科目は、英語の授業全般、経営学部の専門科目全般です。また、受講者多数の場合は、初回授業で選考を行います。

【Outline (in English)】

This class aims to brush up reading and listening skills in English and understand the concepts, knowledge and thinking of economics and business administration, focusing on world news related to economics and business.

In this class, three trainings, listening, reading, and writing short reports, will be conducted four times each. In listening, students will practice listening to news at a slow speed. In reading, students will quickly read newspaper articles written in English prepared by the instructor and participate in group discussions according to the themes provided by the instructor. In writing report, students will choose a newspaper article written in English, read it, and submit a short report with respect to that article.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
 Short reports and presentation: 40 %,
 Group work in class: 30%,
 Contribution in class: 30%.

※ If the number of students exceeds expectations, the selection will be conducted. Please be sure to attend the first class meeting.

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

福多 裕志

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

[Challenges of Global Enterprises]

当授業では、いくつかの世界的企業を取り上げ、海外メディアの記事を通してビジネスへの取り組み方や動向を学習する。授業中の言語は、和訳を行う時間帯を除き、できうる限り英語としたい。In this class, we will cover some global companies and learn about business approaches and trends through articles in overseas media. Let us try to communicate in English during class.

【到達目標】

現在、どのような領域 (職場、職種、地域等) において活動するにせよ、英語の総合的運用力を求められることが多い。本授業が、受講者の英語による運用能力を向上させ、結果として長、短期の留学や各種検定試験の成功へと結びつくこと (英検準 1 級程度) を目指す。Currently, regardless of the field (workplace, occupation, region, etc.), it is often required to have comprehensive English proficiency. This course is designed to meet the objectives of those who wish to study abroad and the success of various examinations. This class also fits the needs of those who want the opportunity to discuss business and economic topics in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

指定教科書および配布プリントを使用し、日本語訳出、英語による発表・討論等を通し授業を進める。教科書の 1 章分をおよそ 3 回の授業で終了する。授業では日本語へ訳出する場合を除き、英語、日本語両言語を用いて行う予定である。We will try to use English during class except for the translation time. Students will be expected not only to acquire business vocabulary and expressions, but to discuss business topics from a variety of kinds of English media as well. Special emphasis will be given to communicative English skills necessary for active discussion.

【重要事項】

当コースは第 1 回目の授業を除き、原則として対面方式により開講します。第 1 回目の授業用 ZOOM ID は、授業開始日迄に当サイトの「お知らせ」に掲示します。

第 1 回目の授業において、授業定員を超える場合は、人数を調整するための試験等を行うこともありますので、履修を予定している方は必ず初回授業に出席してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Class Orientation	年間授業計画の説明および英文記事の訳出を行う (日・英両言語)。
第 2 回	Walmart (1)	Walmart - Business vocabulary and reading
第 3 回	Walmart (2)	Walmart - Reading comprehension
第 4 回	Walmart (3)	Walmart - Discussion
第 5 回	Presentation on Job Trends in the world (1)	Participants are expected to make an effective presentation on a company or industry.
第 6 回	Disney (1)	Disney - Business vocabulary and reading
第 7 回	Disney (2)	Disney - Reading comprehension
第 8 回	Disney (3)	Disney - Discussion
第 9 回	Presentation on Job Trends in the world (2)	Participants are expected to make an effective presentation.
第 10 回	General Electric (1)	General Electric - Business vocabulary and reading
第 11 回	General Electric (2)	General Electric - Reading comprehension
第 12 回	General Electric (3)	General Electric - Discussion
第 13 回	Presentation on Job Trends in the world (3)	Participants are expected to make an effective presentation on a company or industry.
第 14 回	In-class term exam	60-minute written test

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各英文記事の日本語訳出、英語によるグループディスカッションのための準備を毎回確実にを行うこと。学習支援システムに、随時、必要情報を掲載するので参照すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。Students are expected to make elaborate preparations for vocabulary, listening practice and discussion for each class at home to enhance their participation in classroom discussions. 2 hours of preparation time is expected.

【テキスト (教科書)】

Kayoko Shiomi, Kazumi Tsutada and Angus McGregor (2019). *Challenges of Global Enterprises*. Kinseido (金星堂). ¥2,100+tax

【参考書】

ビジネスや経済を扱う新聞、雑誌等の英語参考文献は数多い。必要に応じて学習支援システムに文献リストを掲載する。Pay attention, on a frequent basis, to the Learning Management System (LMS) that includes a reference list.

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、学期末筆記試験 70 % (原則的に筆記試験とするが、状況により口述試験) をもって評価する。Contributions to class activities(30%), in-class written or oral exam in some cases : No references available (70%)

【学生の意見等からの気づき】

The instructor encourages participants to express themselves clearly both in Japanese and English.

【学生が準備すべき機器他】

Feel free to use your PC in class.

【その他の重要事項】

学習支援システムを利用して授業関連情報を提供するので、同システムを積極的に活用すること。Class-related information is provided on the LMS. Feel relaxed, have fun and do your best while using English. 受講者多数の場合は、初回の授業において「何らかの試験」あるいは「抽選」を行う。

【関連科目】

経営学総論 I / II

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Participants in this class will learn how to approach business and trends covering several global enterprises in articles of foreign media.

[Learning Objectives]

Currently, regardless of the field (workplace, occupation, region, etc.), it is often required to have comprehensive English proficiency. This course is designed to meet the objectives of those who wish to study abroad and the success of various examinations. This class also fits the needs of those who want the opportunity to discuss business and economic topics in English.

[Grading Criteria]

Contributions to class activities (30%), in-class exam (70%)

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

福多 裕志

選択_外国語経営学科目 1~4 年次/2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

[Challenges of Global Enterprises]

当授業では、いくつかの世界的企業を取り上げ、海外メディアの記事を通してビジネスへの取り組み方や動向を学習する。授業中の言語は、和訳を行う時間帯を除き、できうる限り英語としたい。In this class, we will cover some global companies and learn about business approaches and trends through articles in overseas media. Let us try to communicate in English during class.

【到達目標】

現在、どのような領域(職場、職種、地域等)において活動するにせよ、英語の総合的運用力を求められることが多い。本授業が、受講者の英語による運用能力を向上させ、結果として長、短期の留学や各種検定試験の成功へと結びつくこと(英検準1級程度)を目指す。Currently, regardless of the field (workplace, occupation, region, etc.), it is often required to have comprehensive English proficiency. This course is designed to meet the objectives of those who wish to study abroad and the success of various examinations. This class also fits the needs of those who want the opportunity to discuss business and economic topics in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

指定教科書および配布プリントを使用し、日本語訳出、英語による発表・討論等を通し授業を進める。教科書の1章分をおよそ3回の授業で終了する。授業では日本語へ訳出する場合を除き、英語、日本語両言語を用いて行う予定である。We will try to use English during class except for the translation time. Students will be expected not only to acquire business vocabulary and expressions, but to discuss business topics from a variety of kinds of English media as well. Special emphasis will be given to communicative English skills necessary for active discussion.

【重要事項】

当コースは第1回目の授業を除き、原則として対面方式により開講します。第1回目の授業用 ZOOM ID は、授業開始日迄に当サイトの「お知らせ」に掲示します。

第1回目の授業において、授業定員を超える場合は、人数を調整するための試験等を行うこともありますので、履修を予定している方は必ず初回授業に出席してください。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Class Orientation	年間授業計画の説明および英文記事の訳出を行う(日・英両言語)。
第2回	Walmart (1)	Walmart - Business vocabulary and reading
第3回	Walmart (2)	Walmart - Reading comprehension
第4回	Walmart (3)	Walmart - Discussion
第5回	Presentation on Job Trends in the world (1)	Participants are expected to make an effective presentation on a company or industry.
第6回	Disney (1)	Disney - Business vocabulary and reading
第7回	Disney (2)	Disney - Reading comprehension
第8回	Disney (3)	Disney - Discussion
第9回	Presentation on Job Trends in the world (2)	Participants are expected to make an effective presentation.
第10回	General Electric (1)	General Electric - Business vocabulary and reading
第11回	General Electric (2)	General Electric - Reading comprehension
第12回	General Electric (3)	General Electric - Discussion
第13回	Presentation on Job Trends in the world (3)	Participants are expected to make an effective presentation on a company or industry.
第14回	In-class term exam	60-minute written test

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各英文記事の日本語訳出、英語によるグループディスカッションのための準備を毎回確実に行うこと。学習支援システムに、随時、必要情報を掲載するので参照すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。Students are expected to make elaborate preparations for vocabulary, listening practice and discussion for each class at home to enhance their participation in classroom discussions. 2 hours of preparation time is expected.

【テキスト(教科書)】

Kayoko Shiomi, Kazumi Tsutada and Angus McGregor (2019). *Challenges of Global Enterprises*. Kinseido(金星堂). ¥2,100+tax

【参考書】

ビジネスや経済を扱う新聞、雑誌等の英語参考文献は数多い。必要に応じて学習支援システムに文献リストを掲載する。Pay attention, on a frequent basis, to the Learning Management System (LMS) that includes a reference list.

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、学期末筆記試験70%(原則的に筆記試験とするが、状況により口述試験)をもって評価する。Contributions to class activities(30%), in-class written or oral exam in some cases : No references available (70%)

【学生の意見等からの気づき】

The instructor encourages participants to express themselves clearly both in Japanese and English.

【学生が準備すべき機器他】

Feel free to use your PC in class.

【その他の重要事項】

学習支援システムを利用して授業関連情報を提供するので、同システムを積極的に活用すること。Class-related information is provided on the LMS. Feel relaxed, have fun and do your best while using English. 受講者多数の場合は、初回の授業において「何らかの試験」あるいは「抽選」を行う。

【関連科目】

経営学総論 I/II

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Participants in this class will learn how to approach business and trends covering several global enterprises in articles of foreign media.

[Learning Objectives]

Currently, regardless of the field (workplace, occupation, region, etc.), it is often required to have comprehensive English proficiency. This course is designed to meet the objectives of those who wish to study abroad and the success of various examinations. This class also fits the needs of those who want the opportunity to discuss business and economic topics in English.

[Grading Criteria]

Contributions to class activities (30%), in-class exam (70%)

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

洞口 治夫

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

【はじめての英字新聞】

この科目では英字新聞を読むための教科書を使いながら、人と組織を対象とする経営学、経営戦略、マーケティング、知識創造、ファイナンス、会計の学習との関係を理解します。また実際の英字新聞記事にも触れていきます。この授業での重点は英文を読むこと (readings) にあります。良い発音で英語を読めるヒトはネイティブ・スピーカーの喋る英語も聞き取れるようになります。AI 翻訳の精度が高まり、英文和訳や和文英訳は人間の仕事から AI の仕事になりました。自分の声で英語を喋り、自分の耳で英語を聞く。自分の頭で英文を考え、自分の手で英文を書く、という作業が人間の作業として残されています。自動車のほうが人間よりも速く走ることがわかっていますが、人間は、マラソンでスピードを競い、駅伝でチームワークを競い、ジョギングを楽しみます。英語を学ぶ楽しさを知る科目にしたいと思います。

【到達目標】

- ①この科目では、きれいな発音で英語が読めるようになることを目標とします。きれいな発音とは、ネイティブ・スピーカーが聞いて理解できる水準での英語の発音という意味です。
- ②英語を聞き取る能力 (listening comprehension) を改善することも目標のひとつです。教科書の付属 CD を聞いたり、動画を見たり、音楽を聴いたりすることで、英語を楽しみながら聞き取る練習をします。
- ③英字新聞に登場する経営関連分野の英語でのキーワードを習得します。
- ④英字新聞を読むことで、経営学の専門的分野と実際の企業経営とのつながりを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ①この科目に参加する学生は、まず、事前に指定された教科書を読み、付属の CD を聞きます。②授業では教科書をすべて音読して理解に努め、発音練習をします。また CD も利用してシャドウイングによる音読の練習をします。③教科書の内容について必要な解説を行います。④ウェブ上のサイトにアクセスして動画を視聴します。YouTube 動画で音楽を聴き発音の確認をします。⑤プリント教材ないしウェブ上の文章によって追加的な説明をします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	科目の概要説明。英字新聞と見出し。	履修者がこの科目で学習する内容の概要を説明します。教科書 Lesson 1、Lesson 2 のシャドウイング。
第 2 回	リード (leading paragraph) の構成 スポーツ記事とスポーツビジネス	教科書 Lesson 3。 英字新聞をいくつか紹介し、そのサイトを閲覧し、動画を視聴します。教科書 Lesson 4。 スポーツ欄の記事を読み、動画を視聴し、その内容についてディスカッションします。
第 3 回	天気予報とビジネス	教科書 Lesson 5。 学生諸君が天気予報に関連するビジネスの例を探し、クラス内で紹介し、そのビジネスの将来性についてディスカッションします。
第 4 回	テレビ欄	教科書 Lesson 6。 新聞のサイトとテレビのサイトと同じニュースの扱われ方を比較します。
第 5 回	求人広告と人事労務管理	教科書 Lesson 7。 https://sg.indeed.com/ から、student part time をキーワードとして検索し、シンガポールでの学生アルバイトを探します。人事労務管理の内容についてディスカッションします。
第 6 回	教育改革	教科書 Lesson 8。 教育、政治、防衛、経済、金融の単語を確認します。
第 7 回	海外諸国の政治	教科書 Lesson 9。 海外の政治とビジネスとの関係を紹介する英語記事を読み、動画を視聴し、その内容について解説します。

第 8 回 コラム

教科書 Lesson 10。

コラムニストの記事を読み、動画を見ます。経営、産業、エネルギー、犯罪の単語を確認します。

第 9 回 ビジネス欄

教科書 Lesson 11。

ビジネスを紹介する記事と動画を視聴し、その内容についてディスカッションします。

第 10 回 株価とファイナンス

教科書 Lesson 12。

株価の仕組みを確認し、投資シミュレーションを行います。

第 11 回 ビジネスと株式市場

教科書 Lesson 11 および教科書

Lesson 12 の復習とキーコンセプトの確認をします。

第 12 回 社説

教科書 Lesson 13。

社説の内容についてまとめたレポートの作成をします。

第 13 回 会話と単語

教科書の復習をします。会話と単語の確認をします。

第 14 回 英字新聞の理解。授業内

筆記試験ないしレポート提出による授業内期末試験の実施。英字新聞の読解。

期末試験。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週の授業に備えて指定された教科書を音読して下さい。配布されたプリント、動画などの内容も確認して下さい。大学設置基準においては準備学習・復習にかけられるべき標準時間は 1 回の授業につき 4 時間です。

【テキスト (教科書)】

馬越恵美子著『NHK ラジオ「ものしり英語塾」はじめての英字新聞』株式会社 DHC、2007 年、1800 円 + 税。<生協の教科書販売に注文してあります。また、アマゾンあるいは DHC の通販サイトで注文すると 1 週間以内に届きます。新本には CD がついており授業で利用します。中古本を購入するときには CD が付いていることを確認してください。>

【参考書】

川崎芳人・久保田廣美他著『総合英語 エバーグリーン Evergreen』2017 年、(株)いずな書店、1520 円 + 税。
その他、授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業参加の積極性と平常点に対して 28%
- ②授業内の出席確認テスト・課題提出に対して 22%
- ③期末テスト (筆記試験ないしレポート課題) に対して 50%

【学生の意見等からの気づき】

24 名定員の少人数授業ですが、さらに 3~4 名程度の小グループに分けた英語学習活動には、学生諸君が積極的に取り組んでくれました。

【学生が準備すべき機器他】

授業内での出席確認テストに回答するために、学習支援システムにアクセスできるパソコンないしスマホ。英和・和英辞書 (電子辞書ないしスマホ)。

【その他の重要事項】

この授業は、海外の英語圏の国々に合計 1 か月以上滞在したことがなく、英字新聞をはじめ読む学生を対象としています。また、英文を読み、動画を視聴してその内容を理解したいと希望する学生を対象としています。履修希望者が一定数を超える場合には、第 1 回の授業でクイズ等を実施し、成績の高い順に履修を許可する予定です。その理由としては、この科目は、語学の授業という性格があるため、毎回の授業ですべての学生に発言等で直接的に授業に参加してもらうことを前提にして運営しているからです。2023 年度は春学期のみ科目開講です。春学期に履修できなかった学生諸君は、秋学期に他の先生方が開講する同名科目の履修希望が可能です。

【Outline (in English)】

【Reading English newspapers for the first time】

In this course, students will use a textbook for reading English newspapers, which will lead them to study business administration, business strategy, marketing, finance, and accounting. Students will also be exposed to actual English newspaper articles. With the increasing accuracy of machine translation such as Google Translate, English to Japanese and Japanese to English translation has gone from being a job for humans to being a job for AI. What is left for humans to do is to speak in English with our own voices, listen to English with our own ears, think English with our own minds, and write English with our own hands. Even though we know that cars run faster than humans, humans still compete in marathons for speed, relay races for teamwork, and enjoy jogging. The emphasis in this class is on reading English. Students who can read English with good pronunciation will be able to understand English spoken by native speakers.

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

川島 健司

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、英文の教材を用いて、会社の経営と決算書の読み方の基礎を学びます。まずは会社がどのように運営されているかをヒト・モノ・カネの視点から理解したうえで、その状況を表す貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書という 3 つの書類について学習します。授業では、実際の会社の決算書の分析も実践します。なお、教材は英語、授業は日本語で行います。以降は英語で記述します。

【到達目標】

Upon successful completion of the course, students should be able to:

- Analyze a company's financial statements
- Describe conclusions about profitability, efficiency, liquidity, and solvency
- Record basic debt-credit journal entries and prepare a set of financial statements

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- In case it is difficult to hold classes in the classroom due to COVID-19 or natural disasters, we will keep holding the classes using Zoom. The recorded lessons will be available until the end of the class.
- After the review, new topics are explained by the instructor, followed by group discussions and/or case analysis. Active participation is strongly recommended especially during discussions and analysis.
- Japanese company financial statements are used in case analysis.
- Questions and comments are welcomed at any time on the Zoom and Google Classroom.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week1	Introduction	- Basic concepts of accounting - The four financial statements
Week2	Basic concepts of financial statement	- Basic financial analysis ratios, - Accounting principles and standards
Week3	Balance sheet 1	- Assets - Liabilities - Shareholders' equity
Week4	Balance sheet 2	- Liquidity and solvency ratio - Trend and common-size analysis for balance sheet
Week5	Income statement 1	- Expenses - Revenue
Week6	Income statement 2	- Profitability ratio - Trend and common-size analysis for income statement
Week7	Intermediate exam	- Balance sheet - Income statement - Liquidity, solvency and profitability ratio
Week8	Statement of stockholders' equity 1	- Common and preferred stock - Par value and additional paid in capital
Week9	Statement of stockholders' equity 2	- Retain earnings - Treasury stock
Week10	Statement of cash flows 1	- Operating, investing and financing activities - Direct and indirect method for computing cash flow
Week11	Statement of cash flows 2	- Interpret cash flow - Trend and common-size analysis for cash flow
Week12	Inventory and property, plant and equipment 1	- Cash and cash equivalents - Account receivable
Week13	Inventory and property, plant and equipment 2	- Inventory - Property, plant, and equipment
Week14	Accounting cycle	- 10 steps of accounting cycle - Debt-Credit journal entries

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to spend an average of four hours preparing for this class, including answering assignments for each class.

- Readings and/or problems are assigned for each class. You should come to class prepared to discuss your analysis of the cases and its underlying problems. Regular class participation is critical to the learning process for both you and your classmates.
- Additional assignments will either be discussed in class or presented as additional cases for your benefit. I will disclose assignments for class discussion prior to their respective lectures.

【テキスト (教科書)】

Nothing in particular however, students are welcome to access topics concerning this course and its objectives in other related texts. The instructor is at liberty to provide further materials during the course of instruction.

【参考書】

Schoenebeck, K. P., & Holtzman, M. P. (2012). Interpreting and analyzing financial statements. Pearson Higher Ed.(6th Edition)

【成績評価の方法と基準】

Grades will be distributed according to the following weights:

- Class Participation 30%
- Midterm exam1 20%
- Midterm exam2 20%
- Final Exam 30%

【学生の意見等からの気づき】

I will cover less topics than last year to give more time to each to be covered.

【その他の重要事項】

Please note that if the number of students attending the first lesson significantly exceeds expectation, the number of students who are allowed to register for the course will be limited in order to effectively manage the class. For this reason, if you are planning to take this course, you need to attend the first lesson.

【Prerequisites】

None.

【Outline (in English)】

This course is designed to provide a basic understanding of accounting, including introductory accounting concepts, principles, and procedures. Specific attention will be devoted to the three financial statements and frameworks for understanding them, as well as ways in which to prepare financial data. Students will be expected to apply these skills to the analysis of real companies, and to interpret their respective financial statements accordingly. These cases will enable students to grasp the importance of accounting knowledge in the business world, to understand current events in terms of accounting measurements, and to communicate effectively with other professions.

This course uses English teaching materials, but will be conducted in Japanese.

The goals of this lecture are as follows.

- (1) Acquire the ability to consider how each transaction should be accounted for using accounting vocabulary (concepts), and the ability to explain it to others.
- (2) Understand Japanese accounting standards and the basic concepts necessary for reading IFRS (International Financial Reporting Standards).
- (3) To acquire the ability to understand the intention of the financial statement preparers behind the accounting figures.
- (4) Acquire the ability to infer the actual state of the company from financial statements.

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

Evaluate based on the following two points. Weights in parentheses. (1) Confirmation test for each lesson (50%)

(2) Composition for each assignment (50%): Students submit questions and impressions on the Google Form after each lesson. The descriptions will be anonymous and shared with all students.

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

片桐 満

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経済やビジネスに関する書物や記事は英語でしか存在しないことも多く、英語で学習したり情報収集したりできれば、見える世界が大きく広がります。このコースでは、経済学の初歩的な英語の教科書を用いて、経済学の基本的な考え方について英語で学び、経済やビジネスでよく用いられる英語の用語に慣れてもらいます。そのうえで、Financial Times や Wall Street Journal などの新聞記事を題材として、経済やビジネスに関する時事問題を英語で学びます。

【到達目標】

経済やビジネスに関する英語の記事や書物を独力で読み、理解できるようになることが到達目標です。Financial Times などのビジネス系の英字新聞は難しいように感じるかもしれませんが、用いられている用語や言い回しは意外に限られているほか、小説のように比喩的な表現が少ないため、努力して慣れれば理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎回、前半の 40 分は入門経済学の教科書に関する講義を行い、残りの 60 分は経済記事を題材として時事問題について英語で学びます。経済記事は、教科書でカバーした内容と関連ある記事のコピーを授業中に配布し、その場で参加者に読んでもらったのち、その内容や背景とともに重要な英語の用語や言い回しを解説します。例えば、トレードオフの概念について教科書で学んだのち、新型コロナウイルス感染拡大防止と経済活動の間のトレードオフに関する Financial Times の記事を読んでもらうなど、教科書で学んだ概念が、現実のビジネスでどの様に役立つのかという実務的な観点を重視します。初回以外は基本的に対面での授業を行い、学生に積極的に発言してもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと経済記事の解説 (オンデマンド方式)	初回は、授業の進め方を含むガイダンスをした後、経済記事を読みます。
第 2 回	教科書 (Principle 1)、経済記事の解説	教科書の Principle 1 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 3 回	教科書 (Principle 2)、経済記事の解説	教科書の Principle 2 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 4 回	教科書 (Principle 3)、経済記事の解説	教科書の Principle 3 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 5 回	教科書 (Principle 4)、経済記事の解説	教科書の Principle 4 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 6 回	教科書 (Principle 5)、経済記事の解説	教科書の Principle 5 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 7 回	中間試験	授業で取り上げた英語表現や、英語による経済学の理解度に関する問題を出题します。終了後解説を行います。
第 8 回	教科書 (Principle 6)、経済記事の解説	教科書の Principle 6 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 9 回	教科書 (Case study)、経済記事の解説	教科書の Case study を学び、関連する経済記事を読みます。
第 10 回	教科書 (Principle 7)、経済記事の解説	教科書の Principle 7 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 11 回	教科書 (Principle 8)、経済記事の解説	教科書の Principle 8 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 12 回	教科書 (Principle 9)、経済記事の解説	教科書の Principle 9 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 13 回	教科書 (Principle 10)、経済記事の解説	教科書の Principle 10 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 14 回	期末試験	授業で取り上げた英語表現や、英語による経済学の理解度に関する問題を出题します。終了後解説を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。予習として、教科書の該当箇所を一読し、分からない単語は辞書を引いて調べるとともに、内容がつかめない部分をあらかじめ特定しておくことが求められます。

【テキスト (教科書)】

テキストとして、N. Gregory Mankiw, "Principles of Macroeconomics" の 1 章を用います (図書館でコピー可能です)。授業で読む記事については、別途、授業中に配布します。

【参考書】

参考文献は特に指定しませんが、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する英語の記事や書物を読むよう心掛けてください。

【成績評価の方法と基準】

中間試験 (40%) と期末試験 (50%) のほか、授業中での発言 (10%) で評価します (ただし、発言を求めた際に出席していなかった場合は、大幅な減点対象とします)。

【学生の意見等からの気づき】

(1) 少人数制講義であるにもかかわらず発言の機会が少ない、という意見がありましたので、一方的にこちらが解説するのではなく、できるだけ各授業で一人一回は発言してもらいほか、グループでのディスカッションの機会を設けます。(2) 記事の内容について、ビジネスモデルなど経営に関するテーマが役に立ったというアンケート結果に基づき、経営に関する記事をより重点的に選ぶようにする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書を準備してください。紙の辞書でも構いませんが、持ち運びが大変ですので、電子辞書の活用をお勧めします。スマートフォンを持っている方は「英辞郎 on the WEB」の無料版アプリで十分です。

【その他の重要事項】

日本銀行や国際通貨基金 (IMF) において、金融の実務に 15 年程度かかわりました。そうした経験から、いかに経済理論を実務的な問題解決に役立てるかをグローバルな観点から伝えられればと思います。

【関連科目】

内容は「経済学入門」と関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

Since business or economic articles exist only in English in many cases, the ability to learn in English greatly expands your world. In this class, students study fundamental macroeconomics in English and get used to basic English words and expressions used often in economics or business. Then, students learn about economics or business issues in newspapers such as Financial Times and Wall Street Journal. The goal of this class is to be able to read English articles about the economy and business by yourself. Before the class, students are expected to read a textbook in advance and specify which part is difficult to understand. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The grades are based on (1) the final exam (50%), (2) the mid-term exam (40%), and (3) involvement in class discussions (10%).

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

岡本 慶子

選択_外国語経営学科目 1~4 年次/2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本語からだけでなく、英語からも情報を集められるようにし、集めた情報をもとに、理解を深め、さらに考え、自分の考えを理論的に述べることを学ぶ。そして、それを英語で話す、書くために、日本語と英語の違いを知って、考えることを繰り返し実践する。

【到達目標】

日本語と英語の違いを理解し、違う文化背景を持つ人たちのコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

このクラスは選抜となる可能性があります。初回授業はオンラインで行い、課題で選抜の予定です。2 回目以降の授業は対面を基本とします。毎回、リーディング、リスニング等の宿題があり、授業は学生さんからの質問に答える形で進めます。質問できるレベルまで自習してください。内容を理解した後、授業ではその情報をもとに、自分の考えをまとめグループでディスカッションします。ディスカッション、まとめは日本語で行いますが、英語の構文で考えます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction 対面・オンライン 選抜(予定)	Course overview Self Introduction
第 2 回	An Appreciation Asset vs A Depreciation Asset	A Letter from CEO of J.P Morgan to A Pretty Girl 「第 2 外国語としての英語」
第 3 回	Marketing: The Art and Science of Satisfying Customers 1	Vineyard Vines Markets the Good Life
第 4 回	Marketing: The Art and Science of Satisfying Customers 2	Vineyard Vines Markets the Good Life AI 翻訳
第 5 回	Marketing: The Art and Science of Satisfying Customers 2	"High Context vs Low Context"
第 6 回	Solving an Ethical Controversy 1	Banning Sugary Drinks
第 7 回	Solving an Ethical Controversy 2	Justify your ideas
第 8 回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 1	Pepsio Brands Target Different Markets
第 9 回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 2	PepsiCo vs Coca Cola
第 10 回	Global Marketing 1	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail?
第 11 回	Global Marketing 2	Video by Kellogg CEO
第 12 回	Kellogg Group Project 1	Kellogg Group Project
第 13 回	Kellogg Group Project 2	Kellogg Group Project Video recording 期末小レポート(日本語)
第 14 回	Final exam	wrap up Final exam

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業前々日の 23:59 までに授業支援システムで提出

宿題 1. 課題の予習、復習、グループワークの準備

宿題 2. 単語帳、質問

宿題 3. 数学の問題

宿題の詳細は、授業中に逐次説明します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特にありません。課題、ワークシート、参考ウェブリンク等は Hoppi で配布します。

【参考書】

Kurtz, David L. 2016. Contemporary Marketing. Boston. Cengage Learning.

Hitt, Michael A., Ireland R. Duane, and Hoskisson, Robert E. 2017. Strategic Management: Competitiveness & Globalization. Boston, Cengage Learning.

2 冊とも図書館蔵書

【成績評価の方法と基準】

授業への参加、予習、宿題の提出 40%

グループワークと個人ワーク(プレゼン、宿題含む) 40%

期末テスト、小レポート 20%

評価については初回授業で詳細に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

AI 翻訳のレベルが向上しているため活用を許可しましたが、頼りすぎてしまったという学生さんがいました。利用方法を検討する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

お知らせ、課題、宿題、資料配布等は Hoppi を利用します。

授業履修を考えている人は初回授業までに Hoppi に仮登録してください。

Hoppi で配布したもの、及び自分の宿題、予習、単語帳は授業中に参照できるようにご用意ください。

辞書または電子辞書は毎回授業に持参してください。

Google の辞書機能はお勧めしません。

【その他の重要事項】

授業定員が 30 名となりますので、選抜になる可能性が大きいです。履修希望者は秋学期開始日までに Hoppi に登録して、初回の ZOOM 授業に参加してください。(ZOOM アドレスは Hoppi でお知らせします)

(重要) 欠員を避けるため、選抜後に履修中止の可能性のある方は、選抜へ参加しないでください。

授業の課題、内容、テストの期日等は、授業の進捗によって変更になる場合があります。

【関連科目】

なし

【実務経験のある教員による授業】

アメリカ留学中にボランティアや NPO での活動経験があり、国内外のファッション業界で勤務経験を持つ教員の授業です。

英語が上手でも言いたいことが相手に通じるとは限りません。AI 翻訳機を使っても、頭の中が整理されていなければ、伝わる英語になりません。伝えるために、どうするか、それをどうやって身につけるか。いろいろ実践してみる授業を行います。

この授業を受けてもすぐに、英語を話せるようにも書けるようにもなりません。単語、文法、慣用表現の記憶や参考書、テスト対策アプリ、過去問以外の勉強方法を模索している方、受講してみませんか。

【Outline (in English)】

[Course outline] This class is designed for Japanese students to learn English as a second language. Students will learn English through marketing & strategic management materials and middle school mathematics.

[Learning objectives] The goal of this class is to learn how to think logically for English speaking and writing.

[Learning activities outside of class room] Students are required to study at home about two hours before the class and about 30 minutes after the class.

【Grading Criteria/Policy】

Class participation & homework/preparation - 40%

Group project & Individual works (including homework) - 40%

Final exam & essay - 20%

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

片桐 満

選択_外国語経営学科目 1~4 年次/2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経済やビジネスに関する書物や記事は英語でしか存在しないことも多く、英語で学習したり情報収集したりできれば、見える世界が大きく広がります。このコースでは、経済学の初歩的な英語の教科書を用いて、経済学の基本的な考え方について英語で学び、経済やビジネスでよく用いられる英語の用語に慣れてもらいます。そのうえで、Financial Times や Wall Street Journal などの新聞記事を題材として、経済やビジネスに関する時事問題を英語で学びます。

【到達目標】

経済やビジネスに関する英語の記事や書物を独力で読み、理解できるようになることが到達目標です。Financial Times などのビジネス系の英字新聞は難しいように感じるかもしれませんが、用いられている用語や言い回しは意外に限られているほか、小説のように比喩的な表現が少ないため、努力して慣れれば理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎回、前半の 40 分は入門経済学の教科書に関する講義を行い、残りの 60 分は経済記事を題材として時事問題について英語で学びます。経済記事は、教科書でカバーした内容と関連ある記事のコピーを授業中に配布し、その場で参加者に読んでもらったのち、その内容や背景とともに重要な英語の用語や言い回しを解説します。例えば、トレードオフの概念について教科書で学んだのち、新型コロナウイルス感染拡大防止と経済活動の間のトレードオフに関する Financial Times の記事を読んでもらうなど、教科書で学んだ概念が、現実のビジネスでどの様に役立つのかという実務的な観点を重視します。初回以外は基本的に対面での授業を行い、学生に積極的に発言してもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと経済記事の解説 (オンデマンド方式)	初回は、授業の進め方を含むガイダンスをした後、経済記事を読みます。
第 2 回	教科書 (Principle 1)、経済記事の解説	教科書の Principle 1 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 3 回	教科書 (Principle 2)、経済記事の解説	教科書の Principle 2 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 4 回	教科書 (Principle 3)、経済記事の解説	教科書の Principle 3 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 5 回	教科書 (Principle 4)、経済記事の解説	教科書の Principle 4 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 6 回	教科書 (Principle 5)、経済記事の解説	教科書の Principle 5 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 7 回	中間試験	授業で取り上げた英語表現や、英語による経済学の理解度に関する問題を出题します。終了後解説を行います。
第 8 回	教科書 (Principle 6)、経済記事の解説	教科書の Principle 6 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 9 回	教科書 (Case study)、経済記事の解説	教科書の Case study を学び、関連する経済記事を読みます。
第 10 回	教科書 (Principle 7)、経済記事の解説	教科書の Principle 7 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 11 回	教科書 (Principle 8)、経済記事の解説	教科書の Principle 8 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 12 回	教科書 (Principle 9)、経済記事の解説	教科書の Principle 9 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 13 回	教科書 (Principle 10)、経済記事の解説	教科書の Principle 10 を学び、関連する経済記事を読みます。
第 14 回	期末試験	授業で取り上げた英語表現や、英語による経済学の理解度に関する問題を出题します。終了後解説を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。予習として、教科書の該当箇所を一読し、分からない単語は辞書を引いて調べるとともに、内容がつかめない部分をあらかじめ特定しておくことが求められます。

【テキスト (教科書)】

テキストとして、N. Gregory Mankiw, "Principles of Macroeconomics" の 1 章を用います (図書館でコピー可能です)。授業で読む記事については、別途、授業中に配布します。

【参考書】

参考文献は特に指定しませんが、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する英語の記事や書物を読むよう心掛けてください。

【成績評価の方法と基準】

中間試験 (40%) と期末試験 (50%) のほか、授業中での発言 (10%) で評価します (ただし、発言を求めた際に出席していなかった場合は、大幅な減点対象とします)。

【学生の意見等からの気づき】

(1) 少人数制講義であるにもかかわらず発言の機会が少ない、という意見がありましたので、一方的にこちらが解説するのではなく、できるだけ各授業で一人一回は発言してもらうほか、グループでのディスカッションの機会を設けます。(2) 記事の内容について、ビジネスモデルなど経営に関するテーマが役に立ったというアンケート結果に基づき、経営に関する記事をより重点的に選ぶようにする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書を準備してください。紙の辞書でも構いませんが、持ち運びが大変ですので、電子辞書の活用をお勧めします。スマートフォンを持っている方は「英辞郎 on the WEB」の無料版アプリで十分です。

【その他の重要事項】

日本銀行や国際通貨基金 (IMF) において、金融の実務に 15 年程度かかわりました。そうした経験から、いかに経済理論を実務的な問題解決に役立てるかをグローバルな観点から伝えられればと思います。

【関連科目】

内容は「経済学入門」と関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

Since business or economic articles exist only in English in many cases, the ability to learn in English greatly expands your world. In this class, students study fundamental macroeconomics in English and get used to basic English words and expressions used often in economics or business. Then, students learn about economics or business issues in newspapers such as Financial Times and Wall Street Journal. The goal of this class is to be able to read English articles about the economy and business by yourself. Before the class, students are expected to read a textbook in advance and specify which part is difficult to understand. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The grades are based on (1) the final exam (50%), (2) the mid-term exam (40%), and (3) involvement in class discussions (10%).

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

依田 光広

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、世界の中核産業であり最近の変革が著しい自動車(モビリティ)産業とその中の注目企業を対象に、日本語での教師による講義資料、英語での宿題を使用し、クルマの CASE 戦略(つながるクルマ Connected、自動運転 Autonomous、シェアリング・サービス Shared & Service、電動車 Electric)の先端動向を学びます。同時に基礎レベルながら、実際にビジネスの現場や海外生活でも役立つ英語のリーディング、ヒアリング、スピーキング、そして日本語でのディスカッション能力の向上をはかります。こうした勉強を通じて、就活の際や社会人・教師になってからも役立つ知見やものの見方を習得することを目指します。

準備学習は、宿題が出された時の英語の資料や動画の日本語訳などです。復習は、講義資料と宿題のレビューです。評価は、各回の講義への出席、宿題、講義での発表などにより総合的に評価します。

【到達目標】

理解力：教師による日本語での CASE 戦略の講義を一定程度理解する。
読む力：日本語のビジネス文書・図表を正しく理解する。英語のビジネス文書を正しく理解し、要点を日本語で整理することを目指す。

聞く力：英語のニュース動画を大まかに把握し、日本語で整理する力を身につける。

書く力：授業で学習した内容をもとに日本語や英語のビジネス文書を作成することを目指す。

話す力：初級のビジネス英会話を実践する。

Comprehension ability: Students will understand to some extent the teacher's lecture on CASE strategy in Japanese.

Reading ability: You aim to understand Japanese business documents and business English correctly, and summarize the points in Japanese.

Listening ability: Students will acquire the ability to roughly grasp the explanation of English news videos and summarize the points in Japanese.

Writing ability: You aim to write Japanese and English business documents based on what you learn in the class.

Speaking ability: Students will acquire the skills of introductory English conversation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は、教師による日本語での CASE 戦略に関する講義(技術戦略も含む)を中心に実施します。宿題が与えられた時は、学生は講義前までに「課題」フォルダーに提出、講義では数名が英語で発表を行います。

講義資料や動画は Automotive News、教師執筆のレポート、専門研究者の論文、日本経済新聞、マークライズ社のデータベース、日経 XTech などから引用します。

第一回講義で、授業の進め方と評価などについてオリエンテーションを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。

In the class, the teacher gives lecture about "CASE" including technical strategy in Japanese. When homework is given, students have to upload it to an assignment folder and several students should present it in English in the class.

Materials and videos are quoted from Automotive News, reports written by the teacher or other researchers, Nikkei Newspaper, database of Marklines Co., Ltd, Nikkei XTech, etc.

In the first lecture, students will be given an orientation on the class, so please be sure to attend if you wish to take the class.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction & Lecture	授業の概要と進め方の説明 (Outline and objectives)、グローバル自動車市場 (Global Automotive Market) ← 任意
第 2 回	Electric (1)	電動車 (BEV 等) の Trend & Background
第 3 回	Electric (2)	対象企業：日 Nissan, Toyota
第 4 回	Electric (3)	対象企業：米 Tesla
第 5 回	Connected (1)	つながるクルマの Trend & Background

第 6 回	Connected (2)	対象企業：独 Daimler etc.
第 7 回	Autonomous (1)	自動運転の Trend & Background
第 8 回	Autonomous (2)	対象企業：米 Waymo(Google)
第 9 回	Autonomous (3)	対象企業：日 Tier IV
第 10 回	Field Work	訪問先：トヨタ自動車の施設 (Toyota Motor's facility)

第 11 回	Shared & Service (1)	シェアリング/サービス (MaaS) の Trend & Background
第 12 回	Shared & Service (2)	対象企業：米 Uber
第 13 回	Shared & Service (3)	対象企業：日 Toyota
第 14 回	Conclusion, Discussion	総括講義 Lecture、グループ討議 Group Discussion

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

準備学習は、宿題が出された時の英語の資料や動画の日本語訳などです。復習は、講義資料と宿題のレビューです。準備学習と復習の時間は各 2 時間を標準とします。

Preparatory study is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework. The standard time for preparatory study and review is two hours each.

【テキスト(教科書)】

講義資料は、教師がビジネスでの経験と調査研究を通じ独自に作成したものを使用します。

Lecture materials used in the class are written by the teacher.

【参考書】

木村将之 Masayuki Kimura 他 2 名『モビリティ X』(2022) 日経 BP 社 → 購入は任意
中西孝樹 Takaki Nakanishi (2018)『CASE 革命』日本経済新聞出版社 → 購入は任意

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点 (50%)、宿題の内容 (35%)、講義での発表と質疑 (15%) などにより総合的に評価します。

Comprehensive evaluation will be made based on in class contribution(50%), homework(35%) and presentation/Q&As(15%), etc.

【学生の意見等からの気づき】

最先端の CASE 戦略の動向を解説し、フィールドワークを充実します。学生の意見や希望を考慮したいと思いますので、学期内のいつでも積極的なフィードバックをお願いします。

I will explain trends in cutting-edge CASE strategies and enhance the fieldwork. I would like to consider opinions and wishes of all students, so give me your positive feedback anytime.

【学生が準備すべき機器他】

PC、Tablet、Smart Phone のいずれかを用意しておいてください。授業への持ち込みは自由です。

Get your PC, Tablet, or Smart Phone ready. Feel free to bring it to a class.

【その他の重要事項】

担当教師はトヨタ自動車 Toyota Motor Corp. (海外営業部門) ならびにトヨタ自動車子会社の国際経済研究所 (Instituted for International Economic Studies) での勤務経験を有します。研究所での専門分野は、Global 経営、自動車産業・企業、CASE 戦略、IoT 戦略 (Internet of Things)、コーポレートガバナンスなどです。現在は自社 Yoda Group Limited での調査研究を中心に、医療系サービス会社 Nihon Visca Co., Ltd. の相談役、自動車問題研究会の幹事、産官学団体 Robot Revolution & Industrial IoT Initiative の会員などを兼務しており、自らのビジネス経験や調査研究の成果を活かした授業を心がけます。

【関連科目】

None.

【Outline (in English)】

This class is aimed at studying the automobile (or mobility) industry, which is the core industry of the world and has been rapidly evolving recently, and its notable companies, using Japanese lecture materials and English homework. You can learn the advanced trends of CASE strategy (Connected, Autonomous, Shared & Service, Electric) and improve reading, listening and speaking skills in English, and discussion skills in Japanese. Getting in touch with the latest technologies and services of the automobile industry and English skills, you can deepen knowledge and thinking that will be useful during job seeking and after getting a job at a company or a teacher.

Preparatory learning is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework.

Comprehensive evaluation will be made based on n class contribution, homework, and presentation.

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

韓 載香

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界経済の発展とともに人と資本の移動は年々増加しています。経済的目的をもった人の移動は移動先において様々な経済機会やビジネスを生み出します。そこで、入門外国語購読では、人々の異動に伴って登場するエスニック・ビジネスに関連する英語の学術論文を題材にそれらの特徴とともに理解する枠組みを習得することを目指します。具体的に、第一に何故エスニック・ビジネスに注目するか注目して学問的意義について考えます。第二に、エスニック・ビジネスとは何かを事例に基づいてイメージづくりをします。第三に、それらの特徴を知り、適切な評価軸を得ます。第四に、ビジネスや産業構造の歴史的变化を通じてそれらの発展可能性を考察します。

【到達目標】

1. エスニック・ビジネスに注目する意義を説明することができる。
2. エスニック・ビジネスとは何かを説明することができる。
3. エスニック・ビジネスの特徴について解説することができる。
4. エスニック・ビジネスの長期的な発展の方向性について述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

参加者全員は、教員が提示する英語論文を読んで、質問を用意して授業で提出します。

参加者は、順番で各論文について報告をします。

授業では、報告者による発表を行い、(参加者の) 質問を中心に議論をしていきます。

最後に、教員から、論文に関する理論的な点について解説します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・エスニック・ビジネスとはなにか ・エスニック・ビジネスを英語で読む意義
第 2 回	エスニック・ビジネスのフレームワーク①	Muhammad Zubair, Jan Brzozowski, "Entrepreneurs from Recent Migrant Communities and Their Business Sustainability", <i>Sociologica</i> . V.12 N.2 (2018).
第 3 回	エスニック・ビジネスのフレームワーク②	Muhammad Zubair, Jan Brzozowski, "Entrepreneurs from Recent Migrant Communities and Their Business Sustainability", <i>Sociologica</i> . V.12 N.2 (2018).
第 4 回	エスニック・ビジネスのフレームワーク③	Thierry Volery, "Ethnic Entrepreneurship A Theoretical Framework" in <i>Handbook of Research on Ethnic Minority Entrepreneurship</i> edited by Léo-Paul Dana, 2007, Gloucester Edward Elgar.
第 5 回	アメリカにおけるラテン系民族のビジネスの特徴①	S. Andrew Starbird, Jill M. Martin Yacanex Posadas and Alma Gutierrez, "The Impact of Formality, Integration, and Commitment on the Performance of Latino-Owned Small Businesses", <i>Administrative Sciences</i> , 12(105), 2022.
第 6 回	アメリカにおけるラテン系民族のビジネスの特徴②	S. Andrew Starbird, Jill M. Martin Yacanex Posadas and Alma Gutierrez, "The Impact of Formality, Integration, and Commitment on the Performance of Latino-Owned Small Businesses", <i>Administrative Sciences</i> 12(105), 2022.
第 7 回	在日韓国・朝鮮人のビジネスの特徴	David Chapter, Soo im Lee, "Korean Minority Entrepreneurs in Japan" in <i>Handbook of Research on Ethnic Minority Entrepreneurship</i> edited by Léo-Paul Dana, 2007, Gloucester: Edward Elgar

第 8 回	エスニック・アントレプレナーシップ①	Lukman Raimi 1, Mirela Panait, Iza Gigauri and Simona Andreea Apostu, "Uncertainty, and Entrepreneurship Strategies of Transitional Entrepreneurship among Ethnic Minorities, Immigrants, and Women Entrepreneurs", <i>Journal of Risk and Financial Management</i> , 2023, 16: 83, https://doi.org/10.3390/jrfm16020083
第 9 回	エスニック・アントレプレナーシップ②	Md Mizanur Rahman, Ali A. Hadi Alshawi and Mehedi Hasan, "Entrepreneurship in Ethnic Enterprises: The Making of New Immigrant Businesses in New York", <i>Sustainability</i> , 2021, 13(20), https://doi.org/10.3390/su132011183
第 10 回	K-POP Businesses ①	Joseph Kim 1 and Seung-Ho Kwon, "K-Pop's Global Success and Its Innovative Production System", <i>Sustainability</i> , 14(17), 2022.
第 11 回	K-POP Businesses ②	Sustainability of the K-Pop Industry: A Structural Equation Model and Fuzzy Set Analysis", <i>Sustainability</i> , 13(11), 2021.
第 12 回	エスニック・ビジネスの展望①	Laura Helen Middermann, "Do Immigrant Entrepreneurs Have Natural Cognitive Advantages for International Entrepreneurial Activity?", <i>Sustainability</i> , 12(7), 2020.
第 13 回	エスニック・ビジネスの展望②	Laura Helen Middermann, "Do Immigrant Entrepreneurs Have Natural Cognitive Advantages for International Entrepreneurial Activity?", <i>Sustainability</i> , 12(7), 2020, Qingfan Wang, "Disparities and Divided Growth Ethnic Entrepreneurship in the Greater Los Angeles Area 1980-2015", <i>Growth and Change</i> , March 2018,
第 14 回	エスニック・ビジネスの展望③	Qingfan Wang, "Disparities and Divided Growth Ethnic Entrepreneurship in the Greater Los Angeles Area 1980-2015", <i>Growth and Change</i> , March 2018.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

参加の仕方：事前にテキストの該当内容を読み、疑問点をまとめて提出してください。

参加者は、取り上げる論文リストから担当する研究があてられ、授業で報告をします (初回にて担当論文を振り分けます)。

本授業の準備・復習時間は、各 5 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

(1)Md Mizanur Rahman, Ali A. Hadi Alshawi and Mehedi Hasan, "Entrepreneurship in Ethnic Enterprises: The Making of New Immigrant Businesses in New York", *Sustainability*, 13(20), 2021, <https://doi.org/10.3390/su132011183>

(2)Lukman Raimi 1, Mirela Panait, Iza Gigauri and Simona Andreea Apostu, "Uncertainty, and Entrepreneurship Strategies of Transitional Entrepreneurship among Ethnic Minorities, Immigrants, and Women Entrepreneurs", *Journal of Risk and Financial Management*, 16: 83, <https://doi.org/10.3390/jrfm16020083>, 2023.

(3)S. Andrew Starbird, Jill M. Martin Yacanex Posadas and Alma Gutierrez, "The Impact of Formality, Integration, and Commitment on the Performance of Latino-Owned Small Businesses", *Administrative Sciences* 12(105), 2022, <https://doi.org/10.3390/admsci12030105>

(4)Laura Helen Middermann, "Do Immigrant Entrepreneurs Have Natural Cognitive Advantages for International Entrepreneurial Activity?", *Sustainability*, 12(7), 2020, <http://dx.doi.org/10.3390/su12072791>

(5)Joseph Kim 1 and Seung-Ho Kwon, "K-Pop's Global Success and Its Innovative Production System", *Sustainability*, 14(17), 2022, <https://doi.org/10.3390/su141711101>

(6)Joon-ho Kim, Seung-hye Jung, Jung-sik Roh and Hyun-ju Choi, "Success Factors and Sustainability of the K-Pop Industry: A Structural Equation Model and Fuzzy Set Analysis", *Sustainability*, 13(11), 2021, <https://doi.org/10.3390/su13115927>

(7)Qingfan Wang, "Disparities and Divided Growth Ethnic Entrepreneurship in the Greater Los Angeles Area 1980-2015", *Growth and Change*, March 2018, <https://www.researchgate.net/publication/323802011>

(8)Muhammad Zubair, Jan Brzozowski, "Entrepreneurs from Recent Migrant Communities and Their Business Sustainability", *Sociologica*. V.12 N.2 (2018), <https://doi.org/10.6092/issn.1971-8853/8622>

(9)Thierry Volery, "Ethnic Entrepreneurship A Theoretical Framework" in *Handbook of Research on Ethnic Minority Entrepreneurship* edited by Léo-Paul Dana, 2007, Gloucester: Edward Elgar.

【参考書】

(1)Léo-Paul Dana ed. *Handbook of Research on Ethnic Minority Entrepreneurship*. Gloucester: Edward Elgar. 2007.

【成績評価の方法と基準】

報告 (60 %)

疑問点提示など、議論への参加度 (40 %)

【学生の意見等からの気づき】

報告、論点提示、意見交換など、全員参加の機会を充実化し、評価基準を明確にします。

【関連科目】

None.

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to acquire basic and systematic knowledge about business history. On one hand the business history emphasizes diversity, but on the other hand it should be understood from the perspective of dynamism by farm's activities that changes sometimes its environment interacting constantly with the market, the structure within the organization and its direction that can be seen in common across regions and fields. I will cover various contents in this course such as companies, organizations, entrepreneurs, technologies, industries, and systems. Specifically, I will focus on Western and Japanese companies from the 19th century to the 20th century, the environment surrounding them, the systems. You will understand the principles that can be seen through the diversity of organizational structures. In addition, I will capture notable transforms that have changed the order of the market and consider why they happened, how they developed, and what impacts they had.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do following:

To explain the meaning of why we should focus on ethnic businesses.

To explain what ethnic businesses are.

To explain what the characteristics of ethnic businesses.

To explain the changes in the industrial structure of ethnic businesses and its directions.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend a few hours to read the textbook. Students are expected to suggest points at issue to discuss regarding the textbook in class. Students should prepare to do a presentation related to the textbook in class.

【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be calculated according to the following process.

- ・ In-class contribution (discussion etc.) 40 percent (participation in the class including question submission)
- ・ Presentation regarding the textbook 60 percent

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

依田 光広

選択_外国語経営学科目 1~4 年次/2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、世界の中核産業であり最近の変革が著しい自動車(モビリティ)産業とその中の注目企業を対象に、日本語での教師による講義資料、英語での宿題を使用し、クルマの CASE 戦略(つながるクルマ Connected、自動運転 Autonomous、シェアリング・サービス Shared & Service、電動車 Electric)の先端動向を学びます。同時に基礎レベルながら、実際にビジネスの現場や海外生活でも役立つ英語のリーディング、ヒアリング、スピーキング、そして日本語でのディスカッション能力の向上をはかります。こうした勉強を通じて、就活の際や社会人・教師になってからも役立つ知見やものの見方を習得することを目指します。

準備学習は、宿題が出された時の英語の資料や動画の日本語訳などです。復習は、講義資料と宿題のレビューです。

評価は、各回の講義への出席、宿題、講義での発表などにより総合的に評価します。

【到達目標】

理解力：教師による日本語での CASE 戦略の講義を一定程度理解する。

読む力：日本語のビジネス文書・図表を正しく理解する。英語のビジネス文書を正しく理解し、要点を日本語で整理することを目指す。

聞く力：英語のニュース動画を大まかに把握し、日本語で整理する力を身につける。

書く力：授業で学習した内容をもとに日本語や英語のビジネス文書を作成することを目指す。

話す力：初級のビジネス英会話を実践する。

Comprehension ability: Students will understand to some extent the teacher's lecture on CASE strategy in Japanese.

Reading ability: You aim to understand Japanese business documents and business English correctly, and summarize the points in Japanese.

Listening ability: Students will acquire the ability to roughly grasp the explanation of English news videos and summarize the points in Japanese.

Writing ability: You aim to write Japanese and English business documents based on what you learn in the class.

Speaking ability: Students will acquire the skills of introductory English conversation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は、教師による日本語での CASE 戦略に関する講義(技術戦略も含む)を中心に実施します。宿題が与えられた時は、学生は講義前までに「課題」フォルダーに提出、講義では数名が英語で発表を行います。

講義資料や動画は Automotive News、教師執筆のレポート、専門研究者の論文、日本経済新聞、マークライズ社のデータベース、日経 XTech などから引用します。

第一回講義で、授業の進め方と評価などについてオリエンテーションを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。

In the class, the teacher gives lecture about "CASE" including technical strategy in Japanese. When homework is given, students have to upload it to an assignment folder and several students should present it in English in the class.

Materials and videos are quoted from Automotive News, reports written by the teacher or other researchers, Nikkei Newspaper, database of Marklines Co., Ltd, Nikkei XTech, etc.

In the first lecture, students will be given an orientation on the class, so please be sure to attend if you wish to take the class.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction & Lecture	授業の概要と進め方の説明(Outline and objectives)、グローバル自動車市場(Global Automotive Market) ← 任意
第 2 回	Electric (1)	電動車(BEV等)の Trend & Background
第 3 回	Electric (2)	対象企業：日 Nissan, Toyota
第 4 回	Electric (3)	対象企業：米 Tesla
第 5 回	Connected (1)	つながるクルマの Trend & Background

第 6 回	Connected (2)	対象企業：独 Daimler etc.
第 7 回	Autonomous (1)	自動運転の Trend & Background
第 8 回	Autonomous (2)	対象企業：米 Waymo(Google)
第 9 回	Autonomous (3)	対象企業：日 Tier IV
第 10 回	Field Work	訪問先：トヨタ自動車の施設 (Toyota Motor's facility)

第 11 回	Shared & Service (1)	シェアリング/サービス (MaaS) の Trend & Background
第 12 回	Shared & Service (2)	対象企業：米 Uber
第 13 回	Shared & Service (3)	対象企業：日 Toyota
第 14 回	Conclusion, Discussion	総括講義 Lecture、グループ討議 Group Discussion

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

準備学習は、宿題が出された時の英語の資料や動画の日本語訳などです。復習は、講義資料と宿題のレビューです。準備学習と復習の時間は各 2 時間を標準とします。

Preparatory study is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework. The standard time for preparatory study and review is two hours each.

【テキスト(教科書)】

講義資料は、教師がビジネスでの経験と調査研究を通じ独自に作成したものを使用します。

Lecture materials used in the class are written by the teacher.

【参考書】

木村将之 Masayuki Kimura 他 2 名『モビリティ X』(2022) 日経 BP 社 → 購入は任意
中西孝樹 Takaki Nakanishi (2018)『CASE 革命』日本経済新聞出版社 → 購入は任意

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点(50%)、宿題の内容(35%)、講義での発表と質疑(15%)などにより総合的に評価します。

Comprehensive evaluation will be made based on in class contribution(50%), homework(35%) and presentation/Q&As(15%), etc.

【学生の意見等からの気づき】

最先端の CASE 戦略の動向を解説し、フィールドワークを充実します。学生の意見や希望を考慮したいと思いますので、学期内のいつでも積極的なフィードバックをお願いします。

I will explain trends in cutting-edge CASE strategies and enhance the fieldwork. I would like to consider opinions and wishes of all students, so give me your positive feedback anytime.

【学生が準備すべき機器他】

PC、Tablet、Smart Phone のいずれかを留意しておいてください。授業への持ち込みは自由です。

Get your PC, Tablet, or Smart Phone ready. Feel free to bring it to a class.

【その他の重要事項】

担当教師はトヨタ自動車 Toyota Motor Corp. (海外営業部門)ならびにトヨタ自動車子会社の国際経済研究所 (Instituted for International Economic Studies)での勤務経験を有します。研究所での専門分野は、Global 経営、自動車産業・企業、CASE 戦略、IoT 戦略 (Internet of Things)、コーポレートガバナンスなどです。現在は自社 Yoda Group Limited での調査研究を中心に、医療系サービス会社 Nihon Visca Co., Ltd. の相談役、自動車問題研究会の幹事、産官学団体 Robot Revolution & Industrial IoT Initiative の会員などを兼務しており、自らのビジネス経験や調査研究の成果を活かした授業を心がけます。

【関連科目】

None.

【Outline (in English)】

This class is aimed at studying the automobile (or mobility) industry, which is the core industry of the world and has been rapidly evolving recently, and its notable companies, using Japanese lecture materials and English homework. You can learn the advanced trends of CASE strategy (Connected, Autonomous, Shared & Service, Electric) and improve reading, listening and speaking skills in English, and discussion skills in Japanese. Getting in touch with the latest technologies and services of the automobile industry and English skills, you can deepen knowledge and thinking that will be useful during job seeking and after getting a job at a company or a teacher.

Preparatory learning is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework.

Comprehensive evaluation will be made based on n class contribution, homework, and presentation.

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

荻原 啓佑

選択_外国語経営学科 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業の目的は、原価計算に関する基礎的な知識を身につけることです。製造業のビジネスを理解する上で原価計算に関する知識は、必要不可欠なものとなっています。この授業では、英語で書かれた入門書を読むことで、原価計算とはどのようなものかを理解してもらいます。会計を習ったことのない学生も歓迎します。

【到達目標】

- (1)原価計算の役割を説明できること。
- (2)代表的な原価計算手法を理解すること。
- (3)自分で単語や熟語を調べ、専門的な内容を含む英文を日本語訳できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、次のような順番で進めていきます。

- ・(1)事前課題になっている単語リストの回答例を示します。
- ・(2)各回の課題 (授業後アンケート) に関するコメントを行います。
- ・(3)指定した箇所の日本語訳を学生に発表していただきます。
- ・(4)鍵となる用語や手法について講師が解説します。必要に応じて計算練習なども行います。
- ・(5)指定したテーマでグループごとに議論を行なっていただき、代表者に発表していただきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の概要と進め方を説明します。
第 2 回	A Very Brief Review of Accounting Basics	Accounting に関する基礎的な用語について学習します。
第 3 回	What is Cost Accounting?	Cost Accounting の目的について学習します。
第 4 回	The Flow of Costs in a Manufacturing Environment	製造業における inventory のフローについて学習します。
第 5 回	Classifying Costs: Fixed vs. Variable	Fixed cost、Variable cost について学習します。
第 6 回	Cost-Volume-Profit Analysis	Contribution Margin, Breakeven Analysis, Reaching a Target Operating Income について学習します。
第 7 回	A Hierarchy of Costs: Product and Period Costs (1)	Direct and Indirect Manufacturing Costs について学習します。
第 8 回	A Hierarchy of Costs: Product and Period Costs (2)	Direct Materials and Direct Labor, Indirect Manufacturing Costs, Conversion Costs について学習します。
第 9 回	Job Order Costing (1)	Job Order Costing の概要について学習します。
第 10 回	Job Order Costing (2)	Job Order Costing の Journal Entries について学習します。
第 11 回	Process Costing (1)	Process Costing の概要について学習します。
第 12 回	Process Costing (2)	Process Costing の Journal Entries について学習します。
第 13 回	Activity-Based Costing	Activity-Based Costing の概要について学習します。
第 14 回	まとめ	2 回から 13 回までの授業で習った内容を振り返ります。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・準備学習 (授業前にやるべきこと) は、(1)指定された単語の日本語訳を調べて指定の期日までに提出すること、(2)授業までに指定された箇所を通読することです。
- ・復習 (授業後にやるべきこと) は、(1)授業で習った内容に関する簡単なアンケートに答えること、(2)授業で習った箇所を再度復習することです。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Piper, M. (2017). Cost Accounting Made Simple: Cost Accounting Explained in 100 Pages or Less (English Edition).

*ペーパーブック、kindle (電子書籍) どちらでも可。

【参考書】

講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 (10%)
- ・授業前課題・授業後課題 (40%)
- ・期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

- ・簡単な計算問題などを解く機会をなるべく設けます。
- ・学生同士で議論する機会を引き続き設けます。
- ・原価計算実務に関する研究結果などをなるべく紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

PC、タブレット、スマートフォン等、英単語を調べることができる機器

【その他の重要事項】

・担当講師は非常勤のため、質問等は授業の前後の時間またはアンケートを利用してください。

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this class is to acquire basic knowledge of cost accounting area - the one which matters for the understanding about manufacturing business-. Hence, this class helps students understand what cost accounting is like by reading an introductory textbook written in English. The students who have ever unlearned accounting will be also welcome.

【Goal】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) To be able to explain the role of cost accounting.
- (2) To be able to understand typical cost accounting methods.
- (3) To be able to translate English sentences containing technical terms into Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end report: 50%, Short reports: 40%, In-class contribution: 10%

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

檜野 智子

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語で書かれた教科書を使用しミクロ経済学の基礎を学びます。担当箇所のプレゼンテーションを行うことにより、より深く内容を理解することができ、さらにプレゼンテーションの技術も習得できます。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の基礎を身に付ける。
- ・テーマを与えられたときに、そのテーマの背景や問題点を要約でき、その内容を他者に伝えられる。
- ・求められたときに、いつでも自分の考えを述べることができる。
- ・英語で書かれた「初級レベルの経済学の教科書」を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- <授業の進め方と方法>
- ・対面授業を行います。
 - ・教科書の担当箇所について、パワーポイントを使用したプレゼンテーションをしてもらいます。
- <課題に対するフィードバック方法>
- ・プレゼンテーション実施時に、スライドや発表方法について講評します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	個人の最適化戦略	デシジョンツリー
第 2 回	個人の最適化戦略	現在価値
第 3 回	個人の最適化戦略	リスク
第 4 回	個人の最適化戦略	交換の利益
第 5 回	相互関係における最適化戦略	ゲーム理論
第 6 回	相互関係における最適化戦略	パレート効率性
第 7 回	相互関係における最適化戦略	囚人のジレンマ
第 8 回	相互関係における最適化戦略	オークション
第 9 回	相互関係における最適化戦略	競争市場
第 10 回	市場における最適化戦略	需要と供給
第 11 回	市場における最適化戦略	税金
第 12 回	市場における最適化戦略	限界効用
第 13 回	市場における最適化戦略	弾力性
第 14 回	市場における最適化戦略	競争のルール

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

教科書の内容を理解した上で要約し、パワーポイントのスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をしてください。本授業の準備学習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

『The Cartoon Introduction to Economics: Volume One: Microeconomics』
著者:Grady Klein,Yoram Bauman 出版社:Hill & Wang Pub 出版年:2010
(電子書籍あり <https://amzn.to/3dmv46T>)

【参考書】

『この世で一番おもしろいミクロ経済学』ヨラム・パウマン、グレディ・クライン、ダイヤモンド社、2011 年 (<https://bit.ly/3qMpnZO>)
『マンキュー経済学 I ミクロ編 第 4 版』N・グレゴリー・マンキュー、東洋経済新報社、2019 年 (電子書籍あり <https://bit.ly/315Zbfg>)

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションのスライド 50%
プレゼンテーション及び授業への参加度 50 %

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・この授業では、パワーポイントを使用します。授業開始までにパワーポイントを使用できる環境を整え、使えるようにしておいてください。
- ・この授業では「学習支援システム」を使用します。授業開始までに、本科目の自己登録を済ませておいてください。

・オンライン授業では Zoom を使用します。授業開始までに Zoom でパワーポイントの画面を共有しプレゼンテーションを行えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

- ・各回の授業形態は予定です。詳細は「学習支援システム」で通知します。
- ・「学習支援システム」で連絡した内容は、全ての受講者に伝わったものとして取り扱います。

【関連科目】

経済学入門

【Outline (in English)】

This lecture deals with the basics of microeconomics with a textbook written in English. Through presentations, you can learn deeply about the content and develop your presentation skills.

At the end of the course, students are expected to understand the basic theory of microeconomics and develop their presentation skills.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Materials for presentations:50%

In class contribution and presentations:50%

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

檜野 智子

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語で書かれた教科書を使用しミクロ経済学の基礎を学びます。担当箇所のプレゼンテーションを行うことにより、より深く内容を理解することができ、さらにプレゼンテーションの技術も習得できます。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の基礎を身に付ける。
- ・テーマを与えられたときに、そのテーマの背景や問題点を要約でき、その内容を他者に伝えられる。
- ・求められたときに、いつでも自分の考えを述べることができる。
- ・英語で書かれた「初級レベルの経済学の教科書」を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

＜授業の進め方と方法＞

- ・対面授業を行います。
- ・教科書の担当箇所について、パワーポイントを使用したプレゼンテーションをしてもらいます。

＜課題に対するフィードバック方法＞

- ・プレゼンテーション実施時に、スライドや発表方法について講評します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	個人の最適化戦略	デインジョンツリー
第 2 回	個人の最適化戦略	現在価値
第 3 回	個人の最適化戦略	リスク
第 4 回	個人の最適化戦略	交換の利益
第 5 回	相互関係における最適化戦略	ゲーム理論
第 6 回	相互関係における最適化戦略	バレート効率性
第 7 回	相互関係における最適化戦略	囚人のジレンマ
第 8 回	相互関係における最適化戦略	オークション
第 9 回	相互関係における最適化戦略	競争市場
第 10 回	市場における最適化戦略	需要と供給
第 11 回	市場における最適化戦略	税金
第 12 回	市場における最適化戦略	限界効用
第 13 回	市場における最適化戦略	弾力性
第 14 回	市場における最適化戦略	競争のルール

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書の内容を理解した上で要約し、パワーポイントのスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をしてください。本授業の準備学習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『The Cartoon Introduction to Economics: Volume One: Microeconomics』
著者:Grady Klein,Yoram Bauman 出版社:Hill & Wang Pub 出版年:2010
(電子書籍あり <https://amzn.to/3dmv46T>)

【参考書】

『この世で一番おもしろいミクロ経済学』ヨラム・パウマン、グレディ・クライン、ダイヤモンド社、2011 年 (<https://bit.ly/3qMpnZO>)
『マンキュー経済学 I ミクロ編 第 4 版』N・グレゴリー・マンキュー、東洋経済新報社、2019 年 (電子書籍あり <https://bit.ly/315Zbfg>)

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションのスライド 50%

プレゼンテーション及び授業への参加度 50 %

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・この授業では、パワーポイントを使用します。授業開始までにパワーポイントを使用できる環境を整え、使えるようにしておいてください。
- ・この授業では「学習支援システム」を使用します。授業開始までに、本科目の自己登録を済ませておいてください。

・オンライン授業では Zoom を使用します。授業開始までに Zoom でパワーポイントの画面を共有しプレゼンテーションを行えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

- ・各回の授業形態は予定です。詳細は「学習支援システム」で通知します。
- ・「学習支援システム」で連絡した内容は、全ての受講者に伝わったものとして取り扱います。

【関連科目】

経済学入門

【Outline (in English)】

This lecture deals with the basics of microeconomics with a textbook written in English. Through presentations, you can learn deeply about the content and develop your presentation skills.

At the end of the course, students are expected to understand the basic theory of microeconomics and develop their presentation skills.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Materials for presentations:50%

In class contribution and presentations:50%

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

鴨志田 晃

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では英語教材を用いて経営学の基本トピック、とりわけ起業とビジネス育成、マーケティング理論について学びます。毎回の授業では、テキストのなかの担当トピックの内容について学生が発表し、全体討議、総括を行って、経営学の専門用語を学び、経営学の理解を深めます。授業では、適宜、参考文献、記事等を取り上げ、ビジネスの最新トピックスへの関心と理解を深めます。

【到達目標】

本授業は、経営学における著名なテキストを用いて英語文献を読む語学力を身につけ、英語文献から得た経営学の知識を応用する力をつけることを目標とします。具体的には、経営学領域を網羅したテキストである "The Business Book: Big Ideas Simply Explained" を用いて、基礎知識をつけ、専門書を読解する力、英語で専門講義を受けるための基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講者には (何組かのグループを設定し)、担当部分の発表をしてもらいます。毎回の授業の流れは、担当グループが発表、各グループによる質問、報告に対する教員からのコメントおよび解説、ディスカッション、総括の順番で進めます。授業の後半ではビジネスに関わる原書や記事を読んで発表と議論を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の概要、進め方の説明
第 2 回	Start Small, Think Big ① /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 3 回	Start Small, Think Big ② /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 4 回	Start Small, Think Big ③ /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 5 回	Lighting The Fire ① /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 6 回	Lighting The Fire ② /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 7 回	Making Money Work ① /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 8 回	Making Money Work ② /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 9 回	Working With a Vision ①/Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 10 回	Working With a Vision ②/Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 11 回	Successful Selling ① /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 12 回	Successful Selling ② /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 13 回	Successful Selling ③ /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 14 回	総括	本授業で学習したトピックを総括する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・ 毎回、テキストの指定箇所について精読し、予習を行う。
 ・ 担当個所の概要をまとめスライドにて発表する。

・ 最終レポートを作成する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

・ Atkinson, S., O'Hara, S., & Sturgeon, A. (Eds.). (2014). *The Business Book: Big Ideas Simply Explained*. Dorling Kindersley Ltd.

【参考書】

・ 「実践 MB A 式経営学の教科書」鴨志田晃著, ぱる出版, 2016 年, ¥1,400
 上記のほか、授業にて適宜、参考文献や記事を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・ 平常点 (グループワーク・発表を含む) 60 点

・ 期末レポート 40 点

成績評価は、授業での発表および参加、ならびにレポート (宿題) の成績によって総合的に評価します。毎回欠席を確認し、5 回以上欠席した学生は単位を認められません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

・ 毎回の講義にテキストと辞書、PC を必ず持参してください。

英語の文献を読むのは大変ですので、毎回講義に出席し、2 時間程度の予復習を欠かさずに行うようにしてください。

・ カメラ・マイク付き PC (オンラインの場合)

・ ある程度の速度が確保されたネット環境 (オンラインの場合)

【その他の重要事項】

エントリー期間に Web 抽選を行う。詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of business administration, especially start up and business development, and marketing theory using English teaching materials.

(Learning Objectives)

By the end of this course, students should be able to do the followings:

・ Acquire the ability to express own opinion to others by reading English books on business management.

・ Acquire the basic knowledge about business management theory and understand tools for business analysis

・ Arouse students' awareness and interest in business management theory and business topics.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have read and completed the required assigned part of the text and prepare the slides for it. (Presentation slides would be prepared by each group.)

Your study time will be more than two hours for a class

(Grading Criteria/Policy)

Grading will be decided based upon based on "Group work/presentation and in-class contribution"(50%), "final report and other home work"(50%).

Students who are absent more than 3 times will be fail after checking attendance every time.

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

鴨志田 晃

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では英語教材を用いて経営学の基本トピック、とりわけ起業とビジネス育成、マーケティング理論について学びます。毎回の授業では、テキストのなかの担当トピックの内容について学生が発表し、全体討議、総括を行って、経営学の専門用語を学び、経営学の理解を深めます。授業では、適宜、参考文献、記事等を取り上げ、ビジネスの最新トピックスへの関心と理解を深めます。

【到達目標】

本授業は、経営学における著名なテキストを用いて英語文献を読む語学力を身につけ、英語文献から得た経営学の知識を応用する力をつけることを目標とします。具体的には、経営学領域を網羅したテキストである "The Business Book: Big Ideas Simply Explained" を用いて、基礎知識をつけ、専門書を読解する力、英語で専門講義を受けるための基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講者には (何組かのグループを設定し)、担当部分の発表をしてもらいます。毎回の授業の流れは、担当グループが発表、各グループによる質問、報告に対する教員からのコメントおよび解説、ディスカッション、総括の順番で進めます。授業の後半ではビジネスに関わる原書や記事を読んで発表と議論を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の概要、進め方の説明
第 2 回	Start Small, Think Big ① /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 3 回	Start Small, Think Big ② /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 4 回	Start Small, Think Big ③ /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 5 回	Lighting The Fire ① /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 6 回	Lighting The Fire ② /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 7 回	Making Money Work ① /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 8 回	Making Money Work ② /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 9 回	Working With a Vision ① /Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 10 回	Working With a Vision ② /Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 11 回	Successful Selling ① /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 12 回	Successful Selling ② /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 13 回	Successful Selling ③ /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 14 回	総括	本授業で学習したトピックを総括する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・毎回、テキストの指定箇所について精読し、予習を行う。
・担当個所の概要をまとめスライドにて発表する。

・最終レポートを作成する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

・ Atkinson, S., O'Hara, S., & Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

【参考書】

・「実践 MBA 式経営学の教科書」鴨志田晃著, ぱる出版, 2016 年, ¥1,400
上記のほか、授業にて適宜、参考文献や記事を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 (グループワーク・発表を含む) 60 点
・期末レポート 40 点

成績評価は、授業での発表および参加、ならびにレポート (宿題) の成績によって総合的に評価します。毎回欠席を確認し、5 回以上欠席した学生は単位を認められません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

・毎回の講義にテキストと辞書、PC を必ず持参してください。
英語の文献を読むのは大変ですので、毎回講義に出席し、2 時間程度の予復習を欠かさずに行うようにしてください。
・カメラ・マイク付き PC (オンラインの場合)
・ある程度の速度が確保されたネット環境 (オンラインの場合)

【その他の重要事項】

エントリー期間に Web 抽選を行う。詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of business administration, especially start up and business development, and marketing theory using English teaching materials.

(Learning Objectives)

By the end of this course, students should be able to do the followings:

- ・ Acquire the ability to express own opinion to others by reading English books on business management.
- ・ Acquire the basic knowledge about business management theory and understand tools for business analysis
- ・ Arouse students' awareness and interest in business management theory and business topics.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have read and completed the required assigned part of the text and prepare the slides for it. (Presentation slides would be prepared by each group.)

Your study time will be more than two hours for a class

(Grading Criteria/Policy)

Grading will be decided based upon based on "Group work/presentation and in-class contribution"(50%), "final report and other home work"(50%).

Students who are absent more than 3 times will be fail after checking attendance every time.

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

高橋 理香

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経済・経営に関する時事的なトピックを中心にとりあげて英語のリーディングやリスニングのスキルアップを目指すとともに、トピックの背景にある経営学・経営学概念・知識・考え方を学びます。

【到達目標】

- ①英語に慣れて聞き取りのポイントをつかめる。
- ②英語の記事を辞書無しで読み、逐次訳することなく英語のまま概要をつかめる。
- ③英文の構成やパラグラフの役割を理解した上で、読解力と論述力を高める。
- ④現実の経済・経営に対する理解と関心を深める。
- ⑤ディスカッションを通じて、他の履修者とのコミュニケーション力を高める。英語「を」学ぶことから、英語「で」学ぶことが出来るようになるまでのきつかけをつかむことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- 第 2 週目以降、以下の 3 つの内容をローテーションで行います。
- ・リスニング：リスニング教材を使って、英語のニュースの聞き取り訓練を行います。聞き取り後に関連するクイズを行うこともあります。その後、トピックに関連するテーマに対してグループディスカッションを行います。
 - ・リーディング：教員の選んだ英字新聞の記事や英語の文献をその場で読んで理解します。その後、記事に関連するテーマに対してグループディスカッションを行います。
 - ・レポート：英字新聞の記事に関するレポートを作成します。レポートでは、各自が記事を選び、その記事を読んで理解した上で、記事に関連する内容の調査と分析を行います。レポートでは、ディスカッションテーマも執筆者に書いてもらいます。授業時には、提出されたレポートの内容を発表してもらいます。さらに、最後に、発表者の挙げたディスカッションテーマに従って、グループディスカッションを行います。レポートは日本語または英語で作成してください。
- ※レポートの週はオンラインでの実施を予定しています。それ以外は対面授業を予定しています。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の概要を説明し、今後のスケジュールを決めます。
第 2 回	Listening 1	リスニング：スピードを落としてニュースの聞き取りを行います。
第 3 回	Reading 1	リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。辞書無しで大意をつかむ方法を学びます。
第 4 回	Writing Report and Presentation 1	レポート：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。記事の選び方について議論します。
第 5 回	Listening 2	リスニング：ニュースのキーワードの聞き取りを訓練します。
第 6 回	Reading 2	リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。文章の全体的な構成やパラグラフの役割について学びます。
第 7 回	Writing Report and Presentation 2	レポート：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。レポートの書き方について学びます。
第 8 回	Listening 3	リスニング：聞き取りにくい音やフレーズを見つけ、音読して確認します。
第 9 回	Reading 3	リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。長い英文を読む時のコツを学びます。
第 10 回	Writing Report and Presentation 3	レポート：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。発表の仕方について学びます。
第 11 回	Listening 4	リスニング：少しだけスピードアップしてニュースの聞き取り訓練を行います。

第 12 回 Reading 4

リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。Transition Words の役割を学びます。

第 13 回 Writing Report and Presentation 4

レポート：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。前回の授業で学んだ文章構成やパラグラフの構成について、自分で選んだ記事において確認します。

第 14 回 Conclusion

授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習は英字新聞のレポート作成です。復習は教員の用意したリスニングやリーディング教材に注力してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

とくに教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

参考文献については、初回の授業時に説明をします。授業で用いる英字新聞についても、初回の授業時に説明します。

【成績評価の方法と基準】

英字新聞のレポートと発表：40%

グループディスカッション：30%

授業への積極的な参加：30%

授業に対する姿勢や上記の項目を総合的に判断して評価します。

欠席は成績評価を大きく下げます。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の皆さんの理解度や希望をなるべく反映して授業を進めたいと考えています。少人数クラスの利点を活かし、クラスでのグループディスカッションの機会をなるべく多く設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン (Zoom) で授業を行うことがあります。その際には、ビデオオン・音声オフを基本として参加してもらいます。資料の配布やレポート提出の際に学習支援システムを使います。ワード・エクセル・パワーポイントや、インターネットを使ったデータ収集を行うことがあります。また、履修者には法政大学のアカウントを使って Financial Times の登録を行っていただきます。機器の使い方や登録方法については、初回授業で説明します。

【その他の重要事項】

初回の授業時に、授業の概要や 2 回目以降のスケジュールと課題についてお話ししますので、興味のある方は、初回の授業に必ず出席して下さい。この授業に関連する科目は、英語の授業全般、経営学部の専門科目全般です。また、受講者多数の場合は、初回授業で選考を行います。

【Outline (in English)】

This class aims to brush up reading and listening skills in English and understand the concepts, knowledge and thinking of economics and business administration, focusing on world news related to economics and business.

In this class, three trainings, listening, reading, and writing short reports, will be conducted four times each. In listening, students will practice listening to news at a slow speed. In reading, students will quickly read newspaper articles written in English prepared by the instructor and participate in group discussions according to the themes provided by the instructor. In writing report, students will choose a newspaper article written in English, read it, and submit a short report with respect to that article.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports and presentation: 40 %,

Group work in class: 30%,

Contribution in class: 30%.

※ If the number of students exceeds expectations, the selection will be conducted. Please be sure to attend the first class meeting.

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

鴨志田 晃

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では英語教材を用いて経営学の基本トピック、とりわけ起業とビジネス育成、マーケティング理論について学びます。毎回の授業では、テキストのなかの担当トピックの内容について学生が発表し、全体討議、総括を行って、経営学の専門用語を学び、経営学の理解を深めます。授業では、適宜、参考文献、記事等を取り上げ、ビジネスの最新トピックスへの関心と理解を深めます。

【到達目標】

本授業は、経営学における著名なテキストを用いて英語文献を読む語学力を身につけ、英語文献から得た経営学の知識を応用する力をつけることを目標とします。具体的には、経営学領域を網羅したテキストである "The Business Book: Big Ideas Simply Explained" を用いて、基礎知識をつけ、専門書を読解する力、英語で専門講義を受けるための基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講者には (何組かのグループを設定し)、担当部分の発表をしてもらいます。毎回の授業の流れは、担当グループが発表、各グループによる質問、報告に対する教員からのコメントおよび解説、ディスカッション、総括の順番で進めます。授業の後半ではビジネスに関わる原書や記事を読んで発表と議論を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の概要、進め方の説明
第 2 回	Start Small, Think Big ① /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 3 回	Start Small, Think Big ② /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 4 回	Start Small, Think Big ③ /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 5 回	Lighting The Fire ① /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 6 回	Lighting The Fire ② /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 7 回	Making Money Work ① /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 8 回	Making Money Work ② /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 9 回	Working With a Vision ① /Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 10 回	Working With a Vision ② /Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 11 回	Successful Selling ① /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 12 回	Successful Selling ② /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 13 回	Successful Selling ③ /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ (講評, 講義)
第 14 回	総括	本授業で学習したトピックを総括する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・毎回、テキストの指定箇所について精読し、予習を行う。
・担当個所の概要をまとめスライドにて発表する。

・最終レポートを作成する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

・ Atkinson, S., O'Hara, S., & Sturgeon, A. (Eds.). (2014). *The Business Book: Big Ideas Simply Explained*. Dorling Kindersley Ltd.

【参考書】

・「実践 MBA 式経営学の教科書」鴨志田晃著, ぱる出版, 2016 年, ¥1,400
上記のほか、授業にて適宜、参考文献や記事を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 (グループワーク・発表を含む) 60 点
・期末レポート 40 点

成績評価は、授業での発表および参加、ならびにレポート (宿題) の成績によって総合的に評価します。毎回欠席を確認し、5 回以上欠席した学生は単位を認められません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

・毎回の講義にテキストと辞書、PC を必ず持参してください。
英語の文献を読むのは大変ですので、毎回講義に出席し、2 時間程度の予復習を欠かさずに行うようにしてください。
・カメラ・マイク付き PC (オンラインの場合)
・ある程度の速度が確保されたネット環境 (オンラインの場合)

【その他の重要事項】

エントリー期間に Web 抽選を行う。詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of business administration, especially start up and business development, and marketing theory using English teaching materials.

(Learning Objectives)

By the end of this course, students should be able to do the followings:

- ・ Acquire the ability to express own opinion to others by reading English books on business management.
- ・ Acquire the basic knowledge about business management theory and understand tools for business analysis
- ・ Arouse students' awareness and interest in business management theory and business topics.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have read and completed the required assigned part of the text and prepare the slides for it. (Presentation slides would be prepared by each group.)

Your study time will be more than two hours for a class

(Grading Criteria/Policy)

Grading will be decided based upon based on "Group work/presentation and in-class contribution"(50%), "final report and other home work"(50%).

Students who are absent more than 3 times will be fail after checking attendance every time.

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

THOMAS G POWER

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course is designed to provide students who are thinking about a career in business with an overview of the business-economic workplace and the skills needed for success in it. Students will also develop academic skills, critical thinking skills, and the ability to express ideas and opinions in English while studying fundamental principles and practices in business administration and management.

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Class Orientation	年間授業計画の説明および英文記事の訳出を行う (日・英両言語)。
第 2 回	Walmart (1)	Walmart - Business vocabulary and reading
第 3 回	Walmart (2)	Walmart - Reading comprehension
第 4 回	Walmart (3)	Walmart - Discussion
第 5 回	Presentation on Job Trends in the world (1)	Participants are expected to make an effective presentation on a company or industry.
第 6 回	Disney (1)	Disney - Business vocabulary and reading
第 7 回	Disney (2)	Disney - Reading comprehension
第 8 回	Disney (3)	Disney - Discussion
第 9 回	Presentation on Job Trends in the world (2)	Participants are expected to make an effective presentation.
第 10 回	General Electric (1)	General Electric - Business vocabulary and reading
第 11 回	General Electric (2)	General Electric - Reading comprehension
第 12 回	General Electric (3)	General Electric - Discussion
第 13 回	Presentation on Job Trends in the world (3)	Participants are expected to make an effective presentation on a company or industry.
第 14 回	In-class term exam	60-minute written test

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各英文記事の日本語訳出、英語によるグループディスカッションのための準備を毎回確実に行うこと。学習支援システムに、随時、必要情報を掲載するので参照すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。Students are expected to make elaborate preparations for vocabulary, listening practice and discussion for each class at home to enhance their participation in classroom discussions. 2 hours of preparation time is expected.

【テキスト (教科書)】

Kayoko Shiomi, Kazumi Tsutada and Angus McGregor (2019). *Challenges of Global Enterprises*. Kinseido (金星堂). ¥2,100+tax

【参考書】

ビジネスや経済を扱う新聞、雑誌等の英語参考文献は数多い。必要に応じて学習支援システムに文献リストを掲載する。Pay attention, on a frequent basis, to the Learning Management System (LMS) that includes a reference list.

【成績評価の方法と基準】

平常点 (発表、用語テスト) 50 %、学期末筆記試験 50 % (原則的に筆記試験とするが、状況により口述試験) をもって評価する。Contributions to class activities : presentation, words & phrases test (50%), in-class exam : No references available (50%)

【学生の意見等からの気づき】

The instructor encourages participants to express themselves clearly both in Japanese and English.

【学生が準備すべき機器他】

Feel free to use your PC in class.

【その他の重要事項】

学習支援システムを利用して授業関連情報を提供するので、同システムを積極的に活用すること。Class-related information is provided on the LMS. Feel relaxed, have fun and do your best while using English.

当授業への登録は、3、4 年生を優先しますので、まだ未履修の方は奮ってご参加ください。

【関連科目】

経営学総論 I / II

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

福多 裕志

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

【Challenges of Global Enterprises】

当授業では、いくつかの世界的企業を取り上げ、海外メディアの記事を通してビジネスへの取り組み方や動向を学習する。授業中の言語は、和訳を行う時間帯を除き、できる限り英語としたい。In this class, we will cover some global companies and learn about business approaches and trends through articles in overseas media. Let us try to communicate in English during class.

当授業への登録は、3、4 年生を優先しますので、まだ未履修の方は奮ってご参加ください。

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Syllabus, expectations & grading criteria / Writing emails
Week 2	Business and Economics	Business, product, profit, and economics; Four types of economic systems
Week 3	Business and Economics	Forces of Supply and Demand; Competition in a free-enterprise system
Week 4	Leadership Styles	How can you grow as an effective leader?; Case studies
Week 5	Cultural Awareness	Effect of culture on business interactions
Week 6	Business Ethics and Social Responsibility	Ethical issues in business; Social responsibility issues
Week 7	Mid-term Presentations	Students presentations
Week 8	International Business	Trade between countries; International trade barriers
Week 9	Options for Organizing Business	Business activities of different organizations
Week 10	Entrepreneurs / E-business	Products and services / Case studies
Week 11	The Importance of Management	Management functions; Types of management; Decision making
Week 12	Business Travel and Socializing	Foreign travel
Week 13	Preparation of Final Papers	Writing a business plan; Research skills; Writing skills
Week 14	Final papers and remarks	Final papers. Wrap-up and review.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The first class will be "online." Most other classes will be held in the classroom in Ichigaya campus. If it is necessary, some classes will be held by Zoom or on-demand lectures. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class.

University guidelines suggests preparation and review for a one-credit course to be around an hour a week.

【テキスト (教科書)】

A textbook is assigned in the first class for this course.

Handouts and reading materials will be provided by the instructor.

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

Final evaluation will be based on:

Participation and regular attendance 30%

Homework and written assignments 30%

Mid-term presentation 20%

Final paper 20%

More than three absences will seriously affect your final grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【関連科目】

not applicable

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

福多 裕志

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

[Challenges of Global Enterprises]

当授業では、いくつかの世界的企業を取り上げ、海外メディアの記事を通してビジネスへの取り組み方や動向を学習する。授業中の言語は、和訳を行う時間帯を除き、できうる限り英語としたい。In this class, we will cover some global companies and learn about business approaches and trends through articles in overseas media. Let us try to communicate in English during class.

当授業への登録は、3、4年生を優先しますので、まだ未履修の方は奮ってご参加ください。

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Class Orientation	年間授業計画の説明および英文記事の訳出を行う (日・英両言語)。
第 2 回	Walmart (1)	Walmart - Business vocabulary and reading
第 3 回	Walmart (2)	Walmart - Reading comprehension
第 4 回	Walmart (3)	Walmart - Discussion
第 5 回	Presentation on Job Trends in the world (1)	Participants are expected to make an effective presentation on a company or industry.
第 6 回	Disney (1)	Disney - Business vocabulary and reading
第 7 回	Disney (2)	Disney - Reading comprehension
第 8 回	Disney (3)	Disney - Discussion
第 9 回	Presentation on Job Trends in the world (2)	Participants are expected to make an effective presentation.
第 10 回	General Electric (1)	General Electric - Business vocabulary and reading
第 11 回	General Electric (2)	General Electric - Reading comprehension
第 12 回	General Electric (3)	General Electric - Discussion
第 13 回	Presentation on Job Trends in the world (3)	Participants are expected to make an effective presentation on a company or industry.
第 14 回	In-class term exam	60-minute written test

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各英文記事の日本語訳出、英語によるグループディスカッションのための準備を毎回確実にを行うこと。学習支援システムに、随時、必要情報を掲載するので参照すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。Students are expected to make elaborate preparations for vocabulary, listening practice and discussion for each class at home to enhance their participation in classroom discussions. 2 hours of preparation time is expected.

【テキスト (教科書)】

Kayoko Shiomi, Kazumi Tsutada and Angus McGregor (2019). *Challenges of Global Enterprises*. Kinseido(金星堂). ¥2,100+tax

【参考書】

ビジネスや経済を扱う新聞、雑誌等の英語参考文献は数多い。必要に応じて学習支援システムに文献リストを掲載する。Pay attention, on a frequent basis, to the Learning Management System (LMS) that includes a reference list.

【成績評価の方法と基準】

平常点 (発表、用語テスト) 50 %、学期末筆記試験 50 % (原則的に筆記試験とするが、状況により口述試験) をもって評価する。Contributions to class activities : presentation, words & phrases test (50%), in-class exam : No references available (50%)

【学生の意見等からの気づき】

The instructor encourages participants to express themselves clearly both in Japanese and English.

【学生が準備すべき機器他】

Feel free to use your PC in class.

【その他の重要事項】

学習支援システムを利用して授業関連情報を提供するので、同システムを積極的に活用すること。Class-related information is provided on the LMS. Feel relaxed, have fun and do your best while using English.

当授業への登録は、3、4年生を優先しますので、まだ未履修の方は奮ってご参加ください。

【関連科目】

経営学総論 I / II

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

稲垣 京輔

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義では、経営学や企業経営に関する英語の文献、雑誌記事を読み、読解力を養うと同時に、テーマに沿って討論するノウハウや関心を高めていくことが課題です。

【到達目標】

基本的に、毎回の講義において英訳の宿題が与えられます。持ち回りの輪読ですが、かなりの頻度で回ってきます。

14 回の授業を通じて、英文に慣れて、解釈できるようになること、そして文化や経済事情に関する素養を身につけることが目的です。

English translation homework is given in every lecture. It's a rotation reading, but it comes around quite often.

Through 14 classes, the purpose is to become familiar with English, to be able to interpret it, and to acquire knowledge about management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

段落ごとに割り当てられた受講者は、辞書を参照しながら訳していきます。この講義では、完璧な訳出を求めるわけではありません。むしろ、センテンス毎に内容を把握し、文章を理解するスピードを上げていくことを目的とします。したがって、頭から訳出していくことを心がけ、文章の構造を理解するように努めてください。全ての訳出が終わり、内容を理解したら、テーマに即して 2 つのグループに分かれて、討論をおこないます。

Students are assigned a paragraph-by-paragraph translation for each session. This lecture does not seek a perfect translation. After all the translations have been completed and you have understood the content, you will be divided into two groups based on the theme and have a discussion.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	選抜 講義の進め方
第 2 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文に慣れる (基礎編)
第 3 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文に慣れる (基礎編)
第 4 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文に慣れる (基礎編)
第 5 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文に慣れる (基礎編)
第 6 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ (応用編)
第 7 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ (応用編)
第 8 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ (応用編)
第 9 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ (応用編)

第 10 回 英文の和訳
テーマにまつわる課題を
考え、ディスカッション
する

英文記事を通じて、各国の経済事情や
文化について学ぶ (応用編)

第 11 回 英文の和訳
テーマにまつわる課題を
考え、ディスカッション
する

英文記事を通じて、各国の経済事情や
文化について学ぶ (応用編)

第 12 回 英文の和訳
テーマにまつわる課題を
考え、ディスカッション
する

英文記事を通じて、各国の経済事情や
文化について学ぶ (応用編)

第 13 回 英文の和訳
テーマにまつわる課題を
考え、ディスカッション
する

英文記事を通じて、各国の経済事情や
文化について学ぶ (応用編)

第 14 回 まとめ

これまでの英文記事の読み込みを復習
し、テストをおこなう

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

段落ごとに割り当てられた受講者は、辞書を参照しながら訳出を事前にしてきてください。その他に本授業の準備学習と復習には、それぞれ 2 時間程度をかけてください。

Students assigned to each paragraph should prepare the translation in advance while referring to a dictionary. In addition, please spend about 2 hours each for preparation and review of this class.

【テキスト (教科書)】

特に使用しません。受講者のレベルに合わせて、企業経営に関する文献を読んできたいと思います。

【参考書】

とくになし。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義での発表による評価 (50 %)

期末試験 (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

久々の担当なので、学生からの積極的なフィードバックを期待します。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

必ず英和辞書 (電子辞書でもよい) を持参してください。

[関連科目]

経営学総論

【Outline (in English)】

In this lecture we will try to read and discuss some business articles in English. The aim is to develop know-how and interest in discussions on each theme each while developing reading comprehension skills

MAN100FA

入門外国語経営学 I (2018 年度以前入学者)

稲垣 京輔

選択_外国語経営学科目 1~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義では、経営学や企業経営に関する英語の文献、雑誌記事を読み、読解力を養うと同時に、テーマに沿って討論するノウハウや関心を高めていくことが課題です。

【到達目標】

基本的に、毎回の講義において英訳の宿題が与えられます。持ち回りの輪読ですが、かなりの頻度で回ってきます。

14 回の授業を通じて、英文に慣れて、解釈できるようになること、そして文化や経済事情に関する素養を身につけることが目的です。

English translation homework is given in every lecture. It's a rotation reading, but it comes around quite often.

Through 14 classes, the purpose is to become familiar with English, to be able to interpret it, and to acquire knowledge about management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

段落ごとに割り当てられた受講者は、辞書を参照しながら訳していきます。この講義では、完璧な訳出を求めるわけではありません。むしろ、センテンス毎に内容を把握し、文章を理解するスピードを上げていくことを目的とします。したがって、頭から訳出していくことを心がけ、文章の構造を理解するように努めてください。全ての訳出が終わり、内容を理解したら、テーマに即して 2 つのグループに分かれて、討論をおこないます。

Students are assigned a paragraph-by-paragraph translation for each session. This lecture does not seek a perfect translation. After all the translations have been completed and you have understood the content, you will be divided into two groups based on the theme and have a discussion.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	選抜 講義の進め方
第 2 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文に慣れる (基礎編)
第 3 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文に慣れる (基礎編)
第 4 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文に慣れる (基礎編)
第 5 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文に慣れる (基礎編)
第 6 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ (応用編)
第 7 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ (応用編)
第 8 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ (応用編)
第 9 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ (応用編)

第 10 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ (応用編)
第 11 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ (応用編)
第 12 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ (応用編)
第 13 回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を 考え、ディスカッション する	英文記事を通じて、各国の経済事情や 文化について学ぶ (応用編)
第 14 回	まとめ	これまでの英文記事の読み込みを復習 し、テストをおこなう

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

段落ごとに割り当てられた受講者は、辞書を参照しながら訳出を事前にしてきてください。その他に本授業の準備学習と復習には、それぞれ 2 時間程度をかけてください。

Students assigned to each paragraph should prepare the translation in advance while referring to a dictionary. In addition, please spend about 2 hours each for preparation and review of this class.

【テキスト (教科書)】

特に使用しません。受講者のレベルに合わせて、企業経営に関する文献を読みたいと思います。

【参考書】

とくになし。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義での発表による評価 (50 %)
期末試験 (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

久々の担当なので、学生からの積極的なフィードバックを期待します。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

必ず英和辞書 (電子辞書でもよい) を持参してください。

[関連科目]

経営学総論

【Outline (in English)】

In this lecture we will try to read and discuss some business articles in English. The aim is to develop know-how and interest in discussions on each theme each while developing reading comprehension skills

MAN200FA

国際コミュニケーション論 I (2018年度以前入学者)

THOMAS G POWER

選択_キャリアプログラム科目 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

To succeed in a globalized world, business people must possess the skills and knowledge to understand, communicate and negotiate with people from a wide range of cultures and countries. The aim of this course is to provide students with opportunities to gain a deeper understanding and appreciation of international communication, Japanese culture, and other cultures.

【到達目標】

In this course, students will (1) acquire a deeper knowledge of international communication and intercultural issues, (2) gain more confidence in expressing opinions and ideas about Japanese culture in English, (3) increase their understanding of other cultures, and (4) improve their academic and critical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

The first class will be "online." All other classes held in the classroom in Ichigaya campus unless otherwise announced. If it is necessary, some classes will be held by Zoom or on-demand lectures. Active participation is essential. Students will work in pairs and in groups and give presentations based on topics of personal interest. Students will submit assignments and receive feedback through Google Classroom. This course will be fun and exciting with the help of enthusiastic students who want to learn from each other and are committed to improving their English skills.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction to International Communication I	Syllabus, expectations & grading criteria
Week 2	What is communication?	Communication styles
Week 3	What is culture?	Culture iceberg / Perspectives of culture & invisible aspects
Week 4	Japanese culture & identity	Characteristics of culture / Identity and groups
Week 5	Nonverbal communication	Paralanguage / body communication
Week 6	Communicating clearly	Communication styles / Effect of Aimai and Amae
Week 7	Mid-term presentations	All students will give a 5-minute presentation.
Week 8	Communicating clearly	Communication styles / Effect of Honne to Tatemaie
Week 9	Culture and values	Values of Japanese and Americans / Foreigners in Japan.
Week 10	Culture and values	Traveling abroad / American & British cultures
Week 11	Culture and perception	Different ways of seeing things
Week 12	Stereotypes and Generalizations	Japanese stereotypes & national stereotypes / prejudice
Week 13	Final presentations	All students will give a 4-minute presentation.
Week 14	Final papers and remarks	Oral reports about final papers / Review

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The first class will be "online." Most other classes will be held in the classroom in Ichigaya campus. If it is necessary, some classes will be held by Zoom or on-demand lectures. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email and be ready for the next class. Be sure to bring your textbook to each class. University guidelines suggests preparation and review for a one-credit course to be around an hour a week.

【テキスト (教科書)】

Vincent. P. (2017) Speaking of Intercultural Communication. Tokyo: Nan'un-do. ISBN 978-4-523-17840-8 C0082 JPY 1,900

The instructor will provide additional online resources and reading materials, including brief summaries of articles by Milton J. Bennett and Geert Hofstede,

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

You will be graded on:

20% Active participation in English

40% Weekly homework, quizzes & assignments

30% Two presentations

10% Final paper

More than three absences will seriously affect your final grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Students need access to the internet and use of Zoom with audio and video capabilities.

【関連科目】

not applicable

【Outline (in English)】

To succeed in a globalized world, business people must possess the skills and knowledge to understand, communicate and negotiate with people from a wide range of cultures and countries. The aim of this course is to provide students with opportunities to gain a deeper understanding and appreciation of international communication, Japanese culture, and other cultures.

MAN200FA

国際コミュニケーション論Ⅱ（2018年度以前入学者）

THOMAS G POWER

選択_キャリアプログラム科目 2~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To succeed in a globalized world, business people must possess the skills and knowledge to understand, communicate and negotiate with people from a wide range of cultures and countries. The aim of this course is to provide students with opportunities to gain a deeper understanding and appreciation of international communication, Japanese culture, and other cultures.

【到達目標】

In this course, students will (1) acquire a deeper knowledge of international communication and intercultural issues, (2) gain more confidence in expressing opinions and ideas about Japanese culture in English, (3) increase their understanding of other cultures, and (4) improve their academic and critical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

The first class will be "online." All other classes held in the classroom in Ichigaya campus unless otherwise announced. If it is necessary, some classes will be held by Zoom or on-demand lectures. Active participation is essential. Students will work in pairs and in groups and give presentations based on topics of personal interest. Students will submit assignments and receive feedback through Google Classroom. This course will be fun and exciting with the help of enthusiastic students who want to learn from each other and are committed to improving their English skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Syllabus, expectations, & grading criteria
Week 2	Stereotypes and Generalizations	Subcultures & prejudice / Immigration policies
Week 3	Diversity	Diversity & subcultures / Prejudice
Week 4	Culture Shock	The Stress of Culture Shock
Week 5	Culture Shock	Reverse Culture Shock / Reaction Paragraph
Week 6	Culture and Change	Pros and cons of Globalization
Week 7	Culture and Change	Change and Culture / Reaction Paragraph
Week 8	Presentation Preparation	Working draft / Slides & script / Prompt cards
Week 9	Students Presentations	All students will give presentation.
Week 10	Talking about Japan	Japanese Words / Individualistic & Group-oriented Cultures
Week 11	Talking about Japan	The Changing Japanese Culture / Taboos & Subcultures
Week 12	Becoming a Global Person	Global Village / Intercultural sensitivity
Week 13	Final Presentations	All students will give a presentation.
Week 14	Final papers and remarks	Reports about final papers. Review.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The first class will be "online." Most other classes will be held in the classroom in Ichigaya campus. If it is necessary, some classes will be held by Zoom or on-demand lectures. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email and be ready for the next class. Be sure to bring your textbook to each class. University guidelines suggests preparation and review for a one-credit course to be around an hour a week.

【テキスト（教科書）】

Vincent. P. (2017) Speaking of Intercultural Communication. Tokyo: Nan'un-do. ISBN 978-4-523-17840-8 C0082 JPY 1,900

The instructor will provide additional online resources and reading materials, including brief summaries of articles by Milton J. Bennett and Geert Hofstede,

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

You will be graded on:

20% Active participation in English

40% Weekly homework, quizzes & assignments

30% Two presentations

10% Final paper

More than three absences will seriously affect your final grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【関連科目】

not applicable

【Outline (in English)】

To succeed in a globalized world, business people must possess the skills and knowledge to understand, communicate and negotiate with people from a wide range of cultures and countries. The aim of this course is to provide students with opportunities to gain a deeper understanding and appreciation of international communication, Japanese culture, and other cultures.

MAN200FA

検定会計Ⅰ（2018年度以前入学者）

倉田 幸路

選択_キャリアプログラム科目 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

株式会社における簿記処理（商業簿記）を理解することを目的とします（特に、取引の仕訳（資産、負債、純資産））。この科目を履修することにより、会計専門科目（財務会計、国際会計等）の入門として役立ちます。

【到達目標】

検定会計Ⅱと合わせて、日商簿記検定2級程度の商業簿記の習得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

授業は対面で講義形式で行います。初回は、人数が確定しないので、Zoomを用いてオンタイムで授業します。初回については、授業のレジュメ、授業のお知らせ等は、学修支援システム（Hoppii）にアップします。授業は、レジュメにそって行います。テキストは指定しませんが、参考書のうちいずれか一冊は用意してください。ほぼ毎回課題（小テスト）を行います。次の授業の時に解説します。実際に自分で書き、計算することが必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	取引の記帳 (1) 現金預 金取引1	現金の範囲、現金過不足、小口現金 について講義します。
第2回	取引の記帳 (1) 現金預 金取引2	銀行勘定調整表について講義します。
第3回	取引の記帳 (2) 債権・ 債務取引1	クレジット売掛金、電子記録債権・ 債務、手形の種類について講義します。
第4回	取引の記帳 (2) 債権・ 債務取引2	手形の裏書と割引、不渡手形、手形 の貸借、営業外手形、貸倒の見積もり について講義します。
第5回	取引の記帳 (3) 有価証 券取引	有価証券の分類、有価証券の取得原 価、有価証券の評価について講義しま す。
第6回	取引の記帳 (4) 商品売 買取引1	商品売買取引の記録方法について講 義します。
第7回	取引の記帳 (4) 商品売 買取引2	棚卸資産の取得原価、棚卸資産の原 価配分、商品有高帳について講義しま す。
第8回	取引の記帳 (5) 固定資 産取引1	固定資産の分類、有形固定資産の取 得原価、資本的支出と収益的支出、建 設仮勘定について講義します。
第9回	取引の記帳 (5) 固定資 産取引2	減価償却、固定資産の売却・除却に ついて講義します。
第10回	取引の記帳 (5) 固定資 産取引3	無形固定資産、投資その他の資産に ついて講義します。
第11回	取引の記帳 (6) 負債取 引1	負債の分類、引当金の種類について 講義します。
第12回	取引の記帳 (6) 負債取 引2	各種引当金について講義します。
第13回	取引の記帳 (7) 資本 (純資産) 取引1	株式会社の概要、会社法における純 資産の区分、設立時の会計処理、増資 の会計処理、新株予約権について講義 します。
第14回	取引の記帳 (7) 資本 (純資産) 取引2	減資の会計処理、自己株式、受贈資 本と評価替資本について講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習として、各回に該当する参考書の箇所をよく読み準備すること、また復習として、各回に授業で解説した箇所について、参考書に準拠した問題集等の問題を自ら解くことにより、理解を定着させることに各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しませんが、下記の参考書のうちいずれか一冊用意してください。

【参考書】

【合格テキスト日商簿記検定2級（商業簿記）Ver.16.0】TAC 出版、2022年、2,400円（税別）。渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著『検定簿記講義2級商業簿記2022年度版』中央経済社、2022年、850円（税別）。

【成績評価の方法と基準】

ほぼ毎回行われる課題（小テスト）30%、期末試験70%（対面で試験が実施できる場合）。対面で試験が実施できない場合は、ほぼ毎回行われる課題（小テスト）100%とします。

【学生の意見等からの気づき】

ほぼ毎回小テストを行い、次の授業で解説します。

【学生が準備すべき機器他】

初回の授業は、Zoomを用いてオンタイムで授業しますので、パソコン等が必要です。電卓を用意してください。

【その他の重要事項】

検定会計Ⅱも合わせて履修してください。初回の講義は、Zoomを用いてオンタイムで授業します。授業のお知らせ（Zoomのアドレス）、レジュメ等はHoppiiを通して行います。初回以降は対面で授業を行いますが、状況により、オンラインに変更になる場合があります。

【関連科目】

会計専門科目（特に、会計学入門Ⅰ・Ⅱ、財務会計論、国際会計論）と関連します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This lecture purpose to understand bookkeeping (commercial bookkeeping) for corporation (ex. journalizing of transaction (assets, liability, net assets)). To understand this lecture, it may help the introduction of accounting subject (for example financial accounting, international accounting etc.).

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A,B and C.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process. Each time comment card 50%, Term-end examination 50%.

MAN200FA

検定会計Ⅱ（2018年度以前入学者）

倉田 幸路

選択_キャリアプログラム科目 2~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

株式会社における会計処理（商業簿記）のうち、特に、収益・費用の処理、個別問題（リース会計、外貨換算会計、税効果会計、本店支店会計、決算に関する総合演習、連結財務諸表）について講義します。これらのテーマを理解することにより、会計専門科目（財務会計、国際会計等）の入門として役立ちます。

【到達目標】

検定会計Ⅰと合わせて、日商簿記検定2級程度の商業簿記の習得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

初回は、Zoomを用いてオンタイムで授業します。授業のレジュメ、授業のお知らせ（Zoomのアドレス）、課題等は学修支援システム（Hoppii）を用います。授業は、原則として、対面で行います。レジュメにそって授業します。テキストは指定しませんが、参考書のうちいずれか一冊を用意してください。実際に、自分で書き、計算することが必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	I 収益・費用 1	収益・費用の認識基準、費用・収益の区分、具体的収益の認識について講義します。
第2回	I 収益・費用 2	税金の種類、消費税の処理について講義します。
第3回	II リース会計	リース取引の分類、ファイナンスリースの借手の処理、オペレーティングリースの処理について講義します。
第4回	III 外貨換算会計	外貨建取引の換算、為替予約、外貨建取引の期末評価について講義します。
第5回	IV 税効果会計	税効果会計の方法、一時差異と繰延税金資産・負債について講義します。
第6回	V 決算に関する総合演習 1	決算手続きと決算整理（商品勘定の整理、外貨建債権・債務の換算、貸倒引当金の設定）について講義します。
第7回	V 決算に関する総合演習 2	決算整理（有価証券の評価、固定資産の減価償却、収益・費用の見越・繰延）について講義します。
第8回	V 決算に関する総合演習 3	精算表について講義します。
第9回	V 決算に関する総合演習 4	財務諸表の体系（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書）について講義します。
第10回	VI 本店支店会計 1	本店支店会計の意義および本店支店間の取引、支店相互間の取引について講義します。
第11回	VI 本店支店会計 2 VII 合併と事業継承	本店支店合併財務諸表の作成について講義します。 合併と事業継承について講義します。
第12回	VIII 連結会計 1	連結財務諸表の内容および投資と資本の相殺消去について講義します。
第13回	VIII 連結会計 2	支配獲得後の連結および連結精算表について講義します。
第14回	VIII 連結会計 3	成果連結および内部取引、債権・債務の相殺消去、未実現利益の控除について講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習として、各回の該当する参考書の箇所をよく読み準備すること。また、復習として、各回の授業で解説した箇所について、参考書に準拠した問題集等の問題を自ら解くことにより、理解を定着させることに各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しませんが、下記の参考書のうちいずれか一冊用意してください。

【参考書】

『合格テキスト日商簿記検定2級（商業簿記）Ver.16.0』TAC 出版、2022年、2,400円（税別）、渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『検定簿記2級商業簿記2022年度版』中央経済社、2022年、850円（税別）。

【成績評価の方法と基準】

ほぼ毎回行われる課題（小テスト）30%、期末試験70%（対面で試験を実施できる場合）。対面で試験が実施できない場合は、ほぼ毎回行われる課題（小テスト）100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

なるべくわかりやすく授業するように心がけています。ほぼ毎回小テストを行い、次の時間に解説します。

【学生が準備すべき機器他】

初回はZoomを用いてオンタイムで授業しますので、パソコン等が必要です。電卓を用意してください。

【その他の重要事項】

検定会計Ⅰの知識を前提とします。初回の講義のお知らせ（Zoomのアドレス等）、レジュメは学修支援システム（Hoppii）を通して行います。状況によっては、Zoomを用いてオンタイムで授業する用に変更されるかもしれません。

【関連科目】

会計専門科目（特に、会計学入門Ⅰ・Ⅱ、財務会計論、国際会計論）と関連します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This lecture purpose to understand bookkeeping (commercial bookkeeping) for enterprise (ex. accounting for lease, foreign transaction, tax consequence, closing procedure, consolidate financial statements). To understand this lecture, it may help the introduction of subject (ex. financial accounting, international accounting etc.).

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A,B and C.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course content.

(Grading Criteria/Policies)

Final grade will be calculated according to the following process. Each time examination 50%, Term-end examination 50%.

MAN200FA

キャリア・マネジメント I (2018 年度以前入学者)

小川 憲彦

選択_キャリアプログラム科目 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリア論の基本について学習します。その中で、キャリアを歩んでいく上での考え方、就職活動のことに加えて、会社のこと、会社組織を取り巻く社会環境についてもお話ししたいと思います。自分の考えと照らし合わせながら参加できるように、適宜ディスカッション等を行います。

The purpose of this class is to learn fundamental career theories including the basic mind for career development, the process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and the social environment surrounding an individual career and organizations at which you will work.

【到達目標】

- ①キャリアの基本理論の概要やこれに関わる術語を知っていること
- ②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について、暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めるようになること

Students who complete the course will be expected to:

- (1) understand the basic terms and concepts of the career development theories,
- (2) begin preparations for job-hunting, using your own thoughts, as the first step for lifelong career development/management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・初回は Zoom を用いたオンライン、以降は原則的に対面での講義を実施します。対面の場合の参加ルールは以下です。詳細は授業で伝えます。

- ①他人の迷惑になる行為を行わないこと
 - ②授業に関係のないことをしないこと
 - ③その他については、教員の指示に従うこと
- Zoom の場合の参加は以下が加わります。詳細は授業で伝えます。

- ①音声は指示がない場合は原則としてオフ
- ②動画カメラは原則オン
(ただし電波状況が悪い場合は、氏名と学籍番号をチャットで伝えたくてオフを許可します)
- ③表示する氏名は漢字
(仮名表記の名前の方はそれで結構です。外国人の方はアルファベットでも可)
・適宜リアクションペーパーを課します。
・グループ・ディスカッションを行うことがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第 2 回	キャリアとは	経営学におけるキャリア論の位置づけやキャリアという概念の理解
第 3 回	キャリアを取り巻く環境の変化	これからの世の中で、どのような変化が生じうるのか、その上でどのようなキャリアが求められるのか
第 4 回	企業の新卒採用活動 (1)	採用側の理論について
第 5 回	企業の新卒採用活動 (2)	採用研究について紹介します
第 6 回	企業の新卒採用活動 (3)	面接研究について紹介します
第 7 回	企業の採用活動事例の紹介 (1)	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました (業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります)
第 8 回	企業の採用活動事例の紹介 (2)	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました (業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります)
第 9 回	職場適応の理論 (1)	入社した後の会社への適応について (概要)
第 10 回	職場適応の理論 (2)	入社した後の会社への適応について (人間関係)
第 11 回	キャリア発達の理論 (1)	長期にわたるキャリアの見通しについて
第 12 回	キャリア発達の理論 (2)	長期にわたるキャリアの見通しについて

第 13 回 キャリア・トランジション 転職など、キャリアの移行期について
ン論

第 14 回 近年のキャリア論 偶発性アプローチの紹介など

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

任意の宿題 (レポート等) を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

金井壽宏 (2002) 『働くひとのためのキャリア・デザイン』 PHP 研究所。良い本ですが必ずしも購入する必要はありません。授業は配布資料を基に進めます。参考書も同様です。

【参考書】

大久保幸夫 (2006) 『キャリアデザイン入門 (1) 基礎力編』・『キャリアデザイン入門 (2) 専門力編』 日経文庫。

エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏 (訳) (2003) 『キャリア・アンカー ―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プランニング』 白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

・期末試験なし (レポート (50%)、平常点 (50%) : 参加態度、リアクションペーパー、課題等含む)

【学生の意見等からの気づき】

平日の時間帯なので難しいかもしれませんが、可能であればキャリア・マネジメント II のようにゲストを招く回を設けたいと思っています。

【その他の重要事項】

I は理論編、II は事例編です。前者は講義が中心ですが、後者では社会人ゲストを呼んで業界のことや仕事、キャリアについて具体的に話してもらいます。II は現役社会人ゲストを呼ぶので土曜日開講ですが、1 回 1 回の授業が OBOG 訪問のような場になりますので、2、3 年生の早いうちから受講することを勧めます。どのようなゲストかは II のシラバスを見てください (22 年度のゲストなので同じ方々ではありませんが、多様な業界業種の方をお呼びしています。)

【Outline (in English)】

Outline

The purpose of this class is to learn fundamental career theories including the basic mind for career development, the process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and the social environment surrounding an individual career and organizations at which you will work.

Learning objectives

Students who complete the course will be expected to:

- (1) understand the basic terms and concepts of the career development theories,
- (2) begin preparations for job-hunting, using your own thoughts, as the first step for lifelong career development/management.

Learning activities outside of classroom

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

Grading criteria/policy

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

MAN200FA

キャリア・マネジメントⅡ（2018年度以前入学者）

小川 憲彦

選択_キャリアプログラム科目 2~4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアマネジメントⅠの知識を前提に、やや応用的な内容について扱います。また、この授業では各界の老若男女様々な社会人ゲストをお呼びして、業界や仕事の紹介、ご自身のキャリアについて話をしてもらいながら、質疑応答を行います。様々な働き方・考え方に触れることで視野を広げながら、自分自身のキャリアについて考える契機として下さい。

The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall, and you will be able to learn a lot from them.

【到達目標】

- ① 社会人との交流が適切に行えること
- ② 就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考えを持って臨めること

Students who complete the course will be expected to:

- (1) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner,
- (2) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGs and internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゲストを招くことで社会人とのコミュニケーションの場を設けます。仕事世界やキャリアに関する知見・視野を広げてほしいと思います。また、キャリア形成に関する理論、研究、事例等の紹介等も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明、キャリア・マネジメント論Ⅰの振り返り
第2回	就職活動について	学生の就職活動報告を共有し気付きを共有します
第3回	企業の採用活動	就職活動を企業の側から、すなわち採用活動について具体的な選抜方法やその視点について紹介します
第4回	ゲスト（キャリアセンター職員）	キャリア・センターの活用と30代の女性職員の方のキャリア
第5回	ゲスト（非営利組織職員）	新卒1年目で非営利組織（フードリボン等）を展開）で働く若手 OB
第6回	ゲスト（野村証券）	証券会社3年目の若手 OB
第7回	ゲスト（ベンチャー企業）	化粧品などを扱っている広報畑の OG
第8回	ゲスト（物流）	世界各地で事業展開をしている物流会社の初級管理職 OB
第9回	ゲスト（IT）	楽天の常務執行役員。上場企業の社長などの経験があります。
第10回	ゲスト（中小企業）	印刷会社の40代の経営者です。
第11回	ゲスト（クリエイティブ産業）	現在はアニメプロデューサーをしていますが、ゲーム会社でのシナリオライターなどの経験もあります。
第12回	ゲスト（鉄道）	鉄道会社の管理職 OB です。
第13回	境界なきキャリア	転職等の効果について
第14回	出世について	大企業での出世や昇進のメカニズムについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

任意の宿題（レポートや読書）を適宜出します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

【テキスト（教科書）】

金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 研究所。良い本ですが必ずしも購入の必要はありません。参考書も同様です。授業はゲストの用意した資料等に基づいて行われます。

【参考書】

大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門（1）基礎力編』・『キャリアデザイン入門（2）専門力編』日経文庫。

エドガー・H・シャイン（著）・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー—自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル—職務と役割の戦略的プランニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

・期末試験か期末レポート（50%）、平常点（50%：リアクションペーパーや小レポート等含む）

・出席は取りませんが適宜課題を出すことがあります。

・レポートも課題は任意ですが、内容が不十分であれば加点はしません。コピペ、内容のないもの、不十分と思われるもの、読めないものなどは減点もあります。

・参加しないで出されたリアクションペーパーは不正とみなします。

・参加する際の注意事項（その他参照）が守られない場合、私の判断で大幅な減点や単位不認定があります。

・詳細は授業で指示します。

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination or the report (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ男女バランスよくゲストをお呼びしたいと思います。

【その他の重要事項】

①各回の内容は前年度のもので、ゲストは毎年変更しています。

②不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。

③初回講義で具体的な注意など指示し、以降は無条件で②のような対応をします。なお、携帯電話の電源を切って鞆にしまう、写真や動画をとったりUPしたりしない、関係のないおしゃべりをしない、帽子やサングラスをしない等は基本です。

関連科目：キャリア・マネジメントⅠ

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall, and you will be able to learn a lot from them.

Learning objectives

Students who complete the course will be expected to:

- (1) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner,
- (2) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGs and internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management.

Learning activities outside of classroom

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

Grading criteria/policy

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

MAN100FA

入門演習 (2019 年度以降入学者)

稲垣 保弘

演習 1 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

会社、組織、マネジメント、戦略といった経営学の中核的なテーマについて基本的な考え方や知識に慣れてもらいます。そのプロセスを通じて、経営学に関する文献の読み方、理解の仕方、そして論理的な文章の書き方といった経営学部の学生に求められるスキルも身につけます。

1 年生の科目なので、使用する論文などはそれほど高度な専門知識を必要としないものになります。

【到達目標】

経営学 (特に会社制度、戦略、事業、組織、マネジメントといった領域) の基本的な知識と考え方を身につけて、2 年生からの専門科目の学習に活かせるようになること。また、経営関係の文献の読み方、内容を要約してレジュメにまとめるノウハウ、発表の仕方などを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講者数にもよりますが、最初の数回は講義形式で、まず理解してほしいこと (経営学の基本的な知識、経営学の基本的な専門書や論文の読み方、理解の仕方、レジュメの書き方など) について説明します。

そのあと、履修者にテキストの章、論文などについてレジュメを作成し、内容を発表してもらうという形式を予定しています。

詳細な内容や分担は履修者の数が確定してから決めることとなります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、春 (あるいは秋) 学期全体の授業の流れなどについて説明します。
第 2 回	テキストについて	授業で使用するテキスト、論文、英文記事などの概要説明。
第 3 回	レポート、レジュメなどの作成について	レジュメ、レポートの作成についての基本的な知識、方法などを説明します。
第 4 回	経営学とはどういうものか I	経営学の重要分野について基本的な内容を説明します。
第 5 回	経営学とはどういうものか II	経営学の重要分野について基本的な内容を説明します。
第 6 回	テキストの輪読 I	テキストを一章ずつ分担して、レジュメの作成、発表をしてもらいます。そのあと、補足的な説明を行ったり、ディスカッションに適するテーマがあった場合には、全体ないしグループでのディスカッションも行います。
第 7 回	テキストの輪読 II	レジュメの作成と発表。補足的な説明。ディスカッション。
第 8 回	テキストの輪読 III	レジュメの作成と発表。補足的な説明。ディスカッション。
第 9 回	テキストの輪読 IV	レジュメの作成と発表。補足的な説明。ディスカッション。
第 10 回	比較的やさしい論文の検討 I	レジュメの作成と発表。補足的な説明。特に論文の読み方、理解の仕方、背景にある理論の説明など。論文のテーマによってはディスカッションも。
第 11 回	比較的やさしい論文の検討 II	レジュメの作成と発表。補足的な説明。場合によってはディスカッションも。
第 12 回	英語文献の検討 I	経営学関係の英文を読んで、基本的な専門用語 (英語) をマスターしてもらいます。こちらからの解説が中心です。
第 13 回	英語文献の検討 II	履修者の英語力によっては、内容を説明してもらうことも。
第 14 回	まとめ	半期の授業のまとめです。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキスト、論文、英語文献の予習、復習。詳細は授業で指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間程度を標準とします。

【テキスト (教科書)】

経営学の基本的な本。有名な論文。アメリカやイギリスの雑誌、新聞記事など。詳細はオリエンテーションのときに。なるべくコピーを配布する予定です。

【参考書】

『組織の解釈学』白桃書房、2002。

『経営の解釈学』白桃書房、2013。

この科目に限らず、担当教員の著書を図書館でざっと目次だけでも見ておくのはいいことです。

その他、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験はやらずに、平常点とレポートで評価する予定ですが、受講者数によって変更になるかもしれません。詳細はオリエンテーションで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も対面授業になるので、オンライン形式とは違った成果が期待できます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

履修する意思が少しでもあるのでしたら、初回の授業には出てください。

【関連科目】

おそらく経営学部のほとんどの科目の基礎になると思います。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to business administration. The key concepts of the course include Company, Organization, and Management. Students will learn the basis of these areas through reading books and articles which describe basic theories and actual company cases. Through this process, students will also learn logical and creative way of thinking.

* Grading Criteria : Class contribution (discussion, presentation, term report)

MAN100FA

入門演習 (2019 年度以降入学者)

稲垣 保弘

演習 1 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

会社、組織、マネジメント、戦略といった経営学の中核的なテーマについて基本的な考え方や知識に慣れてもらいます。そのプロセスを通じて、経営学に関する文献の読み方、理解の仕方、そして論理的な文章の書き方といった経営学部の学生に求められるスキルも身につけます。

1 年生の科目なので、使用する論文などはそれほど高度な専門知識を必要としないものになります。

【到達目標】

経営学 (特に会社制度、戦略、事業、組織、マネジメントといった領域) の基本的な知識と考え方を身につけて、2 年生からの専門科目の学習に活かせるようになること。また、経営関係の文献の読み方、内容を要約してレジュメにまとめるノウハウ、発表の仕方などを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講者数にもよりますが、最初の数回は講義形式で、まず理解してほしいこと (経営学の基本的な知識、経営学の基本的な専門書や論文の読み方、理解の仕方、レジュメの書き方など) について説明します。

そのあと、履修者にテキストの章、論文などについてレジュメを作成し、内容を発表してもらうという形式を予定しています。

詳細な内容や分担は履修者の数が確定してから決めることとなります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、春 (あるいは秋) 学期全体の授業の流れなどについて説明します。
第 2 回	テキストについて	授業で使用するテキスト、論文、英文記事などの概要説明。
第 3 回	レポート、レジュメなどの作成について	レジュメ、レポートの作成についての基本的な知識、方法などを説明します。
第 4 回	経営学とはどういうものか I	経営学の重要分野について基本的な内容を説明します。
第 5 回	経営学とはどういうものか II	経営学の重要分野について基本的な内容を説明します。
第 6 回	テキストの輪読 I	テキストを一章ずつ分担して、レジュメの作成、発表してもらいます。そのあと、補足的な説明を行ったり、ディスカッションに適するテーマがあった場合には、全体ないしグループでのディスカッションも行います。
第 7 回	テキストの輪読 II	レジュメの作成と発表。補足的な説明。ディスカッション。
第 8 回	テキストの輪読 III	レジュメの作成と発表。補足的な説明。ディスカッション。
第 9 回	テキストの輪読 IV	レジュメの作成と発表。補足的な説明。ディスカッション。
第 10 回	比較的やさしい論文の検討 I	レジュメの作成と発表。補足的な説明。特に論文の読み方、理解の仕方、背景にある理論の説明など。論文のテーマによってはディスカッションも。
第 11 回	比較的やさしい論文の検討 II	レジュメの作成と発表。補足的な説明。場合によってはディスカッションも。
第 12 回	英語文献の検討 I	経営学関係の英文を読んで、基本的な専門用語 (英語) をマスターしてもらいます。こちらからの解説が中心です。
第 13 回	英語文献の検討 II	履修者の英語力によっては、内容を説明してもらうことも。
第 14 回	まとめ	半期の授業のまとめです。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキスト、論文、英語文献の予習、復習。詳細は授業で指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間程度を標準とします。

【テキスト (教科書)】

経営学の基本的な本。有名な論文。アメリカやイギリスの雑誌、新聞記事など。詳細はオリエンテーションのときに。なるべくコピーを配布する予定です。

【参考書】

『組織の解釈学』白桃書房、2002。

『経営の解釈学』白桃書房、2013。

この科目に限らず、担当教員の著書を図書館でざっと目次だけでも見ておくのはいいことです。

その他、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験はやらずに、平常点とレポートで評価する予定ですが、受講者数によって変更になるかもしれません。詳細はオリエンテーションで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も対面授業になるので、オンライン形式とは違った成果が期待できます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

履修する意思が少しでもあるのでしたら、初回の授業には出てください。

【関連科目】

おそらく経営学部のほとんどの科目の基礎になると思います。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to business administration. The key concepts of the course include Company, Organization, and Management. Students will learn the basis of these areas through reading books and articles which describe basic theories and actual company cases. Through this process, students will also learn logical and creative way of thinking.

* Grading Criteria : Class contribution (discussion, presentation, term report)

MAN100FA

入門演習（2019年度以降入学者）

工藤 悟志

演習 1 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、少人数の演習の形式で授業をおこないます。本講義の目的は、①経営学を俯瞰し、それぞれの専門分野でどのような研究がされているのか、その概要を理解すること、②アカデミック・スキルといわれる、大学で学ぶため、またはそれを発信するために必要な基礎技術について学びます。

経営学の俯瞰については、おもな経営学の専門分野である経営戦略、経営組織、人的資源管理、技術経営、イノベーション・マネジメント、国際経営、経営史などにおける代表的な理論の理解、実際の企業のケースや当該分野の学術論文を読み、それらについてディスカッションをおこない理解を深めます。今後、みなさんの経営学の探求のきっかけにして欲しいと思います。

アカデミック・スキルは、具体的には、情報収集を適切に効率的にするための技術、アンケートやインタビュー等の調査を企画し、実施できる技術、レポートや論文を執筆して発表することができる技術です。みなさんにこの技術を身に付ける準備をして欲しいと思います。論理的思考力や批判的思考力は、社会に出て仕事をするうえで非常に役に立ちます。本講義を受講することによって、みなさんが明確にアカデミック・スキルを意識し、身に付けていくためのきっかけとなることを期待します。

【到達目標】

- ・経営学を俯瞰的に理解できる
- ・アカデミック・スキルを理解し、意識してスキルアップできる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

経営学を俯瞰的に理解するために、代表的なその分野の理論を解説する授業と、その分野のケースや学術論文を読んで、ディスカッションをする授業をおこないます。アカデミック・スキルに関しては、当該文献・資料を読み、理論を理解したあとに、その演習をおこなうこともあります。

なお、本講義に関する連絡事項や課題の掲載・提出は、学習支援システムを通じておこないます。特に第1回の講義はZoomを利用したオンライン講義です。その連絡も学習支援システムに掲載します。受講希望者は、必ず学習支援システムを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業の進め方 ・レジュメの作成・提出について
第2回	経営学を俯瞰する①	企業 企業の本質 経営戦略
第3回	経営学を俯瞰する②	経営組織 人的資源管理
第4回	経営学を俯瞰する③	イノベーション 製品・サービスの開発
第5回	経営学を俯瞰する④	国際経営
第6回	経営学を俯瞰する⑤	経営史 産業史
第7回	アカデミック・スキル①	アカデミック・スキルとは 講義を聞いてノートをとる
第8回	アカデミック・スキル②	情報収集の基礎
第9回	アカデミック・スキル③	本を読む (クリティカル・リーディングの手法)
第10回	アカデミック・スキル④	情報整理
第11回	アカデミック・スキル⑤	研究成果の発表
第12回	アカデミック・スキル⑥	プレゼンテーションのやり方
第13回	アカデミック・スキル⑦	論文・レポートの執筆
第14回	プレゼンテーションの実践	プレゼンテーションをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は、講義の文献・資料等を事前に読み、レジュメの作成を求めます。また、興味のある企業のホームページ（企業概要、事業内容、IR情報など）を見て、企業について調査することを推奨します。

復習は、講義の文献・資料等を読み直し、復習をおこなうことが求められます。それにとりまう、演習も求めることがあります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しません。詳細はガイダンスで説明します。

【参考書】

- ・入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社、2019。
- ・尾崎弘之『新たなる覇者の条件』日経 BP、2018。
- ・大野耐一『トヨタ生産方式』ダイヤモンド社、1978。
- ・藤本隆宏、新宅純二郎、青島矢一『日本のものづくりの底力』東洋経済、2015。
- ・太田裕子『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ』東京図書、2019。
- ・高橋順一、大淵憲一、渡辺文夫『人間科学研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版、2011。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への貢献など）：50%

レジュメの作成・発表：50%

*欠席が4回を超えると、原則として単位取得不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

経営戦略論 I / II, 経営管理論 I / II, マーケティング論 I / II, 戦略的意思決定論 I / II, 技術管理論 I / II, 製品開発論 I / II, 国際経営戦略論 I / II, 中小企業論 I / II, 日本経営論 I / II, 経営情報論 I / II など

【Outline (in English)】

This course will be conducted in the form of a small number of seminars. The objectives of this lecture are to (1) understand the overview of what kind of research is being conducted in the specialized field of business administration, and (2) understand academic skills and improve your skills with awareness.

The evaluations are (1) 50% of the class participation, and (2) 50% of the reaction paper (in-class assignments)

MAN100FA

入門演習 (2019 年度以降入学者)

工藤 悟志

演習 1 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は、少人数の演習の形式で授業をおこないます。本講義の目的は、①経営学を俯瞰し、それぞれの専門分野でどのような研究がされているのか、その概要を理解すること、②アカデミック・スキルといわれる、大学で学ぶため、またはそれを発信するために必要な基礎技術について学びます。

経営学の俯瞰については、おもな経営学の専門分野である経営戦略、経営組織、人的資源管理、技術経営、イノベーション・マネジメント、国際経営、経営史などにおける代表的な理論の理解、実際の企業のケースや当該分野の学術論文を読み、それらについてディスカッションをおこない理解を深めます。今後、みなさんの経営学の探求のきっかけにして欲しいと思います。

アカデミック・スキルは、具体的には、情報収集を適切に効率的にするための技術、アンケートやインタビュー等の調査を企画し、実施できる技術、レポートや論文を執筆して発表することができる技術です。みなさんにこの技術を身に付ける準備をして欲しいと思います。論理的思考力や批判的思考力は、社会に出て仕事をするうえで非常に役に立ちます。本講義を受講することによって、みなさんが明確にアカデミック・スキルを意識し、身に付けていくためのきっかけとなることを期待します。

【到達目標】

- ・経営学を俯瞰的に理解できる
- ・アカデミック・スキルを理解し、意識してスキルアップできる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

経営学を俯瞰的に理解するために、代表的なその分野の理論を解説する授業と、その分野のケースや学術論文を読んで、ディスカッションをする授業をおこないます。アカデミック・スキルに関しては、当該文献・資料を読み、理論を理解したあとに、その演習をおこなうこともあります。

なお、本講義に関する連絡事項や課題の掲載・提出は、学習支援システムを通じておこないます。特に第 1 回の講義は Zoom を利用したオンライン講義です。その連絡も学習支援システムに掲載します。受講希望者は、必ず学習支援システムを確認してください。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・授業の進め方 ・レジュメの作成・提出について
第 2 回	経営学を俯瞰する①	企業 企業の本質 経営戦略
第 3 回	経営学を俯瞰する②	経営組織 人的資源管理
第 4 回	経営学を俯瞰する③	イノベーション 製品・サービスの開発
第 5 回	経営学を俯瞰する④	国際経営
第 6 回	経営学を俯瞰する⑤	経営史 産業史
第 7 回	アカデミック・スキル①	アカデミック・スキルとは 講義を聞いてノートをとる
第 8 回	アカデミック・スキル②	情報収集の基礎
第 9 回	アカデミック・スキル③	本を読む (クリティカル・リーディングの手法)
第 10 回	アカデミック・スキル④	情報整理
第 11 回	アカデミック・スキル⑤	研究成果の発表
第 12 回	アカデミック・スキル⑥	プレゼンテーションのやり方
第 13 回	アカデミック・スキル⑦	論文・レポートの執筆
第 14 回	プレゼンテーションの実践	プレゼンテーションをする

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

予習は、講義の文献・資料等を事前に読み、レジュメの作成を求めます。また、興味のある企業のホームページ(企業概要、事業内容、IR 情報など)を見て、企業について調査することを推奨します。

復習は、講義の文献・資料等を読み直し、復習をおこなうことが求められます。それにとりまう、演習も求めることがあります。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

指定しません。詳細はガイダンスで説明します。

【参考書】

- ・入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社、2019。
- ・尾崎弘之『新たなる覇者の条件』日経 BP、2018。
- ・大野耐一『トヨタ生産方式』ダイヤモンド社、1978。
- ・藤本隆宏、新宅純二郎、青島矢一『日本のものづくりの底力』東洋経済、2015。
- ・太田裕子『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ』東京図書、2019。
- ・高橋順一、大淵憲一、渡辺文夫『人間科学研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版、2011。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業への貢献など)：50%

レジュメの作成・発表：50%

*欠席が 4 回を超えると、原則として単位取得不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

経営戦略論 I/II、経営管理論 I/II、マーケティング論 I/II、戦略的意思決定論 I/II、技術管理論 I/II、製品開発論 I/II、国際経営戦略論 I/II、中小企業論 I/II、日本経営論 I/II、経営情報論 I/II など

【Outline (in English)】

This course will be conducted in the form of a small number of seminars. The objectives of this lecture are to (1) understand the overview of what kind of research is being conducted in the specialized field of business administration, and (2) understand academic skills and improve your skills with awareness.

The evaluations are (1) 50% of the class participation, and (2) 50% of the reaction paper (in-class assignments)

MAN100FA

入門演習 (2019 年度以降入学者)

小林 一夫

演習 1 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業の社会的責任 (CSR) に軸をおいた健全なビジョンに基づく事業活動をおこなうことが、今日の企業の経営には必須です。学生の皆さんは実社会での実業経験がまだないことを踏まえて、最初に「企業とは何か」をあらためて学習します。次に、地球環境とグローバル社会をとらえた企業経営のあり方について、基本的見方とあるべき問題意識をもてるように学習します。自ら調べ、ディスカッションを通して自らの見方や考えを自分の言葉で伝えられるようになることを目標として学習します。

【到達目標】

- 「企業とは何か」につき基本的な知識を得、理解につとめます。
- 企業の立ち位置から社会的責任をどのようにとらえるか、幅広く学習します。
- グローバルを舞台とする総合商社の現実のリスク対応事例等を学び、企業活動と「企業の社会的責任 (CSR)」について、基本的な理解に努めます。
- 自ら調べ、ディスカッションを通して自らの見方や考えを自分の言葉で伝えることができるように学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

学部方針にそい 初回の授業は Zoom で行います。学習支援システム (Hoppii) の「お知らせ」で Zoom URL を連絡します。

第 2 回目以降は教室で行い、講義と演習 (ディスカッションと発表の機会) を組み合わせて進めます。

「企業とは何か」「社会的責任」「グローバル社会」「地球環境」などテーマごとに、様々な見方や考え方があり得ます。自ら調べ考えたことをディスカッションを通して発表することで、理解を深められるように学習します。

初回-第 3 回は「企業とは何か」について学習します。第 6 回-7 回目は、三井物産サステナビリティ・レポート等を参照し進めます。双方向のコミュニケーションを図り基本的理解を深めるため、授業の内容について感想や積極的な質問の提出をもとめることがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	総合商社の企業活動と「企業の社会的責任 (CSR)」	イントロダクション
第 2 回	「企業」とは何か その①	企業とは、また会社とは何かにつき、学習します。 「第三版 商社活動と企業の社会的責任」
第 3 回	「企業」とは何か その②	まえがき、序章、第 1-2 章、あとがき 総合商社の事業活動を題材に企業の社会的責任 (CSR) について基本的知識を得ます。
第 4 回	「企業」をどうとらえるか 演習	企業の社会的責任 (CSR) について基本的知識を得ます。又、総合商社の本業とのかかわりから CSR をとらえます。SDGs、ESG、CSR、CSV、サステナビリティ、トリプルボトムラインについて理解に努めます。ステークホルダーとは何か、理解に努めます。
第 5 回	企業経営入門	企業経営の基軸であり且つ CSR 経営を支えるコーポレート・ガバナンスと内部統制について、概念の基本を理解します。企業経営の枠組みについて基本的知識を得ます。「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第 4 章
第 6 回	地球環境問題 演習	「地球環境問題」及び「リスクとは」何か。環境問題の歴史及び環境リスクを概括し、環境・CSR リスクについて基本的理解に努めます。 「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第 3 章

第 7 回	事業リスクとリスク・マネジメント	環境・CSR リスク、事業リスク等総合商社の事業活動を例にリスク管理の考え方と対応について、又、「リスクとは何か」について基本的知識を得ます。「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第 6 章
第 8 回	総合商社活動と企業の社会的責任 (CSR) その①	事例研究 三井物産サステナビリティ・レポートを、「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から参照することで理解に努めます。
第 9 回	総合商社活動と企業の社会的責任 (CSR) その②	事例研究 三井物産サステナビリティ・レポートを、「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から参照することで理解に努めます。「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から、気候変動問題の認識とあるべき対応について基本的な知識を得られるようにします。
第 10 回	「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から、気候変動問題への対応と考え方について 演習	「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第 10 章
第 11 回	「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から、重要な課題と考え方について 演習	「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から、人権と労働慣行等について基本的な知識を得られるようにします。「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第 9 章
第 12 回	「課題」について、自ら調べ、論理的に考えまとめたものを、自分の言葉で発表します。 その①	個別のテーマについて、自ら調べ、論理的に考えまとめたものを、自分の言葉で説得力を持って伝えられるように学習します。
第 13 回	「課題」について、自ら調べ、論理的に考えまとめたものを、自分の言葉で発表します。 その②	個別のテーマについて、自ら調べ、論理的に考えまとめたものを、自分の言葉で説得力を持って伝えられるように学習します。
第 14 回	総合商社の企業活動と「企業の社会的責任 (CSR)」[まとめ]	グローバル活動が前提の事業運営と企業経営について概括し、「企業の社会的責任 (CSR)」についての理解を深められるようにします。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

翌週の授業テーマについて、あらかじめテキストを読み疑問点などを整理しておくようにして下さい。また、日経新聞等をグローバル経済把握のため、読むようにして下さい。その日の授業で学習したテーマについて、自身の立ち位置からの考え方や問題意識を整理するようにして下さい。本授業外の準備・復習時間は、少なくとも 4 時間/週とるようにして下さい。

【テキスト (教科書)】

テキスト (教科書)「第三版商社活動と企業の社会的責任」(儲けるだけでは破壊につながる) (図書文化社、小林一夫著、2021 年 10 月 1 日刊、第 3 版、1,600 円+税)

気候変動対応等資料の最新化している、第三版を使うようにして下さい。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：50%

平常点：50%

ディスカッションへの参加状況と報告を重視します。

その日の授業の内容について感想や質問の提出をもとめることがあります。提出された感想や質問には、必要に応じて次回授業のはじめに回答します。その際、授業の進行を踏まえた気付きにつながるものは、加点対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

テキスト (教科書) を使います。

「企業の社会的責任」について、具体的事例から把握できるようにするため、授業の進行に見合うトピックスも取り上げます。

【学生が準備すべき機器他】

教室授業で必要に応じてスクリーン・DVD を使い講義を進めます。

【その他の重要事項】

受講者は日経新聞等を読み、経済社会情勢をできる限り幅広く把握しておくことを推奨します。

[Outline (in English)]

Introduction to Activities of General Trading Firms (Sogo-Shosha), and CSR (Corporate Social Responsibility)

Management based on a sound vision of CSR (Corporate Social Responsibility) is indispensable for every business. So far, most students have no job experience, in the real world. Thus, students will, at first, learn what a corporation is, and will learn how to view corporate social responsibility, not only from an individual point of view, but from the view point of a corporation. Students will also learn basic concepts of SDGs, Sustainable Development, ESG, and so forth.

In addition, students will learn typical business activities of General Trading Firms (Sogo-Shosha), their management, and the basic idea of risk avoidance.

Students will strive to study by themselves, think logically, compose reports, and learn through discussions how to communicate their ideas in their own words, with confidence.

Before/after each class, students will spend at least four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following;

- term-end examination 50%
- in class contribution 50%

MAN100FA

入門演習 (2019 年度以降入学者)

小林 一夫

演習 1 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業の社会的責任 (CSR) に軸をおいた健全なビジョンに基づく事業活動をおこなうことが、今日の企業の経営には必須です。学生の皆さんは実社会での実業経験がまだないことを踏まえて、最初に「企業とは何か」をあらためて学習します。次に、地球環境とグローバル社会をとらえた企業経営のあり方について、基本的見方とあるべき問題意識をもてるように学習します。自ら調べ、ディスカッションを通して自らの見方や考えを自分の言葉で伝えられるようになることを目標として学習します。

【到達目標】

- 「企業とは何か」につき基本的な知識を得、理解につとめます。
- 企業の立ち位置から社会的責任をどのようにとらえるか、幅広く学習します。
- グローバルを舞台とする総合商社の現実のリスク対応事例等を学び、企業活動と「企業の社会的責任 (CSR)」について、基本的な理解に努めます。
- 自ら調べ、ディスカッションを通して自らの見方や考えを自分の言葉で伝えることができるように学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

学部方針にそい 初回の授業は Zoom で行います。学習支援システム (Hoppii) の「お知らせ」で Zoom URL を連絡します。

第 2 回目以降は教室で行い、講義と演習 (ディスカッションと発表の機会) を組み合わせて進めます。

「企業とは何か」「社会的責任」「グローバル社会」「地球環境」などテーマごとに、様々な見方や考え方があり得ます。自ら調べ考えたことをディスカッションを通して発表することで、理解を深められるように学習します。

初回-第 3 回は「企業とは何か」について学習します。第 6 回-7 回目は、三井物産サステナビリティ・レポート等を参照し進めます。双方向のコミュニケーションを図り基本的理解を深めるため、授業の内容について感想や積極的な質問の提出をもとめることがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	総合商社の企業活動と「企業の社会的責任 (CSR)」 イントロダクション	イントロダクション
第 2 回	「企業」とは何か その①	企業とは、また会社とは何かにつき、学習します。 「第三版 商社活動と企業の社会的責任」 まえがき、序章、第 1-2 章、あとがき
第 3 回	「企業」とは何か その②	総合商社の事業活動を題材に企業の社会的責任 (CSR) について基本的知識を得ます。
第 4 回	「企業」をどうとらえるか 演習	企業の社会的責任 (CSR) について基本的知識を得ます。又、総合商社の本業とのかかわりから CSR をとらえます。SDGs、ESG、CSR、CSV、サステナビリティ、トリプルボトムラインについて理解に努めます。ステークホルダーとは何か、理解に努めます。
第 5 回	企業経営入門	企業経営の基軸であり且つ CSR 経営を支えるコーポレート・ガバナンスと内部統制について、概念の基本を理解します。企業経営の枠組みについて基本的知識を得ます。「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第 4 章
第 6 回	地球環境問題 演習	「地球環境問題」及び「リスクとは」何か。環境問題の歴史及び環境リスクを概括し、環境・CSR リスクについて基本的理解に努めます。 「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第 3 章

第 7 回	事業リスクとリスク・マネジメント	環境・CSR リスク、事業リスク等総合商社の事業活動を例にリスク管理の考え方と対応について、又、「リスクとは何か」について基本的知識を得ます。「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第 6 章
第 8 回	総合商社活動と企業の社会的責任 (CSR) その①	事例研究 三井物産サステナビリティ・レポートを、「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から参照することで理解に努めます。
第 9 回	総合商社活動と企業の社会的責任 (CSR) その②	事例研究 三井物産サステナビリティ・レポートを、「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から参照することで理解に努めます。「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から、気候変動問題の認識とあるべき対応について基本的な知識を得られるようにします。
第 10 回	「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から、気候変動問題への対応と考え方について 演習	「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第 10 章
第 11 回	「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から、重要な課題と考え方について 演習	「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から、人権と労働慣行等について基本的な知識を得られるようにします。「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第 9 章
第 12 回	「課題」について、自ら調べ、論理的に考えまとめたものを、自分の言葉で発表します。 その①	個別のテーマについて、自ら調べ、論理的に考えまとめたものを、自分の言葉で説得力を持って伝えられるように学習します。
第 13 回	「課題」について、自ら調べ、論理的に考えまとめたものを、自分の言葉で発表します。 その②	個別のテーマについて、自ら調べ、論理的に考えまとめたものを、自分の言葉で説得力を持って伝えられるように学習します。
第 14 回	総合商社の企業活動と「企業の社会的責任 (CSR)」[まとめ]	グローバル活動が前提の事業運営と企業経営について概括し、「企業の社会的責任 (CSR)」についての理解を深められるようにします。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

翌週の授業テーマについて、あらかじめテキストを読み疑問点などを整理しておくようにして下さい。また、日経新聞等をグローバル経済把握のため、読むようにして下さい。その日の授業で学習したテーマについて、自身の立ち位置からの考え方や問題意識を整理するようにして下さい。本授業外の準備・復習時間は、少なくとも 4 時間/週とるようにして下さい。

【テキスト (教科書)】

テキスト (教科書)「第三版商社活動と企業の社会的責任」(儲けるだけでは破壊につながる) (図書文化社、小林一夫著、2021 年 10 月 1 日刊、第 3 版、1,600 円+税)

気候変動対応等資料の最新化している、第三版を使うようにして下さい。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：50%

平常点：50%

ディスカッションへの参加状況と報告を重視します。

その日の授業の内容について感想や質問の提出をもとめることがあります。提出された感想や質問には、必要に応じて次回授業のはじめに回答します。その際、授業の進行を踏まえた気付きにつながるものは、加対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

テキスト (教科書) を使います。

「企業の社会的責任」について、具体的事例から把握できるようにするため、授業の進行に見合うトピックスも取り上げます。

【学生が準備すべき機器他】

教室授業で必要に応じてスクリーン・DVD を使い講義を進めます。

【その他の重要事項】

受講者は日経新聞等を読み、経済社会情勢をできる限り幅広く把握しておくことを推奨します。

[Outline (in English)]

Introduction to Activities of General Trading Firms (Sogo-Shosha), and CSR (Corporate Social Responsibility)

Management based on a sound vision of CSR (Corporate Social Responsibility) is indispensable for every business. So far, most students have no job experience, in the real world. Thus, students will, at first, learn what a corporation is, and will learn how to view corporate social responsibility, not only from an individual point of view, but from the view point of a corporation. Students will also learn basic concepts of SDGs, Sustainable Development, ESG, and so forth.

In addition, students will learn typical business activities of General Trading Firms (Sogo-Shosha), their management, and the basic idea of risk avoidance.

Students will strive to study by themselves, think logically, compose reports, and learn through discussions how to communicate their ideas in their own words, with confidence.

Before/after each class, students will spend at least four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following;

- term-end examination 50%
- in class contribution 50%

MAN100FA

入門演習 (2019 年度以降入学者)

李 瑞雪

演習 1 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経営学の各専門領域の専門知識を勉強するための基礎を作り上げるのが、本授業の目的です。特定のテーマを見つけそれに対して必要な資料やデータを収集し、分析するための基本的なスキルを訓練します。経営学入門の教科書に加えて、基本的な企業情報・財務データ、各企業の新聞・雑誌記事、シンクタンクの報告書なども資料として用います。

【到達目標】

自らデータ、資料等を集め、事実関係を確認したりすることによって、企業のさまざまな問題の本質をより深く理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業では、企業経営に関わる特定のテーマを見つけ研究を進める場合に、どのように取り組んだらよいかについて1つのアプローチを提示します。研究のために必要な文献やデータの入手方法を説明し、具体的な練習も行います。レポートの書き方とプレゼン方法を学習したうえで、各自1つの企業についてレポートを作成しプレゼンを行ってもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	経営学の体系、本授業の内容、進め方について案内します。
第 2 回	企業経営とは	現代社会における企業の役割とあり方について確認し、企業経営に必要な資源について理解を深めます。
第 3 回	図書館ガイダンス	図書館ガイダンス実施。文献の調べ方、入手方法について学びます。
第 4 回	文献の調べ方、入手方法の練習	与えられた課題レポートを作成するために、どのように適切な参考文献を見つけるかについて練習します。
第 5 回	企業の戦略	戦略論の基本を学びます。
第 6 回	企業の組織	組織論の基本を学びます。
第 7 回	企業の財務諸表	財務諸表から企業の規模や業績などを読み取る方法を学びます。
第 8 回	企業研究 (テーマ選定)	各自、研究対象の企業を選定し、企業研究をスタートします。
第 9 回	企業研究 (文献の収集と整理)	企業研究のために、資料と文献の収集と整理を行います。RefWorks の使い方を学びます。
第 10 回	企業研究 (エクセル図表の作法)	Excel で入手したデータを目的に沿って図表に加工する基本的な方法を学びます。
第 11 回	企業研究 (パワーポイントの作法)	自らの研究で発見したことをパワーポイントのスライドにまとめる基本的な方法を学びます。
第 12 回	企業研究 (レポート作法)	レポートの基本的な作法を学びます。
第 13 回	企業研究 (プレゼン)	パワーポイントを使って、各自の企業研究の内容を発表します。
第 14 回	企業研究 (プレゼン)	パワーポイントを使って、各自の企業研究の内容を発表します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で指示した事項 (リーディングを含めて) について次週までに準備をしておくこと。授業で学んだ作法を授業後に必ず復習・練習すること。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。なお、毎回の授業に各自パソコンを用意して教室に持ち込む。

【テキスト (教科書)】

学習支援システムで適宜資料を配布します。

【参考書】

『経営学入門』武石彰著、岩波書店、2021 年 4 月
法政大学開発支援機構 FD 推進センター編『法政大学学習支援のハンドブック』
その他のものについては、授業中に必要に応じて案内します。

【成績評価の方法と基準】

出席点、発表点、および提出されたレポートによって総合的に評価します。どの程度積極的に演習に参加したかが評価の際の重要なポイントになります。発表点 (30%)、レポート点 (30%) 最終的な試験 (40%) で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初回開講であるため、学生からの意見は特に受けていません。

【学生が準備すべき機器他】

各自パソコンを教室に持ってきてください。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to create a foundation for studying in each specialized area of business administration. Students will be trained in basic skills for finding a specific topic, collecting and analyzing the necessary information and data for that topic. In addition to introductory textbooks on management, basic corporate information and financial data, newspaper and magazine articles on certain companies, reports by thinktanks will be used as materials. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report(30%), term-end examination(40%), and in-class contribution(30%).

MAN100FA

入門演習 (2019 年度以降入学者)

長谷川 翔平

演習 1 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業のテーマは学習スキルとアントレプレナーシップ (起業家精神) の習得である。

大学では、高校での受身的な授業とは異なり、学生が主体的に参加する授業も行われている。例えば、テキストを読んで内容を報告資料にまとめ、発表・議論する。または、企業や課題についての調査を行い、その結果を発表したり、レポートを作成したりする。本授業では、ベンチャー企業経営とアントレプレナーシップを学ぶ過程で、大学での学習に必要なスキルを習得することを目的とする。特に、課題に対して解決策やアイデアを出し、討論する力は、大学だけでなく、卒業後社会に出てからも必要となる。

学習スキルの習得と同時に、アントレプレナーシップを題材とすることで、受講生にはキャリアの 1 つとしての起業を知ってもらいたい。企業の利益の源泉は、顧客のニーズを満たすことであり、ベンチャー企業は新しいビジネスモデルにより、それを達成している。近年では、インターネット・サービスで多くのベンチャー起業が行われており、インターネットにはビジネスチャンスがまだ多く埋まっている。大きな成功を取めた Google や Facebook も元々は学生アントレプレナーによるベンチャー企業だった。本授業では、起業を成功させるためには何が必要かについて基礎的な知識も学ぶ。

【到達目標】

- ・文献を読み、簡潔にまとめることができる
- ・文献やウェブサイトから必要な情報を見つけることができる
- ・調査結果を資料にまとめ、プレゼンテーションできる
- ・ディスカッションの基礎を身につける
- ・アントレプレナーシップを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講者を数人のグループに分け、グループ単位を基本とした授業を行う。1 回の授業は以下のように進める。

【学期前半】

- ①テキストの輪読：起業のための入門的な知識について書かれた、アントレプレナーシップに関するテキストの輪読を行う。報告担当に割り当てられたグループは、資料を作成してテキスト内容の要約・発表を行う。
- ②課題討論：テキスト内容に関連する課題についてグループ内でアイデアを出し合い、討論を行う。その後、意見をまとめて発表する。

【学期後半】

企業調査報告：興味のある企業を 1 社選び、ビジネスモデルや市場におけるポジションなどを調査し、報告する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 (テキスト 1 章) の説明
第 2 回	報告資料の作り方	テキスト 2 章を例に文献の読み方と報告資料の作り方について学ぶ
第 3 回	図書館ガイダンス	大学図書館の使い方と情報収集の方法を学ぶ
第 4 回	テキスト 3 章：事業機会を評価してみよう	起業プロセスにおける事業機会の位置づけと事業機会の評価
第 5 回	テキスト 4 章：アイデアを育ててみよう	事業機会とアイデアの違い、アイデアの発想法
第 6 回	テキスト 5 章：収益の仕組みを考えよう	ビジネスモデルと収益・コスト
第 7 回	テキスト 6 章：どのように買ってもらおうか	商品やサービスの売り方
第 8 回	テキスト 7 章：あなたの商品やサービスが選ばれる理由を考えよう	消費者の商品やサービスの選択基準とライバルとの差別化方法
第 9 回	テキスト 11 章：お金を調達する	資金調達とベンチャー・キャピタル
第 10 回	テキスト 12 章：お金の流れを管理しよう	キャッシュフローと企業の成長段階
第 11 回	企業調査報告①	興味のある企業のビジネスモデルを調査して発表する
第 12 回	企業調査報告②	興味のある企業のビジネスモデルを調査して発表する
第 13 回	企業調査報告③	興味のある企業のビジネスモデルを調査して発表する

第 14 回 企業調査報告④

興味のある企業のビジネスモデルを調査して発表する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・あらかじめテキストを読み、内容を理解し、疑問点等は授業で質問できるようにまとめておく
 - ・報告担当グループは発表資料を用意する
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

忽那ほか『アントレプレナーシップ入門 新版』有斐閣 (2022 年)

【参考書】

新聞や経済ニュースを見ることを勧める

【成績評価の方法と基準】

- ・報告・議論への参加 (40%)
- ・平常点 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

資料の作成・発表時に Word や PowerPoint などのオフィスソフトが必要

【その他の重要事項】

受講希望者が多い場合、選考を行う可能性があります。受講希望者は必ず初回授業に参加して下さい。

【関連科目】

すべての基礎になる科目

【Outline (in English)】

The aim of this course is the acquisition of academic skills through the study of entrepreneurship. The goals of this course are to develop the academic skills needed for university studies, such as discussion and presentation skills, and acquire an entrepreneurial mindset. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (40%) and class participation (60%).

MAN100FA

入門演習 (2019 年度以降入学者)

鈴木 真奈美

演習 1 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では主に4つのテーマについて学習します。1) 大学における学習法について。2) 大学における研究手法について。3) 自分のこれまでの人生について反省し、将来について考察し、計画すること。4) 国際語としての英語コミュニケーション能力の向上。

【到達目標】

この授業では、まず今までのライフスタイルについて見直し、4年間の大学生活をいかに充実したものにしていくかについて考察します。

効果的な学習技能 (シャドウイング、要約法、動機づけ)、時間管理、健康維持、社会人としてのあり方やマナー (コンピューター、インターネットの活用法、英語や日本語によるメールや E メール) の書き方、コミュニケーション能力、礼儀作法など)、またキャリアの探求について、関連資料や文献を読んだり、議論したり、自分の考えを文章に書くことなどを、実践を通して学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

英語コミュニケーション能力の向上のためなるべく授業は英語で行う予定です (授業言語に関してはみなさんと相談しながら決定します)。文献等は日本語で書かれたものも使用します。またペアワークやグループワークを通じて共同学習を行います。より良い学習環境の構築を目指し、積極的な授業の参加が求められます。課題等に関しては個々にあるいはクラス内でフィードバックをします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 目標設定 大学生活について	I will introduce this course to you. You will set your goals for this semester and this seminar course. I will provide you with the information about Hosei University.
第 2 回	自己紹介 手紙の書き方	You will introduce yourself to the class. You will learn how to write a card in English.
第 3 回	論文等の読み方 シャドウイングと要約 I	You will learn reading strategies. You will read an article about shadowing and summarizing.
第 4 回	リーディングストラテジーの復習 シャドウイングと要約 II	You will review reading strategies, such as skimming. You will watch a DVD about Shadowing and Summarizing.
第 5 回	文献検索 期末レポートと発表のテーマ	You will learn how to search literature on a theme of your study. You will decide a theme for your term paper and select three books about the theme.
第 6 回	シャドウイングと要約の復習 ディベートの準備	You will review Shadowing and Summarizing. You will learn how to debate and prepare for your debate with your team members.
第 7 回	ディベート インタビュー調査	You will have a debate. You will conduct interviews and prepare for the report.
第 8 回	論文の書き方 インタビューレポート 期末レポートの要約	You will learn writing strategies. You will report the interview in class. You will show the outline of your term paper.
第 9 回	ライティングストラテジーの復習 ブックレビュー (書評) の仕方	You will review writing strategies, such as the organization of English writing, topic sentences, supporting sentences, and thesis statement. You will discuss the assigned book.

第 10 回	Dream Map Lifeline Chart 研究方法 期末レポート・発表の準備	You will make a dream map and a lifeline chart and reflect on your life. You will learn different types of research methodologies. You will prepare for your term paper and presentation.
第 11 回	プレゼンテーション	You will submit your term paper. You will make a presentation.
第 12 回	プレゼンテーション	You will make a presentation.
第 13 回	ディスカッション	You will discuss your favorite topics with your classmates.
第 14 回	復習 振り返り	You will review what you learn in this semester. You will reflect on your academic performance this semester. You will set your goals for the next academic year.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

You are expected:

- 1) to read the assigned reading before the class.
 - 2) to look up words you don't know in the dictionary when you read reading assignments before the class.
 - 3) to watch or listen to an English program regularly
 - 4) to do assignments, submit them, and meet the deadline
- University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

外山 滋比古 (1986) 『思考の整理学』 ちくま文庫 (図書館での借可用) handouts

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、課題 (10%)、ディベート (必須、10%)、プレゼンテーション (必須、20%)、期末レポート (必須、40%)

*If you have four absences per semester without permission, do not participate in a debate, do not make a presentation, or do not submit a term paper, you cannot get a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

なるべく受講して下さったみなさんの意見も取り入れながら授業を展開していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail, Computer (Word and Power Point)

【その他の重要事項】

1) Although some of you may not have enough confidence in your English, your effort to learn English is important in this class. I hope that you will come to like studying English as an international language and communicate with people all over the world in English.

2) Good manners and collaborative learning are important in this class. You need to contact me when you are absent from class. You will do a lot of pair work and group work. I would like you to make a good learning community with your classmates and me.

3) Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

【関連科目】

全ての科目に関連する入門科目です。

【Outline (in English)】

Course outline:

There are four themes of this course: 1) Development of your study skills for learning in university; 2) Learning research methods; 3) Reflection on your life and plan for your future life; and 4) Development of your English communication skills.

Objectives:

This course aims at four goals: 1) To improve study skills; 2) To learn research methodologies; 3) To have opportunities to think of yourself and develop yourself for your future career, and 4) To develop your English communication skills.

Learning activities outside of classroom:

You are expected:

- 1) to read the assigned reading before the class.

2) to look up words you don't know in the dictionary when you read reading assignments before the class.

3) to watch or listen to an English program regularly

4) to do assignments, submit them, and meet the deadline.

The standard preparation and review time for each class is 2 hours.

Grading Criteria:

class participation (20%), assignments (10%), debate (10%), presentations (20%), and final report(40%)

*If you have four absences per semester without permission, do not participate in a debate, do not make a presentation , or do not submit a final report, you cannot get a credit for this course.

MAN100FA

入門演習（2018年度以前入学者）

稲垣 保弘

選択_演習 1年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会社、組織、マネジメント、戦略といった経営学の中心テーマについて基本的な考え方や知識に慣れてもらいます。そのプロセスを通じて、経営学に関する文献の読み方、理解の仕方、そして論理的な文章の書き方といった経営学部の学生に求められるスキルも身につけます。

1年生の科目なので、使用する論文などはそれほど高度な専門知識を必要としないものになります。

【到達目標】

経営学（特に会社制度、戦略、事業、組織、マネジメントといった領域）の基本的な知識と考え方を身につけて、2年生からの専門科目の学習に活かせるようになること。また、経営関係の文献の読み方、内容を要約してレジュメにまとめるノウハウ、発表の仕方などを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講者数にもよりますが、最初の数回は講義形式で、まず理解してほしいこと（経営学の基本的な知識、経営学の基本的な専門書や論文の読み方、理解の仕方、レジュメの書き方など）について説明します。

そのあと、履修者にテキストの章、論文などについてレジュメを作成し、内容を発表してもらうという形式を予定しています。

詳細な内容や分担は履修者の数が確定してから決めることになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、春（あるいは秋）学期全体の授業の流れなどについて説明します。
第2回	テキストについて	授業で使用するテキスト、論文、英文記事などの概要説明。
第3回	レポート、レジュメなどの作成について	レジュメ、レポートの作成についての基本的な知識、方法などを説明します。
第4回	経営学とはどういうものかⅠ	経営学の重要分野について基本的な内容を説明します。
第5回	経営学とはどういうものかⅡ	経営学の重要分野について基本的な内容を説明します。
第6回	テキストの輪読Ⅰ	テキストを一章ずつ分担して、レジュメの作成、発表してもらいます。そのあと、補足的な説明を行ったり、ディスカッションに適するテーマがあった場合には、全体ないしグループでのディスカッションも行います。
第7回	テキストの輪読Ⅱ	レジュメの作成と発表。補足的な説明。ディスカッション。
第8回	テキストの輪読Ⅲ	レジュメの作成と発表。補足的な説明。ディスカッション。
第9回	テキストの輪読Ⅳ	レジュメの作成と発表。補足的な説明。ディスカッション。
第10回	比較的やさしい論文の検討Ⅰ	レジュメの作成と発表。補足的な説明。特に論文の読み方、理解の仕方、背景にある理論の説明など。論文のテーマによってはディスカッションも。
第11回	比較的やさしい論文の検討Ⅱ	レジュメの作成と発表。補足的な説明。場合によってはディスカッションも。
第12回	英語文献の検討Ⅰ	経営学関係の英文を読んで、基本的な専門用語（英語）をマスターしてもらいます。こちらからの解説が中心です。
第13回	英語文献の検討Ⅱ	履修者の英語力によっては、内容を説明してもらうことも。
第14回	まとめ	半期の授業のまとめです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、論文、英語文献の予習、復習。詳細は授業で指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

経営学の基本的な本。有名な論文。アメリカやイギリスの雑誌、新聞記事など。詳細はオリエンテーションのときに。なるべくコピーを配布する予定です。

【参考書】

『組織の解釈学』白桃書房、2002。

『経営の解釈学』白桃書房、2013。

この科目に限らず、担当教員の著書を図書館でざっと目次だけでも見ておくのはいいことです。

その他、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験はやらずに、平常点とレポートで評価する予定ですが、受講者数によって変更になるかもしれません。詳細はオリエンテーションで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も対面授業になるので、オンライン形式とは違った成果が期待できます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

履修する意思が少しでもあるのでしたら、初回の授業には出てください。

【関連科目】

おそらく経営学部のほとんどの科目の基礎になると思います。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to business administration. The key concepts of the course include Company, Organization, and Management. Students will learn the basis of these areas through reading books and articles which describe basic theories and actual company cases. Through this process, students will also learn logical and creative way of thinking.

* Grading Criteria : Class contribution (discussion, presentation, term report)

MAN100FA

入門演習 (2018年度以前入学者)

稲垣 保弘

選択_演習 1年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

会社、組織、マネジメント、戦略といった経営学の中心テーマについて基本的な考え方や知識に慣れてもらいます。そのプロセスを通じて、経営学に関する文献の読み方、理解の仕方、そして論理的な文章の書き方といった経営学部の学生に求められるスキルも身につけます。

1年生の科目なので、使用する論文などはそれほど高度な専門知識を必要としないものになります。

【到達目標】

経営学(特に会社制度、戦略、事業、組織、マネジメントといった領域)の基本的な知識と考え方を身につけて、2年生からの専門科目の学習に活かせるようになること。また、経営関係の文献の読み方、内容を要約してレジュメにまとめるノウハウ、発表の仕方などを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講者数にもよりますが、最初の数回は講義形式で、まず理解してほしいこと(経営学の基本的な知識、経営学の基本的な専門書や論文の読み方、理解の仕方、レジュメの書き方など)について説明します。

そのあと、履修者にテキストの章、論文などについてレジュメを作成し、内容を発表してもらうという形式を予定しています。

詳細な内容や分担は履修者の数が確定してから決めることになります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、春(あるいは秋)学期全体の授業の流れなどについて説明します。
第2回	テキストについて	授業で使用するテキスト、論文、英文記事などの概要説明。
第3回	レポート、レジュメなどの作成について	レジュメ、レポートの作成についての基本的な知識、方法などを説明します。
第4回	経営学とはどういうものかI	経営学の重要分野について基本的な内容を説明します。
第5回	経営学とはどういうものかII	経営学の重要分野について基本的な内容を説明します。
第6回	テキストの輪読I	テキストを一章ずつ分担して、レジュメの作成、発表してもらいます。そのあと、補足的な説明を行ったり、ディスカッションに適するテーマがあった場合には、全体ないしグループでのディスカッションも行います。
第7回	テキストの輪読II	レジュメの作成と発表。補足的な説明。ディスカッション。
第8回	テキストの輪読III	レジュメの作成と発表。補足的な説明。ディスカッション。
第9回	テキストの輪読IV	レジュメの作成と発表。補足的な説明。ディスカッション。
第10回	比較的やさしい論文の検討I	レジュメの作成と発表。補足的な説明。特に論文の読み方、理解の仕方、背景にある理論の説明など。論文のテーマによってはディスカッションも。
第11回	比較的やさしい論文の検討II	レジュメの作成と発表。補足的な説明。場合によってはディスカッションも。
第12回	英語文献の検討I	経営学関係の英文を読んで、基本的な専門用語(英語)をマスターしてもらいます。こちらからの解説が中心です。
第13回	英語文献の検討II	履修者の英語力によっては、内容を説明してもらうことも。
第14回	まとめ	半期の授業のまとめです。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

テキスト、論文、英語文献の予習、復習。詳細は授業で指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト(教科書)】

経営学の基本的な本。有名な論文。アメリカやイギリスの雑誌、新聞記事など。詳細はオリエンテーションのときに。なるべくコピーを配布する予定です。

【参考書】

『組織の解釈学』白桃書房、2002。

『経営の解釈学』白桃書房、2013。

この科目に限らず、担当教員の著書を図書館でざっと目次だけでも見ておくのはいいことです。

その他、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験はやらずに、平常点とレポートで評価する予定ですが、受講者数によって変更になるかもしれません。詳細はオリエンテーションで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も対面授業になるので、オンライン形式とは違った成果が期待できます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

履修する意思が少しでもあるのでしたら、初回の授業には出てください。

【関連科目】

おそらく経営学部のほとんどの科目の基礎になると思います。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to business administration. The key concepts of the course include Company, Organization, and Management. Students will learn the basis of these areas through reading books and articles which describe basic theories and actual company cases. Through this process, students will also learn logical and creative way of thinking.

* Grading Criteria : Class contribution (discussion, presentation, term report)

MAN100FA

入門演習（2018年度以前入学者）

工藤 悟志

選択_演習 1年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、少人数の演習の形式で授業をおこないます。本講義の目的は、①経営学を俯瞰し、それぞれの専門分野でどのような研究がされているのか、その概要を理解すること、②アカデミック・スキルといわれる、大学で学ぶため、またはそれを発信するために必要な基礎技術について学びます。

経営学の俯瞰については、おもな経営学の専門分野である経営戦略、経営組織、人的資源管理、技術経営、イノベーション・マネジメント、国際経営、経営史などにおける代表的な理論の理解、実際の企業のケースや当該分野の学術論文を読み、それらについてディスカッションをおこない理解を深めます。今後、みなさんの経営学の探求のきっかけにして欲しいと思います。

アカデミック・スキルは、具体的には、情報収集を適切に効率的にするための技術、アンケートやインタビュー等の調査を企画し、実施できる技術、レポートや論文を執筆して発表することができる技術です。みなさんにこの技術を身に付ける準備をして欲しいと思います。論理的思考力や批判的思考力は、社会に出て仕事をするうえで非常に役に立ちます。本講義を受講することによって、みなさんが明確にアカデミック・スキルを意識し、身に付けていくためのきっかけとなることを期待します。

【到達目標】

- ・経営学を俯瞰的に理解できる
- ・アカデミック・スキルを理解し、意識してスキルアップできる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

経営学を俯瞰的に理解するために、代表的なその分野の理論を解説する授業と、その分野のケースや学術論文を読んで、ディスカッションをする授業をおこないます。アカデミック・スキルに関しては、当該文献・資料を読み、理論を理解したあとに、その演習をおこなうこともあります。

なお、本講義に関する連絡事項や課題の掲載・提出は、学習支援システムを通じておこないます。特に第1回の講義はZoomを利用したオンライン講義です。その連絡も学習支援システムに掲載します。受講希望者は、必ず学習支援システムを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業の進め方 ・レジュメの作成・提出について
第2回	経営学を俯瞰する①	企業 企業の本質 経営戦略
第3回	経営学を俯瞰する②	経営組織 人的資源管理
第4回	経営学を俯瞰する③	イノベーション 製品・サービスの開発
第5回	経営学を俯瞰する④	国際経営
第6回	経営学を俯瞰する⑤	経営史 産業史
第7回	アカデミック・スキル①	アカデミック・スキルとは 講義を聞いてノートをとる
第8回	アカデミック・スキル②	情報収集の基礎
第9回	アカデミック・スキル③	本を読む (クリティカル・リーディングの手法)
第10回	アカデミック・スキル④	情報整理
第11回	アカデミック・スキル⑤	研究成果の発表
第12回	アカデミック・スキル⑥	プレゼンテーションのやり方
第13回	アカデミック・スキル⑦	論文・レポートの執筆
第14回	プレゼンテーションの実践	プレゼンテーションをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は、講義の文献・資料等を事前に読み、レジュメの作成を求めます。また、興味のある企業のホームページ（企業概要、事業内容、IR情報など）を見て、企業について調査することを推奨します。

復習は、講義の文献・資料等を読み直し、復習をおこなうことが求められます。それにとまなう、演習も求めることがあります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しません。詳細はガイダンスで説明します。

【参考書】

- ・入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社、2019。
- ・尾崎弘之『新たなる覇者の条件』日経 BP、2018。
- ・大野耐一『トヨタ生産方式』ダイヤモンド社、1978。
- ・藤本隆宏、新宅純二郎、青島矢一『日本のものづくりの底力』東洋経済、2015。
- ・太田裕子『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ』東京図書、2019。
- ・高橋順一、大淵憲一、渡辺文夫『人間科学研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版、2011。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への貢献など）：50%

レジュメの作成・発表：50%

*欠席が4回を超えると、原則として単位取得不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、中小企業論Ⅰ/Ⅱ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営情報論Ⅰ/Ⅱなど

【Outline (in English)】

This course will be conducted in the form of a small number of seminars. The objectives of this lecture are to (1) understand the overview of what kind of research is being conducted in the specialized field of business administration, and (2) understand academic skills and improve your skills with awareness.

The evaluations are (1) 50% of the class participation, and (2) 50% of the reaction paper (in-class assignments)

MAN100FA

入門演習 (2018年度以前入学者)

工藤 悟志

選択_演習 1年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は、少人数の演習の形式で授業をおこないます。本講義の目的は、①経営学を俯瞰し、それぞれの専門分野でどのような研究がされているのか、その概要を理解すること、②アカデミック・スキルといわれる、大学で学ぶため、またはそれを発信するために必要な基礎技術について学びます。

経営学の俯瞰については、おもな経営学の専門分野である経営戦略、経営組織、人的資源管理、技術経営、イノベーション・マネジメント、国際経営、経営史などにおける代表的な理論の理解、実際の企業のケースや当該分野の学術論文を読み、それらについてディスカッションをおこない理解を深めます。今後、みなさんの経営学の探求のきっかけにして欲しいと思います。

アカデミック・スキルは、具体的には、情報収集を適切に効率的にするための技術、アンケートやインタビュー等の調査を企画し、実施できる技術、レポートや論文を執筆して発表することができる技術です。みなさんにこの技術を身に付ける準備をして欲しいと思います。論理的思考力や批判的思考力は、社会に出て仕事をするうえで非常に役に立ちます。本講義を受講することによって、みなさんが明確にアカデミック・スキルを意識し、身に付けていくためのきっかけとなることを期待します。

【到達目標】

- ・経営学を俯瞰的に理解できる
- ・アカデミック・スキルを理解し、意識してスキルアップできる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

経営学を俯瞰的に理解するために、代表的なその分野の理論を解説する授業と、その分野のケースや学術論文を読んで、ディスカッションをする授業をおこないます。アカデミック・スキルに関しては、当該文献・資料を読み、理論を理解したあとに、その演習をおこなうこともあります。

なお、本講義に関する連絡事項や課題の掲載・提出は、学習支援システムを通じておこないます。特に第1回の講義はZoomを利用したオンライン講義です。その連絡も学習支援システムに掲載します。受講希望者は、必ず学習支援システムを確認してください。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業の進め方 ・レジュメの作成・提出について
第2回	経営学を俯瞰する①	企業 企業の本質 経営戦略
第3回	経営学を俯瞰する②	経営組織 人的資源管理
第4回	経営学を俯瞰する③	イノベーション 製品・サービスの開発
第5回	経営学を俯瞰する④	国際経営
第6回	経営学を俯瞰する⑤	経営史 産業史
第7回	アカデミック・スキル①	アカデミック・スキルとは 講義を聞いてノートをとる
第8回	アカデミック・スキル②	情報収集の基礎
第9回	アカデミック・スキル③	本を読む (クリティカル・リーディングの手法)
第10回	アカデミック・スキル④	情報整理
第11回	アカデミック・スキル⑤	研究成果の発表
第12回	アカデミック・スキル⑥	プレゼンテーションのやり方
第13回	アカデミック・スキル⑦	論文・レポートの執筆
第14回	プレゼンテーションの実践	プレゼンテーションをする

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

予習は、講義の文献・資料等を事前に読み、レジュメの作成を求めます。また、興味のある企業のホームページ(企業概要、事業内容、IR情報など)を見て、企業について調査することを推奨します。

復習は、講義の文献・資料等を読み直し、復習をおこなうことが求められます。それにとまなう、演習も求めることがあります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

指定しません。詳細はガイダンスで説明します。

【参考書】

- ・入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社、2019。
- ・尾崎弘之『新たなる覇者の条件』日経 BP、2018。
- ・大野耐一『トヨタ生産方式』ダイヤモンド社、1978。
- ・藤本隆宏、新宅純二郎、青島矢一『日本のものづくりの底力』東洋経済、2015。
- ・太田裕子『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ』東京図書、2019。
- ・高橋順一、大淵憲一、渡辺文夫『人間科学研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版、2011。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業への貢献など)：50%

レジュメの作成・発表：50%

*欠席が4回を超えると、原則として単位取得不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

経営戦略論 I/II、経営管理論 I/II、マーケティング論 I/II、戦略的意思決定論 I/II、技術管理論 I/II、製品開発論 I/II、国際経営戦略論 I/II、中小企業論 I/II、日本経営論 I/II、経営情報論 I/II など

【Outline (in English)】

This course will be conducted in the form of a small number of seminars. The objectives of this lecture are to (1) understand the overview of what kind of research is being conducted in the specialized field of business administration, and (2) understand academic skills and improve your skills with awareness.

The evaluations are (1) 50% of the class participation, and (2) 50% of the reaction paper (in-class assignments)

MAN100FA

入門演習 (2018 年度以前入学者)

小林 一夫

選択_演習 1 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業の社会的責任 (CSR) に軸をおいた健全なビジョンに基づく事業活動をおこなうことが、今日の企業の経営には必須です。学生の皆さんは実社会での実業経験がまだないことを踏まえて、最初に「企業とは何か」をあらためて学習します。次に、地球環境とグローバル社会をとらえた企業経営のあり方について、基本的見方とあるべき問題意識をもてるように学習します。自ら調べ、ディスカッションを通して自らの見方や考えを自分の言葉で伝えられるようになることを目標として学習します。

【到達目標】

- 「企業とは何か」につき基本的な知識を得、理解につとめます。
- 企業の立ち位置から社会的責任をどのようにとらえるか、幅広く学習します。
- グローバルを舞台とする総合商社の現実のリスク対応事例等を学び、企業活動と「企業の社会的責任 (CSR)」について、基本的な理解に努めます。
- 自ら調べ、ディスカッションを通して自らの見方や考えを自分の言葉で伝えることができるように学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

学部方針にそい 初回の授業は Zoom で行います。学習支援システム (Hoppii) の「お知らせ」で Zoom URL を連絡します。

第 2 回目以降は教室で行い、講義と演習 (ディスカッションと発表の機会) を組み合わせて進めます。

「企業とは何か」「社会的責任」「グローバル社会」「地球環境」などテーマごとに、様々な見方や考え方があり得ます。自ら調べ考えたことをディスカッションを通して発表することで、理解を深められるように学習します。初回-第 3 回は「企業とは何か」について学習します。第 6 回-7 回目は、三井物産サステナビリティ・レポート等を参照し進めます。双方向のコミュニケーションを図り基本的理解を深めるため、授業の内容について感想や積極的な質問の提出をもとめることがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	総合商社の企業活動と「企業の社会的責任 (CSR)」 イントロダクション	イントロダクション
第 2 回	「企業」とは何か その①	企業とは、また会社とは何かにつき、学習します。 「第三版 商社活動と企業の社会的責任」 まえがき、序章、第 1-2 章、あとがき
第 3 回	「企業」とは何か その②	総合商社の事業活動を題材に企業の社会的責任 (CSR) について基本的知識を得ます。
第 4 回	「企業」をどうとらえるか 演習	企業の社会的責任 (CSR) について基本的知識を得ます。又、総合商社の本業とのかかわりから CSR をとらえます。SDGs、ESG、CSR、CSV、サステナビリティ、トリプルボトムラインについて理解に努めます。ステークホルダーとは何か、理解に努めます。
第 5 回	企業経営入門	企業経営の基軸であり且つ CSR 経営を支えるコーポレート・ガバナンスと内部統制について、概念の基本を理解します。企業経営の枠組みについて基本的知識を得ます。「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第 4 章
第 6 回	地球環境問題 演習	「地球環境問題」及び「リスクとは」何か。環境問題の歴史及び環境リスクを概括し、環境・CSR リスクについて基本的理解に努めます。 「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第 3 章

第 7 回	事業リスクとリスク・ マネジメント	環境・CSR リスク、事業リスク等総合商社の事業活動を例にリスク管理の考え方と対応について、又、「リスクとは何か」について基本的知識を得ます。「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第 6 章
第 8 回	総合商社活動と企業の社会的責任 (CSR) その①	事例研究 三井物産サステナビリティ・レポートを、「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から参照することで理解に努めます。
第 9 回	総合商社活動と企業の社会的責任 (CSR) その②	事例研究 三井物産サステナビリティ・レポートを、「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から参照することで理解に努めます。「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から、気候変動問題の認識とあるべき対応について基本的な知識を得られるようにします。
第 10 回	「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から、気候変動問題への対応と考え方について 演習	「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第 10 章
第 11 回	「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から、重要な課題と考え方について 演習	「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から、人権と労働慣行等について基本的な知識を得られるようにします。「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第 9 章
第 12 回	「課題」について、自ら調べ、論理的に考えまとめたものを、自分の言葉で発表します。 その①	個別のテーマについて、自ら調べ、論理的に考えまとめたものを、自分の言葉で説得力を持って伝えられるように学習します。
第 13 回	「課題」について、自ら調べ、論理的に考えまとめたものを、自分の言葉で発表します。 その②	個別のテーマについて、自ら調べ、論理的に考えまとめたものを、自分の言葉で説得力を持って伝えられるように学習します。
第 14 回	総合商社の企業活動と「企業の社会的責任 (CSR)」[まとめ]	グローバル活動が前提の事業運営と企業経営について概括し、「企業の社会的責任 (CSR)」についての理解を深められるようにします。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

翌週の授業テーマについて、あらかじめテキストを読み疑問点などを整理しておくようにして下さい。また、日経新聞等をグローバル経済把握のため、読むようにして下さい。その日の授業で学習したテーマについて、自身の立ち位置からの考え方や問題意識を整理するようにして下さい。本授業外の準備・復習時間は、少なくとも 4 時間/週とるようにして下さい。

【テキスト (教科書)】

テキスト (教科書)「第三版商社活動と企業の社会的責任」(儲けるだけでは破壊につながる) (図書文化社、小林一夫著、2021 年 10 月 1 日刊、第 3 版、1,600 円+税)

気候変動対応等資料の最新化している、第三版を使うようにして下さい。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：50%

平常点：50%

ディスカッションへの参加状況と報告を重視します。

その日の授業の内容について感想や質問の提出をもとめることがあります。提出された感想や質問には、必要に応じて次回授業のはじめに回答します。その際、授業の進行を踏まえた気付きにつながるものは、加対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

テキスト (教科書) を使います。

「企業の社会的責任」について、具体的事例から把握できるようにするため、授業の進行に見合うトピックスも取り上げます。

【学生が準備すべき機器他】

教室授業で必要に応じスクリーン・DVD を使い講義を進めます。

【その他の重要事項】

受講者は日経新聞等を読み、経済社会情勢をできる限り幅広く把握しておくことを推奨します。

[Outline (in English)]

Introduction to Activities of General Trading Firms (Sogo-Shosha), and CSR (Corporate Social Responsibility)

Management based on a sound vision of CSR (Corporate Social Responsibility) is indispensable for every business. So far, most students have no job experience, in the real world. Thus, students will, at first, learn what a corporation is, and will learn how to view corporate social responsibility, not only from an individual point of view, but from the view point of a corporation. Students will also learn basic concepts of SDGs, Sustainable Development, ESG, and so forth.

In addition, students will learn typical business activities of General Trading Firms (Sogo-Shosha), their management, and the basic idea of risk avoidance.

Students will strive to study by themselves, think logically, compose reports, and learn through discussions how to communicate their ideas in their own words, with confidence.

Before/after each class, students will spend at least four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following;

- term-end examination 50%
- in class contribution 50%

MAN100FA

入門演習 (2018 年度以前入学者)

小林 一夫

選択_演習 1 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業の社会的責任 (CSR) に軸をおいた健全なビジョンに基づく事業活動をおこなうことが、今日の企業の経営には必須です。学生の皆さんは実社会での実業経験がまだないことを踏まえて、最初に「企業とは何か」をあらためて学習します。次に、地球環境とグローバル社会をとらえた企業経営のあり方について、基本的見方とあるべき問題意識をもてるように学習します。自ら調べ、ディスカッションを通して自らの見方や考えを自分の言葉で伝えられるようになることを目標として学習します。

【到達目標】

- 「企業とは何か」につき基本的な知識を得、理解につとめます。
- 企業の立ち位置から社会的責任をどのようにとらえるか、幅広く学習します。
- グローバルを舞台とする総合商社の現実のリスク対応事例等を学び、企業活動と「企業の社会的責任 (CSR)」について、基本的な理解に努めます。
- 自ら調べ、ディスカッションを通して自らの見方や考えを自分の言葉で伝えることができるように学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

学部方針にそい 初回の授業は Zoom で行います。学習支援システム (Hoppii) の「お知らせ」で Zoom URL を連絡します。

第 2 回目以降は教室で行い、講義と演習 (ディスカッションと発表の機会) を組み合わせて進めます。

「企業とは何か」「社会的責任」「グローバル社会」「地球環境」などテーマごとに、様々な見方や考え方があり得ます。自ら調べ考えたことをディスカッションを通して発表することで、理解を深められるように学習します。

初回-第 3 回は「企業とは何か」について学習します。第 6 回-7 回目は、三井物産サステナビリティ・レポート等を参照し進めます。双方方向のコミュニケーションを図り基本的理解を深めるため、授業の内容について感想や積極的な質問の提出をもとめることがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	総合商社の企業活動と「企業の社会的責任 (CSR)」 イントロダクション	イントロダクション
第 2 回	「企業」とは何か その①	企業とは、また会社とは何かにつき、学習します。 「第三版 商社活動と企業の社会的責任」 まえがき、序章、第 1-2 章、あとがき
第 3 回	「企業」とは何か その②	総合商社の事業活動を題材に企業の社会的責任 (CSR) について基本的知識を得ます。
第 4 回	「企業」をどうとらえるか 演習	企業の社会的責任 (CSR) について基本的知識を得ます。又、総合商社の本業とのかかわりから CSR をとらえます。SDGs、ESG、CSR、CSV、サステナビリティ、トリプルボトムラインについて理解に努めます。ステークホルダーとは何か、理解に努めます。
第 5 回	企業経営入門	企業経営の基礎であり且つ CSR 経営を支えるコーポレート・ガバナンスと内部統制について、概念の基本を理解します。企業経営の枠組みについて基本的知識を得ます。「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第 4 章
第 6 回	地球環境問題 演習	「地球環境問題」及び「リスクとは」何か。環境問題の歴史及び環境リスクを概括し、環境・CSR リスクについて基本的理解に努めます。 「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第 3 章

第 7 回	事業リスクとリスク・マネジメント	環境・CSR リスク、事業リスク等総合商社の事業活動を例にリスク管理の考え方と対応について、又、「リスクとは何か」について基本的知識を得ます。「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第 6 章
第 8 回	総合商社活動と企業の社会的責任 (CSR) その①	事例研究 三井物産サステナビリティ・レポートを、「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から参照することで理解に努めます。
第 9 回	総合商社活動と企業の社会的責任 (CSR) その②	事例研究 三井物産サステナビリティ・レポートを、「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から参照することで理解に努めます。「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から、気候変動問題の認識とあるべき対応について基本的な知識を得られるようにします。
第 10 回	「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から、気候変動問題への対応と考え方について 演習	「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第 10 章
第 11 回	「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から、重要な課題と考え方について 演習	「企業の社会的責任 (CSR)」の観点から、人権と労働慣行等について基本的な知識を得られるようにします。「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第 9 章
第 12 回	「課題」について、自ら調べ、論理的に考えまとめたものを、自分の言葉で発表します。 その①	個別のテーマについて、自ら調べ、論理的に考えまとめたものを、自分の言葉で説得力を持って伝えられるように学習します。
第 13 回	「課題」について、自ら調べ、論理的に考えまとめたものを、自分の言葉で発表します。 その②	個別のテーマについて、自ら調べ、論理的に考えまとめたものを、自分の言葉で説得力を持って伝えられるように学習します。
第 14 回	総合商社の企業活動と「企業の社会的責任 (CSR)」[まとめ]	グローバル活動が前提の事業運営と企業経営について概括し、「企業の社会的責任 (CSR)」についての理解を深められるようにします。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

翌週の授業テーマについて、あらかじめテキストを読み疑問点などを整理しておくようにして下さい。また、日経新聞等をグローバル経済把握のため、読むようにして下さい。その日の授業で学習したテーマについて、自身の立ち位置からの考え方や問題意識を整理するようにして下さい。本授業外の準備・復習時間は、少なくとも 4 時間/週とるようにして下さい。

【テキスト (教科書)】

テキスト (教科書)「第三版商社活動と企業の社会的責任」(儲けるだけでは破壊につながる) (図書文化社、小林一夫著、2021 年 10 月 1 日刊、第 3 版、1,600 円+税)

気候変動対応等資料の最新化している、第三版を使うようにして下さい。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：50%

平常点：50%

ディスカッションへの参加状況と報告を重視します。

その日の授業の内容について感想や質問の提出をもとめることがあります。提出された感想や質問には、必要に応じて次回授業のはじめに回答します。その際、授業の進行を踏まえた気付きにつながるものは、加対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

テキスト (教科書) を使います。

「企業の社会的責任」について、具体的事例から把握できるようにするため、授業の進行に見合うトピックスも取り上げます。

【学生が準備すべき機器他】

教室授業で必要に応じスクリーン・DVD を使い講義を進めます。

【その他の重要事項】

受講者は日経新聞等を読み、経済社会情勢をできる限り幅広く把握しておくことを推奨します。

[Outline (in English)]

Introduction to Activities of General Trading Firms (Sogo-Shosha), and CSR (Corporate Social Responsibility)

Management based on a sound vision of CSR (Corporate Social Responsibility) is indispensable for every business. So far, most students have no job experience, in the real world. Thus, students will, at first, learn what a corporation is, and will learn how to view corporate social responsibility, not only from an individual point of view, but from the view point of a corporation. Students will also learn basic concepts of SDGs, Sustainable Development, ESG, and so forth.

In addition, students will learn typical business activities of General Trading Firms (Sogo-Shosha), their management, and the basic idea of risk avoidance.

Students will strive to study by themselves, think logically, compose reports, and learn through discussions how to communicate their ideas in their own words, with confidence.

Before/after each class, students will spend at least four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following;

- term-end examination 50%
- in class contribution 50%

MAN100FA

入門演習（2018年度以前入学者）

李 瑞雪

選択_演習 1年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学の各専門領域の専門知識を勉強するための基礎を作り上げるのが、本授業の目的です。特定のテーマを見つけそれに対して必要な資料やデータを収集し、分析するための基本的なスキルを訓練します。経営学入門の教科書に加えて、基本的な企業情報・財務データ、各企業の新聞・雑誌記事、シンクタンクの報告書なども資料として用います。

【到達目標】

自らデータ、資料等を集め、事実関係を確認したりすることによって、企業のさまざまな問題の本質をより深く理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業では、企業経営に関わる特定のテーマを見つけ研究を進める場合に、どのように取り組んだらよいかについて1つのアプローチを提示します。研究のために必要な文献やデータの入手方法を説明し、具体的な練習も行います。レポートの書き方とプレゼン方法を学習したうえで、各自1つの企業についてレポートを作成しプレゼンを行ってもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	経営学の体系、本授業の内容、進め方について案内します。
第2回	企業経営とは	現代社会における企業の役割とあり方について確認し、企業経営に必要な資源について理解を深めます。
第3回	図書館ガイダンス	図書館ガイダンス実施。文献の調べ方、入手方法について学びます。
第4回	文献の調べ方、入手方法の練習	与えられた課題レポートを作成するために、どのように適切な参考文献を見つけるかについて練習します。
第5回	企業の戦略	戦略論の基本を学びます。
第6回	企業の組織	組織論の基本を学びます。
第7回	企業の財務諸表	財務諸表から企業の規模や業績などを読み取る方法を学びます。
第8回	企業研究（テーマ選定）	各自、研究対象の企業を選定し、企業研究をスタートします。
第9回	企業研究（文献の収集と整理）	企業研究のために、資料と文献の収集と整理を行います。RefWorksの使い方学びます。
第10回	企業研究（エクセル図表の作法）	Excelで入手したデータを目的に沿って図表に加工する基本的な方法を学びます。
第11回	企業研究（パワーポイントの作法）	自らの研究で発見したことをパワーポイントのスライドにまとめる基本的な方法を学びます。
第12回	企業研究（レポート作法）	レポートの基本的な作法を学びます。
第13回	企業研究（プレゼン）	パワーポイントを使って、各自の企業研究の内容を発表します。
第14回	企業研究（プレゼン）	パワーポイントを使って、各自の企業研究の内容を発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指示した事項（リーディングを含めて）について次週までに準備をしておくこと。授業で学んだ作法を授業後に必ず復習・練習すること。本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。なお、毎回の授業に各自パソコンを用意して教室に持ち込む。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで適宜資料を配布します。

【参考書】

『経営学入門』武石彰著、岩波書店、2021年4月
法政大学開発支援機構FD推進センター編『法政大学学習支援のハンドブック』
その他のものについては、授業中に必要に応じて案内します。

【成績評価の方法と基準】

出席点、発表点、および提出されたレポートによって総合的に評価します。どの程度積極的に演習に参加したかが評価の際の重要なポイントになります。発表点（30%）、レポート点（30%）最終的な試験（40%）で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初回開講であるため、学生からの意見は特に受けていません。

【学生が準備すべき機器他】

各自パソコンを教室に持ってきてください。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to create a foundation for studying in each specialized area of business administration. Students will be trained in basic skills for finding a specific topic, collecting and analyzing the necessary information and data for that topic. In addition to introductory textbooks on management, basic corporate information and financial data, newspaper and magazine articles on certain companies, reports by thinktanks will be used as materials. Final grade will be calculated according to the following process:Mid-term report(30%), term-end examination(40%),and in-class contribution(30%).

MAN100FA

入門演習 (2018 年度以前入学者)

長谷川 翔平

選択_演習 1 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業のテーマは学習スキルとアントレプレナーシップ (起業家精神) の習得である。

大学では、高校での受身的な授業とは異なり、学生が主体的に参加する授業も行われている。例えば、テキストを読んで内容を報告資料にまとめ、発表・議論する。または、企業や課題についての調査を行い、その結果を発表したり、レポートを作成したりする。本授業では、ベンチャー企業経営とアントレプレナーシップを学ぶ過程で、大学での学習に必要なスキルを習得することを目的とする。特に、課題に対して解決策やアイデアを出し、討論する力は、大学だけでなく、卒業後社会に出てからも必要となる。

学習スキルの習得と同時に、アントレプレナーシップを題材とすることで、受講生にはキャリアの 1 つとしての起業を知ってもらいたい。企業の利益の源泉は、顧客のニーズを満たすことであり、ベンチャー企業は新しいビジネスモデルにより、それを達成している。近年では、インターネット・サービスで多くのベンチャー起業が行われており、インターネットにはビジネスチャンスがまだ多く埋まっている。大きな成功を取めた Google や Facebook も元々は学生アントレプレナーによるベンチャー企業だった。本授業では、起業を成功させるためには何が必要かについて基礎的な知識も学ぶ。

【到達目標】

- ・文献を読み、簡潔にまとめることができる
- ・文献やウェブサイトから必要な情報を見つけることができる
- ・調査結果を資料にまとめ、プレゼンテーションできる
- ・ディスカッションの基礎を身につける
- ・アントレプレナーシップを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講者を数人のグループに分け、グループ単位を基本とした授業を行う。1 回の授業は以下のように進める。

【学期前半】

①テキストの輪読：起業のための入門的な知識について書かれた、アントレプレナーシップに関するテキストの輪読を行う。報告担当に割り当てられたグループは、資料を作成してテキスト内容の要約・発表を行う。

②課題討論：テキスト内容に関連する課題についてグループ内でアイデアを出し合い、討論を行う。その後、意見をまとめて発表する。

【学期後半】

企業調査報告：興味のある企業を 1 社選び、ビジネスモデルや市場におけるポジションなどを調査し、報告する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 (テキスト 1 章) の説明
第 2 回	報告資料の作り方	テキスト 2 章を例に文献の読み方と報告資料の作り方について学ぶ
第 3 回	図書館ガイダンス	大学図書館の使い方と情報収集の方法を学ぶ
第 4 回	テキスト 3 章：事業機会を評価してみよう	起業プロセスにおける事業機会の位置づけと事業機会の評価
第 5 回	テキスト 4 章：アイデアを育ててみよう	事業機会とアイデアの違い、アイデアの発想法
第 6 回	テキスト 5 章：収益の仕組みを考えよう	ビジネスモデルと収益・コスト
第 7 回	テキスト 6 章：どのように買ってもらおうか	商品やサービスの売り方
第 8 回	テキスト 7 章：あなたの商品やサービスが選ばれる理由を考えよう	消費者の商品やサービスの選択基準とライバルとの差別化方法
第 9 回	テキスト 11 章：お金を調達する	資金調達とベンチャー・キャピタル
第 10 回	テキスト 12 章：お金の流れを管理しよう	キャッシュフローと企業の成長段階
第 11 回	企業調査報告①	興味のある企業のビジネスモデルを調査して発表する
第 12 回	企業調査報告②	興味のある企業のビジネスモデルを調査して発表する
第 13 回	企業調査報告③	興味のある企業のビジネスモデルを調査して発表する

第 14 回 企業調査報告④

興味のある企業のビジネスモデルを調査して発表する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・あらかじめテキストを読み、内容を理解し、疑問点等は授業で質問できるようにまとめておく

・報告担当グループは発表資料を用意する

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

忽那ほか『アントレプレナーシップ入門 新版』有斐閣 (2022 年)

【参考書】

新聞や経済ニュースを見ることを勧める

【成績評価の方法と基準】

・報告・議論への参加 (40%)

・平常点 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

資料の作成・発表時に Word や PowerPoint などのオフィスソフトが必要

【その他の重要事項】

受講希望者が多い場合、選考を行う可能性があります。受講希望者は必ず初回授業に参加して下さい。

【関連科目】

すべての基礎になる科目

【Outline (in English)】

The aim of this course is the acquisition of academic skills through the study of entrepreneurship. The goals of this course are to develop the academic skills needed for university studies, such as discussion and presentation skills, and acquire an entrepreneurial mindset. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (40%) and class participation (60%).

MAN100FA

入門演習（2018年度以前入学者）

鈴木 真奈美

選択_演習 1年次/2単位 [春学期授業/Spring]

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では主に4つのテーマについて学習します。1) 大学における学習法について。2) 大学における研究手法について。3) 自分のこれまでの人生について内省し、将来について考察し、計画すること。4) 国際語としての英語コミュニケーション能力の向上。

【到達目標】

この授業では、まずこれまでのライフスタイルについて見直し、4年間の大学生活をいかに充実したものにしていくかについて考察します。

効果的な学習技能（シャドウイング、要約法、動機づけ）、時間管理、健康維持、社会人としてのあり方やマナー（コンピューター、インターネットの活用法、英語や日本語によるメールやEメールの書き方、コミュニケーション能力、礼儀作法など）、またキャリアの探求について、関連資料や文献を読んだり、討論したり、自分の考えを文章に書くことなどを、実践を通して学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

英語コミュニケーション能力の向上のためなるべく授業は英語で行う予定です（授業言語に関してはみなさんと相談しながら決定します）。文献等は日本語で書かれたものも使用します。またペアワークやグループワークを通じて共同学習を行います。より良い学習環境の構築を目指し、積極的な授業の参加が求められます。課題等に関しては個々にあるいはクラス内でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 目標設定 大学生活について	I will introduce this course to you. You will set your goals for this semester and this seminar course. I will provide you with the information about Hosei University.
第2回	自己紹介 手紙の書き方	You will introduce yourself to the class. You will learn how to write a card in English.
第3回	論文等の読み方 シャドウイングと要約 I	You will learn reading strategies. You will read an article about shadowing and summarizing.
第4回	リーディングストラテジーの復習 シャドウイングと要約 II	You will review reading strategies, such as skimming. You will watch a DVD about Shadowing and Summarizing.
第5回	文献検索 期末レポートと発表のテーマ	You will learn how to search literature on a theme of your study. You will decide a theme for your term paper and select three books about the theme.
第6回	シャドウイングと要約の復習 ディベートの準備	You will review Shadowing and Summarizing. You will learn how to debate and prepare for your debate with your team members.
第7回	ディベート インタビュー調査	You will have a debate. You will conduct interviews and prepare for the report.
第8回	論文の書き方 インタビューレポート 期末レポートの要約	You will learn writing strategies. You will report the interview in class. You will show the outline of your term paper.
第9回	ライティングストラテジーの復習 ブックレビュー（書評）の仕方	You will review writing strategies, such as the organization of English writing, topic sentences, supporting sentences, and thesis statement. You will discuss the assigned book.

第10回	Dream Map Lifeline Chart 研究方法 期末レポート・発表の準備	You will make a dream map and a lifeline chart and reflect on your life. You will learn different types of research methodologies. You will prepare for your term paper and presentation.
第11回	プレゼンテーション	You will submit your term paper. You will make a presentation.
第12回	プレゼンテーション	You will make a presentation.
第13回	ディスカッション	You will discuss your favorite topics with your classmates.
第14回	復習 振り返り	You will review what you learn in this semester. You will reflect on your academic performance this semester. You will set your goals for the next academic year.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected:

- 1) to read the assigned reading before the class.
 - 2) to look up words you don't know in the dictionary when you read reading assignments before the class.
 - 3) to watch or listen to an English program regularly
 - 4) to do assignments, submit them, and meet the deadline
- University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

外山 滋比古 (1986) 『思考の整理学』 ちくま文庫（図書館での借可用）handouts

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、課題（10%）、ディベート（必須、10%）、プレゼンテーション（必須、20%）、期末レポート（必須、40%）

*If you have four absences per semester without permission, do not participate in a debate, do not make a presentation, or do not submit a term paper, you cannot get a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

なるべく受講して下さったみなさんの意見も取り入れながら授業を展開していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail, Computer (Word and Power Point)

【その他の重要事項】

1) Although some of you may not have enough confidence in your English, your effort to learn English is important in this class. I hope that you will come to like studying English as an international language and communicate with people all over the world in English.

2) Good manners and collaborative learning are important in this class. You need to contact me when you are absent from class. You will do a lot of pair work and group work. I would like you to make a good learning community with your classmates and me.

3) Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

【関連科目】

全ての科目に関連する入門科目です。

【Outline (in English)】

Course outline:

There are four themes of this course: 1) Development of your study skills for learning in university; 2) Learning research methods; 3) Reflection on your life and plan for your future life; and 4) Development of your English communication skills.

Objectives:

This course aims at four goals: 1) To improve study skills; 2) To learn research methodologies; 3) To have opportunities to think of yourself and develop yourself for your future career, and 4) To develop your English communication skills.

Learning activities outside of classroom:

You are expected:

- 1) to read the assigned reading before the class.

2) to look up words you don't know in the dictionary when you read reading assignments before the class.

3) to watch or listen to an English program regularly

4) to do assignments, submit them, and meet the deadline.

The standard preparation and review time for each class is 2 hours.

Grading Criteria:

class participation (20%), assignments (10%), debate (10%), presentations (20%), and final report(40%)

*If you have four absences per semester without permission, do not participate in a debate, do not make a presentation , or do not submit a final report, you cannot get a credit for this course.

MAN200FA

演習 1

安藤 直紀

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は国際企業戦略をテーマとします。多国籍企業にとって重要性を増している新興国市場への参入や現地市場での競争戦略を中心的なトピックとします。また、海外進出した企業が必ず直面することになる文化や言語の障壁という重要なトピックも扱います。学生は、企業がどのように外国市場に参入し、現地のライバル企業と競争し、文化や言語の違いを克服し、競争優位を獲得するのかを、調査や議論を通して学びます。

【到達目標】

1. 学生は、国際企業戦略に関する理論を習得します。
2. 外国で企業がとる戦略に関する理解を深めます。
3. 企業が外国で直面するビジネス環境、特に新興経済に関する理解を深めます。
4. 社会科学の調査方法を習得します。
5. データ分析の手法を習得します。
6. ディスカッションする能力、調査する能力、論理的に考察する能力、プレゼンテーションする能力を向上させます。
7. 自ら問題を設定し、企業を調査、分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この講義は、対面形式で行います。グループによる調査とディスカッションを中心に演習を進めます。提示された課題のもとで、各グループが研究テーマを設定します。研究テーマについて調査し、考察し、議論し、そして成果をプレゼンテーションします。進捗状況の報告は、適宜行ってもらいます。グループによる研究のほかに、4年生は個人研究を行います。個人研究については、中間発表および最終発表をします。国際企業戦略について理解を深めるために、輪読を行います。担当者が、担当部分について読み、簡潔な報告をします。統計ソフトウェアを使って、企業の海外進出のデータセットを作成し、分析する演習をします。課題等は、講義内あるいは E メールで提出し、それに対するフィードバックは適宜講義内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	講義概要とオリエンテーション
第 2 回	グループ研究① (1)	グループ研究のテーマ設定
第 3 回	方法論	社会科学の研究方法 質的研究
第 4 回	グループ研究① (2)	研究テーマに関する文献調査 (1) 教材の輪読 (1)
第 5 回	グループ研究① (3)	研究テーマに関する文献調査 (2) 教材の輪読 (2)
第 6 回	データ分析 (1)	統計学の基礎 ソフトウェアの操作方法 データセットの作成
第 7 回	データ分析 (2)	データセットの分析
第 8 回	ケース・スタディ	企業の事例研究
第 9 回	グループ研究① (4)	研究テーマに関する資料収集 (1) 教材の輪読 (3)
第 10 回	グループ研究① (5)	研究テーマに関する資料収集 (2) 教材の輪読 (4)
第 11 回	グループ研究① (6)	これまでの調査をもとにした考察 教材の輪読 (5)
第 12 回	グループ研究① (7)	グループ研究の発表準備
第 13 回	グループ研究① (8)	グループ研究の発表
第 14 回	中間発表	個人研究の中間発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ研究、データ分析、輪読、課題等のための準備・復習時間は、各回 2 時間を標準とします。

- 1-2 回：グループ研究のテーマを考える
- 3 回：質的研究方法について調べる
- 4-5 回：グループで研究テーマに関連した文献を調べる
- 6-7 回：表計算ソフトウェアと統計ソフトウェアの使い方を調べる
- 8 回：ケースとして扱う企業を調べる

9-10 回：グループで研究テーマに関連した資料を収集する

11 回：これまでの調査をもとに、グループで議論する

12-13 回：グループで研究発表の準備をする

14 回：個人研究の中間発表の準備をする

【テキスト（教科書）】

輪読の教材に関する詳細は、第 1 週目の授業内で指示します。

【参考書】

浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003 年
高根正昭（1979）『創造の方法学』講談社現代新書
その他参考文献に関しては、講義内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

下の比率で評価します。

クラスへの貢献：60%

グループまたは個人によるレポート：40%

クラスへの貢献とは、クラスでの調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどです。出席しているだけでは、クラスへの貢献にはならないことを理解して臨んでください。

レポートについては、設定したテーマについてどれだけ深い思考ができているかを重視して評価します。文献に書かれていることを整理しただけでは高い評価になりません。

【学生の意見等からの気づき】

国際企業戦略を考えるために必要な理論、企業研究をするために必要な調査方法に関して議論する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析の演習を行うときは、パソコンが必要になります。自分のパソコンを持参するか、情報センターからパソコンの貸し出しを受けてください。

【その他の重要事項】

グローバル経営戦略論 I/II は必ず履修してください。

様々な作業を講義中にしますので、出席がない場合は、成績評価ができなくなります。

【関連科目】

グローバル経営戦略論 I/II、経営戦略論 I/II

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar deals with a range of topics in global business strategy. Particularly, the seminar focuses on multinational enterprises' strategy in emerging economies and cross-cultural management. Students learn through research and discussion how firms enter foreign markets, compete with local rivals, mitigate cultural and language barriers, and gain competitive advantages.

(Learning objectives) The goals of this seminar are to understand global business environments, global business strategy, theories behind global business strategy, and methods of social science. At the end of this seminar, students are expected to develop an ability to investigate and analyze firms' success and failure in global markets.

(Learning activities outside of classroom) Students are required to work on group and individual research and data analysis, read assigned reading materials, and complete assignments. Study time will be more than two hours for a class.

(Grading Criteria/Policies) Students will be evaluated on in-class contribution (60%) and group and individual projects (40%). In-class contribution includes discussion, investigation, and presentation.

MAN200FA

演習 2

安藤 直紀

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は国際企業戦略をテーマとします。多国籍企業にとって重要性を増している新興国市場への参入や現地市場での競争戦略を中心的なトピックとします。また、海外進出した企業が必ず直面することになる文化や言語の障壁という重要なトピックも扱います。学生は、企業がどのように外国市場に参入し、現地のライバル企業と競争し、文化や言語の違いを克服し、競争優位を獲得するのかを、調査や議論を通して学びます。

【到達目標】

1. 学生は、国際企業戦略に関する理論を習得します。
2. 外国で企業がとる戦略に関する理解を深めます。
3. 企業が外国で直面するビジネス環境、特に新興経済に関する理解を深めます。
4. 社会科学の調査方法を習得します。
5. データ分析の手法を習得します。
6. ディスカッションする能力、調査する能力、論理的に考察する能力、プレゼンテーションする能力を向上させます。
7. 自ら問題を設定し、企業を調査、分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この講義は、対面形式で行います。グループによる調査とディスカッションを中心に演習を進めます。提示された課題のもとで、各グループが研究テーマを設定します。研究テーマについて調査し、考察し、議論し、そして成果をプレゼンテーションします。進捗状況の報告は、適宜行ってもらいます。グループによる研究のほかに、4年生は個人研究を行います。個人研究については、中間発表および最終発表をします。国際企業戦略について理解を深めるために、輪読を行います。担当者が、担当部分について読み、簡潔な報告をします。統計ソフトウェアを使って、企業の海外進出のデータセットを作成し、分析する演習をします。課題等は、講義内あるいは E メールで提出し、それに対するフィードバックは適宜講義内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	講義概要とオリエンテーション
第 2 回	グループ研究②（1）	グループ研究のテーマ設定
第 3 回	方法論	社会科学の研究方法 量的研究
第 4 回	グループ研究②（2）	研究テーマに関する文献調査（1） 教材の輪読（1）
第 5 回	グループ研究②（3）	研究テーマに関する文献調査（2） 教材の輪読（2）
第 6 回	データ分析（1）	統計学の基礎 ソフトウェアの操作方法 データセットの作成
第 7 回	データ分析（2）	仮説の構築 データセットの分析 分析結果の解釈
第 8 回	ケース・スタディ	企業の事例研究
第 9 回	グループ研究②（4）	研究テーマに関する資料収集（1） 教材の輪読（3）
第 10 回	グループ研究②（5）	研究テーマに関する資料収集（2） 教材の輪読（4）
第 11 回	グループ研究②（6）	これまでの調査をもとにした考察 教材の輪読（5）
第 12 回	グループ研究②（7）	グループ研究の発表準備
第 13 回	グループ研究②（8）	グループ研究の発表
第 14 回	最終発表	個人研究の発表（最終報告）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ研究、データ分析、輪読、課題等のための準備・復習時間は、各回 2 時間を標準とします。

1-2 回：グループ研究のテーマを考える

3 回：量的研究方法について調べる

4-5 回：グループで研究テーマに関連した文献を調べる

6-7 回：表計算ソフトウェアと統計ソフトウェアの使い方を調べる

8 回：ケースとして扱う企業を調べる

9-10 回：グループで研究テーマに関連した資料を収集する

11 回：これまでの調査をもとに、グループで議論する

12-13 回：グループで研究発表の準備をする

14 回：個人研究の最終発表の準備をする

【テキスト（教科書）】

輪読の教材に関する詳細は、第 1 週目の授業内で指示します。

【参考書】

浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003 年

高根正昭（1979）『創造の方法学』講談社現代新書

その他参考文献に関しては、講義内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

下の比率で評価します。

クラスへの貢献：60%

グループまたは個人によるレポート：40%

クラスへの貢献とは、クラスでの調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどです。出席しているだけでは、クラスへの貢献にはならないことを理解して臨んでください。

レポートについては、設定したテーマについてどれだけ深い思考ができていくかを重視して評価します。文献に書かれていることを整理しただけでは高い評価になりません。

【学生の意見等からの気づき】

国際企業戦略を考えるために必要な理論、企業研究をするために必要な調査方法に関して議論する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析の演習を行うときは、パソコンが必要になります。自分のパソコンを持参するか、情報センターからパソコンの貸し出しを受けてください。

【その他の重要事項】

グローバル経営戦略論 I/II は必ず履修してください。

様々な作業を講義中にしますので、出席がない場合は、成績評価ができなくなります。

【関連科目】

グローバル経営戦略論 I/II、経営戦略論 I/II

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar deals with a range of topics in global business strategy. Particularly, the seminar focuses on multinational enterprises' strategy in emerging economies and cross-cultural management. Students learn through research and discussion how firms enter foreign markets, compete with local rivals, mitigate cultural and language barriers, and gain competitive advantages.

(Learning objectives) The goals of this seminar are to understand global business environments, global business strategy, theories behind global business strategy, and methods of social science. At the end of this seminar, students are expected to develop an ability to investigate and analyze firms' success and failure in global markets.

(Learning activities outside of classroom) Students are required to work on group and individual research and data analysis, read assigned reading materials, and complete assignments. Study time will be more than two hours for a class.

(Grading Criteria/Policies) Students will be evaluated on in-class contribution (60%) and group and individual projects (40%). In-class contribution includes discussion, investigation, and presentation.

MAN300FA

演習 3

安藤 直紀

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は国際企業戦略をテーマとします。多国籍企業にとって重要性を増している新興国市場への参入や現地市場での競争戦略を中心的なトピックとします。また、海外進出した企業が必ず直面することになる文化や言語の障壁という重要なトピックも扱います。学生は、企業がどのように外国市場に参入し、現地のライバル企業と競争し、文化や言語の違いを克服し、競争優位を獲得するのかを、調査や議論を通して学びます。

【到達目標】

1. 学生は、国際企業戦略に関する理論を習得します。
2. 外国で企業がとる戦略に関する理解を深めます。
3. 企業が外国で直面するビジネス環境、特に新興経済に関する理解を深めます。
4. 社会科学の調査方法を習得します。
5. データ分析の手法を習得します。
6. ディスカッションする能力、調査する能力、論理的に考察する能力、プレゼンテーションする能力を向上させます。
7. 自ら問題を設定し、企業を調査、分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この講義は、対面形式で行います。グループによる調査とディスカッションを中心に演習を進めます。提示された課題のもとで、各グループが研究テーマを設定します。研究テーマについて調査し、考察し、議論し、そして成果をプレゼンテーションします。進捗状況の報告は、適宜行ってもらいます。グループによる研究のほかに、4年生は個人研究を行います。個人研究については、中間発表および最終発表をします。国際企業戦略について理解を深めるために、輪読を行います。担当者が、担当部分について読み、簡潔な報告をします。統計ソフトウェアを使って、企業の海外進出のデータセットを作成し、分析する演習をします。課題等は、講義内あるいは E メールで提出し、それに対するフィードバックは適宜講義内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	講義概要とオリエンテーション
第 2 回	グループ研究① (1)	グループ研究のテーマ設定
第 3 回	方法論	社会科学の研究方法 質的研究
第 4 回	グループ研究① (2)	研究テーマに関する文献調査 (1) 教材の輪読 (1)
第 5 回	グループ研究① (3)	研究テーマに関する文献調査 (2) 教材の輪読 (2)
第 6 回	データ分析 (1)	統計学の基礎 ソフトウェアの操作方法 データセットの作成
第 7 回	データ分析 (2)	データセットの分析
第 8 回	ケース・スタディ	企業の事例研究
第 9 回	グループ研究① (4)	研究テーマに関する資料収集 (1) 教材の輪読 (3)
第 10 回	グループ研究① (5)	研究テーマに関する資料収集 (2) 教材の輪読 (4)
第 11 回	グループ研究① (6)	これまでの調査をもとにした考察 教材の輪読 (5)
第 12 回	グループ研究① (7)	グループ研究の発表準備
第 13 回	グループ研究① (8)	グループ研究の発表
第 14 回	中間発表	個人研究の中間発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ研究、データ分析、輪読、課題等のための準備・復習時間は、各回 2 時間を標準とします。

1-2 回：グループ研究のテーマを考える

3 回：質的研究方法について調べる

4-5 回：グループで研究テーマに関連した文献を調べる

6-7 回：表計算ソフトウェアと統計ソフトウェアの使い方を調べる

8 回：ケースとして扱う企業を調べる

9-10 回：グループで研究テーマに関連した資料を収集する

11 回：これまでの調査をもとに、グループで議論する

12-13 回：グループで研究発表の準備をする

14 回：個人研究の中間発表の準備をする

【テキスト（教科書）】

輪読の教材に関する詳細は、第 1 週目の授業内で指示します。

【参考書】

浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003 年
高根正昭（1979）『創造の方法学 講談社現代新書』
その他参考文献に関しては、講義内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

下の比率で評価します。

クラスへの貢献：60%

グループまたは個人によるレポート：40%

クラスへの貢献とは、クラスでの調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどです。出席しているだけでは、クラスへの貢献にはならないことを理解して臨んでください。

レポートについては、設定したテーマについてどれだけ深い思考ができているかを重視して評価します。文献に書かれていることを整理しただけでは高い評価になりません。

【学生の意見等からの気づき】

国際企業戦略を考えるために必要な理論、企業研究をするために必要な調査方法に関して議論する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析の演習を行うときは、パソコンが必要になります。自分のパソコンを持参するか、情報センターからパソコンの貸し出しを受けてください。

【その他の重要事項】

グローバル経営戦略論 I/II は必ず履修してください。

様々な作業を講義中にしますので、出席がない場合は、成績評価ができなくなります。

【関連科目】

グローバル経営戦略論 I/II、経営戦略論 I/II

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar deals with a range of topics in global business strategy. Particularly, the seminar focuses on multinational enterprises' strategy in emerging economies and cross-cultural management. Students learn through research and discussion how firms enter foreign markets, compete with local rivals, mitigate cultural and language barriers, and gain competitive advantages.

(Learning objectives) The goals of this seminar are to understand global business environments, global business strategy, theories behind global business strategy, and methods of social science. At the end of this seminar, students are expected to develop an ability to investigate and analyze firms' success and failure in global markets.

(Learning activities outside of classroom) Students are required to work on group and individual research and data analysis, read assigned reading materials, and complete assignments. Study time will be more than two hours for a class.

(Grading Criteria/Policies) Students will be evaluated on in-class contribution (60%) and group and individual projects (40%). In-class contribution includes discussion, investigation, and presentation.

MAN300FA

演習 4

安藤 直紀

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は国際企業戦略をテーマとします。多国籍企業にとって重要性を増している新興国市場への参入や現地市場での競争戦略を中心的なトピックとします。また、海外進出した企業が必ず直面することになる文化や言語の障壁という重要なトピックも扱います。学生は、企業がどのように外国市場に参入し、現地のライバル企業と競争し、文化や言語の違いを克服し、競争優位を獲得するのかを、調査や議論を通して学びます。

【到達目標】

1. 学生は、国際企業戦略に関する理論を習得します。
2. 外国で企業がとる戦略に関する理解を深めます。
3. 企業が外国で直面するビジネス環境、特に新興経済に関する理解を深めます。
4. 社会科学の調査方法を習得します。
5. データ分析の手法を習得します。
6. ディスカッションする能力、調査する能力、論理的に考察する能力、プレゼンテーションする能力を向上させます。
7. 自ら問題を設定し、企業を調査、分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この講義は、対面形式で行います。グループによる調査とディスカッションを中心に演習を進めます。提示された課題のもとで、各グループが研究テーマを設定します。研究テーマについて調査し、考察し、議論し、そして成果をプレゼンテーションします。進捗状況の報告は、適宜行ってもらいます。グループによる研究のほかに、4年生は個人研究を行います。個人研究については、中間発表および最終発表をします。国際企業戦略について理解を深めるために、輪読を行います。担当者が、担当部分について読み、簡潔な報告をします。統計ソフトウェアを使って、企業の海外進出のデータセットを作成し、分析する演習をします。課題等は、講義内あるいは E メールで提出し、それに対するフィードバックは適宜講義内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	講義概要とオリエンテーション
第 2 回	グループ研究②（1）	グループ研究のテーマ設定
第 3 回	方法論	社会科学の研究方法 量的研究
第 4 回	グループ研究②（2）	研究テーマに関する文献調査（1） 教材の輪読（1）
第 5 回	グループ研究②（3）	研究テーマに関する文献調査（2） 教材の輪読（2）
第 6 回	データ分析（1）	統計学の基礎 ソフトウェアの操作方法 データセットの作成
第 7 回	データ分析（2）	仮説の構築 データセットの分析 分析結果の解釈
第 8 回	ケース・スタディ	企業の事例研究
第 9 回	グループ研究②（4）	研究テーマに関する資料収集（1） 教材の輪読（3）
第 10 回	グループ研究②（5）	研究テーマに関する資料収集（2） 教材の輪読（4）
第 11 回	グループ研究②（6）	これまでの調査をもとにした考察 教材の輪読（5）
第 12 回	グループ研究②（7）	グループ研究の発表準備
第 13 回	グループ研究②（8）	グループ研究の発表
第 14 回	最終発表	個人研究の発表（最終報告）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ研究、データ分析、輪読、課題等のための準備・復習時間は、各回 2 時間を標準とします。

1-2 回：グループ研究のテーマを考える

3 回：量的研究方法について調べる

4-5 回：グループで研究テーマに関連した文献を調べる

6-7 回：表計算ソフトウェアと統計ソフトウェアの使い方を調べる

8 回：ケースとして扱う企業を調べる

9-10 回：グループで研究テーマに関連した資料を収集する

11 回：これまでの調査をもとに、グループで議論する

12-13 回：グループで研究発表の準備をする

14 回：個人研究の最終発表の準備をする

【テキスト（教科書）】

輪読の教材に関する詳細は、第 1 週目の授業内で指示します。

【参考書】

浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003 年

高根正昭（1979）『創造の方法学』講談社現代新書

その他参考文献に関しては、講義内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

下の比率で評価します。

クラスへの貢献：60%

グループまたは個人によるレポート：40%

クラスへの貢献とは、クラスでの調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどです。出席しているだけでは、クラスへの貢献にはならないことを理解して臨んでください。

レポートについては、設定したテーマについてどれだけ深い思考ができていくかを重視して評価します。文献に書かれていることを整理しただけでは高い評価になりません。

【学生の意見等からの気づき】

国際企業戦略を考えるために必要な理論、企業研究をするために必要な調査方法に関して議論する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析の演習を行うときは、パソコンが必要になります。自分のパソコンを持参するか、情報センターからパソコンの貸し出しを受けてください。

【その他の重要事項】

グローバル経営戦略論 I/II は必ず履修してください。

様々な作業を講義中にしますので、出席がない場合は、成績評価ができなくなります。

【関連科目】

グローバル経営戦略論 I/II、経営戦略論 I/II

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar deals with a range of topics in global business strategy. Particularly, the seminar focuses on multinational enterprises' strategy in emerging economies and cross-cultural management. Students learn through research and discussion how firms enter foreign markets, compete with local rivals, mitigate cultural and language barriers, and gain competitive advantages.

(Learning objectives) The goals of this seminar are to understand global business environments, global business strategy, theories behind global business strategy, and methods of social science. At the end of this seminar, students are expected to develop an ability to investigate and analyze firms' success and failure in global markets.

(Learning activities outside of classroom) Students are required to work on group and individual research and data analysis, read assigned reading materials, and complete assignments. Study time will be more than two hours for a class.

(Grading Criteria/Policies) Students will be evaluated on in-class contribution (60%) and group and individual projects (40%). In-class contribution includes discussion, investigation, and presentation.

MAN400FA

演習 5

安藤 直紀

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は国際企業戦略をテーマとします。多国籍企業にとって重要性を増している新興国市場への参入や現地市場での競争戦略を中心的なトピックとします。また、海外進出した企業が必ず直面することになる文化や言語の障壁という重要なトピックも扱います。学生は、企業がどのように外国市場に参入し、現地のライバル企業と競争し、文化や言語の違いを克服し、競争優位を獲得するのかを、調査や議論を通して学びます。

【到達目標】

1. 学生は、国際企業戦略に関する理論を習得します。
2. 外国で企業がとる戦略に関する理解を深めます。
3. 企業が外国で直面するビジネス環境、特に新興経済に関する理解を深めます。
4. 社会科学の調査方法を習得します。
5. データ分析の手法を習得します。
6. ディスカッションする能力、調査する能力、論理的に考察する能力、プレゼンテーションする能力を向上させます。
7. 自ら問題を設定し、企業を調査、分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この講義は、対面形式で行います。グループによる調査とディスカッションを中心に演習を進めます。提示された課題のもとで、各グループが研究テーマを設定します。研究テーマについて調査し、考察し、議論し、そして成果をプレゼンテーションします。進捗状況の報告は、適宜行ってもらいます。グループによる研究のほかに、4年生は個人研究を行います。個人研究については、中間発表および最終発表をします。国際企業戦略について理解を深めるために、輪読を行います。担当者が、担当部分について読み、簡潔な報告をします。統計ソフトウェアを使って、企業の海外進出のデータセットを作成し、分析する演習をします。課題等は、講義内あるいは E メールで提出し、それに対するフィードバックは適宜講義内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	講義概要とオリエンテーション
第 2 回	グループ研究①（1）	グループ研究のテーマ設定
第 3 回	方法論	社会科学の研究方法 質的研究
第 4 回	グループ研究①（2）	研究テーマに関する文献調査（1） 教材の輪読（1）
第 5 回	グループ研究①（3）	研究テーマに関する文献調査（2） 教材の輪読（2）
第 6 回	データ分析（1）	統計学の基礎 ソフトウェアの操作方法 データセットの作成
第 7 回	データ分析（2）	データセットの分析
第 8 回	ケース・スタディ	企業の事例研究
第 9 回	グループ研究①（4）	研究テーマに関する資料収集（1） 教材の輪読（3）
第 10 回	グループ研究①（5）	研究テーマに関する資料収集（2） 教材の輪読（4）
第 11 回	グループ研究①（6）	これまでの調査をもとにした考察 教材の輪読（5）
第 12 回	グループ研究①（7）	グループ研究の発表準備
第 13 回	グループ研究①（8）	グループ研究の発表
第 14 回	中間発表	個人研究の中間発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ研究、データ分析、輪読、課題等のための準備・復習時間は、各回 2 時間を標準とします。

- 1-2 回：グループ研究のテーマを考える
- 3 回：質的研究方法について調べる
- 4-5 回：グループで研究テーマに関連した文献を調べる
- 6-7 回：表計算ソフトウェアと統計ソフトウェアの使い方を調べる
- 8 回：ケースとして扱う企業を調べる

9-10 回：グループで研究テーマに関連した資料を収集する

11 回：これまでの調査をもとに、グループで議論する

12-13 回：グループで研究発表の準備をする

14 回：個人研究の中間発表の準備をする

【テキスト（教科書）】

輪読の教材に関する詳細は、第 1 週目の授業内で指示します。

【参考書】

浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003 年
高根正昭（1979）『創造の方法学』講談社現代新書
その他参考文献に関しては、講義内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

下の比率で評価します。

クラスへの貢献：60%

グループまたは個人によるレポート：40%

クラスへの貢献とは、クラスでの調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどです。出席しているだけでは、クラスへの貢献にはならないことを理解して臨んでください。

レポートについては、設定したテーマについてどれだけ深い思考ができているかを重視して評価します。文献に書かれていることを整理しただけでは高い評価になりません。

【学生の意見等からの気づき】

国際企業戦略を考えるために必要な理論、企業研究するために必要な調査方法に関して議論する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析の演習を行うときは、パソコンが必要になります。自分のパソコンを持参するか、情報センターからパソコンの貸し出しを受けてください。

【その他の重要事項】

グローバル経営戦略論 I/II は必ず履修してください。

様々な作業を講義中にしますので、出席がない場合は、成績評価ができなくなります。

【関連科目】

グローバル経営戦略論 I/II、経営戦略論 I/II

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar deals with a range of topics in global business strategy. Particularly, the seminar focuses on multinational enterprises' strategy in emerging economies and cross-cultural management. Students learn through research and discussion how firms enter foreign markets, compete with local rivals, mitigate cultural and language barriers, and gain competitive advantages.

(Learning objectives) The goals of this seminar are to understand global business environments, global business strategy, theories behind global business strategy, and methods of social science. At the end of this seminar, students are expected to develop an ability to investigate and analyze firms' success and failure in global markets.

(Learning activities outside of classroom) Students are required to work on group and individual research and data analysis, read assigned reading materials, and complete assignments. Study time will be more than two hours for a class.

(Grading Criteria/Policies) Students will be evaluated on in-class contribution (60%) and group and individual projects (40%). In-class contribution includes discussion, investigation, and presentation.

MAN400FA

演習 6

安藤 直紀

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は国際企業戦略をテーマとします。多国籍企業にとって重要性を増している新興国市場への参入や現地市場での競争戦略を中心的なトピックとします。また、海外進出した企業が必ず直面することになる文化や言語の障壁という重要なトピックも扱います。学生は、企業がどのように外国市場に参入し、現地のライバル企業と競争し、文化や言語の違いを克服し、競争優位を獲得するのかを、調査や議論を通して学びます。

【到達目標】

1. 学生は、国際企業戦略に関する理論を習得します。
2. 外国で企業がとる戦略に関する理解を深めます。
3. 企業が外国で直面するビジネス環境、特に新興経済に関する理解を深めます。
4. 社会科学の調査方法を習得します。
5. データ分析の手法を習得します。
6. ディスカッションする能力、調査する能力、論理的に考察する能力、プレゼンテーションする能力を向上させます。
7. 自ら問題を設定し、企業を調査、分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この講義は、対面形式で行います。グループによる調査とディスカッションを中心に演習を進めます。提示された課題のもとで、各グループが研究テーマを設定します。研究テーマについて調査し、考察し、議論し、そして成果をプレゼンテーションします。進捗状況の報告は、適宜行ってもらいます。グループによる研究のほかに、4年生は個人研究を行います。個人研究については、中間発表および最終発表をします。国際企業戦略について理解を深めるために、輪読を行います。担当者が、担当部分について読み、簡潔な報告をします。統計ソフトウェアを使って、企業の海外進出のデータセットを作成し、分析する演習をします。課題等は、講義内あるいは E メールで提出し、それに対するフィードバックは適宜講義内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	講義概要とオリエンテーション
第 2 回	グループ研究②（1）	グループ研究のテーマ設定
第 3 回	方法論	社会科学の研究方法 量的研究
第 4 回	グループ研究②（2）	研究テーマに関する文献調査（1） 教材の輪読（1）
第 5 回	グループ研究②（3）	研究テーマに関する文献調査（2） 教材の輪読（2）
第 6 回	データ分析（1）	統計学の基礎 ソフトウェアの操作方法 データセットの作成
第 7 回	データ分析（2）	仮説の構築 データセットの分析 分析結果の解釈
第 8 回	ケース・スタディ	企業の事例研究
第 9 回	グループ研究②（4）	研究テーマに関する資料収集（1） 教材の輪読（3）
第 10 回	グループ研究②（5）	研究テーマに関する資料収集（2） 教材の輪読（4）
第 11 回	グループ研究②（6）	これまでの調査をもとにした考察 教材の輪読（5）
第 12 回	グループ研究②（7）	グループ研究の発表準備
第 13 回	グループ研究②（8）	グループ研究の発表
第 14 回	最終発表	個人研究の発表（最終報告）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ研究、データ分析、輪読、課題等のための準備・復習時間は、各回 2 時間を標準とします。

1-2 回：グループ研究のテーマを考える

3 回：量的研究方法について調べる

4-5 回：グループで研究テーマに関連した文献を調べる

6-7 回：表計算ソフトウェアと統計ソフトウェアの使い方を調べる

8 回：ケースとして扱う企業を調べる

9-10 回：グループで研究テーマに関連した資料を収集する

11 回：これまでの調査をもとに、グループで議論する

12-13 回：グループで研究発表の準備をする

14 回：個人研究の最終発表の準備をする

【テキスト（教科書）】

輪読の教材に関する詳細は、第 1 週目の授業内で指示します。

【参考書】

浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003 年

高根正昭（1979）『創造の方法学』講談社現代新書

その他参考文献に関しては、講義内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

下の比率で評価します。

クラスへの貢献：60%

グループまたは個人によるレポート：40%

クラスへの貢献とは、クラスでの調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどです。出席しているだけでは、クラスへの貢献にはならないことを理解して臨んでください。

レポートについては、設定したテーマについてどれだけ深い思考ができていくかを重視して評価します。文献に書かれていることを整理しただけでは高い評価になりません。

【学生の意見等からの気づき】

国際企業戦略を考えるために必要な理論、企業研究をするために必要な調査方法に関して議論する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析の演習を行うときは、パソコンが必要になります。自分のパソコンを持参するか、情報センターからパソコンの貸し出しを受けてください。

【その他の重要事項】

グローバル経営戦略論 I/II は必ず履修してください。

様々な作業を講義中にしますので、出席がない場合は、成績評価ができなくなります。

【関連科目】

グローバル経営戦略論 I/II、経営戦略論 I/II

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar deals with a range of topics in global business strategy. Particularly, the seminar focuses on multinational enterprises' strategy in emerging economies and cross-cultural management. Students learn through research and discussion how firms enter foreign markets, compete with local rivals, mitigate cultural and language barriers, and gain competitive advantages.

(Learning objectives) The goals of this seminar are to understand global business environments, global business strategy, theories behind global business strategy, and methods of social science. At the end of this seminar, students are expected to develop an ability to investigate and analyze firms' success and failure in global markets.

(Learning activities outside of classroom) Students are required to work on group and individual research and data analysis, read assigned reading materials, and complete assignments. Study time will be more than two hours for a class.

(Grading Criteria/Policies) Students will be evaluated on in-class contribution (60%) and group and individual projects (40%). In-class contribution includes discussion, investigation, and presentation.

MAN200FA

演習 1

猪狩 良介

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年、「ビッグデータ」と呼ばれるマーケティング/ビジネスデータ環境が整備され、「データサイエンティスト」という言葉が生まれるなど、ビジネスの現場でもマーケティング・データ分析のニーズは高まっています。消費者の店頭での購買履歴は POS データや ID-POS データとして蓄積され、また PC やスマートフォンなどによるインターネット閲覧履歴等もアクセスログデータとして記録されており、各企業は、このようなデータを利用して、価格や広告投入量、店頭での販促有無などを決定するといったマーケティング意思決定を行っています。

この授業では、実際のマーケティング・データを解析することで、マーケティング理論およびデータ分析のスキルを習得し、実践力を身につけることを目標としています。また、マーケティング・データ分析を通して、自ら課題を設定してテーマに取り組む力や、結果を発表・共有するプレゼンテーション能力などを身につけることも目的としています。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの理論およびマーケティング・データ分析の基本知識を身につける。
- ・統計ソフトを用いてマーケティング・データを実際に分析できる。
- ・分析結果を用いてプレゼンテーションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・前期は、マーケティング・データ分析関連の書籍を輪読して理論を学習します。また、フリーの統計ソフト R を用いたデータ分析の演習を行い、実際の分析を習得します。また、グループで研究に取り組みます。
- ・後期は、グループ研究と個人研究の 2 つについて、実際のテーマを設定して取り組みます。具体的には、設定したテーマについてのデータ取得、解析、分析結果のプレゼンテーションを行い、メンバー間で共有をはかります。また、マーケティング・データ分析関連のコンペにグループで参加する予定です。
- ・当授業は対面で実施する予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の概要および進め方について説明します。
第 2 回	オリエンテーション	グループ決め及び担当分けを行います。また、グループワークを行います。
第 3 回	第 1 章：マーケティング分析の楽しさ 第 2 章：マーケティング分析の手順	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 4 回	第 3 章：仮説検証 第 4 章：サンプリング R のインストールと操作 (サブテキスト 1~2 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 5 回	第 5 章：グラフ 第 6 章：平均と標準偏差 R によるデータハンドリング (サブテキスト 3~4 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 6 回	グループワーク (1) 研究報告 (1)	グループワークを実施します。特に、研究テーマについて話し合います。グループ研究の報告を行います。
第 7 回	第 7 章：相関分析 第 8 章：カイ二乗検定 R によるデータハンドリング 2 (サブテキスト 5 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 8 回	第 8 章：カイ二乗検定 第 9 章：新製品の普及 R によるデータの可視化 (サブテキスト 6 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 9 回	第 9 章：t 検定 第 10 章：分散分析 R による仮説検定 (サブテキスト 7 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。

第 10 回	グループワーク (2) 研究報告 (2)	グループワークを実施します。特に、研究テーマについて話し合います。グループ研究の報告を行います。
第 11 回	第 11 章：回帰分析 第 12 章：因子分析 R による回帰分析 (サブテキスト 8 章) R による因子分析 (サブテキスト 9 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 12 回	第 13 章：コンジョイント分析 第 14 章：共分散構造分析 R によるクラスター分析 (サブテキスト 11 章) R による共分散構造分析 (サブテキスト 13 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 13 回	グループワーク (3) 研究報告 (3)	グループワークを実施します。特に、研究テーマについて話し合います。グループ研究の報告を行います。
第 14 回	まとめ	春学期のまとめを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【春学期】

- ・輪読では各章ごとに担当を決め、報告担当者が発表します (資料作成等の準備が必要となります)。
- ・演習では統計ソフト R を用いて実際に自分のパソコンで分析を実行します (資料作成等の準備が必要となります)。
- ・個人/グループで設定したテーマについて取り組みます。

【秋学期】

- ・個人/グループで設定したテーマについて取り組みます。
- ・個人/グループで論文を執筆します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

恩蔵直人・富田健司 (2022) 「1 からのマーケティング分析 (第 2 版)」碩学舎。

【参考書】

里村卓也 (2014) 「マーケティング・データ分析の基礎」共立出版。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 (40%)
- ・研究発表・議論への参加 (60%)

※ 4 年生は卒論の提出が、2・3 年生は進級論文の提出が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

- ・春学期は基礎的な内容から学び、秋学期は発展的な内容も取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・データ分析およびプレゼンテーションを行うためのパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

- ・基礎統計学 I/II の内容を理解していることを前提とします。忘れてしまった場合、初回授業までによく復習しておく必要があります。
- ・基本的なパソコンスキル (ワードやパワーポイントによる資料作成、エクセルによる計算等) を前提とします。
- ・統計学のスキルが必要なため、経営のための統計学 I と合わせて履修することを推奨します。
- ・実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

基礎統計学 I/II
経営のための統計学 I/II
マーケティング論 I/II
マーケティング・リサーチ I/II

【Outline (in English)】

【Course outline】

In recent years, the marketing / business data environment called "big data" has been improved, the word "data scientist" is born, and marketing data analysis are required even at the business. The purchase history at the stores of the consumer is accumulated as POS or ID-POS data, and the internet browsing history etc. by the PC, the smartphone, etc. are also recorded as the access log data. Then, each company uses such data to make marketing decisions such as deciding price, advertisement input amount, sales promotion at shop front, etc.

In this course, we will learn skills of marketing theory and data analysis, analyze actual marketing data, and acquire practical skills. It also aims to acquire the ability to set themselves and deal with themes through marketing and data analysis, and to develop presentation skills to present and share results.

[Learning Objectives]

Students will acquire basic knowledge of marketing science and skills of marketing data analysis using statistical software.

Students can make a presentation using the results of analysis.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be assigned to a chapter of a textbook and will give a presentation.

In the exercise, students will actually perform analysis on their own PCs using the statistical software R. (Preparation of materials is required.)

Students will work on themes and write a paper.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Attendance and participation in class discussions:30%.

Group work and individual reports and final reports:40%.

Senior Thesis or Graduation Thesis: 30%.

MAN200FA

演習 2

猪狩 良介

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、「ビッグデータ」と呼ばれるマーケティング／ビジネスデータ環境が整備され、「データサイエンティスト」という言葉が生まれるなど、ビジネスの現場でもマーケティング・データ分析のニーズは高まっています。消費者の店頭での購買履歴は POS データや ID-POS データとして蓄積され、また PC やスマートフォンなどによるインターネット閲覧履歴等もアクセスログデータとして記録されており、各企業は、このようなデータを利用して、価格や広告投入量、店頭での販促有無などを決定するといったマーケティング意思決定を行っています。

この授業では、マーケティングサイエンスおよびマーケティングデータ分析についての学習および研究を行います。実際のマーケティング・データを解析することで、マーケティング理論およびデータ分析のスキルを習得し、実践力を身につけます。また、マーケティング・データ分析を通して、自ら課題を設定してテーマに取り組む力や、結果を発表・共有するプレゼンテーション能力などを身につけることも目的としています。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの理論およびマーケティング・データ分析の基本知識を身につける。
- ・統計ソフトを用いてマーケティング・データを実際に分析できる。
- ・分析結果を用いてプレゼンテーションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・前期は、マーケティング・データ分析関連の書籍を輪読して理論を学習します。また、フリーの統計ソフト R を用いたデータ分析の演習を行い、実際の分析を習得します。また、グループで研究に取り組みます。
- ・後期は、グループ研究と個人研究の 2 つについて、実際のテーマを設定して取り組みます。具体的には、設定したテーマについてのデータ取得、解析、分析結果のプレゼンテーションを行い、メンバー間で共有をはかります。また、マーケティング・データ分析関連のコンペにグループで参加する予定です。
- ・当授業は対面を実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	秋学期の進め方について説明します。
第 2 回	グループワーク：テーマ報告 (1)	各グループで設定したテーマを発表し、全員でディスカッションします。
第 3 回	グループワーク：テーマ報告 (2)	各グループで設定したテーマを発表し、全員でディスカッションします。
第 4 回	グループワーク：文献・事例研究 (1)	各グループで設定したテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
第 5 回	グループワーク：文献・事例研究 (2)	各グループで設定したテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
第 6 回	グループワーク：文献・事例研究 (3)	各グループで設定したテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
第 7 回	グループワーク：最終報告会 (1)	各グループで設定したテーマの最終発表会を行います。
第 8 回	グループワーク：最終報告会 (2)	各グループで設定したテーマの最終発表会を行います。
第 9 回	個人研究：中間報告 (1)	個人研究の進捗状況について中間報告を行い、ディスカッションします。
第 10 回	個人研究：中間報告 (2)	個人研究の進捗状況について中間報告を行い、ディスカッションします。
第 11 回	個人研究：文献・事例研究 (1)	個人研究のテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
第 12 回	個人研究：文献・事例研究 (2)	個人研究のテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
第 13 回	個人研究：最終報告会 (1)	個人研究についての最終報告会を行います。各自パワーポイントを用いて報告を行い、全員でディスカッションします。

第 14 回 個人研究：最終報告会 (2) 個人研究についての最終報告会を行います。各自パワーポイントを用いて報告を行い、全員でディスカッションします。また、1 年間のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【春学期】

- ・輪読では各章ごとに担当を決め、報告担当者が発表します（資料作成等の準備が必要となります）。
- ・演習では統計ソフト R を用いて実際に自分のパソコンで分析を実行します（資料作成等の準備が必要となります）。
- ・個人／グループで設定したテーマについて取り組みます。

【秋学期】

- ・個人／グループで設定したテーマについて取り組みます。
- ・個人／グループで論文を執筆します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜紹介します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【4 年生】

- ・平常点：30%
- ・グループワークまたは個人での最終提出の論文と進捗発表：70%(論文 50%、発表 20%)

※ 4 年生は卒論の提出が必須です。論文が最終提出されて初めて発表を含む 70% の評価の対象とします。つまり、最終提出がなかった場合は 0 点とします。

【2・3 年生】

- ・平常点：30%
- ・グループワークまたは個人での最終提出の論文と進捗発表：70%(論文 40%、発表 30%)

※ 2・3 年生は進級論文の提出が必須です。論文が最終提出されて初めて発表を含む 70% の評価の対象とします。つまり、最終提出がなかった場合は 0 点とします。また、次年度にゼミを履修するには最終論文の提出とゼミの単位取得が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

- ・春学期は基礎的な内容から学び、秋学期は発展的な内容も取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・データ分析およびプレゼンテーションを行うためのパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

- ・基礎統計学 I/II の内容を理解していることを前提とします。忘れてしまった場合、初回授業までによく復習しておく必要があります。
- ・基本的なパソコンスキル（ワードやパワーポイントによる資料作成、エクセルによる計算等）を前提とします。
- ・統計学のスキルが必要なため、経営のための統計学 I と合わせて履修することを推奨します。
- ・実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

経営のための統計学 I/II
マーケティング・リサーチ I/II
広告論

【Outline (in English)】

【Course outline】

In recent years, the marketing / business data environment called "big data" has been improved, the word "data scientist" is born, and marketing data analysis are required even at the business. The purchase history at the stores of the consumer is accumulated as POS or ID-POS data, and the internet browsing history etc. by the PC, the smartphone, etc. are also recorded as the access log data. Then, each company uses such data to make marketing decisions such as deciding price, advertisement input amount, sales promotion at shop front, etc. In this course, we will learn skills of marketing theory and data analysis, analyze actual marketing data, and acquire practical skills. It also aims to acquire the ability to set themselves and deal with themes through marketing and data analysis, and to develop presentation skills to present and share results.

【Learning Objectives】

Students will acquire basic knowledge of marketing science and skills of marketing data analysis using statistical software. Students can make a presentation using the results of analysis.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be assigned to a chapter of a textbook and will give a presentation.

In the exercise, students will actually perform analysis on their own PCs using the statistical software R. (Preparation of materials is required.) Students will work on themes and write a paper.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Attendance and participation in class discussions:30%.

Group work and individual reports and final reports:40%.

Senior Thesis or Graduation Thesis: 30%.

MAN300FA

演習 3

猪狩 良介

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年、「ビッグデータ」と呼ばれるマーケティング/ビジネスデータ環境が整備され、「データサイエンティスト」という言葉が生まれるなど、ビジネスの現場でもマーケティング・データ分析のニーズは高まっています。消費者の店頭での購買履歴は POS データや ID-POS データとして蓄積され、また PC やスマートフォンなどによるインターネット閲覧履歴等もアクセスログデータとして記録されており、各企業は、このようなデータを利用して、価格や広告投入量、店頭での販促有無などを決定するといったマーケティング意思決定を行っています。

この授業では、実際のマーケティング・データを解析することで、マーケティング理論およびデータ分析のスキルを習得し、実践力を身につけることを目標としています。また、マーケティング・データ分析を通して、自ら課題を設定してテーマに取り組む力や、結果を発表・共有するプレゼンテーション能力などを身につけることも目的としています。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの理論およびマーケティング・データ分析の基本知識を身につける。
- ・統計ソフトを用いてマーケティング・データを実際に分析できる。
- ・分析結果を用いてプレゼンテーションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・前期は、マーケティング・データ分析関連の書籍を輪読して理論を学習します。また、フリーの統計ソフト R を用いたデータ分析の演習を行い、実際の分析を習得します。また、グループで研究に取り組みます。
- ・後期は、グループ研究と個人研究の 2 つについて、実際のテーマを設定して取り組みます。具体的には、設定したテーマについてのデータ取得、解析、分析結果のプレゼンテーションを行い、メンバー間で共有をはかります。また、マーケティング・データ分析関連のコンペにグループで参加する予定です。
- ・当授業は対面で実施する予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の概要および進め方について説明します。
第 2 回	オリエンテーション	グループ決め及び担当分けを行います。また、グループワークを行います。
第 3 回	第 1 章：マーケティング分析の楽しさ 第 2 章：マーケティング分析の手順	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 4 回	第 3 章：仮説検証 第 4 章：サンプリング R のインストールと操作 (サブテキスト 1~2 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 5 回	第 5 章：グラフ 第 6 章：平均と標準偏差 R によるデータハンドリング (サブテキスト 3~4 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 6 回	グループワーク (1) 研究報告 (1)	グループワークを実施します。特に、研究テーマについて話し合います。グループ研究の報告を行います。
第 7 回	第 7 章：相関分析 第 8 章：カイ二乗検定 R によるデータハンドリング 2 (サブテキスト 5 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 8 回	第 8 章：カイ二乗検定 第 9 章：新製品の普及 R によるデータの可視化 (サブテキスト 6 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 9 回	第 9 章：t 検定 第 10 章：分散分析 R による仮説検定 (サブテキスト 7 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。

第 10 回	グループワーク (2) 研究報告 (2)	グループワークを実施します。特に、研究テーマについて話し合います。グループ研究の報告を行います。
第 11 回	第 11 章：回帰分析 第 12 章：因子分析 R による回帰分析 (サブテキスト 8 章) R による因子分析 (サブテキスト 9 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 12 回	第 13 章：コンジョイント分析 第 14 章：共分散構造分析 R によるクラスター分析 (サブテキスト 11 章) R による共分散構造分析 (サブテキスト 13 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 13 回	グループワーク (3) 研究報告 (3)	グループワークを実施します。特に、研究テーマについて話し合います。グループ研究の報告を行います。
第 14 回	まとめ	春学期のまとめを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【春学期】

- ・輪読では各章ごとに担当を決め、報告担当者が発表します (資料作成等の準備が必要となります)。
- ・演習では統計ソフト R を用いて実際に自分のパソコンで分析を実行します (資料作成等の準備が必要となります)。
- ・個人/グループで設定したテーマについて取り組みます。

【秋学期】

- ・個人/グループで設定したテーマについて取り組みます。
- ・個人/グループで論文を執筆します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

恩蔵直人・富田健司 (2022) 「1 からのマーケティング分析 (第 2 版)」碩学舎。

【参考書】

里村卓也 (2014) 「マーケティング・データ分析の基礎」共立出版。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 (40%)
- ・研究発表・議論への参加 (60%)

※ 4 年生は卒論の提出が、2・3 年生は進級論文の提出が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

- ・春学期は基礎的な内容から学び、秋学期は発展的な内容も取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・データ分析およびプレゼンテーションを行うためのパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

- ・基礎統計学 I/II の内容を理解していることを前提とします。忘れてしまった場合、初回授業までによく復習しておく必要があります。
- ・基本的なパソコンスキル (ワードやパワーポイントによる資料作成、エクセルによる計算等) を前提とします。
- ・統計学のスキルが必要なため、経営のための統計学 I と合わせて履修することを推奨します。
- ・実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

基礎統計学 I/II
経営のための統計学 I/II
マーケティング論 I/II
マーケティング・リサーチ I/II

【Outline (in English)】

【Course outline】

In recent years, the marketing / business data environment called "big data" has been improved, the word "data scientist" is born, and marketing data analysis are required even at the business. The purchase history at the stores of the consumer is accumulated as POS or ID-POS data, and the internet browsing history etc. by the PC, the smartphone, etc. are also recorded as the access log data. Then, each company uses such data to make marketing decisions such as deciding price, advertisement input amount, sales promotion at shop front, etc.

In this course, we will learn skills of marketing theory and data analysis, analyze actual marketing data, and acquire practical skills. It also aims to acquire the ability to set themselves and deal with themes through marketing and data analysis, and to develop presentation skills to present and share results.

[Learning Objectives]

Students will acquire basic knowledge of marketing science and skills of marketing data analysis using statistical software.

Students can make a presentation using the results of analysis.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be assigned to a chapter of a textbook and will give a presentation.

In the exercise, students will actually perform analysis on their own PCs using the statistical software R. (Preparation of materials is required.)

Students will work on themes and write a paper.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Attendance and participation in class discussions:30%.

Group work and individual reports and final reports:40%.

Senior Thesis or Graduation Thesis: 30%.

MAN300FA

演習 4

猪狩 良介

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、「ビッグデータ」と呼ばれるマーケティング/ビジネスデータ環境が整備され、「データサイエンティスト」という言葉が生まれるなど、ビジネスの現場でもマーケティング・データ分析のニーズは高まっています。消費者の店頭での購買履歴は POS データや ID-POS データとして蓄積され、また PC やスマートフォンなどによるインターネット閲覧履歴等もアクセスログデータとして記録されており、各企業は、このようなデータを利用して、価格や広告投入量、店頭での販促有無などを決定するといったマーケティング意思決定を行っています。

この授業では、マーケティングサイエンスおよびマーケティングデータ分析についての学習および研究を行います。実際のマーケティング・データを解析することで、マーケティング理論およびデータ分析のスキルを習得し、実践力を身につけます。また、マーケティング・データ分析を通して、自ら課題を設定してテーマに取り組む力や、結果を発表・共有するプレゼンテーション能力などを身につけることも目的としています。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの理論およびマーケティング・データ分析の基本知識を身につける。
- ・統計ソフトを用いてマーケティング・データを実際に分析できる。
- ・分析結果を用いてプレゼンテーションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・前期は、マーケティング・データ分析関連の書籍を輪読して理論を学習します。また、フリーの統計ソフト R を用いたデータ分析の演習を行い、実際の分析を習得します。また、グループで研究に取り組みます。
- ・後期は、グループ研究と個人研究の 2 つについて、実際のテーマを設定して取り組みます。具体的には、設定したテーマについてのデータ取得、解析、分析結果のプレゼンテーションを行い、メンバー間で共有をはかります。また、マーケティング・データ分析関連のコンペにグループで参加する予定です。
- ・当授業は対面です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	秋学期の進め方について説明します。
第 2 回	グループワーク：テーマ報告 (1)	各グループで設定したテーマを発表し、全員でディスカッションします。
第 3 回	グループワーク：テーマ報告 (2)	各グループで設定したテーマを発表し、全員でディスカッションします。
第 4 回	グループワーク：文献・事例研究 (1)	各グループで設定したテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
第 5 回	グループワーク：文献・事例研究 (2)	各グループで設定したテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
第 6 回	グループワーク：文献・事例研究 (3)	各グループで設定したテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
第 7 回	グループワーク：最終報告会 (1)	各グループで設定したテーマの最終発表会を行います。
第 8 回	グループワーク：最終報告会 (2)	各グループで設定したテーマの最終発表会を行います。
第 9 回	個人研究：中間報告 (1)	個人研究の進捗状況について中間報告を行い、ディスカッションします。
第 10 回	個人研究：中間報告 (2)	個人研究の進捗状況について中間報告を行い、ディスカッションします。
第 11 回	個人研究：文献・事例研究 (1)	個人研究のテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
第 12 回	個人研究：文献・事例研究 (2)	個人研究のテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
第 13 回	個人研究：最終報告会 (1)	個人研究についての最終報告会を行います。各自パワーポイントを用いて報告を行い、全員でディスカッションします。

第 14 回 個人研究：最終報告会 (2) 個人研究についての最終報告会を行います。各自パワーポイントを用いて報告を行い、全員でディスカッションします。また、1 年間のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【春学期】

- ・輪読では各章ごとに担当を決め、報告担当者が発表します（資料作成等の準備が必要となります）。
- ・演習では統計ソフト R を用いて実際に自分のパソコンで分析を実行します（資料作成等の準備が必要となります）。
- ・個人/グループで設定したテーマについて取り組みます。

【秋学期】

- ・個人/グループで設定したテーマについて取り組みます。
- ・個人/グループで論文を執筆します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜紹介します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【4 年生】

- ・平常点：30%
- ・グループワークまたは個人での最終提出の論文と進捗発表：70%(論文 50%、発表 20%)

※ 4 年生は卒論の提出が必須です。論文が最終提出されて初めて発表を含む 70% の評価の対象とします。つまり、最終提出がなかった場合は 0 点とします。

【2・3 年生】

- ・平常点：30%
- ・グループワークまたは個人での最終提出の論文と進捗発表：70%(論文 40%、発表 30%)

※ 2・3 年生は進級論文の提出が必須です。論文が最終提出されて初めて発表を含む 70% の評価の対象とします。つまり、最終提出がなかった場合は 0 点とします。また、次年度にゼミを履修するには最終論文の提出とゼミの単位取得が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

- ・春学期は基礎的な内容から学び、秋学期は発展的な内容も取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・データ分析およびプレゼンテーションを行うためのパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

- ・基礎統計学 I/II の内容を理解していることを前提とします。忘れてしまった場合、初回授業までによく復習しておく必要があります。
- ・基本的なパソコンスキル（ワードやパワーポイントによる資料作成、エクセルによる計算等）を前提とします。
- ・統計学のスキルが必要なため、経営のための統計学 I と合わせて履修することを推奨します。
- ・実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

経営のための統計学 I/II
マーケティング・リサーチ I/II
広告論

【Outline (in English)】

【Course outline】

In recent years, the marketing / business data environment called "big data" has been improved, the word "data scientist" is born, and marketing data analysis are required even at the business. The purchase history at the stores of the consumer is accumulated as POS or ID-POS data, and the internet browsing history etc. by the PC, the smartphone, etc. are also recorded as the access log data. Then, each company uses such data to make marketing decisions such as deciding price, advertisement input amount, sales promotion at shop front, etc. In this course, we will learn skills of marketing theory and data analysis, analyze actual marketing data, and acquire practical skills. It also aims to acquire the ability to set themselves and deal with themes through marketing and data analysis, and to develop presentation skills to present and share results.

【Learning Objectives】

Students will acquire basic knowledge of marketing science and skills of marketing data analysis using statistical software. Students can make a presentation using the results of analysis.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be assigned to a chapter of a textbook and will give a presentation.

In the exercise, students will actually perform analysis on their own PCs using the statistical software R. (Preparation of materials is required.) Students will work on themes and write a paper.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Attendance and participation in class discussions:30%.

Group work and individual reports and final reports:40%.

Senior Thesis or Graduation Thesis: 30%.

MAN400FA

演習 5

猪狩 良介

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年、「ビッグデータ」と呼ばれるマーケティング/ビジネスデータ環境が整備され、「データサイエンティスト」という言葉が生まれるなど、ビジネスの現場でもマーケティング・データ分析のニーズは高まっています。消費者の店頭での購買履歴は POS データや ID-POS データとして蓄積され、また PC やスマートフォンなどによるインターネット閲覧履歴等もアクセスログデータとして記録されており、各企業は、このようなデータを利用して、価格や広告投入量、店頭での販促有無などを決定するといったマーケティング意思決定を行っています。

この授業では、実際のマーケティング・データを解析することで、マーケティング理論およびデータ分析のスキルを習得し、実践力を身につけることを目標としています。また、マーケティング・データ分析を通して、自ら課題を設定してテーマに取り組む力や、結果を発表・共有するプレゼンテーション能力などを身につけることも目的としています。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの理論およびマーケティング・データ分析の基本知識を身につける。
- ・統計ソフトを用いてマーケティング・データを実際に分析できる。
- ・分析結果を用いてプレゼンテーションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・前期は、マーケティング・データ分析関連の書籍を輪読して理論を学習します。また、フリーの統計ソフト R を用いたデータ分析の演習を行い、実際の分析を習得します。また、グループで研究に取り組みます。
- ・後期は、グループ研究と個人研究の 2 つについて、実際のテーマを設定して取り組みます。具体的には、設定したテーマについてのデータ取得、解析、分析結果のプレゼンテーションを行い、メンバー間で共有をはかります。また、マーケティング・データ分析関連のコンペにグループで参加する予定です。
- ・当授業は対面で実施する予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の概要および進め方について説明します。
第 2 回	オリエンテーション	グループ決め及び担当分けを行います。また、グループワークを行います。
第 3 回	第 1 章：マーケティング分析の楽しさ 第 2 章：マーケティング分析の手順	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 4 回	第 3 章：仮説検証 第 4 章：サンプリング R のインストールと操作 (サブテキスト 1~2 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 5 回	第 5 章：グラフ 第 6 章：平均と標準偏差 R によるデータハンドリング (サブテキスト 3~4 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 6 回	グループワーク (1) 研究報告 (1)	グループワークを実施します。特に、研究テーマについて話し合います。グループ研究の報告を行います。
第 7 回	第 7 章：相関分析 第 8 章：カイ二乗検定 R によるデータハンドリング 2 (サブテキスト 5 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 8 回	第 8 章：カイ二乗検定 第 9 章：新製品の普及 R によるデータの可視化 (サブテキスト 6 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 9 回	第 9 章：t 検定 第 10 章：分散分析 R による仮説検定 (サブテキスト 7 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。

第 10 回	グループワーク (2) 研究報告 (2)	グループワークを実施します。特に、研究テーマについて話し合います。グループ研究の報告を行います。
第 11 回	第 11 章：回帰分析 第 12 章：因子分析 R による回帰分析 (サブテキスト 8 章) R による因子分析 (サブテキスト 9 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 12 回	第 13 章：コンジョイント分析 第 14 章：共分散構造分析 R によるクラスター分析 (サブテキスト 11 章) R による共分散構造分析 (サブテキスト 13 章)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
第 13 回	グループワーク (3) 研究報告 (3)	グループワークを実施します。特に、研究テーマについて話し合います。グループ研究の報告を行います。
第 14 回	まとめ	春学期のまとめを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【春学期】

- ・輪読では各章ごとに担当を決め、報告担当者が発表します (資料作成等の準備が必要となります)。
- ・演習では統計ソフト R を用いて実際に自分のパソコンで分析を実行します (資料作成等の準備が必要となります)。
- ・個人/グループで設定したテーマについて取り組みます。

【秋学期】

- ・個人/グループで設定したテーマについて取り組みます。
 - ・個人/グループで論文を執筆します。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

恩蔵直人・富田健司 (2022) 「1 からのマーケティング分析 (第 2 版)」碩学舎。

【参考書】

里村卓也 (2014) 「マーケティング・データ分析の基礎」共立出版。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 (40%)
 - ・研究発表・議論への参加 (60%)
- ※ 4 年生は卒論の提出が、2・3 年生は進級論文の提出が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

- ・春学期は基礎的な内容から学び、秋学期は発展的な内容も取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・データ分析およびプレゼンテーションを行うためのパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

- ・基礎統計学 I/II の内容を理解していることを前提とします。忘れてしまった場合、初回授業までによく復習しておく必要があります。
- ・基本的なパソコンスキル (ワードやパワーポイントによる資料作成、エクセルによる計算等) を前提とします。
- ・統計学のスキルが必要なため、経営のための統計学 I と合わせて履修することを推奨します。
- ・実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

基礎統計学 I/II
経営のための統計学 I/II
マーケティング論 I/II
マーケティング・リサーチ I/II

【Outline (in English)】

【Course outline】

In recent years, the marketing / business data environment called "big data" has been improved, the word "data scientist" is born, and marketing data analysis are required even at the business. The purchase history at the stores of the consumer is accumulated as POS or ID-POS data, and the internet browsing history etc. by the PC, the smartphone, etc. are also recorded as the access log data. Then, each company uses such data to make marketing decisions such as deciding price, advertisement input amount, sales promotion at shop front, etc.

In this course, we will learn skills of marketing theory and data analysis, analyze actual marketing data, and acquire practical skills. It also aims to acquire the ability to set themselves and deal with themes through marketing and data analysis, and to develop presentation skills to present and share results.

[Learning Objectives]

Students will acquire basic knowledge of marketing science and skills of marketing data analysis using statistical software.

Students can make a presentation using the results of analysis.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be assigned to a chapter of a textbook and will give a presentation.

In the exercise, students will actually perform analysis on their own PCs using the statistical software R. (Preparation of materials is required.)

Students will work on themes and write a paper.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Attendance and participation in class discussions:30%.

Group work and individual reports and final reports:40%.

Senior Thesis or Graduation Thesis: 30%.

MAN400FA

演習 6

猪狩 良介

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、「ビッグデータ」と呼ばれるマーケティング／ビジネスデータ環境が整備され、「データサイエンティスト」という言葉が生まれるなど、ビジネスの現場でもマーケティング・データ分析のニーズは高まっています。消費者の店頭での購買履歴は POS データや ID-POS データとして蓄積され、また PC やスマートフォンなどによるインターネット閲覧履歴等もアクセスログデータとして記録されており、各企業は、このようなデータを利用して、価格や広告投入量、店頭での販促有無などを決定するといったマーケティング意思決定を行っています。

この授業では、マーケティングサイエンスおよびマーケティングデータ分析についての学習および研究を行います。実際のマーケティング・データを解析することで、マーケティング理論およびデータ分析のスキルを習得し、実践力を身につけます。また、マーケティング・データ分析を通して、自ら課題を設定してテーマに取り組む力や、結果を発表・共有するプレゼンテーション能力などを身につけることも目的としています。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの理論およびマーケティング・データ分析の基本知識を身につける。
- ・統計ソフトを用いてマーケティング・データを実際に分析できる。
- ・分析結果を用いてプレゼンテーションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・前期は、マーケティング・データ分析関連の書籍を輪読して理論を学習します。また、フリーの統計ソフト R を用いたデータ分析の演習を行い、実際の分析を習得します。また、グループで研究に取り組みます。

・後期は、グループ研究と個人研究の 2 つについて、実際のテーマを設定して取り組みます。具体的には、設定したテーマについてのデータ取得、解析、分析結果のプレゼンテーションを行い、メンバー間で共有をはかります。また、マーケティング・データ分析関連のコンペにグループで参加する予定です。・当授業は対面を実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	秋学期の進め方について説明します。
第 2 回	グループワーク：テーマ報告 (1)	各グループで設定したテーマを発表し、全員でディスカッションします。
第 3 回	グループワーク：テーマ報告 (2)	各グループで設定したテーマを発表し、全員でディスカッションします。
第 4 回	グループワーク：文献・事例研究 (1)	各グループで設定したテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
第 5 回	グループワーク：文献・事例研究 (2)	各グループで設定したテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
第 6 回	グループワーク：文献・事例研究 (3)	各グループで設定したテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
第 7 回	グループワーク：最終報告会 (1)	各グループで設定したテーマの最終発表会を行います。
第 8 回	グループワーク：最終報告会 (2)	各グループで設定したテーマの最終発表会を行います。
第 9 回	個人研究：中間報告 (1)	個人研究の進捗状況について中間報告を行い、ディスカッションします。
第 10 回	個人研究：中間報告 (2)	個人研究の進捗状況について中間報告を行い、ディスカッションします。
第 11 回	個人研究：文献・事例研究 (1)	個人研究のテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
第 12 回	個人研究：文献・事例研究 (2)	個人研究のテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
第 13 回	個人研究：最終報告会 (1)	個人研究についての最終報告会を行います。各自パワーポイントを用いて報告を行い、全員でディスカッションします。

第 14 回 個人研究：最終報告会 (2) 個人研究についての最終報告会を行います。各自パワーポイントを用いて報告を行い、全員でディスカッションします。また、1 年間のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【春学期】

・輪読では各章ごとに担当を決め、報告担当者が発表します（資料作成等の準備が必要となります）。

・演習では統計ソフト R を用いて実際に自分のパソコンで分析を実行します（資料作成等の準備が必要となります）。

・個人／グループで設定したテーマについて取り組みます。

【秋学期】

・個人／グループで設定したテーマについて取り組みます。

・個人／グループで論文を執筆します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜紹介します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【4 年生】

・平常点：30%

・グループワークまたは個人での最終提出の論文と進捗発表：70%(論文 50%、発表 20%)

※ 4 年生は卒論の提出が必須です。論文が最終提出されて初めて発表を含む 70% の評価の対象とします。つまり、最終提出がなかった場合は 0 点とします。

【2・3 年生】

・平常点：30%

・グループワークまたは個人での最終提出の論文と進捗発表：70%(論文 40%、発表 30%)

※ 2・3 年生は進級論文の提出が必須です。論文が最終提出されて初めて発表を含む 70% の評価の対象とします。つまり、最終提出がなかった場合は 0 点とします。また、次年度にゼミを履修するには最終論文の提出とゼミの単位取得が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

・春学期は基礎的な内容から学び、秋学期は発展的な内容も取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

・データ分析およびプレゼンテーションを行うためのパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

・基礎統計学 I/II の内容を理解していることを前提とします。忘れてしまった場合、初回授業までによく復習しておく必要があります。

・基本的なパソコンスキル（ワードやパワーポイントによる資料作成、エクセルによる計算等）を前提とします。

・統計学のスキルが必要のため、経営のための統計学 I と合わせて履修することを推奨します。

・実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

経営のための統計学 I/II

マーケティング・リサーチ I/II

広告論

【Outline (in English)】

【Course outline】

In recent years, the marketing / business data environment called "big data" has been improved, the word "data scientist" is born, and marketing data analysis are required even at the business. The purchase history at the stores of the consumer is accumulated as POS or ID-POS data, and the internet browsing history etc. by the PC, the smartphone, etc. are also recorded as the access log data. Then, each company uses such data to make marketing decisions such as deciding price, advertisement input amount, sales promotion at shop front, etc. In this course, we will learn skills of marketing theory and data analysis, analyze actual marketing data, and acquire practical skills. It also aims to acquire the ability to set themselves and deal with themes through marketing and data analysis, and to develop presentation skills to present and share results.

【Learning Objectives】

Students will acquire basic knowledge of marketing science and skills of marketing data analysis using statistical software.

Students can make a presentation using the results of analysis.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be assigned to a chapter of a textbook and will give a presentation.

In the exercise, students will actually perform analysis on their own PCs using the statistical software R. (Preparation of materials is required.) Students will work on themes and write a paper.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Attendance and participation in class discussions:30%.

Group work and individual reports and final reports:40%.

Senior Thesis or Graduation Thesis: 30%.

MAN200FA

演習 1

池田 宏一郎

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般に〈数学〉を身につけるためには、下から積み上げていくような学習が必要な場合が多く、多くの学生が目標に達する前に力尽きてしまうのが現状です。そこで本ゼミでは、まずみなさんにそれぞれ興味をもっているテーマをひとつ決めてもらい、そしてそのテーマに最小限度必要な〈数学〉をグループ単位で学習し、最後に個々に自分のテーマを理解する、という「一点豪華主義」のスタイルをとります。どんなに狭い分野でも、その分野を深く掘り下げたという体験は、みなさんにとって貴重な経験になるはずです。

【到達目標】

〈数学〉は、自然現象のみならず、様々な社会現象を記述する上で非常に有効な道具です。本ゼミでは、みなさんがそれぞれ必要と考えている〈数学〉を身につけてもらうのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループで選んだテキストを使って、誰かが毎回発表を行います。また発表者がその場で考える問題を用意するなどして、全員で考えたり話し合う時間を作ります。フィードバックは学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマの選択①	進級および卒業論文のテーマを選択①
第 2 回	テーマの選択②	進級および卒業論文のテーマを選択②
第 3 回	テーマの選択③	進級および卒業論文のテーマを選択③
第 4 回	達成目標の設定①	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定①
第 5 回	達成目標の設定②	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定②
第 6 回	達成目標の設定③	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定③
第 7 回	基本事項の確認①	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習①
第 8 回	基本事項の確認②	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習②
第 9 回	基本事項の確認③	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習③
第 10 回	目標の達成①	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討①
第 11 回	目標の達成②	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討②
第 12 回	目標の達成③	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討③
第 13 回	中間発表①	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較①
第 14 回	中間発表②	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の選んだテーマに関するテキスト・参考書を読み進め、自分がわからないところはどこかを明確にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にありません。毎回、プリントを配布するなどして授業を進めていきます。最初の授業で 1 年間で学びたいテーマをいくつか選んで、各テーマに応じてテキストを選びます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を進級および卒業レポート（40%）において、また、演習問題への取り組み具合を平常点（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がけます。

【その他の重要事項】

関連科目：「基礎数学 I/II」、「教養数学 A/B」、「確率の世界 A/B」、「発展数学 L/LII」

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in mathematics. The goals of this course are to possess the ability to think logically. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end presentation(50%), and in-class contribution (20%).

MAN200FA

演習 2

池田 宏一郎

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般に〈数学〉を身につけるためには、下から積み上げていくような学習が必要な場合が多く、多くの学生が目標に達する前に力尽きてしまうのが現状です。そこで本ゼミでは、まずみなさんにそれぞれ興味をもっているテーマをひとつ決めてもらい、そしてそのテーマに最小限度必要な〈数学〉をグループ単位で学習し、最後に個々に自分のテーマを理解する、という「一点豪華主義」のスタイルをとります。どんなに狭い分野でも、その分野を深く掘り下げたという体験は、みなさんにとって貴重な経験になるはずです。

【到達目標】

〈数学〉は、自然現象のみならず、様々な社会現象を記述する上で非常に有効な道具です。本ゼミでは、みなさんがそれぞれ必要と考えている〈数学〉を身につけてもらうのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループで選んだテキストを使って、誰かが毎回発表を行います。また発表者がその場で考える問題を用意するなどして、全員で考えたり話し合う時間を作ります。フィードバックは学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマの選択①	進級および卒業論文のテーマを選択①
第 2 回	テーマの選択②	進級および卒業論文のテーマを選択②
第 3 回	テーマの選択③	進級および卒業論文のテーマを選択③
第 4 回	達成目標の設定①	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定①
第 5 回	達成目標の設定②	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定②
第 6 回	達成目標の設定③	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定③
第 7 回	基本事項の確認①	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習①
第 8 回	基本事項の確認②	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習②
第 9 回	基本事項の確認③	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習③
第 10 回	目標の達成①	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討①
第 11 回	目標の達成②	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討②
第 12 回	目標の達成③	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討③
第 13 回	中間発表①	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較①
第 14 回	中間発表②	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の選んだテーマに関するテキスト・参考書を読み進め、自分がわからないところがどこかを明確にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にありません。毎回、プリントを配布するなどして授業を進めていきます。最初の授業で 1 年間で学びたいテーマをいくつか選んで、各テーマに応じてテキストを選びます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を進級および卒業レポート（40%）において、また、演習問題への取り組み具合を平常点（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がけます。

【その他の重要事項】

関連科目：「基礎数学 I/II」、「教養数学 A/B」、「確率の世界 A/B」、「発展数学 L/LII」

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in mathematics. The goals of this course are to possess the ability to think logically. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end presentation(50%), and in-class contribution (20%).

MAN300FA

演習 3

池田 宏一郎

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般に〈数学〉を身につけるためには、下から積み上げていくような学習が必要な場合が多く、多くの学生が目標に達する前に力尽きてしまうのが現状です。そこで本ゼミでは、まずみなさんにそれぞれ興味をもっているテーマをひとつ決めてもらい、そしてそのテーマに最小限度必要な〈数学〉をグループ単位で学習し、最後に個々に自分のテーマを理解する、という「一点豪華主義」のスタイルをとります。どんなに狭い分野でも、その分野を深く掘り下げたという体験は、みなさんにとって貴重な経験になるはずです。

【到達目標】

〈数学〉は、自然現象のみならず、様々な社会現象を記述する上で非常に有効な道具です。本ゼミでは、みなさんがそれぞれ必要と考えている〈数学〉を身につけてもらうのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループで選んだテキストを使って、誰かが毎回発表を行います。また発表者がその場で考える問題を用意するなどして、全員で考えたり話し合う時間を作ります。フィードバックは学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマの選択①	進級および卒業論文のテーマを選択①
第 2 回	テーマの選択②	進級および卒業論文のテーマを選択②
第 3 回	テーマの選択③	進級および卒業論文のテーマを選択③
第 4 回	達成目標の設定①	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定①
第 5 回	達成目標の設定②	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定②
第 6 回	達成目標の設定③	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定③
第 7 回	基本事項の確認①	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習①
第 8 回	基本事項の確認②	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習②
第 9 回	基本事項の確認③	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習③
第 10 回	目標の達成①	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討①
第 11 回	目標の達成②	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討②
第 12 回	目標の達成③	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討③
第 13 回	中間発表①	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較①
第 14 回	中間発表②	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の選んだテーマに関するテキスト・参考書を読み進め、自分がわからないところはどこかを明確にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にありません。毎回、プリントを配布するなどして授業を進めていきます。最初の授業で 1 年間で学びたいテーマをいくつか選んで、各テーマに応じてテキストを選びます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を進級および卒業レポート（40%）において、また、演習問題への取り組み具合を平常点（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がけます。

【その他の重要事項】

関連科目：「基礎数学 I/II」、「教養数学 A/B」、「確率の世界 A/B」、「発展数学 L/LII」

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in mathematics. The goals of this course are to possess the ability to think logically. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end presentation(50%), and in-class contribution (20%).

MAN300FA

演習 4

池田 宏一郎

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般に〈数学〉を身につけるためには、下から積み上げていくような学習が必要な場合が多く、多くの学生が目標に達する前に力尽きてしまうのが現状です。そこで本ゼミでは、まずみなさんにそれぞれ興味をもっているテーマをひとつ決めてもらい、そしてそのテーマに最小限度必要な〈数学〉をグループ単位で学習し、最後に個々に自分のテーマを理解する、という「一点豪華主義」のスタイルをとります。どんなに狭い分野でも、その分野を深く掘り下げたという体験は、みなさんにとって貴重な経験になるはずです。

【到達目標】

〈数学〉は、自然現象のみならず、様々な社会現象を記述する上で非常に有効な道具です。本ゼミでは、みなさんがそれぞれ必要と考えている〈数学〉を身につけてもらうのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループで選んだテキストを使って、誰かが毎回発表を行います。また発表者がその場で考える問題を用意するなどして、全員で考えたり話し合う時間を作ります。フィードバックは学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマの選択①	進級および卒業論文のテーマを選択①
第 2 回	テーマの選択②	進級および卒業論文のテーマを選択②
第 3 回	テーマの選択③	進級および卒業論文のテーマを選択③
第 4 回	達成目標の設定①	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定①
第 5 回	達成目標の設定②	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定②
第 6 回	達成目標の設定③	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定③
第 7 回	基本事項の確認①	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習①
第 8 回	基本事項の確認②	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習②
第 9 回	基本事項の確認③	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習③
第 10 回	目標の達成①	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討①
第 11 回	目標の達成②	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討②
第 12 回	目標の達成③	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討③
第 13 回	中間発表①	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較①
第 14 回	中間発表②	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の選んだテーマに関するテキスト・参考書を読み進め、自分がわからないところがどこかを明確にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にありません。毎回、プリントを配布するなどして授業を進めていきます。最初の授業で 1 年間で学びたいテーマをいくつか選んで、各テーマに応じてテキストを選びます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を進級および卒業レポート（40%）において、また、演習問題への取り組み具合を平常点（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がけます。

【その他の重要事項】

関連科目：「基礎数学 I/II」、「教養数学 A/B」、「確率の世界 A/B」、「発展数学 L/LII」

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in mathematics. The goals of this course are to possess the ability to think logically. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end presentation(50%), and in-class contribution (20%).

MAN400FA

演習 5

池田 宏一郎

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般に〈数学〉を身につけるためには、下から積み上げていくような学習が必要な場合が多く、多くの学生が目標に達する前に力尽きてしまうのが現状です。そこで本ゼミでは、まずみなさんにそれぞれ興味をもっているテーマをひとつ決めてもらい、そしてそのテーマに最小限度必要な〈数学〉をグループ単位で学習し、最後に個々に自分のテーマを理解する、という「一点豪華主義」のスタイルをとります。どんなに狭い分野でも、その分野を深く掘り下げたという体験は、みなさんにとって貴重な経験になるはずです。

【到達目標】

〈数学〉は、自然現象のみならず、様々な社会現象を記述する上で非常に有効な道具です。本ゼミでは、みなさんがそれぞれ必要と考えている〈数学〉を身につけてもらうのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループで選んだテキストを使って、誰かが毎回発表を行います。また発表者がその場で考える問題を用意するなどして、全員で考えたり話し合う時間を作ります。フィードバックは学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマの選択①	進級および卒業論文のテーマを選択①
第 2 回	テーマの選択②	進級および卒業論文のテーマを選択②
第 3 回	テーマの選択③	進級および卒業論文のテーマを選択③
第 4 回	達成目標の設定①	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定①
第 5 回	達成目標の設定②	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定②
第 6 回	達成目標の設定③	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定③
第 7 回	基本事項の確認①	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習①
第 8 回	基本事項の確認②	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習②
第 9 回	基本事項の確認③	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習③
第 10 回	目標の達成①	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討①
第 11 回	目標の達成②	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討②
第 12 回	目標の達成③	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討③
第 13 回	中間発表①	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較①
第 14 回	中間発表②	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の選んだテーマに関するテキスト・参考書を読み進め、自分がわからないところはどこかを明確にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にありません。毎回、プリントを配布するなどして授業を進めていきます。最初の授業で 1 年間で学びたいテーマをいくつか選んで、各テーマに応じてテキストを選びます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を進級および卒業レポート（40%）において、また、演習問題への取り組み具合を平常点（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がけます。

【その他の重要事項】

関連科目：「基礎数学 I/II」、「教養数学 A/B」、「確率の世界 A/B」、「発展数学 L/LII」

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in mathematics. The goals of this course are to possess the ability to think logically. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end presentation(50%), and in-class contribution (20%).

MAN400FA

演習 6

池田 宏一郎

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般に〈数学〉を身につけるためには、下から積み上げていくような学習が必要な場合が多く、多くの学生が目標に達する前に力尽きてしまうのが現状です。そこで本ゼミでは、まずみなさんにそれぞれ興味をもっているテーマをひとつ決めてもらい、そしてそのテーマに最小限度必要な〈数学〉をグループ単位で学習し、最後に個々に自分のテーマを理解する、という「一点豪華主義」のスタイルをとります。どんなに狭い分野でも、その分野を深く掘り下げたという体験は、みなさんにとって貴重な経験になるはずです。

【到達目標】

〈数学〉は、自然現象のみならず、様々な社会現象を記述する上で非常に有効な道具です。本ゼミでは、みなさんがそれぞれ必要と考えている〈数学〉を身につけてもらうのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループで選んだテキストを使って、誰かが毎回発表を行います。また発表者がその場で考える問題を用意するなどして、全員で考えたり話し合う時間を作ります。フィードバックは学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマの選択①	進級および卒業論文のテーマを選択①
第 2 回	テーマの選択②	進級および卒業論文のテーマを選択②
第 3 回	テーマの選択③	進級および卒業論文のテーマを選択③
第 4 回	達成目標の設定①	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定①
第 5 回	達成目標の設定②	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定②
第 6 回	達成目標の設定③	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定③
第 7 回	基本事項の確認①	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習①
第 8 回	基本事項の確認②	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習②
第 9 回	基本事項の確認③	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習③
第 10 回	目標の達成①	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討①
第 11 回	目標の達成②	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討②
第 12 回	目標の達成③	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討③
第 13 回	中間発表①	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較①
第 14 回	中間発表②	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の選んだテーマに関するテキスト・参考書を読み進め、自分がわからないところがどこかを明確にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にありません。毎回、プリントを配布するなどして授業を進めていきます。最初の授業で 1 年間で学びたいテーマをいくつか選んで、各テーマに応じてテキストを選びます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を進級および卒業レポート（40%）において、また、演習問題への取り組み具合を平常点（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がけます。

【その他の重要事項】

関連科目：「基礎数学 I/II」、「教養数学 A/B」、「確率の世界 A/B」、「発展数学 L/LII」

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in mathematics. The goals of this course are to possess the ability to think logically. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end presentation(50%), and in-class contribution (20%).

MAN200FA

演習 1

稲垣 京輔

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、日本企業の大半を占める中小企業における経営問題を、事業創造、事業の存続、イノベーション、企業変革、協業といった切り口から学びます。実際に調査（フィールド調査や文献調査等）を行い、経営戦略論、組織論、企業ガバナンス、事業創造論などの経営学の主要な概念（現象を整理するための武器）を用いて考察を行い理解を深めます。本演習を通じて、経営者や経営スタッフに必要な企業経営にかかわる総合的な思考力を養います。

【到達目標】

本演習の到達目標は、企業経営に関して問題意識を持ち、先行研究の知恵や知識を借りながら、自ら調査対象を探して、経営現象について実際に調査する作法、論理の立て方を習得することです。ゼミメンバーとの協働活動（グループワーク）を通じて、問いの立て方、議論の起こし方や進め方、結論の導き方を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期は、テキスト（教科書）を中心とする文献の購読、個人の研究関心に基づいて研究課題（リサーチ・クエスチョン）の設定を行います。具体的には、文献の購読によって実際の企業経営におけるテーマを分類し、研究課題（研究の切り口）を見つけます。各グループの研究関心毎に、様々な先行研究の探索を行い、どのような示唆があるのか、反対に何が明確にされていないのかを学びます。

秋学期は、グループ研究を計画的かつ論理的に進めていくことが演習活動の中心となります。具体的には、各々の研究課題にそって、研究方法（フィールド調査や文献調査の方法論）を学び、研究対象を定めて実際の調査を行います。さらにその研究成果をゼミで報告し、論文としてまとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・自己紹介 ・研究グループ分け ・3年生の各グループへの参加
第 2 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 3 回	グループワーク	研究テーマの選定
第 4 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 5 回	グループワーク	研究テーマの選定
第 6 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 7 回	グループワーク	文献の探索
第 8 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 9 回	グループワーク	文献の探索
第 10 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 11 回	グループワーク	フィールド調査の計画
第 12 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 13 回	グループワーク	フィールド調査の計画
第 14 回	研究中間報告会	各グループにおける研究課題設定と研究計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回指定するテキスト（教科書）の該当箇所を読み、自分の意見を用意して講義に臨むようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【参考書】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

・クラス発言（問題意識、着眼点、主体性、発言の品質など）30%
・課題レポート（前期・後期）40%
・ゼミへのコミットメント30%
（留意事項）3回以上の欠席からは減点の対象

【学生の意見等からの気づき】

遠隔と対面をハイブリッドで行うほうが効果的である

【その他の重要事項】

・春学期・秋学期合わせての履修が必要。今年度から対面となります。

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

Our seminar will learn business succession and innovation in small and medium companies (Japanese family business). We can learn how to make research question and research method through reading some book chapters and articles in this field of strategies organisation, corporate governance and entrepreneurship.

The goal of our seminar is to be aware of problems related to corporate management, to search for research targets by yourself while borrowing the wisdom and knowledge of previous research, and to learn how to actually investigate management phenomena and how to formulate logic. .. Through collaborative activities (group work) with seminar members, you will learn how to ask questions, how to raise and proceed with discussions, and how to draw conclusions.

About the progress of the seminar..

In the spring semester, we will subscribe to literature centered on textbooks and set research themes (research questions) based on individual research interests. Specifically, by subscribing to the literature, we classify themes in actual corporate management and find research themes (research perspectives). For each group's research interests, we will search for various previous studies and learn what the implications are and what, on the contrary, are not clarified.

In the autumn semester, the core of the exercise activities is to proceed with group research systematically and logically. Specifically, we will learn research methods (field research and literature research methodologies) according to each research theme, determine the research target, and conduct an actual research. Furthermore, the research results will be reported in a seminar and summarised as a dissertation.

Regarding homework, it is necessary to read the relevant part of the specified text (textbook) each time, prepare your own opinion, and attend the seminar. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

As grading criteria are

- ・ Class remarks (problem awareness, point of view, independence, quality of remarks, etc.) 30%
- ・ Report (first half / second half) 40%
- ・ 30% commitment to seminars

MAN200FA

演習 2

稲垣 京輔

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、日本企業の大半を占める中小企業における経営問題を、事業創造、事業の存続、イノベーション、企業変革、協業といった切り口から学びます。実際に調査（フィールド調査や文献調査等）を行い、経営戦略論、組織論、企業ガバナンス、事業創造論などの経営学の主要な概念（現象を整理するための武器）を用いて考察を行い理解を深めます。本演習を通じて、経営者や経営スタッフに必要な企業経営にかかわる総合的な思考力を養います。

【到達目標】

本演習の到達目標は、企業経営に関して問題意識を持ち、先行研究の知恵や知識を借りながら、自ら調査対象を探して、経営現象について実際に調査する作法、論理の立て方を習得することです。ゼミメンバーとの協働活動（グループワーク）を通じて、問いの立て方、議論の起こし方や進め方、結論の導き方を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

秋学期は、テキスト（教科書）を中心とする文献の購読、個人の研究関心に基づいて研究課題（リサーチ・クエスチョン）の設定を行います。具体的には、文献の購読によって実際の企業経営におけるテーマを分類し、研究課題（研究の切り口）を見つけます。各グループの研究関心毎に、様々な先行研究の探索を行い、どのような示唆があるのか、反対に何が明確にされていないのかを学びます。

秋学期は、グループ研究を計画的かつ論理的に進めていくことが演習活動の中心となります。具体的には、各々の研究課題にそって、研究方法（フィールド調査や文献調査の方法論）を学び、研究対象を定めて実際の調査を行います。さらにその研究成果をゼミで報告し、論文としてまとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・自己紹介 ・研究グループ分け ・3年生の各グループへの参加
第 2 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 3 回	グループワーク	研究テーマの選定
第 4 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 5 回	グループワーク	研究テーマの選定
第 6 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 7 回	グループワーク	文献の探索
第 8 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 9 回	グループワーク	文献の探索
第 10 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 11 回	グループワーク	フィールド調査の計画
第 12 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 13 回	グループワーク	フィールド調査の計画
第 14 回	研究報告会	各グループにおける研究課題設定と研究計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生の皆さんは、毎回指定するテキスト（教科書）の該当箇所を読み、自分の意見を用意して講義に臨むようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【参考書】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

・クラス発言（問題意識、着眼点、主体性、発言の品質など）30%
・課題レポート（前期・後期）40%
・ゼミへのコミットメント30%
（留意事項）3回以上の欠席からは減点の対象

【学生の意見等からの気づき】

遠隔と対面をハイブリッドで行うほうが効果的である

【その他の重要事項】

・春学期・秋学期合わせての履修が必要です
今年度から対面に切り替えます。

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

Our seminar will learn business succession and innovation in small and medium companies (Japanese family business). We can learn how to make research question and research method through reading some book chapters and articles in the field of strategies organisation, corporate governance and entrepreneurship.

The goal of our seminar is to be aware of problems related to corporate management, to search for research targets by yourself while borrowing the wisdom and knowledge of previous research, and to learn how to actually investigate management phenomena and how to formulate logic. .. Through collaborative activities (group work) with seminar members, you will learn how to ask questions, how to raise and proceed with discussions, and how to draw conclusions.

About the progress of the seminar...

In the spring semester, we will subscribe to literature centered on textbooks and set research themes (research questions) based on individual research interests. Specifically, by subscribing to the literature, we classify themes in actual corporate management and find research themes (research perspectives). For each group's research interests, we will search for various previous studies and learn what the implications are and what, on the contrary, are not clarified.

In the autumn semester, the core of the exercise activities is to proceed with group research systematically and logically. Specifically, we will learn research methods (field research and literature research methodologies) according to each research theme, determine the research target, and conduct an actual research. Furthermore, the research results will be reported in a seminar and summarised as a dissertation.

Regarding homework, it is necessary to read the relevant part of the specified text (textbook) each time, prepare your own opinion, and attend the seminar. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

As grading criteria are

・ Class remarks (problem awareness, point of view, independence, quality of remarks, etc.) 30%
・ Report (first half / second half) 40%
・ 30% commitment to seminars

MAN300FA

演習 3

稲垣 京輔

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、日本企業の大半を占める中小企業における経営問題を、事業創造、事業の存続、イノベーション、企業変革、協業といった切り口から学びます。実際に調査（フィールド調査や文献調査等）を行い、経営戦略論、組織論、企業ガバナンス、事業創造論などの経営学の主要な概念（現象を整理するための武器）を用いて考察を行い理解を深めます。本演習を通じて、経営者や経営スタッフに必要な企業経営にかかわる総合的な思考力を養います。

【到達目標】

本演習の到達目標は、企業経営に関して問題意識を持ち、先行研究の知恵や知識を借りながら、自ら調査対象を探して、経営現象について実際に調査する作法、論理の立て方を習得することです。ゼミメンバーとの協働活動（グループワーク）を通じて、問いの立て方、議論の起こし方や進め方、結論の導き方を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期は、テキスト（教科書）を中心とする文献の購読、個人の研究関心に基づいて研究課題（リサーチ・クエスチョン）の設定を行います。具体的には、文献の購読によって実際の企業経営におけるテーマを分類し、研究課題（研究の切り口）を見つけます。各グループの研究関心毎に、様々な先行研究の探索を行い、どのような示唆があるのか、反対に何が明確にされていないのかを学びます。

秋学期は、グループ研究を計画的かつ論理的に進めていくことが演習活動の中心となります。具体的には、各々の研究課題にそって、研究方法（フィールド調査や文献調査の方法論）を学び、研究対象を定めて実際の調査を行います。さらにその研究成果をゼミで報告し、論文としてまとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・自己紹介 ・研究グループ分け ・3年生の各グループへの参加
第 2 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 3 回	グループワーク	研究テーマの選定
第 4 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 5 回	グループワーク	研究テーマの選定
第 6 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 7 回	グループワーク	文献の探索
第 8 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 9 回	グループワーク	文献の探索
第 10 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 11 回	グループワーク	フィールド調査の計画
第 12 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 13 回	グループワーク	フィールド調査の計画
第 14 回	研究中間報告会	各グループにおける研究課題設定と研究計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回指定するテキスト（教科書）の該当箇所を読み、自分の意見を用意して講義に臨むようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【参考書】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

・クラス発言（問題意識、着眼点、主体性、発言の品質など）30%
・課題レポート（前期・後期）40%
・ゼミへのコミットメント30%
（留意事項）3回以上の欠席からは減点の対象

【学生の意見等からの気づき】

遠隔と対面をハイブリッドで行うほうが効果的である

【その他の重要事項】

・春学期・秋学期合わせての履修が必要。今年度から対面となります。

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

Our seminar will learn business succession and innovation in small and medium companies (Japanese family business). We can learn how to make research question and research method through reading some book chapters and articles in this field of strategies organisation, corporate governance and entrepreneurship.

The goal of our seminar is to be aware of problems related to corporate management, to search for research targets by yourself while borrowing the wisdom and knowledge of previous research, and to learn how to actually investigate management phenomena and how to formulate logic. .. Through collaborative activities (group work) with seminar members, you will learn how to ask questions, how to raise and proceed with discussions, and how to draw conclusions.

About the progress of the seminar..

In the spring semester, we will subscribe to literature centered on textbooks and set research themes (research questions) based on individual research interests. Specifically, by subscribing to the literature, we classify themes in actual corporate management and find research themes (research perspectives). For each group's research interests, we will search for various previous studies and learn what the implications are and what, on the contrary, are not clarified.

In the autumn semester, the core of the exercise activities is to proceed with group research systematically and logically. Specifically, we will learn research methods (field research and literature research methodologies) according to each research theme, determine the research target, and conduct an actual research. Furthermore, the research results will be reported in a seminar and summarised as a dissertation.

Regarding homework, it is necessary to read the relevant part of the specified text (textbook) each time, prepare your own opinion, and attend the seminar. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

As grading criteria are

・ Class remarks (problem awareness, point of view, independence, quality of remarks, etc.) 30%
・ Report (first half / second half) 40%
・ 30% commitment to seminars

MAN300FA

演習 4

稲垣 京輔

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、日本企業の大半を占める中小企業における経営問題を、事業創造、事業の存続、イノベーション、企業変革、協業といった切り口から学びます。実際に調査（フィールド調査や文献調査等）を行い、経営戦略論、組織論、企業ガバナンス、事業創造論などの経営学の主要な概念（現象を整理するための武器）を用いて考察を行い理解を深めます。本演習を通じて、経営者や経営スタッフに必要な企業経営にかかわる総合的な思考力を養います。

【到達目標】

本演習の到達目標は、企業経営に関して問題意識を持ち、先行研究の知恵や知識を借りながら、自ら調査対象を探して、経営現象について実際に調査する作法、論理の立て方を習得することです。ゼミメンバーとの協働活動（グループワーク）を通じて、問いの立て方、議論の起こし方や進め方、結論の導き方を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

秋学期は、テキスト（教科書）を中心とする文献の購読、個人の研究関心に基づいて研究課題（リサーチ・クエスチョン）の設定を行います。具体的には、文献の購読によって実際の企業経営におけるテーマを分類し、研究課題（研究の切り口）を見つけます。各グループの研究関心毎に、様々な先行研究の探索を行い、どのような示唆があるのか、反対に何が明確にされていないのかを学びます。

秋学期は、グループ研究を計画的かつ論理的に進めていくことが演習活動の中心となります。具体的には、各々の研究課題にそって、研究方法（フィールド調査や文献調査の方法論）を学び、研究対象を定めて実際の調査を行います。さらにその研究成果をゼミで報告し、論文としてまとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・自己紹介 ・研究グループ分け ・3年生の各グループへの参加
第 2 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 3 回	グループワーク	研究テーマの選定
第 4 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 5 回	グループワーク	研究テーマの選定
第 6 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 7 回	グループワーク	文献の探索
第 8 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 9 回	グループワーク	文献の探索
第 10 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 11 回	グループワーク	フィールド調査の計画
第 12 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 13 回	グループワーク	フィールド調査の計画
第 14 回	研究報告会	各グループにおける研究課題設定と研究計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生の皆さんは、毎回指定するテキスト（教科書）の該当箇所を読み、自分の意見を用意して講義に臨むようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【参考書】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

・クラス発言（問題意識、着眼点、主体性、発言の品質など）30%
・課題レポート（前期・後期）40%
・ゼミへのコミットメント30%
（留意事項）3回以上の欠席からは減点の対象

【学生の意見等からの気づき】

遠隔と対面をハイブリッドで行うほうが効果的である

【その他の重要事項】

・春学期・秋学期合わせての履修が必要です
今年度から対面に切り替えます。

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

Our seminar will learn business succession and innovation in small and medium companies (Japanese family business). We can learn how to make research question and research method through reading some book chapters and articles in the field of strategies organisation, corporate governance and entrepreneurship.

The goal of our seminar is to be aware of problems related to corporate management, to search for research targets by yourself while borrowing the wisdom and knowledge of previous research, and to learn how to actually investigate management phenomena and how to formulate logic. ... Through collaborative activities (group work) with seminar members, you will learn how to ask questions, how to raise and proceed with discussions, and how to draw conclusions.

About the progress of the seminar...

In the spring semester, we will subscribe to literature centered on textbooks and set research themes (research questions) based on individual research interests. Specifically, by subscribing to the literature, we classify themes in actual corporate management and find research themes (research perspectives). For each group's research interests, we will search for various previous studies and learn what the implications are and what, on the contrary, are not clarified.

In the autumn semester, the core of the exercise activities is to proceed with group research systematically and logically. Specifically, we will learn research methods (field research and literature research methodologies) according to each research theme, determine the research target, and conduct an actual research. Furthermore, the research results will be reported in a seminar and summarised as a dissertation.

Regarding homework, it is necessary to read the relevant part of the specified text (textbook) each time, prepare your own opinion, and attend the seminar. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

As grading criteria are

・ Class remarks (problem awareness, point of view, independence, quality of remarks, etc.) 30%
・ Report (first half / second half) 40%
・ 30% commitment to seminars

MAN400FA

演習 5

稲垣 京輔

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、日本企業の大半を占める中小企業における経営問題を、事業創造、事業の存続、イノベーション、企業変革、協業といった切り口から学びます。実際に調査（フィールド調査や文献調査等）を行い、経営戦略論、組織論、企業ガバナンス、事業創造論などの経営学の主要な概念（現象を整理するための武器）を用いて考察を行い理解を深めます。本演習を通じて、経営者や経営スタッフに必要な企業経営にかかわる総合的な思考力を養います。

【到達目標】

本演習の到達目標は、企業経営に関して問題意識を持ち、先行研究の知恵や知識を借りながら、自ら調査対象を探して、経営現象について実際に調査する作法、論理の立て方を習得することです。ゼミメンバーとの協働活動（グループワーク）を通じて、問いの立て方、議論の起こし方や進め方、結論の導き方を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期は、テキスト（教科書）を中心とする文献の購読、個人の研究関心に基づいて研究課題（リサーチ・クエスチョン）の設定を行います。具体的には、文献の購読によって実際の企業経営におけるテーマを分類し、研究課題（研究の切り口）を見つけます。各グループの研究関心毎に、様々な先行研究の探索を行い、どのような示唆があるのか、反対に何が明確にされていないのかを学びます。

秋学期は、グループ研究を計画的かつ論理的に進めていくことが演習活動の中心となります。具体的には、各々の研究課題にそって、研究方法（フィールド調査や文献調査の方法論）を学び、研究対象を定めて実際の調査を行います。さらにその研究成果をゼミで報告し、論文としてまとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・自己紹介 ・研究グループ分け ・3年生の各グループへの参加
第 2 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 3 回	グループワーク	研究テーマの選定
第 4 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 5 回	グループワーク	研究テーマの選定
第 6 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 7 回	グループワーク	文献の探索
第 8 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 9 回	グループワーク	文献の探索
第 10 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 11 回	グループワーク	フィールド調査の計画
第 12 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 13 回	グループワーク	フィールド調査の計画
第 14 回	研究中間報告会	各グループにおける研究課題設定と研究計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回指定するテキスト（教科書）の該当箇所を読み、自分の意見を用意して講義に臨むようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【参考書】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

・クラス発言（問題意識、着眼点、主体性、発言の品質など）30%
・課題レポート（前期・後期）40%
・ゼミへのコミットメント30%
（留意事項）3回以上の欠席からは減点の対象

【学生の意見等からの気づき】

遠隔と対面をハイブリッドで行うほうが効果的である

【その他の重要事項】

・春学期・秋学期合わせての履修が必要。今年度から対面となります。

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

Our seminar will learn business succession and innovation in small and medium companies (Japanese family business). We can learn how to make research question and research method through reading some book chapters and articles in this field of strategies organisation, corporate governance and entrepreneurship.

The goal of our seminar is to be aware of problems related to corporate management, to search for research targets by yourself while borrowing the wisdom and knowledge of previous research, and to learn how to actually investigate management phenomena and how to formulate logic. .. Through collaborative activities (group work) with seminar members, you will learn how to ask questions, how to raise and proceed with discussions, and how to draw conclusions.

About the progress of the seminar..

In the spring semester, we will subscribe to literature centered on textbooks and set research themes (research questions) based on individual research interests. Specifically, by subscribing to the literature, we classify themes in actual corporate management and find research themes (research perspectives). For each group's research interests, we will search for various previous studies and learn what the implications are and what, on the contrary, are not clarified.

In the autumn semester, the core of the exercise activities is to proceed with group research systematically and logically. Specifically, we will learn research methods (field research and literature research methodologies) according to each research theme, determine the research target, and conduct an actual research. Furthermore, the research results will be reported in a seminar and summarised as a dissertation.

Regarding homework, it is necessary to read the relevant part of the specified text (textbook) each time, prepare your own opinion, and attend the seminar. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

As grading criteria are

- ・ Class remarks (problem awareness, point of view, independence, quality of remarks, etc.) 30%
- ・ Report (first half / second half) 40%
- ・ 30% commitment to seminars

MAN400FA

演習 6

稲垣 京輔

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、日本企業の大半を占める中小企業における経営問題を、事業創造、事業の存続、イノベーション、企業変革、協業といった切り口から学びます。実際に調査（フィールド調査や文献調査等）を行い、経営戦略論、組織論、企業ガバナンス、事業創造論などの経営学の主要な概念（現象を整理するための武器）を用いて考察を行い理解を深めます。本演習を通じて、経営者や経営スタッフに必要な企業経営にかかわる総合的な思考力を養います。

【到達目標】

本演習の到達目標は、企業経営に関して問題意識を持ち、先行研究の知恵や知識を借りながら、自ら調査対象を探して、経営現象について実際に調査する作法、論理の立て方を習得することです。ゼミメンバーとの協働活動（グループワーク）を通じて、問いの立て方、議論の起こし方や進め方、結論の導き方を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

秋学期は、テキスト（教科書）を中心とする文献の購読、個人の研究関心に基づいて研究課題（リサーチ・クエスチョン）の設定を行います。具体的には、文献の購読によって実際の企業経営におけるテーマを分類し、研究課題（研究の切り口）を見つけます。各グループの研究関心毎に、様々な先行研究の探索を行い、どのような示唆があるのか、反対に何が明確にされていないのかを学びます。

秋学期は、グループ研究を計画的かつ論理的に進めていくことが演習活動の中心となります。具体的には、各々の研究課題にそって、研究方法（フィールド調査や文献調査の方法論）を学び、研究対象を定めて実際の調査を行います。さらにその研究成果をゼミで報告し、論文としてまとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・自己紹介 ・研究グループ分け ・3年生の各グループへの参加
第 2 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 3 回	グループワーク	研究テーマの選定
第 4 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 5 回	グループワーク	研究テーマの選定
第 6 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 7 回	グループワーク	文献の探索
第 8 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 9 回	グループワーク	文献の探索
第 10 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 11 回	グループワーク	フィールド調査の計画
第 12 回	文献購読	組織論、戦略論の基本文献を読む
第 13 回	グループワーク	フィールド調査の計画
第 14 回	研究報告会	各グループにおける研究課題設定と研究計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生の皆さんは、毎回指定するテキスト（教科書）の該当箇所を読み、自分の意見を用意して講義に臨むようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【参考書】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

・クラス発言（問題意識、着眼点、主体性、発言の品質など）30%
・課題レポート（前期・後期）40%
・ゼミへのコミットメント30%
（留意事項）3回以上の欠席からは減点の対象

【学生の意見等からの気づき】

遠隔と対面をハイブリッドで行うほうが効果的である

【その他の重要事項】

・春学期・秋学期合わせての履修が必要です
今年度から対面に切り替えます。

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

Our seminar will learn business succession and innovation in small and medium companies (Japanese family business). We can learn how to make research question and research method through reading some book chapters and articles in the field of strategies organisation, corporate governance and entrepreneurship.

The goal of our seminar is to be aware of problems related to corporate management, to search for research targets by yourself while borrowing the wisdom and knowledge of previous research, and to learn how to actually investigate management phenomena and how to formulate logic. .. Through collaborative activities (group work) with seminar members, you will learn how to ask questions, how to raise and proceed with discussions, and how to draw conclusions.

About the progress of the seminar...

In the spring semester, we will subscribe to literature centered on textbooks and set research themes (research questions) based on individual research interests. Specifically, by subscribing to the literature, we classify themes in actual corporate management and find research themes (research perspectives). For each group's research interests, we will search for various previous studies and learn what the implications are and what, on the contrary, are not clarified.

In the autumn semester, the core of the exercise activities is to proceed with group research systematically and logically. Specifically, we will learn research methods (field research and literature research methodologies) according to each research theme, determine the research target, and conduct an actual research. Furthermore, the research results will be reported in a seminar and summarised as a dissertation.

Regarding homework, it is necessary to read the relevant part of the specified text (textbook) each time, prepare your own opinion, and attend the seminar. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

As grading criteria are

・ Class remarks (problem awareness, point of view, independence, quality of remarks, etc.) 30%
・ Report (first half / second half) 40%
・ 30% commitment to seminars

MAN200FA

演習 1

稲垣 保弘

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織活動とそのマネジメントについての知識を中心に経営学を身につけて、それを現実の場で活かせるようになること。

この過程で、専門的な文献の読み方、理解の仕方、内容のまとめ方を身につけ、論理的思考力を養うとともに、クリエイティブな発想力を高める。経営関係の英語文献をある程度理解できるようにする（ゼミ生によるプレゼンや補足的な講義の余った時間を活用して、経営学に關係する英語文献の専門用語や、経営学に特徴的な英文について解説）。

【到達目標】

概要と目的で示した内容について、現実の組織活動での対応、就職活動などにも役に立つレベルまで高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

テキスト、論文等を分担して発表してもらい、必要な補足説明を講義形式で行う。

夏季合宿では、ケーススタディを発表してもらう。

英語文献に関しては、専門用語などを中心にこちらで解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方などについての説明。
第 2 回	経営学についての重要な文献の検討 1	経営学についての知識、思考力を身につけるために、重要な文献の検討。
第 3 回	経営学についての重要な文献の検討 2	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 4 回	経営学についての重要な文献の検討 3	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 5 回	経営に関する重要な専門用語を含む英文の解説 I	経営関係の英文で使われる専門用語をマスターする。
第 6 回	経営学についての重要な文献の検討 4	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 7 回	経営学についての重要な文献の検討 5	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 8 回	経営に関する重要な専門用語を含む英文の解説 II	経営関係の英文で使われる専門用語をマスターする。
第 9 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 1	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 10 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 2	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 11 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 3	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 12 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 4	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 13 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 5	経営学の新しい知識と発想をマスターする。
第 14 回	学期のまとめ	自分が担当したプレゼンの内容を、他の発表者の内容と関連づけて理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンの担当者はレジュメを作成し、その他のメンバーは、文献を前もって読んである程度理解しておく。

英語文献については、ゼミでの解説の後、きちんと知識として定着させる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

昨年度は約 15 本の論文を検討。

今年度も、マネジメントのほかに、リーダーシップ、モチベーション、戦略、組織などについての論文とケーススタディ（業界研究も含む）を検討することになる。

どの論文を取り上げるかは、開講時に説明。論文と英語文献はコピーして配布。

【参考書】

テーマごとに必要に応じてゼミの時に紹介。

【成績評価の方法と基準】

3 年生はゼミでの発表などの平常点（50 %）、提出するレジュメ（50 %）などにもとづいて評価する予定。

4 年生は卒業論文の進行度（100%）にもとづいて行う予定。

【学生の意見等からの気づき】

まず個人の能力アップを図り、そのあとグループ活動なども取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミの開講時に指示。

【その他の重要事項】

ゼミの開講時に詳細は説明。

【関連科目】

経営管理論 I / II、経営組織論

【Outline (in English)】

This course deals with relatively complicated or practical theories of management organizing and strategy. Student will understand not only efficiency logic but also creative aspects of organization and management by reviewing these theories and relevant case studies.

(Grading Criteria : Class contribution = presentation, discussion)

MAN200FA

演習 2

稲垣 保弘

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織活動とそのマネジメントについての知識を中心に経営学を身につけて、それを現実の場で活かせるようになること。

この過程で、専門的な文献の読み方、理解の仕方、内容のまとめ方を身につけ、論理的思考力を養うとともに、クリエイティブな発想力を高める。経営関係の英語文献をある程度理解できるようにする（ゼミ生によるプレゼンや補足的な講義の余った時間を活用して、経営学に關係する英語文献の専門用語や、経営学に特徴的な英文について解説）。

【到達目標】

概要と目的で示した内容についての知識と思考力を現実の組織活動、就職活動などに役立つレベルまで高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

テキスト、論文等を分担して発表してもらい、必要な補足説明を講義形式で行う。

夏季合宿では、ケーススタディを発表してもらう。

英語文献に関しては、専門用語などを中心にこちらで解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方などについての説明。
第 2 回	経営学についての重要な文献の検討 6	経営学についての知識、思考力を身につけるために、重要な文献の検討。
第 3 回	経営学についての重要な文献の検討 7	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 4 回	経営学についての重要な文献の検討 8	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 5 回	経営に関する重要な専門用語を含む英文の解説Ⅲ	経営関係の英文で使われる専門用語をマスターする。
第 6 回	経営学についての重要な文献の検討 9	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 7 回	経営学についての重要な文献の検討 10	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 8 回	経営に関する重要な専門用語を含む英文の解説Ⅳ	経営関係の英文で使われる専門用語をマスターする。
第 9 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 6	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 10 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 7	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 11 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 8	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 12 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 9	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 13 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 10	経営学の新しい知識と発想をマスターする。
第 14 回	学期まとめ	自分が担当したプレゼンの内容を、他の発表者の内容と関連づけて理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンの担当者はレジュメを作成し、その他のメンバーは、文献を前もって読んである程度理解しておく。

英語文献については、ゼミでの解説の後、きちんと知識として定着させる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

昨年度は約 15 本の論文を検討。

今年度も、マネジメントのほかに、リーダーシップ、モチベーション、戦略、組織などについての論文とケーススタディ（業界研究も含む）を検討することになる。

どの論文を取り上げるかは、開講時に説明。論文と英語文献はコピーして配布。

【参考書】

テーマごとに必要に応じてゼミの時に紹介。

【成績評価の方法と基準】

3 年生はゼミでの発表などの平常点（50%）、提出するレジュメ（50%）などにもとづいて評価する予定。

4 年生は卒業論文（100%）にもとづいて行う予定。

【学生の意見等からの気づき】

まず個人の能力アップを図り、そのあとグループ活動なども取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミの開講時に指示。

【その他の重要事項】

ゼミの開講時に詳細は説明。

【関連科目】

経営管理論 I / II、

【Outline (in English)】

This course deals with relatively complicated or practical theories of management organizing and strategy. Student will understand not only efficiency logic but also creative aspects of organization and management by reviewing these theories and relevant case studies.

(Grading Criteria : Class contribution = presentation, discussion)

MAN300FA

演習 3

稲垣 保弘

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織活動とそのマネジメントについての知識を中心に経営学を身につけて、それを現実の場で活かせるようになること。

この過程で、専門的な文献の読み方、理解の仕方、内容のまとめ方を身につけ、論理的思考力を養うとともに、クリエイティブな発想力を高める。経営関係の英語文献をある程度理解できるようにする（ゼミ生によるプレゼンや補足的な講義の余った時間を活用して、経営学に關係する英語文献の専門用語や、経営学に特徴的な英文について解説）。

【到達目標】

概要と目的で示した内容について、現実の組織活動での対応、就職活動などにも役に立つレベルまで高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

テキスト、論文等を分担して発表してもらい、必要な補足説明を講義形式で行う。

夏季合宿では、ケーススタディを発表してもらう。

英語文献に関しては、専門用語などを中心にこちらで解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方などについての説明。
第 2 回	経営学についての重要な文献の検討 1	経営学についての知識、思考力を身につけるために、重要な文献の検討。
第 3 回	経営学についての重要な文献の検討 2	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 4 回	経営学についての重要な文献の検討 3	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 5 回	経営に関する重要な専門用語を含む英文の解説 I	経営関係の英文で使われる専門用語をマスターする。
第 6 回	経営学についての重要な文献の検討 4	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 7 回	経営学についての重要な文献の検討 5	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 8 回	経営に関する重要な専門用語を含む英文の解説 II	経営関係の英文で使われる専門用語をマスターする。
第 9 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 1	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 10 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 2	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 11 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 3	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 12 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 4	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 13 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 5	経営学の新しい知識と発想をマスターする。
第 14 回	学期のまとめ	自分が担当したプレゼンの内容を、他の発表者の内容と関連づけて理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンの担当者はレジュメを作成し、その他のメンバーは、文献を前もって読んである程度理解しておく。

英語文献については、ゼミでの解説の後、きちんと知識として定着させる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

昨年度は約 15 本の論文を検討。

今年度も、マネジメントのほかに、リーダーシップ、モチベーション、戦略、組織などについての論文とケーススタディ（業界研究も含む）を検討することになる。

どの論文を取り上げるかは、開講時に説明。論文と英語文献はコピーして配布。

【参考書】

テーマごとに必要に応じてゼミの時に紹介。

【成績評価の方法と基準】

3 年生はゼミでの発表などの平常点（50%）、提出するレジュメ（50%）などにもとづいて評価する予定。

4 年生は卒業論文の進行度（100%）にもとづいて行う予定。

【学生の意見等からの気づき】

まず個人の能力アップを図り、そのあとグループ活動なども取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミの開講時に指示。

【その他の重要事項】

ゼミの開講時に詳細は説明。

【関連科目】

経営管理論 I / II、経営組織論

【Outline (in English)】

This course deals with relatively complicated or practical theories of management organizing and strategy. Student will understand not only efficiency logic but also creative aspects of organization and management by reviewing these theories and relevant case studies.

(Grading Criteria : Class contribution = presentation, discussion)

MAN300FA

演習 4

稲垣 保弘

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織活動とそのマネジメントについての知識を中心に経営学を身につけて、それを現実の場で活かせるようになること。

この過程で、専門的な文献の読み方、理解の仕方、内容のまとめ方を身につけ、論理的思考力を養うとともに、クリエイティブな発想力を高める。経営関係の英語文献をある程度理解できるようにする（ゼミ生によるプレゼンや補足的な講義の余った時間を活用して、経営学に關係する英語文献の専門用語や、経営学に特徴的な英文について解説）。

【到達目標】

概要と目的で示した内容についての知識と思考力を現実の組織活動、就職活動などに役立つレベルまで高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

テキスト、論文等を分担して発表してもらい、必要な補足説明を講義形式で行う。

夏季合宿では、ケーススタディを発表してもらう。

英語文献に関しては、専門用語などを中心にこちらで解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方などについての説明。
第 2 回	経営学についての重要な文献の検討 6	経営学についての知識、思考力を身につけるために、重要な文献の検討。
第 3 回	経営学についての重要な文献の検討 7	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 4 回	経営学についての重要な文献の検討 8	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 5 回	経営に関する重要な専門用語を含む英文の解説Ⅲ	経営関係の英文で使われる専門用語をマスターする。
第 6 回	経営学についての重要な文献の検討 9	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 7 回	経営学についての重要な文献の検討 10	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 8 回	経営に関する重要な専門用語を含む英文の解説Ⅳ	経営関係の英文で使われる専門用語をマスターする。
第 9 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 6	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 10 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 7	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 11 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 8	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 12 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 9	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 13 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 10	経営学の新しい知識と発想をマスターする。
第 14 回	学期まとめ	自分が担当したプレゼンの内容を、他の発表者の内容と関連づけて理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンの担当者はレジュメを作成し、その他のメンバーは、文献を前もって読んである程度理解しておく。

英語文献については、ゼミでの解説の後、きちんと知識として定着させる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

昨年度は約 15 本の論文を検討。

今年度も、マネジメントのほかに、リーダーシップ、モチベーション、戦略、組織などについての論文とケーススタディ（業界研究も含む）を検討することになる。

どの論文を取り上げるかは、開講時に説明。論文と英語文献はコピーして配布。

【参考書】

テーマごとに必要に応じてゼミの時に紹介。

【成績評価の方法と基準】

3 年生はゼミでの発表などの平常点（50%）、提出するレジュメ（50%）などにもとづいて評価する予定。

4 年生は卒業論文（100%）にもとづいて行う予定。

【学生の意見等からの気づき】

まず個人の能力アップを図り、そのあとグループ活動なども取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミの開講時に指示。

【その他の重要事項】

ゼミの開講時に詳細は説明。

【関連科目】

経営管理論Ⅰ/Ⅱ、

【Outline (in English)】

This course deals with relatively complicated or practical theories of management organizing and strategy. Student will understand not only efficiency logic but also creative aspects of organization and management by reviewing these theories and relevant case studies.

(Grading Criteria : Class contribution = presentation, discussion)

MAN400FA

演習 5

稲垣 保弘

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織活動とそのマネジメントについての知識を中心に経営学を身につけて、それを現実の場で活かせるようになること。

この過程で、専門的な文献の読み方、理解の仕方、内容のまとめ方を身につけ、論理的思考力を養うとともに、クリエイティブな発想力を高める。経営関係の英語文献をある程度理解できるようにする（ゼミ生によるプレゼンや補足的な講義の余った時間を活用して、経営学に關係する英語文献の専門用語や、経営学に特徴的な英文について解説）。

【到達目標】

概要と目的で示した内容について、現実の組織活動での対応、就職活動などにも役に立つレベルまで高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

テキスト、論文等を分担して発表してもらい、必要な補足説明を講義形式で行う。

夏季合宿では、ケーススタディを発表してもらう。

英語文献に関しては、専門用語などを中心にこちらで解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方などについての説明。
第 2 回	経営学についての重要な文献の検討 1	経営学についての知識、思考力を身につけるために、重要な文献の検討。
第 3 回	経営学についての重要な文献の検討 2	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 4 回	経営学についての重要な文献の検討 3	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 5 回	経営に関する重要な専門用語を含む英文の解説 I	経営関係の英文で使われる専門用語をマスターする。
第 6 回	経営学についての重要な文献の検討 4	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 7 回	経営学についての重要な文献の検討 5	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 8 回	経営に関する重要な専門用語を含む英文の解説 II	経営関係の英文で使われる専門用語をマスターする。
第 9 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 1	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 10 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 2	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 11 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 3	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 12 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 4	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 13 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 5	経営学の新しい知識と発想をマスターする。
第 14 回	学期のまとめ	自分が担当したプレゼンの内容を、他の発表者の内容と関連づけて理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンの担当者はレジュメを作成し、その他のメンバーは、文献を前もって読んである程度理解しておく。

英語文献については、ゼミでの解説の後、きちんと知識として定着させる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

昨年度は約 15 本の論文を検討。

今年度も、マネジメントのほかに、リーダーシップ、モチベーション、戦略、組織などについての論文とケーススタディ（業界研究も含む）を検討することになる。

どの論文を取り上げるかは、開講時に説明。論文と英語文献はコピーして配布。

【参考書】

テーマごとに必要に応じてゼミの時に紹介。

【成績評価の方法と基準】

3 年生はゼミでの発表などの平常点（50%）、提出するレジュメ（50%）などにもとづいて評価する予定。

4 年生は卒業論文の進行度（100%）にもとづいて行う予定。

【学生の意見等からの気づき】

まず個人の能力アップを図り、そのあとグループ活動なども取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミの開講時に指示。

【その他の重要事項】

ゼミの開講時に詳細は説明。

【関連科目】

経営管理論 I / II、経営組織論

【Outline (in English)】

This course deals with relatively complicated or practical theories of management organizing and strategy. Student will understand not only efficiency logic but also creative aspects of organization and management by reviewing these theories and relevant case studies.

(Grading Criteria : Class contribution = presentation, discussion)

MAN400FA

演習 6

稲垣 保弘

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織活動とそのマネジメントについての知識を中心に経営学を身につけて、それを現実の場で活かせるようになること。

この過程で、専門的な文献の読み方、理解の仕方、内容のまとめ方を身につけ、論理的思考力を養うとともに、クリエイティブな発想力を高める。経営関係の英語文献をある程度理解できるようにする（ゼミ生によるプレゼンや補足的な講義の余った時間を活用して、経営学に關係する英語文献の専門用語や、経営学に特徴的な英文について解説）。

【到達目標】

概要と目的で示した内容についての知識と思考力を現実の組織活動、就職活動などに役立つレベルまで高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

テキスト、論文等を分担して発表してもらい、必要な補足説明を講義形式で行う。

夏季合宿では、ケーススタディを発表してもらう。

英語文献に関しては、専門用語などを中心にこちらで解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方などについての説明。
第 2 回	経営学についての重要な文献の検討 6	経営学についての知識、思考力を身につけるために、重要な文献の検討。
第 3 回	経営学についての重要な文献の検討 7	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 4 回	経営学についての重要な文献の検討 8	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 5 回	経営に関する重要な専門用語を含む英文の解説Ⅲ	経営関係の英文で使われる専門用語をマスターする。
第 6 回	経営学についての重要な文献の検討 9	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 7 回	経営学についての重要な文献の検討 10	経営学の知識と思考方法を身につける。
第 8 回	経営に関する重要な専門用語を含む英文の解説Ⅳ	経営関係の英文で使われる専門用語をマスターする。
第 9 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 6	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 10 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 7	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 11 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 8	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 12 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 9	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
第 13 回	最新の経営学の論文で易しいものを検討 10	経営学の新しい知識と発想をマスターする。
第 14 回	学期まとめ	自分が担当したプレゼンの内容を、他の発表者の内容と関連づけて理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンの担当者はレジュメを作成し、その他のメンバーは、文献を前もって読んである程度理解しておく。

英語文献については、ゼミでの解説の後、きちんと知識として定着させる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

昨年度は約 15 本の論文を検討。

今年度も、マネジメントのほかに、リーダーシップ、モチベーション、戦略、組織などについての論文とケーススタディ（業界研究も含む）を検討することになる。

どの論文を取り上げるかは、開講時に説明。論文と英語文献はコピーして配布。

【参考書】

テーマごとに必要に応じてゼミの時に紹介。

【成績評価の方法と基準】

3 年生はゼミでの発表などの平常点（50%）、提出するレジュメ（50%）などにもとづいて評価する予定。

4 年生は卒業論文（100%）にもとづいて行う予定。

【学生の意見等からの気づき】

まず個人の能力アップを図り、そのあとグループ活動なども取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミの開講時に指示。

【その他の重要事項】

ゼミの開講時に詳細は説明。

【関連科目】

経営管理論Ⅰ/Ⅱ、

【Outline (in English)】

This course deals with relatively complicated or practical theories of management organizing and strategy. Student will understand not only efficiency logic but also creative aspects of organization and management by reviewing these theories and relevant case studies.

(Grading Criteria : Class contribution = presentation, discussion)

MAN200FA

演習 1

大木 良子

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようにする。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。
考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章を事前に読み、グループで質疑応答・ディスカッションを行います。その後、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点について報告者、教員とインタラクティブに解決していきます。また、報告者は、練習問題・ディスカッションテーマを用意します。
2. 文章の書き方・読み方：学術的文章のルールを学びます。また、新聞・雑誌記事のロジックの整理をグループで行い、その成果をゼミ全体で共有します。ロジカルに読み解くだけでなく、ロジカルな文章を書けるようにトレーニングします。
3. インゼミの準備：担当テーマについて、詳細を調査し、事実を整理して意味を導出します。12 月に行われるインゼミに向けて、プレゼンテーション、質疑応答の準備をします。
4. レポート執筆：インゼミテーマに基づき、単独または共同で 1~2 万字程度のレポートを執筆します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	テキスト報告の具体的なひな形を説明し、報告の順番を決める。 その他ゼミの進め方について情報共有し、スケジュールや役割分担等を決定する。
第 2 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト 0 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 3 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト 1 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 4 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト 2 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 5 回	ロジックツリーの理解	・日本語論文を読み、グループごとにそのロジックツリーを作成する ・ロジックツリーに基づき論文の要約を作成する。
第 6 回	学術論文のルール	学術論文執筆の際に必要な引用の考え方など基本ルールを学ぶ。新聞記事などと比較し違いを認識する。
第 7 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト 3 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 8 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト 4 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 9 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト 5 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 10 回	テキストに関する復習	テキストについてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
第 11 回	学術的な文章の書き方	例題を通じて、アカデミックな文章のルールについて学ぶ。
第 12 回	グループディスカッション：事例研究	産業組織論を用いて、最近の競争政策事例についてグループごとに分析する。
第 13 回	インゼミ準備	インゼミのテーマについて、チームに分かれてブレインストーミングを行い調査方針を確定する。

第 14 回 インゼミ準備

担当テーマに基づき、夏休み期間中の調査計画をたて、グループ内で分担を行う
現段階でのテーマの共通理解、仮説を持つ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく受講生に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。

事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花園誠 有斐閣 2018 年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50 %

指定された提出物 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門 I/II、経営のための経済学、産業組織論 I/II と強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門 I/II、経営のための経済学、産業組織論 I/II

【Outline (in English)】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.

3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of the assignments (50%).

MAN200FA

演習 2

大木 良子

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようにする。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。
考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章を事前に読み、グループで質疑応答・ディスカッションを行います。その後、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点について報告者、教員とインタラクティブに解決していきます。また、報告者は、練習問題・ディスカッションテーマを用意します。
2. 文章の書き方・読み方：学術的文章のルールを学びます。また、新聞・雑誌記事のロジックの整理をグループで行い、その成果をゼミ全体で共有します。ロジカルに読み解くだけでなく、ロジカルな文章を書けるようにトレーニングします。
3. インゼミの準備：担当テーマについて、詳細を調査し、事実を整理して意味を導出します。12 月に行われるインゼミに向けて、プレゼンテーション、質疑応答の準備をします。
4. レポート執筆：インゼミテーマに基づき、単独または共同で 1~2 万字程度のレポートを執筆します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	インゼミテーマごとの調査報告	夏休みに進めた調査内容を各自報告し、各テーマで今後の取りまとめ方針を決定する。
第 2 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト 6 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 3 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト 7 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 4 回	・テキストの輪読・ロジカルシンキング ・インゼミ準備	・テキスト 8 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 5 回	インゼミテーマ中間報告会	・テーマごとに分かれてインゼミ準備 ・テーマごとにプレゼンテーションを行い、参加者からの質疑応答を受けて、この先の作業方針を固める。
第 6 回	インゼミ準備	・プレゼンテーションのメインメッセージを確定し、プレゼンテーションの構成を考える。
第 7 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング・インゼミ準備	・テキスト 9 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 8 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング・インゼミ準備	・テキスト 10 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 9 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング・インゼミ準備	・テキスト 11 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 10 回	インゼミ予行練習	・テーマごとに分かれてインゼミ準備 当日と同様のプレゼンテーションを行い、仕上げの作業を行う。
第 11 回	期末レポートテーマ発表・学術的な文章の書き方	・インゼミテーマに基づき、論文テーマや構成を考える。学術的論文のルールを確認する。
第 12 回	インゼミ	・テーマごとに、プレゼンテーション、討論、質疑応答を行う。担当教員らからの講評をもらう。
第 13 回	テキスト復習	・輪読したテキストの内容を応用した練習問題をチームに分かれて解く。

第 14 回 期末レポート報告会

インゼミテーマに基づいた各自の期末レポートを受講生全員で読み合い、講評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく参加者に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいか、またそのためには何をすればよいかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。
事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花園誠 有斐閣 2018 年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50 %

指定された提出物 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。
この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門 I/II、経営のための経済学、産業組織論 I/II と強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門 I/II、経営のための経済学、産業組織論 I/II

【Outline (in English)】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of the assignments (50%).

3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.

MAN300FA

演習 3

大木 良子

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようにする。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。
考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章を事前に読み、グループで質疑応答・ディスカッションを行います。その後、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点について報告者、教員とインタラクティブに解決していきます。また、報告者は、練習問題・ディスカッションテーマを用意します。
2. 文章の書き方・読み方：学術的文章のルールを学びます。また、新聞・雑誌記事のロジックの整理をグループで行い、その成果をゼミ全体で共有します。ロジカルに読み解くだけでなく、ロジカルな文章を書けるようにトレーニングします。
3. インゼミの準備：担当テーマについて、詳細を調査し、事実を整理して意味を導出します。12月に行われるインゼミに向けて、プレゼンテーション、質疑応答の準備をします。
4. レポート執筆：インゼミテーマに基づき、単独または共同で1~2万字程度のレポートを執筆します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	テキスト報告の具体的なひな形を説明し、報告の順番を決める。 その他ゼミの進め方について情報共有し、スケジュールや役割分担等を決定する。
第 2 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト 0 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 3 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト 1 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 4 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト 2 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 5 回	ロジックツリーの理解	・日本語論文を読み、グループごとにそのロジックツリーを作成する ・ロジックツリーに基づき論文の要約を作成する。
第 6 回	学術論文のルール	学術論文執筆の際に必要な引用の考え方など基本ルールを学ぶ。新聞記事などと比較し違いを認識する。
第 7 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト 3 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 8 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト 4 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 9 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト 5 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 10 回	テキストに関する復習	テキストについてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
第 11 回	学術的な文章の書き方	例題を通じて、アカデミックな文章のルールについて学ぶ。
第 12 回	グループディスカッション：事例研究	産業組織論を用いて、最近の競争政策事例についてグループごとに分析する。
第 13 回	インゼミ準備	インゼミのテーマについて、チームに分かれてブレインストーミングを行い調査方針を確定する。

第 14 回 インゼミ準備

担当テーマに基づき、夏休み期間中の調査計画をたて、グループ内で分担を行う
現段階でのテーマの共通理解、仮説を持つ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく受講生に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいのか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。

事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花園誠 有斐閣 2018 年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50 %

指定された提出物 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門 I/II、経営のための経済学、産業組織論 I/II と強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門 I/II、経営のための経済学、産業組織論 I/II

【Outline (in English)】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.

3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of the assignments (50%).

MAN300FA

演習 4

大木 良子

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようになる。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章を事前に読み、グループで質疑応答・ディスカッションを行います。その後、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点について報告者、教員とインタラクティブに解決していきます。また、報告者は、練習問題・ディスカッションテーマを用意します。
2. 文章の書き方・読み方：学術的文章のルールを学びます。また、新聞・雑誌記事のロジックの整理をグループで行い、その成果をゼミ全体で共有します。ロジカルに読み解くだけでなく、ロジカルな文章を書けるようにトレーニングします。
3. インゼミの準備：担当テーマについて、詳細を調査し、事実を整理して意味を導出します。12 月に行われるインゼミに向けて、プレゼンテーション、質疑応答の準備をします。
4. レポート執筆：インゼミテーマに基づき、単独または共同で 1~2 万字程度のレポートを執筆します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	インゼミテーマごとの調査報告	夏休みに進めた調査内容を各自報告し、各テーマで今後の取りまとめ方針を決定する。
第 2 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト 6 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 3 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト 7 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 4 回	・テキストの輪読・ロジカルシンキング ・インゼミ準備	・テキスト 8 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 5 回	インゼミテーマ中間報告会	・テーマごとに分かれてインゼミ準備 ・テーマごとにプレゼンテーションを行い、参加者からの質疑応答を受けて、この先の作業方針を固める。
第 6 回	インゼミ準備	・プレゼンテーションのメインメッセージを確定し、プレゼンテーションの構成を考える。
第 7 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング・インゼミ準備	・テキスト 9 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 8 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング・インゼミ準備	・テキスト 10 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 9 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング・インゼミ準備	・テキスト 11 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 10 回	インゼミ予行練習	・テーマごとに分かれてインゼミ準備 当日と同様のプレゼンテーションを行い、仕上げの作業を行う。
第 11 回	期末レポートテーマ発表・学術的な文章の書き方	・インゼミテーマに基づき、論文テーマや構成を考える。学術的論文のルールを確認する。
第 12 回	インゼミ	・テーマごとに、プレゼンテーション、討論、質疑応答を行う。担当教員らからの講評をもらう。
第 13 回	テキスト復習	・輪読したテキストの内容を応用した練習問題をチームに分かれて解く。

第 14 回 期末レポート報告会

インゼミテーマに基づいた各自の期末レポートを受講生全員で読み合い、講評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく参加者に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいか、またそのためには何をすればよいかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。

事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花園誠 有斐閣 2018 年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50 %

指定された提出物 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門 I/II、経営のための経済学、産業組織論 I/II と強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門 I/II、経営のための経済学、産業組織論 I/II

【Outline (in English)】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of the assignments (50%).

3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.

MAN400FA

演習 5

大木 良子

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようにする。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。
考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章を事前に読み、グループで質疑応答・ディスカッションを行います。その後、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点について報告者、教員とインタラクティブに解決していきます。また、報告者は、練習問題・ディスカッションテーマを用意します。
2. 文章の書き方・読み方：学術的文章のルールを学びます。また、新聞・雑誌記事のロジックの整理をグループで行い、その成果をゼミ全体で共有します。ロジカルに読み解くだけでなく、ロジカルな文章を書けるようにトレーニングします。
3. インゼミの準備：担当テーマについて、詳細を調査し、事実を整理して意味を導出します。12 月に行われるインゼミに向けて、プレゼンテーション、質疑応答の準備をします。
4. レポート執筆：インゼミテーマに基づき、単独または共同で 1~2 万字程度のレポートを執筆します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	テキスト報告の具体的なひな形を説明し、報告の順番を決める。 その他ゼミの進め方について情報共有し、スケジュールや役割分担等を決定する。
第 2 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト 0 章
第 3 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 4 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト 1 章
第 5 回	ロジックツリーの理解	・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 6 回	学術論文のルール	・テキスト 2 章
第 7 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 8 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・日本語論文を読み、グループごとにそのロジックツリーを作成する
第 9 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・ロジックツリーに基づき論文の要約を作成する。
第 10 回	テキストに関する復習	学術論文執筆の際に必要な引用の考え方など基本ルールを学ぶ。新聞記事などと比較し違いを認識する。
第 11 回	学術的な文章の書き方	・テキスト 3 章
第 12 回	グループディスカッション：事例研究	・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 13 回	インゼミ準備	・テキスト 4 章
		・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
		・テキスト 5 章
		・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
		テキストについてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
		例題を通じて、アカデミックな文章のルールについて学ぶ。
		産業組織論を用いて、最近の競争政策事例についてグループごとに分析する。
		インゼミのテーマについて、チームに分かれてブレインストーミングを行い調査方針を確定する。

第 14 回 インゼミ準備

担当テーマに基づき、夏休み期間中の調査計画をたて、グループ内で分担を行う
現段階でのテーマの共通理解、仮説を持つ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく受講生に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいのか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。

事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花園誠 有斐閣 2018 年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50 %

指定された提出物 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門 I/II、経営のための経済学、産業組織論 I/II と強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門 I/II、経営のための経済学、産業組織論 I/II

【Outline (in English)】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.

3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of the assignments (50%).

MAN400FA

演習 6

大木 良子

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようにする。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章を事前に読み、グループで質疑応答・ディスカッションを行います。その後、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点について報告者、教員とインタラクティブに解決していきます。また、報告者は、練習問題・ディスカッションテーマを用意します。
2. 文章の書き方・読み方：学術的文章のルールを学びます。また、新聞・雑誌記事のロジックの整理をグループで行い、その成果をゼミ全体で共有します。ロジカルに読み解くだけでなく、ロジカルな文章を書けるようにトレーニングします。
3. インゼミの準備：担当テーマについて、詳細を調査し、事実を整理して意味を導出します。12 月に行われるインゼミに向けて、プレゼンテーション、質疑応答の準備をします。
4. レポート執筆：インゼミテーマに基づき、単独または共同で 1~2 万字程度のレポートを執筆します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	インゼミテーマごとの調査報告	夏休みに進めた調査内容を各自報告し、各テーマで今後の取りまとめ方針を決定する。
第 2 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト 6 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 3 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング	・テキスト 7 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 4 回	・テキストの輪読・ロジカルシンキング ・インゼミ準備	・テキスト 8 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 5 回	インゼミテーマ中間報告会	・テーマごとに分かれてインゼミ準備 ・テーマごとにプレゼンテーションを行い、参加者からの質疑応答を受けて、この先の作業方針を固める。
第 6 回	インゼミ準備	・プレゼンテーションのメインメッセージを確定し、プレゼンテーションの構成を考える。
第 7 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング・インゼミ準備	・テキスト 9 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 8 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング・インゼミ準備	・テキスト 10 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 9 回	テキストの輪読・ロジカルシンキング・インゼミ準備	・テキスト 11 章 ・新聞・雑誌記事の要約、ロジック整理
第 10 回	インゼミ予行練習	・テーマごとに分かれてインゼミ準備 当日と同様のプレゼンテーションを行い、仕上げの作業を行う。
第 11 回	期末レポートテーマ発表・学術的な文章の書き方	・インゼミテーマに基づき、論文テーマや構成を考える。学術的論文のルールを確認する。
第 12 回	インゼミ	・テーマごとに、プレゼンテーション、討論、質疑応答を行う。担当教員らからの講評をもらう。
第 13 回	テキスト復習	・輪読したテキストの内容を応用した練習問題をチームに分かれて解く。

第 14 回 期末レポート報告会

インゼミテーマに基づいた各自の期末レポートを受講生全員で読み合い、講評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく参加者に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいか、またそのためには何をすればよいかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。

事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花園誠 有斐閣 2018 年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50 %

指定された提出物 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門 I/II、経営のための経済学、産業組織論 I/II と強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門 I/II、経営のための経済学、産業組織論 I/II

【Outline (in English)】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of the assignments (50%).

3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.

MAN200FA

演習 1

大下 勇二

演習選択_演習 2年次/3単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計の理論的・実践的学習。財務会計の様々な問題を学習し、財務会計の基本的な考え方と具体的な会計処理を学習する。

【到達目標】

受講生は、財務・会計情報がどのようなルールの下で作成されているのか、そのルールの基本的な考え方はどのようなものかといった財務会計理論の基礎を習得することができる。さらに、2・3年生は財務会計の基礎を学習する中でプレゼンテーションおよび議論の仕方を学び、自分の考えを適切に表現する能力を習得することができる。4年生は財務会計の特定の問題を深く研究しこれを卒業論文の形にまとめることで、物事を深く考え・分析し、それをまとめる能力を養うことができる。

2・3年生はレポート等の作成により、4年生は論文の作成により、問題の把握、問題へのアプローチの仕方、文献・資料の収集と分析の仕方、自分の考えのまとめ方・文章化など、レポート・論文を作成する能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本年度は対面授業を基本としています。2・3年生は会計学の基礎とデータ分析の基礎を理解できるように努める。毎回報告者が財務会計テキストの担当部分をレポートし全員で議論する。報告者は事前に十分な準備をしておくことが必要になります。また、エクセルによるデータの分析方法を修得します。

4年生は卒業論文の作成に向けて論文のテーマを決め、関連する論文・文献の収集を始めて論文の作成作業に取りかかります。年数回の中間報告を行った上で最終的に卒業論文にまとめます。

なお、授業は教室での学習が中心ですが、可能であれば証券取引所の見学や合宿を実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	基本テキストの分担の決定、参考文献等の紹介など
第2回	財務会計の基礎	3年生はテキスト第1章の報告・議論。4年生は卒業論文の中間報告
第3回	財務諸表の仕組み	3年生はテキスト第2章の報告・議論。4年生は卒業論文の中間報告
第4回	棚卸資産の会計	3年生はテキスト第3章の報告・議論。4年生は卒業論文の中間報告
第5回	有形固定資産の会計	3年生はテキスト第4章の報告・議論。4年生は卒業論文の中間報告
第6回	無形固定資産および繰延資産の会計	3年生はテキスト第5章の報告・議論。4年生は卒業論文の中間報告
第7回	金融資産の会計	3年生はテキスト第6章の報告・議論。4年生は卒業論文の中間報告
第8回	負債の会計	3年生はテキスト第7章の報告・議論。4年生は卒業論文の中間報告
第9回	純資産の会計	3年生はテキスト第8章の報告・議論。4年生は卒業論文の中間報告
第10回	収益と費用の会計	3年生はテキスト第9章の報告・議論。4年生は卒業論文の中間報告
第11回	税効果会計	3年生はテキスト第10章の報告・議論。4年生は卒業論文の中間報告
第12回	外貨換算会計	3年生はテキスト第11章の報告・議論。4年生は卒業論文の中間報告
第13回	企業結合会計	3年生はテキスト第12章の報告・議論。4年生は卒業論文の中間報告
第14回	連結財務諸表	3年生はテキスト第13章の報告・議論。4年生は卒業論文の中間報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告担当者でなくても、テキストを事前に読んでおき、質問事項を考えておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

財務会計のスタンダードなテキストを用います。田中健二著『財務会計入門』（最新版(中央経済社)）を使用する予定です。

【参考書】

最初の授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(50%)およびテキストの担当章の報告(50%)(2・3年生の場合)または卒業論文中間報告(50%)(4年生の場合)により評価します。なお、平常点の評価はゼミ合宿への出席(実施した場合)を含みます。

【学生の意見等からの気づき】

会計データの作成プロセスの面とこれに基づく分析の面をバランス良く学習できるように工夫したいと思います。

【その他の重要事項】

本ゼミは財務会計の分野を中心に学習しますので、1年次の簿記入門Ⅰ・Ⅱ、2年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱの既習者であり、3・4年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳなどの会計関連の専門科目を履修することが望ましい。

ゼミでの報告は基本的に簿記3級程度以上の知識、パワーポイントの基礎およびエクセルの基礎を修得していることを前提としていますので、4月の授業開始までに、これらを修得しておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with the bases of financial accounting and the basic tool of financial data analysis. In this course, you will learn the theoretical and practical aspects of financial accounting.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to understand the basics of financial accounting and financial data analysis. This course also enhances the development of logical-thinking and students' skill in communication.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each meeting. Your study time will be more than four hours.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided on the following:

Short report(after each meeting) and mid-term report(50%), in class contribution(50%).

MAN200FA

演習 2

大下 勇二

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計の理論的・実践的学習。財務会計の様々な問題を学習し、財務会計の基本的な考え方と具体的な会計データの利用方法を学習する。

【到達目標】

受講生は、財務・会計情報がどのようなルールの下で作成されているのか、そのルールの基本的な考え方はどのようなものかを理解した上で、財務・会計情報を利用して、企業を分析する能力を習得することができる。さらに、2・3 年生は財務・会計情報を用いた企業分析の中で、グループワークによるプレゼンテーションおよび議論の仕方を学び、分析結果を適切に表現し、これを文章にまとめる能力を養うことができる。企業分析に関するグループワーク報告書の作成により、会計データの作成と利用の両面から、財務会計の諸問題を実践的に考える能力を習得することができる。

4 年生は、問題の把握、問題へのアプローチの仕方、文献・資料の収集と分析の仕方、自分の考えのまとめ方・文章化などを学習した上で、財務会計の特定の問題を深く研究しこれを卒業論文の形にまとめることで、物事を深く考え・分析し、それをまとめる能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

今年度は対面授業を基本としています。2・3 年生は会計学の基礎とデータ分析の基礎を理解した上で、グループに分かれて企業の分析に取り掛かります。複数回報告（プレゼン）してもらい、最終的にグループワーク報告書にまとめます。4 年生は、数回の卒業論文の中間報告を行った上で、最終的に卒業論文を完成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	財務諸表の分析 (1)	3 年生は春学期テキストの最終章の報告・議論、4 年生は卒業論文の中間報告など
第 2 回	財務諸表の分析 (2)	3 年生はエクセルを用いた企業財務会計データ分析の演習、4 年生は卒業論文の中間報告など
第 3 回	財務諸表の分析 (3)	3 年生はエクセルを用いた企業財務会計データ分析の演習、4 年生は卒業論文の中間報告など
第 4 回	財務諸表の分析 (4)	3 年生はエクセルを用いた企業財務会計データ分析の演習、4 年生は卒業論文の中間報告など
第 5 回	グループワークによる企業分析 (1)	3 年生は複数のグループに分かれ、特定の業界・企業を選定する作業を行う。4 年生は卒業論文の中間報告など
第 6 回	グループワークによる企業分析 (2)	3 年生は選定した業界・企業に関するデータの蒐集作業を行う。4 年生は卒業論文の中間報告など
第 7 回	グループワークによる企業分析 (3)	3 年生は蒐集した業界・企業のデータに基づいて様々な観点から分析作業を行う。4 年生は卒業論文の中間報告など
第 8 回	グループワークによる企業分析 (4)	各グループごとにまとめた分析結果を中間報告し、議論を行う。4 年生は卒業論文の中間報告など
第 9 回	グループワークによる企業分析 (5)	中間報告での指摘に基づいて、分析の再検討を行う。4 年生は卒業論文の中間報告
第 10 回	グループワークによる企業分析 (6)	分析の再検討を反映した最終報告書の作成作業を行う。4 年生は卒業論文の中間報告
第 11 回	グループワークによる企業分析 (7)	各グループごとに最終報告し、これを報告書としてまとめる。4 年生は卒業論文の中間報告
第 12 回	卒業論文の最終報告 (1)	4 年生の卒業論文の最終報告を行う。
第 13 回	卒業論文の最終報告 (2)	4 年生の卒業論文の最終報告を行う。
第 14 回	グループ報告書および卒業論文の提出と総括	グループ報告書と卒業論文を提出してもらい、1 年間のゼミ活動を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告担当者でなくても、質問事項を考慮しておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

企業分析のテキストとしては、大津広一著『会計力と戦略思考力<新版>』日経ビジネス文庫、を用います。

【参考書】

最初の授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) および 2・3 年生の場合はグループワーク報告 (50%)(報告書の提出を含む) または 4 年生の場合は卒業論文 (中間報告・最終報告を含む)(50%)。

【学生の意見等からの気づき】

様々な問題に関心を持てるよう、新聞の記事などをたくさん読みたいと思います。

【その他の重要事項】

財務会計のゼミですが、企業分析には経営学の理解も不可欠です。経営学の様々な分野を幅広く履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with the advanced financial accounting and the basics of financial data analysis based on the financial accounting information. In this course, you will learn how to use financial accounting data, based on the case study.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to analyse the enterprises based on their published financial accounting information, compare them on those analyses, and understand the role of the financial accounting rules.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each meeting. Your study time will be more than four hours.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided on the following:

Short report / mid-report / term-end report(50%), in class contribution(50%).

MAN300FA

演習 3

大下 勇二

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計の理論的・実践的学習。財務会計の様々な問題を学習し、財務会計の基本的な考え方と具体的な会計処理を学習する。

【到達目標】

受講生は、財務・会計情報がどのようなルールの下で作成されているのか、そのルールの基本的な考え方はどのようなものかといった財務会計理論の基礎を習得することができる。さらに、2・3 年生は財務会計の基礎を学習する中でプレゼンテーションおよび議論の仕方を学び、自分の考えを適切に表現する能力を習得することができる。4 年生は財務会計の特定の問題を深く研究しこれを卒業論文の形にまとめることで、物事を深く考え・分析し、それをまとめる能力を養うことができる。

2・3 年生はレポート等の作成により、4 年生は論文の作成により、問題の把握、問題へのアプローチの仕方、文献・資料の収集と分析の仕方、自分の考えのまとめ方・文章化など、レポート・論文を作成する能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本年度は対面授業を基本としています。2・3 年生は会計学の基礎とデータ分析の基礎を理解できるように努める。毎回報告者が財務会計テキストの担当部分をレポートし全員で議論する。報告者は事前に十分な準備をしておくことが必要になります。また、エクセルによるデータの分析方法を修得します。

4 年生は卒業論文の作成に向けて論文のテーマを決め、関連する論文・文献の収集を始めて論文の作成作業に取りかかります。年数回の中間報告を行った上で最終的に卒業論文にまとめます。

なお、授業は教室での学習が中心ですが、可能であれば証券取引所の見学や合宿を実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	基本テキストの分担の決定、参考文献等の紹介など
第 2 回	財務会計の基礎	3 年生はテキスト第 1 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 3 回	財務諸表の仕組み	3 年生はテキスト第 2 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 4 回	棚卸資産の会計	3 年生はテキスト第 3 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 5 回	有形固定資産の会計	3 年生はテキスト第 4 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 6 回	無形固定資産および繰延資産の会計	3 年生はテキスト第 5 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 7 回	金融資産の会計	3 年生はテキスト第 6 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 8 回	負債の会計	3 年生はテキスト第 7 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 9 回	純資産の会計	3 年生はテキスト第 8 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 10 回	収益と費用の会計	3 年生はテキスト第 9 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 11 回	税効果会計	3 年生はテキスト第 10 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 12 回	外貨換算会計	3 年生はテキスト第 11 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 13 回	企業結合会計	3 年生はテキスト第 12 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 14 回	連結財務諸表	3 年生はテキスト第 13 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告担当者でなくても、テキストを事前に読んでおき、質問事項を考えておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

財務会計のスタンダードなテキストを用います。田中健二著『財務会計入門』（最新版(中央経済社)）を使用する予定です。

【参考書】

最初の授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) およびテキストの担当章の報告 (50%)(2・3 年生の場合) または卒業論文中間報告 (50%)(4 年生の場合) により評価します。なお、平常点の評価はゼミ合宿への出席 (実施した場合) を含みます。

【学生の意見等からの気づき】

会計データの作成プロセスの面とこれに基づく分析の面をバランス良く学習できるように工夫したいと思います。

【その他の重要事項】

本ゼミは財務会計の分野を中心に学習しますので、1 年次の簿記入門 I・II、2 年次の会計学入門 I/II の既習者であり、3・4 年次の財務会計論 I/II、税務会計論 I/II、国際会計論 I/II、経営分析 I/II、III/IV などの会計関連の専門科目を履修することが望ましい。

ゼミでの報告は基本的に簿記 3 級程度以上の知識、パワーポイントの基礎およびエクセルの基礎を修得していることを前提としていますので、4 月の授業開始までに、これらを修得しておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with the bases of financial accounting and the basic tool of financial data analysis. In this course, you will learn the theoretical and practical aspects of financial accounting.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to understand the basics of financial accounting and financial data analysis. This course also enhances the development of logical-thinking and students' skill in communication.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each meeting. Your study time will be more than four hours.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided on the following:

Short report (after each meeting) and mid-term report (50%), in class contribution (50%).

MAN300FA

演習 4

大下 勇二

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計の理論的・実践的学習。財務会計の様々な問題を学習し、財務会計の基本的な考え方と具体的な会計データの利用方法を学習する。

【到達目標】

受講生は、財務・会計情報がどのようなルールの下で作成されているのか、そのルールの基本的な考え方はどのようなものかを理解した上で、財務・会計情報を利用して、企業を分析する能力を習得することができる。さらに、2・3 年生は財務・会計情報を用いた企業分析の中で、グループワークによるプレゼンテーションおよび議論の仕方を学び、分析結果を適切に表現し、これを文章にまとめる能力を養うことができる。企業分析に関するグループワーク報告書の作成により、会計データの作成と利用の両面から、財務会計の諸問題を実践的に考える能力を習得することができる。

4 年生は、問題の把握、問題へのアプローチの仕方、文献・資料の収集と分析の仕方、自分の考えのまとめ方・文章化などを学習した上で、財務会計の特定の問題を深く研究しこれを卒業論文の形にまとめることで、物事を深く考え・分析し、それをまとめる能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

今年度は対面授業を基本としています。2・3 年生は会計学の基礎とデータ分析の基礎を理解した上で、グループに分かれて企業の分析に取り掛かります。複数回報告（プレゼン）してもらい、最終的にグループワーク報告書にまとめます。4 年生は、数回の卒業論文の中間報告を行った上で、最終的に卒業論文を完成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	財務諸表の分析 (1)	3 年生は春学期テキストの最終章の報告・議論、4 年生は卒業論文の中間報告など
第 2 回	財務諸表の分析 (2)	3 年生はエクセルを用いた企業財務会計データ分析の演習、4 年生は卒業論文の中間報告など
第 3 回	財務諸表の分析 (3)	3 年生はエクセルを用いた企業財務会計データ分析の演習、4 年生は卒業論文の中間報告など
第 4 回	財務諸表の分析 (4)	3 年生はエクセルを用いた企業財務会計データ分析の演習、4 年生は卒業論文の中間報告など
第 5 回	グループワークによる企業分析 (1)	3 年生は複数のグループに分かれ、特定の業界・企業を選定する作業を行う。4 年生は卒業論文の中間報告など
第 6 回	グループワークによる企業分析 (2)	3 年生は選定した業界・企業に関するデータの蒐集作業を行う。4 年生は卒業論文の中間報告など
第 7 回	グループワークによる企業分析 (3)	3 年生は蒐集した業界・企業のデータに基づいて様々な観点から分析作業を行う。4 年生は卒業論文の中間報告など
第 8 回	グループワークによる企業分析 (4)	各グループごとにまとめた分析結果を中間報告し、議論を行う。4 年生は卒業論文の中間報告など
第 9 回	グループワークによる企業分析 (5)	中間報告での指摘に基づいて、分析の再検討を行う。4 年生は卒業論文の中間報告
第 10 回	グループワークによる企業分析 (6)	分析の再検討を反映した最終報告書の作成作業を行う。4 年生は卒業論文の中間報告
第 11 回	グループワークによる企業分析 (7)	各グループごとに最終報告し、これを報告書としてまとめる。4 年生は卒業論文の中間報告
第 12 回	卒業論文の最終報告 (1)	4 年生の卒業論文の最終報告を行う。
第 13 回	卒業論文の最終報告 (2)	4 年生の卒業論文の最終報告を行う。
第 14 回	グループ報告書および卒業論文の提出と総括	グループ報告書と卒業論文を提出してもらい、1 年間のゼミ活動を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告担当者でなくても、質問事項を考えておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

企業分析のテキストとしては、大津広一著『会計力と戦略思考力<新版>』日経ビジネス文庫、を用います。

【参考書】

最初の授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) および 2・3 年生の場合はグループワーク報告 (50%)(報告書の提出を含む) または 4 年生の場合は卒業論文 (中間報告・最終報告を含む)(50%)。

【学生の意見等からの気づき】

様々な問題に関心を持てるよう、新聞の記事などをたくさん読みたいと思います。

【その他の重要事項】

財務会計のゼミですが、企業分析には経営学の理解も不可欠です。経営学の様々な分野を幅広く履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with the advanced financial accounting and the basics of financial data analysis based on the financial accounting information. In this course, you will learn how to use financial accounting data, based on the case study.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to analyse the enterprises based on their published financial accounting information, compare them on those analyses, and understand the role of the financial accounting rules.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each meeting. Your study time will be more than four hours.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided on the following:

Short report / mid-report / term-end report(50%), in class contribution(50%).

MAN400FA

演習 5

大下 勇二

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計の理論的・実践的学習。財務会計の様々な問題を学習し、財務会計の基本的な考え方と具体的な会計処理を学習する。

【到達目標】

受講生は、財務・会計情報がどのようなルールの下で作成されているのか、そのルールの基本的な考え方はどのようなものかといった財務会計理論の基礎を習得することができる。さらに、2・3 年生は財務会計の基礎を学習する中でプレゼンテーションおよび議論の仕方を学び、自分の考えを適切に表現する能力を習得することができる。4 年生は財務会計の特定の問題を深く研究しこれを卒業論文の形にまとめることで、物事を深く考え・分析し、それをまとめる能力を養うことができる。

2・3 年生はレポート等の作成により、4 年生は論文の作成により、問題の把握、問題へのアプローチの仕方、文献・資料の収集と分析の仕方、自分の考えのまとめ方・文章化など、レポート・論文を作成する能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本年度は対面授業を基本としています。2・3 年生は会計学の基礎とデータ分析の基礎を理解できるように努める。毎回報告者が財務会計テキストの担当部分をレポートし全員で議論する。報告者は事前に十分な準備をしておくことが必要になります。また、エクセルによるデータの分析方法を修得します。

4 年生は卒業論文の作成に向けて論文のテーマを決め、関連する論文・文献の収集を始めて論文の作成作業に取りかかります。年数回の中間報告を行った上で最終的に卒業論文にまとめます。

なお、授業は教室での学習が中心ですが、可能であれば証券取引所の見学や合宿を実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	基本テキストの分担の決定、参考文献等の紹介など
第 2 回	財務会計の基礎	3 年生はテキスト第 1 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 3 回	財務諸表の仕組み	3 年生はテキスト第 2 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 4 回	棚卸資産の会計	3 年生はテキスト第 3 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 5 回	有形固定資産の会計	3 年生はテキスト第 4 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 6 回	無形固定資産および繰延資産の会計	3 年生はテキスト第 5 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 7 回	金融資産の会計	3 年生はテキスト第 6 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 8 回	負債の会計	3 年生はテキスト第 7 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 9 回	純資産の会計	3 年生はテキスト第 8 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 10 回	収益と費用の会計	3 年生はテキスト第 9 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 11 回	税効果会計	3 年生はテキスト第 10 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 12 回	外貨換算会計	3 年生はテキスト第 11 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 13 回	企業結合会計	3 年生はテキスト第 12 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 14 回	連結財務諸表	3 年生はテキスト第 13 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告担当者でなくても、テキストを事前に読んでおき、質問事項を考えておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

財務会計のスタンダードなテキストを用います。田中健二著『財務会計入門』（最新版(中央経済社)）を使用する予定です。

【参考書】

最初の授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) およびテキストの担当章の報告 (50%)(2・3 年生の場合) または卒業論文中間報告 (50%)(4 年生の場合) により評価します。なお、平常点の評価はゼミ合宿への出席 (実施した場合) を含みます。

【学生の意見等からの気づき】

会計データの作成プロセスの面とこれに基づく分析の面をバランス良く学習できるように工夫したいと思います。

【その他の重要事項】

本ゼミは財務会計の分野を中心に学習しますので、1 年次の簿記入門 I・II、2 年次の会計学入門 I/II の既習者であり、3・4 年次の財務会計論 I/II、税務会計論 I/II、国際会計論 I/II、経営分析 I/II、Ⅲ/Ⅳなどの会計関連の専門科目を履修することが望ましい。

ゼミでの報告は基本的に簿記 3 級程度以上の知識、パワーポイントの基礎およびエクセルの基礎を修得していることを前提としていますので、4 月の授業開始までに、これらを修得しておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with the bases of financial accounting and the basic tool of financial data analysis. In this course, you will learn the theoretical and practical aspects of financial accounting.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to understand the basics of financial accounting and financial data analysis. This course also enhances the development of logical-thinking and students' skill in communication.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each meeting. Your study time will be more than four hours.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided on the following:

Short report (after each meeting) and mid-term report (50%), in class contribution (50%).

MAN400FA

演習 6

大下 勇二

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計の理論的・実践的学習。財務会計の様々な問題を学習し、財務会計の基本的な考え方と具体的な会計データの利用方法を学習する。

【到達目標】

受講生は、財務・会計情報がどのようなルールの下で作成されているのか、そのルールの基本的な考え方はどのようなものかを理解した上で、財務・会計情報を利用して、企業を分析する能力を習得することができる。さらに、2・3 年生は財務・会計情報を用いた企業分析の中で、グループワークによるプレゼンテーションおよび議論の仕方を学び、分析結果を適切に表現し、これを文章にまとめる能力を養うことができる。企業分析に関するグループワーク報告書の作成により、会計データの作成と利用の両面から、財務会計の諸問題を実践的に考える能力を習得することができる。

4 年生は、問題の把握、問題へのアプローチの仕方、文献・資料の収集と分析の仕方、自分の考えのまとめ方・文章化などを学習した上で、財務会計の特定の問題を深く研究しこれを卒業論文の形にまとめることで、物事を深く考え・分析し、それをまとめる能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

今年度は対面授業を基本としています。2・3 年生は会計学の基礎とデータ分析の基礎を理解した上で、グループに分かれて企業の分析に取り掛かります。複数回報告（プレゼン）してもらい、最終的にグループワーク報告書にまとめます。4 年生は、数回の卒業論文の中間報告を行った上で、最終的に卒業論文を完成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	財務諸表の分析 (1)	3 年生は春学期テキストの最終章の報告・議論、4 年生は卒業論文の中間報告など
第 2 回	財務諸表の分析 (2)	3 年生はエクセルを用いた企業財務会計データ分析の演習、4 年生は卒業論文の中間報告など
第 3 回	財務諸表の分析 (3)	3 年生はエクセルを用いた企業財務会計データ分析の演習、4 年生は卒業論文の中間報告など
第 4 回	財務諸表の分析 (4)	3 年生はエクセルを用いた企業財務会計データ分析の演習、4 年生は卒業論文の中間報告など
第 5 回	グループワークによる企業分析 (1)	3 年生は複数のグループに分かれ、特定の業界・企業を選定する作業を行う。4 年生は卒業論文の中間報告など
第 6 回	グループワークによる企業分析 (2)	3 年生は選定した業界・企業に関するデータの蒐集作業を行う。4 年生は卒業論文の中間報告など
第 7 回	グループワークによる企業分析 (3)	3 年生は蒐集した業界・企業のデータに基づいて様々な観点から分析作業を行う。4 年生は卒業論文の中間報告など
第 8 回	グループワークによる企業分析 (4)	各グループごとにまとめた分析結果を中間報告し、議論を行う。4 年生は卒業論文の中間報告など
第 9 回	グループワークによる企業分析 (5)	中間報告での指摘に基づいて、分析の再検討を行う。4 年生は卒業論文の中間報告
第 10 回	グループワークによる企業分析 (6)	分析の再検討を反映した最終報告書の作成作業を行う。4 年生は卒業論文の中間報告
第 11 回	グループワークによる企業分析 (7)	各グループごとに最終報告し、これを報告書としてまとめる。4 年生は卒業論文の中間報告
第 12 回	卒業論文の最終報告 (1)	4 年生の卒業論文の最終報告を行う。
第 13 回	卒業論文の最終報告 (2)	4 年生の卒業論文の最終報告を行う。
第 14 回	グループ報告書および卒業論文の提出と総括	グループ報告書と卒業論文を提出してもらい、1 年間のゼミ活動を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告担当者でなくても、質問事項を考えておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

企業分析のテキストとしては、大津広一著『会計力と戦略思考力<新版>』日経ビジネス文庫、を用います。

【参考書】

最初の授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) および 2・3 年生の場合はグループワーク報告 (50%)(報告書の提出を含む) または 4 年生の場合は卒業論文 (中間報告・最終報告を含む)(50%)。

【学生の意見等からの気づき】

様々な問題に関心を持てるよう、新聞の記事などをたくさん読みたいと思います。

【その他の重要事項】

財務会計のゼミですが、企業分析には経営学の理解も不可欠です。経営学の様々な分野を幅広く履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with the advanced financial accounting and the basics of financial data analysis based on the financial accounting information. In this course, you will learn how to use financial accounting data, based on the case study.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to analyse the enterprises based on their published financial accounting information, compare them on those analyses, and understand the role of the financial accounting rules.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each meeting. Your study time will be more than four hours.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided on the following:

Short report / mid-report / term-end report(50%), in class contribution(50%).

MAN200FA

演習 1

小川 憲彦

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織行動論（マイクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。（したがって卒論を書きたくないという方は応募・履修をしないで下さい。）

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】

初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。

第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。

第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。

次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。

また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってほしいと思います。

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more proactively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3 年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってまいります。各自が何らかの小委員会に所属し、相応の役割を担ってまいります。

4 年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第 2 回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定

第 3 回	MBO 発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第 4 回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3 年生はグループごと、4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 5 回	Kotter(1982) の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 6 回	Schein(1990) の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 7 回	研究とは何か	研究活動の説明
第 8 回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第 9 回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第 10 回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第 11 回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 12 回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 13 回	360 度フィードバック	評価と振り返り
第 14 回	MBO 中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。

・本授業の準備学習・復習時間は各回につき 2-4 時間程度を標準とします。

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指示します。

【参考書】

Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】

・初年度は、平常点 5 割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物 5 割で総合的に評価します。
・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウエイト（7 割）を占めます。
・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be given in class.

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ授業時間内の終了を目指しますが、やるときはやるという姿勢を貫徹します。

【学生が準備すべき機器他】

・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

【その他の重要事項】

- ① 2 年間の登録を基本単位と考えてください。
- ② 私が担当するキャリア・マネジメント I/II の履修が前提です。未履修の場合は即座に履修し A-以上の成績で単位修得してください。
- ③ 多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
- ④ 年間のうち個人的事情による欠席 2 回でゼミを除籍とし D 評価とします。
- ⑤ 不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。
- ⑥ スケジュール等はあくまで暫定のものであります。

⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。

履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

Learning objectives

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

Learning activities outside of classroom

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

Grading criteria/policy

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

MAN200FA

演習 2

小川 憲彦

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織行動論（マイクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う（＝演習の）場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。（したがって卒論を書きたくないという方は原則として応募・履修をしないで下さい。）

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】

初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。

第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。

第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。

次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。

また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってみたいと思います。

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3 年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が何らかの小委員会に所属し、相應の役割を担ってもらいます。

4 年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定

第 2 回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第 3 回	MBO 発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第 4 回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3 年生はグループごと、4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 5 回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 6 回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 7 回	研究とは何か	研究活動の説明
第 8 回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第 9 回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第 10 回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第 11 回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 12 回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 13 回	360 度フィードバック	評価と振り返り
第 14 回	MBO 中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
- ・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各回につき 2-4 時間程度を標準とします。

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指示します。

【参考書】

Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】

・初年度は、平常点 5 割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物 5 割で総合的に評価します。

・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウエイトを占めます。・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ授業時間内での終了を目指しますが、必要に応じて、やるときはやる、という姿勢を貫徹します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
- ・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

【その他の重要事項】

- ① 2 年間の登録を基本単位と考えてください。
- ② 私が担当するキャリア・マネジメント I/II の履修が前提です。未履修の場合は即座に履修し A-以上の成績で単位修得してください。
- ③ 多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
- ④ 年間のうち個人的事情による欠席 2 回でゼミを除籍とし D 評価とします。
- ⑤ 不適切な参加態度であると私がみなした場合、退会を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。

⑥スケジュール等はあくまで暫定のもので。

⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。

履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

[Outline (in English)]

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

Learning objectives

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

Learning activities outside of classroom

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

Grading criteria/policy

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

MAN300FA

演習 3

小川 憲彦

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織行動論（マイクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。（したがって卒論を書きたくないという方は応募・履修をしないで下さい。）

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】

初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。

第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。

第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。

次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。

また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more proactively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3 年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってまいります。各自が何らかの小委員会に所属し、相応の役割を担ってまいります。

4 年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第 2 回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定

第 3 回	MBO 発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第 4 回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3 年生はグループごと、4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 5 回	Kotter(1982) の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 6 回	Schein(1990) の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 7 回	研究とは何か	研究活動の説明
第 8 回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第 9 回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第 10 回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第 11 回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 12 回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 13 回	360 度フィードバック	評価と振り返り
第 14 回	MBO 中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
- ・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各回につき 2-4 時間程度を標準とします。

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指示します。

【参考書】

Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】

- ・初年度は、平常点 5 割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物 5 割で総合的に評価します。
- ・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウエイト（7 割）を占めます。
- ・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be given in class.

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ授業時間内での終了を目指しますが、やるときはやるという姿勢を貫徹します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
- ・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

【その他の重要事項】

- ① 2 年間の登録を基本単位と考えてください。
- ② 私が担当するキャリア・マネジメント I/II の履修が前提です。未履修の場合は即座に履修し A-以上の成績で単位修得してください。
- ③ 多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
- ④ 年間のうち個人的事情による欠席 2 回でゼミを除籍とし D 評価とします。
- ⑤ 不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。
- ⑥ スケジュール等はあくまで暫定のものであります。

⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。

履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

Learning objectives

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

Learning activities outside of classroom

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

Grading criteria/policy

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

MAN300FA

演習 4

小川 憲彦

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織行動論（マイクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う（＝演習の）場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。（したがって卒論を書きたくないという方は原則として応募・履修をしないで下さい。）

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】

初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。

第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。

第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。

次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。

また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3 年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が何らかの小委員会に所属し、相應の役割を担ってもらいます。

4 年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定

第 2 回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第 3 回	MBO 発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第 4 回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3 年生はグループごと、4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 5 回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 6 回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 7 回	研究とは何か	研究活動の説明
第 8 回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第 9 回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第 10 回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第 11 回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 12 回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 13 回	360 度フィードバック	評価と振り返り
第 14 回	MBO 中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
- ・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各回につき 2-4 時間程度を標準とします。

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指示します。

【参考書】

Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】

・初年度は、平常点 5 割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物 5 割で総合的に評価します。

・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウエイトを占めます。・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ授業時間内での終了を目指しますが、必要に応じて、やるときはやる、という姿勢を貫徹します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
- ・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

【その他の重要事項】

- ① 2 年間の登録を基本単位と考えてください。
- ② 私が担当するキャリア・マネジメント I/II の履修が前提です。未履修の場合は即座に履修し A-以上の成績で単位修得してください。
- ③ 多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
- ④ 年間のうち個人的事情による欠席 2 回でゼミを除籍とし D 評価とします。
- ⑤ 不適切な参加態度であると私がみなした場合、退会を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。

⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。

⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。

履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

[Outline (in English)]

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

Learning objectives

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

Learning activities outside of classroom

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

Grading criteria/policy

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

MAN400FA

演習 5

小川 憲彦

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織行動論（マイクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。（したがって卒論を書きたくないという方は応募・履修をしないで下さい。）

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB); the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】

初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。

第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。

第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。

次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。

また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってほしいと思います。

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more proactively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3 年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってまいります。各自が何らかの小委員会に所属し、相応の役割を担ってまいります。

4 年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第 2 回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定

第 3 回	MBO 発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第 4 回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3 年生はグループごと、4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 5 回	Kotter(1982) の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 6 回	Schein(1990) の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 7 回	研究とは何か	研究活動の説明
第 8 回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第 9 回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第 10 回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第 11 回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 12 回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 13 回	360 度フィードバック	評価と振り返り
第 14 回	MBO 中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。

・本授業の準備学習・復習時間は各回につき 2-4 時間程度を標準とします。

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指示します。

【参考書】

Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】

・初年度は、平常点 5 割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物 5 割で総合的に評価します。
・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウエイト（7 割）を占めます。
・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be given in class.

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ授業時間内の終了を目指しますが、やるときはやるという姿勢を貫徹します。

【学生が準備すべき機器他】

・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

【その他の重要事項】

- ① 2 年間の登録を基本単位と考えてください。
- ② 私が担当するキャリア・マネジメント I/II の履修が前提です。未履修の場合は即座に履修し A-以上の成績で単位修得してください。
- ③ 多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
- ④ 年間のうち個人的事情による欠席 2 回でゼミを除籍とし D 評価とします。
- ⑤ 不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。
- ⑥ スケジュール等はあくまで暫定のものであります。

⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。

履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

Learning objectives

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

Learning activities outside of classroom

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

Grading criteria/policy

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

MAN400FA

演習 6

小川 憲彦

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織行動論（マイクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う（＝演習の）場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。（したがって卒論を書きたくないという方は原則として応募・履修をしないで下さい。）

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】

初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。

第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。

第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。

次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。

また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3 年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が何らかの小委員会に所属し、相應の役割を担ってもらいます。

4 年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定

第 2 回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第 3 回	MBO 発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第 4 回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3 年生はグループごと、4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 5 回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 6 回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 7 回	研究とは何か	研究活動の説明
第 8 回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第 9 回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第 10 回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第 11 回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 12 回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 13 回	360 度フィードバック	評価と振り返り
第 14 回	MBO 中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
- ・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各回につき 2-4 時間程度を標準とします。

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指示します。

【参考書】

Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】

・初年度は、平常点 5 割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物 5 割で総合的に評価します。

・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウエイトを占めます。・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ授業時間内での終了を目指しますが、必要に応じて、やるときはやる、という姿勢を貫徹します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
- ・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

【その他の重要事項】

- ① 2 年間の登録を基本単位と考えてください。
- ② 私が担当するキャリア・マネジメント I/II の履修が前提です。未履修の場合は即座に履修し A-以上の成績で単位修得してください。
- ③ 多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
- ④ 年間のうち個人的事情による欠席 2 回でゼミを除籍とし D 評価とします。
- ⑤ 不適切な参加態度であると私がみなした場合、退会を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。

⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。

⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。

履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

[Outline (in English)]

This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.

Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).

Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

Learning objectives

Juniors who complete the course will be expected to:

(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.

(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.

Seniors who complete the course will be expected to:

(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.

(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

Learning activities outside of classroom

At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.

Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

Grading criteria/policy

Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).

Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).

The details of grading will be gives in class.

MAN200FA

演習 1

奥西 好夫

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つることができる。
 - ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
 - ③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4 年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
- ・その他の内容は、その都度決める。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う（新型コロナウイルス感染が収まった場合）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
第 2 回	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12 人の怒れる男」 ・スティーブ・ジョブズのプレゼンなど
第 3 回	英文ケースの報告と議論 (1)	・Nkomo et al.(2011) の Case 1
第 4 回	英文ケースの報告と議論 (2)	・同 Case 2
第 5 回	英文ケースの報告と議論 (3)	・同 Case 8
第 6 回	英文ケースの報告と議論 (4)	・同 Case 11
第 7 回	英文ケースの報告と議論 (5)	・同 Case 12
第 8 回	英文ケースの報告と議論 (6)	・同 Case 13
第 9 回	英文ケースの報告と議論 (7)	・同 Case 14
第 10 回	英文ケースの報告と議論 (8)	・同 Case 15
第 11 回	英文ケースの報告と議論 (9)	・同 Case 25
第 12 回	英文ケースの報告と議論 (10)	・同 Case 26
第 13 回	英文ケースの報告と議論 (11)	・同 Case 27
第 14 回	英文ケースの報告と議論 (12)	・同 Case 34
		・同 Case 35
		・同 Case 36
		・同 Case 37
		・同 Case 38
		・同 Case 39
		・同 Case 51
		・同 Case 52
		・同 Case 53
		・同 Case 54
		・同 Case 59
		・同 Case 60
		・同 Case 65

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
- ・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う。

【参考書】

- ・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第 3 版）』（日本経済新聞出版、2020）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
- ・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

- ・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは 100%）。
- ・なお、4 年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が 70%、卒論が 30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらず E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・コロナの感染状況によって Zoom 授業の可能性もある。また、ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能な PC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】

- ・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
- ・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
- ・担当教員は、1980～89 年、(旧) 労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

- ・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】

- ・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
- ・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
- ・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
- ・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN200FA

演習 2

奥西 好夫

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

①学生は、自ら適切な課題を見つめることができる。
 ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
 ③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
 ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
 ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
 ・4 年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
 ・その他の内容は、その都度決める。
 ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う（新型コロナウイルス感染が収まった場合）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	4 年生卒業ゼミ論文計画	・テーマ、研究計画の報告
第 2 回	英文ケースの報告と議論	・Nkomo et al.(2011) の Case 66
第 3 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 67
第 4 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 76
第 5 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 77
第 6 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 85
第 7 回	入ゼミ関係 (1)	・入ゼミ選考準備
第 8 回	入ゼミ関係 (2)	・入ゼミ面接、選考
第 9 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 88
第 10 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 89
第 11 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 90
第 12 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 98
第 13 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 99
第 14 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 103
第 15 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 104
第 16 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 105
第 17 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 106
第 18 回	4 年生卒業ゼミ論文中間報告 (1)	・研究経過報告 (グループ 1)
第 19 回	4 年生卒業ゼミ論文中間報告 (2)	・研究経過報告 (グループ 2)
第 20 回	ゼミのまとめ	・時事的テーマの講義、議論など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
 ・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
 ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】

・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第 2 版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
 ・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは 100%）。
 ・なお、4 年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が 70%、卒論が 30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらず E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

・コロナの感染状況によって Zoom 授業の可能性があること、また、ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能な PC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】

・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
 ・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
 ・担当教員は、1980～89 年、(旧) 労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】

・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
 ・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
 ・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
 ・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN300FA

演習 3

奥西 好夫

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つることができる。
 - ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
 - ③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4 年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
- ・その他の内容は、その都度決める。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う（新型コロナウイルス感染が収まった場合）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
第 2 回	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12 人の怒れる男」 ・スティーブ・ジョブズのプレゼンなど
第 3 回	英文ケースの報告と議論 (1)	・Nkomo et al.(2011) の Case 1
第 4 回	英文ケースの報告と議論 (2)	・同 Case 2
第 5 回	英文ケースの報告と議論 (3)	・同 Case 8
第 6 回	英文ケースの報告と議論 (4)	・同 Case 11
第 7 回	英文ケースの報告と議論 (5)	・同 Case 12
第 8 回	英文ケースの報告と議論 (6)	・同 Case 13
第 9 回	英文ケースの報告と議論 (7)	・同 Case 14
第 10 回	英文ケースの報告と議論 (8)	・同 Case 15
第 11 回	英文ケースの報告と議論 (9)	・同 Case 25
第 12 回	英文ケースの報告と議論 (10)	・同 Case 26
第 13 回	英文ケースの報告と議論 (11)	・同 Case 27
第 14 回	英文ケースの報告と議論 (12)	・同 Case 34
		・同 Case 35
		・同 Case 36
		・同 Case 37
		・同 Case 38
		・同 Case 39
		・同 Case 51
		・同 Case 52
		・同 Case 53
		・同 Case 54
		・同 Case 59
		・同 Case 60
		・同 Case 65

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
- ・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う。

【参考書】

- ・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第 3 版）』（日本経済新聞出版、2020）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
- ・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

- ・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは 100%）。
- ・なお、4 年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が 70%、卒論が 30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらず E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・コロナの感染状況によって Zoom 授業の可能性がある。また、ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能な PC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】

- ・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
- ・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
- ・担当教員は、1980～89 年、(旧) 労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

- ・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】

- ・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
- ・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
- ・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
- ・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN300FA

演習 4

奥西 好夫

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

①学生は、自ら適切な課題を見つめることができる。
 ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
 ③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
 ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
 ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
 ・4 年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
 ・その他の内容は、その都度決める。
 ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う（新型コロナウイルス感染が収まった場合）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	4 年生卒業ゼミ論文計画	・テーマ、研究計画の報告
第 2 回	英文ケースの報告と議論	・Nkomo et al.(2011) の Case 66
第 3 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 67
第 4 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 76
第 5 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 77
第 6 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 85
第 7 回	入ゼミ関係 (1)	・入ゼミ選考準備
第 8 回	入ゼミ関係 (2)	・入ゼミ面接、選考
第 9 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 88
第 10 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 89
第 11 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 90
第 12 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 98
第 13 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 99
第 14 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 103
第 15 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 104
第 16 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 105
第 17 回	英文ケースの報告と議論	・同 Case 106
第 18 回	4 年生卒業ゼミ論文中間報告 (1)	・研究経過報告 (グループ 1)
第 19 回	4 年生卒業ゼミ論文中間報告 (2)	・研究経過報告 (グループ 2)
第 20 回	ゼミのまとめ	・時事的テーマの講義、議論など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
 ・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
 ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】

・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第 2 版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
 ・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは 100%）。
 ・なお、4 年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が 70%、卒論が 30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらず E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

・コロナの感染状況によって Zoom 授業の可能性があるので、また、ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能な PC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】

・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
 ・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
 ・担当教員は、1980～89 年、(旧) 労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】

・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
 ・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
 ・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
 ・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN400FA

演習 5

奥西 好夫

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つることができる。
 - ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
 - ③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4 年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
- ・その他の内容は、その都度決める。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う（新型コロナウイルス感染が収まった場合）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
第 2 回	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12 人の怒れる男」 ・スティーブ・ジョブズのプレゼンなど
第 3 回	英文ケースの報告と議論 (1)	・Nkomo et al.(2011) の Case 1 ・同 Case 2
第 4 回	英文ケースの報告と議論 (2)	・同 Case 8 ・同 Case 11
第 5 回	英文ケースの報告と議論 (3)	・同 Case 12 ・同 Case 13
第 6 回	英文ケースの報告と議論 (4)	・同 Case 14 ・同 Case 15
第 7 回	英文ケースの報告と議論 (5)	・同 Case 25 ・同 Case 26
第 8 回	英文ケースの報告と議論 (6)	・同 Case 27 ・同 Case 34
第 9 回	英文ケースの報告と議論 (7)	・同 Case 35 ・同 Case 36
第 10 回	英文ケースの報告と議論 (8)	・同 Case 37 ・同 Case 38
第 11 回	英文ケースの報告と議論 (9)	・同 Case 39 ・同 Case 51
第 12 回	英文ケースの報告と議論 (10)	・同 Case 52 ・同 Case 53
第 13 回	英文ケースの報告と議論 (11)	・同 Case 54 ・同 Case 59
第 14 回	英文ケースの報告と議論 (12)	・同 Case 60 ・同 Case 65

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
- ・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う。

【参考書】

- ・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第 3 版）』（日本経済新聞出版、2020）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
- ・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

- ・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは 100%）。
- ・なお、4 年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が 70%、卒論が 30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらず E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・コロナの感染状況によって Zoom 授業の可能性がある。また、ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能な PC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】

- ・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
- ・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
- ・担当教員は、1980～89 年、(旧) 労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

- ・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】

- ・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
- ・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
- ・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
- ・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN400FA

演習 6

奥西 好夫

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つることができる。
 - ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
 - ③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4 年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
- ・その他の内容は、その都度決める。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う（新型コロナウイルス感染が収まった場合）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	4 年生卒業ゼミ論文計画	・テーマ、研究計画の報告
第 2 回	英文ケースの報告と議論 (1)	・Nkomo et al.(2011) の Case 66 ・同 Case 67
第 3 回	英文ケースの報告と議論 (2)	・同 Case 76 ・同 Case 77
第 4 回	英文ケースの報告と議論 (3)	・同 Case 78 ・同 Case 85
第 5 回	入ゼミ関係 (1)	・入ゼミ選考準備
第 6 回	入ゼミ関係 (2)	・入ゼミ面接、選考
第 7 回	英文ケースの報告と議論 (4)	・同 Case 88 ・同 Case 89
第 8 回	英文ケースの報告と議論 (5)	・同 Case 90 ・同 Case 98
第 9 回	英文ケースの報告と議論 (6)	・同 Case 99 ・同 Case 103
第 10 回	英文ケースの報告と議論 (7)	・同 Case 104 ・同 Case 105
第 11 回	英文ケースの報告と議論 (8)	・同 Case 106
第 12 回	4 年生卒業ゼミ論文中間報告 (1)	・研究経過報告 (グループ 1)
第 13 回	4 年生卒業ゼミ論文中間報告 (2)	・研究経過報告 (グループ 2)
第 14 回	ゼミのまとめ	・時事的テーマの講義、議論など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。

・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】

・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第 2 版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。

・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは 100%）。

・なお、4 年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が 70%、卒論が 30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらず E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

・コロナの感染状況によって Zoom 授業の可能性があること、また、ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能な PC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】

・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。

・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。

・担当教員は、1980～89 年、(旧) 労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】

・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.

・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.

・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.

・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN200FA

演習 1

片桐 満

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来、金融に直接かかわる仕事に就く人はもちろん、金融以外の業種で働く人たちも、仕事を進めていく上で、金融に関する何らかの知識が必ず求められます。この演習では、金融市場の動きとその背景にある経済活動との関係を理解するとともに、金融がビジネスに及ぼす影響について学びます。

【到達目標】

金融に関する十分な知識を身につけるとともに、演習での発表・議論を通じて、①インターネットや参考文献を用いて発表に向けた準備ができる、②スライドによる分かり易い発表ができる、③他人の発表に建設的なコメントができる、といった社会に出てから必ず必要となる基礎的なプレゼンテーションと議論のスキルを身につけることが到達目標の1つ目です。さらに、コンテストへの参加を通じて、金融の知識を用いて現実の経済問題を解決する術を身につけることが到達目標の2つ目です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

金融市場に関するテキストを輪読するとともに、「日経ストックリーグ」への参加を前提として、グループに分かれて株式投資について議論して貰う予定です。進め方として、(1)前半部分では、毎回、2名の発表者を予め指名し、教科書の輪読とその内容に関する議論を行います。(2)後半部分では、コンテストのレポート作成に向けて、グループに分かれて作業してもらいます。参加するコンテンツは、ゼミ生の意見を踏まえて変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキストの輪読と市場予想に関するガイダンス	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第2回	テキスト1章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第3回	テキスト2章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第4回	テキスト3章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第5回	テキスト4章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第6回	テキスト5章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第7回	テキスト6章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第8回	テキスト7章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第9回	テキスト8章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第10回	テキスト9章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第11回	テキスト10章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第12回	テキスト11章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第13回	テキスト12章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第14回	テキスト13章の輪読とグループ討議と秋学期に向けた議論	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所をあらかじめ読み込み、具体的に疑問点を洗い出すことで、積極的に議論に参加できるようにしておくほか、日々の市場の動きは新聞などでトラックするようにしておいてください。テキストの内容だけでなく、参考文献等を用いて、自主的に議論の準備をすることが期待されます。発表者以外は、疑問点に対する答えまで準備する必要はありませんが、演習中に発表者に対し、簡潔に質問できる準備はしてください。本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは授業開始までに教員から連絡します。また、学期中に、参加者の希望を踏まえて変更する可能性があります。

【参考書】

参考文献は、演習において適宜紹介します。また、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する記事や書物を読むよう心掛けてください。

【成績評価の方法と基準】

演習での発表（50%）、議論への参加度（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストによる学習だけだと実感が湧きにくいと感じたため、コンテスト参加に向けたグループディスカッションを入れることで、現実に根差した演習にする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

・春学期と秋学期の連続履修を前提とします。
・日本銀行や国際通貨基金（IMF）において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

【関連科目】

金融論Ⅰ/Ⅱと関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

Financial economics is essential knowledge for businesspersons in any industry. In this seminar, students learn about the function of financial markets and the underlying economic activity behind them. The goal of this seminar is to acquire sufficient financial knowledge and develop the necessary skills for presentation. All participants are expected to read the textbook in advance. Grades are based on in-class presentations (50%) and discussions (50%).

MAN200FA

演習 2

片桐 満

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来、金融に直接かかわる仕事に就く人はもちろん、金融以外の業種で働く人たちも、仕事を進めていく上で、金融に関する何らかの知識が必ず求められます。この演習では、金融市場の動きとその背景にある経済活動との関係を理解するとともに、金融がビジネスに及ぼす影響について学びます。

【到達目標】

金融に関する十分な知識を身につけるとともに、演習での発表・議論を通じて、①インターネットや参考文献を用いて発表に向けた準備ができる、②スライドによる分かり易い発表ができる、③他人の発表に建設的なコメントができる、といった社会に出てから必ず必要となる基礎的なプレゼンテーションと議論のスキルを身につけることが到達目標の1つ目です。さらに、コンテストへの参加を通じて、金融の知識を用いて現実の経済問題を解決する術を身につけることが到達目標の2つ目です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

金融市場に関するテキストを輪読するとともに、「日経ストックリーグ」への参加を前提として、グループに分かれて株式投資について議論して貰う予定です。進め方として、(1)前半部分では、毎回、2名の発表者を予め指名し、教科書の輪読とその内容に関する議論を行います。(2)後半部分では、コンテストのレポート作成に向けて、グループに分かれて作業してもらいます。参加するコンテンツは、ゼミ生の意見を踏まえて変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキストの輪読と市場予想に関するガイダンス	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第2回	テキスト1章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第3回	テキスト2章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第4回	テキスト3章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第5回	テキスト4章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第6回	テキスト5章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第7回	テキスト6章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第8回	テキスト7章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第9回	テキスト8章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第10回	テキスト9章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第11回	テキスト10章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第12回	テキスト11章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第13回	テキスト12章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第14回	テキスト13章の輪読とグループ討議と秋学期に向けた議論	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所をあらかじめ読み込み、具体的に疑問点を洗い出すことで、積極的に議論に参加できるようにしておくほか、日々の市場の動きは新聞などでトラックするようにしておいてください。テキストの内容だけでなく、参考文献等を用いて、自主的に議論の準備をすることが期待されます。発表者以外は、疑問点に対する答えまで準備する必要はありませんが、演習中に発表者に対し、簡潔に質問できる準備はしてください。本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは授業開始までに教員から連絡します。また、学期中に、参加者の希望を踏まえて変更する可能性があります。

【参考書】

参考文献は、演習において適宜紹介します。また、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する記事や書物を読むよう心掛けてください。

【成績評価の方法と基準】

演習での発表（50%）、議論への参加度（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストによる学習だけだと実感が湧きにくいと感じたため、コンテスト参加に向けたグループディスカッションを入れることで、現実に根差した演習にする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

・春学期と秋学期の連続履修を前提とします。
・日本銀行や国際通貨基金（IMF）において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

【関連科目】

金融論Ⅰ/Ⅱと関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

Financial economics is essential knowledge for businesspersons in any industry. In this seminar, students learn about the function of financial markets and the underlying economic activity behind them. The goal of this seminar is to acquire sufficient financial knowledge and develop the necessary skills for presentation. All participants are expected to read the textbook in advance. Grades are based on in-class presentations (50%) and discussions (50%).

MAN300FA

演習 3

片桐 満

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来、金融に直接かかわる仕事に就く人はもちろん、金融以外の業種で働く人たちも、仕事を進めていく上で、金融に関する何らかの知識が必ず求められます。この演習では、金融市場の動きとその背景にある経済活動との関係を理解するとともに、金融がビジネスに及ぼす影響について学びます。

【到達目標】

金融に関する十分な知識を身につけるとともに、演習での発表・議論を通じて、①インターネットや参考文献を用いて発表に向けた準備ができる、②スライドによる分かり易い発表ができる、③他人の発表に建設的なコメントができる、といった社会に出てから必ず必要となる基礎的なプレゼンテーションと議論のスキルを身につけることが到達目標の1つ目です。さらに、コンテストへの参加を通じて、金融の知識を用いて現実の経済問題を解決する術を身につけることが到達目標の2つ目です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

金融市場に関するテキストを輪読するとともに、「日経ストックリーグ」への参加を前提として、グループに分かれて株式投資について議論して貰う予定です。進め方として、(1)前半部分では、毎回、2名の発表者を予め指名し、教科書の輪読とその内容に関する議論を行います。(2)後半部分では、コンテストのレポート作成に向けて、グループに分かれて作業してもらいます。参加するコンテンツは、ゼミ生の意見を踏まえて変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキストの輪読と市場予想に関するガイダンス	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第2回	テキスト1章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第3回	テキスト2章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第4回	テキスト3章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第5回	テキスト4章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第6回	テキスト5章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第7回	テキスト6章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第8回	テキスト7章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第9回	テキスト8章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第10回	テキスト9章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第11回	テキスト10章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第12回	テキスト11章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第13回	テキスト12章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第14回	テキスト13章の輪読とグループ討議と秋学期に向けた議論	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所をあらかじめ読み込み、具体的に疑問点を洗い出すことで、積極的に議論に参加できるようにしておくほか、日々の市場の動きは新聞などでトラックするようにしておいてください。テキストの内容だけでなく、参考文献等を用いて、自主的に議論の準備をすることが期待されます。発表者以外は、疑問点に対する答えまで準備する必要はありませんが、演習中に発表者に対し、簡潔に質問できる準備はしてください。本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは授業開始までに教員から連絡します。また、学期中に、参加者の希望を踏まえて変更する可能性があります。

【参考書】

参考文献は、演習において適宜紹介します。また、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する記事や書物を読むよう心掛けてください。

【成績評価の方法と基準】

演習での発表（50%）、議論への参加度（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストによる学習だけだと実感が湧きにくいと感じたため、コンテスト参加に向けたグループディスカッションを入れることで、現実に根差した演習にする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

・春学期と秋学期の連続履修を前提とします。
・日本銀行や国際通貨基金（IMF）において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

【関連科目】

金融論Ⅰ/Ⅱと関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

Financial economics is essential knowledge for businesspersons in any industry. In this seminar, students learn about the function of financial markets and the underlying economic activity behind them. The goal of this seminar is to acquire sufficient financial knowledge and develop the necessary skills for presentation. All participants are expected to read the textbook in advance. Grades are based on in-class presentations (50%) and discussions (50%).

MAN300FA

演習 4

片桐 満

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来、金融に直接かかわる仕事に就く人はもちろん、金融以外の業種で働く人たちも、仕事を進めていく上で、金融に関する何らかの知識が必ず求められます。この演習では、金融市場の動きとその背景にある経済活動との関係を理解するとともに、金融がビジネスに及ぼす影響について学びます。

【到達目標】

金融に関する十分な知識を身につけるとともに、演習での発表・議論を通じて、①インターネットや参考文献を用いて発表に向けた準備ができる、②スライドによる分かり易い発表ができる、③他人の発表に建設的なコメントができる、といった社会に出てから必ず必要となる基礎的なプレゼンテーションと議論のスキルを身につけることが到達目標の1つ目です。さらに、コンテストへの参加を通じて、金融の知識を用いて現実の経済問題を解決する術を身につけることが到達目標の2つ目です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

金融市場に関するテキストを輪読するとともに、「日経ストックリーグ」への参加を前提として、グループに分かれて株式投資について議論して貰う予定です。進め方として、(1)前半部分では、毎回、2名の発表者を予め指名し、教科書の輪読とその内容に関する議論を行います。(2)後半部分では、コンテストのレポート作成に向けて、グループに分かれて作業してもらいます。参加するコンテンツは、ゼミ生の意見を踏まえて変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキストの輪読と市場予想に関するガイダンス	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第2回	テキスト1章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第3回	テキスト2章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第4回	テキスト3章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第5回	テキスト4章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第6回	テキスト5章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第7回	テキスト6章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第8回	テキスト7章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第9回	テキスト8章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第10回	テキスト9章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第11回	テキスト10章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第12回	テキスト11章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第13回	テキスト12章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第14回	テキスト13章の輪読とグループ討議と秋学期に向けた議論	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所をあらかじめ読み込み、具体的に疑問点を洗い出すことで、積極的に議論に参加できるようにしておくほか、日々の市場の動きは新聞などでトラックするようにしておいてください。テキストの内容だけでなく、参考文献等を用いて、自主的に議論の準備をすることが期待されます。発表者以外は、疑問点に対する答えまで準備する必要はありませんが、演習中に発表者に対し、簡潔に質問できる準備はしてください。本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは授業開始までに教員から連絡します。また、学期中に、参加者の希望を踏まえて変更する可能性があります。

【参考書】

参考文献は、演習において適宜紹介します。また、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する記事や書物を読むよう心掛けてください。

【成績評価の方法と基準】

演習での発表（50%）、議論への参加度（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストによる学習だけだと実感が湧きにくいと感じたため、コンテスト参加に向けたグループディスカッションを入れることで、現実に根差した演習にする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

・春学期と秋学期の連続履修を前提とします。
・日本銀行や国際通貨基金（IMF）において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

【関連科目】

金融論Ⅰ/Ⅱと関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

Financial economics is essential knowledge for businesspersons in any industry. In this seminar, students learn about the function of financial markets and the underlying economic activity behind them. The goal of this seminar is to acquire sufficient financial knowledge and develop the necessary skills for presentation. All participants are expected to read the textbook in advance. Grades are based on in-class presentations (50%) and discussions (50%).

MAN400FA

演習 5

片桐 満

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来、金融に直接かかわる仕事に就く人はもちろん、金融以外の業種で働く人たちも、仕事を進めていく上で、金融に関する何らかの知識が必ず求められます。この演習では、金融市場の動きとその背景にある経済活動との関係を理解するとともに、金融がビジネスに及ぼす影響について学びます。

【到達目標】

金融に関する十分な知識を身につけるとともに、演習での発表・議論を通じて、①インターネットや参考文献を用いて発表に向けた準備ができる、②スライドによる分かり易い発表ができる、③他人の発表に建設的なコメントができる、といった社会に出てから必ず必要となる基礎的なプレゼンテーションと議論のスキルを身につけることが到達目標の1つ目です。さらに、コンテストへの参加を通じて、金融の知識を用いて現実の経済問題を解決する術を身につけることが到達目標の2つ目です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

金融市場に関するテキストを輪読するとともに、「日経ストックリーグ」への参加を前提として、グループに分かれて株式投資について議論して貰う予定です。進め方として、(1)前半部分では、毎回、2名の発表者を予め指名し、教科書の輪読とその内容に関する議論を行います。(2)後半部分では、コンテストのレポート作成に向けて、グループに分かれて作業してもらいます。参加するコンテンツは、ゼミ生の意見を踏まえて変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキストの輪読と市場予想に関するガイダンス	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第2回	テキスト1章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第3回	テキスト2章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第4回	テキスト3章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第5回	テキスト4章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第6回	テキスト5章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第7回	テキスト6章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第8回	テキスト7章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第9回	テキスト8章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第10回	テキスト9章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第11回	テキスト10章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第12回	テキスト11章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第13回	テキスト12章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第14回	テキスト13章の輪読とグループ討議と秋学期に向けた議論	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所をあらかじめ読み込み、具体的に疑問点を洗い出すことで、積極的に議論に参加できるようにしておくほか、日々の市場の動きは新聞などでトラックするようにしておいてください。テキストの内容だけでなく、参考文献等を用いて、自主的に議論の準備をすることが期待されます。発表者以外は、疑問点に対する答えまで準備する必要はありませんが、演習中に発表者に対し、簡潔に質問できる準備はしてください。本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは授業開始までに教員から連絡します。また、学期中に、参加者の希望を踏まえて変更する可能性があります。

【参考書】

参考文献は、演習において適宜紹介します。また、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する記事や書物を読むよう心掛けてください。

【成績評価の方法と基準】

演習での発表（50%）、議論への参加度（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストによる学習だけだと実感が湧きにくいと感じたため、コンテスト参加に向けたグループディスカッションを入れることで、現実に根差した演習にする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

・春学期と秋学期の連続履修を前提とします。
・日本銀行や国際通貨基金（IMF）において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

【関連科目】

金融論Ⅰ/Ⅱと関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

Financial economics is essential knowledge for businesspersons in any industry. In this seminar, students learn about the function of financial markets and the underlying economic activity behind them. The goal of this seminar is to acquire sufficient financial knowledge and develop the necessary skills for presentation. All participants are expected to read the textbook in advance. Grades are based on in-class presentations (50%) and discussions (50%).

MAN400FA

演習 6

片桐 満

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来、金融に直接かかわる仕事に就く人はもちろん、金融以外の業種で働く人々も、仕事を進めていく上で、金融に関する何らかの知識が必ず求められます。この演習では、金融市場の動きとその背景にある経済活動との関係を理解するとともに、金融がビジネスに及ぼす影響について学びます。

【到達目標】

金融に関する十分な知識を身につけるとともに、演習での発表・議論を通じて、①インターネットや参考文献を用いて発表に向けた準備ができる、②スライドによる分かり易い発表ができる、③他人の発表に建設的なコメントができる、といった社会に出てから必ず必要となる基礎的なプレゼンテーションと議論のスキルを身につけることが到達目標の1つ目です。さらに、コンテストへの参加を通じて、金融の知識を用いて現実の経済問題を解決する術を身につけることが到達目標の2つ目です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

金融市場に関するテキストを輪読するとともに、「日経ストックリーグ」への参加を前提として、グループに分かれて株式投資について議論して貰う予定です。進め方として、(1)前半部分では、毎回、2名の発表者を予め指名し、教科書の輪読とその内容に関する議論を行います。(2)後半部分では、コンテストのレポート作成に向けて、グループに分かれて作業してもらいます。参加するコンテンツは、ゼミ生の意見を踏まえて変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキストの輪読と市場予想に関するガイダンス	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第2回	テキスト1章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第3回	テキスト2章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第4回	テキスト3章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第5回	テキスト4章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第6回	テキスト5章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第7回	テキスト6章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第8回	テキスト7章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第9回	テキスト8章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第10回	テキスト9章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第11回	テキスト10章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第12回	テキスト11章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第13回	テキスト12章の輪読とグループ討議	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い
第14回	テキスト13章の輪読とグループ討議と秋学期に向けた議論	テキストに関する発表・議論とコンテストに向けたグループ内での話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所をあらかじめ読み込み、具体的に疑問点を洗い出すことで、積極的に議論に参加できるようにしておくほか、日々の市場の動きは新聞などでトラックするようにしておいてください。テキストの内容だけでなく、参考文献等を用いて、自主的に議論の準備をすることが期待されます。発表者以外は、疑問点に対する答えまで準備する必要はありませんが、演習中に発表者に対し、簡潔に質問できる準備はしてください。本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは授業開始までに教員から連絡します。また、学期中に、参加者の希望を踏まえて変更する可能性があります。

【参考書】

参考文献は、演習において適宜紹介します。また、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する記事や書物を読むよう心掛けてください。

【成績評価の方法と基準】

演習での発表（50%）、議論への参加度（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストによる学習だけだと実感が湧きにくいと感じたため、コンテスト参加に向けたグループディスカッションを入れることで、現実に根差した演習にする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

・春学期と秋学期の連続履修を前提とします。
・日本銀行や国際通貨基金（IMF）において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

【関連科目】

金融論Ⅰ/Ⅱと関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

Financial economics is essential knowledge for businesspersons in any industry. In this seminar, students learn about the function of financial markets and the underlying economic activity behind them. The goal of this seminar is to acquire sufficient financial knowledge and develop the necessary skills for presentation. All participants are expected to read the textbook in advance. Grades are based on in-class presentations (50%) and discussions (50%).

MAN200FA

演習 1

神谷 健司

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計を研究するゼミであり、わが国のディスクロージャー制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するかの議論も行いたいと思います。

【到達目標】

財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析ができるようになってもらいたいと思います。卒業時までに各自が課題を見つけ、一定の研究成果として纏められるように指導する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2 コマ 200 分が正規の演習時間ですが、希望者がいれば追加的に論文指導や基本的な英語文献も読みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	財務会計の基礎、財務諸表の仕組み	報告に基いてディスカッションを行う
第 2 回	棚卸資産の会計、有形固定資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 3 回	無形固定資産、繰延資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 4 回	金融資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 5 回	負債の会計、純資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 6 回	収益と費用の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 7 回	税効果会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 8 回	外貨換算会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 9 回	企業結合会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 10 回	連結財務諸表	報告に基いてディスカッションを行う
第 11 回	企業評価の方法	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 12 回	定性的な分析と財務データの関連付け	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 13 回	財務データの見方	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 14 回	財務比率分析	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ週週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤邦雄『新・現代会計入門（第 5 版）』日本経済新聞出版社（2022 年）、伊藤邦雄『企業価値評価』日本経済新聞出版社（2021 年）、田村威文他『会計学の手法（第 2 版）』中央経済社（2021 年）、EY 新日本有限責任監査法人編「収益認識の会計入門（第 2 版）」中央経済社（2021 年）などを予定している。

【参考書】

上野清貴『財務会計の基礎（第 5 版）』中央経済社（2018 年）。必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。各学年、通常の発表・貢献点（50 %）、レポート・卒業論文作成（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

4 年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されている O B ・ O G に来てもらって話を聞く機会を年数回設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

年 1、2 回程度の合宿を考えております。何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2 年次から参加する学生を歓迎致します。公認会計士等の会計専門職の職業に将来就こうと頑張っている学生もゼミには多くいます。また将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加も歓迎します。

本演習についての 1・2 年次の関連科目は「簿記入門 I/II」、「会計学入門 I/II」といえますが、企業分析を行う際には「経営戦略論 I/II」の知識も有用である。3 年次以降に開講されている会計科目のすべてが本演習の関連科目といえます。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

【Outline (in English)】

This seminar is to study accounting standards, reporting systems in Japan, and the foundations of corporate analysis. The goal of this seminar is to understand how financial statements are prepared and to acquire the ability to analyze the performance of companies using actual data in consideration of economic movements. Finally, we will be able to get the skills to think various accounting problems. logically. Final grade will be calculated according to the following process: Final Report(50%), and in-class contribution(50 %).

MAN200FA

演習 2

神谷 健司

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計を研究するゼミであり、わが国のディスクロージャー制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するかの議論もしたいと思います。

【到達目標】

財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析ができるようになってもらいたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2 コマ 3 時間が正規の演習時間ですが、希望者による延長戦も予定しています。その時間では卒業論文の中間報告をしてもらったり、基本的な英語文献を読みたいと思います。

基本的に 2 年次からゼミに入って、3 年間継続してもらいたいと思います。募集の基本的方針もそれに基づきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業価値評価のフレームワーク	報告に基いてディスカッションを行う
第 2 回	財務諸表から読む企業活動	報告に基いてディスカッションを行う
第 3 回	戦略的ファンダメンタル分析	報告に基いてディスカッションを行う
第 4 回	経営戦略分析	報告に基いてディスカッションを行う
第 5 回	会計戦略分析	報告に基いてディスカッションを行う
第 6 回	ケース・スタディ（1）	報告に基いてディスカッションを行う
第 7 回	企業価値とバリュエーション	報告に基いてディスカッションを行う
第 8 回	会計・財務数値と市場評価	報告に基いてディスカッションを行う
第 9 回	資本コストとリスク評価	報告に基いてディスカッションを行う
第 10 回	ケーススタディ（2）	報告に基いてディスカッションを行う
第 11 回	EVA バリュエーション	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 12 回	企業価値最大化のための M & A 戦略	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 13 回	無形資産の価値評価と戦略的活用	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 14 回	企業の総合的評価	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ週週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤邦雄『企業価値経営』日本経済新聞出版社（2021 年）、田村威文他『会計学の手法（第 2 版）』中央経済社（2021 年）

【参考書】

大津広一『企業価値向上のための経営指大全』ダイヤモンド社（2022 年）

他のものについては必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。各学年、平常点 7 割、論文 3 割で評価。

【学生の意見等からの気づき】

4 年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されている人達に来てもらって話を聞く機会を年 3、4 回設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

年 1、2 回程度の合宿を考慮しております。何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2 年次から参加する学生を歓迎致します。公認会計士等の会計専門職の職業に将来就こうと頑張っている学生もゼミには多くいます。また将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加も歓迎します。

本演習についての 1・2 年次の関連科目は「簿記入門 I/II」、「会計学入門 I/II」といえますが、企業分析を行う際には「経営戦略論 I/II」の知識も有用です。3 年次以降に開講されている会計科目のすべてが本演習の関連科目といえます。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

【Outline (in English)】

This seminar is to study accounting standards, reporting systems in Japan, and the foundations of corporate analysis. The goal of this seminar is to understand how financial statements are prepared and to acquire the ability to analyze the performance of companies using actual data in consideration of economic movements. Finally, we will be able to get the skills to think various accounting problems logically. Final grade will be calculated according to the following process: Final Report (50%), and in-class contribution (50 %).

MAN300FA

演習 3

神谷 健司

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計を研究するゼミであり、わが国のディスクロージャー制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するかの議論も行いたいと思います。

【到達目標】

財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析ができるようになってもらいたいと思います。卒業時までに各自が課題を見つけ、一定の研究成果として纏められるように指導する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2 コマ 200 分が正規の演習時間ですが、希望者がいれば追加的に論文指導や基本的な英語文献も読みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	財務会計の基礎、財務諸表の仕組み	報告に基いてディスカッションを行う
第 2 回	棚卸資産の会計、有形固定資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 3 回	無形固定資産、繰延資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 4 回	金融資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 5 回	負債の会計、純資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 6 回	収益と費用の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 7 回	税効果会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 8 回	外貨換算会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 9 回	企業結合会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 10 回	連結財務諸表	報告に基いてディスカッションを行う
第 11 回	企業評価の方法	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 12 回	定性的な分析と財務データの関連付け	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 13 回	財務データの見方	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 14 回	財務比率分析	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ週週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤邦雄『新・現代会計入門（第 5 版）』日本経済新聞出版社（2022 年）、伊藤邦雄『企業価値評価』日本経済新聞出版社（2021 年）、田村威文他『会計学の手法（第 2 版）』中央経済社（2021 年）、EY 新日本有限責任監査法人編「収益認識の会計入門（第 2 版）」中央経済社（2021 年）などを予定している。

【参考書】

上野清貴『財務会計の基礎（第 5 版）』中央経済社（2018 年）。必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。各学年、通常の発表・貢献点（50 %）、レポート・卒業論文作成（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

4 年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されている O B ・ O G に来てもらって話を聞く機会を年数回設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

年 1、2 回程度の合宿を考えております。何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2 年次から参加する学生を歓迎致します。公認会計士等の会計専門職の職業に将来就こうと頑張っている学生もゼミには多くいます。また将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加も歓迎します。

本演習についての 1・2 年次の関連科目は「簿記入門 I/II」、「会計学入門 I/II」といえますが、企業分析を行う際には「経営戦略論 I/II」の知識も有用である。3 年次以降に開講されている会計科目のすべてが本演習の関連科目といえます。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

【Outline (in English)】

This seminar is to study accounting standards, reporting systems in Japan, and the foundations of corporate analysis. The goal of this seminar is to understand how financial statements are prepared and to acquire the ability to analyze the performance of companies using actual data in consideration of economic movements. Finally, we will be able to get the skills to think various accounting problems. logically. Final grade will be calculated according to the following process: Final Report(50%), and in-class contribution(50 %).

MAN300FA

演習 4

神谷 健司

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計を研究するゼミであり、わが国のディスクロージャー制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にかに活用するかの議論もしたいと思います。

【到達目標】

財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析がある程度できるようになってもらいたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2 コマ 3 時間が正規の演習時間ですが、希望者による延長戦も予定しています。その時間では卒業論文の中間報告をしてもらったり、基本的な英語文献を読みたいと思います。

基本的に 2 年次からゼミに入って、3 年間継続してもらいたいと思います。募集の基本的方針もそれに基づきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業価値評価のフレームワーク	報告に基いてディスカッションを行う
第 2 回	財務諸表から読む企業活動	報告に基いてディスカッションを行う
第 3 回	戦略的ファンダメンタル分析	報告に基いてディスカッションを行う
第 4 回	経営戦略分析	報告に基いてディスカッションを行う
第 5 回	会計戦略分析	報告に基いてディスカッションを行う
第 6 回	ケース・スタディ（1）	報告に基いてディスカッションを行う
第 7 回	企業価値とバリュエーション	報告に基いてディスカッションを行う
第 8 回	会計・財務数値と市場評価	報告に基いてディスカッションを行う
第 9 回	資本コストとリスク評価	報告に基いてディスカッションを行う
第 10 回	ケーススタディ（2）	報告に基いてディスカッションを行う
第 11 回	EVA バリュエーション	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 12 回	企業価値最大化のための M & A 戦略	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 13 回	無形資産の価値評価と戦略的活用	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 14 回	企業の総合的評価	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ週週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤邦雄『企業価値経営』日本経済新聞出版社（2021 年）、田村威文他『会計学的手法（第 2 版）』中央経済社（2021 年）

【参考書】

大津広一『企業価値向上のための経営指大全』ダイヤモンド社（2022 年）

他のものについては必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。各学年、平常点 7 割、論文 3 割で評価。

【学生の意見等からの気づき】

4 年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されている人達に来てもらって話を聞く機会を年 3、4 回設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

年 1、2 回程度の合宿を考えております。何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2 年次から参加する学生を歓迎致します。公認会計士等の会計専門職の職業に将来就こうと頑張っている学生もゼミには多くいます。また将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加も歓迎します。

本演習についての 1・2 年次の関連科目は「簿記入門 I/II」、「会計学入門 I/II」といえますが、企業分析を行う際には「経営戦略論 I/II」の知識も有用です。3 年次以降に開講されている会計科目のすべてが本演習の関連科目といえます。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

【Outline (in English)】

This seminar is to study accounting standards, reporting systems in Japan, and the foundations of corporate analysis. The goal of this seminar is to understand how financial statements are prepared and to acquire the ability to analyze the performance of companies using actual data in consideration of economic movements. Finally, we will be able to get the skills to think various accounting problems logically. Final grade will be calculated according to the following process: Final Report (50%), and in-class contribution (50 %).

MAN400FA

演習 5

神谷 健司

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計を研究するゼミであり、わが国のディスクロージャー制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するかの議論も行いたいと思います。

【到達目標】

財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析ができるようになってもらいたいと思います。卒業時までに各自が課題を見つけ、一定の研究成果として纏められるように指導する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2 コマ 200 分が正規の演習時間ですが、希望者がいれば追加的に論文指導や基本的な英語文献も読みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	財務会計の基礎、財務諸表の仕組み	報告に基いてディスカッションを行う
第 2 回	棚卸資産の会計、有形固定資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 3 回	無形固定資産、繰延資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 4 回	金融資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 5 回	負債の会計、純資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 6 回	収益と費用の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 7 回	税効果会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 8 回	外貨換算会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 9 回	企業結合会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 10 回	連結財務諸表	報告に基いてディスカッションを行う
第 11 回	企業評価の方法	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 12 回	定性的な分析と財務データの関連付け	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 13 回	財務データの見方	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 14 回	財務比率分析	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ週週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤邦雄『新・現代会計入門（第 5 版）』日本経済新聞出版社（2022 年）、伊藤邦雄『企業価値評価』日本経済新聞出版社（2021 年）、田村威文他『会計学の手法（第 2 版）』中央経済社（2021 年）、EY 新日本有限責任監査法人編「収益認識の会計入門（第 2 版）」中央経済社（2021 年）などを予定している。

【参考書】

上野清貴『財務会計の基礎（第 5 版）』中央経済社（2018 年）。必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。各学年、通常の発表・貢献点（50 %）、レポート・卒業論文作成（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

4 年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されている O B ・ O G に来てもらって話を聞く機会を年数回設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

年 1、2 回程度の合宿を考えております。何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2 年次から参加する学生を歓迎致します。公認会計士等の会計専門職の職業に将来就こうと頑張っている学生もゼミには多くいます。また将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加も歓迎します。

本演習についての 1・2 年次の関連科目は「簿記入門 I / II」、「会計学入門 I / II」といえますが、企業分析を行う際には「経営戦略論 I / II」の知識も有用である。3 年次以降に開講されている会計科目のすべてが本演習の関連科目といえます。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

【Outline (in English)】

This seminar is to study accounting standards, reporting systems in Japan, and the foundations of corporate analysis. The goal of this seminar is to understand how financial statements are prepared and to acquire the ability to analyze the performance of companies using actual data in consideration of economic movements. Finally, we will be able to get the skills to think various accounting problems. logically. Final grade will be calculated according to the following process: Final Report (50%), and in-class contribution (50 %).

MAN400FA

演習 6

神谷 健司

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計を研究するゼミであり、わが国のディスクロージャー制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するかの議論もしたいと思います。

【到達目標】

財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析がある程度できるようになってもらいたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2 コマ 3 時間が正規の演習時間ですが、希望者による延長戦も予定しています。その時間では卒業論文の中間報告をしてもらったり、基本的な英語文献を読みたいと思います。

基本的に 2 年次からゼミに入って、3 年間継続してもらいたいと思います。募集の基本的方針もそれに基づきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業価値評価のフレームワーク	報告に基いてディスカッションを行う
第 2 回	財務諸表から読む企業活動	報告に基いてディスカッションを行う
第 3 回	戦略的ファンダメンタル分析	報告に基いてディスカッションを行う
第 4 回	経営戦略分析	報告に基いてディスカッションを行う
第 5 回	会計戦略分析	報告に基いてディスカッションを行う
第 6 回	ケース・スタディ（1）	報告に基いてディスカッションを行う
第 7 回	企業価値とバリュエーション	報告に基いてディスカッションを行う
第 8 回	会計・財務数値と市場評価	報告に基いてディスカッションを行う
第 9 回	資本コストとリスク評価	報告に基いてディスカッションを行う
第 10 回	ケーススタディ（2）	報告に基いてディスカッションを行う
第 11 回	EVA バリュエーション	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 12 回	企業価値最大化のための M & A 戦略	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 13 回	無形資産の価値評価と戦略的活用	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 14 回	企業の総合的評価	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ週週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤邦雄『企業価値経営』日本経済新聞出版社（2021 年）、田村威文他『会計学の手法（第 2 版）』中央経済社（2021 年）

【参考書】

大津広一『企業価値向上のための経営指大全』ダイヤモンド社（2022 年）

他のものについては必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。各学年、平常点 7 割、論文 3 割で評価。

【学生の意見等からの気づき】

4 年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されている人達に来てもらって話を聞く機会を年 3、4 回設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

年 1、2 回程度の合宿を考えております。何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2 年次から参加する学生を歓迎致します。公認会計士等の会計専門職の職業に将来就こうと頑張っている学生もゼミには多くいます。また将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加も歓迎します。

本演習についての 1・2 年次の関連科目は「簿記入門 I/II」、「会計学入門 I/II」といえますが、企業分析を行う際には「経営戦略論 I/II」の知識も有用です。3 年次以降に開講されている会計科目のすべてが本演習の関連科目といえます。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

【Outline (in English)】

This seminar is to study accounting standards, reporting systems in Japan, and the foundations of corporate analysis. The goal of this seminar is to understand how financial statements are prepared and to acquire the ability to analyze the performance of companies using actual data in consideration of economic movements. Finally, we will be able to get the skills to think various accounting problems logically. Final grade will be calculated according to the following process: Final Report (50%), and in-class contribution (50 %).

MAN200FA

演習 1

川島 健司

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計を研究するゼミであり、わが国の会計・財務報告制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するかの議論もしたいと思います。

【到達目標】

財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析ができるようになってもらいたいと思います。卒業時までに各自が課題を見つけ、一定の研究成果として纏められるように指導する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2 コマ 200 分が正規の演習時間ですが、希望者がいれば追加的に論文指導や基本的な英語文献も読みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現代の企業会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 2 回	企業会計の本質とフレームワーク	報告に基いてディスカッションを行う
第 3 回	会計制度の論理と体系	報告に基いてディスカッションを行う
第 4 回	企業のディスクロージャー	報告に基いてディスカッションを行う
第 5 回	損益計算書の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第 6 回	経営パフォーマンスの測定と表示	報告に基いてディスカッションを行う
第 7 回	貸借対照表の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第 8 回	資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 9 回	持分の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 10 回	金融商品の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 11 回	従業員給付の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 12 回	連結グループの会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 13 回	企業結合・事業分離等の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 14 回	グローバル化の会計	報告に基いてディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・伊藤邦雄『新・現代会計入門』第 5 版, 日本経済新聞出版社, 2022 年。
 ・吉田栄介・花王株式会社会計財務部門『花王の経理パーソンになる』中央経済社, 2020 年。
 ・川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021 年。

【参考書】

・佐藤信彦他編『スタンダードテキスト財務会計論〔基本論点編〕〔応用論点編〕(第 13 班)』中央経済社 (2020 年)
 ・田村威文・中條佑介・浅野信博『会計学の手法』第 2 版, 中央経済社, 2021 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。各学年、平常点 7 割、論文 3 割で評価。

【学生の意見等からの気づき】

4 年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されているOB・OGに来てもらって話を聞く機会を年数回設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2 年次から参加する学生も歓迎です。また、将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加も歓迎します。

本演習についての 1・2 年次の関連科目は「簿記入門 I/II」、「会計学入門 I/II」です。3 年次以降に開講されている会計科目とファイナンス関係科目のすべてが本演習の関連科目です。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

【Outline (in English)】

This class is to study accounting standards, reporting systems in Japan, and the foundations of corporate analysis. The goal of the class is to understand how financial statements are prepared and to acquire the ability to analyze the performance of companies using actual data in consideration of economic movements. Finally, we will be able to get the skills to think various accounting problems logically. Students will clarify the problem awareness of the author of the academic thesis (or the issues the student wishes to address in his or her thesis). By reading and understanding relevant academic papers, students will acquire basic academic results and research methodologies related to the theme. Therefore, the goal is to complete a thesis that is academically appropriate as a thesis. The academic thesis will be based on each student's awareness of the problem (or the issues the student wishes to address).

Grading Criteria / Policy: Students will be graded based on the following criteria: 20% is based on the general participation, 30% on contribution to the discussion in the seminar, and 50% on the content of the report made in the class.

MAN200FA

演習 2

川島 健司

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計を研究するゼミであり、わが国の会計・財務報告制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するかの議論もしたいと思います。

【到達目標】

財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析ができるようになってもらいたいと思います。卒業時までに各自が課題を見つけ、一定の研究成果として纏められるように指導する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2 コマ 200 分が正規の演習時間ですが、希望者がいれば追加的に論文指導や基本的な英語文献も読みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現代の企業会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 2 回	企業会計の本質とフレームワーク	報告に基いてディスカッションを行う
第 3 回	会計制度の論理と体系	報告に基いてディスカッションを行う
第 4 回	企業のディスクロージャー	報告に基いてディスカッションを行う
第 5 回	損益計算書の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第 6 回	経営パフォーマンスの測定と表示	報告に基いてディスカッションを行う
第 7 回	貸借対照表の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第 8 回	資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 9 回	持分の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 10 回	金融商品の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 11 回	従業員給付の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 12 回	連結グループの会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 13 回	企業結合・事業分離等の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 14 回	グローバル化の会計	報告に基いてディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・伊藤邦雄『新・現代会計入門』第 5 版, 日本経済新聞出版社, 2022 年。
 ・吉田栄介・花王株式会社会計財務部門『花王の経理パーソンになる』中央経済社, 2020 年。
 ・川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021 年。

【参考書】

・佐藤信彦他編『スタンダードテキスト財務会計論〔基本論点編〕〔応用論点編〕(第 13 班)』中央経済社 (2020 年)
 ・田村威文・中條佑介・浅野信博『会計学の手法』第 2 版, 中央経済社, 2021 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。各学年、平常点 7 割、論文 3 割で評価。

【学生の意見等からの気づき】

4 年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されているOB・OGに来てもらって話を聞く機会を年数回設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2 年次から参加する学生も歓迎です。また、将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加も歓迎します。

本演習についての 1・2 年次の関連科目は「簿記入門 I/II」、「会計学入門 I/II」です。3 年次以降に開講されている会計科目とファイナンス関係科目のすべてが本演習の関連科目です。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

【Outline (in English)】

This class is to study accounting standards, reporting systems in Japan, and the foundations of corporate analysis. The goal of the class is to understand how financial statements are prepared and to acquire the ability to analyze the performance of companies using actual data in consideration of economic movements. Finally, we will be able to get the skills to think various accounting problems logically. Students will clarify the problem awareness of the author of the academic thesis (or the issues the student wishes to address in his or her thesis). By reading and understanding relevant academic papers, students will acquire basic academic results and research methodologies related to the theme. Therefore, the goal is to complete a thesis that is academically appropriate as a thesis. The academic thesis will be based on each student's awareness of the problem (or the issues the student wishes to address).

Grading Criteria / Policy: Students will be graded based on the following criteria: 20% is based on the general participation, 30% on contribution to the discussion in the seminar, and 50% on the content of the report made in the class.

MAN300FA

演習 3

川島 健司

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計を研究するゼミであり、わが国の会計・財務報告制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するかの議論もしたいと思います。

【到達目標】

財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析がある程度できるようになってもらいたいと思います。卒業時までに各自が課題を見つけ、一定の研究成果として纏められるように指導する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2 コマ 200 分が正規の演習時間ですが、希望者がいれば追加的に論文指導や基本的な英語文献も読みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現代の企業会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 2 回	企業会計の本質とフレームワーク	報告に基いてディスカッションを行う
第 3 回	会計制度の論理と体系	報告に基いてディスカッションを行う
第 4 回	企業のディスクロージャー	報告に基いてディスカッションを行う
第 5 回	損益計算書の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第 6 回	経営パフォーマンスの測定と表示	報告に基いてディスカッションを行う
第 7 回	貸借対照表の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第 8 回	資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 9 回	持分の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 10 回	金融商品の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 11 回	従業員給付の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 12 回	連結グループの会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 13 回	企業結合・事業分離等の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 14 回	グローバル化の会計	報告に基いてディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・伊藤邦雄『新・現代会計入門』第 5 版, 日本経済新聞出版社, 2022 年。
 ・吉田栄介・花王株式会社会計財務部門『花王の経理パーソンになる』中央経済社, 2020 年。
 ・川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021 年。

【参考書】

・佐藤信彦他編『スタンダードテキスト財務会計論〔基本論点編〕〔応用論点編〕(第 13 班)』中央経済社 (2020 年)
 ・田村威文・中條佑介・浅野信博『会計学の手法』第 2 版, 中央経済社, 2021 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。各学年、平常点 7 割、論文 3 割で評価。

【学生の意見等からの気づき】

4 年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されているOB・OGに来てもらって話を聞く機会を年数回設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2 年次から参加する学生も歓迎です。また、将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加も歓迎します。

本演習についての 1・2 年次の関連科目は「簿記入門 I/II」、「会計学入門 I/II」です。3 年次以降に開講されている会計科目とファイナンス関係科目のすべてが本演習の関連科目です。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

【Outline (in English)】

This class is to study accounting standards, reporting systems in Japan, and the foundations of corporate analysis. The goal of the class is to understand how financial statements are prepared and to acquire the ability to analyze the performance of companies using actual data in consideration of economic movements. Finally, we will be able to get the skills to think various accounting problems logically. Students will clarify the problem awareness of the author of the academic thesis (or the issues the student wishes to address in his or her thesis). By reading and understanding relevant academic papers, students will acquire basic academic results and research methodologies related to the theme. Therefore, the goal is to complete a thesis that is academically appropriate as a thesis. The academic thesis will be based on each student's awareness of the problem (or the issues the student wishes to address).

Grading Criteria / Policy: Students will be graded based on the following criteria: 20% is based on the general participation, 30% on contribution to the discussion in the seminar, and 50% on the content of the report made in the class.

MAN300FA

演習 4

川島 健司

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計を研究するゼミであり、わが国の会計・財務報告制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するかの議論もしたいと思います。

【到達目標】

財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析ができるようになってもらいたいと思います。卒業時までに各自が課題を見つけ、一定の研究成果として纏められるように指導する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2 コマ 200 分が正規の演習時間ですが、希望者がいれば追加的に論文指導や基本的な英語文献も読みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現代の企業会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 2 回	企業会計の本質とフレームワーク	報告に基いてディスカッションを行う
第 3 回	会計制度の論理と体系	報告に基いてディスカッションを行う
第 4 回	企業のディスクロージャー	報告に基いてディスカッションを行う
第 5 回	損益計算書の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第 6 回	経営パフォーマンスの測定と表示	報告に基いてディスカッションを行う
第 7 回	貸借対照表の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第 8 回	資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 9 回	持分の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 10 回	金融商品の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 11 回	従業員給付の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 12 回	連結グループの会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 13 回	企業結合・事業分離等の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 14 回	グローバル化の会計	報告に基いてディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・伊藤邦雄『新・現代会計入門』第 5 版, 日本経済新聞出版社, 2022 年。
 ・吉田栄介・花王株式会社会計財務部門『花王の経理パーソンになる』中央経済社, 2020 年。
 ・川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021 年。

【参考書】

・佐藤信彦他編『スタンダードテキスト財務会計論〔基本論点編〕〔応用論点編〕(第 13 班)』中央経済社 (2020 年)
 ・田村威文・中條佑介・浅野信博『会計学の手法』第 2 版, 中央経済社, 2021 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。各学年、平常点 7 割、論文 3 割で評価。

【学生の意見等からの気づき】

4 年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されているOB・OGに来てもらって話を聞く機会を年数回設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2 年次から参加する学生も歓迎です。また、将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加も歓迎します。

本演習についての 1・2 年次の関連科目は「簿記入門 I/II」、「会計学入門 I/II」です。3 年次以降に開講されている会計科目とファイナンス関係科目のすべてが本演習の関連科目です。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

【Outline (in English)】

This class is to study accounting standards, reporting systems in Japan, and the foundations of corporate analysis. The goal of the class is to understand how financial statements are prepared and to acquire the ability to analyze the performance of companies using actual data in consideration of economic movements. Finally, we will be able to get the skills to think various accounting problems logically. Students will clarify the problem awareness of the author of the academic thesis (or the issues the student wishes to address in his or her thesis). By reading and understanding relevant academic papers, students will acquire basic academic results and research methodologies related to the theme. Therefore, the goal is to complete a thesis that is academically appropriate as a thesis. The academic thesis will be based on each student's awareness of the problem (or the issues the student wishes to address).

Grading Criteria / Policy: Students will be graded based on the following criteria: 20% is based on the general participation, 30% on contribution to the discussion in the seminar, and 50% on the content of the report made in the class.

MAN400FA

演習 5

川島 健司

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計を研究するゼミであり、わが国の会計・財務報告制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するかの議論もしたいと思います。

【到達目標】

財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析がある程度できるようになってもらいたいと思います。卒業時までに各自が課題を見つけ、一定の研究成果として纏められるように指導する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2 コマ 200 分が正規の演習時間ですが、希望者がいれば追加的に論文指導や基本的な英語文献も読みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現代の企業会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 2 回	企業会計の本質とフレームワーク	報告に基いてディスカッションを行う
第 3 回	会計制度の論理と体系	報告に基いてディスカッションを行う
第 4 回	企業のディスクロージャー	報告に基いてディスカッションを行う
第 5 回	損益計算書の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第 6 回	経営パフォーマンスの測定と表示	報告に基いてディスカッションを行う
第 7 回	貸借対照表の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第 8 回	資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 9 回	持分の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 10 回	金融商品の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 11 回	従業員給付の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 12 回	連結グループの会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 13 回	企業結合・事業分離等の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 14 回	グローバル化の会計	報告に基いてディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・伊藤邦雄『新・現代会計入門』第 5 版, 日本経済新聞出版社, 2022 年。
 ・吉田栄介・花王株式会社会計財務部門『花王の経理パーソンになる』中央経済社, 2020 年。
 ・川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021 年。

【参考書】

・佐藤信彦他編『スタンダードテキスト財務会計論〔基本論点編〕〔応用論点編〕(第 13 班)』中央経済社 (2020 年)
 ・田村威文・中條佑介・浅野信博『会計学の手法』第 2 版, 中央経済社, 2021 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。各学年、平常点 7 割、論文 3 割で評価。

【学生の意見等からの気づき】

4 年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されているOB・OGに来てもらって話を聞く機会を年数回設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2 年次から参加する学生も歓迎です。また、将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加も歓迎します。

本演習についての 1・2 年次の関連科目は「簿記入門 I/II」、「会計学入門 I/II」です。3 年次以降に開講されている会計科目とファイナンス関係科目のすべてが本演習の関連科目です。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

【Outline (in English)】

This class is to study accounting standards, reporting systems in Japan, and the foundations of corporate analysis. The goal of the class is to understand how financial statements are prepared and to acquire the ability to analyze the performance of companies using actual data in consideration of economic movements. Finally, we will be able to get the skills to think various accounting problems logically. Students will clarify the problem awareness of the author of the academic thesis (or the issues the student wishes to address in his or her thesis). By reading and understanding relevant academic papers, students will acquire basic academic results and research methodologies related to the theme. Therefore, the goal is to complete a thesis that is academically appropriate as a thesis. The academic thesis will be based on each student's awareness of the problem (or the issues the student wishes to address).

Grading Criteria / Policy: Students will be graded based on the following criteria: 20% is based on the general participation, 30% on contribution to the discussion in the seminar, and 50% on the content of the report made in the class.

MAN400FA

演習 6

川島 健司

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計を研究するゼミであり、わが国の会計・財務報告制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するかの議論もしたいと思います。

【到達目標】

財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析がある程度できるようになってもらいたいと思います。卒業時までに各自が課題を見つけ、一定の研究成果として纏められるように指導する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2 コマ 200 分が正規の演習時間ですが、希望者がいれば追加的に論文指導や基本的な英語文献も読みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現代の企業会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 2 回	企業会計の本質とフレームワーク	報告に基いてディスカッションを行う
第 3 回	会計制度の論理と体系	報告に基いてディスカッションを行う
第 4 回	企業のディスクロージャー	報告に基いてディスカッションを行う
第 5 回	損益計算書の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第 6 回	経営パフォーマンスの測定と表示	報告に基いてディスカッションを行う
第 7 回	貸借対照表の作成と開示	報告に基いてディスカッションを行う
第 8 回	資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 9 回	持分の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 10 回	金融商品の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 11 回	従業員給付の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 12 回	連結グループの会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 13 回	企業結合・事業分離等の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 14 回	グローバル化の会計	報告に基いてディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・伊藤邦雄『新・現代会計入門』第 5 版, 日本経済新聞出版社, 2022 年。
 ・吉田栄介・花王株式会社会計財務部門『花王の経理パーソンになる』中央経済社, 2020 年。
 ・川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021 年。

【参考書】

・佐藤信彦他編『スタンダードテキスト財務会計論〔基本論点編〕〔応用論点編〕(第 13 班)』中央経済社 (2020 年)
 ・田村威文・中條佑介・浅野信博『会計学の手法』第 2 版, 中央経済社, 2021 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。各学年、平常点 7 割、論文 3 割で評価。

【学生の意見等からの気づき】

4 年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されているOB・OGに来てもらって話を聞く機会を年数回設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2 年次から参加する学生も歓迎です。また、将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加も歓迎します。

本演習についての 1・2 年次の関連科目は「簿記入門 I / II」、「会計学入門 I / II」です。3 年次以降に開講されている会計科目とファイナンス関係科目のすべてが本演習の関連科目です。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

【Outline (in English)】

This class is to study accounting standards, reporting systems in Japan, and the foundations of corporate analysis. The goal of the class is to understand how financial statements are prepared and to acquire the ability to analyze the performance of companies using actual data in consideration of economic movements. Finally, we will be able to get the skills to think various accounting problems logically. Students will clarify the problem awareness of the author of the academic thesis (or the issues the student wishes to address in his or her thesis). By reading and understanding relevant academic papers, students will acquire basic academic results and research methodologies related to the theme. Therefore, the goal is to complete a thesis that is academically appropriate as a thesis. The academic thesis will be based on each student's awareness of the problem (or the issues the student wishes to address).

Grading Criteria / Policy: Students will be graded based on the following criteria: 20% is based on the general participation, 30% on contribution to the discussion in the seminar, and 50% on the content of the report made in the class.

MAN200FA

演習 1

河内谷 幸子

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はゼミ形式で、情報化社会の諸現象や IT ビジネスの動向について調査して学ぶ。広い知識を習得し、問題点を整理し、考える姿勢を身につける。また、論文のまとめ方や発表の方法を学ぶ。

【到達目標】

IT ビジネスや IT 時事問題や情報化社会の諸問題について調査して情報を取捨選択できるようになり、自分なりの意見を持ち、その内容を効果的に発信できるようにする。ディスカッション能力や発表力を上げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

基本的には対面授業ですが、数回 Zoom オンライン授業の日があります。学習支援システム Hoppii に登録し、毎週ゼミの前日には必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。初回授業は Zoom オンライン授業なので、前日に学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を見て下さい。

授業では、講義・ディスカッション・文献の輪読・文献検索を中心とした調査、などを行います。時間があいた日は Excel を演習します。学期に 1 回、個人発表会で各自の研究テーマの調査結果を発表します。

レポートや発表のフィードバックは学習支援システム Hoppii に掲示します。下記に授業計画を示しましたが、時事問題を扱うため、新しい時事問題がテーマになったり、順番が前後するなどで計画通りに進まないことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	調査と発表の方法	文献検索をはじめとする調査方法、レジュメ作成方法、発表方法などの基礎を学ぶ。
第 2 回	生体認証	生体認証について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 3 回	IoT	IoT(モノのインターネット)について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 4 回	AI	AI(人工知能)について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 5 回	Fintech	クラウドファンディング、金融と IT について、文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 6 回	半導体	半導体の需要供給などについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 7 回	自動運転	車の自動運転について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 8 回	巨大 IT 企業	巨大 IT 企業の競争力や課題について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 9 回	スマート農業	農業と IT について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 10 回	AR(拡張現実)、VR(仮想現実)、MR(複合現実)、メタバース	AR、VR、MR、メタバースについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 11 回	ウェアラブルコンピュータ	ウェアラブルコンピュータについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 12 回	暗号資産（仮想通貨）	暗号資産（仮想通貨）について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 13 回	個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。
第 14 回	個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事ニュースのチェック、個人発表の準備を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用います。

【参考書】

味岡美豊子『社会人・学生のための情報検索入門』ひつじ書房、2009 年。
土橋臣吾・南田勝也・辻泉『デジタルメディアの社会学』北樹出版、2013 年。
金井明人・土橋臣吾・津田正太郎『メディア環境の物語と公共圏』法政大学出版会、2013 年。

苗村憲司・小宮山宏之『現代社会と著作権法 デジタルネットワーク社会の知的財産権』慶応義塾大学出版会、2005 年。

藤垣裕子編『科学技術社会論の技法（第 3 版）』東京大学出版会、2013 年。
濱岡豊・里村卓也『消費者間の相互作用についての基礎研究 クチコミ、e クチコミを中心に』慶応義塾大学出版会、2009 年。

坂村健『ユビキタス・コンピュータ革命』角川、2004 年。

ドナルド A. ノーマン（野島久雄訳）『誰のためのデザイン？ 認知科学者のデザイン原論』新曜社、1990 年。

EY アドバイザリー『世界トップ企業の A I 戦略』日経 BP 社、2016 年。

※この他にも授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物および個人発表の内容で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションに力を入れます。

【学生が準備すべき機器他】

Word、Excel、PowerPoint、Zoom が使えるパソコンを自宅で準備します。対面授業ではパソコン教室で 1 人 1 台パソコンを使用します。

【その他の重要事項】

関連科目：情報処理演習 I / II

入ゼミ直前には IT の知識が少なくてもパソコン操作が不得意でも問題ありません。

4 年生は 9 月以後に卒業論文を作成し、1 2 月に中間発表を行い、1 月に提出します。卒業論文集を電子的に配布します。

希望者には IT 関連の資格試験・検定試験の学習計画を指導します。

【Outline (in English)】

This is a seminar-style course to study various phenomena of information society and trends of IT business through investigation.

You will acquire broad knowledge, and the attitude to manage issues and think proactively. You will also learn skills for writing papers and presenting them.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

MAN200FA

演習 2

河内谷 幸子

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はゼミ形式で、情報化社会の諸現象や IT ビジネスの動向について調査して学ぶ。広い知識を習得し、問題点を整理し、考える姿勢を身につける。また、論文のまとめ方や発表の方法を学ぶ。

【到達目標】

IT ビジネスや IT 時事問題や情報化社会の諸問題について調査して情報を取捨選択できるようになり、自分なりの意見を持ち、その内容を効果的に発信できるようにする。ディスカッション能力や発表力を上げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習 1 と同じ形式です。基本的には対面授業ですが、数回 Zoom オンライン授業の日があります。学習支援システムに登録し、毎週ゼミの前日には必ず学習支援システムの「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。初回授業は Zoom オンライン授業なので、前日に学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を見て下さい。

授業では、講義・ディスカッション・文献の輪読・文献検索を中心とした調査、などを行います。時間があいた日は Excel を演習します。学期に 1 回、個人発表会で各自の研究テーマの調査結果を発表します。

レポートや発表のフィードバックは学習支援システムに掲示します。下記に授業計画を示しましたが、時事問題を扱うため、新しい時事問題が授業内容になったり、順番が前後するなど、計画通りに進まないことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期ガイダンス	調査・発表の方法について確認する。
第 2 回	レアメタル・半導体	情報端末の原料となるレアメタルの現状とリサイクルなどについて、および半導体について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 3 回	位置情報	人工衛星による測位のしくみ、地図情報システム、GPS を使った行動ターゲティング、位置情報を利用したソーシャルゲーム、プライバシー問題、について文献輪読や文献検索により調べて学び、議論する。
第 4 回	セキュリティー IT と法	セキュリティー、暗号などについて、および著作権法をはじめとする IT 関連の法律や倫理について、文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 5 回	Web マーケティング	Web マーケティングについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 6 回	音声	音声認識、声の合成、それらを利用したシステムについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 7 回	ネット広告	ネット広告に関連する諸問題について、文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 8 回	コンピュータ犯罪	コンピュータウイルス、フィッシング詐欺、サイバー攻撃などのコンピュータ犯罪について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 9 回	IT と他分野の融合	医療と IT、政治と IT、教育と IT など IT を利用した新しい技術とビジネスについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 10 回	IT とデザイン	3D プリンタ、デジタルアート、ユーザインタフェース（使いやすさ）、ユビキタスコンピュータ（いつでもどこでも利用可）、ユニバーサルデザイン（文化や年齢性別などの個人差に関係なく利用できる設計）について調べて学び議論する。
第 11 回	4 年生の個人発表	情報化社会の諸現象に関する卒業論文の発表を行う。
第 12 回	4 年生の個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。

第 13 回 3 年生の個人発表

情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。
情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。

第 14 回 3 年生の個人発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事ニュースのチェック、個人発表の準備を行います本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用います。

【参考書】

味岡美豊子『社会人・学生のための情報検索入門』ひつじ書房、2009 年。
土橋臣吾・南田勝也・辻泉『デジタルメディアの社会学』北樹出版、2013 年。
金井明人・土橋臣吾・津田正太郎『メディア環境の物語と公共圏』法政大学出版会、2013 年。
苗村憲司・小宮山宏之『現代社会と著作権法 デジタルネットワーク社会の知的財産権』慶応義塾大学出版会、2005 年。
藤垣裕子編『科学技術社会論の技法（第 3 版）』東京大学出版会、2013 年。
濱岡豊・里村卓也『消費者間の相互作用についての基礎研究 クチコミ、e クチコミを中心に』慶応義塾大学出版会、2009 年。
坂村健『ユビキタス・コンピュータ革命』角川、2004 年。
ドナルド・A. ノーマン（野島久雄訳）『誰のためのデザイン？ 認知科学者のデザイン原論』新曜社、1990 年。
EY アドバイザリー『世界トップ企業の AI 戦略』日経 BP 社、2016 年。
※この他にも授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物および個人発表の内容で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションに力を入れます。

【学生が準備すべき機器他】

Word、Excel、PowerPoint、Zoom が使えるパソコンを自宅で準備します。対面授業ではパソコン教室で 1 人 1 台パソコンを使用します。

【その他の重要事項】

関連科目：情報処理演習 I / II
入ゼミ直前には IT の知識が少なくてもパソコン操作が不得意でも問題ありません。
4 年生は 9 月以後に卒業論文を作成し、12 月に中間発表を行い、1 月に提出する。卒業論文集を電子的に配布します。
希望者には IT 関連の資格試験・検定試験の学習計画を指導します。

【Outline (in English)】

This is a seminar-style course to study various phenomena of information society and trends of IT business through investigation. You will acquire broad knowledge, and the attitude to manage issues and think proactively. You will also learn skills for writing papers and presenting them.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

MAN300FA

演習 3

河内谷 幸子

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はゼミ形式で、情報化社会の諸現象や IT ビジネスの動向について調査して学ぶ。広い知識を習得し、問題点を整理し、考える姿勢を身につける。また、論文のまとめ方や発表の方法を学ぶ。

【到達目標】

IT ビジネスや IT 時事問題や情報化社会の諸問題について調査して情報を取捨選択できるようになり、自分なりの意見を持ち、その内容を効果的に発信できるようにする。ディスカッション能力や発表力を上げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

基本的には対面授業ですが、数回 Zoom オンライン授業の日があります。学習支援システム Hoppii に登録し、毎週ゼミの前日には必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。初回授業は Zoom オンライン授業なので、前日に学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を見て下さい。

授業では、講義・ディスカッション・文献の輪読・文献検索を中心とした調査、などを行います。時間があいた日は Excel を演習します。学期に 1 回、個人発表会で各自の研究テーマの調査結果を発表します。

レポートや発表のフィードバックは学習支援システム Hoppii に掲示します。下記に授業計画を示しましたが、時事問題を扱うため、新しい時事問題がテーマになったり、順番が前後するなどで計画通りに進まないことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	調査と発表の方法	文献検索をはじめとする調査方法、レジュメ作成方法、発表方法などの基礎を学ぶ。
第 2 回	生体認証	生体認証について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 3 回	IoT	IoT(モノのインターネット)について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 4 回	AI	AI(人工知能)について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 5 回	Fintech	クラウドファンディング、金融と IT について、文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 6 回	半導体	半導体の需要供給などについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 7 回	自動運転	車の自動運転について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 8 回	巨大 IT 企業	巨大 IT 企業の競争力や課題について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 9 回	スマート農業	農業と IT について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 10 回	AR(拡張現実)、VR(仮想現実)、MR(複合現実)、メタバース	AR、VR、MR、メタバースについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 11 回	ウェアラブルコンピュータ	ウェアラブルコンピュータについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 12 回	暗号資産（仮想通貨）	暗号資産（仮想通貨）について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 13 回	個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。
第 14 回	個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事ニュースのチェック、個人発表の準備を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用います。

【参考書】

味岡美豊子『社会人・学生のための情報検索入門』ひつじ書房、2009 年。
土橋臣吾・南田勝也・辻泉『デジタルメディアの社会学』北樹出版、2013 年。
金井明人・土橋臣吾・津田正太郎『メディア環境の物語と公共圏』法政大学出版会、2013 年。

苗村憲司・小宮山宏之『現代社会と著作権法 デジタルネットワーク社会の知的財産権』慶応義塾大学出版会、2005 年。

藤垣裕子編『科学技術社会論の技法（第 3 版）』東京大学出版会、2013 年。
濱岡豊・里村卓也『消費者間の相互作用についての基礎研究 クチコミ、e クチコミを中心に』慶応義塾大学出版会、2009 年。

坂村健『ユビキタス・コンピュータ革命』角川、2004 年。

ドナルド A. ノーマン（野島久雄訳）『誰のためのデザイン？ 認知科学者のデザイン原論』新曜社、1990 年。

EY アドバイザリー『世界トップ企業の A I 戦略』日経 BP 社、2016 年。

※この他にも授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物および個人発表の内容で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションに力を入れます。

【学生が準備すべき機器他】

Word、Excel、PowerPoint、Zoom が使えるパソコンを自宅で準備します。対面授業ではパソコン教室で 1 人 1 台パソコンを使用します。

【その他の重要事項】

関連科目：情報処理演習 I / II

入ゼミ直前には IT の知識が少なくてもパソコン操作が不得意でも問題ありません。

4 年生は 9 月以後に卒業論文を作成し、1 2 月に中間発表を行い、1 月に提出します。卒業論文集を電子的に配布します。

希望者には IT 関連の資格試験・検定試験の学習計画を指導します。

【Outline (in English)】

This is a seminar-style course to study various phenomena of information society and trends of IT business through investigation.

You will acquire broad knowledge, and the attitude to manage issues and think proactively. You will also learn skills for writing papers and presenting them.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

MAN300FA

演習 4

河内谷 幸子

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はゼミ形式で、情報化社会の諸現象や IT ビジネスの動向について調査して学ぶ。広い知識を習得し、問題点を整理し、考える姿勢を身につける。また、論文のまとめ方や発表の方法を学ぶ。

【到達目標】

IT ビジネスや IT 時事問題や情報化社会の諸問題について調査して情報を取捨選択できるようになり、自分なりの意見を持ち、その内容を効果的に発信できるようにする。ディスカッション能力や発表力を上げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習 1 と同じ形式です。基本的には対面授業ですが、数回 Zoom オンライン授業の日があります。学習支援システムに登録し、毎週ゼミの前日には必ず学習支援システムの「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。初回授業は Zoom オンライン授業なので、前日に学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を見て下さい。

授業では、講義・ディスカッション・文献の輪読・文献検索を中心とした調査、などを行います。時間があいた日は Excel を演習します。学期に 1 回、個人発表会で各自の研究テーマの調査結果を発表します。

レポートや発表のフィードバックは学習支援システムに掲示します。下記に授業計画を示しましたが、時事問題を扱うため、新しい時事問題が授業内容になったり、順番が前後するなど、計画通りに進まないことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期ガイダンス	調査・発表の方法について確認する。
第 2 回	レアメタル・半導体	情報端末の原料となるレアメタルの現状とリサイクルなどについて、および半導体について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 3 回	位置情報	人工衛星による測位のしくみ、地図情報システム、GPS を使った行動ターゲティング、位置情報を利用したソーシャルゲーム、プライバシー問題、について文献輪読や文献検索により調べて学び、議論する。
第 4 回	セキュリティー IT と法	セキュリティー、暗号などについて、および著作権法をはじめとする IT 関連の法律や倫理について、文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 5 回	Web マーケティング	Web マーケティングについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 6 回	音声	音声認識、声の合成、それらを利用したシステムについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 7 回	ネット広告	ネット広告に関連する諸問題について、文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 8 回	コンピュータ犯罪	コンピュータウイルス、フィッシング詐欺、サイバー攻撃などのコンピュータ犯罪について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 9 回	IT と他分野の融合	医療と IT、政治と IT、教育と IT など IT を利用した新しい技術とビジネスについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 10 回	IT とデザイン	3D プリンタ、デジタルアート、ユーザインタフェース（使いやすさ）、ユビキタスコンピュータ（いつでもどこでも利用可）、ユニバーサルデザイン（文化や年齢性別などの個人差に関係なく利用できる設計）について調べて学び議論する。
第 11 回	4 年生の個人発表	情報化社会の諸現象に関する卒業論文の発表を行う。
第 12 回	4 年生の個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。

第 13 回 3 年生の個人発表

情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。
情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。

第 14 回 3 年生の個人発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事ニュースのチェック、個人発表の準備を行います本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用います。

【参考書】

味岡美豊子『社会人・学生のための情報検索入門』ひつじ書房、2009 年。
土橋臣吾・南田勝也・辻泉『デジタルメディアの社会学』北樹出版、2013 年。
金井明人・土橋臣吾・津田正太郎『メディア環境の物語と公共圏』法政大学出版会、2013 年。
苗村憲司・小宮山宏之『現代社会と著作権法 デジタルネットワーク社会の知的財産権』慶応義塾大学出版会、2005 年。
藤垣裕子編『科学技術社会論の技法（第 3 版）』東京大学出版会、2013 年。
濱岡豊・里村卓也『消費者間の相互作用についての基礎研究 クチコミ、e クチコミを中心に』慶応義塾大学出版会、2009 年。
坂村健『ユビキタス・コンピュータ革命』角川、2004 年。
ドナルド・A. ノーマン（野島久雄訳）『誰のためのデザイン？ 認知科学者のデザイン原論』新曜社、1990 年。
EY アドバイザリー『世界トップ企業の AI 戦略』日経 BP 社、2016 年。
※この他にも授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物および個人発表の内容で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションに力を入れます。

【学生が準備すべき機器他】

Word、Excel、PowerPoint、Zoom が使えるパソコンを自宅で準備します。対面授業ではパソコン教室で 1 人 1 台パソコンを使用します。

【その他の重要事項】

関連科目：情報処理演習 I / II

入ゼミ直前には IT の知識が少なくてもパソコン操作が不得意でも問題ありません。

4 年生は 9 月以後に卒業論文を作成し、12 月に中間発表を行い、1 月に提出する。卒業論文集を電子的に配布します。

希望者には IT 関連の資格試験・検定試験の学習計画を指導します。

【Outline (in English)】

This is a seminar-style course to study various phenomena of information society and trends of IT business through investigation. You will acquire broad knowledge, and the attitude to manage issues and think proactively. You will also learn skills for writing papers and presenting them.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

MAN400FA

演習 5

河内谷 幸子

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はゼミ形式で、情報化社会の諸現象や IT ビジネスの動向について調査して学ぶ。広い知識を習得し、問題点を整理し、考える姿勢を身につける。また、論文のまとめ方や発表の方法を学ぶ。

【到達目標】

IT ビジネスや IT 時事問題や情報化社会の諸問題について調査して情報を取捨選択できるようになり、自分なりの意見を持ち、その内容を効果的に発信できるようにする。ディスカッション能力や発表力を上げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

基本的には対面授業ですが、数回 Zoom オンライン授業の日があります。学習支援システム Hoppii に登録し、毎週ゼミの前日には必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。初回授業は Zoom オンライン授業なので、前日に学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を見て下さい。

授業では、講義・ディスカッション・文献の輪読・文献検索を中心とした調査、などを行います。時間があいた日は Excel を演習します。学期に 1 回、個人発表会で各自の研究テーマの調査結果を発表します。

レポートや発表のフィードバックは学習支援システム Hoppii に掲示します。下記に授業計画を示しましたが、時事問題を扱うため、新しい時事問題がテーマになったり、順番が前後するなどで計画通りに進まないことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	調査と発表の方法	文献検索をはじめとする調査方法、レジュメ作成方法、発表方法などの基礎を学ぶ。
第 2 回	生体認証	生体認証について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 3 回	IoT	IoT(モノのインターネット)について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 4 回	AI	AI(人工知能)について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 5 回	Fintech	クラウドファンディング、金融と IT について、文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 6 回	半導体	半導体の需要供給などについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 7 回	自動運転	車の自動運転について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 8 回	巨大 IT 企業	巨大 IT 企業の競争力や課題について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 9 回	スマート農業	農業と IT について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 10 回	AR(拡張現実)、VR(仮想現実)、MR(複合現実)、メタバース	AR、VR、MR、メタバースについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 11 回	ウェアラブルコンピュータ	ウェアラブルコンピュータについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 12 回	暗号資産（仮想通貨）	暗号資産（仮想通貨）について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 13 回	個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。
第 14 回	個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事ニュースのチェック、個人発表の準備を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用います。

【参考書】

味岡美豊子『社会人・学生のための情報検索入門』ひつじ書房、2009 年。
土橋臣吾・南田勝也・辻泉『デジタルメディアの社会学』北樹出版、2013 年。
金井明人・土橋臣吾・津田正太郎『メディア環境の物語と公共圏』法政大学出版会、2013 年。

苗村憲司・小宮山宏之『現代社会と著作権法 デジタルネットワーク社会の知的財産権』慶応義塾大学出版会、2005 年。

藤垣裕子編『科学技術社会論の技法（第 3 版）』東京大学出版会、2013 年。
濱岡豊・里村卓也『消費者間の相互作用についての基礎研究 クチコミ、e クチコミを中心に』慶応義塾大学出版会、2009 年。

坂村健『ユビキタス・コンピュータ革命』角川、2004 年。

ドナルド A. ノーマン（野島久雄訳）『誰のためのデザイン？ 認知科学者のデザイン原論』新曜社、1990 年。

EY アドバイザリー『世界トップ企業の A I 戦略』日経 BP 社、2016 年。

※この他にも授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物および個人発表の内容で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションに力を入れます。

【学生が準備すべき機器他】

Word、Excel、PowerPoint、Zoom が使えるパソコンを自宅で準備します。対面授業ではパソコン教室で 1 人 1 台パソコンを使用します。

【その他の重要事項】

関連科目：情報処理演習 I / II

入ゼミ直前には IT の知識が少なくてもパソコン操作が不得意でも問題ありません。

4 年生は 9 月以後に卒業論文を作成し、1 2 月に中間発表を行い、1 月に提出します。卒業論文集を電子的に配布します。

希望者には IT 関連の資格試験・検定試験の学習計画を指導します。

【Outline (in English)】

This is a seminar-style course to study various phenomena of information society and trends of IT business through investigation.

You will acquire broad knowledge, and the attitude to manage issues and think proactively. You will also learn skills for writing papers and presenting them.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

MAN400FA

演習 6

河内谷 幸子

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はゼミ形式で、情報化社会の諸現象や IT ビジネスの動向について調査して学ぶ。広い知識を習得し、問題点を整理し、考える姿勢を身につける。また、論文のまとめ方や発表の方法を学ぶ。

【到達目標】

IT ビジネスや IT 時事問題や情報化社会の諸問題について調査して情報を取捨選択できるようになり、自分なりの意見を持ち、その内容を効果的に発信できるようにする。ディスカッション能力や発表力を上げることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習 1 と同じ形式です。基本的には対面授業ですが、数回 Zoom オンライン授業の日があります。学習支援システムに登録し、毎週ゼミの前日には必ず学習支援システムの「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。初回授業は Zoom オンライン授業なので、前日に学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を見て下さい。

授業では、講義・ディスカッション・文献の輪読・文献検索を中心とした調査、などを行います。時間があいた日は Excel を演習します。学期に 1 回、個人発表会で各自の研究テーマの調査結果を発表します。

レポートや発表のフィードバックは学習支援システムに掲示します。下記に授業計画を示しましたが、時事問題を扱うため、新しい時事問題が授業内容になったり、順番が前後するなど、計画通りに進まないことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期ガイダンス	調査・発表の方法について確認する。
第 2 回	レアメタル・半導体	情報端末の原料となるレアメタルの現状とリサイクルなどについて、および半導体について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 3 回	位置情報	人工衛星による測位のしくみ、地図情報システム、GPS を使った行動ターゲットティング、位置情報を利用したソーシャルゲーム、プライバシー問題、について文献輪読や文献検索により調べて学び、議論する。
第 4 回	セキュリティー IT と法	セキュリティー、暗号などについて、および著作権法をはじめとする IT 関連の法律や倫理について、文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 5 回	Web マーケティング	Web マーケティングについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 6 回	音声	音声認識、声の合成、それらを利用したシステムについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 7 回	ネット広告	ネット広告に関連する諸問題について、文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 8 回	コンピュータ犯罪	コンピュータウイルス、フィッシング詐欺、サイバー攻撃などのコンピュータ犯罪について文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 9 回	IT と他分野の融合	医療と IT、政治と IT、教育と IT など IT を利用した新しい技術とビジネスについて文献輪読や文献検索により調べて学び議論する。
第 10 回	IT とデザイン	3D プリンタ、デジタルアート、ユーザインタフェース（使いやすさ）、ユビキタスコンピュータ（いつでもどこでも利用可）、ユニバーサルデザイン（文化や年齢性別などの個人差に関係なく利用できる設計）について調べて学び議論する。
第 11 回	4 年生の個人発表	情報化社会の諸現象に関する卒業論文の発表を行う。
第 12 回	4 年生の個人発表	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。

第 13 回 3 年生の個人発表

情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表を行う。

第 14 回 3 年生の個人発表

情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事ニュースのチェック、個人発表の準備を行います本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用います。

【参考書】

味岡美豊子『社会人・学生のための情報検索入門』ひつじ書房、2009 年。
土橋臣吾・南田勝也・辻泉『デジタルメディアの社会学』北樹出版、2013 年。
金井明人・土橋臣吾・津田正太郎『メディア環境の物語と公共圏』法政大学出版会、2013 年。
苗村憲司・小宮山宏之『現代社会と著作権法 デジタルネットワーク社会の知的財産権』慶応義塾大学出版会、2005 年。
藤垣裕子編『科学技術社会論の技法（第 3 版）』東京大学出版会、2013 年。
濱岡豊・里村卓也『消費者間の相互作用についての基礎研究 クチコミ、e クチコミを中心に』慶応義塾大学出版会、2009 年。
坂村健『ユビキタス・コンピュータ革命』角川、2004 年。
ドナルド・A. ノーマン（野島久雄訳）『誰のためのデザイン？ 認知科学者のデザイン原論』新曜社、1990 年。
EY アドバイザリー『世界トップ企業の AI 戦略』日経 BP 社、2016 年。
※この他にも授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物および個人発表の内容で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションに力を入れます。

【学生が準備すべき機器他】

Word、Excel、PowerPoint、Zoom が使えるパソコンを自宅で準備します。対面授業ではパソコン教室で 1 人 1 台パソコンを使用します。

【その他の重要事項】

関連科目：情報処理演習 I / II

入ゼミ直前には IT の知識が少なくてもパソコン操作が不得意でも問題ありません。

4 年生は 9 月以後に卒業論文を作成し、12 月に中間発表を行い、1 月に提出する。卒業論文集を電子的に配布します。

希望者には IT 関連の資格試験・検定試験の学習計画を指導します。

【Outline (in English)】

This is a seminar-style course to study various phenomena of information society and trends of IT business through investigation. You will acquire broad knowledge, and the attitude to manage issues and think proactively. You will also learn skills for writing papers and presenting them.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

MAN200FA

演習 1

岸 真理子

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営情報学の研究トピックは多岐にわたります。ここでは、人・組織等の意思決定主体に対する洞察、ICT（情報技術）に関する理解、これらを統合するシステミックな方法論の開発を進めることが求められます。

この様なトピックの一例として、ICT の活用を前提とした企業のコミュニケーションやナレッジについて、基礎となる理論を学び、これらの理論を応用して具体的な事例について分析することができる力を養うことを目的としています。

【到達目標】

- ・「学生時代にこれだけは勉強した」と言えるものを目指します。
- ・関連する理論や概念について学習することができます。
- ・特定のテーマについて、理論やモデルを用いて説明できるようになります。
- ・特定の事例を詳細に理解し、そこから示唆を得る力を養うことができます。
- ・表現の技法として、発表の仕方、議論の仕方、レポートや論文の書き方について学ぶことができます。
- ・関連文献の検索の仕方、調査の技法についても学ぶことができます。
- ・特に卒業論文・レポートは作法に則り書けるように勉強することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

現段階（2023 年 2 月）では、対面での演習の実施を予定しています。授業方法の変更が必要になった際には学習支援システムでお知らせし、授業開始日のガイダンスでも説明します。受講生は必ず学習支援システムに登録するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期イントロダクション	春学期の活動のガイダンス
第 2 回	発表の仕方	プレゼンテーションの仕方やレポートの書き方、文献検索の仕方を学ぶ
第 3 回	文献輪読（1）	指定文献についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 4 回	文献輪読（2）	指定文献についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 5 回	事例分析（1）	ゲストの会社に関する事例研究についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 6 回	ゲスト・スピーカー（1）	社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 7 回	文献輪読（3）	指定文献についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 8 回	文献輪読（4）	指定文献についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション

第 9 回	事例分析（2）	ゲストの会社に関する事例研究についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 10 回	ゲスト・スピーカー（2）	社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 11 回	文献輪読（5）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 12 回	文献輪読（6）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 13 回	事例研究（3）	ゲストの会社に関する事例研究についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 14 回	ゲスト・スピーカー（3） 春学期総括	社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション 春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表や提出物などの準備が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で提示します。

【参考書】

授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度・発表内容（50%）とレポート（50%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミの実行方法や回数は、学生の要望に応じます。状況をみて、企業訪問やゲスト・スピーチの機会を増やすつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用して発表してもらいます。

【その他の重要事項】

関連記事が以下に掲載されています。

<http://www.hosei.ac.jp/koho/zemi/keiei/080114.html>

http://www.houseikeieidousoukai.com/grad_prof/

【関連科目】

経営情報論Ⅰ・Ⅱ、経営組織論Ⅰ・Ⅱ、組織マネジメント論Ⅰ・Ⅱ、組織行動論Ⅰ・Ⅱ、人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論Ⅰ・Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ・Ⅱなど。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will learn the basic knowledge in the field of Organizations and Information Management and skills of doing research by themselves.

【Learning Objectives】

Students will learn the beginning of research yourself. In other words, students will learn the appropriate method for adding some new findings to specific research area of Organizations and Information Management based on.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant materials. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on the student's contribution to the class(50%) and the quality of the term-end report(50%).

MAN200FA

演習 2

岸 真理子

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営情報学の研究トピックは多岐にわたります。ここでは、人・組織等の意思決定主体に対する洞察、ICT（情報技術）に関する理解、これらを統合するシステミックな方法論の開発を進めることが求められます。

この様なトピックの一例として、ICT の活用を前提とした企業のコミュニケーションやナレッジについて、基礎となる理論を学び、これらの理論を応用して具体的な事例について分析することができる力を養うことを目的としています。

【到達目標】

- ・「学生時代にこれだけは勉強した」と言えるものを目指します。
- ・関連する理論や概念について学習することができます。
- ・特定のテーマについて、理論や概念を用いて説明できるようになります。
- ・特定の事例を詳細に理解し、そこから示唆を得る力を養うことができます。
- ・表現の技法として、発表の仕方、議論の仕方、レポートや論文の書き方について学ぶことができます。
- ・関連文献の検索の仕方、調査の技法についても学ぶことができます。
- ・特に卒業論文・レポートは作法に則り書けるように勉強することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

現段階（2023 年 2 月）では、対面での演習の実施を予定しています。授業方法の変更が必要になった際には学習支援システムでお知らせし、授業開始日のガイダンスでも説明します。受講生は必ず学習支援システムに登録するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期イントロダクション	秋学期の活動のガイダンス
第 2 回	事例研究計画、卒業論文・レポート計画発表	事例研究計画、卒業論文・レポート計画の発表とディスカッション
第 3 回	事例分析（1）	ゲストの会社に関する事例研究についての発表とディスカッション
第 4 回	ゲスト・スピーカー（1）	社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 5 回	事例研究経過、卒業論文・レポート経過発表（1）	事例研究進捗状況、卒業論文・レポート進捗状況の発表とディスカッション
第 6 回	事例分析（2）	ゲストの会社に関する事例研究についての発表とディスカッション
第 7 回	ゲスト・スピーカー（2）	社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 8 回	事例研究経過、卒業論文・レポート経過発表（2）	事例研究進捗状況、卒業論文・レポート進捗状況の発表とディスカッション
第 9 回	事例分析（3）	ゲストの会社に関する事例研究についての発表とディスカッション
第 10 回	ゲスト・スピーカー（3）	社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション

第 11 回	事例研究経過、卒業論文・レポート経過発表（3）	事例研究進捗状況、卒業論文・レポート進捗状況の発表とディスカッション
第 12 回	事例分析最終発表会	事例分析の総まとめの発表とディスカッション
第 13 回	卒業論文・レポート最終発表会	卒業論文・レポートの最終発表とディスカッション
第 14 回	秋学期総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表や提出物などの準備が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で提示します。

【参考書】

授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度と発表内容（50%）とレポートあるいは論文（50%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミの実行方法や回数は、学生の要望に応じます。状況を見て、企業訪問やゲスト・スピーチの機会を増やすつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用して発表してもらいます。

【その他の重要事項】

関連記事が以下に掲載されています。

<http://www.hosei.ac.jp/koho/zemi/keiei/080114.html>

http://www.houseikeieidousoukai.com/grad_prof/

【関連科目】

経営情報論Ⅰ・Ⅱ、経営組織論Ⅰ・Ⅱ、組織マネジメント論Ⅰ・Ⅱ、組織行動論Ⅰ・Ⅱ、人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論Ⅰ・Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ・Ⅱなど。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will learn the basic knowledge in the field of Organizations and Information Management and skills of doing research by themselves.

【Learning Objectives】

Students will learn the beginning of research yourself. In other words, students will learn the appropriate method for adding some new findings to specific research area of Organizations and Information Management based on.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant materials. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on the student's contribution to the class(50%) and the quality of the term-end report(50%).

MAN300FA

演習 3

岸 真理子

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営情報学の研究トピックは多岐にわたります。ここでは、人・組織等の意思決定主体に対する洞察、ICT（情報技術）に関する理解、これらを統合するシステム的な方法論の開発を進めることが求められます。

この様なトピックの一例として、ICTの活用を前提とした企業のコミュニケーションやナレッジについて、基礎となる理論を学び、これらの理論を応用して具体的な事例について分析することができる力を養うことを目的としています。

【到達目標】

- ・「学生時代にこれだけは勉強した」と言えるものを目指します。
- ・関連する理論や概念について学習することができます。
- ・特定のテーマについて、理論やモデルを用いて説明できるようになります。
- ・特定の事例を詳細に理解し、そこから示唆を得る力を養うことができます。
- ・表現の技法として、発表の仕方、議論の仕方、レポートや論文の書き方について学ぶことができます。
- ・関連文献の検索の仕方、調査の技法についても学ぶことができます。
- ・特に卒業論文・レポートは作法に則り書けるように勉強することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

現段階（2023 年 2 月）では、対面での演習の実施を予定しています。授業方法の変更が必要になった際には学習支援システムでお知らせし、授業開始日のガイダンスでも説明します。受講生は必ず学習支援システムに登録するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期イントロダクション	春学期の活動のガイダンス
第 2 回	発表の仕方	プレゼンテーションの仕方やレポートの書き方、文献検索の仕方を学ぶ
第 3 回	文献輪読（1）	指定文献についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 4 回	文献輪読（2）	指定文献についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 5 回	事例分析（1）	ゲストの会社に関する事例研究についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 6 回	ゲスト・スピーカー（1）	社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 7 回	文献輪読（3）	指定文献についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 8 回	文献輪読（4）	指定文献についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 9 回	事例分析（2）	ゲストの会社に関する事例研究についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 10 回	ゲスト・スピーカー（2）	社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 11 回	文献輪読（5）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 12 回	文献輪読（6）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 13 回	事例研究（3）	ゲストの会社に関する事例研究についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 14 回	ゲスト・スピーカー（3） 春学期総括	社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション 春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表や提出物などの準備が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で提示します。

【参考書】

授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度・発表内容（50%）とレポート（50%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミの実行方法や回数は、学生の要望に応じます。

状況をみて、企業訪問やゲスト・スピーチの機会を増やすつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用して発表してもらいます。

【その他の重要事項】

関連記事が以下に掲載されています。

<http://www.hosei.ac.jp/koho/zemi/keiei/080114.html>
http://www.houseikeieidousokai.com/grad_prof/

【関連科目】

経営情報論Ⅰ・Ⅱ、経営組織論Ⅰ・Ⅱ、組織マネジメント論Ⅰ・Ⅱ、組織行動論Ⅰ・Ⅱ、人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論Ⅰ・Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ・Ⅱなど。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will learn the basic knowledge in the field of Organizations and Information Management and skills of doing research by themselves.

【Learning Objectives】

Students will learn the beginning of research yourself. In other words, students will learn the appropriate method for adding some new findings to specific research area of Organizations and Information Management based on.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant materials. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on the student's contribution to the class(50%) and the quality of the term-end report(50%).

MAN300FA

演習 4

岸 真理子

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営情報学の研究トピックは多岐にわたります。ここでは、人・組織等の意思決定主体に対する洞察、ICT（情報技術）に関する理解、これらを統合するシステミックな方法論の開発を進めることが求められます。

この様なトピックの一例として、ICT の活用を前提とした企業のコミュニケーションやナレッジについて、基礎となる理論を学び、これらの理論を応用して具体的な事例について分析することができる力を養うことを目的としています。

【到達目標】

- ・「学生時代にこれだけは勉強した」と言えるものを目指します。
- ・関連する理論や概念について学習することができます。
- ・特定のテーマについて、理論や概念を用いて説明できるようになります。
- ・特定の事例を詳細に理解し、そこから示唆を得る力を養うことができます。
- ・表現の技法として、発表の仕方、議論の仕方、レポートや論文の書き方について学ぶことができます。
- ・関連文献の検索の仕方、調査の技法についても学ぶことができます。
- ・特に卒業論文・レポートは作法に則り書けるように勉強することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

現段階（2023 年 2 月）では、対面での演習の実施を予定しています。授業方法の変更が必要になった際には学習支援システムでお知らせし、授業開始日のガイダンスでも説明します。受講生は必ず学習支援システムに登録するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期イントロダクション	秋学期の活動のガイダンス
第 2 回	事例研究計画、卒業論文・レポート計画発表	事例研究計画、卒業論文・レポート計画の発表とディスカッション
第 3 回	事例分析（1）	ゲストの会社に関する事例研究についての発表とディスカッション
第 4 回	ゲスト・スピーカー（1）	社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 5 回	事例研究経過、卒業論文・レポート経過発表（1）	事例研究進捗状況、卒業論文・レポート進捗状況の発表とディスカッション
第 6 回	事例分析（2）	ゲストの会社に関する事例研究についての発表とディスカッション
第 7 回	ゲスト・スピーカー（2）	社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 8 回	事例研究経過、卒業論文・レポート経過発表（2）	事例研究進捗状況、卒業論文・レポート進捗状況の発表とディスカッション
第 9 回	事例分析（3）	ゲストの会社に関する事例研究についての発表とディスカッション
第 10 回	ゲスト・スピーカー（3）	社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 11 回	事例研究経過、卒業論文・レポート経過発表（3）	事例研究進捗状況、卒業論文・レポート進捗状況の発表とディスカッション
第 12 回	事例分析最終発表会	事例分析の総まとめの発表とディスカッション
第 13 回	卒業論文・レポート最終発表会	卒業論文・レポートの最終発表とディスカッション
第 14 回	秋学期総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表や提出物などの準備が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で提示します。

【参考書】

授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度と発表内容（50%）とレポートあるいは論文（50%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミの実行方法や回数は、学生の要望に応じます。状況を見て、企業訪問やゲスト・スピーチの機会を増やすつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用して発表してもらいます。

【その他の重要事項】

関連記事が以下に掲載されています。

<http://www.hosei.ac.jp/koho/zemi/keiei/080114.html>

http://www.houseikeieidousoukai.com/grad_prof/

【関連科目】

経営情報論 I・II、経営組織論 I・II、組織マネジメント論 I・II、組織行動論 I・II、人的資源管理論 I・II、経営戦略論 I・II、戦略的意思決定論 I・II など。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will learn the basic knowledge in the field of Organizations and Information Management and skills of doing research by themselves.

【Learning Objectives】

Students will learn the beginning of research yourself. In other words, students will learn the appropriate method for adding some new findings to specific research area of Organizations and Information Management based on.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant materials. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on the student's contribution to the class(50%) and the quality of the term-end report(50%).

MAN400FA

演習 5

岸 真理子

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営情報学の研究トピックは多岐にわたります。ここでは、人・組織等の意思決定主体に対する洞察、ICT（情報技術）に関する理解、これらを統合するシステム的な方法論の開発を進めることが求められます。

この様なトピックの一例として、ICTの活用を前提とした企業のコミュニケーションやナレッジについて、基礎となる理論を学び、これらの理論を応用して具体的な事例について分析することができる力を養うことを目的としています。

【到達目標】

- ・「学生時代にこれだけは勉強した」と言えるものを目指します。
- ・関連する理論や概念について学習することができます。
- ・特定のテーマについて、理論やモデルを用いて説明できるようになります。
- ・特定の事例を詳細に理解し、そこから示唆を得る力を養うことができます。
- ・表現の技法として、発表の仕方、議論の仕方、レポートや論文の書き方について学ぶことができます。
- ・関連文献の検索の仕方、調査の技法についても学ぶことができます。
- ・特に卒業論文・レポートは作法に則り書けるように勉強することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

現段階（2023 年 2 月）では、対面での演習の実施を予定しています。授業方法の変更が必要になった際には学習支援システムでお知らせし、授業開始日のガイダンスでも説明します。受講生は必ず学習支援システムに登録するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期イントロダクション	春学期の活動のガイダンス
第 2 回	発表の仕方	プレゼンテーションの仕方やレポートの書き方、文献検索の仕方を学ぶ
第 3 回	文献輪読（1）	指定文献についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 4 回	文献輪読（2）	指定文献についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 5 回	事例分析（1）	ゲストの会社に関する事例研究についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 6 回	ゲスト・スピーカー（1）	社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 7 回	文献輪読（3）	指定文献についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 8 回	文献輪読（4）	指定文献についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 9 回	事例分析（2）	ゲストの会社に関する事例研究についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 10 回	ゲスト・スピーカー（2）	社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 11 回	文献輪読（5）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 12 回	文献輪読（6）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 13 回	事例研究（3）	ゲストの会社に関する事例研究についてのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 14 回	ゲスト・スピーカー（3） 春学期総括	社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション 春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表や提出物などの準備が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で提示します。

【参考書】

授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度・発表内容（50%）とレポート（50%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミの実行方法や回数は、学生の要望に応じます。

状況をみて、企業訪問やゲスト・スピーチの機会を増やすつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用して発表してもらいます。

【その他の重要事項】

関連記事が以下に掲載されています。

<http://www.hosei.ac.jp/koho/zemi/keiei/080114.html>
http://www.houseikeieidousokai.com/grad_prof/

【関連科目】

経営情報論Ⅰ・Ⅱ、経営組織論Ⅰ・Ⅱ、組織マネジメント論Ⅰ・Ⅱ、組織行動論Ⅰ・Ⅱ、人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論Ⅰ・Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ・Ⅱなど。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will learn the basic knowledge in the field of Organizations and Information Management and skills of doing research by themselves.

【Learning Objectives】

Students will learn the beginning of research yourself. In other words, students will learn the appropriate method for adding some new findings to specific research area of Organizations and Information Management based on.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant materials. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on the student's contribution to the class(50%) and the quality of the term-end report(50%).

MAN400FA

演習 6

岸 真理子

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営情報学の研究トピックは多岐にわたります。ここでは、人・組織等の意思決定主体に対する洞察、ICT（情報技術）に関する理解、これらを統合するシステミックな方法論の開発を進めることが求められます。

この様なトピックの一例として、ICT の活用を前提とした企業のコミュニケーションやナレッジについて、基礎となる理論を学び、これらの理論を応用して具体的な事例について分析することができる力を養うことを目的としています。

【到達目標】

- ・「学生時代にこれだけは勉強した」と言えるものを目指します。
- ・関連する理論や概念について学習することができます。
- ・特定のテーマについて、理論や概念を用いて説明できるようになります。
- ・特定の事例を詳細に理解し、そこから示唆を得る力を養うことができます。
- ・表現の技法として、発表の仕方、議論の仕方、レポートや論文の書き方について学ぶことができます。
- ・関連文献の検索の仕方、調査の技法についても学ぶことができます。
- ・特に卒業論文・レポートは作法に則り書けるように勉強することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

現段階（2023 年 2 月）では、対面での演習の実施を予定しています。授業方法の変更が必要になった際には学習支援システムでお知らせし、授業開始日のガイダンスでも説明します。受講生は必ず学習支援システムに登録するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期イントロダクション	秋学期の活動のガイダンス
第 2 回	事例研究計画、卒業論文・レポート計画発表	事例研究計画、卒業論文・レポート計画の発表とディスカッション
第 3 回	事例分析（1）	ゲストの会社に関する事例研究についての発表とディスカッション
第 4 回	ゲスト・スピーカー（1）	社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 5 回	事例研究経過、卒業論文・レポート経過発表（1）	事例研究進捗状況、卒業論文・レポート進捗状況の発表とディスカッション
第 6 回	事例分析（2）	ゲストの会社に関する事例研究についての発表とディスカッション
第 7 回	ゲスト・スピーカー（2）	社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 8 回	事例研究経過、卒業論文・レポート経過発表（2）	事例研究進捗状況、卒業論文・レポート進捗状況の発表とディスカッション
第 9 回	事例分析（3）	ゲストの会社に関する事例研究についての発表とディスカッション
第 10 回	ゲスト・スピーカー（3）	社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 11 回	事例研究経過、卒業論文・レポート経過発表（3）	事例研究進捗状況、卒業論文・レポート進捗状況の発表とディスカッション
第 12 回	事例分析最終発表会	事例分析の総まとめの発表とディスカッション
第 13 回	卒業論文・レポート最終発表会	卒業論文・レポートの最終発表とディスカッション
第 14 回	秋学期総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表や提出物などの準備が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で提示します。

【参考書】

授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度と発表内容（50%）とレポートあるいは論文（50%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミの実行方法や回数は、学生の要望に応じます。状況を見て、企業訪問やゲスト・スピーチの機会を増やすつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用して発表してもらいます。

【その他の重要事項】

関連記事が以下に掲載されています。

<http://www.hosei.ac.jp/koho/zemi/keiei/080114.html>

http://www.houseikeieidousoukai.com/grad_prof/

【関連科目】

経営情報論 I・II、経営組織論 I・II、組織マネジメント論 I・II、組織行動論 I・II、人的資源管理論 I・II、経営戦略論 I・II、戦略的意思決定論 I・II など。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will learn the basic knowledge in the field of Organizations and Information Management and skills of doing research by themselves.

【Learning Objectives】

Students will learn the beginning of research yourself. In other words, students will learn the appropriate method for adding some new findings to specific research area of Organizations and Information Management based on.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant materials. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on the student's contribution to the class(50%) and the quality of the term-end report(50%).

MAN200FA

演習 1

岸本 直樹

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、この演習では、経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることの実習を目指しています。その観点から、春学期に上記の専門分野のいずれかの専門書あるいは教科書を輪読します。また、秋学期は、各ゼミ生が選んだ企業について投資家の立場から分析します。そして、それらの結果はゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションをした上、その成果を岸本ゼミのウェブサイトで公表しています。

【到達目標】

演習での主要な到達目標は次の 3 点です。まず第 1 に、履修者が株式や債券等への投資家、あるいは、資金の貸手の立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実際の企業に適用することができること。第 2 に、専門書あるいは教科書をしっかりと読むことができること。第 3 に、履修者が分析したり読んだりした結果をレジュメにまとめて演習で分かりやすく発表することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期の授業では経営に関する専門書あるいは教科書を輪読します。輪読する本および輪読の担当は、事前に教員が LINE でゼミ生に連絡します。そして、担当のゼミ生は、ゼミの直前の金曜日の夜までに、担当部分のレジュメを LINE 等でゼミ生に配布します。そして、ゼミでそれに基づいて発表し、その後、他のゼミ生から、疑問点あるいは意見を受けます。秋学期には、各ゼミ生が、選んだ会社について投資家の立場から分析をし、その結果をゼミで発表します。そして、他のゼミ生は、教員が指定するチェックポイントに関してコメントします。発表したゼミ生は、それらのコメントに沿ってレジュメを改訂し、岸本ゼミのウェブページに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業分析に有用な輪読	4 年次のゼミ生のうち第 1 回の授業に割り当てられた学生 2 名が専門書の担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 2 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 2 と読み替え)
第 3 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 3 と読み替え)
第 4 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 4 と読み替え)
第 5 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 5 と読み替え)
第 6 回	企業分析に有用な輪読	3 年次のゼミ生のうち第 6 回の授業に割り当てられた学生 2 名が専門書の担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 7 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 7 と読み替え)
第 8 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 8 と読み替え)
第 9 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 9 と読み替え)
第 10 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 10 と読み替え)
第 11 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 11 と読み替え)
第 12 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 12 と読み替え)
第 13 回	企業分析の手法	教員が企業分析の手法を講義する。
第 14 回	企業分析の手法	教員が企業分析の手法を講義するほか、企業分析に有用なデータの利用法を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読する専門書あるいは教科書の事前学習、担当企業の分析およびレジュメの作成等。本授業の準備学習・および復習時間は、合計して各回につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読する書籍は、上で説明した方法で指定します。

【参考書】

授業中に適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

【3 年次生に対する評価方法】

評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリアした学生に A 評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、A- 以下の評価をつけますし、さらに、パフォーマンスが著しく芳しくない学生は、4 年次へ進級する際ゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、進級時のゼミ継続を自動的に認めていません。

【4 年次生に対する評価方法】

4 年次生の評価は、3 年生の評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、4 年次生に対しては、3 年次生より高いパフォーマンスを要求します。

【3、4 年次生の両方に対する注意事項】

岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、方が一これらルールに抵触すると、進級時にゼミの参加を遠慮してもらうことがありますし、場合によっては年度途中で退ゼミ勧告をすることもあります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの活性化。

【学生が準備すべき機器他】

発表に PowerPoint や Word 等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

【その他の重要事項】

本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基礎知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。

上で説明したように、本演習の活動は、輪読、投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門 I/II、会計学入門 I/II、財務会計論 I/II、経営分析論 I/II、企業評価論 I/II があります。また、後者の科目としてファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門 I/II、コーポレートファイナンス入門 I/II があります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to get students acquainted with the fundamental analysis, which a method for analyzing corporations from the point of view of investors. In general, corporations can be analyzed with respect to each of functional areas, such as management, strategic management, finance, accounting, marketing, and operations management. But the performance of a corporation depends on the performance in all of these functional areas.

Therefore, students in this seminar are encouraged to apply all the knowledge and skills they have acquired in the courses they have taken so far at the Faculty of Business Administration. For this reason, we spend the Spring semester on the reading of textbooks in one or two of these areas. In the Fall semester, each student chooses a company and analyzes it from the point of view of investors and presents his or her analysis in class as well as on a Web site set up for this seminar.

Learning objectives: This course has three main objectives. First, students should be able to learn how to analyze a specific company from the standpoint of an investor or a lender. Second, students are expected to learn how to read technical books effectively. Third, students should be able to summarize the results of their analysis in a resume and present it in an easy-to-understand manner in the seminar.

Learning activities outside of the classroom: Prior study of the textbook, analysis of the chosen company, and preparation of presentation. A student is expected to spend about four hours every week to read the text, analyze the chosen company or prepare for the presentation.

Grading criteria/policy:

[Evaluation of junior students]

Grading will be based on several factors, including the quality of resumes, presentations, participation in discussions, and contributions to seminar activities outside of class. As a rule of thumb, a grade A will be given to students who have satisfactorily performed these activities. On the other hand, students who do not perform well in these activities will receive a grade of A- or lower, and a junior who performs poorly may not be allowed to participate in this seminar when he or she become a senior. In other words, students are not automatically allowed to continue to participate in this seminar in their second year.

[Evaluation of senior students]

Senior students will be evaluated in the same way as junior students. Note, however, that senior students are expected to perform better than junior students.

(Note for both 3rd and 4th year students)

This seminar has strict rules regarding attendance, tardiness, and leaving early. In addition, strict rules will be applied to preparing presentation materials in a timely manner. Therefore, in the unlikely event where you violate any of these rules, you may be asked to refrain from participating in the seminar at the time of advancement to the senior year, and in some cases, you may be advised to withdraw from the seminar in the middle of the academic year.

MAN200FA

演習 2

岸本 直樹

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、この演習では、経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることを実習します。その観点から、春学期に上記の専門分野のいずれかの専門書あるいは教科書を輪読します。また、秋学期は、各ゼミ生が自ら選んだ企業についてファンダメンタル分析を行い、その結果をレジュメにまとめます。そして、ゼミでレジュメに基づいて発表し、それに対して他のゼミ生とディスカッションをします。そして、ディスカッションに沿って改訂したレジュメを岸本ゼミのウェブサイトで公表します。

【到達目標】

演習での主要な到達目標は次の 3 点です。まず第 1 に、履修者が株式や債券等への投資家、あるいは、資金の貸手の立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実在する企業に当てはめることができること。第 2 に、経営学の専門書をしっかりと読むことができること。第 3 に、履修者が分析したり読んだりした結果を演習で分かりやすく発表することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期の授業は主に輪読をします。秋学期には、各ゼミ生が選んだ会社について、投資家の立場から分析をした結果をレジュメにまとめ、それをゼミで発表してもらいます。次に、その発表について他のゼミ生とディスカッションをします。さらに、発表で使った資料は、岸本ゼミのウェブページで公表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	学生による企業分析 (1)	4 年次のゼミ生のうち第 1 回の授業で発表することが割り当てられた学生 2 名がレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 2 回	学生による企業分析 (2)	第 1 回と同様 (1 を 2 と読み替え)
第 3 回	学生による企業分析 (3)	第 1 回と同様 (1 を 3 と読み替え)
第 4 回	学生による企業分析 (4)	第 1 回と同様 (1 を 4 と読み替え)
第 5 回	学生による企業分析 (5)	第 1 回と同様 (1 を 5 と読み替え)
第 6 回	学生による企業分析 (6)	第 1 回と同様 (1 を 6 と読み替え)
第 7 回	学生による企業分析 (7)	第 1 回と同様 (1 を 7 と読み替え)
第 8 回	学生による企業分析 (8)	3 年次のゼミ生のうち第 8 回の授業で発表することが割り当てられた学生 2 名がレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 9 回	学生による企業分析 (9)	第 8 回と同様 (8 を 9 と読み替え)
第 10 回	学生による企業分析 (10)	第 8 回と同様 (8 を 10 と読み替え)
第 11 回	学生による企業分析 (11)	第 8 回と同様 (8 を 11 と読み替え)
第 12 回	学生による企業分析 (12)	第 8 回と同様 (8 を 12 と読み替え)
第 13 回	学生による企業分析 (13)	第 8 回と同様 (8 を 13 と読み替え)
第 14 回	学生による企業分析 (14)	第 8 回と同様 (8 を 14 と読み替え)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読する文献の事前学習、担当企業の分析、レジュメの作成等。本授業の準備学習・および復習時間は、合計して各回につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業中に適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

【3 年次生に対する評価方法】

評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリアした学生に A 評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、A- 以下の評価をつけますし、さらに、パフォーマンスが著しく芳しくない学生については、4 年次へ進級する際ゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、進級時のゼミ継続を自動的に認めていません。

【4 年次生に対する評価方法】

4 年次生の評価は、3 年生の評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、4 年次生に対しては、3 年次生より高いパフォーマンスを要求します。

【3、4 年次生の両方に対する注意事項】

岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、万が一これらのルールに抵触すると、進級時にゼミの参加を遠慮してもらうことがありますし、場合によっては年度途中で退ゼミ勧告をすることもあります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの活性化。

【学生が準備すべき機器他】

発表に PowerPoint や WORD 等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

【その他の重要事項】

本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基礎知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。

上で説明したように、本演習の活動は、輪読、投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力を養う科目と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門 I/II、会計学入門 I/II、財務会計論 I/II、経営分析論 I/II、企業評価論 I/II があります。また、後者の科目としてファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門 I/II、コーポレートファイナンス入門 I/II があります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

【Outline (in English)】

The purpose of this seminar is to get students acquainted with the fundamental analysis, which is a method for analyzing stocks and bonds from the point of view of investors. In general, corporations can be analyzed with respect to each of functional areas, such as management, management strategy, finance, accounting, marketing, and operations management. And the performance of a corporation depends on the performance in all of these functional areas.

Therefore, students in this seminar are encouraged to apply all the knowledge and skills they have acquired in the courses they have taken at the Faculty of Business Administration. In the Spring semester, students in this seminar present summaries of assigned chapters of textbooks in one of the aforementioned areas. In the Fall semester, students analyze corporations they choose and present their analysis in the seminar. The summaries of these analysis will be posted on the Web page set up for this seminar.

Learning objectives: This course has three main objectives. First, students should be able to learn how to analyze a specific company from the standpoint of an investor or a lender and be able to apply the techniques to actual companies. Second, students should be able to read technical books effectively. Third, students should be able to summarize the results of their analysis in a resume and present it in an easy-to-understand manner in the seminar.

Learning activities outside of the classroom: Prior study of the textbook, analysis of the chosen company, and preparation of presentation. A student is expected to spend about four hours every week to read the text, analyze the chosen company or prepare for the presentation.

Grading criteria/policy:

[Evaluation of junior students]

Grading will be based on several factors, including the quality of resumes, presentations, participation in discussions, and contributions to seminar activities outside of class. As a rule of thumb, a grade A will be given to students who have satisfactorily performed these activities. On the other hand, students who do not perform well in these activities will receive a grade of A- or lower, and a junior who performs poorly may not be allowed to participate in this seminar when he or she become a senior. In other words, students are not automatically allowed to continue to participate in this seminar in their second year.

[Evaluation of senior students]

Senior students will be evaluated in the same way as junior students. Note, however, that senior students are expected to perform better than junior students.

(Note for both 3rd and 4th year students)

This seminar has strict rules regarding attendance, tardiness, and leaving early. In addition, strict rules will be applied to preparing presentation materials in a timely manner. Therefore, in the unlikely event where you violate any of these rules, you may be asked to refrain from participating in the seminar at the time of advancement to the senior year, and in some cases, you may be advised to withdraw from the seminar in the middle of the academic year.

MAN300FA

演習 3

岸本 直樹

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、この演習では、経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることの実習を目指しています。その観点から、春学期に上記の専門分野のいずれかの専門書あるいは教科書を輪読します。また、秋学期は、各ゼミ生が選んだ企業について投資家の立場から分析します。そして、それらの結果はゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションをした上、その成果を岸本ゼミのウェブサイトで公表しています。

【到達目標】

演習での主要な到達目標は次の 3 点です。まず第 1 に、履修者が株式や債券等への投資家、あるいは、資金の貸手の立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実際の企業に適用することができること。第 2 に、専門書あるいは教科書をしっかりと読むことができること。第 3 に、履修者が分析したり読んだりした結果をレジュメにまとめて演習で分かりやすく発表することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期の授業では経営に関する専門書あるいは教科書を輪読します。輪読する本および輪読の担当は、事前に教員が LINE でゼミ生に連絡します。そして、担当のゼミ生は、ゼミの直前の金曜日の夜までに、担当部分のレジュメを LINE 等でゼミ生に配布します。そして、ゼミでそれに基づいて発表し、その後、他のゼミ生から、疑問点あるいは意見を受けます。秋学期には、各ゼミ生が、選んだ会社について投資家の立場から分析をし、その結果をゼミで発表します。そして、他のゼミ生は、教員が指定するチェックポイントに関してコメントします。発表したゼミ生は、それらのコメントに沿ってレジュメを改訂し、岸本ゼミのウェブページに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業分析に有用な輪読	4 年次のゼミ生のうち第 1 回の授業に割り当てられた学生 2 名が専門書の担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 2 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 2 と読み替え)
第 3 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 3 と読み替え)
第 4 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 4 と読み替え)
第 5 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 5 と読み替え)
第 6 回	企業分析に有用な輪読	3 年次のゼミ生のうち第 6 回の授業に割り当てられた学生 2 名が専門書の担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 7 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 7 と読み替え)
第 8 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 8 と読み替え)
第 9 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 9 と読み替え)
第 10 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 10 と読み替え)
第 11 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 11 と読み替え)
第 12 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 12 と読み替え)
第 13 回	企業分析の手法	教員が企業分析の手法を講義する。
第 14 回	企業分析の手法	教員が企業分析の手法を講義するほか、企業分析に有用なデータの利用法を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読する専門書あるいは教科書の事前学習、担当企業の分析およびレジュメの作成等。本授業の準備学習・および復習時間は、合計して各回につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読する書籍は、上で説明した方法で指定します。

【参考書】

授業中に適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

【3 年次生に対する評価方法】

評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリアした学生に A 評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、A- 以下の評価をつけますし、さらに、パフォーマンスが著しく芳しくない学生は、4 年次へ進級する際ゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、進級時のゼミ継続を自動的に認めていません。

【4 年次生に対する評価方法】

4 年次生の評価は、3 年生の評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、4 年次生に対しては、3 年次生より高いパフォーマンスを要求します。

【3、4 年次生の両方に対する注意事項】

岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、方が一これらのルールに抵触すると、進級時にゼミの参加を遠慮してもらうことがありますし、場合によっては年度途中で退ゼミ勧告をすることもあります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの活性化。

【学生が準備すべき機器他】

発表に PowerPoint や Word 等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

【その他の重要事項】

本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基礎知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。

上で説明したように、本演習の活動は、輪読、投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門 I/II、会計学入門 I/II、財務会計論 I/II、経営分析論 I/II、企業評価論 I/II があります。また、後者の科目としてファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門 I/II、コーポレートファイナンス入門 I/II があります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to get students acquainted with the fundamental analysis, which a method for analyzing corporations from the point of view of investors. In general, corporations can be analyzed with respect to each of functional areas, such as management, strategic management, finance, accounting, marketing, and operations management. But the performance of a corporation depends on the performance in all of these functional areas.

Therefore, students in this seminar are encouraged to apply all the knowledge and skills they have acquired in the courses they have taken so far at the Faculty of Business Administration. For this reason, we spend the Spring semester on the reading of textbooks in one or two of these areas. In the Fall semester, each student chooses a company and analyzes it from the point of view of investors and presents his or her analysis in class as well as on a Web site set up for this seminar.

Learning objectives: This course has three main objectives. First, students should be able to learn how to analyze a specific company from the standpoint of an investor or a lender. Second, students are expected to learn how to read technical books effectively. Third, students should be able to summarize the results of their analysis in a resume and present it in an easy-to-understand manner in the seminar.

Learning activities outside of the classroom: Prior study of the textbook, analysis of the chosen company, and preparation of presentation. A student is expected to spend about four hours every week to read the text, analyze the chosen company or prepare for the presentation.

Grading criteria/policy:

【Evaluation of junior students】

Grading will be based on several factors, including the quality of resumes, presentations, participation in discussions, and contributions to seminar activities outside of class. As a rule of thumb, a grade A will be given to students who have satisfactorily performed these activities. On the other hand, students who do not perform well in these activities will receive a grade of A- or lower, and a junior who performs poorly may not be allowed to participate in this seminar when he or she become a senior. In other words, students are not automatically allowed to continue to participate in this seminar in their second year.

[Evaluation of senior students]

Senior students will be evaluated in the same way as junior students. Note, however, that senior students are expected to perform better than junior students.

(Note for both 3rd and 4th year students)

This seminar has strict rules regarding attendance, tardiness, and leaving early. In addition, strict rules will be applied to preparing presentation materials in a timely manner. Therefore, in the unlikely event where you violate any of these rules, you may be asked to refrain from participating in the seminar at the time of advancement to the senior year, and in some cases, you may be advised to withdraw from the seminar in the middle of the academic year.

MAN300FA

演習 4

岸本 直樹

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、この演習では、経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることを実習します。その観点から、春学期に上記の専門分野のいずれかの専門書あるいは教科書を輪読します。また、秋学期は、各ゼミ生が自ら選んだ企業についてファンダメンタル分析を行い、その結果をレジュメにまとめます。そして、ゼミでレジュメに基づいて発表し、それに対して他のゼミ生とディスカッションをします。そして、ディスカッションに沿って改訂したレジュメを岸本ゼミのウェブサイトで公表します。

【到達目標】

演習での主要な到達目標は次の 3 点です。まず第 1 に、履修者が株式や債券等への投資家、あるいは、資金の貸手の立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実在する企業に当てはめることができること。第 2 に、経営学の専門書をしっかりと読むことができること。第 3 に、履修者が分析したり読んだりした結果を演習で分かりやすく発表することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期の授業は主に輪読をします。秋学期には、各ゼミ生が選んだ会社について、投資家の立場から分析をした結果をレジュメにまとめ、それをゼミで発表してもらいます。次に、その発表について他のゼミ生とディスカッションをします。さらに、発表で使った資料は、岸本ゼミのウェブページで公表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	学生による企業分析 (1)	4 年次のゼミ生のうち第 1 回の授業で発表することが割り当てられた学生 2 名がレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 2 回	学生による企業分析 (2)	第 1 回と同様 (1 を 2 と読み替え)
第 3 回	学生による企業分析 (3)	第 1 回と同様 (1 を 3 と読み替え)
第 4 回	学生による企業分析 (4)	第 1 回と同様 (1 を 4 と読み替え)
第 5 回	学生による企業分析 (5)	第 1 回と同様 (1 を 5 と読み替え)
第 6 回	学生による企業分析 (6)	第 1 回と同様 (1 を 6 と読み替え)
第 7 回	学生による企業分析 (7)	第 1 回と同様 (1 を 7 と読み替え)
第 8 回	学生による企業分析 (8)	3 年次のゼミ生のうち第 8 回の授業で発表することが割り当てられた学生 2 名がレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 9 回	学生による企業分析 (9)	第 8 回と同様 (8 を 9 と読み替え)
第 10 回	学生による企業分析 (10)	第 8 回と同様 (8 を 10 と読み替え)
第 11 回	学生による企業分析 (11)	第 8 回と同様 (8 を 11 と読み替え)
第 12 回	学生による企業分析 (12)	第 8 回と同様 (8 を 12 と読み替え)
第 13 回	学生による企業分析 (13)	第 8 回と同様 (8 を 13 と読み替え)
第 14 回	学生による企業分析 (14)	第 8 回と同様 (8 を 14 と読み替え)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読する文献の事前学習、担当企業の分析、レジュメの作成等。本授業の準備学習・および復習時間は、合計して各回につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業中に適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

【3 年次生に対する評価方法】

評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリアした学生に A 評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、A- 以下の評価をつけますし、さらに、パフォーマンスが著しく芳しくない学生については、4 年次へ進級する際ゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、進級時のゼミ継続を自動的に認めていません。

【4 年次生に対する評価方法】

4 年次生の評価は、3 年生の評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、4 年次生に対しては、3 年次生より高いパフォーマンスを要求します。

【3、4 年次生の両方に対する注意事項】

岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、万が一これらのルールに抵触すると、進級時にゼミの参加を遠慮してもらうことがありますし、場合によっては年度途中で退ゼミ勧告をすることもあります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの活性化。

【学生が準備すべき機器他】

発表に PowerPoint や WORD 等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

【その他の重要事項】

本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基礎知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。

上で説明したように、本演習の活動は、輪読、投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力を養う科目と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門 I/II、会計学入門 I/II、財務会計論 I/II、経営分析論 I/II、企業評価論 I/II があります。また、後者の科目としてファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門 I/II、コーポレートファイナンス入門 I/II があります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

【Outline (in English)】

The purpose of this seminar is to get students acquainted with the fundamental analysis, which is a method for analyzing stocks and bonds from the point of view of investors. In general, corporations can be analyzed with respect to each of functional areas, such as management, management strategy, finance, accounting, marketing, and operations management. And the performance of a corporation depends on the performance in all of these functional areas.

Therefore, students in this seminar are encouraged to apply all the knowledge and skills they have acquired in the courses they have taken at the Faculty of Business Administration. In the Spring semester, students in this seminar present summaries of assigned chapters of textbooks in one of the aforementioned areas. In the Fall semester, students analyze corporations they choose and present their analysis in the seminar. The summaries of these analysis will be posted on the Web page set up for this seminar.

Learning objectives: This course has three main objectives. First, students should be able to learn how to analyze a specific company from the standpoint of an investor or a lender and be able to apply the techniques to actual companies. Second, students should be able to read technical books effectively. Third, students should be able to summarize the results of their analysis in a resume and present it in an easy-to-understand manner in the seminar.

Learning activities outside of the classroom: Prior study of the textbook, analysis of the chosen company, and preparation of presentation. A student is expected to spend about four hours every week to read the text, analyze the chosen company or prepare for the presentation.

Grading criteria/policy:

[Evaluation of junior students]

Grading will be based on several factors, including the quality of resumes, presentations, participation in discussions, and contributions to seminar activities outside of class. As a rule of thumb, a grade A will be given to students who have satisfactorily performed these activities. On the other hand, students who do not perform well in these activities will receive a grade of A- or lower, and a junior who performs poorly may not be allowed to participate in this seminar when he or she become a senior. In other words, students are not automatically allowed to continue to participate in this seminar in their second year.

[Evaluation of senior students]

Senior students will be evaluated in the same way as junior students. Note, however, that senior students are expected to perform better than junior students.

(Note for both 3rd and 4th year students)

This seminar has strict rules regarding attendance, tardiness, and leaving early. In addition, strict rules will be applied to preparing presentation materials in a timely manner. Therefore, in the unlikely event where you violate any of these rules, you may be asked to refrain from participating in the seminar at the time of advancement to the senior year, and in some cases, you may be advised to withdraw from the seminar in the middle of the academic year.

MAN400FA

演習 5

岸本 直樹

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、この演習では、経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることの実習を目指しています。その観点から、春学期に上記の専門分野のいずれかの専門書あるいは教科書を輪読します。また、秋学期は、各ゼミ生が選んだ企業について投資家の立場から分析します。そして、それらの結果はゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションをした上、その成果を岸本ゼミのウェブサイトで公表しています。

【到達目標】

演習での主要な到達目標は次の 3 点です。まず第 1 に、履修者が株式や債券等への投資家、あるいは、資金の貸手の立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実際の企業に適用することができること。第 2 に、専門書あるいは教科書をしっかりと読むことができること。第 3 に、履修者が分析したり読んだりした結果をレジュメにまとめて演習で分かりやすく発表することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期の授業では経営に関する専門書あるいは教科書を輪読します。輪読する本および輪読の担当は、事前に教員が LINE でゼミ生に連絡します。そして、担当のゼミ生は、ゼミの直前の金曜日の夜までに、担当部分のレジュメを LINE 等でゼミ生に配布します。そして、ゼミでそれに基づいて発表し、その後、他のゼミ生から、疑問点あるいは意見を受けます。秋学期には、各ゼミ生が、選んだ会社について投資家の立場から分析をし、その結果をゼミで発表します。そして、他のゼミ生は、教員が指定するチェックポイントに関してコメントします。発表したゼミ生は、それらのコメントに沿ってレジュメを改訂し、岸本ゼミのウェブページに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業分析に有用な輪読	4 年次のゼミ生のうち第 1 回の授業に割り当てられた学生 2 名が専門書の担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 2 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 2 と読み替え)
第 3 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 3 と読み替え)
第 4 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 4 と読み替え)
第 5 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 5 と読み替え)
第 6 回	企業分析に有用な輪読	3 年次のゼミ生のうち第 6 回の授業に割り当てられた学生 2 名が専門書の担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 7 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 7 と読み替え)
第 8 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 8 と読み替え)
第 9 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 9 と読み替え)
第 10 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 10 と読み替え)
第 11 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 11 と読み替え)
第 12 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 12 と読み替え)
第 13 回	企業分析の手法	教員が企業分析の手法を講義する。
第 14 回	企業分析の手法	教員が企業分析の手法を講義するほか、企業分析に有用なデータの利用法を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読する専門書あるいは教科書の事前学習、担当企業の分析およびレジュメの作成等。本授業の準備学習・および復習時間は、合計して各回につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読する書籍は、上で説明した方法で指定します。

【参考書】

授業中に適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

【3 年次生に対する評価方法】

評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリアした学生に A 評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、A- 以下の評価をつけますし、さらに、パフォーマンスが著しく芳しくない学生は、4 年次へ進級する際ゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、進級時のゼミ継続を自動的に認めていません。

【4 年次生に対する評価方法】

4 年次生の評価は、3 年生の評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、4 年次生に対しては、3 年次生より高いパフォーマンスを要求します。

【3、4 年次生の両方に対する注意事項】

岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、方が一これらルールに抵触すると、進級時にゼミの参加を遠慮してもらうことがありますし、場合によっては年度途中で退ゼミ勧告をすることもあります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの活性化。

【学生が準備すべき機器他】

発表に PowerPoint や Word 等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

【その他の重要事項】

本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基礎知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。

上で説明したように、本演習の活動は、輪読、投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門 I/II、会計学入門 I/II、財務会計論 I/II、経営分析論 I/II、企業評価論 I/II があります。また、後者の科目としてファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門 I/II、コーポレートファイナンス入門 I/II があります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to get students acquainted with the fundamental analysis, which a method for analyzing corporations from the point of view of investors. In general, corporations can be analyzed with respect to each of functional areas, such as management, strategic management, finance, accounting, marketing, and operations management. But the performance of a corporation depends on the performance in all of these functional areas.

Therefore, students in this seminar are encouraged to apply all the knowledge and skills they have acquired in the courses they have taken so far at the Faculty of Business Administration. For this reason, we spend the Spring semester on the reading of textbooks in one or two of these areas. In the Fall semester, each student chooses a company and analyzes it from the point of view of investors and presents his or her analysis in class as well as on a Web site set up for this seminar.

Learning objectives: This course has three main objectives. First, students should be able to learn how to analyze a specific company from the standpoint of an investor or a lender. Second, students are expected to learn how to read technical books effectively. Third, students should be able to summarize the results of their analysis in a resume and present it in an easy-to-understand manner in the seminar.

Learning activities outside of the classroom: Prior study of the textbook, analysis of the chosen company, and preparation of presentation. A student is expected to spend about four hours every week to read the text, analyze the chosen company or prepare for the presentation.

Grading criteria/policy:

[Evaluation of junior students]

Grading will be based on several factors, including the quality of resumes, presentations, participation in discussions, and contributions to seminar activities outside of class. As a rule of thumb, a grade A will be given to students who have satisfactorily performed these activities. On the other hand, students who do not perform well in these activities will receive a grade of A- or lower, and a junior who performs poorly may not be allowed to participate in this seminar when he or she become a senior. In other words, students are not automatically allowed to continue to participate in this seminar in their second year.

[Evaluation of senior students]

Senior students will be evaluated in the same way as junior students. Note, however, that senior students are expected to perform better than junior students.

(Note for both 3rd and 4th year students)

This seminar has strict rules regarding attendance, tardiness, and leaving early. In addition, strict rules will be applied to preparing presentation materials in a timely manner. Therefore, in the unlikely event where you violate any of these rules, you may be asked to refrain from participating in the seminar at the time of advancement to the senior year, and in some cases, you may be advised to withdraw from the seminar in the middle of the academic year.

MAN400FA

演習 6

岸本 直樹

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、この演習では、経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることを実行します。その観点から、春学期に上記の専門分野のいずれかの専門書あるいは教科書を輪読します。また、秋学期は、各ゼミ生が自ら選んだ企業についてファンダメンタル分析を行い、その結果をレジュメにまとめます。そして、ゼミでレジュメに基づいて発表し、それに対して他のゼミ生とディスカッションをします。そして、ディスカッションに沿って改訂したレジュメを岸本ゼミのウェブサイトで公表します。

【到達目標】

演習での主要な到達目標は次の 3 点です。まず第 1 に、履修者が株式や債券等への投資家、あるいは、資金の貸手の立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実在する企業に当てはめることができること。第 2 に、経営学の専門書をしっかりと読むことができること。第 3 に、履修者が分析したり読んだりした結果を演習で分かりやすく発表することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期の授業は主に輪読をします。秋学期には、各ゼミ生が選んだ会社について、投資家の立場から分析をした結果をレジュメにまとめ、それをゼミで発表してもらいます。次に、その発表について他のゼミ生とディスカッションをします。さらに、発表で使った資料は、岸本ゼミのウェブページで公表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	学生による企業分析 (1)	4 年次のゼミ生のうち第 1 回の授業で発表することが割り当てられた学生 2 名がレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 2 回	学生による企業分析 (2)	第 1 回と同様 (1 を 2 と読み替え)
第 3 回	学生による企業分析 (3)	第 1 回と同様 (1 を 3 と読み替え)
第 4 回	学生による企業分析 (4)	第 1 回と同様 (1 を 4 と読み替え)
第 5 回	学生による企業分析 (5)	第 1 回と同様 (1 を 5 と読み替え)
第 6 回	学生による企業分析 (6)	第 1 回と同様 (1 を 6 と読み替え)
第 7 回	学生による企業分析 (7)	第 1 回と同様 (1 を 7 と読み替え)
第 8 回	学生による企業分析 (8)	3 年次のゼミ生のうち第 8 回の授業で発表することが割り当てられた学生 2 名がレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 9 回	学生による企業分析 (9)	第 8 回と同様 (8 を 9 と読み替え)
第 10 回	学生による企業分析 (10)	第 8 回と同様 (8 を 10 と読み替え)
第 11 回	学生による企業分析 (11)	第 8 回と同様 (8 を 11 と読み替え)
第 12 回	学生による企業分析 (12)	第 8 回と同様 (8 を 12 と読み替え)
第 13 回	学生による企業分析 (13)	第 8 回と同様 (8 を 13 と読み替え)
第 14 回	学生による企業分析 (14)	第 8 回と同様 (8 を 14 と読み替え)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読する文献の事前学習、担当企業の分析、レジュメの作成等。本授業の準備学習・および復習時間は、合計して各回につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業中に適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

【3 年次生に対する評価方法】

評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリアした学生に A 評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、A- 以下の評価をつけますし、さらに、パフォーマンスが著しく芳しくない学生については、4 年次へ進級する際ゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、進級時のゼミ継続を自動的に認めていません。

【4 年次生に対する評価方法】

4 年次生の評価は、3 年生の評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、4 年次生に対しては、3 年次生より高いパフォーマンスを要求します。

【3、4 年次生の両方に対する注意事項】

岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、万が一これらのルールに抵触すると、進級時にゼミの参加を遠慮してもらうことがありますし、場合によっては年度途中で退ゼミ勧告をすることもあります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの活性化。

【学生が準備すべき機器他】

発表に PowerPoint や WORD 等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

【その他の重要事項】

本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基礎知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。

上で説明したように、本演習の活動は、輪読、投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力を養う科目と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門 I/II、会計学入門 I/II、財務会計論 I/II、経営分析論 I/II、企業評価論 I/II があります。また、後者の科目としてファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門 I/II、コーポレートファイナンス入門 I/II があります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

【Outline (in English)】

The purpose of this seminar is to get students acquainted with the fundamental analysis, which is a method for analyzing stocks and bonds from the point of view of investors. In general, corporations can be analyzed with respect to each of functional areas, such as management, management strategy, finance, accounting, marketing, and operations management. And the performance of a corporation depends on the performance in all of these functional areas.

Therefore, students in this seminar are encouraged to apply all the knowledge and skills they have acquired in the courses they have taken at the Faculty of Business Administration. In the Spring semester, students in this seminar present summaries of assigned chapters of textbooks in one of the aforementioned areas. In the Fall semester, students analyze corporations they choose and present their analysis in the seminar. The summaries of these analysis will be posted on the Web page set up for this seminar.

Learning objectives: This course has three main objectives. First, students should be able to learn how to analyze a specific company from the standpoint of an investor or a lender and be able to apply the techniques to actual companies. Second, students should be able to read technical books effectively. Third, students should be able to summarize the results of their analysis in a resume and present it in an easy-to-understand manner in the seminar.

Learning activities outside of the classroom: Prior study of the textbook, analysis of the chosen company, and preparation of presentation. A student is expected to spend about four hours every week to read the text, analyze the chosen company or prepare for the presentation.

Grading criteria/policy:

【Evaluation of junior students】

Grading will be based on several factors, including the quality of resumes, presentations, participation in discussions, and contributions to seminar activities outside of class. As a rule of thumb, a grade A will be given to students who have satisfactorily performed these activities. On the other hand, students who do not perform well in these activities will receive a grade of A- or lower, and a junior who performs poorly may not be allowed to participate in this seminar when he or she become a senior. In other words, students are not automatically allowed to continue to participate in this seminar in their second year.

[Evaluation of senior students]

Senior students will be evaluated in the same way as junior students. Note, however, that senior students are expected to perform better than junior students.

(Note for both 3rd and 4th year students)

This seminar has strict rules regarding attendance, tardiness, and leaving early. In addition, strict rules will be applied to preparing presentation materials in a timely manner. Therefore, in the unlikely event where you violate any of these rules, you may be asked to refrain from participating in the seminar at the time of advancement to the senior year, and in some cases, you may be advised to withdraw from the seminar in the middle of the academic year.

MAN200FA

演習 1

北田 皓嗣

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では企業のサステナビリティ経営をテーマにします。近年、サステナビリティは経営戦略を考える上で、重要なキーワードになっています。投資家は ESG(Environmental, Social, Governance) の要素を、ますます投資評価に反映してきています。SDGs (Sustainable Development Goals) に貢献する事業を展開することで、新しいマーケットを開拓することもできます。ファッション誌でもエシカルをテーマとした特集が組まれることも多くなり、若い世代のターゲットとするアパレル企業を中心にエシカルブランドの展開され始めました。

ただしこのような問題に対して解決方法をすぐに提示することはできませんが、どこに問題の所在があるのか、問題がどのような構造で起きているのかについて学び取る力を習得していきます。またアカウンタビリティやソーシャルビジネスなどの新しい社会統治の潮流の視点から経営現象をみていきます。

【到達目標】

当ゼミでは、このような問題を理解するために一助となりそうな書物を選び、その一般的な理解を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期の前半は講義形式で、授業を進め、後半以降はグループワークを行います。グループワークの成果を、他大学との合同ゼミや企業の CSR 担当者の方に向けて発表してもらいます。

夏休みにはゼミ合宿の実施も計画します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
第 2 回	サステナビリティの基礎	社会課題、環境問題について考察します。
第 3 回	サステナビリティと企業	世界の経営者が企業と社会の関係についてどのように議論を展開しているのかについて学びます。
第 4 回	日本企業とサステナビリティ	各自で企業のサステナビリティ経営について調べてもらいます。
第 5 回	サステナビリティ戦略	企業のサステナビリティ戦略について考察します。
第 6 回	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
第 7 回	レポートのまとめ方	アウトラインの設定、論理的な考察の方法について考えます。
第 8 回	サステナビリティ	企業の社会的な責任のあり方について考えます。
第 9 回	アカウンタビリティ	情報開示の基礎理論として、アカウンタビリティについて学びます。
第 10 回	CSV	企業戦略への社会的責任の反映の方法を学びます。
第 11 回	環境コスト	会計システムのなかに環境配慮を取り入れる方法を考えます。
第 12 回	GRI	情報開示の理論的バックグラウンドを整理します。
第 13 回	統合報告	通常の財務報告と CSR 報告書の関係について考えます。
第 14 回	CDP	温室効果ガスの問題と、その開示の制度について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持った問題に対して、個別に文献を調べてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で適宜紹介します。

【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の報告（50%）、レポート（50%）
4 年生には卒業論文を作成してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

企業を訪問したり、企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【その他の重要事項】

他の専門科目で学習した知識を基礎に、サステナビリティの領域に応用します。経営学部の多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論 I/II、経営管理論 I/II、会計学入門 I/II と関連があります。

【Outline (in English)】

Corporate Social Responsibility (CSR) is an essential idea that enhances a company to integrate environmental and social concerns into the operations. This course teaches students how to interpret companies activities in order to evaluate them from stakeholder perspectives.

The objective of this class is to understand sustainability. Students will be required to write a report assignment outside of class. Grades will be based on class participation and reports.

MAN200FA

演習 2

北田 皓嗣

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では企業のサステナビリティ経営をテーマにします。近年、サステナビリティは経営戦略を考える上で、重要なキーワードになっています。投資家は ESG(Environmental, Social, Governance) の要素を、ますます投資評価に反映してきています。SDGs (Sustainable Development Goals) に貢献する事業を展開することで、新しいマーケットを開拓することもできます。ファッション誌でもエシカルをテーマとした特集が組まれることも多くなり、若い世代のターゲットとするアパレル企業を中心にエシカルブランドの展開され始めました。

ただしこのような問題に対して解決方法をすぐに提示することはできませんが、どこに問題の所在があるのか、問題がどのような構造で起きているのかについて学び取る力を習得していきます。またアカウンタビリティやソーシャルビジネスなどの新しい社会統治の潮流の視点から経営現象をみていきます。

【到達目標】

当ゼミでは、このような問題を理解するために一助となりそうな書物を選び、その一般的な理解を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期の前半は講義形式で、授業を進め、後半以降はグループワークを行います。グループワークの成果を、他大学との合同ゼミや企業の CSR 担当者の方に向けて発表してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
第 2 回	サステナビリティの基礎	社会課題、環境問題について考察します。
第 3 回	サステナビリティと企業	世界の経営者が企業と社会の関係についてどのように議論を展開しているのかについて学びます。
第 4 回	日本企業とサステナビリティ	各自で企業のサステナビリティ経営について調べてもらいます。
第 5 回	サステナビリティ戦略	企業のサステナビリティ戦略について考察します。
第 6 回	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
第 7 回	レポートのまとめ方	アウトラインの設定、論理的な考察の方法について考えます。
第 8 回	CSR	企業の社会的な責任のあり方について考えます。
第 9 回	アカウンタビリティ	情報開示の基礎理論として、アカウンタビリティについて学びます。
第 10 回	CSV	企業戦略への社会的責任の反映の方法を学びます。
第 11 回	環境コスト	会計システムのなかに環境配慮を取り入れる方法を考えます。
第 12 回	GRI	情報開示の理論的バックグラウンドを整理します。
第 13 回	統合報告	通常の財務報告と CSR 報告書の関係について考えます。
第 14 回	CDP	温室効果ガスの問題と、その開示の制度について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持った問題に対して、個別に文献を調べてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で適宜紹介します。

【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の報告（50%）、レポート（50%）
4 年生には卒業論文を作成してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

企業を訪問したり、企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【その他の重要事項】

他の専門科目で学習した知識を基礎に、CSR や公共性、アカウンタビリティの領域に応用します。

経営学部の多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論 I/II、経営管理論 I/II、会計学入門 I/II と関連があります。

【Outline (in English)】

Corporate Social Responsibility (CSR) is an essential idea that enhances a company to integrate environmental and social concerns into the operations. This course teaches students how to interpret companies activities in order to evaluate them from stakeholder perspectives.

The objective of this class is to understand sustainability. Students will be required to write a report assignment outside of class. Grades will be based on class participation and reports.

MAN300FA

演習 3

北田 皓嗣

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では企業のサステナビリティ経営をテーマにします。近年、サステナビリティは経営戦略を考える上で、重要なキーワードになっています。投資家は ESG(Environmental, Social, Governance) の要素を、ますます投資評価に反映してきています。SDGs (Sustainable Development Goals) に貢献する事業を展開することで、新しいマーケットを開拓することもできます。ファッション誌でもエシカルをテーマとした特集が組まれることも多くなり、若い世代のターゲットとするアパレル企業を中心にエシカルブランドの展開され始めました。

ただしこのような問題に対して解決方法をすぐに提示することはできませんが、どこに問題の所在があるのか、問題がどのような構造で起きているのかについて学び取る力を習得していきます。またアカウンタビリティやソーシャルビジネスなどの新しい社会統治の潮流の視点から経営現象をみていきます。

【到達目標】

当ゼミでは、このような問題を理解するために一助となりそうな書物を選び、その一般的な理解を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期の前半は講義形式で、授業を進め、後半以降はグループワークを行います。グループワークの成果を、他大学との合同ゼミや企業の CSR 担当者の方に向けて発表してもらいます。

夏休みにはゼミ合宿の実施も計画します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
第 2 回	サステナビリティの基礎	社会課題、環境問題について考察します。
第 3 回	サステナビリティと企業	世界の経営者が企業と社会の関係についてどのように議論を展開しているのかについて学びます。
第 4 回	日本企業とサステナビリティ	各自で企業のサステナビリティ経営について調べてもらいます。
第 5 回	サステナビリティ戦略	企業のサステナビリティ戦略について考察します。
第 6 回	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
第 7 回	レポートのまとめ方	アウトラインの設定、論理的な考察の方法について考えます。
第 8 回	サステナビリティ	企業の社会的な責任のあり方について考えます。
第 9 回	アカウンタビリティ	情報開示の基礎理論として、アカウンタビリティについて学びます。
第 10 回	CSV	企業戦略への社会的責任の反映の方法を学びます。
第 11 回	環境コスト	会計システムのなかに環境配慮を取り入れる方法を考えます。
第 12 回	GRI	情報開示の理論的バックグラウンドを整理します。
第 13 回	統合報告	通常の財務報告と CSR 報告書の関係について考えます。
第 14 回	CDP	温室効果ガスの問題と、その開示の制度について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持った問題に対して、個別に文献を調べてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で適宜紹介します。

【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の報告（50%）、レポート（50%）
4 年生には卒業論文を作成してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

企業を訪問したり、企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【その他の重要事項】

他の専門科目で学習した知識を基礎に、サステナビリティの領域に応用します。経営学部の多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論 I/II、経営管理論 I/II、会計学入門 I/II と関連があります。

【Outline (in English)】

Corporate Social Responsibility (CSR) is an essential idea that enhances a company to integrate environmental and social concerns into the operations. This course teaches students how to interpret companies activities in order to evaluate them from stakeholder perspectives.

The objective of this class is to understand sustainability. Students will be required to write a report assignment outside of class. Grades will be based on class participation and reports.

MAN300FA

演習 4

北田 皓嗣

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では企業のサステナビリティ経営をテーマにします。近年、サステナビリティは経営戦略を考える上で、重要なキーワードになっています。投資家は ESG(Environmental, Social, Governance) の要素を、ますます投資評価に反映してきています。SDGs (Sustainable Development Goals) に貢献する事業を展開することで、新しいマーケットを開拓することもできます。ファッション誌でもエシカルをテーマとした特集が組まれることも多くなり、若い世代のターゲットとするアパレル企業を中心にエシカルブランドの展開され始めました。

ただしこのような問題に対して解決方法をすぐに提示することはできませんが、どこに問題の所在があるのか、問題がどのような構造で起きているのかについて学び取る力を習得していきます。またアカウンタビリティやソーシャルビジネスなどの新しい社会統治の潮流の視点から経営現象をみていきます。

【到達目標】

当ゼミでは、このような問題を理解するために一助となりそうな書物を選び、その一般的な理解を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期の前半は講義形式で、授業を進め、後半以降はグループワークを行います。グループワークの成果を、他大学との合同ゼミや企業の CSR 担当者の方に向けて発表してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
第 2 回	サステナビリティの基礎	社会課題、環境問題について考察します。
第 3 回	サステナビリティと企業	世界の経営者が企業と社会の関係についてどのように議論を展開しているのかについて学びます。
第 4 回	日本企業とサステナビリティ	各自で企業のサステナビリティ経営について調べてもらいます。
第 5 回	サステナビリティ戦略	企業のサステナビリティ戦略について考察します。
第 6 回	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
第 7 回	レポートのまとめ方	アウトラインの設定、論理的な考察の方法について考えます。
第 8 回	CSR	企業の社会的責任のあり方について考えます。
第 9 回	アカウンタビリティ	情報開示の基礎理論として、アカウンタビリティについて学びます。
第 10 回	CSV	企業戦略への社会的責任の反映の方法を学びます。
第 11 回	環境コスト	会計システムのなかに環境配慮を取り入れる方法を考えます。
第 12 回	GRI	情報開示の理論的バックグラウンドを整理します。
第 13 回	統合報告	通常の財務報告と CSR 報告書の関係について考えます。
第 14 回	CDP	温室効果ガスの問題と、その開示の制度について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持った問題に対して、個別に文献を調べてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で適宜紹介します。

【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の報告（50%）、レポート（50%）

4 年生には卒業論文を作成してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

企業を訪問したり、企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【その他の重要事項】

他の専門科目で学習した知識を基礎に、CSR や公共性、アカウンタビリティの領域に応用します。

経営学部の多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論 I/II、経営管理論 I/II、会計学入門 I/II と関連があります。

【Outline (in English)】

Corporate Social Responsibility (CSR) is an essential idea that enhances a company to integrate environmental and social concerns into the operations. This course teaches students how to interpret companies activities in order to evaluate them from stakeholder perspectives.

The objective of this class is to understand sustainability. Students will be required to write a report assignment outside of class. Grades will be based on class participation and reports.

MAN400FA

演習 5

北田 皓嗣

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では企業のサステナビリティ経営をテーマにします。近年、サステナビリティは経営戦略を考える上で、重要なキーワードになっています。投資家は ESG(Environmental, Social, Governance) の要素を、ますます投資評価に反映してきています。SDGs (Sustainable Development Goals) に貢献する事業を展開することで、新しいマーケットを開拓することもできます。ファッション誌でもエシカルをテーマとした特集が組まれることも多くなり、若い世代のターゲットとするアパレル企業を中心にエシカルブランドの展開され始めました。

ただしこのような問題に対して解決方法をすぐに提示することはできませんが、どこに問題の所在があるのか、問題がどのような構造で起きているのかについて学び取る力を習得していきます。またアカウンタビリティやソーシャルビジネスなどの新しい社会統治の潮流の視点から経営現象をみていきます。

【到達目標】

当ゼミでは、このような問題を理解するために一助となりそうな書物を選び、その一般的な理解を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期の前半は講義形式で、授業を進め、後半以降はグループワークを行います。グループワークの成果を、他大学との合同ゼミや企業の CSR 担当者の方に向けて発表してもらいます。

夏休みにはゼミ合宿の実施も計画します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
第 2 回	サステナビリティの基礎	社会課題、環境問題について考察します。
第 3 回	サステナビリティと企業	世界の経営者が企業と社会の関係についてどのように議論を展開しているのかについて学びます。
第 4 回	日本企業とサステナビリティ	各自で企業のサステナビリティ経営について調べてもらいます。
第 5 回	サステナビリティ戦略	企業のサステナビリティ戦略について考察します。
第 6 回	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
第 7 回	レポートのまとめ方	アウトラインの設定、論理的な考察の方法について考えます。
第 8 回	サステナビリティ	企業の社会的な責任のあり方について考えます。
第 9 回	アカウンタビリティ	情報開示の基礎理論として、アカウンタビリティについて学びます。
第 10 回	CSV	企業戦略への社会的責任の反映の方法を学びます。
第 11 回	環境コスト	会計システムのなかに環境配慮を取り入れる方法を考えます。
第 12 回	GRI	情報開示の理論的バックグラウンドを整理します。
第 13 回	統合報告	通常の財務報告と CSR 報告書の関係について考えます。
第 14 回	CDP	温室効果ガスの問題と、その開示の制度について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持った問題に対して、個別に文献を調べてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で適宜紹介します。

【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の報告（50%）、レポート（50%）
4 年生には卒業論文を作成してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

企業を訪問したり、企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【その他の重要事項】

他の専門科目で学習した知識を基礎に、サステナビリティの領域に応用します。経営学部の多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論 I/II、経営管理論 I/II、会計学入門 I/II と関連があります。

【Outline (in English)】

Corporate Social Responsibility (CSR) is an essential idea that enhances a company to integrate environmental and social concerns into the operations. This course teaches students how to interpret companies activities in order to evaluate them from stakeholder perspectives.

The objective of this class is to understand sustainability. Students will be required to write a report assignment outside of class. Grades will be based on class participation and reports.

MAN400FA

演習 6

北田 皓嗣

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では企業のサステナビリティ経営をテーマにします。近年、サステナビリティは経営戦略を考える上で、重要なキーワードになっています。投資家は ESG(Environmental, Social, Governance) の要素を、ますます投資評価に反映してきています。SDGs (Sustainable Development Goals) に貢献する事業を展開することで、新しいマーケットを開拓することもできます。ファッション誌でもエシカルをテーマとした特集が組まれることも多くなり、若い世代のターゲットとするアパレル企業を中心にエシカルブランドの展開され始めました。

ただしこのような問題に対して解決方法をすぐに提示することはできませんが、どこに問題の所在があるのか、問題がどのような構造で起きているのかについて学び取る力を習得していきます。またアカウンタビリティやソーシャルビジネスなどの新しい社会統治の潮流の視点から経営現象をみていきます。

【到達目標】

当ゼミでは、このような問題を理解するために一助となりそうな書物を選び、その一般的な理解を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期の前半は講義形式で、授業を進め、後半以降はグループワークを行います。グループワークの成果を、他大学との合同ゼミや企業の CSR 担当者の方に向けて発表してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
第 2 回	サステナビリティの基礎	社会課題、環境問題について考察します。
第 3 回	サステナビリティと企業	世界の経営者が企業と社会の関係についてどのように議論を展開しているのかについて学びます。
第 4 回	日本企業とサステナビリティ	各自で企業のサステナビリティ経営について調べてもらいます。
第 5 回	サステナビリティ戦略	企業のサステナビリティ戦略について考察します。
第 6 回	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
第 7 回	レポートのまとめ方	アウトラインの設定、論理的な考察の方法について考えます。
第 8 回	CSR	企業の社会的な責任のあり方について考えます。
第 9 回	アカウンタビリティ	情報開示の基礎理論として、アカウンタビリティについて学びます。
第 10 回	CSV	企業戦略への社会的責任の反映の方法を学びます。
第 11 回	環境コスト	会計システムのなかに環境配慮を取り入れる方法を考えます。
第 12 回	GRI	情報開示の理論的バックグラウンドを整理します。
第 13 回	統合報告	通常の財務報告と CSR 報告書の関係について考えます。
第 14 回	CDP	温室効果ガスの問題と、その開示の制度について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持った問題に対して、個別に文献を調べてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で適宜紹介します。

【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の報告（50%）、レポート（50%）
4 年生には卒業論文を作成してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

企業を訪問したり、企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【その他の重要事項】

他の専門科目で学習した知識を基礎に、CSR や公共性、アカウンタビリティの領域に応用します。

経営学部の多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論 I/II、経営管理論 I/II、会計学入門 I/II と関連があります。

【Outline (in English)】

Corporate Social Responsibility (CSR) is an essential idea that enhances a company to integrate environmental and social concerns into the operations. This course teaches students how to interpret companies activities in order to evaluate them from stakeholder perspectives.

The objective of this class is to understand sustainability. Students will be required to write a report assignment outside of class. Grades will be based on class participation and reports.

MAN200FA

演習 1

木原 章

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①現代社会の動向を新聞などのマスコミ報道を通じて探索し、②その中から何らかの形で自分と関わる問題を見だし、③その問題意識を発展する形で研究テーマを絞り込み、④テーマを勉強する中で自分としての意見を確立し、⑤卒業研究として発表する、までの段階を勉強します。

【到達目標】

学生は、自ら発見したテーマについて、世の中の動向を調べ、それらに対する自分なりの評価を行った上で、自分の意見を形成します。同時に、その為に必要な、文章読解能力、データ解析能力、プレゼン能力、文章作成力等を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゼミでは、以下のトレーニングを行います。

- ①自分のテーマに関係する問題点を新聞などのマスコミ報道から適切に抽出する能力
 - ②その報道内容を 200 字程度に要約する能力
 - ③自分の調べたことを要約して発表するプレゼン能力
 - ④そのテーマに基づいてグループディスカッションを行い、他人の意見を取り入れながら自分なりの見解を構築する能力
 - ⑤輪読を通じて、本を読破する能力
 - ⑥最終的に、卒業論文として自分の意見を文章でまとめ上げる能力
- これらのトレーニングを通じて、社会で通用する人材形成を行います。ゼミ内の情報交換は、全てゼミのサーバーを用い、基本的にペーパーレスで行います。必要に応じて、ノートパソコンを持参してください。必要に応じて Zoom によるオンライン方式で授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	新聞などのマスコミ報道の抽出・要約入門	新聞などのマスコミ報道を 200 字程度で要約するためのトレーニングを行います。
第 2 回	ニュース要約・グループ学習	グループ学習のテーマ決定
第 3 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) 全国民の DNA 採取の義務化は受け入れられるか？
第 4 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) 日本のゴミ問題
第 5 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) クローン技術は是非か？
第 6 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) 捕鯨問題について
第 7 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) 臓器移植について
第 8 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) 脳死は死か？
第 9 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) 原発を無くすには？
第 10 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) 生物多様性
第 11 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) ホットなバイオ市場
第 12 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) 有用動物
第 13 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) 遺伝子組み換え表示規制
第 14 回	夏ゼミ合宿テーマ選定	(過去の例) バイオ燃料

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・テレビ・インターネットを通じて、社会で今起こっている事に注意を傾けて下さい。特に、新聞は毎日必ず 30 分以上かけて目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間、合計 4 時間以上行う事とします。

【テキスト（教科書）】

輪読のテキストは、ゼミ生の意見を聴きながら決めます。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のプレゼン内容 (50%)、質疑応答への参加度合い (25%)、グループディスカッションでの貢献率 (25%) で成績をつけます。欠席届 (事前または事後) を出さずに 2 回以上欠席した場合は、不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生のテーマ設定をできるだけ早い時期に行う事とします。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ専用の Web を使って連絡・発表を行います。必ずインターネットにアクセスできる環境を用意して下さい。

【その他の重要事項】

ゼミの基本は、自発的な活動です。何の下調べも無しに、手ぶらで参加される方は辞めていただきます。

ゼミのサイトは

<http://bionews.i.hosei.ac.jp/>

経営学の専門基礎科目の修得が、経営学勉強会に必要となります。

【関連科目】

情報と倫理、情報と職業

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students start browsing the recent news articles and make short summaries of the news articles, at least 2 or 3 articles every week. During those browsing and summarizing process, the student will find the subject which the student might have interests and relevancy. Then, in the second step, students will brows the news articles relating to the subject to learn the details of the subject. Finally the student will find the most relevant theme in one's own subject as the theme of graduation research work. During those process, students will acquire the not only the knowledge but also reading, writing, and speaking skills which will be required as the general business person. The process of the thesis writing, students will be taught individually.

【Learning Objectives】

Student will reach the level that one has one's own interest in the society as the matured participant. Then the student will study farther to find the solution for improving the society.

【Learning activities outside of classroom】

Student should brows and summarize the relevant news every week at least total 4 hours.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Own presentations 50%

Commitment to the other student's presentations 25%

Involvement in the class discussion 25%

MAN200FA

演習 2

木原 章

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①現代社会の動向を新聞などのマスコミ報道を通じて探索し、②その中から何らかの形で自分と関わる問題を見だし、③その問題意を通じて探索し、④その中から何らかの形で自分と関わる問題を見だし、⑤その問題意識を発展する形で研究テーマを絞り込み、⑥テーマを勉強する中で自分としての意見を確立し、⑦卒業研究として発表する、までの段階を勉強します。

【到達目標】

学生は、自ら発見したテーマについて、世の中の動向を調べ、それらに対する自分なりの評価を行った上で、自分の意見を形成します。同時に、その為に必要な、文章読解能力、データ解析能力、プレゼン能力、文章作成力等を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゼミでは、以下のトレーニングを行います。

- ①自分のテーマに関係する問題点を新聞などのマスコミ報道から適切に抽出する能力
 - ②その報道内容を 200 字程度に要約する能力
 - ③自分の調べたことを要約して発表するプレゼン能力
 - ④そのテーマに基づいてグループディスカッションを行い、他人の意見を取り入れながら自分なりの見解を構築する能力
 - ⑤輪読を通じて、本を読破する能力
 - ⑥最終的に、卒業論文として自分の意見を文章でまとめ上げる能力
- これらのトレーニングを通じて、社会で通用する人材形成を行います。ゼミ内の情報交換は、全てゼミのサーバーを用い、基本的にペーパーレスで行います。必要に応じて、ノートパソコンを持参してください。必要に応じて Zoom によるオンライン方式で授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	夏ゼミ合宿テーマ決定	(過去の例) 築地移転問題
第 2 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 風力発電の可能性
第 3 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 原発を支えたエネルギー政策
第 4 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) ブラック企業
第 5 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) マクドナルド研究
第 6 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 再生医療 (実状と未来)
第 7 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 日本のバイオベンチャー研究
第 8 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 地方再生
第 9 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) バイオミメティクス
第 10 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) プロスポーツビジネス
第 11 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) インバウンド消費
第 12 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) バイオエタノールの行方
第 13 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) クローン人間の悲劇性についての考察
第 14 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 遺伝子組み換えの安全性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・テレビ・インターネットを通じて、社会で今起こっている事に注意を傾けて下さい。特に、新聞は毎日必ず 30 分以上かけて目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間、合計 4 時間以上行う事とします。

【テキスト（教科書）】

輪読のテキストは、ゼミ生の意見を聴きながら決めます。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のプレゼン内容 (50%)、質疑応答への参加度合い (25%)、グループディスカッションでの貢献率 (25%) で成績をつけます。欠席届 (事前または事後) を出さずに 2 回以上欠席した場合は、不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生のテーマ設定をできるだけ早い時期に行う事とします。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ専用の Web を使って連絡・発表を行います。必ずインターネットにアクセスできる環境を用意して下さい。

【その他の重要事項】

ゼミの基本は、自発的な活動です。何の下調べも無しに、手ぶらで参加される方は辞めていただきます。

ゼミのサイトは

<http://bionews.i.hosei.ac.jp/>

経営学の専門基礎科目の修得が、経営学勉強会に必要となります。

【関連科目】

情報と倫理、情報と職業

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students start browsing the recent news articles and make short summaries of the news articles, at least 2 or 3 articles every week. During those browsing and summarizing process, the student will find the subject which the student might have interests and relevancy. Then, in the second step, students will brows the news articles relating to the subject to learn the details of the subject. Finally the student will find the most relevant theme in one's own subject as the theme of graduation research work. During those process, students will acquire the not only the knowledge but also reading, writing, and speaking skills which will be required as the general business person. The process of the thesis writing, students will be taught individually.

【Learning Objectives】

Student will reach the level that one has one's own interest in the society as the matured participant. Then the student will study farther to find the solution for improving the society.

【Learning activities outside of classroom】

Student should brows and summarize the relevant news every week at least total 4 hours.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Own presentations 50%

Commitment to the other student's presentations 25%

Involvement in the class discussion 25%

MAN300FA

演習 3

木原 章

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①現代社会の動向を新聞などのマスコミ報道を通じて探索し、②その中から何らかの形で自分と関わる問題を見だし、③その問題意識を発展する形で研究テーマを絞り込み、④テーマを勉強する中で自分としての意見を確立し、⑤卒業研究として発表する、までの段階を勉強します。

【到達目標】

学生は、自ら発見したテーマについて、世の中の動向を調べ、それらに対する自分なりの評価を行った上で、自分の意見を形成します。同時に、その為に必要な、文章読解能力、データ解析能力、プレゼン能力、文章作成力等を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゼミでは、以下のトレーニングを行います。

- ①自分のテーマに関係する問題点を新聞などのマスコミ報道から適切に抽出する能力
- ②その報道内容を 200 字程度に要約する能力
- ③自分の調べたことを要約して発表するプレゼン能力
- ④そのテーマに基づいてグループディスカッションを行い、他人の意見を取り入れながら自分なりの見解を構築する能力
- ⑤輪読を通じて、本を読破する能力
- ⑥最終的に、卒業論文として自分の意見を文章でまとめ上げる能力

これらのトレーニングを通じて、社会で通用する人材形成を行います。ゼミ内の情報交換は、全てゼミのサーバーを用い、基本的にペーパーレスで行います。必要に応じて、ノートパソコンを持参してください。必要に応じて Zoom によるオンライン方式で授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	新聞などのマスコミ報道の抽出・要約入門	新聞などのマスコミ報道を 200 字程度で要約するためのトレーニングを行います。
第 2 回	ニュース要約・グループ学習	グループ学習のテーマ決定
第 3 回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）全国民の DNA 採取の義務化は受け入れられるか？
第 4 回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）日本のゴミ問題
第 5 回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）クローン技術は是非か
第 6 回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）捕鯨問題について
第 7 回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）臓器移植について
第 8 回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）脳死は死か？
第 9 回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）原発を無くすには？
第 10 回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）生物多様性
第 11 回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）ホットなバイオ市場
第 12 回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）有用動物
第 13 回	ニュース要約・グループ学習	（過去の例）遺伝子組み換え表示規制
第 14 回	夏ゼミ合宿テーマ選定	（過去の例）バイオ燃料

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・テレビ・インターネットを通じて、社会で今起きている事に注意を傾けて下さい。特に、新聞は毎日必ず 30 分以上かけて目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間、合計 4 時間以上行う事とします。

【テキスト（教科書）】

輪読のテキストは、ゼミ生の意見を聴きながら決めます。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のプレゼン内容（50%）、質疑応答への参加度合い（25%）、グループディスカッションでの貢献率（25%）で成績をつけます。欠席届（事前または事後）を出さずに 2 回以上欠席した場合は、不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生のテーマ設定をできるだけ早い時期に行う事とします。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ専用の Web を使って連絡・発表を行います。必ずインターネットにアクセスできる環境を用意して下さい。

【その他の重要事項】

ゼミの基本は、自発的な活動です。何の下調べも無しに、手ぶらで参加される方は辞めていただきます。

ゼミのサイトは

<http://bionews.i.hosei.ac.jp/>

経営学の専門基礎科目の修得が、経営学勉強会に必要となります。

【関連科目】

情報と倫理、情報と職業

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students start browsing the recent news articles and make short summaries of the news articles, at least 2 or 3 articles every week. During those browsing and summarizing process, the student will find the subject which the student might have interests and relevancy. Then, in the second step, students will brows the news articles relating to the subject to learn the details of the subject. Finally the student will find the most relevant theme in one's own subject as the theme of graduation research work. During those process, students will acquire the not only the knowledge but also reading, writing, and speaking skills which will be required as the general business person. The process of the thesis writing, students will be taught individually.

【Learning Objectives】

Student will reach the level that one has one's own interest in the society as the matured participant. Then the student will study farther to find the solution for improving the society.

【Learning activities outside of classroom】

Student should brows and summarize the relevant news every week at least total 4 hours.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Own presentations 50%

Commitment to the other student's presentations 25%

Involvement in the class discussion 25%

MAN300FA

演習 4

木原 章

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①現代社会の動向を新聞などのマスコミ報道を通じて探索し、②その中から何らかの形で自分と関わる問題を見だし、③その問題意を通じて探索し、④その中から何らかの形で自分と関わる問題を見だし、⑤その問題意識を発展する形で研究テーマを絞り込み、⑥テーマを勉強する中で自分としての意見を確立し、⑦卒業研究として発表する、までの段階を勉強します。

【到達目標】

学生は、自ら発見したテーマについて、世の中の動向を調べ、それらに対する自分なりの評価を行った上で、自分の意見を形成します。同時に、その為に必要な、文章読解能力、データ解析能力、プレゼン能力、文章作成力等を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゼミでは、以下のトレーニングを行います。

- ①自分のテーマに関係する問題点を新聞などのマスコミ報道から適切に抽出する能力
 - ②その報道内容を 200 字程度に要約する能力
 - ③自分の調べたことを要約して発表するプレゼン能力
 - ④そのテーマに基づいてグループディスカッションを行い、他人の意見を取り入れながら自分なりの見解を構築する能力
 - ⑤輪読を通じて、本を読破する能力
 - ⑥最終的に、卒業論文として自分の意見を文章でまとめ上げる能力
- これらのトレーニングを通じて、社会で通用する人材形成を行います。ゼミ内の情報交換は、全てゼミのサーバーを用い、基本的にペーパーレスで行います。必要に応じて、ノートパソコンを持参してください。必要に応じて Zoom によるオンライン方式で授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	夏ゼミ合宿テーマ決定	(過去の例) 築地移転問題
第 2 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 風力発電の可能性
第 3 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 原発を支えたエネルギー政策
第 4 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) ブラック企業
第 5 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) マクドナルド研究
第 6 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 再生医療 (実状と未来)
第 7 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 日本のバイオベンチャー研究
第 8 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 地方再生
第 9 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) バイオメテイクス
第 10 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) プロスポーツビジネス
第 11 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) インバウンド消費
第 12 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) バイオエタノールの行方
第 13 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) クローン人間の悲劇性についての考察
第 14 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 遺伝子組み換えの安全性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・テレビ・インターネットを通じて、社会で今起こっている事に注意を傾けて下さい。特に、新聞は毎日必ず 30 分以上かけて目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間、合計 4 時間以上行う事とします。

【テキスト（教科書）】

輪読のテキストは、ゼミ生の意見を聴きながら決めます。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のプレゼン内容 (50%)、質疑応答への参加度合い (25%)、グループディスカッションでの貢献率 (25%) で成績をつけます。欠席届 (事前または事後) を出さずに 2 回以上欠席した場合は、不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生のテーマ設定をできるだけ早い時期に行う事とします。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ専用の Web を使って連絡・発表を行います。必ずインターネットにアクセスできる環境を用意して下さい。

【その他の重要事項】

ゼミの基本は、自発的な活動です。何の下調べも無しに、手ぶらで参加される方は辞めていただきます。

ゼミのサイトは

<http://bionews.i.hosei.ac.jp/>

経営学の専門基礎科目の修得が、経営学勉強会に必要となります。

【関連科目】

情報と倫理、情報と職業

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students start browsing the recent news articles and make short summaries of the news articles, at least 2 or 3 articles every week. During those browsing and summarizing process, the student will find the subject which the student might have interests and relevancy. Then, in the second step, students will brows the news articles relating to the subject to learn the details of the subject. Finally the student will find the most relevant theme in one's own subject as the theme of graduation research work. During those process, students will acquire the not only the knowledge but also reading, writing, and speaking skills which will be required as the general business person. The process of the thesis writing, students will be taught individually.

【Learning Objectives】

Student will reach the level that one has one's own interest in the society as the matured participant. Then the student will study farther to find the solution for improving the society.

【Learning activities outside of classroom】

Student should brows and summarize the relevant news every week at least total 4 hours.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Own presentations 50%

Commitment to the other student's presentations 25%

Involvement in the class discussion 25%

MAN400FA

演習 5

木原 章

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①現代社会の動向を新聞などのマスコミ報道を通じて探索し、②その中から何らかの形で自分と関わる問題を見だし、③その問題意識を発展する形で研究テーマを絞り込み、④テーマを勉強する中で自分としての意見を確立し、⑤卒業研究として発表する、までの段階を勉強します。

【到達目標】

学生は、自ら発見したテーマについて、世の中の動向を調べ、それらに対する自分なりの評価を行った上で、自分の意見を形成します。同時に、その為に必要な、文章読解能力、データ解析能力、プレゼン能力、文章作成力等を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゼミでは、以下のトレーニングを行います。

- ①自分のテーマに関係する問題点を新聞などのマスコミ報道から適切に抽出する能力
 - ②その報道内容を 200 字程度に要約する能力
 - ③自分の調べたことを要約して発表するプレゼン能力
 - ④そのテーマに基づいてグループディスカッションを行い、他人の意見を取り入れながら自分なりの見解を構築する能力
 - ⑤輪読を通じて、本を読破する能力
 - ⑥最終的に、卒業論文として自分の意見を文章でまとめ上げる能力
- これらのトレーニングを通じて、社会で通用する人材形成を行います。ゼミ内の情報交換は、全てゼミのサーバーを用い、基本的にペーパーレスで行います。必要に応じて、ノートパソコンを持参してください。必要に応じて Zoom によるオンライン方式で授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	新聞などのマスコミ報道の抽出・要約入門	新聞などのマスコミ報道を 200 字程度で要約するためのトレーニングを行います。
第 2 回	ニュース要約・グループ学習	グループ学習のテーマ決定
第 3 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) 全国民の DNA 採取の義務化は受け入れられるか？
第 4 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) 日本のゴミ問題
第 5 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) クローン技術は是非か
第 6 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) 捕鯨問題について
第 7 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) 臓器移植について
第 8 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) 脳死は死か？
第 9 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) 原発を無くすには？
第 10 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) 生物多様性
第 11 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) ホットなバイオ市場
第 12 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) 有用動物
第 13 回	ニュース要約・グループ学習	(過去の例) 遺伝子組み換え表示規制
第 14 回	夏ゼミ合宿テーマ選定	(過去の例) バイオ燃料

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・テレビ・インターネットを通じて、社会で今起こっている事に注意を傾けて下さい。特に、新聞は毎日必ず 30 分以上かけて目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間、合計 4 時間以上行う事とします。

【テキスト（教科書）】

輪読のテキストは、ゼミ生の意見を聴きながら決めます。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のプレゼン内容 (50%)、質疑応答への参加度合い (25%)、グループディスカッションでの貢献率 (25%) で成績をつけます。欠席届 (事前または事後) を出さずに 2 回以上欠席した場合は、不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生のテーマ設定をできるだけ早い時期に行う事とします。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ専用の Web を使って連絡・発表を行います。必ずインターネットにアクセスできる環境を用意して下さい。

【その他の重要事項】

ゼミの基本は、自発的な活動です。何の下調べも無しに、手ぶらで参加される方は辞めていただきます。

ゼミのサイトは

<http://bionews.i.hosei.ac.jp/>

経営学の専門基礎科目の修得が、経営学勉強会に必要となります。

【関連科目】

情報と倫理、情報と職業

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students start browsing the recent news articles and make short summaries of the news articles, at least 2 or 3 articles every week. During those browsing and summarizing process, the student will find the subject which the student might have interests and relevancy. Then, in the second step, students will brows the news articles relating to the subject to learn the details of the subject. Finally the student will find the most relevant theme in one's own subject as the theme of graduation research work. During those process, students will acquire the not only the knowledge but also reading, writing, and speaking skills which will be required as the general business person. The process of the thesis writing, students will be taught individually.

【Learning Objectives】

Student will reach the level that one has one's own interest in the society as the matured participant. Then the student will study farther to find the solution for improving the society.

【Learning activities outside of classroom】

Student should brows and summarize the relevant news every week at least total 4 hours.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Own presentations 50%

Commitment to the other student's presentations 25%

Involvement in the class discussion 25%

MAN400FA

演習 6

木原 章

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①現代社会の動向を新聞などのマスコミ報道を通じて探索し、②その中から何らかの形で自分と関わる問題を見だし、③その問題意を通じて探索し、④その中から何らかの形で自分と関わる問題を見だし、⑤その問題意識を発展する形で研究テーマを絞り込み、⑥テーマを勉強する中で自分としての意見を確立し、⑦卒業研究として発表する、までの段階を勉強します。

【到達目標】

学生は、自ら発見したテーマについて、世の中の動向を調べ、それらに対する自分なりの評価を行った上で、自分の意見を形成します。同時に、その為に必要な、文章読解能力、データ解析能力、プレゼン能力、文章作成力等を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゼミでは、以下のトレーニングを行います。

- ①自分のテーマに関係する問題点を新聞などのマスコミ報道から適切に抽出する能力
 - ②その報道内容を 200 字程度に要約する能力
 - ③自分の調べたことを要約して発表するプレゼン能力
 - ④そのテーマに基づいてグループディスカッションを行い、他人の意見を取り入れながら自分なりの見解を構築する能力
 - ⑤輪読を通じて、本を読破する能力
 - ⑥最終的に、卒業論文として自分の意見を文章でまとめ上げる能力
- これらのトレーニングを通じて、社会で通用する人材形成を行います。ゼミ内の情報交換は、全てゼミのサーバーを用い、基本的にペーパーレスで行います。必要に応じて、ノートパソコンを持参してください。必要に応じて Zoom によるオンライン方式で授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	夏ゼミ合宿テーマ決定	(過去の例) 築地移転問題
第 2 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 風力発電の可能性
第 3 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 原発を支えたエネルギー政策
第 4 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) ブラック企業
第 5 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) マクドナルド研究
第 6 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 再生医療 (実状と未来)
第 7 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 日本のバイオベンチャー研究
第 8 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 地方再生
第 9 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) バイオミメティクス
第 10 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) プロスポーツビジネス
第 11 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) インバウンド消費
第 12 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) バイオエタノールの行方
第 13 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) クローン人間の悲劇性についての考察
第 14 回	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 遺伝子組み換えの安全性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・テレビ・インターネットを通じて、社会で今起こっている事に注意を傾けて下さい。特に、新聞は毎日必ず 30 分以上かけて目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間、合計 4 時間以上行う事とします。

【テキスト（教科書）】

輪読のテキストは、ゼミ生の意見を聴きながら決めます。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のプレゼン内容 (50%)、質疑応答への参加度合い (25%)、グループディスカッションでの貢献率 (25%) で成績をつけます。欠席届 (事前または事後) を出さずに 2 回以上欠席した場合は、不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生のテーマ設定をできるだけ早い時期に行う事とします。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ専用の Web を使って連絡・発表を行います。必ずインターネットにアクセスできる環境を用意して下さい。

【その他の重要事項】

ゼミの基本は、自発的な活動です。何の下調べも無しに、手ぶらで参加される方は辞めていただきます。

ゼミのサイトは

<http://bionews.i.hosei.ac.jp/>

経営学の専門基礎科目の修得が、経営学勉強会に必要となります。

【関連科目】

情報と倫理、情報と職業

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students start browsing the recent news articles and make short summaries of the news articles, at least 2 or 3 articles every week. During those browsing and summarizing process, the student will find the subject which the student might have interests and relevancy. Then, in the second step, students will brows the news articles relating to the subject to learn the details of the subject. Finally the student will find the most relevant theme in one's own subject as the theme of graduation research work. During those process, students will acquire the not only the knowledge but also reading, writing, and speaking skills which will be required as the general business person. The process of the thesis writing, students will be taught individually.

【Learning Objectives】

Student will reach the level that one has one's own interest in the society as the matured participant. Then the student will study farther to find the solution for improving the society.

【Learning activities outside of classroom】

Student should brows and summarize the relevant news every week at least total 4 hours.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Own presentations 50%

Commitment to the other student's presentations 25%

Involvement in the class discussion 25%

MAN200FA

演習 1

金 瑠 晋

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産への投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&A の意思決定に関する理解が深まります。
- ・企業の財務行動について理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は、次の要領で行われます。

- ①グループディスカッション（春学期）
 - ・初回の授業で学習内容について異論を行い、テキスト等を確定する。
 - ・受講者は、次回の学習内容について予習を行う。
 - ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
 - ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を発表する。
 - ・他のグループや講師から補足を行う。
 - ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。
- ②プロジェクトの発表（秋学期）
 - ・春学期の学習内容を踏まえながら、個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。
- ③学習内容によっては、①と②に変更があり得る。
- ④単位取得
 - ・単位取得のためには 2/3 以上の出席が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業の資金調達手段	証券の発行、借入など
第 2 回	マネーの時間価値	キャッシュフローの現在価値、将来価値、割引率の決定
第 3 回	資本構成理論：基礎 1	完全資本市場、財務レバレッジと財務リスク、MM の命題
第 4 回	資本構成理論：基礎 2	負債利用の節税効果、修正 MM 命題、倒産コスト、個人税と MM 命題
第 5 回	資本構成理論：発展	逆選択問題とベッキングオーダー理論、エージェンシー問題と資本構成
第 6 回	エクイティファイナンス 1	株式発行の方法と特徴、新規株式公開のプロセス、新規株式公開の費用
第 7 回	エクイティファイナンス 2	公募増資の現状と費用
第 8 回	デットファイナンス 1	負債による資金調達と情報、社債と借入の選択
第 9 回	デットファイナンス 2	担保と借入、担保と企業再生
第 10 回	内部資金と内部資本市場	内部資金と投資水準、内部資本市場
第 11 回	ペイアウト政策 1	配当政策における MM の命題、税制と顧客効果
第 12 回	ペイアウト政策 2	情報の非対称性と配当、フリーキャッシュフロー仮説
第 13 回	ペイアウト政策 3	自社株買い、配当と自社株買い、自社株買いの動機付け
第 14 回	総括および秋学期個人プロジェクトに向けての準備	企業の財務意思決定の総括、秋学期個人プロジェクト報告に関するガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるように心がけましょう。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、いくつかの候補から初回の授業で決めます。また、適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の報告 30 %、平常点（質問、コメントなどの授業参加度）40 %、報告 30 % に基づき総合的に評価します。特に、出席率が低い場合、または報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、学習支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline (in English)】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand the basic principle of valuing financial assets.
- understand how stocks, bonds, and derivatives are valued.
- understand how the firm raises the necessary capital.
- understand why M&As are conducted.
- build presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Preassigned presentation: 30%, Class participation; 40%, Project presentation : 30%.

MAN200FA

演習 2

金 瑠晋

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&A の意思決定に関する理解が深まります。
- ・企業の財務行動について理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は、次の要領で行われます。

- ①グループディスカッション（春学期）
 - ・初回の授業で学習内容について異論を行い、テキスト等を確定する。
 - ・受講者は、次回の学習内容について予習を行う。
 - ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
 - ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を発表する。
 - ・他のグループや講師から補足を行う。
 - ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。
- ②プロジェクトの発表（秋学期）
 - ・春学期の学習内容を踏まえながら、個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。
- ③学習内容によっては、①と②に変更があり得る。
- ④単位取得
 - ・単位取得のためには 2/3 以上の出席が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プロジェクトの発表	報告 1, 報告 2
第 2 回	プロジェクトの発表	報告 3, 報告 4
第 3 回	プロジェクトの発表	報告 5, 報告 6
第 4 回	プロジェクトの発表	報告 7, 報告 8
第 5 回	入ゼミ関連行事	入ゼミ希望者の面接と選考
第 6 回	プロジェクトの発表	報告 9, 報告 10
第 7 回	プロジェクトの発表	報告 11, 報告 12
第 8 回	プロジェクトの発表	報告 13, 報告 14
第 9 回	プロジェクトの発表	報告 15, 報告 16
第 10 回	プロジェクトの発表	報告 17, 報告 18
第 11 回	東京証券取引所見学及びセミナー受講	証券取引の仕組み、上場基準などの学習、セミナーの受講、模擬投資の体験
第 12 回	プロジェクトの発表	報告 19, 報告 20
第 13 回	プロジェクトの発表	報告 21, 報告 22
第 14 回	総括	プロジェクト報告における改善点、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるよう心掛けて下さい。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

秋学期はテキストを指定しません。適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

質問、コメントなど授業参加度 50 %、プロジェクトの発表 50 %。特に、出席率が低い場合、またはプロジェクトの報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、授業支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline (in English)】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand the basic principle of valuing financial assets.
- understand how stocks, bonds, and derivatives are valued.
- understand how the firm raises the necessary capital.
- understand why M&As are conducted.
- build presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Preassigned presentation: 30%, Class participation; 40%, Project presentation : 30%.

MAN300FA

演習 3

金 瑠 晋

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産への投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&A の意思決定に関する理解が深まります。
- ・企業の財務行動について理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は、次の要領で行われます。

- ①グループディスカッション（春学期）
 - ・初回の授業で学習内容について異論を行い、テキスト等を確定する。
 - ・受講者は、次回の学習内容について予習を行う。
 - ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
 - ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を発表する。
 - ・他のグループや講師から補足を行う。
 - ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。
- ②プロジェクトの発表（秋学期）
 - ・春学期の学習内容を踏まえながら、個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。
- ③学習内容によっては、①と②に変更があり得る。
- ④単位取得
 - ・単位取得のためには 2/3 以上の出席が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業の資金調達手段	証券の発行、借入など
第 2 回	マネーの時間価値	キャッシュフローの現在価値、将来価値、割引率の決定
第 3 回	資本構成理論：基礎 1	完全資本市場、財務レバレッジと財務リスク、MM の命題
第 4 回	資本構成理論：基礎 2	負債利用の節税効果、修正 MM 命題、倒産コスト、個人税と MM 命題
第 5 回	資本構成理論：発展	逆選択問題とベッキングオーダー理論、エージェンシー問題と資本構成
第 6 回	エクイティファイナンス 1	株式発行の方法と特徴、新規株式公開のプロセス、新規株式公開の費用
第 7 回	エクイティファイナンス 2	公募増資の現状と費用
第 8 回	デットファイナンス 1	負債による資金調達と情報、社債と借入の選択
第 9 回	デットファイナンス 2	担保と借入、担保と企業再生
第 10 回	内部資金と内部資本市場	内部資金と投資水準、内部資本市場
第 11 回	ペイアウト政策 1	配当政策における MM の命題、税制と顧客効果
第 12 回	ペイアウト政策 2	情報の非対称性と配当、フリーキャッシュフロー仮説
第 13 回	ペイアウト政策 3	自社株買い、配当と自社株買い、自社株買いの動機付け
第 14 回	総括および秋学期個人プロジェクトに向けての準備	企業の財務意思決定の総括、秋学期個人プロジェクト報告に関するガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるように心がけましょう。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、いくつかの候補から初回の授業で決めます。また、適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の報告 30 %、平常点（質問、コメントなどの授業参加度）40 %、報告 30 % に基づき総合的に評価します。特に、出席率が低い場合、または報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、学習支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline (in English)】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand the basic principle of valuing financial assets.
- understand how stocks, bonds, and derivatives are valued.
- understand how the firm raises the necessary capital.
- understand why M&As are conducted.
- build presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Preassigned presentation: 30%, Class participation; 40%, Project presentation : 30%.

MAN300FA

演習 4

金 瑠晋

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&A の意思決定に関する理解が深まります。
- ・企業の財務行動について理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は、次の要領で行われます。

- ①グループディスカッション（春学期）
 - ・初回の授業で学習内容について異論を行い、テキスト等を確定する。
 - ・受講者は、次回の学習内容について予習を行う。
 - ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
 - ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を発表する。
 - ・他のグループや講師から補足を行う。
 - ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。
- ②プロジェクトの発表（秋学期）
 - ・春学期の学習内容を踏まえながら、個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。
- ③学習内容によっては、①と②に変更があり得る。
- ④単位取得
 - ・単位取得のためには 2/3 以上の出席が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プロジェクトの発表	報告 1, 報告 2
第 2 回	プロジェクトの発表	報告 3, 報告 4
第 3 回	プロジェクトの発表	報告 5, 報告 6
第 4 回	プロジェクトの発表	報告 7, 報告 8
第 5 回	入ゼミ関連行事	入ゼミ希望者の面接と選考
第 6 回	プロジェクトの発表	報告 9, 報告 10
第 7 回	プロジェクトの発表	報告 11, 報告 12
第 8 回	プロジェクトの発表	報告 13, 報告 14
第 9 回	プロジェクトの発表	報告 15, 報告 16
第 10 回	プロジェクトの発表	報告 17, 報告 18
第 11 回	東京証券取引所見学及びセミナー受講	証券取引の仕組み、上場基準などの学習、セミナーの受講、模擬投資の体験
第 12 回	プロジェクトの発表	報告 19, 報告 20
第 13 回	プロジェクトの発表	報告 21, 報告 22
第 14 回	総括	プロジェクト報告における改善点、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるよう心掛けて下さい。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

秋学期はテキストを指定しません。適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

質問、コメントなど授業参加度 50 %、プロジェクトの発表 50 %。特に、出席率が低い場合、またはプロジェクトの報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、授業支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline (in English)】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand the basic principle of valuing financial assets.
- understand how stocks, bonds, and derivatives are valued.
- understand how the firm raises the necessary capital.
- understand why M&As are conducted.
- build presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Preassigned presentation: 30%, Class participation; 40%, Project presentation : 30%.

MAN400FA

演習 5

金 瑠 晋

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産への投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&A の意思決定に関する理解が深まります。
- ・企業の財務行動について理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は、次の要領で行われます。

- ①グループディスカッション（春学期）
 - ・初回の授業で学習内容について異論を行い、テキスト等を確定する。
 - ・受講者は、次回の学習内容について予習を行う。
 - ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
 - ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を発表する。
 - ・他のグループや講師から補足を行う。
 - ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。
- ②プロジェクトの発表（秋学期）
 - ・春学期の学習内容を踏まえながら、個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。
- ③学習内容によっては、①と②に変更があり得る。
- ④単位取得
 - ・単位取得のためには 2/3 以上の出席が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業の資金調達手段	証券の発行、借入など
第 2 回	マネーの時間価値	キャッシュフローの現在価値、将来価値、割引率の決定
第 3 回	資本構成理論：基礎 1	完全資本市場、財務レバレッジと財務リスク、MM の命題
第 4 回	資本構成理論：基礎 2	負債利用の節税効果、修正 MM 命題、倒産コスト、個人税と MM 命題
第 5 回	資本構成理論：発展	逆選択問題とベッキングオーダー理論、エージェンシー問題と資本構成
第 6 回	エクイティファイナンス 1	株式発行の方法と特徴、新規株式公開のプロセス、新規株式公開の費用
第 7 回	エクイティファイナンス 2	公募増資の現状と費用
第 8 回	デットファイナンス 1	負債による資金調達と情報、社債と借入の選択
第 9 回	デットファイナンス 2	担保と借入、担保と企業再生
第 10 回	内部資金と内部資本市場	内部資金と投資水準、内部資本市場
第 11 回	ペイアウト政策 1	配当政策における MM の命題、税制と顧客効果
第 12 回	ペイアウト政策 2	情報の非対称性と配当、フリーキャッシュフロー仮説
第 13 回	ペイアウト政策 3	自社株買い、配当と自社株買い、自社株買いの動機付け
第 14 回	総括および秋学期個人プロジェクトに向けての準備	企業の財務意思決定の総括、秋学期個人プロジェクト報告に関するガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるように心がけましょう。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、いくつかの候補から初回の授業で決めます。また、適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の報告 30 %、平常点（質問、コメントなどの授業参加度）40 %、報告 30 % に基づき総合的に評価します。特に、出席率が低い場合、または報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、学習支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline (in English)】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand the basic principle of valuing financial assets.
- understand how stocks, bonds, and derivatives are valued.
- understand how the firm raises the necessary capital.
- understand why M&As are conducted.
- build presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Preassigned presentation: 30%, Class participation; 40%, Project presentation : 30%.

MAN400FA

演習 6

金 瑠晋

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&A の意思決定に関する理解が深まります。
- ・企業の財務行動について理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は、次の要領で行われます。

- ①グループディスカッション（春学期）
 - ・初回の授業で学習内容について異論を行い、テキスト等を確定する。
 - ・受講者は、次回の学習内容について予習を行う。
 - ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
 - ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を発表する。
 - ・他のグループや講師から補足を行う。
 - ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。
- ②プロジェクトの発表（秋学期）
 - ・春学期の学習内容を踏まえながら、個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。
- ③学習内容によっては、①と②に変更があり得る。
- ④単位取得
 - ・単位取得のためには 2/3 以上の出席が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プロジェクトの発表	報告 1, 報告 2
第 2 回	プロジェクトの発表	報告 3, 報告 4
第 3 回	プロジェクトの発表	報告 5, 報告 6
第 4 回	プロジェクトの発表	報告 7, 報告 8
第 5 回	入ゼミ関連行事	入ゼミ希望者の面接と選考
第 6 回	プロジェクトの発表	報告 9, 報告 10
第 7 回	プロジェクトの発表	報告 11, 報告 12
第 8 回	プロジェクトの発表	報告 13, 報告 14
第 9 回	プロジェクトの発表	報告 15, 報告 16
第 10 回	プロジェクトの発表	報告 17, 報告 18
第 11 回	東京証券取引所見学及びセミナー受講	証券取引の仕組み、上場基準などの学習、セミナーの受講、模擬投資の体験
第 12 回	プロジェクトの発表	報告 19, 報告 20
第 13 回	プロジェクトの発表	報告 21, 報告 22
第 14 回	総括	プロジェクト報告における改善点、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるよう心掛けて下さい。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

秋学期はテキストを指定しません。適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

質問、コメントなど授業参加度 50 %、プロジェクトの発表 50 %。特に、出席率が低い場合、またはプロジェクトの報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、授業支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline (in English)】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand the basic principle of valuing financial assets.
- understand how stocks, bonds, and derivatives are valued.
- understand how the firm raises the necessary capital.
- understand why M&As are conducted.
- build presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Preassigned presentation: 30%, Class participation; 40%, Project presentation : 30%.

MAN200FA

演習 1

金 容 度

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本と海外の企業及び産業の事例についてのディスカッション、また、複数の企業間の比較分析及びグループ発表によって、企業成長のダイナミズム、経営戦略の多面性、企業家・経営者の活動の本質についての理解を深める。

【到達目標】

本演習の受講者は企業事例の分析、また、ディスカッションに参加することによって、企業成長とビジネスモデルの多様性及び共通点を理解することができる。また、授業中及び合宿時の報告やその準備、レポートの作成、卒業論文の準備・作成・発表（4年生）を通じて、論理的な思考とその適切な表現ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習授業では、毎週、企業事例及び産業事例を取上げ、企業成長のダイナミズム、戦略、ビジネスモデル、企業家について多面的にディスカッションする。事例は主に日本の企業及び産業であるが、海外企業も多数取り上げられる。授業は報告者及び報告グループの報告と全員による論点提出とグループディスカッションという形で進められる。なお、合宿では、企業比較を内容とするグループ報告とディスカッションが行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションと新入ゼミ生の報告	今年度の授業内容、授業の進め方について案内する。また、新入ゼミ生（春合宿欠席者）の報告を行う。
第 2 回	メルカリ	フリマアプリを提供するベンチャー企業、メルカリの成長過程を分析し、ディスカッションする。
第 3 回	ZOZO	衣料品通信販売サイトを展開する ZOZO のビジネスモデルと成長過程を分析する。
第 4 回	アップルストアー	APP Store の展開過程と成功要因を分析、ディスカッションする。
第 5 回	サントリー	サントリーの新飲料開発の事例から、成熟市場におけるマーケティング戦略を分析、ディスカッションする。
第 6 回	リクルートホールディングス	リクルートの成長過程と事業展開を分析する。
第 7 回	無印良品（良品計画）	無印良品の海外進出戦略を分析、ディスカッションする。
第 8 回	ニトリ	日本の家具専門店業界のトップ企業であるニトリの成長の軌跡と競争優位の要因を分析する。
第 9 回	株式会社キャステム	広島の中小部品企業であるキャステムの成長過程、事業展開、戦略を議論する。
第 10 回	企業家、稲森和夫	稲森和夫の企業家活動と、京セラ及び KDDI の事業展開について議論する。
第 11 回	アマゾンと楽天	通販業界のアマゾン及び楽天の事業モデルを比較分析する。
第 12 回	ソニーとパナソニック	ソニーとパナソニックのトップマネジメントの特性を比較分析、議論する。
第 13 回	SDG と企業業績	SDG の展開と企業業績の関連について議論する。
第 14 回	卒業論文中間発表会	4 年生による卒業論文の中間発表会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、毎週の事例テキストを必ず読んでディスカッションのための論点を考えたうえで、授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の企業事例のテキストは予め授業支援システムにアップロードする。

【参考書】

- (1) 沼上幹, 加藤俊彦 (2020) 『一橋 MBA 戦略分析ケースブック【事業創造編】』東京経済新聞社
- (2) 東北大学経営学グループ (2019) 『ケースに学ぶ経営学 (第 3 版)』有斐閣

ブックス

- (3) 沼上幹 (2018) 『一橋 MBA ケースブック【戦略転換篇】』東洋経済新聞社
- (4) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2017) 『一橋 MBA 戦略ケースブック Vol.2 市場戦略の読み解き方』東洋経済新聞社
- (5) 沼上幹 (2016) 『ゼロからの経営戦略』ミネルヴァ書房
- (6) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2015) 『一橋 MBA 戦略ケースブック』東洋経済新聞社
- (7) 加藤健太、大石直樹 (2013) 『ケースに学ぶ日本の企業』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

授業での報告 (20%)、毎週のレポート (30%)、授業中の議論への貢献度 (30%)、合宿時の報告内容および参加度 (20%) 等で評価する。なお、4 年生は、授業での報告や毎週のレポートがない代わりに、卒業論文 (発表会での報告内容、論文内容) を成績評価基準 (50%) に含む。

【学生の意見等からの気づき】

今年の授業では、より多様な業種の企業事例を取り上げる。

【その他の重要事項】

新 2 年生も本演習授業を受講できる。

【関連科目】

本演習に参加する学生は、日本経営論 I/II を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this seminar, you will study business management, strategy and organization structure of Japanese and foreign companies by discussion, presentation, writing every week paper and graduation thesis.

【Learning Objectives】

The Learning Objectives of this seminar is to understand business management in Japanese and foreign companies by case methods.

【Learning activities outside of classroom】

Attend every week class after reading the text and references. They will be uploaded to the "Hoppii" beforehand. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation criteria are as follows: 30% for contribution to the class, 20% for presentation in every week class, 30% for every week report, 20% for presentation and participation in seminar camping. For seniors, 50% for graduation thesis instead of presentation in every week class and every week report.

MAN200FA

演習 2

金 容 度

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業事例及び産業の事例についてのディスカッション、また、複数企業の比較分析及びグループ発表によって、企業成長のダイナミズム、経営戦略の多面性、企業家・経営者の活動の本質についての理解を深める。

【到達目標】

本演習の受講者は企業事例の分析とディスカッションによって、企業成長とビジネスモデルの多様性及び共通点を分析する能力を高める。また、授業中の報告やその準備、レポートの作成、卒業論文の発表・作成（4年生）を通じて論理的な思考とその表現のスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習授業では、毎週、企業事例及び産業事例を取上げ、企業成長のダイナミズム、戦略、ビジネスモデル、企業家について多面的にディスカッションする。事例は主に日本の企業及び産業である。

授業は報告者及び報告グループの報告と全員による論点提出とグループディスカッションという形で進められる。なお、合宿では、企業比較を内容とするグループ報告とディスカッションが行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	JINS(ジェイアイエス)	眼鏡産業における急成長する JINS(ジェイアイエス) 社のビジネスモデルと成長要因を分析、ディスカッションする。
第 2 回	すかいらーく	ファミリーレストラン大手のすかいらーくの構造改革について議論する。
第 3 回	8 番らーめん	中小飲食企業の海外展開事例を分析する。
第 4 回	映画産業 (東宝、東映、松竹)	映画産業の代表的な企業、東宝、東映、松竹 3 社のビジネスモデルと競争を分析、検討する。
第 5 回	TOTO	TOTO の競争戦略についてディスカッションする。
第 6 回	アイリスオーヤマ	大阪所在のものづくり企業、アイリスオーヤマの成長過程と経営管理について分析する。
第 7 回	食品商社と小売企業の PB 戦略	流通企業のプライベートブランド戦略を比較検討する。
第 8 回	演習入試の面接試験	演習入試の面接試験を行う。
第 9 回	カゴメ	加工調味料及び食品製造メーカー、カゴメのファン株主拡大戦略についてディスカッションする。
第 10 回	ゲスト・スピーカーによる講演	ゲスト・スピーカーをお招きして、講演を頂いた上で質疑応答する。
第 11 回	任天堂	ゲーム機器企業の任天堂の成長過程とビジネスモデルを分析する。
第 12 回	竹中工務店	建設大手の竹中工務店の戦略について議論する。
第 13 回	卒業論文の最終発表会	4 年生による卒業論文の最終発表会を行う。
第 14 回	株式会社カナモト	北海道所在の建設機械レンタル企業の事業展開を分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、毎週の事例テキストを必ず読んで、ディスカッションのための論点を考えたうえで、授業に参加すること。本授業の準備学習・復習の時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の企業事例のテキストは予め学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

- (1) 沼上幹 (2018) 『一橋 MBA ケースブック 【戦略転換篇】』東洋経済新報社
- (2) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2017) 『一橋 MBA 戦略ケースブック Vol.2 市場戦略の読み解き方』東洋経済新報社
- (3) 沼上幹 (2016) 『ゼロからの経営戦略』ミネルヴァ書房
- (4) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2013) 『戦略分析ケースブック Vol.3』東洋経済新報社

- (5) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2012) 『戦略分析ケースブック Vol.2』東洋経済新報社

- (6) 伊丹敬之・西野和美編 (2012) 『ケースブック 経営戦略の論理 (全面改訂版)』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

授業での報告 (20%)、毎週のレポート (50%)、授業中の議論への貢献度 (30%) 等で評価する。なお、4 年生は、授業での報告や毎週のレポートがない代わりに、卒業論文 (発表会での報告内容、論文内容) を成績評価基準 (50%) に含む。

【学生の意見等からの気づき】

今年秋の授業では、より多様な産業分野の企業をケースとして取り上げる。

【その他の重要事項】

新 2 年生も本演習授業を受講できる。

【関連科目】

本演習に参加する学生は、日本経営論 I/II を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this seminar, you will study business management, strategy and organization structure of Japanese and foreign companies by discussion, presentation, writing every week paper and graduation thesis.

【Learning Objectives】

The Learning Objectives of this seminar is to understand business management in Japanese and foreign companies by case methods.

【Learning activities outside of classroom】

Attend every week class after reading the text and references. They will be uploaded to the "Hoppii" beforehand. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation criteria are as follows: 30% for contribution to the class, 20% for presentation in every week class, 30% for every week report, 20% for presentation and participation in seminar camping. For seniors, 50% for graduation thesis instead of presentation in every week class and every week report.

MAN300FA

演習 3

金 容 度

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本と海外の企業及び産業の事例についてのディスカッション、また、複数の企業間の比較分析及びグループ発表によって、企業成長のダイナミズム、経営戦略の多面性、企業家・経営者の活動の本質についての理解を深める。

【到達目標】

本演習の受講者は企業事例の分析、また、ディスカッションに参加することによって、企業成長とビジネスモデルの多様性及び共通点を理解することができる。また、授業中及び合宿時の報告やその準備、レポートの作成、卒業論文の準備・作成・発表（4年生）を通じて、論理的な思考とその適切な表現ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習授業では、毎週、企業事例及び産業事例を取上げ、企業成長のダイナミズム、戦略、ビジネスモデル、企業家について多面的にディスカッションする。事例は主に日本の企業及び産業であるが、海外企業も多数取り上げられる。授業は報告者及び報告グループの報告と全員による論点提出とグループディスカッションという形で進められる。なお、合宿では、企業比較を内容とするグループ報告とディスカッションが行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションと新入ゼミ生の報告	今年度の授業内容、授業の進め方について案内する。また、新入ゼミ生（春合宿欠席者）の報告を行う。
第 2 回	メルカリ	フリマアプリを提供するベンチャー企業、メルカリの成長過程を分析し、ディスカッションする。
第 3 回	ZOZO	衣料品通信販売サイトを展開する ZOZO のビジネスモデルと成長過程を分析する。
第 4 回	アップルストアー	APP Store の展開過程と成功要因を分析、ディスカッションする。
第 5 回	サントリー	サントリーの新飲料開発の事例から、成熟市場におけるマーケティング戦略を分析、ディスカッションする。
第 6 回	リクルートホールディングス	リクルートの成長過程と事業展開を分析する。
第 7 回	無印良品（良品計画）	無印良品の海外進出戦略を分析、ディスカッションする。
第 8 回	ニトリ	日本の家具専門店業界のトップ企業であるニトリの成長の軌跡と競争優位の要因を分析する。
第 9 回	株式会社キャステム	広島の中小部品企業であるキャステムの成長過程、事業展開、戦略を議論する。
第 10 回	企業家、稲森和夫	稲森和夫の企業家活動と、京セラ及び KDDI の事業展開について議論する。
第 11 回	アマゾンと楽天	通販業界のアマゾン及び楽天の事業モデルを比較分析する。
第 12 回	ソニーとパナソニック	ソニーとパナソニックのトップマネジメントの特性を比較分析、議論する。
第 13 回	SDG と企業業績	SDG の展開と企業業績の関連について議論する。
第 14 回	卒業論文中間発表会	4 年生による卒業論文の中間発表会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、毎週の事例テキストを必ず読んでディスカッションのための論点を考えたうえで、授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の企業事例のテキストは予め授業支援システムにアップロードする。

【参考書】

- (1) 沼上幹, 加藤俊彦 (2020) 『一橋 MBA 戦略分析ケースブック【事業創造編】』東京経済新聞社
- (2) 東北大学経営学グループ (2019) 『ケースに学ぶ経営学 (第 3 版)』有斐閣

ブックス

- (3) 沼上幹 (2018) 『一橋 MBA ケースブック【戦略転換篇】』東洋経済新聞社
- (4) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2017) 『一橋 MBA 戦略ケースブック Vol.2 市場戦略の読み解き方』東洋経済新聞社
- (5) 沼上幹 (2016) 『ゼロからの経営戦略』ミネルヴァ書房
- (6) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2015) 『一橋 MBA 戦略ケースブック』東洋経済新聞社
- (7) 加藤健太、大石直樹 (2013) 『ケースに学ぶ日本の企業』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

授業での報告 (20%)、毎週のレポート (30%)、授業中の議論への貢献度 (30%)、合宿時の報告内容および参加度 (20%) 等で評価する。なお、4 年生は、授業での報告や毎週のレポートがない代わりに、卒業論文 (発表会での報告内容、論文内容) を成績評価基準 (50%) に含む。

【学生の意見等からの気づき】

今年の授業では、より多様な業種の企業事例を取り上げる。

【その他の重要事項】

新 2 年生も本演習授業を受講できる。

【関連科目】

本演習に参加する学生は、日本経営論 I/II を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this seminar, you will study business management, strategy and organization structure of Japanese and foreign companies by discussion, presentation, writing every week paper and graduation thesis.

【Learning Objectives】

The Learning Objectives of this seminar is to understand business management in Japanese and foreign companies by case methods.

【Learning activities outside of classroom】

Attend every week class after reading the text and references. They will be uploaded to the "Hoppii" beforehand. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation criteria are as follows: 30% for contribution to the class, 20% for presentation in every week class, 30% for every week report, 20% for presentation and participation in seminar camping. For seniors, 50% for graduation thesis instead of presentation in every week class and every week report.

MAN300FA

演習 4

金 容 度

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業事例及び産業の事例についてのディスカッション、また、複数企業の比較分析及びグループ発表によって、企業成長のダイナミズム、経営戦略の多面性、企業家・経営者の活動の本質についての理解を深める。

【到達目標】

本演習の受講者は企業事例の分析とディスカッションによって、企業成長とビジネスモデルの多様性及び共通点を分析する能力を高める。また、授業中の報告やその準備、レポートの作成、卒業論文の発表・作成（4 年生）を通じて論理的な思考とその表現のスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習授業では、毎週、企業事例及び産業事例を取上げ、企業成長のダイナミズム、戦略、ビジネスモデル、企業家について多面的にディスカッションする。事例は主に日本の企業及び産業である。

授業は報告者及び報告グループの報告と全員による論点提出とグループディスカッションという形で進められる。なお、合宿では、企業比較を内容とするグループ報告とディスカッションが行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	JINS(ジェイアイエス)	眼鏡産業における急成長する JINS(ジェイアイエス) 社のビジネスモデルと成長要因を分析、ディスカッションする。
第 2 回	すかいらーく	ファミリーレストラン大手のすかいらーくの構造改革について議論する。
第 3 回	8 番らーめん	中小飲食企業の海外展開事例を分析する。
第 4 回	映画産業 (東宝、東映、松竹)	映画産業の代表的な企業、東宝、東映、松竹 3 社のビジネスモデルと競争を分析、検討する。
第 5 回	TOTO	TOTO の競争戦略についてディスカッションする。
第 6 回	アイリスオーヤマ	大阪所在のものづくり企業、アイリスオーヤマの成長過程と経営管理について分析する。
第 7 回	食品商社と小売企業の PB 戦略	流通企業のプライベートブランド戦略を比較検討する。
第 8 回	演習入試の面接試験	演習入試の面接試験を行う。
第 9 回	カゴメ	加工調味料及び食品製造メーカー、カゴメのファン株主拡大戦略についてディスカッションする。
第 10 回	ゲスト・スピーカーによる講演	ゲスト・スピーカーをお招きして、講演を頂いた上で質疑応答する。
第 11 回	任天堂	ゲーム機器企業の任天堂の成長過程とビジネスモデルを分析する。
第 12 回	竹中工務店	建設大手の竹中工務店の戦略について議論する。
第 13 回	卒業論文の最終発表会	4 年生による卒業論文の最終発表会を行う。
第 14 回	株式会社カナモト	北海道所在の建設機械レンタル企業の事業展開を分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、毎週の事例テキストを必ず読んで、ディスカッションのための論点を考えたうえで、授業に参加すること。本授業の準備学習・復習の時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の企業事例のテキストは予め学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

- (1) 沼上幹 (2018) 『一橋 MBA ケースブック 【戦略転換篇】』東洋経済新報社
- (2) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2017) 『一橋 MBA 戦略ケースブック Vol.2 市場戦略の読み解き方』東洋経済新報社
- (3) 沼上幹 (2016) 『ゼロからの経営戦略』ミネルヴァ書房
- (4) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2013) 『戦略分析ケースブック Vol.3』東洋経済新報社

- (5) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2012) 『戦略分析ケースブック Vol.2』東洋経済新報社

- (6) 伊丹敬之・西野和美編 (2012) 『ケースブック 経営戦略の論理 (全面改訂版)』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

授業での報告 (20 %)、毎週のレポート (50 %)、授業中の議論への貢献度 (30 %) 等で評価する。なお、4 年生は、授業での報告や毎週のレポートがない代わりに、卒業論文 (発表会での報告内容、論文内容) を成績評価基準 (50 %) に含む。

【学生の意見等からの気づき】

今年秋の授業では、より多様な産業分野の企業をケースとして取り上げる。

【その他の重要事項】

新 2 年生も本演習授業を受講できる。

【関連科目】

本演習に参加する学生は、日本経営論 I / II を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this seminar, you will study business management, strategy and organization structure of Japanese and foreign companies by discussion, presentation, writing every week paper and graduation thesis.

【Learning Objectives】

The Learning Objectives of this seminar is to understand business management in Japanese and foreign companies by case methods.

【Learning activities outside of classroom】

Attend every week class after reading the text and references. They will be uploaded to the "Hoppii" beforehand. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation criteria are as follows: 30% for contribution to the class, 20% for presentation in every week class, 30% for every week report, 20% for presentation and participation in seminar camping. For seniors, 50% for graduation thesis instead of presentation in every week class and every week report.

MAN400FA

演習 5

金 容 度

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本と海外の企業及び産業の事例についてのディスカッション、また、複数の企業間の比較分析及びグループ発表によって、企業成長のダイナミズム、経営戦略の多面性、企業家・経営者の活動の本質についての理解を深める。

【到達目標】

本演習の受講者は企業事例の分析、また、ディスカッションに参加することによって、企業成長とビジネスモデルの多様性及び共通点を理解することができる。また、授業中及び合宿時の報告やその準備、レポートの作成、卒業論文の準備・作成・発表（4 年生）を通じて、論理的な思考とその適切な表現ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習授業では、毎週、企業事例及び産業事例を取上げ、企業成長のダイナミズム、戦略、ビジネスモデル、企業家について多面的にディスカッションする。事例は主に日本の企業及び産業であるが、海外企業も多数取り上げられる。授業は報告者及び報告グループの報告と全員による論点提出とグループディスカッションという形で進められる。なお、合宿では、企業比較を内容とするグループ報告とディスカッションが行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションと新入ゼミ生の報告	今年度の授業内容、授業の進め方について案内する。また、新入ゼミ生（春合宿欠席者）の報告を行う。
第 2 回	メルカリ	フリマアプリを提供するベンチャー企業、メルカリの成長過程を分析し、ディスカッションする。
第 3 回	ZOZO	衣料品通信販売サイトを展開する ZOZO のビジネスモデルと成長過程を分析する。
第 4 回	アップルストアー	APP Store の展開過程と成功要因を分析、ディスカッションする。
第 5 回	サントリー	サントリーの新飲料開発の事例から、成熟市場におけるマーケティング戦略を分析、ディスカッションする。
第 6 回	リクルートホールディングス	リクルートの成長過程と事業展開を分析する。
第 7 回	無印良品（良品計画）	無印良品の海外進出戦略を分析、ディスカッションする。
第 8 回	ニトリ	日本の家具専門店業界のトップ企業であるニトリの成長の軌跡と競争優位の要因を分析する。
第 9 回	株式会社キャステム	広島の中小部品企業であるキャステムの成長過程、事業展開、戦略を議論する。
第 10 回	企業家、稲森和夫	稲森和夫の企業家活動と、京セラ及び KDDI の事業展開について議論する。
第 11 回	アマゾンと楽天	通販業界のアマゾン及び楽天の事業モデルを比較分析する。
第 12 回	ソニーとパナソニック	ソニーとパナソニックのトップマネジメントの特性を比較分析、議論する。
第 13 回	SDG と企業業績	SDG の展開と企業業績の関連について議論する。
第 14 回	卒業論文中間発表会	4 年生による卒業論文の中間発表会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、毎週の事例テキストを必ず読んでディスカッションのための論点を考えたいうえで、授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の企業事例のテキストは予め授業支援システムにアップロードする。

【参考書】

- (1) 沼上幹, 加藤俊彦 (2020) 『一橋 MBA 戦略分析ケースブック【事業創造編】』東京経済新聞社
- (2) 東北大学経営学グループ (2019) 『ケースに学ぶ経営学 (第 3 版)』有斐閣

ブックス

- (3) 沼上幹 (2018) 『一橋 MBA ケースブック【戦略転換篇】』東洋経済新聞社
- (4) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2017) 『一橋 MBA 戦略ケースブック Vol.2 市場戦略の読み解き方』東洋経済新聞社
- (5) 沼上幹 (2016) 『ゼロからの経営戦略』ミネルヴァ書房
- (6) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2015) 『一橋 MBA 戦略ケースブック』東洋経済新聞社
- (7) 加藤健太、大石直樹 (2013) 『ケースに学ぶ日本の企業』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

授業での報告 (20%)、毎週のレポート (30%)、授業中の議論への貢献度 (30%)、合宿時の報告内容および参加度 (20%) 等で評価する。なお、4 年生は、授業での報告や毎週のレポートがない代わりに、卒業論文 (発表会での報告内容、論文内容) を成績評価基準 (50%) に含む。

【学生の意見等からの気づき】

今年の授業では、より多様な業種の企業事例を取り上げる。

【その他の重要事項】

新 2 年生も本演習授業を受講できる。

【関連科目】

本演習に参加する学生は、日本経営論 I/II を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this seminar, you will study business management, strategy and organization structure of Japanese and foreign companies by discussion, presentation, writing every week paper and graduation thesis.

【Learning Objectives】

The Learning Objectives of this seminar is to understand business management in Japanese and foreign companies by case methods.

【Learning activities outside of classroom】

Attend every week class after reading the text and references. They will be uploaded to the "Hoppii" beforehand. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation criteria are as follows: 30% for contribution to the class, 20% for presentation in every week class, 30% for every week report, 20% for presentation and participation in seminar camping. For seniors, 50% for graduation thesis instead of presentation in every week class and every week report.

MAN400FA

演習 6

金 容 度

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業事例及び産業の事例についてのディスカッション、また、複数企業の比較分析及びグループ発表によって、企業成長のダイナミズム、経営戦略の多面性、企業家・経営者の活動の本質についての理解を深める。

【到達目標】

本演習の受講者は企業事例の分析とディスカッションによって、企業成長とビジネスモデルの多様性及び共通点を分析する能力を高める。また、授業中の報告やその準備、レポートの作成、卒業論文の発表・作成（4 年生）を通じて論理的な思考とその表現のスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習授業では、毎週、企業事例及び産業事例を取上げ、企業成長のダイナミズム、戦略、ビジネスモデル、企業家について多面的にディスカッションする。事例は主に日本の企業及び産業である。

授業は報告者及び報告グループの報告と全員による論点提出とグループディスカッションという形で進められる。なお、合宿では、企業比較を内容とするグループ報告とディスカッションが行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	JINS(ジェイアイエス)	眼鏡産業における急成長する JINS(ジェイアイエス) 社のビジネスモデルと成長要因を分析、ディスカッションする。
第 2 回	すかいらーく	ファミリーレストラン大手のすかいらーくの構造改革について議論する。
第 3 回	8 番らーめん	中小飲食企業の海外展開事例を分析する。
第 4 回	映画産業 (東宝、東映、松竹)	映画産業の代表的な企業、東宝、東映、松竹 3 社のビジネスモデルと競争を分析、検討する。
第 5 回	TOTO	TOTO の競争戦略についてディスカッションする。
第 6 回	アイリスオーヤマ	大阪所在のものづくり企業、アイリスオーヤマの成長過程と経営管理について分析する。
第 7 回	食品商社と小売企業の PB 戦略	流通企業のプライベートブランド戦略を比較検討する。
第 8 回	演習入試の面接試験	演習入試の面接試験を行う。
第 9 回	カゴメ	加工調味料及び食品製造メーカー、カゴメのファン株主拡大戦略についてディスカッションする。
第 10 回	ゲスト・スピーカーによる講演	ゲスト・スピーカーをお招きして、講演を頂いた上で質疑応答する。
第 11 回	任天堂	ゲーム機器企業の任天堂の成長過程とビジネスモデルを分析する。
第 12 回	竹中工務店	建設大手の竹中工務店の戦略について議論する。
第 13 回	卒業論文の最終発表会	4 年生による卒業論文の最終発表会を行う。
第 14 回	株式会社カナモト	北海道所在の建設機械レンタル企業の事業展開を分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、毎週の事例テキストを必ず読んで、ディスカッションのための論点を考えたうえで、授業に参加すること。本授業の準備学習・復習の時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の企業事例のテキストは予め学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

- (1) 沼上幹 (2018) 『一橋 MBA ケースブック 【戦略転換篇】』東洋経済新報社
- (2) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2017) 『一橋 MBA 戦略ケースブック Vol.2 市場戦略の読み解き方』東洋経済新報社
- (3) 沼上幹 (2016) 『ゼロからの経営戦略』ミネルヴァ書房
- (4) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2013) 『戦略分析ケースブック Vol.3』東洋経済新報社

- (5) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2012) 『戦略分析ケースブック Vol.2』東洋経済新報社

- (6) 伊丹敬之・西野和美編 (2012) 『ケースブック 経営戦略の論理 (全面改訂版)』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

授業での報告 (20 %)、毎週のレポート (50 %)、授業中の議論への貢献度 (30 %) 等で評価する。なお、4 年生は、授業での報告や毎週のレポートがない代わりに、卒業論文 (発表会での報告内容、論文内容) を成績評価基準 (50 %) に含む。

【学生の意見等からの気づき】

今年秋の授業では、より多様な産業分野の企業をケースとして取り上げる。

【その他の重要事項】

新 2 年生も本演習授業を受講できる。

【関連科目】

本演習に参加する学生は、日本経営論 I / II を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this seminar, you will study business management, strategy and organization structure of Japanese and foreign companies by discussion, presentation, writing every week paper and graduation thesis.

【Learning Objectives】

The Learning Objectives of this seminar is to understand business management in Japanese and foreign companies by case methods.

【Learning activities outside of classroom】

Attend every week class after reading the text and references. They will be uploaded to the "Hoppii" beforehand. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation criteria are as follows: 30% for contribution to the class, 20% for presentation in every week class, 30% for every week report, 20% for presentation and participation in seminar camping. For seniors, 50% for graduation thesis instead of presentation in every week class and every week report.

MAN200FA

演習 1

木村 純子

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のキャッチコピー「生涯現役」

サークル活動と違って 4 年生になっても「引退」はありません。

木村ゼミは 2016 年度に法政大学 PB(プライベートブランド)の「ほうせい茶」を開発し、2019 年度にパッケージのリニューアルに取り組みました。2020 年度は 4 月からリニューアル商品が新発売されるほうせい茶のプロモーション戦略の立案し実施し効果を出しているところです。

2023 年度は木村ゼミが生んだほうせい茶のさらなる発展を目指し、プロモーション戦略を立案していきます。

【到達目標】

活動を通じて 4 つの力を習得することを本演習の達成目標とします。

- 1) 自分で問題意識(リサーチ・クエスチョン)を設定する力
- 2) 具体的な事例からデータを収集する力
- 3) データを用いて自身の仮説を検証する力
- 4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ほうせい茶は法政大学の PB 商品でありながら、茶という農産物を茶葉に加工して作られる農産加工品です。工場で作られる大量生産品としてみるのではなく、畑で育てられた生き物(植物)として眺め、農業、地域活性化、食文化といった広い学問分野の基本概念と理論を理解していきます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の紹介
第 2 回	グループ活動	問題意識の設定、プロジェクトの進捗状況の発表
第 3 回	グループ活動	既存文献の整理：プロジェクトの進捗状況の発表
第 4 回	グループ活動	理論枠組みの構築、プロジェクトの進捗状況の発表
第 5 回	グループ活動	仮説の導出、プロジェクトの進捗状況の発表
第 6 回	グループ活動	方法論の検討、プロジェクトの進捗状況の発表
第 7 回	グループ活動	調査実施、プロジェクトの進捗状況の発表
第 8 回	グループ活動	データ収集、プロジェクトの進捗状況の発表
第 9 回	グループ活動	データの分析、プロジェクトの進捗状況の発表
第 10 回	グループ活動	仮説の検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 11 回	グループ活動	枠組みの修正、プロジェクトの進捗状況の発表
第 12 回	グループ活動	仮説の再検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 13 回	グループ活動	報告書作成、プロジェクトの進捗状況の発表
第 14 回	最終報告会	グループ・プロジェクトの最終報告会

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各セッションのテーマに合わせたフィールドワークをしていただきます。授業時間以外の時間とお金を費やすこととなりますが、「コスト」とは思わず「(自分への)投資」だととらえてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

木村純子・陣内秀信(2022)『イタリアのテリトリー戦略：甦る都市と農村の交流』白桃書房。

【参考書】

適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期ともに、

- 1) 平常点

- 2) 自己評価
- 3) peer evaluation
- 4) グループ活動

以上を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果がまだ出ていないため、コメントできませんでした。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善に取り組みます。

【その他の重要事項】

マーケティングに関連する科目の履修を必須とします。

「マーケティング論 I/II」「消費者行動論 I/II」「マーケティング・リサーチ I/II」「製品開発論 I/II」「流通論 I/II」「サービス・マネジメント論 I/II」

【教員の専門分野】

地理的表示保護制度、農産物マーケティング、SDGs、地域活性化

【教員の最近の研究業績】

- (1) 木村純子・中村丁次編著(2022.3)『持続可能な酪農:SDGs への貢献』中央法規。
- (2) 木村純子・陣内秀信編著(2022.3)『イタリアのテリトリー戦略:甦る都市と農村の交流』白桃書房。
- (3) 木村純子・二階堂行宣・佐野嘉秀(2022)『「テリトリー」概念を踏まえた地域発展のモデル構築に向けて：鹿屋市の事例から』『法政大学イノベーション・マネジメント研究センター・ワーキングペーパー』249, 1-13, 2022 年 11 月 18 日。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, each student learns to 1) set a research question related to service innovation, 2) explain the theoretical framework, 3) form propositions (hypotheses), 4) collect data, and 5) verify hypotheses. Through multiple activities, students gain the ability to bridge reality and theory. Just like any types of sports, students learn academic research rules and improve research skills.

【Learning Objectives】

Using the theory of Marketing, they understand what research is (rules), and practice repeatedly by working on in-class tasks over times to enhance their research skills.

【Learning activities outside of classroom】

You study this lecture with an emphasis on after class review. After attending the lecture, please read and review the assigned sections of the textbook. Assignments will be given in class as needed. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Each time, the report assignment will be graded as a GP on a scale of 11: D, C-, C, C+, B-, B+, A-, A, A+, S. Your semester grade will be the average of the total divided by the number of times given (GPA for this course).

MAN200FA

演習 2

木村 純子

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のキャッチコピー「生涯現役」

サークル活動と違って 4 年生になっても「引退」はありません。

2016 年度の本演習で開発した法政大学 PB(プライベートブランド)の「ほうせい茶」を 2019 年度にパッケージのリニューアルに取り組みました。2020 年度は 4 月からリニューアル商品が新発売されるほうせい茶のプロモーション戦略の実案と実施、リニューアルの効果測定をグループ・プロジェクトとして行いました。

2023 年度は木村ゼミが生んだほうせい茶のさらなる発展を目指し、プロモーション戦略を立案していきます。

【到達目標】

活動を通じて 4 つの力を習得することを本演習の達成目標とします。

- 1) 自分で問題意識(リサーチ・クエスチョン)を設定する力
- 2) 具体的な事例からデータを収集する力
- 3) データを用いて自身の仮説を検証する力
- 4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

農産物を利用した地域活性化に取り組みます。EU にならない日本でも「特定農林水産物等の名称の保護に関する法律(地理的表示法)」が成立・公布されました。農産物と農産加工品を用いて地域経済を活性化するメカニズムを具体的な GI 登録産品を用いて明らかにします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の紹介
第 2 回	グループ活動	問題意識の設定、プロジェクトの進捗状況の発表
第 3 回	グループ活動	既存文献の整理：プロジェクトの進捗状況の発表
第 4 回	グループ活動	理論枠組みの構築、プロジェクトの進捗状況の発表
第 5 回	グループ活動	仮説の導出、プロジェクトの進捗状況の発表
第 6 回	グループ活動	方法論の検討、プロジェクトの進捗状況の発表
第 7 回	グループ活動	調査実施、プロジェクトの進捗状況の発表
第 8 回	グループ活動	データ収集、プロジェクトの進捗状況の発表
第 9 回	グループ活動	データの分析、プロジェクトの進捗状況の発表
第 10 回	グループ活動	仮説の検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 11 回	グループ活動	枠組みの修正、プロジェクトの進捗状況の発表
第 12 回	グループ活動	仮説の再検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 13 回	グループ活動	報告書作成、プロジェクトの進捗状況の発表
第 14 回	グループ活動	グループ・プロジェクトの最終報告会

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

テーマに合わせたフィールドワークをしていただきます。授業時間以外の時間とお金を費やすこととなりますが、「コスト」とは思わず「(自分への)投資」だととらえてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

木村純子・陣内秀信(2022)『イタリアのテリトリー戦略：甦る都市と農村の交流』白桃書房。

【参考書】

適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 平常点
- 2) 自己評価

3) peer evaluation

4) 個人発表

以上を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果がまだ出ていないため、コメントできませんでした。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善に取り組みます。

【その他の重要事項】

マーケティングに関連する科目の履修を必須とします。

「マーケティング論 I/II」「サービス・マネジメント論 I/II」「消費者行動論 I/II」「マーケティング・リサーチ I/II」「製品開発論 I/II」「流通論 I/II」「国際マーケティング論 I/II」

【教員の専門分野】

地理的表示保護制度、農産物マーケティング、SDGs、地域活性化

【教員の最近の研究業績】

(1) 木村純子・中村丁次編著(2022.3)『持続可能な酪農:SDGs への貢献』中央法規。

(2) 木村純子・陣内秀信編著(2022.3)『イタリアのテリトリー戦略:甦る都市と農村の交流』白桃書房。

(3) 木村純子・二階堂行宣・佐野嘉秀(2022)「『テリトリー』概念を踏まえた地域発展のモデル構築に向けて：鹿屋市の事例から」『法政大学イノベーション・マネジメント研究センター・ワーキングペーパー』249, 1-13, 2022 年 11 月 18 日。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, each student learns to 1) set a research question related to service innovation, 2) explain the theoretical framework, 3) form propositions (hypotheses), 4) collect data, and 5) verify hypotheses. Through multiple activities, students gain the ability to bridge reality and theory. Just like any types of sports, students learn academic research rules and improve research skills.

【Learning Objectives】

Using the theory of Marketing, they understand what research is (rules), and practice repeatedly by working on in-class tasks over times to enhance their research skills.

【Learning activities outside of classroom】

You study this lecture with an emphasis on after class review. After attending the lecture, please read and review the assigned sections of the textbook. Assignments will be given in class as needed. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Each time, the report assignment will be graded as a GP on a scale of 11: D, C-, C, C+, B-, B+, A-, A, A+, S. Your semester grade will be the average of the total divided by the number of times given (GPA for this course).

MAN300FA

演習 3

木村 純子

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のキャッチコピー「生涯現役」

サークル活動と違って 4 年生になっても「引退」はありません。

木村ゼミは 2016 年度に法政大学 PB(プライベートブランド)の「ほうせい茶」を開発し、2019 年度にパッケージのリニューアルに取り組みました。2020 年度は 4 月からリニューアル商品が新発売されるほうせい茶のプロモーション戦略の立案し実施し効果を出しているところです。

2023 年度は木村ゼミが生んだほうせい茶のさらなる発展を目指し、プロモーション戦略を立案していきます。

【到達目標】

活動を通じて 4 つの力を習得することを本演習の達成目標とします。

- 1) 自分で問題意識(リサーチ・クエスチョン)を設定する力
- 2) 具体的な事例からデータを収集する力
- 3) データを用いて自身の仮説を検証する力
- 4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ほうせい茶は法政大学の PB 商品でありながら、茶という農産物を茶葉に加工して作られる農産加工品です。工場で作られる大量生産品としてみるのではなく、畑で育てられた生き物(植物)として眺め、農業、地域活性化、食文化といった広い学問分野の基本概念と理論を理解していきます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の紹介
第 2 回	グループ活動	問題意識の設定、プロジェクトの進捗状況の発表
第 3 回	グループ活動	既存文献の整理：プロジェクトの進捗状況の発表
第 4 回	グループ活動	理論枠組みの構築、プロジェクトの進捗状況の発表
第 5 回	グループ活動	仮説の導出、プロジェクトの進捗状況の発表
第 6 回	グループ活動	方法論の検討、プロジェクトの進捗状況の発表
第 7 回	グループ活動	調査実施、プロジェクトの進捗状況の発表
第 8 回	グループ活動	データ収集、プロジェクトの進捗状況の発表
第 9 回	グループ活動	データの分析、プロジェクトの進捗状況の発表
第 10 回	グループ活動	仮説の検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 11 回	グループ活動	枠組みの修正、プロジェクトの進捗状況の発表
第 12 回	グループ活動	仮説の再検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 13 回	グループ活動	報告書作成、プロジェクトの進捗状況の発表
第 14 回	最終報告会	グループ・プロジェクトの最終報告会

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各セッションのテーマに合わせたフィールドワークをしていただきます。授業時間以外の時間とお金を費やすこととなりますが、「コスト」とは思わず「(自分への)投資」だととらえてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

木村純子・陣内秀信(2022)『イタリアのテリトリー戦略：甦る都市と農村の交流』白桃書房。

【参考書】

適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期ともに、

- 1) 平常点

- 2) 自己評価
- 3) peer evaluation
- 4) グループ活動

以上を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果がまだ出ていないため、コメントできませんでした。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善に取り組みます。

【その他の重要事項】

マーケティングに関連する科目の履修を必須とします。

「マーケティング論 I/II」「消費者行動論 I/II」「マーケティング・リサーチ I/II」「製品開発論 I/II」「流通論 I/II」「サービス・マネジメント論 I/II」

【教員の専門分野】

地理的表示保護制度、農産物マーケティング、SDGs、地域活性化

【教員の最近の研究業績】

- (1) 木村純子・中村丁次編著(2022.3)『持続可能な酪農:SDGs への貢献』中央法規。
- (2) 木村純子・陣内秀信編著(2022.3)『イタリアのテリトリー戦略:甦る都市と農村の交流』白桃書房。
- (3) 木村純子・二階堂行宣・佐野嘉秀(2022)『「テリトリー」概念を踏まえた地域発展のモデル構築に向けて：鹿屋市の事例から』『法政大学イノベーション・マネジメント研究センター・ワーキングペーパー』249, 1-13, 2022 年 11 月 18 日。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, each student learns to 1) set a research question related to service innovation, 2) explain the theoretical framework, 3) form propositions (hypotheses), 4) collect data, and 5) verify hypotheses. Through multiple activities, students gain the ability to bridge reality and theory. Just like any types of sports, students learn academic research rules and improve research skills.

【Learning Objectives】

Using the theory of Marketing, they understand what research is (rules), and practice repeatedly by working on in-class tasks over times to enhance their research skills.

【Learning activities outside of classroom】

You study this lecture with an emphasis on after class review. After attending the lecture, please read and review the assigned sections of the textbook. Assignments will be given in class as needed. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Each time, the report assignment will be graded as a GP on a scale of 11: D, C-, C, C+, B-, B+, A-, A, A+, S. Your semester grade will be the average of the total divided by the number of times given (GPA for this course).

MAN300FA

演習 4

木村 純子

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のキャッチコピー「生涯現役」

サークル活動と違って 4 年生になっても「引退」はありません。

2016 年度の本演習で開発した法政大学 PB(プライベートブランド)の「ほうせい茶」を 2019 年度にパッケージのリニューアルに取り組みました。2020 年度は 4 月からリニューアル商品が新発売されるほうせい茶のプロモーション戦略の実案と実施、リニューアルの効果測定をグループ・プロジェクトとして行いました。

2023 年度は木村ゼミが生んだほうせい茶のさらなる発展を目指し、プロモーション戦略を立案していきます。

【到達目標】

活動を通じて 4 つの力を習得することを本演習の達成目標とします。

- 1) 自分で問題意識(リサーチ・クエスチョン)を設定する力
- 2) 具体的な事例からデータを収集する力
- 3) データを用いて自身の仮説を検証する力
- 4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

農産物を利用した地域活性化に取り組みます。EU にならない日本でも「特定農林水産物等の名称の保護に関する法律(地理的表示法)」が成立・公布されました。農産物と農産加工品を用いて地域経済を活性化するメカニズムを具体的な GI 登録産品を用いて明らかにします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の紹介
第 2 回	グループ活動	問題意識の設定、プロジェクトの進捗状況の発表
第 3 回	グループ活動	既存文献の整理：プロジェクトの進捗状況の発表
第 4 回	グループ活動	理論枠組みの構築、プロジェクトの進捗状況の発表
第 5 回	グループ活動	仮説の導出、プロジェクトの進捗状況の発表
第 6 回	グループ活動	方法論の検討、プロジェクトの進捗状況の発表
第 7 回	グループ活動	調査実施、プロジェクトの進捗状況の発表
第 8 回	グループ活動	データ収集、プロジェクトの進捗状況の発表
第 9 回	グループ活動	データの分析、プロジェクトの進捗状況の発表
第 10 回	グループ活動	仮説の検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 11 回	グループ活動	枠組みの修正、プロジェクトの進捗状況の発表
第 12 回	グループ活動	仮説の再検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 13 回	グループ活動	報告書作成、プロジェクトの進捗状況の発表
第 14 回	グループ活動	グループ・プロジェクトの最終報告会

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

テーマに合わせたフィールドワークをしていただきます。授業時間以外の時間とお金を費やすことになりますが、「コスト」とは思わず「(自分への)投資」だととらえてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

木村純子・陣内秀信(2022)『イタリアのテリトリー戦略：甦る都市と農村の交流』白桃書房。

【参考書】

適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 平常点
- 2) 自己評価

3) peer evaluation

4) 個人発表

以上を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果がまだ出ていないため、コメントできませんでした。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善に取り組みます。

【その他の重要事項】

マーケティングに関連する科目の履修を必須とします。

「マーケティング論 I/II」「サービス・マネジメント論 I/II」「消費者行動論 I/II」「マーケティング・リサーチ I/II」「製品開発論 I/II」「流通論 I/II」「国際マーケティング論 I/II」

【教員の専門分野】

地理的表示保護制度、農産物マーケティング、SDGs、地域活性化

【教員の最近の研究業績】

(1) 木村純子・中村丁次編著(2022.3)『持続可能な酪農:SDGs への貢献』中央法規。

(2) 木村純子・陣内秀信編著(2022.3)『イタリアのテリトリー戦略:甦る都市と農村の交流』白桃書房。

(3) 木村純子・二階堂行宣・佐野嘉秀(2022)「『テリトリー』概念を踏まえた地域発展のモデル構築に向けて：鹿屋市の事例から」『法政大学イノベーション・マネジメント研究センター・ワーキングペーパー』249, 1-13, 2022 年 11 月 18 日。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, each student learns to 1)set a research question related to service innovation, 2) explain the theoretical framework, 3) form propositions (hypotheses), 4) collect data, and 5) verify hypotheses. Through multiple activities, students gain the ability to bridge reality and theory. Just like any types of sports, students learn academic research rules and improve research skills.

【Learning Objectives】

Using the theory of Marketing, they understand what research is (rules), and practice repeatedly by working on in-class tasks over times to enhance their research skills.

【Learning activities outside of classroom】

You study this lecture with an emphasis on after class review. After attending the lecture, please read and review the assigned sections of the textbook. Assignments will be given in class as needed. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Each time, the report assignment will be graded as a GP on a scale of 11: D, C-, C, C+, B-, B+, A-, A, A+, S. Your semester grade will be the average of the total divided by the number of times given (GPA for this course).

MAN400FA

演習 5

木村 純子

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のキャッチコピー「生涯現役」

サークル活動と違って 4 年生になっても「引退」はありません。

木村ゼミは 2016 年度に法政大学 PB(プライベートブランド)の「ほうせい茶」を開発し、2019 年度にパッケージのリニューアルに取り組みました。2020 年度は 4 月からリニューアル商品が新発売されるほうせい茶のプロモーション戦略の立案し実施し効果を出しているところです。

2023 年度は木村ゼミが生んだほうせい茶のさらなる発展を目指し、プロモーション戦略を立案していきます。

【到達目標】

活動を通じて 4 つの力を習得することを本演習の達成目標とします。

- 1) 自分で問題意識(リサーチ・クエスチョン)を設定する力
- 2) 具体的な事例からデータを収集する力
- 3) データを用いて自身の仮説を検証する力
- 4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ほうせい茶は法政大学の PB 商品でありながら、茶という農産物を茶葉に加工して作られる農産加工品です。工場で作られる大量生産品としてみるのではなく、畑で育てられた生き物(植物)として眺め、農業、地域活性化、食文化といった広い学問分野の基本概念と理論を理解していきます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の紹介
第 2 回	グループ活動	問題意識の設定、プロジェクトの進捗状況の発表
第 3 回	グループ活動	既存文献の整理：プロジェクトの進捗状況の発表
第 4 回	グループ活動	理論枠組みの構築、プロジェクトの進捗状況の発表
第 5 回	グループ活動	仮説の導出、プロジェクトの進捗状況の発表
第 6 回	グループ活動	方法論の検討、プロジェクトの進捗状況の発表
第 7 回	グループ活動	調査実施、プロジェクトの進捗状況の発表
第 8 回	グループ活動	データ収集、プロジェクトの進捗状況の発表
第 9 回	グループ活動	データの分析、プロジェクトの進捗状況の発表
第 10 回	グループ活動	仮説の検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 11 回	グループ活動	枠組みの修正、プロジェクトの進捗状況の発表
第 12 回	グループ活動	仮説の再検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 13 回	グループ活動	報告書作成、プロジェクトの進捗状況の発表
第 14 回	最終報告会	グループ・プロジェクトの最終報告会

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各セッションのテーマに合わせたフィールドワークをしていただきます。授業時間以外の時間とお金を費やすこととなりますが、「コスト」とは思わず「(自分への)投資」だととらえてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

木村純子・陣内秀信(2022)『イタリアのテリトリー戦略：甦る都市と農村の交流』白桃書房。

【参考書】

適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期ともに、

- 1) 平常点

- 2) 自己評価
- 3) peer evaluation
- 4) グループ活動

以上を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果がまだ出ていないため、コメントできませんでした。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善に取り組みます。

【その他の重要事項】

マーケティングに関連する科目の履修を必須とします。

「マーケティング論 I/II」「消費者行動論 I/II」「マーケティング・リサーチ I/II」「製品開発論 I/II」「流通論 I/II」「サービス・マネジメント論 I/II」

【教員の専門分野】

地理的表示保護制度、農産物マーケティング、SDGs、地域活性化

【教員の最近の研究業績】

- (1) 木村純子・中村丁次編著(2022.3)『持続可能な酪農:SDGs への貢献』中央法規。
- (2) 木村純子・陣内秀信編著(2022.3)『イタリアのテリトリー戦略:甦る都市と農村の交流』白桃書房。
- (3) 木村純子・二階堂行宣・佐野嘉秀(2022)『「テリトリー」概念を踏まえた地域発展のモデル構築に向けて：鹿屋市の事例から』『法政大学イノベーション・マネジメント研究センター・ワーキングペーパー』249, 1-13, 2022 年 11 月 18 日。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, each student learns to 1) set a research question related to service innovation, 2) explain the theoretical framework, 3) form propositions (hypotheses), 4) collect data, and 5) verify hypotheses. Through multiple activities, students gain the ability to bridge reality and theory. Just like any types of sports, students learn academic research rules and improve research skills.

【Learning Objectives】

Using the theory of Marketing, they understand what research is (rules), and practice repeatedly by working on in-class tasks over times to enhance their research skills.

【Learning activities outside of classroom】

You study this lecture with an emphasis on after class review. After attending the lecture, please read and review the assigned sections of the textbook. Assignments will be given in class as needed. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Each time, the report assignment will be graded as a GP on a scale of 11: D, C-, C, C+, B-, B+, A-, A, A+, S. Your semester grade will be the average of the total divided by the number of times given (GPA for this course).

MAN400FA

演習 6

木村 純子

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のキャッチコピー「生涯現役」

サークル活動と違って 4 年生になっても「引退」はありません。

2016 年度の本演習で開発した法政大学 PB(プライベートブランド)の「ほうせい茶」を 2019 年度にパッケージのリニューアルに取り組みました。2020 年度は 4 月からリニューアル商品が新発売されるほうせい茶のプロモーション戦略の実案と実施、リニューアルの効果測定をグループ・プロジェクトとして行いました。

2023 年度は木村ゼミが生んだほうせい茶のさらなる発展を目指し、プロモーション戦略を立案していきます。

【到達目標】

活動を通じて 4 つの力を習得することを本演習の達成目標とします。

- 1) 自分で問題意識(リサーチ・クエスチョン)を設定する力
- 2) 具体的な事例からデータを収集する力
- 3) データを用いて自身の仮説を検証する力
- 4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

農産物を利用した地域活性化に取り組みます。EU にならぬ日本でも「特定農林水産物等の名称の保護に関する法律(地理的表示法)」が成立・公布されました。農産物と農産加工品を用いて地域経済を活性化するメカニズムを具体的な GI 登録産品を用いて明らかにします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の紹介
第 2 回	グループ活動	問題意識の設定、プロジェクトの進捗状況の発表
第 3 回	グループ活動	既存文献の整理：プロジェクトの進捗状況の発表
第 4 回	グループ活動	理論枠組みの構築、プロジェクトの進捗状況の発表
第 5 回	グループ活動	仮説の導出、プロジェクトの進捗状況の発表
第 6 回	グループ活動	方法論の検討、プロジェクトの進捗状況の発表
第 7 回	グループ活動	調査実施、プロジェクトの進捗状況の発表
第 8 回	グループ活動	データ収集、プロジェクトの進捗状況の発表
第 9 回	グループ活動	データの分析、プロジェクトの進捗状況の発表
第 10 回	グループ活動	仮説の検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 11 回	グループ活動	枠組みの修正、プロジェクトの進捗状況の発表
第 12 回	グループ活動	仮説の再検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 13 回	グループ活動	報告書作成、プロジェクトの進捗状況の発表
第 14 回	グループ活動	グループ・プロジェクトの最終報告会

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

テーマに合わせたフィールドワークをしていただきます。授業時間以外の時間とお金を費やすことになりますが、「コスト」とは思わず「(自分への)投資」だととらえてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

木村純子・陣内秀信(2022)『イタリアのテリトリー戦略：甦る都市と農村の交流』白桃書房。

【参考書】

適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 平常点
- 2) 自己評価

3) peer evaluation

4) 個人発表

以上を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果がまだ出ていないため、コメントできませんでした。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善に取り組みます。

【その他の重要事項】

マーケティングに関連する科目の履修を必須とします。

「マーケティング論 I/II」「サービス・マネジメント論 I/II」「消費者行動論 I/II」「マーケティング・リサーチ I/II」「製品開発論 I/II」「流通論 I/II」「国際マーケティング論 I/II」

【教員の専門分野】

地理的表示保護制度、農産物マーケティング、SDGs、地域活性化

【教員の最近の研究業績】

- (1) 木村純子・中村丁次編著(2022.3)『持続可能な酪農:SDGs への貢献』中央法規。
- (2) 木村純子・陣内秀信編著(2022.3)『イタリアのテリトリー戦略:甦る都市と農村の交流』白桃書房。
- (3) 木村純子・二階堂行宣・佐野嘉秀(2022)「『テリトリー』概念を踏まえた地域発展のモデル構築に向けて：鹿屋市の事例から」『法政大学イノベーション・マネジメント研究センター・ワーキングペーパー』249, 1-13, 2022 年 11 月 18 日。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, each student learns to 1) set a research question related to service innovation, 2) explain the theoretical framework, 3) form propositions (hypotheses), 4) collect data, and 5) verify hypotheses. Through multiple activities, students gain the ability to bridge reality and theory. Just like any types of sports, students learn academic research rules and improve research skills.

【Learning Objectives】

Using the theory of Marketing, they understand what research is (rules), and practice repeatedly by working on in-class tasks over times to enhance their research skills.

【Learning activities outside of classroom】

You study this lecture with an emphasis on after class review. After attending the lecture, please read and review the assigned sections of the textbook. Assignments will be given in class as needed. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Each time, the report assignment will be graded as a GP on a scale of 11: D, C-, C, C+, B-, B+, A-, A, A+, S. Your semester grade will be the average of the total divided by the number of times given (GPA for this course).

MAN200FA

演習 1

倉田 俊彦

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

参加者の興味・能力に応じて「数学やプログラミングの基礎」に関連するテーマを定め、グループ単位の学習・検討を重ねていく予定です。扱う内容を大きく分類すると以下のようになります。

- (1) 今まで数学を殆どやらなかったが、この機会に少しでも数学を経験してみたいという方や、SPI や公務員試験などの問題を解く際に必要とされる数学的力量を身につけたいという方のために、様々な数学的思考に現れる基本的な型を習得する。
- (2) 数学が得意な方に対しては、オペレーションズリサーチ・経営・経済に関連する実用的な話題を数学的視点から調査・考察する。
- (3) 上の話題の中には興味深いアルゴリズムが沢山存在するので、それらを題材にプログラミングの練習を行う。

【到達目標】

各分類毎の具体的な到達目標は以下のようになります。

- (1) 数学における基本的な問題の解法を習得しながら、最終的には多変数関数の極値の計算ができるようになる。
 - (2) 微積分や数値計画法などの知識を、経営・経済の様々な問題に適用した事例を理解できるようにする。
 - (3) 計算内容の説明からアルゴリズムの構造を理解して、その流れをプログラムとして表現できるようにする。
- いずれのテーマについても内容を理解することが重要な目標となります。「理解する」ということの定義は難しいのですが、少なくとも「公式や知識を単純に記憶すること」や「漠然と予想・想像すること」を繰り返すのではなく、「考えて問題を解決する工夫を重ねること」が必要になります。その過程において、必然的に「知識を活用すること」や「考えて理解した内容を論理的に整理して、聞き手に考慮した形で伝えること」も出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

様々な形式を考えていますが、基本的には以下の 2 つがあります。

- (1) グループ毎に、数学の様々な問題を協力しながら検討・解決する練習をする。(希望者には、数学検定・ビジネス数学検定など様々な試験に取り組める機会も設けたいと考えています。)
- (2) グループ毎に予備知識・興味に合ったテキストを輪講する。これらと並行して、余裕のある人には、より具体的な課題に対して考察を行い、論文などの形で成果を纏める機会を持ちたいと考えています。また、学習の結果として得られた情報は、学習支援システムや普段のゼミ活動の中でフィードバックを行い全員で共有できるようにします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	微分の定義	関数の極限值と導関数の意味を理解する。
第 2 回	微分の計算法	和差積商、合成関数、逆関数に関する微分を習得する。
第 3 回	様々な関数の微分	指数関数、対数関数に関する微分を習得する。
第 4 回	微分の応用	経済学に関連する微分の応用について学習する。
第 5 回	積分の定義	不定積分・定積分の意味、微分との関係を理解する。
第 6 回	積分の計算法	部分積分、置換積分の計算法を習得する。
第 7 回	積分の応用	具体的な例題を通して積分の応用について学習する。
第 8 回	多変数関数の微分	多変数関数に関する偏微分の計算法を習得する。
第 9 回	多変数関数の極値	多変数関数の極値の計算法を習得する。
第 10 回	偏微分の応用	経済学に関連する偏微分の応用について学習する。
第 11 回	ゲーム理論の導入	非協力ゲームに関する基本的な概念を理解する。
第 12 回	戦略型ゲームの戦略	戦略型ゲームにおけるナッシュ均衡の意味を理解する。
第 13 回	混合戦略における均衡	混合戦略におけるナッシュ均衡の存在を理解する。

第 14 回 展開型ゲームの理論 部分ゲーム完全均衡について理解する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

輪講を行う上で、自分が担当する箇所について内容を理解し、自分の言葉で分かり易く説明できるように整理しておく必要があります。また、他の参加者が担当している部分に対しても、事前に内容を予習して質問や議論が出来るように備えておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。

【参考書】

経営効率性の測定と改善 (刀根薫著、日科技連、1993 年)
 経済学で出る数学: 高校数学からきちんと攻める (尾山大輔、安田洋祐著、日本評論社、2013 年)
 など多数使用します。学習を進めていく過程で必要となったものを随時取り入れていく予定です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや普段のコミュニケーションから、数学の力量が高い学生や数学を重要と考えている学生が想像以上に沢山いることが分かり問題設定や難易度の参考にしています。引き続き「学生の傾向や希望」などを把握しながら、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

PC 上でプログラミングに基づく分析を行う機会は多くなると思います。

【その他の重要事項】

数学の知識・経験は特に必要としません。理解が遅くても構わないので、考えることが苦にならないという方の参加を歓迎いたします。質問・相談等に対しては、可能な限り個別に対応できるようにしたいと考えています。

【内容に関連する科目】

基礎数学 I / II

発展数学 I / L II

教養数学 A / B

計算と言語のしくみ

コンピュータと数理の活用

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we develop a method to evaluate the efficiency of various operations observed in our society mainly from a standpoint of mathematics and computer science.

[Learning objectives] To this end, the basics of calculus, linear algebra and programming technique are studied intensively, which enable us to understand some important algorithms for linear and nonlinear optimization, data envelopment analysis and so on. We actually encode such algorithms in Python, and apply them to analyze the efficiency of a specific sort of business operations.

[Learning activities outside of classroom] To understand these results more precisely, it is supposed to spend four hours to review the contents for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Overall grade is determined by class contribution (100%).

MAN200FA

演習 2

倉田 俊彦

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

参加者の興味・能力に応じて「数学やプログラミングの基礎」に関連するテーマを定め、グループ単位の学習・検討を重ねていく予定です。扱う内容を大きく分類すると以下のようになります。

- (1) 今まで数学を殆どやらなかったが、この機会に少しでも数学を経験してみたいという方や、SPI や公務員試験などの問題を解く際に必要とされる数学的力量を身につけたいという方のために、様々な数学的思考に現れる基本的な型を習得する。
- (2) 数学が得意な方に対しては、オペレーションズリサーチ・経営・経済に関連する実用的な話題を数学的視点から調査・考察する。
- (3) 上の話題の中には興味深いアルゴリズムが沢山存在するので、それらを題材にプログラミングの練習を行う。

【到達目標】

各分類毎の具体的な到達目標は以下のようになります。

- (1) 数学における基本的な問題の解法を習得しながら、最終的には多変数関数の極値の計算ができるようになる。
 - (2) 微積分や数理計画法などの知識を、経営・経済の様々な問題に適用した事例を理解できるようにする。
 - (3) 計算内容の説明からアルゴリズムの構造を理解して、その流れをプログラムとして表現できるようにする。
- いずれのテーマについても内容を理解することが重要な目標となります。「理解する」ということの定義は難しいのですが、少なくとも「公式や知識を単純に記憶すること」や「漠然と予想・想像すること」を繰り返すのではなく、「考えて問題を解決する工夫を重ねること」が必要になります。その過程において、必然的に「知識を活用すること」や「考えて理解した内容を論理的に整理して、聞き手に考慮した形で伝えること」も出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

様々な形式を考えていますが、基本的には以下の 2 つがあります。

- (1) グループ毎に、数学の様々な問題を協力しながら検討・解決する練習をする。（希望者には、数学検定・ビジネス数学検定など様々な試験に取り組める機会も設けたいと考えています。）
- (2) グループ毎に予備知識・興味に合ったテキストを輪講する。これらと並行して、余裕のある人には、より具体的な課題に対して考察を行い、論文などの形で成果を纏める機会を持ちたいと考えています。また、学習の結果として得られた情報は、学習支援システムや普段のゼミ活動の中でフィードバックを行い全員で共有できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	計算環境の準備	Python を使用する際に必要な準備知識を纏める。
第 2 回	Python の型と入出力文	基本的なデータ型と入出力の方法を習得する。
第 3 回	Python の式	演算子や式を利用したプログラミングの例を学習する。
第 4 回	Python の制御文	制御文を利用したプログラミングの例を学習する。
第 5 回	Python のクラス	簡単な例題を通して、クラスの基本的な利用方法を学ぶ。
第 6 回	Python と機械学習 (1)	scikit-learn を使った分類・回帰の分析方法を学ぶ。
第 7 回	Python と機械学習 (2)	scikit-learn を使ったクラスタリングの分析方法を学ぶ。
第 8 回	プログラミングの応用	各自の興味を持つ問題に対してプログラムによる分析を行う。
第 9 回	線形計画法の導入	線形計画問題の背景と幾何学的な解法を理解する。
第 10 回	線形計画法の基礎	線形計画問題の基底解の概念や基本定理を理解する。
第 11 回	線形代数の基礎	行列の基本変形による連立方程式の解法を学習する。
第 12 回	シンプレックス法	シンプレックス法の計算方法とプログラムを解説する。
第 13 回	包絡分析法	包絡分析法による効率評価と計算方法を理解する。

第 14 回 包絡分析法の応用

包絡分析法に基づき、各自が興味を持つ事業体の効率分析を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪講を行う上で、自分が担当する箇所について内容を理解し、自分の言葉で分かり易く説明できるように整理しておく必要があります。また、他の参加者が担当している部分に対しても、事前に内容を予習して質問や議論が出来るように備えておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

経営効率性の測定と改善（刀根薫著、日科技連、1993 年）
 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める（尾山大輔、安田洋祐著、日本評論社、2013 年）
 など多数使用します。学習を進めていく過程で必要となったものを随時取り入れていく予定です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや普段のコミュニケーションから、数学の力量が高い学生や数学を重要と考えている学生が想像以上に沢山いることが分かり問題設定や難易度の参考にしています。引き続き「学生の傾向や希望」などを把握しながら、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

PC 上でプログラミングに基づく分析を行う機会は多くなると思います。

【その他の重要事項】

数学の知識・経験は特に必要としません。理解が遅くても構わないので、考えることが苦にならないという方の参加を歓迎いたします。質問・相談等に対しては、可能な限り個別に対応できるようにしたいと考えています。

[内容に関連する科目]

基礎数学 I / II

発展数学 L I / L II

教養数学 A / B

計算と言語のしくみ

コンピュータと数理の活用

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we develop a method to evaluate the efficiency of various operations observed in our society mainly from a standpoint of mathematics and computer science.

[Learning objectives] To this end, the basics of calculus, linear algebra and programming technique are studied intensively, which enable us to understand some important algorithms for linear and nonlinear optimization, data envelopment analysis and so on. We actually encode such algorithms in Python, and apply them to analyze the efficiency of a specific sort of business operations.

[Learning activities outside of classroom] To understand these results more precisely, it is supposed to spend four hours to review the contents for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Overall grade is determined by class contribution (100%).

MAN300FA

演習 3

倉田 俊彦

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

参加者の興味・能力に応じて「数学やプログラミングの基礎」に関連するテーマを定め、グループ単位の学習・検討を重ねていく予定です。扱う内容を大きく分類すると以下のようになります。

- (1) 今まで数学を殆どやらなかったが、この機会に少しでも数学を経験してみたいという方や、SPI や公務員試験などの問題を解く際に必要とされる数学的力量を身につけたいという方のために、様々な数学的思考に現れる基本的な型を習得する。
- (2) 数学が得意な方に対しては、オペレーションズリサーチ・経営・経済に関連する実用的な話題を数学的視点から調査・考察する。
- (3) 上の話題の中には興味深いアルゴリズムが沢山存在するので、それらを題材にプログラミングの練習を行う。

【到達目標】

各分類毎の具体的な到達目標は以下のようになります。

- (1) 数学における基本的な問題の解法を習得しながら、最終的には多変数関数の極値の計算ができるようになる。
 - (2) 微積分や数値計画法などの知識を、経営・経済の様々な問題に適用した事例を理解できるようにする。
 - (3) 計算内容の説明からアルゴリズムの構造を理解して、その流れをプログラムとして表現できるようにする。
- いずれのテーマについても内容を理解することが重要な目標となります。「理解する」ということの定義は難しいのですが、少なくとも「公式や知識を単純に記憶すること」や「漠然と予想・想像すること」を繰り返すのではなく、「考えて問題を解決する工夫を重ねること」が必要になります。その過程において、必然的に「知識を活用すること」や「考えて理解した内容を論理的に整理して、聞き手に考慮した形で伝えること」も出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

様々な形式を考えていますが、基本的には以下の 2 つがあります。

- (1) グループ毎に、数学の様々な問題を協力しながら検討・解決する練習をする。(希望者には、数学検定・ビジネス数学検定など様々な試験に取り組める機会も設けたいと考えています。)
- (2) グループ毎に予備知識・興味に合ったテキストを輪講する。これらと並行して、余裕のある人には、より具体的な課題に対して考察を行い、論文などの形で成果を纏める機会を持ちたいと考えています。また、学習の結果として得られた情報は、学習支援システムや普段のゼミ活動の中でフィードバックを行い全員で共有できるようにします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	微分の定義	関数の極限值と導関数の意味を理解する。
第 2 回	微分の計算法	和差積商、合成関数、逆関数に関する微分を習得する。
第 3 回	様々な関数の微分	指数関数、対数関数に関する微分を習得する。
第 4 回	微分の実用	経済学に関連する微分の実用について学習する。
第 5 回	積分の定義	不定積分・定積分の意味、微分との関係を理解する。
第 6 回	積分の計算法	部分積分、置換積分の計算法を習得する。
第 7 回	積分の実用	具体的な例題を通して積分の実用について学習する。
第 8 回	多変数関数の微分	多変数関数に関する偏微分の計算方法を習得する。
第 9 回	多変数関数の極値	多変数関数の極値の計算方法を習得する。
第 10 回	偏微分の実用	経済学に関連する偏微分の実用について学習する。
第 11 回	ゲーム理論の導入	非協力ゲームに関する基本的な概念を理解する。
第 12 回	戦略型ゲームの戦略	戦略型ゲームにおけるナッシュ均衡の意味を理解する。
第 13 回	混合戦略における均衡	混合戦略におけるナッシュ均衡の存在を理解する。

第 14 回 展開型ゲームの理論 部分ゲーム完全均衡について理解する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

輪講を行う上で、自分が担当する箇所について内容を理解し、自分の言葉で分かり易く説明できるように整理しておく必要があります。また、他の参加者が担当している部分に対しても、事前に内容を予習して質問や議論が出来るように備えておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。

【参考書】

経営効率性の測定と改善 (刀根薫著、日科技連、1993 年)
 経済学で出る数学: 高校数学からきちんと攻める (尾山大輔、安田洋祐著、日本評論社、2013 年)
 など多数使用します。学習を進めていく過程で必要となったものを随時取り入れていく予定です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや普段のコミュニケーションから、数学の力量が高い学生や数学を重要と考えている学生が想像以上に沢山いることが分かり問題設定や難易度の参考にしています。引き続き「学生の傾向や希望」などを把握しながら、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

PC 上でプログラミングに基づく分析を行う機会は多くなると思います。

【その他の重要事項】

数学の知識・経験は特に必要としません。理解が遅くても構わないので、考えることが苦にならないという方の参加を歓迎いたします。質問・相談等に対しては、可能な限り個別に対応できるようにしたいと考えています。

【内容に関連する科目】

基礎数学 I / II

発展数学 I / L II

教養数学 A / B

計算と言語のしくみ

コンピュータと数理の活用

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we develop a method to evaluate the efficiency of various operations observed in our society mainly from a standpoint of mathematics and computer science.

[Learning objectives] To this end, the basics of calculus, linear algebra and programming technique are studied intensively, which enable us to understand some important algorithms for linear and nonlinear optimization, data envelopment analysis and so on. We actually encode such algorithms in Python, and apply them to analyze the efficiency of a specific sort of business operations.

[Learning activities outside of classroom] To understand these results more precisely, it is supposed to spend four hours to review the contents for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Overall grade is determined by class contribution (100%).

MAN300FA

演習 4

倉田 俊彦

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

参加者の興味・能力に応じて「数学やプログラミングの基礎」に関連するテーマを定め、グループ単位の学習・検討を重ねていく予定です。扱う内容を大きく分類すると以下のようになります。

- (1) 今まで数学を殆どやらなかったが、この機会に少しでも数学を経験してみたいという方や、SPI や公務員試験などの問題を解く際に必要とされる数学的力量を身につけたいという方のために、様々な数学的思考に現れる基本的な型を習得する。
- (2) 数学が得意な方に対しては、オペレーションズリサーチ・経営・経済に関連する実用的な話題を数学的視点から調査・考察する。
- (3) 上の話題の中には興味深いアルゴリズムが沢山存在するので、それらを題材にプログラミングの練習を行う。

【到達目標】

各分類毎の具体的な到達目標は以下のようになります。

- (1) 数学における基本的な問題の解法を習得しながら、最終的には多変数関数の極値の計算ができるようになる。
 - (2) 微積分や数理計画法などの知識を、経営・経済の様々な問題に適用した事例を理解できるようにする。
 - (3) 計算内容の説明からアルゴリズムの構造を理解して、その流れをプログラムとして表現できるようにする。
- いずれのテーマについても内容を理解することが重要な目標となります。「理解する」ということの定義は難しいのですが、少なくとも「公式や知識を単純に記憶すること」や「漠然と予想・想像すること」を繰り返すのではなく、「考えて問題を解決する工夫を重ねること」が必要になります。その過程において、必然的に「知識を活用すること」や「考えて理解した内容を論理的に整理して、聞き手に考慮した形で伝えること」も出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

様々な形式を考えていますが、基本的には以下の 2 つがあります。

- (1) グループ毎に、数学の様々な問題を協力しながら検討・解決する練習をする。（希望者には、数学検定・ビジネス数学検定など様々な試験に取り組める機会も設けたいと考えています。）
- (2) グループ毎に予備知識・興味に合ったテキストを輪講する。これらと並行して、余裕のある人には、より具体的な課題に対して考察を行い、論文などの形で成果を纏める機会を持ちたいと考えています。また、学習の結果として得られた情報は、学習支援システムや普段のゼミ活動の中でフィードバックを行い全員で共有できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	計算環境の準備	Python を使用する際に必要な準備知識を纏める。
第 2 回	Python の型と入出力文	基本的なデータ型と入出力の方法を習得する。
第 3 回	Python の式	演算子や式を利用したプログラミングの例を学習する。
第 4 回	Python の制御文	制御文を利用したプログラミングの例を学習する。
第 5 回	Python のクラス	簡単な例題を通して、クラスの基本的な利用方法を学ぶ。
第 6 回	Python と機械学習 (1)	scikit-learn を使った分類・回帰の分析方法を学ぶ。
第 7 回	Python と機械学習 (2)	scikit-learn を使ったクラスタリングの分析方法を学ぶ。
第 8 回	プログラミングの応用	各自の興味を持つ問題に対してプログラムによる分析を行う。
第 9 回	線形計画法の導入	線形計画問題の背景と幾何学的な解法を理解する。
第 10 回	線形計画法の基礎	線形計画問題の基底解の概念や基本定理を理解する。
第 11 回	線形代数の基礎	行列の基本変形による連立方程式の解法を学習する。
第 12 回	シンプレックス法	シンプレックス法の計算方法とプログラムを解説する。
第 13 回	包絡分析法	包絡分析法による効率評価と計算方法を理解する。

第 14 回 包絡分析法の応用

包絡分析法に基づき、各自が興味を持つ事業体の効率分析を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪講を行う上で、自分が担当する箇所について内容を理解し、自分の言葉で分かり易く説明できるように整理しておく必要があります。また、他の参加者が担当している部分に対しても、事前に内容を予習して質問や議論が出来るように備えておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

経営効率性の測定と改善（刀根薫著、日科技連、1993 年）
 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める（尾山大輔、安田洋祐著、日本評論社、2013 年）
 など多数使用します。学習を進めていく過程で必要となったものを随時取り入れていく予定です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや普段のコミュニケーションから、数学の力量が高い学生や数学を重要と考えている学生が想像以上に沢山いることが分かり問題設定や難易度の参考にしています。引き続き「学生の傾向や希望」などを把握しながら、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

PC 上でプログラミングに基づく分析を行う機会は多くなると思います。

【その他の重要事項】

数学の知識・経験は特に必要としません。理解が遅くても構わないので、考えることが苦にならないという方の参加を歓迎いたします。質問・相談等に対しては、可能な限り個別に対応できるようにしたいと考えています。

[内容に関連する科目]

基礎数学 I / II

発展数学 L I / L II

教養数学 A / B

計算と言語のしくみ

コンピュータと数理の活用

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we develop a method to evaluate the efficiency of various operations observed in our society mainly from a standpoint of mathematics and computer science.

[Learning objectives] To this end, the basics of calculus, linear algebra and programming technique are studied intensively, which enable us to understand some important algorithms for linear and nonlinear optimization, data envelopment analysis and so on. We actually encode such algorithms in Python, and apply them to analyze the efficiency of a specific sort of business operations.

[Learning activities outside of classroom] To understand these results more precisely, it is supposed to spend four hours to review the contents for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Overall grade is determined by class contribution (100%).

MAN400FA

演習 5

倉田 俊彦

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

参加者の興味・能力に応じて「数学やプログラミングの基礎」に関連するテーマを定め、グループ単位の学習・検討を重ねていく予定です。扱う内容を大きく分類すると以下のようになります。

- (1) 今まで数学を殆どやらなかったが、この機会に少しでも数学を経験してみたいという方や、SPI や公務員試験などの問題を解く際に必要とされる数学的力量を身につけたいという方のために、様々な数学的思考に現れる基本的な型を習得する。
- (2) 数学が得意な方に対しては、オペレーションズリサーチ・経営・経済に関連する実用的な話題を数学的視点から調査・考察する。
- (3) 上の話題の中には興味深いアルゴリズムが沢山存在するので、それらを題材にプログラミングの練習を行う。

【到達目標】

各分類毎の具体的な到達目標は以下のようになります。

- (1) 数学における基本的な問題の解法を習得しながら、最終的には多変数関数の極値の計算ができるようになる。
 - (2) 微積分や数値計画法などの知識を、経営・経済の様々な問題に適用した事例を理解できるようにする。
 - (3) 計算内容の説明からアルゴリズムの構造を理解して、その流れをプログラムとして表現できるようにする。
- いずれのテーマについても内容を理解することが重要な目標となります。「理解する」ということの定義は難しいのですが、少なくとも「公式や知識を単純に記憶すること」や「漠然と予想・想像すること」を繰り返すのではなく、「考えて問題を解決する工夫を重ねること」が必要になります。その過程において、必然的に「知識を活用すること」や「考えて理解した内容を論理的に整理して、聞き手に考慮した形で伝えること」も出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

様々な形式を考えていますが、基本的には以下の 2 つがあります。

- (1) グループ毎に、数学の様々な問題を協力しながら検討・解決する練習をする。（希望者には、数学検定・ビジネス数学検定など様々な試験に取り組める機会も設けたいと考えています。）
- (2) グループ毎に予備知識・興味に合ったテキストを輪講する。これらと並行して、余裕のある人には、より具体的な課題に対して考察を行い、論文などの形で成果を纏める機会を持ちたいと考えています。また、学習の結果として得られた情報は、学習支援システムや普段のゼミ活動の中でフィードバックを行い全員で共有できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	微分の定義	関数の極限值と導関数の意味を理解する。
第 2 回	微分の計算法	和差積商、合成関数、逆関数に関する微分を習得する。
第 3 回	様々な関数の微分	指数関数、対数関数に関する微分を習得する。
第 4 回	微分の実用	経済学に関連する微分の実用について学習する。
第 5 回	積分の定義	不定積分・定積分の意味、微分との関係を理解する。
第 6 回	積分の計算法	部分積分、置換積分の計算法を習得する。
第 7 回	積分の実用	具体的な例題を通して積分の実用について学習する。
第 8 回	多変数関数の微分	多変数関数に関する偏微分の計算法を習得する。
第 9 回	多変数関数の極値	多変数関数の極値の計算法を習得する。
第 10 回	偏微分の実用	経済学に関連する偏微分の実用について学習する。
第 11 回	ゲーム理論の導入	非協力ゲームに関する基本的な概念を理解する。
第 12 回	戦略型ゲームの戦略	戦略型ゲームにおけるナッシュ均衡の意味を理解する。
第 13 回	混合戦略における均衡	混合戦略におけるナッシュ均衡の存在を理解する。

第 14 回 展開型ゲームの理論 部分ゲーム完全均衡について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪講を行う上で、自分が担当する箇所について内容を理解し、自分の言葉で分かり易く説明できるように整理しておく必要があります。また、他の参加者が担当している部分に対しても、事前に内容を予習して質問や議論が出来るように備えておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

経営効率性の測定と改善（刀根薫著、日科技連、1993 年）
 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める（尾山大輔、安田洋祐著、日本評論社、2013 年）
 など多数使用します。学習を進めていく過程で必要となったものを随時取り入れていく予定です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや普段のコミュニケーションから、数学の力量が高い学生や数学を重要と考えている学生が想像以上に沢山いることが分かり問題設定や難易度の参考にしています。引き続き「学生の傾向や希望」などを把握しながら、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

PC 上でプログラミングに基づく分析を行う機会は多くなると思います。

【その他の重要事項】

数学の知識・経験は特に必要としません。理解が遅くても構わないので、考えることが苦にならないという方の参加を歓迎いたします。質問・相談等に対しては、可能な限り個別に対応できるようにしたいと考えています。

【内容に関連する科目】

基礎数学 I / II

発展数学 I / L II

教養数学 A / B

計算と言語のしくみ

コンピュータと数理の活用

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we develop a method to evaluate the efficiency of various operations observed in our society mainly from a standpoint of mathematics and computer science.

[Learning objectives] To this end, the basics of calculus, linear algebra and programming technique are studied intensively, which enable us to understand some important algorithms for linear and nonlinear optimization, data envelopment analysis and so on. We actually encode such algorithms in Python, and apply them to analyze the efficiency of a specific sort of business operations.

[Learning activities outside of classroom] To understand these results more precisely, it is supposed to spend four hours to review the contents for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Overall grade is determined by class contribution (100%).

MAN400FA

演習 6

倉田 俊彦

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

参加者の興味・能力に応じて「数学やプログラミングの基礎」に関連するテーマを定め、グループ単位の学習・検討を重ねていく予定です。扱う内容を大きく分類すると以下のようになります。

- (1) 今まで数学を殆どやらなかったが、この機会に少しでも数学を経験してみたいという方や、SPI や公務員試験などの問題を解く際に必要とされる数学的力量を身につけたいという方のために、様々な数学的思考に現れる基本的な型を習得する。
- (2) 数学が得意な方に対しては、オペレーションズリサーチ・経営・経済に関連する実用的な話題を数学的視点から調査・考察する。
- (3) 上の話題の中には興味深いアルゴリズムが沢山存在するので、それらを題材にプログラミングの練習を行う。

【到達目標】

- 各分類毎の具体的な到達目標は以下のようになります。
- (1) 数学における基本的な問題の解法を習得しながら、最終的には多変数関数の極値の計算ができるようになる。
 - (2) 微積分や数理計画法などの知識を、経営・経済の様々な問題に適用した事例を理解できるようにする。
 - (3) 計算内容の説明からアルゴリズムの構造を理解して、その流れをプログラムとして表現できるようにする。
- いずれのテーマについても内容を理解することが重要な目標となります。「理解する」ということの定義は難しいのですが、少なくとも「公式や知識を単純に記憶すること」や「漠然と予想・想像すること」を繰り返すのではなく、「考えて問題を解決する工夫を重ねること」が必要になります。その過程において、必然的に「知識を活用すること」や「考えて理解した内容を論理的に整理して、聞き手に考慮した形で伝えること」も出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- 様々な形式を考えていますが、基本的には以下の 2 つがあります。
- (1) グループ毎に、数学の様々な問題を協力しながら検討・解決する練習をする。(希望者には、数学検定・ビジネス数学検定など様々な試験に取り組める機会も設けたいと考えています。)
 - (2) グループ毎に予備知識・興味に合ったテキストを輪講する。これらと並行して、余裕のある人には、より具体的な課題に対して考察を行い、論文などの形で成果を纏める機会を持ちたいと考えています。また、学習の結果として得られた情報は、学習支援システムや普段のゼミ活動の中でフィードバックを行い全員で共有できるようにします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	計算環境の準備	Python を使用する際に必要な準備知識を纏める。
第 2 回	Python の型と入出力文	基本的なデータ型と入出力の方法を習得する。
第 3 回	Python の式	演算子や式を利用したプログラミングの例を学習する。
第 4 回	Python の制御文	制御文を利用したプログラミングの例を学習する。
第 5 回	Python のクラス	簡単な例題を通して、クラスの基本的な利用方法を学ぶ。
第 6 回	Python と機械学習 (1)	scikit-learn を使った分類・回帰の分析方法を学ぶ。
第 7 回	Python と機械学習 (2)	scikit-learn を使ったクラスタリングの分析方法を学ぶ。
第 8 回	プログラミングの応用	各自の興味を持つ問題に対してプログラムによる分析を行う。
第 9 回	線形計画法の導入	線形計画問題の背景と幾何学的な解法を理解する。
第 10 回	線形計画法の基礎	線形計画問題の基底解の概念や基本定理を理解する。
第 11 回	線形代数の基礎	行列の基本変形による連立方程式の解法を学習する。
第 12 回	シンプレックス法	シンプレックス法の計算方法とプログラムを解説する。
第 13 回	包絡分析法	包絡分析法による効率評価と計算方法を理解する。

第 14 回 包絡分析法の応用

包絡分析法に基づき、各自が興味を持つ事業体の効率分析を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

輪講を行う上で、自分が担当する箇所について内容を理解し、自分の言葉で分かり易く説明できるように整理しておく必要があります。また、他の参加者が担当している部分に対しても、事前に内容を予習して質問や議論が出来るように備えておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。

【参考書】

経営効率性の測定と改善 (刀根薫著、日科技連、1993 年)
 経済学で出る数学: 高校数学からきちんと攻める (尾山大輔、安田洋祐著、日本評論社、2013 年)
 など多数使用します。学習を進めていく過程で必要となったものを随時取り入れていく予定です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや普段のコミュニケーションから、数学の力量が高い学生や数学を重要と考えている学生が想像以上に沢山いることが分かり問題設定や難易度の参考にしています。引き続き「学生の傾向や希望」などを把握しながら、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

PC 上でプログラミングに基づく分析を行う機会は多くなると思ひます。

【その他の重要事項】

数学の知識・経験は特に必要としません。理解が遅くても構わないので、考えることが苦にならないという方の参加を歓迎いたします。質問・相談等に対しては、可能な限り個別に対応できるようにしたいと考えています。

[内容に関連する科目]

基礎数学 I / II
 発展数学 L I / L II
 教養数学 A / B
 計算と言語のしくみ
 コンピュータと数理の活用

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we develop a method to evaluate the efficiency of various operations observed in our society mainly from a standpoint of mathematics and computer science.

[Learning objectives] To this end, the basics of calculus, linear algebra and programming technique are studied intensively, which enable us to understand some important algorithms for linear and nonlinear optimization, data envelopment analysis and so on. We actually encode such algorithms in Python, and apply them to analyze the efficiency of a specific sort of business operations.

[Learning activities outside of classroom] To understand these results more precisely, it is supposed to spend four hours to review the contents for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Overall grade is determined by class contribution (100%).

MAN200FA

演習 1

児玉 靖司

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学やマーケティングをテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【概要】

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、CMS (Contents Management System)、LMS (Learning Management System) などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、マーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを（原則として）3 人までからなるグループに分け、2・3 年次には、目標とする分野の専門書（教員が指定）を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらい、4 年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。特に最近では海外（米・国・ヨーロッパ）に訪問し企業調査も行っている。2018 年には、ゼミ生と共にシリコンバレーに訪問し研修を行った。ただし、新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらい、さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3 年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献（専門書）の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気を作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第 2 回	グループ分け、テーマ設定 (1)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 3 回	グループ分け、テーマ設定 (2)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 4 回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第 5 回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第 6 回	輪読 (1)	選定した本の輪読を行う。
第 7 回	輪読 (2)	選定した本の輪読を行う。
第 8 回	輪読 (3)	選定した本の輪読を行う。
第 9 回	輪読 (4)	選定した本の輪読を行う。
第 10 回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第 11 回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第 12 回	輪読 (5)	選定した本の輪読を行う。
第 13 回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

【春学期評価】夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点 (50%)、発表内容について (50%) で評価する。

【秋学期評価】① 演習への取り組み姿勢（原則としてすべてに参加すること）、② 2、3 年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4 年次には、卒業論文の提出（発表）を義務とする。以上の点について平常点 (50%)、発表、論文の内容について (50%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的に行い、協調性をもって望むこと。

知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていくたい。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

We mainly select themes related to informatics necessary for business strategy and consider them as research. You can collaborate and report as a bachelor thesis.

【Learning Objectives】

Study literature and learn how to present it as a presentation. You will learn how to solve problems, mainly by searching the literature or searching the Internet to solve problems that question business informatics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Prepare and review the set theme. Investigate and consider the presentation in the exercise. The standard preparatory and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

【Spring semester】Make an interim presentation so that you can make a presentation at the summer camp. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of the presentation (50%).

【Autumn semester】(1) Attitude toward exercises (participate in all in principle), (2) Presentation of survey results and submission of results, (3) Submission of graduation thesis is obligatory. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of presentations and thesis (50%).

MAN200FA

演習 2

児玉 靖司

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学やマーケティングをテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【概要】

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、CMS (Contents Management System)、LMS (Learning Management System) などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、マーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを（原則として）3 人までからなるグループに分け、2・3 年次には、目標とする分野の専門書（教員が指定）を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらい、4 年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。特に最近では海外（米・国・ヨーロッパ）に訪問し企業調査も行っている。2018 年には、ゼミ生と共にシリコンバレーに訪問し研修を行った。ただし、新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらい、さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3 年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献（専門書）の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気を作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第 2 回	グループ分け、テーマ設定 (1)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 3 回	グループ分け、テーマ設定 (2)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 4 回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第 5 回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第 6 回	輪読 (1)	選定した本の輪読を行う。
第 7 回	輪読 (2)	選定した本の輪読を行う。
第 8 回	輪読 (3)	選定した本の輪読を行う。
第 9 回	輪読 (4)	選定した本の輪読を行う。
第 10 回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第 11 回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第 12 回	輪読 (5)	選定した本の輪読を行う。
第 13 回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

[春学期評価] 夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点 (50%)、発表内容について (50%) で評価する。

[秋学期評価] ① 演習への取り組み姿勢 (原則としてすべてに参加すること)、② 2、3 年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4 年次には、卒業論文の提出 (発表) を義務とする。以上の点について平常点 (50%)、発表、論文の内容について (50%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的に行い、協調性をもって望むこと。

知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていくたい。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

We mainly select themes related to informatics necessary for business strategy and consider them as research. You can collaborate and report as a bachelor thesis.

【Learning Objectives】

Study literature and learn how to present it as a presentation. You will learn how to solve problems, mainly by searching the literature or searching the Internet to solve problems that question business informatics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Prepare and review the set theme. Investigate and consider the presentation in the exercise. The standard preparatory and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

[Spring semester] Make an interim presentation so that you can make a presentation at the summer camp. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of the presentation (50%).

[Autumn semester] (1) Attitude toward exercises (participate in all in principle), (2) Presentation of survey results and submission of results, (3) Submission of graduation thesis is obligatory. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of presentations and thesis (50%).

MAN300FA

演習 3

児玉 靖司

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学やマーケティングをテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【概要】

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、CMS (Contents Management System)、LMS (Learning Management System) などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、マーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを（原則として）3 人までからなるグループに分け、2・3 年次には、目標とする分野の専門書（教員が指定）を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらい、4 年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。特に最近では海外（米・国・ヨーロッパ）に訪問し企業調査も行っている。2018 年には、ゼミ生と共にシリコンバレーに訪問し研修を行った。ただし、新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらい、さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3 年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献（専門書）の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気を作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第 2 回	グループ分け、テーマ設定 (1)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 3 回	グループ分け、テーマ設定 (2)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 4 回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第 5 回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第 6 回	輪読 (1)	選定した本の輪読を行う。
第 7 回	輪読 (2)	選定した本の輪読を行う。
第 8 回	輪読 (3)	選定した本の輪読を行う。
第 9 回	輪読 (4)	選定した本の輪読を行う。
第 10 回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第 11 回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第 12 回	輪読 (5)	選定した本の輪読を行う。
第 13 回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

[春学期評価] 夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点 (50%)、発表内容について (50%) で評価する。

[秋学期評価] ① 演習への取り組み姿勢 (原則としてすべてに参加すること)、② 2、3 年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4 年次には、卒業論文の提出 (発表) を義務とする。以上の点について平常点 (50%)、発表、論文の内容について (50%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的に行い、協調性をもって望むこと。

知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていくたい。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

We mainly select themes related to informatics necessary for business strategy and consider them as research. You can collaborate and report as a bachelor thesis.

【Learning Objectives】

Study literature and learn how to present it as a presentation. You will learn how to solve problems, mainly by searching the literature or searching the Internet to solve problems that question business informatics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Prepare and review the set theme. Investigate and consider the presentation in the exercise. The standard preparatory and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

[Spring semester] Make an interim presentation so that you can make a presentation at the summer camp. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of the presentation (50%).

[Autumn semester] (1) Attitude toward exercises (participate in all in principle), (2) Presentation of survey results and submission of results, (3) Submission of graduation thesis is obligatory. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of presentations and thesis (50%).

MAN300FA

演習 4

児玉 靖司

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学やマーケティングをテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【概要】

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、CMS (Contents Management System)、LMS (Learning Management System) などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、マーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを（原則として）3 人までからなるグループに分け、2・3 年次には、目標とする分野の専門書（教員が指定）を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらい、4 年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。特に最近では海外（米・国・ヨーロッパ）に訪問し企業調査も行っている。2018 年には、ゼミ生と共にシリコンバレーに訪問し研修を行った。ただし、新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらい、さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3 年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献（専門書）の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気を作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第 2 回	グループ分け、テーマ設定 (1)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 3 回	グループ分け、テーマ設定 (2)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 4 回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第 5 回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第 6 回	輪読 (1)	選定した本の輪読を行う。
第 7 回	輪読 (2)	選定した本の輪読を行う。
第 8 回	輪読 (3)	選定した本の輪読を行う。
第 9 回	輪読 (4)	選定した本の輪読を行う。
第 10 回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第 11 回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第 12 回	輪読 (5)	選定した本の輪読を行う。
第 13 回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

[春学期評価] 夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点 (50%)、発表内容について (50%) で評価する。

[秋学期評価] ① 演習への取り組み姿勢（原則としてすべてに参加すること）、② 2、3 年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4 年次には、卒業論文の提出（発表）を義務とする。以上の点について平常点 (50%)、発表、論文の内容について (50%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的に行い、協調性をもって望むこと。

知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていくたい。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

We mainly select themes related to informatics necessary for business strategy and consider them as research. You can collaborate and report as a bachelor thesis.

【Learning Objectives】

Study literature and learn how to present it as a presentation. You will learn how to solve problems, mainly by searching the literature or searching the Internet to solve problems that question business informatics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Prepare and review the set theme. Investigate and consider the presentation in the exercise. The standard preparatory and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

[Spring semester] Make an interim presentation so that you can make a presentation at the summer camp. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of the presentation (50%).

[Autumn semester] (1) Attitude toward exercises (participate in all in principle), (2) Presentation of survey results and submission of results, (3) Submission of graduation thesis is obligatory. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of presentations and thesis (50%).

MAN400FA

演習 5

児玉 靖司

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学やマーケティングをテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【概要】

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、CMS (Contents Management System)、LMS (Learning Management System) などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、マーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを（原則として）3 人までからなるグループに分け、2・3 年次には、目標とする分野の専門書（教員が指定）を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらい、4 年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。特に最近では海外（米・国・ヨーロッパ）に訪問し企業調査も行っている。2018 年には、ゼミ生と共にシリコンバレーに訪問し研修を行った。ただし、新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらい、さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3 年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献（専門書）の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気を作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第 2 回	グループ分け、テーマ設定（1）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 3 回	グループ分け、テーマ設定（2）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 4 回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第 5 回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第 6 回	輪読（1）	選定した本の輪読を行う。
第 7 回	輪読（2）	選定した本の輪読を行う。
第 8 回	輪読（3）	選定した本の輪読を行う。
第 9 回	輪読（4）	選定した本の輪読を行う。
第 10 回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第 11 回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第 12 回	輪読（5）	選定した本の輪読を行う。
第 13 回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

【春学期評価】夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点（50%）、発表内容について（50%）で評価する。

【秋学期評価】① 演習への取り組み姿勢（原則としてすべてに参加すること）、② 2、3 年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4 年次には、卒業論文の提出（発表）を義務とする。以上の点について平常点（50%）、発表、論文の内容について（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的に行い、協調性をもって望むこと。

知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

We mainly select themes related to informatics necessary for business strategy and consider them as research. You can collaborate and report as a bachelor thesis.

【Learning Objectives】

Study literature and learn how to present it as a presentation. You will learn how to solve problems, mainly by searching the literature or searching the Internet to solve problems that question business informatics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Prepare and review the set theme. Investigate and consider the presentation in the exercise. The standard preparatory and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

【Spring semester】Make an interim presentation so that you can make a presentation at the summer camp. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of the presentation (50%).

【Autumn semester】(1) Attitude toward exercises (participate in all in principle), (2) Presentation of survey results and submission of results, (3) Submission of graduation thesis is obligatory. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of presentations and thesis (50%).

MAN400FA

演習 6

児玉 靖司

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学やマーケティングをテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【概要】

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、CMS (Contents Management System)、LMS (Learning Management System) などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、マーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを（原則として）3 人までからなるグループに分け、2・3 年次には、目標とする分野の専門書（教員が指定）を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらい、4 年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。特に最近では海外（米・国・ヨーロッパ）に訪問し企業調査も行っている。2018 年には、ゼミ生と共にシリコンバレーに訪問し研修を行った。ただし、新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらい、さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3 年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献（専門書）の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気を作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第 2 回	グループ分け、テーマ設定 (1)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 3 回	グループ分け、テーマ設定 (2)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 4 回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第 5 回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第 6 回	輪読 (1)	選定した本の輪読を行う。
第 7 回	輪読 (2)	選定した本の輪読を行う。
第 8 回	輪読 (3)	選定した本の輪読を行う。
第 9 回	輪読 (4)	選定した本の輪読を行う。
第 10 回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第 11 回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第 12 回	輪読 (5)	選定した本の輪読を行う。
第 13 回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

[春学期評価] 夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点 (50%)、発表内容について (50%) で評価する。

[秋学期評価] ① 演習への取り組み姿勢（原則としてすべてに参加すること）、② 2、3 年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4 年次には、卒業論文の提出（発表）を義務とする。以上の点について平常点 (50%)、発表、論文の内容について (50%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的に行い、協調性をもって望むこと。

知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

【Course Outline】

We mainly select themes related to informatics necessary for business strategy and consider them as research. You can collaborate and report as a bachelor thesis.

【Learning Objectives】

Study literature and learn how to present it as a presentation. You will learn how to solve problems, mainly by searching the literature or searching the Internet to solve problems that question business informatics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Prepare and review the set theme. Investigate and consider the presentation in the exercise. The standard preparatory and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

[Spring semester] Make an interim presentation so that you can make a presentation at the summer camp. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of the presentation (50%).

[Autumn semester] (1) Attitude toward exercises (participate in all in principle), (2) Presentation of survey results and submission of results, (3) Submission of graduation thesis is obligatory. The above points will be evaluated on a normal score (50%) and on the content of presentations and thesis (50%).

MAN200FA

演習 1

近能 善範

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなど。及び、そうしたものを創出し、経済的利益を獲得していくプロセスのこと」を意味しています。もっと単純には、「顧客に新しい価値をもたらすようなモノやサービス、仕組みを実現し、新規需要を創出すること」と考えて差し支えありません。例えば、携帯電話やパソコン、インターネットや宅配サービスの登場などは、身近なイノベーションの事例です。

当演習がテーマとする「イノベーション・マネジメント」とは、こうしたイノベーションを「てこ」にした経営戦略—すなわち、単に「規模の経済性」を利用したり他社製品を模倣したりといった、新規性やオリジナリティを伴わない戦略ではなく、新たな顧客価値を生み出した上でそれをビジネスとして成立・成長させていくといった点を重視した戦略—について議論を行う、経営学の比較的新しい研究分野です。

当演習では、こうしたイノベーション・マネジメントを考えていく上で不可欠となる基礎的な知識や能力を、通常のゼミナール(教室)のほか、合宿や他大ゼミとの交流会、企業へのプレゼンテーション、卒業論文作成などを通じて、実践的に身につけていきます。

【到達目標】

当演習の目標は、イノベーション・マネジメントに関わる基本的な考え方や概念などを身につけて、実践できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

当演習は、二つのステップから構成される予定です。

まず第一のステップでは、テキストを読んで全員で討論するという作業を行い、イノベーション・マネジメントに関する基礎的な知識を身につけていただきます。本年度は、イノベーション・マネジメントの数あるトピックの中でも特に、新製品開発マネジメントに関する文献及びケースを読み進めていく予定です。ここでは、「優れた製品コンセプトを作り上げていくためにはどうしたらよいか」という問題意識に立ち、発想に至るまでの分析手法や方法論、目の付け所といったものを身につけて、訓練を積んでいく予定です。第二のステップでは、現実の経営現象を分析し、自らの考えをまとめ上げ、それを分かりやすく表現するトレーニングを積み重ねていくことが目標となります。

ここでは、2・3 年生は幾つかのグループに分かれて、学んだ知識をベースとして現実の企業事例を分析・発表し、それを全員で討論するという作業を行います。

一方、4 年生には、幾つかのグループに分かれてテーマを設定し、中間報告/企業プレゼンテーション/卒業論文作成等を行っていただきます。スケジュール進行については、夏合宿までを第一のステップ、それ以降を第二のステップに当てる予定です。

また夏合宿では、ケースをもとにディベートを行う予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イノベーション・マネジメント (1)	ガイダンス
第 2 回	イノベーション・マネジメント (2)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(1)
第 3 回	イノベーション・マネジメント (3)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(2)
第 4 回	イノベーション・マネジメント (4)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(3)
第 5 回	イノベーション・マネジメント (5)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(4)
第 6 回	イノベーション・マネジメント (6)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(5)
第 7 回	イノベーション・マネジメント (7)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(1)
第 8 回	イノベーション・マネジメント (8)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(2)
第 9 回	イノベーション・マネジメント (9)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(3)
第 10 回	イノベーション・マネジメント (10)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(4)

第 11 回	イノベーション・マネジメント (11)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(5)
第 12 回	イノベーション・マネジメント (12)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(6)
第 13 回	イノベーション・マネジメント (13)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(7)
第 14 回	イノベーション・マネジメント (14)	ケース企業についてのグループ発表

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

教科書は指定しませんが、重要な事項については適宜プリントを配布します。

【参考書】

近能善範・高井文子著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』, 新世社, 2010 年。

【成績評価の方法と基準】

①平常点 (35 %)、②発表 (20 %)、③グループ研究/卒業論文 (20 %)、④議論への参加 (15 %)、⑤ゼミ活動全般への寄与 (10 %)、で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークへの要望が強いのので、本年度も秋学期はグループワーク中心で授業を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン(ワード、エクセル、パワーポイント)を使用します。

【その他の重要事項】

合宿等、通常のゼミナール(教室)以外のゼミの行事にも、基本的に参加義務があります。

また、ゼミでの議論に積極的に貢献する、意欲ある学生の参加を望みます。

【関連科目】

関連科目は技術管理論 I/II になります。できるだけ 3 年次に履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The main objective of this class is to learn basic knowledge, concepts and ideas on "Innovation management" through reading of introductory textbooks, presentations and discussions, etc.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Grades will be based on a total of the following: (1) Ordinary points (35%), (2) Presentation (20%), (3) Group research/thesis (20%), (4) Participation in discussions (15%), (5) Contribution to overall seminar activities (10%).

MAN200FA

演習 2

近能 善範

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなど。及び、そうしたものを創出し、経済的利益を獲得していくプロセスのこと」を意味しています。もっと単純には、「顧客に新しい価値をもたらすようなモノやサービス、仕組みを実現し、新規需要を創出すること」と考えて差し支えありません。例えば、携帯電話やパソコン、インターネットや宅配サービスの登場などは、身近なイノベーションの事例です。

当演習がテーマとする「イノベーション・マネジメント」とは、こうしたイノベーションを「てこ」にした経営戦略—すなわち、単に「規模の経済性」を利用したり他社製品を模倣したりといった、新規性やオリジナリティを伴わない戦略ではなく、新たな顧客価値を生み出した上でそれをビジネスとして成立・成長させていくといった点を重視した戦略—について議論を行う、経営学の比較的新しい研究分野です。

当演習では、こうしたイノベーション・マネジメントを考えていく上で不可欠となる基礎的な知識や能力を、通常のゼミナール（教室）のほか、合宿や他大学ゼミとの交流会、企業へのプレゼンテーション、卒業論文作成などを通じて、実践的に身につけていきます。

【到達目標】

当演習の目標は、イノベーション・マネジメントに関わる基本的な考え方や概念などを身につけて、実践できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

当演習は、二つのステップから構成される予定です。

まず第一のステップでは、テキストを読んで全員で討論するという作業を行い、イノベーション・マネジメントに関する基礎的な知識を身につけていただきます。本年度は、イノベーション・マネジメントの数あるトピックの中でも特に、新製品開発マネジメントに関する文献及びケースを読み進めていく予定です。ここでは、「優れた製品コンセプトを作り上げていくためにはどうしたらよいか」という問題意識に立ち、発想に至るまでの分析手法や方法論、目の付け所といったものを身につけ、訓練を積んでいく予定です。

第二のステップでは、現実の経営現象を分析し、自らの考えをまとめ上げ、それを分かりやすく表現するトレーニングを積み重ねていくことが目標となります。

ここでは、3 年生は幾つかのグループに分かれて、学んだ知識をベースとして現実の企業事例を分析・発表し、それを全員で討論するという作業を行います。

一方、4 年生には、幾つかのグループに分かれてテーマを設定し、中間報告／企業プレゼンテーション/卒業論文作成等を行っていただきます。

スケジュール進行については、夏合宿までを第一のステップ、それ以降を第二のステップに当てる予定です。

また夏合宿では、ケースをもとにディベートを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	イノベーション・マネジメント (15)	中間報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(1)
第 3 回	イノベーション・マネジメント (16)	中間報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(2)
第 4 回	イノベーション・マネジメント (17)	中間報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(3)
第 5 回	イノベーション・マネジメント (18)	中間報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(4)
第 6 回	イノベーション・マネジメント (19)	中間報告会 (1)
第 7 回	イノベーション・マネジメント (20)	中間報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(5)
第 8 回	イノベーション・マネジメント (21)	中間報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(6)
第 9 回	イノベーション・マネジメント (22)	中間報告会 (2)
第 10 回	イノベーション・マネジメント (23)	最終報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(1)

第 11 回	イノベーション・マネジメント (24)	最終報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(2)
第 12 回	イノベーション・マネジメント (25)	最終報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(3)
第 13 回	イノベーション・マネジメント (26)	最終報告会
第 14 回	イノベーション・マネジメント (27)	最終報告の反省、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しませんが、重要な事項については適宜プリントを配布します。

【参考書】

近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』、新世社、2010 年。

【成績評価の方法と基準】

①平常点 (35 %)、②発表 (20 %)、③グループ研究/卒業論文 (20 %)、④議論への参加 (15 %)、⑤ゼミ活動全般への寄与 (10 %)、で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークへの要望が強いため、本年度も秋学期はグループワーク中心で授業を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード、エクセル、パワーポイント）を使用します。

【その他の重要事項】

合宿等、通常のゼミナール（教室）以外のゼミの行事にも、基本的に参加義務があります。

また、ゼミでの議論に積極的に貢献する、意欲ある学生の参加を望みます。なお、関連科目は技術管理論 I/II になりますので、できるだけ 3 年次に履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The main objective of this class is to learn basic knowledge, concepts and ideas on “Innovation management” through reading of introductory textbooks, presentations and discussions, etc.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Grades will be based on a total of the following: (1) Ordinary points (35%), (2) Presentation (20%), (3) Group research/thesis (20%), (4) Participation in discussions (15%), (5) Contribution to overall seminar activities (10%).

MAN300FA

演習 3

近能 善範

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなど。及び、そうしたものを創出し、経済的利益を獲得していくプロセスのこと」を意味しています。もっと単純には、「顧客に新しい価値をもたらすようなモノやサービス、仕組みを実現し、新規需要を創出すること」と考えて差し支えありません。例えば、携帯電話やパソコン、インターネットや宅配サービスの登場などは、身近なイノベーションの事例です。

当演習がテーマとする「イノベーション・マネジメント」とは、こうしたイノベーションを「てこ」にした経営戦略—すなわち、単に「規模の経済性」を利用したり他社製品を模倣したりといった、新規性やオリジナリティを伴わない戦略ではなく、新たな顧客価値を生み出した上でそれをビジネスとして成立・成長させていくといった点を重視した戦略—について議論を行う、経営学の比較的新しい研究分野です。

当演習では、こうしたイノベーション・マネジメントを考えていく上で不可欠となる基礎的な知識や能力を、通常のゼミナール(教室)のほか、合宿や他大ゼミとの交流会、企業へのプレゼンテーション、卒業論文作成などを通じて、実践的に身につけていきます。

【到達目標】

当演習の目標は、イノベーション・マネジメントに関わる基本的な考え方や概念などを身につけて、実践できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

当演習は、二つのステップから構成される予定です。

まず第一のステップでは、テキストを読んで全員で討論するという作業を行い、イノベーション・マネジメントに関する基礎的な知識を身につけていただきます。本年度は、イノベーション・マネジメントの数あるトピックの中でも特に、新製品開発マネジメントに関する文献及びケースを読み進めていく予定です。ここでは、「優れた製品コンセプトを作り上げていくためにはどうしたらよいか」という問題意識に立ち、発想に至るまでの分析手法や方法論、目の付け所といったものを身につけて、訓練を積んでいく予定です。第二のステップでは、現実の経営現象を分析し、自らの考えをまとめ上げ、それを分かりやすく表現するトレーニングを積み重ねていくことが目標となります。

ここでは、2・3年生は幾つかのグループに分かれて、学んだ知識をベースとして現実の企業事例を分析・発表し、それを全員で討論するという作業を行います。

一方、4年生には、幾つかのグループに分かれてテーマを設定し、中間報告/企業プレゼンテーション/卒業論文作成等を行っていただきます。スケジュール進行については、夏合宿までを第一のステップ、それ以降を第二のステップに当てる予定です。

また夏合宿では、ケースをもとにディベートを行う予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イノベーション・マネジメント(1)	ガイダンス
第2回	イノベーション・マネジメント(2)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(1)
第3回	イノベーション・マネジメント(3)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(2)
第4回	イノベーション・マネジメント(4)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(3)
第5回	イノベーション・マネジメント(5)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(4)
第6回	イノベーション・マネジメント(6)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(5)
第7回	イノベーション・マネジメント(7)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(1)
第8回	イノベーション・マネジメント(8)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(2)
第9回	イノベーション・マネジメント(9)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(3)
第10回	イノベーション・マネジメント(10)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(4)

第11回	イノベーション・マネジメント(11)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(5)
第12回	イノベーション・マネジメント(12)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(6)
第13回	イノベーション・マネジメント(13)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(7)
第14回	イノベーション・マネジメント(14)	ケース企業についてのグループ発表

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

教科書は指定しませんが、重要な事項については適宜プリントを配布します。

【参考書】

近能善範・高井文子著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』, 新世社, 2010年。

【成績評価の方法と基準】

①平常点(35%)、②発表(20%)、③グループ研究/卒業論文(20%)、④議論への参加(15%)、⑤ゼミ活動全般への寄与(10%)、で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークへの要望が強いのので、本年度も秋学期はグループワーク中心で授業を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン(ワード、エクセル、パワーポイント)を使用します。

【その他の重要事項】

合宿等、通常のゼミナール(教室)以外のゼミの行事にも、基本的に参加義務があります。

また、ゼミでの議論に積極的に貢献する、意欲ある学生の参加を望みます。

【関連科目】

関連科目は技術管理論 I/II になります。できるだけ3年次に履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The main objective of this class is to learn basic knowledge, concepts and ideas on "Innovation management" through reading of introductory textbooks, presentations and discussions, etc.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Grades will be based on a total of the following: (1) Ordinary points (35%), (2) Presentation (20%), (3) Group research/thesis (20%), (4) Participation in discussions (15%), (5) Contribution to overall seminar activities (10%).

MAN300FA

演習 4

近能 善範

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなど。及び、そうしたものを創出し、経済的利益を獲得していくプロセスのこと」を意味しています。もっと単純には、「顧客に新しい価値をもたらすようなモノやサービス、仕組みを実現し、新規需要を創出すること」と考えて差し支えありません。例えば、携帯電話やパソコン、インターネットや宅配サービスの登場などは、身近なイノベーションの事例です。

当演習がテーマとする「イノベーション・マネジメント」とは、こうしたイノベーションを「てこ」にした経営戦略—すなわち、単に「規模の経済性」を利用したり他社製品を模倣したりといった、新規性やオリジナリティを伴わない戦略ではなく、新たな顧客価値を生み出した上でそれをビジネスとして成立・成長させていくといった点を重視した戦略—について議論を行う、経営学の比較的新しい研究分野です。

当演習では、こうしたイノベーション・マネジメントを考えていく上で不可欠となる基礎的な知識や能力を、通常のゼミナール（教室）のほか、合宿や他大学ゼミとの交流会、企業へのプレゼンテーション、卒業論文作成などを通じて、実践的に身につけていきます。

【到達目標】

当演習の目標は、イノベーション・マネジメントに関わる基本的な考え方や概念などを身につけて、実践できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

当演習は、二つのステップから構成される予定です。

まず第一のステップでは、テキストを読んで全員で討論するという作業を行い、イノベーション・マネジメントに関する基礎的な知識を身につけていただきます。本年度は、イノベーション・マネジメントの数あるトピックの中でも特に、新製品開発マネジメントに関する文献及びケースを読み進めていく予定です。ここでは、「優れた製品コンセプトを作り上げていくためにはどうしたらよいか」という問題意識に立ち、発想に至るまでの分析手法や方法論、目の付け所といったものを身につけ、訓練を積んでいく予定です。

第二のステップでは、現実の経営現象を分析し、自らの考えをまとめ上げ、それを分かりやすく表現するトレーニングを積み重ねていくことが目標となります。

ここでは、3 年生は幾つかのグループに分かれて、学んだ知識をベースとして現実の企業事例を分析・発表し、それを全員で討論するという作業を行います。

一方、4 年生には、幾つかのグループに分かれてテーマを設定し、中間報告／企業プレゼンテーション/卒業論文作成等を行っていただきます。

スケジュール進行については、夏合宿までを第一のステップ、それ以降を第二のステップに当てる予定です。

また夏合宿では、ケースをもとにディベートを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	イノベーション・マネジメント (15)	中間報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(1)
第 3 回	イノベーション・マネジメント (16)	中間報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(2)
第 4 回	イノベーション・マネジメント (17)	中間報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(3)
第 5 回	イノベーション・マネジメント (18)	中間報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(4)
第 6 回	イノベーション・マネジメント (19)	中間報告会 (1)
第 7 回	イノベーション・マネジメント (20)	中間報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(5)
第 8 回	イノベーション・マネジメント (21)	中間報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(6)
第 9 回	イノベーション・マネジメント (22)	中間報告会 (2)
第 10 回	イノベーション・マネジメント (23)	最終報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(1)

第 11 回	イノベーション・マネジメント (24)	最終報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(2)
第 12 回	イノベーション・マネジメント (25)	最終報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(3)
第 13 回	イノベーション・マネジメント (26)	最終報告会
第 14 回	イノベーション・マネジメント (27)	最終報告の反省、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しませんが、重要な事項については適宜プリントを配布します。

【参考書】

近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』、新世社、2010 年。

【成績評価の方法と基準】

①平常点 (35 %)、②発表 (20 %)、③グループ研究/卒業論文 (20 %)、④議論への参加 (15 %)、⑤ゼミ活動全般への寄与 (10 %)、で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークへの要望が強いため、本年度も秋学期はグループワーク中心で授業を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード、エクセル、パワーポイント）を使用します。

【その他の重要事項】

合宿等、通常のゼミナール（教室）以外のゼミの行事にも、基本的に参加義務があります。

また、ゼミでの議論に積極的に貢献する、意欲ある学生の参加を望みます。なお、関連科目は技術管理論 I/II になりますので、できるだけ 3 年次に履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The main objective of this class is to learn basic knowledge, concepts and ideas on “Innovation management” through reading of introductory textbooks, presentations and discussions, etc.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Grades will be based on a total of the following: (1) Ordinary points (35%), (2) Presentation (20%), (3) Group research/thesis (20%), (4) Participation in discussions (15%), (5) Contribution to overall seminar activities (10%).

MAN400FA

演習 5

近能 善範

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなど。及び、そうしたものを創出し、経済的利益を獲得していくプロセスのこと」を意味しています。もっと単純には、「顧客に新しい価値をもたらすようなモノやサービス、仕組みを実現し、新規需要を創出すること」と考えて差し支えありません。例えば、携帯電話やパソコン、インターネットや宅配サービスの登場などは、身近なイノベーションの事例です。

当演習がテーマとする「イノベーション・マネジメント」とは、こうしたイノベーションを「てこ」にした経営戦略—すなわち、単に「規模の経済性」を利用したり他社製品を模倣したりといった、新規性やオリジナリティを伴わない戦略ではなく、新たな顧客価値を生み出した上でそれをビジネスとして成立・成長させていくといった点を重視した戦略—について議論を行う、経営学の比較的新しい研究分野です。

当演習では、こうしたイノベーション・マネジメントを考えていく上で不可欠となる基礎的な知識や能力を、通常のゼミナール(教室)のほか、合宿や他大ゼミとの交流会、企業へのプレゼンテーション、卒業論文作成などを通じて、実践的に身につけていきます。

【到達目標】

当演習の目標は、イノベーション・マネジメントに関わる基本的な考え方や概念などを身につけて、実践できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

当演習は、二つのステップから構成される予定です。

まず第一のステップでは、テキストを読んで全員で討論するという作業を行い、イノベーション・マネジメントに関する基礎的な知識を身につけていただきます。本年度は、イノベーション・マネジメントの数あるトピックの中でも特に、新製品開発マネジメントに関する文献及びケースを読み進めていく予定です。ここでは、「優れた製品コンセプトを作り上げていくためにはどうしたらよいか」という問題意識に立ち、発想に至るまでの分析手法や方法論、目の付け所といったものを身につけて、訓練を積んでいく予定です。第二のステップでは、現実の経営現象を分析し、自らの考えをまとめ上げ、それを分かりやすく表現するトレーニングを積み重ねていくことが目標となります。

ここでは、2・3 年生は幾つかのグループに分かれて、学んだ知識をベースとして現実の企業事例を分析・発表し、それを全員で討論するという作業を行います。

一方、4 年生には、幾つかのグループに分かれてテーマを設定し、中間報告/企業プレゼンテーション/卒業論文作成等を行っていただきます。スケジュール進行については、夏合宿までを第一のステップ、それ以降を第二のステップに当てる予定です。

また夏合宿では、ケースをもとにディベートを行う予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イノベーション・マネジメント (1)	ガイダンス
第 2 回	イノベーション・マネジメント (2)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(1)
第 3 回	イノベーション・マネジメント (3)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(2)
第 4 回	イノベーション・マネジメント (4)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(3)
第 5 回	イノベーション・マネジメント (5)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(4)
第 6 回	イノベーション・マネジメント (6)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(5)
第 7 回	イノベーション・マネジメント (7)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(1)
第 8 回	イノベーション・マネジメント (8)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(2)
第 9 回	イノベーション・マネジメント (9)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(3)
第 10 回	イノベーション・マネジメント (10)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(4)

第 11 回	イノベーション・マネジメント (11)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(5)
第 12 回	イノベーション・マネジメント (12)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(6)
第 13 回	イノベーション・マネジメント (13)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ(ただし内容は毎回異なる)(7)
第 14 回	イノベーション・マネジメント (14)	ケース企業についてのグループ発表

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

教科書は指定しませんが、重要な事項については適宜プリントを配布します。

【参考書】

近能善範・高井文子著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』, 新世社, 2010 年。

【成績評価の方法と基準】

①平常点 (35 %)、②発表 (20 %)、③グループ研究/卒業論文 (20 %)、④議論への参加 (15 %)、⑤ゼミ活動全般への寄与 (10 %)、で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークへの要望が強いため、本年度も秋学期はグループワーク中心で授業を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン(ワード、エクセル、パワーポイント)を使用します。

【その他の重要事項】

合宿等、通常のゼミナール(教室)以外のゼミの行事にも、基本的に参加義務があります。

また、ゼミでの議論に積極的に貢献する、意欲ある学生の参加を望みます。

【関連科目】

関連科目は技術管理論 I/II になります。できるだけ 3 年次に履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The main objective of this class is to learn basic knowledge, concepts and ideas on "Innovation management" through reading of introductory textbooks, presentations and discussions, etc.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Grades will be based on a total of the following: (1) Ordinary points (35%), (2) Presentation (20%), (3) Group research/thesis (20%), (4) Participation in discussions (15%), (5) Contribution to overall seminar activities (10%).

MAN400FA

演習 6

近能 善範

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなど。及び、そうしたものを創出し、経済的利益を獲得していくプロセスのこと」を意味しています。もっと単純には、「顧客に新しい価値をもたらすようなモノやサービス、仕組みを実現し、新規需要を創出すること」と考えて差し支えありません。例えば、携帯電話やパソコン、インターネットや宅配サービスの登場などは、身近なイノベーションの事例です。

当演習がテーマとする「イノベーション・マネジメント」とは、こうしたイノベーションを「てこ」にした経営戦略—すなわち、単に「規模の経済性」を利用したり他社製品を模倣したりといった、新規性やオリジナリティを伴わない戦略ではなく、新たな顧客価値を生み出した上でそれをビジネスとして成立・成長させていくといった点を重視した戦略—について議論を行う、経営学の比較的新しい研究分野です。

当演習では、こうしたイノベーション・マネジメントを考えていく上で不可欠となる基礎的な知識や能力を、通常のゼミナール（教室）のほか、合宿や他大学ゼミとの交流会、企業へのプレゼンテーション、卒業論文作成などを通じて、実践的に身につけていきます。

【到達目標】

当演習の目標は、イノベーション・マネジメントに関わる基本的な考え方や概念などを身につけて、実践できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

当演習は、二つのステップから構成される予定です。

まず第一のステップでは、テキストを読んで全員で討論するという作業を行い、イノベーション・マネジメントに関する基礎的な知識を身につけていただきます。本年度は、イノベーション・マネジメントの数あるトピックの中でも特に、新製品開発マネジメントに関する文献及びケースを読み進めていく予定です。ここでは、「優れた製品コンセプトを作り上げていくためにはどうしたらよいか」という問題意識に立ち、発想に至るまでの分析手法や方法論、目の付け所といったものを身につけ、訓練を積んでいく予定です。

第二のステップでは、現実の経営現象を分析し、自らの考えをまとめ上げ、それを分かりやすく表現するトレーニングを積み重ねていくことが目標となります。

ここでは、3 年生は幾つかのグループに分かれて、学んだ知識をベースとして現実の企業事例を分析・発表し、それを全員で討論するという作業を行います。

一方、4 年生には、幾つかのグループに分かれてテーマを設定し、中間報告／企業プレゼンテーション/卒業論文作成等を行っていただきます。

スケジュール進行については、夏合宿までを第一のステップ、それ以降を第二のステップに当てる予定です。

また夏合宿では、ケースをもとにディベートを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	イノベーション・マネジメント (15)	中間報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(1)
第 3 回	イノベーション・マネジメント (16)	中間報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(2)
第 4 回	イノベーション・マネジメント (17)	中間報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(3)
第 5 回	イノベーション・マネジメント (18)	中間報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(4)
第 6 回	イノベーション・マネジメント (19)	中間報告会 (1)
第 7 回	イノベーション・マネジメント (20)	中間報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(5)
第 8 回	イノベーション・マネジメント (21)	中間報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(6)
第 9 回	イノベーション・マネジメント (22)	中間報告会 (2)
第 10 回	イノベーション・マネジメント (23)	最終報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(1)

第 11 回	イノベーション・マネジメント (24)	最終報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(2)
第 12 回	イノベーション・マネジメント (25)	最終報告会に向けたグループワーク (ただし内容は毎回異なる)(3)
第 13 回	イノベーション・マネジメント (26)	最終報告会
第 14 回	イノベーション・マネジメント (27)	最終報告の反省、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しませんが、重要な事項については適宜プリントを配布します。

【参考書】

近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』、新世社、2010 年。

【成績評価の方法と基準】

①平常点 (35 %)、②発表 (20 %)、③グループ研究/卒業論文 (20 %)、④議論への参加 (15 %)、⑤ゼミ活動全般への寄与 (10 %)、で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークへの要望が強いため、本年度も秋学期はグループワーク中心で授業を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード、エクセル、パワーポイント）を使用します。

【その他の重要事項】

合宿等、通常のゼミナール（教室）以外のゼミの行事にも、基本的に参加義務があります。

また、ゼミでの議論に積極的に貢献する、意欲ある学生の参加を望みます。なお、関連科目は技術管理論 I/II になりますので、できるだけ 3 年次に履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The main objective of this class is to learn basic knowledge, concepts and ideas on “Innovation management” through reading of introductory textbooks, presentations and discussions, etc.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Grades will be based on a total of the following: (1) Ordinary points (35%), (2) Presentation (20%), (3) Group research/thesis (20%), (4) Participation in discussions (15%), (5) Contribution to overall seminar activities (10%).

MAN200FA

演習 1

坂上 学

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、広く財務会計領域のトピックを扱うが、とりわけ財務情報を使った企業評価や意思決定の問題を取り上げる。春学期は、財務諸表分析のテキストの各章を割り当て、受講者による発表を行う。秋学期は、2・3 年生は日経ストックリーグに参加し、レポートをまとめて提出する。4 年生は各自で選択した企業についての財務分析を行い、卒論としてまとめる。

【到達目標】

企業の財務諸表を読み、その内容を理解し、適切な意思決定ができるようになるだけの基本的な知識を獲得することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期は指定したテキストを使い、輪読形式で進める。秋学期は2年生および3年生は日経ストックリーグ（あるいは日経総合報告アワード）に取り組む、4年生は卒論の制作に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	演習の進め方と、担当箇所の割り当て	テキストの紹介、担当箇所の割り当てをおこなう。
第 2 回	証券投資における財務諸表の役立ち（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 3 回	証券投資における財務諸表の役立ち（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 4 回	業績変化と株価動向（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 5 回	業績変化と株価動向（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 6 回	決算発表に対する株価動向（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 7 回	決算発表に対する株価動向（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 8 回	不確実性リスクの評価（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 9 回	不確実性リスクの評価（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 10 回	資本資産評価モデルの基礎（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 11 回	資本資産評価モデルの基礎（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 12 回	割引配当モデルの基礎（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 13 回	割引配当モデルの基礎（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 14 回	割引キャッシュ・フロー・モデルの基礎（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを熟読しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは最初の講義でゼミ生と相談して決める予定である。ちなみに、昨年度は以下のテキストを使った。

桜井久勝（著）『財務諸表分析（第8版）』（中央経済社、2020、税込定価 3,740 円）

【参考書】

ウィリアム・R・スコット（著）、太田康広・椎葉淳・西谷順平（訳）『財務会計の理論と実証』（中央経済社、税込定価 6,300 円）

W・H・ビーバー（著）、伊藤邦雄（訳）『財務報告革命（第3版）』（白桃書房、税込定価 3,465 円）

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（60%）

レポート作成への貢献（40%）

最初に割り当てた担当箇所について、各自ハンドアウトをまとめて報告を行う。報告内容と質疑応答などを総合的に判断し、最終的な評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

昨年はコロナ禍のため実施できなかった多摩キャンパスでの勉強合宿等、課外活動が実施できなかったという意見が多かったので、今年度は積極的にそのような活動を実施できるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

発表担当者は、必ずプレゼンテーションツール（パワーポイント等）でプロジェクトを使い発表すること。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

会計学全般の知識を前提として演習を進めるので、「簿記入門」「会計学入門」を履修していることはもとより、「財務会計論」「経営分析」「監査論」を履修しているか、もしくは平行履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar will cover a wide range of topics in the area of financial accounting, especially issues related to corporate valuation and decision making using financial information. In the spring semester, each chapter of a textbook on financial statement analysis will be assigned, and students will make presentations. In the fall semester, second-year and third-year students will participate in the Nikkei Stock League and submit a report, and fourth-year students will conduct a financial analysis of a company of their choice and write a thesis.

(Learning Objectives)

Students will obtain advanced knowledge of accounting and financial reporting, which are critical for understanding financial statements. Students also will become literate in the advanced content of accounting for appropriate decisions.

(Learning activities outside of classroom)

This seminar will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

(Grading Criteria/Policy)

Students are expected to participate in class and take an active role in discussions. The evaluation will be made based on a comprehensive consideration of these activities.

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No project report or thesis: E

MAN200FA

演習 2

坂上 学

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、広く財務会計領域のトピックを扱うが、とりわけ財務情報を使った企業評価や意思決定の問題を取り上げる。春学期は、財務諸表分析のテキストの各章を割り当て、受講者による発表を行う。秋学期は、2・3 年生は日経ストックリーグに参加し、レポートをまとめて提出する。4 年生は各自で選択した企業についての財務分析を行い、卒論としてまとめる。

【到達目標】

企業の財務諸表を読み、その内容を理解し、適切な意思決定ができるようになるだけの基本的な知識を獲得することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期は指定したテキストを使い、輪読形式で進める。秋学期は2年生および3年生は日経ストックリーグ（もしくは日経総合報告アワード）に取り組む、4年生は卒論の制作に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	演習の進め方と、チームの決定	ストックリーグに参加するチームを確定する。
第 2 回	投資テーマの決定（1）	各チームごとに、投資テーマの策定を行う。
第 3 回	投資テーマの決定（2）	各チームごとに、投資テーマの策定を行う。
第 4 回	投資テーマの決定（3）	各チームごとに、投資テーマの策定を行う。
第 5 回	投資テーマの決定（4）	各チームごとに、投資テーマの策定を行う。
第 6 回	投資企業の決定（1）	各チームごとに、財務分析を行いながら、投資企業の決定を行う。
第 7 回	投資企業の決定（2）	各チームごとに、財務分析を行いながら、投資企業の決定を行う。
第 8 回	投資企業の決定（2）	各チームごとに、財務分析を行いながら、投資企業の決定を行う。
第 9 回	投資企業の決定（2）	各チームごとに、財務分析を行いながら、投資企業の決定を行う。
第 10 回	投資結果レポートの作成（1）	各チームごとに、投資結果レポートの作成を行う。
第 11 回	投資結果レポートの作成（2）	各チームごとに、投資結果レポートの作成を行う。
第 12 回	投資結果レポートの作成（3）	各チームごとに、投資結果レポートの作成を行う。
第 13 回	投資結果レポートの作成（4）	各チームごとに、投資結果レポートの作成を行う。
第 14 回	日経ストックリーグの結果報告	各チームの投資結果レポートの内容について、発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じてサブゼミを実施して、投資テーマ、投資企業の決定、投資結果レポートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

春学期で輪読したテキストを引き続き使用する。ちなみに、昨年度は以下のテキストを使った。

桜井久勝（著）『財務諸表分析（第8版）』（中央経済社、2020、税込定価 3,740 円）

【参考書】

ウィリアム・R・スコット（著）、太田康広・椎葉淳・西谷順平（訳）『財務会計の理論と実証』（中央経済社、税込定価 6,300 円）

W・H・ビーバー（著）、伊藤邦雄（訳）『財務報告革命（第3版）』（白桃書房、税込定価 3,465 円）

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（60%）

レポート作成への貢献（40%）

議論への参加とレポート作成への貢献などを総合的に判断し、最終的な評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

昨年はコロナ禍のため実施できなかった多摩キャンパスでの勉強合宿等、課外活動が実施しなかったという意見が多かったので、今年度は積極的にそのような活動を実施できるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

企業データのダウンロードや財務データの分析にパソコンが必須なので、各自で用意して欲しい。

【その他の重要事項】

【関連科目】

会計学全般の知識を前提として演習を進めるので、「簿記入門」「会計学入門」を履修していることはもとより、「財務会計論」「経営分析」「監査論」を履修しているか、もしくは平行履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar will cover a wide range of topics in the area of financial accounting, especially issues related to corporate valuation and decision making using financial information. In the spring semester, each chapter of a textbook on financial statement analysis will be assigned, and students will make presentations. In the fall semester, second-year and third-year students will participate in the Nikkei Stock League and submit a report, and fourth-year students will conduct a financial analysis of a company of their choice and write a thesis.

(Learning Objectives)

Students will obtain advanced knowledge of accounting and financial reporting, which are critical for understanding financial statements. Students also will become literate in the advanced content of accounting for appropriate decisions.

(Learning activities outside of classroom)

This seminar will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

(Grading Criteria/Policy)

Students are expected to participate in class and take an active role in discussions. The evaluation will be made based on a comprehensive consideration of these activities.

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No project report or thesis: E

MAN300FA

演習 3

坂上 学

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、広く財務会計領域のトピックを扱うが、とりわけ財務情報を使った企業評価や意思決定の問題を取り上げる。春学期は、財務諸表分析のテキストの各章を割り当て、受講者による発表を行う。秋学期は、2・3 年生は日経ストックリーグに参加し、レポートをまとめて提出する。4 年生は各自で選択した企業についての財務分析を行い、卒論としてまとめる。

【到達目標】

企業の財務諸表を読み、その内容を理解し、適切な意思決定ができるようになるだけの基本的な知識を獲得することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期は指定したテキストを使い、輪読形式で進める。秋学期は2年生および3年生は日経ストックリーグ（あるいは日経総合報告アワード）に取り組む、4年生は卒論の制作に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	演習の進め方と、担当箇所の割り当て	テキストの紹介、担当箇所の割り当てをおこなう。
第 2 回	証券投資における財務諸表の役立ち（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 3 回	証券投資における財務諸表の役立ち（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 4 回	業績変化と株価動向（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 5 回	業績変化と株価動向（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 6 回	決算発表に対する株価動向（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 7 回	決算発表に対する株価動向（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 8 回	不確実性リスクの評価（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 9 回	不確実性リスクの評価（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 10 回	資本資産評価モデルの基礎（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 11 回	資本資産評価モデルの基礎（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 12 回	割引配当モデルの基礎（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 13 回	割引配当モデルの基礎（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 14 回	割引キャッシュ・フロー・モデルの基礎（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを熟読しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは最初の講義でゼミ生と相談して決める予定である。ちなみに、昨年度は以下のテキストを使った。

桜井久勝（著）『財務諸表分析（第8版）』（中央経済社、2020、税込定価 3,740 円）

【参考書】

ウィリアム・R・スコット（著）、太田康広・椎葉淳・西谷順平（訳）『財務会計の理論と実証』（中央経済社、税込定価 6,300 円）

W・H・ビーバー（著）、伊藤邦雄（訳）『財務報告革命（第3版）』（白桃書房、税込定価 3,465 円）

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（60%）

レポート作成への貢献（40%）

最初に割り当てた担当箇所について、各自ハンドアウトをまとめて報告を行う。報告内容と質疑応答などを総合的に判断し、最終的な評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

昨年はコロナ禍のため実施できなかった多摩キャンパスでの勉強合宿等、課外活動が実施できなかったという意見が多かったので、今年度は積極的にそのような活動を実施できるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

発表担当者は、必ずプレゼンテーションツール（パワーポイント等）でプロジェクトを使い発表すること。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

会計学全般の知識を前提として演習を進めるので、「簿記入門」「会計学入門」を履修していることはもとより、「財務会計論」「経営分析」「監査論」を履修しているか、もしくは平行履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar will cover a wide range of topics in the area of financial accounting, especially issues related to corporate valuation and decision making using financial information. In the spring semester, each chapter of a textbook on financial statement analysis will be assigned, and students will make presentations. In the fall semester, second-year and third-year students will participate in the Nikkei Stock League and submit a report, and fourth-year students will conduct a financial analysis of a company of their choice and write a thesis.

(Learning Objectives)

Students will obtain advanced knowledge of accounting and financial reporting, which are critical for understanding financial statements. Students also will become literate in the advanced content of accounting for appropriate decisions.

(Learning activities outside of classroom)

This seminar will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

(Grading Criteria/Policy)

Students are expected to participate in class and take an active role in discussions. The evaluation will be made based on a comprehensive consideration of these activities.

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No project report or thesis: E

MAN300FA

演習 4

坂上 学

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、広く財務会計領域のトピックを扱うが、とりわけ財務情報を使った企業評価や意思決定の問題を取り上げる。春学期は、財務諸表分析のテキストの各章を割り当て、受講者による発表を行う。秋学期は、2・3 年生は日経ストックリーグに参加し、レポートをまとめて提出する。4 年生は各自で選択した企業についての財務分析を行い、卒論としてまとめる。

【到達目標】

企業の財務諸表を読み、その内容を理解し、適切な意思決定ができるようになるだけの基本的な知識を獲得することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期は指定したテキストを使い、輪読形式で進める。秋学期は2年生および3年生は日経ストックリーグ（もしくは日経総合報告アワード）に取り組む、4年生は卒論の制作に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	演習の進め方と、チームの決定	ストックリーグに参加するチームを確定する。
第 2 回	投資テーマの決定（1）	各チームごとに、投資テーマの策定を行う。
第 3 回	投資テーマの決定（2）	各チームごとに、投資テーマの策定を行う。
第 4 回	投資テーマの決定（3）	各チームごとに、投資テーマの策定を行う。
第 5 回	投資テーマの決定（4）	各チームごとに、投資テーマの策定を行う。
第 6 回	投資企業の決定（1）	各チームごとに、財務分析を行いながら、投資企業の決定を行う。
第 7 回	投資企業の決定（2）	各チームごとに、財務分析を行いながら、投資企業の決定を行う。
第 8 回	投資企業の決定（2）	各チームごとに、財務分析を行いながら、投資企業の決定を行う。
第 9 回	投資企業の決定（2）	各チームごとに、財務分析を行いながら、投資企業の決定を行う。
第 10 回	投資結果レポートの作成（1）	各チームごとに、投資結果レポートの作成を行う。
第 11 回	投資結果レポートの作成（2）	各チームごとに、投資結果レポートの作成を行う。
第 12 回	投資結果レポートの作成（3）	各チームごとに、投資結果レポートの作成を行う。
第 13 回	投資結果レポートの作成（4）	各チームごとに、投資結果レポートの作成を行う。
第 14 回	日経ストックリーグの結果報告	各チームの投資結果レポートの内容について、発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じてサブゼミを実施して、投資テーマ、投資企業の決定、投資結果レポートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

春学期で輪読したテキストを引き続き使用する。ちなみに、昨年度は以下のテキストを使った。

桜井久勝（著）『財務諸表分析（第8版）』（中央経済社、2020、税込定価 3,740 円）

【参考書】

ウィリアム・R・スコット（著）、太田康広・椎葉淳・西谷順平（訳）『財務会計の理論と実証』（中央経済社、税込定価 6,300 円）

W・H・ビーバー（著）、伊藤邦雄（訳）『財務報告革命（第3版）』（白桃書房、税込定価 3,465 円）

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（60%）

レポート作成への貢献（40%）

議論への参加とレポート作成への貢献などを総合的に判断し、最終的な評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

昨年はコロナ禍のため実施できなかった多摩キャンパスでの勉強合宿等、課外活動が実施しなかったという意見が多かったため、今年度は積極的にそのような活動を実施できるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

企業データのダウンロードや財務データの分析にパソコンが必須なので、各自で用意して欲しい。

【その他の重要事項】

【関連科目】

会計学全般の知識を前提として演習を進めるので、「簿記入門」「会計学入門」を履修していることはもとより、「財務会計論」「経営分析」「監査論」を履修しているか、もしくは平行履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar will cover a wide range of topics in the area of financial accounting, especially issues related to corporate valuation and decision making using financial information. In the spring semester, each chapter of a textbook on financial statement analysis will be assigned, and students will make presentations. In the fall semester, second-year and third-year students will participate in the Nikkei Stock League and submit a report, and fourth-year students will conduct a financial analysis of a company of their choice and write a thesis.

(Learning Objectives)

Students will obtain advanced knowledge of accounting and financial reporting, which are critical for understanding financial statements. Students also will become literate in the advanced content of accounting for appropriate decisions.

(Learning activities outside of classroom)

This seminar will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

(Grading Criteria/Policy)

Students are expected to participate in class and take an active role in discussions. The evaluation will be made based on a comprehensive consideration of these activities.

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No project report or thesis: E

MAN400FA

演習 5

坂上 学

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、広く財務会計領域のトピックを扱うが、とりわけ財務情報を使った企業評価や意思決定の問題を取り上げる。春学期は、財務諸表分析のテキストの各章を割り当て、受講者による発表を行う。秋学期は、2・3 年生は日経ストックリーグに参加し、レポートをまとめて提出する。4 年生は各自で選択した企業についての財務分析を行い、卒論としてまとめる。

【到達目標】

企業の財務諸表を読み、その内容を理解し、適切な意思決定ができるようになるだけの基本的な知識を獲得することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期は指定したテキストを使い、輪読形式で進める。秋学期は2年生および3年生は日経ストックリーグ（あるいは日経総合報告アワード）に取り組む、4年生は卒論の制作に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	演習の進め方と、担当箇所の割り当て	テキストの紹介、担当箇所の割り当てをおこなう。
第 2 回	証券投資における財務諸表の役立ち（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 3 回	証券投資における財務諸表の役立ち（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 4 回	業績変化と株価動向（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 5 回	業績変化と株価動向（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 6 回	決算発表に対する株価動向（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 7 回	決算発表に対する株価動向（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 8 回	不確実性リスクの評価（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 9 回	不確実性リスクの評価（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 10 回	資本資産評価モデルの基礎（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 11 回	資本資産評価モデルの基礎（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 12 回	割引配当モデルの基礎（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 13 回	割引配当モデルの基礎（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 14 回	割引キャッシュ・フロー・モデルの基礎（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを熟読しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは最初の講義でゼミ生と相談して決める予定である。ちなみに、昨年度は以下のテキストを使った。

桜井久勝（著）『財務諸表分析（第8版）』（中央経済社、2020、税込定価 3,740 円）

【参考書】

ウィリアム・R・スコット（著）、太田康広・椎葉淳・西谷順平（訳）『財務会計の理論と実証』（中央経済社、税込定価 6,300 円）

W・H・ビーバー（著）、伊藤邦雄（訳）『財務報告革命（第3版）』（白桃書房、税込定価 3,465 円）

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（60%）

レポート作成への貢献（40%）

最初に割り当てた担当箇所について、各自ハンドアウトをまとめて報告を行う。報告内容と質疑応答などを総合的に判断し、最終的な評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

昨年はコロナ禍のため実施できなかった多摩キャンパスでの勉強合宿等、課外活動が実施できなかったという意見が多かったので、今年度は積極的にそのような活動を実施できるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

発表担当者は、必ずプレゼンテーションツール（パワーポイント等）でプロジェクトを使い発表すること。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

会計学全般の知識を前提として演習を進めるので、「簿記入門」「会計学入門」を履修していることはもとより、「財務会計論」「経営分析」「監査論」を履修しているか、もしくは平行履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar will cover a wide range of topics in the area of financial accounting, especially issues related to corporate valuation and decision making using financial information. In the spring semester, each chapter of a textbook on financial statement analysis will be assigned, and students will make presentations. In the fall semester, second-year and third-year students will participate in the Nikkei Stock League and submit a report, and fourth-year students will conduct a financial analysis of a company of their choice and write a thesis.

(Learning Objectives)

Students will obtain advanced knowledge of accounting and financial reporting, which are critical for understanding financial statements. Students also will become literate in the advanced content of accounting for appropriate decisions.

(Learning activities outside of classroom)

This seminar will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

(Grading Criteria/Policy)

Students are expected to participate in class and take an active role in discussions. The evaluation will be made based on a comprehensive consideration of these activities.

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No project report or thesis: E

MAN400FA

演習 6

坂上 学

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、広く財務会計領域のトピックを扱うが、とりわけ財務情報を使った企業評価や意思決定の問題を取り上げる。春学期は、財務諸表分析のテキストの各章を割り当て、受講者による発表を行う。秋学期は、2・3 年生は日経ストックリーグに参加し、レポートをまとめて提出する。4 年生は各自で選択した企業についての財務分析を行い、卒論としてまとめる。

【到達目標】

企業の財務諸表を読み、その内容を理解し、適切な意思決定ができるようになるだけの基本的な知識を獲得することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期は指定したテキストを使い、輪読形式で進める。秋学期は2年生および3年生は日経ストックリーグ（もしくは日経総合報告アワード）に取り組む、4年生は卒論の制作に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	演習の進め方と、チームの決定	ストックリーグに参加するチームを確定する。
第 2 回	投資テーマの決定（1）	各チームごとに、投資テーマの策定を行う。
第 3 回	投資テーマの決定（2）	各チームごとに、投資テーマの策定を行う。
第 4 回	投資テーマの決定（3）	各チームごとに、投資テーマの策定を行う。
第 5 回	投資テーマの決定（4）	各チームごとに、投資テーマの策定を行う。
第 6 回	投資企業の決定（1）	各チームごとに、財務分析を行いながら、投資企業の決定を行う。
第 7 回	投資企業の決定（2）	各チームごとに、財務分析を行いながら、投資企業の決定を行う。
第 8 回	投資企業の決定（2）	各チームごとに、財務分析を行いながら、投資企業の決定を行う。
第 9 回	投資企業の決定（2）	各チームごとに、財務分析を行いながら、投資企業の決定を行う。
第 10 回	投資結果レポートの作成（1）	各チームごとに、投資結果レポートの作成を行う。
第 11 回	投資結果レポートの作成（2）	各チームごとに、投資結果レポートの作成を行う。
第 12 回	投資結果レポートの作成（3）	各チームごとに、投資結果レポートの作成を行う。
第 13 回	投資結果レポートの作成（4）	各チームごとに、投資結果レポートの作成を行う。
第 14 回	日経ストックリーグの結果報告	各チームの投資結果レポートの内容について、発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じてサブゼミを実施して、投資テーマ、投資企業の決定、投資結果レポートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

春学期で輪読したテキストを引き続き使用する。ちなみに、昨年度は以下のテキストを使った。

桜井久勝（著）『財務諸表分析（第8版）』（中央経済社、2020、税込定価 3,740 円）

【参考書】

ウィリアム・R・スコット（著）、太田康広・椎葉淳・西谷順平（訳）『財務会計の理論と実証』（中央経済社、税込定価 6,300 円）

W・H・ビーバー（著）、伊藤邦雄（訳）『財務報告革命（第3版）』（白桃書房、税込定価 3,465 円）

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（60%）

レポート作成への貢献（40%）

議論への参加とレポート作成への貢献などを総合的に判断し、最終的な評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

昨年はコロナ禍のため実施できなかった多摩キャンパスでの勉強合宿等、課外活動が実施しなかったという意見が多かったため、今年度は積極的にそのような活動を実施できるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

企業データのダウンロードや財務データの分析にパソコンが必須なので、各自で用意して欲しい。

【その他の重要事項】

【関連科目】

会計学全般の知識を前提として演習を進めるので、「簿記入門」「会計学入門」を履修していることはもとより、「財務会計論」「経営分析」「監査論」を履修しているか、もしくは平行履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar will cover a wide range of topics in the area of financial accounting, especially issues related to corporate valuation and decision making using financial information. In the spring semester, each chapter of a textbook on financial statement analysis will be assigned, and students will make presentations. In the fall semester, second-year and third-year students will participate in the Nikkei Stock League and submit a report, and fourth-year students will conduct a financial analysis of a company of their choice and write a thesis.

(Learning Objectives)

Students will obtain advanced knowledge of accounting and financial reporting, which are critical for understanding financial statements. Students also will become literate in the advanced content of accounting for appropriate decisions.

(Learning activities outside of classroom)

This seminar will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

(Grading Criteria/Policy)

Students are expected to participate in class and take an active role in discussions. The evaluation will be made based on a comprehensive consideration of these activities.

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No project report or thesis: E

MAN200FA

演習 1

佐野 哲

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残って いく企業”のあり方について考える」

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①経営学総論（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②経営社会学（経営社会政策、社会的責任投資、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討、近年では環境保全を志向する ESG-環境・社会・企業統治-投資の議論）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する上場企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返していく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「企業と社会の関係構造を学際的に理解すること」です。

企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これらから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的理解には、個別企業による社会貢献活動（CSR：corporate social responsibility）の動きや社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）の変化を追っていくだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び同関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「これからの企業のあり方（ビジョンとミッション）」について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR 及び SRI の重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、エーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（オンライン）	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
第 2 回	グルーピング	作業グループの編成
第 3 回	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
第 4 回	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
第 5 回	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
第 6 回	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価
第 7 回	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
第 8 回	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
第 9 回	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討

第 10 回	専門用語の理解	投資活動に最低限必要な専門用語の学習
第 11 回	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
第 12 回	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
第 13 回	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
第 14 回	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間外には、各自メンバーと時間を合わせてサブゼミ（グループワーク）を行い、教員から提示された課題について、協働して準備したり、事前に話し合っておくことを求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBA マネジメントブック [改訂 3 版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000 円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）とゼミ活動への貢献度（50％）を基本とします。

【学生の意見等からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRI には、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠からです。

なお、当授業の関連科目は「経営学総論 I / II」及び「経営社会学 I / II」です。

【Outline (in English)】

Course outline

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund.

The main objectives of the course are：

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

Learning Objectives

After completing this course, the students will be able to：

- ・ understand the concepts related to Business, Society and Stock market;
- ・ examine the scope and complexity of corporate social responsibility (CSR);
- ・ analyze the connections between corporate strategy and CSR and the impact on foundational organizational principles such as mission and vision.

Learning activities outside of classroom

The students should expect to allocate time outside of class to meet with their team members to discuss/prepare assignments.

Grading Criteria /Policy

The students will be graded based on the following criteria:

- ・ 50% Class participation;
- ・ 50% Group work/Case studies/Presentations.

MAN200FA

演習 2

佐野 哲

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残っていく企業”のあり方について考える」。

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①経営学総論（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②経営社会学（経営社会政策、社会的責任投資、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討、近年では環境保全を志向する ESG-環境・社会・企業統治-投資の議論）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する上場企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返していく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「企業と社会の関係構造を学際的に理解すること」です。企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これらから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的理解には、個別企業による社会貢献活動（CSR：corporate social responsibility）の動きや社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）の変化を追っていくだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び同関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「これからの企業のあり方（ビジョンとミッション）」について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR 及び SRI の重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、エーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（オンライン）	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
第 2 回	グルーピング	作業グループの編成
第 3 回	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
第 4 回	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
第 5 回	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
第 6 回	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価
第 7 回	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
第 8 回	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
第 9 回	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
第 10 回	専門用語の理解	投資活動に最低限必要な専門用語の学習

第 11 回	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
第 12 回	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
第 13 回	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
第 14 回	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間外には、各自メンバーと時間を合わせてサブゼミ（グループワーク）を行い、教員から提示された課題について、協働して準備したり、事前に話し合っておくことを求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBA マネジメントブック [改訂 3 版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000 円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）とゼミ活動への貢献度（50 %）を基本とします。

【学生の意見等からの気づき】

個人々別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

1. 参加学生に望むこと

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRI には、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

2. 担当教員の実務経験について

担当教員（佐野哲）は本学着任前、政府機関のシンクタンク（独立行政法人）で 10 年間、産業・労働分野の政策研究を行ってきました。講義では可能な限り、様々な経験に基づくエピソード等を盛り込んで行きたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund.

The main objectives of the course are：

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

Learning Objectives

After completing this course, the students will be able to：

- ・ understand the concepts related to Business, Society and Stock market;
- ・ examine the scope and complexity of corporate social responsibility (CSR);
- ・ analyze the connections between corporate strategy and CSR and the impact on foundational organizational principles such as mission and vision.

Learning activities outside of classroom

The students should expect to allocate time outside of class to meet with their team members to discuss/prepare assignments.

Grading Criteria /Policy

The students will be graded based on the following criteria:

- ・ 50% Class participation;
- ・ 50% Group work/Case studies/Presentations.

MAN300FA

演習 3

佐野 哲

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残って いく企業”のあり方について考える」

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①**経営学総論**（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②**経営社会学**（経営社会政策、社会的責任投資、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討、近年では環境保全を志向する ESG-環境・社会・企業統治-投資の議論）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する上場企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返していく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「企業と社会の関係構造を学際的に理解すること」です。

企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これらから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的理解には、個別企業による**社会貢献活動（CSR：corporate social responsibility）**の動きや**社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）**の変化を追っていくだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び同関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「これからの企業のあり方（ビジョンとミッション）」について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、**社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）**を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR及びSRIの重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、エーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（オンライン）	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
第2回	グルーピング	作業グループの編成
第3回	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
第4回	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
第5回	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
第6回	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価
第7回	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
第8回	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
第9回	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討

第10回	専門用語の理解	投資活動に最低限必要な専門用語の学習
第11回	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
第12回	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
第13回	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
第14回	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間外には、各自メンバーと時間を合わせてサブゼミ（グループワーク）を行い、教員から提示された課題について、協働して準備したり、事前に話し合っておくことを求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBA マネジメントブック [改訂3版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）とゼミ活動への貢献度（50％）を基本とします。

【学生の意見等からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRIには、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠からです。

なお、当授業の関連科目は「経営学総論Ⅰ/Ⅱ」及び「経営社会学Ⅰ/Ⅱ」です。

【Outline (in English)】

Course outline

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund.

The main objectives of the course are：

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

Learning Objectives

After completing this course, the students will be able to：

- ・ understand the concepts related to Business, Society and Stock market;
- ・ examine the scope and complexity of corporate social responsibility (CSR);
- ・ analyze the connections between corporate strategy and CSR and the impact on foundational organizational principles such as mission and vision.

Learning activities outside of classroom

The students should expect to allocate time outside of class to meet with their team members to discuss/prepare assignments.

Grading Criteria /Policy

The students will be graded based on the following criteria:

- ・ 50% Class participation;
- ・ 50% Group work/Case studies/Presentations.

MAN300FA

演習 4

佐野 哲

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残っていく企業”のあり方について考える」。

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①経営学総論（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②経営社会学（経営社会政策、社会的責任投資、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討、近年では環境保全を志向する ESG-環境・社会・企業統治-投資の議論）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する上場企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返していく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「企業と社会の関係構造を学際的に理解すること」です。企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これらから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的理解には、個別企業による社会貢献活動（CSR：corporate social responsibility）の動きや社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）の変化を追っていくだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び同関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「これからの企業のあり方（ビジョンとミッション）」について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR 及び SRI の重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、エーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（オンライン）	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
第 2 回	グルーピング	作業グループの編成
第 3 回	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
第 4 回	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
第 5 回	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
第 6 回	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価
第 7 回	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
第 8 回	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
第 9 回	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
第 10 回	専門用語の理解	投資活動に最低限必要な専門用語の学習

第 11 回	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
第 12 回	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
第 13 回	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
第 14 回	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間外には、各自メンバーと時間を合わせてサブゼミ（グループワーク）を行い、教員から提示された課題について、協働して準備したり、事前に話し合っておくことを求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBA マネジメントブック [改訂 3 版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000 円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）とゼミ活動への貢献度（50 %）を基本とします。

【学生の意見等からの気づき】

個人々別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

1. 参加学生に望むこと

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRI には、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

2. 担当教員の実務経験について

担当教員（佐野哲）は本学着任前、政府機関のシンクタンク（独立行政法人）で 10 年間、産業・労働分野の政策研究を行ってきました。講義では可能な限り、様々な経験に基づくエピソード等を盛り込んで行きたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund.

The main objectives of the course are：

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

Learning Objectives

After completing this course, the students will be able to：

- ・ understand the concepts related to Business, Society and Stock market;
- ・ examine the scope and complexity of corporate social responsibility (CSR);
- ・ analyze the connections between corporate strategy and CSR and the impact on foundational organizational principles such as mission and vision.

Learning activities outside of classroom

The students should expect to allocate time outside of class to meet with their team members to discuss/prepare assignments.

Grading Criteria /Policy

The students will be graded based on the following criteria:

- ・ 50% Class participation;
- ・ 50% Group work/Case studies/Presentations.

MAN400FA

演習 5

佐野 哲

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残って いく企業”のあり方について考える」

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①**経営学総論**（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②**経営社会学**（経営社会政策、社会的責任投資、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討、近年では環境保全を志向する ESG-環境・社会・企業統治-投資の議論）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する上場企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返していく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「企業と社会の関係構造を学際的に理解すること」です。

企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これらから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的理解には、個別企業による**社会貢献活動（CSR：corporate social responsibility）**の動きや**社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）**の変化を追っていくだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び同関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「これからの企業のあり方（ビジョンとミッション）」について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、**社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）**を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR 及び SRI の重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、エーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（オンライン）	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
第 2 回	グルーピング	作業グループの編成
第 3 回	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
第 4 回	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
第 5 回	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
第 6 回	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価
第 7 回	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
第 8 回	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
第 9 回	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討

第 10 回	専門用語の理解	投資活動に最低限必要な専門用語の学習
第 11 回	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
第 12 回	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
第 13 回	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
第 14 回	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間外には、各自メンバーと時間を合わせてサブゼミ（グループワーク）を行い、教員から提示された課題について、協働して準備したり、事前に話し合っておくことを求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBA マネジメントブック [改訂 3 版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000 円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）とゼミ活動への貢献度（50%）を基本とします。

【学生の意見等からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRI には、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠からです。

なお、当授業の関連科目は「経営学総論 I / II」及び「経営社会学 I / II」です。

【Outline (in English)】

Course outline

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund.

The main objectives of the course are：

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

Learning Objectives

After completing this course, the students will be able to：

- ・ understand the concepts related to Business, Society and Stock market;
- ・ examine the scope and complexity of corporate social responsibility (CSR);
- ・ analyze the connections between corporate strategy and CSR and the impact on foundational organizational principles such as mission and vision.

Learning activities outside of classroom

The students should expect to allocate time outside of class to meet with their team members to discuss/prepare assignments.

Grading Criteria /Policy

The students will be graded based on the following criteria:

- ・ 50% Class participation;
- ・ 50% Group work/Case studies/Presentations.

MAN400FA

演習 6

佐野 哲

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残っていく企業”のあり方について考える」。

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①経営学総論（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②経営社会学（経営社会政策、社会的責任投資、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討、近年では環境保全を志向する ESG-環境・社会・企業統治-投資の議論）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する上場企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返していく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「企業と社会の関係構造を学際的に理解すること」です。企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これらから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的理解には、個別企業による社会貢献活動（CSR：corporate social responsibility）の動きや社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）の変化を追っていくだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び同関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「これからの企業のあり方（ビジョンとミッション）」について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR 及び SRI の重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、エーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（オンライン）	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
第 2 回	グルーピング	作業グループの編成
第 3 回	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
第 4 回	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
第 5 回	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
第 6 回	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価
第 7 回	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
第 8 回	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
第 9 回	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
第 10 回	専門用語の理解	投資活動に最低限必要な専門用語の学習

第 11 回	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
第 12 回	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
第 13 回	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
第 14 回	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間外には、各自メンバーと時間を合わせてサブゼミ（グループワーク）を行い、教員から提示された課題について、協働して準備したり、事前に話し合っておくことを求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBA マネジメントブック [改訂 3 版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000 円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）とゼミ活動への貢献度（50 %）を基本とします。

【学生の意見等からの気づき】

個人々別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

1. 参加学生に望むこと

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRI には、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

2. 担当教員の実務経験について

担当教員（佐野哲）は本学着任前、政府機関のシンクタンク（独立行政法人）で 10 年間、産業・労働分野の政策研究を行ってきました。講義では可能な限り、様々な経験に基づくエピソード等を盛り込んで行きたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund.

The main objectives of the course are：

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

Learning Objectives

After completing this course, the students will be able to：

- ・ understand the concepts related to Business, Society and Stock market;
- ・ examine the scope and complexity of corporate social responsibility (CSR);
- ・ analyze the connections between corporate strategy and CSR and the impact on foundational organizational principles such as mission and vision.

Learning activities outside of classroom

The students should expect to allocate time outside of class to meet with their team members to discuss/prepare assignments.

Grading Criteria /Policy

The students will be graded based on the following criteria:

- ・ 50% Class participation;
- ・ 50% Group work/Case studies/Presentations.

MAN200FA

演習 1

佐野 嘉秀

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

変化の中の人材マネジメントをテーマにします。少子高齢化やグローバル化、AIの進展など、社会・経済環境の変化の中で、日本の雇用・労働・人事管理は変化の中にあります。例えば「成果主義」の導入など、正社員の働き方が変わるとともに、パート・アルバイト・契約社員など非正社員や、派遣スタッフ・個人請負など、正社員以外の働き方で働く人も増えてきています。女性活躍推進や仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランス）など、人材マネジメントに課せられた課題の比重も変わりつつあります。

この演習では、参加者の関心を踏まえつつ、上記のような変化にかかわる具体的なトピックスに焦点を当てつつ、人事担当者や職場のマネージャー等が担う人材マネジメントの現状や課題について勉強します。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下の3点です。

①文献購読により、人材マネジメントに関する基本的な考え方を理解することができる、②ディスカッションを通して、参加者の意見を取り入れながら自分やグループの考えをまとめることができる、③研究報告を行う中で、自分やグループの関心に基づき研究課題を設定し、文献調査やインタビュー調査等を行い、分析し、発表することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

参加者の報告と議論、教員からの講義を組み合わせることで進めていきます。実務の人を招いて話を聞くこともあります。

ゼミ形式ですから、授業計画を基本としつつも、参加者の希望や関心、学習状況に合わせて柔軟に対応していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミのテーマや進め方について情報共有およびゼミ内での役割分担の決定
第 2 回	文献研究①	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第 3 回	文献研究②	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第 4 回	グループ研究①	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第 5 回	文献研究③	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第 6 回	文献研究④	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第 7 回	総合研究①	春学期前半の学習の振り返り、および春学期グループ発表のグループ分けとテーマ設定
第 8 回	グループ研究②	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）

第 9 回 グループ研究③

人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）

第 10 回 グループ研究④

人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）

第 11 回 実態調査①

実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）

第 12 回 グループ発表①

グループ研究の成果発表とディスカッション

第 13 回 グループ発表②

グループ研究の成果発表とディスカッション

第 14 回 総合研究②

春学期における学習内容の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では以下のことに取り組んでもらいます。

- 1) 演習で扱う課題文献を読み、コメントを考えまとめる
- 2) 演習での報告の準備（文献データの収集や調査・報告書用資料の作成等）

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜提示します。

【参考書】

授業内で紹介します。そのほか、重要な文献を自分で探すことも参加者にとって重要な課題です。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

授業内での活動・議論等への積極的貢献：50%

研究・発表への積極的貢献：30%

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、参加者の意見を積極的に取り入れ、考える力を養える演習を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

マスコミなどにあふれる雇用・労働・人事管理にかかわる主張には根拠のないものも少なくありません。そうした中であって、自分で調べ、考え、判断する力を参加者に習得してもらいたいと考えます。

【関連科目】

人的資源管理Ⅰ / Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course outline】

Our objective of this seminar is to understand personnel management practices which are changing dynamically affected by the trends of aging society, globalization and technology advancement. We study topics such as performance management of core employee, portfolio of different employment forms, career formation of female employee and international feature of Japanese employment practices. Students are required to participate actively in discussion, making presentation and preparation for those activities.

【Learning Objective】

The three objectives of this course are as follows.

(1) To be able to understand the basic concept of human resource management by subscribing to literature, (2) To be able to summarize one's own and one's group's ideas while incorporating the opinions of the participants through discussion, and (3) To be able to set a research topic based on one's own and one's group's interests, conduct a literature survey and an interview survey, and analyze and present the results in a research report. (3) In reporting on their research, set a research topic based on their own and their group's interests, conduct a literature review and interview survey, analyze the results, and present their findings.

[Learning activities outside of classroom]

Outside of class you will be expected to do the following

- 1) Reading and commenting on the literature assigned for the exercise.
- 2) Preparation of the report for the exercise (collection of literature data, research, preparation of materials for the report, etc.)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Ordinary points: 20%.

Positive contribution to class activities and discussions: 50%.

Active contribution to research and presentation: 30%.

MAN200FA

演習 2

佐野 嘉秀

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

変化の中の人材マネジメントをテーマにします。少子高齢化やグローバル化、AIの進展など、社会・経済環境の変化の中で、日本の雇用・労働・人事管理は変化の中にあります。例えば「成果主義」の導入など、正社員の働き方が変わるとともに、パート・アルバイト・契約社員など非正社員や、派遣スタッフ・個人請負など、正社員以外の働き方で働く人も増えてきています。女性活躍推進や仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランス）など、人材マネジメントに課せられた課題の比重も変わりつつあります。

この演習では、参加者の関心を踏まえつつ、上記のような変化にかかわる具体的なトピックスに焦点を当てつつ、人事担当者や職場のマネージャー等が担う人材マネジメントの現状や課題について勉強します。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下の3点です。

①文献購読により、人材マネジメントに関する基本的な考え方を理解することができる、②ディスカッションを通して、参加者の意見を取り入れながら自分やグループの考えをまとめることができる、③研究報告を行う中で、自分やグループの関心に基づき研究課題を設定し、文献調査やインタビュー調査等を行い、分析し、発表することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

参加者の報告と議論、教員からの講義を組み合わせ進めていきます。実務の人を招いて話を聞くこともあります。

ゼミ形式ですから、授業計画を基本としつつも、参加者の希望や関心、学習状況に合わせて柔軟に対応していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	総合研究①	春学期の学習内容の振り返り、および秋学期の学習テーマ等の確認
第 2 回	グループ研究①	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第 3 回	グループ研究②	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第 4 回	グループ研究③	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第 5 回	総合研究②	秋学期グループ発表のグループ分けとテーマ設定
第 6 回	文献研究①	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第 7 回	グループ研究④	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）

第 8 回 実態調査①

実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）

第 9 回 文献研究②

人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション

第 10 回 文献研究③

人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション

第 11 回 実態調査②

実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）

第 12 回 グループ発表①

グループ研究の成果発表とディスカッション

第 13 回 グループ発表②

グループ研究の成果発表とディスカッション

第 14 回 総合研究③

秋学期における学習内容の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では以下のことに取り組んでもらいます。

- 1) 演習で扱う課題文献を読み、コメントを考えまとめる
- 2) 演習での報告の準備（文献データの収集や調査・報告書用資料の作成等）

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜提示します。

【参考書】

授業内で紹介します。そのほか、重要な文献を自分で探すことも参加者にとって重要な課題です。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

授業内での活動・議論等への積極的貢献：50%

研究・発表への積極的貢献：30%

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、参加者の意見を積極的に取り入れ、考える力を養える演習を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

マスコミなどにあふれる雇用・労働・人事管理にかかわる主張には根拠のないものも少なくありません。そうした中において、自分で調べ、考え、判断する力を参加者に習得してもらいたいと考えます。

【関連科目】

人的資源管理 I / II

【Outline (in English)】

【Course outline】

Our objective of this seminar is to understand personnel management practices which are changing dynamically affected by the trends of aging society, globalization and technology advancement. We study topics such as performance management of core employee, portfolio of different employment forms, career formation of female employee and international feature of Japanese employment practices. Students are required to participate actively in discussion, making presentation and preparation for those activities.

【Learning Objective】

The three objectives of this course are as follows.

(1) To be able to understand the basic concept of human resource management by subscribing to literature, (2) To be able to summarize one's own and one's group's ideas while incorporating the opinions of the participants through discussion, and (3) To be able to set a research topic based on one's own and one's group's interests, conduct a literature survey and an interview survey, and analyze and present the results in a research report. (3) In reporting on their research, set a research topic based on their own and their group's interests, conduct a literature review and interview survey, analyze the results, and present their findings.

[Learning activities outside of classroom]

Outside of class you will be expected to do the following

1) Reading and commenting on the literature assigned for the exercise.

2) Preparation of the report for the exercise (collection of literature data, research, preparation of materials for the report, etc.)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Ordinary points: 20%.

Positive contribution to class activities and discussions: 50%.

Active contribution to research and presentation: 30%.

MAN300FA

演習 3

佐野 嘉秀

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

変化の中の人材マネジメントをテーマにします。少子高齢化やグローバル化、AIの進展など、社会・経済環境の変化の中で、日本の雇用・労働・人事管理は変化の中にあります。例えば「成果主義」の導入など、正社員の働き方が変わるとともに、パート・アルバイト・契約社員など非正社員や、派遣スタッフ・個人請負など、正社員以外の働き方で働く人も増えてきています。女性活躍推進や仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランス）など、人材マネジメントに課せられた課題の比重も変わりつつあります。この演習では、参加者の関心を踏まえつつ、上記のような変化にかかわる具体的なトピックスに焦点を当てつつ、人事担当者や職場のマネージャー等が担う人材マネジメントの現状や課題について勉強します。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下の3点です。

①文献購読により、人材マネジメントに関する基本的な考え方を理解することができる、②ディスカッションを通して、参加者の意見を取り入れながら自分やグループの考えをまとめることができる、③研究報告を行う中で、自分やグループの関心に基づき研究課題を設定し、文献調査やインタビュー調査等を行い、分析し、発表することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

参加者の報告と議論、教員からの講義を組み合わせて進めていきます。

実務の人を招いて話を聞くこともあります。

ゼミ形式ですから、授業計画を基本としつつも、参加者の希望や関心、学習状況に合わせて柔軟に対応していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミのテーマや進め方について情報共有およびゼミ内での役割分担の決定
第2回	文献研究①	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第3回	文献研究②	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第4回	グループ研究①	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第5回	文献研究③	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第6回	文献研究④	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第7回	総合研究①	春学期前半の学習の振り返り、および春学期グループ発表のグループ分けとテーマ設定
第8回	グループ研究②	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第9回	グループ研究③	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第10回	グループ研究④	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第11回	実態調査①	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
第12回	グループ発表①	グループ研究の成果発表とディスカッション
第13回	グループ発表②	グループ研究の成果発表とディスカッション
第14回	総合研究②	春学期における学習内容の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では以下のことに取り組んでもらいます。

- 1) 演習で扱う課題文献を読み、コメントを考えまとめる
- 2) 演習での報告の準備（文献データの収集や調査・報告書用資料の作成等）

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜提示します。

【参考書】

授業内で紹介します。そのほか、重要な文献を自分で探すことも参加者にとって重要な課題です。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

授業内での活動・議論等への積極的貢献：50%

研究・発表への積極的貢献：30%

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、参加者の意見を積極的に取り入れ、考える力を養える演習を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

マスコミなどにあふれる雇用・労働・人事管理にかかわる主張には根拠のないものも少なくありません。そうした中において、自分で調べ、考え、判断する力を参加者に習得してもらいたいと考えます。

【関連科目】

人的資源管理Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course outline】

Our objective of this seminar is to understand personnel management practices which are changing dynamically affected by the trends of aging society, globalization and technology advancement. We study topics such as performance management of core employee, portfolio of different employment forms, career formation of female employee and international feature of Japanese employment practices. Students are required to participate actively in discussion, making presentation and preparation for those activities.

【Learning Objective】

The three objectives of this course are as follows.

(1) To be able to understand the basic concept of human resource management by subscribing to literature, (2) To be able to summarize one's own and one's group's ideas while incorporating the opinions of the participants through discussion, and (3) To be able to set a research topic based on one's own and one's group's interests, conduct a literature survey and an interview survey, and analyze and present the results in a research report. (3) In reporting on their research, set a research topic based on their own and their group's interests, conduct a literature review and interview survey, analyze the results, and present their findings.

【Learning activities outside of classroom】

Outside of class you will be expected to do the following

- 1) Reading and commenting on the literature assigned for the exercise.
- 2) Preparation of the report for the exercise (collection of literature data, research, preparation of materials for the report, etc.)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary points: 20%.

Positive contribution to class activities and discussions: 50%.

Active contribution to research and presentation: 30%.

MAN300FA

演習 4

佐野 嘉秀

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

変化の中の人材マネジメントをテーマにします。少子高齢化やグローバル化、AIの進展など、社会・経済環境の変化の中で、日本の雇用・労働・人事管理は変化の中にあります。例えば「成果主義」の導入など、正社員の働き方が変わるとともに、パート・アルバイト・契約社員など非正社員や、派遣スタッフ・個人請負など、正社員以外の働き方で働く人も増えてきています。女性活躍推進や仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランス）など、人材マネジメントに課せられた課題の比重も変わりつつあります。この演習では、参加者の関心を踏まえつつ、上記のような変化にかかわる具体的なトピックスに焦点を当てつつ、人事担当者や職場のマネージャー等が担う人材マネジメントの現状や課題について勉強します。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下の3点です。

①文献購読により、人材マネジメントに関する基本的な考え方を理解することができる、②ディスカッションを通して、参加者の意見を取り入れながら自分やグループの考えをまとめることができる、③研究報告を行う中で、自分やグループの関心に基づき研究課題を設定し、文献調査やインタビュー調査等を行い、分析し、発表することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

参加者の報告と議論、教員からの講義を組み合わせて進めていきます。

実務の人を招いて話を聞くこともあります。

ゼミ形式ですから、授業計画を基本としつつも、参加者の希望や関心、学習状況に合わせて柔軟に対応していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	総合研究①	春学期の学習内容の振り返り、および秋学期の学習テーマ等の確認
第 2 回	グループ研究①	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第 3 回	グループ研究②	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第 4 回	グループ研究③	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第 5 回	総合研究②	秋学期グループ発表のグループ分けとテーマ設定
第 6 回	文献研究①	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第 7 回	グループ研究④	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第 8 回	実態調査①	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
第 9 回	文献研究②	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第 10 回	文献研究③	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第 11 回	実態調査②	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
第 12 回	グループ発表①	グループ研究の成果発表とディスカッション
第 13 回	グループ発表②	グループ研究の成果発表とディスカッション
第 14 回	総合研究③	秋学期における学習内容の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では以下のことに取り組んでもらいます。

- 1) 演習で扱う課題文献を読み、コメントを考えまとめる
- 2) 演習での報告の準備（文献データの収集や調査・報告書用資料の作成等）

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜提示します。

【参考書】

授業内で紹介します。そのほか、重要な文献を自分で探すことも参加者にとって重要な課題です。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

授業内での活動・議論等への積極的貢献：50%

研究・発表への積極的貢献：30%

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、参加者の意見を積極的に取り入れ、考える力を養える演習を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

マスコミなどにあふれる雇用・労働・人事管理にかかわる主張には根拠のないものも少なくありません。そうした中において、自分で調べ、考え、判断する力を参加者に習得してもらいたいと考えます。

【関連科目】

人的資源管理Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course outline】

Our objective of this seminar is to understand personnel management practices which are changing dynamically affected by the trends of aging society, globalization and technology advancement. We study topics such as performance management of core employee, portfolio of different employment forms, career formation of female employee and international feature of Japanese employment practices. Students are required to participate actively in discussion, making presentation and preparation for those activities.

【Learning Objective】

The three objectives of this course are as follows.

(1) To be able to understand the basic concept of human resource management by subscribing to literature, (2) To be able to summarize one's own and one's group's ideas while incorporating the opinions of the participants through discussion, and (3) To be able to set a research topic based on one's own and one's group's interests, conduct a literature survey and an interview survey, and analyze and present the results in a research report. (3) In reporting on their research, set a research topic based on their own and their group's interests, conduct a literature review and interview survey, analyze the results, and present their findings.

【Learning activities outside of classroom】

Outside of class you will be expected to do the following

1) Reading and commenting on the literature assigned for the exercise.
2) Preparation of the report for the exercise (collection of literature data, research, preparation of materials for the report, etc.)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary points: 20%.

Positive contribution to class activities and discussions: 50%.

Active contribution to research and presentation: 30%.

MAN400FA

演習 5

佐野 嘉秀

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

変化の中の人材マネジメントをテーマにします。少子高齢化やグローバル化、AIの進展など、社会・経済環境の変化の中で、日本の雇用・労働・人事管理は変化の中にあります。例えば「成果主義」の導入など、正社員の働き方が変わるとともに、パート・アルバイト・契約社員など非正社員や、派遣スタッフ・個人請負など、正社員以外の働き方で働く人も増えてきています。女性活躍推進や仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランス）など、人材マネジメントに課せられた課題の比重も変わりつつあります。この演習では、参加者の関心を踏まえつつ、上記のような変化にかかわる具体的なトピックスに焦点を当てつつ、人事担当者や職場のマネージャー等が担う人材マネジメントの現状や課題について勉強します。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下の3点です。

①文献購読により、人材マネジメントに関する基本的な考え方を理解することができる、②ディスカッションを通して、参加者の意見を取り入れながら自分やグループの考えをまとめることができる、③研究報告を行う中で、自分やグループの関心に基づき研究課題を設定し、文献調査やインタビュー調査等を行い、分析し、発表することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

参加者の報告と議論、教員からの講義を組み合わせて進めていきます。

実務の人を招いて話を聞くこともあります。

ゼミ形式ですから、授業計画を基本としつつも、参加者の希望や関心、学習状況に合わせて柔軟に対応していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミのテーマや進め方について情報共有およびゼミ内での役割分担の決定
第2回	文献研究①	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第3回	文献研究②	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第4回	グループ研究①	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第5回	文献研究③	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第6回	文献研究④	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第7回	総合研究①	春学期前半の学習の振り返り、および春学期グループ発表のグループ分けとテーマ設定
第8回	グループ研究②	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第9回	グループ研究③	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第10回	グループ研究④	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第11回	実態調査①	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
第12回	グループ発表①	グループ研究の成果発表とディスカッション
第13回	グループ発表②	グループ研究の成果発表とディスカッション
第14回	総合研究②	春学期における学習内容の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では以下のことに取り組んでもらいます。

- 1) 演習で扱う課題文献を読み、コメントを考えまとめる
- 2) 演習での報告の準備（文献データの収集や調査・報告書用資料の作成等）

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜提示します。

【参考書】

授業内で紹介します。そのほか、重要な文献を自分で探すことも参加者にとって重要な課題です。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

授業内での活動・議論等への積極的貢献：50%

研究・発表への積極的貢献：30%

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、参加者の意見を積極的に取り入れ、考える力を養える演習を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

マスコミなどにあふれる雇用・労働・人事管理にかかわる主張には根拠のないものも少なくありません。そうした中において、自分で調べ、考え、判断する力を参加者に習得してもらいたいと考えます。

【関連科目】

人的資源管理Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course outline】

Our objective of this seminar is to understand personnel management practices which are changing dynamically affected by the trends of aging society, globalization and technology advancement. We study topics such as performance management of core employee, portfolio of different employment forms, career formation of female employee and international feature of Japanese employment practices. Students are required to participate actively in discussion, making presentation and preparation for those activities.

【Learning Objective】

The three objectives of this course are as follows.

- (1) To be able to understand the basic concept of human resource management by subscribing to literature, (2) To be able to summarize one's own and one's group's ideas while incorporating the opinions of the participants through discussion, and (3) To be able to set a research topic based on one's own and one's group's interests, conduct a literature survey and an interview survey, and analyze and present the results in a research report. (3) In reporting on their research, set a research topic based on their own and their group's interests, conduct a literature review and interview survey, analyze the results, and present their findings.

【Learning activities outside of classroom】

Outside of class you will be expected to do the following

- 1) Reading and commenting on the literature assigned for the exercise.
- 2) Preparation of the report for the exercise (collection of literature data, research, preparation of materials for the report, etc.)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary points: 20%.

Positive contribution to class activities and discussions: 50%.

Active contribution to research and presentation: 30%.

MAN400FA

演習 6

佐野 嘉秀

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

変化の中の人材マネジメントをテーマにします。少子高齢化やグローバル化、AIの進展など、社会・経済環境の変化の中で、日本の雇用・労働・人事管理は変化の中にあります。例えば「成果主義」の導入など、正社員の働き方が変わるとともに、パート・アルバイト・契約社員など非正社員や、派遣スタッフ・個人請負など、正社員以外の働き方で働く人も増えてきています。女性活躍推進や仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランス）など、人材マネジメントに課せられた課題の比重も変わりつつあります。この演習では、参加者の関心を踏まえつつ、上記のような変化にかかわる具体的なトピックスに焦点を当てつつ、人事担当者や職場のマネージャー等が担う人材マネジメントの現状や課題について勉強します。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下の3点です。

①文献購読により、人材マネジメントに関する基本的な考え方を理解することができる、②ディスカッションを通して、参加者の意見を取り入れながら自分やグループの考えをまとめることができる、③研究報告を行う中で、自分やグループの関心に基づき研究課題を設定し、文献調査やインタビュー調査等を行い、分析し、発表することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

参加者の報告と議論、教員からの講義を組み合わせて進めていきます。

実務の人を招いて話を聞くこともあります。

ゼミ形式ですから、授業計画を基本としつつも、参加者の希望や関心、学習状況に合わせて柔軟に対応していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	総合研究①	春学期の学習内容の振り返り、および秋学期の学習テーマ等の確認
第 2 回	グループ研究①	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第 3 回	グループ研究②	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第 4 回	グループ研究③	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第 5 回	総合研究②	秋学期グループ発表のグループ分けとテーマ設定
第 6 回	文献研究①	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第 7 回	グループ研究④	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
第 8 回	実態調査①	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
第 9 回	文献研究②	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第 10 回	文献研究③	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
第 11 回	実態調査②	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
第 12 回	グループ発表①	グループ研究の成果発表とディスカッション
第 13 回	グループ発表②	グループ研究の成果発表とディスカッション
第 14 回	総合研究③	秋学期における学習内容の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では以下のことに取り組んでもらいます。

- 1) 演習で扱う課題文献を読み、コメントを考えまとめる
- 2) 演習での報告の準備（文献データの収集や調査・報告書用資料の作成等）

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜提示します。

【参考書】

授業内で紹介します。そのほか、重要な文献を自分で探すことも参加者にとって重要な課題です。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

授業内での活動・議論等への積極的貢献：50%

研究・発表への積極的貢献：30%

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、参加者の意見を積極的に取り入れ、考える力を養える演習を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

マスコミなどにあふれる雇用・労働・人事管理にかかわる主張には根拠のないものも少なくありません。そうした中であって、自分で調べ、考え、判断する力を参加者に習得してもらいたいと考えます。

【関連科目】

人的資源管理Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course outline】

Our objective of this seminar is to understand personnel management practices which are changing dynamically affected by the trends of aging society, globalization and technology advancement. We study topics such as performance management of core employee, portfolio of different employment forms, career formation of female employee and international feature of Japanese employment practices. Students are required to participate actively in discussion, making presentation and preparation for those activities.

【Learning Objective】

The three objectives of this course are as follows.

(1) To be able to understand the basic concept of human resource management by subscribing to literature, (2) To be able to summarize one's own and one's group's ideas while incorporating the opinions of the participants through discussion, and (3) To be able to set a research topic based on one's own and one's group's interests, conduct a literature survey and an interview survey, and analyze and present the results in a research report. (3) In reporting on their research, set a research topic based on their own and their group's interests, conduct a literature review and interview survey, analyze the results, and present their findings.

【Learning activities outside of classroom】

Outside of class you will be expected to do the following

1) Reading and commenting on the literature assigned for the exercise.
2) Preparation of the report for the exercise (collection of literature data, research, preparation of materials for the report, etc.)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary points: 20%.

Positive contribution to class activities and discussions: 50%.

Active contribution to research and presentation: 30%.

MAN200FA

演習 1

高橋 慎

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスの基礎的事項を学び、統計ソフトを利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身につけます。

【到達目標】

- ・統計ソフトを用いてデータ分析ができる。
- ・理解した内容を分かりやすく人に伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・テキストの課題学習を通して、統計ソフトを利用したデータ分析演習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期ガイダンス	授業の進め方を説明します。また、データ分析のグループを決定します。
第 2 回	現代社会におけるデータサイエンス	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 3 回	データ分析の基礎 1	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 4 回	データ分析の基礎 2	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 5 回	データサイエンスの手法	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 6 回	コンピュータを用いた分析 1	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 7 回	コンピュータを用いた分析 2	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 8 回	コンピュータを用いた分析 3	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 9 回	コンピュータを用いた分析 4	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 10 回	コンピュータを用いた分析 5	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 11 回	データサイエンスの応用事例 1	テキストの輪読を行い、内容について議論します。
第 12 回	データサイエンスの応用事例 2	テキストの輪読を行い、内容について議論します。
第 13 回	データサイエンスの応用事例 3	テキストの輪読を行い、内容について議論します。
第 14 回	春学期まとめ	春学期の内容を復習します。また、秋学期のスケジュールを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストの該当箇所を事前に読み、気付いたことや意見をまとめてディスカッションの準備をします。
- ・統計ソフトを使って実際にデータ分析を行うことで理解を深めます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

竹村・姫野・高田（編）(2021)『データサイエンス入門 第 2 版』学術図書出版社

サポートページ：<https://www.gakujutsu.co.jp/text/isbn978-4-7806-0730-7/>

【参考書】

- ・中室牧子、津川友介 (2017) 『原因と結果の経済学』ダイヤモンド社
- ・今井耕介（著）、粕谷祐子、原田勝孝、久保浩樹（訳）(2018) 『社会科学のためのデータ分析入門（上）（下）』岩波書店
- ・「私たちの R」<https://www.jaysong.net/RBook/>
- ・「株式会社分析チュートリアル」<https://japanexchange.github.io/J-Quants-Tutorial/>
- ・授業中にも適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・グループワーク：50%
- ・発表：50%

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやグループディスカッションなどのアクティブラーニングを多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

・データ分析を行うには、統計ソフトを使えるパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

統計学入門
基礎統計学 I/II
経営のための統計学 I/II
演習 2

【Outline (in English)】

We will learn basic data analysis methods and gain practical skills using statistical software.

The primary goals of this class are: to be able to analyze data using statistical software; and to be able to communicate what you understand to others in an easy to understand manner.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grades will be based on group work (50%) and presentation (50%).

MAN200FA

演習 2

高橋 慎

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日経 STOCK リーグに参加し株式投資について学びます。

【到達目標】

- ・実際のデータを用いて株式分析ができる。
- ・理解した内容を分かりやすく人に伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・2~5 名のグループに分かれて日経 STOCK リーグに参加します。
- ・ディスカッションの内容などを発表してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期ガイダンス	授業の進め方を説明します。
第 2 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 3 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 4 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 5 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 6 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 7 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 8 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 9 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 10 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 11 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 12 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 13 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 14 回	日経 STOCK リーグ	日経 STOCK リーグに提出したレポートについて各グループによる発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・レポート作成に必要な内容の下調べやデータの準備をします。
- ・実際にデータ分析を行うことで理解を深めます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

- ・「みずほ証券ファイナンス用語集」https://glossary.mizuho-sc.com/?site_domain=default
- ・「株式分析チュートリアル」<https://japanexchange.github.io/J-Quants-Tutorial/>
- ・授業中にも適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・グループワーク：50%
- ・発表：50%

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやグループディスカッションなどのアクティブラーニングを多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・データ分析を行うには、パソコンが必要です。
- ・日経 NEEDS-FinancialQUEST を利用するには、Windows 搭載のパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

統計学入門
基礎統計学 I/II
経営のための統計学 I/II
演習 1

【Outline (in English)】

We participate in the Nikkei STOCK League and learn about stock investing.

The primary goals of this class are: to be able to analyze stocks using actual data; and to be able to communicate what you understand to others in an easy to understand manner.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grades will be based on group work (50%) and presentation (50%).

MAN300FA

演習 3

高橋 慎

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスの基礎的事項を学び、統計ソフトを利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身につけます。

【到達目標】

- ・統計ソフトを用いてデータ分析ができる。
- ・理解した内容を分かりやすく人に伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・テキストの課題学習を通して、統計ソフトを利用したデータ分析演習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期ガイダンス	授業の進め方を説明します。また、データ分析のグループを決定します。
第 2 回	現代社会におけるデータサイエンス	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 3 回	データ分析の基礎 1	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 4 回	データ分析の基礎 2	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 5 回	データサイエンスの手法	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 6 回	コンピュータを用いた分析 1	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 7 回	コンピュータを用いた分析 2	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 8 回	コンピュータを用いた分析 3	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 9 回	コンピュータを用いた分析 4	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 10 回	コンピュータを用いた分析 5	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 11 回	データサイエンスの応用事例 1	テキストの輪読を行い、内容について議論します。
第 12 回	データサイエンスの応用事例 2	テキストの輪読を行い、内容について議論します。
第 13 回	データサイエンスの応用事例 3	テキストの輪読を行い、内容について議論します。
第 14 回	春学期まとめ	春学期の内容を復習します。また、秋学期のスケジュールを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストの該当箇所を事前に読み、気付いたことや意見をまとめてディスカッションの準備をします。
- ・統計ソフトを使って実際にデータ分析を行うことで理解を深めます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

竹村・姫野・高田（編）（2021）『データサイエンス入門 第 2 版』学術図書出版社

サポートページ：<https://www.gakujutsu.co.jp/text/isbn978-4-7806-0730-7/>

【参考書】

- ・中室牧子、津川友介（2017）『原因と結果の経済学』ダイヤモンド社
- ・今井耕介（著）、粕谷祐子、原田勝孝、久保浩樹（訳）（2018）『社会科学のためのデータ分析入門（上）（下）』岩波書店
- ・「私たちの R」<https://www.jaysong.net/RBook/>
- ・「株式会社分析チュートリアル」<https://japanexchange.github.io/J-Quants-Tutorial/>
- ・授業中にも適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・グループワーク：50%
- ・発表：50%

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやグループディスカッションなどのアクティブラーニングを多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

・データ分析を行うには、統計ソフトを使えるパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

統計学入門
基礎統計学 I/II
経営のための統計学 I/II
演習 2

【Outline (in English)】

We will learn basic data analysis methods and gain practical skills using statistical software.

The primary goals of this class are: to be able to analyze data using statistical software; and to be able to communicate what you understand to others in an easy to understand manner.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grades will be based on group work (50%) and presentation (50%).

MAN300FA

演習 4

高橋 慎

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日経 STOCK リーグに参加し株式投資について学びます。

【到達目標】

- ・実際のデータを用いて株式分析ができる。
- ・理解した内容を分かりやすく人に伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・2~5 名のグループに分かれて日経 STOCK リーグに参加します。
- ・ディスカッションの内容などを発表してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期ガイダンス	授業の進め方を説明します。
第 2 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 3 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 4 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 5 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 6 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 7 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 8 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 9 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 10 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 11 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 12 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 13 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 14 回	日経 STOCK リーグ	日経 STOCK リーグに提出したレポートについて各グループによる発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・レポート作成に必要な内容の下調べやデータの準備をします。
- ・実際にデータ分析を行うことで理解を深めます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

- ・「みずほ証券ファイナンス用語集」https://glossary.mizuho-sc.com/?site_domain=default
- ・「株式分析チュートリアル」<https://japanexchange.github.io/J-Quants-Tutorial/>
- ・授業中にも適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・グループワーク：50%
- ・発表：50%

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやグループディスカッションなどのアクティブラーニングを多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・データ分析を行うには、パソコンが必要です。
- ・日経 NEEDS-FinancialQUEST を利用するには、Windows 搭載のパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

統計学入門
基礎統計学 I/II
経営のための統計学 I/II
演習 1

【Outline (in English)】

We participate in the Nikkei STOCK League and learn about stock investing.

The primary goals of this class are: to be able to analyze stocks using actual data; and to be able to communicate what you understand to others in an easy to understand manner.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grades will be based on group work (50%) and presentation (50%).

MAN400FA

演習 5

高橋 慎

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスの基礎的事項を学び、統計ソフトを利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身につけます。

【到達目標】

- ・統計ソフトを用いてデータ分析ができる。
- ・理解した内容を分かりやすく人に伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・テキストの課題学習を通して、統計ソフトを利用したデータ分析演習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期ガイダンス	授業の進め方を説明します。また、データ分析のグループを決定します。
第 2 回	現代社会におけるデータサイエンス	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 3 回	データ分析の基礎 1	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 4 回	データ分析の基礎 2	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 5 回	データサイエンスの手法	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 6 回	コンピュータを用いた分析 1	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 7 回	コンピュータを用いた分析 2	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 8 回	コンピュータを用いた分析 3	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 9 回	コンピュータを用いた分析 4	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 10 回	コンピュータを用いた分析 5	テキストの内容について議論し、各グループで課題学習を行います。
第 11 回	データサイエンスの応用事例 1	テキストの輪読を行い、内容について議論します。
第 12 回	データサイエンスの応用事例 2	テキストの輪読を行い、内容について議論します。
第 13 回	データサイエンスの応用事例 3	テキストの輪読を行い、内容について議論します。
第 14 回	春学期まとめ	春学期の内容を復習します。また、秋学期のスケジュールを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストの該当箇所を事前に読み、気付いたことや意見をまとめてディスカッションの準備をします。
- ・統計ソフトを使って実際にデータ分析を行うことで理解を深めます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

竹村・姫野・高田（編）（2021）『データサイエンス入門 第 2 版』学術図書出版社
サポートページ：<https://www.gakujutsu.co.jp/text/isbn978-4-7806-0730-7/>

【参考書】

- ・中室牧子、津川友介（2017）『原因と結果の経済学』ダイヤモンド社
- ・今井耕介（著）、粕谷祐子、原田勝孝、久保浩樹（訳）（2018）『社会科学のためのデータ分析入門（上）（下）』岩波書店
- ・「私たちの R」<https://www.jaysong.net/RBook/>
- ・「株式会社分析チュートリアル」<https://japanexchange.github.io/J-Quants-Tutorial/>
- ・授業中にも適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・グループワーク：50%
- ・発表：50%

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやグループディスカッションなどのアクティブラーニングを多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

・データ分析を行うには、統計ソフトを使えるパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

統計学入門
基礎統計学 I/II
経営のための統計学 I/II
演習 2

【Outline (in English)】

We will learn basic data analysis methods and gain practical skills using statistical software.

The primary goals of this class are: to be able to analyze data using statistical software; and to be able to communicate what you understand to others in an easy to understand manner.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grades will be based on group work (50%) and presentation (50%).

MAN400FA

演習 6

高橋 慎

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日経 STOCK リーグに参加し株式投資について学びます。

【到達目標】

- ・実際のデータを用いて株式分析ができる。
- ・理解した内容を分かりやすく人に伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・2~5 名のグループに分かれて日経 STOCK リーグに参加します。
- ・ディスカッションの内容などを発表してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期ガイダンス	授業の進め方を説明します。
第 2 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 3 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 4 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 5 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 6 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 7 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 8 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 9 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 10 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 11 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 12 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 13 回	日経 STOCK リーグ	各グループで投資ポートフォリオについて議論し、進捗を発表します。
第 14 回	日経 STOCK リーグ	日経 STOCK リーグに提出したレポートについて各グループによる発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・レポート作成に必要な内容の下調べやデータの準備をします。
- ・実際にデータ分析を行うことで理解を深めます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

- ・「みずほ証券ファイナンス用語集」https://glossary.mizuho-sc.com/?site_domain=default
- ・「株式分析チュートリアル」<https://japanexchange.github.io/J-Quants-Tutorial/>
- ・授業中にも適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・グループワーク：50%
- ・発表：50%

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやグループディスカッションなどのアクティブラーニングを多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・データ分析を行うには、パソコンが必要です。
- ・日経 NEEDS-FinancialQUEST を利用するには、Windows 搭載のパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

統計学入門
基礎統計学 I/II
経営のための統計学 I/II
演習 1

【Outline (in English)】

We participate in the Nikkei STOCK League and learn about stock investing.

The primary goals of this class are: to be able to analyze stocks using actual data; and to be able to communicate what you understand to others in an easy to understand manner.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grades will be based on group work (50%) and presentation (50%).

MAN200FA

演習 1

高橋 美穂子

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、経営分析と企業評価のスキルを習得することを目指します。経営分析、さらに企業評価を行うためには、企業の経営活動を理解した上で財務諸表を読み解く能力が求められます。そのため、本演習では企業評価のスキルを習得することに加え、企業の経営活動がいかに会計数値に反映されるのか、つまり経営活動と会計数値の関係についても理解することを目指します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、
 ・経営活動と会計数値の繋がりが理解できる
 ・経営分析と企業評価のスキルを習得し、実践できる
 ・論理的に考える力が身につく
 ・コミュニケーション（プレゼンテーション・ディスカッション・文章作成）能力が向上する、ことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行います。本演習を履修する学生は学習支援システム（Hoppii）に登録し、授業開始前に授業の方法を確認してください。春学期はテキスト内容の発表と質疑応答、ディスカッションの流れで授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	テキスト発表の担当箇所の設定、授業の進め方の確認
第 2 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 1 章：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 3 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 2 章：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 4 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 3 章 (1)：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 5 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 3 章 (2)：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 6 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 4 章 (1)：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 7 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 4 章 (2)：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 8 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 5 章：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 9 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 6 章：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 10 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 7・8 章 (1)：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 11 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 8 章 (2)：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 12 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 9 章：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 13 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 10 章：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 14 回	グループワークテーマの設定と進め方の確認	グループワークのテーマ設定ならびに夏休み以降の進め方を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は PowerPoint など発表資料を作成してください。それ以外のゼミ生は事前にテキストの該当箇所を熟読し、内容を理解した上で授業に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

桜井久勝著、『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

【参考書】

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015 年。

【成績評価の方法と基準】

テキストの発表 (60%)、議論への参加度合いと発言内容 (40%) に基づき評価します。
無断欠席や遅刻は成績評価に大きく影響します。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションやグループワーク（日経ストックリーグ）などの経験を通して、論理的に考える力が身についた、人間的にも成長できた等の意見が寄せられました。今年度も、テキストの内容を正しく理解することを基礎としつつ、グループワークを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）に接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。
報告資料の作成および報告を行う際は、Word や PowerPoint などを使用してください。

【その他の重要事項】

・経営分析・企業評価に関する理解を深めるため、3 年次に企業評価論 I/II を履修してください。
 ・ゼミでの一連の活動を通して「大学では経営分析、企業評価を学びました」と自信をもって言えるようになってもらいたいと考えています。そのためにも、ゼミ活動全般に主体的かつ積極的に取り組まれることを期待します。

【関連科目】

企業評価論 I/II、財務会計論 I/II
 経営分析・企業評価は、会計、ファイナンス、経営戦略、マーケティングなどの知識を必要とする応用分野のため、これらの科目についても積極的に履修してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar is designed to prepare students to analyze and value business firms. Students learn how to analyze a firm's business environment, business strategy, and financial statements. Students who complete this seminar will develop a deep understanding of how the results of a firm's business transactions and strategies could be shown in accounting information.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the followings:

1. Understand the relationship between firm activities and accounting numbers
2. Will be able to practice business analysis and valuation skills
3. Improve logical thinking skills
4. Improve communication skills (presentation, discussion, and writing)

(Learning activities outside of classroom)

The student who is assigned to report on the textbook or newspaper articles is required to prepare presentation slides. All other seminar students should read the textbook carefully in advance to participate in the class discussion. When doing group work, preparing the report before class is needed. Before each class meeting, students will be expected to spend four hours for preparation.

(Grading Criteria)

Students grade will be decided based on the followin: Presentation (60%), Discussion contribution (40%).

MAN200FA

演習 2

高橋 美穂子

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、経営分析と企業評価のスキルを習得することを目指します。経営分析、さらに企業評価を行うためには、企業の経営活動を理解した上で財務諸表を読み解く能力が求められます。そのため、本演習では企業評価のスキルを習得することに加え、企業の経営活動がいかにかに会計数値に反映されるのか、つまり経営活動と会計数値の関係についても理解することを目指します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、
 ・経営活動と会計数値の繋がりが理解できる
 ・経営分析と企業評価のスキルを習得し、実践できる
 ・論理的に考える力が身につく
 ・コミュニケーション（プレゼンテーション・ディスカッション・文章作成）能力が向上する、ことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行います。本演習を履修する学生は学習支援システム（Hoppii）に登録し、授業開始前に授業の進め方を確認してください。秋学期は①テキストの発表とその内容についての質疑応答、②グループワークレポート・卒業論文の経過報告とその内容に関するディスカッションの2本柱で授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 1 章 (1) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論の途中経過報告
第 2 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 1 章 (2) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論の途中経過報告
第 3 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 2 章 (1) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論の途中経過報告
第 4 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 2 章 (2) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 5 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 3 章 (1) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 6 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 3 章 (2) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 7 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 3 章 (3) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 8 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 4 章 (1) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 9 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 4 章 (2) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 10 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 4 章 (3) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告

第 11 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 5 章 (1) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 12 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 5 章 (2) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 13 回	グループワーク・卒論途中経過報告	グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 14 回	グループワークレポート・卒論最終報告	グループワークレポート・卒論最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当者は PowerPoint などを用いて発表資料を作成してください。それ以外のゼミ生は事前にテキストの該当箇所を熟読し、内容を理解した上で授業に参加してください。グループワークや卒論の内容を授業で報告する際は事前準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

桜井久勝著、『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

【参考書】

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015 年。

【成績評価の方法と基準】

・グループワークレポート・卒論の提出 (50%)
 ・テキストの発表・質疑応答の発言内容 (20%)
 ・グループワークあるいは卒論のピア評価の結果 (30%)
 に基づき評価します。

2, 3 年生はグループワークに取り組みます。4 年生はグループワークあるいは卒論のいずれに取り組みかを選択してください。

無断欠席や遅刻は成績評価に大きく影響します。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションやグループワーク（日経ストックリーグ）などの経験を通して、論理的に考える力が身についた、人間的にも成長してきた等の意見が寄せられました。今年度も、テキストの内容を正しく理解することを基礎としつつ、グループワークを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）に接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

報告資料の作成および報告を行う際は、Word や PowerPoint などを使用してください。

【その他の重要事項】

・経営分析・企業評価に関する理解を深めるため、3 年次に企業評価論 I/II を履修してください。
 ・ゼミでの一連の活動を通して「大学では経営分析、企業評価を学びました」と自信をもって言えるようになってもらいたいと考えています。そのためにも、ゼミ活動全般に主体的かつ積極的に取り組まれることを期待します。

【関連科目】

企業評価論 I/II、財務会計論 I/II
 経営分析・企業評価は、会計、ファイナンス、経営戦略、マーケティングなどの知識を必要とする応用分野のため、これらの科目についても積極的に履修してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar is designed to prepare students to analyze and value business firms. Students learn how to analyze a firm's business environment, business strategy, and financial statements. Students who complete this seminar will develop a deep understanding of how the results of a firm's business transactions and strategies could be shown in accounting information.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Understand the relationship between firm activities and accounting numbers
2. Will be able to practice business analysis and valuation skills
3. Improve logical thinking skills
4. Improve communication skills (presentation, discussion, and writing) (Learning activities outside of classroom)

The student who is assigned to report on the textbook, group work or thesis is required to prepare presentation slides. All other seminar students should read the textbook carefully in advance to participate in the class discussion. When doing group work or writing graduation thesis, preparing the report or thesis outside of class hours is needed. Before each class meeting, students will be expected to spend four hours for preparation.

(Grading Criteria)

The course grade is based on the submission of a group work report or graduation thesis (50%), presentation of the text (20%), and the results of peer evaluations (30%).

MAN300FA

演習 3

高橋 美穂子

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、経営分析と企業評価のスキルを習得することを目指します。経営分析、さらに企業評価を行うためには、企業の経営活動を理解した上で財務諸表を読み解く能力が求められます。そのため、本演習では企業評価のスキルを習得することに加え、企業の経営活動がいかに会計数値に反映されるのか、つまり経営活動と会計数値の関係についても理解することを目指します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、
 ・経営活動と会計数値の繋がりが理解できる
 ・経営分析と企業評価のスキルを習得し、実践できる
 ・論理的に考える力が身につく
 ・コミュニケーション（プレゼンテーション・ディスカッション・文章作成）能力が向上する、ことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行います。本演習を履修する学生は学習支援システム（Hoppii）に登録し、授業開始前に授業の方法を確認してください。春学期はテキスト内容の発表と質疑応答、ディスカッションの流れで授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	テキスト発表の担当箇所の設定、授業の進め方の確認
第 2 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 1 章：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 3 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 2 章：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 4 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 3 章 (1)：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 5 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 3 章 (2)：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 6 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 4 章 (1)：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 7 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 4 章 (2)：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 8 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 5 章：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 9 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 6 章：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 10 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 7・8 章 (1)：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 11 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 8 章 (2)：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 12 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 9 章：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 13 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 10 章：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 14 回	グループワークテーマの設定と進め方の確認	グループワークのテーマ設定ならびに夏休み以降の進め方を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は PowerPoint など発表資料を作成してください。それ以外のゼミ生は事前にテキストの該当箇所を熟読し、内容を理解した上で授業に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

桜井久勝著、『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

【参考書】

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015 年。

【成績評価の方法と基準】

テキストの発表 (60%)、議論への参加度合いと発言内容 (40%) に基づき評価します。
無断欠席や遅刻は成績評価に大きく影響します。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションやグループワーク（日経ストックリーグ）などの経験を通じて、論理的に考える力が身についた、人間的にも成長できた等の意見が寄せられました。今年度も、テキストの内容を正しく理解することを基礎として、グループワークを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）に接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。
報告資料の作成および報告を行う際は、Word や PowerPoint などを使用してください。

【その他の重要事項】

・経営分析・企業評価に関する理解を深めるため、3 年次に企業評価論 I/II を履修してください。
 ・ゼミでの一連の活動を通して「大学では経営分析、企業評価を学びました」と自信をもって言えるようになってもらいたいと考えています。そのためには、ゼミ活動全般に主体的かつ積極的に取り組まれることを期待します。

【関連科目】

企業評価論 I/II、財務会計論 I/II
 経営分析・企業評価は、会計、ファイナンス、経営戦略、マーケティングなどの知識を必要とする応用分野のため、これらの科目についても積極的に履修してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar is designed to prepare students to analyze and value business firms. Students learn how to analyze a firm's business environment, business strategy, and financial statements. Students who complete this seminar will develop a deep understanding of how the results of a firm's business transactions and strategies could be shown in accounting information.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the followings:

1. Understand the relationship between firm activities and accounting numbers
2. Will be able to practice business analysis and valuation skills
3. Improve logical thinking skills
4. Improve communication skills (presentation, discussion, and writing)

(Learning activities outside of classroom)

The student who is assigned to report on the textbook or newspaper articles is required to prepare presentation slides. All other seminar students should read the textbook carefully in advance to participate in the class discussion. When doing group work, preparing the report before class is needed. Before each class meeting, students will be expected to spend four hours for preparation.

(Grading Criteria)

Students grade will be decided based on the followin: Presentation (60%), Discussion contribution (40%).

MAN300FA

演習 4

高橋 美穂子

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、経営分析と企業評価のスキルを習得することを目指します。経営分析、さらに企業評価を行うためには、企業の経営活動を理解した上で財務諸表を読み解く能力が求められます。そのため、本演習では企業評価のスキルを習得することに加え、企業の経営活動がいかにかに会計数値に反映されるのか、つまり経営活動と会計数値の関係についても理解することを目指します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、
 ・経営活動と会計数値の繋がりが理解できる
 ・経営分析と企業評価のスキルを習得し、実践できる
 ・論理的に考える力が身につく
 ・コミュニケーション（プレゼンテーション・ディスカッション・文章作成）能力が向上する、ことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行います。本演習を履修する学生は学習支援システム（Hoppii）に登録し、授業開始前に授業の進め方を確認してください。秋学期は①テキストの発表とその内容についての質疑応答、②グループワークレポート・卒業論文の経過報告とその内容に関するディスカッションの2本柱で授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 1 章 (1) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論の途中経過報告
第 2 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 1 章 (2) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論の途中経過報告
第 3 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 2 章 (1) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論の途中経過報告
第 4 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 2 章 (2) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 5 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 3 章 (1) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 6 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 3 章 (2) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 7 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 3 章 (3) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 8 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 4 章 (1) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 9 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 4 章 (2) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 10 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 4 章 (3) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告

第 11 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 5 章 (1) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 12 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 5 章 (2) : 担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 13 回	グループワーク・卒論途中経過報告	グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 14 回	グループワークレポート・卒論最終報告	グループワークレポート・卒論最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当者は PowerPoint などを用いて発表資料を作成してください。それ以外のゼミ生は事前にテキストの該当箇所を熟読し、内容を理解した上で授業に参加してください。グループワークや卒論の内容を授業で報告する際は事前準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

桜井久勝著、『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

【参考書】

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015 年。

【成績評価の方法と基準】

・グループワークレポート・卒論の提出 (50%)
 ・テキストの発表・質疑応答の発言内容 (20%)
 ・グループワークあるいは卒論のピア評価の結果 (30%)
 に基づき評価します。

2, 3 年生はグループワークに取り組みます。4 年生はグループワークあるいは卒論のいずれに取り組みかを選択してください。無断欠席や遅刻は成績評価に大きく影響します。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションやグループワーク（日経ストックリーグ）などの経験を通して、論理的に考える力が身についた、人間的にも成長してきた等の意見が寄せられました。今年度も、テキストの内容を正しく理解することを基礎としつつ、グループワークを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）に接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。報告資料の作成および報告を行う際は、Word や PowerPoint などを使用してください。

【その他の重要事項】

・経営分析・企業評価に関する理解を深めるため、3 年次に企業評価論 I/II を履修してください。
 ・ゼミでの一連の活動を通して「大学では経営分析、企業評価を学びました」と自信をもって言えるようになってもらいたいと考えています。そのためにも、ゼミ活動全般に主体的かつ積極的に取り組まれることを期待します。

【関連科目】

企業評価論 I/II、財務会計論 I/II
 経営分析・企業評価は、会計、ファイナンス、経営戦略、マーケティングなどの知識を必要とする応用分野のため、これらの科目についても積極的に履修してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar is designed to prepare students to analyze and value business firms. Students learn how to analyze a firm's business environment, business strategy, and financial statements. Students who complete this seminar will develop a deep understanding of how the results of a firm's business transactions and strategies could be shown in accounting information.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Understand the relationship between firm activities and accounting numbers
 2. Will be able to practice business analysis and valuation skills
 3. Improve logical thinking skills
 4. Improve communication skills (presentation, discussion, and writing)
- (Learning activities outside of classroom)

The student who is assigned to report on the textbook, group work or thesis is required to prepare presentation slides. All other seminar students should read the textbook carefully in advance to participate in the class discussion. When doing group work or writing graduation thesis, preparing the report or thesis outside of class hours is needed. Before each class meeting, students will be expected to spend four hours for preparation.

(Grading Criteria)

The course grade is based on the submission of a group work report or graduation thesis (50%), presentation of the text (20%), and the results of peer evaluations (30%).

MAN400FA

演習 5

高橋 美穂子

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、経営分析と企業評価のスキルを習得することを目指します。経営分析、さらに企業評価を行うためには、企業の経営活動を理解した上で財務諸表を読み解く能力が求められます。そのため、本演習では企業評価のスキルを習得することに加え、企業の経営活動がいかに会計数値に反映されるのか、つまり経営活動と会計数値の関係についても理解することを目指します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、
 ・経営活動と会計数値の繋がりが理解できる
 ・経営分析と企業評価のスキルを習得し、実践できる
 ・論理的に考える力が身につく
 ・コミュニケーション（プレゼンテーション・ディスカッション・文章作成）能力が向上する、ことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行います。本演習を履修する学生は学習支援システム（Hoppii）に登録し、授業開始前に授業の方法を確認してください。春学期はテキスト内容の発表と質疑応答、ディスカッションの流れで授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	テキスト発表の担当箇所の設定、授業の進め方の確認
第 2 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 1 章：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 3 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 2 章：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 4 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 3 章 (1)：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 5 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 3 章 (2)：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 6 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 4 章 (1)：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 7 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 4 章 (2)：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 8 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 5 章：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 9 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 6 章：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 10 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 7・8 章 (1)：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 11 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 8 章 (2)：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 12 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 9 章：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 13 回	テキストの輪読と新聞・雑誌記事に基づくディスカッション	テキスト 10 章：担当者によるテキストの発表とディスカッション
第 14 回	グループワークテーマの設定と進め方の確認	グループワークのテーマ設定ならびに夏休み以降の進め方を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は PowerPoint など発表資料を作成してください。それ以外のゼミ生は事前にテキストの該当箇所を熟読し、内容を理解した上で授業に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

桜井久勝著、『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

【参考書】

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグローヒル・エデュケーション、2015 年。

【成績評価の方法と基準】

テキストの発表 (60%)、議論への参加度合いと発言内容 (40%) に基づき評価します。
無断欠席や遅刻は成績評価に大きく影響します。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションやグループワーク（日経ストックリーグ）などの経験を通じて、論理的に考える力が身についた、人間的にも成長できた等の意見が寄せられました。今年度も、テキストの内容を正しく理解することを基礎としつつ、グループワークを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）に接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。
報告資料の作成および報告を行う際は、Word や PowerPoint などを使用してください。

【その他の重要事項】

・経営分析・企業評価に関する理解を深めるため、3 年次に企業評価論 I/II を履修してください。
 ・ゼミでの一連の活動を通して「大学では経営分析、企業評価を学びました」と自信をもって言えるようになってもらいたいと考えています。そのためにも、ゼミ活動全般に主体的かつ積極的に取り組まれることを期待します。

【関連科目】

企業評価論 I/II、財務会計論 I/II
 経営分析・企業評価は、会計、ファイナンス、経営戦略、マーケティングなどの知識を必要とする応用分野のため、これらの科目についても積極的に履修してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar is designed to prepare students to analyze and value business firms. Students learn how to analyze a firm's business environment, business strategy, and financial statements. Students who complete this seminar will develop a deep understanding of how the results of a firm's business transactions and strategies could be shown in accounting information.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the followings:

1. Understand the relationship between firm activities and accounting numbers
2. Will be able to practice business analysis and valuation skills
3. Improve logical thinking skills
4. Improve communication skills (presentation, discussion, and writing)

(Learning activities outside of classroom)

The student who is assigned to report on the textbook or newspaper articles is required to prepare presentation slides. All other seminar students should read the textbook carefully in advance to participate in the class discussion. When doing group work, preparing the report before class is needed. Before each class meeting, students will be expected to spend four hours for preparation.

(Grading Criteria)

Students grade will be decided based on the followin: Presentation (60%), Discussion contribution (40%).

MAN400FA

演習 6

高橋 美穂子

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、経営分析と企業評価のスキルを習得することを目指します。経営分析、さらに企業評価を行うためには、企業の経営活動を理解した上で財務諸表を読み解く能力が求められます。そのため、本演習では企業評価のスキルを習得することに加え、企業の経営活動がいかに会計数値に反映されるのか、つまり経営活動と会計数値の関係についても理解することを目指します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、
 ・経営活動と会計数値の繋がりが理解できる
 ・経営分析と企業評価のスキルを習得し、実践できる
 ・論理的に考える力が身につく
 ・コミュニケーション（プレゼンテーション・ディスカッション・文章作成）能力が向上する、ことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行います。本演習を履修する学生は学習支援システム（Hoppii）に登録し、授業開始前に授業の進め方を確認してください。秋学期は①テキストの発表とその内容についての質疑応答、②グループワークレポート・卒業論文の経過報告とその内容に関するディスカッションの2本柱で授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 1 章 (1)：担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論の途中経過報告
第 2 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 1 章 (2)：担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論の途中経過報告
第 3 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 2 章 (1)：担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論の途中経過報告
第 4 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 2 章 (2)：担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 5 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 3 章 (1)：担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 6 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 3 章 (2)：担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 7 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 3 章 (3)：担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 8 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 4 章 (1)：担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 9 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 4 章 (2)：担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 10 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 4 章 (3)：担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告

第 11 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 5 章 (1)：担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 12 回	テキストの輪読とグループワーク・卒論途中経過報告	テキスト 1 5 章 (2)：担当者によるテキストの発表とディスカッション・グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 13 回	グループワーク・卒論途中経過報告	グループワークレポート・卒論途中経過報告
第 14 回	グループワークレポート・卒論最終報告	グループワークレポート・卒論最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当者は PowerPoint などを用いて発表資料を作成してください。それ以外のゼミ生は事前にテキストの該当箇所を熟読し、内容を理解した上で授業に参加してください。グループワークや卒論の内容を授業で報告する際は事前準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

桜井久勝著、『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

【参考書】

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015 年。

【成績評価の方法と基準】

・グループワークレポート・卒論の提出 (50%)
 ・テキストの発表・質疑応答の発言内容 (20%)
 ・グループワークあるいは卒論のピア評価の結果 (30%)
 に基づき評価します。

2、3 年生はグループワークに取り組みます。4 年生はグループワークあるいは卒論のいずれに取り組みかを選択してください。

無断欠席や遅刻は成績評価に大きく影響します。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションやグループワーク（日経ストックリーグ）などの経験を通して、論理的に考える力が身についた、人間的にも成長してきた等の意見が寄せられました。今年度も、テキストの内容を正しく理解することを基礎としつつ、グループワークを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）に接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

報告資料の作成および報告を行う際は、Word や PowerPoint などを使用してください。

【その他の重要事項】

・経営分析・企業評価に関する理解を深めるため、3 年次に企業評価論 I/II を履修してください。
 ・ゼミでの一連の活動を通して「大学では経営分析、企業評価を学びました」と自信をもって言えるようになってもらいたいと考えています。そのためにも、ゼミ活動全般に主体的かつ積極的に取り組まれることを期待します。

【関連科目】

企業評価論 I/II、財務会計論 I/II
 経営分析・企業評価は、会計、ファイナンス、経営戦略、マーケティングなどの知識を必要とする応用分野のため、これらの科目についても積極的に履修してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar is designed to prepare students to analyze and value business firms. Students learn how to analyze a firm's business environment, business strategy, and financial statements. Students who complete this seminar will develop a deep understanding of how the results of a firm's business transactions and strategies could be shown in accounting information.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Understand the relationship between firm activities and accounting numbers
 2. Will be able to practice business analysis and valuation skills
 3. Improve logical thinking skills
 4. Improve communication skills (presentation, discussion, and writing)
- (Learning activities outside of classroom)

The student who is assigned to report on the textbook, group work or thesis is required to prepare presentation slides. All other seminar students should read the textbook carefully in advance to participate in the class discussion. When doing group work or writing graduation thesis, preparing the report or thesis outside of class hours is needed. Before each class meeting, students will be expected to spend four hours for preparation.

(Grading Criteria)

The course grade is based on the submission of a group work report or graduation thesis (50%), presentation of the text (20%), and the results of peer evaluations (30%).

MAN200FA

演習 1

高橋 理香

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学を通じて、論理的思考の方法を学びます。経済学の理論と実証について理解を深め、経済学の分析手法や考え方を学びます。また、現実経済に対するより深い理解と英語のスキルアップを目指して、英字新聞記事に関する考察とディスカッションを行います。2・3 年生はグループ発表に取り組み、4 年生は 3 年次までの学習を踏まえて卒業論文に取り組むことで、学術的な問いを立てて論理的に説明する方法・物事に対して深く考える方法を学びます。

【到達目標】

- ①理論や実証に基づく経済学の分析手法を学ぶことで、論理的な思考が身につく
- ②経済学・経営学の研究テーマを通じて、現実社会の課題を見つけることができる
- ③英語を実践的に用いることで、英語によるコミュニケーション力が向上する
- ④発表スキルや論文作成のスキルが身につく

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ①テキストを用いた発表と議論
- ②英字新聞記事を用いた発表と議論
- ③グループ研究の報告
- ④卒業論文の報告

テーマの見つけ方・文章の書き方・発表の仕方・コンピュータツールの使い方・図書館やデータベースの使い方などの技術についても学びます。また、2022 年度にはゼミの卒業生を数名お招きし、留学・進学・就職・転職等をテーマにミニレクチャーを行いました。今後もこの取り組みを続けていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンスを行います。
第 2 回	発表のコツについて	レジュメの作成方法や効果的な発表の仕方について学びます。
第 3 回	図書館ツアー	図書館やデータベースの使い方などを学びます。
第 4 回	経済理論および現実の経済に関する学習 1	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第 5 回	論文テーマの決め方	卒業論文やグループ研究のテーマの決め方を学びます。
第 6 回	経済理論および現実の経済に関する学習 2	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第 7 回	卒論中間報告会 1	卒業論文のテーマを報告します。
第 8 回	経済理論および現実の経済に関する学習 3	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第 9 回	文献収集の方法	論文を書く際の文献収集の仕方を学びます。
第 10 回	経済理論および現実の経済に関する学習 4	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第 11 回	アウトラインのつくり方	論文を書く際の構成のつくり方を学びます。
第 12 回	文献の読み方	論文や書籍を読むときのコツを学びます。
第 13 回	卒論中間報告会 2	卒業論文のプロポーザルを作成し、発表します。
第 14 回	まとめ	春学期の授業の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学生による報告を行いますので、担当者は事前に発表の準備をする必要があります。レジュメの作成は必須です。4 年生には、卒業論文の作成を義務付けています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

例年、春学期は理論経済学または国際経済学のテキストを輪読し、秋学期は経済読み物を輪読しています。また、論文の作成に関する文献も使用します。今年度のテキストは初回の講義の際に説明します。

【参考書】

近年のゼミで春学期に使用したテキストは以下の通りです。

【ミクロ経済学・産業組織論・その他】

小田切宏之『競争政策論 第 2 版』日本評論社、2017 年。
 花崗誠『産業組織とビジネスの経済学（有斐閣ストゥディア）』有斐閣、2018 年。
 【国際経済学・開発経済学・農業経済学・その他】
 黒崎卓・栗田匡相『ストーリーで学ぶ開発経済学』有斐閣ストゥディア、2016 年。
 椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020 年。
 古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022 年。
 山口三十四・衣笠智子・中川正嗣『新しい農業経済論』有斐閣ブックス、2020 年。
 【論文作成】
 佐藤望他『アカデミック・スキルズ（第 3 版）』慶應義塾大学出版社、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

【2・3 年生】

平常点・ゼミへの貢献度：50%

発表内容・グループ研究への貢献度：50%

【4 年生】

卒業論文：50%

平常点・ゼミへの貢献度：25%

発表内容：25%

【学生の意見等からの気づき】

対面の授業が安定してきた 2022 年度は、学生同士のコミュニケーションを重視してゼミを進めてきました。2023 年度も、関連なディスカッションができる環境を大切にしたいと思います。加えて、ゼミの活動を対外的に紹介する機会を増やすために、どのような仕組みが必要か、皆で全体で議論したいと思います。

2022 年度は、卒業論文やグループ研究のテーマの設定に苦戦するケースがみられました。2023 年度は、研究テーマの見つけ方や論文の書き方について、具体的な事例に基づいて、履修者全員で学んでいく機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミでの発表を通じて、パワーポイントを使った効果的な報告の仕方を学びます。毎回の授業では、パソコン（自分のパソコンでも貸与パソコンでも可）を用意して発表します。さらに、資料配布等は Google Classroom を使用します。

英字新聞を使ったディスカッションでは、Financial Times (FT) の記事を探り上げます。法政大学のアカウントから FT の登録を行うと、無料で記事を購読できます。登録方法等の詳細は初回のゼミで説明します。

また、対外的な情報発信を目的として設けた SNS 上のゼミの運営・管理をゼミ生自身で行ってまいります。

【その他の重要事項】

・国際経済論 I/II を併せて履修してください。また、これまで経済学入門やミクロ経済学入門 I/II を履修していない場合は、今年度履修することを強くすすめます。

・本ゼミは 4 年次に卒業論文が必須です。

例年、通常の学習の他、ゼミ合宿（夏）や本ゼミ卒業生との交流会（OB 会、卒業生によるミニレクチャー）なども行っています。履修者は、これらへの参加も求められます。希望があれば、他大学とのインターゼミナールも企画します（コロナ禍前には実施していました）。

【Outline (in English)】

This class aims to develop logical and strategic thinking. In order to deepen our understanding of logical thinking, we will study analytical methods and concepts of economics. Students will report on textbooks and English newspaper articles with the aim of developing communication and presentation skills in English. Sophomore and junior students will work on group presentations. Senior students will work on their graduation thesis based on learning up to the third year.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

For sophomore and junior students, grading will be decided based on presentation (50%) and contribution in class (50%).

For senior students, grading will be decided based on thesis (50%), presentation (25%), and contribution in class (25%). If students will not submit thesis, their grading will be D or E.

MAN200FA

演習 2

高橋 理香

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学を通じて、論理的思考の方法を学びます。経済学の理論と実証について理解を深め、経済学の分析手法や考え方を学びます。また、現実経済に対するより深い理解と英語のスキルアップを目指して、英字新聞記事に関する考察とディスカッションを行います。2・3 年生はグループ発表に取り組み、4 年生は 3 年次までの学習を踏まえて卒業論文に取り組むことで、学術的な問いを立てて論理的に説明する方法・物事に対して深く考える方法を学びます。

【到達目標】

- ①理論や実証に基づく経済学の分析手法を学ぶことで、論理的な思考が身につく
- ②経済学・経営学の研究テーマを通じて、現実社会の課題を見つけることができる
- ③英語を実践的に用いることで、英語によるコミュニケーション力が向上する
- ④発表スキルや論文作成のスキルが身につく

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ①テキストを用いた発表と議論
- ②英字新聞記事を用いた発表と議論
- ③グループ研究の報告
- ④卒業論文の報告

テーマの見つけ方・文章の書き方・発表の仕方・コンピュータツールの使い方・図書館やデータベースの使い方などの技術についても学びます。

また、2022 年度にはゼミの卒業生を数名お招きし、留学・進学・就職・転職等をテーマにミニレクチャーを行いました。今後もこの取り組みを続けていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の復習と秋学期の概要を説明します。
第 2 回	グループ研究の準備	グループ研究のテーマと今後の研究計画を発表します。
第 3 回	日常生活に対する経済学的分析 1	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション 1
第 4 回	卒業論文中間報告会 3	卒業論文の進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
第 5 回	日常生活に対する経済学的分析 2	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション 2
第 6 回	文献の整理の仕方	これまで読んだ文献のまとめ方を学びます。
第 7 回	日常生活に対する経済学的分析 3	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション 3
第 8 回	グループ研究の準備 2	グループ研究に関する進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
第 9 回	卒業論文中間報告会 4	卒業論文の進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
第 10 回	日常生活に対する経済学的分析 4	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション 4
第 11 回	論文の書き方	論文を書く際に気を付けるべきことを学びます。
第 12 回	グループ研究報告	グループ研究の発表を行います。
第 13 回	卒業論文最終報告会	卒業論文の最終発表会を行います。
第 14 回	まとめ	秋学期の授業の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学生による報告を行いますので、担当者は事前に発表の準備をする必要があります。レジュメの作成は必須です。4 年生には、卒業論文の作成を義務付けています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

例年、春学期は理論経済学または国際経済学のテキストを輪読し、秋学期は経済読み物を輪読しています。また、論文作成に関する文献も使用します。今年度のテキストは初回の講義の際に説明します。

【参考書】

近年のゼミで春学期に使用したテキストは以下の通りです。

【ミクロ経済学・産業組織論・その他】

小田切宏之『競争政策論 第 2 版』日本評論社、2017 年。
 花崗誠『産業組織とビジネスの経済学（有斐閣ストゥディア）』有斐閣、2018 年。
 【国際経済学・開発経済学・農業経済学・その他】
 黒崎卓・栗田匡相『ストーリーで学ぶ開発経済学』有斐閣ストゥディア、2016 年。
 椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020 年。
 古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022 年。
 山口三十四・衣笠智子・中川正嗣『新しい農業経済論』有斐閣ブックス、2020 年。
 【論文作成】
 佐藤望編『アカデミック・スキルズ（第 3 版）』慶應義塾大学出版会、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

【2・3 年生】

平常点・ゼミへの貢献度：50%

発表内容・グループ研究への貢献度：50%

【4 年生】

卒業論文：50%

平常点・ゼミへの貢献度：25%

発表内容：25%

【学生の意見等からの気づき】

対面の授業が安定してきた 2022 年度は、学生同士のコミュニケーションを重視してゼミを進めてきました。2023 年度も、関連なディスカッションができる環境を大切にしたいと思います。加えて、ゼミの活動を対外的に紹介する機会を増やすために、どのような仕組みが必要か、皆で全体で議論したいと思います。

2022 年度は、卒業論文やグループ研究のテーマの設定に苦戦するケースがみられました。2023 年度は、研究テーマの見つけ方や論文の書き方について、具体的な事例に基づいて、履修者全員で学んでいく機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミでの発表を通じて、パワーポイントを使った効果的な報告の仕方を学びます。毎回の授業では、パソコン（自分のパソコンでも貸与パソコンでも可）を用意して発表します。さらに、資料配布等は Google Classroom を使用します。

英字新聞を使ったディスカッションでは、Financial Times (FT) の記事を探り上げます。法政大学のアカウントから FT の登録を行うと、無料で記事を購読できます。登録方法等の詳細は初回のゼミで説明します。

また、対外的な情報発信を目的として設けた SNS 上のゼミの運営・管理をゼミ生自身で行ってまいります。

【その他の重要事項】

・国際経済論 I/II を併せて履修してください。また、これまで経済学入門やミクロ経済学入門 I/II を履修していない場合は、今年度履修することを強くすすめます。

・本ゼミは 4 年次に卒業論文が必須です。

例年、通常の学習の他、ゼミ合宿（夏）や本ゼミ卒業生との交流会（OB 会、卒業生によるミニレクチャー）なども行っています。履修者は、これらへの参加も求められます。希望があれば、他大学とのインターゼミナールも企画します（コロナ禍前には実施していました）。

【Outline (in English)】

This class aims to develop logical and strategic thinking. In order to deepen our understanding of logical thinking, we will study analytical methods and concepts of economics. Students will report on textbooks and English newspaper articles with the aim of developing communication and presentation skills in English. Sophomore and junior students will work on group presentations. Senior students will work on their graduation thesis based on learning up to the third year.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

For sophomore and junior students, grading will be decided based on presentation (50%) and contribution in class (50%).

For senior students, grading will be decided based on thesis (50%), presentation (25%), and contribution in class (25%). If students will not submit thesis, their grading will be D or E.

MAN300FA

演習 3

高橋 理香

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学を通じて、論理的思考の方法を学びます。経済学の理論と実証について理解を深め、経済学の分析手法や考え方を学びます。また、現実経済に対するより深い理解と英語のスキルアップを目指して、英字新聞記事に関する考察とディスカッションを行います。2・3 年生はグループ発表に取り組み、4 年生は 3 年次までの学習を踏まえて卒業論文に取り組むことで、学術的な問いを立てて論理的に説明する方法・物事に対して深く考える方法を学びます。

【到達目標】

- ①理論や実証に基づく経済学の分析手法を学ぶことで、論理的な思考が身につく
- ②経済学・経営学の研究テーマを通じて、現実社会の課題を見つけることができる
- ③英語を実践的に用いることで、英語によるコミュニケーション力が向上する
- ④発表スキルや論文作成のスキルが身につく

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ①テキストを用いた発表と議論
- ②英字新聞記事を用いた発表と議論
- ③グループ研究の報告
- ④卒業論文の報告

テーマの見つけ方・文章の書き方・発表の仕方・コンピュータツールの使い方・図書館やデータベースの使い方などの技術についても学びます。また、2022 年度にはゼミの卒業生を数名お招きし、留学・進学・就職・転職等をテーマにミニレクチャーを行いました。今後もこの取り組みを続けていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンスを行います。
第 2 回	発表のコツについて	レジュメの作成方法や効果的な発表の仕方について学びます。
第 3 回	図書館ツアー	図書館やデータベースの使い方などを学びます。
第 4 回	経済理論および現実の経済に関する学習 1	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第 5 回	論文テーマの決め方	卒業論文やグループ研究のテーマの決め方を学びます。
第 6 回	経済理論および現実の経済に関する学習 2	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第 7 回	卒論中間報告会 1	卒業論文のテーマを報告します。
第 8 回	経済理論および現実の経済に関する学習 3	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第 9 回	文献収集の方法	論文を書く際の文献収集の仕方を学びます。
第 10 回	経済理論および現実の経済に関する学習 4	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第 11 回	アウトラインのつくり方	論文を書く際の構成のつくり方を学びます。
第 12 回	文献の読み方	論文や書籍を読むときのコツを学びます。
第 13 回	卒論中間報告会 2	卒業論文のプロポーザルを作成し、発表します。
第 14 回	まとめ	春学期の授業の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学生による報告を行いますので、担当者は事前に発表の準備をする必要があります。レジュメの作成は必須です。4 年生には、卒業論文の作成を義務付けています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

例年、春学期は理論経済学または国際経済学のテキストを輪読し、秋学期は経済読み物を輪読しています。また、論文の作成に関する文献も使用します。今年度のテキストは初回の講義の際に説明します。

【参考書】

近年のゼミで春学期に使用したテキストは以下の通りです。

【ミクロ経済学・産業組織論・その他】

小田切宏之『競争政策論 第 2 版』日本評論社、2017 年。
 花崗誠『産業組織とビジネスの経済学（有斐閣ストゥディア）』有斐閣、2018 年。
 【国際経済学・開発経済学・農業経済学・その他】
 黒崎卓・栗田匡相『ストーリーで学ぶ開発経済学』有斐閣ストゥディア、2016 年。
 椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020 年。
 古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022 年。
 山口三十四・衣笠智子・中川正嗣『新しい農業経済論』有斐閣ブックス、2020 年。
 【論文作成】
 佐藤望他『アカデミック・スキルズ（第 3 版）』慶應義塾大学出版社、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

【2・3 年生】

平常点・ゼミへの貢献度：50%

発表内容・グループ研究への貢献度：50%

【4 年生】

卒業論文：50%

平常点・ゼミへの貢献度：25%

発表内容：25%

【学生の意見等からの気づき】

対面の授業が安定してきた 2022 年度は、学生同士のコミュニケーションを重視してゼミを進めてきました。2023 年度も、関連なディスカッションができる環境を大切にしたいと思います。加えて、ゼミの活動を対外的に紹介する機会を増やすために、どのような仕組みが必要か、皆で全体で議論したいと思います。

2022 年度は、卒業論文やグループ研究のテーマの設定に苦戦するケースがみられました。2023 年度は、研究テーマの見つけ方や論文の書き方について、具体的な事例に基づいて、履修者全員で学んでいく機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミでの発表を通じて、パワーポイントを使った効果的な報告の仕方を学びます。毎回の授業では、パソコン（自分のパソコンでも貸与パソコンでも可）を用意して発表します。さらに、資料配布等は Google Classroom を使用します。

英字新聞を使ったディスカッションでは、Financial Times (FT) の記事を探り上げます。法政大学のアカウントから FT の登録を行うと、無料で記事を購読できます。登録方法等の詳細は初回のゼミで説明します。

また、対外的な情報発信を目的として設けた SNS 上のゼミの運営・管理をゼミ生自身で行ってもらいます。

【その他の重要事項】

・国際経済論 I/II を併せて履修してください。また、これまで経済学入門やミクロ経済学入門 I/II を履修していない場合は、今年度履修することを強くすすめます。

・本ゼミは 4 年次に卒業論文が必須です。

例年、通常の学習の他、ゼミ合宿（夏）や本ゼミ卒業生との交流会（OB 会、卒業生によるミニレクチャー）なども行っています。履修者は、これらへの参加も求められます。希望があれば、他大学とのインターゼミナールも企画します（コロナ禍前には実施していました）。

【Outline (in English)】

This class aims to develop logical and strategic thinking. In order to deepen our understanding of logical thinking, we will study analytical methods and concepts of economics. Students will report on textbooks and English newspaper articles with the aim of developing communication and presentation skills in English. Sophomore and junior students will work on group presentations. Senior students will work on their graduation thesis based on learning up to the third year.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

For sophomore and junior students, grading will be decided based on presentation (50%) and contribution in class (50%).

For senior students, grading will be decided based on thesis (50%), presentation (25%), and contribution in class (25%). If students will not submit thesis, their grading will be D or E.

MAN300FA

演習 4

高橋 理香

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学を通じて、論理的思考の方法を学びます。経済学の理論と実証について理解を深め、経済学の分析手法や考え方を学びます。また、現実経済に対するより深い理解と英語のスキルアップを目指して、英字新聞記事に関する考察とディスカッションを行います。2・3 年生はグループ発表に取り組み、4 年生は 3 年次までの学習を踏まえて卒業論文に取り組むことで、学術的な問いを立てて論理的に説明する方法・物事に対して深く考える方法を学びます。

【到達目標】

- ①理論や実証に基づく経済学の分析手法を学ぶことで、論理的な思考が身につく
- ②経済学・経営学の研究テーマを通じて、現実社会の課題を見つけることができる
- ③英語を実践的に用いることで、英語によるコミュニケーション力が向上する
- ④発表スキルや論文作成のスキルが身につく

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ①テキストを用いた発表と議論
- ②英字新聞記事を用いた発表と議論
- ③グループ研究の報告
- ④卒業論文の報告

テーマの見つけ方・文章の書き方・発表の仕方・コンピュータツールの使い方・図書館やデータベースの使い方などの技術についても学びます。

また、2022 年度にはゼミの卒業生を数名お招きし、留学・進学・就職・転職等をテーマにミニレクチャーを行いました。今後もこの取り組みを続けていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の復習と秋学期の概要を説明します。
第 2 回	グループ研究の準備	グループ研究のテーマと今後の研究計画を発表します。
第 3 回	日常生活に対する経済学的分析 1	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション 1
第 4 回	卒業論文中間報告会 3	卒業論文の進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
第 5 回	日常生活に対する経済学的分析 2	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション 2
第 6 回	文献の整理の仕方	これまで読んだ文献のまとめ方を学びます。
第 7 回	日常生活に対する経済学的分析 3	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション 3
第 8 回	グループ研究の準備 2	グループ研究に関する進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
第 9 回	卒業論文中間報告会 4	卒業論文の進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
第 10 回	日常生活に対する経済学的分析 4	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション 4
第 11 回	論文の書き方	論文を書く際に気を付けるべきことを学びます。
第 12 回	グループ研究報告	グループ研究の発表を行います。
第 13 回	卒業論文最終報告会	卒業論文の最終発表会を行います。
第 14 回	まとめ	秋学期の授業の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学生による報告を行いますので、担当者は事前に発表の準備をする必要があります。レジュメの作成は必須です。4 年生には、卒業論文の作成を義務付けています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

例年、春学期は理論経済学または国際経済学のテキストを輪読し、秋学期は経済読み物を輪読しています。また、論文作成に関する文献も使用します。今年度のテキストは初回の講義の際に説明します。

【参考書】

近年のゼミで春学期に使用したテキストは以下の通りです。

【ミクロ経済学・産業組織論・その他】

小田切宏之『競争政策論 第 2 版』日本評論社、2017 年。
花崗誠『産業組織とビジネスの経済学（有斐閣ストゥディア）』有斐閣、2018 年。
【国際経済学・開発経済学・農業経済学・その他】
黒崎卓・栗田匡相『ストーリーで学ぶ開発経済学』有斐閣ストゥディア、2016 年。
椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020 年。
古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022 年。
山口三十四・衣笠智子・中川正嗣『新しい農業経済論』有斐閣ブックス、2020 年。
【論文作成】
佐藤望編『アカデミック・スキルズ（第 3 版）』慶應義塾大学出版会、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

【2・3 年生】

平常点・ゼミへの貢献度：50%

発表内容・グループ研究への貢献度：50%

【4 年生】

卒業論文：50%

平常点・ゼミへの貢献度：25%

発表内容：25%

【学生の意見等からの気づき】

対面の授業が安定してきた 2022 年度は、学生同士のコミュニケーションを重視してゼミを進めてきました。2023 年度も、関連なディスカッションができる環境を大切にしたいと思います。加えて、ゼミの活動を対外的に紹介する機会を増やすために、どのような仕組みが必要か、皆で全体で議論したいと思います。

2022 年度は、卒業論文やグループ研究のテーマの設定に苦戦するケースがみられました。2023 年度は、研究テーマの見つけ方や論文の書き方について、具体的な事例に基づいて、履修者全員で学んでいく機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミでの発表を通じて、パワーポイントを使った効果的な報告の仕方を学びます。毎回の授業では、パソコン（自分のパソコンでも貸与パソコンでも可）を用意して発表します。さらに、資料配布等は Google Classroom を使用します。

英字新聞を使ったディスカッションでは、Financial Times (FT) の記事を探り上げます。法政大学のアカウントから FT の登録を行うと、無料で記事を購読できます。登録方法等の詳細は初回のゼミで説明します。

また、対外的な情報発信を目的として設けた SNS 上のゼミのページの運営・管理をゼミ生自身で行ってまいります。

【その他の重要事項】

・国際経済論 I/II を併せて履修してください。また、これまで経済学入門やミクロ経済学入門 I/II を履修していない場合は、今年度履修することを強くすすめます。

・本ゼミは 4 年次に卒業論文が必須です。

例年、通常の学習の他、ゼミ合宿（夏）や本ゼミ卒業生との交流会（OB 会、卒業生によるミニレクチャー）なども行っています。履修者は、これらへの参加も求められます。希望があれば、他大学とのインターゼミナールも企画します（コロナ禍前には実施していました）。

【Outline (in English)】

This class aims to develop logical and strategic thinking. In order to deepen our understanding of logical thinking, we will study analytical methods and concepts of economics. Students will report on textbooks and English newspaper articles with the aim of developing communication and presentation skills in English. Sophomore and junior students will work on group presentations. Senior students will work on their graduation thesis based on learning up to the third year.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

For sophomore and junior students, grading will be decided based on presentation (50%) and contribution in class (50%).

For senior students, grading will be decided based on thesis (50%), presentation (25%), and contribution in class (25%). If students will not submit thesis, their grading will be D or E.

MAN400FA

演習 5

高橋 理香

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学を通じて、論理的思考の方法を学びます。経済学の理論と実証について理解を深め、経済学の分析手法や考え方を学びます。また、現実経済に対するより深い理解と英語のスキルアップを目指して、英字新聞記事に関する考察とディスカッションを行います。2・3 年生はグループ発表に取り組み、4 年生は 3 年次までの学習を踏まえて卒業論文に取り組むことで、学術的な問いを立てて論理的に説明する方法・物事に対して深く考える方法を学びます。

【到達目標】

- ①理論や実証に基づく経済学の分析手法を学ぶことで、論理的な思考が身につく
- ②経済学・経営学の研究テーマを通じて、現実社会の課題を見つけることができる
- ③英語を実践的に用いることで、英語によるコミュニケーション力が向上する
- ④発表スキルや論文作成のスキルが身につく

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ①テキストを用いた発表と議論
- ②英字新聞記事を用いた発表と議論
- ③グループ研究の報告
- ④卒業論文の報告

テーマの見つけ方・文章の書き方・発表の仕方・コンピュータツールの使い方・図書館やデータベースの使い方などの技術についても学びます。また、2022 年度にはゼミの卒業生を数名お招きし、留学・進学・就職・転職等をテーマにミニレクチャーを行いました。今後もこの取り組みを続けていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンスを行います。
第 2 回	発表のコツについて	レジュメの作成方法や効果的な発表の仕方について学びます。
第 3 回	図書館ツアー	図書館やデータベースの使い方などを学びます。
第 4 回	経済理論および現実の経済に関する学習 1	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第 5 回	論文テーマの決め方	卒業論文やグループ研究のテーマの決め方を学びます。
第 6 回	経済理論および現実の経済に関する学習 2	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第 7 回	卒論中間報告会 1	卒業論文のテーマを報告します。
第 8 回	経済理論および現実の経済に関する学習 3	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第 9 回	文献収集の方法	論文を書く際の文献収集の仕方を学びます。
第 10 回	経済理論および現実の経済に関する学習 4	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
第 11 回	アウトラインのつくり方	論文を書く際の構成のつくり方を学びます。
第 12 回	文献の読み方	論文や書籍を読むときのコツを学びます。
第 13 回	卒論中間報告会 2	卒業論文のプロポーザルを作成し、発表します。
第 14 回	まとめ	春学期の授業の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学生による報告を行いますので、担当者は事前に発表の準備をする必要があります。レジュメの作成は必須です。4 年生には、卒業論文の作成を義務付けています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

例年、春学期は理論経済学または国際経済学のテキストを輪読し、秋学期は経済読み物を輪読しています。また、論文の作成に関する文献も使用します。今年度のテキストは初回の講義の際に説明します。

【参考書】

近年のゼミで春学期に使用したテキストは以下の通りです。

【ミクロ経済学・産業組織論・その他】

小田切宏之『競争政策論 第 2 版』日本評論社、2017 年。
 花崗誠『産業組織とビジネスの経済学（有斐閣ストゥディア）』有斐閣、2018 年。
 【国際経済学・開発経済学・農業経済学・その他】
 黒崎卓・栗田匡相『ストーリーで学ぶ開発経済学』有斐閣ストゥディア、2016 年。
 椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020 年。
 古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022 年。
 山口三十四・衣笠智子・中川正嗣『新しい農業経済論』有斐閣ブックス、2020 年。
 【論文作成】
 佐藤望他『アカデミック・スキルズ（第 3 版）』慶應義塾大学出版社、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

【2・3 年生】

平常点・ゼミへの貢献度：50%

発表内容・グループ研究への貢献度：50%

【4 年生】

卒業論文：50%

平常点・ゼミへの貢献度：25%

発表内容：25%

【学生の意見等からの気づき】

対面の授業が安定してきた 2022 年度は、学生同士のコミュニケーションを重視してゼミを進めてきました。2023 年度も、関連なディスカッションができる環境を大切にしたいと思います。加えて、ゼミの活動を対外的に紹介する機会を増やすために、どのような仕組みが必要か、皆で全体で議論したいと思います。

2022 年度は、卒業論文やグループ研究のテーマの設定に苦戦するケースがみられました。2023 年度は、研究テーマの見つけ方や論文の書き方について、具体的な事例に基づいて、履修者全員で学んでいく機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミでの発表を通じて、パワーポイントを使った効果的な報告の仕方を学びます。毎回の授業では、パソコン（自分のパソコンでも貸与パソコンでも可）を用意して発表します。さらに、資料配布等は Google Classroom を使用します。

英字新聞を使ったディスカッションでは、Financial Times (FT) の記事を探り上げます。法政大学のアカウントから FT の登録を行うと、無料で記事を購読できます。登録方法等の詳細は初回のゼミで説明します。

また、対外的な情報発信を目的として設けた SNS 上のゼミの運営・管理をゼミ生自身で行ってまいります。

【その他の重要事項】

・国際経済論 I/II を併せて履修してください。また、これまで経済学入門やミクロ経済学入門 I/II を履修していない場合は、今年度履修することを強くすすめます。

・本ゼミは 4 年次に卒業論文が必須です。

例年、通常の学習の他、ゼミ合宿（夏）や本ゼミ卒業生との交流会（OB 会、卒業生によるミニレクチャー）なども行っています。履修者は、これらへの参加も求められます。希望があれば、他大学とのインターゼミナールも企画します（コロナ禍前には実施していました）。

【Outline (in English)】

This class aims to develop logical and strategic thinking. In order to deepen our understanding of logical thinking, we will study analytical methods and concepts of economics. Students will report on textbooks and English newspaper articles with the aim of developing communication and presentation skills in English. Sophomore and junior students will work on group presentations. Senior students will work on their graduation thesis based on learning up to the third year.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

For sophomore and junior students, grading will be decided based on presentation (50%) and contribution in class (50%).

For senior students, grading will be decided based on thesis (50%), presentation (25%), and contribution in class (25%). If students will not submit thesis, their grading will be D or E.

MAN400FA

演習 6

高橋 理香

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学を通じて、論理的思考の方法を学びます。経済学の理論と実証について理解を深め、経済学の分析手法や考え方を学びます。また、現実経済に対するより深い理解と英語のスキルアップを目指して、英字新聞記事に関する考察とディスカッションを行います。2・3 年生はグループ発表に取り組み、4 年生は 3 年次までの学習を踏まえて卒業論文に取り組むことで、学術的な問いを立てて論理的に説明する方法・物事に対して深く考える方法を学びます。

【到達目標】

- ①理論や実証に基づく経済学の分析手法を学ぶことで、論理的な思考が身につく
- ②経済学・経営学の研究テーマを通じて、現実社会の課題を見つけることができる
- ③英語を実践的に用いることで、英語によるコミュニケーション力が向上する
- ④発表スキルや論文作成のスキルが身につく

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ①テキストを用いた発表と議論
- ②英字新聞記事を用いた発表と議論
- ③グループ研究の報告
- ④卒業論文の報告

テーマの見つけ方・文章の書き方・発表の仕方・コンピュータツールの使い方・図書館やデータベースの使い方などの技術についても学びます。

また、2022 年度にはゼミの卒業生を数名お招きし、留学・進学・就職・転職等をテーマにミニレクチャーを行いました。今後もこの取り組みを続けていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の復習と秋学期の概要を説明します。
第 2 回	グループ研究の準備	グループ研究のテーマと今後の研究計画を発表します。
第 3 回	日常生活に対する経済学的分析 1	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション 1
第 4 回	卒業論文中間報告会 3	卒業論文の進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
第 5 回	日常生活に対する経済学的分析 2	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション 2
第 6 回	文献の整理の仕方	これまで読んだ文献のまとめ方を学びます。
第 7 回	日常生活に対する経済学的分析 3	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション 3
第 8 回	グループ研究の準備 2	グループ研究に関する進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
第 9 回	卒業論文中間報告会 4	卒業論文の進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
第 10 回	日常生活に対する経済学的分析 4	英語文献の要約と考察・プレゼンテーション 4
第 11 回	論文の書き方	論文を書く際に気を付けるべきことを学びます。
第 12 回	グループ研究報告	グループ研究の発表を行います。
第 13 回	卒業論文最終報告会	卒業論文の最終発表会を行います。
第 14 回	まとめ	秋学期の授業の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学生による報告を行いますので、担当者は事前に発表の準備をする必要があります。レジュメの作成は必須です。4 年生には、卒業論文の作成を義務付けています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

例年、春学期は理論経済学または国際経済学のテキストを輪読し、秋学期は経済読み物を輪読しています。また、論文作成に関する文献も使用します。今年度のテキストは初回の講義の際に説明します。

【参考書】

近年のゼミで春学期に使用したテキストは以下の通りです。

【ミクロ経済学・産業組織論・その他】

小田切宏之『競争政策論 第 2 版』日本評論社、2017 年。
 花崗誠『産業組織とビジネスの経済学（有斐閣ストゥディア）』有斐閣、2018 年。
 【国際経済学・開発経済学・農業経済学・その他】
 黒崎卓・栗田匡相『ストーリーで学ぶ開発経済学』有斐閣ストゥディア、2016 年。
 椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020 年。
 古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022 年。
 山口三十四・衣笠智子・中川正嗣『新しい農業経済論』有斐閣ブックス、2020 年。
 【論文作成】
 佐藤望編『アカデミック・スキルズ（第 3 版）』慶應義塾大学出版会、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

【2・3 年生】

平常点・ゼミへの貢献度：50%

発表内容・グループ研究への貢献度：50%

【4 年生】

卒業論文：50%

平常点・ゼミへの貢献度：25%

発表内容：25%

【学生の意見等からの気づき】

対面の授業が安定してきた 2022 年度は、学生同士のコミュニケーションを重視してゼミを進めてきました。2023 年度も、関連なディスカッションができる環境を大切にしたいと思います。加えて、ゼミの活動を対外的に紹介する機会を増やすために、どのような仕組みが必要か、皆で全体で議論したいと思います。

2022 年度は、卒業論文やグループ研究のテーマの設定に苦戦するケースがみられました。2023 年度は、研究テーマの見つけ方や論文の書き方について、具体的な事例に基づいて、履修者全員で学んでいく機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミでの発表を通じて、パワーポイントを使った効果的な報告の仕方を学びます。毎回の授業では、パソコン（自分のパソコンでも貸与パソコンでも可）を用意して発表します。さらに、資料配布等は Google Classroom を使用します。

英字新聞を使ったディスカッションでは、Financial Times (FT) の記事を探り上げます。法政大学のアカウントから FT の登録を行うと、無料で記事を購読できます。登録方法等の詳細は初回のゼミで説明します。

また、対外的な情報発信を目的として設けた SNS 上のゼミの運営・管理をゼミ生自身で行ってまいります。

【その他の重要事項】

・国際経済論 I/II を併せて履修してください。また、これまで経済学入門やミクロ経済学入門 I/II を履修していない場合は、今年度履修することを強くすすめます。

・本ゼミは 4 年次に卒業論文が必須です。

例年、通常の学習の他、ゼミ合宿（夏）や本ゼミ卒業生との交流会（OB 会、卒業生によるミニレクチャー）なども行っています。履修者は、これらへの参加も求められます。希望があれば、他大学とのインターゼミナールも企画します（コロナ禍前には実施していました）。

【Outline (in English)】

This class aims to develop logical and strategic thinking. In order to deepen our understanding of logical thinking, we will study analytical methods and concepts of economics. Students will report on textbooks and English newspaper articles with the aim of developing communication and presentation skills in English. Sophomore and junior students will work on group presentations. Senior students will work on their graduation thesis based on learning up to the third year.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

For sophomore and junior students, grading will be decided based on presentation (50%) and contribution in class (50%).

For senior students, grading will be decided based on thesis (50%), presentation (25%), and contribution in class (25%). If students will not submit thesis, their grading will be D or E.

MAN200FA

演習 1

竹内 淑恵

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミは、マーケティング、特に広告、コミュニケーション、ブランディングについて理解することを目的としています。春学期には、基本的な教科書を輪読し、ケーススタディ、新聞、雑誌の記事を使用して、グループ討議を行います。あわせて、統計分析ができるようになるため、フリーソフトウェア R の実習も行います。秋学期には、データを収集して分析し、最終的に研究論文として仕上げます。

【到達目標】

・マーケティング関連のテーマに関して、①論文を読んで理解する、②関連情報を調べる、③自分の意見・考えを持つ、④それらを取りまとめて、プレゼンする。
・文章作成力、情報収集・分析・発信力、状況判断・行動力など就業力に関わる総合力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

対面で水曜 4、5 限に行います。
・グループに分かれて文献やテキスト、リサーチの内容を報告し、それをもとに全員で議論します。
・サブゼミも実施します。合宿については現時点では未定ですが、新型コロナウイルス感染症状況を総合的に見て実施可否を判断します。
・大教室での授業と異なり、ゼミへは受け身ではなく主体的な参加が必須です。毎回、皆さんの発表や報告に対して、直接フィードバックを行います。ゼミ生の皆さんも学年に関係なく、積極的に発言し、意見交換をしましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (1)	テキスト第 1 章「マーケティング発想の経営」、R 実習第 1 章「マーケティング意思決定とリサーチ・デザイン」
第 2 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (2)	テキスト第 2 章「マーケティング論の成り立ち」、R 実習第 2 章「データの取得と整理」
第 3 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (3)	テキスト第 3 章「マーケティングの基本概念」R 実習第 3 章「サンプリング」
第 4 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (4)	テキスト第 4 章「製品のマネジメント」、R 実習第 4 章「質問紙の作成と測定尺度」
第 5 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (5)	テキスト第 5 章「価格のマネジメント」、R 実習第 5 章「市場反応分析：回帰モデル」
第 6 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (6)	テキスト第 6 章「広告のマネジメント」、R 実習第 6 章「市場の発見と知覚マップ：因子分析」
第 7 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (7)	テキスト第 7 章「チャネルのマネジメント」、R 実習第 7 章「市場セグメンテーション：クラスター分析」
第 8 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (8)	テキスト第 8 章「サプライチェーンのマネジメント」、R 実習第 8 章「製品開発：コンジョイント分析」
第 9 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (9)	テキスト第 9 章「営業のマネジメント」、R 実習第 9 章「新製品の普及：バスモデル」
第 10 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (10)	テキスト第 10 章「顧客関係のマネジメント」、R 実習第 10 章「顧客の管理：RFM 分析、分散分析、ロジスティック回帰分析」
第 11 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (11)	テキスト第 11 章「ビジネスモデルのマネジメント」、R 実習第 11 章「市場反応分析：離散選択モデル」
第 12 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (12)	テキスト第 12 章「顧客理解のマネジメント」、R 実習第 12 章「ブランドと属性の同時マップ：コレスポンデンス分析」

第 13 回 テキスト輪読とデータ解析の実習 (13)

テキスト第 13 章「ブランド構築のマネジメント」、R 実習第 13 章「マーケットバスケットとクロスセリング：アソシエーション分析」

第 14 回 テキスト輪読とデータ解析の実習 (14)

テキスト第 14 章「ブランド組織のマネジメント」、R 実習第 14 章「定性調査データの分析：潜在変数の構造分析」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・2、3 年生はサブゼミや関東学生マーケティング大会に積極的に参加し、貢献しましょう。4 年生は関東学生マーケティング大会に向け、各グループのメンターとして 2、3 年生をサポートしてください。
・論文の書き方を学び、テーマを決め、文章化します。2、3 年生は論文の事前チェックを担当する 4 年生とコミュニケーションを密に取り、論文の完成度を高めましょう。
・毎年学内懸賞論文に応募し、成果を上げているので、今年度も応募します。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

①マーケティングのテキスト：石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著 (2020) [1 からのマーケティング 第 4 版] 碩学舎。
②統計分析の入門書：照井伸彦・佐藤忠彦 (2013) [現代マーケティング・リサーチ 市場を読み解くデータ分析] 有斐閣。
上記を春学期に使用します。

【参考書】

参考書については、ゼミ開講時あるいは適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

基本的には、担当発表内容 (30%)、研究論文 (30%)、授業貢献度 (40%) により成績評価を行います。ただし、2、3 年生と 4 年生では上記ウエイトが若干異なります。

2、3 年生の場合

・輪読や R 実習を担当する章の資料作成、プレゼン内容 (30%)
・質疑応答への貢献度 (30%)
・関東学生マーケティング大会に向けた研究論文 (40%)

4 年生の場合

・輪読や R 実習の資料作成、プレゼンのサポート (30%)、
・質疑応答への貢献度 (40%)
・卒論研究 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

・例年スケジュール管理が甘くなり、せっかく進めた研究が仕上げの段階で時間不足になるので、関東学生マーケティング大会のスケジュールを厳格に守り、余裕をもって研究を進めましょう。
・4 年生の卒論も同様にスケジュール管理を徹底しましょう。
・4 年生は前年度の経験を踏まえ、2、3 年生のグループワークのメンターとしてアドバイスをを行い、全面的に支援してあげてください。

【学生が準備すべき機器他】

・ゼミでの報告・プレゼンは PC を用い、パワーポイントで行います。
・レポートや卒論の作成には、ワードとエクセルが必要です。また、統計分析ではフリーソフトウェアの R を用います。

【その他の重要事項】

・ゼミでは、失敗を恐れずに、積極的に発言するようにしましょう。
・報告・連絡・相談 (報・連・相 = ホウレンソウ) をキチンとできることがすべての基本です。これを忘れずに実践してください。
・欠席の場合は事前に連絡する必要があります。欠席が多い場合は単位取得ができないので注意してください。
・マーケティング・マネジメント論 I/II、消費者行動論 I/II、マーケティング・リサーチ I/II、サービス・マネジメント論 I/II、流通論 I/II 等マーケティング関連の専門科目を履修してください。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有しています。実務的な視点から研究テーマを設定し、仮説設定・検証等研究へのアプローチを指導します。

【Outline (in English)】

Course outline: The objective of this seminar is to understand marketing, especially advertising, communication and branding. In the spring semester, students will read basic textbooks and discuss in groups using case studies, newspapers, and magazine articles. In addition, they will practice Free Software R. In the fall semester, they will collect and analyze their data, and finally write a research paper. Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the characteristics of consumer behavior and develop the ability to carry out marketing activities systematically and rationally from the customer's perspective.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: content of the presentation in charge (30%), term-end research paper (30%), and in class contribution (40%).

MAN200FA

演習 2

竹内 淑恵

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミは、マーケティング、特に広告、コミュニケーション、ブランディングについて理解することを目的としています。春学期には、基本的な教科書を輪読し、ケーススタディ、新聞、雑誌の記事を使用して、グループ討議を行います。あわせて、統計分析ができるようになるため、フリーソフトウェア R の実習も行います。秋学期には、データを収集して分析し、最終的に研究論文として仕上げます。

【到達目標】

・マーケティング関連のテーマに関して、①論文を読んで理解する、②関連情報を調べる、③自分の意見・考えを持つ、④それらを取りまとめて、プレゼンする。
・文章作成力、情報収集・分析・発信力、状況判断・行動力など就業力に関わる総合力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

対面で水曜 4、5 限に行います。
・グループに分かれて文献やテキスト、リサーチの内容を報告し、それをもとに全員で議論します。
・サブゼミも実施します。合宿については現時点では未定ですが、新型コロナウイルス感染状況等を総合的に見て実施可否を判断します。
・大教室での授業と異なり、ゼミへは受け身ではなく主体的な参加が必須です。毎回、皆さんの発表や報告に対して、直接フィードバックを行います。ゼミ生の皆さんも学年に関係なく、積極的に発言し、意見交換をしましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	グループ研究の進捗報告 (1)	2、3 年生の各班はアンケート調査票を作成し、報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 2 回	グループ研究の進捗報告 (2)	2、3 年生の各班は前週の指摘を踏まえて、修正した調査票を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 3 回	グループ研究の進捗報告 (3)	2、3 年生の各班とも調査票を確定し、実査を行う。
第 4 回	グループ研究の進捗報告 (4)	2、3 年生の各班は収集したデータの分析を始め、その一部を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 5 回	次年度入ゼミ試験	次年度入ゼミ生の面接試験を行う。一緒に勉強するゼミ生を担当教員とともに責任をもって選考する。 ※オンラインで実施する可能性もある。
第 6 回	グループ研究の進捗報告 (5)	2、3 年生の各班は引き続きデータ分析の結果を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 7 回	グループ研究の進捗報告 (6)	2、3 年生の各班は仮説検証の結果を報告する。
第 8 回	グループ研究の進捗報告 (7)	2、3 年生の各班は分析結果に基づいて、インプリケーションを含め、研究の全体について報告する。
第 9 回	関東学生マーケティング大会の発表準備 (1)	関東学生マーケティング大会の発表に向け、練習を行う。
第 10 回	関東学生マーケティング大会の発表準備 (2)	前回発表で指摘のあった点を修正し、再度発表練習を行う。
第 11 回	関東学生マーケティング大会の振り返り	発表について振り返り、成果と反省点を報告する。
第 12 回	卒論グループによる研究発表 (1)	分析結果を報告する。
第 13 回	卒論グループによる研究発表 (2)	再分析の結果、結論、考察等、卒論全体について報告する。
第 14 回	1 年間のゼミ総まとめ	自分が興味を持ったマーケティング事例を分析し、その事例のマーケティング戦略について報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・2、3 年生はサブゼミや関東学生マーケティング大会に積極的に参加し、貢献しましょう。4 年生は関東学生マーケティング大会に向け、各グループのメンターとして 2、3 年生をサポートしてください。
・論文の書き方を学び、テーマを決め、文章化します。2、3 年生は論文の事前チェックを担当する 4 年生とコミュニケーションを密に取り、論文の完成度を高めましょう。
・毎年学内懸賞論文に応募し、成果を上げているので、今年度も応募します。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

①マーケティングのテキスト：石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著 (2020) [1 からのマーケティング 第 4 版] 碩学舎。
②統計分析の入門書：照井伸彦・佐藤忠彦 (2013) [現代マーケティング・リサーチ 市場を読み解くデータ分析] 有斐閣。
上記を春学期に使用します。

【参考書】

参考書については、ゼミ開講時あるいは適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

基本的には、担当発表内容 (30%)、研究論文 (30%)、授業貢献度 (40%) により成績評価を行います。ただし、2、3 年生と 4 年生では上記ウエイトが若干異なります。
2、3 年生の場合
・輪読や R 実習を担当する章の資料作成、プレゼン内容 (30%)
・質疑応答への貢献度 (30%)
・関東学生マーケティング大会に向けた研究論文 (40%)
4 年生の場合
・輪読や R 実習の資料作成、プレゼンのサポート (30%)
・質疑応答への貢献度 (40%)
・卒論研究 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

・例年スケジュール管理が甘くなり、せっかく進めた研究が仕上げの段階で時間不足になるので、関東学生マーケティング大会のスケジュールを厳格に守り、余裕をもって研究を進めましょう。
・4 年生の卒論も同様にスケジュール管理を徹底しましょう。
・4 年生は前年度の経験を踏まえ、2、3 年生のグループワークのメンターとしてアドバイスをし、全面的に支援してあげてください。

【学生が準備すべき機器他】

・ゼミでの報告・プレゼンは PC を用い、パワーポイントで行います。
・レポートや卒論の作成には、ワードとエクセルが必要です。また、統計分析ではフリーソフトウェアの R を用います。

【その他の重要事項】

・ゼミでは、失敗を恐れずに、積極的に発言するようにしましょう。
・報告・連絡・相談 (報・連・相 = ホウレンソウ) をキチンとできることがすべての基本です。これを忘れずに実践してください。
・欠席の場合は事前に連絡する必要があります。欠席が多い場合は単位取得ができないので注意してください。
・マーケティング・マネジメント論 I/II、消費者行動論 I/II、マーケティング・リサーチ I/II、サービス・マネジメント論 I/II、流通論 I/II 等マーケティング関連の専門科目を履修してください。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有しています。実務的な視点から研究テーマを設定し、仮説設定・検証等研究へのアプローチを指導します。

【Outline (in English)】

Course outline: The objective of this seminar is to understand marketing, especially advertising, communication and branding. In the spring semester, students will read basic textbooks and discuss in groups using case studies, newspapers, and magazine articles. In addition, they will practice Free Software R. In the fall semester, they will collect and analyze their data, and finally write a research paper. Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the characteristics of consumer behavior and develop the ability to carry out marketing activities systematically and rationally from the customer's perspective. Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Final grade will be calculated according to the following process: content of the presentation in charge (30%), term-end research paper (30%), and in class contribution (40%).

MAN300FA

演習 3

竹内 淑恵

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミは、マーケティング、特に広告、コミュニケーション、ブランディングについて理解することを目的としています。春学期には、基本的な教科書を輪読し、ケーススタディ、新聞、雑誌の記事を使用して、グループ討議を行います。あわせて、統計分析ができるようになるため、フリーソフトウェア R の実習も行います。秋学期には、データを収集して分析し、最終的に研究論文として仕上げます。

【到達目標】

・マーケティング関連のテーマに関して、①論文を読んで理解する、②関連情報を調べる、③自分の意見・考えを持つ、④それらを取りまとめて、プレゼンする。
・文章作成力、情報収集・分析・発信力、状況判断・行動力など就業力に関わる総合力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

対面で水曜 4、5 限に行います。
・グループに分かれて文献やテキスト、リサーチの内容を報告し、それをもとに全員で議論します。
・サブゼミも実施します。合宿については現時点では未定ですが、新型コロナウイルス感染状況を総合的に見て実施可否を判断します。
・大教室での授業と異なり、ゼミへは受け身ではなく主体的な参加が必須です。毎回、皆さんの発表や報告に対して、直接フィードバックを行います。ゼミ生の皆さんも学年に関係なく、積極的に発言し、意見交換をしましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (1)	テキスト第 1 章「マーケティング発想の経営」、R 実習第 1 章「マーケティング意思決定とリサーチ・デザイン」
第 2 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (2)	テキスト第 2 章「マーケティング論の成り立ち」、R 実習第 2 章「データの取得と整理」
第 3 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (3)	テキスト第 3 章「マーケティングの基本概念」R 実習第 3 章「サンプリング」
第 4 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (4)	テキスト第 4 章「製品のマネジメント」、R 実習第 4 章「質問紙の作成と測定尺度」
第 5 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (5)	テキスト第 5 章「価格のマネジメント」、R 実習第 5 章「市場反応分析：回帰モデル」
第 6 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (6)	テキスト第 6 章「広告のマネジメント」、R 実習第 6 章「市場の発見と知覚マップ：因子分析」
第 7 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (7)	テキスト第 7 章「チャネルのマネジメント」、R 実習第 7 章「市場セグメンテーション：クラスター分析」
第 8 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (8)	テキスト第 8 章「サプライチェーンのマネジメント」、R 実習第 8 章「製品開発：コンジョイント分析」
第 9 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (9)	テキスト第 9 章「営業のマネジメント」、R 実習第 9 章「新製品の普及：バスモデル」
第 10 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (10)	テキスト第 10 章「顧客関係のマネジメント」、R 実習第 10 章「顧客の管理：RFM 分析、分散分析、ロジスティック回帰分析」
第 11 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (11)	テキスト第 11 章「ビジネスモデルのマネジメント」、R 実習第 11 章「市場反応分析：離散選択モデル」
第 12 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (12)	テキスト第 12 章「顧客理解のマネジメント」、R 実習第 12 章「ブランドと属性の同時マップ：コレスポンデンス分析」

第 13 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (13)	テキスト第 13 章「ブランド構築のマネジメント」、R 実習第 13 章「マーケットバスケットとクロスセリング：アソシエーション分析」
第 14 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (14)	テキスト第 14 章「ブランド組織のマネジメント」、R 実習第 14 章「定性調査データの分析：潜在変数の構造分析」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・2、3 年生はサブゼミや関東学生マーケティング大会に積極的に参加し、貢献しましょう。4 年生は関東学生マーケティング大会に向け、各グループのメンターとして 2、3 年生をサポートしてください。
・論文の書き方を学び、テーマを決め、文章化します。2、3 年生は論文の事前チェックを担当する 4 年生とコミュニケーションを密に取り、論文の完成度を高めましょう。
・毎年学内懸賞論文に応募し、成果を上げているので、今年度も応募します。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

①マーケティングのテキスト：石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著 (2020) [1 からのマーケティング 第 4 版] 碩学舎。
②統計分析の入門書：照井伸彦・佐藤忠彦 (2013) [現代マーケティング・リサーチ 市場を読み解くデータ分析] 有斐閣。
上記を春学期に使用します。

【参考書】

参考書については、ゼミ開講時あるいは適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

基本的には、担当発表内容 (30%)、研究論文 (30%)、授業貢献度 (40%) により成績評価を行います。ただし、2、3 年生と 4 年生では上記ウエイトが若干異なります。

2、3 年生の場合

・輪読や R 実習を担当する章の資料作成、プレゼン内容 (30%)
・質疑応答への貢献度 (30%)
・関東学生マーケティング大会に向けた研究論文 (40%)

4 年生の場合

・輪読や R 実習の資料作成、プレゼンのサポート (30%)
・質疑応答への貢献度 (40%)
・卒論研究 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

・例年スケジュール管理が甘くなり、せっかく進めた研究が仕上げの段階で時間不足になるので、関東学生マーケティング大会のスケジュールを厳格に守り、余裕をもって研究を進めましょう。
・4 年生の卒論も同様にスケジュール管理を徹底しましょう。
・4 年生は前年度の経験を踏まえ、2、3 年生のグループワークのメンターとしてアドバイスをを行い、全面的に支援してあげてください。

【学生が準備すべき機器他】

・ゼミでの報告・プレゼンは PC を用い、パワーポイントで行います。
・レポートや卒論の作成には、ワードとエクセルが必要です。また、統計分析ではフリーソフトウェアの R を用います。

【その他の重要事項】

・ゼミでは、失敗を恐れずに、積極的に発言するようにしましょう。
・報告・連絡・相談 (報・連・相 = ホウレンソウ) をキチンとできることがすべての基本です。これを忘れずに実践してください。
・欠席の場合は事前に連絡する必要があります。欠席が多い場合は単位取得ができないので注意してください。
・マーケティング・マネジメント論 I/II、消費者行動論 I/II、マーケティング・リサーチ I/II、サービス・マネジメント論 I/II、流通論 I/II 等マーケティング関連の専門科目を履修してください。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有しています。実務的な視点から研究テーマを設定し、仮説設定・検証等研究へのアプローチを指導します。

【Outline (in English)】

Course outline: The objective of this seminar is to understand marketing, especially advertising, communication and branding. In the spring semester, students will read basic textbooks and discuss in groups using case studies, newspapers, and magazine articles. In addition, they will practice Free Software R. In the fall semester, they will collect and analyze their data, and finally write a research paper. Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the characteristics of consumer behavior and develop the ability to carry out marketing activities systematically and rationally from the customer's perspective.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: content of the presentation in charge (30%), term-end research paper (30%), and in class contribution (40%).

MAN300FA

演習 4

竹内 淑恵

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミは、マーケティング、特に広告、コミュニケーション、ブランディングについて理解することを目的としています。春学期には、基本的な教科書を輪読し、ケーススタディ、新聞、雑誌の記事を使用して、グループ討議を行います。あわせて、統計分析ができるようになるため、フリーソフトウェア R の実習も行います。秋学期には、データを収集して分析し、最終的に研究論文として仕上げます。

【到達目標】

・マーケティング関連のテーマに関して、①論文を読んで理解する、②関連情報を調べる、③自分の意見・考えを持つ、④それらを取りまとめて、プレゼンする。
・文章作成力、情報収集・分析・発信力、状況判断・行動力など就業力に関わる総合力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

対面で水曜 4、5 限に行います。
・グループに分かれて文獻やテキスト、リサーチの内容を報告し、それをもとに全員で議論します。
・サブゼミも実施します。合宿については現時点では未定ですが、新型コロナウイルス感染状況等を総合的に見て実施可否を判断します。
・大教室での授業と異なり、ゼミへは受け身ではなく主体的な参加が必須です。毎回、皆さんの発表や報告に対して、直接フィードバックを行います。ゼミ生の皆さんも学年に関係なく、積極的に発言し、意見交換をしましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	グループ研究の進捗報告 (1)	2、3 年生の各班はアンケート調査票を作成し、報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 2 回	グループ研究の進捗報告 (2)	2、3 年生の各班は前週の指摘を踏まえて、修正した調査票を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 3 回	グループ研究の進捗報告 (3)	2、3 年生の各班とも調査票を確定し、実査を行う。
第 4 回	グループ研究の進捗報告 (4)	2、3 年生の各班は収集したデータの分析を始め、その一部を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 5 回	次年度入ゼミ試験	次年度入ゼミ生の面接試験を行う。一緒に勉強するゼミ生を担当教員とともに責任をもって選考する。 ※オンラインで実施する可能性もある。
第 6 回	グループ研究の進捗報告 (5)	2、3 年生の各班は引き続きデータ分析の結果を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 7 回	グループ研究の進捗報告 (6)	2、3 年生の各班は仮説検証の結果を報告する。
第 8 回	グループ研究の進捗報告 (7)	2、3 年生の各班は分析結果に基づいて、インプリケーションを含め、研究の全体について報告する。
第 9 回	関東学生マーケティング大会の発表準備 (1)	関東学生マーケティング大会の発表に向け、練習を行う。
第 10 回	関東学生マーケティング大会の発表準備 (2)	前回発表で指摘のあった点を修正し、再度発表練習を行う。
第 11 回	関東学生マーケティング大会の振り返り	発表について振り返り、成果と反省点を報告する。
第 12 回	卒論グループによる研究発表 (1)	分析結果を報告する。
第 13 回	卒論グループによる研究発表 (2)	再分析の結果、結論、考察等、卒論全体について報告する。
第 14 回	1 年間のゼミ総まとめ	自分が興味を持ったマーケティング事例を分析し、その事例のマーケティング戦略について報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・2、3 年生はサブゼミや関東学生マーケティング大会に積極的に参加し、貢献しましょう。4 年生は関東学生マーケティング大会に向け、各グループのメンターとして 2、3 年生をサポートしてください。
・論文の書き方を学び、テーマを決め、文章化します。2、3 年生は論文の事前チェックを担当する 4 年生とコミュニケーションを密に取り、論文の完成度を高めましょう。
・毎年学内懸賞論文に応募し、成果を上げているので、今年度も応募します。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

①マーケティングのテキスト：石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著 (2020) 『1 からのマーケティング 第 4 版』碩学舎。
②統計分析の入門書：照井伸彦・佐藤忠彦 (2013) 『現代マーケティング・リサーチ 市場を読み解くデータ分析』有斐閣。
上記を春学期に使用します。

【参考書】

参考書については、ゼミ開講時あるいは適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

基本的には、担当発表内容 (30%)、研究論文 (30%)、授業貢献度 (40%) により成績評価を行います。ただし、2、3 年生と 4 年生では上記ウエイトが若干異なります。

2、3 年生の場合

・輪読や R 実習を担当する章の資料作成、プレゼン内容 (30%)
・質疑応答への貢献度 (30%)
・関東学生マーケティング大会に向けた研究論文 (40%)

4 年生の場合

・輪読や R 実習の資料作成、プレゼンのサポート (30%)
・質疑応答への貢献度 (40%)
・卒論研究 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

・例年スケジュール管理が甘くなり、せっかく進めた研究が仕上げの段階で時間不足になるので、関東学生マーケティング大会のスケジュールを厳格に守り、余裕をもって研究を進めましょう。
・4 年生の卒論も同様にスケジュール管理を徹底しましょう。
・4 年生は前年度の経験を踏まえ、2、3 年生のグループワークのメンターとしてアドバイスをし、全面的に支援してあげてください。

【学生が準備すべき機器他】

・ゼミでの報告・プレゼンは PC を用い、パワーポイントで行います。
・レポートや卒論の作成には、ワードとエクセルが必要です。また、統計分析ではフリーソフトウェアの R を用います。

【その他の重要事項】

・ゼミでは、失敗を恐れずに、積極的に発言するようにしましょう。
・報告・連絡・相談（報・連・相＝ホウレンソウ）をキチンとできることがすべての基本です。これを忘れずに実践してください。
・欠席の場合は事前に連絡する必要があります。欠席が多い場合は単位取得ができないので注意してください。
・マーケティング・マネジメント論 I/II、消費者行動論 I/II、マーケティング・リサーチ I/II、サービス・マネジメント論 I/II、流通論 I/II 等マーケティング関連の専門科目を履修してください。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有しています。実務的な視点から研究テーマを設定し、仮説設定・検証等研究へのアプローチを指導します。

【Outline (in English)】

Course outline: The objective of this seminar is to understand marketing, especially advertising, communication and branding. In the spring semester, students will read basic textbooks and discuss in groups using case studies, newspapers, and magazine articles. In addition, they will practice Free Software R. In the fall semester, they will collect and analyze their data, and finally write a research paper. Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the characteristics of consumer behavior and develop the ability to carry out marketing activities systematically and rationally from the customer's perspective. Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Final grade will be calculated according to the following process: content of the presentation in charge (30%), term-end research paper (30%), and in class contribution (40%).

MAN400FA

演習 5

竹内 淑恵

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミは、マーケティング、特に広告、コミュニケーション、ブランディングについて理解することを目的としています。春学期には、基本的な教科書を輪読し、ケーススタディ、新聞、雑誌の記事を使用して、グループ討議を行います。あわせて、統計分析ができるようになるため、フリーソフトウェア R の実習も行います。秋学期には、データを収集して分析し、最終的に研究論文として仕上げます。

【到達目標】

・マーケティング関連のテーマに関して、①論文を読んで理解する、②関連情報を調べる、③自分の意見・考えを持つ、④それらを取りまとめて、プレゼンする。
・文章作成力、情報収集・分析・発信力、状況判断・行動力など就業力に関わる総合力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

対面で水曜 4、5 限に行います。
・グループに分かれて文献やテキスト、リサーチの内容を報告し、それをもとに全員で議論します。
・サブゼミも実施します。合宿については現時点では未定ですが、新型コロナウイルス感染状況等を総合的に見て実施可否を判断します。
・大教室での授業と異なり、ゼミへは受け身ではなく主体的な参加が必須です。毎回、皆さんの発表や報告に対して、直接フィードバックを行います。ゼミ生の皆さんも学年に関係なく、積極的に発言し、意見交換をしましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (1)	テキスト第 1 章「マーケティング発想の経営」、R 実習第 1 章「マーケティング意思決定とリサーチ・デザイン」
第 2 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (2)	テキスト第 2 章「マーケティング論の成り立ち」、R 実習第 2 章「データの取得と整理」
第 3 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (3)	テキスト第 3 章「マーケティングの基本概念」R 実習第 3 章「サンプリング」
第 4 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (4)	テキスト第 4 章「製品のマネジメント」、R 実習第 4 章「質問紙の作成と測定尺度」
第 5 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (5)	テキスト第 5 章「価格のマネジメント」、R 実習第 5 章「市場反応分析：回帰モデル」
第 6 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (6)	テキスト第 6 章「広告のマネジメント」、R 実習第 6 章「市場の発見と知覚マップ：因子分析」
第 7 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (7)	テキスト第 7 章「チャネルのマネジメント」、R 実習第 7 章「市場セグメンテーション：クラスター分析」
第 8 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (8)	テキスト第 8 章「サプライチェーンのマネジメント」、R 実習第 8 章「製品開発：コンジョイント分析」
第 9 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (9)	テキスト第 9 章「営業のマネジメント」、R 実習第 9 章「新製品の普及：バスモデル」
第 10 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (10)	テキスト第 10 章「顧客関係のマネジメント」、R 実習第 10 章「顧客の管理：RFM 分析、分散分析、ロジスティック回帰分析」
第 11 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (11)	テキスト第 11 章「ビジネスモデルのマネジメント」、R 実習第 11 章「市場反応分析：離散選択モデル」
第 12 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (12)	テキスト第 12 章「顧客理解のマネジメント」、R 実習第 12 章「ブランドと属性の同時マップ：コレスポンデンス分析」

第 13 回 テキスト輪読とデータ解析の実習 (13)

テキスト第 13 章「ブランド構築のマネジメント」、R 実習第 13 章「マーケットバスケットとクロスセリング：アソシエーション分析」

第 14 回 テキスト輪読とデータ解析の実習 (14)

テキスト第 14 章「ブランド組織のマネジメント」、R 実習第 14 章「定性調査データの分析：潜在変数の構造分析」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・2、3 年生はサブゼミや関東学生マーケティング大会に積極的に参加し、貢献しましょう。4 年生は関東学生マーケティング大会に向け、各グループのメンターとして 2、3 年生をサポートしてください。
・論文の書き方を学び、テーマを決め、文章化します。2、3 年生は論文の事前チェックを担当する 4 年生とコミュニケーションを密に取り、論文の完成度を高めましょう。
・毎年学内懸賞論文に応募し、成果を上げているので、今年度も応募します。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

①マーケティングのテキスト：石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著 (2020) [1 からのマーケティング 第 4 版] 碩学舎。
②統計分析の入門書：照井伸彦・佐藤忠彦 (2013) [現代マーケティング・リサーチ 市場を読み解くデータ分析] 有斐閣。
上記を春学期に使用します。

【参考書】

参考書については、ゼミ開講時あるいは適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

基本的には、担当発表内容 (30%)、研究論文 (30%)、授業貢献度 (40%) により成績評価を行います。ただし、2、3 年生と 4 年生では上記ウエイトが若干異なります。

2、3 年生の場合

・輪読や R 実習を担当する章の資料作成、プレゼン内容 (30%)
・質疑応答への貢献度 (30%)
・関東学生マーケティング大会に向けた研究論文 (40%)

4 年生の場合

・輪読や R 実習の資料作成、プレゼンのサポート (30%)、
・質疑応答への貢献度 (40%)
・卒論研究 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

・例年スケジュール管理が甘くなり、せっかく進めた研究が仕上げの段階で時間不足になるので、関東学生マーケティング大会のスケジュールを厳格に守り、余裕をもって研究を進めましょう。
・4 年生の卒論も同様にスケジュール管理を徹底しましょう。
・4 年生は前年度の経験を踏まえ、2、3 年生のグループワークのメンターとしてアドバイスをし、全面的に支援してあげてください。

【学生が準備すべき機器他】

・ゼミでの報告・プレゼンは PC を用い、パワーポイントで行います。
・レポートや卒論の作成には、ワードとエクセルが必要です。また、統計分析ではフリーソフトウェアの R を用います。

【その他の重要事項】

・ゼミでは、失敗を恐れずに、積極的に発言するようにしましょう。
・報告・連絡・相談 (報・連・相 = ホウレンソウ) をキチンとできることがすべての基本です。これを忘れずに実践してください。
・欠席の場合は事前に連絡する必要があります。欠席が多い場合は単位取得ができないので注意してください。
・マーケティング・マネジメント論 I/II、消費者行動論 I/II、マーケティング・リサーチ I/II、サービス・マネジメント論 I/II、流通論 I/II 等マーケティング関連の専門科目を履修してください。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有しています。実務的な視点から研究テーマを設定し、仮説設定・検証等研究へのアプローチを指導します。

【Outline (in English)】

Course outline: The objective of this seminar is to understand marketing, especially advertising, communication and branding. In the spring semester, students will read basic textbooks and discuss in groups using case studies, newspapers, and magazine articles. In addition, they will practice Free Software R. In the fall semester, they will collect and analyze their data, and finally write a research paper. Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the characteristics of consumer behavior and develop the ability to carry out marketing activities systematically and rationally from the customer's perspective.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: content of the presentation in charge (30%), term-end research paper (30%), and in class contribution (40%).

MAN400FA

演習 6

竹内 淑恵

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミは、マーケティング、特に広告、コミュニケーション、ブランディングについて理解することを目的としています。春学期には、基本的な教科書を輪読し、ケーススタディ、新聞、雑誌の記事を使用して、グループ討議を行います。あわせて、統計分析ができるようになるため、フリーソフトウェア R の実習も行います。秋学期には、データを収集して分析し、最終的に研究論文として仕上げます。

【到達目標】

・マーケティング関連のテーマに関して、①論文を読んで理解する、②関連情報を調べる、③自分の意見・考えを持つ、④それらを取りまとめて、プレゼンする。
・文章作成力、情報収集・分析・発信力、状況判断・行動力など就業力に関わる総合力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

対面で水曜 4, 5 限に行います。
・グループに分かれて文献やテキスト、リサーチの内容を報告し、それをもとに全員で議論します。
・サブゼミも実施します。合宿については現時点では未定ですが、新型コロナウイルス感染状況等を総合的に見て実施可否を判断します。
・大教室での授業と異なり、ゼミへは受け身ではなく主体的な参加が必須です。毎回、皆さんの発表や報告に対して、直接フィードバックを行います。ゼミ生の皆さんも学年に関係なく、積極的に発言し、意見交換をしましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	グループ研究の進捗報告 (1)	2, 3 年生の各班はアンケート調査票を作成し、報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 2 回	グループ研究の進捗報告 (2)	2, 3 年生の各班は前週の指摘を踏まえて、修正した調査票を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 3 回	グループ研究の進捗報告 (3)	2, 3 年生の各班とも調査票を確定し、実査を行う。
第 4 回	グループ研究の進捗報告 (4)	2, 3 年生の各班は収集したデータの分析を始め、その一部を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 5 回	次年度入ゼミ試験	次年度入ゼミ生の面接試験を行う。一緒に勉強するゼミ生を担当教員とともに責任をもって選考する。 ※オンラインで実施する可能性もある。
第 6 回	グループ研究の進捗報告 (5)	2, 3 年生の各班は引き続きデータ分析の結果を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 7 回	グループ研究の進捗報告 (6)	2, 3 年生の各班は仮説検証の結果を報告する。
第 8 回	グループ研究の進捗報告 (7)	2, 3 年生の各班は分析結果に基づいて、インプリケーションを含め、研究の全体について報告する。
第 9 回	関東学生マーケティング大会の発表準備 (1)	関東学生マーケティング大会の発表に向け、練習を行う。
第 10 回	関東学生マーケティング大会の発表準備 (2)	前回発表で指摘のあった点を修正し、再度発表練習を行う。
第 11 回	関東学生マーケティング大会の振り返り	発表について振り返り、成果と反省点を報告する。
第 12 回	卒論グループによる研究発表 (1)	分析結果を報告する。
第 13 回	卒論グループによる研究発表 (2)	再分析の結果、結論、考察等、卒論全体について報告する。
第 14 回	1 年間のゼミ総まとめ	自分が興味を持ったマーケティング事例を分析し、その事例のマーケティング戦略について報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・2, 3 年生はサブゼミや関東学生マーケティング大会に積極的に参加し、貢献しましょう。4 年生は関東学生マーケティング大会に向け、各グループのメンターとして 2, 3 年生をサポートしてください。
・論文の書き方を学び、テーマを決め、文章化します。2, 3 年生は論文の事前チェックを担当する 4 年生とコミュニケーションを密に取り、論文の完成度を高めましょう。
・毎年学内懸賞論文に応募し、成果を上げているので、今年度も応募します。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

①マーケティングのテキスト：石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著 (2020) [1 からのマーケティング 第 4 版] 碩学舎。
②統計分析の入門書：照井伸彦・佐藤忠彦 (2013) [現代マーケティング・リサーチ 市場を読み解くデータ分析] 有斐閣。
上記を春学期に使用します。

【参考書】

参考書については、ゼミ開講時あるいは適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

基本的には、担当発表内容 (30%)、研究論文 (30%)、授業貢献度 (40%) により成績評価を行います。ただし、2, 3 年生と 4 年生では上記ウエイトが若干異なります。
2, 3 年生の場合
・輪読や R 実習を担当する章の資料作成、プレゼン内容 (30%)
・質疑応答への貢献度 (30%)
・関東学生マーケティング大会に向けた研究論文 (40%)
4 年生の場合
・輪読や R 実習の資料作成、プレゼンのサポート (30%)
・質疑応答への貢献度 (40%)
・卒論研究 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

・例年スケジュール管理が甘くなり、せっかく進めた研究が仕上げの段階で時間不足になるので、関東学生マーケティング大会のスケジュールを厳格に守り、余裕をもって研究を進めましょう。
・4 年生の卒論も同様にスケジュール管理を徹底しましょう。
・4 年生は前年度の経験を踏まえ、2, 3 年生のグループワークのメンターとしてアドバイスをを行い、全面的に支援してあげてください。

【学生が準備すべき機器他】

・ゼミでの報告・プレゼンは PC を用い、パワーポイントで行います。
・レポートや卒論の作成には、ワードとエクセルが必要です。また、統計分析ではフリーソフトウェアの R を用います。

【その他の重要事項】

・ゼミでは、失敗を恐れずに、積極的に発言するようにしましょう。
・報告・連絡・相談 (報・連・相 = ホウレンソウ) をキチンとできることがすべての基本です。これを忘れずに実践してください。
・欠席の場合は事前に連絡する必要があります。欠席が多い場合は単位取得ができないので注意してください。
・マーケティング・マネジメント論 I/II、消費者行動論 I/II、マーケティング・リサーチ I/II、サービス・マネジメント論 I/II、流通論 I/II 等マーケティング関連の専門科目を履修してください。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有しています。実務的な視点から研究テーマを設定し、仮説設定・検証等研究へのアプローチを指導します。

【Outline (in English)】

Course outline: The objective of this seminar is to understand marketing, especially advertising, communication and branding. In the spring semester, students will read basic textbooks and discuss in groups using case studies, newspapers, and magazine articles. In addition, they will practice Free Software R. In the fall semester, they will collect and analyze their data, and finally write a research paper. Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the characteristics of consumer behavior and develop the ability to carry out marketing activities systematically and rationally from the customer's perspective. Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Final grade will be calculated according to the following process: content of the presentation in charge (30%), term-end research paper (30%), and in class contribution (40%).

MAN200FA

演習 1

田路 則子

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい産業をおこし、企業が成長していく原動力ともいえるイノベーションを、「新規事業とスタートアップのマネジメント」の視点から考察していく。既存企業が成長するためにチャレンジする新規事業と急成長するスタートアップ、つまりベンチャー企業のマネジメントを取り上げる。特に、グローバル人材の養成が実業界から求められていることを勘案して、英語の強化を併せて行う。

【到達目標】

ケース・スタディによって分析と議論を行い、戦略的視点を養う。ビジネスプランの作成と応募により、実践的なプランニング能力とプレゼンテーション能力を養う。実務家の講演やケースを通じてキャリア・デザインについて考える。学内の英語の講義を並行受講したり、記事を読むことによって英語の能力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

できるだけ対面で、場合によって ZOOM を使用したインタラクティブを予定している。

デザイン工学部の講義と提携をして、技術シーズを利用した新しい製品サービスの事業化を企画する。通常は 4 時限をそのコラボレーションの時間にしている。ケース・スタディは、日本や米国の新規事業やスタートアップのマネジメントを取り上げたケースを事前に読んできて、小數で議論を行って発表する。ビジネスプランニングの能力を養うために、財務、会計を含めた基礎知識を復習しながら、ビジネスプランニングの手法を学ぶ。ビジネスのアイデア創出から、コンセプトづくり、戦略設定、オペレーション策定までを行う。ビジネスプランコンテストに応募することを目標とする。当ゼミは、海外の大学と連携した合同ゼミを行うため、英語を使ったコミュニケーションが必要となる。また、連携しているスタートアップやベンチャー・キャピタルへのインターンシップに参加する学生も多い。活発な活動への積極的参加を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ビジネスプランとは/コラボレーションプロジェクトのイントロ 1	要素の説明
第 2 回	アイデアジェネレーション 1/コラボのイントロ 2	ビジネスモデルキャンパス 1
第 3 回	アイデアジェネレーション 2/コラボのチーム結成	ビジネスモデルキャンパス 2
第 4 回	財務知識の確認 1/コラボのアイデア創出 1	Cash Flow
第 5 回	財務知識の確認 2 / コラボのアイデア創出 2	BS/PL
第 6 回	スタートアップの事例分析 1/コラボのアイデア創出	日本の事例
第 7 回	スタートアップの事例分析 1/コラボのアイデアまとめ	日本の事例
第 8 回	コラボの中間発表	チーム発表
第 9 回	起業家概念/コラボのブラッシュアップ 1	アントレプレナー、スタートアップ、ベンチャー
第 10 回	イノベーションの担い手/コラボのブラッシュアップ 2	イノベーションの定義とオープン・イノベーション
第 11 回	日本の起業家活動/コラボのブラッシュアップ 3	起業意思、シリアル/ノービスアントレプレナー
第 12 回	成長のマネジメント/コラボのブラッシュアップ 4	機会発見と成長プロセス
第 13 回	財務計画とマーケティング/コラボのビジネスプラン 1	ビジネスプランの書き方

第 14 回 資金調達/コラボのビジ マルストン投資、資本政策
ネスプラン 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のケースを読み、事前にメモを提出する。毎週、準備と復習に、4 時間程度が必要になる。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年
「アントレプレナーシップ」ウィリアム・バイグレイブ・アンドリュウ・ザカラキス、日経 BP 社、2009 年
「新規事業はなぜ成功しないのか」大江健、日本経済新聞社、2008 年

【成績評価の方法と基準】

毎回のメモ (20%)、議論への貢献 (40%)、グループで行うビジネスプランニング (40%)

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミの時間を設定して、密度の濃いゼミナールとしたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC VTR

【関連科目】

製品開発論 I/II、技術管理論 I/II、経営戦略論 I/II、中小企業論 I/II、国際経営戦略論 I/II

【業績】

- 「フロー経験と起業マインドー 3 日間の Startup Weekend は起業マインドを高めるのか」田路則子・浅川希洋志・林永周・山田裕美『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会、第 38 巻、pp.25-30,2021.
- 『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年
- 「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第 65 巻号、pp172-184,2017 年.
- “Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,” Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287,2014
- 「ハイテク産業における研究開発者のキャリア」田路則子『日本のキャリア論—専門職編』金井壽宏・鈴木竜太編著 白桃書房、pp.133 ~ 159,2013 年.
- 「WEB ビジネスの起業家像—シリコンバレーのモバイル&ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第 10 巻 10 号、pp.753-774,2011 年
- 「ハイテク・スタートアップの経営戦略—オープン・イノベーションの源泉」田路則子・露木恵美子、東洋経済新報社、2010 年
- 「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也、『赤門マネジメント・レビュー』東京大学、第 8 巻、5 号、pp211-231,2009 年
- 「アーキテクチャル・イノベーション」田路則子、白桃書房、2005 年

【Outline (in English)】

【Outline & Objectives】

This seminar focuses on innovation management from both view points of large companies and startups. We discuss large companies' challenging new businesses in order to go forward and startups' growing rapidly. We have to strengthen English capability in response to global economy.

【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases and submit small report. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】: Small reports(20%), discussion contribution(40%),business planning in each group(40%)

MAN200FA

演習 2

田路 則子

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい産業をおこし、企業が成長していく原動力ともいえるイノベーションを、「新規事業とスタートアップのマネジメント」の視点から考察していく。既存企業が成長するためにチャレンジする新規事業と急成長するスタートアップ、つまりベンチャー企業のマネジメントを取り上げる。特に、グローバル人材の養成が実業界から求められていることを勘案して、英語の強化を併せて行う。

【到達目標】

ケース・スタディによって分析と議論を行い、戦略的視点を養う。ビジネスプランの作成と応募により、実践的なプランニング能力とプレゼンテーション能力を養う。実務家の講演やケースを通じてキャリア・デザインについて考える。学内の英語の講義を並行受講したり、記事を読むことによって英語の能力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

デザイン工学部の講義と提携をして、技術シーズを利用した新しい製品サービスの事業化を企画する。原則として 4 時限をコラボレーションの時間にする。ケース・スタディは、日本や米国の新規事業やスタートアップのマネジメントを取り上げたケースを事前に読んできて、小數で議論を行って発表する。ビジネスプランニングの能力を養うために、財務、会計を含めた基礎知識を復習しながら、ビジネスプランニングの手法を学ぶ。ビジネスのアイデア創出から、コンセプトづくり、戦略設定、オペレーション策定までを行う。ビジネスプランコンテストに応募することを目標とする。当ゼミは、海外の大学と連携した合同ゼミのために、英語によるプレゼンテーションを練習する。また、連携しているスタートアップやベンチャー・キャピタルへのインターンシップに参加する学生も多い。活発な活動への積極的参加を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コラボのビジネスプラン完成	各チーム準備
第 2 回	コラボのビジネスプラン発表	発表と質疑
第 3 回	新規事業のマネジメント/コラボのコンテスト応募プラン作成	解説
第 4 回	新規事業の事例分析 1/コラボのコンテスト応募プラン作成	サービス産業
第 5 回	日本企業の新規事業を担う組織体制/コラボのコンテスト応募プラン作成	解説
第 6 回	新規事業の事例分析 2/コラボのコンテスト応募プラン作成	製造業
第 7 回	新規事業の事例分析 2/コラボのコンテスト応募プラン完成	製造業
第 8 回	外部スピーカー	新規事業担当者
第 9 回	新規事業の事例分析 3	製造業
第 10 回	新規事業の事例分析 4	製造業
第 11 回	キャリア・デザイン理論と実例	理論と実例
第 12 回	スタートアップの事例分析 1	米国の事例
第 13 回	スタートアップの事例分析 2	米国の事例
第 14 回	スタートアップの事例分析 3	日本の事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のケースを読み、事前にメモを提出する。毎週、準備と復習に、4 時間程度が必要になる。

【テキスト（教科書）】

『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年
『ハイテク・スタートアップの経営戦略』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社, 2010 年

【参考書】

「アントレプレナーシップ」ウィリアム・バイグレイブ・アンドリュウ・ザカラキス, 日経 BP 社, 2009 年
「新規事業はなぜ成功しないのか」大江健, 日本経済新聞社, 2008 年

【成績評価の方法と基準】

毎回のメモ (20%)、議論への貢献 (40%)、グループで行うビジネスプランニング (40%)

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミの時間を設定して、密度の濃いゼミナールとしたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC VTR

【関連科目】

製品開発論 I/II、技術管理論 I/II、経営戦略論 I/II、中小企業論 I/II、国際経営戦略論 I/II

【業績】

- ①「フロー経験と起業マインドー 3 日間の Startup Weekend は起業マインドを高めるのか」田路則子・浅川希洋志・林永周・山田裕美『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会, 第 38 巻, pp.25-30, 2021.
- ②『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年
- ③「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第 65 巻号, pp172-184, 2017 年.
- ④ “Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,” Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287, 2014
- ⑤「ハイテク産業における研究開発者のキャリア」田路則子『日本のキャリア論ー専門職編』金井壽宏・鈴木竜太編著 白桃書房, pp.133 ~ 159, 2013 年.
- ⑥「WEB ビジネスの起業家像ーシリコンバレーのモバイル&ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第 10 巻 10 号, pp.753-774, 2011 年
- ⑦『ハイテク・スタートアップの経営戦略ーオープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社, 2010 年
- ⑧「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也, 『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第 8 巻, 5 号, pp211-231, 2009 年
- ⑨「アーキテクチャル・イノベーション」田路則子, 白桃書房, 2005 年

【Outline (in English)】

【Outline & Objectives】

This seminar focuses on innovation management from both view points of large companies and startups. We discuss large companies' challenging new businesses in order to go forward and startups' growing rapidly. We have to strengthen English capability in response to global economy.

【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases and submit small report. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】: Small reports(20%), discussion contribution(40%), business planning in each group(40%)

MAN300FA

演習 3

田路 則子

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい産業をおこし、企業が成長していく原動力ともいえるイノベーションを、「新規事業とスタートアップのマネジメント」の視点から考察していく。既存企業が成長するためにチャレンジする新規事業と急成長するスタートアップ、つまりベンチャー企業のマネジメントを取り上げる。特に、グローバル人材の養成が実業界から求められていることを勘案して、英語の強化を併せて行う。

【到達目標】

ケース・スタディによって分析と議論を行い、戦略的視点を養う。ビジネスプランの作成と応募により、実践的なプランニング能力とプレゼンテーション能力を養う。実務家の講演やケースを通じてキャリア・デザインについて考える。学内の英語の講義を並行受講したり、記事を読むことによって英語の能力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

できるだけ対面で、場合によって ZOOM を使用したインタラクティブを予定している。

デザイン工学部の講義と提携をして、技術シーズを利用した新しい製品サービスの事業化を企画する。通常は 4 時限をそのコラボレーションの時間にしている。ケース・スタディは、日本や米国の新規事業やスタートアップのマネジメントを取り上げたケースを事前に読んできて、小教で議論を行って発表する。ビジネスプランニングの能力を養うために、財務、会計を含めた基礎知識を復習しながら、ビジネスプランニングの手法を学ぶ。ビジネスのアイデア創出から、コンセプトづくり、戦略設定、オペレーション策定までを行う。ビジネスプランコンテストに応募することを目標とする。当ゼミは、海外の大学と連携した合同ゼミを行うため、英語を使ったコミュニケーションが必要となる。また、連携しているスタートアップやベンチャー・キャピタルへのインターンシップに参加する学生も多い。活発な活動への積極的参加を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ビジネスプランとは/コラボレーションプロジェクトのイントロ 1	要素の説明
第 2 回	アイデアジェネレーション 1/コラボのイントロ 2	ビジネスモデルキャンパス 1
第 3 回	アイデアジェネレーション 2/コラボのチーム結成	ビジネスモデルキャンパス 2
第 4 回	財務知識の確認 1/コラボのアイデア創出 1	Cash Flow
第 5 回	財務知識の確認 2 / コラボのアイデア創出 2	BS/PL
第 6 回	スタートアップの事例分析 1/コラボのアイデア創出	日本の事例
第 7 回	スタートアップの事例分析 1/コラボのアイデアまとめ	日本の事例
第 8 回	コラボの中間発表	チーム発表
第 9 回	起業家概念/コラボのブラッシュアップ 1	アントレプレナー、スタートアップ、ベンチャー
第 10 回	イノベーションの担い手/コラボのブラッシュアップ 2	イノベーションの定義とオープン・イノベーション
第 11 回	日本の起業家活動/コラボのブラッシュアップ 3	起業意思、シリアル/ノービスアントレプレナー
第 12 回	成長のマネジメント/コラボのブラッシュアップ 4	機会発見と成長プロセス
第 13 回	財務計画とマーケティング/コラボのビジネスプラン 1	ビジネスプランの書き方

第 14 回 資金調達/コラボのビジ マルストン投資、資本政策
ネスプラン 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のケースを読み、事前にメモを提出する。毎週、準備と復習に、4 時間程度が必要になる。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年
「アントレプレナーシップ」ウィリアム・バイグレイブ・アンドリュウ・ザカラキス、日経 BP 社、2009 年
「新規事業はなぜ成功しないのか」大江健、日本経済新聞社、2008 年

【成績評価の方法と基準】

毎回のメモ (20%)、議論への貢献 (40%)、グループで行うビジネスプランニング (40%)

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミの時間を設定して、密度の濃いゼミナールとしたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC VTR

【関連科目】

製品開発論 I/II、技術管理論 I/II、経営戦略論 I/II、中小企業論 I/II、国際経営戦略論 I/II

【業績】

①「フロー経験と起業マインドー 3 日間の Startup Weekend は起業マインドを高めるのか」田路則子・浅川希洋志・林永周・山田裕美『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会、第 38 巻、pp.25-30,2021.

②『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年
③「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第 65 巻号、pp172-184,2017 年.

④ “Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,” Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287,2014

⑤「ハイテク産業における研究開発者のキャリア」田路則子『日本のキャリア論—専門職編』金井壽宏・鈴木竜太編著 白桃書房、pp.133 ~ 159,2013 年.

⑥「WEB ビジネスの起業家像—シリコンバレーのモバイル&ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第 10 巻 10 号、pp.753-774,2011 年

⑦「ハイテク・スタートアップの経営戦略—オープン・イノベーションの源泉」田路則子・露木恵美子、東洋経済新報社、2010 年

⑧「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也、『赤門マネジメント・レビュー』東京大学、第 8 巻、5 号、pp211-231,2009 年

⑨「アーキテクチャル・イノベーション」田路則子、白桃書房、2005 年

【Outline (in English)】

【Outline & Objectives】

This seminar focuses on innovation management from both view points of large companies and startups. We discuss large companies' challenging new businesses in order to go forward and startups' growing rapidly. We have to strengthen English capability in response to global economy.

【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases and submit small report. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】: Small reports(20%), discussion contribution(40%),business planning in each group(40%)

MAN300FA

演習 4

田路 則子

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい産業をおこし、企業が成長していく原動力ともいえるイノベーションを、「新規事業とスタートアップのマネジメント」の視点から考察していく。既存企業が成長するためにチャレンジする新規事業と急成長するスタートアップ、つまりベンチャー企業のマネジメントを取り上げる。特に、グローバル人材の養成が実業界から求められていることを勘案して、英語の強化を併せて行う。

【到達目標】

ケース・スタディによって分析と議論を行い、戦略的視点を養う。ビジネスプランの作成と応募により、実践的なプランニング能力とプレゼンテーション能力を養う。実務家の講演やケースを通じてキャリア・デザインについて考える。学内の英語の講義を並行受講したり、記事を読むことによって英語の能力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

デザイン工学部の講義と提携をして、技術シーズを利用した新しい製品サービスの事業化を企画する。原則として 4 時限をコラボレーションの時間に作る。ケース・スタディは、日本や米国の新規事業やスタートアップのマネジメントを取り上げたケースを事前に読んできて、小數で議論を行って発表する。ビジネスプランニングの能力を養うために、財務、会計を含めた基礎知識を復習しながら、ビジネスプランニングの手法を学ぶ。ビジネスのアイデア創出から、コンセプトづくり、戦略設定、オペレーション策定までを行う。ビジネスプランコンテストに応募することを目標とする。当ゼミは、海外の大学と連携した合同ゼミのために、英語によるプレゼンテーションを練習する。また、連携しているスタートアップやベンチャー・キャピタルへのインターンシップに参加する学生も多い。活発な活動への積極的参加を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コラボのビジネスプラン完成	各チーム準備
第 2 回	コラボのビジネスプラン発表	発表と質疑
第 3 回	新規事業のマネジメント/コラボのコンテスト応募プラン作成	解説
第 4 回	新規事業の事例分析 1/コラボのコンテスト応募プラン作成	サービス産業
第 5 回	日本企業の新規事業を担う組織体制/コラボのコンテスト応募プラン作成	解説
第 6 回	新規事業の事例分析 2/コラボのコンテスト応募プラン作成	製造業
第 7 回	新規事業の事例分析 2/コラボのコンテスト応募プラン完成	製造業
第 8 回	外部スピーカー	新規事業担当者
第 9 回	新規事業の事例分析 3	製造業
第 10 回	新規事業の事例分析 4	製造業
第 11 回	キャリア・デザイン理論と実例	理論と実例
第 12 回	スタートアップの事例分析 1	米国の事例
第 13 回	スタートアップの事例分析 2	米国の事例
第 14 回	スタートアップの事例分析 3	日本の事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のケースを読み、事前にメモを提出する。毎週、準備と復習に、4 時間程度が必要になる。

【テキスト（教科書）】

『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年
『ハイテク・スタートアップの経営戦略』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社, 2010 年

【参考書】

「アントレプレナーシップ」ウィリアム・バイグレイブ・アンドリュウ・ザカラキス, 日経 BP 社, 2009 年
「新規事業はなぜ成功しないのか」大江健, 日本経済新聞社, 2008 年

【成績評価の方法と基準】

毎回のメモ (20%)、議論への貢献 (40%)、グループで行うビジネスプランニング (40%)

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミの時間を設定して、密度の濃いゼミナールとしたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC VTR

【関連科目】

製品開発論 I/II、技術管理論 I/II、経営戦略論 I/II、中小企業論 I/II、国際経営戦略論 I/II

【業績】

- ①「フロー経験と起業マインドー 3 日間の Startup Weekend は起業マインドを高めるのか」田路則子・浅川希洋志・林永周・山田裕美『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会, 第 38 巻, pp.25-30, 2021.
- ②『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年
- ③「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第 65 巻号, pp172-184, 2017 年.
- ④ “Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,” Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287, 2014
- ⑤「ハイテク産業における研究開発者のキャリア」田路則子『日本のキャリア論ー専門職編』金井壽宏・鈴木竜太編著 白桃書房, pp.133 ~ 159, 2013 年.
- ⑥「WEB ビジネスの起業家像ーシリコンバレーのモバイル&ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第 10 巻 10 号, pp.753-774, 2011 年
- ⑦『ハイテク・スタートアップの経営戦略ーオープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社, 2010 年
- ⑧「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也, 『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第 8 巻, 5 号, pp211-231, 2009 年
- ⑨「アーキテクチャル・イノベーション」田路則子, 白桃書房, 2005 年

【Outline (in English)】

【Outline & Objectives】

This seminar focuses on innovation management from both view points of large companies and startups. We discuss large companies' challenging new businesses in order to go forward and startups' growing rapidly. We have to strengthen English capability in response to global economy.

【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases and submit small report. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】: Small reports(20%), discussion contribution(40%), business planning in each group(40%)

MAN400FA

演習 5

田路 則子

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい産業をおこし、企業が成長していく原動力ともいえるイノベーションを、「新規事業とスタートアップのマネジメント」の視点から考察していく。既存企業が成長するためにチャレンジする新規事業と急成長するスタートアップ、つまりベンチャー企業のマネジメントを取り上げる。特に、グローバル人材の養成が実業界から求められていることを勘案して、英語の強化を併せて行う。

【到達目標】

ケース・スタディによって分析と議論を行い、戦略的視点を養う。ビジネスプランの作成と応募により、実践的なプランニング能力とプレゼンテーション能力を養う。実務家の講演やケースを通じてキャリア・デザインについて考える。学内の英語の講義を並行受講したり、記事を読むことによって英語の能力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

できるだけ対面で、場合によって ZOOM を使用したインタラクティブを予定している。

デザイン工学部の講義と提携をして、技術シーズを利用した新しい製品サービスの事業化を企画する。通常は 4 時限をそのコラボレーションの時間にしている。ケース・スタディは、日本や米国の新規事業やスタートアップのマネジメントを取り上げたケースを事前に読んできて、小教で議論を行って発表する。ビジネスプランニングの能力を養うために、財務、会計を含めた基礎知識を復習しながら、ビジネスプランニングの手法を学ぶ。ビジネスのアイデア創出から、コンセプトづくり、戦略設定、オペレーション策定までを行う。ビジネスプランコンテストに応募することを目標とする。当ゼミは、海外の大学と連携した合同ゼミを行うため、英語を使ったコミュニケーションが必要となる。また、連携しているスタートアップやベンチャー・キャピタルへのインターンシップに参加する学生も多い。活発な活動への積極的参加を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ビジネスプランとは/コラボレーションプロジェクトのイントロ 1	要素の説明
第 2 回	アイデアジェネレーション 1/コラボのイントロ 2	ビジネスモデルキャンパス 1
第 3 回	アイデアジェネレーション 2/コラボのチーム結成	ビジネスモデルキャンパス 2
第 4 回	財務知識の確認 1/コラボのアイデア創出 1	Cash Flow
第 5 回	財務知識の確認 2 / コラボのアイデア創出 2	BS/PL
第 6 回	スタートアップの事例分析 1/コラボのアイデア創出	日本の事例
第 7 回	スタートアップの事例分析 1/コラボのアイデアまとめ	日本の事例
第 8 回	コラボの中間発表	チーム発表
第 9 回	起業家概念/コラボのブラッシュアップ 1	アントレプレナー、スタートアップ、ベンチャー
第 10 回	イノベーションの担い手/コラボのブラッシュアップ 2	イノベーションの定義とオープン・イノベーション
第 11 回	日本の起業家活動/コラボのブラッシュアップ 3	起業意思、シリアル/ノービスアントレプレナー
第 12 回	成長のマネジメント/コラボのブラッシュアップ 4	機会発見と成長プロセス
第 13 回	財務計画とマーケティング/コラボのビジネスプラン 1	ビジネスプランの書き方

第 14 回 資金調達/コラボのビジ マルストン投資、資本政策
ネスプラン 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のケースを読み、事前にメモを提出する。毎週、準備と復習に、4 時間程度が必要になる。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年
「アントレプレナーシップ」ウィリアム・バイグレイブ・アンドリュウ・ザカラキス、日経 BP 社、2009 年
「新規事業はなぜ成功しないのか」大江健、日本経済新聞社、2008 年

【成績評価の方法と基準】

毎回のメモ (20%)、議論への貢献 (40%)、グループで行うビジネスプランニング (40%)

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミの時間を設定して、密度の濃いゼミナールとしたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC VTR

【関連科目】

製品開発論 I/II、技術管理論 I/II、経営戦略論 I/II、中小企業論 I/II、国際経営戦略論 I/II

【業績】

①「フロー経験と起業マインドー 3 日間の Startup Weekend は起業マインドを高めるのか」田路則子・浅川希洋志・林永周・山田裕美『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会、第 38 巻、pp.25-30,2021.

②『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年
③「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第 65 巻号、pp172-184,2017 年.

④ “Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,” Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287,2014

⑤「ハイテク産業における研究開発者のキャリア」田路則子『日本のキャリア論—専門職編』金井壽宏・鈴木竜太編著 白桃書房、pp.133 ~ 159,2013 年.

⑥「WEB ビジネスの起業家像—シリコンバレーのモバイル&ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第 10 巻 10 号、pp.753-774,2011 年

⑦「ハイテク・スタートアップの経営戦略—オープン・イノベーションの源泉」田路則子・露木恵美子、東洋経済新報社、2010 年

⑧「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也、『赤門マネジメント・レビュー』東京大学、第 8 巻、5 号、pp211-231,2009 年

⑨「アーキテクチャル・イノベーション」田路則子、白桃書房、2005 年

【Outline (in English)】

【Outline & Objectives】

This seminar focuses on innovation management from both view points of large companies and startups. We discuss large companies' challenging new businesses in order to go forward and startups' growing rapidly. We have to strengthen English capability in response to global economy.

【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases and submit small report. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】: Small reports(20%), discussion contribution(40%),business planning in each group(40%)

MAN400FA

演習 6

田路 則子

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい産業をおこし、企業が成長していく原動力ともいえるイノベーションを、「新規事業とスタートアップのマネジメント」の視点から考察していく。既存企業が成長するためにチャレンジする新規事業と急成長するスタートアップ、つまりベンチャー企業のマネジメントを取り上げる。特に、グローバル人材の養成が実業界から求められていることを勘案して、英語の強化を併せて行う。

【到達目標】

ケース・スタディによって分析と議論を行い、戦略的視点を養う。ビジネスプランの作成と応募により、実践的なプランニング能力とプレゼンテーション能力を養う。実務家の講演やケースを通じてキャリア・デザインについて考える。学内の英語の講義を並行受講したり、記事を読むことによって英語の能力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

デザイン工学部の講義と提携をして、技術シーズを利用した新しい製品サービスの事業化を企画する。原則として 4 時限をコラボレーションの時間にする。ケース・スタディは、日本や米国の新規事業やスタートアップのマネジメントを取り上げたケースを事前に読んできて、小數で議論を行って発表する。ビジネスプランニングの能力を養うために、財務、会計を含めた基礎知識を復習しながら、ビジネスプランニングの手法を学ぶ。ビジネスのアイデア創出から、コンセプトづくり、戦略設定、オペレーション策定までを行う。ビジネスプランコンテストに応募することを目標とする。当ゼミは、海外の大学と連携した合同ゼミのために、英語によるプレゼンテーションを練習する。また、連携しているスタートアップやベンチャー・キャピタルへのインターンシップに参加する学生も多い。活発な活動への積極的参加を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コラボのビジネスプラン完成	各チーム準備
第 2 回	コラボのビジネスプラン発表	発表と質疑
第 3 回	新規事業のマネジメント/コラボのコンテスト応募プラン作成	解説
第 4 回	新規事業の事例分析 1/コラボのコンテスト応募プラン作成	サービス産業
第 5 回	日本企業の新規事業を担う組織体制/コラボのコンテスト応募プラン作成	解説
第 6 回	新規事業の事例分析 2/コラボのコンテスト応募プラン作成	製造業
第 7 回	新規事業の事例分析 2/コラボのコンテスト応募プラン完成	製造業
第 8 回	外部スピーカー	新規事業担当者
第 9 回	新規事業の事例分析 3	製造業
第 10 回	新規事業の事例分析 4	製造業
第 11 回	キャリア・デザイン理論と実例	理論と実例
第 12 回	スタートアップの事例分析 1	米国の事例
第 13 回	スタートアップの事例分析 2	米国の事例
第 14 回	スタートアップの事例分析 3	日本の事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のケースを読み、事前にメモを提出する。毎週、準備と復習に、4 時間程度が必要になる。

【テキスト（教科書）】

『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年
『ハイテク・スタートアップの経営戦略』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社, 2010 年

【参考書】

「アントレプレナーシップ」ウィリアム・バイグレイブ・アンドリュウ・ザカラキス, 日経 BP 社, 2009 年
「新規事業はなぜ成功しないのか」大江健, 日本経済新聞社, 2008 年

【成績評価の方法と基準】

毎回のメモ (20%)、議論への貢献 (40%)、グループで行うビジネスプランニング (40%)

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミの時間を設定して、密度の濃いゼミナールとしたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC VTR

【関連科目】

製品開発論 I/II、技術管理論 I/II、経営戦略論 I/II、中小企業論 I/II、国際経営戦略論 I/II

【業績】

- ①「フロー経験と起業マインドー 3 日間の Startup Weekend は起業マインドを高めるのか」田路則子・浅川希洋志・林永周・山田裕美『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会, 第 38 巻, pp.25-30, 2021.
- ②『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年
- ③「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第 65 巻号, pp172-184, 2017 年.
- ④ “Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,” Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287, 2014
- ⑤「ハイテク産業における研究開発者のキャリア」田路則子『日本のキャリア論ー専門職編』金井壽宏・鈴木竜太編著 白桃書房, pp.133 ~ 159, 2013 年.
- ⑥「WEB ビジネスの起業家像ーシリコンバレーのモバイル&ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第 10 巻 10 号, pp.753-774, 2011 年
- ⑦「ハイテク・スタートアップの経営戦略ーオープン・イノベーションの源泉」田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社, 2010 年
- ⑧「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也, 『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第 8 巻, 5 号, pp211-231, 2009 年
- ⑨「アーキテクチャル・イノベーション」田路則子, 白桃書房, 2005 年

【Outline (in English)】

【Outline & Objectives】

This seminar focuses on innovation management from both view points of large companies and startups. We discuss large companies' challenging new businesses in order to go forward and startups' growing rapidly. We have to strengthen English capability in response to global economy.

【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases and submit small report. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】: Small reports(20%), discussion contribution(40%), business planning in each group(40%)

MAN200FA

演習 1

筒井 知彦

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業会計のルールとディスクロージャーについて学び、企業分析を行う。

①経営戦略分析 (定性分析) と②有価証券報告書にもとづく財務分析 (定量分析) をもとに企業分析を行う。

①について

通常、企業分析ではまず、定性分析が行われる。すなわち、競争優位を獲得するための経営戦略分析を通じて、事業の成功要因や事業リスクが明らかにされる。2 年次に履修した「経営戦略論」の知識をもとに、新聞、雑誌、文献、有価証券報告書などの検討をつうじて、選択した業界および各社の経営戦略について調べる。

②について

企業会計のルールと考え方については 2 年次に履修した「会計学入門」および 3 年次に履修する会計関係科目の知識を前提に、不足する部分を学習する。また、有価証券報告書を読むための基本的な分析手法を身に付ける。次に、①で分析した戦略が実際の成果となっているかどうか、有価証券報告書をもとに財務分析を行う。この作業により、有価証券報告書を読みこなせるよう指導したい。

以上の分析では、業界及び企業の選択はゼミ生諸君と相談のうえで決定することにしたい。

【到達目標】

- ①実際の企業の経営戦略の知識を得ることができる
- ②有価証券報告書などの財務諸表を読解できる
- ③さまざまな会計ルールを理解できる
- ④企業分析ができる
- ⑤チームで力を発揮できる
- ⑥プレゼンテーション能力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

進め方としては、グループ制を採用し、学生の発表を中心に進める。同一業界から各自 1 社 (合計 3、4 社) を選択し、グループごとに財務分析及び経営戦略分析に関する報告を重ね、その結果をレポートにまとめる。それにより、選択した業界について認識を深めてもらいたい。

【授業の方法】

- ① チーム制による報告及び議論、② レジュメ作成

【授業計画】

2022 年度は製薬、トイレットリー、鉄道の 3 業界を分析した。2023 年度に分析する業界は受講生と相談して決定する予定である。そのため、以下の授業計画は 2022 年度の 3 業界をもとに記入していることに注意されたい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	トイレットリー業界の分析 ① (経営戦略分析)	トイレットリー業界の仕組み、特徴、経営戦略、問題点の報告とディスカッション
第 2 回	トイレットリー業界の分析 ②	ライオンの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 3 回	トイレットリー業界の分析 ③	ユニ・チャームの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 4 回	トイレットリー業界の分析 ④	花王の特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 5 回	トイレットリー業界の分析 ⑤、製薬業界の分析①	トイレットリー業界のまとめ、製薬業界の仕組み、特徴
第 6 回	製薬業界の分析②	製薬業界の経営戦略、問題点の報告とディスカッション、武田薬品工業の特徴、経営戦略
第 7 回	製薬業界の分析③	武田薬品工業の課題の報告とディスカッション、アステラス製薬の特徴、経営戦略
第 8 回	製薬業界の分析④	アステラス製薬の課題の報告とディスカッション、第一三共の特徴、経営戦略
第 9 回	製薬業界の分析⑤	第一三共の課題の報告とディスカッション、エーザイの特徴、経営戦略

第 10 回	製薬業界の分析⑥、鉄道業界の分析①	エーザイの課題の報告とディスカッション、製薬業界のまとめ、鉄道業界の仕組み、特徴
第 11 回	鉄道業界の分析②	鉄道業界の経営戦略、問題点の報告とディスカッション、東急の特徴、経営戦略
第 12 回	鉄道の分析③	東急の課題の報告とディスカッション、小田急の特徴、経営戦略
第 13 回	鉄道業界の分析④	小田急の課題の報告とディスカッション、東武の特徴、経営戦略
第 14 回	鉄道業界の分析⑤、まとめ	東武の課題の報告とディスカッション、鉄道業界のまとめおよび、春学期の振り返りと秋学期に向けての P D C A プラン策定

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

3 年生はグループ報告に向けて各自が報告準備を整えるとともに、グループで集まり、報告内容について議論すること。4 年生は 3 年生の各グループをサポートするとともに卒業論文報告会に向けて準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に説明する。

【参考書】

桜井久勝『財務諸表分析第 4 版』中央経済社
パレブ他『企業分析入門第 2 版』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

グループワーク (40%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (30%) をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ研究については各回ごとに発表者以外の参加者全員からコメントシートを提出してもらうとともに教員からフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

関連科目：財務会計論 I / II、国際会計論 I / II、企業評価論 I / II、経営分析 I / II、III / IV

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar aims to provide a foundation on which you develop the essential skills of academic life: conducting research, thinking critically, reading and writing academic texts, making presentations, participating in discussions. These will be pursued through close interaction with seminar members and your supervisor.

(Learning Objectives)

・ Describe and apply the basic techniques of financial statement analysis.

・ Explain the linkage between strategic business analysis, accounting analysis and financial analysis

(Learning activities outside of classroom)

Preparing for your presentation.

(Grading Criteria /Policy)

Presentation:70%,Report:30%

MAN200FA

演習 2

筒井 知彦

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計のルールとディスクロージャーについて学び、企業分析を行う。

①経営戦略分析（定性分析）と②有価証券報告書にもとづく財務分析（定量分析）をもとに企業分析を行う。

①について

通常、企業分析ではまず、定性分析が行われる。すなわち、競争優位を獲得するための経営戦略分析を通じて、事業の成功要因や事業リスクが明らかにされる。2 年次に履修した「経営戦略論」の知識をもとに、新聞、雑誌、文献、有価証券報告書などの検討をつうじて、選択した業界および各社の経営戦略について調べる。

②について

企業会計のルールと考え方については 2 年次に履修した「会計学入門」および 3 年次に履修する会計関係科目の知識を前提に、不足する部分を学習する。また、有価証券報告書を読むための基本的な分析手法を身に付ける。次に、①で分析した戦略が実際の成果となっているかどうか、有価証券報告書をもとに財務分析を行う。この作業により、有価証券報告書を読みこなせるよう指導したい。

以上の分析では、業界及び企業の選択はゼミ生諸君と相談のうえで決定することにしたい。

【到達目標】

①実際の企業の経営戦略の知識を得ることができる

②有価証券報告書などの財務諸表を読解できる

③さまざまな会計ルールを理解できる

④企業分析ができる

⑤チームで力を発揮できる

⑥プレゼンテーション能力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

進め方としては、グループ制を採用し、学生の発表を中心に進める。同一業界から各自 1 社（合計 3、4 社）を選択し、グループごとに財務分析及び経営戦略分析に関する報告を重ね、その結果をレポートにまとめる。それにより、選択した業界について認識を深めてもらいたい。

【授業の方法】

① チーム制による報告及び議論、② レジュメ作成

【授業計画】

2022 年度は製薬、トイレットリー、鉄道の 3 業界を分析した。2023 年度に分析する業界は受講生と相談して決定する予定である。そのため、以下の授業計画は 2022 年度の 3 業界をもとに記入していることに注意されたたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	トイレットリー業界の分析 ①（財務分析）	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第 2 回	トイレットリー業界の分析 ②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション
第 3 回	トイレットリー業界の分析 ③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション
第 4 回	トイレットリー業界の分析 ④	成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：ROE、ROA、ROE の 3 分解、CVP 分析の報告とディスカッション
第 5 回	入ゼミ面接	入ゼミ希望者に面接を行う
第 6 回	製薬業界の分析①	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション

第 7 回 製薬業界の分析②

効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション

第 8 回 製薬業界の分析③

安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション

第 9 回 製薬業界の分析④

成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：ROE、ROA、ROE の 3 分解、CVP 分析の報告とディスカッション

第 10 回 鉄道業界の分析①

収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション

第 11 回 鉄道業界の分析②

効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション

第 12 回 鉄道業界の分析③

安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション

第 13 回 鉄道業界の分析④

成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：ROE、ROA、ROE の 3 分解、CVP 分析の報告とディスカッション

第 14 回 まとめ

秋学期の振り返りと最終発表（春合宿）に向けての PDCA

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3 年生はグループ報告に向けて各自が報告準備を整えるとともに、グループで集まり、報告内容について議論すること。4 年生は 3 年生の各グループをサポートするとともに卒業論文報告会に向けて準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に説明する。

【参考書】

桜井久勝『財務諸表分析第 4 版』中央経済社
パレブ他『企業分析入門第 2 版』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

グループワーク（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ研究については各回ごとに発表者以外の参加者全員からコメントシートを提出してもらうとともに教員からフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

関連科目：財務会計論 I / II、国際会計論 I / II、企業評価論 I / II、経営分析 I / II、III / IV

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar aims to provide a foundation on which you develop the essential skills of academic life: conducting research, thinking critically, reading and writing academic texts, making presentations, participating in discussions. These will be pursued through close interaction with seminar members and your supervisor.

(Learning Objectives)

(Learning Objectives)

・ Describe and apply the basic techniques of financial statement analysis.

・ Explain the linkage between strategic business analysis, accounting analysis and financial analysis

(Learning activities outside of classroom)

Preparing for your presentation.

(Grading Criteria / Policy)

Presentation:70%,Report:30%

MAN300FA

演習 3

筒井 知彦

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計のルールとディスクロージャーについて学び、企業分析を行う。

①経営戦略分析（定性分析）と②有価証券報告書にもとづく財務分析（定量分析）をもとに企業分析を行う。

①について

通常、企業分析ではまず、定性分析が行われる。すなわち、競争優位を獲得するための経営戦略分析を通じて、事業の成功要因や事業リスクが明らかにされる。2 年次に履修した「経営戦略論」の知識をもとに、新聞、雑誌、文献、有価証券報告書などの検討をつうじて、選択した業界および各社の経営戦略について調べる。

②について

企業会計のルールと考え方については 2 年次に履修した「会計学入門」および 3 年次に履修する会計関係科目の知識を前提に、不足する部分を学習する。また、有価証券報告書を読むための基本的な分析手法を身に付ける。次に、①で分析した戦略が実際の成果となっているかどうか、有価証券報告書をもとに財務分析を行う。この作業により、有価証券報告書を読みこなせるよう指導したい。

以上の分析では、業界及び企業の選択はゼミ生諸君と相談のうえで決定することにしたい。

【到達目標】

- ①実際の企業の経営戦略の知識を得ることができる
- ②有価証券報告書などの財務諸表を読解できる
- ③さまざまな会計ルールを理解できる
- ④企業分析ができる
- ⑤チームで力を発揮できる
- ⑥プレゼンテーション能力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

進め方としては、グループ制を採用し、学生の発表を中心に進める。同一業界から各自 1 社（合計 3、4 社）を選択し、グループごとに財務分析及び経営戦略分析に関する報告を重ね、その結果をレポートにまとめる。それにより、選択した業界について認識を深めてもらいたい。

【授業の方法】

- ① チーム制による報告及び議論、② レジュメ作成

【授業計画】

2022 年度は製薬、トイレットリー、鉄道の 3 業界を分析した。2023 年度に分析する業界は受講生と相談して決定する予定である。そのため、以下の授業計画は 2022 年度の 3 業界をもとに記入していることに注意されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	トイレットリー業界の分析 ①（経営戦略分析）	トイレットリー業界の仕組み、特徴、経営戦略、問題点の報告とディスカッション
第 2 回	トイレットリー業界の分析 ②	ライオンの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 3 回	トイレットリー業界の分析 ③	ユニ・チャームの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 4 回	トイレットリー業界の分析 ④	花王の特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 5 回	トイレットリー業界の分析 ⑤、製薬業界の分析①	トイレットリー業界のまとめ、製薬業界の仕組み、特徴
第 6 回	製薬業界の分析②	製薬業界の経営戦略、問題点の報告とディスカッション、武田薬品工業の特徴、経営戦略
第 7 回	製薬業界の分析③	武田薬品工業の課題の報告とディスカッション、アステラス製薬の特徴、経営戦略
第 8 回	製薬業界の分析④	アステラス製薬の課題の報告とディスカッション、第一三共の特徴、経営戦略
第 9 回	製薬業界の分析⑤	第一三共の課題の報告とディスカッション、エーザイの特徴、経営戦略

第 10 回	製薬業界の分析⑥、鉄道業界の分析①	エーザイの課題の報告とディスカッション、製薬業界のまとめ、鉄道業界の仕組み、特徴
第 11 回	鉄道業界の分析②	鉄道業界の経営戦略、問題点の報告とディスカッション、東急の特徴、経営戦略
第 12 回	鉄道の分析③	東急の課題の報告とディスカッション、小田急の特徴、経営戦略
第 13 回	鉄道業界の分析④	小田急の課題の報告とディスカッション、東武の特徴、経営戦略
第 14 回	鉄道業界の分析⑤、まとめ	東武の課題の報告とディスカッション、鉄道業界のまとめおよび、春学期の振り返りと秋学期に向けての P D C A プラン策定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3 年生はグループ報告に向けて各自が報告準備を整えるとともに、グループで集まり、報告内容について議論すること。4 年生は 3 年生の各グループをサポートするとともに卒業論文報告会に向けて準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に説明する。

【参考書】

桜井久勝『財務諸表分析第 4 版』中央経済社
パレブ他『企業分析入門第 2 版』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

グループワーク（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ研究については各回ごとに発表者以外の参加者全員からコメントシートを提出してもらうとともに教員からフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

関連科目：財務会計論 I / II、国際会計論 I / II、企業評価論 I / II、経営分析 I / II、III / IV

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar aims to provide a foundation on which you develop the essential skills of academic life: conducting research, thinking critically, reading and writing academic texts, making presentations, participating in discussions. These will be pursued through close interaction with seminar members and your supervisor.

(Learning Objectives)

・ Describe and apply the basic techniques of financial statement analysis.

・ Explain the linkage between strategic business analysis, accounting analysis and financial analysis
(Learning activities outside of classroom)

Preparing for your presentation.

(Grading Criteria /Policy)

Presentation:70%,Report:30%

MAN300FA

演習 4

筒井 知彦

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計のルールとディスクロージャーについて学び、企業分析を行う。

①経営戦略分析（定性分析）と②有価証券報告書にもとづく財務分析（定量分析）をもとに企業分析を行う。

①について

通常、企業分析ではまず、定性分析が行われる。すなわち、競争優位を獲得するための経営戦略分析を通じて、事業の成功要因や事業リスクが明らかにされる。2 年次に履修した「経営戦略論」の知識をもとに、新聞、雑誌、文献、有価証券報告書などの検討をつうじて、選択した業界および各社の経営戦略について調べる。

②について

企業会計のルールと考え方については 2 年次に履修した「会計学入門」および 3 年次に履修する会計関係科目の知識を前提に、不足する部分を学習する。また、有価証券報告書を読むための基本的な分析手法を身に付ける。次に、①で分析した戦略が実際の成果となっているかどうか、有価証券報告書をもとに財務分析を行う。この作業により、有価証券報告書を読みこなせるよう指導したい。

以上の分析では、業界及び企業の選択はゼミ生諸君と相談のうえで決定することにしたい。

【到達目標】

①実際の企業の経営戦略の知識を得ることができる

②有価証券報告書などの財務諸表を読解できる

③さまざまな会計ルールを理解できる

④企業分析ができる

⑤チームで力を発揮できる

⑥プレゼンテーション能力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

進め方としては、グループ制を採用し、学生の発表を中心に進める。同一業界から各自 1 社（合計 3、4 社）を選択し、グループごとに財務分析及び経営戦略分析に関する報告を重ね、その結果をレポートにまとめる。それにより、選択した業界について認識を深めてもらいたい。

【授業の方法】

① チーム制による報告及び議論、② レジュメ作成

【授業計画】

2022 年度は製薬、トイレットリー、鉄道の 3 業界を分析した。2023 年度に分析する業界は受講生と相談して決定する予定である。そのため、以下の授業計画は 2022 年度の 3 業界をもとに記入していることに注意されたたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	トイレットリー業界の分析 ①（財務分析）	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第 2 回	トイレットリー業界の分析 ②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション
第 3 回	トイレットリー業界の分析 ③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション
第 4 回	トイレットリー業界の分析 ④	成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：ROE、ROA、ROE の 3 分解、CVP 分析の報告とディスカッション
第 5 回	入ゼミ面接	入ゼミ希望者に面接を行う
第 6 回	製薬業界の分析①	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション

第 7 回 製薬業界の分析②

効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション

第 8 回 製薬業界の分析③

安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション

第 9 回 製薬業界の分析④

成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：ROE、ROA、ROE の 3 分解、CVP 分析の報告とディスカッション

第 10 回 鉄道業界の分析①

収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション

第 11 回 鉄道業界の分析②

効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション

第 12 回 鉄道業界の分析③

安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション

第 13 回 鉄道業界の分析④

成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：ROE、ROA、ROE の 3 分解、CVP 分析の報告とディスカッション

第 14 回 まとめ

秋学期の振り返りと最終発表（春合宿）に向けての PDCA

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3 年生はグループ報告に向けて各自が報告準備を整えるとともに、グループで集まり、報告内容について議論すること。4 年生は 3 年生の各グループをサポートするとともに卒業論文報告会に向けて準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に説明する。

【参考書】

桜井久勝『財務諸表分析第 4 版』中央経済社
パレブ他『企業分析入門第 2 版』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

グループワーク（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ研究については各回ごとに発表者以外の参加者全員からコメントシートを提出してもらうとともに教員からフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

関連科目：財務会計論 I / II、国際会計論 I / II、企業評価論 I / II、経営分析 I / II、III / IV

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar aims to provide a foundation on which you develop the essential skills of academic life: conducting research, thinking critically, reading and writing academic texts, making presentations, participating in discussions. These will be pursued through close interaction with seminar members and your supervisor.

(Learning Objectives)

(Learning Objectives)

・ Describe and apply the basic techniques of financial statement analysis.

・ Explain the linkage between strategic business analysis, accounting analysis and financial analysis

(Learning activities outside of classroom)

Preparing for your presentation.

(Grading Criteria / Policy)

Presentation:70%,Report:30%

MAN400FA

演習 5

筒井 知彦

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計のルールとディスクロージャーについて学び、企業分析を行う。

①経営戦略分析（定性分析）と②有価証券報告書にもとづく財務分析（定量分析）をもとに企業分析を行う。

①について

通常、企業分析ではまず、定性分析が行われる。すなわち、競争優位を獲得するための経営戦略分析を通じて、事業の成功要因や事業リスクが明らかにされる。2 年次に履修した「経営戦略論」の知識をもとに、新聞、雑誌、文献、有価証券報告書などの検討をつうじて、選択した業界および各社の経営戦略について調べる。

②について

企業会計のルールと考え方については 2 年次に履修した「会計学入門」および 3 年次に履修する会計関係科目の知識を前提に、不足する部分を学習する。また、有価証券報告書を読むための基本的な分析手法を身に付ける。次に、①で分析した戦略が実際の成果となっているかどうか、有価証券報告書をもとに財務分析を行う。この作業により、有価証券報告書を読みこなせるよう指導したい。

以上の分析では、業界及び企業の選択はゼミ生諸君と相談のうえで決定することにしたい。

【到達目標】

- ①実際の企業の経営戦略の知識を得ることができる
- ②有価証券報告書などの財務諸表を読解できる
- ③さまざまな会計ルールを理解できる
- ④企業分析ができる
- ⑤チームで力を発揮できる
- ⑥プレゼンテーション能力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

進め方としては、グループ制を採用し、学生の発表を中心に進める。同一業界から各自 1 社（合計 3、4 社）を選択し、グループごとに財務分析及び経営戦略分析に関する報告を重ね、その結果をレポートにまとめる。それにより、選択した業界について認識を深めてもらいたい。

【授業の方法】

- ① チーム制による報告及び議論、② レジュメ作成

【授業計画】

2022 年度は製薬、トイレットリー、鉄道の 3 業界を分析した。2023 年度に分析する業界は受講生と相談して決定する予定である。そのため、以下の授業計画は 2022 年度の 3 業界をもとに記入していることに注意されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	トイレットリー業界の分析 ①（経営戦略分析）	トイレットリー業界の仕組み、特徴、経営戦略、問題点の報告とディスカッション
第 2 回	トイレットリー業界の分析 ②	ライオンの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 3 回	トイレットリー業界の分析 ③	ユニ・チャームの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 4 回	トイレットリー業界の分析 ④	花王の特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 5 回	トイレットリー業界の分析 ⑤、製薬業界の分析①	トイレットリー業界のまとめ、製薬業界の仕組み、特徴
第 6 回	製薬業界の分析②	製薬業界の経営戦略、問題点の報告とディスカッション、武田薬品工業の特徴、経営戦略
第 7 回	製薬業界の分析③	武田薬品工業の課題の報告とディスカッション、アステラス製薬の特徴、経営戦略
第 8 回	製薬業界の分析④	アステラス製薬の課題の報告とディスカッション、第一三共の特徴、経営戦略
第 9 回	製薬業界の分析⑤	第一三共の課題の報告とディスカッション、エーザイの特徴、経営戦略

第 10 回	製薬業界の分析⑥、鉄道業界の分析①	エーザイの課題の報告とディスカッション、製薬業界のまとめ、鉄道業界の仕組み、特徴
第 11 回	鉄道業界の分析②	鉄道業界の経営戦略、問題点の報告とディスカッション、東急の特徴、経営戦略
第 12 回	鉄道の分析③	東急の課題の報告とディスカッション、小田急の特徴、経営戦略
第 13 回	鉄道業界の分析④	小田急の課題の報告とディスカッション、東武の特徴、経営戦略
第 14 回	鉄道業界の分析⑤、まとめ	東武の課題の報告とディスカッション、鉄道業界のまとめおよび、春学期の振り返りと秋学期に向けての P D C A プラン策定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3 年生はグループ報告に向けて各自が報告準備を整えるとともに、グループで集まり、報告内容について議論すること。4 年生は 3 年生の各グループをサポートするとともに卒業論文報告会に向けて準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に説明する。

【参考書】

桜井久勝『財務諸表分析第 4 版』中央経済社
パレブ他『企業分析入門第 2 版』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

グループワーク（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ研究については各回ごとに発表者以外の参加者全員からコメントシートを提出してもらうとともに教員からフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

関連科目：財務会計論 I / II、国際会計論 I / II、企業評価論 I / II、経営分析 I / II、III / IV

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar aims to provide a foundation on which you develop the essential skills of academic life: conducting research, thinking critically, reading and writing academic texts, making presentations, participating in discussions. These will be pursued through close interaction with seminar members and your supervisor.

(Learning Objectives)

・ Describe and apply the basic techniques of financial statement analysis.

・ Explain the linkage between strategic business analysis, accounting analysis and financial analysis
(Learning activities outside of classroom)

Preparing for your presentation.

(Grading Criteria /Policy)

Presentation:70%,Report:30%

MAN400FA

演習 6

筒井 知彦

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計のルールとディスクロージャーについて学び、企業分析を行う。

①経営戦略分析（定性分析）と②有価証券報告書にもとづく財務分析（定量分析）をもとに企業分析を行う。

①について

通常、企業分析ではまず、定性分析が行われる。すなわち、競争優位を獲得するための経営戦略分析を通じて、事業の成功要因や事業リスクが明らかにされる。2 年次に履修した「経営戦略論」の知識をもとに、新聞、雑誌、文献、有価証券報告書などの検討をつうじて、選択した業界および各社の経営戦略について調べる。

②について

企業会計のルールと考え方については 2 年次に履修した「会計学入門」および 3 年次に履修する会計関係科目の知識を前提に、不足する部分を学習する。また、有価証券報告書を読むための基本的な分析手法を身に付ける。次に、①で分析した戦略が実際の成果となっているかどうか、有価証券報告書をもとに財務分析を行う。この作業により、有価証券報告書を読みこなせるよう指導したい。

以上の分析では、業界及び企業の選択はゼミ生諸君と相談のうえで決定することにしたい。

【到達目標】

①実際の企業の経営戦略の知識を得ることができる

②有価証券報告書などの財務諸表を読解できる

③さまざまな会計ルールを理解できる

④企業分析ができる

⑤チームで力を発揮できる

⑥プレゼンテーション能力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

進め方としては、グループ制を採用し、学生の発表を中心に進める。同一業界から各自 1 社（合計 3、4 社）を選択し、グループごとに財務分析及び経営戦略分析に関する報告を重ね、その結果をレポートにまとめる。それにより、選択した業界について認識を深めてもらいたい。

【授業の方法】

① チーム制による報告及び議論、② レジュメ作成

【授業計画】

2022 年度は製薬、トイレットリー、鉄道の 3 業界を分析した。2023 年度に分析する業界は受講生と相談して決定する予定である。そのため、以下の授業計画は 2022 年度の 3 業界をもとに記入していることに注意されたたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	トイレットリー業界の分析 ①（財務分析）	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第 2 回	トイレットリー業界の分析 ②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション
第 3 回	トイレットリー業界の分析 ③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション
第 4 回	トイレットリー業界の分析 ④	成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：ROE、ROA、ROE の 3 分解、CVP 分析の報告とディスカッション
第 5 回	入ゼミ面接	入ゼミ希望者に面接を行う
第 6 回	製薬業界の分析①	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション

第 7 回 製薬業界の分析②

効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション

第 8 回 製薬業界の分析③

安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション

第 9 回 製薬業界の分析④

成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：ROE、ROA、ROE の 3 分解、CVP 分析の報告とディスカッション

第 10 回 鉄道業界の分析①

収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション

第 11 回 鉄道業界の分析②

効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション

第 12 回 鉄道業界の分析③

安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション

第 13 回 鉄道業界の分析④

成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：ROE、ROA、ROE の 3 分解、CVP 分析の報告とディスカッション

第 14 回 まとめ

秋学期の振り返りと最終発表（春合宿）に向けての PDCA

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3 年生はグループ報告に向けて各自が報告準備を整えるとともに、グループで集まり、報告内容について議論すること。4 年生は 3 年生の各グループをサポートするとともに卒業論文報告会に向けて準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に説明する。

【参考書】

桜井久勝『財務諸表分析第 4 版』中央経済社
パレブ他『企業分析入門第 2 版』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

グループワーク（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ研究については各回ごとに発表者以外の参加者全員からコメントシートを提出してもらうとともに教員からフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

関連科目：財務会計論 I / II、国際会計論 I / II、企業評価論 I / II、経営分析 I / II、III / IV

【Outline (in English)】

(Course outline)

This seminar aims to provide a foundation on which you develop the essential skills of academic life: conducting research, thinking critically, reading and writing academic texts, making presentations, participating in discussions. These will be pursued through close interaction with seminar members and your supervisor.

(Learning Objectives)

(Learning Objectives)

・ Describe and apply the basic techniques of financial statement analysis.

・ Explain the linkage between strategic business analysis, accounting analysis and financial analysis

(Learning activities outside of classroom)

Preparing for your presentation.

(Grading Criteria / Policy)

Presentation:70%,Report:30%

MAN200FA

演習 1

長岡 健

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

活動テーマは「創造的なコラボレーションのデザイン」。一人ひとりが主体的に動きながら、周りとも協調し、新しい価値を生み、成果につなげていく。そんな関係を築ける力が、これからの組織づくりや経営に求められます。長岡ゼミでは、この「創造的なコラボレーション」の実践力をじっくりと身につけるトレーニングを、2年生から4年生までの3年間を通じて行っていきます。

ゼミ活動では、社会の第一線で働くゲストの話聞きながら自分の意見をまとめてみたり、人前で意見を発表してみたり、自分とは異なるタイプの人たちとグループワークをやってみたり。着実にステップアップできるトレーニング体験を、ゼミ生同士で協力しながら積み上げていきます。頭で知識を集めるのではなく、行動できる力を磨く練習場だと考えてください。

3年生の後半から4年生にかけての時期では、自分の興味がわくテーマを見つけて、これまで知らなかった世界へと飛び出していくフィールドワーク（＝越境活動）に挑戦します。ビジネス&マネジメントの世界だけでなく、以下のような多様な分野にも積極的に飛び込み、社会人や他大学生と一緒に活動することを通じて、「創造的なコラボレーション」の実践力を身につけます。

(0) ビジネス&マネジメント関連：経営分野での創造的なコラボ実践

【keyword】 復業；ワーケーション；デザイン思考；ネットワーク型組織；サーバントリーダー；対話

(1) ライフスタイル関連：豊かな生活を楽しみながら暮らすためのコラボ実践

【keyword】 多拠点生活；フードロス；アップサイクル；新しい家族関係；心と体の健康；スポーツと文化

(2) ダイバーシティ関連：多様な価値観が溢れた社会を実現するためのコラボ実践

【keyword】 共生する社会；SDGs；マイノリティ支援；フェアトレード；エシカルファッション

(3) コミュニティ関連：自由闊達な空間・場・地域をつくるためのコラボ実践

【keyword】 まちづくり；サードプレイス；都市生活；ワークプレイスデザイン；居場所づくり

(4) ラーニング関連：学びを楽しむ未来型の学校・社会をつくるためのコラボ実践

【keyword】 ワークショップ；フィールドワーク；双方向型授業；ポスト・コロナの授業デザイン

【到達目標】

- 1) 主体的に「場づくり」を行う姿勢を身につける
- 2) 多様な人々との積極的な交流を実践する
- 3) 社会に情報発信するリテラシーを身につける
- 4) 共（common）のマインドセットを身につける
- 5) 試行錯誤型の活動スタイルを実践する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゼミとは単なる「情報収集（知識伝達）の場」ではなく、「知的トレーニングの場」であるという視点に立ち、「同じ時間、同じ空間に集う」ことを意識した参加体験型で進めます。具体的には、対面式授業とオンライン授業（リアルタイム配信型）を柔軟に使いながら、以下の（1）～（7）のような多様な活動に取り組んでいきます。

- 1) ワークショップ（参加・企画運営・開発）
- 2) ゲストや他大学ゼミとの合同セッション
- 3) 読書会
- 4) フィールドワーク
- 5) 対話イベント（カフェゼミ）の企画・運営
- 6) ブログ記事・フリーペーパーの制作
- 7) プレゼンテーション

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学習活動の導入講義
第2回	プレゼンテーション	4年生の活動報告
第3回	対話セッション	ゲスト講師との対話
第4回	ワークショップ	グラレコの体験学習
第5回	ワークショップ	読書会
第6回	ワークショップ	カフェゼミ開催
第7回	対話セッション	カフェゼミ振り返り
第8回	フィールドワーク	路上観察の体験
第9回	ワークショップ	プレゼンテーションの体験学習
第10回	ワークショップ	読書会
第11回	ワークショップ	カフェゼミ開催
第12回	対話セッション	カフェゼミ振り返り
第13回	プレゼンテーション	3年生の活動報告
第14回	ラップアップ	学習活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に以下の3つの活動に主体的に取り組めます。また、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

(1) 対話イベント開催：

ゼミ生全員（2・3・4年生）で、大学の垣根を越えたオープンな「対話の場（サードプレイス）」を企画・運営するプロジェクト（通称・カフェゼミ）に取り組めます。

(2) 越境活動：

3年生は、参加体験型フィールドワークを主体的に実施し、大学以外の世界に活動範囲を広げながら、関心あるテーマを探索していきます。

(3) マイプロジェクト：

4年生は、関心あるテーマについてプロジェクトを立ち上げ、教員のアドバイスを受けながら主体的に取り組む、卒論として成果を報告します。

【テキスト（教科書）】

(1) 上田信行『プレイフル・シンキング [決定版]：働く人と場を楽しくする思考法』宣伝会議

- (2) 平田オリザ 『わかりあえないことから：コミュニケーション能力とは何か』 講談社
- (3) 長岡健 『みんなのアンラーニング論：組織に縛られずに働く、生きる、学ぶ』 翔泳社

【参考書】

- (4) 横石崇・編 『これからの僕らの働き方：次世代のスタンダードを創る 10 人に聞く』 早川書房
- (5) D. ピンク 『フリーエージェント社会の到来 新装版：組織に雇われない新しい働き方』 ダイアモンド社
- (6) L. グラットン 『リデザイン・ワーク』 東洋経済新報社
- (7) グリーンズ・編 『ソーシャルデザイン』 朝日出版社
- (8) 佐久間裕美子 『ヒップな生活革命』 朝日出版社
- (9) 末永幸歩 『13 歳からのアート思考』 ダイアモンド社
- (10) G. レイノルズ 『プレゼンテーション zen 第3版』 丸善出版

【成績評価の方法と基準】

- (1) 活動への参画度 : 40%
[評価基準] ゼミ活動に全て参加(出席)することが前提
- (2) プレゼンテーション実施 : 30%
[評価基準] 個人活動に関するプレゼンの内容を総合的に評価
- (3) ブログ記事執筆 : 30%
[評価基準] 個人で執筆するブログ記事の内容を総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】

モバイル環境でのメディア活用 (zoom under the sky) に取り組み、「学習活動のニューノーマル化」を積極的に推進します。

【学生が準備すべき機器他】

- (1) zoom、facebook、twitter、note、slack、google アカウントなどネットワークを積極的に活用します。
- (2) フィールドワークでは、画像/映像で活動を記録します。

【その他の重要事項】

「創造的なコラボレーションのデザイン」にチャレンジする第一歩は、私たち自身が活動する場 (=ゼミ) を、活動的で対話的な“アトリエ”のような場にしていくことだと思います。既成概念にとらわれることなく、様々な関係性と活動の可能性を探求する姿勢をもつメンバーの参加を望みます。

【関連科目】

3年生は『経営組織論Ⅰ／Ⅱ』を履修してください。

【長岡研究室ウェブサイト】

- (1) 長岡ゼミの活動紹介
<http://www.tnlab.net/seminar>
- (2) 長岡ゼミのウェブマガジン
<https://note.com/tnlabmelc/magazines>
- (3) 長岡ゼミのフェイスブック
<https://www.facebook.com/nagaoka.lab>
- (4) 長岡ゼミのツイッター
<https://twitter.com/tnlabmelc>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

The theme of Nagaoka Lab is Design of Creative Collaboration. Particularly the focus of the lab's activity is mainly upon developing mindsets, insights, and skills for creative collaboration in various fields of our society, which includes not only business & management related fields, but also social design fields in a broad sense.

In order to deepen understanding of the meanings of creative collaboration both in the business & management activities, and in the social design activities, and to inquire into the future creative society, in which we will hopefully value diversity and individuality, without being fettered by old conventions or old values of the 20th century, the participants of this seminar are supposed to commit to various learning activities, such as doing workshops and fieldworks, making presentations, writing essays, and so on.

In addition to committing to those learning activities, the participants are expected to individually do their own projects in relation either to the business & management fields or to the social design fields, and to make a theoretical and/or practical contribution to designing the future creative society, by using the following key conceptual tools of “unlearning”, “third place”, “workshop”, “ethnography”, and “boundary crossing”.

[Learning Objectives]

The objectives of this seminar are :

- (1) to develop mindsets, insights, and skills for the design of creative collaboration,
- (2) to deepen understanding of the meanings of creative collaboration, and
- (3) to sharpen the insights into the future creative society.

[Learning Activities outside of Classroom]

Before/after each class meeting, the learners are expected to spend 2 hours to understand the course content, by reading the texts and references, writing reflection papers about guest lectures, and doing fieldworks in relation to the design of creative collaboration.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on in-class contribution (70%), presentation about field works (10%), and academic essays (20%).

MAN200FA

演習 2

長岡 健

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

活動テーマは「創造的なコラボレーションのデザイン」。一人ひとりが主体的に動きながら、周りとも協調し、新しい価値を生み、成果につなげていく。そんな関係を築ける力が、これからの組織づくりや経営に求められます。長岡ゼミでは、この「創造的なコラボレーション」の実践力をじっくりと身につけるトレーニングを、2年生から4年生までの3年間を通じて行っていきます。

ゼミ活動では、社会の第一線で働くゲストの話の聞きながら自分の意見をまとめてみたり、人前で意見を発表してみたり、自分とは異なるタイプの人たちとグループワークをやってみたり。着実にステップアップできるトレーニング体験を、ゼミ生同士で協力しながら積み上げていきます。頭で知識を集めるのではなく、行動できる力を磨く練習場だと考えてください。

3年生の後半から4年生にかけての時期では、自分の興味がわくテーマを見つけて、これまで知らなかった世界へと飛び出していくフィールドワーク（＝越境活動）に挑戦します。ビジネス&マネジメントの世界だけでなく、以下のような多様な分野にも積極的に飛び込み、社会人や他大学生と一緒に活動することを通じて、「創造的なコラボレーション」の実践力を身につけます。

(0) ビジネス&マネジメント関連：経営分野での創造的なコラボ実践

【keyword】 復業；ワーケーション；デザイン思考；ネットワーク型組織；サーバントリーダー；対話

(1) ライフスタイル関連：豊かな生活を楽しみながら暮らすためのコラボ実践

【keyword】 多拠点生活；フードロス；アップサイクル；新しい家族関係；心と体の健康；スポーツと文化

(2) ダイバーシティ関連：多様な価値観が溢れた社会を実現するためのコラボ実践

【keyword】 共生する社会；SDGs；マイノリティ支援；フェアトレード；エシカルファッション

(3) コミュニティ関連：自由闊達な空間・場・地域をつくるためのコラボ実践

【keyword】 まちづくり；サードプレイス；都市生活；ワークプレイスデザイン；居場所づくり

(4) ラーニング関連：学びを楽しむ未来型の学校・社会をつくるためのコラボ実践

【keyword】 ワークショップ；フィールドワーク；双方向型授業；ポスト・コロナの授業デザイン

【到達目標】

- (1) 主体的に「場づくり」を行う姿勢を身につける
- (2) 多様な人々との積極的な交流を実践する
- (3) 社会に情報発信するリテラシーを身につける
- (4) 共（common）のマインドセットを身につける
- (5) 試行錯誤型の活動スタイルを実践する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゼミとは単なる「情報収集（知識伝達）の場」ではなく、「知的トレーニングの場」であるという視点に立ち、「同じ時間、同じ空間に集う」ことを意識した参加体験型で進めます。具体的には、対面式授業とオンライン授業（リアルタイム配信型）を柔軟に使いながら、以下の(1)～(7)のような多様な活動に取り組んでいきます。

- (1) ワークショップ（参加・企画運営・開発）
- (2) ゲストや他大学ゼミとの合同セッション
- (3) 読書会
- (4) フィールドワーク
- (5) 対話イベント（カフェゼミ）の企画・運営
- (6) ブログ記事・フリーペーパーの制作
- (7) プレゼンテーション

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学習活動の導入講義
第2回	対話セッション	ゲスト講師との対話
第3回	プレゼンテーション	3年生の活動報告
第4回	プレゼンテーション	3年生の活動報告
第5回	ワークショップ	読書会
第6回	ワークショップ	カフェゼミ開催
第7回	対話セッション	カフェゼミ振り返り
第8回	フィールドワーク	路上観察の体験
第9回	ワークショップ	読書会
第10回	ワークショップ	カフェゼミ開催
第11回	プレゼンテーション	2年生の活動報告
第12回	プレゼンテーション	3年生の活動報告
第13回	ラップアップ	学習活動の振り返り
第14回	ワークショップ	ゼミ活動のビジョン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に以下の3つの活動に主体的に取り組めます。また、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

(1) 対話イベント開催：

ゼミ生全員（2・3・4年生）で、大学の垣根を越えたオープンな「対話の場（サードプレイス）」を企画・運営するプロジェクト（通称・カフェゼミ）に取り組めます。

(2) 越境活動：

3年生は、参加体験型フィールドワークを主体的に実施し、大学以外の世界に活動範囲を広げながら、関心あるテーマを探索していきます。

(3) マイプロジェクト：

4年生は、関心あるテーマについてプロジェクトを立ち上げ、教員のアドバイスを受けながら主体的に取り組み、卒論として成果を報告します。

【テキスト（教科書）】

(1) 上田信行『プレイフル・シンキング [決定版]：働く人と場を楽しくする思考法』宣伝会議

- (2) 平田オリザ『わかりあえないことから：コミュニケーション能力とは何か』講談社
- (3) 長岡健『みんなのアンラーニング論：組織に縛られずに働く、生きる、学ぶ』翔泳社

【参考書】

- (4) 横石崇・編『これからの僕らの働き方：次世代のスタンダードを創る10人に聞く』早川書房
- (5) D. ピンク『フリーエージェント社会の到来 新装版：組織に雇われない新しい働き方』ダイヤモンド社
- (6) L. グラットン『リデザイン・ワーク』東洋経済新報社
- (7) グリーンズ・編『ソーシャルデザイン』朝日出版社
- (8) 佐久間裕美子『ヒップな生活革命』朝日出版社
- (9) 末永幸歩『13歳からのアート思考』ダイヤモンド社
- (10) G. レイノルズ『プレゼンテーション zen 第3版』丸善出版

【成績評価の方法と基準】

- (1) 活動への参画度 : 40%
[評価基準] ゼミ活動に全て参加(出席)することが前提
- (2) プレゼンテーション実施 : 30%
[評価基準] 個人活動に関するプレゼンの内容を総合的に評価
- (3) ブログ記事執筆 : 30%
[評価基準] 個人で執筆するブログ記事の内容を総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】

モバイル環境でのメディア活用(zoom under the sky)に取り組み、「学習活動のニューノーマル化」を積極的に推進します。

【学生が準備すべき機器他】

- (1) zoom、facebook、twitter、note、slack、google アカウントなどを積極的に活用します。
- (2) フィールドワークでは、画像/映像で活動を記録します。

【その他の重要事項】

「創造的なコラボレーションのデザイン」にチャレンジする第一歩は、私たち自身が活動する場(=ゼミ)を、活動的で対話的な“アトリエ”のような場にしていくことだと思います。既成概念にとらわれることなく、様々な関係性と活動の可能性を探求する姿勢をもつメンバーの参加を望みます。

【関連科目】

3年生は『経営組織論Ⅰ/Ⅱ』を履修してください。

【長岡研究室ウェブサイト】

- (1) 長岡ゼミの活動紹介
<http://www.tnlab.net/seminar>
- (2) 長岡ゼミのウェブマガジン
<https://note.com/tnlabmelc/magazines>
- (3) 長岡ゼミのフェイスブック
<https://www.facebook.com/nagaoka.lab>
- (4) 長岡ゼミのツイッター
<https://twitter.com/tnlabmelc>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

The theme of Nagaoka Lab is Design of Creative Collaboration. Particularly the focus of the lab's activity is mainly upon developing mindsets, insights, and skills for creative collaboration in various fields of our society, which includes not only business & management related fields, but also social design fields in a broad sense.

In order to deepen understanding of the meanings of creative collaboration both in the business & management activities, and in the social design activities, and to inquire into the future creative society, in which we will hopefully value diversity and individuality, without being fettered by old conventions or old values of the 20th century, the participants of this seminar are supposed to commit to various learning activities, such as doing workshops and fieldworks, making presentations, writing essays, and so on.

In addition to committing to those learning activities, the participants are expected to individually do their own projects in relation either to the business & management fields or to the social design fields, and to make a theoretical and/or practical contribution to designing the future creative society, by using the following key conceptual tools of “unlearning”, “third place”, “workshop”, “ethnography”, and “boundary crossing”.

[Learning Objectives]

The objectives of this seminar are :

- (1) to develop mindsets, insights, and skills for the design of creative collaboration,
- (2) to deepen understanding of the meanings of creative collaboration, and
- (3) to sharpen the insights into the future creative society.

[Learning Activities outside of Classroom]

Before/after each class meeting, the learners are expected to spend 2 hours to understand the course content, by reading the texts and references, writing reflection papers about guest lectures, and doing fieldworks in relation to the design of creative collaboration.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on in-class contribution (70%), presentation about field works (10%), and academic essays (20%).

MAN300FA

演習 3

長岡 健

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

活動テーマは「創造的なコラボレーションのデザイン」。一人ひとりが主体的に動きながら、周りとも協調し、新しい価値を生み、成果につなげていく。そんな関係を築ける力が、これからの組織づくりや経営に求められます。長岡ゼミでは、この「創造的なコラボレーション」の実践力をじっくりと身につけるトレーニングを、2年生から4年生までの3年間を通じて行っていきます。

ゼミ活動では、社会の第一線で働くゲストの話聞きながら自分の意見をまとめてみたり、人前で意見を発表してみたり、自分とは異なるタイプの人たちとグループワークをやってみたり。着実にステップアップできるトレーニング体験を、ゼミ生同士で協力しながら積み上げていきます。頭で知識を集めるのではなく、行動できる力を磨く練習場だと考えてください。

3年生の後半から4年生にかけての時期では、自分の興味がわくテーマを見つけて、これまで知らなかった世界へと飛び出していくフィールドワーク（＝越境活動）に挑戦します。ビジネス&マネジメントの世界だけでなく、以下のような多様な分野にも積極的に飛び込み、社会人や他大学生と一緒に活動することを通じて、「創造的なコラボレーション」の実践力を身につけます。

(0) ビジネス&マネジメント関連：経営分野での創造的なコラボ実践

【keyword】 復業：ワーケーション；デザイン思考；ネットワーク型組織；サーバントリーダー；対話

(1) ライフスタイル関連：豊かな生活を楽しみながら暮らすためのコラボ実践
【keyword】 多拠点生活；フードロス；アップサイクル；新しい家族関係；心と体の健康；スポーツと文化

(2) ダイバーシティ関連：多様な価値観が溢れた社会を実現するためのコラボ実践

【keyword】 共生する社会；SDGs；マイノリティ支援；フェアトレード；エシカルファッション

(3) コミュニティ関連：自由闊達な空間・場・地域をつくるためのコラボ実践
【keyword】 まちづくり；サードプレイス；都市生活；ワークプレイスデザイン；居場所づくり

(4) ラーニング関連：学びを楽しむ未来型の学校・社会をつくるためのコラボ実践

【keyword】 ワークショップ；フィールドワーク；双方向型授業；ポスト・コロナの授業デザイン

【到達目標】

- 主体的に「場づくり」を行う姿勢を身につける
- 多様な人々との積極的な交流を実践する
- 社会に情報発信するリテラシーを身につける
- 共（common）のマインドセットを身につける
- 試行錯誤型の活動スタイルを実践する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゼミとは単なる「情報収集（知識伝達）の場」ではなく、「知的トレーニングの場」という視点に立ち、「同じ時間、同じ空間に集う」ことを意識した参加体験型で進めます。具体的には、対面式授業とオンライン授業（リアルタイム配信型）を柔軟に使いながら、以下の（1）～（7）のような多様な活動に取り組んでいきます。

- ワークショップ（参加・企画運営・開発）
- ゲストや他大学ゼミとの合同セッション
- 読書会
- フィールドワーク
- 対話イベント（カフェゼミ）の企画・運営
- ブログ記事・フリーペーパーの制作
- プレゼンテーション

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学習活動の導入講義
第2回	プレゼンテーション	4年生の活動報告
第3回	対話セッション	ゲスト講師との対話
第4回	ワークショップ	グラレコの体験学習
第5回	ワークショップ	読書会
第6回	ワークショップ	カフェゼミ開催
第7回	対話セッション	カフェゼミ振り返り
第8回	フィールドワーク	路上観察の体験
第9回	ワークショップ	プレゼンの体験学習
第10回	ワークショップ	読書会
第11回	ワークショップ	カフェゼミ開催
第12回	対話セッション	カフェゼミ振り返り
第13回	プレゼンテーション	3年生の活動報告
第14回	ラップアップ	学習活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に以下の3つの活動に主体的に取り組みます。また、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

(1) 対話イベント開催：
ゼミ生全員（2・3・4年生）で、大学の垣根を越えたオープンな「対話の場（サードプレイス）」を企画・運営するプロジェクト（通称・カフェゼミ）に取り組めます。

(2) 越境活動：
3年生は、参加体験型フィールドワークを主体的に実施し、大学以外の世界に活動範囲を広げながら、関心あるテーマを探索していきます。

(3) マイプロジェクト：
4年生は、関心あるテーマについてプロジェクトを立ち上げ、教員のアドバイスを受けながら主体的に取り組み、卒論として成果を報告します。

【テキスト（教科書）】

- 上田信行『プレイフル・シンキング [決定版]：働く人と場を楽しくする思考法』宣伝会議
- 平田オリザ『わかりあえないことから：コミュニケーション能力とは何か』講談社
- 長岡健『みんなのアンラーニング論：組織に縛られずに働く、生きる、学ぶ』翔泳社

【参考書】

- 横石崇・編『これからの僕らの働き方：次世代のスタンダードを創る10人に聞く』早川書房
- D. ビンク『フリーエージェント社会の到来 新装版：組織に雇われない新しい働き方』ダイヤモンド社
- L. グラットン『リアデザイン・ワーク』東洋経済新報社
- グリーンズ・編『ソーシャルデザイン』朝日出版社
- 佐久間裕美子『ヒッピーな生活革命』朝日出版社
- 末永幸歩『13歳からのアート思考』ダイヤモンド社
- G. レイノルズ『プレゼンテーション zen 第3版』丸善出版

【成績評価の方法と基準】

- 活動への参画度：40%
【評価基準】ゼミ活動に全て参加（出席）することが前提
- プレゼンテーション実施：30%
【評価基準】個人活動に関するプレゼンの内容を総合的に評価
- ブログ記事執筆：30%
【評価基準】個人で執筆するブログ記事の内容を総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】

モバイル環境でのメディア活用（zoom under the sky）に取り組み、「学習活動のニューノーマル化」を積極的に推進します。

【学生が準備すべき機器他】

- zoom、facebook、twitter、note、slack、google アカウントなどネットワークを積極的に活用します。
- フィールドワークでは、画像／映像で活動を記録しします。

【その他の重要事項】

「創造的なコラボレーションのデザイン」にチャレンジする第一歩は、私たち自身が活動する場（＝ゼミ）を、活動的で対話的な“アトリエ”のような場にしていくことだと思います。既成概念にとらわれることなく、様々な関係性と活動の可能性を探求する姿勢をもつメンバーの参加を望みます。

【関連科目】

3年生は『経営組織論Ⅰ／Ⅱ』を履修してください。

【長岡研究室ウェブサイト】

(1) 長岡ゼミの活動紹介

<http://www.tnlab.net/seminar>

(2) 長岡ゼミのウェブマガジン

<https://note.com/tnlabmelc/magazines>

(3) 長岡ゼミのフェイスブック

<https://www.facebook.com/nagaoka.lab>

(4) 長岡ゼミのツイッター

<https://twitter.com/tnlabmelc>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

The theme of Nagaoka Lab is Design of Creative Collaboration. Particularly the focus of the lab's activity is mainly upon developing mindsets, insights, and skills for creative collaboration in various fields of our society, which includes not only business & management related fields, but also social design fields in a broad sense.

In order to deepen understanding of the meanings of creative collaboration both in the business & management activities, and in the social design activities, and to inquire into the future creative society, in which we will hopefully value diversity and individuality, without being fettered by old conventions or old values of the 20th century, the participants of this seminar are supposed to commit to various learning activities, such as doing workshops and fieldworks, making presentations, writing essays, and so on.

In addition to committing to those learning activities, the participants are expected to individually do their own projects in relation either to the business & management fields or to the social design fields, and to make a theoretical and/or practical contribution to designing the future creative society, by using the following key conceptual tools of “unlearning”, “third place”, “workshop”, “ethnography”, and “boundary crossing”.

[Learning Objectives]

The objectives of this seminar are :

- (1) to develop mindsets, insights, and skills for the design of creative collaboration,
- (2) to deepen understanding of the meanings of creative collaboration, and
- (3) to sharpen the insights into the future creative society.

[Learning Activities outside of Classroom]

Before/after each class meeting, the learners are expected to spend 2 hours to understand the course content, by reading the texts and references, writing reflection papers about guest lectures, and doing fieldworks in relation to the design of creative collaboration.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on in-class contribution (70%), presentation about field works (10%), and academic essays (20%).

MAN300FA

演習 4

長岡 健

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

活動テーマは「創造的なコラボレーションのデザイン」。一人ひとりが主体的に動きながら、周りとも協調し、新しい価値を生み、成果につなげていく。そんな関係築ける力が、これからの組織づくりや経営に求められます。長岡ゼミでは、この「創造的なコラボレーション」の実践力をじっくりと身につけるトレーニングを、2年生から4年生までの3年間を通じて行っていきます。

ゼミ活動では、社会の第一線で働くゲストの話聞きながら自分の意見をまとめてみたり、人前で意見を発表してみたり、自分とは異なるタイプの人たちとグループワークをやってみたり。着実にステップアップできるトレーニング体験を、ゼミ生同士で協力しながら積み上げていきます。頭で知識を集めるのではなく、行動できる力を磨く練習場だと考えてください。

3年生の後半から4年生にかけての時期では、自分の興味がわくテーマを見つけて、これまで知らなかった世界へと飛び出していくフィールドワーク（＝越境活動）に挑戦します。ビジネス&マネジメントの世界だけでなく、以下のような多様な分野にも積極的に飛び込み、社会人や他大学生と一緒に活動することを通じて、「創造的なコラボレーション」の実践力を身につけます。

(0) ビジネス&マネジメント関連：経営分野での創造的なコラボ実践

【keyword】 復業：ワーケーション；デザイン思考；ネットワーク型組織；サーバントリーダー；対話

(1) ライフスタイル関連：豊かな生活を楽しみながら暮らすためのコラボ実践
【keyword】 多拠点生活；フードロス；アップサイクル；新しい家族関係；心と体の健康；スポーツと文化

(2) ダイバーシティ関連：多様な価値観が溢れた社会を実現するためのコラボ実践

【keyword】 共生する社会；SDGs；マイノリティ支援；フェアトレード；エシカルファッション

(3) コミュニティ関連：自由闊達な空間・場・地域をつくるためのコラボ実践
【keyword】 まちづくり；サードプレイス；都市生活；ワークプレイスデザイン；居場所づくり

(4) ラーニング関連：学びを楽しむ未来型の学校・社会をつくるためのコラボ実践

【keyword】 ワークショップ；フィールドワーク；双方向型授業；ポスト・コロナの授業デザイン

【到達目標】

- 主体的に「場づくり」を行う姿勢を身につける
- 多様な人々との積極的な交流を実践する
- 社会に情報発信するリテラシーを身につける
- 共 (common) のマインドセットを身につける
- 試行錯誤型の活動スタイルを実践する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゼミとは単なる「情報収集（知識伝達）の場」ではなく、「知的トレーニングの場」という視点に立ち、「同じ時間、同じ空間に集う」ことを意識した参加体験型で進めます。具体的には、対面式授業とオンライン授業（リアルタイム配信型）を柔軟に使いながら、以下の（1）～（7）のような多様な活動に取り組んでいきます。

- ワークショップ（参加・企画運営・開発）
- ゲストや他大学ゼミとの合同セッション
- 読書会
- フィールドワーク
- 対話イベント（カフェゼミ）の企画・運営
- ブログ記事・フリーペーパーの制作
- プレゼンテーション

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学習活動の導入講義
第2回	対話セッション	ゲスト講師との対話
第3回	プレゼンテーション	3年生の活動報告
第4回	プレゼンテーション	3年生の活動報告
第5回	ワークショップ	読書会
第6回	ワークショップ	カフェゼミ開催
第7回	対話セッション	カフェゼミ振り返り
第8回	フィールドワーク	路上観察の体験
第9回	ワークショップ	読書会
第10回	ワークショップ	カフェゼミ開催
第11回	プレゼンテーション	2年生の活動報告
第12回	プレゼンテーション	3年生の活動報告
第13回	ラップアップ	学習活動の振り返り
第14回	ワークショップ	ゼミ活動のビジョン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に以下の3つの活動に主体的に取り組みます。また、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

(1) 対話イベント開催：

ゼミ生全員（2・3・4年生）で、大学の垣根を越えたオープンな「対話の場（サードプレイス）」を企画・運営するプロジェクト（通称・カフェゼミ）に取り組めます。

(2) 越境活動：

3年生は、参加体験型フィールドワークを主体的に実施し、大学以外の世界に活動範囲を広げながら、関心あるテーマを探索していきます。

(3) マイプロジェクト：

4年生は、関心あるテーマについてプロジェクトを立ち上げ、教員のアドバイスを受けながら主体的に取り組み、卒論として成果を報告します。

【テキスト（教科書）】

- 上田信行『プレイフル・シンキング [決定版]：働く人と場を楽しくする思考法』宣伝会議
- 平田オリザ『わかりあえないことから：コミュニケーション能力とは何か』講談社
- 長岡健『みんなのアンラーニング論：組織に縛られずに働く、生きる、学ぶ』翔泳社

【参考書】

- 横石崇・編『これからの僕らの働き方：次世代のスタンダードを創る10人に聞く』早川書房
- D. ベンク『フリーエージェント社会の到来 新装版：組織に雇われない新しい働き方』ダイヤモンド社
- L. グラットン『リデザイン・ワーク』東洋経済新報社
- グリーンズ・編『ソーシャルデザイン』朝日出版社
- 佐久間裕美子『ヒップな生活革命』朝日出版社
- 末永幸歩『13歳からのアート思考』ダイヤモンド社
- G. レイノルズ『プレゼンテーション zen 第3版』丸善出版

【成績評価の方法と基準】

- 活動への参画度：40%
[評価基準] ゼミ活動に全て参加（出席）することが前提
- プレゼンテーション実施：30%
[評価基準] 個人活動に関するプレゼンの内容を総合的に評価
- ブログ記事執筆：30%
[評価基準] 個人で執筆するブログ記事の内容を総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】

モバイル環境でのメディア活用（zoom under the sky）に取り組み、「学習活動のニューノーマル化」を積極的に推進します。

【学生が準備すべき機器他】

- zoom、facebook、twitter、note、slack、google アカウントなどを積極的に活用します。
- フィールドワークでは、画像／映像で活動を記録しします。

【その他の重要事項】

「創造的なコラボレーションのデザイン」にチャレンジする第一歩は、私たち自身が活動する場（＝ゼミ）を、活動的で対話的な“アトリエ”のような場にしていくことだと思います。既成概念にとらわれることなく、様々な関係性と活動の可能性を探求する姿勢をもつメンバーの参加を望みます。

【関連科目】

3年生は『経営組織論Ⅰ／Ⅱ』を履修してください。

【長岡研究室ウェブサイト】

(1) 長岡ゼミの活動紹介

<http://www.tnlab.net/seminar>

(2) 長岡ゼミのウェブマガジン

<https://note.com/tnlabmelc/magazines>

(3) 長岡ゼミのフェイスブック

<https://www.facebook.com/nagaoka.lab>

(4) 長岡ゼミのツイッター

<https://twitter.com/tnlabmelc>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

The theme of Nagaoka Lab is Design of Creative Collaboration. Particularly the focus of the lab's activity is mainly upon developing mindsets, insights, and skills for creative collaboration in various fields of our society, which includes not only business & management related fields, but also social design fields in a broad sense.

In order to deepen understanding of the meanings of creative collaboration both in the business & management activities, and in the social design activities, and to inquire into the future creative society, in which we will hopefully value diversity and individuality, without being fettered by old conventions or old values of the 20th century, the participants of this seminar are supposed to commit to various learning activities, such as doing workshops and fieldworks, making presentations, writing essays, and so on.

In addition to committing to those learning activities, the participants are expected to individually do their own projects in relation either to the business & management fields or to the social design fields, and to make a theoretical and/or practical contribution to designing the future creative society, by using the following key conceptual tools of “unlearning”, “third place”, “workshop”, “ethnography”, and “boundary crossing”.

[Learning Objectives]

The objectives of this seminar are :

- (1) to develop mindsets, insights, and skills for the design of creative collaboration,
- (2) to deepen understanding of the meanings of creative collaboration, and
- (3) to sharpen the insights into the future creative society.

[Learning Activities outside of Classroom]

Before/after each class meeting, the learners are expected to spend 2 hours to understand the course content, by reading the texts and references, writing reflection papers about guest lectures, and doing fieldworks in relation to the design of creative collaboration.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on in-class contribution (70%), presentation about field works (10%), and academic essays (20%).

MAN400FA

演習 5

長岡 健

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

活動テーマは「創造的なコラボレーションのデザイン」。一人ひとりが主体的に動きながら、周りとも協調し、新しい価値を生み、成果につなげていく。そんな関係を築ける力が、これからの組織づくりや経営に求められます。長岡ゼミでは、この「創造的なコラボレーション」の実践力をじっくりと身につけるトレーニングを、2年生から4年生までの3年間を通じて行っていきます。

ゼミ活動では、社会の第一線で働くゲストの話聞きながら自分の意見をまとめてみたり、人前で意見を発表してみたり、自分とは異なるタイプの人たちとグループワークをやってみたり。着実にステップアップできるトレーニング体験を、ゼミ生同士で協力しながら積み上げていきます。頭で知識を集めるのではなく、行動できる力を磨く練習場だと考えてください。

3年生の後半から4年生にかけての時期では、自分の興味がわくテーマを見つけて、これまで知らなかった世界へと飛び出していくフィールドワーク（＝越境活動）に挑戦します。ビジネス&マネジメントの世界だけでなく、以下のような多様な分野にも積極的に飛び込み、社会人や他大生と一緒に活動することを通じて、「創造的なコラボレーション」の実践力を身につけます。

(0) ビジネス&マネジメント関連：経営分野での創造的なコラボ実践

【keyword】 復業：ワーケーション；デザイン思考；ネットワーク型組織；サーバントリーダー；対話

(1) ライフスタイル関連：豊かな生活を楽しみながら暮らすためのコラボ実践
【keyword】 多拠点生活；フードロス；アップサイクル；新しい家族関係；心と体の健康；スポーツと文化

(2) ダイバーシティ関連：多様な価値観が溢れた社会を実現するためのコラボ実践

【keyword】 共生する社会；SDGs；マイノリティ支援；フェアトレード；エシカルファッション

(3) コミュニティ関連：自由闊達な空間・場・地域をつくるためのコラボ実践
【keyword】 まちづくり；サードプレイス；都市生活；ワークプレイスデザイン；居場所づくり

(4) ラーニング関連：学びを楽しむ未来型の学校・社会をつくるためのコラボ実践

【keyword】 ワークショップ；フィールドワーク；双方向型授業；ポスト・コロナの授業デザイン

【到達目標】

- 主体的に「場づくり」を行う姿勢を身につける
- 多様な人々との積極的な交流を実践する
- 社会に情報発信するリテラシーを身につける
- 共 (common) のマインドセットを身につける
- 試行錯誤型の活動スタイルを実践する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゼミとは単なる「情報収集（知識伝達）の場」ではなく、「知的トレーニングの場」という視点に立ち、「同じ時間、同じ空間に集う」ことを意識した参加体験型で進めます。具体的には、対面式授業とオンライン授業（リアルタイム配信型）を柔軟に使いながら、以下の（1）～（7）のような多様な活動に取り組んでいきます。

- ワークショップ（参加・企画運営・開発）
- ゲストや他大生ゼミとの合同セッション
- 読書会
- フィールドワーク
- 対話イベント（カフェゼミ）の企画・運営
- ブログ記事・フリーペーパーの制作
- プレゼンテーション

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学習活動の導入講義
第2回	プレゼンテーション	4年生の活動報告
第3回	対話セッション	ゲスト講師との対話
第4回	ワークショップ	グラレコの体験学習
第5回	ワークショップ	読書会
第6回	ワークショップ	カフェゼミ開催
第7回	対話セッション	カフェゼミ振り返り
第8回	フィールドワーク	路上観察の体験
第9回	ワークショップ	プレゼンの体験学習
第10回	ワークショップ	読書会
第11回	ワークショップ	カフェゼミ開催
第12回	対話セッション	カフェゼミ振り返り
第13回	プレゼンテーション	3年生の活動報告
第14回	ラップアップ	学習活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に以下の3つの活動に主体的に取り組みます。また、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

(1) 対話イベント開催：
ゼミ生全員（2・3・4年生）で、大学の垣根を越えたオープンな「対話の場（サードプレイス）」を企画・運営するプロジェクト（通称・カフェゼミ）に取り組めます。

(2) 越境活動：
3年生は、参加体験型フィールドワークを主体的に実施し、大学以外の世界に活動範囲を広げながら、関心あるテーマを探索していきます。

(3) マイプロジェクト：
4年生は、関心あるテーマについてプロジェクトを立ち上げ、教員のアドバイスを受けながら主体的に取り組み、卒論として成果を報告します。

【テキスト（教科書）】

- 上田信行『プレイフル・シンキング [決定版]：働く人と場を楽しくする思考法』宣伝会議
- 平田オリザ『わかりあえないことから：コミュニケーション能力とは何か』講談社
- 長岡健『みんなのアンラーニング論：組織に縛られずに働く、生きる、学ぶ』翔泳社

【参考書】

- 横石崇・編『これからの僕らの働き方：次世代のスタンダードを創る10人に聞く』早川書房
- D. ビンク『フリーエージェント社会の到来 新装版：組織に雇われない新しい働き方』ダイヤモンド社
- L. グラットン『リアデザイン・ワーク』東洋経済新報社
- グリーンズ・編『ソーシャルデザイン』朝日出版社
- 佐久間裕美子『ヒッピーな生活革命』朝日出版社
- 末永幸歩『13歳からのアート思考』ダイヤモンド社
- G. レイノルズ『プレゼンテーション zen 第3版』丸善出版

【成績評価の方法と基準】

- 活動への参画度：40%
【評価基準】ゼミ活動に全て参加（出席）することが前提
- プレゼンテーション実施：30%
【評価基準】個人活動に関するプレゼンの内容を総合的に評価
- ブログ記事執筆：30%
【評価基準】個人で執筆するブログ記事の内容を総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】

モバイル環境でのメディア活用（zoom under the sky）に取り組み、「学習活動のニューノーマル化」を積極的に推進します。

【学生が準備すべき機器他】

- zoom、facebook、twitter、note、slack、google アカウントなどネットワークを積極的に活用します。
- フィールドワークでは、画像／映像で活動を記録しきします。

【その他の重要事項】

「創造的なコラボレーションのデザイン」にチャレンジする第一歩は、私たち自身が活動する場（＝ゼミ）を、活動的で対話的な“アトリエ”のような場にしていくことだと思います。既成概念にとらわれることなく、様々な関係性と活動の可能性を探求する姿勢をもつメンバーの参加を望みます。

【関連科目】

3年生は『経営組織論Ⅰ／Ⅱ』を履修してください。

【長岡研究室ウェブサイト】

(1) 長岡ゼミの活動紹介

<http://www.tnlab.net/seminar>

(2) 長岡ゼミのウェブマガジン

<https://note.com/tnlabmelc/magazines>

(3) 長岡ゼミのフェイスブック

<https://www.facebook.com/nagaoka.lab>

(4) 長岡ゼミのツイッター

<https://twitter.com/tnlabmelc>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

The theme of Nagaoka Lab is Design of Creative Collaboration. Particularly the focus of the lab's activity is mainly upon developing mindsets, insights, and skills for creative collaboration in various fields of our society, which includes not only business & management related fields, but also social design fields in a broad sense.

In order to deepen understanding of the meanings of creative collaboration both in the business & management activities, and in the social design activities, and to inquire into the future creative society, in which we will hopefully value diversity and individuality, without being fettered by old conventions or old values of the 20th century, the participants of this seminar are supposed to commit to various learning activities, such as doing workshops and fieldworks, making presentations, writing essays, and so on.

In addition to committing to those learning activities, the participants are expected to individually do their own projects in relation either to the business & management fields or to the social design fields, and to make a theoretical and/or practical contribution to designing the future creative society, by using the following key conceptual tools of “unlearning”, “third place”, “workshop”, “ethnography”, and “boundary crossing”.

[Learning Objectives]

The objectives of this seminar are :

- (1) to develop mindsets, insights, and skills for the design of creative collaboration,
- (2) to deepen understanding of the meanings of creative collaboration, and
- (3) to sharpen the insights into the future creative society.

[Learning Activities outside of Classroom]

Before/after each class meeting, the learners are expected to spend 2 hours to understand the course content, by reading the texts and references, writing reflection papers about guest lectures, and doing fieldworks in relation to the design of creative collaboration.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on in-class contribution (70%), presentation about field works (10%), and academic essays (20%).

MAN400FA

演習 6

長岡 健

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

活動テーマは「創造的なコラボレーションのデザイン」。一人ひとりが主体的に動きながら、周りとも協調し、新しい価値を生み、成果につなげていく。そんな関係構築の力が、これからの組織づくりや経営に求められます。長岡ゼミでは、この「創造的なコラボレーション」の実践力をじっくりと身につけるトレーニングを、2年生から4年生までの3年間を通じて行っていきます。

ゼミ活動では、社会の第一線で働くゲストの話聞きながら自分の意見をまとめてみたり、人前で意見を発表してみたり、自分とは異なるタイプの人たちとグループワークをやってみたり。着実にステップアップできるトレーニング体験を、ゼミ生同士で協力しながら積み上げていきます。頭で知識を集めるのではなく、行動できる力を磨く練習場だと考えてください。

3年生の後半から4年生にかけての時期では、自分の興味がわくテーマを見つけて、これまで知らなかった世界へと飛び出していくフィールドワーク（＝越境活動）に挑戦します。ビジネス&マネジメントの世界だけでなく、以下のような多様な分野にも積極的に飛び込み、社会人や他大生と一緒に活動することを通じて、「創造的なコラボレーション」の実践力を身につけます。

(0) ビジネス&マネジメント関連：経営分野での創造的なコラボ実践

【keyword】 復業：ワーケーション；デザイン思考；ネットワーク型組織；サーバントリーダー；対話

(1) ライフスタイル関連：豊かな生活を楽しみながら暮らすためのコラボ実践

【keyword】 多拠点生活；フードロス；アップサイクル；新しい家族関係；心と体の健康；スポーツと文化

(2) ダイバーシティ関連：多様な価値観が溢れた社会を実現するためのコラボ実践

【keyword】 共生する社会；SDGs；マイノリティ支援；フェアトレード；エシカルファッション

(3) コミュニティ関連：自由闊達な空間・場・地域をつくるためのコラボ実践

【keyword】 まちづくり；サードプレイス；都市生活；ワークプレイスデザイン；居場所づくり

(4) ラーニング関連：学びを楽しむ未来型の学校・社会をつくるためのコラボ実践

【keyword】 ワークショップ；フィールドワーク；双方向型授業；ポスト・コロナの授業デザイン

【到達目標】

- (1) 主体的に「場づくり」を行う姿勢を身につける
- (2) 多様な人々との積極的な交流を実践する
- (3) 社会に情報発信するリテラシーを身につける
- (4) 共 (common) のマインドセットを身につける
- (5) 試行錯誤型の活動スタイルを実践する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゼミとは単なる「情報収集（知識伝達）の場」ではなく、「知的トレーニングの場」としてという視点に立ち、「同じ時間、同じ空間に集う」ことを意識した参加体験型で進めます。具体的には、対面式授業とオンライン授業（リアルタイム配信型）を柔軟に使いながら、以下の(1)～(7)のような多様な活動に取り組んでいきます。

- (1) ワークショップ（参加・企画運営・開発）
- (2) ゲストや他大生ゼミとの合同セッション
- (3) 読書会
- (4) フィールドワーク
- (5) 対話イベント（カフェゼミ）の企画・運営
- (6) ブログ記事・フリーペーパーの制作
- (7) プレゼンテーション

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学習活動の導入講義
第2回	対話セッション	ゲスト講師との対話
第3回	プレゼンテーション	3年生の活動報告
第4回	プレゼンテーション	3年生の活動報告
第5回	ワークショップ	読書会
第6回	ワークショップ	カフェゼミ開催
第7回	対話セッション	カフェゼミ振り返り
第8回	フィールドワーク	路上観察の体験
第9回	ワークショップ	読書会
第10回	ワークショップ	カフェゼミ開催
第11回	プレゼンテーション	2年生の活動報告
第12回	プレゼンテーション	3年生の活動報告
第13回	ラップアップ	学習活動の振り返り
第14回	ワークショップ	ゼミ活動のビジョン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に以下の3つの活動に主体的に取り組みます。また、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

(1) 対話イベント開催：

ゼミ生全員（2・3・4年生）で、大学の垣根を越えたオープンな「対話の場（サードプレイス）」を企画・運営するプロジェクト（通称・カフェゼミ）に取り組めます。

(2) 越境活動：

3年生は、参加体験型フィールドワークを主体的に実施し、大学以外の世界に活動範囲を広げながら、関心あるテーマを探索していきます。

(3) マイプロジェクト：

4年生は、関心あるテーマについてプロジェクトを立ち上げ、教員のアドバイスを受けながら主体的に取り組み、卒論として成果を報告します。

【テキスト（教科書）】

- (1) 上田信行『プレイフル・シンキング [決定版]：働く人と場を楽しくする思考法』宣伝会議
- (2) 平田オリザ『わかりあえないことから：コミュニケーション能力とは何か』講談社
- (3) 長岡健『みんなのアンラーニング論：組織に縛られずに働く、生きる、学ぶ』翔泳社

【参考書】

- (4) 横石崇・編『これからの僕らの働き方：次世代のスタンダードを創る10人に聞く』早川書房
- (5) D. ベンク『フリーエージェント社会の到来 新装版：組織に雇われない新しい働き方』ダイヤモンド社
- (6) L. グラットン『リデザイン・ワーク』東洋経済新報社
- (7) グリーンス・編『ソーシャルデザイン』朝日出版社
- (8) 佐久間裕美子『ヒップな生活革命』朝日出版社
- (9) 末永幸歩『13歳からのアート思考』ダイヤモンド社
- (10) G. レイノルズ『プレゼンテーション zen 第3版』丸善出版

【成績評価の方法と基準】

- (1) 活動への参画度：40%
[評価基準] ゼミ活動に全て参加（出席）することが前提
- (2) プレゼンテーション実施：30%
[評価基準] 個人活動に関するプレゼンの内容を総合的に評価
- (3) ブログ記事執筆：30%
[評価基準] 個人で執筆するブログ記事の内容を総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】

モバイル環境でのメディア活用（zoom under the sky）に取り組み、「学習活動のニューノーマル化」を積極的に推進します。

【学生が準備すべき機器他】

- (1) zoom、facebook、twitter、note、slack、google アカウントなどを積極的に活用します。
- (2) フィールドワークでは、画像／映像で活動を記録しします。

【その他の重要事項】

「創造的なコラボレーションのデザイン」にチャレンジする第一歩は、私たち自身が活動する場（＝ゼミ）を、活動的で対話的な“アトリエ”のような場にしていくことだと思います。既成概念にとらわれることなく、様々な関係性と活動の可能性を探求する姿勢をもつメンバーの参加を望みます。

【関連科目】

3年生は『経営組織論Ⅰ／Ⅱ』を履修してください。

【長岡研究室ウェブサイト】

(1) 長岡ゼミの活動紹介

<http://www.tnlab.net/seminar>

(2) 長岡ゼミのウェブマガジン

<https://note.com/tnlabmelc/magazines>

(3) 長岡ゼミのフェイスブック

<https://www.facebook.com/nagaoka.lab>

(4) 長岡ゼミのツイッター

<https://twitter.com/tnlabmelc>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

The theme of Nagaoka Lab is Design of Creative Collaboration. Particularly the focus of the lab's activity is mainly upon developing mindsets, insights, and skills for creative collaboration in various fields of our society, which includes not only business & management related fields, but also social design fields in a broad sense.

In order to deepen understanding of the meanings of creative collaboration both in the business & management activities, and in the social design activities, and to inquire into the future creative society, in which we will hopefully value diversity and individuality, without being fettered by old conventions or old values of the 20th century, the participants of this seminar are supposed to commit to various learning activities, such as doing workshops and fieldworks, making presentations, writing essays, and so on.

In addition to committing to those learning activities, the participants are expected to individually do their own projects in relation either to the business & management fields or to the social design fields, and to make a theoretical and/or practical contribution to designing the future creative society, by using the following key conceptual tools of “unlearning”, “third place”, “workshop”, “ethnography”, and “boundary crossing”.

[Learning Objectives]

The objectives of this seminar are :

- (1) to develop mindsets, insights, and skills for the design of creative collaboration,
- (2) to deepen understanding of the meanings of creative collaboration, and
- (3) to sharpen the insights into the future creative society.

[Learning Activities outside of Classroom]

Before/after each class meeting, the learners are expected to spend 2 hours to understand the course content, by reading the texts and references, writing reflection papers about guest lectures, and doing fieldworks in relation to the design of creative collaboration.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on in-class contribution (70%), presentation about field works (10%), and academic essays (20%).

MAN200FA

演習 1

赤松 直樹

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目のテーマは、消費者視点のブランドマーケティング研究です。履修生は、積極的に研究プロジェクトに参加して、ゼミメンバーとグループメンバーとの共同作業を通じて、独自のマーケティング知識を創造することに勤めなくてはなりません。他の人と共に働くことによる達成感、それによる独創的な知識の創造ができるようになることを目的とします。

【到達目標】

当演習における到達目標は、以下の3つです。履修生は、以下の目標に向けた積極的な活動を行います。

- ①消費者行動とブランドマーケティングに関する基礎知識の獲得とこれに基づいた現代企業のマーケティング行動を探索します。
 - ②マーケティングリサーチの基礎的知識の獲得を目指します。
 - ③個人研究・グループ研究によるオリジナリティのある知識を創造します。
- ①については、テキスト①②③に基づく精緻な知識を獲得します。②については、テキスト④に基づいて、体系立てた調査設計と分析手法を獲得します。③については、研究プロジェクトの推進により、独自の創造的な知識を生み出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

今年度は、対面とオンラインを併用する形で実施する予定です。感染状況による各回の授業計画の変更については、学習支援システムに提示します。

グループワークを通じて、各事例のケース分析とデータ分析により、独自の仮説や命題を導き出して検証していきます。また、事前に行った調査を各グループごとに報告してもらうために、プレゼンテーションが必須となります。課題等に対するフィードバックについては、授業中に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期イントロダクション	授業概要と年間計画の説明。ゼミ活動の理念、グループワークや独自の考え方の重要性などを理解します。
第 2 回	グループ活動①-1	テーマ設定：グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
第 3 回	グループ活動①-2	課題の明確化：グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
第 4 回	グループ活動①-3	既存研究サーベイ：グループテーマの既存研究を探索します。これまでに組み込まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
第 5 回	グループ活動①-4	仮説の設定：グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
第 6 回	グループ活動①-5	仮説の検証：グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
第 7 回	グループ活動①-6	結論とインプリケーションの導出：グループテーマに関する検証を基にして、結論を導き出して、マーケティングインプリケーションを導出します。
第 8 回	春学期中間報告会	グループワークの中間経過報告と今後の課題を整理。
第 9 回	グループ活動②-1	テーマ設定：前半の課題を受けて、グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
第 10 回	グループ活動②-2	課題の明確化：前半の課題を受けて、グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
第 11 回	グループ活動②-3	既存研究サーベイ：前半の課題を受けて、グループテーマの既存研究を探索します。これまでに組み込まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。

第 12 回 グループ活動②-4

仮説の設定：前半の課題を受けて、グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。

第 13 回 グループ活動②-5

仮説の検証：前半の課題を受けて、グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。

第 14 回 春学期最終報告会

グループワークの最終報告と秋学期への課題を整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークを推進するために、毎週サブゼミを行います。各回で課題となったテーマに沿って、文献探索やヒアリング調査、質問紙調査などの設計と実施を行います。

【テキスト（教科書）】

授業中に案内します。

【参考書】

- ①青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012 年
- ②竹内淑恵編著、『リレーションシップのマネジメント』、文真堂、2014 年
- ③青木幸弘編著、『ケースに学ぶマーケティング』、有斐閣、2016 年
- ④土田昭司・山川栄樹、『新・社会調査のためのデータ分析入門』、有斐閣、2011 年

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度、グループ内協調性、課題遂行能力などをもとにして総合的に評価します。具体的には、ゼミ貢献度（40%）、グループ貢献度（30%）、プレゼンテーション能力（30%）とします。

【学生の意見等からの気づき】

今年度からの担当のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【関連科目】

履修生は全員、「マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」を事前に履修、もしくは履修中としておくべき科目とします。また3年生以上の履修生は、「マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ」と「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」を履修すべき科目とします。その他、「マーケティング関連科目」を履修すべき科目とします。

【Outline (in English)】

The course topic is brand marketing based on consumer perspectives. The goal is to give students a feeling of accomplishment through working with others, and the ability to create original knowledge through research. The evaluation will be comprehensive, based on the degree of contribution to the seminar(40%), cooperation within the group(30%), and ability to perform the task(30%).

MAN200FA

演習 2

新倉 貴士

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目のテーマは、消費者視点のブランドマーケティング研究です。履修生は、積極的に研究プロジェクトに参加して、ゼミメンバーとグループメンバーとの共同作業を通じて、独自のマーケティング知識を創造することに勤めなくてはなりません。他の人と共に働くことによる達成感、それによる独創的な知識の創造ができるようになることを目的とします。

【到達目標】

当演習における到達目標は、以下の3つです。履修生は、以下の目標に向けた積極的な活動を行います。

- ①消費者行動とブランドマーケティングに関する基礎知識の獲得とこれに基づいた現代企業のマーケティング行動を探索します。
 - ②マーケティングリサーチの基礎的知識の獲得を目指します。
 - ③個人研究・グループ研究によるオリジナリティのある知識を創造します。
- ①については、参考書①②③に基づく精緻な知識を獲得します。
②については、参考書④に基づいて、体系立てた調査設計と分析手法を獲得します。
③については、研究プロジェクトの推進により、独自の創造的な知識を生み出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

今年度は、対面とオンラインを併用する形で実施する予定です。感染状況による各回の授業計画の変更については、学習支援システムに提示します。グループワークを通じて、各事例のケース分析とデータ分析により、独自の仮説や命題を導き出して検証していきます。また、事前に行った調査を各グループごとに報告してもらうために、プレゼンテーションが必須となります。課題等に対するフィードバックについては、授業中に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期イントロダクション	春学期の成果確認。夏課題の報告。秋学期の課題確認。
第 2 回	グループ活動③-1	テーマ設定：グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
第 3 回	グループ活動③-2	課題の明確化：グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
第 4 回	グループ活動③-3	既存研究サーベイ：グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
第 5 回	グループ活動③-4	仮説の設定：グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
第 6 回	グループ活動③-5	仮説の検証：グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
第 7 回	グループ活動③-6	結論とインプリケーションの導出：グループテーマに関する検証を基にして、結論を導き出して、マーケティングインプリケーションを導出します。
第 8 回	秋学期中間報告会	グループワークの中間経過報告と今後の課題を整理。
第 9 回	グループ活動④-1	テーマ設定：前半の課題を受けて、グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
第 10 回	グループ活動④-2	課題の明確化：前半の課題を受けて、グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
第 11 回	グループ活動④-3	既存研究サーベイ：前半の課題を受けて、グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。

第 12 回 グループ活動④-4

仮説の設定：前半の課題を受けて、グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。

第 13 回 グループ活動④-5

仮説の検証：前半の課題を受けて、グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。

第 14 回 秋学期最終報告会

グループワークの最終報告と一年間の成果を整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークを推進するために、毎週サブゼミを行います。各回で課題となったテーマに沿って、文献探索やヒアリング調査、質問紙調査などの設計と実施を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に案内します。

【参考書】

- ①青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012 年
- ②竹内淑恵編著、『リレーションシップのマネジメント』、文真堂、2014 年
- ③青木幸弘編著、『ケースに学ぶマーケティング』、有斐閣、2016 年
- ④土田昭司・山川栄樹、『新・社会調査のためのデータ分析入門』、有斐閣、2011 年

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度、グループ内協調性、課題遂行能力などをもとにして総合的に評価します。具体的には、ゼミ貢献度（40 %）、グループ貢献度（30 %）、プレゼンテーション能力（30 %）とします。

【学生の意見等からの気づき】

複数グループワークのスケジューリングを調整して進める予定です。協調性を育成しながら、独自性を十分に発揮できるよう進める予定です。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

履修生は全員、「マーケティング・マネジメント論 I / II」を事前に履修、もしくは履修中としておくべき科目とします。3 年生以上の履修生は、「マーケティング・リサーチ論 I / II」と「消費者行動論 I / II」を履修すべき科目とします。「マーケティング関連科目」を履修すべき科目とします。

【Outline (in English)】

This class provides the skills required to manage marketing projects. Students will gain a methodology for better marketing practices.

Major course objectives are;

- To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.
- To learn marketing research method.
- To create original hypothesis.
- To get presentation skills required to communicate marketing plans.

MAN300FA

演習 3

赤松 直樹

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目のテーマは、消費者視点のブランドマーケティング研究です。履修生は、積極的に研究プロジェクトに参加して、ゼミメンバーとグループメンバーとの共同作業を通じて、独自のマーケティング知識を創造することに勤めなくてはなりません。他の人と共に働くことによる達成感、それによる独創的な知識の創造ができるようになることを目的とします。

【到達目標】

当演習における到達目標は、以下の3つです。履修生は、以下の目標に向けた積極的な活動を行います。

- ①消費者行動とブランドマーケティングに関する基礎知識の獲得とこれに基づいた現代企業のマーケティング行動を探索します。
 - ②マーケティングリサーチの基礎的知識の獲得を目指します。
 - ③個人研究・グループ研究によるオリジナリティのある知識を創造します。
- ①については、テキスト①②③に基づく精緻な知識を獲得します。②については、テキスト④に基づいて、体系立てた調査設計と分析手法を獲得します。③については、研究プロジェクトの推進により、独自の創造的な知識を生み出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

今年度は、対面とオンラインを併用する形で実施する予定です。感染状況による各回の授業計画の変更については、学習支援システムに提示します。

グループワークを通じて、各事例のケース分析とデータ分析により、独自の仮説や命題を導き出して検証していきます。また、事前に行った調査を各グループごとに報告してもらうために、プレゼンテーションが必須となります。課題等に対するフィードバックについては、授業中に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期イントロダクション	授業概要と年間計画の説明。ゼミ活動の理念、グループワークや独自の考え方の重要性などを理解します。
第 2 回	グループ活動①-1	テーマ設定：グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
第 3 回	グループ活動①-2	課題の明確化：グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
第 4 回	グループ活動①-3	既存研究サーベイ：グループテーマの既存研究を探索します。これまでに組み込まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
第 5 回	グループ活動①-4	仮説の設定：グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
第 6 回	グループ活動①-5	仮説の検証：グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
第 7 回	グループ活動①-6	結論とインプリケーションの導出：グループテーマに関する検証を基にして、結論を導き出して、マーケティングインプリケーションを導出します。
第 8 回	春学期中間報告会	グループワークの中間経過報告と今後の課題を整理。
第 9 回	グループ活動②-1	テーマ設定：前半の課題を受けて、グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
第 10 回	グループ活動②-2	課題の明確化：前半の課題を受けて、グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
第 11 回	グループ活動②-3	既存研究サーベイ：前半の課題を受けて、グループテーマの既存研究を探索します。これまでに組み込まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。

第 12 回 グループ活動②-4

仮説の設定：前半の課題を受けて、グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。

第 13 回 グループ活動②-5

仮説の検証：前半の課題を受けて、グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。

第 14 回 春学期最終報告会

グループワークの最終報告と秋学期への課題を整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークを推進するために、毎週サブゼミを行います。各回で課題となったテーマに沿って、文献探索やヒアリング調査、質問紙調査などの設計と実施を行います。

【テキスト（教科書）】

授業中に案内します。

【参考書】

- ①青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012 年
- ②竹内淑恵編著、『リレーションシップのマネジメント』、文真堂、2014 年
- ③青木幸弘編著、『ケースに学ぶマーケティング』、有斐閣、2016 年
- ④土田昭司・山川栄樹、『新・社会調査のためのデータ分析入門』、有斐閣、2011 年

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度、グループ内協調性、課題遂行能力などをもとにして総合的に評価します。具体的には、ゼミ貢献度（40%）、グループ貢献度（30%）、プレゼンテーション能力（30%）とします。

【学生の意見等からの気づき】

今年度からの担当のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【関連科目】

履修生は全員、「マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」を事前に履修、もしくは履修中としておくべき科目とします。また3年生以上の履修生は、「マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ」と「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」を履修すべき科目とします。その他、「マーケティング関連科目」を履修すべき科目とします。

【Outline (in English)】

The course topic is brand marketing based on consumer perspectives. The goal is to give students a feeling of accomplishment through working with others, and the ability to create original knowledge through research. The evaluation will be comprehensive, based on the degree of contribution to the seminar(40%), cooperation within the group(30%), and ability to perform the task(30%).

MAN300FA

演習 4

新倉 貴士

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目のテーマは、消費者視点のブランドマーケティング研究です。履修生は、積極的に研究プロジェクトに参加して、ゼミメンバーとグループメンバーとの共同作業を通じて、独自のマーケティング知識を創造することに勤めなくてはなりません。他の人と共に働くことによる達成感、それによる独創的な知識の創造ができるようになることを目的とします。

【到達目標】

当演習における到達目標は、以下の3つです。履修生は、以下の目標に向けた積極的な活動を行います。

- ①消費者行動とブランドマーケティングに関する基礎知識の獲得とこれに基づいた現代企業のマーケティング行動を探索します。
 - ②マーケティングリサーチの基礎的知識の獲得を目指します。
 - ③個人研究・グループ研究によるオリジナリティのある知識を創造します。
- ①については、参考書①②③に基づく精緻な知識を獲得します。
②については、参考書④に基づいて、体系立てた調査設計と分析手法を獲得します。
③については、研究プロジェクトの推進により、独自の創造的な知識を生み出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

今年度は、対面とオンラインを併用する形で実施する予定です。感染状況による各回の授業計画の変更については、学習支援システムに提示します。グループワークを通じて、各事例のケース分析とデータ分析により、独自の仮説や命題を導き出して検証していきます。また、事前に行った調査を各グループごとに報告してもらうために、プレゼンテーションが必須となります。課題等に対するフィードバックについては、授業中に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期イントロダクション	春学期の成果確認。夏課題の報告。秋学期の課題確認。
第 2 回	グループ活動③-1	テーマ設定：グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
第 3 回	グループ活動③-2	課題の明確化：グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
第 4 回	グループ活動③-3	既存研究サーベイ：グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
第 5 回	グループ活動③-4	仮説の設定：グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
第 6 回	グループ活動③-5	仮説の検証：グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
第 7 回	グループ活動③-6	結論とインプリケーションの導出：グループテーマに関する検証を基にして、結論を導き出して、マーケティングインプリケーションを導出します。
第 8 回	秋学期中間報告会	グループワークの中間経過報告と今後の課題を整理。
第 9 回	グループ活動④-1	テーマ設定：前半の課題を受けて、グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
第 10 回	グループ活動④-2	課題の明確化：前半の課題を受けて、グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
第 11 回	グループ活動④-3	既存研究サーベイ：前半の課題を受けて、グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。

第 12 回 グループ活動④-4

仮説の設定：前半の課題を受けて、グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。

第 13 回 グループ活動④-5

仮説の検証：前半の課題を受けて、グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。

第 14 回 秋学期最終報告会

グループワークの最終報告と一年間の成果を整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークを推進するために、毎週サブゼミを行います。各回で課題となったテーマに沿って、文献探索やヒアリング調査、質問紙調査などの設計と実施を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に案内します。

【参考書】

- ①青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012 年
- ②竹内淑恵編著、『リレーションシップのマネジメント』、文真堂、2014 年
- ③青木幸弘編著、『ケースに学ぶマーケティング』、有斐閣、2016 年
- ④土田昭司・山川栄樹、『新・社会調査のためのデータ分析入門』、有斐閣、2011 年

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度、グループ内協調性、課題遂行能力などをもとにして総合的に評価します。具体的には、ゼミ貢献度（40 %）、グループ貢献度（30 %）、プレゼンテーション能力（30 %）とします。

【学生の意見等からの気づき】

複数グループワークのスケジューリングを調整して進める予定です。協調性を育成しながら、独自性を十分に発揮できるよう進める予定です。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

履修生は全員、「マーケティング・マネジメント論 I / II」を事前に履修、もしくは履修中としておくべき科目とします。3 年生以上の履修生は、「マーケティング・リサーチ論 I / II」と「消費者行動論 I / II」を履修すべき科目とします。「マーケティング関連科目」を履修すべき科目とします。

【Outline (in English)】

This class provides the skills required to manage marketing projects. Students will gain a methodology for better marketing practices.

Major course objectives are;

- To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.
- To learn marketing research method.
- To create original hypothesis.
- To get presentation skills required to communicate marketing plans.

MAN400FA

演習 5

赤松 直樹

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目のテーマは、消費者視点のブランドマーケティング研究です。履修生は、積極的に研究プロジェクトに参加して、ゼミメンバーとグループメンバーとの共同作業を通じて、独自のマーケティング知識を創造することに勤めなくてはなりません。他の人と共に働くことによる達成感、それによる独創的な知識の創造ができるようになることを目的とします。

【到達目標】

当演習における到達目標は、以下の3つです。履修生は、以下の目標に向けた積極的な活動を行います。

- ①消費者行動とブランドマーケティングに関する基礎知識の獲得とこれに基づいた現代企業のマーケティング行動を探索します。
- ②マーケティングリサーチの基礎的知識の獲得を目指します。
- ③個人研究・グループ研究によるオリジナリティのある知識を創造します。
- ①については、テキスト①②③に基づく精緻な知識を獲得します。②については、テキスト④に基づいて、体系立てた調査設計と分析手法を獲得します。
- ③については、研究プロジェクトの推進により、独自の創造的な知識を生み出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

今年度は、対面とオンラインを併用する形で実施する予定です。感染状況による各回の授業計画の変更については、学習支援システムに提示します。

グループワークを通じて、各事例のケース分析とデータ分析により、独自の仮説や命題を導き出して検証していきます。また、事前に行った調査を各グループごとに報告してもらうために、プレゼンテーションが必須となります。課題等に対するフィードバックについては、授業中に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期イントロダクション	授業概要と年間計画の説明。ゼミ活動の理念、グループワークや独自の考え方の重要性などを理解します。
第 2 回	グループ活動①-1	テーマ設定：グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
第 3 回	グループ活動①-2	課題の明確化：グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
第 4 回	グループ活動①-3	既存研究サーベイ：グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
第 5 回	グループ活動①-4	仮説の設定：グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
第 6 回	グループ活動①-5	仮説の検証：グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
第 7 回	グループ活動①-6	結論とインプリケーションの導出：グループテーマに関する検証を基にして、結論を導き出して、マーケティングインプリケーションを導出します。
第 8 回	春学期中間報告会	グループワークの中間経過報告と今後の課題を整理。
第 9 回	グループ活動②-1	テーマ設定：前半の課題を受けて、グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
第 10 回	グループ活動②-2	課題の明確化：前半の課題を受けて、グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
第 11 回	グループ活動②-3	既存研究サーベイ：前半の課題を受けて、グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。

第 12 回 グループ活動②-4

仮説の設定：前半の課題を受けて、グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。

第 13 回 グループ活動②-5

仮説の検証：前半の課題を受けて、グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。

第 14 回 春学期最終報告会

グループワークの最終報告と秋学期への課題を整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークを推進するために、毎週サブゼミを行います。各回で課題となったテーマに沿って、文献探索やヒアリング調査、質問紙調査などの設計と実施を行います。

【テキスト（教科書）】

授業中に案内します。

【参考書】

- ①青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012 年
- ②竹内淑恵編著、『リレーションシップのマネジメント』、文真堂、2014 年
- ③青木幸弘編著、『ケースに学ぶマーケティング』、有斐閣、2016 年
- ④土田昭司・山川栄樹、『新・社会調査のためのデータ分析入門』、有斐閣、2011 年

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度、グループ内協調性、課題遂行能力などをもとにして総合的に評価します。具体的には、ゼミ貢献度（40%）、グループ貢献度（30%）、プレゼンテーション能力（30%）とします。

【学生の意見等からの気づき】

今年度からの担当のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【関連科目】

履修生は全員、「マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」を事前に履修、もしくは履修中としておくべき科目とします。また3年生以上の履修生は、「マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ」と「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」を履修すべき科目とします。その他、「マーケティング関連科目」を履修すべき科目とします。

【Outline (in English)】

The course topic is brand marketing based on consumer perspectives. The goal is to give students a feeling of accomplishment through working with others, and the ability to create original knowledge through research. The evaluation will be comprehensive, based on the degree of contribution to the seminar(40%), cooperation within the group(30%), and ability to perform the task(30%).

MAN400FA

演習 6

新倉 貴士

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目のテーマは、消費者視点のブランドマーケティング研究です。履修生は、積極的に研究プロジェクトに参加して、ゼミメンバーとグループメンバーとの共同作業を通じて、独自のマーケティング知識を創造することに努めなくてはなりません。他の人と共に働くことによる達成感、それによる独創的な知識の創造ができるようになることを目的とします。

【到達目標】

当演習における到達目標は、以下の3つです。履修生は、以下の目標に向けた積極的な活動を行います。

- ①消費者行動とブランドマーケティングに関する基礎知識の獲得とこれに基づいた現代企業のマーケティング行動を探索します。
 - ②マーケティングリサーチの基礎的知識の獲得を目指します。
 - ③個人研究・グループ研究によるオリジナリティのある知識を創造します。
- ①については、参考書①②③に基づく精緻な知識を獲得します。
②については、参考書④に基づいて、体系立てた調査設計と分析手法を獲得します。
③については、研究プロジェクトの推進により、独自の創造的な知識を生み出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

今年度は、対面とオンラインを併用する形で実施する予定です。感染状況による各回の授業計画の変更については、学習支援システムに提示します。グループワークを通じて、各事例のケース分析とデータ分析により、独自の仮説や命題を導き出して検証していきます。また、事前に行った調査を各グループごとに報告してもらうために、プレゼンテーションが必須となります。課題等に対するフィードバックについては、授業中に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期イントロダクション	春学期の成果確認。夏課題の報告。秋学期の課題確認。
第 2 回	グループ活動③-1	テーマ設定：グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
第 3 回	グループ活動③-2	課題の明確化：グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
第 4 回	グループ活動③-3	既存研究サーベイ：グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
第 5 回	グループ活動③-4	仮説の設定：グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
第 6 回	グループ活動③-5	仮説の検証：グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
第 7 回	グループ活動③-6	結論とインプリケーションの導出：グループテーマに関する検証を基にして、結論を導き出して、マーケティングインプリケーションを導出します。
第 8 回	秋学期中間報告会	グループワークの中間経過報告と今後の課題を整理。
第 9 回	グループ活動④-1	テーマ設定：前半の課題を受けて、グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
第 10 回	グループ活動④-2	課題の明確化：前半の課題を受けて、グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
第 11 回	グループ活動④-3	既存研究サーベイ：前半の課題を受けて、グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。

第 12 回 グループ活動④-4

仮説の設定：前半の課題を受けて、グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。

第 13 回 グループ活動④-5

仮説の検証：前半の課題を受けて、グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。

第 14 回 秋学期最終報告会

グループワークの最終報告と一年間の成果を整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークを推進するために、毎週サブゼミを行います。各回で課題となったテーマに沿って、文献探索やヒアリング調査、質問紙調査などの設計と実施を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に案内します。

【参考書】

- ①青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012 年
- ②竹内淑恵編著、『リレーションシップのマネジメント』、文真堂、2014 年
- ③青木幸弘編著、『ケースに学ぶマーケティング』、有斐閣、2016 年
- ④土田昭司・山川栄樹、『新・社会調査のためのデータ分析入門』、有斐閣、2011 年

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度、グループ内協調性、課題遂行能力などをもとにして総合的に評価します。具体的には、ゼミ貢献度（40 %）、グループ貢献度（30 %）、プレゼンテーション能力（30 %）とします。

【学生の意見等からの気づき】

複数グループワークのスケジューリングを調整して進める予定です。協調性を育成しながら、独自性を十分に発揮できるよう進める予定です。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

履修生は全員、「マーケティング・マネジメント論 I / II」を事前に履修、もしくは履修中としておくべき科目とします。3 年生以上の履修生は、「マーケティング・リサーチ論 I / II」と「消費者行動論 I / II」を履修すべき科目とします。「マーケティング関連科目」を履修すべき科目とします。

【Outline (in English)】

This class provides the skills required to manage marketing projects. Students will gain a methodology for better marketing practices.

Major course objectives are;

- To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.
- To learn marketing research method.
- To create original hypothesis.
- To get presentation skills required to communicate marketing plans.

MAN200FA

演習 1

二階堂 行宣

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・経営史専攻の教員による、卒業論文の指導・執筆を目標とした演習です。
 ・各参加者は担当教員の指導のもと、経営学・経済学に関連した実証的な調査・研究を自主的に行い、その成果を授業中に随時報告します。
 ・以上の反復を通じ、社会科学的な調査スキルを徹底的に磨くとともに、論理的な思考を展開し、その過程を体系的な文章としてまとめ上げる力を向上させます。
 ・あわせて、社会人として身に付けておくべき教養・知識（特に日本の近現代史に関するもの）を習得します。

【到達目標】

・さまざまな対象（企業・組織・人物・事象など）の歴史の変遷について調査し、その過程や要因を分析するスキルと意義を学ぶ。
 ・経営史学の専門的知識と方法論を身に付け、その立場から建設的な議論を展開することができる。
 ・社会科学研究における歴史的アプローチのメリットとデメリットを理解し、自らの主体的な議論・研究に反映させることができる。
 ・現在や未来におけるさまざまな社会的課題を長期的な視点から分析し、理解する能力を養う。
 ・活動の集大成として、卒業論文を執筆・完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・春学期は、論理的・学問的な文章を「読み、理解し、批判する」ことを身に付けていきます。
 ・テキストは、日本経営史・経済史分野のほか、現状の経済・経営に関連した文献のなかから幅広く選択します。
 ・参加者は事前に配布されたテキストに基づき、指示された作業・課題（事前調査／要約／文章作成など）を行います。
 ・各回の報告者（グループ）を決める場合は、該当者はレジュメまたはパワーポイントを使って、報告の準備を行います。
 ・授業へ臨む際には自らの意見を明確化するとともに、積極的に発言し、その場の議論が深まるように心がけます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	前期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
第 2 回	導入①	参加者の自己紹介を行う。
第 3 回	導入②	発表資料の作成とディスカッションの方法について理解する。
第 4 回	導入③	経営史・経済史学の方法と特徴について理解する。
第 5 回	実践①	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
第 6 回	実践②	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
第 7 回	実践③	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
第 8 回	実践④	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
第 9 回	実践⑤	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
第 10 回	実践⑥	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
第 11 回	調査報告①	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。
第 12 回	調査報告②	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。
第 13 回	調査報告③	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。
第 14 回	調査報告④	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・この演習は、2 年間で卒業論文を仕上げることを最終目標に、参加者自らが主体的に学習を行う場です。

・担当教員は、参加者個々の関心に応じて主体的な学習・研究をサポートする役割に徹し、それぞれのペースに介入することはできる限り慎みます。
 ・したがって、参加者は必要に応じ、授業時間以外の調査活動（他大学・自治体図書館への訪問／企業への調査／インタビュー実施など）を行うことも重要になります。
 ・参加者の活動をサポートするためであれば、担当教員はあらゆる支援を惜しみません。教員と密にコミュニケーションをとり、積極的に指導・助言を仰いでください。
 ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・必要に応じ、授業中にコピーを配布する。

【参考書】

・個々の興味に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・報告（40%）＋平常点（30%）＋質問・議論への参加（30%）。
 ・出席する際には、積極的に議論に参加してください。ただ出席するのみの場合、欠席とみなすことがあります。
 ・欠席する場合は、評価に大きく関わりますので、必ず事前に連絡してください。
 ・卒業論文を提出しない場合は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

・主体的な学習を希望する声が多く寄せられたため、テキストの輪読等は最小限にとどめる授業計画へと変更しました。

【学生が準備すべき機器他】

・発表資料の作成の際は、パソコン（ワードやパワーポイント）を使用してください。
 ・その環境が整わない人は、事前に相談してください。

【関連科目】

・日本経営史 I / II
 ・演習は、大学における主体的学習の総合としての性格を持つため、上記の他にも全ての科目に関連します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・ This course is an exercise aiming at teaching and writing graduation thesis.

・ Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.

【Learning Objectives】

・ Through the above iteration, we will thoroughly refine the social science research skills, develop logical thinking, and improve the ability to organize the process as systematic sentences.

【Learning Activities outside of Classroom】

・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

・ Report (40%) + Normal score (30%) + Participation in questions / discussions (30%).

MAN200FA

演習 2

二階堂 行宣

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・経営史専攻の教員による、卒業論文の指導・執筆を目標とした演習です。
 ・各参加者は担当教員の指導のもと、経営学・経済学に関連した実証的な調査・研究を自主的に行い、その成果を授業中に随時報告します。
 ・以上の反復を通じ、社会科学的な調査スキルを徹底的に磨くとともに、論理的な思考を展開し、その過程を体系的な文章としてまとめ上げる力を向上させます。
 ・あわせて、社会人として身に付けておくべき教養・知識（特に日本の近現代史に関するもの）を習得します。

【到達目標】

・さまざまな対象（企業・組織・人物・事象など）の歴史の変遷について調査し、その過程や要因を分析するスキルと意義を学ぶ。
 ・経営史学の専門的知識と方法論を身に付け、その立場から建設的な議論を展開することができる。
 ・社会科学的研究における歴史的アプローチのメリットとデメリットを理解し、自らの主体的な議論・研究に反映させることができる。
 ・現在や未来におけるさまざまな社会的課題を長期的な視点から分析し、理解する能力を養う。
 ・活動の集大成として、卒業論文を執筆・完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・秋学期は、各参加者が興味・関心を持つテーマを選び、卒業論文執筆に向けた作業を行います。
 ・各参加者は、経営学・経済学について関心のあるテーマを設定し、自ら定めたスケジュールに基づいて、主体的に調査を行います。
 ・テーマの設定は各自の自由ですが、調査・分析を行う際には、長期的な視点から対象を分析するように心がけてください。
 ・各参加者は、各回の末尾に調査・研究活動の進捗状況を定期的に報告します。
 ・また、中間報告の時間を複数回設けます。担当報告者（グループ）は、①卒業論文で取り上げたいテーマとその理由、②論文執筆に向けて必要な調査活動・資料、③卒業論文の目次と分析視点、などについて、随時プレゼンテーションを行います。
 ・担当報告者（グループ）によるプレゼンテーションのあと、参加者全員によるディスカッションを行います。
 ・以上の活動に加え、現実のビジネスの現場を見学し、社会人・経営者と接する機会も複数回設け、自らのキャリアを考える際の一助とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	後期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
第 2 回	調査報告①	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
第 3 回	調査報告②	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
第 4 回	調査報告③	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
第 5 回	調査報告④	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
第 6 回	中間報告①	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。
第 7 回	中間報告②	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。
第 8 回	中間報告③	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。
第 9 回	中間報告④	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。
第 10 回	中間報告⑤	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。
第 11 回	最終報告①	各参加者が、卒業論文の分析視点・内容・結論について報告を行う。
第 12 回	最終報告②	各参加者が、卒業論文の分析視点・内容・結論について報告を行う。
第 13 回	最終報告③	各参加者が、卒業論文の分析視点・内容・結論について報告を行う。

第 14 回 最終報告④

各参加者が、卒業論文の分析視点・内容・結論について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・この演習は、2 年間で卒業論文を仕上げることを最終目標に、参加者自らが主体的に学習を行う場です。
 ・担当教員は、参加者個々の関心に応じて主体的な学習・研究をサポートする役割に徹し、それぞれのペースに介入することはできる限り慎みます。
 ・したがって、参加者は必要に応じ、授業時間以外の調査活動（他大学・自治体図書館への訪問／企業への調査／インタビュー実施など）を行うことも重要になります。
 ・参加者の活動をサポートするためであれば、担当教員はあらゆる支援を惜しみません。教員と密にコミュニケーションをとり、積極的に指導・助言を仰いでください。
 ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・必要に応じ、授業中にコピーを配布する。

【参考書】

・個々の興味に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・報告（40%）＋平常点（30%）＋質問・議論への参加（30%）。
 ・出席する際には、積極的に議論に参加してください。ただ出席するのみの場合、欠席とみなすことがあります。
 ・欠席する場合は、評価に大きく関わりますので、必ず事前に連絡してください。
 ・卒業論文を提出しない場合は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

・主体的な学習を希望する声が多く寄せられたため、テキストの輪読等は最小限にとどめる授業計画へと変更しました。

【学生が準備すべき機器他】

・発表資料の作成の際は、パソコン（ワードやパワーポイント）を使用してください。
 ・その環境が整わない人は、事前に相談してください。

【関連科目】

・日本経営史Ⅰ／Ⅱ
 ・演習は、大学における主体的学習の総合としての性格を持つため、上記の他にも全ての科目に関連します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・ This course is an exercise aiming at teaching and writing graduation thesis.

・ Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.

【Learning Objectives】

・ Through the above iteration, we will thoroughly refine the social science research skills, develop logical thinking, and improve the ability to organize the process as systematic sentences.

【Learning Activities outside of Classroom】

・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

・ Report (40%) + Normal score (30%) + Participation in questions / discussions (30%).

MAN300FA

演習 3

二階堂 行宣

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・経営史専攻の教員による、卒業論文の指導・執筆を目標とした演習です。
 ・各参加者は担当教員の指導のもと、経営学・経済学に関連した実証的な調査・研究を自主的に行い、その成果を授業中に随時報告します。
 ・以上の反復を通じ、社会科学的な調査スキルを徹底的に磨くとともに、論理的な思考を展開し、その過程を体系的な文章としてまとめ上げる力を向上させます。
 ・あわせて、社会人として身に付けておくべき教養・知識（特に日本の近現代史に関するもの）を習得します。

【到達目標】

・さまざまな対象（企業・組織・人物・事象など）の歴史の変遷について調査し、その過程や要因を分析するスキルと意義を学ぶ。
 ・経営史学の専門的知識と方法論を身に付け、その立場から建設的な議論を展開することができる。
 ・社会科学的研究における歴史的アプローチのメリットとデメリットを理解し、自らの主体的な議論・研究に反映させることができる。
 ・現在や未来におけるさまざまな社会的課題を長期的な視点から分析し、理解する能力を養う。
 ・活動の集大成として、卒業論文を執筆・完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・春学期は、論理的・学問的な文章を「読み、理解し、批判する」ことを身に付けていきます。
 ・テキストは、日本経営史・経済史分野のほか、現状の経済・経営に関連した文献のなかから幅広く選択します。
 ・参加者は事前に配布されたテキストに基づき、指示された作業・課題（事前調査／要約／文章作成など）を行います。
 ・各回の報告者（グループ）を決める場合は、該当者はレジュメまたはパワーポイントを使って、報告の準備を行います。
 ・授業へ臨む際には自らの意見を明確化するとともに、積極的に発言し、その場の議論が深まるように心がけます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	前期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
第 2 回	導入①	参加者の自己紹介を行う。
第 3 回	導入②	発表資料の作成とディスカッションの方法について理解する。
第 4 回	導入③	経営史・経済史学の方法と特徴について理解する。
第 5 回	実践①	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
第 6 回	実践②	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
第 7 回	実践③	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
第 8 回	実践④	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
第 9 回	実践⑤	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
第 10 回	実践⑥	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
第 11 回	調査報告①	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。
第 12 回	調査報告②	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。
第 13 回	調査報告③	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。
第 14 回	調査報告④	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・この演習は、2 年間で卒業論文を仕上げることを最終目標に、参加者自らが主体的に学習を行う場です。

・担当教員は、参加者個々の関心に応じて主体的な学習・研究をサポートする役割に徹し、それぞれのペースに介入することはできる限り慎みます。
 ・したがって、参加者は必要に応じ、授業時間以外の調査活動（他大学・自治体図書館への訪問／企業への調査／インタビュー実施など）を行うことも重要になります。
 ・参加者の活動をサポートするためであれば、担当教員はあらゆる支援を惜しみません。教員と密にコミュニケーションをとり、積極的に指導・助言を仰いでください。
 ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・必要に応じ、授業中にコピーを配布する。

【参考書】

・個々の興味に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・報告（40%）＋平常点（30%）＋質問・議論への参加（30%）。
 ・出席する際には、積極的に議論に参加してください。ただ出席するのみの場合、欠席とみなすことがあります。
 ・欠席する場合は、評価に大きく関わりますので、必ず事前に連絡してください。
 ・卒業論文を提出しない場合は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

・主体的な学習を希望する声が多く寄せられたため、テキストの輪読等は最小限にとどめる授業計画へと変更しました。

【学生が準備すべき機器他】

・発表資料の作成の際は、パソコン（ワードやパワーポイント）を使用してください。
 ・その環境が整わない人は、事前に相談してください。

【関連科目】

・日本経営史 I / II
 ・演習は、大学における主体的学習の総合としての性格を持つため、上記の他にも全ての科目に関連します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・ This course is an exercise aiming at teaching and writing graduation thesis.

・ Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.

【Learning Objectives】

・ Through the above iteration, we will thoroughly refine the social science research skills, develop logical thinking, and improve the ability to organize the process as systematic sentences.

【Learning Activities outside of Classroom】

・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

・ Report (40%) + Normal score (30%) + Participation in questions / discussions (30%).

MAN300FA

演習 4

二階堂 行宣

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・経営史専攻の教員による、卒業論文の指導・執筆を目標とした演習です。
 ・各参加者は担当教員の指導のもと、経営学・経済学に関連した実証的な調査・研究を自主的に行い、その成果を授業中に随時報告します。
 ・以上の反復を通じ、社会科学的な調査スキルを徹底的に磨くとともに、論理的な思考を展開し、その過程を体系的な文章としてまとめ上げる力を向上させます。
 ・あわせて、社会人として身に付けておくべき教養・知識（特に日本の近現代史に関するもの）を習得します。

【到達目標】

・さまざまな対象（企業・組織・人物・事象など）の歴史の変遷について調査し、その過程や要因を分析するスキルと意義を学ぶ。
 ・経営史学の専門的知識と方法論を身に付け、その立場から建設的な議論を展開することができる。
 ・社会科学的研究における歴史的アプローチのメリットとデメリットを理解し、自らの主体的な議論・研究に反映させることができる。
 ・現在や未来におけるさまざまな社会的課題を長期的な視点から分析し、理解する能力を養う。
 ・活動の集大成として、卒業論文を執筆・完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・秋学期は、各参加者が興味・関心を持つテーマを選び、卒業論文執筆に向けた作業を行います。
 ・各参加者は、経営学・経済学について関心のあるテーマを設定し、自ら定めたスケジュールに基づいて、主体的に調査を行います。
 ・テーマの設定は各自の自由ですが、調査・分析を行う際には、長期的な視点から対象を分析するように心がけてください。
 ・各参加者は、各回の末尾に調査・研究活動の進捗状況を定期的に報告します。
 ・また、中間報告の時間を複数回設けます。担当報告者（グループ）は、①卒業論文で取り上げたいテーマとその理由、②論文執筆に向けて必要な調査活動・資料、③卒業論文の目次と分析視点、などについて、随時プレゼンテーションを行います。
 ・担当報告者（グループ）によるプレゼンテーションのあと、参加者全員によるディスカッションを行います。
 ・以上の活動に加え、現実のビジネスの現場を見学し、社会人・経営者と接する機会も複数回設け、自らのキャリアを考える際の一助とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	後期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
第 2 回	調査報告①	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
第 3 回	調査報告②	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
第 4 回	調査報告③	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
第 5 回	調査報告④	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
第 6 回	中間報告①	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。
第 7 回	中間報告②	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。
第 8 回	中間報告③	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。
第 9 回	中間報告④	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。
第 10 回	中間報告⑤	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。
第 11 回	最終報告①	各参加者が、卒業論文の分析視点・内容・結論について報告を行う。
第 12 回	最終報告②	各参加者が、卒業論文の分析視点・内容・結論について報告を行う。
第 13 回	最終報告③	各参加者が、卒業論文の分析視点・内容・結論について報告を行う。

第 14 回 最終報告④

各参加者が、卒業論文の分析視点・内容・結論について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・この演習は、2 年間で卒業論文を仕上げることを最終目標に、参加者自らが主体的に学習を行う場です。
 ・担当教員は、参加者個々の関心に応じて主体的な学習・研究をサポートする役割に徹し、それぞれのペースに介入することはできる限り慎みます。
 ・したがって、参加者は必要に応じ、授業時間以外の調査活動（他大学・自治体図書館への訪問／企業への調査／インタビュー実施など）を行うことも重要になります。
 ・参加者の活動をサポートするためであれば、担当教員はあらゆる支援を惜しみません。教員と密にコミュニケーションをとり、積極的に指導・助言を仰いでください。
 ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・必要に応じ、授業中にコピーを配布する。

【参考書】

・個々の興味に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・報告（40%）＋平常点（30%）＋質問・議論への参加（30%）。
 ・出席する際には、積極的に議論に参加してください。ただ出席するのみの場合、欠席とみなすことがあります。
 ・欠席する場合は、評価に大きく関わりますので、必ず事前に連絡してください。
 ・卒業論文を提出しない場合は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

・主体的な学習を希望する声が多く寄せられたため、テキストの輪読等は最小限にとどめる授業計画へと変更しました。

【学生が準備すべき機器他】

・発表資料の作成の際は、パソコン（ワードやパワーポイント）を使用してください。
 ・その環境が整わない人は、事前に相談してください。

【関連科目】

・日本経営史Ⅰ／Ⅱ
 ・演習は、大学における主体的学習の総合としての性格を持つため、上記の他にも全ての科目に関連します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・ This course is an exercise aiming at teaching and writing graduation thesis.

・ Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.

【Learning Objectives】

・ Through the above iteration, we will thoroughly refine the social science research skills, develop logical thinking, and improve the ability to organize the process as systematic sentences.

【Learning Activities outside of Classroom】

・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

・ Report (40%) + Normal score (30%) + Participation in questions / discussions (30%).

MAN400FA

演習 5

二階堂 行宣

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・経営史専攻の教員による、卒業論文の指導・執筆を目標とした演習です。
 ・各参加者は担当教員の指導のもと、経営学・経済学に関連した実証的な調査・研究を自主的に行い、その成果を授業中に随時報告します。
 ・以上の反復を通じ、社会科学的な調査スキルを徹底的に磨くとともに、論理的な思考を展開し、その過程を体系的な文章としてまとめ上げる力を向上させます。
 ・あわせて、社会人として身に付けておくべき教養・知識（特に日本の近現代史に関するもの）を習得します。

【到達目標】

・さまざまな対象（企業・組織・人物・事象など）の歴史の変遷について調査し、その過程や要因を分析するスキルと意義を学ぶ。
 ・経営史学の専門的知識と方法論を身に付け、その立場から建設的な議論を展開することができる。
 ・社会科学的研究における歴史的アプローチのメリットとデメリットを理解し、自らの主体的な議論・研究に反映させることができる。
 ・現在や未来におけるさまざまな社会的課題を長期的な視点から分析し、理解する能力を養う。
 ・活動の集大成として、卒業論文を執筆・完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・春学期は、論理的・学問的な文章を「読み、理解し、批判する」ことを身に付けていきます。
 ・テキストは、日本経営史・経済史分野のほか、現状の経済・経営に関連した文献のなかから幅広く選択します。
 ・参加者は事前に配布されたテキストに基づき、指示された作業・課題（事前調査／要約／文章作成など）を行います。
 ・各回の報告者（グループ）を決める場合は、該当者はレジュメまたはパワーポイントを使って、報告の準備を行います。
 ・授業へ臨む際には自らの意見を明確化するとともに、積極的に発言し、その場の議論が深まるように心がけます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	前期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
第 2 回	導入①	参加者の自己紹介を行う。
第 3 回	導入②	発表資料の作成とディスカッションの方法について理解する。
第 4 回	導入③	経営史・経済史学の方法と特徴について理解する。
第 5 回	実践①	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
第 6 回	実践②	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
第 7 回	実践③	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
第 8 回	実践④	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
第 9 回	実践⑤	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
第 10 回	実践⑥	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
第 11 回	調査報告①	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。
第 12 回	調査報告②	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。
第 13 回	調査報告③	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。
第 14 回	調査報告④	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・この演習は、2 年間で卒業論文を仕上げることを最終目標に、参加者自らが主体的に学習を行う場です。

・担当教員は、参加者個々の関心に応じて主体的な学習・研究をサポートする役割に徹し、それぞれのペースに介入することはできる限り慎みます。
 ・したがって、参加者は必要に応じ、授業時間以外の調査活動（他大学・自治体図書館への訪問／企業への調査／インタビュー実施など）を行うことも重要になります。
 ・参加者の活動をサポートするためであれば、担当教員はあらゆる支援を惜しみません。教員と密にコミュニケーションをとり、積極的に指導・助言を仰いでください。
 ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・必要に応じ、授業中にコピーを配布する。

【参考書】

・個々の興味に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・報告（40%）＋平常点（30%）＋質問・議論への参加（30%）。
 ・出席する際には、積極的に議論に参加してください。ただ出席するのみの場合、欠席とみなすことがあります。
 ・欠席する場合は、評価に大きく関わりますので、必ず事前に連絡してください。
 ・卒業論文を提出しない場合は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

・主体的な学習を希望する声が多く寄せられたため、テキストの輪読等は最小限にとどめる授業計画へと変更しました。

【学生が準備すべき機器他】

・発表資料の作成の際は、パソコン（ワードやパワーポイント）を使用してください。
 ・その環境が整わない人は、事前に相談してください。

【関連科目】

・日本経営史 I / II
 ・演習は、大学における主体的学習の総合としての性格を持つため、上記の他にも全ての科目に関連します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・ This course is an exercise aiming at teaching and writing graduation thesis.

・ Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.

【Learning Objectives】

・ Through the above iteration, we will thoroughly refine the social science research skills, develop logical thinking, and improve the ability to organize the process as systematic sentences.

【Learning Activities outside of Classroom】

・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

・ Report (40%) + Normal score (30%) + Participation in questions / discussions (30%).

MAN400FA

演習 6

二階堂 行宣

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・経営史専攻の教員による、卒業論文の指導・執筆を目標とした演習です。
 ・各参加者は担当教員の指導のもと、経営学・経済学に関連した実証的な調査・研究を自主的に行い、その成果を授業中に随時報告します。
 ・以上の反復を通じ、社会科学的な調査スキルを徹底的に磨くとともに、論理的な思考を展開し、その過程を体系的な文章としてまとめ上げる力を向上させます。
 ・あわせて、社会人として身に付けておくべき教養・知識（特に日本の近現代史に関するもの）を習得します。

【到達目標】

・さまざまな対象（企業・組織・人物・事象など）の歴史の変遷について調査し、その過程や要因を分析するスキルと意義を学ぶ。
 ・経営史学の専門的知識と方法論を身に付け、その立場から建設的な議論を展開することができる。
 ・社会科学的研究における歴史的アプローチのメリットとデメリットを理解し、自らの主体的な議論・研究に反映させることができる。
 ・現在や未来におけるさまざまな社会的課題を長期的な視点から分析し、理解する能力を養う。
 ・活動の集大成として、卒業論文を執筆・完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・秋学期は、各参加者が興味・関心を持つテーマを選び、卒業論文執筆に向けた作業を行います。
 ・各参加者は、経営学・経済学について関心のあるテーマを設定し、自ら定めたスケジュールに基づいて、主体的に調査を行います。
 ・テーマの設定は各自の自由ですが、調査・分析を行う際には、長期的な視点から対象を分析するように心がけてください。
 ・各参加者は、各回の末尾に調査・研究活動の進捗状況を定期的に報告します。
 ・また、中間報告の時間を複数回設けます。担当報告者（グループ）は、①卒業論文で取り上げたいテーマとその理由、②論文執筆に向けて必要な調査活動・資料、③卒業論文の目次と分析視点、などについて、随時プレゼンテーションを行います。
 ・担当報告者（グループ）によるプレゼンテーションのあと、参加者全員によるディスカッションを行います。
 ・以上の活動に加え、現実のビジネスの現場を見学し、社会人・経営者と接する機会も複数回設け、自らのキャリアを考える際の一助とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	後期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
第 2 回	調査報告①	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
第 3 回	調査報告②	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
第 4 回	調査報告③	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
第 5 回	調査報告④	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
第 6 回	中間報告①	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。
第 7 回	中間報告②	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。
第 8 回	中間報告③	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。
第 9 回	中間報告④	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。
第 10 回	中間報告⑤	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査・資料について報告を行う。
第 11 回	最終報告①	各参加者が、卒業論文の分析視点・内容・結論について報告を行う。
第 12 回	最終報告②	各参加者が、卒業論文の分析視点・内容・結論について報告を行う。
第 13 回	最終報告③	各参加者が、卒業論文の分析視点・内容・結論について報告を行う。

第 14 回 最終報告④

各参加者が、卒業論文の分析視点・内容・結論について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・この演習は、2 年間で卒業論文を仕上げることを最終目標に、参加者自らが主体的に学習を行う場です。
 ・担当教員は、参加者個々の関心に応じて主体的な学習・研究をサポートする役割に徹し、それぞれのペースに介入することはできる限り慎みます。
 ・したがって、参加者は必要に応じ、授業時間以外の調査活動（他大学・自治体図書館への訪問／企業への調査／インタビュー実施など）を行うことも重要になります。
 ・参加者の活動をサポートするためであれば、担当教員はあらゆる支援を惜しみません。教員と密にコミュニケーションをとり、積極的に指導・助言を仰いでください。
 ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・必要に応じ、授業中にコピーを配布する。

【参考書】

・個々の興味に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・報告（40%）＋平常点（30%）＋質問・議論への参加（30%）。
 ・出席する際には、積極的に議論に参加してください。ただ出席するのみの場合、欠席とみなすことがあります。
 ・欠席する場合は、評価に大きく関わりますので、必ず事前に連絡してください。
 ・卒業論文を提出しない場合は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

・主体的な学習を希望する声が多く寄せられたため、テキストの輪読等は最小限にとどめる授業計画へと変更しました。

【学生が準備すべき機器他】

・発表資料の作成の際は、パソコン（ワードやパワーポイント）を使用してください。
 ・その環境が整わない人は、事前に相談してください。

【関連科目】

・日本経営史Ⅰ／Ⅱ
 ・演習は、大学における主体的学習の総合としての性格を持つため、上記の他にも全ての科目に関連します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・ This course is an exercise aiming at teaching and writing graduation thesis.

・ Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.

【Learning Objectives】

・ Through the above iteration, we will thoroughly refine the social science research skills, develop logical thinking, and improve the ability to organize the process as systematic sentences.

【Learning Activities outside of Classroom】

・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

・ Report (40%) + Normal score (30%) + Participation in questions / discussions (30%).

MAN200FA

演習 1

西川 英彦

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習では、主には 5 つのこのことを実施する。

- ①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
- ②ゼミ内コンペ（ゼミコン）。
- ③無印良品への企画提案（MUJI プロジェクト）。
- ④ S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読（以下、原則毎回）
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明
第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告
第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの報告
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間（第 3 回）報告	デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

古川一郎・上原渉『1 からのデータ分析』碩学舎、2022 年。

【参考書】

- ①トム・ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! — 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年。
- ②松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動（第 2 版）』碩学舎、2020 年。

③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年。

④ラッセル・ベルク・アイリーン・フィッシャー・ロバート V コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年。

⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年。

⑥西川英彦・澁谷覚編著『1 からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング・マネジメント論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論である。授業計画は、履修者やゲストの状況により、事前に説明の上、変更する可能性がある。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline (in English)】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.

- ① To be able to explain the basic theories of marketing.
- ② To be able to apply practical marketing research methods.
- ③ To be able to write proposals and papers.

Each student's or group's research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows

- ・ Individual and group report 50%.
- ・ Contribution to the exercise activities 50%.

MAN200FA

演習 2

西川 英彦

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習では、主には 5 つのことを実施する。

- ①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
- ②ゼミ内コンペ（ゼミコン）。
- ③無印良品への企画提案（MUJI プロジェクト）。
- ④ S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読（以下、原則毎回）
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明
第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告
第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの報告
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間（第 3 回）報告	デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古川一郎・上原渉『1 からのデータ分析』碩学舎、2022 年。

【参考書】

- ①トム・ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! — 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年。
- ②松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動（第 2 版）』碩学舎、2020 年。

③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年。

④ラッセル・ベルク・アイリーン・フィッシャー・ロバート V コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年。

⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年。

⑥西川英彦・澁谷覚編著『1 からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論である。授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline (in English)】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.

- ① To be able to explain the basic theories of marketing.
- ② To be able to apply practical marketing research methods.
- ③ To be able to write proposals and papers.

Each student's or group's research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows

- ・ Individual and group report 50%.
- ・ Contribution to the exercise activities 50%.

MAN300FA

演習 3

西川 英彦

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習では、主には 5 つのものを実施する。

- ①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
- ②ゼミ内コンペ（ゼミコン）。
- ③無印良品への企画提案（MUJI プロジェクト）。
- ④ S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読（以下、原則毎回）
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明
第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告
第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの報告
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間（第 3 回）報告	デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

古川一郎・上原渉『1 からのデータ分析』碩学舎、2022 年。

【参考書】

- ①トム・ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! — 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年。
- ②松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動（第 2 版）』碩学舎、2020 年。

③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年。

④ラッセル・ベルク・アイリーン・フィッシャー・ロバート V コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年。

⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年。

⑥西川英彦・澁谷覚編著『1 からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング・マネジメント論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論である。授業計画は、履修者やゲストの状況により、事前に説明の上、変更する可能性がある。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline (in English)】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.

- ① To be able to explain the basic theories of marketing.
- ② To be able to apply practical marketing research methods.
- ③ To be able to write proposals and papers.

Each student's or group's research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows

- ・ Individual and group report 50%.
- ・ Contribution to the exercise activities 50%.

MAN300FA

演習 4

西川 英彦

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習では、主には 5 つのことを実施する。

- ①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
- ②ゼミ内コンペ（ゼミコン）。
- ③無印良品への企画提案（MUJI プロジェクト）。
- ④ S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読（以下、原則毎回）
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明
第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告
第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの報告
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間（第 3 回）報告	デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古川一郎・上原渉『1 からのデータ分析』碩学舎、2022 年。

【参考書】

- ①トム・ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! — 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年。
- ②松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動（第 2 版）』碩学舎、2020 年。

③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年。

④ラッセル・ベルク・アイリーン・フィッシャー・ロバート V コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年。

⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年。

⑥西川英彦・澁谷覚編著『1 からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論である。授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline (in English)】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.

- ① To be able to explain the basic theories of marketing.
- ② To be able to apply practical marketing research methods.
- ③ To be able to write proposals and papers.

Each student's or group's research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows

- ・ Individual and group report 50%.
- ・ Contribution to the exercise activities 50%.

MAN400FA

演習 5

西川 英彦

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習では、主には 5 つのものを実施する。

- ①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
- ②ゼミ内コンペ（ゼミコン）。
- ③無印良品への企画提案（MUJI プロジェクト）。
- ④ S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読（以下、原則毎回）
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明
第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告
第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの報告
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間（第 3 回）報告	デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

古川一郎・上原渉『1 からのデータ分析』碩学舎、2022 年。

【参考書】

- ①トム・ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! — 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年。
- ②松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動（第 2 版）』碩学舎、2020 年。

③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年。

④ラッセル・ベルク・アイリーン・フィッシャー・ロバート V コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年。

⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年。

⑥西川英彦・澁谷覚編著『1 からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング・マネジメント論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論である。授業計画は、履修者やゲストの状況により、事前に説明の上、変更する可能性がある。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline (in English)】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.

- ① To be able to explain the basic theories of marketing.
- ② To be able to apply practical marketing research methods.
- ③ To be able to write proposals and papers.

Each student's or group's research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows

- ・ Individual and group report 50%.
- ・ Contribution to the exercise activities 50%.

MAN400FA

演習 6

西川 英彦

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習では、主には 5 つのことを実施する。

- ①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
- ②ゼミ内コンペ（ゼミコン）。
- ③無印良品への企画提案（MUJI プロジェクト）。
- ④ S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読（以下、原則毎回）
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明
第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告
第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの報告
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間（第 3 回）報告	デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古川一郎・上原渉『1 からのデータ分析』碩学舎、2022 年。

【参考書】

- ①トム・ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! — 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年。
- ②松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動（第 2 版）』碩学舎、2020 年。

③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年。

④ラッセル・ベルク・アイリーン・フィッシャー・ロバート V コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年。

⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年。

⑥西川英彦・澁谷覚編著『1 からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論である。授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline (in English)】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.

- ① To be able to explain the basic theories of marketing.
- ② To be able to apply practical marketing research methods.
- ③ To be able to write proposals and papers.

Each student’s or group’s research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows

- ・ Individual and group report 50%.
- ・ Contribution to the exercise activities 50%.

MAN200FA

演習 1

西川 真規子

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不安定化する現代社会において、近視眼的ではなく長期的視点に立ち、多様な他者と協力関係を築きつつ、協働的に問題を解決していくことが益々重要になってきています。このゼミでは社会学、社会心理学の文献を中心とした先行研究の考察により、ひとの態度や行動傾向についての理解を深めるとともに、身近な社会現象を題材としてディスカッションを行い、身近な体験から課題を抽出し社会調査を実施することを通じて、その発生メカニズムの社会科学的な解明を目指します。

【到達目標】

第一に、専門文献の読解を通じて、社会科学的視点から人間の行動および相互依存関係の理解を目指します。第二に、社会調査を実施し、収集したデータを分析・解釈するスキルを身につけます。第三に、ゼミ活動を通じて自己理解や他者への理解を深め、集団活動に必要な自己管理や共感性、コミュニケーションスキルを身につけ、ゼミの一員として信頼される力を高めていきます。第四に、各自が独自性を発揮しながら、グローバル社会でも通用する思考力、発言（表現）力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゼミ初年度は、テキストの読解や、その内容に関するディスカッション、グループプロジェクトを実施します。ゼミ最終年度は、卒業論文作成を進めます。初年度から文献調査や社会調査の方法についても学習を進めます。さらに、ディベート等も取り入れ、情報収集と発信力、自己表現や管理力、コミュニケーションスキルを鍛えます。ゼミ生の自主・自律性を重んじるため、グループプロジェクトや卒業論文のテーマはゼミ生の関心に基づいて決定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介/ゼミ目標の共有/役割決め
第 2 回	テキスト研究 1 卒論研究 1	今後の授業の進め方 卒論のテーマを決定
第 3 回	テキスト研究 2 卒論研究 2	テキスト発表・議論 卒論のテーマを決定
第 4 回	テキスト研究 3 文献調査の方法 1	テキスト発表・議論 先行研究の探索・検討
第 5 回	テキスト研究 4 卒論研究 3	テキスト発表・議論 先行研究の探索・検討
第 6 回	テキスト研究 5 卒論研究 4	テキスト発表・議論 先行文献の探索・検討
第 7 回	テキスト研究 6 文献調査の方法 2	テキスト発表・議論 先行文献と研究上の問
第 8 回	テキスト研究 7 卒論研究 5	テキスト発表・議論 研究上の問の設定
第 9 回	ディベート テキスト研究 8	全員でディベートテーマを決め、ディベートを実施
第 10 回	テキスト研究 9 卒論研究 6	テキスト発表・議論 先行研究のまとめ
第 11 回	テキスト研究 10 卒論研究 7	テキスト発表・議論 先行研究をふまえ、仮説・課題の設定
第 12 回	中間発表準備 1 卒論研究 8	2,3 年はこれまでテキストで扱ったテーマや、ディスカッションの内容をもとにグループプロジェクトを開始/4 年は先行研究をふまえ、仮説・課題の設定へ
第 13 回	中間発表準備 2 卒論研究 9	2,3 年はグループプロジェクトを実施/4 年は研究仮説・課題とその検証方法を検討
第 14 回	中間発表準備 3 卒論研究 10	2,3 年はグループプロジェクトを実施/4 年は研究仮説・課題とその検証方法を検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所について全員が予習を行います。2,3 年は発表担当箇所について授業の前に準備を進めます。4 年は卒業論文進捗状況発表のための準備をスケジュールに従い各自責任を持って進めていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジグムント・バウマン、ティム・メイ『社会学の考え方 第 2 版』、ちくま学芸文庫、2017 年（原著 Zygmunt Bauman & Tim May, *Thinking Sociologically 2nd edition*）

【参考書】

アンソニー・ウェストン『論証のルールブック』、ちくま学芸文庫、2019 年
各学生の必要に応じてその他の参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2,3 年:発表・議論等への参加を含む平常点 30 %、社会科学的視点からの人間行動・相互依存関係の理解 30 %、ゼミ活動を通じた自己・他者の理解、管理、貢献 40 %

4 年:発表・議論等への参加を含む平常点 20 %、ゼミ活動全般でのリーダーシップの発揮 30 %、卒業論文の報告・提出 50%

【学生の意見等からの気づき】

学生一人ひとりが自主性や個性を十分に発揮し、お互いを高めあうことができるようなゼミを目指します。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ活動に必要な資料の配布や共有を学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

双方型のゼミですので、学生からの提案や企画をできるだけゼミの運営に反映していきます。各自がゼミの一員としての責任を自覚し、協力してゼミ活動に貢献することを期待します。あたり前のことをあたり前とせず、常に「なぜ」と問うような探究心の強い学生の参加を希望します。

【関連科目】

組織行動論 I / II

【Outline (in English)】

Course Outline

In this seminar, students will examine social science materials to understand the interactive nature of human behavior. They will also choose their own theme of research, survey relevant literature, gather data, and write a paper.

Learning Objectives

Through various activities in this seminar, students will develop knowledge and skills necessary to think critically and creatively through collaborating with others.

Learning activities outside of classroom

The first-year students will be expected to prepare for the textbook and group-work presentation and discussion. The final-year students will be expected to prepare for their paper presentation and discussion. This will take more than four hours of autonomous learning each week.

Grading Criteria/Policy

For the first-year students: presentation, discussion and contribution in the class (30%), understanding of the interactive nature of human behavior (30%), and contribution to the seminar activities (40%)

For the final-year students: discussion and contribution in the class (20%), contribution to the seminar activities (30%), and presentation and submission of the final paper (50%)

MAN200FA

演習 2

西川 真規子

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不安定化する現代社会において、近視眼的ではなく長期的視点に立ち、多様な他者と協力関係を築きつつ、協働的に問題を解決していくことが益々重要になってきています。このゼミでは社会学、社会心理学の文献を中心とした先行研究の考察により、ひとの態度や行動傾向についての理解を深めるとともに、身近な社会現象を題材としてディスカッションを行い、身近な体験から課題を抽出し社会調査を実施することを通じて、その発生メカニズムの社会科学的な解明を目指します。

【到達目標】

第一に、専門文献の読解を通じて、社会科学的視点から人間の行動および相互依存関係の理解を目指します。第二に、社会調査を実施し収集したデータを分析、解釈するスキルを身につけます。第三に、ゼミ活動を通じて自己理解や他者への理解を深め、集団活動に必要な自己管理や共感性、コミュニケーションスキルを身につけ、メンバーの一員として信頼される力を高めています。第四に、各自が独自性を発揮しながら、グローバル社会でも通用する思考力、発言（表現）力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゼミ初年度は、テキストの読解や、その内容に関するディスカッションを春学期に引き続き実施します。また、来年度の卒論研究に向けてテーマを探索、決定します。ゼミ最終年度は、卒業論文作成を進めます。卒論研究を通じて、文献調査や社会調査の方法、データ分析に必要な統計手法についても学習を進めます。さらに、課外授業等も取り入れ、情報収集と発信力、自己表現や管理力、コミュニケーションスキルを鍛えます。ゼミ生の自主・自律性を重んじるため、卒業論文のテーマはゼミ生の関心に基づいて決定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中間発表	2,3 年はグループプロジェクト発表/4 年卒論中間発表
第 2 回	テキスト研究 1 1 卒論研究 1 1	テキスト発表・議論 調査方法の確定
第 3 回	テキスト研究 1 2 卒論研究 1 2	テキスト発表・議論 調査方法の確定
第 4 回	テキスト研究 1 3 卒論研究 1 3	テキスト発表・議論 調査の実施
第 5 回	テキスト研究 1 4 卒論研究 1 4	テキスト発表・議論 調査の実施
第 6 回	テキスト研究 1 5 卒論研究 1 5	テキスト発表・議論 調査の実施
第 7 回	テキスト研究 1 6 卒論研究 1 6	テキスト発表・議論 調査の実施
第 8 回	テキスト研究 1 7 卒論研究 1 7	テキスト発表・議論 調査結果の分析
第 9 回	課外学習	課外学習を実施
第 10 回	テキスト研究 1 8 卒論研究 1 8	テキスト発表・議論 調査結果の分析
第 11 回	テキスト研究 1 9 卒論研究 1 9	テキスト発表・議論 分析結果のまとめ
第 12 回	テキスト研究 2 0 卒論研究 2 0	テキスト発表・議論 論文執筆
第 13 回	最終発表会の準備	テキスト発表・議論 論文執筆
第 14 回	卒論発表会 プロポーザル発表会	4 年は卒論の最終成果を発表 / 3 年は 来年度の卒論研究プロポーザルを発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所について全員が予習を行います。2,3 年は発表担当箇所について授業の前に準備を進めます。4 年は卒業論文進捗状況発表のための準備をスケジュールに従い各自責任を持って進めていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジグムント・バウマン、ティム・メイ『社会学の考え方 第 2 版』、ちくま学芸文庫、2017 年（原著 Zygmunt Bauman & Tim May, *Thinking Sociologically 2nd edition*）

【参考書】

アンソニー・ウェストン『論証のルールブック』、ちくま学芸文庫、2019 年
各学生の必要に応じて参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2,3 年:発表・議論等への参加を含む平常点 30 %、社会科学的視点からの人間行動・相互依存関係の理解 30 %、ゼミ活動を通じて自己・他者の理解、管理、貢献 40 %

4 年:発表・議論等への参加を含む平常点 20 %、ゼミ活動全般でのリーダーシップの発揮 30 %、卒業論文の報告・提出 50%

【学生の意見等からの気づき】

学生一人ひとりが自主性や個性を十分に発揮し、お互いを高めあうことができるようなゼミを目指します。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ活動に必要な資料の配布や共有を学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

双方型のゼミですので、学生からの提案や企画をできるだけゼミの運営に反映していきます。各自がゼミの一員としての責任を自覚し、協力してゼミ活動に貢献することを期待します。あたり前のことをあたり前とせず、常に「なぜ」と問うような探究心の強い学生の参加を希望します。

【関連科目】

組織行動論 I / II

【Outline (in English)】

Course Outline

In this seminar, students will examine social science materials to understand the interactive nature of human behavior. They will also choose their own theme of research, survey relevant literature, gather data, and write a paper.

Learning Objectives

Through various activities in this seminar, students will develop knowledge and skills necessary to think critically and creatively through collaborating with others.

Learning activities outside of classroom

The first-year students will be expected to prepare for the textbook and group-work presentation and discussion. The final-year students will be expected to prepare for their paper presentation and discussion. This will take more than four hours of autonomous learning each week.

Grading Criteria/Policy

For the first-year students: presentation, discussion and contribution in the class (30%), understanding of the interactive nature of human behavior (30%), and contribution to the seminar activities (40%)

For the final-year students: discussion and contribution in the class (20%), contribution to the seminar activities (30%), and presentation and submission of the final paper (50%)

MAN300FA

演習 3

西川 真規子

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不安定化する現代社会において、近視眼的ではなく長期的視点に立ち、多様な他者と協力関係を築きつつ、協働的に問題を解決していくことが益々重要になってきています。このゼミでは社会学、社会心理学の文献を中心とした先行研究の考察により、ひとの態度や行動傾向についての理解を深めるとともに、身近な社会現象を題材としてディスカッションを行い、身近な体験から課題を抽出し社会調査を実施することを通じて、その発生メカニズムの社会科学的な解明を目指します。

【到達目標】

第一に、専門文献の読解を通じて、社会科学的視点から人間の行動および相互依存関係の理解を目指します。第二に、社会調査を実施し、収集したデータを分析・解釈するスキルを身につけます。第三に、ゼミ活動を通じて自己理解や他者への理解を深め、集団活動に必要な自己管理や共感性、コミュニケーションスキルを身につけ、ゼミの一員として信頼される力を高めていきます。第四に、各自が独自性を発揮しながら、グローバル社会でも通用する思考力、発言（表現）力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゼミ初年度は、テキストの読解や、その内容に関するディスカッション、グループプロジェクトを実施します。ゼミ最終年度は、卒業論文作成を進めます。初年度から文献調査や社会調査の方法についても学習を進めます。さらに、ディベート等も取り入れ、情報収集と発信力、自己表現や管理力、コミュニケーションスキルを鍛えます。ゼミ生の自主・自律性を重んじるため、グループプロジェクトや卒業論文のテーマはゼミ生の関心に基づいて決定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介/ゼミ目標の共有/役割決め
第 2 回	テキスト研究 1 卒論研究 1	今後の授業の進め方 卒論のテーマを決定
第 3 回	テキスト研究 2 卒論研究 2	テキスト発表・議論 卒論のテーマを決定
第 4 回	テキスト研究 3 文献調査の方法 1	テキスト発表・議論 先行研究の探索・検討
第 5 回	テキスト研究 4 卒論研究 3	テキスト発表・議論 先行研究の探索・検討
第 6 回	テキスト研究 5 卒論研究 4	テキスト発表・議論 先行文献の探索・検討
第 7 回	テキスト研究 6 文献調査の方法 2	テキスト発表・議論 先行文献と研究上の問
第 8 回	テキスト研究 7 卒論研究 5	テキスト発表・議論 研究上の問の設定
第 9 回	ディベート テキスト研究 8	全員でディベートテーマを決め、ディベートを実施
第 10 回	テキスト研究 9 卒論研究 6	テキスト発表・議論 先行研究のまとめ
第 11 回	テキスト研究 10 卒論研究 7	テキスト発表・議論 先行研究をふまえ、仮説・課題の設定
第 12 回	中間発表準備 1 卒論研究 8	2,3 年はこれまでテキストで扱ったテーマや、ディスカッションの内容をもとにグループプロジェクトを開始/4 年は先行研究をふまえ、仮説・課題の設定
第 13 回	中間発表準備 2 卒論研究 9	2,3 年はグループプロジェクトを実施/4 年は研究仮説・課題とその検証方法を検討
第 14 回	中間発表準備 3 卒論研究 10	2,3 年はグループプロジェクトを実施/4 年は研究仮説・課題とその検証方法を検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所について全員が予習を行います。2,3 年は発表担当箇所について授業の前に準備を進めます。4 年は卒業論文進捗状況発表のための準備をスケジュールに従い各自責任を持って進めていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジグムント・バウマン、ティム・メイ『社会学の考え方 第 2 版』、ちくま学芸文庫、2017 年（原著 Zygmunt Bauman & Tim May, *Thinking Sociologically 2nd edition*）

【参考書】

アンソニー・ウェストン『論証のルールブック』、ちくま学芸文庫、2019 年
各学生の必要に応じてその他の参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2,3 年:発表・議論等への参加を含む平常点 30 %、社会科学的視点からの人間行動・相互依存関係の理解 30 %、ゼミ活動を通じた自己・他者の理解、管理、貢献 40 %

4 年:発表・議論等への参加を含む平常点 20 %、ゼミ活動全般でのリーダーシップの発揮 30 %、卒業論文の報告・提出 50%

【学生の意見等からの気づき】

学生一人ひとりが自主性や個性を十分に発揮し、お互いを高めあうことができるようなゼミを目指します。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ活動に必要な資料の配布や共有を学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

双方型のゼミですので、学生からの提案や企画をできるだけゼミの運営に反映していきます。各自がゼミの一員としての責任を自覚し、協力してゼミ活動に貢献することを期待します。あたり前のことをあたり前とせず、常に「なぜ」と問うような探究心の強い学生の参加を希望します。

【関連科目】

組織行動論 I / II

【Outline (in English)】

Course Outline

In this seminar, students will examine social science materials to understand the interactive nature of human behavior. They will also choose their own theme of research, survey relevant literature, gather data, and write a paper.

Learning Objectives

Through various activities in this seminar, students will develop knowledge and skills necessary to think critically and creatively through collaborating with others.

Learning activities outside of classroom

The first-year students will be expected to prepare for the textbook and group-work presentation and discussion. The final-year students will be expected to prepare for their paper presentation and discussion. This will take more than four hours of autonomous learning each week.

Grading Criteria/Policy

For the first-year students: presentation, discussion and contribution in the class (30%), understanding of the interactive nature of human behavior (30%), and contribution to the seminar activities (40%)

For the final-year students: discussion and contribution in the class (20%), contribution to the seminar activities (30%), and presentation and submission of the final paper (50%)

MAN300FA

演習 4

西川 真規子

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不安定化する現代社会において、近視眼的ではなく長期的視点に立ち、多様な他者と協力関係を築きつつ、協働的に問題を解決していくことが益々重要になってきています。このゼミでは社会学、社会心理学の文献を中心とした先行研究の考察により、ひとの態度や行動傾向についての理解を深めるとともに、身近な社会現象を題材としてディスカッションを行い、身近な体験から課題を抽出し社会調査を実施することを通じて、その発生メカニズムの社会科学的な解明を目指します。

【到達目標】

第一に、専門文献の読解を通じて、社会科学的視点から人間の行動および相互依存関係の理解を目指します。第二に、社会調査を実施し収集したデータを分析、解釈するスキルを身につけます。第三に、ゼミ活動を通じて自己理解や他者への理解を深め、集団活動に必要な自己管理や共感性、コミュニケーションスキルを身につけ、メンバーの一員として信頼される力を高めています。第四に、各自が独自性を発揮しながら、グローバル社会でも通用する思考力、発言（表現）力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゼミ初年度は、テキストの読解や、その内容に関するディスカッションを春学期に引き続き実施します。また、来年度の卒論研究に向けてテーマを探索、決定します。ゼミ最終年度は、卒業論文作成を進めます。卒論研究を通じて、文献調査や社会調査の方法、データ分析に必要な統計手法についても学習を進めます。さらに、課外授業等も取り入れ、情報収集と発信力、自己表現や管理力、コミュニケーションスキルを鍛えます。ゼミ生の自主・自律性を重んじるため、卒業論文のテーマはゼミ生の関心に基づいて決定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中間発表	2,3 年はグループプロジェクト発表/4 年卒論中間発表
第 2 回	テキスト研究 1 1 卒論研究 1 1	テキスト発表・議論 調査方法の確定
第 3 回	テキスト研究 1 2 卒論研究 1 2	テキスト発表・議論 調査方法の確定
第 4 回	テキスト研究 1 3 卒論研究 1 3	テキスト発表・議論 調査の実施
第 5 回	テキスト研究 1 4 卒論研究 1 4	テキスト発表・議論 調査の実施
第 6 回	テキスト研究 1 5 卒論研究 1 5	テキスト発表・議論 調査の実施
第 7 回	テキスト研究 1 6 卒論研究 1 6	テキスト発表・議論 調査の実施
第 8 回	テキスト研究 1 7 卒論研究 1 7	テキスト発表・議論 調査結果の分析
第 9 回	課外学習	課外学習を実施
第 10 回	テキスト研究 1 8 卒論研究 1 8	テキスト発表・議論 調査結果の分析
第 11 回	テキスト研究 1 9 卒論研究 1 9	テキスト発表・議論 分析結果のまとめ
第 12 回	テキスト研究 2 0 卒論研究 2 0	テキスト発表・議論 論文執筆
第 13 回	最終発表会の準備	テキスト発表・議論 論文執筆
第 14 回	卒論発表会 プロポーザル発表会	4 年は卒論の最終成果を発表 / 3 年は 来年度の卒論研究プロポーザルを発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所について全員が予習を行います。2,3 年は発表担当箇所について授業の前に準備を進めます。4 年は卒業論文進捗状況発表のための準備をスケジュールに従い各自責任を持って進めていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジグムント・バウマン、ティム・メイ『社会学の考え方 第 2 版』、ちくま学芸文庫、2017 年（原著 Zygmunt Bauman & Tim May, *Thinking Sociologically 2nd edition*）

【参考書】

アンソニー・ウェストン『論証のルールブック』、ちくま学芸文庫、2019 年
各学生の必要に応じて参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2,3 年:発表・議論等への参加を含む平常点 30 %、社会科学的視点からの人間行動・相互依存関係の理解 30 %、ゼミ活動を通じて自己・他者の理解、管理、貢献 40 %

4 年:発表・議論等への参加を含む平常点 20 %、ゼミ活動全般でのリーダーシップの発揮 30 %、卒業論文の報告・提出 50%

【学生の意見等からの気づき】

学生一人ひとりが自主性や個性を十分に発揮し、お互いを高めあうことができるようなゼミを目指します。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ活動に必要な資料の配布や共有を学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

双方型のゼミですので、学生からの提案や企画をできるだけゼミの運営に反映していきます。各自がゼミの一員としての責任を自覚し、協力してゼミ活動に貢献することを期待します。あたり前のことをあたり前とせず、常に「なぜ」と問うような探究心の強い学生の参加を希望します。

【関連科目】

組織行動論 I / II

【Outline (in English)】

Course Outline

In this seminar, students will examine social science materials to understand the interactive nature of human behavior. They will also choose their own theme of research, survey relevant literature, gather data, and write a paper.

Learning Objectives

Through various activities in this seminar, students will develop knowledge and skills necessary to think critically and creatively through collaborating with others.

Learning activities outside of classroom

The first-year students will be expected to prepare for the textbook and group-work presentation and discussion. The final-year students will be expected to prepare for their paper presentation and discussion. This will take more than four hours of autonomous learning each week.

Grading Criteria/Policy

For the first-year students: presentation, discussion and contribution in the class (30%), understanding of the interactive nature of human behavior (30%), and contribution to the seminar activities (40%)

For the final-year students: discussion and contribution in the class (20%), contribution to the seminar activities (30%), and presentation and submission of the final paper (50%)

MAN400FA

演習 5

西川 真規子

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不安定化する現代社会において、近視眼的ではなく長期的視点に立ち、多様な他者と協力関係を築きつつ、協働的に問題を解決していくことが益々重要になってきています。このゼミでは社会学、社会心理学の文献を中心とした先行研究の考察により、ひとの態度や行動傾向についての理解を深めるとともに、身近な社会現象を題材としてディスカッションを行い、身近な体験から課題を抽出し社会調査を実施することを通じて、その発生メカニズムの社会科学的な解明を目指します。

【到達目標】

第一に、専門文献の読解を通じて、社会科学的視点から人間の行動および相互依存関係の理解を目指します。第二に、社会調査を実施し、収集したデータを分析・解釈するスキルを身につけます。第三に、ゼミ活動を通じて自己理解や他者への理解を深め、集団活動に必要な自己管理や共感性、コミュニケーションスキルを身につけ、ゼミの一員として信頼される力を高めていきます。第四に、各自が独自性を発揮しながら、グローバル社会でも通用する思考力、発言（表現）力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゼミ初年度は、テキストの読解や、その内容に関するディスカッション、グループプロジェクトを実施します。ゼミ最終年度は、卒業論文作成を進めます。初年度から文献調査や社会調査の方法についても学習を進めます。さらに、ディベート等も取り入れ、情報収集と発信力、自己表現や管理力、コミュニケーションスキルを鍛えます。ゼミ生の自主・自律性を重んじるため、グループプロジェクトや卒業論文のテーマはゼミ生の関心に基づいて決定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介/ゼミ目標の共有/役割決め
第 2 回	テキスト研究 1 卒論研究 1	今後の授業の進め方 卒論のテーマを決定
第 3 回	テキスト研究 2 卒論研究 2	テキスト発表・議論 卒論のテーマを決定
第 4 回	テキスト研究 3 文献調査の方法 1	テキスト発表・議論 先行研究の探索・検討
第 5 回	テキスト研究 4 卒論研究 3	テキスト発表・議論 先行研究の探索・検討
第 6 回	テキスト研究 5 卒論研究 4	テキスト発表・議論 先行文献の探索・検討
第 7 回	テキスト研究 6 文献調査の方法 2	テキスト発表・議論 先行文献と研究上の問
第 8 回	テキスト研究 7 卒論研究 5	テキスト発表・議論 研究上の問の設定
第 9 回	ディベート テキスト研究 8	全員でディベートテーマを決め、ディベートを実施
第 10 回	テキスト研究 9 卒論研究 6	テキスト発表・議論 先行研究のまとめ
第 11 回	テキスト研究 10 卒論研究 7	テキスト発表・議論 先行研究をふまえ、仮説・課題の設定
第 12 回	中間発表準備 1 卒論研究 8	2,3 年はこれまでテキストで扱ったテーマや、ディスカッションの内容をもとにグループプロジェクトを開始/4 年は先行研究をふまえ、仮説・課題の設定へ
第 13 回	中間発表準備 2 卒論研究 9	2,3 年はグループプロジェクトを実施/4 年は研究仮説・課題とその検証方法を検討
第 14 回	中間発表準備 3 卒論研究 10	2,3 年はグループプロジェクトを実施/4 年は研究仮説・課題とその検証方法を検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所について全員が予習を行います。2,3 年は発表担当箇所について授業の前に準備を進めます。4 年は卒業論文進捗状況発表のための準備をスケジュールに従い各自責任を持って進めていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジグムント・バウマン、ティム・メイ『社会学の考え方 第 2 版』、ちくま学芸文庫、2017 年（原著 Zygmunt Bauman & Tim May, *Thinking Sociologically 2nd edition*）

【参考書】

アンソニー・ウェストン『論証のルールブック』、ちくま学芸文庫、2019 年
各学生の必要に応じてその他の参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2,3 年:発表・議論等への参加を含む平常点 30 %、社会科学的視点からの人間行動・相互依存関係の理解 30 %、ゼミ活動を通じた自己・他者の理解、管理、貢献 40 %

4 年:発表・議論等への参加を含む平常点 20 %、ゼミ活動全般でのリーダーシップの発揮 30 %、卒業論文の報告・提出 50%

【学生の意見等からの気づき】

学生一人ひとりが自主性や個性を十分に発揮し、お互いを高めあうことができるようなゼミを目指します。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ活動に必要な資料の配布や共有を学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

双方型のゼミですので、学生からの提案や企画をできるだけゼミの運営に反映していきます。各自がゼミの一員としての責任を自覚し、協力してゼミ活動に貢献することを期待します。あたり前のことをあたり前とせず、常に「なぜ」と問うような探究心の強い学生の参加を希望します。

【関連科目】

組織行動論 I / II

【Outline (in English)】

Course Outline

In this seminar, students will examine social science materials to understand the interactive nature of human behavior. They will also choose their own theme of research, survey relevant literature, gather data, and write a paper.

Learning Objectives

Through various activities in this seminar, students will develop knowledge and skills necessary to think critically and creatively through collaborating with others.

Learning activities outside of classroom

The first-year students will be expected to prepare for the textbook and group-work presentation and discussion. The final-year students will be expected to prepare for their paper presentation and discussion. This will take more than four hours of autonomous learning each week.

Grading Criteria/Policy

For the first-year students: presentation, discussion and contribution in the class (30%), understanding of the interactive nature of human behavior (30%), and contribution to the seminar activities (40%)

For the final-year students: discussion and contribution in the class (20%), contribution to the seminar activities (30%), and presentation and submission of the final paper (50%)

MAN400FA

演習 6

西川 真規子

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不安定化する現代社会において、近視眼的ではなく長期的視点に立ち、多様な他者と協力関係を築きつつ、協働的に問題を解決していくことが益々重要になってきています。このゼミでは社会学、社会心理学の文献を中心とした先行研究の考察により、ひとの態度や行動傾向についての理解を深めるとともに、身近な社会現象を題材としてディスカッションを行い、身近な体験から課題を抽出し社会調査を実施することを通じて、その発生メカニズムの社会科学的な解明を目指します。

【到達目標】

第一に、専門文献の読解を通じて、社会科学的視点から人間の行動および相互依存関係の理解を目指します。第二に、社会調査を実施し収集したデータを分析、解釈するスキルを身につけます。第三に、ゼミ活動を通じて自己理解や他者への理解を深め、集団活動に必要な自己管理や共感性、コミュニケーションスキルを身につけ、メンバーの一員として信頼される力を高めています。第四に、各自が独自性を発揮しながら、グローバル社会でも通用する思考力、発言（表現）力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゼミ初年度は、テキストの読解や、その内容に関するディスカッションを春学期に引き続き実施します。また、来年度の卒論研究に向けてテーマを探索、決定します。ゼミ最終年度は、卒業論文作成を進めます。卒論研究を通じて、文献調査や社会調査の方法、データ分析に必要な統計手法についても学習を進めます。さらに、課外授業等も取り入れ、情報収集と発信力、自己表現や管理力、コミュニケーションスキルを鍛えます。ゼミ生の自主・自律性を重んじるため、卒業論文のテーマはゼミ生の関心に基づいて決定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中間発表	2,3 年はグループプロジェクト発表/4 年卒論中間発表
第 2 回	テキスト研究 1 1 卒論研究 1 1	テキスト発表・議論 調査方法の確定
第 3 回	テキスト研究 1 2 卒論研究 1 2	テキスト発表・議論 調査方法の確定
第 4 回	テキスト研究 1 3 卒論研究 1 3	テキスト発表・議論 調査の実施
第 5 回	テキスト研究 1 4 卒論研究 1 4	テキスト発表・議論 調査の実施
第 6 回	テキスト研究 1 5 卒論研究 1 5	テキスト発表・議論 調査の実施
第 7 回	テキスト研究 1 6 卒論研究 1 6	テキスト発表・議論 調査の実施
第 8 回	テキスト研究 1 7 卒論研究 1 7	テキスト発表・議論 調査結果の分析
第 9 回	課外学習	課外学習を実施
第 10 回	テキスト研究 1 8 卒論研究 1 8	テキスト発表・議論 調査結果の分析
第 11 回	テキスト研究 1 9 卒論研究 1 9	テキスト発表・議論 分析結果のまとめ
第 12 回	テキスト研究 2 0 卒論研究 2 0	テキスト発表・議論 論文執筆
第 13 回	最終発表会の準備	テキスト発表・議論 論文執筆
第 14 回	卒論発表会 プロポーザル発表会	4 年は卒論の最終成果を発表 / 3 年は 来年度の卒論研究プロポーザルを発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所について全員が予習を行います。2,3 年は発表担当箇所について授業の前に準備を進めます。4 年は卒業論文進捗状況発表のための準備をスケジュールに従い各自責任を持って進めていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジグムント・バウマン、ティム・メイ『社会学の考え方 第 2 版』、ちくま学芸文庫、2017 年（原著 Zygmunt Bauman & Tim May, *Thinking Sociologically 2nd edition*）

【参考書】

アンソニー・ウェストン『論証のルールブック』、ちくま学芸文庫、2019 年
各学生の必要に応じて参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2,3 年:発表・議論等への参加を含む平常点 30 %、社会科学的視点からの人間行動・相互依存関係の理解 30 %、ゼミ活動を通じて自己・他者の理解、管理、貢献 40 %

4 年:発表・議論等への参加を含む平常点 20 %、ゼミ活動全般でのリーダーシップの発揮 30 %、卒業論文の報告・提出 50%

【学生の意見等からの気づき】

学生一人ひとりが自主性や個性を十分に発揮し、お互いを高めあうことができるようなゼミを目指します。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ活動に必要な資料の配布や共有を学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

双方型のゼミですので、学生からの提案や企画をできるだけゼミの運営に反映していきます。各自がゼミの一員としての責任を自覚し、協力してゼミ活動に貢献することを期待します。あたり前のことをあたり前とせず、常に「なぜ」と問うような探究心の強い学生の参加を希望します。

【関連科目】

組織行動論 I / II

【Outline (in English)】

Course Outline

In this seminar, students will examine social science materials to understand the interactive nature of human behavior. They will also choose their own theme of research, survey relevant literature, gather data, and write a paper.

Learning Objectives

Through various activities in this seminar, students will develop knowledge and skills necessary to think critically and creatively through collaborating with others.

Learning activities outside of classroom

The first-year students will be expected to prepare for the textbook and group-work presentation and discussion. The final-year students will be expected to prepare for their paper presentation and discussion. This will take more than four hours of autonomous learning each week.

Grading Criteria/Policy

For the first-year students: presentation, discussion and contribution in the class (30%), understanding of the interactive nature of human behavior (30%), and contribution to the seminar activities (40%)

For the final-year students: discussion and contribution in the class (20%), contribution to the seminar activities (30%), and presentation and submission of the final paper (50%)

MAN200FA

演習 1

入野 健

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術の活用とビジネスシステムへの展開およびインターネット情報の収集と分析をテーマとする。

【到達目標】

文献・事例研究を通じて、情報技術について幅広く理解し、情報社会におけるそれらの役割を考えながら自分の直面する問題を含め、様々な場面で適切な情報活用を行えるようになることを目標とする。同時に報告書作成に必要な基礎データの分析手法を身につけ、コンピュータを利用したプレゼンテーションや報告文書作成の技能の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

情報システムの基盤技術となる通信ネットワークやプログラミング言語などに関する知識を身につけながら、それらの新たなビジネスやサービスへの展開の可能性について、実際にインターネットから得られる様々な情報やデータの分析等をまじえて考察する。

授業では最近の話題から文献を選び担当を決めて輪読を行う。毎回担当者が発表を行いそれに対して全員で議論する。発表とディスカッションを基本とするが、その準備段階として、コンピュータを活用した効果的なプレゼンテーション資料の作成や報告文書の作成に関する演習も行う。

課題の解説や発表等に対する講評は授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミ参加にあたっての心構えや進め方について確認する。
第 2 回	報告文書の作成法	レジュメや報告書の作成に必要な基礎技能を身につける。
第 3 回	プレゼンテーション作成法	効果的なプレゼンテーションを行うための技法やスライド作成方法について学習する。
第 4 回	文献輪読	文献を選定し分担して読み理解して発表する輪読を行う。
第 5 回	インターネットビジネスモデル	インターネットの特性を活かしたビジネスモデルを外觀する。
第 6 回	インターネット広告	Google の検索連動型広告を中心にインターネット上での各種の広告の仕組みについて考察する。
第 7 回	ロングテールとフリーミアム	インターネットサービス上でのロングテールとフリーミアムについて考察する。
第 8 回	レコメンデーションシステム	ショッピングサイト等で用いられるいわゆるオススメ商品の提示方法を理解する。
第 9 回	人工知能 (AI)	人工知能の考え方を理解し今後の展開を考察する。
第 10 回	知識に関連する技術	ディープラーニング、集合知などの知識に関連する技術を概観する。
第 11 回	電子マネーと仮想通貨	各々の特性とそれを構成するブロックチェーンの仕組みなどを理解する。
第 12 回	事例研究	Google, Amazon 等の代表的なインターネット企業やサービスを取り上げ考察する。
第 13 回	プロジェクト活動	グループ単位でテーマを持ち、調査研究を行い報告する。
第 14 回	春学期の総括	まとめとして春学期の内容を整理し総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の担当者は事前にスライド・配布資料の作成を含む発表準備を十分に行う。毎回のゼミ授業後にはその回の要点を各自で整理し、疑問点があれば文献やネット等で確認したり次回の質問として準備しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の冒頭にゼミ生の要望を考慮しながら選定する。また、ゼミの進捗状況に応じて各種の教材を適宜追加指定することがある。

【参考書】

ゼミの中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発言頻度やその内容などの平常点・参加意欲を重視 (70%) する。進捗状況に応じて各時点で取り上げているテーマに沿ったレポートを提出 (30%) してもらい、それらから総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ内におけるディスカッションやコミュニケーションの時間を増やして行きたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報検索やプレゼンテーションを行うための各自のノート PC を持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

問題意識を持ち自分の考えを積極的に発言する姿勢を身につけて欲しい。自主的なサブゼミ運営にも期待します。

【関連科目】

情報学入門 I/II
情報技術論 I/II
プログラミング言語 I/II
情報学発展 I/II

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar focuses on utilization of information technologies and their application to business systems, and also aims at analyzing information collected from web based systems.

(Learning Objectives) The goal is to gain a wide understanding of information technology and to be able to use information appropriately in various situations while considering its role in the information society.

(Learning activities outside of classroom) Preparation study will be required for the literature reading. And, especially, the student in charge of the presentation will be expected to prepare the slides and handouts in advance.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be calculated according to in-class contribution (70%), short reports along current topics (30%).

MAN200FA

演習 2

入野 健

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術の活用とビジネスシステムへの展開およびインターネット情報の収集と分析をテーマとする。

【到達目標】

文献・事例研究を通じて、情報技術について幅広く理解し、情報社会におけるそれらの役割を考えながら自分の直面する問題を含め、様々な場面で適切な情報活用を行えるようになることを目標とする。同時に報告書作成に必要な基礎データの分析手法を身につけ、コンピュータを利用したプレゼンテーションや報告文書作成の技能の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

情報システムの基盤技術となる通信ネットワークやプログラミング言語などに関する知識を身につけながら、それらの新たなビジネスやサービスへの展開の可能性について、実際にインターネットから得られる様々な情報やデータの分析等をまじえて考察する。

授業では最近の話題から文献を選び担当を決めて輪読を行う。毎回担当者が発表を行いそれに対して全員で議論する。発表とディスカッションを基本とするが、その準備段階として、コンピュータを活用した効果的なプレゼンテーション資料の作成や報告文書の作成に関する演習も行う。

課題の解説や発表等に対する講評は授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	活動方針の検討と確認	秋学期の進め方の確認と中期的なゼミ活動の方針（サブゼミ等）の検討を行う。
第 2 回	研究テーマの検討	4 年生は各自あるいはグループ毎に卒業研究のテーマを選定する。
第 3 回	研究報告・論文の書法	研究報告・論文の構成や記法・書式を身につける。
第 4 回	文献調査	各テーマの領域について文献などをあたりながら基礎的な事実等を把握する。
第 5 回	データの集計	研究テーマ毎に関連する必要なデータを収集し統計的な集計処理などを行う。
第 6 回	中間報告	各テーマの進捗状況を報告するプレゼンテーションを行う。
第 7 回	各種ディスカッション	より活発なまたはフォーマルな発言や議論の進め方に慣れるため、各種のディスカッションを行う。
第 8 回	ディベート	身近なテーマを設定してディベートを行う。
第 9 回	プログラム開発環境	主に 3 年生はプログラム開発に必要なプラットフォームアプリケーションなどを整備しその操作に慣れる。
第 10 回	プログラミング技法	データ分析計算やテーマに沿った制作物の作成に必要なプログラミング技法を学習する。
第 11 回	HTML とコンテンツ表現	Web サイトのコンテンツの表現方法を身につける。
第 12 回	Web サーバ構築	Web サーバを構築し研究成果等を情報発信する方法を学ぶ。
第 13 回	秋学期の総括	まとめとして秋学期の内容を整理し総括する。
第 14 回	卒業研究発表	4 年生は卒業研究の最終成果を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の担当者は事前にスライド・配布資料の作成を含む発表準備を十分に行う。毎回のゼミ授業後にはその回の要点を各自で整理し、疑問点があれば文献やネット等で確認したり次回の質問として準備しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の冒頭にゼミ生の要望を考慮しながら選定する。また、ゼミの進捗状況に応じて各種の教材を適宜追加指定することがある。

【参考書】

ゼミの中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発言頻度やその内容などの平常点・参加意欲を重視（70%）する。進捗状況に応じて各時点で取り上げているテーマに沿ったレポートを提出（30%）してもらい、それらから総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ内におけるディスカッションやコミュニケーションの時間を増やして行きたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報検索やプレゼンテーションを行うための各自のノート PC を持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

問題意識を持ち自分の考えを積極的に発言する姿勢を身につけて欲しい。自主的なサブゼミ運営にも期待します。

【関連科目】

情報学入門 I / II
情報技術論 I / II
プログラミング言語 I / II
情報学発展 I / II

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar focuses on utilization of information technologies and their application to business systems, and also aims at analyzing information collected from web based systems.

(Learning Objectives) The goal is to gain a wide understanding of information technology and to be able to use information appropriately in various situations while considering its role in the information society.

(Learning activities outside of classroom) Preparation study will be required for the literature reading. And, especially, the student in charge of the presentation will be expected to prepare the slides and handouts in advance.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be calculated according to in-class contribution (70%), short reports along current topics (30%).

MAN300FA

演習 3

入野 健

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術の活用とビジネスシステムへの展開およびインターネット情報の収集と分析をテーマとする。

【到達目標】

文献・事例研究を通じて、情報技術について幅広く理解し、情報社会におけるそれらの役割を考えながら自分の直面する問題を含め、様々な場面で適切な情報活用を行えるようになることを目標とする。同時に報告書作成に必要な基礎データの分析手法を身につけ、コンピュータを利用したプレゼンテーションや報告文書作成の技能の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

情報システムの基盤技術となる通信ネットワークやプログラミング言語などに関する知識を身につけながら、それらの新たなビジネスやサービスへの展開の可能性について、実際にインターネットから得られる様々な情報やデータの分析等をまじえて考察する。

授業では最近の話題から文献を選び担当を決めて輪読を行う。毎回担当者が発表を行いそれに対して全員で議論する。発表とディスカッションを基本とするが、その準備段階として、コンピュータを活用した効果的なプレゼンテーション資料の作成や報告文書の作成に関する演習も行う。

課題の解説や発表等に対する講評は授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミ参加にあたっての心構えや進め方について確認する。
第 2 回	報告文書の作成法	レジュメや報告書の作成に必要な基礎技能を身につける。
第 3 回	プレゼンテーション作成法	効果的なプレゼンテーションを行うための技法やスライド作成方法について学習する。
第 4 回	文献輪読	文献を選定し分担して読み理解して発表する輪読を行う。
第 5 回	インターネットビジネスモデル	インターネットの特性を活かしたビジネスモデルを外觀する。
第 6 回	インターネット広告	Google の検索連動型広告を中心にインターネット上での各種の広告の仕組みについて考察する。
第 7 回	ロングテールとフリーミアム	インターネットサービス上でのロングテールとフリーミアムについて考察する。
第 8 回	レコメンデーションシステム	ショッピングサイト等で用いられるいわゆるオススメ商品の提示方法を理解する。
第 9 回	人工知能 (AI)	人工知能の考え方を理解し今後の展開を考察する。
第 10 回	知識に関連する技術	ディープラーニング、集合知などの知識に関連する技術を概観する。
第 11 回	電子マネーと仮想通貨	各々の特性とそれを構成するブロックチェーンの仕組みなどを理解する。
第 12 回	事例研究	Google, Amazon 等の代表的なインターネット企業やサービスを取り上げ考察する。
第 13 回	プロジェクト活動	グループ単位でテーマを持ち、調査研究を行い報告する。
第 14 回	春学期の総括	まとめとして春学期の内容を整理し総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の担当者は事前にスライド・配布資料の作成を含む発表準備を十分に行う。毎回のゼミ授業後にはその回の要点を各自で整理し、疑問点があれば文献やネット等で確認したり次回の質問として準備しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の冒頭にゼミ生の要望を考慮しながら選定する。また、ゼミの進捗状況に応じて各種の教材を適宜追加指定することがある。

【参考書】

ゼミの中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発言頻度やその内容などの平常点・参加意欲を重視 (70%) する。進捗状況に応じて各時点で取り上げているテーマに沿ったレポートを提出 (30%) してもらい、それらから総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ内におけるディスカッションやコミュニケーションの時間を増やして行きたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報検索やプレゼンテーションを行うための各自のノート PC を持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

問題意識を持ち自分の考えを積極的に発言する姿勢を身につけて欲しい。自主的なサブゼミ運営にも期待します。

【関連科目】

情報学入門 I/II
情報技術論 I/II
プログラミング言語 I/II
情報学発展 I/II

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar focuses on utilization of information technologies and their application to business systems, and also aims at analyzing information collected from web based systems.

(Learning Objectives) The goal is to gain a wide understanding of information technology and to be able to use information appropriately in various situations while considering its role in the information society.

(Learning activities outside of classroom) Preparation study will be required for the literature reading. And, especially, the student in charge of the presentation will be expected to prepare the slides and handouts in advance.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be calculated according to in-class contribution (70%), short reports along current topics (30%).

MAN300FA

演習 4

入野 健

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術の活用とビジネスシステムへの展開およびインターネット情報の収集と分析をテーマとする。

【到達目標】

文献・事例研究を通じて、情報技術について幅広く理解し、情報社会におけるそれらの役割を考えながら自分の直面する問題を含め、様々な場面で適切な情報活用を行えるようになることを目標とする。同時に報告書作成に必要な基礎データの分析手法を身につけ、コンピュータを利用したプレゼンテーションや報告文書作成の技能の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

情報システムの基盤技術となる通信ネットワークやプログラミング言語などに関する知識を身につけながら、それらの新たなビジネスやサービスへの展開の可能性について、実際にインターネットから得られる様々な情報やデータの分析等をまじえて考察する。

授業では最近の話題から文献を選び担当を決めて輪読を行う。毎回担当者が発表を行いそれに対して全員で議論する。発表とディスカッションを基本とするが、その準備段階として、コンピュータを活用した効果的なプレゼンテーション資料の作成や報告文書の作成に関する演習も行う。

課題の解説や発表等に対する講評は授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	活動方針の検討と確認	秋学期の進め方の確認と中期的なゼミ活動の方針（サブゼミ等）の検討を行う。
第 2 回	研究テーマの検討	4 年生は各自あるいはグループ毎に卒業研究のテーマを選定する。
第 3 回	研究報告・論文の書法	研究報告・論文の構成や記法・書式を身につける。
第 4 回	文献調査	各テーマの領域について文献などをあたりながら基礎的な事実等を把握する。
第 5 回	データの集計	研究テーマ毎に関連する必要なデータを収集し統計的な集計処理などを行う。
第 6 回	中間報告	各テーマの進捗状況を報告するプレゼンテーションを行う。
第 7 回	各種ディスカッション	より活発なまたはフォーマルな発言や議論の進め方に慣れるため、各種のディスカッションを行う。
第 8 回	ディベート	身近なテーマを設定してディベートを行う。
第 9 回	プログラム開発環境	主に 3 年生はプログラム開発に必要なプラットフォームアプリケーションなどを整備しその操作に慣れる。
第 10 回	プログラミング技法	データ分析計算やテーマに沿った制作物の作成に必要なプログラミング技法を学習する。
第 11 回	HTML とコンテンツ表現	Web サイトのコンテンツの表現方法を身につける。
第 12 回	Web サーバ構築	Web サーバを構築し研究成果等を情報発信する方法を学ぶ。
第 13 回	秋学期の総括	まとめとして秋学期の内容を整理し総括する。
第 14 回	卒業研究発表	4 年生は卒業研究の最終成果を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の担当者は事前にスライド・配布資料の作成を含む発表準備を十分に行う。毎回のゼミ授業後にはその回の要点を各自で整理し、疑問点があれば文献やネット等で確認したり次回の質問として準備しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の冒頭にゼミ生の要望を考慮しながら選定する。また、ゼミの進捗状況に応じて各種の教材を適宜追加指定することがある。

【参考書】

ゼミの中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発言頻度やその内容などの平常点・参加意欲を重視 (70%) する。進捗状況に応じて各時点で取り上げているテーマに沿ったレポートを提出 (30%) してもらい、それらから総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ内におけるディスカッションやコミュニケーションの時間を増やして行きたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報検索やプレゼンテーションを行うための各自のノート PC を持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

問題意識を持ち自分の考えを積極的に発言する姿勢を身につけて欲しい。自主的なサブゼミ運営にも期待します。

【関連科目】

情報学入門 I / II
情報技術論 I / II
プログラミング言語 I / II
情報学発展 I / II

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar focuses on utilization of information technologies and their application to business systems, and also aims at analyzing information collected from web based systems.

(Learning Objectives) The goal is to gain a wide understanding of information technology and to be able to use information appropriately in various situations while considering its role in the information society.

(Learning activities outside of classroom) Preparation study will be required for the literature reading. And, especially, the student in charge of the presentation will be expected to prepare the slides and handouts in advance.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be calculated according to in-class contribution (70%), short reports along current topics (30%).

MAN400FA

演習 5

入戸野 健

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術の活用とビジネスシステムへの展開およびインターネット情報の収集と分析をテーマとする。

【到達目標】

文献・事例研究を通じて、情報技術について幅広く理解し、情報社会におけるそれらの役割を考えながら自分の直面する問題を含め、様々な場面で適切な情報活用を行えるようになることを目標とする。同時に報告書作成に必要な基礎データの分析手法を身につけ、コンピュータを利用したプレゼンテーションや報告文書作成の技能の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

情報システムの基盤技術となる通信ネットワークやプログラミング言語などに関する知識を身につけながら、それらの新たなビジネスやサービスへの展開の可能性について、実際にインターネットから得られる様々な情報やデータの分析等をまじえて考察する。

授業では最近の話題から文献を選び担当を決めて輪読を行う。毎回担当者が発表を行いそれに対して全員で議論する。発表とディスカッションを基本とするが、その準備段階として、コンピュータを活用した効果的なプレゼンテーション資料の作成や報告文書の作成に関する演習も行う。

課題の解説や発表等に対する講評は授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミ参加にあたっての心構えや進め方について確認する。
第 2 回	報告文書の作成法	レジュメや報告書の作成に必要な基礎技能を身につける。
第 3 回	プレゼンテーション作成法	効果的なプレゼンテーションを行うための技法やスライド作成方法について学習する。
第 4 回	文献輪読	文献を選定し分担して読み理解して発表する輪読を行う。
第 5 回	インターネットビジネスモデル	インターネットの特性を活かしたビジネスモデルを外觀する。
第 6 回	インターネット広告	Google の検索連動型広告を中心にインターネット上での各種の広告の仕組みについて考察する。
第 7 回	ロングテールとフリーミアム	インターネットサービス上でのロングテールとフリーミアムについて考察する。
第 8 回	レコメンデーションシステム	ショッピングサイト等で用いられるいわゆるオススメ商品の提示方法を理解する。
第 9 回	人工知能 (AI)	人工知能の考え方を理解し今後の展開を考察する。
第 10 回	知識に関連する技術	ディープラーニング、集合知などの知識に関連する技術を概観する。
第 11 回	電子マネーと仮想通貨	各々の特性とそれを構成するブロックチェーンの仕組みなどを理解する。
第 12 回	事例研究	Google, Amazon 等の代表的なインターネット企業やサービスを取り上げ考察する。
第 13 回	プロジェクト活動	グループ単位でテーマを持ち、調査研究を行い報告する。
第 14 回	春学期の総括	まとめとして春学期の内容を整理し総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の担当者は事前にスライド・配布資料の作成を含む発表準備を十分に行う。毎回のゼミ授業後にはその回の要点を各自で整理し、疑問点があれば文献やネット等で確認したり次回の質問として準備しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の冒頭にゼミ生の要望を考慮しながら選定する。また、ゼミの進捗状況に応じて各種の教材を適宜追加指定することがある。

【参考書】

ゼミの中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発言頻度やその内容などの平常点・参加意欲を重視 (70%) する。進捗状況に応じて各時点で取り上げているテーマに沿ったレポートを提出 (30%) してもらい、それらから総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ内におけるディスカッションやコミュニケーションの時間を増やして行きたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報検索やプレゼンテーションを行うための各自のノート PC を持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

問題意識を持ち自分の考えを積極的に発言する姿勢を身につけて欲しい。自主的なサブゼミ運営にも期待します。

【関連科目】

情報学入門 I/II
情報技術論 I/II
プログラミング言語 I/II
情報学発展 I/II

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar focuses on utilization of information technologies and their application to business systems, and also aims at analyzing information collected from web based systems.

(Learning Objectives) The goal is to gain a wide understanding of information technology and to be able to use information appropriately in various situations while considering its role in the information society.

(Learning activities outside of classroom) Preparation study will be required for the literature reading. And, especially, the student in charge of the presentation will be expected to prepare the slides and handouts in advance.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be calculated according to in-class contribution (70%), short reports along current topics (30%).

MAN400FA

演習 6

入戸野 健

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術の活用とビジネスシステムへの展開およびインターネット情報の収集と分析をテーマとする。

【到達目標】

文献・事例研究を通じて、情報技術について幅広く理解し、情報社会におけるそれらの役割を考えながら自分の直面する問題を含め、様々な場面で適切な情報活用を行えるようになることを目標とする。同時に報告書作成に必要な基礎データの分析手法を身につけ、コンピュータを利用したプレゼンテーションや報告文書作成の技能の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

情報システムの基盤技術となる通信ネットワークやプログラミング言語などに関する知識を身につけながら、それらの新たなビジネスやサービスへの展開の可能性について、実際にインターネットから得られる様々な情報やデータの分析等をまじえて考察する。

授業では最近の話題から文献を選び担当を決めて輪読を行う。毎回担当者が発表を行いそれに対して全員で議論する。発表とディスカッションを基本とするが、その準備段階として、コンピュータを活用した効果的なプレゼンテーション資料の作成や報告文書の作成に関する演習も行う。

課題の解説や発表等に対する講評は授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	活動方針の検討と確認	秋学期の進め方の確認と中期的なゼミ活動の方針（サブゼミ等）の検討を行う。
第 2 回	研究テーマの検討	4 年生は各自あるいはグループ毎に卒業研究のテーマを選定する。
第 3 回	研究報告・論文の書法	研究報告・論文の構成や記法・書式を身につける。
第 4 回	文献調査	各テーマの領域について文献などをあたりながら基礎的な事実等を把握する。
第 5 回	データの集計	研究テーマ毎に関連する必要なデータを収集し統計的な集計処理などを行う。
第 6 回	中間報告	各テーマの進捗状況を報告するプレゼンテーションを行う。
第 7 回	各種ディスカッション	より活発なまたはフォーマルな発言や議論の進め方に慣れるため、各種のディスカッションを行う。
第 8 回	ディベート	身近なテーマを設定してディベートを行う。
第 9 回	プログラム開発環境	主に 3 年生はプログラム開発に必要なプラットフォームアプリケーションなどを整備しその操作に慣れる。
第 10 回	プログラミング技法	データ分析計算やテーマに沿った制作物の作成に必要なプログラミング技法を学習する。
第 11 回	HTML とコンテンツ表現	Web サイトのコンテンツの表現方法を身につける。
第 12 回	Web サーバ構築	Web サーバを構築し研究成果等を情報発信する方法を学ぶ。
第 13 回	秋学期の総括	まとめとして秋学期の内容を整理し総括する。
第 14 回	卒業研究発表	4 年生は卒業研究の最終成果を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の担当者は事前にスライド・配布資料の作成を含む発表準備を十分に行う。毎回のゼミ授業後にはその回の要点を各自で整理し、疑問点があれば文献やネット等で確認したり次回の質問として準備しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の冒頭にゼミ生の要望を考慮しながら選定する。また、ゼミの進捗状況に応じて各種の教材を適宜追加指定することがある。

【参考書】

ゼミの中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発言頻度やその内容などの平常点・参加意欲を重視（70%）する。進捗状況に応じて各時点で取り上げているテーマに沿ったレポートを提出（30%）してもらい、それらから総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ内におけるディスカッションやコミュニケーションの時間を増やして行きたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報検索やプレゼンテーションを行うための各自のノート PC を持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

問題意識を持ち自分の考えを積極的に発言する姿勢を身につけて欲しい。自主的なサブゼミ運営にも期待します。

【関連科目】

情報学入門 I / II
情報技術論 I / II
プログラミング言語 I / II
情報学発展 I / II

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar focuses on utilization of information technologies and their application to business systems, and also aims at analyzing information collected from web based systems.

(Learning Objectives) The goal is to gain a wide understanding of information technology and to be able to use information appropriately in various situations while considering its role in the information society.

(Learning activities outside of classroom) Preparation study will be required for the literature reading. And, especially, the student in charge of the presentation will be expected to prepare the slides and handouts in advance.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be calculated according to in-class contribution (70%), short reports along current topics (30%).

MAN200FA

演習 1

長谷川 翔平

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業のテーマは「統計モデルによるマーケティング・データの分析」である。企業はマーケティング活動を行う際に、様々なデータを収集し、活用している。例えば、新製品開発では消費者ニーズの調査データ、テレビ広告配信では年齢層別テレビ視聴率データなどが使われる。TSUTAYA の T カードに代表される FSP (Frequent Shoppers Program) と呼ばれるポイントカードによるマーケティング手法を用いれば、個人の長期間にわたる購買履歴データを収集することができる。また、Amazon や楽天などのインターネットショッピングサイトでは、「購入に至る前にどんなサイトを何分見ていたか」まで収集している。これらのデータは多数の消費者から収集されるため、その中で商品 A を買った人は次に商品 B を買う傾向が多いと分かれば、商品 A を買った人に商品 B を推薦する、などしてプロモーションの最適化に用いられている。近年、ビッグデータという単語に注目が集まっているが、マーケティングにおいても企業が持つ大規模なマーケティング・データの活用が求められている。また、統計学や機械学習のモデルを応用して様々なデータの分析を行うデータサイエンティストという専門的な職業にも注目が集まっている。データを分析することで企業経営上の有用な知見を取り出す能力は、今後の社会で重要なスキルとなる。

本授業では、様々なマーケティング・データから経営意思決定に必要な知見を取り出すための分析モデルを学び、実際にデータを収集・分析することで応用力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの基礎的知識を身につける。
- ・課題を発見し、解決のため必要となるデータの収集方法が説明できる。
- ・データ分析モデルの説明と実行ができる。
- ・分析結果を分かりやすく報告できる。
- ・課題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

マーケティング・データの分析モデルについて書かれたテキストを輪読し、データ分析に必要な知識を学ぶ。1 回の授業では報告担当となったグループに、(1) テキスト内容の報告、(2) 関連する学術論文の調査・報告、(3) データ収集と統計解析ソフト R を使った分析を行ってもらう。春学期の後半からはテキストの輪読と並行して、データ分析コンテストの参加準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	テキスト 1・2 章：マーケティング意思決定とリサーチ・デザイン、データの取得と整理	マーケティング・サイエンスの役割とマーケティング・データの調査・収集方法
第 3 回	テキスト 3 章：サンプリング	サンプリング（標本）調査の方法
第 4 回	テキスト 4 章：質問紙の作成と測定尺度	アンケート調査票の作り方
第 5 回	テキスト 5 章：市場反応分析 (I)	回帰モデルによる価格弾力性の推定
第 6 回	テキスト 6 章：市場の発見と知覚マップ	因子分析による市場の理解とチャンスの発見
第 7 回	テキスト 7 章：市場セグメンテーション	クラスター分析による市場分類
第 8 回	テキスト 8 章：製品開発	コンジョイント分析による新製品開発
第 9 回	テキスト 9 章：新製品の普及	バスモデルによる新製品普及構造の理解
第 10 回	テキスト 10 章：顧客の管理	RFM 分析による顧客管理
第 11 回	テキスト 11 章：市場反応分析 (II)	離散選択モデルによる購買予測
第 12 回	テキスト 12 章：ブランドの属性と同時マップ	コレスポンデンス分析による市場ニーズの理解
第 13 回	テキスト 13 章：マーケットバスケットとクロスセリング	アソシエーション分析による同時に購買されやすい商品の分析
第 14 回	テキスト 14 章：定性調査データの分析	構造方程式モデルによる顧客満足度の測定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストを読み、分析例を自分のパソコンで実行する。
 - ・報告担当者は発表資料を作成する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

照井・佐藤『現代マーケティング・リサーチ 新版』有斐閣（2022）

【参考書】

- ・古川・守口・阿部『マーケティング・サイエンス入門（新版）』有斐閣（2011）
 - ・星野・上田『マーケティング・リサーチ入門』有斐閣（2018）
 - ・平岡・堀『プログラミングのための確率統計』オーム社（2009）
 - ・村松ほか『R ユーザーのための RStudio「実践」入門（改訂 2 版）』技術評論社（2021）
- その他必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への参加（100 %）
4 年生は卒業論文の執筆が必須

【学生の意見等からの気づき】

- ・基礎だけでなく発展的な内容も取り入れる
- ・計画的に授業を進める
- ・授業内で統計解析ソフト R の使い方を学習する

【学生が準備すべき機器他】

データ分析と報告資料作成にパソコンが必要である。

【その他の重要事項】

- ・テキストは数式によるモデルの説明が多いため、初歩的な数学と統計学の知識があることが望ましい。
- ・統計解析ソフト R で簡単なプログラミングを組んでデータ分析を行うため、ある程度のパソコンスキル（エクセルの関数が利用できる等）があることが望ましい。
- ・受講希望者は、事前に必ず図書館等で上記テキストを一読し、内容が理解できそうか判断してからゼミへ応募して欲しい。
- ・SA 帰国生および転編入学生の募集は 4 月に行う。
- ・積極性を持った学生の参加を希望する。

【関連科目】

- ・統計学入門
- ・基礎統計学
- ・計量経営分析
- ・マーケティング・リサーチ論

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn methods of analyzing marketing data. At the end of the course, students are expected to acquire skills to collect and analyze marketing data. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on presentation and in-class contribution (100%).

MAN200FA

演習 2

長谷川 翔平

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業のテーマは「統計モデルによるマーケティング・データの分析」である。企業はマーケティング活動を行う際に、様々なデータを収集し、活用している。例えば、新製品開発では消費者ニーズの調査データ、テレビ広告配信では年齢層別テレビ視聴率データなどが使われる。TSUTAYA の T カードに代表される FSP (Frequent Shoppers Program) と呼ばれるポイントカードによるマーケティング手法を用いれば、個人の長期間にわたる購買履歴データを収集することができる。また、Amazon や楽天などのインターネットショッピングサイトでは、「購入に至る前にどんなサイトを何分見ていたか」まで収集している。これらのデータは多数の消費者から収集されるため、その中で商品 A を買った人は次に商品 B を買う傾向が多いと分かれば、商品 A を買った人に商品 B を推薦する、などしてプロモーションの最適化に用いられている。近年、ビッグデータという単語に注目が集まっているが、マーケティングにおいても企業が持つ大規模なマーケティング・データの活用が求められている。また、統計学や機械学習のモデルを応用して様々なデータの分析を行うデータサイエンティストという専門的な職業にも注目が集まっている。データを分析することで企業経営上の有用な知見を取り出す能力は、今後の社会で重要なスキルとなる。

本授業では、様々なマーケティング・データから経営意思決定に必要な知見を取り出すための分析モデルを学び、実際にデータを収集・分析することで応用力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの基礎的知識を身につける。
- ・課題を発見し、解決のため必要となるデータの収集方法が説明できる。
- ・データ分析モデルの説明と実行ができる。
- ・分析結果を分かりやすく報告できる。
- ・課題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

前半①：データ分析に関して発展的な内容を含むテキストの輪読報告グループは、教科書内容、関連する学術論文、データ分析例の報告を行う。

前半②：外部のデータ分析コンテストに参加

昨年度は株式会社野村総合研究所の「マーケティング分析コンテスト」に参加した。

後半：4 年生を中心とした卒業研究

4 年生と 2・3 年生のグループを作り、設定した研究テーマについてデータを収集・分析し、その結果を報告する。テーマ例として昨年度のゼミ生が分析を行ったものを記載する。

- ・サウナツーリズムの活性化
- ・特定保健用食品・機能性表示食品の商品ラベル表示が購買に与える影響
- ・クラフトコーラの市場開拓とマーケティング
- ・学習塾の利用にあたって魅力的に感じる要素

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	データ分析コンテスト：研究計画発表	分析テーマ、研究計画の発表
第 2 回	データ分析コンテスト：中間報告①	利用データや分析手法の報告
第 3 回	データ分析コンテスト：中間報告②	利用データや分析手法の報告
第 4 回	データ分析コンテスト：中間報告③	データ分析の途中報告
第 5 回	データ分析コンテスト：中間報告④	データ分析の途中報告
第 6 回	データ分析コンテスト：最終報告①	分析結果の最終報告
第 7 回	データ分析コンテスト：最終報告②	分析結果の最終報告
第 8 回	卒業研究：研究計画発表	卒業研究テーマの研究背景や目的、研究計画の発表
第 9 回	卒業研究：中間報告①	データ収集方法や利用データの報告
第 10 回	卒業研究：中間報告②	データ収集方法や利用データの報告
第 11 回	卒業研究：中間報告③	データ分析の途中報告
第 12 回	卒業研究：中間報告④	データ分析の途中報告
第 13 回	卒業研究：最終報告①	分析結果の最終報告

第 14 回 卒業研究：最終報告② 分析結果の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自でデータ収集から分析、結果考察を行い、発表資料を作成する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 受講者の関心に応じて、以下の中から決定
- ・石田『R によるテキストマイニング入門（第 2 版）』森北出版（2017）
- ・林ほか『地域データ分析入門』日本評論社（2021）
- ・Marchi ほか『R によるセイバーメトリクス入門』技術評論社（2020）

【参考書】

- ・古川・守口・阿部『マーケティング・サイエンス入門（新版）』有斐閣（2011）
- ・星野・上田『マーケティング・リサーチ入門』有斐閣（2018）
- ・平岡・堀『プログラミングのための確率統計』オーム社（2009）
- ・村松ほか『R ユーザーのための RStudio「実践」入門（改訂 2 版）』技術評論社（2021）

その他必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への参加（100 %）

4 年生は卒業論文の執筆が必須

【学生の意見等からの気づき】

- ・基礎だけでなく発展的な内容も取り入れる
- ・統計解析ソフト R の利用方法を詳しく学ぶ

【学生が準備すべき機器他】

データ分析と報告資料作成にパソコンが必要である。

【その他の重要事項】

- ・テキストは数式によるモデルの説明が多いため、初歩的な数学と統計学の知識があることが望ましい。
- ・統計解析ソフト R で簡単なプログラミングを組んでデータ分析を行うため、ある程度のパソコンスキル（エクセルの関数が利用できる等）があることが望ましい。
- ・受講希望者は、事前に必ず図書館等で上記テキストを一読し、内容が理解できそうか判断してからゼミへ応募して欲しい。
- ・SA 帰国生および転編入学生の募集は 4 月に行う。
- ・積極性を持った学生の参加を希望する。

【関連科目】

- ・統計学入門
- ・基礎統計学
- ・計量経営分析
- ・マーケティング・リサーチ論

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn methods of analyzing marketing data. At the end of the course, students are expected to acquire skills to collect and analyze marketing data. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on presentation and in-class contribution (100%).

MAN300FA

演習 3

長谷川 翔平

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業のテーマは「統計モデルによるマーケティング・データの分析」である。企業はマーケティング活動を行う際に、様々なデータを収集し、活用している。例えば、新製品開発では消費者ニーズの調査データ、テレビ広告配信では年齢層別テレビ視聴率データなどが使われる。TSUTAYA の T カードに代表される FSP (Frequent Shoppers Program) と呼ばれるポイントカードによるマーケティング手法を用いれば、個人の長期間にわたる購買履歴データを収集することができる。また、Amazon や楽天などのインターネットショッピングサイトでは、「購入に至る前にどんなサイトを何分見ていたか」まで収集している。これらのデータは多数の消費者から収集されるため、その中で商品 A を買った人は次に商品 B を買う傾向が多いと分かれば、商品 A を買った人に商品 B を推薦する、などしてプロモーションの最適化に用いられている。近年、ビッグデータという単語に注目が集まっているが、マーケティングにおいても企業が持つ大規模なマーケティング・データの活用が求められている。また、統計学や機械学習のモデルを応用して様々なデータの分析を行うデータサイエンティストという専門的な職業にも注目が集まっている。データを分析することで企業経営上の有用な知見を取り出す能力は、今後の社会で重要なスキルとなる。

本授業では、様々なマーケティング・データから経営意思決定に必要な知見を取り出すための分析モデルを学び、実際にデータを収集・分析することで応用力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの基礎的知識を身につける。
- ・課題を発見し、解決のため必要となるデータの収集方法が説明できる。
- ・データ分析モデルの説明と実行ができる。
- ・分析結果を分かりやすく報告できる。
- ・課題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

マーケティング・データの分析モデルについて書かれたテキストを輪読し、データ分析に必要な知識を学ぶ。1 回の授業では報告担当となったグループに、(1) テキスト内容の報告、(2) 関連する学術論文の調査・報告、(3) データ収集と統計解析ソフト R を使った分析を行ってもらう。春学期の後半からはテキストの輪読と並行して、データ分析コンテストの参加準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	テキスト 1・2 章：マーケティング意思決定とリサーチ・デザイン、データの取得と整理	マーケティング・サイエンスの役割とマーケティング・データの調査・収集方法
第 3 回	テキスト 3 章：サンプリング	サンプリング（標本）調査の方法
第 4 回	テキスト 4 章：質問紙の作成と測定尺度	アンケート調査票の作り方
第 5 回	テキスト 5 章：市場反応分析 (I)	回帰モデルによる価格弾力性の推定
第 6 回	テキスト 6 章：市場の発見と知覚マップ	因子分析による市場の理解とチャンスの発見
第 7 回	テキスト 7 章：市場セグメンテーション	クラスター分析による市場分類
第 8 回	テキスト 8 章：製品開発	コンジョイント分析による新製品開発
第 9 回	テキスト 9 章：新製品の普及	バスモデルによる新製品普及構造の理解
第 10 回	テキスト 10 章：顧客の管理	RFM 分析による顧客管理
第 11 回	テキスト 11 章：市場反応分析 (II)	離散選択モデルによる購買予測
第 12 回	テキスト 12 章：ブランドの属性と同時マップ	コレスポンデンス分析による市場ニーズの理解
第 13 回	テキスト 13 章：マーケットバスケットとクロスセリング	アソシエーション分析による同時に購買されやすい商品の分析
第 14 回	テキスト 14 章：定性調査データの分析	構造方程式モデルによる顧客満足度の測定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストを読み、分析例を自分のパソコンで実行する。
 - ・報告担当者は発表資料を作成する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

照井・佐藤『現代マーケティング・リサーチ 新版』有斐閣（2022）

【参考書】

- ・古川・守口・阿部『マーケティング・サイエンス入門（新版）』有斐閣（2011）
 - ・星野・上田『マーケティング・リサーチ入門』有斐閣（2018）
 - ・平岡・堀『プログラミングのための確率統計』オーム社（2009）
 - ・村松ほか『R ユーザーのための RStudio「実践」入門（改訂 2 版）』技術評論社（2021）
- その他必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への参加（100 %）
4 年生は卒業論文の執筆が必須

【学生の意見等からの気づき】

- ・基礎だけでなく発展的な内容も取り入れる
- ・計画的に授業を進める
- ・授業内で統計解析ソフト R の使い方を学習する

【学生が準備すべき機器他】

データ分析と報告資料作成にパソコンが必要である。

【その他の重要事項】

- ・テキストは数式によるモデルの説明が多いため、初歩的な数学と統計学の知識があることが望ましい。
- ・統計解析ソフト R で簡単なプログラミングを組んでデータ分析を行うため、ある程度のパソコンスキル（エクセルの関数が利用できる等）があることが望ましい。
- ・受講希望者は、事前に必ず図書館等で上記テキストを一読し、内容が理解できそうか判断してからゼミへ応募して欲しい。
- ・SA 帰国生および転編入学生の募集は 4 月に行う。
- ・積極性を持った学生の参加を希望する。

【関連科目】

- ・統計学入門
- ・基礎統計学
- ・計量経営分析
- ・マーケティング・リサーチ論

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn methods of analyzing marketing data. At the end of the course, students are expected to acquire skills to collect and analyze marketing data. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on presentation and in-class contribution (100%).

MAN300FA

演習 4

長谷川 翔平

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業のテーマは「統計モデルによるマーケティング・データの分析」である。企業はマーケティング活動を行う際に、様々なデータを収集し、活用している。例えば、新製品開発では消費者ニーズの調査データ、テレビ広告配信では年齢層別テレビ視聴率データなどが使われる。TSUTAYA の T カードに代表される FSP (Frequent Shoppers Program) と呼ばれるポイントカードによるマーケティング手法を用いれば、個人の長期間にわたる購買履歴データを収集することができる。また、Amazon や楽天などのインターネットショッピングサイトでは、「購入に至る前にどんなサイトを何分見ていたか」まで収集している。これらのデータは多数の消費者から収集されるため、その中で商品 A を買った人は次に商品 B を買う傾向が多いと分かれば、商品 A を買った人に商品 B を推薦する、などしてプロモーションの最適化に用いられている。近年、ビッグデータという単語に注目が集まっているが、マーケティングにおいても企業が持つ大規模なマーケティング・データの活用が求められている。また、統計学や機械学習のモデルを応用して様々なデータの分析を行うデータサイエンティストという専門的な職業にも注目が集まっている。データを分析することで企業経営上の有用な知見を取り出す能力は、今後の社会で重要なスキルとなる。

本授業では、様々なマーケティング・データから経営意思決定に必要な知見を取り出すための分析モデルを学び、実際にデータを収集・分析することで応用力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの基礎的知識を身につける。
- ・課題を発見し、解決のため必要となるデータの収集方法が説明できる。
- ・データ分析モデルの説明と実行ができる。
- ・分析結果を分かりやすく報告できる。
- ・課題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

前半①：データ分析に関して発展的な内容を含むテキストの輪読報告グループは、教科書内容、関連する学術論文、データ分析例の報告を行う。

前半②：外部のデータ分析コンテストに参加

昨年度は株式会社野村総合研究所の「マーケティング分析コンテスト」に参加した。

後半：4 年生を中心とした卒業研究

4 年生と 2・3 年生のグループを作り、設定した研究テーマについてデータを収集・分析し、その結果を報告する。テーマ例として昨年度のゼミ生が分析を行ったものを記載する。

- ・サウナツーリズムの活性化
- ・特定保健用食品・機能性表示食品の商品ラベル表示が購買に与える影響
- ・クラフトコーラの市場開拓とマーケティング
- ・学習塾の利用にあたって魅力的に感じる要素

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	データ分析コンテスト：研究計画発表	分析テーマ、研究計画の発表
第 2 回	データ分析コンテスト：中間報告①	利用データや分析手法の報告
第 3 回	データ分析コンテスト：中間報告②	利用データや分析手法の報告
第 4 回	データ分析コンテスト：中間報告③	データ分析の途中報告
第 5 回	データ分析コンテスト：中間報告④	データ分析の途中報告
第 6 回	データ分析コンテスト：最終報告①	分析結果の最終報告
第 7 回	データ分析コンテスト：最終報告②	分析結果の最終報告
第 8 回	卒業研究：研究計画発表	卒業研究テーマの研究背景や目的、研究計画の発表
第 9 回	卒業研究：中間報告①	データ収集方法や利用データの報告
第 10 回	卒業研究：中間報告②	データ収集方法や利用データの報告
第 11 回	卒業研究：中間報告③	データ分析の途中報告
第 12 回	卒業研究：中間報告④	データ分析の途中報告
第 13 回	卒業研究：最終報告①	分析結果の最終報告

第 14 回 卒業研究：最終報告② 分析結果の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自でデータ収集から分析、結果考察を行い、発表資料を作成する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 受講者の関心に応じて、以下の中から決定
- ・石田『R によるテキストマイニング入門（第 2 版）』森北出版（2017）
- ・林ほか『地域データ分析入門』日本評論社（2021）
- ・Marchi ほか『R によるセイバーメトリクス入門』技術評論社（2020）

【参考書】

- ・古川・守口・阿部『マーケティング・サイエンス入門（新版）』有斐閣（2011）
- ・星野・上田『マーケティング・リサーチ入門』有斐閣（2018）
- ・平岡・堀『プログラミングのための確率統計』オーム社（2009）
- ・村松ほか『R ユーザーのための RStudio「実践」入門（改訂 2 版）』技術評論社（2021）

その他必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への参加（100 %）

4 年生は卒業論文の執筆が必須

【学生の意見等からの気づき】

- ・基礎だけでなく発展的な内容も取り入れる
- ・統計解析ソフト R の利用方法を詳しく学ぶ

【学生が準備すべき機器他】

データ分析と報告資料作成にパソコンが必要である。

【その他の重要事項】

- ・テキストは数式によるモデルの説明が多いため、初歩的な数学と統計学の知識があることが望ましい。
- ・統計解析ソフト R で簡単なプログラミングを組んでデータ分析を行うため、ある程度のパソコンスキル（エクセルの関数が利用できる等）があることが望ましい。
- ・受講希望者は、事前に必ず図書館等で上記テキストを一読し、内容が理解できそうか判断してからゼミへ応募して欲しい。
- ・SA 帰国生および転編入学生の募集は 4 月に行う。
- ・積極性を持った学生の参加を希望する。

【関連科目】

- ・統計学入門
- ・基礎統計学
- ・計量経営分析
- ・マーケティング・リサーチ論

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn methods of analyzing marketing data. At the end of the course, students are expected to acquire skills to collect and analyze marketing data. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on presentation and in-class contribution (100%).

MAN400FA

演習 5

長谷川 翔平

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業のテーマは「統計モデルによるマーケティング・データの分析」である。企業はマーケティング活動を行う際に、様々なデータを収集し、活用している。例えば、新製品開発では消費者ニーズの調査データ、テレビ広告配信では年齢層別テレビ視聴率データなどが使われる。TSUTAYA の T カードに代表される FSP (Frequent Shoppers Program) と呼ばれるポイントカードによるマーケティング手法を用いれば、個人の長期間にわたる購買履歴データを収集することができる。また、Amazon や楽天などのインターネットショッピングサイトでは、「購入に至る前にどんなサイトを何分見ていたか」まで収集している。これらのデータは多数の消費者から収集されるため、その中で商品 A を買った人は次に商品 B を買う傾向が多いと分かれば、商品 A を買った人に商品 B を推薦する、などしてプロモーションの最適化に用いられている。近年、ビッグデータという単語に注目が集まっているが、マーケティングにおいても企業が持つ大規模なマーケティング・データの活用が求められている。また、統計学や機械学習のモデルを応用して様々なデータの分析を行うデータサイエンティストという専門的な職業にも注目が集まっている。データを分析することで企業経営上の有用な知見を取り出す能力は、今後の社会で重要なスキルとなる。

本授業では、様々なマーケティング・データから経営意思決定に必要な知見を取り出すための分析モデルを学び、実際にデータを収集・分析することで応用力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの基礎的知識を身につける。
- ・課題を発見し、解決のため必要となるデータの収集方法が説明できる。
- ・データ分析モデルの説明と実行ができる。
- ・分析結果を分かりやすく報告できる。
- ・課題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

マーケティング・データの分析モデルについて書かれたテキストを輪読し、データ分析に必要な知識を学ぶ。1 回の授業では報告担当となったグループに、(1) テキスト内容の報告、(2) 関連する学術論文の調査・報告、(3) データ収集と統計解析ソフト R を使った分析を行ってもらう。春学期の後半からはテキストの輪読と並行して、データ分析コンテストの参加準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	テキスト 1・2 章：マーケティング意思決定とリサーチ・デザイン、データの取得と整理	マーケティング・サイエンスの役割とマーケティング・データの調査・収集方法
第 3 回	テキスト 3 章：サンプリング	サンプリング（標本）調査の方法
第 4 回	テキスト 4 章：質問紙の作成と測定尺度	アンケート調査票の作り方
第 5 回	テキスト 5 章：市場反応分析 (I)	回帰モデルによる価格弾力性の推定
第 6 回	テキスト 6 章：市場の発見と知覚マップ	因子分析による市場の理解とチャンスの発見
第 7 回	テキスト 7 章：市場セグメンテーション	クラスター分析による市場分類
第 8 回	テキスト 8 章：製品開発	コンジョイント分析による新製品開発
第 9 回	テキスト 9 章：新製品の普及	バスモデルによる新製品普及構造の理解
第 10 回	テキスト 10 章：顧客の管理	RFM 分析による顧客管理
第 11 回	テキスト 11 章：市場反応分析 (II)	離散選択モデルによる購買予測
第 12 回	テキスト 12 章：ブランドの属性と同時マップ	コレスポンデンス分析による市場ニーズの理解
第 13 回	テキスト 13 章：マーケットバスケットとクロスセリング	アソシエーション分析による同時に購買されやすい商品の分析
第 14 回	テキスト 14 章：定性調査データの分析	構造方程式モデルによる顧客満足度の測定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストを読み、分析例を自分のパソコンで実行する。
 - ・報告担当者は発表資料を作成する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

照井・佐藤『現代マーケティング・リサーチ 新版』有斐閣（2022）

【参考書】

- ・古川・守口・阿部『マーケティング・サイエンス入門（新版）』有斐閣（2011）
 - ・星野・上田『マーケティング・リサーチ入門』有斐閣（2018）
 - ・平岡・堀『プログラミングのための確率統計』オーム社（2009）
 - ・村松ほか『R ユーザーのための RStudio「実践」入門（改訂 2 版）』技術評論社（2021）
- その他必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への参加（100 %）
4 年生は卒業論文の執筆が必須

【学生の意見等からの気づき】

- ・基礎だけでなく発展的な内容も取り入れる
- ・計画的に授業を進める
- ・授業内で統計解析ソフト R の使い方を学習する

【学生が準備すべき機器他】

データ分析と報告資料作成にパソコンが必要である。

【その他の重要事項】

- ・テキストは数式によるモデルの説明が多いため、初歩的な数学と統計学の知識があることが望ましい。
- ・統計解析ソフト R で簡単なプログラミングを組んでデータ分析を行うため、ある程度のパソコンスキル（エクセルの関数が利用できる等）があることが望ましい。
- ・受講希望者は、事前に必ず図書館等で上記テキストを一読し、内容が理解できそうか判断してからゼミへ応募して欲しい。
- ・SA 帰国生および転編入学生の募集は 4 月に行う。
- ・積極性を持った学生の参加を希望する。

【関連科目】

- ・統計学入門
- ・基礎統計学
- ・計量経営分析
- ・マーケティング・リサーチ論

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn methods of analyzing marketing data. At the end of the course, students are expected to acquire skills to collect and analyze marketing data. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on presentation and in-class contribution (100%).

MAN400FA

演習 6

長谷川 翔平

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業のテーマは「統計モデルによるマーケティング・データの分析」である。企業はマーケティング活動を行う際に、様々なデータを収集し、活用している。例えば、新製品開発では消費者ニーズの調査データ、テレビ広告配信では年齢層別テレビ視聴率データなどが使われる。TSUTAYA の T カードに代表される FSP (Frequent Shoppers Program) と呼ばれるポイントカードによるマーケティング手法を用いれば、個人の長期間にわたる購買履歴データを収集することができる。また、Amazon や楽天などのインターネットショッピングサイトでは、「購入に至る前にどんなサイトを何分見ていたか」まで収集している。これらのデータは多数の消費者から収集されるため、その中で商品 A を買った人は次に商品 B を買う傾向が多いと分かれば、商品 A を買った人に商品 B を推薦する、などしてプロモーションの最適化に用いられている。近年、ビッグデータという単語に注目が集まっているが、マーケティングにおいても企業が持つ大規模なマーケティング・データの活用が求められている。また、統計学や機械学習のモデルを応用して様々なデータの分析を行うデータサイエンティストという専門的な職業にも注目が集まっている。データを分析することで企業経営上の有用な知見を取り出す能力は、今後の社会で重要なスキルとなる。

本授業では、様々なマーケティング・データから経営意思決定に必要な知見を取り出すための分析モデルを学び、実際にデータを収集・分析することで応用力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの基礎的知識を身につける。
- ・課題を発見し、解決のため必要となるデータの収集方法が説明できる。
- ・データ分析モデルの説明と実行ができる。
- ・分析結果を分かりやすく報告できる。
- ・課題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

前半①：データ分析に関して発展的な内容を含むテキストの輪読報告グループは、教科書内容、関連する学術論文、データ分析例の報告を行う。

前半②：外部のデータ分析コンテストに参加

昨年度は株式会社野村総合研究所の「マーケティング分析コンテスト」に参加した。

後半：4 年生を中心とした卒業研究

4 年生と 2・3 年生のグループを作り、設定した研究テーマについてデータを収集・分析し、その結果を報告する。テーマ例として昨年度のゼミ生が分析を行ったものを記載する。

- ・サウナツーリズムの活性化
- ・特定保健用食品・機能性表示食品の商品ラベル表示が購買に与える影響
- ・クラフトコーラの市場開拓とマーケティング
- ・学習塾の利用にあたって魅力的に感じる要素

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	データ分析コンテスト：研究計画発表	分析テーマ、研究計画の発表
第 2 回	データ分析コンテスト：中間報告①	利用データや分析手法の報告
第 3 回	データ分析コンテスト：中間報告②	利用データや分析手法の報告
第 4 回	データ分析コンテスト：中間報告③	データ分析の途中報告
第 5 回	データ分析コンテスト：中間報告④	データ分析の途中報告
第 6 回	データ分析コンテスト：最終報告①	分析結果の最終報告
第 7 回	データ分析コンテスト：最終報告②	分析結果の最終報告
第 8 回	卒業研究：研究計画発表	卒業研究テーマの研究背景や目的、研究計画の発表
第 9 回	卒業研究：中間報告①	データ収集方法や利用データの報告
第 10 回	卒業研究：中間報告②	データ収集方法や利用データの報告
第 11 回	卒業研究：中間報告③	データ分析の途中報告
第 12 回	卒業研究：中間報告④	データ分析の途中報告
第 13 回	卒業研究：最終報告①	分析結果の最終報告

第 14 回 卒業研究：最終報告② 分析結果の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自でデータ収集から分析、結果考察を行い、発表資料を作成する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者の関心に応じて、以下の中から決定

- ・石田『R によるテキストマイニング入門（第 2 版）』森北出版（2017）
- ・林ほか『地域データ分析入門』日本評論社（2021）
- ・Marchi ほか『R によるセイバーメトリクス入門』技術評論社（2020）

【参考書】

- ・古川・守口・阿部『マーケティング・サイエンス入門（新版）』有斐閣（2011）
- ・星野・上田『マーケティング・リサーチ入門』有斐閣（2018）
- ・平岡・堀『プログラミングのための確率統計』オーム社（2009）
- ・村松ほか『R ユーザーのための RStudio「実践」入門（改訂 2 版）』技術評論社（2021）

その他必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への参加（100 %）

4 年生は卒業論文の執筆が必須

【学生の意見等からの気づき】

- ・基礎だけでなく発展的な内容も取り入れる
- ・統計解析ソフト R の利用方法を詳しく学ぶ

【学生が準備すべき機器他】

データ分析と報告資料作成にパソコンが必要である。

【その他の重要事項】

- ・テキストは数式によるモデルの説明が多いため、初歩的な数学と統計学の知識があることが望ましい。
- ・統計解析ソフト R で簡単なプログラミングを組んでデータ分析を行うため、ある程度のパソコンスキル（エクセルの関数が利用できる等）があることが望ましい。
- ・受講希望者は、事前に必ず図書館等で上記テキストを一読し、内容が理解できそうか判断してからゼミへ応募して欲しい。
- ・SA 帰国生および転編入学生の募集は 4 月に行う。
- ・積極性を持った学生の参加を希望する。

【関連科目】

- ・統計学入門
- ・基礎統計学
- ・計量経営分析
- ・マーケティング・リサーチ論

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn methods of analyzing marketing data. At the end of the course, students are expected to acquire skills to collect and analyze marketing data. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on presentation and in-class contribution (100%).

MAN200FA

演習 1

韓 載香

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

産業史を学ぶ演習 I の今年度テーマは音楽産業である。演習の第一の目的はテーマに即して産業史の方法を学ぶことである。世界第三位の市場規模をもつ日本の音楽産業について、技術的發展、聴き方やメディアの変遷、音楽ビジネスの変化に注目しながら産業史的理解を深めつつ、近年の音楽市場やビジネスの在り方の特徴を理解していく。

演習の第二の目的は、フィールドワークの方法を学ぶことである。受講生はグループ分けをしたうえで、グループメンバーでフィールドワークを協同的に実践していく。フィールドワークに関する基礎的知識を身につけ、テーマ設定からインタビュー調査に関する準備・実行・分析・発表まで行う。

【到達目標】

1. 産業発展の要因を、技術変化、市場やビジネスの特徴及びその変化、競争関係に基づいて説明することができる。
2. 音楽産業の実態について現代的な特徴を述べることができる。
3. フィールドワークを駆使して調査することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・参加者全員は参考文献の研究論文・書籍を読み、質問を用意して授業で提出してください。
- ・報告と司会の順番を決め、報告担当者は報告をし、司会者は進行役を務めて議論をリードします。
- ・グループ別にフィールドワークを行います。フィールドワーク作業表に即して、毎回設定された課題をグループで取り組んで提出し、教員によるフィードバックをもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス—産業史演習では何をやるのか—テーマ及び参考文献の選定	(1) 産業史の方法を学ぶとはどういうことか。 (2) フィールドワーク (グループ分け)
第 2 回	テーマ及び参考文献の選定	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワークの方法 □神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』、白桃書房、2022 年、佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002 年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002 年
第 3 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「世界のメジャー企業による生成期の日本の市場への攻勢」(生明俊雄 [2016]) (2) フィールドワークの方法 □神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』、白桃書房、2022 年、佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002 年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002 年
第 4 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「発展期の日本のレコード産業への世界のメジャーの進攻」(生明俊雄 [2016]) (2) フィールドワークの方法 □神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』、白桃書房、2022 年、佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002 年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002 年

第 5 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「米英メジャーの日本への進攻はなぜ進んだのか—歴史事実の検証から読み取れること」(生明俊雄 [2016]) (2) フィールドワークの方法 □神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』、白桃書房、2022 年、佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002 年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002 年
第 6 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「サブカルを模索する二一世紀のレコード産業—激変する事業環境のなかで生まれつつある新しいカタチ」(生明俊雄 [2016]) (2) フィールドワークの方法 □神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』、白桃書房、2022 年、佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002 年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002 年
第 7 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「産業と文化の出会い」(産業システムとその本質) (増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク： グループ別調査 (文献)
第 8 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「縮小する国内市場」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク： グループ別調査 (文献)
第 9 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「東京—産業的ダイナミズムの創出」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク： 分析 (グループ別)
第 10 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「京阪神—産業の衰退と再生」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク： 調査 (フィールド)
第 11 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「福岡—民間と行政のコラボレーション」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク： 調査 (フィールド)
第 12 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「札幌—メディアを軸とした新システム」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク： 分析 (グループ別)
第 13 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「札幌—メディアを軸とした新システム」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク： 文献+フィールドの総合的分析 (グループ別)
第 14 回	(2) フィールドワーク： 中間発表会 (全体)	グループ別の調査 (分析) 内容を発表し、フィードバックをもらう機会を持ちます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・全員、輪読する参考文献を読んで参加してください。
- 疑問点
- いくつかの解釈が可能であり、参加者と意見交換したい点
- ・報告担当者の準備
- 報告レジュメの作成
- 受講生からの質問に答えられる理解度
- 議論したい論点 (レジュメ内に作成)
- 全体内容にかかわる論点 (どのような点を理解すべきか)
- いくつかの解釈が可能であり、参加者と意見交換したい点
- ・司会者の準備
- 全体内容を理解しておく
- どのような論点がありそうかを想定しながら議論の方向性を考えておく。

【テキスト (教科書)】

- ・生明俊雄『二〇世紀日本レコード産業史 グローバル企業の進攻と市場の発展』勁草書房、2016 年
- ・増淵敏之『欲望の音楽：「趣味」の産業化プロセス』法政大学出版局、2010 年

【参考書】

- ・神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』白桃書房、2022 年

・佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002年

【成績評価の方法と基準】

・輪読教科書に関連する報告及び議論など演習への参加度 (50%)
・フィールドワークに関連するグループ活動の作業、報告、成果の提出 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

・グループ活動の充実及び的確な評価軸の設定

【関連科目】

None.

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of the seminar is to acquire methods for research on history of the industry. This seminar also aims to train in discussion and presentation skills.

I will take up the history of commerce this year and look back on how it has been developing. Since the pandemic, e-commerce has been completely accepted in our daily life. Students will examine the distribution comparing the two perspectives of life history and organization/corporate history. Students will determine the group's research theme and conduct surveys and presentations in group work.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To explain the basic methods of analyzing industry.

To express your opinions

To divide the periods of industrial growth.

To collect and analyze input-output materials.

To write a research report.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook, think the points at issue to discuss : After class meeting, student will be expected to conduct research based on the theme which student decided to study in each group.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following process.

・ Research and presentation 50 percent by group work
・ In-class contribution (discussion etc.) 50 percent

MAN200FA

演習 2

韓 載香

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

産業史を学ぶ演習 I の今年度テーマは音楽産業である。演習の第一の目的はテーマに即して産業史の方法を学ぶことである。世界第三位の市場規模をもつ日本の音楽産業について、技術的發展、聴き方やメディアの変遷、音楽ビジネスの変化に注目しながら産業史的理解を深めつつ、近年の音楽市場やビジネスの在り方の特徴を理解していく。

演習の第二の目的は、フィールドワークの方法を学ぶことである。受講生はグループ分けをしたうえで、グループメンバーでフィールドワークを協同的に実践していく。フィールドワークに関する基礎的知識を身につけ、テーマ設定からインタビュー調査に関する準備・実行・分析・発表まで行う。

【到達目標】

1. 産業発展の要因を、技術変化、市場やビジネスの特徴及びその変化、競争関係に基づいて説明することができる。
2. 音楽産業の実態について現代的な特徴を述べることができる。
3. フィールドワークを駆使して調査することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・参加者全員は参考文献の研究論文・書籍を読み、質問を用意して授業で提出してください。

・報告と司会の順番を決め、報告担当者は報告をし、司会者は進行役を務めて議論をリードします。

・グループ別にフィールドワークを行います。フィールドワーク作業表に即して、毎回設定された課題をグループで取り組んで提出し、教員によるフィードバックをもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「沖縄—独自の産業基盤形成」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク：調査先選定
第 2 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「J ポップとは何か」「J」の時代のポピュラー音楽」(烏賀陽弘道 [2005]) (2) フィールドワーク：調査先への協力依頼
第 3 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「デジタル化は何をもたらしたか」(烏賀陽弘道 [2005]) (2) フィールドワーク：調査内容の調整
第 4 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「テレビとヒット曲」(烏賀陽弘道 [2005]) (2) フィールドワーク：調査
第 5 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「『ココロ』の時代の音楽受容」(烏賀陽弘道 [2005]) (2) フィールドワーク：分析
第 6 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「日本という音楽市場のかたち」(烏賀陽弘道 [2005]) (2) フィールドワーク：文献調査
第 7 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「J ポップ産業の挫折—急成長の十年が終わって」(烏賀陽弘道 [2005]) (2) フィールドワーク：再調査
第 8 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「K-POP の誕生」(金成政 [2018]) (2) フィールドワーク：分析
第 9 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「K-POP の拡張」(金成政 [2018]) (2) フィールドワーク：文献調査
第 10 回	(2) フィールドワーク	(2) グループ別にフィールドに出て調査
第 11 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「K-POP の感覚」(金成政 [2018]) (2) フィールドワーク：分析
第 12 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「K-POP の核心」(金成政 [2018]) (2) フィールドワーク：発表の準備

第 13 回 (1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク：発表の準備
(2) フィールドワーク

第 14 回 フィールドワークの報告 グループ別に行ってきた調査の総まとめの発表会

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

参加の仕方：テキストの該当内容を読み、疑問点及び論点をまとめて提出する。
課題：受講者はグループを組んで研究テーマを決め、先行研究の調査や整理を行ってフィールドワークを行い、分析する。全体報告会で発表する。

【テキスト (教科書)】

増淵敏之『欲望の音楽：「趣味」の産業化プロセス』法政大学出版局、2010 年
烏賀陽弘道『J ポップとは何か：巨大化する音楽産業』岩波書店、2005 年
金成政『K-POP 新感覚のメディア』(岩波書店、2018 年)

【参考書】

神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』、白桃書房、2022 年、佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002 年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002 年

【成績評価の方法と基準】

・教科書に関する報告・司会・議論への参加度の総合評価 (50%)
・グループワークの活動 (調査・実行・分析・発表) の総合評価 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

・グループワークの充実及び的確な評価基準の設定

【その他の重要事項】

発言する機会を「自分に」与えてあげましょう。

【関連科目】

産業史 I、産業史 II

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of the seminar is to acquire methods for research on history of the industry. This seminar also aims to train in discussion and presentation skills.

I will take up the history of commerce this year and look back on how it has been developing. Since the pandemic, e-commerce has been completely accepted in our daily life. Students will examine the distribution comparing the two perspectives of life history and organization/corporate history. Students will determine the group's research them and conduct surveys and presentations in group work.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To explain the basic methods of analyzing industry.

To express your opinions

To divide the periods of industrial growth.

To collect and analyze input-output materials.

To write a research report.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook, think the points at issue to discuss : After class meeting, student will be expected to conduct research based on the theme which student decided to study in each group.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following process.

・ Research and presentation 50 percent by group work

・ In-class contribution (discussion etc.) 50 percent

MAN300FA

演習 3

韓 載香

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

産業史を学ぶ演習 I の今年度テーマは音楽産業である。演習の第一の目的はテーマに即して産業史の方法を学ぶことである。世界第三位の市場規模をもつ日本の音楽産業について、技術的發展、聴き方やメディアの変遷、音楽ビジネスの変化に注目しながら産業史的理解を深めつつ、近年の音楽市場やビジネスの在り方の特徴を理解していく。

演習の第二の目的は、フィールドワークの方法を学ぶことである。受講生はグループ分けをしたうえで、グループメンバーでフィールドワークを協同的に実践していく。フィールドワークに関する基礎的知識を身につけ、テーマ設定からインタビュー調査に関する準備・実行・分析・発表まで行う。

【到達目標】

1. 産業発展の要因を、技術変化、市場やビジネスの特徴及びその変化、競争関係に基づいて説明することができる。
2. 音楽産業の実態について現代的な特徴を述べることができる。
3. フィールドワークを駆使して調査することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・参加者全員は参考文献の研究論文・書籍を読み、質問を用意して授業で提出してください。

・報告と司会の順番を決め、報告担当者は報告をし、司会者は進行役を務めて議論をリードします。

・グループ別にフィールドワークを行います。フィールドワーク作業表に即して、毎回設定された課題をグループで取り組んで提出し、教員によるフィードバックをもらいます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス—産業史演習では何をやるのか—テーマ及び参考文献の選定	(1) 産業史の方法を学ぶとはどういうことか。 (2) フィールドワーク(グループ分け)
第 2 回	テーマ及び参考文献の選定	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワークの方法 □神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』、白桃書房、2022 年、佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002 年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002 年
第 3 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「世界のメジャー企業による生成期の日本の市場への攻勢」(生明俊雄 [2016]) (2) フィールドワークの方法 □神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』、白桃書房、2022 年、佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002 年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002 年
第 4 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「発展期の日本のレコード産業への世界のメジャーの進攻」(生明俊雄 [2016]) (2) フィールドワークの方法 □神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』、白桃書房、2022 年、佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002 年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002 年

第 5 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「米英メジャーの日本への進攻はなぜ進んだのか—歴史事実の検証から読み取れること」(生明俊雄 [2016]) (2) フィールドワークの方法 □神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』、白桃書房、2022 年、佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002 年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002 年
第 6 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「サブカルを模索する二一世紀のレコード産業—激変する事業環境のなかで生まれつつある新しいカタチ」(生明俊雄 [2016]) (2) フィールドワークの方法 □神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』、白桃書房、2022 年、佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002 年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002 年
第 7 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「産業と文化の出会い」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク： グループ別調査(文献)
第 8 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「縮小する国内市場」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク： グループ別調査(文献)
第 9 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「東京—産業的ダイナミズムの創出」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク： 分析(グループ別)
第 10 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「京阪神—産業の衰退と再生」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク： 調査(フィールド)
第 11 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「福岡—民間と行政のコラボレーション」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク： 調査(フィールド)
第 12 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 増淵敏之 [2010] (2) フィールドワーク： 分析(グループ別)
第 13 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「札幌—メディアを軸とした新システム」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク： 文献+フィールドの総合的分析(グループ別)
第 14 回	(2) フィールドワーク： 中間発表会(全体)	グループ別の調査(分析)内容を発表し、フィードバックをもらう機会を持ちます。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・全員、輪読する参考文献を読んで参加してください。
- 疑問点
- いくつかの解釈が可能であり、参加者と意見交換したい点
- ・報告担当者の準備
- 報告レジュメの作成
- 受講生からの質問に答えられる理解度
- 議論したい論点(レジュメ内に作成)
- 全体内容にかかわる論点(どのような点を理解すべきか)
- いくつかの解釈が可能であり、参加者と意見交換したい点
- ・司会者の準備
- 全体内容を理解しておく
- どのような論点がありそうかを想定しながら議論の方向性を考えておく。

【テキスト(教科書)】

- ・生明俊雄『二〇世紀日本レコード産業史 グローバル企業の進攻と市場の発展』勁草書房、2016 年
- ・増淵敏之『欲望の音楽：「趣味」の産業化プロセス』法政大学出版局、2010 年

【参考書】

- ・神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』白桃書房、2022 年

・佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002年

【成績評価の方法と基準】

・輪読教科書に関連する報告及び議論など演習への参加度 (50%)
・フィールドワークに関連するグループ活動の作業、報告、成果の提出 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

・グループ活動の充実及び的確な評価軸の設定

【関連科目】

None.

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of the seminar is to acquire methods for research on history of the industry. This seminar also aims to train in discussion and presentation skills.

I will take up the history of commerce this year and look back on how it has been developing. Since the pandemic, e-commerce has been completely accepted in our daily life. Students will examine the distribution comparing the two perspectives of life history and organization/corporate history. Students will determine the group's research theme and conduct surveys and presentations in group work.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To explain the basic methods of analyzing industry.

To express your opinions

To divide the periods of industrial growth.

To collect and analyze input-output materials.

To write a research report.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook, think the points at issue to discuss : After class meeting, student will be expected to conduct research based on the theme which student decided to study in each group.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following process.

・ Research and presentation 50 percent by group work
・ In-class contribution (discussion etc.) 50 percent

MAN300FA

演習 4

韓 載香

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

産業史を学ぶ演習 I の今年度テーマは音楽産業である。演習の第一の目的はテーマに即して産業史の方法を学ぶことである。世界第三位の市場規模をもつ日本の音楽産業について、技術的發展、聴き方やメディアの変遷、音楽ビジネスの変化に注目しながら産業史的理解を深めつつ、近年の音楽市場やビジネスの在り方の特徴を理解していく。

演習の第二の目的は、フィールドワークの方法を学ぶことである。受講生はグループ分けをしたうえで、グループメンバーでフィールドワークを協同的に実践していく。フィールドワークに関する基礎的知識を身につけ、テーマ設定からインタビュー調査に関する準備・実行・分析・発表まで行う。

【到達目標】

1. 産業発展の要因を、技術変化、市場やビジネスの特徴及びその変化、競争関係に基づいて説明することができる。
2. 音楽産業の実態について現代的な特徴を述べることができる。
3. フィールドワークを駆使して調査することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・参加者全員は参考文献の研究論文・書籍を読み、質問を用意して授業で提出してください。
- ・報告と司会の順番を決め、報告担当者は報告をし、司会者は進行役を務めて議論をリードします。
- ・グループ別にフィールドワークを行います。フィールドワーク作業表に即して、毎回設定された課題をグループで取り組んで提出し、教員によるフィードバックをもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「沖繩—独自の産業基盤形成」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク：調査先選定
第 2 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「J ポップとは何か」「J」の時代のポピュラー音楽」(烏賀陽弘道 [2005]) (2) フィールドワーク：調査先への協力依頼
第 3 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「デジタル化は何をもたらしたか」(烏賀陽弘道 [2005]) (2) フィールドワーク：調査内容の調整
第 4 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「テレビとヒット曲」(烏賀陽弘道 [2005]) (2) フィールドワーク：調査
第 5 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「「ココロ」の時代の音楽受容」(烏賀陽弘道 [2005]) (2) フィールドワーク：分析
第 6 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「日本という音楽市場のかたち」(烏賀陽弘道 [2005]) (2) フィールドワーク：文献調査
第 7 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「J ポップ産業の挫折—急成長の十年が終わって」(烏賀陽弘道 [2005]) (2) フィールドワーク：再調査
第 8 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「K-POP の誕生」(金成政 [2018]) (2) フィールドワーク：分析
第 9 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「K-POP の拡張」(金成政 [2018]) (2) フィールドワーク：文献調査
第 10 回	(2) フィールドワーク	(2) グループ別にフィールドに出て調査
第 11 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「K-POP の感覚」(金成政 [2018]) (2) フィールドワーク：分析
第 12 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「K-POP の核心」(金成政 [2018]) (2) フィールドワーク：発表の準備

第 13 回 (1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク：発表の準備
(2) フィールドワーク

第 14 回 フィールドワークの報告 グループ別に行ってきた調査の総まとめの発表会

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

参加の仕方：テキストの該当内容を読み、疑問点及び論点をまとめて提出する。
課題：受講者はグループを組んで研究テーマを決め、先行研究の調査や整理を行ってフィールドワークを行い、分析する。全体報告会で発表する。

【テキスト (教科書)】

増淵敏之『欲望の音楽：「趣味」の産業化プロセス』法政大学出版局、2010 年
烏賀陽弘道『J ポップとは何か：巨大化する音楽産業』岩波書店、2005 年
金成政『K-POP 新感覚のメディア』(岩波書店、2018 年)

【参考書】

神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』、白桃書房、2022 年、佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002 年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002 年

【成績評価の方法と基準】

- ・教科書に関する報告・司会・議論への参加度の総合評価 (50%)
- ・グループワークの活動 (調査・実行・分析・発表) の総合評価 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

- ・グループワークの充実及び的確な評価基準の設定

【その他の重要事項】

発言する機会を「自分に」与えてあげましょう。

【関連科目】

産業史 I、産業史 II

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of the seminar is to acquire methods for research on history of the industry. This seminar also aims to train in discussion and presentation skills.

I will take up the history of commerce this year and look back on how it has been developing. Since the pandemic, e-commerce has been completely accepted in our daily life. Students will examine the distribution comparing the two perspectives of life history and organization/corporate history. Students will determine the group's research them and conduct surveys and presentations in group work.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To explain the basic methods of analyzing industry.

To express your opinions

To divide the periods of industrial growth.

To collect and analyze input-output materials.

To write a research report.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook, think the points at issue to discuss : After class meeting, student will be expected to conduct research based on the theme which student decided to study in each group.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following process.

- ・ Research and presentation 50 percent by group work
- ・ In-class contribution (discussion etc.) 50 percent

MAN400FA

演習 5

韓 載香

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

産業史を学ぶ演習 I の今年度テーマは音楽産業である。演習の第一の目的はテーマに即して産業史の方法を学ぶことである。世界第三位の市場規模をもつ日本の音楽産業について、技術的發展、聴き方やメディアの変遷、音楽ビジネスの変化に注目しながら産業史的理解を深めつつ、近年の音楽市場やビジネスの在り方の特徴を理解していく。

演習の第二の目的は、フィールドワークの方法を学ぶことである。受講生はグループ分けをしたうえで、グループメンバーでフィールドワークを協同的に実践していく。フィールドワークに関する基礎的知識を身につけ、テーマ設定からインタビュー調査に関する準備・実行・分析・発表まで行う。

【到達目標】

1. 産業発展の要因を、技術変化、市場やビジネスの特徴及びその変化、競争関係に基づいて説明することができる。
2. 音楽産業の実態について現代的な特徴を述べることができる。
3. フィールドワークを駆使して調査することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・参加者全員は参考文献の研究論文・書籍を読み、質問を用意して授業で提出してください。
- ・報告と司会の順番を決め、報告担当者は報告をし、司会者は進行役を務めて議論をリードします。
- ・グループ別にフィールドワークを行います。フィールドワーク作業表に即して、毎回設定された課題をグループで取り組んで提出し、教員によるフィードバックをもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス—産業史演習では何をやるのか—テーマ及び参考文献の選定	(1) 産業史の方法を学ぶとはどういうことか。 (2) フィールドワーク (グループ分け)
第 2 回	テーマ及び参考文献の選定	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワークの方法 □神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』、白桃書房、2022 年、佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002 年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002 年
第 3 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「世界のメジャー企業による生成期の日本の市場への攻勢」(生明俊雄 [2016]) (2) フィールドワークの方法 □神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』、白桃書房、2022 年、佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002 年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002 年
第 4 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「発展期の日本のレコード産業への世界のメジャーの進攻」(生明俊雄 [2016]) (2) フィールドワークの方法 □神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』、白桃書房、2022 年、佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002 年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002 年

第 5 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「米英メジャーの日本への進攻はなぜ進んだのか—歴史事実の検証から読み取れること」(生明俊雄 [2016]) (2) フィールドワークの方法 □神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』、白桃書房、2022 年、佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002 年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002 年
第 6 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「サブカルを模索する二世紀のレコード産業—激変する事業環境のなかで生まれつつある新しいカタチ」(生明俊雄 [2016]) (2) フィールドワークの方法 □神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』、白桃書房、2022 年、佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002 年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002 年
第 7 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「産業と文化の出会い」(産業システムとその本質) (増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク： グループ別調査 (文献)
第 8 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「縮小する国内市場」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク： グループ別調査 (文献)
第 9 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「東京—産業的ダイナミズムの創出」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク： 分析 (グループ別)
第 10 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「京阪神—産業の衰退と再生」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク： 調査 (フィールド)
第 11 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「福岡—民間と行政のコラボレーション」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク： 調査 (フィールド)
第 12 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「札幌—メディアを軸とした新システム」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク： 分析 (グループ別)
第 13 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1) 「札幌—メディアを軸とした新システム」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク： 文献+フィールドの総合的分析 (グループ別)
第 14 回	(2) フィールドワーク： 中間発表会 (全体)	グループ別の調査 (分析) 内容を発表し、フィードバックをもらう機会を持ちます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・全員、輪読する参考文献を読んで参加してください。
- 疑問点
- いくつかの解釈が可能であり、参加者と意見交換したい点
- ・報告担当者の準備
- 報告レジュメの作成
- 受講生からの質問に答えられる理解度
- 議論したい論点 (レジュメ内に作成)
- 全体内容にかかわる論点 (どのような点を理解すべきか)
- いくつかの解釈が可能であり、参加者と意見交換したい点
- ・司会者の準備
- 全体内容を理解しておく
- どのような論点がありそうかを想定しながら議論の方向性を考えておく。

【テキスト (教科書)】

- ・生明俊雄『二〇世紀日本レコード産業史 グローバル企業の進攻と市場の発展』勁草書房、2016 年
- ・増淵敏之『欲望の音楽：「趣味」の産業化プロセス』法政大学出版局、2010 年

【参考書】

- ・神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』白桃書房、2022 年

・佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002年

【成績評価の方法と基準】

・輪読教科書に関連する報告及び議論など演習への参加度 (50%)
・フィールドワークに関連するグループ活動の作業、報告、成果の提出 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

・グループ活動の充実及び的確な評価軸の設定

【関連科目】

None.

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of the seminar is to acquire methods for research on history of the industry. This seminar also aims to train in discussion and presentation skills.

I will take up the history of commerce this year and look back on how it has been developing. Since the pandemic, e-commerce has been completely accepted in our daily life. Students will examine the distribution comparing the two perspectives of life history and organization/corporate history. Students will determine the group's research theme and conduct surveys and presentations in group work.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To explain the basic methods of analyzing industry.

To express your opinions

To divide the periods of industrial growth.

To collect and analyze input-output materials.

To write a research report.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook, think the points at issue to discuss : After class meeting, student will be expected to conduct research based on the theme which student decided to study in each group.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following process.

・ Research and presentation 50 percent by group work
・ In-class contribution (discussion etc.) 50 percent

MAN400FA

演習 6

韓 載香

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

産業史を学ぶ演習 I の今年度テーマは音楽産業である。演習の第一の目的はテーマに即して産業史の方法を学ぶことである。世界第三位の市場規模をもつ日本の音楽産業について、技術的發展、聴き方やメディアの変遷、音楽ビジネスの変化に注目しながら産業史的理解を深めつつ、近年の音楽市場やビジネスの在り方の特徴を理解していく。

演習の第二の目的は、フィールドワークの方法を学ぶことである。受講生はグループ分けをしたうえで、グループメンバーでフィールドワークを協同的に実践していく。フィールドワークに関する基礎的知識を身につけ、テーマ設定からインタビュー調査に関する準備・実行・分析・発表まで行う。

【到達目標】

1. 産業発展の要因を、技術変化、市場やビジネスの特徴及びその変化、競争関係に基づいて説明することができる。
2. 音楽産業の実態について現代的な特徴を述べるができる。
3. フィールドワークを駆使して調査することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・参加者全員は参考文献の研究論文・書籍を読み、質問を用意して授業で提出してください。
- ・報告と司会の順番を決め、報告担当者は報告をし、司会者は進行役を務めて議論をリードします。
- ・グループ別にフィールドワークを行います。フィールドワーク作業表に即して、毎回設定された課題をグループで取り組んで提出し、教員によるフィードバックをもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「沖繩—独自の産業基盤形成」(増淵敏之 [2010]) (2) フィールドワーク：調査先選定
第 2 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「J ポップとは何か」「J」の時代のポピュラー音楽」(烏賀陽弘道 [2005]) (2) フィールドワーク：調査先への協力依頼
第 3 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「デジタル化は何をもたらしたか」(烏賀陽弘道 [2005]) (2) フィールドワーク：調査内容の調整
第 4 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「テレビとヒット曲」(烏賀陽弘道 [2005]) (2) フィールドワーク：調査
第 5 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「「ココロ」の時代の音楽受容」(烏賀陽弘道 [2005]) (2) フィールドワーク：分析
第 6 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「日本という音楽市場のかたち」(烏賀陽弘道 [2005]) (2) フィールドワーク：文献調査
第 7 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「J ポップ産業の挫折—急成長の十年が終わって」(烏賀陽弘道 [2005]) (2) フィールドワーク：再調査
第 8 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「K-POP の誕生」(金成政 [2018]) (2) フィールドワーク：分析
第 9 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「K-POP の拡張」(金成政 [2018]) (2) フィールドワーク：文献調査
第 10 回	(2) フィールドワーク	(2) グループ別にフィールドに出て調査
第 11 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「K-POP の感覚」(金成政 [2018]) (2) フィールドワーク：分析
第 12 回	(1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク	(1)「K-POP の核心」(金成政 [2018]) (2) フィールドワーク：発表の準備

第 13 回 (1) 産業史の方法 (2) フィールドワーク：発表の準備
(2) フィールドワーク

第 14 回 フィールドワークの報告 グループ別に行ってきた調査の総まとめの発表会

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

参加の仕方：テキストの該当内容を読み、疑問点及び論点をまとめて提出する。
課題：受講者はグループを組んで研究テーマを決め、先行研究の調査や整理を行ってフィールドワークを行い、分析する。全体報告会で発表する。

【テキスト (教科書)】

増淵敏之『欲望の音楽：「趣味」の産業化プロセス』法政大学出版局、2010 年
烏賀陽弘道『J ポップとは何か：巨大化する音楽産業』岩波書店、2005 年
金成政『K-POP 新感覚のメディア』(岩波書店、2018 年)

【参考書】

神原理編『フィールドワークの方法 ビジネス・サファリ：都市型フィールドの技法 専修大学商学研究書叢書 21』、白桃書房、2022 年、佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002 年、同『実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002 年

【成績評価の方法と基準】

- ・教科書に関する報告・司会・議論への参加度の総合評価 (50 %)
- ・グループワークの活動 (調査・実行・分析・発表) の総合評価 (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

- ・グループワークの充実及び的確な評価基準の設定

【その他の重要事項】

発言する機会を「自分に」与えてあげましょう。

【関連科目】

産業史 I、産業史 II

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of the seminar is to acquire methods for research on history of the industry. This seminar also aims to train in discussion and presentation skills.

I will take up the history of commerce this year and look back on how it has been developing. Since the pandemic, e-commerce has been completely accepted in our daily life. Students will examine the distribution comparing the two perspectives of life history and organization/corporate history. Students will determine the group's research them and conduct surveys and presentations in group work.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To explain the basic methods of analyzing industry.

To express your opinions

To divide the periods of industrial growth.

To collect and analyze input-output materials.

To write a research report.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook, think the points at issue to discuss : After class meeting, student will be expected to conduct research based on the theme which student decided to study in each group.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following process.

- ・ Research and presentation 50 percent by group work
- ・ In-class contribution (discussion etc.) 50 percent

MAN200FA

演習 1

平田 英明

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることを教育するように心がけています。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3-4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに **poor performing** なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる生産性に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。

対面／オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの進め方 テキスト 2	ゼミ運営について話します 1 章 + 補論の輪読
第 2 回	テキスト 2	2 章と 3 章の輪読
第 3 回	テキスト 1 テキスト 2	1 章の輪読 4 章の輪読
第 4 回	テキスト 1 テキスト 2	2 章の輪読 5 章の輪読
第 5 回	テキスト 1 テキスト 3	3 章の輪読 1 章の輪読
第 6 回	テキスト 3 懸賞論文	コンピュータ演習 1 キックオフ会議
第 7 回	テキスト 1 テキスト 3	4 章の輪読 2 章の輪読
第 8 回	テキスト 1 テキスト 3	5 章の輪読 3 章の輪読
第 9 回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
第 10 回	テキスト 1 テキスト 3	6 章の輪読 4 章の輪読
第 11 回	テキスト 1	コンピュータ演習 2
第 12 回	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
第 13 回	テキスト 1 テキスト 3	コンピュータ演習 3 5 章の輪読
第 14 回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定 + 準備作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていくことが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 伊藤萬里・田中鮎夢 (2022) 『現実から学ぶ国際経済学』(有斐閣)
2. 江崎貴裕 (2020) 『分析者のためのデータ解釈学入門』(ソシム)
3. 山本勲 (2015) 『実証分析のための計量経済学』(中央経済社)

【参考書】

1. 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』(日本経済新聞出版)
2. 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』(有斐閣)
3. 糞谷千風彦『計量経済学』(東洋経済)

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告 (75%)、日頃の学習態度 (25%) で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン (カメラ、マイク等のインフラも含む)

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」とであると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2-3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to encourage students to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

Grading will be done by evaluating every week's preparation, class participation, and presentation.

MAN200FA

演習 2

平田 英明

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることを教育するように心がけています。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3-4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに *poor performing* なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。

対面／オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	懸賞論文 1	懸賞論文の修正作業をします。
第 2 回	懸賞論文 2	懸賞論文の仕上げ作業をします。
第 3 回	テキスト 1	1 章の輪読
第 4 回	テキスト 2	2 章の輪読
第 5 回	テキスト 1	3 章の輪読
第 6 回	コンピュータ演習 1	コンピュータ演習
第 7 回	テキスト 1	4 章の輪読
第 8 回	テキスト 2	5 章の輪読
第 9 回	インゼミ 1	明治大学とのインゼミ
第 10 回	インゼミ 2	慶應大学とのインゼミ
第 11 回	インゼミ 3	神奈川大学とのインゼミ
第 12 回	コンピュータ演習 2	コンピュータ演習
第 13 回	テキスト 1	6 章の輪読
第 14 回	テキスト 2	7 章の輪読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていくことが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 未定（春学期からの輪読状況を踏まえて決める）

【参考書】

1. 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
2. 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』（有斐閣）
3. 糞谷千風彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度（25%）で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（カメラ、マイク等のインフラも含む）

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2-3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけています。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to encourage students to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

Grading will be done by evaluating every week's preparation, class participation, and presentation.

MAN300FA

演習 3

平田 英明

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることを教育するように心がけています。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3-4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに **poor performing** なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる生産性に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。

対面／オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの進め方 テキスト 2	ゼミ運営について話します 1 章 + 補論の輪読
第 2 回	テキスト 2	2 章と 3 章の輪読
第 3 回	テキスト 1 テキスト 2	1 章の輪読 4 章の輪読
第 4 回	テキスト 1 テキスト 2	2 章の輪読 5 章の輪読
第 5 回	テキスト 1 テキスト 3	3 章の輪読 1 章の輪読
第 6 回	テキスト 3 懸賞論文	コンピュータ演習 1 キックオフ会議
第 7 回	テキスト 1 テキスト 3	4 章の輪読 2 章の輪読
第 8 回	テキスト 1 テキスト 3	5 章の輪読 3 章の輪読
第 9 回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
第 10 回	テキスト 1 テキスト 3	6 章の輪読 4 章の輪読
第 11 回	テキスト 1	コンピュータ演習 2
第 12 回	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
第 13 回	テキスト 1 テキスト 3	コンピュータ演習 3 5 章の輪読
第 14 回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定 + 準備作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていくことが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 伊藤萬里・田中鮎夢 (2022) 『現実から学ぶ国際経済学』 (有斐閣)
2. 江崎貴裕 (2020) 『分析者のためのデータ解釈学入門』 (ソシム)
3. 山本勲 (2015) 『実証分析のための計量経済学』 (中央経済社)

【参考書】

1. 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』(日本経済新聞出版)
2. 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』(有斐閣)
3. 糞谷千風彦『計量経済学』(東洋経済)

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告 (75%)、日頃の学習態度 (25%) で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン (カメラ、マイク等のインフラも含む)

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2-3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。

ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to encourage students to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

Grading will be done by evaluating every week's preparation, class participation, and presentation.

MAN300FA

演習 4

平田 英明

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることを教育するように心がけています。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3-4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに *poor performing* なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。

対面／オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	懸賞論文 1	懸賞論文の修正作業をします。
第 2 回	懸賞論文 2	懸賞論文の仕上げ作業をします。
第 3 回	テキスト 1	1 章の輪読
	テキスト 2	
第 4 回	テキスト 1	2 章の輪読
	テキスト 2	
第 5 回	テキスト 1	3 章の輪読
	テキスト 2	
第 6 回	コンピュータ演習 1	コンピュータ演習
第 7 回	テキスト 1	4 章の輪読
	テキスト 2	
第 8 回	テキスト 1	5 章の輪読
	テキスト 2	
第 9 回	インゼミ 1	明治大学とのインゼミ
第 10 回	インゼミ 2	慶應大学とのインゼミ
第 11 回	インゼミ 3	神奈川大学とのインゼミ
第 12 回	コンピュータ演習 2	コンピュータ演習
第 13 回	テキスト 1	6 章の輪読
	テキスト 2	
第 14 回	テキスト 1	7 章の輪読
	テキスト 2	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていくことが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 未定（春学期からの輪読状況を踏まえて決める）

【参考書】

1. 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
2. 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』（有斐閣）
3. 糞谷千風彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度（25%）で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（カメラ、マイク等のインフラも含む）

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2-3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけています。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to encourage students to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

Grading will be done by evaluating every week's preparation, class participation, and presentation.

MAN400FA

演習 5

平田 英明

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることを教育するように心がけています。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3-4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに **poor performing** なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる生産性に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。

対面／オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの進め方 テキスト 2	ゼミ運営について話します 1 章 + 補論の輪読
第 2 回	テキスト 2	2 章と 3 章の輪読
第 3 回	テキスト 1 テキスト 2	1 章の輪読 4 章の輪読
第 4 回	テキスト 1 テキスト 2	2 章の輪読 5 章の輪読
第 5 回	テキスト 1 テキスト 3	3 章の輪読 1 章の輪読
第 6 回	テキスト 3 懸賞論文	コンピュータ演習 1 キックオフ会議
第 7 回	テキスト 1 テキスト 3	4 章の輪読 2 章の輪読
第 8 回	テキスト 1 テキスト 3	5 章の輪読 3 章の輪読
第 9 回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
第 10 回	テキスト 1 テキスト 3	6 章の輪読 4 章の輪読
第 11 回	テキスト 1	コンピュータ演習 2
第 12 回	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
第 13 回	テキスト 1 テキスト 3	コンピュータ演習 3 5 章の輪読
第 14 回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定 + 準備作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていくことが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 伊藤萬里・田中鮎夢 (2022) 『現実から学ぶ国際経済学』（有斐閣）
2. 江崎貴裕 (2020) 『分析者のためのデータ解釈学入門』（ソシム）
3. 山本勲 (2015) 『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【参考書】

1. 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
2. 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』（有斐閣）
3. 糞谷千風彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告 (75%)、日頃の学習態度 (25%) で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（カメラ、マイク等のインフラも含む）

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」とであると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2-3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。

ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to encourage students to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

Grading will be done by evaluating every week's preparation, class participation, and presentation.

MAN400FA

演習 6

平田 英明

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることを教育するように心がけています。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3-4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに *poor performing* なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。

対面／オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	懸賞論文 1	懸賞論文の修正作業をします。
第 2 回	懸賞論文 2	懸賞論文の仕上げ作業をします。
第 3 回	テキスト 1	1 章の輪読
	テキスト 2	
第 4 回	テキスト 1	2 章の輪読
	テキスト 2	
第 5 回	テキスト 1	3 章の輪読
	テキスト 2	
第 6 回	コンピュータ演習 1	コンピュータ演習
第 7 回	テキスト 1	4 章の輪読
	テキスト 2	
第 8 回	テキスト 1	5 章の輪読
	テキスト 2	
第 9 回	インゼミ 1	明治大学とのインゼミ
第 10 回	インゼミ 2	慶應大学とのインゼミ
第 11 回	インゼミ 3	神奈川大学とのインゼミ
第 12 回	コンピュータ演習 2	コンピュータ演習
第 13 回	テキスト 1	6 章の輪読
	テキスト 2	
第 14 回	テキスト 1	7 章の輪読
	テキスト 2	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていくことが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 未定（春学期からの輪読状況を踏まえて決める）

【参考書】

1. 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
2. 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』（有斐閣）
3. 藁谷千風彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度（25%）で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（カメラ、マイク等のインフラも含む）

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2-3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけています。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to encourage students to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

Grading will be done by evaluating every week's preparation, class participation, and presentation.

MAN200FA

演習 1

福島 英史

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、企業組織が行う経営戦略の意思決定について、論理的に考え、理解を深め、自分なりの意見をまとめることです。経営戦略の基本的な考え方を習得するとともに、戦略の意思決定を理解する助けとしてほかの社会科学の基礎的なアイデアにも触れます。

【到達目標】

経営事象を織りなす様々な意思決定とその合成過程について、論理的に理解し、説明できるようになることが達成目標です。世の中で観察・報じられる経営事象について自分なりの関心を持ち、問題を立て、自分なりの説明ができるようになることを目標とします。経営学部生として、自分なりに、経営学に関する発表を行い、ゼミ内で話し合い、経営学の論文を書いて卒業していきます。卒業時に経営・経営学のどんな問題に取り組んだか自分なりに説明できることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本年は対面形式の開講となります。大学指示等でオンラインに切り替わる場合、学習支援システム及び授業内でお知らせ、説明します。

2つの学習活動に取り組みます。1つは文献の輪読です。用意したレジュメをもとに、疑問点や議論の論理展開などを議論します。もう1つは、グループで行う調査研究です。4人前後のグループがテーマを決めて調査し、月1回報告します。また他大学とインターゼミを行い、研究成果を発表し、意見交換を行います。3年生後半から卒業論文作成に入り、卒業までにこれを完成させます。夏期にはケース討論や研究発表のための合宿を行います。その際、会社・工場見学に行くことがあります。またゼミ中にミニ・ケース討論を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
第 2 回	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
第 3 回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第 4 回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第 5 回	研究テーマ報告	調査研究テーマを報告する 問いをたてる
第 6 回	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
第 7 回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第 8 回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第 9 回	調査研究報告	調査研究の報告を行い、議論から改善策の提案を行う
第 10 回	卒論報告	卒業論文研究の中間報告を行い、議論から改善策の提案を行う
第 11 回	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
第 12 回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第 13 回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第 14 回	調査研究報告	調査研究の報告を行い、議論から改善策の提案を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

問題意識を持って身近な事例を眺め、考えてみる。ゼミ生同士で調査研究と話し合いを行う。ゼミ及びインターゼミ後には、コメントについて反芻し整理を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

課題文献は演習初回に指示します。過年度には、R. ルメルト『良い戦略、悪い戦略』（日本経済新聞出版、2012）、D. ベサンコ他『戦略の経済学』（ダイヤモンド社、2002）、久米郁男『原因を推論する』（有斐閣、2013）などを読みました。

【参考書】

演習中に適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ準備に基づくディスカッションへの参加・貢献度（55%）、卒業論文・グループワーク等の評点（45%）に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き近年の事例や他分野の視角を話し、しっかり議論を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等情報機器、表計算・文書・プレゼンテーションソフト、ネットワーク環境。大学貸与のものを含まず。

【その他の重要事項】

ディスカッションへの積極的参加が望まれます。皆で良いディスカッションの場を作り学ぶため、十分に準備をしましょう。ゼミ研究の報告では自分なりの説得力を心がけます。無断欠席は認めません。関連科目は戦略的意思決定論、経営戦略論の他、マーケティング論、日本経営論、技術管理論、国際経営戦略論、産業組織論等ですが、これに限らず様々な学びを歓迎します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand theory and cases about strategic decision making of firms. The goals of this course are to understand the logic, interaction, mechanism, and dynamism of strategic management. Students will be expected to present their view on these points. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and understand the course content. Grading will be decided based on in class contribution (55%), and the quality of students' reports on their research(45%).

MAN200FA

演習 2

福島 英史

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、企業組織が行う経営戦略の意思決定について、論理的に考え、理解を深め、自分なりの意見をまとめることです。経営戦略の基本的な考え方を習得するとともに、戦略の意思決定を理解する助けとしてほかの社会科学の基礎的なアイデアにも触れます。

【到達目標】

経営事象を織りなす様々な意思決定とその合成過程について、論理的に理解し、説明できるようになることが達成目標です。世の中で観察・報じられる経営事象について自分なりの関心を持ち、問題を立て、自分なりの説明ができるようになることを目標とします。経営学部生として、自分なりに、経営学に関する発表を行い、ゼミ内で話し合い、経営学の論文を書いて卒業していきます。卒業時に経営・経営学のどんな問題に取り組んだか自分なりに説明できることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本年は対面形式の開講となります。大学指示等でオンラインに切り替わる場合、学習支援システム及び授業内でお知らせ、説明します。

2つの学習活動に取り組みます。1つは文献の輪読です。用意したレジュメをもとに、疑問点や議論の論理展開などを議論します。もう1つは、グループで行う調査研究です。4人前後のグループがテーマを決めて調査し、月1回報告します。また他大学とインターゼミを行い、研究成果を発表し、意見交換を行います。3年生後半から卒業論文作成に入り、卒業までにこれを完成させます。夏期にはケース討論や研究発表のための合宿を行います。その際、会社・工場見学に行くことがあります。またゼミ中にミニ・ケース討論を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミ合宿	ゼミ研究の中間報告と工場見学
第 2 回	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
第 3 回	オープンゼミ	公開でのゼミ活動（発表・輪読・議論）
第 4 回	オープンゼミ	公開でのゼミ活動（発表・輪読・議論）
第 5 回	文献講読と議論、面接	輪読と議論、ゼミ生候補の面接
第 6 回	ゼミ研究中間報告	中間報告を行い、議論から改善策の提案を行う
第 7 回	文献講読と議論	文献講読と議論課題文献を読み、意見を交換する
第 8 回	インターゼミ 1	他大学経営学系ゼミと交流し、意見交換を行う
第 9 回	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
第 10 回	ゼミ研究中間報告	中間報告を行い、議論から改善策の提案を行う
第 11 回	インターゼミ 2	他大学経営学系ゼミと交流し、意見交換を行う
第 12 回	卒論報告	報告を行い、議論から改善策の提案を行う
第 13 回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第 14 回	卒論報告	報告を行い、議論から改善策の提案を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

問題意識を持って身近な事例を眺め、考えてみる。ゼミ生同士で調査研究と話し合いを行う。ゼミ及びインターゼミ後には、コメントについて反芻し整理を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

課題文献は演習初回に指示します。過年度には、R. ルメルト『良い戦略、悪い戦略』（日本経済新聞出版、2012）、D. ベサンコ他『戦略の経済学』（ダイヤモンド社、2002）、久米都男『原因を推論する』（有斐閣、2013）などを読みました。

【参考書】

演習中に適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ準備に基づくディスカッションへの参加・貢献度（55%）、卒業論文・グループワーク等の評点（45%）に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き近年の事例や他分野の視角を話し、しっかり議論を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等情報機器、表計算・文書・プレゼンテーションソフト、ネットワーク環境、大学貸与のものを含みます。

【その他の重要事項】

ディスカッションへの積極的参加が望まれます。皆で良いディスカッションの場を作り学ぶため、十分に準備をしましょう。ゼミ研究の報告では自分なりの説得力を心がけます。無断欠席は認めません。関連科目は戦略的意思決定論、経営戦略論の他、マーケティング論、日本経営論、技術管理論、国際経営戦略論、産業組織論等ですが、これに限らず様々な学びを歓迎します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand theory and cases about strategic decision making of firms. The goals of this course are to understand the logic, interaction, mechanism, and dynamism of strategic management. Students will be expected to present their view on these points. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and understand the course content. Grading will be decided based on in class contribution (55%), and the quality of students' reports on their research(45%).

MAN300FA

演習 3

福島 英史

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、企業組織が行う経営戦略の意思決定について、論理的に考え、理解を深め、自分なりの意見をまとめることです。経営戦略の基本的な考え方を習得するとともに、戦略の意思決定を理解するけとしてほかの社会科学の基礎的なアイデアにも触れます。

【到達目標】

経営事象を織りなす様々な意思決定とその合成過程について、論理的に理解し、説明できるようになることが達成目標です。世の中で観察・報じられる経営事象について自分なりの関心を持ち、問題を立て、自分なりの説明ができるようになることを目標とします。経営学部生として、自分なりに、経営学に関する発表を行い、ゼミ内で話し合い、経営学の論文を書いて卒業していきます。卒業時に経営・経営学のどんな問題に取り組んだか自分なりに説明できることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本年は対面形式の開講となります。大学指示等でオンラインに切り替わる場合、学習支援システム及び授業内でお知らせ、説明します。

2つの学習活動に取り組みます。1つは文献の輪読です。用意したレジュメをもとに、疑問点や議論の論理展開などを議論します。もう1つは、グループで行う調査研究です。4人前後のグループがテーマを決めて調査し、月1回報告します。また他大学とインターゼミを行い、研究成果を発表し、意見交換を行います。3年生後半から卒業論文作成に入り、卒業までにこれを完成させます。夏期にはケース討論や研究発表のための合宿を行います。その際、会社・工場見学に行くことがあります。またゼミ中にミニ・ケース討論を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
第 2 回	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
第 3 回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第 4 回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第 5 回	研究テーマ報告	調査研究テーマを報告する 問いをたてる
第 6 回	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
第 7 回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第 8 回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第 9 回	調査研究報告	調査研究の報告を行い、議論から改善策の提案を行う
第 10 回	卒論報告	卒業論文研究の中間報告を行い、議論から改善策の提案を行う
第 11 回	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
第 12 回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第 13 回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第 14 回	調査研究報告	調査研究の報告を行い、議論から改善策の提案を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

問題意識を持って身近な事例を眺め、考えてみる。ゼミ生同士で調査研究と話し合いを行う。ゼミ及びインターゼミ後には、コメントについて反芻し整理を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

課題文献は演習初回に指示します。過年度には、R. ルメルト『良い戦略、悪い戦略』（日本経済新聞出版、2012）、D. ベサンコ他『戦略の経済学』（ダイヤモンド社、2002）、久米郁男『原因を推論する』（有斐閣、2013）などを読みました。

【参考書】

演習中に適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ準備に基づくディスカッションへの参加・貢献度（55%）、卒業論文・グループワーク等の評点（45%）に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き近年の事例や他分野の視角を話し、しっかり議論を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等情報機器、表計算・文書・プレゼンテーションソフト、ネットワーク環境。大学貸与のものを含みます。

【その他の重要事項】

ディスカッションへの積極的参加が望まれます。皆で良いディスカッションの場を作り学ぶため、十分に準備をしましょう。ゼミ研究の報告では自分なりの説得力を心がけます。無断欠席は認めません。関連科目は戦略的意思決定論、経営戦略論の他、マーケティング論、日本経営論、技術管理論、国際経営戦略論、産業組織論等ですが、これに限らず様々な学びを歓迎します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand theory and cases about strategic decision making of firms. The goals of this course are to understand the logic, interaction, mechanism, and dynamism of strategic management. Students will be expected to present their view on these points. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and understand the course content. Grading will be decided based on in class contribution (55%), and the quality of students' reports on their research(45%).

MAN300FA

演習 4

福島 英史

演習選択_演習 3年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、企業組織が行う経営戦略の意思決定について、論理的に考え、理解を深め、自分なりの意見をまとめることです。経営戦略の基本的な考え方を習得するとともに、戦略の意思決定を理解する助けとしてほかの社会科学の基礎的なアイデアにも触れます。

【到達目標】

経営事象を織りなす様々な意思決定とその合成過程について、論理的に理解し、説明できるようになることが達成目標です。世の中で観察・報じられる経営事象について自分なりの関心を持ち、問題を立て、自分なりの説明ができるようになることを目標とします。経営学部生として、自分なりに、経営学に関する発表を行い、ゼミ内で話し合い、経営学の論文を書いて卒業していきます。卒業時に経営・経営学のどんな問題に取り組んだか自分なりに説明できることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本年は対面形式の開講となります。大学指示等でオンラインに切り替わる場合、学習支援システム及び授業内でお知らせ、説明します。

2つの学習活動に取り組みます。1つは文献の輪読です。用意したレジュメをもとに、疑問点や議論の論理展開などを議論します。もう1つは、グループで行う調査研究です。4人前後のグループがテーマを決めて調査し、月1回報告します。また他大学とインターゼミを行い、研究成果を発表し、意見交換を行います。3年生後半から卒業論文作成に入り、卒業までにこれを完成させます。夏期にはケース討論や研究発表のための合宿を行います。その際、会社・工場見学に行くことがあります。またゼミ中にミニ・ケース討論を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミ合宿	ゼミ研究の中間報告と工場見学
第2回	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
第3回	オープンゼミ	公開でのゼミ活動（発表・輪読・議論）
第4回	オープンゼミ	公開でのゼミ活動（発表・輪読・議論）
第5回	文献講読と議論 面接	輪読と議論、ゼミ生候補の面接
第6回	ゼミ研究中間報告	中間報告を行い、議論から改善策の提案を行う
第7回	文献講読と議論	文献講読と議論課題文献を読み、意見を交換する
第8回	インターゼミ 1	他大学経営学系ゼミと交流し、意見交換を行う
第9回	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
第10回	ゼミ研究中間報告	中間報告を行い、議論から改善策の提案を行う
第11回	インターゼミ 2	他大学経営学系ゼミと交流し、意見交換を行う
第12回	卒論報告	報告を行い、議論から改善策の提案を行う
第13回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第14回	卒論報告	報告を行い、議論から改善策の提案を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

問題意識を持って身近な事例を眺め、考えてみる。ゼミ生同士で調査研究と話し合いを行う。ゼミ及びインターゼミ後には、コメントについて反芻し整理を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

課題文献は演習初回に指示します。過年度には、R. ルメルト『良い戦略、悪い戦略』（日本経済新聞出版、2012）、D. ベサンコ他『戦略の経済学』（ダイヤモンド社、2002）、久米都男『原因を推論する』（有斐閣、2013）などを読みました。

【参考書】

演習中に適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ準備に基づくディスカッションへの参加・貢献度（55%）、卒業論文・グループワーク等の評点（45%）に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き近年の事例や他分野の視角を話し、しっかり議論を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等情報機器、表計算・文書・プレゼンテーションソフト、ネットワーク環境、大学貸与のものを含みます。

【その他の重要事項】

ディスカッションへの積極的参加が望まれます。皆で良いディスカッションの場を作り学ぶため、十分に準備をしましょう。ゼミ研究の報告では自分なりの説得力を心がけます。無断欠席は認めません。関連科目は戦略的意思決定論、経営戦略論の他、マーケティング論、日本経営論、技術管理論、国際経営戦略論、産業組織論等ですが、これに限らず様々な学びを歓迎します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand theory and cases about strategic decision making of firms. The goals of this course are to understand the logic, interaction, mechanism, and dynamism of strategic management. Students will be expected to present their view on these points. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and understand the course content. Grading will be decided based on in class contribution (55%), and the quality of students' reports on their research(45%).

MAN400FA

演習 5

福島 英史

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、企業組織が行う経営戦略の意思決定について、論理的に考え、理解を深め、自分なりの意見をまとめることです。経営戦略の基本的な考え方を習得するとともに、戦略の意思決定を理解する助けとしてほかの社会科学の基礎的なアイデアにも触れます。

【到達目標】

経営事象を織りなす様々な意思決定とその合成過程について、論理的に理解し、説明できるようになることが達成目標です。世の中で観察・報じられる経営事象について自分なりの関心を持ち、問題を立て、自分なりの説明ができるようになることを目標とします。経営学部生として、自分なりに、経営学に関する発表を行い、ゼミ内で話し合い、経営学の論文を書いて卒業していきます。卒業時に経営・経営学のどんな問題に取り組んだか自分なりに説明できることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本年は対面形式の開講となります。大学指示等でオンラインに切り替わる場合、学習支援システム及び授業内でお知らせ、説明します。

2つの学習活動に取り組みます。1つは文献の輪読です。用意したレジュメをもとに、疑問点や議論の論理展開などを議論します。もう1つは、グループで行う調査研究です。4人前後のグループがテーマを決めて調査し、月1回報告します。また他大学とインターゼミを行い、研究成果を発表し、意見交換を行います。3年生後半から卒業論文作成に入り、卒業までにこれを完成させます。夏期にはケース討論や研究発表のための合宿を行います。その際、会社・工場見学に行くことがあります。またゼミ中にミニ・ケース討論を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
第 2 回	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
第 3 回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第 4 回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第 5 回	研究テーマ報告	調査研究テーマを報告する 問いをたてる
第 6 回	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
第 7 回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第 8 回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第 9 回	調査研究報告	調査研究の報告を行い、議論から改善策の提案を行う
第 10 回	卒論報告	卒業論文研究の中間報告を行い、議論から改善策の提案を行う
第 11 回	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
第 12 回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第 13 回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第 14 回	調査研究報告	調査研究の報告を行い、議論から改善策の提案を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

問題意識を持って身近な事例を眺め、考えてみる。ゼミ生同士で調査研究と話し合いを行う。ゼミ及びインターゼミ後には、コメントについて反芻し整理を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

課題文献は演習初回に指示します。過年度には、R. ルメルト『良い戦略、悪い戦略』（日本経済新聞出版、2012）、D. ベサンコ他『戦略の経済学』（ダイヤモンド社、2002）、久米郁男『原因を推論する』（有斐閣、2013）などを読みました。

【参考書】

演習中に適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ準備に基づくディスカッションへの参加・貢献度（55%）、卒業論文・グループワーク等の評点（45%）に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き近年の事例や他分野の視角を話し、しっかり議論を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等情報機器、表計算・文書・プレゼンテーションソフト、ネットワーク環境。大学貸与のものを含みます。

【その他の重要事項】

ディスカッションへの積極的参加が望まれます。皆で良いディスカッションの場を作り学ぶため、十分に準備をしましょう。ゼミ研究の報告では自分なりの説得力を心がけます。無断欠席は認めません。関連科目は戦略的意思決定論、経営戦略論の他、マーケティング論、日本経営論、技術管理論、国際経営戦略論、産業組織論等ですが、これに限らず様々な学びを歓迎します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand theory and cases about strategic decision making of firms. The goals of this course are to understand the logic, interaction, mechanism, and dynamism of strategic management. Students will be expected to present their view on these points. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and understand the course content. Grading will be decided based on in class contribution (55%), and the quality of students' reports on their research(45%).

MAN400FA

演習 6

福島 英史

演習選択_演習 4年次/3単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、企業組織が行う経営戦略の意思決定について、論理的に考え、理解を深め、自分なりの意見をまとめることです。経営戦略の基本的な考え方を習得するとともに、戦略の意思決定を理解する助けとしてほかの社会科学の基礎的なアイデアにも触れます。

【到達目標】

経営事象を織りなす様々な意思決定とその合成過程について、論理的に理解し、説明できるようになることが達成目標です。世の中で観察・報じられる経営事象について自分なりの関心を持ち、問題を立て、自分なりの説明ができるようになることを目標とします。経営学部生として、自分なりに、経営学に関する発表を行い、ゼミ内で話し合い、経営学の論文を書いて卒業していきます。卒業時に経営・経営学のどんな問題に取り組んだか自分なりに説明できることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本年は対面形式の開講となります。大学指示等でオンラインに切り替わる場合、学習支援システム及び授業内でお知らせ、説明します。

2つの学習活動に取り組みます。1つは文献の輪読です。用意したレジュメをもとに、疑問点や議論の論理展開などを議論します。もう1つは、グループで行う調査研究です。4人前後のグループがテーマを決めて調査し、月1回報告します。また他大学とインターゼミを行い、研究成果を発表し、意見交換を行います。3年生後半から卒業論文作成に入り、卒業までにこれを完成させます。夏期にはケース討論や研究発表のための合宿を行います。その際、会社・工場見学に行くことがあります。またゼミ中にミニ・ケース討論を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミ合宿	ゼミ研究の中間報告と工場見学
第2回	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
第3回	オープンゼミ	公開でのゼミ活動（発表・輪読・議論）
第4回	オープンゼミ	公開でのゼミ活動（発表・輪読・議論）
第5回	文献講読と議論 面接	輪読と議論、ゼミ生候補の面接
第6回	ゼミ研究中間報告	中間報告を行い、議論から改善策の提案を行う
第7回	文献講読と議論	文献講読と議論課題文献を読み、意見を交換する
第8回	インターゼミ 1	他大学経営学系ゼミと交流し、意見交換を行う
第9回	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
第10回	ゼミ研究中間報告	中間報告を行い、議論から改善策の提案を行う
第11回	インターゼミ 2	他大学経営学系ゼミと交流し、意見交換を行う
第12回	卒論報告	報告を行い、議論から改善策の提案を行う
第13回	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
第14回	卒論報告	報告を行い、議論から改善策の提案を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

問題意識を持って身近な事例を眺め、考えてみる。ゼミ生同士で調査研究と話し合いを行う。ゼミ及びインターゼミ後には、コメントについて反芻し整理を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

課題文献は演習初回に指示します。過年度には、R. ルメルト『良い戦略、悪い戦略』（日本経済新聞出版、2012）、D. ベサンコ他『戦略の経済学』（ダイヤモンド社、2002）、久米都男『原因を推論する』（有斐閣、2013）などを読みました。

【参考書】

演習中に適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ準備に基づくディスカッションへの参加・貢献度（55%）、卒業論文・グループワーク等の評点（45%）に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き近年の事例や他分野の視角を話し、しっかり議論を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等情報機器、表計算・文書・プレゼンテーションソフト、ネットワーク環境、大学貸与のものを含みます。

【その他の重要事項】

ディスカッションへの積極的参加が望まれます。皆で良いディスカッションの場を作り学ぶため、十分に準備をしましょう。ゼミ研究の報告では自分なりの説得力を心がけます。無断欠席は認めません。関連科目は戦略的意思決定論、経営戦略論の他、マーケティング論、日本経営論、技術管理論、国際経営戦略論、産業組織論等ですが、これに限らず様々な学びを歓迎します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand theory and cases about strategic decision making of firms. The goals of this course are to understand the logic, interaction, mechanism, and dynamism of strategic management. Students will be expected to present their view on these points. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and understand the course content. Grading will be decided based on in class contribution (55%), and the quality of students' reports on their research(45%).

MAN200FA

演習 1

福田 淳児

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習 1 では、企業の経営者や事業部の管理者が組織内で行うさまざまな意思決定および企業やその下位の組織単位およびその管理者の業績の測定・評価に役立つ会計情報を提供する管理会計システムの設計に関わる基本的な概念および理論を理解することを目的とします。さらに、企業の実務の状況を理解することを目的とします。

【到達目標】

管理会計の基礎的な概念および重要なテーマについて学習することで、管理会計を学習・研究していく上で必要な基礎知識と考え方を身につけることを目標とします。また、全社および下位の組織単位またその管理者の業績測定と評価に役立つ財務的・非財務的指標の内容およびその役割を理解することを目標とします。さらに、実務で利用されている管理会計システムをケースなどを通じて理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習は、対面で行います。演習では、ゼミ生による報告およびそれに基づくディスカッションを中心に授業を進めていきます。例年 12 月に開催される他大学との報告会（インターゼミ）に向けてテーマを選択し、そのテーマについて文献レビュー、仮説の設定、さらにデータの収集・分析を行ってもらいます。毎回、各グループに報告を行ってもらい、議論するとともに、それぞれのテーマにあわせた参考文献を紹介します。また、4 年生については卒業論文の作成にあたって関連する文献のレビュー及び卒業論文の報告またそこで出された質問や課題についての報告を行ってもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 管理会計の意義と目的	講義のスケジュールを紹介するとともに、管理会計と財務会計の相違点及び管理会計のフレームワークを紹介しします。
第 2 回	管理会計の役割および基礎的な概念	管理会計を学習する上で必要な基礎的な概念を紹介するとともにその内容を検討する。
第 3 回	利益分析のための CVP 分析	CVP 分析及びその短期利益計画への役立ちについて議論する。
第 4 回	ABC および ABM	ABC と伝統的な製造間接費の配賦方法との違いについて明らかにする。また、ABC 情報を原価管理目的に利用した ABM についてケースを交えながら議論する。
第 5 回	意思決定と原価情報	意思決定とそこで利用される原価情報について議論する。
第 6 回	企業グループのための管理会計	全社戦略及び全社戦略をサポートする管理会計情報について議論する。
第 7 回	事業戦略のための管理会計	事業戦略の種類及びそれをサポートする管理会計情報について議論する。
第 8 回	卒業論文の第 1 回報告 投資意思決定のための管理会計	設備投資計画の特徴及び経済性計算の方法について議論する。
第 9 回	中期利益計画と BSC	中期利益計画の設定プロセスと BSC について事例を交えながら議論を行う。
第 10 回	予算管理システム	組織における予算管理のプロセスおよびその実践上のいくつかの問題について議論する。
第 11 回	事業部制と管理会計	分権的な組織、特に事業部制を前提とした業績管理の問題について議論する。
第 12 回	製品開発のための管理会計	原価企画のメカニズムおよびその事例を紹介する。また、原価企画の特徴について議論する。
第 13 回	生産・物流のための管理会計	ABC による物流管理の事例を取り上げ、議論を行う。
第 14 回	イノベーションと管理会計 卒業論文の第 2 回報告	イノベーションと管理会計との関係について議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミで取り上げられるテーマについて、毎回テキストの該当箇所および紹介した論文やケースを読んでくること。報告担当者はパワーポイントを利用して、報告の準備をすること。報告担当でない学生は必ず事前に質問内容を考えておくこと。その際、基本的なテクニカルタームについては調べておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅田孝幸他著、2017 年、『管理会計・入門ー戦略経営のためのマネジリアル・アカウントティング』第 4 版、有斐閣アルマ

【参考書】

必要に応じて、文献や論文を指示します。

【成績評価の方法と基準】

報告担当のテーマに関する報告内容 (40%) とゼミの議論への積極的な参加の程度 (30%) 及び期末レポートの提出 (30%) に基づいて評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

実際の企業での管理会計の利用について知りたいという要望があります。できるだけ実際の企業の実例を取り入れてゼミでの議論を進めていきたいと思っています。

【関連科目】

原価計算論 I/II、管理会計論 I/II および経営分析 I/II、この他に経営学関連の科目があります。積極的にこれらの科目を履修してください。

【Outline (in English)】

The objective of Seminar 1 is to understand the basic concepts and theories involved in the design of management accounting systems that provide accounting information useful for the various decisions made by corporate executives and business unit managers in their organizations and for the performance measurement and evaluation of corporate and subordinate organizational units and their managers.

By studying the basic concepts and important themes of management accounting, the course aims to provide students with the basic knowledge and concepts necessary for studying and researching management accounting. In addition, the seminar aims to help students understand the contents and usefulness of financial and non-financial indicators for performance measurement and evaluation of company-wide and subordinate organizational units.

Students are expected to read the relevant sections of the textbook, as well as the papers and cases presented, on the topics to be discussed in the seminar. Those in charge of presentations should prepare their presentations using PowerPoint. Students who are not in charge of presentations should prepare questions in advance. Students who are not in charge of presentations should prepare questions in advance, and research the basic technical terms. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades in the exercises will be based on the content of the report on the theme of the presenter (40%), the degree of active participation in the seminar discussions (30%), and the submission of reports (30%).

MAN200FA

演習 2

福田 淳児

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習 2 では、毎年 12 月に開催される他大学とのインゼミに向け、2 つ（ないし 3 つ）のグループを編成し、グループごとに研究テーマを設定してもらう。4 年生については卒業論文のためのテーマをより明確に設定する。それぞれが設定したテーマに関連した文献のレビューを行い、グループごとにまたは 4 年生は個人でデータを収集・分析することを目的とする。そのプロセスで、統計的な分析技法やケース研究の方法を習得することも目的とする。その成果として、一定水準の報告または学部学生としてふさわしい卒業論文を作成することを目的とする。

【到達目標】

演習 2 では、ゼミ参加学生を 2 つ（または 3 つ）のグループに分け、それぞれのグループで管理会計に関連したテーマを選択し、毎年 12 月に他大学との間で行われるインターゼミの報告会に向けて文献レビュー、データの収集・分析および議論を行います。4 年生は各自の選択した卒論のテーマについて、文献レビューの継続、データの収集・分析を行います。また、3 年生、4 年生とも、研究上必要とされる統計的な分析技法の習得またはケース研究の方法、およびプレゼンテーションの仕方などについても習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習 2 は基本的には対面で授業を行う予定です。例年 12 月に開催される他大学との報告会に向けてテーマを選択し、そのテーマについて文献レビュー、仮説の設定、さらにデータの収集・分析を行ってまいります。毎回、各グループに報告を行っていただき、議論するとともに、それぞれのテーマにあわせた参考文献を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	報告テーマの選定	インゼミでの報告テーマについて、管理会計との関連性及び実現可能性の観点から検討を行う。
第 2 回	具体的な問題設定	選択したテーマについて、今回の報告で何を、どこまで明らかにしたいのかをグループディスカッションを通じて明確にする。
第 3 回	関連した文献レビュー	テーマに関連した文献を収集し、各自レビューを行うとともに、その内容について報告する。
第 4 回	追加的な文献のレビュー 卒業論文の第 3 回報告	追加的に紹介した文献のレビューを行い、これまで何がわかっているのか、何が残された課題なのかを明らかにすることを通じて、問題設定を行う。
第 5 回	問題の明確化	文献レビューをふまえ、テーマに関連して何がどこまでわかっているのかを明確にする。
第 6 回	リサーチクエスションの設定	研究テーマに関わるリサーチクエスションの設定を行う。
第 7 回	仮説の設定と修正	前回の議論に基づいて仮説の設定また議論を通じて必要に応じて修正を行う。
第 8 回	必要なデータの確定とその入手方法 卒業論文の第 4 回報告	これまでの文献レビューまた問題意識をふまえて、報告のために収集すべきデータ、またそれらのデータの入手方法を説明する。
第 9 回	データの加工について	仮説の検証に必要なデータの加工方法について考察する。
第 10 回	データの収集	分析に必要とされる財務的なデータまた必要な場合にはインタビュー調査のための準備を行う。
第 11 回	データの分析	入手した情報に基づいて分析を行い、その分析結果について議論を行う。
第 12 回	分析結果の検討 卒業論文の第 5 回報告	前回の議論に基づいて、一層のデータ分析を行う。
第 13 回	分析結果の検討と解釈	実際のデータを分析または解釈することで、どのようなことが明らかになったのかを検討する。
第 14 回	まとめ	一連の研究活動についてのまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

秋学期では各グループの選択したテーマ、また卒業論文のテーマについて教員が紹介する文献を必ず読み、それについてまとめと考察を行っておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

必要に応じて論文などを適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

インゼミでの報告テーマに関する事前の報告内容、また 4 年生の場合には卒業論文のテーマに関する報告 (60%) とゼミの議論への積極的な参加の程度 (40%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生から、実務での管理会計技法の利用について知りたいという要望を受けています。できるだけ実際の企業の実例を取り入れてゼミでの議論を進めていきたいと思います。

【関連科目】

原簿計算論 I / II、管理会計論 I / II および経営分析 I / II、この他に経営学関連の科目があります。積極的にこれらの科目を履修してください。

【Outline (in English)】

In Seminar 2, two (or three) groups are organized for the in-seminar held in December each year, and each group is asked to set a theme for its report. For the fourth year students, the theme for their graduation thesis should be set more clearly. For the fourth-year students, the theme will be more clearly defined for their graduation thesis. The purpose of the project is to review literature related to the theme set by each group, and to collect and analyze data in groups or individually for the fourth-year students. In this process, students will learn statistical analysis techniques and case study methods. In the process, they aim to learn statistical analysis techniques and case study methods. The final result will be a report of a certain standard or a graduation thesis appropriate for an undergraduate student.

In this class, students participating in the seminar are divided into two groups, and each group chooses a theme and conducts a literature review, data collection and analysis, and discussion for the inter-seminar debriefing session held every December with other universities. 4th year students The fourth year students will continue the literature review and collect and analyze data on the thesis topic of their choice. Both third- and fourth-year students are expected to learn statistical analysis techniques, case study methods, and presentation skills.

In Seminar 2, students are required to read the literature introduced by the instructor on the theme selected by each group and the theme of the graduation thesis, and to summarize and discuss the literature. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grades will be based on the content of prior reports on the themes to be presented in the in-seminar and, in the case of fourth-year students, on reports on the theme of the graduation thesis (60%) and the degree of active participation in seminar discussions (40%).

MAN300FA

演習 3

福田 淳児

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習 1 では、企業の経営者や事業部の管理者が組織内で行うさまざまな意思決定および企業やその下位の組織単位およびその管理者の業績の測定・評価に役立つ会計情報を提供する管理会計システムの設計に関わる基本的な概念および理論を理解することを目的とします。さらに、企業の実務の状況を理解することを目的とします。

【到達目標】

管理会計の基礎的な概念および重要なテーマについて学習することで、管理会計を学習・研究していく上で必要な基礎知識と考え方を身につけることを目標とします。また、全社および下位の組織単位またその管理者の業績測定と評価に役立つ財務的・非財務的指標の内容およびその役立ちを理解することを目標とします。さらに、実務で利用されている管理会計システムをケースなどを通じて理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習は、対面で行います。演習では、ゼミ生による報告およびそれに基づくディスカッションを中心に授業を進めていきます。例年 12 月に開催される他大学との報告会（インターゼミ）に向けてテーマを選択し、そのテーマについて文献レビュー、仮説の設定、さらにデータの収集・分析を行ってもらいます。毎回、各グループに報告を行ってもらい、議論するとともに、それぞれのテーマにあわせた参考文献を紹介します。また、4 年生については卒業論文の作成にあたって関連する文献のレビュー及び卒業論文の報告またそこで出された質問や課題についての報告を行ってもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 管理会計の意義と目的	講義のスケジュールを紹介するとともに、管理会計と財務会計の相違点及び管理会計のフレームワークを紹介しします。
第 2 回	管理会計の役割および基礎的な概念	管理会計を学習する上で必要な基礎的な概念を紹介するとともにその内容を検討する。
第 3 回	利益分析のための CVP 分析	CVP 分析及びその短期利益計画への役立ちについて議論する。
第 4 回	ABC および ABM	ABC と伝統的な製造間接費の配賦方法との違いについて明らかにする。また、ABC 情報を原価管理目的に利用した ABM についてケースを交えながら議論する。
第 5 回	意思決定と原価情報	意思決定とそこで利用される原価情報について議論する。
第 6 回	企業グループのための管理会計	全社戦略及び全社戦略をサポートする管理会計情報について議論する。
第 7 回	事業戦略のための管理会計	事業戦略の種類及びそれをサポートする管理会計情報について議論する。
第 8 回	卒業論文の第 1 回報告 投資意思決定のための管理会計	設備投資計画の特徴及び経済性計算の方法について議論する。
第 9 回	中期利益計画と BSC	中期利益計画の設定プロセスと BSC について事例を交えながら議論を行う。
第 10 回	予算管理システム	組織における予算管理のプロセスおよびその実践上のいくつかの問題について議論する。
第 11 回	事業部制と管理会計	分権的な組織、特に事業部制を前提とした業績管理の問題について議論する。
第 12 回	製品開発のための管理会計	原価企画のメカニズムおよびその事例を紹介する。また、原価企画の特徴について議論する。
第 13 回	生産・物流のための管理会計	ABC による物流管理の事例を取り上げ、議論を行う。
第 14 回	イノベーションと管理会計 卒業論文の第 2 回報告	イノベーションと管理会計との関係について議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミで取り上げられるテーマについて、毎回テキストの該当箇所および紹介した論文やケースを読んでくること。報告担当者はパワーポイントを利用して、報告の準備をすること。報告担当でない学生は必ず事前に質問内容を考えておくこと。その際、基本的なテクニカルタームについては調べておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅田孝幸他著、2017 年、『管理会計・入門ー戦略経営のためのマネジリアル・アカウントティング』第 4 版、有斐閣アルマ

【参考書】

必要に応じて、文献や論文を指示します。

【成績評価の方法と基準】

報告担当のテーマに関する報告内容 (40%) とゼミの議論への積極的な参加の程度 (30%) 及び期末レポートの提出 (30%) に基づいて評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

実際の企業での管理会計の利用について知りたいという要望があります。できるだけ実際の企業の実例を取り入れてゼミでの議論を進めていきたいと思っています。

【関連科目】

原価計算論 I/II、管理会計論 I/II および経営分析 I/II、この他に経営学関連の科目があります。積極的にこれらの科目を履修してください。

【Outline (in English)】

The objective of Seminar 1 is to understand the basic concepts and theories involved in the design of management accounting systems that provide accounting information useful for the various decisions made by corporate executives and business unit managers in their organizations and for the performance measurement and evaluation of corporate and subordinate organizational units and their managers.

By studying the basic concepts and important themes of management accounting, the course aims to provide students with the basic knowledge and concepts necessary for studying and researching management accounting. In addition, the seminar aims to help students understand the contents and usefulness of financial and non-financial indicators for performance measurement and evaluation of company-wide and subordinate organizational units.

Students are expected to read the relevant sections of the textbook, as well as the papers and cases presented, on the topics to be discussed in the seminar. Those in charge of presentations should prepare their presentations using PowerPoint. Students who are not in charge of presentations should prepare questions in advance. Students who are not in charge of presentations should prepare questions in advance, and research the basic technical terms. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades in the exercises will be based on the content of the report on the theme of the presenter (40%), the degree of active participation in the seminar discussions (30%), and the submission of reports (30%).

MAN300FA

演習 4

福田 淳児

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習 2 では、毎年 12 月に開催される他大学とのインゼミに向け、2 つ（ないし 3 つ）のグループを編成し、グループごとに研究テーマを設定してもらう。4 年生については卒業論文のためのテーマをより明確に設定する。それぞれが設定したテーマに関連した文献のレビューを行い、グループごとにまたは 4 年生は個人でデータを収集・分析することを目的とする。そのプロセスで、統計的な分析技法やケース研究の方法を習得することも目的とする。その成果として、一定水準の報告または学部学生としてふさわしい卒業論文を作成することを目的とする。

【到達目標】

演習 2 では、ゼミ参加学生を 2 つ（または 3 つ）のグループに分け、それぞれのグループで管理会計に関連したテーマを選択し、毎年 12 月に他大学との間で行われるインターゼミの報告会に向けて文献レビュー、データの収集・分析および議論を行います。4 年生は各自の選択した卒論のテーマについて、文献レビューの継続、データの収集・分析を行います。また、3 年生、4 年生とも、研究上必要とされる統計的な分析技法の習得またはケース研究の方法、およびプレゼンテーションの仕方などについても習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習 2 は基本的には対面で授業を行う予定です。例年 12 月に開催される他大学との報告会に向けてテーマを選択し、そのテーマについて文献レビュー、仮説の設定、さらにデータの収集・分析を行ってまいります。毎回、各グループに報告を行ってまいります、議論するとともに、それぞれのテーマにあわせた参考文献を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	報告テーマの選定	インゼミでの報告テーマについて、管理会計との関連性及び実現可能性の観点から検討を行う。
第 2 回	具体的な問題設定	選択したテーマについて、今回の報告で何を、どこまで明らかにしたいのかをグループディスカッションを通じて明確にする。
第 3 回	関連した文献レビュー	テーマに関連した文献を収集し、各自レビューを行うとともに、その内容について報告する。
第 4 回	追加的な文献のレビュー 卒業論文の第 3 回報告	追加的に紹介した文献のレビューを行い、これまで何がわかっているのか、何が残された課題なのかを明らかにすることを通じて、問題設定を行う。
第 5 回	問題の明確化	文献レビューをふまえ、テーマに関連して何がどこまでわかっているのかを明確にする。
第 6 回	リサーチクエスションの設定	研究テーマに関わるリサーチクエスションの設定を行う。
第 7 回	仮説の設定と修正	前回の議論に基づいて仮説の設定また議論を通じて必要に応じて修正を行う。
第 8 回	必要なデータの確定とその入手方法 卒業論文の第 4 回報告	これまでの文献レビューまた問題意識をふまえて、報告のために収集すべきデータ、またそれらのデータの入手方法を説明する。
第 9 回	データの加工について	仮説の検証に必要なデータの加工方法について考察する。
第 10 回	データの収集	分析に必要とされる財務的なデータまた必要な場合にはインタビュー調査のための準備を行う。
第 11 回	データの分析	入手した情報に基づいて分析を行い、その分析結果について議論を行う。
第 12 回	分析結果の検討 卒業論文の第 5 回報告	前回の議論に基づいて、一層のデータ分析を行う。
第 13 回	分析結果の検討と解釈	実際のデータを分析または解釈することで、どのようなことが明らかになったのかを検討する。
第 14 回	まとめ	一連の研究活動についてのまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

秋学期では各グループの選択したテーマ、また卒業論文のテーマについて教員が紹介する文献を必ず読み、それについてまとめと考察を行っておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

必要に応じて論文などを適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

インゼミでの報告テーマに関する事前の報告内容、また 4 年生の場合には卒業論文のテーマに関する報告 (60%) とゼミの議論への積極的な参加の程度 (40%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生から、実務での管理会計技法の利用について知りたいという要望を受けています。できるだけ実際の企業の実例を取り入れてゼミでの議論を進めていきたいと思います。

【関連科目】

原簿計算論 I / II、管理会計論 I / II および経営分析 I / II、この他に経営学関連の科目があります。積極的にこれらの科目を履修してください。

【Outline (in English)】

In Seminar 2, two (or three) groups are organized for the in-seminar held in December each year, and each group is asked to set a theme for its report. For the fourth year students, the theme for their graduation thesis should be set more clearly. For the fourth-year students, the theme will be more clearly defined for their graduation thesis. The purpose of the project is to review literature related to the theme set by each group, and to collect and analyze data in groups or individually for the fourth-year students. In this process, students will learn statistical analysis techniques and case study methods. In the process, they aim to learn statistical analysis techniques and case study methods. The final result will be a report of a certain standard or a graduation thesis appropriate for an undergraduate student.

In this class, students participating in the seminar are divided into two groups, and each group chooses a theme and conducts a literature review, data collection and analysis, and discussion for the inter-seminar debriefing session held every December with other universities. 4th year students The fourth year students will continue the literature review and collect and analyze data on the thesis topic of their choice. Both third- and fourth-year students are expected to learn statistical analysis techniques, case study methods, and presentation skills.

In Seminar 2, students are required to read the literature introduced by the instructor on the theme selected by each group and the theme of the graduation thesis, and to summarize and discuss the literature. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grades will be based on the content of prior reports on the themes to be presented in the in-seminar and, in the case of fourth-year students, on reports on the theme of the graduation thesis (60%) and the degree of active participation in seminar discussions (40%).

MAN400FA

演習 5

福田 淳児

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習 1 では、企業の経営者や事業部の管理者が組織内で行うさまざまな意思決定および企業やその下位の組織単位およびその管理者の業績の測定・評価に役立つ会計情報を提供する管理会計システムの設計に関わる基本的な概念および理論を理解することを目的とします。さらに、企業の実務の状況を理解することを目的とします。

【到達目標】

管理会計の基礎的な概念および重要なテーマについて学習することで、管理会計を学習・研究していく上で必要な基礎知識と考え方を身につけることを目標とします。また、全社および下位の組織単位またその管理者の業績測定と評価に役立つ財務的・非財務的指標の内容およびその役割を理解することを目標とします。さらに、実務で利用されている管理会計システムをケースなどを通じて理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習は、対面で行います。演習では、ゼミ生による報告およびそれに基づくディスカッションを中心に授業を進めていきます。例年 12 月に開催される他大学との報告会（インターゼミ）に向けてテーマを選択し、そのテーマについて文献レビュー、仮説の設定、さらにデータの収集・分析を行ってもらいます。毎回、各グループに報告を行ってもらい、議論するとともに、それぞれのテーマにあわせた参考文献を紹介します。また、4 年生については卒業論文の作成にあたって関連する文献のレビュー及び卒業論文の報告またそこで出された質問や課題についての報告を行ってもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 管理会計の意義と目的	講義のスケジュールを紹介するとともに、管理会計と財務会計の相違点及び管理会計のフレームワークを紹介しします。
第 2 回	管理会計の役割および基礎的な概念	管理会計を学習する上で必要な基礎的な概念を紹介するとともにその内容を検討する。
第 3 回	利益分析のための CVP 分析	CVP 分析及びその短期利益計画への役立ちについて議論する。
第 4 回	ABC および ABM	ABC と伝統的な製造間接費の配賦方法との違いについて明らかにする。また、ABC 情報を原価管理目的に利用した ABM についてケースを交えながら議論する。
第 5 回	意思決定と原価情報	意思決定とそこで利用される原価情報について議論する。
第 6 回	企業グループのための管理会計	全社戦略及び全社戦略をサポートする管理会計情報について議論する。
第 7 回	事業戦略のための管理会計	事業戦略の種類及びそれをサポートする管理会計情報について議論する。
第 8 回	卒業論文の第 1 回報告 投資意思決定のための管理会計	設備投資計画の特徴及び経済性計算の方法について議論する。
第 9 回	中期利益計画と BSC	中期利益計画の設定プロセスと BSC について事例を交えながら議論を行う。
第 10 回	予算管理システム	組織における予算管理のプロセスおよびその実践上のいくつかの問題について議論する。
第 11 回	事業部制と管理会計	分権的な組織、特に事業部制を前提とした業績管理の問題について議論する。
第 12 回	製品開発のための管理会計	原価企画のメカニズムおよびその実例を紹介する。また、原価企画の特徴について議論する。
第 13 回	生産・物流のための管理会計	ABC による物流管理の事例を取り上げ、議論を行う。
第 14 回	イノベーションと管理会計 卒業論文の第 2 回報告	イノベーションと管理会計との関係について議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミで取り上げられるテーマについて、毎回テキストの該当箇所および紹介した論文やケースを読んでくること。報告担当者はパワーポイントを利用して、報告の準備をすること。報告担当でない学生は必ず事前に質問内容を考えておくこと。その際、基本的なテクニカルタームについては調べておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅田孝幸他著、2017 年、『管理会計・入門ー戦略経営のためのマネジリアル・アカウントティング』第 4 版、有斐閣アルマ

【参考書】

必要に応じて、文献や論文を指示します。

【成績評価の方法と基準】

報告担当のテーマに関する報告内容 (40%) とゼミの議論への積極的な参加の程度 (30%) 及び期末レポートの提出 (30%) に基づいて評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

実際の企業での管理会計の利用について知りたいという要望があります。できるだけ実際の企業の実例を取り入れてゼミでの議論を進めていきたいと思っています。

【関連科目】

原価計算論 I/II、管理会計論 I/II および経営分析 I/II、この他に経営学関連の科目があります。積極的にこれらの科目を履修してください。

【Outline (in English)】

The objective of Seminar 1 is to understand the basic concepts and theories involved in the design of management accounting systems that provide accounting information useful for the various decisions made by corporate executives and business unit managers in their organizations and for the performance measurement and evaluation of corporate and subordinate organizational units and their managers.

By studying the basic concepts and important themes of management accounting, the course aims to provide students with the basic knowledge and concepts necessary for studying and researching management accounting. In addition, the seminar aims to help students understand the contents and usefulness of financial and non-financial indicators for performance measurement and evaluation of company-wide and subordinate organizational units.

Students are expected to read the relevant sections of the textbook, as well as the papers and cases presented, on the topics to be discussed in the seminar. Those in charge of presentations should prepare their presentations using PowerPoint. Students who are not in charge of presentations should prepare questions in advance. Students who are not in charge of presentations should prepare questions in advance, and research the basic technical terms. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades in the exercises will be based on the content of the report on the theme of the presenter (40%), the degree of active participation in the seminar discussions (30%), and the submission of reports (30%).

MAN400FA

演習 6

福田 淳児

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習 2 では、毎年 12 月に開催される他大学とのインゼミに向け、2 つ（ないし 3 つ）のグループを編成し、グループごとに研究テーマを設定してもらう。4 年生については卒業論文のためのテーマをより明確に設定する。それぞれが設定したテーマに関連した文献のレビューを行い、グループごとにまたは 4 年生は個人でデータを収集・分析することを目的とする。そのプロセスで、統計的な分析技法やケース研究の方法を習得することも目的とする。その成果として、一定水準の報告または学部学生としてふさわしい卒業論文を作成することを目的とする。

【到達目標】

演習 2 では、ゼミ参加学生を 2 つ（または 3 つ）のグループに分け、それぞれのグループで管理会計に関連したテーマを選択し、毎年 12 月に他大学との間で行われるインターゼミの報告会に向けて文献レビュー、データの収集・分析および議論を行います。4 年生は各自の選択した卒論のテーマについて、文献レビューの継続、データの収集・分析を行います。また、3 年生、4 年生とも、研究上必要とされる統計的な分析技法の習得またはケース研究の方法、およびプレゼンテーションの仕方などについても習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習 2 は基本的には対面で授業を行う予定です。例年 12 月に開催される他大学との報告会に向けてテーマを選択し、そのテーマについて文献レビュー、仮説の設定、さらにデータの収集・分析を行っていただきます。毎回、各グループに報告を行っていただき、議論するとともに、それぞれのテーマにあわせた参考文献を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	報告テーマの選定	インゼミでの報告テーマについて、管理会計との関連性及び実現可能性の観点から検討を行う。
第 2 回	具体的な問題設定	選択したテーマについて、今回の報告で何を、どこまで明らかにしたいのかをグループディスカッションを通じて明確にする。
第 3 回	関連した文献レビュー	テーマに関連した文献を収集し、各自レビューを行うとともに、その内容について報告する。
第 4 回	追加的な文献のレビュー 卒業論文の第 3 回報告	追加的に紹介した文献のレビューを行い、これまで何がわかっているのか、何が残された課題なのかを明らかにすることを通じて、問題設定を行う。
第 5 回	問題の明確化	文献レビューをふまえ、テーマに関連して何がどこまでわかっているのかを明確にする。
第 6 回	リサーチクエスションの設定	研究テーマに関わるリサーチクエスションの設定を行う。
第 7 回	仮説の設定と修正	前回の議論に基づいて仮説の設定また議論を通じて必要に応じて修正を行う。
第 8 回	必要なデータの確定とその入手方法 卒業論文の第 4 回報告	これまでの文献レビューまた問題意識をふまえて、報告のために収集すべきデータ、またそれらのデータの入手方法を説明する。
第 9 回	データの加工について	仮説の検証に必要なデータの加工方法について考察する。
第 10 回	データの収集	分析に必要とされる財務的なデータまた必要な場合にはインタビュー調査のための準備を行う。
第 11 回	データの分析	入手した情報に基づいて分析を行い、その分析結果について議論を行う。
第 12 回	分析結果の検討 卒業論文の第 5 回報告	前回の議論に基づいて、一層のデータ分析を行う。
第 13 回	分析結果の検討と解釈	実際のデータを分析または解釈することで、どのようなことが明らかになったのかを検討する。
第 14 回	まとめ	一連の研究活動についてのまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

秋学期では各グループの選択したテーマ、また卒業論文のテーマについて教員が紹介する文献を必ず読み、それについてまとめと考察を行っておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

必要に応じて論文などを適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

インゼミでの報告テーマに関する事前の報告内容、また 4 年生の場合には卒業論文のテーマに関する報告 (60%) とゼミの議論への積極的な参加の程度 (40%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生から、実務での管理会計技法の利用について知りたいという要望を受けています。できるだけ実際の企業の実例を取り入れてゼミでの議論を進めていきたいと思います。

【関連科目】

原簿計算論 I / II、管理会計論 I / II および経営分析 I / II、この他に経営学関連の科目があります。積極的にこれらの科目を履修してください。

【Outline (in English)】

In Seminar 2, two (or three) groups are organized for the in-seminar held in December each year, and each group is asked to set a theme for its report. For the fourth year students, the theme for their graduation thesis should be set more clearly. For the fourth-year students, the theme will be more clearly defined for their graduation thesis. The purpose of the project is to review literature related to the theme set by each group, and to collect and analyze data in groups or individually for the fourth-year students. In this process, students will learn statistical analysis techniques and case study methods. In the process, they aim to learn statistical analysis techniques and case study methods. The final result will be a report of a certain standard or a graduation thesis appropriate for an undergraduate student.

In this class, students participating in the seminar are divided into two groups, and each group chooses a theme and conducts a literature review, data collection and analysis, and discussion for the inter-seminar debriefing session held every December with other universities. 4th year students The fourth year students will continue the literature review and collect and analyze data on the thesis topic of their choice. Both third- and fourth-year students are expected to learn statistical analysis techniques, case study methods, and presentation skills.

In Seminar 2, students are required to read the literature introduced by the instructor on the theme selected by each group and the theme of the graduation thesis, and to summarize and discuss the literature. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grades will be based on the content of prior reports on the themes to be presented in the in-seminar and, in the case of fourth-year students, on reports on the theme of the graduation thesis (60%) and the degree of active participation in seminar discussions (40%).

MAN200FA

演習 1

福多 裕志

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【財務データに基づく企業の意思決定】

当ゼミの目的は、企業における長・短期の経済的意思決定行動を考察するにあたり、必要かつ重要な諸概念や意思決定モデルを、日・英両言語を駆使して理解することである。2 年次、3 年次、4 年次の各 1 年間の履修希望も可能である。

【到達目標】

財務諸表分析、資本予算（設備投資決定）において利用される諸概念と計算式の理解およびその実践的活用を目指す。PC およびエクセルを常時使用し、財務データの処理方法を同時に学ぶことができる。こうした情報処理技法は世界共通であり、情報・データの交換は国内に限定されないことを念頭に置き、演習内では最終的に、日・英両言語で議論するという可能性を模索する。

Students should be able to:

- 1)understand various concepts used in Financial Statement Analysis and Capital Budgeting,
- 2)process data using basic statistics techniques,
- 3)discuss the seminar's theme both in English and Japanese.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初めに日・英語の標準的教科書を参照し、管理会計のフレームワークを学習した後、財務諸表分析や設備投資決定に関する諸問題を考察し、現実のデータを用いて解を模索する。授業では、主として英語を用いて議論することを心掛けたい。関連配布資料は、すべて学習支援システム（LMS）を通して配布するので、常に注意を払うこと。

【重要】

コロナ状況下による授業形態に関する情報を、学習支援システム上の「お知らせ」や「授業内掲示板」に掲載します。現時点では、初回を除く全授業を対面方式にて実施する予定です。不明な点は、「授業内掲示板」へお寄せください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	学習事項の年間計画	学習項目の具体的説明
第 2 回	管理会計の目的	管理会計の目的について確認
第 3 回	管理会計の枠組み：財務会計との関連	管理会計の属性について、財務会計と比較しながら検討
第 4 回	管理会計の機能	企業組織における管理会計情報の機能を理解
第 5 回	発表：その 1	第 4 回までの学習事項に基づき事例発表とディスカッション
第 6 回	原価の諸概念	財務諸表分析と関連する各原価の諸概念、分類、原価態様等について議論
第 7 回	損益分岐点（BEP）分析：その 1	BEP 分析の諸概念の確認：原価、営業量、利益。
第 8 回	損益分岐点（BEP）分析：その 2	BEP 分析とオペレーティング・レバレッジ
第 9 回	損益分岐点（BEP）分析：その 3	BEP 分析と CVP 分析の比較・検討
第 10 回	財務諸表分析：その 1	企業の安全性、効率性に関する事例研究
第 11 回	財務諸表分析：その 2	企業の収益性、成長性に関する事例研究
第 12 回	財務データの統計処理：記述統計その 1	財務データの基本統計解析
第 13 回	財務データの統計処理：記述統計その 2	財務データ処理に関する基本的な統計手法の応用可能性を検討
第 14 回	春学期総括	春学期学習事項の確認とまとめ。問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語で関連話題を議論できるよう、各参加者が自ら適切な学習方法を選択し英語運用力の向上に努めることが要請される。幾つかの学習方法上のヒントは、LMS に掲載される。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米国あるいは英国における管理会計の標準的な教科書に基づいてスライドを作成する。授業支援システムを参照のこと。

【参考書】

- 1) 青木茂男『要説 経営分析 六訂版』森山書店、2022 年。
- 2) 岡本清『原価計算 六訂版』国元書房、2000 年。
- 3) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010 年。（より詳細な参考文献リストを LMS 上に掲載するので参照のこと。）

【成績評価の方法と基準】

授業内貢献度（80%）、レポート（20%）をもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

IT 機器を利用し、ゼミの予習・準備を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC を利用し現実の財務データを処理・解導出を行うので Excel の操作技術が必要となる。Excel の基本操作事項を独習し各自慣れておくことが必要である。

【その他の重要事項】

①日・英両語を駆使し的確に議論する能力および②情報処理能力は今後如何なる職業に就いても必要不可欠となるであろう。各参加者が有する当初の素晴らしい動機を維持し各自の目的を成就して欲しい。

【重要事項】

- ・2 年次、3 年次、4 年次の各 1 年間の履修希望も可能である。
- ・感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業へ切り替えることもありうることを予めご了解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「演習 1」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【関連科目】

計量経営分析 I/II、統計学 I/II、管理会計論 I/II

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this seminar is to understand important concepts and decision models related to corporate behaviors and their rational decision making processes both in Japanese and English.

【Learning objectives】

Students should be able to:

- 1)understand various concepts used in Financial Statement Analysis and Capital Budgeting
- 2)process data using basic statistics techniques
- 3)discuss the seminar's theme both in English and Japanese

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading criteria】

Class contributions(80%), Essay(20%)

MAN200FA

演習 2

福多 裕志

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

[財務データに基づく企業の意思決定]

当ゼミの目的は、企業における長・短期の経済的意思決定行動を考察するにあたり、必要かつ重要な諸概念や意思決定モデルを、日・英両言語を駆使して理解することである。2 年次、3 年次、4 年次の各 1 年間の履修希望も可能である。

【到達目標】

財務諸表分析、資本予算（設備投資決定）において利用される諸概念と計算式の理解およびその実践的活用を目指す。PC を常時使用し、財務データの処理方法を同時に学ぶことができる。こうした情報処理技法は世界共通であり、情報・データの交換は国内に限定されないことを念頭に置き、演習内では日・英両言語で議論することを目指す。

Students should be able to:

- 1) understand various concepts used in Financial Statement Analysis and Capital Budgeting,
- 2) process data using basic statistics techniques,
- 3) discuss the seminar's theme both in English and Japanese.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初めに日・英語の標準的教科書を参照し、管理会計のフレームワークを学習した後、財務諸表分析や設備投資決定に関する諸問題を考察し、現実のデータを用いて解を模索する。授業では、日英両語を用い議論することを最終目標としたい。関連配布資料は、すべて学習支援システム（LMS）を通して配布するので、常に注意を払うこと。

【重要】

コロナ状況下による授業形態に関する情報を、学習支援システム上の「お知らせ」や「授業内掲示板」に掲載します。現時点では、初回を除く全授業を対面方式にて実施する予定です。不明な点は、「授業内掲示板」へお寄せください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期学習計画および財務諸表分析への統計学の応用：その 1	推測統計学と財務諸表分析
第 2 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 2	業界平均値の推定、正規分布
第 3 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 3	業界平均値の推定、t 分布
第 4 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 4	平均値の仮説検定、帰無仮説、対立仮説
第 5 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 5	平均値の仮説検定、両側検定、片側検定、t 検定
第 6 回	事例発表 1	推定・検定を応用した事例研究（企業レベル）
第 7 回	事例発表 2	推定・検定を応用した事例研究（業界レベル）
第 8 回	資本予算：その 1	設備投資決定計算の基本枠組み
第 9 回	資本予算：その 2	設備投資決定に用いられる諸概念の理解
第 10 回	資本予算：その 3	資金の時間的価値、複利計算、割引計算、DCF
第 11 回	資本予算：その 4	現価係数、終価係数、年金現価係数、年金終価係数
第 12 回	資本予算：その 5	回収期間法、内部利益率法、収益性指数法
第 13 回	資本予算：その 6	設備投資決定問題における税金の問題とインフレーションの影響
第 14 回	秋学期総括	秋学期学習事項の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語で関連話題を議論できるよう、各参加者が自ら適切な学習方法を選択し英語運用力の向上に努める。幾つかの学習方法上のヒントは、LMS に掲載される。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米国あるいは英国における管理会計の標準的な教科書に基づいてスライドを作成する。授業支援システムを参照のこと。

【参考書】

- 1) 青木茂男『要説 経営分析 六訂版』森山書店、2022 年。
- 2) 岡本清『原価計算 六訂版』国元書房、2000 年。
- 3) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010 年。（より詳細な参考文献リストを LMS 上に掲載するので参照のこと。）

【成績評価の方法と基準】

授業内貢献度（80%）、レポート（20%）をもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

IT 機器を利用し、ゼミの予習・準備を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC を利用し現実の財務データを処理・解導出を行うので Excel の操作技術が必要となる。1、2 年次に電算関連科目を受講するか、もしくは Excel の基本操作事項を独習し各自慣れておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

①日・英両語を駆使し的確に議論する能力および②情報処理能力は今後如何なる職業に就いても必要不可欠となるであろう。各参加者が有する当初の素晴らしい動機を維持し各自の目的を成就して欲しい。

【重要事項】

- ・2 年次、3 年次、4 年次の各 1 年間の履修希望も可能です。
- ・感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもあろうことを予めご了承ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「演習 2」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【関連科目】

計量経営分析 I/II、統計学 I/II、管理会計論 I/II

【Outline (in English)】

[Course outline]

The purpose of this seminar is to understand important concepts and decision models related to corporate behaviors and their rational decision making processes both in Japanese and English.

[Learning objectives]

Students should be able to:

- 1) understand various concepts used in Financial Statement Analysis and Capital Budgeting,
- 2) process data using basic statistics techniques,
- 3) discuss the seminar's theme both in English and Japanese.

[Learning activities outside of classroom]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Grading criteria]

Class contributions(80%), Essay(20%)

MAN300FA

演習 3

福多 裕志

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【財務データに基づく企業の意思決定】

当ゼミの目的は、企業における長・短期の経済的意思決定行動を考察するにあたり、必要かつ重要な諸概念や意思決定モデルを、日・英両言語を駆使して理解することである。2 年次、3 年次、4 年次の各 1 年間の履修希望も可能である。

【到達目標】

財務諸表分析、資本予算（設備投資決定）において利用される諸概念と計算式の理解およびその実践的活用を目指す。PC およびエクセルを常時使用し、財務データの処理方法を同時に学ぶことができる。こうした情報処理技法は世界共通であり、情報・データの交換は国内に限定されないことを念頭に置き、演習内では最終的に、日・英両言語で議論するという可能性を模索する。

Students should be able to:

- 1) understand various concepts used in Financial Statement Analysis and Capital Budgeting,
- 2) process data using basic statistics techniques,
- 3) discuss the seminar's theme both in English and Japanese.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初めに日・英語の標準的教科書を参照し、管理会計のフレームワークを学習した後、財務諸表分析や設備投資決定に関する諸問題を考察し、現実のデータを用いて解を模索する。授業では、主として英語を用いて議論することを心掛けたい。関連配布資料は、すべて学習支援システム（LMS）を通して配布するので、常に注意を払うこと。

【重要】

コロナ状況下による授業形態に関する情報を、学習支援システム上の「お知らせ」や「授業内掲示板」に掲載します。現時点では、初回を除く全授業を対面方式にて実施する予定です。不明な点は、「授業内掲示板」へお寄せください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	学習事項の年間計画	学習項目の具体的説明
第 2 回	管理会計の目的	管理会計の目的について確認
第 3 回	管理会計の枠組み：財務会計との関連	管理会計の属性について、財務会計と比較しながら検討
第 4 回	管理会計の機能	企業組織における管理会計情報の機能を理解
第 5 回	発表：その 1	第 4 回までの学習事項に基づき事例発表とディスカッション
第 6 回	原価の諸概念	財務諸表分析と関連する各原価の諸概念、分類、原価態様等について議論
第 7 回	損益分岐点（BEP）分析：その 1	BEP 分析の諸概念の確認：原価、営業量、利益。
第 8 回	損益分岐点（BEP）分析：その 2	BEP 分析とオペレーティング・レバレッジ
第 9 回	損益分岐点（BEP）分析：その 3	BEP 分析と CVP 分析の比較・検討
第 10 回	財務諸表分析：その 1	企業の安全性、効率性に関する事例研究
第 11 回	財務諸表分析：その 2	企業の収益性、成長性に関する事例研究
第 12 回	財務データの統計処理：記述統計その 1	財務データの基本統計解析
第 13 回	財務データの統計処理：記述統計その 2	財務データ処理に関する基本的な統計手法の応用可能性を検討
第 14 回	春学期総括	春学期学習事項の確認とまとめ。問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語で関連話題を議論できるよう、各参加者が自ら適切な学習方法を選択し英語運用力の向上に努めることが要請される。幾つかの学習方法上のヒントは、LMS に掲載される。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米国あるいは英国における管理会計の標準的な教科書に基づいてスライドを作成する。授業支援システムを参照のこと。

【参考書】

- 1) 青木茂男『要説 経営分析 六訂版』森山書店、2022 年。
- 2) 岡本清『原価計算 六訂版』国元書房、2000 年。
- 3) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010 年。（より詳細な参考文献リストを LMS 上に掲載するので参照のこと。）

【成績評価の方法と基準】

授業内貢献度（80%）、レポート（20%）をもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

IT 機器を利用し、ゼミの予習・準備を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC を利用し現実の財務データを処理・解導出を行うので Excel の操作技術が必要となる。Excel の基本操作事項を独習し各自慣れておくことが必要である。

【その他の重要事項】

①日・英両語を駆使し的確に議論する能力および②情報処理能力は今後如何なる職業に就いても必要不可欠となるであろう。各参加者が有する当初の素晴らしい動機を維持し各自の目的を成就して欲しい。

【重要事項】

- ・2 年次、3 年次、4 年次の各 1 年間の履修希望も可能である。
- ・感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業へ切り替えることもありうることを予めご了解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「演習 1」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【関連科目】

計量経営分析 I/II、統計学 I/II、管理会計論 I/II

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this seminar is to understand important concepts and decision models related to corporate behaviors and their rational decision making processes both in Japanese and English.

【Learning objectives】

Students should be able to:

- 1) understand various concepts used in Financial Statement Analysis and Capital Budgeting
- 2) process data using basic statistics techniques
- 3) discuss the seminar's theme both in English and Japanese

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading criteria】

Class contributions(80%), Essay(20%)

MAN300FA

演習 4

福多 裕志

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

[財務データに基づく企業の意思決定]

当ゼミの目的は、企業における長・短期の経済的意思決定行動を考察するにあたり、必要かつ重要な諸概念や意思決定モデルを、日・英両言語を駆使して理解することである。2 年次、3 年次、4 年次の各 1 年間の履修希望も可能である。

【到達目標】

財務諸表分析、資本予算（設備投資決定）において利用される諸概念と計算式の理解およびその実践的活用を目指す。PC を常時使用し、財務データの処理方法を同時に学ぶことができる。こうした情報処理技法は世界共通であり、情報・データの交換は国内に限定されないことを念頭に置き、演習内では日・英両言語で議論することを目指す。

Students should be able to:

- 1) understand various concepts used in Financial Statement Analysis and Capital Budgeting,
- 2) process data using basic statistics techniques,
- 3) discuss the seminar's theme both in English and Japanese.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初めに日・英語の標準的教科書を参照し、管理会計のフレームワークを学習した後、財務諸表分析や設備投資決定に関する諸問題を考察し、現実のデータを用いて解を模索する。授業では、日英両語を用い議論することを最終目標としたい。関連配布資料は、すべて学習支援システム（LMS）を通して配布するので、常に注意を払うこと。

【重要】

コロナ状況下による授業形態に関する情報を、学習支援システム上の「お知らせ」や「授業内掲示板」に掲載します。現時点では、初回を除く全授業を対面方式にて実施する予定です。不明な点は、「授業内掲示板」へお寄せください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期学習計画および財務諸表分析への統計学の応用：その 1	推測統計学と財務諸表分析
第 2 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 2	業界平均値の推定、正規分布
第 3 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 3	業界平均値の推定、t 分布
第 4 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 4	平均値の仮説検定、帰無仮説、対立仮説
第 5 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 5	平均値の仮説検定、両側検定、片側検定、t 検定
第 6 回	事例発表 1	推定・検定を応用した事例研究（企業レベル）
第 7 回	事例発表 2	推定・検定を応用した事例研究（業界レベル）
第 8 回	資本予算：その 1	設備投資決定計算の基本枠組み
第 9 回	資本予算：その 2	設備投資決定に用いられる諸概念の理解
第 10 回	資本予算：その 3	資金の時間的価値、複利計算、割引計算、DCF
第 11 回	資本予算：その 4	現価係数、終価係数、年金現価係数、年金終価係数
第 12 回	資本予算：その 5	回収期間法、内部利益率法、収益性指数法
第 13 回	資本予算：その 6	設備投資決定問題における税金の問題とインフレーションの影響
第 14 回	秋学期総括	秋学期学習事項の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語で関連話題を議論できるよう、各参加者が自ら適切な学習方法を選択し英語運用力の向上に努める。幾つかの学習方法上のヒントは、LMS に掲載される。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米国あるいは英国における管理会計の標準的な教科書に基づいてスライドを作成する。授業支援システムを参照のこと。

【参考書】

- 1) 青木茂男『要説 経営分析 六訂版』森山書店, 2022 年.
 - 2) 岡本清『原価計算 六訂版』国元書房, 2000 年.
 - 3) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社, 2010 年.
- （より詳細な参考文献リストを LMS 上に掲載するので参照のこと。）

【成績評価の方法と基準】

授業内貢献度（80%）、レポート（20%）をもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

IT 機器を利用し、ゼミの予習・準備を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC を利用し現実の財務データを処理・解導出を行うので Excel の操作技術が必要となる。1、2 年次に電算関連科目を受講するか、もしくは Excel の基本操作事項を独習し各自慣れておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

①日・英両語を駆使し的確に議論する能力および②情報処理能力は今後如何なる職業に就いても必要不可欠となるであろう。各参加者が有する当初の素晴らしい動機を維持し各自の目的を成就して欲しい。

【重要事項】

- ・2 年次、3 年次、4 年次の各 1 年間の履修希望も可能です。
- ・感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもあられることを予めご了解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「演習 2」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【関連科目】

計量経営分析 I/II、統計学 I/II、管理会計論 I/II

【Outline (in English)】

[Course outline]

The purpose of this seminar is to understand important concepts and decision models related to corporate behaviors and their rational decision making processes both in Japanese and English.

[Learning objectives]

Students should be able to:

- 1) understand various concepts used in Financial Statement Analysis and Capital Budgeting,
- 2) process data using basic statistics techniques,
- 3) discuss the seminar's theme both in English and Japanese.

[Learning activities outside of classroom]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Grading criteria]

Class contributions(80%), Essay(20%)

MAN400FA

演習 5

福多 裕志

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【財務データに基づく企業の意思決定】

当ゼミの目的は、企業における長・短期の経済的意思決定行動を考察するにあたり、必要かつ重要な諸概念や意思決定モデルを、日・英両言語を駆使して理解することである。2 年次、3 年次、4 年次の各 1 年間の履修希望も可能である。

【到達目標】

財務諸表分析、資本予算（設備投資決定）において利用される諸概念と計算式の理解およびその実践的活用を目指す。PC およびエクセルを常時使用し、財務データの処理方法を同時に学ぶことができる。こうした情報処理技法は世界共通であり、情報・データの交換は国内に限定されないことを念頭に置き、演習内では最終的に、日・英両言語で議論するという可能性を模索する。

Students should be able to:

- 1) understand various concepts used in Financial Statement Analysis and Capital Budgeting,
- 2) process data using basic statistics techniques,
- 3) discuss the seminar's theme both in English and Japanese.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初めに日・英語の標準的教科書を参照し、管理会計のフレームワークを学習した後、財務諸表分析や設備投資決定に関する諸問題を考察し、現実のデータを用いて解を模索する。授業では、主として英語を用いて議論することを心掛けたい。関連配布資料は、すべて学習支援システム（LMS）を通して配布するので、常に注意を払うこと。

【重要】

コロナ状況下による授業形態に関する情報を、学習支援システム上の「お知らせ」や「授業内掲示板」に掲載します。現時点では、初回を除く全授業を対面方式にて実施する予定です。不明な点は、「授業内掲示板」へお寄せください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	学習事項の年間計画	学習項目の具体的説明
第 2 回	管理会計の目的	管理会計の目的について確認
第 3 回	管理会計の枠組み：財務会計との関連	管理会計の属性について、財務会計と比較しながら検討
第 4 回	管理会計の機能	企業組織における管理会計情報の機能を理解
第 5 回	発表：その 1	第 4 回までの学習事項に基づき事例発表とディスカッション
第 6 回	原価の諸概念	財務諸表分析と関連する各原価の諸概念、分類、原価態様等について議論
第 7 回	損益分岐点（BEP）分析：その 1	BEP 分析の諸概念の確認：原価、営業量、利益。
第 8 回	損益分岐点（BEP）分析：その 2	BEP 分析とオペレーティング・レバレッジ
第 9 回	損益分岐点（BEP）分析：その 3	BEP 分析と CVP 分析の比較・検討
第 10 回	財務諸表分析：その 1	企業の安全性、効率性に関する事例研究
第 11 回	財務諸表分析：その 2	企業の収益性、成長性に関する事例研究
第 12 回	財務データの統計処理：記述統計その 1	財務データの基本統計解析
第 13 回	財務データの統計処理：記述統計その 2	財務データ処理に関する基本的な統計手法の応用可能性を検討
第 14 回	春学期総括	春学期学習事項の確認とまとめ。問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語で関連話題を議論できるよう、各参加者が自ら適切な学習方法を選択し英語運用力の向上に努めることが要請される。幾つかの学習方法上のヒントは、LMS に掲載される。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米国あるいは英国における管理会計の標準的な教科書に基づいてスライドを作成する。授業支援システムを参照のこと。

【参考書】

- 1) 青木茂男『要説 経営分析 六訂版』森山書店、2022 年。
- 2) 岡本清『原価計算 六訂版』国元書房、2000 年。
- 3) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010 年。（より詳細な参考文献リストを LMS 上に掲載するので参照のこと。）

【成績評価の方法と基準】

授業内貢献度（80%）、レポート（20%）をもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

IT 機器を利用し、ゼミの予習・準備を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC を利用し現実の財務データを処理・解導出を行うので Excel の操作技術が必要となる。Excel の基本操作事項を独習し各自慣れておくことが必要である。

【その他の重要事項】

①日・英両語を駆使し的確に議論する能力および②情報処理能力は今後如何なる職業に就いても必要不可欠となるであろう。各参加者が有する当初の素晴らしい動機を維持し各自の目的を成就して欲しい。

【重要事項】

- ・2 年次、3 年次、4 年次の各 1 年間の履修希望も可能である。
- ・感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業へ切り替えることもありうることを予めご了解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「演習 1」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【関連科目】

計量経営分析 I/II、統計学 I/II、管理会計論 I/II

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this seminar is to understand important concepts and decision models related to corporate behaviors and their rational decision making processes both in Japanese and English.

【Learning objectives】

Students should be able to:

- 1) understand various concepts used in Financial Statement Analysis and Capital Budgeting
- 2) process data using basic statistics techniques
- 3) discuss the seminar's theme both in English and Japanese

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading criteria】

Class contributions(80%), Essay(20%)

MAN400FA

演習 6

福多 裕志

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

[財務データに基づく企業の意思決定]

当ゼミの目的は、企業における長・短期の経済的意思決定行動を考察するにあたり、必要かつ重要な諸概念や意思決定モデルを、日・英両言語を駆使して理解することである。2 年次、3 年次、4 年次の各 1 年間の履修希望も可能である。

【到達目標】

財務諸表分析、資本予算（設備投資決定）において利用される諸概念と計算式の理解およびその実践的活用を目指す。PC を常時使用し、財務データの処理方法を同時に学ぶことができる。こうした情報処理技法は世界共通であり、情報・データの交換は国内に限定されないことを念頭に置き、演習内では日・英両言語で議論することを目指す。

Students should be able to:

- 1) understand various concepts used in Financial Statement Analysis and Capital Budgeting,
- 2) process data using basic statistics techniques,
- 3) discuss the seminar's theme both in English and Japanese.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初めに日・英語の標準的教科書を参照し、管理会計のフレームワークを学習した後、財務諸表分析や設備投資決定に関する諸問題を考察し、現実のデータを用いて解を模索する。授業では、日英両語を用い議論することを最終目標としたい。関連配布資料は、すべて学習支援システム（LMS）を通して配布するので、常に注意を払うこと。

【重要】

コロナ状況下による授業形態に関する情報を、学習支援システム上の「お知らせ」や「授業内掲示板」に掲載します。現時点では、初回を除く全授業を対面方式にて実施する予定です。不明な点は、「授業内掲示板」へお寄せください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期学習計画および財務諸表分析への統計学の応用：その 1	推測統計学と財務諸表分析
第 2 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 2	業界平均値の推定、正規分布
第 3 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 3	業界平均値の推定、t 分布
第 4 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 4	平均値の仮説検定、帰無仮説、対立仮説
第 5 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 5	平均値の仮説検定、両側検定、片側検定、t 検定
第 6 回	事例発表 1	推定・検定を応用した事例研究（企業レベル）
第 7 回	事例発表 2	推定・検定を応用した事例研究（業界レベル）
第 8 回	資本予算：その 1	設備投資決定計算の基本枠組み
第 9 回	資本予算：その 2	設備投資決定に用いられる諸概念の理解
第 10 回	資本予算：その 3	資金の時間的価値、複利計算、割引計算、DCF
第 11 回	資本予算：その 4	現価係数、終価係数、年金現価係数、年金終価係数
第 12 回	資本予算：その 5	回収期間法、内部利益率法、収益性指数法
第 13 回	資本予算：その 6	設備投資決定問題における税金の問題とインフレーションの影響
第 14 回	秋学期総括	秋学期学習事項の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語で関連話題を議論できるよう、各参加者が自ら適切な学習方法を選択し英語運用力の向上に努める。幾つかの学習方法上のヒントは、LMS に掲載される。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米国あるいは英国における管理会計の標準的な教科書に基づいてスライドを作成する。授業支援システムを参照のこと。

【参考書】

- 1) 青木茂男『要説 経営分析 六訂版』森山書店、2022 年。
- 2) 岡本清『原価計算 六訂版』国元書房、2000 年。
- 3) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010 年。（より詳細な参考文献リストを LMS 上に掲載するので参照のこと。）

【成績評価の方法と基準】

授業内貢献度（80%）、レポート（20%）をもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

IT 機器を利用し、ゼミの予習・準備を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC を利用し現実の財務データを処理・解導出を行うので Excel の操作技術が必要となる。1、2 年次に電算関連科目を受講するか、もしくは Excel の基本操作事項を独習し各自慣れておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

①日・英両語を駆使し的確に議論する能力および②情報処理能力は今後如何なる職業に就いても必要不可欠となるであろう。各参加者が有する当初の素晴らしい動機を維持し各自の目的を成就して欲しい。

【重要事項】

- ・2 年次、3 年次、4 年次の各 1 年間の履修希望も可能です。
- ・感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもあろうことを予めご理解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「演習 2」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【関連科目】

計量経営分析 I/II、統計学 I/II、管理会計論 I/II

【Outline (in English)】

[Course outline]

The purpose of this seminar is to understand important concepts and decision models related to corporate behaviors and their rational decision making processes both in Japanese and English.

[Learning objectives]

Students should be able to:

- 1) understand various concepts used in Financial Statement Analysis and Capital Budgeting,
- 2) process data using basic statistics techniques,
- 3) discuss the seminar's theme both in English and Japanese.

[Learning activities outside of classroom]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Grading criteria]

Class contributions(80%), Essay(20%)

MAN200FA

演習 1

藤村 博之

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトの側面から企業経営を考えることがこのゼミの目的ですが、その問題だけにとどまらず、広く日本社会のあり方についても議論したいと思えます。それは、企業が社会という大きな枠組みの中で活動しているからです。企業経営の本当の姿を知るには、社会に対する理解が不可欠です。私たちが暮らしている日本という社会の姿を考えながら、企業の人事管理を見ていきたいと思えます。

その際、国際比較という視点も大事にします。日本社会の本当の姿を知るには、他の国との比較が有効だと考えられます。日本独自の問題だと思われていることが、案外、どの国にも共通して発生していたり、日本は遅れていると言われていることが実は他の国でも同じような実態であったりするからです。企業のヒトの問題を通して、日本社会についての理解を深めてほしいと思えます。

【到達目標】

日本社会のあり方、日本企業のあり方、そして学生一人一人の職業人としての生き方を考えられるようになることが到達目標です。そのために、①情報を収集し、整理して、再構成する力、②自分の主張を文章で表現する力、③自分の意見を発表し議論する力の 3 つを身につけることが必要です。できるだけ客観的な情報を収集し、事実を理解した上で、これからのあり方を自分の頭で考えられるようになってほしいと思えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

インターゼミナール大会に出席するための論文作成を中心として、ゼミを運営します。春学期は、議論に必要な共通の基盤を作るために、人事管理関係の教科書を指定して輪読します。夏休みから秋学期の初めにかけては、インターゼミ大会参加論文執筆のための共同作業になります。秋学期のゼミは、時事問題の議論や社会人として必要な知識を身につけるための勉強をします。2、3 年生には進級論文の提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本企業のヒトの問題	経営資源の一つであるヒトの特徴について学びます。
第 2 回	雇用管理	採用、配置、雇用調整、退職管理
第 3 回	能力開発	OJT と Off-JT の組合せ方
第 4 回	人事制度	従業員が組織の目標達成に向かって力を結集する仕組みの理解
第 5 回	評価制度	評価と目標管理の関係について
第 6 回	報酬管理	賃金制度の組み方
第 7 回	労働時間管理	長時間労働の現状とその解決策
第 8 回	非典型雇用	有期雇用社員の現状と課題
第 9 回	高齢者雇用	日本社会の高齢化と雇用問題
第 10 回	女性労働	女性が出産・育児を経ても働き続けられるようにするにはどうすればいいか
第 11 回	外国人労働者	日本の少子化と人口減少の中で、外国人労働者をどう受け入れていくのか
第 12 回	福利厚生	法定福利と法定外福利の関係
第 13 回	労使関係	労使コミュニケーションの現状と課題
第 14 回	他大学との討論会	立正大学攻野ゼミと討論会を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、討論の題材となる文献が決まっています。それを読み込んでおくことが大切な事前学習です。単に読むだけでなく、書かれていることから自分の問題意識を見つけることも重要です。

社会人との交流の場を年に 10 数回設けています。これにできるだけ多く出席することを求めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤村博之編『考える力を高めるキャリアデザイン入門』有斐閣、2021 年
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理 [第 6 版]』有斐閣、2019 年

【参考書】

文献については、講義中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミには毎回出席し、合宿や論文作成にも積極的に取り組むことが必要です。インターゼミナール大会参加論文の作成に積極的に参加したか、ゼミ運営にどれだけ貢献したか、進級論文の水準はどの程度かといった点を中心に評価します。

評価は、通常のゼミにおける議論への貢献 60 %、課外活動への参加・貢献 30 %、進級論文 10 %で行います。

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの特徴と役割を尊重します。その上で、ゼミが活発になる自発的な行動を支持します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用した報告を課します。

【その他の重要事項】

大学での勉強で大切なのは、課題を与えられてそれを処理するのではなく、自らテーマを見つけてそれを解明していくことです。何事にも主体的に取り組む姿勢を求めます。

社会人との交流の場を年に 10 数回設けています。一つには、小泉産業、コクヨ、イトーキ、アシックス、三菱 UFJ 信託銀行、上新電機、ビックカメラなどの労働組合役員と若手組合員が出席し、「働くってどういうことだろう」、「キャリア形成というけれど本当は何？」、「会社の選び方は？」といったテーマでグループ討論を行うものがあります。

また、立正大学攻野ゼミとの討論会や工場見学等の課外活動も予定しています。

さらに、NPO 人材育成ネットワーク推進機構が主催する学生支援セミナーへの任意の参加を求めています。学生支援セミナーは、毎月産業別に労働組合の方々に集まっていただき開催されているものです。医薬品産業・自動車産業・流通業・金融業・電機産業などの企業が参加します。現場をよく知る労働組合の方々に現実を伝えていただき、社会に出たときに迷わないための準備をしてもらうのが目的です。

上記のようにゼミでは複数の活動を伴います。アルバイトなど私的な都合よりも学業を優先することが必要になります。これは、学生として当然のことですが、あえて付け加えておきたいと思えます。

関連科目：人的資源管理Ⅰ、人的資源管理Ⅱ、組織行動論Ⅰ、組織行動論Ⅱ

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野と主要業績】

<専門領域>人材育成論、労使関係論

<研究テーマ>産学連携による若年層の育成、管理職の育成、高齢者雇用、労働組合の役割再構築

<主要研究業績>

- ①『新しい人事労務管理 [第 6 版]』(佐藤、八代と共著)2019 年 10 月、有斐閣
- ②『福岡県 70 歳現役応援センター』の設立にかかわって『エルダー』2019 年 9 月号
- ③『優秀な人材は内部養成している企業に集まる』『産業訓練』2019 年 1 月号
- ④『大学教育と就職活動の関係を考える』『人事実務』2018 年 12 月号、
- ⑤『企業の競争力を高める外国人材の活用を』『商工ジャーナル』2018 年 12 月号
- ⑥『考える集団の醸成が競争力を高める』『中央労働時報』2018 年 9 月、pp.14-18.
- ⑦『高度外国人材は企業の競争力を高める』『東京社会保険労務士会会報』2016 年 7 月
- ⑧『“The challenge of keeping Japanese older people economically active” Australian Journal of Social Issues, Vol. 51 No. 2, 2016, pp.167-185.
- ⑨『グローバル化と日本企業の課題～広い視野を持った経営者をどう育てるか～』『Work & Life 世界の労働』(日本 ILO 協議会)2015 年 3 月、pp.2-10.
- ⑩『70 歳現役をめぐって』『エルダー』2015 年 1 月号、pp.7-11.

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students to understand characteristics of human resource management in Japanese firms. It is said that seniority-based wage system, lifetime employment and enterprise union are three main characteristics of Japanese HRM. However, when we carefully investigate statistics and practices of HRM in other countries, we can observe many similarities of HRM. We have to know real situations of HRM in Japanese companies.

At the end of this seminar, students are expected to know the real pictures of HRM in Japanese companies.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than three hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process; contribution to discussions in every class 60%, participation and contribution to activities outside classroom 30%, final report of the class 10%.

MAN200FA

演習 2

藤村 博之

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトの側面から企業経営を考えることがこのゼミの目的ですが、その問題だけにとどまらず、広く日本社会のあり方についても議論したいと思えます。それは、企業が社会という大きな枠組みの中で活動しているからです。企業経営の本当の姿を知るには、社会に対する理解が不可欠です。私たちが暮らしている日本という社会の姿を考えながら、企業の人事管理を見ていきたいと思えます。

その際、国際比較という視点も大事にします。日本社会の本当の姿を知るには、他の国との比較が有効だと考えられます。日本独自の問題だと思われていることが、案外、どの国にも共通して発生していたり、日本は遅れていると言われていることが実は他の国でも同じような実態であったりするからです。企業のヒトの問題を通して、日本社会についての理解を深めてほしいと思えます。

【到達目標】

日本社会のあり方、日本企業のあり方、そして学生一人一人の職業人としての生き方を考えられるようになることが到達目標です。そのために、①情報を収集し、整理して、再構成する力、②自分の主張を文章で表現する力、③自分の意見を発表し議論する力の 3 つを身につけることが必要です。できるだけ客観的な情報を収集し、事実を理解した上で、これからのあり方を自分の頭で考えられるようになってほしいと思えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

インターゼミナール大会に出席するための論文作成を中心として、ゼミを運営します。春学期は、議論に必要な共通の基盤を作るために、人事管理関係の教科書を指定して輪読します。夏休みから秋学期の初めにかけては、インターゼミ大会参加論文執筆のための共同作業になります。秋学期のゼミは、時事問題の議論や社会人として必要な知識を身につけるための勉強をします。2、3 年生には進級論文の提出を求めます。この授業は、ハイフレックス授業形式で行います。対面授業をオンラインでもリアルタイムで配信します。皆さんの都合に合わせて、教室での対面授業か、自宅等でのオンライン授業かを選択してください。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本企業のヒトの問題	日本企業が抱えるヒトの問題を整理する
第 2 回	メンバーシップ型雇用とジョブ型雇用の違い	日本企業においてどのような雇用制度が適切かを考える
第 3 回	賃金制度 (1)	成果業績に基づいた賃金制度の問題点を理解する
第 4 回	賃金制度 (2)	望ましい賃金制度を考える
第 5 回	裁量労働制	裁量労働制に向いている仕事と向いていない仕事を理解する
第 6 回	みなし労働時間制	労働時間管理のあり方を理解する
第 7 回	絶対評価と相対評価 (1)	評価における絶対評価と相対評価の関係を理解する
第 8 回	絶対評価と相対評価 (2)	評価者が信頼されるようになるには何が必要かを考える
第 9 回	障害者雇用 (1)	法定雇用率とそれを国が求める理由を理解する
第 10 回	障害者雇用 (2)	障害者が普通に働ける社会になるには何が必要かを考える
第 11 回	グローバル人材 (1)	グローバル人材とはどのような要素を持っているのかを整理する
第 12 回	グローバル人材 (2)	グローバル人材になるには何が必要かを考える
第 13 回	工場見学	東京近郊の工場見学を行う
第 14 回	他大学との討論会	立正大学戎野ゼミと討論会を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、討論の題材となる文献が決まっています。それを読み込んでおくことが大切な事前学習です。単に読むだけでなく、書かれていることから自分の問題意識を見つけることも重要です。

社会人との交流の場を年に 10 数回設けています。これにできるだけ多く出席することを求めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理【第 6 版】有斐閣、2019 年

【参考書】

文献については、講義中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミには毎回出席し、合宿や論文作成にも積極的に取り組むことが必要です。インターゼミナール大会参加論文の作成に積極的に参加したか、ゼミ運営にどれだけ貢献したか、進級論文の水準はどの程度かといった点を中心に評価します。

評価は、通常のゼミにおける議論への貢献 60 %、課外活動への参加・貢献 30 %、進級論文 10 %で行います。

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの特徴と役割を尊重します。その上で、ゼミが活発になる自発的な行動を支持します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用した報告を課します。

【その他の重要事項】

大学での勉強で大切なのは、課題を与えられてそれを処理するのではなく、自らテーマを見つけてそれを解明していくことです。何事にも主体的に取り組む姿勢を求めます。

社会人との交流の場を年に 10 数回設けています。一つには、小泉産業、コクヨ、イトーキ、アシックス、三菱 UFJ 信託銀行、上新電機、ビックカメラなどの労働組合役員と若手組合員が出席し、「働くってどういうことだろう」、「キャリア形成というけれど本当は何?」、「会社の選び方は?」といったテーマでグループ討論を行うものがあります。

また、立正大学戎野ゼミとの討論会や工場見学等の課外活動も予定しています。

さらに、NPO 人材育成ネットワーク推進機構が主催する学生支援セミナーへの任意の参加を求めています。学生支援セミナーは、毎月産業別に労働組合の方々を集まっていたり開催されているものです。医薬品産業・自動車産業・流通業・金融業・電機産業などの企業が参加します。現場をよく知る労働組合の方々から現実を伝えていただき、社会に出たときに迷わないための準備をしてもらうのが目的です。

上記のようにゼミでは複数の活動を伴います。アルバイトなど私的な都合よりも学業を優先することが必要になります。これは、学生として当然のことですが、あえて付け加えておきたいと思えます。

関連科目：人的資源管理Ⅰ、人的資源管理Ⅱ、組織行動論Ⅰ、組織行動論Ⅱ

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野と主要業績】

<専門領域>人材育成論、労使関係論

<研究テーマ>産学連携による若年層の育成、管理職の育成、高齢者雇用、労働組合の役割再構築

<主要研究業績>

- ①『新しい人事労務管理【第 6 版】(佐藤、八代と共著)2019 年 10 月、有斐閣
- ②『福岡県 70 歳現役応援センター』の設立にかかわって』『エルダー』2019 年 9 月号
- ③『優秀な人材は内部養成している企業に集まる』『産業訓練』2019 年 1 月号
- ④『大学教育と就職活動の関係を考える』『人事実務』2018 年 12 月号、
- ⑤『企業の競争力を高める外国人材の活用を』『商工ジャーナル』2018 年 12 月号
- ⑥『考える集団の醸成が競争力を高める』『中央労働時報』2018 年 9 月、pp.14-18.
- ⑦『高度外国人材は企業の競争力を高める』『東京社会保険労務士会会報』2016 年 7 月
- ⑧『The challenge of keeping Japanese older people economically active』Australian Journal of Social Issues, Vol. 51 No. 2, 2016, pp.167-185.
- ⑨『グローバル化と日本企業の課題—広い視野を持った経営者をどう育てるか—』『Work & Life 世界の労働』(日本 ILO 協議会)2015 年 3 月、pp.2-10.
- ⑩『70 歳現役をめぐって』『エルダー』2015 年 1 月号、pp.7-11.

【Outline (in English)】

The aim of the seminar is to help students to understand characteristics of human resource management in Japanese firms. It is said that seniority-based wage system, lifetime employment and enterprise union are three main characteristics of Japanese HRM. However, when we carefully investigate statistics and practices of HRM in other countries, we can observe many similarities of HRM. At the end of this seminar, students are expected to know the real pictures of HRM in Japanese companies.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than three hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process; contribution to discussions in every class 60%, participation and contribution to activities outside classroom 30%, final report of the class 10%.

MAN300FA

演習 3

藤村 博之

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトの側面から企業経営を考えることがこのゼミの目的ですが、その問題だけにとどまらず、広く日本社会のあり方についても議論したいと思えます。それは、企業が社会という大きな枠組みの中で活動しているからです。企業経営の本当の姿を知るには、社会に対する理解が不可欠です。私たちが暮らしている日本という社会の姿を考えながら、企業の人事管理を見ていきたいと思えます。

その際、国際比較という視点も大事にします。日本社会の本当の姿を知るには、他の国との比較が有効だと考えられます。日本独自の問題だと思われることが、案外、どの国にも共通して発生していたり、日本は遅れていると言われていることが実は他の国でも同じような実態であったりするからです。企業のヒトの問題を通して、日本社会についての理解を深めてほしいと思えます。

【到達目標】

日本社会のあり方、日本企業のあり方、そして学生一人一人の職業人としての生き方を考えられるようになることが到達目標です。そのために、①情報を収集し、整理して、再構成する力、②自分の主張を文章で表現する力、③自分の意見を発表し議論する力の 3 つを身につけることが必要です。できるだけ客観的な情報を収集し、事実を理解した上で、これからのあり方を自分の頭で考えられるようになってほしいと思えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

インターゼミナール大会に出席するための論文作成を中心として、ゼミを運営します。春学期は、議論に必要な共通の基盤を作るために、人事管理関係の教科書を指定して輪読します。夏休みから秋学期の初めにかけては、インターゼミ大会参加論文執筆のための共同作業になります。秋学期のゼミは、時事問題の議論や社会人として必要な知識を身につけるための勉強をします。2、3 年生には進級論文の提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本企業のヒトの問題	経営資源の一つであるヒトの特徴について学びます。
第 2 回	雇用管理	採用、配置、雇用調整、退職管理
第 3 回	能力開発	OJT と Off-JT の組合せ方
第 4 回	人事制度	従業員が組織の目標達成に向かって力を結集する仕組みの理解
第 5 回	評価制度	評価と目標管理の関係について
第 6 回	報酬管理	賃金制度の組み方
第 7 回	労働時間管理	長時間労働の現状とその解決策
第 8 回	非典型雇用	有期雇用社員の現状と課題
第 9 回	高齢者雇用	日本社会の高齢化と雇用問題
第 10 回	女性労働	女性が出産・育児を経ても働き続けられるようにするにはどうすればいいか
第 11 回	外国人労働者	日本の少子化と人口減少の中で、外国人労働者をどう受け入れていくのか
第 12 回	福利厚生	法定福利と法定外福利の関係
第 13 回	労使関係	労使コミュニケーションの現状と課題
第 14 回	他大学との討論会	立正大学攻野ゼミと討論会を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、討論の題材となる文献が決まっています。それを読み込んでおくことが大切な事前学習です。単に読むだけでなく、書かれていることから自分の問題意識を見つけることも重要です。

社会人との交流の場を年に 10 数回設けています。これにできるだけ多く出席することを求めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤村博之編『考える力を高めるキャリアデザイン入門』有斐閣、2021 年
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理 [第 6 版]』有斐閣、2019 年

【参考書】

文献については、講義中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミには毎回出席し、合宿や論文作成にも積極的に取り組むことが必要です。インターゼミナール大会参加論文の作成に積極的に参加したか、ゼミ運営にどれだけ貢献したか、進級論文の水準はどの程度かといった点を中心に評価します。

評価は、通常のゼミにおける議論への貢献 60 %、課外活動への参加・貢献 30 %、進級論文 10 %で行います。

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの特徴と役割を尊重します。その上で、ゼミが活発になる自発的な行動を支持します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用した報告を課します。

【その他の重要事項】

大学での勉強で大切なのは、課題を与えられてそれを処理するのではなく、自らテーマを見つけてそれを解明していくことです。何事にも主体的に取り組む姿勢を求めます。

社会人との交流の場を年に 10 数回設けています。一つには、小泉産業、コクヨ、イトーキ、アシックス、三菱 UFJ 信託銀行、上新電機、ビックカメラなどの労働組合役員と若手組合員が出席し、「動くってどういうことだろう」、「キャリア形成というけれど本当は何？」、「会社の選び方は？」といったテーマでグループ討論を行うものがあります。

また、立正大学攻野ゼミとの討論会や工場見学等の課外活動も予定しています。

さらに、NPO 人材育成ネットワーク推進機構が主催する学生支援セミナーへの任意の参加を求めています。学生支援セミナーは、毎月産業別に労働組合の方々に集まっていただき開催されているものです。医薬品産業・自動車産業・流通業・金融業・電機産業などの企業が参加します。現場をよく知る労働組合の方々に現実を伝えていただき、社会に出たときに迷わないための準備をしてもらうのが目的です。

上記のようにゼミでは複数の活動を伴います。アルバイトなど私的な都合よりも学業を優先することが必要になります。これは、学生として当然のことですが、あえて付け加えておきたいと思えます。

関連科目：人的資源管理Ⅰ、人的資源管理Ⅱ、組織行動論Ⅰ、組織行動論Ⅱ

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野と主要業績】

<専門領域>人材育成論、労使関係論

<研究テーマ>産学連携による若年層の育成、管理職の育成、高齢者雇用、労働組合の役割再構築

<主要研究業績>

- ①『新しい人事労務管理 [第 6 版]』(佐藤、八代と共著)2019 年 10 月、有斐閣
- ②『福岡県 70 歳現役応援センター』の設立にかかわって『エルダー』2019 年 9 月号
- ③『優秀な人材は内部養成している企業に集まる』『産業訓練』2019 年 1 月号
- ④『大学教育と就職活動の関係を考える』『人事実務』2018 年 12 月号、
- ⑤『企業の競争力を高める外国人材の活用を』『商工ジャーナル』2018 年 12 月号
- ⑥『考える集団の醸成が競争力を高める』『中央労働時報』2018 年 9 月、pp.14-18.
- ⑦『高度外国人材は企業の競争力を高める』『東京社会保険労務士会会報』2016 年 7 月
- ⑧『“The challenge of keeping Japanese older people economically active” Australian Journal of Social Issues, Vol. 51 No. 2, 2016, pp.167-185.
- ⑨『グローバル化と日本企業の課題～広い視野を持った経営者をどう育てるか～』『Work & Life 世界の労働』(日本 ILO 協議会)2015 年 3 月、pp.2-10.
- ⑩『70 歳現役をめぐって』『エルダー』2015 年 1 月号、pp.7-11.

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students to understand characteristics of human resource management in Japanese firms. It is said that seniority-based wage system, lifetime employment and enterprise union are three main characteristics of Japanese HRM. However, when we carefully investigate statistics and practices of HRM in other countries, we can observe many similarities of HRM. We have to know real situations of HRM in Japanese companies.

At the end of this seminar, students are expected to know the real pictures of HRM in Japanese companies.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than three hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process; contribution to discussions in every class 60%, participation and contribution to activities outside classroom 30%, final report of the class 10%.

MAN300FA

演習 4

藤村 博之

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトの側面から企業経営を考えることがこのゼミの目的ですが、その問題だけにとどまらず、広く日本社会のあり方についても議論したいと思えます。それは、企業が社会という大きな枠組みの中で活動しているからです。企業経営の本当の姿を知るには、社会に対する理解が不可欠です。私たちが暮らしている日本という社会の姿を考えながら、企業の人事管理を見ていきたいと思えます。

その際、国際比較という視点も大事にします。日本社会の本当の姿を知るには、他の国との比較が有効だと考えられます。日本独自の問題だと思われていることが、案外、どの国にも共通して発生していたり、日本は遅れていると言われていることが実は他の国でも同じような実態であったりするからです。企業のヒトの問題を通して、日本社会についての理解を深めてほしいと思えます。

【到達目標】

日本社会のあり方、日本企業のあり方、そして学生一人一人の職業人としての生き方を考えられるようになることが到達目標です。そのために、①情報を収集し、整理して、再構成する力、②自分の主張を文章で表現する力、③自分の意見を発表し議論する力の 3 つを身につけることが必要です。できるだけ客観的な情報を収集し、事実を理解した上で、これからのあり方を自分の頭で考えられるようになってほしいと思えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

インターゼミナール大会に出席するための論文作成を中心として、ゼミを運営します。春学期は、議論に必要な共通の基盤を作るために、人事管理関係の教科書を指定して輪読します。夏休みから秋学期の初めにかけては、インターゼミ大会参加論文執筆のための共同作業になります。秋学期のゼミは、時事問題の議論や社会人として必要な知識を身につけるための勉強をします。2、3 年生には進級論文の提出を求めます。この授業は、ハイフレックス授業形式で行います。対面授業をオンラインでもリアルタイムで配信します。皆さんの都合に合わせて、教室での対面授業か、自宅等でのオンライン授業かを選択してください。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本企業のヒトの問題	日本企業が抱えるヒトの問題を整理する
第 2 回	メンバーシップ型雇用とジョブ型雇用の違い	日本企業においてどのような雇用制度が適切かを考える
第 3 回	賃金制度 (1)	成果業績に基づいた賃金制度の問題点を理解する
第 4 回	賃金制度 (2)	望ましい賃金制度を考える
第 5 回	裁量労働制	裁量労働制に向いている仕事と向いていない仕事を理解する
第 6 回	みなし労働時間制	労働時間管理のあり方を理解する
第 7 回	絶対評価と相対評価 (1)	評価における絶対評価と相対評価の関係を理解する
第 8 回	絶対評価と相対評価 (2)	評価者が信頼されるようになるには何が必要かを考える
第 9 回	障害者雇用 (1)	法定雇用率とそれを国が求める理由を理解する
第 10 回	障害者雇用 (2)	障害者が普通に働ける社会になるには何が必要かを考える
第 11 回	グローバル人材 (1)	グローバル人材とはどのような要素を持っているのかを整理する
第 12 回	グローバル人材 (2)	グローバル人材になるには何が必要かを考える
第 13 回	工場見学	東京近郊の工場見学を行う
第 14 回	他大学との討論会	立正大学戎野ゼミと討論会を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、討論の題材となる文献が決まっています。それを読み込んでおくことが大切な事前学習です。単に読むだけでなく、書かれていることから自分の問題意識を見つけることも重要です。

社会人との交流の場を年に 10 数回設けています。これにできるだけ多く出席することを求めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理【第 6 版】】有斐閣、2019 年

【参考書】

文献については、講義中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミには毎回出席し、合宿や論文作成にも積極的に取り組むことが必要です。インターゼミナール大会参加論文の作成に積極的に参加したか、ゼミ運営にどれだけ貢献したか、進級論文の水準はどの程度かといった点を中心に評価します。

評価は、通常のゼミにおける議論への貢献 60 %、課外活動への参加・貢献 30 %、進級論文 10 %で行います。

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの特徴と役割を尊重します。その上で、ゼミが活発になる自発的な行動を支持します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用した報告を課します。

【その他の重要事項】

大学での勉強で大切なのは、課題を与えられてそれを処理するのではなく、自らテーマを見つけてそれを解明していくことです。何事にも主体的に取り組む姿勢を求めます。

社会人との交流の場を年に 10 数回設けています。一つには、小泉産業、コクヨ、イトーキ、アシックス、三菱 UFJ 信託銀行、上新電機、ビックカメラなどの労働組合役員と若手組合員が出席し、「働くってどういうことだろう」、「キャリア形成というけれど本当は何?」、「会社の選び方は?」といったテーマでグループ討論を行うものがあります。

また、立正大学戎野ゼミとの討論会や工場見学等の課外活動も予定しています。

さらに、NPO 人材育成ネットワーク推進機構が主催する学生支援セミナーへの任意の参加を求めています。学生支援セミナーは、毎月産業界に労働組合の方々を集まっていたり開催されているものです。医薬品産業・自動車産業・流通業・金融業・電機産業などの企業が参加します。現場をよく知る労働組合の方々から現実を伝えていただき、社会に出たときに迷わないための準備をしてもらうのが目的です。

上記のようにゼミでは複数の活動を伴います。アルバイトなど私的な都合よりも学業を優先することが必要になります。これは、学生として当然のことですが、あえて付け加えておきたいと思えます。

関連科目：人的資源管理Ⅰ、人的資源管理Ⅱ、組織行動論Ⅰ、組織行動論Ⅱ

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野と主要業績】

<専門領域>人材育成論、労使関係論

<研究テーマ>産学連携による若年層の育成、管理職の育成、高齢者雇用、労働組合の役割再構築

<主要研究業績>

- ①『新しい人事労務管理【第 6 版】】(佐藤、八代と共著)2019 年 10 月、有斐閣
- ②『福岡県 70 歳現役応援センター』の設立にかかわって』『エルダー』2019 年 9 月号
- ③『優秀な人材は内部養成している企業に集まる』『産業訓練』2019 年 1 月号
- ④『大学教育と就職活動の関係を考える』『人事実務』2018 年 12 月号、
- ⑤『企業の競争力を高める外国人材の活用を』『商工ジャーナル』2018 年 12 月号
- ⑥『考える集団の醸成が競争力を高める』『中央労働時報』2018 年 9 月、pp.14-18.
- ⑦『高度外国人材は企業の競争力を高める』『東京社会保険労務士会会報』2016 年 7 月
- ⑧『The challenge of keeping Japanese older people economically active』Australian Journal of Social Issues, Vol. 51 No. 2, 2016, pp.167-185.
- ⑨『グローバル化と日本企業の課題—広い視野を持った経営者をどう育てるか—』『Work & Life 世界の労働』(日本 ILO 協議会)2015 年 3 月、pp.2-10.
- ⑩『70 歳現役をめぐって』『エルダー』2015 年 1 月号、pp.7-11.

【Outline (in English)】

The aim of the seminar is to help students to understand characteristics of human resource management in Japanese firms. It is said that seniority-based wage system, lifetime employment and enterprise union are three main characteristics of Japanese HRM. However, when we carefully investigate statistics and practices of HRM in other countries, we can observe many similarities of HRM. At the end of this seminar, students are expected to know the real pictures of HRM in Japanese companies.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than three hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process; contribution to discussions in every class 60%, participation and contribution to activities outside classroom 30%, final report of the class 10%.

MAN400FA

演習 5

藤村 博之

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトの側面から企業経営を考えることがこのゼミの目的ですが、その問題だけにとどまらず、広く日本社会のあり方についても議論したいと思えます。それは、企業が社会という大きな枠組みの中で活動しているからです。企業経営の本当の姿を知るには、社会に対する理解が不可欠です。私たちが暮らしている日本という社会の姿を考えながら、企業の人事管理を見ていきたいと思えます。

その際、国際比較という視点も大事にします。日本社会の本当の姿を知るには、他の国との比較が有効だと考えられます。日本独自の問題だと思われていることが、案外、どの国にも共通して発生していたり、日本は遅れていると言われることが実は他の国でも同じような実態であったりするからです。企業のヒトの問題を通して、日本社会についての理解を深めてほしいと思えます。

【到達目標】

日本社会のあり方、日本企業のあり方、そして学生一人一人の職業人としての生き方を考えられるようになることが到達目標です。そのために、①情報を収集し、整理して、再構成する力、②自分の主張を文章で表現する力、③自分の意見を発表し議論する力の 3 つを身につけることが必要です。できるだけ客観的な情報を収集し、事実を理解した上で、これからのあり方を自分の頭で考えられるようになってほしいと思えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

インターゼミナール大会に出席するための論文作成を中心として、ゼミを運営します。春学期は、議論に必要な共通の基盤を作るために、人事管理関係の教科書を指定して輪読します。夏休みから秋学期の初めにかけては、インターゼミ大会参加論文執筆のための共同作業になります。秋学期のゼミは、時事問題の議論や社会人として必要な知識を身につけるための勉強をします。2、3 年生には進級論文の提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本企業のヒトの問題	経営資源の一つであるヒトの特徴について学びます。
第 2 回	雇用管理	採用、配置、雇用調整、退職管理
第 3 回	能力開発	OJT と Off-JT の組合せ方
第 4 回	人事制度	従業員が組織の目標達成に向かって力を結集する仕組みの理解
第 5 回	評価制度	評価と目標管理の関係について
第 6 回	報酬管理	賃金制度の組み方
第 7 回	労働時間管理	長時間労働の現状とその解決策
第 8 回	非典型雇用	有期雇用社員の現状と課題
第 9 回	高齢者雇用	日本社会の高齢化と雇用問題
第 10 回	女性労働	女性が出産・育児を経ても働き続けられるようにするにはどうすればいいか
第 11 回	外国人労働者	日本の少子化と人口減少の中で、外国人労働者をどう受け入れていくのか
第 12 回	福利厚生	法定福利と法定外福利の関係
第 13 回	労使関係	労使コミュニケーションの現状と課題
第 14 回	他大学との討論会	立正大学攻野ゼミと討論会を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、討論の題材となる文献が決まっています。それを読み込んでおくことが大切な事前学習です。単に読むだけでなく、書かれていることから自分の問題意識を見つけることも重要です。

社会人との交流の場を年に 10 数回設けています。これにできるだけ多く出席することを求めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤村博之編『考える力を高めるキャリアデザイン入門』有斐閣、2021 年
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理 [第 6 版]』有斐閣、2019 年

【参考書】

文献については、講義中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミには毎回出席し、合宿や論文作成にも積極的に取り組むことが必要です。インターゼミナール大会参加論文の作成に積極的に参加したか、ゼミ運営にどれだけ貢献したか、進級論文の水準はどの程度かといった点を中心に評価します。

評価は、通常のゼミにおける議論への貢献 60 %、課外活動への参加・貢献 30 %、進級論文 10 %で行います。

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの特徴と役割を尊重します。その上で、ゼミが活発になる自発的な行動を支持します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用した報告を課します。

【その他の重要事項】

大学での勉強で大切なのは、課題を与えられてそれを処理するのではなく、自らテーマを見つけてそれを解明していくことです。何事にも主体的に取り組む姿勢を求めます。

社会人との交流の場を年に 10 数回設けています。一つには、小泉産業、コクヨ、イトーキ、アシックス、三菱 UFJ 信託銀行、上新電機、ビックカメラなどの労働組合役員と若手組合員が出席し、「働くってどういうことだろう」、「キャリア形成というけれど本当は何？」、「会社の選び方は？」といったテーマでグループ討論を行うものがあります。

また、立正大学攻野ゼミとの討論会や工場見学等の課外活動も予定しています。

さらに、NPO 人材育成ネットワーク推進機構が主催する学生支援セミナーへの任意の参加を求めています。学生支援セミナーは、毎月産業別に労働組合の方々に集まっていただき開催されているものです。医薬品産業・自動車産業・流通業・金融業・電機産業などの企業が参加します。現場をよく知る労働組合の方々に現実を伝えていただき、社会に出たときに迷わないための準備をしてもらうのが目的です。

上記のようにゼミでは複数の活動を伴います。アルバイトなど私的な都合よりも学業を優先することが必要になります。これは、学生として当然のことですが、あえて付け加えておきたいと思えます。

関連科目：人的資源管理Ⅰ、人的資源管理Ⅱ、組織行動論Ⅰ、組織行動論Ⅱ

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野と主要業績】

<専門領域>人材育成論、労使関係論

<研究テーマ>産学連携による若年層の育成、管理職の育成、高齢者雇用、労働組合の役割再構築

<主要研究業績>

- ①『新しい人事労務管理 [第 6 版]』(佐藤、八代と共著)2019 年 10 月、有斐閣
- ②『福岡県 70 歳現役応援センター』の設立にかかわって『エルダー』2019 年 9 月号
- ③『優秀な人材は内部養成している企業に集まる』『産業訓練』2019 年 1 月号
- ④『大学教育と就職活動の関係を考える』『人事実務』2018 年 12 月号、
- ⑤『企業の競争力を高める外国人材の活用を』『商工ジャーナル』2018 年 12 月号
- ⑥『考える集団の醸成が競争力を高める』『中央労働時報』2018 年 9 月、pp.14-18.
- ⑦『高度外国人材は企業の競争力を高める』『東京社会保険労務士会会報』2016 年 7 月
- ⑧『“The challenge of keeping Japanese older people economically active” Australian Journal of Social Issues, Vol. 51 No. 2, 2016, pp.167-185.
- ⑨『グローバル化と日本企業の課題～広い視野を持った経営者をどう育てるか～』『Work & Life 世界の労働』(日本 ILO 協議会)2015 年 3 月、pp.2-10.
- ⑩『70 歳現役をめぐって』『エルダー』2015 年 1 月号、pp.7-11.

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students to understand characteristics of human resource management in Japanese firms. It is said that seniority-based wage system, lifetime employment and enterprise union are three main characteristics of Japanese HRM. However, when we carefully investigate statistics and practices of HRM in other countries, we can observe many similarities of HRM. We have to know real situations of HRM in Japanese companies.

At the end of this seminar, students are expected to know the real pictures of HRM in Japanese companies.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than three hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process; contribution to discussions in every class 60%, participation and contribution to activities outside classroom 30%, final report of the class 10%.

MAN400FA

演習 6

藤村 博之

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトの側面から企業経営を考えることがこのゼミの目的ですが、その問題だけにとどまらず、広く日本社会のあり方についても議論したいと思えます。それは、企業が社会という大きな枠組みの中で活動しているからです。企業経営の本当の姿を知るには、社会に対する理解が不可欠です。私たちが暮らしている日本という社会の姿を考えながら、企業の人事管理を見ていきたいと思えます。

その際、国際比較という視点も大事にします。日本社会の本当の姿を知るには、他の国との比較が有効だと考えられます。日本独自の問題だと思われていることが、案外、どの国にも共通して発生していたり、日本は遅れていると言われていることが実は他の国でも同じような実態であったりするからです。企業のヒトの問題を通して、日本社会についての理解を深めてほしいと思えます。

【到達目標】

日本社会のあり方、日本企業のあり方、そして学生一人一人の職業人としての生き方を考えられるようになることが到達目標です。そのために、①情報を収集し、整理して、再構成する力、②自分の主張を文章で表現する力、③自分の意見を発表し議論する力の 3 つを身につけることが必要です。できるだけ客観的な情報を収集し、事実を理解した上で、これからのあり方を自分の頭で考えられるようになってほしいと思えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

インターゼミナール大会に出席するための論文作成を中心として、ゼミを運営します。春学期は、議論に必要な共通の基盤を作るために、人事管理関係の教科書を指定して輪読します。夏休みから秋学期の初めにかけては、インターゼミ大会参加論文執筆のための共同作業になります。秋学期のゼミは、時事問題の議論や社会人として必要な知識を身につけるための勉強をします。2、3 年生には進級論文の提出を求めます。この授業は、ハイフレックス授業形式で行います。対面授業をオンラインでもリアルタイムで配信します。皆さんの都合に合わせて、教室での対面授業か、自宅等でのオンライン授業かを選択してください。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本企業のヒトの問題	日本企業が抱えるヒトの問題を整理する
第 2 回	メンバーシップ型雇用とジョブ型雇用の違い	日本企業においてどのような雇用制度が適切かを考える
第 3 回	賃金制度 (1)	成果業績に基づいた賃金制度の問題点を理解する
第 4 回	賃金制度 (2)	望ましい賃金制度を考える
第 5 回	裁量労働制	裁量労働制に向いている仕事と向いていない仕事を理解する
第 6 回	みなし労働時間制	労働時間管理のあり方を理解する
第 7 回	絶対評価と相対評価 (1)	評価における絶対評価と相対評価の関係を理解する
第 8 回	絶対評価と相対評価 (2)	評価者が信頼されるようになるには何が必要かを考える
第 9 回	障害者雇用 (1)	法定雇用率とそれを国が求める理由を理解する
第 10 回	障害者雇用 (2)	障害者が普通に働ける社会になるには何が必要かを考える
第 11 回	グローバル人材 (1)	グローバル人材とはどのような要素を持っているのかを整理する
第 12 回	グローバル人材 (2)	グローバル人材になるには何が必要かを考える
第 13 回	工場見学	東京近郊の工場見学を行う
第 14 回	他大学との討論会	立正大学戎野ゼミと討論会を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、討論の題材となる文献が決まっています。それを読み込んでおくことが大切な事前学習です。単に読むだけでなく、書かれていることから自分の問題意識を見つけることも重要です。

社会人との交流の場を年に 10 数回設けています。これにできるだけ多く出席することを求めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理【第 6 版】】有斐閣、2019 年

【参考書】

文献については、講義中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミには毎回出席し、合宿や論文作成にも積極的に取り組むことが必要です。インターゼミナール大会参加論文の作成に積極的に参加したか、ゼミ運営にどれだけ貢献したか、進級論文の水準はどの程度かといった点を中心に評価します。

評価は、通常のゼミにおける議論への貢献 60 %、課外活動への参加・貢献 30 %、進級論文 10 %で行います。

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの特徴と役割を尊重します。その上で、ゼミが活発になる自発的な行動を支持します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用した報告を課します。

【その他の重要事項】

大学での勉強で大切なのは、課題を与えられてそれを処理するのではなく、自らテーマを見つけてそれを解明していくことです。何事にも主体的に取り組む姿勢を求めます。

社会人との交流の場を年に 10 数回設けています。一つには、小泉産業、コクヨ、イトーキ、アシックス、三菱 UFJ 信託銀行、上新電機、ビックカメラなどの労働組合役員と若手組合員が出席し、「働くってどういうことだろう」、「キャリア形成というけれど本当は何?」、「会社の選び方は?」といったテーマでグループ討論を行うものがあります。

また、立正大学戎野ゼミとの討論会や工場見学等の課外活動も予定しています。

さらに、NPO 人材育成ネットワーク推進機構が主催する学生支援セミナーへの任意の参加を求めています。学生支援セミナーは、毎月産業界に労働組合の方々を集まっていたり開催されているものです。医薬品産業・自動車産業・流通業・金融業・電機産業などの企業が参加します。現場をよく知る労働組合の方々から現実を伝えていただき、社会に出たときに迷わないための準備をしてもらうのが目的です。

上記のようにゼミでは複数の活動を伴います。アルバイトなど私的な都合よりも学業を優先することが必要になります。これは、学生として当然のことですが、あえて付け加えておきたいと思えます。

関連科目：人的資源管理Ⅰ、人的資源管理Ⅱ、組織行動論Ⅰ、組織行動論Ⅱ

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野と主要業績】

<専門領域>人材育成論、労使関係論

<研究テーマ>産学連携による若年層の育成、管理職の育成、高齢者雇用、労働組合の役割再構築

<主要研究業績>

- ①『新しい人事労務管理【第 6 版】】(佐藤、八代と共著)2019 年 10 月、有斐閣
- ②『福岡県 70 歳現役応援センター』の設立にかかわって』『エルダー』2019 年 9 月号
- ③『優秀な人材は内部養成している企業に集まる』『産業訓練』2019 年 1 月号
- ④『大学教育と就職活動の関係を考える』『人事実務』2018 年 12 月号
- ⑤『企業の競争力を高める外国人材の活用を』『商工ジャーナル』2018 年 12 月号
- ⑥『考える集団の醸成が競争力を高める』『中央労働時報』2018 年 9 月、pp.14-18.
- ⑦『高度外国人材は企業の競争力を高める』『東京社会保険労務士会会報』2016 年 7 月
- ⑧『The challenge of keeping Japanese older people economically active』Australian Journal of Social Issues, Vol. 51 No. 2, 2016, pp.167-185.
- ⑨『グローバル化と日本企業の課題—広い視野を持った経営者をどう育てるか—』『Work & Life 世界の労働』(日本 ILO 協議会)2015 年 3 月、pp.2-10.
- ⑩『70 歳現役をめぐって』『エルダー』2015 年 1 月号、pp.7-11.

【Outline (in English)】

The aim of the seminar is to help students to understand characteristics of human resource management in Japanese firms. It is said that seniority-based wage system, lifetime employment and enterprise union are three main characteristics of Japanese HRM. However, when we carefully investigate statistics and practices of HRM in other countries, we can observe many similarities of HRM. At the end of this seminar, students are expected to know the real pictures of HRM in Japanese companies.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than three hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process; contribution to discussions in every class 60%, participation and contribution to activities outside classroom 30%, final report of the class 10%.

MAN200FA

演習 1

洞口 治夫

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際経営のゼミでは、企業戦略と組織能力に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関する英文テキストのなかの一つないしは二つの章を輪読し、グローバル市場、生産拠点選択のための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てていきます。

【到達目標】

このゼミナールでは英文のテキストを読み、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文法の復習を行い、英文を日本語に訳す力を養成します。このゼミナールでは専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。コーチのもとで毎日の訓練に自発的に取り組むことの重要性は、ゼミ活動においても共通します。スポーツや音楽（楽器演奏）などに打ち込んだ経験がある学生諸君の参加を歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業では、英文のテキストを輪読します。英文テキストの内容について日本語ないし英語で議論して理解を深めます。2 年生と 3 年生は慶應義塾大学とのインターゼミナールでの発表、3 年生はグループでの論文作成、4 年生は東京大学とのインターゼミナールで発表し、卒業論文を作成します。インターゼミでは、他大学の学生と交流することで法政大学で学ぶ意義を知るとともに、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	年間活動計画の確認。慶應義塾大学とのインターゼミについての報告とグループ分け。テキスト翻訳ページの確認。
第 2 回	テキスト音読、発音矯正。	テキストの音読と発音チェック。テキストの例文作成。
第 3 回	テキスト輪読。OB 会の企画立案。	テキストの英語理解。テキスト内の重要例文抽出。
第 4 回	夏合宿の企画立案。	春合宿の総括と夏合宿の企画。英語プレゼンテーションの練習。
第 5 回	中小企業研究の動向。	インターゼミ準備、研究構想報告。日本語プレゼンテーションの英語化。
第 6 回	国際経営論入門。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第 7 回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。英文からの質問作成。その回答作成。
第 8 回	夏合宿の企画立案。3 年生インターゼミの準備作業。	夏合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第 9 回	リスニングとテキスト輪読。	テキストの英語理解。テキストからの質問作成。その回答作成。
第 10 回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキスト英語理解。ディスカッションの決まり文句学習。
第 11 回	テキスト関連企業の調査。	テキストの英語理解。テキスト批判入門。
第 12 回	インターゼミの準備プレゼン。	三年生の研究プレゼンテーション。
第 13 回	英語の発音矯正とリスニング。	三年生の研究プレゼンテーション。テキストの英語理解復習。
第 14 回	グループ研究の中間報告、「試験・まとめと解説」	インターゼミ準備報告。四年生の研究中間報告。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

合宿やインターゼミなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。2023 年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況をみて決定します。三年生は TOEFL ないし TOEIC の受験結果を提出します。本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とします。新ゼミ生歓迎会や OB・OG 会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。

【テキスト（教科書）】

Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).

この本のなかから、2023 年度は、Chapter 18. Global Production and Supply Chains を読む予定です。学生諸君の関心と進捗に応じてその他の章を読み進めます。

【参考書】

①川崎芳人・久保田廣美、他著『総合英語エバグリーン Evergreen』いいぞ書店、初版、第 7 刷。

<英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。>

②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメントゼミナール編 - 白桃書房、2008 年。<ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが取られています。>

③洞口治夫 (2018) 『MBA のナレッジ・マネジメント - 集合知創造の現場としての社会人大学院 -』文真堂。<大学院進学希望者のためのテキストです。>

【成績評価の方法と基準】

授業の参加 (28%)

慶応とのインターゼミへの参加 (12%)

合宿やフィールドワークなどへの参加 (12%)

ゼミ活動への積極的参加 (8%)

期末試験 (40%) (2 年次・進級レポート作成中間報告)、(3 年次・グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告)、(4 年次・卒業論文中間報告)

【学生の意見等からの気づき】

「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ学生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。ネイティブに近い発音をするコソは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感が高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

【学生が準備すべき機器他】

音声発音つき電子辞書ないしスマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、スマホないしパソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はラインで情報交換をしています。

【その他の重要事項】

①ゼミの学生諸君には「国際経営論 I/II」の履修を強く勧めます。

②ゼミからは過去 20 名の法政大学派遣留学生を輩出しており、2 年に 1 名以上の比率になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者が OB・OG となっています。

③ SA プログラム経験者、私費留学経験者も多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。

④ TOEFL や TOEIC などの英語の基準に到達したら、GBP 科目の International Business を履修しましょう。

⑤ 商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学年がいました。2019 年度は金融部門の準賞を獲得した学生がいました。

⑥ 洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on the corporate strategy and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and in English.

By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized multinational corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.

[Learning Objectives]

In this seminar, students will read English texts and develop the ability to discuss in English using technical terms of international management. Students will practice basic English pronunciation, review English grammar, and develop the ability to translate English into Japanese. The goal of this seminar is for students to be able to enjoy listening to and speaking English that includes technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills, English presentation techniques, logical thinking skills, Japanese writing skills, and communication skills. The importance of voluntarily engaging in daily training under a coach is also common in seminar activities. Students who have been involved in sports or music (playing musical instruments) are welcome to participate.

[Learning activities outside of classroom]

Students are required to participate in activities outside of class hours, such as spring and summer camps and inter-seminars. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. Overseas, we have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam.

We will make a decision about the 2022 school year based on the status of the spread of the coronavirus. Third-year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. Third-year students will be required to submit the results of their TOEFL or TOEIC examinations. The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk to and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment.

[Grading Criteria/Policy]

Class participation (28%)

Participation in inter-seminars with Keio (12%)

Participation in training camps, etc. (12%)

Active participation in seminar activities (8%)

Final exam (40%):2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and the conceptual report on the graduation thesis. 4th year, mid-term report on the graduation thesis.

MAN200FA

演習 2

洞口 治夫

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際経営のゼミでは、企業戦略と組織能力に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関するトピックスのなかから、サプライチェーン・マネジメント（SCM）に関する英文テキストを輪読し、会社の広報活動とグローバル市場、生産拠点選択のための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てていきます。

【到達目標】

ゼミナールでは英文のテキストを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語でプレゼンテーションを行い、討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文を日本語に訳す力の養成、英文法の復習を行うとともに、専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。他大学とのインターゼミと卒業論文の作成を通じて論理的思考力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

英文テキストの内容について日本語ないし英語で議論して理解を深めます。2 年生は進級レポート、3 年生はグループでの論文作成、4 年生は卒業論文の提出が必要です。活動の成果を慶應義塾大学、東京大学とのインターゼミナールで発表し、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	東大インターゼミの研究計画。教科書進捗の確認。テキストの復習。
第 2 回	国際経営研究の方法。	フィールド調査、アンケート調査、データ分析。
第 3 回	テキスト輪読。OB 会の企画立案。	テキストの英語理解。
第 4 回	東大インターゼミの企画立案。	研究計画とデータ収集。
第 5 回	テキスト学習と英文和訳。	テキストの英語理解とそれを題材とした会話。
第 6 回	国際経営論の学問体系。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第 7 回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。
第 8 回	春合宿の企画立案。	合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第 9 回	リスニングとテキスト輪読。	テキストの英語理解。東大インターゼミの発表練習。
第 10 回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキストの英語理解。
第 11 回	テキスト関連企業の調査。	テキストの英語理解と事例紹介。
第 12 回	インターゼミの準備プレゼン。	四年生の研究プレゼンテーション。
第 13 回	英語プレゼンテーション	二年生、三年生の研究報告プレゼンテーション。
第 14 回	授業内期末試験。テキストの総括。	進級論文、卒業論文の提出。テキストの復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

合宿やインターゼミナーなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。2023 年度はコロナウイルス感染拡大の状況をみて決定します。新ゼミ生歓迎会や OB・OG 会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。三年生は TOEFL ないし TOEIC の受験結果を提出します。本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) *International Business: Environments and Operations*, Pearson, 16th edition.(Global Edition).

この本のなかから、2023 年度は、Chapter 18. Global Production and Supply Chains を読む予定です。学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。

【参考書】

- ①石黒昭博監修『総合英語 Forest』桐原書店、第 7 版。
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
- ②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメントゼミナール編－』白桃書房、2008 年。＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが収められています。＞
- ③洞口治夫 (2018) 『MBA のナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文真堂。＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞

【成績評価の方法と基準】

授業の参加 (28 %)

東大とのインターゼミへの参加 (12 %)

合宿などへの参加 (12 %)

ゼミ活動への貢献的参加 (8 %)

期末試験 (40 %) (進級レポート作成中間報告 (2 年次)、グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告 (3 年次)、卒業論文中間報告 (4 年次))

【学生の意見等からの気づき】

「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。発音のコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感が高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

【学生が準備すべき機器他】

音声発音つき電子辞書ないしスマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、パソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はラインで情報交換をしています。

【その他の重要事項】

- ①ゼミの学生諸君には専門科目である「国際経営論 I/II」の履修を強く勧めます。
- ②ゼミからは過去 20 名の法政大学派遣留学生を輩出しており、2 年に 1 名以上の比率になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者が OB・OG となっています。この成果は偶然ではないでしょう。
- ③ SA プログラム経験者、私費留学経験者も多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
- ④英語の基準点に到達したら、GBP 科目の International Business を履修しましょう。
- ⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学生がいました。2019 年度は金融部門の準賞を獲得した学生がいました。
- ⑥洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on the corporate strategy and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and English. By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized multinational corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.

【Learning Objectives】

In this seminar, students will read English textbooks, make presentations in English using technical terms of international management, and develop the ability to discuss them. Students will practice basic English pronunciation and develop the ability to translate English into Japanese. The goal is to review English grammar and to be able to enjoy listening and speaking English with technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills, English presentation techniques, logical thinking skills, Japanese writing skills, and communication skills. Students will enhance their logical thinking skills through inter-seminars with other universities and the writing of graduation theses.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We will also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment. Students are required to participate in inter-seminars and other activities outside of class hours. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. We have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam. We will make a decision about the 2022 school year based on the status of the spread of the coronavirus. Third year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. Third year students will be required to submit the results of their TOEFL or TOEIC examinations.

[Grading Criteria /Policy]

Class participation (28%)

Participation in inter-seminars with Todai (12%)

Participation in training camps, etc. (12%)

Active participation in seminar activities (8%)

Final exam (40%):2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and the conceptual report on the graduation thesis. 4th year, mid-term report on the graduation thesis.

MAN300FA

演習 3

洞口 治夫

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際経営のゼミでは、企業戦略と組織能力に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関する英文テキストのなかの一つないしは二つの章を輪読し、グローバル市場、生産拠点選択のための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てていきます。

【到達目標】

このゼミナールでは英文のテキストを読み、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文法の復習を行い、英文を日本語に訳す力を養成します。このゼミナールでは専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。コーチのもとで毎日の訓練に自発的に取り組むことの重要性は、ゼミ活動においても共通します。スポーツや音楽（楽器演奏）などに打ち込んだ経験がある学生諸君の参加を歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業では、英文のテキストを輪読します。英文テキストの内容について日本語ないし英語で議論して理解を深めます。2 年生と 3 年生は慶應義塾大学とのインターゼミナールでの発表、3 年生はグループでの論文作成、4 年生は東京大学とのインターゼミナールで発表し、卒業論文を作成します。インターゼミでは、他大学の学生と交流することで法政大学で学ぶ意義を知るとともに、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	年間活動計画の確認。慶應義塾大学とのインターゼミについての報告とグループ分け。テキスト翻訳ページの確認。
第 2 回	テキスト音読、発音矯正。	テキストの音読と発音チェック。テキストの例文作成。
第 3 回	テキスト輪読。OB 会の企画立案。	テキストの英語理解。テキスト内の重要例文抽出。
第 4 回	夏合宿の企画立案。	春合宿の総括と夏合宿の企画。英語プレゼンテーションの練習。
第 5 回	中小企業研究の動向。	インターゼミ準備、研究構想報告。日本語プレゼンテーションの英語化。
第 6 回	国際経営論入門。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第 7 回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。英文からの質問作成。その回答作成。
第 8 回	夏合宿の企画立案。3 年生インターゼミの準備作業。	夏合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第 9 回	リスニングとテキスト輪読。	テキストの英語理解。テキストからの質問作成。その回答作成。
第 10 回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキスト英語理解。ディスカッションの決まり文句学習。
第 11 回	テキスト関連企業の調査。	テキストの英語理解。テキスト批判入門。
第 12 回	インターゼミの準備プレゼン。	三年生の研究プレゼンテーション。
第 13 回	英語の発音矯正とリスニング。	三年生の研究プレゼンテーション。テキストの英語理解復習。
第 14 回	グループ研究の中間報告、「試験・まとめと解説」	インターゼミ準備報告。四年生の研究中間報告。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

合宿やインターゼミなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。2023 年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況をみて決定します。三年生は TOEFL ないし TOEIC の受験結果を提出します。本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とします。新ゼミ生歓迎会や OB・OG 会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。

【テキスト（教科書）】

Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).

この本のなかから、2023 年度は、Chapter 18. Global Production and Supply Chains を読む予定です。学生諸君の関心と進捗に応じてその他の章を読み進めます。

【参考書】

①川崎芳人・久保田廣美、他著『総合英語エバグリーン Evergreen』いづな書店、初版、第 7 刷。

<英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。>

②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメントゼミナール編 - 白桃書房、2008 年。<ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが取られています。>

③洞口治夫 (2018) 『MBA のナレッジ・マネジメント - 集合知創造の現場としての社会人大学院 -』文真堂。<大学院進学希望者のためのテキストです。>

【成績評価の方法と基準】

授業の参加 (28%)

慶応とのインターゼミへの参加 (12%)

合宿やフィールドワークなどへの参加 (12%)

ゼミ活動への積極的参加 (8%)

期末試験 (40%) (2 年次・進級レポート作成中間報告)、(3 年次・グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告)、(4 年次・卒業論文中間報告)

【学生の意見等からの気づき】

「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ学生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。ネイティブに近い発音をするコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感が高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

【学生が準備すべき機器他】

音声発音つき電子辞書ないしスマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、スマホないしパソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はラインで情報交換をしています。

【その他の重要事項】

①ゼミの学生諸君には「国際経営論 I/II」の履修を強く勧めます。

②ゼミからは過去 20 名の法政大学派遣留学生を輩出しており、2 年に 1 名以上の比率になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者が OB・OG となっています。

③ SA プログラム経験者、私費留学経験者も多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。

④ TOEFL や TOEIC などの英語の基準に到達したら、GBP 科目の International Business を履修しましょう。

⑤ 商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学年がいました。2019 年度は金融部門の準賞を獲得した学生がいました。

⑥ 洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on the corporate strategy and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and in English.

By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized multinational corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.

[Learning Objectives]

In this seminar, students will read English texts and develop the ability to discuss in English using technical terms of international management. Students will practice basic English pronunciation, review English grammar, and develop the ability to translate English into Japanese. The goal of this seminar is for students to be able to enjoy listening to and speaking English that includes technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills, English presentation techniques, logical thinking skills, Japanese writing skills, and communication skills. The importance of voluntarily engaging in daily training under a coach is also common in seminar activities. Students who have been involved in sports or music (playing musical instruments) are welcome to participate.

[Learning activities outside of classroom]

Students are required to participate in activities outside of class hours, such as spring and summer camps and inter-seminars. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. Overseas, we have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam.

We will make a decision about the 2022 school year based on the status of the spread of the coronavirus. Third-year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. Third-year students will be required to submit the results of their TOEFL or TOEIC examinations. The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk to and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment.

[Grading Criteria/Policy]

Class participation (28%)

Participation in inter-seminars with Keio (12%)

Participation in training camps, etc. (12%)

Active participation in seminar activities (8%)

Final exam (40%):2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and the conceptual report on the graduation thesis. 4th year, mid-term report on the graduation thesis.

MAN300FA

演習 4

洞口 治夫

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際経営のゼミでは、企業戦略と組織能力に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関するトピックスのなかから、サプライチェーン・マネジメント（SCM）に関する英文テキストを輪読し、会社の広報活動とグローバル市場、生産拠点選択のための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てていきます。

【到達目標】

ゼミナールでは英文のテキストを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語でプレゼンテーションを行い、討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文を日本語に訳す力の養成、英文法の復習を行うとともに、専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。他大学とのインターゼミと卒業論文の作成を通じて論理的思考力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

英文テキストの内容について日本語ないし英語で議論して理解を深めます。2 年生は進級レポート、3 年生はグループでの論文作成、4 年生は卒業論文の提出が必要です。活動の成果を慶應義塾大学、東京大学とのインターゼミナールで発表し、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	東大インターゼミの研究計画。教科書進捗の確認。テキストの復習。
第 2 回	国際経営研究の方法。	フィールド調査、アンケート調査、データ分析。
第 3 回	テキスト輪読。OB 会の企画立案。	テキストの英語理解。
第 4 回	東大インターゼミの企画立案。	研究計画とデータ収集。
第 5 回	テキスト学習と英文和訳。	テキストの英語理解とそれを題材とした会話。
第 6 回	国際経営論の学問体系。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第 7 回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。
第 8 回	春合宿の企画立案。	合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第 9 回	リスニングとテキスト輪読。	テキストの英語理解。東大インターゼミの発表練習。
第 10 回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキストの英語理解。
第 11 回	テキスト関連企業の調査。	テキストの英語理解と事例紹介。
第 12 回	インターゼミの準備プレゼン。	四年生の研究プレゼンテーション。
第 13 回	英語プレゼンテーション	二年生、三年生の研究報告プレゼンテーション。
第 14 回	授業内期末試験。テキストの総括。	進級論文、卒業論文の提出。テキストの復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

合宿やインターゼミナーなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。2023 年度はコロナウィルス感染拡大の状況をみて決定します。新ゼミ生歓迎会や OB・OG 会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。三年生は TOEFL ないし TOEIC の受験結果を提出します。本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) *International Business: Environments and Operations*, Pearson, 16th edition.(Global Edition).

この本のなかから、2023 年度は、Chapter 18. Global Production and Supply Chains を読む予定です。学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。

【参考書】

- ①石黒昭博監修『総合英語 Forest』桐原書店、第 7 版。
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
- ②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメントゼミナール編-』白桃書房、2008 年。＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが収められています。＞
- ③洞口治夫 (2018) 『MBA のナレッジ・マネジメント- 集合知創造の現場としての社会人大学院-』文真堂。＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞

【成績評価の方法と基準】

授業の参加 (28 %)

東大とのインターゼミへの参加 (12 %)

合宿などへの参加 (12 %)

ゼミ活動への貢献的参加 (8 %)

期末試験 (40 %) (進級レポート作成中間報告 (2 年次)、グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告 (3 年次)、卒業論文中間報告 (4 年次))

【学生の意見等からの気づき】

「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。発音のコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感が高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

【学生が準備すべき機器他】

音声発音つき電子辞書ないしスマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、パソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はラインで情報交換をしています。

【その他の重要事項】

- ①ゼミの学生諸君には専門科目である「国際経営論 I/II」の履修を強く勧めます。
- ②ゼミからは過去 20 名の法政大学派遣留学生を輩出しており、2 年に 1 名以上の比率になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者が OB・OG となっています。この成果は偶然ではないでしょう。
- ③ SA プログラム経験者、私費留学経験者も多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
- ④英語の基準点に到達したら、GBP 科目の International Business を履修しましょう。
- ⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学年がいました。2019 年度は金融部門の準賞を獲得した学生がいました。
- ⑥洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on the corporate strategy and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and English. By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized multinational corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.

【Learning Objectives】

In this seminar, students will read English textbooks, make presentations in English using technical terms of international management, and develop the ability to discuss them. Students will practice basic English pronunciation and develop the ability to translate English into Japanese. The goal is to review English grammar and to be able to enjoy listening and speaking English with technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills, English presentation techniques, logical thinking skills, Japanese writing skills, and communication skills. Students will enhance their logical thinking skills through inter-seminars with other universities and the writing of graduation theses.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We will also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment. Students are required to participate in inter-seminars and other activities outside of class hours. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. We have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam. We will make a decision about the 2022 school year based on the status of the spread of the coronavirus. Third year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. Third year students will be required to submit the results of their TOEFL or TOEIC examinations.

[Grading Criteria /Policy]

Class participation (28%)

Participation in inter-seminars with Todai (12%)

Participation in training camps, etc. (12%)

Active participation in seminar activities (8%)

Final exam (40%):2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and the conceptual report on the graduation thesis. 4th year, mid-term report on the graduation thesis.

MAN400FA

演習 5

洞口 治夫

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際経営のゼミでは、企業戦略と組織能力に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関する英文テキストのなかの一つないしは二つの章を輪読し、グローバル市場、生産拠点選択のための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てていきます。

【到達目標】

このゼミナールでは英文のテキストを読み、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文法の復習を行い、英文を日本語に訳す力を養成します。このゼミナールでは専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。コーチのもとで毎日の訓練に自発的に取り組むことの重要性は、ゼミ活動においても共通します。スポーツや音楽（楽器演奏）などに打ち込んだ経験がある学生諸君の参加を歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業では、英文のテキストを輪読します。英文テキストの内容について日本語ないし英語で議論して理解を深めます。2 年生と 3 年生は慶應義塾大学とのインターゼミナールでの発表、3 年生はグループでの論文作成、4 年生は東京大学とのインターゼミナールで発表し、卒業論文を作成します。インターゼミでは、他大学の学生と交流することで法政大学で学ぶ意義を知るとともに、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	年間活動計画の確認。慶應義塾大学とのインターゼミについての報告とグループ分け。テキスト翻訳ページの確認。
第 2 回	テキスト音読、発音矯正。	テキストの音読と発音チェック。テキストの例文作成。
第 3 回	テキスト輪読。OB 会の企画立案。	テキストの英語理解。テキスト内の重要例文抽出。
第 4 回	夏合宿の企画立案。	春合宿の総括と夏合宿の企画。英語プレゼンテーションの練習。
第 5 回	中小企業研究の動向。	インターゼミ準備、研究構想報告。日本語プレゼンテーションの英語化。
第 6 回	国際経営論入門。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第 7 回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。英文からの質問作成。その回答作成。
第 8 回	夏合宿の企画立案。3 年生インターゼミの準備作業。	夏合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第 9 回	リスニングとテキスト輪読。	テキストの英語理解。テキストからの質問作成。その回答作成。
第 10 回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキスト英語理解。ディスカッションの決まり文句学習。
第 11 回	テキスト関連企業の調査。	テキストの英語理解。テキスト批判入門。
第 12 回	インターゼミの準備プレゼン。	三年生の研究プレゼンテーション。
第 13 回	英語の発音矯正とリスニング。	三年生の研究プレゼンテーション。テキストの英語理解復習。
第 14 回	グループ研究の中間報告、「試験・まとめと解説」	インターゼミ準備報告。四年生の研究中間報告。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

合宿やインターゼミなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。2023 年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況をみて決定します。三年生は TOEFL ないし TOEIC の受験結果を提出します。本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とします。新ゼミ生歓迎会や OB・OG 会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。

【テキスト（教科書）】

Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).

この本のなかから、2023 年度は、Chapter 18. Global Production and Supply Chains を読む予定です。学生諸君の関心と進捗に応じてその他の章を読み進めます。

【参考書】

①川崎芳人・久保田廣美、他著『総合英語エバグリーン Evergreen』いづな書店、初版、第 7 刷。

<英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。>

②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロップメントゼミナール編 - 白桃書房、2008 年。<ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが取られています。>

③洞口治夫 (2018) 『MBA のナレッジ・マネジメント - 集合知創造の現場としての社会人大学院 -』文真堂。<大学院進学希望者のためのテキストです。>

【成績評価の方法と基準】

授業の参加 (28%)

慶応とのインターゼミへの参加 (12%)

合宿やフィールドワークなどへの参加 (12%)

ゼミ活動への積極的参加 (8%)

期末試験 (40%) (2 年次・進級レポート作成中間報告)、(3 年次・グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告)、(4 年次・卒業論文中間報告)

【学生の意見等からの気づき】

「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ学生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。ネイティブに近い発音をするコソは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感が高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

【学生が準備すべき機器他】

音声発音つき電子辞書ないしスマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、スマホないしパソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はラインで情報交換をしています。

【その他の重要事項】

①ゼミの学生諸君には「国際経営論 I/II」の履修を強く勧めます。

②ゼミからは過去 20 名の法政大学派遣留学生を輩出しており、2 年に 1 名以上の比率になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者が OB・OG となっています。

③ SA プログラム経験者、私費留学経験者も多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。

④ TOEFL や TOEIC などの英語の基準に到達したら、GBP 科目の International Business を履修しましょう。

⑤ 商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学年がいました。2019 年度は金融部門の準賞を獲得した学生がいました。

⑥ 洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on the corporate strategy and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and in English.

By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized multinational corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.

[Learning Objectives]

In this seminar, students will read English texts and develop the ability to discuss in English using technical terms of international management. Students will practice basic English pronunciation, review English grammar, and develop the ability to translate English into Japanese. The goal of this seminar is for students to be able to enjoy listening to and speaking English that includes technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills, English presentation techniques, logical thinking skills, Japanese writing skills, and communication skills. The importance of voluntarily engaging in daily training under a coach is also common in seminar activities. Students who have been involved in sports or music (playing musical instruments) are welcome to participate.

[Learning activities outside of classroom]

Students are required to participate in activities outside of class hours, such as spring and summer camps and inter-seminars. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. Overseas, we have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam.

We will make a decision about the 2022 school year based on the status of the spread of the coronavirus. Third-year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. Third-year students will be required to submit the results of their TOEFL or TOEIC examinations. The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk to and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment.

[Grading Criteria/Policy]

Class participation (28%)

Participation in inter-seminars with Keio (12%)

Participation in training camps, etc. (12%)

Active participation in seminar activities (8%)

Final exam (40%): 2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and the conceptual report on the graduation thesis. 4th year, mid-term report on the graduation thesis.

MAN400FA

演習 6

洞口 治夫

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際経営のゼミでは、企業戦略と組織能力に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関するトピックスのなかから、サプライチェーン・マネジメント（SCM）に関する英文テキストを輪読し、会社の広報活動とグローバル市場、生産拠点選択のための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てていきます。

【到達目標】

ゼミナールでは英文のテキストを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語でプレゼンテーションを行い、討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文を日本語に訳す力の養成、英文法の復習を行うとともに、専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。他大学とのインターゼミと卒業論文の作成を通じて論理的思考力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

英文テキストの内容について日本語ないし英語で議論して理解を深めます。2 年生は進級レポート、3 年生はグループでの論文作成、4 年生は卒業論文の提出が必要です。活動の成果を慶應義塾大学、東京大学とのインターゼミナールで発表し、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	東大インターゼミの研究計画。教科書進捗の確認。テキストの復習。
第 2 回	国際経営研究の方法。	フィールド調査、アンケート調査、データ分析。
第 3 回	テキスト輪読。OB 会の企画立案。	テキストの英語理解。
第 4 回	東大インターゼミの企画立案。	研究計画とデータ収集。
第 5 回	テキスト学習と英文和訳。	テキストの英語理解とそれを題材とした会話。
第 6 回	国際経営論の学問体系。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第 7 回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。
第 8 回	春合宿の企画立案。	合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第 9 回	リスニングとテキスト輪読。	テキストの英語理解。東大インターゼミの発表練習。
第 10 回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキストの英語理解。
第 11 回	テキスト関連企業の調査。	テキストの英語理解と事例紹介。
第 12 回	インターゼミの準備プレゼン。	四年生の研究プレゼンテーション。
第 13 回	英語プレゼンテーション	二年生、三年生の研究報告プレゼンテーション。
第 14 回	授業内期末試験。テキストの総括。	進級論文、卒業論文の提出。テキストの復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

合宿やインターゼミなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。2023 年度はコロナウイルス感染拡大の状況を見て決定します。新ゼミ生歓迎会や OB・OG 会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。三年生は TOEFL ないし TOEIC の受験結果を提出します。本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) *International Business: Environments and Operations*, Pearson, 16th edition.(Global Edition).

この本のなかから、2023 年度は、Chapter 18. Global Production and Supply Chains を読む予定です。学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。

【参考書】

- ①石黒昭博監修『総合英語 Forest』桐原書店、第 7 版。
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
- ②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメントゼミナール編－』白桃書房、2008 年。＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが収められています。＞
- ③洞口治夫 (2018) 『MBA のナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文真堂。＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞

【成績評価の方法と基準】

授業の参加 (28 %)
東大とのインターゼミへの参加 (12 %)
合宿などへの参加 (12 %)
ゼミ活動への貢献的参加 (8 %)
期末試験 (40 %) (進級レポート作成中間報告 (2 年次)、グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告 (3 年次)、卒業論文中間報告 (4 年次))

【学生の意見等からの気づき】

「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。発音のコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感が高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

【学生が準備すべき機器他】

音声発音つき電子辞書ないしスマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、パソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はラインで情報交換をしています。

【その他の重要事項】

- ①ゼミの学生諸君には専門科目である「国際経営論 I/II」の履修を強く勧めます。
- ②ゼミからは過去 20 名の法政大学派遣留学生を輩出しており、2 年に 1 名以上の比率になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者が OB・OG となっています。この成果は偶然ではないでしょう。
- ③ SA プログラム経験者、私費留学経験者も多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
- ④英語の基準点に到達したら、GBP 科目の **International Business** を履修しましょう。
- ⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学年がいました。2019 年度は金融部門の準賞を獲得した学生がいました。
- ⑥洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on the corporate strategy and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and English. By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized multinational corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.

【Learning Objectives】

In this seminar, students will read English textbooks, make presentations in English using technical terms of international management, and develop the ability to discuss them. Students will practice basic English pronunciation and develop the ability to translate English into Japanese. The goal is to review English grammar and to be able to enjoy listening and speaking English with technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills, English presentation techniques, logical thinking skills, Japanese writing skills, and communication skills. Students will enhance their logical thinking skills through inter-seminars with other universities and the writing of graduation theses.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We will also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment. Students are required to participate in inter-seminars and other activities outside of class hours. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. We have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam. We will make a decision about the 2022 school year based on the status of the spread of the coronavirus. Third year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. Third year students will be required to submit the results of their TOEFL or TOEIC examinations.

[Grading Criteria /Policy]

Class participation (28%)

Participation in inter-seminars with Todai (12%)

Participation in training camps, etc. (12%)

Active participation in seminar activities (8%)

Final exam (40%):2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and the conceptual report on the graduation thesis. 4th year, mid-term report on the graduation thesis.

MAN200FA

演習 1

宮澤 信二郎

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ニュース等で触れられる具体的なトピックスについて、経済学の考え方をを用いて検討し、参加者で議論します。履修者が経済学の考え方を身につけ、主に、企業の戦略、組織、財務に関する具体的な問題について、理論的に分析し、発表できるようになることがこの授業の目的です。

【到達目標】

- 1) 人々の直面するさまざまな問題を経済学の分析枠組みで捉えることができる
- 2) 論理的に検討して、その結果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

開講後に参加者の意見や実態を踏まえて変更される可能性があります。現時点では以下の内容を考えています。

- 1) 日本経済新聞の記事について、参加者のうち数名が報告し、参加者全員が議論する。
- 2) 設定した共同研究のテーマに関して、グループ・ワークを行うとともに、数回に分けて、関連する経済理論の学習を行う。
- 3) 夏合宿において春学期に進めた共同研究の成果報告を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の進め方について確認する。
第 2 回	時事トピックス (1) / 経済の仕組み	直近の時事問題について報告・議論する。また、経済の仕組みに関する理解を確認する。
第 3 回	時事トピックス (2) / ミクロ経済学の基礎 (1)	直近の時事問題について報告・議論する。また、ミクロ経済学の基礎について理解を確認する。
第 4 回	時事トピックス (3) / ミクロ経済学の基礎 (2)	直近の時事問題について報告・議論する。また、ミクロ経済学の基礎について理解を確認する。
第 5 回	共同研究のテーマ設定	共同研究のテーマについて、検討・決定する。
第 6 回	時事トピックス (4) / グループ・ワーク (1)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 7 回	時事トピックス (5) / グループ・ワーク (2)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 8 回	時事トピックス (6) / 経済理論の学習 (1)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマに関する経済理論について学ぶ。
第 9 回	時事トピックス (7) / グループ・ワーク (3)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、中間報告の準備を行う。
第 10 回	共同研究の春学期 (中間) 報告	共同研究に関する中間報告を行い、残された課題について検討する。
第 11 回	時事トピックス (8) / グループ・ワーク (4)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 12 回	時事トピックス (9) / グループ・ワーク (5)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 13 回	時事トピックス (10) / 経済理論の学習 (2)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマに関する経済理論について学ぶ。
第 14 回	グループ・ワーク (6) / まとめ	共同研究のテーマについて、グループごとで、成果報告 (夏合宿) の準備を行う。また、春学期のまとめと、夏合宿に向けた準備について話し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 毎日、日本経済新聞を読む
- 2) 分担に従い、共同研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、開講後に指定します。

【参考書】

伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣 (2012 年)
 伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』日本経済新聞出版 (2021 年)
 大垣昌夫・田中紗織『行動経済学 (新版)』有斐閣 (2018 年)
 マンキュー (足立ほか訳)『マンキュー経済学 ミクロ編 (第四版)』東洋経済新報社 (2019 年)

【成績評価の方法と基準】

春学期は平常点 (100 %) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「グループ・ワークやディベートをしたい」という意見が多いです。そういった機会を多めに設定し、理論を学習する時間は、必要に応じて調整するようにしています。また、さまざまな考え方などに触れる必要があることから、定期的にグループの再編成をしたいと考えています。引き続き、学生の意見を参考にしながら修正していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメやスライドを作成する必要がありますので、パソコンが必要です。グループごとで確実に準備するようにしてください。

【その他の重要事項】

- 1) 「ミクロ経済学入門 I/II」を履修済みであることが望ましいです。まだ履修していない方は、同時に受講するようにしてください。
- 2) 日本経済新聞社が実施している公開試験である日経 TEST を受験してもらう予定です。その対策も兼ねて、なるべく毎日、日本経済新聞を読むようにしてください。
- 3) 毎回出席することを前提として授業を進めます。
- 4) 夏合宿を開催する予定です。予定通り開催された場合には、必ず参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

In this class, you will examine various current topics and discuss with each other based on the economic thinking. The topics currently assumed are related to the strategy, organization, and finance of the corporation, but depending on participants' interests, topics in other fields may be subject. The goal of this class is to allow you to learn the skill of economic thinking and the way to apply it on various specific problems. You can also exercise the way of effective presentation based on theoretical analysis.

You are required to do the followings:

- 1) Reading Nihon Keizai Shimbun every day.
 - 2) Promoting joint research in cooperation with colleagues.
- Before/after each class meeting, you will be expected to spend four hours to perform above tasks.
- Your overall grade in the class will be decided based on the in-class contribution (100%).

MAN200FA

演習 2

宮澤 信二郎

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ニュース等で触れられる具体的なトピックスについて、経済学の考え方をを用いて検討し、参加者で議論します。履修者が経済学の考え方を身につけ、主に、企業の戦略、組織、財務に関する具体的な問題について、理論的に分析し、発表できるようになることがこの授業の目的です。

【到達目標】

- 1) 人々の直面するさまざまな問題を経済学の分析枠組みで捉えることができる
- 2) 論理的に検討して、その結果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

開講後に参加者の意見や実態を踏まえて変更される可能性があります。現時点では以下の内容を考えています。

- 1) 日本経済新聞の記事について、参加者のうち数名が報告し、参加者全員が議論する。
- 2) 設定した共同研究のテーマに関して、グループ・ワークを行うとともに、数回に分けて、関連する経済理論の学習を行う。
- 3) 夏合宿において春学期に進めた共同研究の成果報告を行い、秋学期の最後、共同研究の成果報告書を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期のイントロダクション / 春学期の共同研究に関する再検討	春学期（および夏合宿）の内容に関して復習・確認した上で、共同研究に関する再検討を行う。
第 2 回	時事トピックス (1) / グループワーク (1)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 3 回	時事トピックス (2) / グループ・ワーク (2)	前回に引き続いて、直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 4 回	時事トピックス (3) / 経済理論の学習 (1)	前回に引き続いて、直近の時事問題について報告・議論する。加えて、共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。
第 5 回	時事トピックス (4) / グループ・ワーク (3)	前回に引き続いて、直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、中間報告の準備を行う。
第 6 回	共同研究の秋学期（中間）報告 (1)	共同研究に関する中間報告を行い、残された課題について検討する。
第 7 回	共同研究の秋学期（中間）報告 (2)	前回の続きを行う。
第 8 回	時事トピックス (5) / グループ・ワーク (4)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 9 回	時事トピックス (6) / グループ・ワーク (5)	前回に引き続いて、直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 10 回	時事トピックス (7) / 経済理論の学習 (2)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。
第 11 回	時事トピックス (8) / グループ・ワーク (6)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、成果報告書の作成を行う。
第 12 回	時事トピックス (9) / グループ・ワーク (7)	前回に引き続いて、直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、成果報告書の作成を行う。
第 13 回	時事トピックス (10) / 経済理論の学習 (3)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。

第 14 回 グループ・ワーク (8) / 共同研究のテーマについて、グループに分かれて、成果報告書の作成を行う。また、全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 毎日、日本経済新聞を読む
 - 2) 分担に従い、共同研究を進める。
- 本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、開講後に指定します。

【参考書】

伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣（2012 年）
伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』日本経済新聞出版（2021 年）
大垣昌夫・田中沙織『行動経済学（新版）』有斐閣（2018 年）
マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第四版）』東洋経済新報社（2019 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）と最終報告書（30 %）で評価します。平常点はグループ・ワークへの参加度、中間報告の内容などで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「グループ・ワークやディベートをしたい」という意見が多いので、そういった機会を多めに設定し、理論を学習する時間は、必要に応じて調整するようにしています。また、さまざまな考え方などに触れる必要があることから、定期的にグループの再編成をしたいと考えています。引き続き、学生の意見を参考にしながら修正していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメやスライドを作成する必要がありますので、パソコンが必要です。グループごとで確実に準備するようにしてください。

【その他の重要事項】

- 1) 「ミクロ経済学入門 I/II」を履修済みであることが望ましいです。まだ履修していない方は、同時に受講するようにしてください。
- 2) 日本経済新聞社が実施している公開試験である日経 TEST を受験してもらう予定です。その対策も兼ねて、なるべく毎日、日本経済新聞を読むようにしてください。
- 3) 毎回出席することを前提として授業を進めます。
- 4) 夏合宿を開催する予定です。予定通り開催された場合には、必ず参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

In this class, you will examine various current topics and discuss with each other based on the economic thinking. The topics currently assumed are related to the strategy, organization, and finance of the corporation, but depending on participants' interests, topics in other fields may be subject. The goal of this class is to allow you to learn the skill of economic thinking and the way to apply it on various specific problems. You can also exercise the way of effective presentation based on theoretical analysis.

You are required to do the followings:

- 1) Reading Nihon Keizai Shimbun every day.
 - 2) Promoting joint research in cooperation with colleagues.
- Before/after each class meeting, you will be expected to spend four hours to perform above tasks.
- Your overall grade in the class will be decided based on the in-class contribution (70%) and term-end report (30%).

MAN300FA

演習 3

宮澤 信二郎

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ニュース等で触れられる具体的なトピックスについて、経済学の考え方をを用いて検討し、参加者で議論します。履修者が経済学の考え方を身につけ、主に、企業の戦略、組織、財務に関する具体的な問題について、理論的に分析し、発表できるようになることがこの授業の目的です。

【到達目標】

- 1) 人々の直面するさまざまな問題を経済学の分析枠組みで捉えることができる
- 2) 論理的に検討して、その結果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

開講後に参加者の意見や実態を踏まえて変更される可能性があります。現時点では以下の内容を考えています。

- 1) 日本経済新聞の記事について、参加者のうち数名が報告し、参加者全員が議論する。
- 2) 設定した共同研究のテーマに関して、グループ・ワークを行うとともに、数回に分けて、関連する経済理論の学習を行う。
- 3) 夏合宿において春学期に進めた共同研究の成果報告を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の進め方について確認する。
第 2 回	時事トピックス (1) / 経済の仕組み	直近の時事問題について報告・議論する。また、経済の仕組みに関する理解を確認する。
第 3 回	時事トピックス (2) / ミクロ経済学の基礎 (1)	直近の時事問題について報告・議論する。また、ミクロ経済学の基礎について理解を確認する。
第 4 回	時事トピックス (3) / ミクロ経済学の基礎 (2)	直近の時事問題について報告・議論する。また、ミクロ経済学の基礎について理解を確認する。
第 5 回	共同研究のテーマ設定	共同研究のテーマについて、検討・決定する。
第 6 回	時事トピックス (4) / グループ・ワーク (1)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 7 回	時事トピックス (5) / グループ・ワーク (2)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 8 回	時事トピックス (6) / 経済理論の学習 (1)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。
第 9 回	時事トピックス (7) / グループ・ワーク (3)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、中間報告の準備を行う。
第 10 回	共同研究の春学期 (中間) 報告	共同研究に関する中間報告を行い、残された課題について検討する。
第 11 回	時事トピックス (8) / グループ・ワーク (4)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 12 回	時事トピックス (9) / グループ・ワーク (5)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 13 回	時事トピックス (10) / 経済理論の学習 (2)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。
第 14 回	グループ・ワーク (6) / まとめ	共同研究のテーマについて、グループごとで、成果報告 (夏合宿) の準備を行う。また、春学期のまとめと、夏合宿に向けた準備について話し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 毎日、日本経済新聞を読む
- 2) 分担に従い、共同研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、開講後に指定します。

【参考書】

伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣 (2012 年)
伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』日本経済新聞出版 (2021 年)
大垣昌夫・田中紗織『行動経済学 (新版)』有斐閣 (2018 年)
マンキュー (足立ほか訳)『マンキュー経済学 ミクロ編 (第四版)』東洋経済新報社 (2019 年)

【成績評価の方法と基準】

春学期は平常点 (100 %) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「グループ・ワークやディベートをしたい」という意見が多いです。そういった機会を多めに設定し、理論を学習する時間は、必要に応じて調整するようにしています。また、さまざまな考え方などに触れる必要があることから、定期的にグループの再編成をしたいと考えています。引き続き、学生の意見を参考にしながら修正していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメやスライドを作成する必要がありますので、パソコンが必要です。グループごとで確実に準備するようにしてください。

【その他の重要事項】

- 1) 「ミクロ経済学入門 I/II」を履修済みであることが望ましいです。まだ履修していない方は、同時に受講するようにしてください。
- 2) 日本経済新聞社が実施している公開試験である日経 TEST を受験してもらう予定です。その対策も兼ねて、なるべく毎日、日本経済新聞を読むようにしてください。
- 3) 毎回出席することを前提として授業を進めます。
- 4) 夏合宿を開催する予定です。予定通り開催された場合には、必ず参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

In this class, you will examine various current topics and discuss with each other based on the economic thinking. The topics currently assumed are related to the strategy, organization, and finance of the corporation, but depending on participants' interests, topics in other fields may be subject. The goal of this class is to allow you to learn the skill of economic thinking and the way to apply it on various specific problems. You can also exercise the way of effective presentation based on theoretical analysis.

You are required to do the followings:

- 1) Reading Nihon Keizai Shimbun every day.
 - 2) Promoting joint research in cooperation with colleagues.
- Before/after each class meeting, you will be expected to spend four hours to perform above tasks.
- Your overall grade in the class will be decided based on the in-class contribution (100%).

MAN300FA

演習 4

宮澤 信二郎

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ニュース等で触れられる具体的なトピックスについて、経済学の考え方をを用いて検討し、参加者で議論します。履修者が経済学の考え方を身につけ、主に、企業の戦略、組織、財務に関する具体的な問題について、理論的に分析し、発表できるようになることがこの授業の目的です。

【到達目標】

- 1) 人々の直面するさまざまな問題を経済学の分析枠組みで捉えることができる
- 2) 論理的に検討して、その結果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

開講後に参加者の意見や実態を踏まえて変更される可能性があります。現時点では以下の内容を考えています。

- 1) 日本経済新聞の記事について、参加者のうち数名が報告し、参加者全員が議論する。
- 2) 設定した共同研究のテーマに関して、グループ・ワークを行うとともに、数回に分けて、関連する経済理論の学習を行う。
- 3) 夏合宿において春学期に進めた共同研究の成果報告を行い、秋学期の最後、共同研究の成果報告書を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期のイントロダクション / 春学期の共同研究に関する再検討	春学期（および夏合宿）の内容に関して復習・確認した上で、共同研究に関する再検討を行う。
第 2 回	時事トピックス (1) / グループワーク (1)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 3 回	時事トピックス (2) / グループ・ワーク (2)	前回に引き続いて、直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 4 回	時事トピックス (3) / 経済理論の学習 (1)	前回に引き続いて、直近の時事問題について報告・議論する。加えて、共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。
第 5 回	時事トピックス (4) / グループ・ワーク (3)	前回に引き続いて、直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、中間報告の準備を行う。
第 6 回	共同研究の秋学期（中間）報告 (1)	共同研究に関する中間報告を行い、残された課題について検討する。
第 7 回	共同研究の秋学期（中間）報告 (2)	前回の続きを行う。
第 8 回	時事トピックス (5) / グループ・ワーク (4)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 9 回	時事トピックス (6) / グループ・ワーク (5)	前回に引き続いて、直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 10 回	時事トピックス (7) / 経済理論の学習 (2)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。
第 11 回	時事トピックス (8) / グループ・ワーク (6)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、成果報告書の作成を行う。
第 12 回	時事トピックス (9) / グループ・ワーク (7)	前回に引き続いて、直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、成果報告書の作成を行う。
第 13 回	時事トピックス (10) / 経済理論の学習 (3)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。

第 14 回 グループ・ワーク (8) / 共同研究のテーマについて、グループに分かれて、成果報告書の作成を行う。また、全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 毎日、日本経済新聞を読む
 - 2) 分担に従い、共同研究を進める。
- 本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、開講後に指定します。

【参考書】

伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣（2012 年）
 伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』日本経済新聞出版（2021 年）
 大垣昌夫・田中沙織『行動経済学（新版）』有斐閣（2018 年）
 マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第四版）』東洋経済新報社（2019 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）と最終報告書（30 %）で評価します。平常点はグループ・ワークへの参加度、中間報告の内容などで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「グループ・ワークやディベートをしたい」という意見が多いので、そういった機会を多めに設定し、理論を学習する時間は、必要に応じて調整するようにしています。また、さまざまな考え方などに触れる必要があることから、定期的にグループの再編成をしたいと考えています。引き続き、学生の意見を参考にしながら修正していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメやスライドを作成する必要がありますので、パソコンが必要です。グループごとで確実に準備するようにしてください。

【その他の重要事項】

- 1) 「ミクロ経済学入門 I/II」を履修済みであることが望ましいです。まだ履修していない方は、同時に受講するようにしてください。
- 2) 日本経済新聞社が実施している公開試験である日経 TEST を受験してもらう予定です。その対策も兼ねて、なるべく毎日、日本経済新聞を読むようにしてください。
- 3) 毎回出席することを前提として授業を進めます。
- 4) 夏合宿を開催する予定です。予定通り開催された場合には、必ず参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

In this class, you will examine various current topics and discuss with each other based on the economic thinking. The topics currently assumed are related to the strategy, organization, and finance of the corporation, but depending on participants' interests, topics in other fields may be subject. The goal of this class is to allow you to learn the skill of economic thinking and the way to apply it on various specific problems. You can also exercise the way of effective presentation based on theoretical analysis.

You are required to do the followings:

- 1) Reading Nihon Keizai Shimbun every day.
 - 2) Promoting joint research in cooperation with colleagues.
- Before/after each class meeting, you will be expected to spend four hours to perform above tasks.
- Your overall grade in the class will be decided based on the in-class contribution (70%) and term-end report (30%).

MAN400FA

演習 5

宮澤 信二郎

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ニュース等で触れられる具体的なトピックスについて、経済学の考え方をを用いて検討し、参加者で議論します。履修者が経済学の考え方を身につけ、主に、企業の戦略、組織、財務に関する具体的な問題について、理論的に分析し、発表できるようになることがこの授業の目的です。

【到達目標】

- 1) 人々の直面するさまざまな問題を経済学の分析枠組みで捉えることができる
- 2) 論理的に検討して、その結果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

開講後に参加者の意見や実態を踏まえて変更される可能性があります。現時点では以下の内容を考えています。

- 1) 日本経済新聞の記事について、参加者のうち数名が報告し、参加者全員が議論する。
- 2) 設定した共同研究のテーマに関して、グループ・ワークを行うとともに、数回に分けて、関連する経済理論の学習を行う。
- 3) 夏合宿において春学期に進めた共同研究の成果報告を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の進め方について確認する。
第 2 回	時事トピックス (1) / 経済の仕組み	直近の時事問題について報告・議論する。また、経済の仕組みに関する理解を確認する。
第 3 回	時事トピックス (2) / ミクロ経済学の基礎 (1)	直近の時事問題について報告・議論する。また、ミクロ経済学の基礎について理解を確認する。
第 4 回	時事トピックス (3) / ミクロ経済学の基礎 (2)	直近の時事問題について報告・議論する。また、ミクロ経済学の基礎について理解を確認する。
第 5 回	共同研究のテーマ設定	共同研究のテーマについて、検討・決定する。
第 6 回	時事トピックス (4) / グループ・ワーク (1)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 7 回	時事トピックス (5) / グループ・ワーク (2)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 8 回	時事トピックス (6) / 経済理論の学習 (1)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。
第 9 回	時事トピックス (7) / グループ・ワーク (3)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、中間報告の準備を行う。
第 10 回	共同研究の春学期 (中間) 報告	共同研究に関する中間報告を行い、残された課題について検討する。
第 11 回	時事トピックス (8) / グループ・ワーク (4)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 12 回	時事トピックス (9) / グループ・ワーク (5)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 13 回	時事トピックス (10) / 経済理論の学習 (2)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。
第 14 回	グループ・ワーク (6) / まとめ	共同研究のテーマについて、グループごとで、成果報告 (夏合宿) の準備を行う。また、春学期のまとめと、夏合宿に向けた準備について話し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 毎日、日本経済新聞を読む
- 2) 分担に従い、共同研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、開講後に指定します。

【参考書】

伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣 (2012 年)
 伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』日本経済新聞出版 (2021 年)
 大垣昌夫・田中紗織『行動経済学 (新版)』有斐閣 (2018 年)
 マンキュー (足立ほか訳)『マンキュー経済学 ミクロ編 (第四版)』東洋経済新報社 (2019 年)

【成績評価の方法と基準】

春学期は平常点 (100 %) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「グループ・ワークやディベートをしたい」という意見が多いです。そういった機会を多めに設定し、理論を学習する時間は、必要に応じて調整するようにしています。また、さまざまな考え方などに触れる必要があることから、定期的にグループの再編成をしたいと考えています。引き続き、学生の意見を参考にしながら修正していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメやスライドを作成する必要がありますので、パソコンが必要です。グループごとで確実に準備するようにしてください。

【その他の重要事項】

- 1) 「ミクロ経済学入門 I/II」を履修済みであることが望ましいです。まだ履修していない方は、同時に受講するようにしてください。
- 2) 日本経済新聞社が実施している公開試験である日経 TEST を受験してもらう予定です。その対策も兼ねて、なるべく毎日、日本経済新聞を読むようにしてください。
- 3) 毎回出席することを前提として授業を進めます。
- 4) 夏合宿を開催する予定です。予定通り開催された場合には、必ず参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

In this class, you will examine various current topics and discuss with each other based on the economic thinking. The topics currently assumed are related to the strategy, organization, and finance of the corporation, but depending on participants' interests, topics in other fields may be subject. The goal of this class is to allow you to learn the skill of economic thinking and the way to apply it on various specific problems. You can also exercise the way of effective presentation based on theoretical analysis.

You are required to do the followings:

- 1) Reading Nihon Keizai Shimbun every day.
 - 2) Promoting joint research in cooperation with colleagues.
- Before/after each class meeting, you will be expected to spend four hours to perform above tasks.
- Your overall grade in the class will be decided based on the in-class contribution (100%).

MAN400FA

演習 6

宮澤 信二郎

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ニュース等で触れられる具体的なトピックスについて、経済学の考え方をを用いて検討し、参加者で議論します。履修者が経済学の考え方を身につけ、主に、企業の戦略、組織、財務に関する具体的な問題について、理論的に分析し、発表できるようになることがこの授業の目的です。

【到達目標】

- 1) 人々の直面するさまざまな問題を経済学の分析枠組みで捉えることができる
- 2) 論理的に検討して、その結果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

開講後に参加者の意見や実態を踏まえて変更される可能性があります。現時点では以下の内容を考えています。

- 1) 日本経済新聞の記事について、参加者のうち数名が報告し、参加者全員が議論する。
- 2) 設定した共同研究のテーマに関して、グループ・ワークを行うとともに、数回に分けて、関連する経済理論の学習を行う。
- 3) 夏合宿において春学期に進めた共同研究の成果報告を行い、秋学期の最後、共同研究の成果報告書を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期のイントロダクション / 春学期の共同研究に関する再検討	春学期（および夏合宿）の内容に関して復習・確認した上で、共同研究に関する再検討を行う。
第 2 回	時事トピックス (1) / グループワーク (1)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 3 回	時事トピックス (2) / グループ・ワーク (2)	前回に引き続いて、直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 4 回	時事トピックス (3) / 経済理論の学習 (1)	前回に引き続いて、直近の時事問題について報告・議論する。加えて、共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。
第 5 回	時事トピックス (4) / グループ・ワーク (3)	前回に引き続いて、直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、中間報告の準備を行う。
第 6 回	共同研究の秋学期（中間）報告 (1)	共同研究に関する中間報告を行い、残された課題について検討する。
第 7 回	共同研究の秋学期（中間）報告 (2)	前回の続きを行う。
第 8 回	時事トピックス (5) / グループ・ワーク (4)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 9 回	時事トピックス (6) / グループ・ワーク (5)	前回に引き続いて、直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 10 回	時事トピックス (7) / 経済理論の学習 (2)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。
第 11 回	時事トピックス (8) / グループ・ワーク (6)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、成果報告書の作成を行う。
第 12 回	時事トピックス (9) / グループ・ワーク (7)	前回に引き続いて、直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、成果報告書の作成を行う。
第 13 回	時事トピックス (10) / 経済理論の学習 (3)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。

第 14 回 グループ・ワーク (8) / 共同研究のテーマについて、グループに分かれて、成果報告書の作成を行う。また、全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 毎日、日本経済新聞を読む
 - 2) 分担に従い、共同研究を進める。
- 本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、開講後に指定します。

【参考書】

伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣（2012 年）
伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』日本経済新聞出版（2021 年）
大垣昌夫・田中沙織『行動経済学（新版）』有斐閣（2018 年）
マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第四版）』東洋経済新報社（2019 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）と最終報告書（30 %）で評価します。平常点はグループ・ワークへの参加度、中間報告の内容などで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「グループ・ワークやディベートをしたい」という意見が多いので、そういった機会を多めに設定し、理論を学習する時間は、必要に応じて調整するようにしています。また、さまざまな考え方などに触れる必要があることから、定期的にグループの再編成をしたいと考えています。引き続き、学生の意見を参考にしながら修正していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメやスライドを作成する必要がありますので、パソコンが必要です。グループごとで確実に準備するようにしてください。

【その他の重要事項】

- 1) 「ミクロ経済学入門 I/II」を履修済みであることが望ましいです。まだ履修していない方は、同時に受講するようにしてください。
- 2) 日本経済新聞社が実施している公開試験である日経 TEST を受験してもらう予定です。その対策も兼ねて、なるべく毎日、日本経済新聞を読むようにしてください。
- 3) 毎回出席することを前提として授業を進めます。
- 4) 夏合宿を開催する予定です。予定通り開催された場合には、必ず参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

In this class, you will examine various current topics and discuss with each other based on the economic thinking. The topics currently assumed are related to the strategy, organization, and finance of the corporation, but depending on participants' interests, topics in other fields may be subject. The goal of this class is to allow you to learn the skill of economic thinking and the way to apply it on various specific problems. You can also exercise the way of effective presentation based on theoretical analysis.

You are required to do the followings:

- 1) Reading Nihon Keizai Shimbun every day.
 - 2) Promoting joint research in cooperation with colleagues.
- Before/after each class meeting, you will be expected to spend four hours to perform above tasks.
- Your overall grade in the class will be decided based on the in-class contribution (70%) and term-end report (30%).

MAN200FA

演習 1

山崎 輝

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は目覚ましく、その広範な研究成果は、経済学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論のなかには難解な部分もありますが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、Microsoft 社の Excel を使用して、ファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）を行います。実際の金融データを取得して活用する方法も学びます。

【到達目標】

以下の 3 つを到達目標に掲げます。

- (1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- (2) 自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
- (3) 表計算ソフトを利用してファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業は教室での対面形式の授業となります。本演習は 3 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3 つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第 1・2 次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスの知識や理解を確固たるものにします。さらには、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析を行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第 2 回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り
第 3 回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第 4 回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第 5 回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第 6 回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第 7 回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とプットブル債
第 8 回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バック証券（MBS）
第 9 回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第 10 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第 11 回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第 12 回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 1
第 13 回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 2
第 14 回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) 伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務編』、2009 年、日本経済新聞出版社
- (2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論編』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- (1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
- (2) 佐野三郎、『2022 年版 パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
- (3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング 第 9 版』、2016 年、金融財政事情研究会
- (4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の研究計画の発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。また、Excel 演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

問題演習や宿題では Excel を使います。発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) using Microsoft Excel for introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN200FA

演習 2

山崎 輝

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は目覚ましく、その広範な研究成果は、経済学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論のなかには難解な部分もありますが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年 1~2 回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルを招いて、実務家講演会を開催します。過去、三菱 UFJ 銀行、みずほ銀行、三菱 UFJ 信託銀行、メリルリンチ日本証券、日本銀行、格付投資情報センター（R&I）、有力ヘッジファンドなどのアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、投資コンサルタントが講演しています。

【到達目標】

以下の 3 つを到達目標に掲げます。

- (1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- (2) 自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
- (3) 実務家などの専門家と金融の様々な話題について対話することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業は教室での対面形式の授業となります。本演習は 3 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを目指します。3 つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第 2 回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第 3 回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第 4 回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第 5 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第 6 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR） EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第 7 回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第 8 回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本原則、アクティブ運用の種類
第 9 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際証券投資の意義
第 10 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際パリティ関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・パリティ
第 11 回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利パリティ、カバーなし金利パリティ、国際パリティ関係の現実
第 12 回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催

第 13 回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 1
第 14 回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) 伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務編』、2009 年、日本経済新聞出版社
- (2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論編』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- (1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
- (2) 佐野三郎、『2022 年版 パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
- (3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング 第 9 版』、2016 年、金融財政事情研究会
- (4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) understanding advanced topics lectured by an invited business person. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN300FA

演習 3

山崎 輝

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は目覚ましく、その広範な研究成果は、経済学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論のなかには難解な部分もありますが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、Microsoft 社の Excel を使用して、ファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）を行います。実際の金融データを取得して活用する方法も学びます。

【到達目標】

以下の 3 つを到達目標に掲げます。

- (1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- (2) 自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
- (3) 表計算ソフトを利用してファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業は教室での対面形式の授業となります。本演習は 3 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3 つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第 1・2 次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスの知識や理解を確固たるものにします。さらには、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析を行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第 2 回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り
第 3 回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第 4 回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第 5 回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第 6 回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第 7 回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とプットブル債
第 8 回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バック証券（MBS）
第 9 回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第 10 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第 11 回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第 12 回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 1
第 13 回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 2
第 14 回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) 伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務編』、2009 年、日本経済新聞出版社
- (2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論編』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- (1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
- (2) 佐野三郎、『2022 年版 パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
- (3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング 第 9 版』、2016 年、金融財政事情研究会
- (4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の研究計画の発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。また、Excel 演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

問題演習や宿題では Excel を使います。発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) using Microsoft Excel for introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN300FA

演習 4

山崎 輝

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は目覚ましく、その広範な研究成果は、経済学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論のなかには難解な部分もありますが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年 1~2 回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルを招いて、実務家講演会を開催します。過去、三菱 UFJ 銀行、みずほ銀行、三菱 UFJ 信託銀行、メリルリンチ日本証券、日本銀行、格付投資情報センター（R&I）、有力ヘッジファンドなどのアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、投資コンサルタントが講演しています。

【到達目標】

以下の 3 つを到達目標に掲げます。

- (1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- (2) 自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
- (3) 実務家などの専門家と金融の様々な話題について対話することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業は教室での対面形式の授業となります。本演習は 3 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心がけます。3 つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第 2 回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第 3 回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第 4 回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第 5 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第 6 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR） EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第 7 回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第 8 回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本原則、アクティブ運用の種類
第 9 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際証券投資の意義
第 10 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際パリティ関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・パリティ
第 11 回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利パリティ、カバーなし金利パリティ、国際パリティ関係の現実
第 12 回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催

第 13 回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 1
第 14 回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) 伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務編』、2009 年、日本経済新聞出版社
- (2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論編』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- (1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
- (2) 佐野三郎、『2022 年版 パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
- (3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング 第 9 版』、2016 年、金融財政事情研究会
- (4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50%）、問題演習・宿題（30%）、平常点（20%）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) understanding advanced topics lectured by an invited business person. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN400FA

演習 5

山崎 輝

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は目覚ましく、その広範な研究成果は、経済学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論のなかには難解な部分もありますが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、Microsoft 社の Excel を使用して、ファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）を行います。実際の金融データを取得して活用する方法も学びます。

【到達目標】

以下の 3 つを到達目標に掲げます。

- (1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- (2) 自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
- (3) 表計算ソフトを利用してファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業は教室での対面形式の授業となります。本演習は 3 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3 つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第 1・2 次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスの知識や理解を確固たるものにします。さらには、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析を行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第 2 回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り
第 3 回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第 4 回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第 5 回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第 6 回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第 7 回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とプットブル債
第 8 回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バック証券（MBS）
第 9 回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第 10 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第 11 回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第 12 回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 1
第 13 回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 2
第 14 回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) 伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務編』、2009 年、日本経済新聞出版社
- (2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論編』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- (1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
- (2) 佐野三郎、『2022 年版 パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
- (3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング 第 9 版』、2016 年、金融財政事情研究会
- (4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50%）、問題演習・宿題（30%）、平常点（20%）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の研究計画の発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。また、Excel 演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

問題演習や宿題では Excel を使います。発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) using Microsoft Excel for introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN400FA

演習 6

山崎 輝

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は目覚ましく、その広範な研究成果は、経済学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論のなかには難解な部分もありますが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年 1~2 回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルを招いて、実務家講演会を開催します。過去、三菱 UFJ 銀行、みずほ銀行、三菱 UFJ 信託銀行、メリルリンチ日本証券、日本銀行、格付投資情報センター（R&I）、有力ヘッジファンドなどのアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、投資コンサルタントが講演しています。

【到達目標】

以下の 3 つを到達目標に掲げます。

- (1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- (2) 自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
- (3) 実務家などの専門家と金融の様々な話題について対話することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業は教室での対面形式の授業となります。本演習は 3 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることがを掛けます。3 つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第 2 回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第 3 回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第 4 回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第 5 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第 6 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR） EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第 7 回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第 8 回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本原則、アクティブ運用の種類
第 9 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際証券投資の意義
第 10 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際パリティ関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・パリティ
第 11 回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利パリティ、カバーなし金利パリティ、国際パリティ関係の現実
第 12 回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催

第 13 回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 1
第 14 回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) 伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務編』、2009 年、日本経済新聞出版社
- (2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論編』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- (1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
- (2) 佐野三郎、『2022 年版 パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
- (3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング 第 9 版』、2016 年、金融財政事情研究会
- (4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) understanding advanced topics lectured by an invited business person. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN200FA

演習 1

横内 正雄

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際金融問題について学ぶ。現代は外国為替相場や国際通貨の問題がその国の経済全体に大きな影響を及ぼすようになっており、そうした国際金融に関する知識は現代の経済を理解する上で必要不可欠となっている。しかし、国際金融の問題は複雑で理解が難しいと見なされている。そのため、ここではいさなり具体的な現実の問題を取り上げるのではなく、まずは国際金融入門として基礎的な知識の習得を目指す。その上で現実の国際金融の問題にアプローチする。

【到達目標】

- 以下の4点を到達目標とする。
- ①国際金融に関する基礎的な知識を習得する。
 - ②グローバル化の問題に関する正確な知識を身につける。
 - ③国際金融に関する基本的な英文の読解力を養う。
 - ④論理的な思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

グローバル化という言葉が盛んに使われるようになって久しい。とりわけ金融現象のグローバル化ははなばなしが、この金融グローバル化の帰結が最近の金融危機であるといってもよい。金融グローバル化の問題が金融危機にいかに行き着いたのかというを理解するために、国際金融に関する基本的な理論と具体的な事例について学ぶことが不可欠である。

本年度の演習は、基本的なテキストを読み、国際金融の基礎理論を理解する。その上で論理的な思考能力やディスカッション力を高めるために様々なテーマを取り上げグループワークやディスカッションを行う。

本演習は、テキストの輪読・グループによる報告とディスカッション・進級レポートおよび卒業レポートの中間報告・校外施設見学（可能な場合）等で構成される。ゼミ参加者は、3年生は進級レポート、4年生は卒業レポートの提出義務がある。

この演習は、国際金融に関する基礎知識とその応用を修得することにより、文章把握力、資料批判力、共同行動力などに関する就業力を育成する効果がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期の活動計画を決定する
第2回	国際収支について理解する	テキスト第1章「国際収支」の輪読とディスカッション
第3回	国際決済のメカニズムについて理解する	テキスト第2章「国際決済のメカニズムと外国為替」の輪読とディスカッション
第4回	外国為替相場について理解する	テキスト第3章「外国為替相場」の輪読とディスカッション
第5回	外国為替市場について理解する	テキスト①第4章「外国為替市場」の輪読とディスカッション
第6回	為替相場制度について理解する	テキスト第5章「為替相場制度と為替介入」の輪読とディスカッション
第7回	先物為替と金利平価について理解する	テキスト第6章「先物為替と金利平価」の輪読とディスカッション
第8回	外国為替相場の古典理論について理解する	テキスト第7章「外国為替相場の理論I」の輪読とディスカッション
第9回	外国為替相場の近代理論について理解する	テキスト第8章「外国為替相場の理論II」の輪読とディスカッション
第10回	為替リスクの管理について理解する	テキスト第9章「国為替リスクの管理」の輪読とディスカッション
第11回	国際通貨について理解する	テキスト第10章「国際通貨」の輪読とディスカッション
第12回	国際金融市場について理解する	テキスト第11章「国際金融市場」の輪読とディスカッション
第13回	校外施設見学	東京証券取引初（予定）
第14回	まとめ	春学期に購読した文献のまとめと総括的ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員によるテキストの事前の購読、報告者によるプレゼンテーション資料の作成、グループによる研究報告の準備、進級レポートと卒業レポートの準備。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

横内正雄『国際金融論 I』法政大学通信教育部、2020年。

【参考書】

- ①飯島寛之・五百旗頭真吾・佐藤秀樹・菅原歩『身近に感じる国際金融』有斐閣、2017年。
- ②岩本武和『国際経済学：国際金融編』ミネルヴァ書房、2012年。
- ③深尾光洋『国際金融論講義』日本経済新聞社、2010年。
- ④上川孝夫・藤田誠一『現代国際金融論 [第4版]』有斐閣、2012年。

【成績評価の方法と基準】

報告内容と討論への参加（50%）、進級レポート（3年次生）あるいは卒業レポート（4年次生）の内容（50%）で評価する。国際金融に関する基本的な理論・知識とその簡単な応用ができること、客観的で論理的な思考や記述ができることを評価の基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

個人によるプレゼンテーションだけでなく、グループワークとその報告を取り入れることを考えている。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【関連科目】

専門基礎科目B群の「金融論 I/II」を履修していることが望ましい。また、専門科目の「国際金融論 I/II」を並行して履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

In this seminar, students learn about modern international financial issues. Nowadays, events on international finance, ex foreign exchange rates fluctuations, are having a major impact on the economy of a country. For this reason, knowledge of international finance is essential for understanding modern economy. However, the issues of international finance are complex and difficult to understand. So, we first try to acquire basic knowledge about international finance, and then approach to real international finance issues. Evaluation will be based on participation and contribution to the discussion (50%), graduation report and promotion report (50%).

MAN200FA

演習 2

横内 正雄

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際金融問題について学ぶ。現代は外国為替相場や国際通貨の問題がその国の経済全体に大きな影響を及ぼすようになっており、そうした国際金融に関する知識は現代の経済を理解する上で必要不可欠となっている。しかし、国際金融の問題は複雑で理解が難しいと見なされている。そのため、ここではいきなり具体的な現実の問題を取り上げるのではなく、まずは国際金融入門として基礎的な知識の習得を目指す。その上で現実の国際金融の問題にアプローチする。

【到達目標】

以下の4点を到達目標とする。

- ①国際金融に関する基礎的な知識を習得する。
- ②グローバル化の問題に関する正確な知識を身につける。
- ③国際金融に関する基本的な英文の読解力を養う。
- ④論理的な思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

グローバル化という言葉が盛んに使われるようになって久しい。とりわけ金融現象のグローバル化ははなばなしが、この金融グローバル化の帰結が最近の金融危機であるといってもよい。金融グローバル化の問題が金融危機にいかに行き着いたのかというを理解するために、国際金融に関する基本的な理論と具体的な事例について学ぶことが不可欠である。

本年度の演習は、基本的なテキストを読み、国際金融の基礎理論を理解する。その上で外国為替相場等の分析・予想に関して具体的な考察を行い金融のグローバル化の過程について理解を深める。

本演習は、テキストの輪読・グループによる報告とディスカッション・進級レポートおよび卒業レポートの中間報告・校外施設見学（可能な場合）等で構成される。ゼミ参加者は、3年生は進級レポート、4年生は卒業レポートの提出義務がある。また、実習としてFX取引のデモ画面を利用して、為替相場の変動に影響する要因としてどのようなものがあるかということを実験的に理解する。

この演習は、国際金融に関する基礎知識とその応用を修得することにより、文章把握力、資料批判力、共同行動力などに関する就業力を育成する効果がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期イントロダクション	秋学期の活動計画を策定する
第2回	国際収支の決定に関する弾力性アプローチを理解する	テキスト第12章「国際収支の理論Ⅰ」の輪読とディスカッション
第3回	国際収支の決定に関する貯蓄投資バランスを理解する	テキスト第13章「国際収支の理論Ⅱ」の輪読とディスカッション
第4回	国際金融のトリレンマについて理解する	テキスト第14章「国際金融とマクロ経済政策」の輪読とディスカッション
第5回	校外施設見学	日本銀行見学（予定）
第6回	FXのデモ取引を利用して外国為替相場の変動要因を分析する(1)	為替相場の変動を観察しながら、変動に影響するイベントを見つけ出す
第7回	FXのデモ取引を利用して外国為替相場の変動要因を分析する(2)	為替相場の変動を観察しながら、変動に影響するイベントを見つけ出す
第8回	FXのデモ取引を利用して外国為替相場の変動要因を分析する(3)	為替相場の変動を観察しながら、変動に影響するイベントを見つけ出す
第9回	FXのデモ取引を利用して外国為替相場の変動要因を分析する(4)	為替相場の変動を観察しながら、変動に影響するイベントを見つけ出す
第10回	FXのデモ取引を利用して外国為替相場の変動要因を分析する(5)	為替相場の変動を観察しながら、変動に影響するイベントを見つけ出す
第11回	進級レポート中間報告(1)	3年次生の進級レポートの中間報告に関するプレゼンテーションとディスカッション

第12回	進級レポート中間報告(2)	3年次生の進級レポートの中間報告に関するプレゼンテーションとディスカッション
第13回	卒業レポート中間報告	4年次生の卒業レポートの中間報告に関するプレゼンテーションとディスカッション
第14回	秋学期のまとめ	1年間のゼミ活動のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員によるテキストの事前の購読、報告者によるプレゼンテーション資料の作成、グループによる研究報告の準備、進級レポートと卒業レポートの準備。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

横内正雄『国際金融論Ⅰ』法政大学通信教育部、2020年。

【参考書】

- ①飯島寛之・五百旗頭真吾・佐藤秀樹・菅原歩『身近に感じる国際金融』有斐閣、2017年。
- ②岩本武和『国際経済学：国際金融編』ミネルヴァ書房、2012年。
- ③深尾光洋『国際金融論講義』日本経済新聞社、2010年。
- ④上川孝夫・藤田誠一『現代国際金融論[第4版]』有斐閣、2012年。

【成績評価の方法と基準】

報告内容と討論への参加（50%）、進級レポート（3年次生）あるいは卒業レポート（4年次生）の内容（50%）で評価する。国際金融に関する基本的な理論・知識とその簡単な応用ができること、客観的で論理的な思考や記述ができることを評価の基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

個人によるプレゼンテーションだけでなく、グループワークとその報告を取り入れることを考えている。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使ってFXのデモ取引を行うため、ノートパソコン等が必要となる。

【その他の重要事項】

特になし。

【関連科目】

専門基礎科目B群の「金融論Ⅰ/Ⅱ」を履修していることが望ましい。また、専門科目の「国際金融論Ⅰ/Ⅱ」を並行して履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

In this seminar, students learn about modern international financial issues. Nowadays, events on international finance, ex foreign exchange rates fluctuations, are having a major impact on the economy of a country. For this reason, knowledge of international finance is essential for understanding modern economy. However, the issues of international finance are complex and difficult to understand. So, we first try to acquire basic knowledge about international finance, and then approach to real international finance issues. Evaluation will be based on participation and contribution to the discussion (50%), graduation report and promotion report (50%).

MAN300FA

演習 3

横内 正雄

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際金融問題について学ぶ。現代は外国為替相場や国際通貨の問題がその国の経済全体に大きな影響を及ぼすようになっており、そうした国際金融に関する知識は現代の経済を理解する上で必要不可欠となっている。しかし、国際金融の問題は複雑で理解が難しいと見なされている。そのため、ここではいさなり具体的な現実の問題を取り上げるのではなく、まずは国際金融入門として基礎的な知識の習得を目指す。その上で現実の国際金融の問題にアプローチする。

【到達目標】

- 以下の4点を到達目標とする。
- ①国際金融に関する基礎的な知識を習得する。
 - ②グローバル化の問題に関する正確な知識を身につける。
 - ③国際金融に関する基本的な英文の読解力を養う。
 - ④論理的な思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

グローバル化という言葉が盛んに使われるようになって久しい。とりわけ金融現象のグローバル化ははなばなしが、この金融グローバル化の帰結が最近の金融危機であるといってもよい。金融グローバル化の問題が金融危機にいかに行き着いたのかというを理解するために、国際金融に関する基本的な理論と具体的な事例について学ぶことが不可欠である。

本年度の演習は、基本的なテキストを読み、国際金融の基礎理論を理解する。その上で論理的な思考能力やディスカッション力を高めるために様々なテーマを取り上げグループワークやディスカッションを行う。

本演習は、テキストの輪読・グループによる報告とディスカッション・進級レポートおよび卒業レポートの中間報告・校外施設見学（可能な場合）等で構成される。ゼミ参加者は、3年生は進級レポート、4年生は卒業レポートの提出義務がある。

この演習は、国際金融に関する基礎知識とその応用を修得することにより、文章把握力、資料批判力、共同行動力などに関する就業力を育成する効果がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期の活動計画を決定する
第2回	国際収支について理解する	テキスト第1章「国際収支」の輪読とディスカッション
第3回	国際決済のメカニズムについて理解する	テキスト第2章「国際決済のメカニズムと外国為替」の輪読とディスカッション
第4回	外国為替相場について理解する	テキスト第3章「外国為替相場」の輪読とディスカッション
第5回	外国為替市場について理解する	テキスト①第4章「外国為替市場」の輪読とディスカッション
第6回	為替相場制度について理解する	テキスト第5章「為替相場制度と為替介入」の輪読とディスカッション
第7回	先物為替と金利平価について理解する	テキスト第6章「先物為替と金利平価」の輪読とディスカッション
第8回	外国為替相場の古典理論について理解する	テキスト第7章「外国為替相場の理論I」の輪読とディスカッション
第9回	外国為替相場の近代理論について理解する	テキスト第8章「外国為替相場の理論II」の輪読とディスカッション
第10回	為替リスクの管理について理解する	テキスト第9章「国為替リスクの管理」の輪読とディスカッション
第11回	国際通貨について理解する	テキスト第10章「国際通貨」の輪読とディスカッション
第12回	国際金融市場について理解する	テキスト第11章「国際金融市場」の輪読とディスカッション
第13回	校外施設見学	東京証券取引初（予定）
第14回	まとめ	春学期に購読した文献のまとめと総括的ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員によるテキストの事前の購読、報告者によるプレゼンテーション資料の作成、グループによる研究報告の準備、進級レポートと卒業レポートの準備。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

横内正雄『国際金融論 I』法政大学通信教育部、2020年。

【参考書】

- ①飯島寛之・五百旗頭真吾・佐藤秀樹・菅原歩『身近に感じる国際金融』有斐閣、2017年。
- ②岩本武和『国際経済学：国際金融編』ミネルヴァ書房、2012年。
- ③深尾光洋『国際金融論講義』日本経済新聞社、2010年。
- ④上川孝夫・藤田誠一『現代国際金融論 [第4版]』有斐閣、2012年。

【成績評価の方法と基準】

報告内容と討論への参加（50%）、進級レポート（3年次生）あるいは卒業レポート（4年次生）の内容（50%）で評価する。国際金融に関する基本的な理論・知識とその簡単な応用ができること、客観的で論理的な思考や記述ができることを評価の基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

個人によるプレゼンテーションだけではなく、グループワークとその報告を取り入れることを考えている。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【関連科目】

専門基礎科目B群の「金融論 I/II」を履修していることが望ましい。また、専門科目の「国際金融論 I/II」を並行して履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

In this seminar, students learn about modern international financial issues. Nowadays, events on international finance, ex foreign exchange rates fluctuations, are having a major impact on the economy of a country. For this reason, knowledge of international finance is essential for understanding modern economy. However, the issues of international finance are complex and difficult to understand. So, we first try to acquire basic knowledge about international finance, and then approach to real international finance issues. Evaluation will be based on participation and contribution to the discussion (50%), graduation report and promotion report (50%).

MAN300FA

演習 4

横内 正雄

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際金融問題について学ぶ。現代は外国為替相場や国際通貨の問題がその国の経済全体に大きな影響を及ぼすようになっており、そうした国際金融に関する知識は現代の経済を理解する上で必要不可欠となっている。しかし、国際金融の問題は複雑で理解が難しいと見なされている。そのため、ここではいさなり具体的な現実の問題を取り上げるのではなく、まずは国際金融入門として基礎的な知識の習得を目指す。その上で現実の国際金融の問題にアプローチする。

【到達目標】

以下の4点を到達目標とする。

- ①国際金融に関する基礎的な知識を習得する。
- ②グローバル化の問題に関する正確な知識を身につける。
- ③国際金融に関する基本的な英文の読解力を養う。
- ④論理的な思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

グローバル化という言葉が盛んに使われるようになって久しい。とりわけ金融現象のグローバル化ははなばなしが、この金融グローバル化の帰結が最近の金融危機であるといってもよい。金融グローバル化の問題が金融危機にいかに行き着いたのかという問題を理解するために、国際金融に関する基本的な理論と具体的な事例について学ぶことが不可欠である。

本年度の演習は、基本的なテキストを読み、国際金融の基礎理論を理解する。その上で外国為替相場等の分析・予想に関して具体的な考察を行い金融のグローバル化の過程について理解を深める。

本演習は、テキストの輪読・グループによる報告とディスカッション・進級レポートおよび卒業レポートの中間報告・校外施設見学（可能な場合）等で構成される。ゼミ参加者は、3年生は進級レポート、4年生は卒業レポートの提出義務がある。また、実習としてFX取引のデモ画面を利用して、為替相場の変動に影響する要因としてどのようなものがあるかということを実験的に理解する。

この演習は、国際金融に関する基礎知識とその応用を修得することにより、文章把握力、資料批判力、共同行動力などに関する就業力を育成する効果がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期イントロダクション	秋学期の活動計画を策定する
第2回	国際収支の決定に関する弾力性アプローチを理解する	テキスト第12章「国際収支の理論Ⅰ」の輪読とディスカッション
第3回	国際収支の決定に関する貯蓄投資バランスを理解する	テキスト第13章「国際収支の理論Ⅱ」の輪読とディスカッション
第4回	国際金融のトリレンマについて理解する	テキスト第14章「国際金融とマクロ経済政策」の輪読とディスカッション
第5回	校外施設見学	日本銀行見学（予定）
第6回	FXのデモ取引を利用して外国為替相場の変動要因を分析する(1)	為替相場の変動を観察しながら、変動に影響するイベントを見つけ出す
第7回	FXのデモ取引を利用して外国為替相場の変動要因を分析する(2)	為替相場の変動を観察しながら、変動に影響するイベントを見つけ出す
第8回	FXのデモ取引を利用して外国為替相場の変動要因を分析する(3)	為替相場の変動を観察しながら、変動に影響するイベントを見つけ出す
第9回	FXのデモ取引を利用して外国為替相場の変動要因を分析する(4)	為替相場の変動を観察しながら、変動に影響するイベントを見つけ出す
第10回	FXのデモ取引を利用して外国為替相場の変動要因を分析する(5)	為替相場の変動を観察しながら、変動に影響するイベントを見つけ出す
第11回	進級レポート中間報告(1)	3年次生の進級レポートの中間報告に関するプレゼンテーションとディスカッション

第12回 進級レポート中間報告(2)

3年次生の進級レポートの中間報告に関するプレゼンテーションとディスカッション

第13回 卒業レポート中間報告

4年次生の卒業レポートの中間報告に関するプレゼンテーションとディスカッション

第14回 秋学期のまとめ

1年間のゼミ活動のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員によるテキストの事前の購読、報告者によるプレゼンテーション資料の作成、グループによる研究報告の準備、進級レポートと卒業レポートの準備。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

横内正雄『国際金融論Ⅰ』法政大学通信教育部、2020年。

【参考書】

- ①飯島寛之・五百旗頭真吾・佐藤秀樹・菅原歩『身近に感じる国際金融』有斐閣、2017年。
- ②岩本武和『国際経済学：国際金融編』ミネルヴァ書房、2012年。
- ③深尾光洋『国際金融論講義』日本経済新聞社、2010年。
- ④上川孝夫・藤田誠一『現代国際金融論[第4版]』有斐閣、2012年。

【成績評価の方法と基準】

報告内容と討論への参加（50%）、進級レポート（3年次生）あるいは卒業レポート（4年次生）の内容（50%）で評価する。国際金融に関する基本的な理論・知識とその簡単な応用ができること、客観的で論理的な思考や記述ができることを評価の基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

個人によるプレゼンテーションだけでなく、グループワークとその報告を取り入れることを考えている。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使ってFXのデモ取引を行うため、ノートパソコン等が必要となる。

【その他の重要事項】

特になし。

【関連科目】

専門基礎科目B群の「金融論Ⅰ/Ⅱ」を履修していることが望ましい。また、専門科目の「国際金融論Ⅰ/Ⅱ」を並行して履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

In this seminar, students learn about modern international financial issues. Nowadays, events on international finance, ex foreign exchange rates fluctuations, are having a major impact on the economy of a country. For this reason, knowledge of international finance is essential for understanding modern economy. However, the issues of international finance are complex and difficult to understand. So, we first try to acquire basic knowledge about international finance, and then approach to real international finance issues. Evaluation will be based on participation and contribution to the discussion (50%), graduation report and promotion report (50%).

MAN400FA

演習 5

横内 正雄

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際金融問題について学ぶ。現代は外国為替相場や国際通貨の問題がその国の経済全体に大きな影響を及ぼすようになっており、そうした国際金融に関する知識は現代の経済を理解する上で必要不可欠となっている。しかし、国際金融の問題は複雑で理解が難しいと見なされている。そのため、ここではいさなり具体的な現実の問題を取り上げるのではなく、まずは国際金融入門として基礎的な知識の習得を目指す。その上で現実の国際金融の問題にアプローチする。

【到達目標】

- 以下の4点を到達目標とする。
- ①国際金融に関する基礎的な知識を習得する。
 - ②グローバル化の問題に関する正確な知識を身につける。
 - ③国際金融に関する基本的な英文の読解力を養う。
 - ④論理的な思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

グローバル化という言葉が盛んに使われるようになって久しい。とりわけ金融現象のグローバル化ははなばなしが、この金融グローバル化の帰結が最近の金融危機であるといってもよい。金融グローバル化の問題が金融危機にいかに行き着いたのかというを理解するために、国際金融に関する基本的な理論と具体的な事例について学ぶことが不可欠である。

本年度の演習は、基本的なテキストを読み、国際金融の基礎理論を理解する。その上で論理的な思考能力やディスカッション力を高めるために様々なテーマを取り上げグループワークやディスカッションを行う。

本演習は、テキストの輪読・グループによる報告とディスカッション・進級レポートおよび卒業レポートの中間報告・校外施設見学（可能な場合）等で構成される。ゼミ参加者は、3年生は進級レポート、4年生は卒業レポートの提出義務がある。

この演習は、国際金融に関する基礎知識とその応用を修得することにより、文章把握力、資料批判力、共同行動力などに関する就業力を育成する効果がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期の活動計画を決定する
第2回	国際収支について理解する	テキスト第1章「国際収支」の輪読とディスカッション
第3回	国際決済のメカニズムについて理解する	テキスト第2章「国際決済のメカニズムと外国為替」の輪読とディスカッション
第4回	外国為替相場について理解する	テキスト第3章「外国為替相場」の輪読とディスカッション
第5回	外国為替市場について理解する	テキスト①第4章「外国為替市場」の輪読とディスカッション
第6回	為替相場制度について理解する	テキスト第5章「為替相場制度と為替介入」の輪読とディスカッション
第7回	先物為替と金利平価について理解する	テキスト第6章「先物為替と金利平価」の輪読とディスカッション
第8回	外国為替相場の古典理論について理解する	テキスト第7章「外国為替相場の理論I」の輪読とディスカッション
第9回	外国為替相場の近代理論について理解する	テキスト第8章「外国為替相場の理論II」の輪読とディスカッション
第10回	為替リスクの管理について理解する	テキスト第9章「国為替リスクの管理」の輪読とディスカッション
第11回	国際通貨について理解する	テキスト第10章「国際通貨」の輪読とディスカッション
第12回	国際金融市場について理解する	テキスト第11章「国際金融市場」の輪読とディスカッション
第13回	校外施設見学	東京証券取引初（予定）
第14回	まとめ	春学期に購読した文献のまとめと総括的ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員によるテキストの事前の購読、報告者によるプレゼンテーション資料の作成、グループによる研究報告の準備、進級レポートと卒業レポートの準備。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

横内正雄『国際金融論 I』法政大学通信教育部、2020年。

【参考書】

- ①飯島寛之・五百旗頭真吾・佐藤秀樹・菅原歩『身近に感じる国際金融』有斐閣、2017年。
- ②岩本武和『国際経済学：国際金融編』ミネルヴァ書房、2012年。
- ③深尾光洋『国際金融論講義』日本経済新聞社、2010年。
- ④上川孝夫・藤田誠一『現代国際金融論 [第4版]』有斐閣、2012年。

【成績評価の方法と基準】

報告内容と討論への参加（50%）、進級レポート（3年次生）あるいは卒業レポート（4年次生）の内容（50%）で評価する。国際金融に関する基本的な理論・知識とその簡単な応用ができること、客観的で論理的な思考や記述ができることを評価の基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

個人によるプレゼンテーションだけではなく、グループワークとその報告を取り入れることを考えている。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【関連科目】

専門基礎科目B群の「金融論 I/II」を履修していることが望ましい。また、専門科目の「国際金融論 I/II」を並行して履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

In this seminar, students learn about modern international financial issues. Nowadays, events on international finance, ex foreign exchange rates fluctuations, are having a major impact on the economy of a country. For this reason, knowledge of international finance is essential for understanding modern economy. However, the issues of international finance are complex and difficult to understand. So, we first try to acquire basic knowledge about international finance, and then approach to real international finance issues. Evaluation will be based on participation and contribution to the discussion (50%), graduation report and promotion report (50%).

MAN400FA

演習 6

横内 正雄

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際金融問題について学ぶ。現代は外国為替相場や国際通貨の問題がその国の経済全体に大きな影響を及ぼすようになっており、そうした国際金融に関する知識は現代の経済を理解する上で必要不可欠となっている。しかし、国際金融の問題は複雑で理解が難しいと見なされている。そのため、ここではいきなり具体的な現実の問題を取り上げるのではなく、まずは国際金融入門として基礎的な知識の習得を目指す。その上で現実の国際金融の問題にアプローチする。

【到達目標】

以下の 4 点を到達目標とする。

- ① 国際金融に関する基礎的な知識を習得する。
- ② グローバリゼーションの問題に関する正確な知識を身につける。
- ③ 国際金融に関する基本的な英文の読解力を養う。
- ④ 論理的な思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

グローバリゼーションという言葉が盛んに使われるようになって久しい。とりわけ金融現象のグローバル化ははなばなしが、この金融グローバル化の帰結が最近の金融危機であるといってもよい。金融グローバル化の問題が金融危機にいかに行き着いたのかということを理解するために、国際金融に関する基本的な理論と具体的な事例について学ぶことが不可欠である。

本年度の演習は、基本的なテキストを読み、国際金融の基礎理論を理解する。その上で外国為替相場等の分析・予想に関して具体的な考察を行い金融のグローバル化の過程について理解を深める。

本演習は、テキストの輪読・グループによる報告とディスカッション・進級レポートおよび卒業レポートの中間報告・校外施設見学（可能な場合）等で構成される。ゼミ参加者は、3 年生は進級レポート、4 年生は卒業レポートの提出義務がある。また、実習として FX 取引のデモ画面を利用して、為替相場の変動に影響する要因としてどのようなものがあるかということを実験的に理解する。

この演習は、国際金融に関する基礎知識とその応用を修得することにより、文章把握力、資料批判力、共同行動力などに関する就業力を育成する効果がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期イントロダクション	秋学期の活動計画を策定する
第 2 回	国際収支の決定に関する弾力性アプローチを理解する	テキスト第 12 章「国際収支の理論Ⅰ」の輪読とディスカッション
第 3 回	国際収支の決定に関する貯蓄投資バランスを理解する	テキスト第 13 章「国際収支の理論Ⅱ」の輪読とディスカッション
第 4 回	国際金融のトリレンマについて理解する	テキスト第 14 章「国際金融とマクロ経済政策」の輪読とディスカッション
第 5 回	校外施設見学	日本銀行見学（予定）
第 6 回	FX のデモ取引を利用して外国為替相場の変動要因を分析する (1)	為替相場の変動を観察しながら、変動に影響するイベントを見つけ出す
第 7 回	FX のデモ取引を利用して外国為替相場の変動要因を分析する (2)	為替相場の変動を観察しながら、変動に影響するイベントを見つけ出す
第 8 回	FX のデモ取引を利用して外国為替相場の変動要因を分析する (3)	為替相場の変動を観察しながら、変動に影響するイベントを見つけ出す
第 9 回	FX のデモ取引を利用して外国為替相場の変動要因を分析する (4)	為替相場の変動を観察しながら、変動に影響するイベントを見つけ出す
第 10 回	FX のデモ取引を利用して外国為替相場の変動要因を分析する (5)	為替相場の変動を観察しながら、変動に影響するイベントを見つけ出す
第 11 回	進級レポート中間報告 (1)	3 年次生の進級レポートの中間報告に関するプレゼンテーションとディスカッション

第 12 回 進級レポート中間報告 (2)

3 年次生の進級レポートの中間報告に関するプレゼンテーションとディスカッション

第 13 回 卒業レポート中間報告

4 年次生の卒業レポートの中間報告に関するプレゼンテーションとディスカッション

第 14 回 秋学期のまとめ

1 年間のゼミ活動のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員によるテキストの事前の購読、報告者によるプレゼンテーション資料の作成、グループによる研究報告の準備、進級レポートと卒業レポートの準備。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

横内正雄『国際金融論Ⅰ』法政大学通信教育部、2020 年。

【参考書】

- ① 飯島寛之・五百旗頭真吾・佐藤秀樹・菅原歩『身近に感じる国際金融』有斐閣、2017 年。
- ② 岩本武和『国際経済学：国際金融編』ミネルヴァ書房、2012 年。
- ③ 深尾光洋『国際金融論講義』日本経済新聞社、2010 年。
- ④ 上川孝夫・藤田誠一『現代国際金融論 [第 4 版]』有斐閣、2012 年。

【成績評価の方法と基準】

報告内容と討論への参加 (50%)、進級レポート (3 年次生)あるいは卒業レポート (4 年次生)の内容 (50%)で評価する。国際金融に関する基本的な理論・知識とその簡単な応用ができること、客観的で論理的な思考や記述ができることを評価の基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

個人によるプレゼンテーションだけでなく、グループワークとその報告を取り入れることを考えている。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って FX のデモ取引を行うため、ノートパソコン等が必要となる。

【その他の重要事項】

特になし。

【関連科目】

専門基礎科目 B 群の「金融論Ⅰ/Ⅱ」を履修していることが望ましい。また、専門科目の「国際金融論Ⅰ/Ⅱ」を並行して履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

In this seminar, students learn about modern international financial issues. Nowadays, events on international finance, ex foreign exchange rates fluctuations, are having a major impact on the economy of a country. For this reason, knowledge of international finance is essential for understanding modern economy. However, the issues of international finance are complex and difficult to understand. So, we first try to acquire basic knowledge about international finance, and then approach to real international finance issues. Evaluation will be based on participation and contribution to the discussion (50%), graduation report and promotion report (50%).

MAN200FA

演習 1

金 雲鎬、横山 斉理

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、さまざまな実践を通じて、流通・マーケティングについて深く学ぶことです。流通・マーケティングは身近な現象です。我々は消費者として流通・マーケティングの当事者です。日々の生活の中で新製品の動向や新店舗の展開などに注意を向けておくことで、自分なりの問題意識をもつことができます。

【到達目標】

到達目標は、①流通・マーケティングについての専門知識を身につけること、②身近な現象を流通・マーケティング論の視点から洞察・分析そして他人に解説できるようになること、③専門知識を活かして調査・企画・プレゼンテーション・論文（報告書）作成を行うことができるようになること、です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ほとんどすべてを演習形式で進めます。

①マーケティング・コンペティションへの応募

学外の流通・マーケティング関連のコンペに応募する予定です。その目的は、自分たちの能力の現在地を知ること、理論武装することの重要性を実感することです。

②輪読

理論武装することの重要性を実感した上で、流通・マーケティングの基礎を学びます。その目的は、実践を助けてくれる理論、枠組み、概念、分析ツールなどを学ぶことです。理論なき実践は遊びと大差ありません。理論武装をして実践に臨むことが重要です。到達目標は、内閣府認定の資格試験であるマーケティング検定3級に合格することです。全員が合格できるよう進めていく予定です。

③マーケティング・ゲーム

1 グループ（3～5人）を1社と見立てて、企業のマーケティング競争についてのシミュレーション・ゲームを実施します。その目的は、机上で学んだ流通・マーケティングの主要概念（STP やマーケティング・ミックスなど）が実践の中でどのように活用できるかを身をもって体験することです。学習効果を高めるために合宿等で集中的に実施する予定です。

④企業コラボワークショップ

企業の方をお招きして現実のビジネスにおける課題をいただいた上で、これまでの活動で培ってきたはずの専門知識・スキルを総動員し、課題についてのマーケティング・プランを立案し、担当者の前でプレゼンします。その目的は、机上の空論となりがちなるプランの実現可能性について理解することです。他大学と合同ゼミの形で実施する可能性があります。

⑤卒業論文

流通・マーケティングに関わっていればテーマは自由。「立論 → 方法 → 検証」（← 現時点では「？」）という人が多いでしょうが、演習を通じて学びます。）というプロセスがしっかりしていれば、興味があるテーマで論文を作成することを推奨しています。その目的は、思い迷子にならないことです。みなさんが所属することになる組織の周りの人々のほとんどは卒業論文を書いているはずでしょうから。例年、短期間で一気に書き上げることを推奨しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習概要の説明
第2回	マーケティング・コンペの企画の課題吟味・決定	マーケティング・コンペに参加するグループを決定し、取り組む課題を慎重に吟味・決定する
第3回	マーケティングの基本概念的確認	マーケティングの基本概念を改めて学ぶ
	マーケティング・コンペの課題検討①	コンペに向けたグループディスカッション①
第4回	マーケティング・リサーチの諸手法の確認①	定性的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ
	マーケティング・コンペの課題検討②	コンペに向けたグループディスカッション②
第5回	マーケティング・リサーチの諸手法の確認②	定量的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ
	マーケティング・コンペの課題検討③	コンペに向けたグループディスカッション③

第6回	マーケティング・コンペの中間報告①：前半	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
第7回	マーケティング・コンペの中間報告①：後半	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
第8回	マーケティング・コンペの最終発表	コンペに向け、提案する内容の最終発表を行い、プランを改善する
第9回	マーケティング・コンペの振り返り	マーケティング・コンペへの参加から得たはずの学びを内省する
第10回	マーケティング検定への途①：アウトラインをつかむ	マーケティング検定3級のアウトラインと要求水準を学ぶ
第11回	マーケティング検定への途②：基礎編	マーケティング検定3級に合格するために必要な基礎知識を学ぶ
第12回	マーケティング検定への途③：応用編	マーケティング検定3級に合格するために必要な応用知識を学ぶ
第13回	マーケティング検定への途④：総点検	マーケティング検定3級に合格するために必要な知識の総点検を行う
第14回	春学期総括	春学期の学びからの発見を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。加えて、必要に応じて輪読やグループ討論なども必要となります。適宜、合宿や合同ゼミを実施することがあります。

【テキスト（教科書）】

高嶋克義・桑原秀史『現代マーケティング論』有斐閣アルマ

【参考書】

高嶋克義『現代商業学』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

調査・企画・プレゼンの結果とそこに至るまでのプロセスにより総合的に評価します（= 100%）。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進み具合に応じて、適宜、スケジュールを柔軟に運用します。ゼミのイベント（合宿など）への積極的な関与が求められます。

【学生が準備すべき機器他】

適宜、パソコン等の情報機器を利用します。

【関連科目】

マーケティング入門、マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱマーケティング・リサーチ論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。特に流通論Ⅰ/Ⅱは卒業までに必ず履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to provide students with an in-depth understanding of marketing and distribution through practice. The goal is to learn to explain familiar marketing and distribution phenomena to others using theories and concepts. Grading will be based on the student's overall contribution to the class.

MAN200FA

演習 2

金 雲鎬、横山 斉理

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、さまざまな実践を通じて、流通・マーケティングについて深く学ぶことです。流通・マーケティングは身近な現象です。我々は消費者として流通・マーケティングの当事者です。日々の生活の中で新製品の動向や新店舗の展開などに注意を向けておくことで、自分なりの問題意識をもつことができます。

【到達目標】

到達目標は、①流通・マーケティングについての専門知識を身につけること、②身近な現象を流通・マーケティング論の視点から洞察・分析そして他人に解説できるようになること、③専門知識を活かして調査・企画・プレゼンテーション・論文（報告書）作成を行うことができるようになること、です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ほとんどすべてを演習形式で進めます。

①マーケティング・コンペティションへの応募

学外の流通・マーケティング関連のコンペに応募する予定です。その目的は、自分たちの能力の現在地を知ること、理論武装することの重要性を実感することです。

②輪読

理論武装することの重要性を実感した上で、流通・マーケティングの基礎を学びます。その目的は、実践を助けてくれる理論、枠組み、概念、分析ツールなどを学ぶことです。理論なき実践は遊びと大差ありません。理論武装をして実践に臨むことが重要です。到達目標は、内閣府認定の資格試験であるマーケティング検定3級に合格することです。全員が合格できるよう進めていく予定です。

③マーケティング・ゲーム

1 グループ（3～5人）を1社と見立てて、企業のマーケティング競争についてのシミュレーション・ゲームを実施します。その目的は、机上で学んだ流通・マーケティングの主要概念（STP やマーケティング・ミックスなど）が実践の中でどのように活用できるかをもつて体験することです。学習効果を高めるために合宿等で集中的に実施する予定です。

④企業コラボワークショップ

企業の方をお招きして現実のビジネスにおける課題をいただいた上で、これまでの活動で培ってきたはずの専門知識・スキルを総動員し、課題についてのマーケティング・プランを立案し、担当者の前でプレゼンします。その目的は、机上の空論となりがちなプランの実現可能性について理解することです。他大学と合同ゼミの形で実施する可能性があります。

⑤卒業論文

流通・マーケティングに関わっていればテーマは自由。「立論 → 方法 → 検証」（← 現時点では「？」）という人が多いでしょうが、演習を通じて学びます。）というプロセスがしっかりしていれば、興味があるテーマで論文を作成することを推奨しています。その目的は、思い迷子にならないことです。みなさんが所属することになる組織の周りの人々のほとんどは卒業論文を書いているはずでしょうから。例年、短期間で一気に書き上げることを推奨しています。

*授業形態は、対面とオンラインを状況に合わせて活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習概要の説明
第2回	企業コラボワークショップ：キックオフ	ワークショップにご協力いただく企業に課題の提示と関連情報の説明をいただく
第3回	企業コラボワークショップ：グループワーク①	ワークショップでの提案に向けてグループでディスカッションを行う
第4回	企業コラボワークショップ：フィールドワーク①	課題に直接的に関連する小売店のフィールドワークを行う
第5回	企業コラボワークショップ：フィールドワーク②	課題に間接的に関連する小売店のフィールドワークを行う
第6回	企業コラボワークショップ：グループワーク②	ワークショップでの提案に向けてグループでディスカッションを行う
第7回	企業コラボワークショップ：中間報告	ワークショップでの提案内容の進捗状況について中間報告を行いディスカッションする
第8回	企業コラボワークショップ：グループワーク③	ワークショップでの提案に向けてグループでディスカッションを行う

第9回	企業コラボワークショップ：グループワーク④	ワークショップでの提案に向けてグループでディスカッションを行う
第10回	企業コラボワークショップ：中間報告	ワークショップでの提案内容の進捗状況について中間報告を行いディスカッションする
第11回	企業コラボワークショップ：グループワーク⑤	ワークショップでの提案に向けてグループでディスカッションを行う
第12回	企業コラボワークショップ：グループワーク⑥	ワークショップでの提案に向けてグループでディスカッションを行う
第13回	企業コラボワークショップ：最終発表会	企業の担当者の前で企画内容をプレゼンし、講評してもらう
第14回	秋学期総括	秋学期の学びを内省し、今後の学びとの関連を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。加えて、必要に応じて輪読やグループ討論なども必要となります。適宜、合宿や合同ゼミを実施することがあります。

【テキスト（教科書）】

高嶋克義・桑原秀史『現代マーケティング論』有斐閣アルマ

【参考書】

高嶋克義『現代商業学』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

調査・企画・プレゼンの結果とそこに至るまでのプロセスにより総合的に評価します（＝100%）。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進み具合に応じて、適宜、スケジュールを柔軟に運用します。ゼミのイベント（合宿など）への積極的な関与が求められます。

【学生が準備すべき機器他】

適宜、パソコン等の情報機器を利用します。

【関連科目】

マーケティング入門、マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱマーケティング・リサーチ論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。特に流通論Ⅰ/Ⅱは卒業までに必ず履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to provide students with an in-depth understanding of marketing and distribution through practice. The goal is to learn to explain familiar marketing and distribution phenomena to others using theories and concepts. Grading will be based on the student's overall contribution to the class.

MAN300FA

演習 3

金 雲鎬、横山 斉理

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、さまざまな実践を通じて、流通・マーケティングについて深く学ぶことです。流通・マーケティングは身近な現象です。我々は消費者として流通・マーケティングの当事者です。日々の生活の中で新製品の動向や新店舗の展開などに注意を向けておくことで、自分なりの問題意識をもつことができます。

【到達目標】

到達目標は、①流通・マーケティングについての専門知識を身につけること、②身近な現象を流通・マーケティング論の視点から洞察・分析そして他人に解説できるようになること、③専門知識を活かして調査・企画・プレゼンテーション・論文（報告書）作成を行うことができるようになること、です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ほとんどすべてを演習形式で進めます。

①マーケティング・コンペティションへの応募

学外の流通・マーケティング関連のコンペに応募する予定です。その目的は、自分たちの能力の現在地を知ること、理論武装することの重要性を実感することです。

②輪読

理論武装することの重要性を実感した上で、流通・マーケティングの基礎を学びます。その目的は、実践を助けてくれる理論、枠組み、概念、分析ツールなどを学ぶことです。理論なき実践は遊びと大差ありません。理論武装をして実践に臨むことが重要です。到達目標は、内閣府認定の資格試験であるマーケティング検定3級に合格することです。全員が合格できるよう進めていく予定です。

③マーケティング・ゲーム

1 グループ（3～5人）を1社と見立てて、企業のマーケティング競争についてのシミュレーション・ゲームを実施します。その目的は、机上で学んだ流通・マーケティングの主要概念（STP やマーケティング・ミックスなど）が実践の中でどのように活用できるかを身をもって体験することです。学習効果を高めるために合宿等で集中的に実施する予定です。

④企業コラボワークショップ

企業の方をお招きして現実のビジネスにおける課題をいただいた上で、これまでの活動で培ってきたはずの専門知識・スキルを総動員し、課題についてのマーケティング・プランを立案し、担当者の前でプレゼンします。その目的は、机上の空論となりがちなるプランの実現可能性について理解することです。他大学と合同ゼミの形で実施する可能性があります。

⑤卒業論文

流通・マーケティングに関わっていればテーマは自由。「立論 → 方法 → 検証」（← 現時点では「？」）という人が多いでしょうが、演習を通じて学びます。）というプロセスがしっかりしていれば、興味があるテーマで論文を作成することを推奨しています。その目的は、思い迷子にならないことです。みなさんが所属することになる組織の周りの人々のほとんどは卒業論文を書いているはずでしょうから。例年、短期間で一気に書き上げることを推奨しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習概要の説明
第2回	マーケティング・コンペの企画の課題吟味・決定	マーケティング・コンペに参加するグループを決定し、取り組む課題を慎重に吟味・決定する
第3回	マーケティングの基本概念的確認	マーケティングの基本概念を改めて学ぶ
	マーケティング・コンペの課題検討①	コンペに向けたグループディスカッション①
第4回	マーケティング・リサーチの諸手法の確認①	定性的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ
	マーケティング・コンペの課題検討②	コンペに向けたグループディスカッション②
第5回	マーケティング・リサーチの諸手法の確認②	定量的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ
	マーケティング・コンペの課題検討③	コンペに向けたグループディスカッション③

第6回	マーケティング・コンペの中間報告①：前半	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
第7回	マーケティング・コンペの中間報告①：後半	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
第8回	マーケティング・コンペの最終発表	コンペに向け、提案する内容の最終発表を行い、プランを改善する
第9回	マーケティング・コンペの振り返り	マーケティング・コンペへの参加から得たはずの学びを内省する
第10回	マーケティング検定への途①：アウトラインをつかむ	マーケティング検定3級のアウトラインと要求水準を学ぶ
第11回	マーケティング検定への途②：基礎編	マーケティング検定3級に合格するために必要な基礎知識を学ぶ
第12回	マーケティング検定への途③：応用編	マーケティング検定3級に合格するために必要な応用知識を学ぶ
第13回	マーケティング検定への途④：総点検	マーケティング検定3級に合格するために必要な知識の総点検を行う
第14回	春学期総括	春学期の学びからの発見を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。加えて、必要に応じて輪読やグループ討論なども必要となります。適宜、合宿や合同ゼミを実施することがあります。

【テキスト（教科書）】

高嶋克義・桑原秀史『現代マーケティング論』有斐閣アルマ

【参考書】

高嶋克義『現代商業学』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

調査・企画・プレゼンの結果とそこに至るまでのプロセスにより総合的に評価します（= 100%）。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進み具合に応じて、適宜、スケジュールを柔軟に運用します。ゼミのイベント（合宿など）への積極的な関与が求められます。

【学生が準備すべき機器他】

適宜、パソコン等の情報機器を利用します。

【関連科目】

マーケティング入門、マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱマーケティング・リサーチ論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。特に流通論Ⅰ/Ⅱは卒業までに必ず履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to provide students with an in-depth understanding of marketing and distribution through practice. The goal is to learn to explain familiar marketing and distribution phenomena to others using theories and concepts. Grading will be based on the student's overall contribution to the class.

MAN300FA

演習 4

金 雲鎬、横山 斉理

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、さまざまな実践を通じて、流通・マーケティングについて深く学ぶことです。流通・マーケティングは身近な現象です。我々は消費者として流通・マーケティングの当事者です。日々の生活の中で新製品の動向や新店舗の展開などに注意を向けておくことで、自分なりの問題意識をもつことができます。

【到達目標】

到達目標は、①流通・マーケティングについての専門知識を身につけること、②身近な現象を流通・マーケティング論の視点から洞察・分析そして他人に解説できるようになること、③専門知識を活かして調査・企画・プレゼンテーション・論文（報告書）作成を行うことができるようになること、です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ほとんどすべてを演習形式で進めます。

①マーケティング・コンペティションへの応募

学外の流通・マーケティング関連のコンペに応募する予定です。その目的は、自分たちの能力の現在地を知ること、理論武装することの重要性を実感することです。

②輪読

理論武装することの重要性を実感した上で、流通・マーケティングの基礎を学びます。その目的は、実践を助けてくれる理論、枠組み、概念、分析ツールなどを学ぶことです。理論なき実践は遊びと大差ありません。理論武装をして実践に臨むことが重要です。到達目標は、内閣府認定の資格試験であるマーケティング検定3級に合格することです。全員が合格できるよう進めていく予定です。

③マーケティング・ゲーム

1 グループ（3～5人）を1社と見立てて、企業のマーケティング競争についてのシミュレーション・ゲームを実施します。その目的は、机上で学んだ流通・マーケティングの主要概念（STP やマーケティング・ミックスなど）が実践の中でどのように活用できるかを身をもって体験することです。学習効果を高めるために合宿等で集中的に実施する予定です。

④企業コラボワークショップ

企業の方をお招きして現実のビジネスにおける課題をいただいた上で、これまでの活動で培ってきたはずの専門知識・スキルを総動員し、課題についてのマーケティング・プランを立案し、担当者の前でプレゼンします。その目的は、机上の空論となりがちなプランの実現可能性について理解することです。他大学と合同ゼミの形で実施する可能性があります。

⑤卒業論文

流通・マーケティングに関わっていればテーマは自由。「立論 → 方法 → 検証」（← 現時点では「？」）という人が多いでしょうが、演習を通じて学びます。）というプロセスがしっかりしていれば、興味があるテーマで論文を作成することを推奨しています。その目的は、思い迷子にならないことです。みなさんが所属することになる組織の周りの人々のほとんどは卒業論文を書いているはずでしょうから。例年、短期間で一気に書き上げることを推奨しています。

*授業形態は、対面とオンラインを状況に合わせて活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習概要の説明
第2回	企業コラボワークショップ：キックオフ	ワークショップにご協力いただく企業に課題の提示と関連情報の説明をいただく
第3回	企業コラボワークショップ：グループワーク①	ワークショップでの提案に向けてグループでディスカッションを行う
第4回	企業コラボワークショップ：フィールドワーク①	課題に直接的に関連する小売店のフィールドワークを行う
第5回	企業コラボワークショップ：フィールドワーク②	課題に間接的に関連する小売店のフィールドワークを行う
第6回	企業コラボワークショップ：グループワーク②	ワークショップでの提案に向けてグループでディスカッションを行う
第7回	企業コラボワークショップ：中間報告	ワークショップでの提案内容の進捗状況について中間報告を行いディスカッションする
第8回	企業コラボワークショップ：グループワーク③	ワークショップでの提案に向けてグループでディスカッションを行う

第9回	企業コラボワークショップ：グループワーク④	ワークショップでの提案に向けてグループでディスカッションを行う
第10回	企業コラボワークショップ：中間報告	ワークショップでの提案内容の進捗状況について中間報告を行いディスカッションする
第11回	企業コラボワークショップ：グループワーク⑤	ワークショップでの提案に向けてグループでディスカッションを行う
第12回	企業コラボワークショップ：グループワーク⑥	ワークショップでの提案に向けてグループでディスカッションを行う
第13回	企業コラボワークショップ：最終発表会	企業の担当者前で企画内容をプレゼンし、講評してもらう
第14回	秋学期総括	秋学期の学びを内省し、今後の学びとの関連を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。加えて、必要に応じて輪読やグループ討論なども必要となります。適宜、合宿や合同ゼミを実施することがあります。

【テキスト（教科書）】

高嶋克義・桑原秀史『現代マーケティング論』有斐閣アルマ

【参考書】

高嶋克義『現代商業学』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

調査・企画・プレゼンの結果とそこに至るまでのプロセスにより総合的に評価します（＝100%）。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進み具合に応じて、適宜、スケジュールを柔軟に運用します。ゼミのイベント（合宿など）への積極的な関与が求められます。

【学生が準備すべき機器他】

適宜、パソコン等の情報機器を利用します。

【関連科目】

マーケティング入門、マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱマーケティング・リサーチ論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。特に流通論Ⅰ/Ⅱは卒業までに必ず履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to provide students with an in-depth understanding of marketing and distribution through practice. The goal is to learn to explain familiar marketing and distribution phenomena to others using theories and concepts. Grading will be based on the student's overall contribution to the class.

MAN400FA

演習 5

金 雲鎬、横山 斉理

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、さまざまな実践を通じて、流通・マーケティングについて深く学ぶことです。流通・マーケティングは身近な現象です。我々は消費者として流通・マーケティングの当事者です。日々の生活の中で新製品の動向や新店舗の展開などに注意を向けておくことで、自分なりの問題意識をもつことができます。

【到達目標】

到達目標は、①流通・マーケティングについての専門知識を身につけること、②身近な現象を流通・マーケティング論の視点から洞察・分析そして他人に解説できるようになること、③専門知識を活かして調査・企画・プレゼンテーション・論文（報告書）作成を行うことができるようになること、です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ほとんどすべてを演習形式で進めます。

①マーケティング・コンペティションへの応募

学外の流通・マーケティング関連のコンペに応募する予定です。その目的は、自分たちの能力の現在地を知ること、理論武装することの重要性を実感することです。

②輪読

理論武装することの重要性を実感した上で、流通・マーケティングの基礎を学びます。その目的は、実践を助けてくれる理論、枠組み、概念、分析ツールなどを学ぶことです。理論なき実践は遊びと大差ありません。理論武装をして実践に臨むことが重要です。到達目標は、内閣府認定の資格試験であるマーケティング検定3級に合格することです。全員が合格できるよう進めていく予定です。

③マーケティング・ゲーム

1 グループ（3～5人）を1社と見立てて、企業のマーケティング競争についてのシミュレーション・ゲームを実施します。その目的は、机上で学んだ流通・マーケティングの主要概念（STP やマーケティング・ミックスなど）が実践の中でどのように活用できるかを身をもって体験することです。学習効果を高めるために合宿等で集中的に実施する予定です。

④企業コラボワークショップ

企業の方をお招きして現実のビジネスにおける課題をいただいた上で、これまでの活動で培ってきたはずの専門知識・スキルを総動員し、課題についてのマーケティング・プランを立案し、担当者の前でプレゼンします。その目的は、机上の空論となりがちなるプランの実現可能性について理解することです。他大学と合同ゼミの形で実施する可能性があります。

⑤卒業論文

流通・マーケティングに関わっていればテーマは自由。「立論 → 方法 → 検証」（← 現時点では「？」）という人が多いでしょうが、演習を通じて学びます。）というプロセスがしっかりしていれば、興味があるテーマで論文を作成することを推奨しています。その目的は、思い迷子にならないことです。みなさんが所属することになる組織の周りの人々のほとんどは卒業論文を書いているはずですから。例年、短期間で一気に書き上げることを推奨しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習概要の説明
第2回	マーケティング・コンペの企画の課題吟味・決定	マーケティング・コンペに参加するグループを決定し、取り組む課題を慎重に吟味・決定する
第3回	マーケティングの基本概念的確認	マーケティングの基本概念を改めて学ぶ
	マーケティング・コンペの課題検討①	コンペに向けたグループディスカッション①
第4回	マーケティング・リサーチの諸手法の確認①	定性的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ
	マーケティング・コンペの課題検討②	コンペに向けたグループディスカッション②
第5回	マーケティング・リサーチの諸手法の確認②	定量的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ
	マーケティング・コンペの課題検討③	コンペに向けたグループディスカッション③

第6回	マーケティング・コンペの中間報告①：前半	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
第7回	マーケティング・コンペの中間報告①：後半	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
第8回	マーケティング・コンペの最終発表	コンペに向け、提案する内容の最終発表を行い、プランを改善する
第9回	マーケティング・コンペの振り返り	マーケティング・コンペへの参加から得たはずの学びを内省する
第10回	マーケティング検定への途①：アウトラインをつかむ	マーケティング検定3級のアウトラインと要求水準を学ぶ
第11回	マーケティング検定への途②：基礎編	マーケティング検定3級に合格するために必要な基礎知識を学ぶ
第12回	マーケティング検定への途③：応用編	マーケティング検定3級に合格するために必要な応用知識を学ぶ
第13回	マーケティング検定への途④：総点検	マーケティング検定3級に合格するために必要な知識の総点検を行う
第14回	春学期総括	春学期の学びからの発見を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。加えて、必要に応じて輪読やグループ討論なども必要となります。適宜、合宿や合同ゼミを実施することがあります。

【テキスト（教科書）】

高嶋克義・桑原秀史『現代マーケティング論』有斐閣アルマ

【参考書】

高嶋克義『現代商業学』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

調査・企画・プレゼンの結果とそこに至るまでのプロセスにより総合的に評価します（= 100%）。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進み具合に応じて、適宜、スケジュールを柔軟に運用します。ゼミのイベント（合宿など）への積極的な関与が求められます。

【学生が準備すべき機器他】

適宜、パソコン等の情報機器を利用します。

【関連科目】

マーケティング入門、マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱマーケティング・リサーチ論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。特に流通論Ⅰ/Ⅱは卒業までに必ず履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to provide students with an in-depth understanding of marketing and distribution through practice. The goal is to learn to explain familiar marketing and distribution phenomena to others using theories and concepts. Grading will be based on the student's overall contribution to the class.

MAN400FA

演習 6

金 雲鎬、横山 斉理

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、さまざまな実践を通じて、流通・マーケティングについて深く学ぶことです。流通・マーケティングは身近な現象です。我々は消費者として流通・マーケティングの当事者です。日々の生活の中で新製品の動向や新店舗の展開などに注意を向けておくことで、自分なりの問題意識をもつことができます。

【到達目標】

到達目標は、①流通・マーケティングについての専門知識を身につけること、②身近な現象を流通・マーケティング論の視点から洞察・分析そして他人に解説できるようになること、③専門知識を活かして調査・企画・プレゼンテーション・論文（報告書）作成を行うことができるようになること、です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ほとんどすべてを演習形式で進めます。

①マーケティング・コンペティションへの応募

学外の流通・マーケティング関連のコンペに応募する予定です。その目的は、自分たちの能力の現在地を知ること、理論武装することの重要性を実感することです。

②輪読

理論武装することの重要性を実感した上で、流通・マーケティングの基礎を学びます。その目的は、実践を助けてくれる理論、枠組み、概念、分析ツールなどを学ぶことです。理論なき実践は遊びと大差ありません。理論武装をして実践に臨むことが重要です。到達目標は、内閣府認定の資格試験であるマーケティング検定3級に合格することです。全員が合格できるよう進めていく予定です。

③マーケティング・ゲーム

1 グループ（3～5 人）を 1 社と見立てて、企業のマーケティング競争についてのシミュレーション・ゲームを実施します。その目的は、机上で学んだ流通・マーケティングの主要概念（STP やマーケティング・ミックスなど）が実践の中でどのように活用できるかをもつて体験することです。学習効果を高めるために合宿等で集中的に実施する予定です。

④企業コラボワークショップ

企業の方をお招きして現実のビジネスにおける課題をいただいた上で、これまでの活動で培ってきたはずの専門知識・スキルを総動員し、課題についてのマーケティング・プランを立案し、担当者の前でプレゼンします。その目的は、机上の空論となりがちなプランの実現可能性について理解することです。他大学と合同ゼミの形で実施する可能性があります。

⑤卒業論文

流通・マーケティングに関わっていればテーマは自由。「立論 → 方法 → 検証」（← 現時点では「？」）という人が多いでしょうが、演習を通じて学びます。）というプロセスがしっかりしていれば、興味があるテーマで論文を作成することを推奨しています。その目的は、思い迷子にならないことです。みなさんが所属することになる組織の周りの人々のほとんどは卒業論文を書いているはずでしょうから。例年、短期間で一気に書き上げることを推奨しています。

*授業形態は、対面とオンラインを状況に合わせて活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要の説明
第 2 回	企業コラボワークショップ：キックオフ	ワークショップにご協力いただく企業に課題の提示と関連情報の説明をいただく
第 3 回	企業コラボワークショップ：グループワーク①	ワークショップでの提案に向けてグループでディスカッションを行う
第 4 回	企業コラボワークショップ：フィールドワーク①	課題に直接的に関連する小売店のフィールドワークを行う
第 5 回	企業コラボワークショップ：フィールドワーク②	課題に間接的に関連する小売店のフィールドワークを行う
第 6 回	企業コラボワークショップ：グループワーク②	ワークショップでの提案に向けてグループでディスカッションを行う
第 7 回	企業コラボワークショップ：中間報告	ワークショップでの提案内容の進捗状況について中間報告を行いディスカッションする
第 8 回	企業コラボワークショップ：グループワーク③	ワークショップでの提案に向けてグループでディスカッションを行う

第 9 回	企業コラボワークショップ：グループワーク④	ワークショップでの提案に向けてグループでディスカッションを行う
第 10 回	企業コラボワークショップ：中間報告	ワークショップでの提案内容の進捗状況について中間報告を行いディスカッションする
第 11 回	企業コラボワークショップ：グループワーク⑤	ワークショップでの提案に向けてグループでディスカッションを行う
第 12 回	企業コラボワークショップ：グループワーク⑥	ワークショップでの提案に向けてグループでディスカッションを行う
第 13 回	企業コラボワークショップ：最終発表会	企業の担当者前で企画内容をプレゼンし、講評してもらう
第 14 回	秋学期総括	秋学期の学びを内省し、今後の学びとの関連を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。加えて、必要に応じて輪読やグループ討論なども必要となります。適宜、合宿や合同ゼミを実施することがあります。

【テキスト（教科書）】

高嶋克義・桑原秀史『現代マーケティング論』有斐閣アルマ

【参考書】

高嶋克義『現代商業学』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

調査・企画・プレゼンの結果とそこに至るまでのプロセスにより総合的に評価します（＝ 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進み具合に応じて、適宜、スケジュールを柔軟に運用します。ゼミのイベント（合宿など）への積極的な関与が求められます。

【学生が準備すべき機器他】

適宜、パソコン等の情報機器を利用します。

【関連科目】

マーケティング入門、マーケティング・マネジメント論 I/II マーケティング・リサーチ論 I/II、消費者行動論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、流通論 I/II など、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。特に流通論 I/II は卒業までに必ず履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to provide students with an in-depth understanding of marketing and distribution through practice. The goal is to learn to explain familiar marketing and distribution phenomena to others using theories and concepts. Grading will be based on the student's overall contribution to the class.

MAN200FA

演習 1

吉田 健二

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】

経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。また、本や資料等の要約や自分の考えなどをパワーポイントを使って発表することなどによって、コミュニケーション力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業は、ゼミ生と話し合って決める予定ですが、今年は対面授業形式で行いたいと考えています。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業形式になるかもしれません。

授業に対するコメント等は授業内で紹介し、次回以降の授業に活かすようにします。

春学期は、広い意味での経営戦略の本を積極的に読む予定です。昨年は、『戦略の原点』（清水勝彦、日経 BP 社、2007 年）と『経営戦略の論理（第 4 版）』（伊丹敬之、日本経済新聞出版社、2012 年）という経営戦略の 2 冊の教科書を読みました。

担当者がパワーポイントを使って発表し、その後皆でディスカッションを行います。また、関連したビデオを見ることによって、理解を深めていきます。昨年は、富士フィルム HD やアイリスオーヤマ、クロネコヤマトの小倉昌男、本田宗一郎、スティーブ・ジョブズ、ラクスルのビデオを見ました。

できれば、企業の方をお招きして話を伺ったり、企業を訪問したいとも考えています。昨年は、TOTO とオカムラの 2 名の方々から会社概要や今までのキャリア、ゼミ生へのアドバイスなどについて話して頂きました。

夏休み中には、『小倉昌男 経営学』（小倉昌男、日経 BP 社、1999 年）や『魂の経営』（古森重隆、東洋経済新報社、2013 年）、『私の手が語る』（本田宗一郎、講談社、1985 年）の中からゼミ生各人が 1 冊を選んで、感想文を 800 字で書きました。

合宿については、ゼミ生と話し合って決める予定ですが、毎年夏に 2 泊 3 日で行っています。昨年は、9 月中旬に河口湖近くで、勉強とレクリエーションの両方を楽しみました。また、4 年生が後輩のために就職活動についてのアドバイスを行いました。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期のゼミの説明	ゼミの概要や進め方等の説明とテキストの決定
第 2 回	テキストの輪読（1）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 3 回	テキストの輪読（2）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 4 回	テキストの輪読（3）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 5 回	テキストの輪読（4）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 6 回	テキストの輪読（5）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 7 回	テキストの輪読（6）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 8 回	テキストの輪読（7）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 9 回	テキストの輪読（8）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 10 回	テキストの輪読（9）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 11 回	企業訪問	企業を訪問して、経営戦略等の説明を聞き、社内を見学する
第 12 回	テキストの輪読（10）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 13 回	テキストの輪読（11）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめと夏合宿の準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は、テキストを事前に読み、疑問点や自分の意見等を整理して行くこと。また、発表者は、発表の準備を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミ生と話し合って決める予定です。

【参考書】

- ① 網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011 年。
 - ② 清水勝彦『戦略の原点』日経 BP 社、2007 年。
 - ③ 三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2013 年。
 - ④ ジェイ・バーニー、ウィリアム・ヘスター『【新版】企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社、2021 年。
 - ⑤ マイケル・ヒット、デューエン・アイルランド、ロバート・ホスキソン『戦略経営論 <改訂新版>』センゲージラーニング、2014 年。
 - ⑥ デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002 年。
 - ⑦ M.E. ポーター『競争の戦略（新訂版）』ダイヤモンド社、1995 年。
 - ⑧ M.E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985 年。
- ①②④⑤⑥は経営戦略論のテキストで、③は経営戦略論の 100 年の流れを描いた本で、⑦と⑧は経営戦略論の古典といわれる本です。他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内での発表やコメント、質問などの平常点（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすいゼミにするつもりです。また、皆でディスカッションしやすい環境にします。

【その他の重要事項】

少なくとも、1 年生で戦略論入門を、2 年生で経営戦略論 I/II とマーケティング・マネジメント論 I/II を受講することをお勧めします。

「がちりマンデー!!」（TBS テレビ、日曜日）、「カンブリヤ宮殿」（テレビ東京、木曜日）、「ガイアの夜明け」（テレビ東京、金曜日）のテレビ番組は、企業や経営者などを理解するのに役立ちますので、それらの番組を見ることをお勧めします。

【Outline (in English)】

This course deals with concepts and theories of strategic management and their applications to companies.

At the end of the course, students are expected to develop their perspective on what is a strategy, to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies and to develop their skills in oral communication.

Before each class meeting, students are expected to have read the relevant chapter(s) from the text and to prepare for their presentation. Your required study time is at least four hours for a class.

Final grade will be decided based on in-class contribution(100%).

MAN200FA

演習 2

吉田 健二

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】

経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。また、本や資料等の要約や自分の考えなどをパワーポイントを使って発表することなどによって、コミュニケーション力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業は、ゼミ生と話し合っ決めての予定ですが、今年は対面授業形式で行いたいと考えています。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業形式になるかもしれません。

授業に対するコメント等は授業内で紹介し、次回以降の授業に活かすようにします。

昨年は、CRM（顧客関係管理）で有名なグローバル IT 企業のセールスフォースから Tableau が活かせる領域や利用シーンの提案や Tableau の改善点の提案、大学生に Tableau を使ってもらうためのプロモーション活動という研究課題を頂き、グループごとに研究を行い、12 月に本社で社員の方々の前でプレゼンテーションを行いました。

今年はまだ決めていませんが、ゼミ生と相談して、何らかのグループ研究を行いたいと考えています。ただし、新型コロナウイルスの感染状況や協力してくれる企業の有無によっては、春学期と同様な授業内容になるかもしれません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期のゼミの説明	グループ研究の発表会とその準備等の説明
第 2 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（1）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 3 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（2）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 4 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（3）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 5 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（4）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 6 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（5）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 7 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（6）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 8 回	グループ研究の中間発表会	グループ研究の中間発表会に参加し、グループごとに発表を行う
第 9 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（7）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 10 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（8）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 11 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（9）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 12 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（10）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 13 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（11）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 14 回	グループ研究の発表会	グループ研究の発表会に参加し、グループごとに発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループごとにグループ研究の発表会の中間発表の準備をしてくること。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

企業から出された研究課題に応じて、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

グループ研究への参加や授業内での中間発表やコメント、企業への最終発表などの平常点（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

皆でディスカッションしやすい環境にします。

【その他の重要事項】

少なくとも、1 年生で戦略論入門を、2 年生で経営戦略論 I/II とマーケティング・マネジメント論 I/II を受講することをお勧めします。

「がっちりマンデー!!」（TBS テレビ、日曜日）、「カンパリア宮殿」（テレビ東京、木曜日）、「ガイアの夜明け」（テレビ東京、金曜日）のテレビ番組は、企業や経営者などを理解するのに役立ちますので、それらの番組を見ることをお勧めします。

【Outline (in English)】

This course deals with concepts and theories of strategic management and their applications to companies.

At the end of the course, students are expected to develop their perspective on what is a strategy, to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies and to develop their skills in oral communication.

Before each class meeting, every group will be expected to prepare for interim presentations of group study. Your required study time is at least four hours for a class.

Final grade will be decided based on in-class contribution and interim and final presentations of group study(100%).

MAN300FA

演習 3

吉田 健二

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】

経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。また、本や資料等の要約や自分の考えなどをパワーポイントを使って発表することなどによって、コミュニケーション力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業は、ゼミ生と話し合っ決めての予定ですが、今年は対面授業形式で行いたいと考えています。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業形式になるかもしれません。

授業に対するコメント等は授業内で紹介し、次回以降の授業に活かすようにします。

春学期は、広い意味での経営戦略の本を積極的に読む予定です。昨年は、『戦略の原点』（清水勝彦、日経 BP 社、2007 年）と『経営戦略の論理（第 4 版）』（伊丹敬之、日本経済新聞出版社、2012 年）という経営戦略の 2 冊の教科書を読みました。

担当者がパワーポイントを使って発表し、その後皆でディスカッションを行います。また、関連したビデオを見ることによって、理解を深めていきます。昨年は、富士フィルム HD やアイリスオーヤマ、クロネコヤマトの小倉昌男、本田宗一郎、スティーブ・ジョブズ、ラクスルのビデオを見ました。

できれば、企業の方をお招きして話を伺ったり、企業を訪問したいとも考えています。昨年は、TOTO とオカムラの 2 名の方々から会社概要や今までのキャリア、ゼミ生へのアドバイスなどについて話して頂きました。

夏休み中には、『小倉昌男 経営学』（小倉昌男、日経 BP 社、1999 年）や『魂の経営』（古森重隆、東洋経済新報社、2013 年）、『私の手が語る』（本田宗一郎、講談社、1985 年）の中からゼミ生各人が 1 冊を選んで、感想文を 800 字で書きました。

合宿については、ゼミ生と話し合っ決めての予定ですが、毎年夏に 2 泊 3 日で行っています。昨年は、9 月中旬に河口湖近くで、勉強とレクリエーションの両方を楽しみました。また、4 年生が後輩のために就職活動についてのアドバイスを行いました。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期のゼミの説明	ゼミの概要や進め方等の説明とテキストの決定
第 2 回	テキストの輪読（1）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 3 回	テキストの輪読（2）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 4 回	テキストの輪読（3）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 5 回	テキストの輪読（4）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 6 回	テキストの輪読（5）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 7 回	テキストの輪読（6）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 8 回	テキストの輪読（7）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 9 回	テキストの輪読（8）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 10 回	テキストの輪読（9）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 11 回	企業訪問	企業を訪問して、経営戦略等の説明を聞き、社内を見学する
第 12 回	テキストの輪読（10）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 13 回	テキストの輪読（11）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめと夏合宿の準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は、テキストを事前に読み、疑問点や自分の意見等を整理して行くこと。また、発表者は、発表の準備を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミ生と話し合っ決めての予定です。

【参考書】

- ① 網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011 年。
 - ② 清水勝彦『戦略の原点』日経 BP 社、2007 年。
 - ③ 三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2013 年。
 - ④ ジェイ・バーニー、ウィリアム・ヘスター『【新版】企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社、2021 年。
 - ⑤ マイケル・ヒット、デューエン・アイルランド、ロバート・ホスキソン『戦略経営論 <改訂新版>』センゲージラーニング、2014 年。
 - ⑥ デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002 年。
 - ⑦ M.E. ポーター『競争の戦略（新訂版）』ダイヤモンド社、1995 年。
 - ⑧ M.E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985 年。
- ①②④⑤⑥は経営戦略論のテキストで、③は経営戦略論の 100 年の流れを描いた本で、⑦と⑧は経営戦略論の古典といわれる本です。他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内での発表やコメント、質問などの平常点（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすいゼミにするつもりです。また、皆でディスカッションしやすい環境にします。

【その他の重要事項】

少なくとも、1 年生で戦略論入門を、2 年生で経営戦略論 I/II とマーケティング・マネジメント論 I/II を受講することをお勧めします。

「がちりマンデー!!」（TBS テレビ、日曜日）、「カンブリヤ宮殿」（テレビ東京、木曜日）、「ガイアの夜明け」（テレビ東京、金曜日）のテレビ番組は、企業や経営者などを理解するのに役立ちますので、それらの番組を見ることをお勧めします。

【Outline (in English)】

This course deals with concepts and theories of strategic management and their applications to companies.

At the end of the course, students are expected to develop their perspective on what is a strategy, to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies and to develop their skills in oral communication.

Before each class meeting, students are expected to have read the relevant chapter(s) from the text and to prepare for their presentation. Your required study time is at least four hours for a class.

Final grade will be decided based on in-class contribution(100%).

MAN300FA

演習 4

吉田 健二

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】

経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。また、本や資料等の要約や自分の考えなどをパワーポイントを使って発表することなどによって、コミュニケーション力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業は、ゼミ生と話し合っ決めての予定ですが、今年は対面授業形式で行いたいと考えています。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業形式になるかもしれません。

授業に対するコメント等は授業内で紹介し、次回以降の授業に活かすようにします。

昨年は、CRM（顧客関係管理）で有名なグローバル IT 企業のセールスフォースから Tableau が活かせる領域や利用シーンの提案や Tableau の改善点の提案、大学生に Tableau を使ってもらうためのプロモーション活動という研究課題を頂き、グループごとに研究を行い、12 月に本社で社員の方々の前でプレゼンテーションを行いました。

今年はまだ決めていませんが、ゼミ生と相談して、何らかのグループ研究を行いたいと考えています。ただし、新型コロナウイルスの感染状況や協力してくれる企業の有無によっては、春学期と同様な授業内容になるかもしれません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期のゼミの説明	グループ研究の発表会とその準備等の説明
第 2 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（1）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 3 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（2）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 4 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（3）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 5 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（4）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 6 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（5）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 7 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（6）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 8 回	グループ研究の中間発表会	グループ研究の中間発表会に参加し、グループごとに発表を行う
第 9 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（7）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 10 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（8）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 11 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（9）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 12 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（10）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 13 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（11）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 14 回	グループ研究の発表会	グループ研究の発表会に参加し、グループごとに発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループごとにグループ研究の発表会の中間発表の準備をしてくること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

企業から出された研究課題に応じて、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

グループ研究への参加や授業内での中間発表やコメント、企業への最終発表などの平常点（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

皆でディスカッションしやすい環境にします。

【その他の重要事項】

少なくとも、1 年生で戦略論入門を、2 年生で経営戦略論 I/II とマーケティング・マネジメント論 I/II を受講することをお勧めします。

「がっちりマンデー!!」（TBS テレビ、日曜日）、「カンパリア宮殿」（テレビ東京、木曜日）、「ガイアの夜明け」（テレビ東京、金曜日）のテレビ番組は、企業や経営者などを理解するのに役立ちますので、それらの番組を見ることをお勧めします。

【Outline (in English)】

This course deals with concepts and theories of strategic management and their applications to companies.

At the end of the course, students are expected to develop their perspective on what is a strategy, to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies and to develop their skills in oral communication.

Before each class meeting, every group will be expected to prepare for interim presentations of group study. Your required study time is at least four hours for a class.

Final grade will be decided based on in-class contribution and interim and final presentations of group study(100%).

MAN400FA

演習 5

吉田 健二

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】

経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。また、本や資料等の要約や自分の考えなどをパワーポイントを使って発表することなどによって、コミュニケーション力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業は、ゼミ生と話し合って決める予定ですが、今年は対面授業形式で行いたいと考えています。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業形式になるかもしれません。

授業に対するコメント等は授業内で紹介し、次回以降の授業に活かすようにします。

春学期は、広い意味での経営戦略の本を積極的に読む予定です。昨年は、『戦略の原点』（清水勝彦、日経 BP 社、2007 年）と『経営戦略の論理（第 4 版）』（伊丹敬之、日本経済新聞出版社、2012 年）という経営戦略の 2 冊の教科書を読みました。

担当者がパワーポイントを使って発表し、その後皆でディスカッションを行います。また、関連したビデオを見ることによって、理解を深めていきます。昨年は、富士フィルム HD やアイリスオーヤマ、クロネコヤマトの小倉昌男、本田宗一郎、スティーブ・ジョブズ、ラクスルのビデオを見ました。

できれば、企業の方をお招きして話を伺ったり、企業を訪問したいとも考えています。昨年は、TOTO とオカムラの 2 名の方々から会社概要や今までのキャリア、ゼミ生へのアドバイスなどについて話して頂きました。

夏休み中には、『小倉昌男 経営学』（小倉昌男、日経 BP 社、1999 年）や『魂の経営』（古森重隆、東洋経済新報社、2013 年）、『私の手が語る』（本田宗一郎、講談社、1985 年）の中からゼミ生各人が 1 冊を選んで、感想文を 800 字で書きました。

合宿については、ゼミ生と話し合って決める予定ですが、毎年夏に 2 泊 3 日で行っています。昨年は、9 月中旬に河口湖近くで、勉強とレクリエーションの両方を楽しみました。また、4 年生が後輩のために就職活動についてのアドバイスを行いました。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期のゼミの説明	ゼミの概要や進め方等の説明とテキストの決定
第 2 回	テキストの輪読（1）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 3 回	テキストの輪読（2）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 4 回	テキストの輪読（3）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 5 回	テキストの輪読（4）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 6 回	テキストの輪読（5）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 7 回	テキストの輪読（6）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 8 回	テキストの輪読（7）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 9 回	テキストの輪読（8）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 10 回	テキストの輪読（9）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 11 回	企業訪問	企業を訪問して、経営戦略等の説明を聞き、社内を見学する
第 12 回	テキストの輪読（10）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 13 回	テキストの輪読（11）	担当者の発表と全員によるディスカッション
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめと夏合宿の準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は、テキストを事前に読み、疑問点や自分の意見等を整理して行くこと。また、発表者は、発表の準備を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミ生と話し合って決める予定です。

【参考書】

- ① 網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011 年。
 - ② 清水勝彦『戦略の原点』日経 BP 社、2007 年。
 - ③ 三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2013 年。
 - ④ ジェイ・バーニー、ウィリアム・ヘスター『【新版】企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社、2021 年。
 - ⑤ マイケル・ヒット、デュエーン・アイルランド、ロバート・ホスキソン『戦略経営論 <改訂新版>』センゲージラーニング、2014 年。
 - ⑥ デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002 年。
 - ⑦ M.E. ポーター『競争の戦略（新訂版）』ダイヤモンド社、1995 年。
 - ⑧ M.E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985 年。
- ①②④⑤⑥は経営戦略論のテキストで、③は経営戦略論の 100 年の流れを描いた本で、⑦と⑧は経営戦略論の古典といわれる本です。他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内での発表やコメント、質問などの平常点（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすいゼミにするつもりです。また、皆でディスカッションしやすい環境にします。

【その他の重要事項】

少なくとも、1 年生で戦略論入門を、2 年生で経営戦略論 I/II とマーケティング・マネジメント論 I/II を受講することをお勧めします。

「がちりマンデー!!」（TBS テレビ、日曜日）、「カンブリア宮殿」（テレビ東京、木曜日）、「ガイアの夜明け」（テレビ東京、金曜日）のテレビ番組は、企業や経営者などを理解するのに役立ちますので、それらの番組を見ることをお勧めします。

【Outline (in English)】

This course deals with concepts and theories of strategic management and their applications to companies.

At the end of the course, students are expected to develop their perspective on what is a strategy, to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies and to develop their skills in oral communication.

Before each class meeting, students are expected to have read the relevant chapter(s) from the text and to prepare for their presentation. Your required study time is at least four hours for a class.

Final grade will be decided based on in-class contribution(100%).

MAN400FA

演習 6

吉田 健二

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】

経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。また、本や資料等の要約や自分の考えなどをパワーポイントを使って発表することなどによって、コミュニケーション力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業は、ゼミ生と話し合っ決めての予定ですが、今年は対面授業形式で行いたいと考えています。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業形式になるかもしれません。

授業に対するコメント等は授業内で紹介し、次回以降の授業に活かすようにします。

昨年は、CRM（顧客関係管理）で有名なグローバル IT 企業のセールスフォースから Tableau が活かせる領域や利用シーンの提案や Tableau の改善点の提案、大学生に Tableau を使ってもらうためのプロモーション活動という研究課題を頂き、グループごとに研究を行い、12 月に本社で社員の方々の前でプレゼンテーションを行いました。

今年はまだ決めていませんが、ゼミ生と相談して、何らかのグループ研究を行いたいと考えています。ただし、新型コロナウイルスの感染状況や協力してくれる企業の有無によっては、春学期と同様な授業内容になるかもしれません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期のゼミの説明	グループ研究の発表会とその準備等の説明
第 2 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（1）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 3 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（2）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 4 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（3）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 5 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（4）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 6 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（5）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 7 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（6）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 8 回	グループ研究の中間発表会	グループ研究の中間発表会に参加し、グループごとに発表を行う
第 9 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（7）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 10 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（8）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 11 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（9）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 12 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（10）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 13 回	グループ研究の発表会の準備と中間発表（11）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
第 14 回	グループ研究の発表会	グループ研究の発表会に参加し、グループごとに発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループごとにグループ研究の発表会の中間発表の準備をしてくること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

企業から出された研究課題に応じて、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

グループ研究への参加や授業内での中間発表やコメント、企業への最終発表などの平常点（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

皆でディスカッションしやすい環境にします。

【その他の重要事項】

少なくとも、1 年生で戦略論入門を、2 年生で経営戦略論 I/II とマーケティング・マネジメント論 I/II を受講することをお勧めします。

「がっちりマンデー!!」（TBS テレビ、日曜日）、「カンパリア宮殿」（テレビ東京、木曜日）、「ガイアの夜明け」（テレビ東京、金曜日）のテレビ番組は、企業や経営者などを理解するのに役立ちますので、それらの番組を見ることをお勧めします。

【Outline (in English)】

This course deals with concepts and theories of strategic management and their applications to companies.

At the end of the course, students are expected to develop their perspective on what is a strategy, to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies and to develop their skills in oral communication.

Before each class meeting, every group will be expected to prepare for interim presentations of group study. Your required study time is at least four hours for a class.

Final grade will be decided based on in-class contribution and interim and final presentations of group study(100%).

MAN200FA

演習 1

吉田 康伸

演習選択_演習 2 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

この演習は 1 時限のみです。2 時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

健康のマネジメント、スポーツにおけるリーダーシップという 2 つのテーマについて学び、理解を深める。

【到達目標】

- ①健康のマネジメント：自身の日常生活に役立てることができるよう、健康に関する様々な問題について調べ、その理解を深める。
- ②スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ストレス社会と称される現代において、ストレスに起因する生活習慣病が深刻な社会問題となっている。そこで、われわれが心身の健康を保持・増進するに当たり、運動や食事 (栄養)、休息 (睡眠)、あるいは喫煙が身体に及ぼす影響といった身近な問題を取り上げ、生涯健康であるためにはどうしたら良いかを考え、興味のある問題について調べ上げて各自に発表してもらい、皆で検討する。

また、スポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。

以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想のリーダー像 (3 年生) および健康の維持 (4 年生) に関するレポートを作成し、提出してもらう。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、役員決定	ガイダンスとゼミ長等の役員を決定する。
第 2 回	時事トピックス、教員による健康講義①	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康に関する講義を行う。
第 3 回	時事トピックス、教員による健康講義②	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康に関する講義を行う。
第 4 回	時事トピックス、教員によるスポーツ団体等の講義	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員によるスポーツ団体等に関する講義を行う。
第 5 回	発表 (健康)・ディスカッション①	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 6 回	発表 (健康)・ディスカッション②	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 7 回	発表 (健康)・ディスカッション③	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 8 回	発表 (健康)・ディスカッション④	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 9 回	発表 (スポーツ団体)・ディスカッション①	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 10 回	発表 (スポーツ団体)・ディスカッション②	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 11 回	発表 (スポーツ団体)・ディスカッション③	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 12 回	発表 (スポーツ団体)・ディスカッション④	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 13 回	発表 (スポーツ団体)・ディスカッション⑤	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 14 回	春学期総括、秋学期課題設定	春学期の総括と秋学期の課題設定を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 50 %、個人発表 20 %、レポート 30 % の配分として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べるができるような体制づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

- ・学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。ついては、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。
- ・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてスポーツリーダーシップの授業を行う。

【オフィス・アワー】

授業後に質問等を受け付ける。

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about two themes of health management and leadership in sports and deepen their understanding.

【Learning Objectives】

1. Deepen your understanding of various health issues so that you can use them in your own daily life.
2. Pick up an interested sports leader, find out about that person, and establish an ideal leader image.

【Learning activities outside of classroom】

Make an effort to collect knowledge with an interest in health and sports on a daily basis, and prepare materials so that you can make presentations in the spring and fall semesters. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/policy】

Comprehensive evaluation will be made as 50% of participation in activities during class, 20% of individual presentation, and 30% of reports.

MAN200FA

演習 2

吉田 康伸

演習選択_演習 2 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康のマネジメント、スポーツにおけるリーダーシップという 2 つのテーマについて学び、理解を深める。

【到達目標】

①健康のマネジメント：自身の日常生活に役立てることができるよう、健康に関する様々な問題について調べ、その理解を深める。

②スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ストレス社会と称される現代において、ストレスに起因する生活習慣病が深刻な社会問題となっている。そこで、われわれが心身の健康を保持・増進するに当たり、運動や食事（栄養）、休息（睡眠）、あるいは喫煙が身体に及ぼす影響といった身近な問題を取り上げ、生涯健康であるためにはどうしたら良いかを考え、興味のある問題について調べ上げて各自に発表してもらい、皆で検討する。

また、スポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。

以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想のリーダー像（3 年生）および健康の維持（4 年生）に関するレポートを作成し、提出してもらう。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期授業ガイダンス	秋学期授業ガイダンスを行う中で、レポートの概要を発表する。
第 2 回	スポーツ界における問題定義・ディスカッション①	教員よりスポーツに関する問題定義をした後、全体でディスカッションをする。
第 3 回	スポーツ界における問題定義・ディスカッション②	教員よりスポーツに関する問題定義をした後、全体でディスカッションをする。
第 4 回	スポーツ界における問題定義・ディスカッション③	教員よりスポーツに関する問題定義をした後、全体でディスカッションをする。
第 5 回	発表（トップアスリート）・ディスカッション①	4 年生のトップアスリートに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 6 回	発表（トップアスリート）・ディスカッション②	4 年生のトップアスリートに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 7 回	発表（トップアスリート）・ディスカッション③	4 年生のトップアスリートに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 8 回	発表（トップアスリート）・ディスカッション④	4 年生のトップアスリートに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 9 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション①	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 10 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション②	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 11 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション③	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 12 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション④	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。

第 13 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション⑤	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 14 回	授業総括とレポート提出	授業の総括を行った後、レポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 50 %、個人発表 20 %、レポート 30 % の配分として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べるような体制づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

・学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。については、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。

・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてスポーツリーダーシップの授業を行う。

【オフィス・アワー】

授業後に質問等を受け付ける。

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about two themes of health management and leadership in sports and deepen their understanding.

【Learning Objectives】

1. Deepen your understanding of various health issues so that you can use them in your own daily life.

2. Pick up an interested sports leader, find out about that person, and establish an ideal leader image.

【Learning activities outside of classroom】

Make an effort to collect knowledge with an interest in health and sports on a daily basis, and prepare materials so that you can make presentations in the spring and fall semesters. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/policy】

Comprehensive evaluation will be made as 50% of participation in activities during class, 20% of individual presentation, and 30% of reports.

MAN300FA

演習 3

吉田 康伸

演習選択_演習 3 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康のマネジメント、スポーツにおけるリーダーシップという 2 つのテーマについて学び、理解を深める。

【到達目標】

- ①健康のマネジメント：自身の日常生活に役立てることができるよう、健康に関する様々な問題について調べ、その理解を深める。
②スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ストレス社会と称される現代において、ストレスに起因する生活習慣病が深刻な社会問題となっている。そこで、われわれが心身の健康を保持・増進するに当たり、運動や食事（栄養）、休息（睡眠）、あるいは喫煙が身体に及ぼす影響といった身近な問題を取り上げ、生涯健康であるためにはどうしたら良いかを考え、興味のある問題について調べ上げて各自に発表してもらい、皆で検討する。

また、スポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。

以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想的リーダー像（3 年生）および健康の維持（4 年生）に関するレポートを作成し、提出してもらう。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、役員決定	ガイダンスとゼミ長等の役員を決定する。
第 2 回	時事トピックス、教員による健康講義①	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康に関する講義を行う。
第 3 回	時事トピックス、教員による健康講義②	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康に関する講義を行う。
第 4 回	時事トピックス、教員によるスポーツ団体等の講義	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員によるスポーツ団体等に関する講義を行う。
第 5 回	発表（健康）・ディスカッション①	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 6 回	発表（健康）・ディスカッション②	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 7 回	発表（健康）・ディスカッション③	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 8 回	発表（健康）・ディスカッション④	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 9 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション①	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 10 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション②	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 11 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション③	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 12 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション④	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 13 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション⑤	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 14 回	春学期総括、秋学期課題設定	春学期の総括と秋学期の課題設定を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 50 %、個人発表 20 %、レポート 30 % の配分として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べるような体制づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

- ・学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。ついては、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。
- ・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてスポーツリーダーシップの授業を行う。

【オフィス・アワー】

授業後に質問等を受け付ける。

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about two themes of health management and leadership in sports and deepen their understanding.

【Learning Objectives】

1. Deepen your understanding of various health issues so that you can use them in your own daily life.

2. Pick up an interested sports leader, find out about that person, and establish an ideal leader image.

【Learning activities outside of classroom】

Make an effort to collect knowledge with an interest in health and sports on a daily basis, and prepare materials so that you can make presentations in the spring and fall semesters. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/policy】

Comprehensive evaluation will be made as 50% of participation in activities during class, 20% of individual presentation, and 30% of reports.

MAN300FA

演習 4

吉田 康伸

演習選択_演習 3 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康のマネジメント、スポーツにおけるリーダーシップという 2 つのテーマについて学び、理解を深める。

【到達目標】

①健康のマネジメント：自身の日常生活に役立てることができるよう、健康に関する様々な問題について調べ、その理解を深める。

②スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ストレス社会と称される現代において、ストレスに起因する生活習慣病が深刻な社会問題となっている。そこで、われわれが心身の健康を保持・増進するに当たり、運動や食事（栄養）、休息（睡眠）、あるいは喫煙が身体に及ぼす影響といった身近な問題を取り上げ、生涯健康であるためにはどうしたら良いかを考え、興味のある問題について調べ上げて各自に発表してもらい、皆で検討する。

また、スポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。

以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想のリーダー像（3 年生）および健康の維持（4 年生）に関するレポートを作成し、提出してもらう。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期授業ガイダンス	秋学期授業ガイダンスを行う中で、レポートの概要を発表する。
第 2 回	スポーツ界における問題定義・ディスカッション①	教員よりスポーツに関する問題定義をした後、全体でディスカッションをする。
第 3 回	スポーツ界における問題定義・ディスカッション②	教員よりスポーツに関する問題定義をした後、全体でディスカッションをする。
第 4 回	スポーツ界における問題定義・ディスカッション③	教員よりスポーツに関する問題定義をした後、全体でディスカッションをする。
第 5 回	発表（トップアスリート）・ディスカッション①	4 年生のトップアスリートに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 6 回	発表（トップアスリート）・ディスカッション②	4 年生のトップアスリートに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 7 回	発表（トップアスリート）・ディスカッション③	4 年生のトップアスリートに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 8 回	発表（トップアスリート）・ディスカッション④	4 年生のトップアスリートに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 9 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション①	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 10 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション②	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 11 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション③	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 12 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション④	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。

第 13 回 発表（スポーツリーダー）・ディスカッション⑤

3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。

第 14 回 授業総括とレポート提出

授業の総括を行った後、レポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 50 %、個人発表 20 %、レポート 30 % の配分として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べるような体制づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

・学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。については、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。

・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてスポーツリーダーシップの授業を行う。

【オフィス・アワー】

授業後に質問等を受け付ける。

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about two themes of health management and leadership in sports and deepen their understanding.

【Learning Objectives】

1. Deepen your understanding of various health issues so that you can use them in your own daily life.

2. Pick up an interested sports leader, find out about that person, and establish an ideal leader image.

【Learning activities outside of classroom】

Make an effort to collect knowledge with an interest in health and sports on a daily basis, and prepare materials so that you can make presentations in the spring and fall semesters. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/policy】

Comprehensive evaluation will be made as 50% of participation in activities during class, 20% of individual presentation, and 30% of reports.

MAN400FA

演習 5

吉田 康伸

演習選択_演習 4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康のマネジメント、スポーツにおけるリーダーシップという 2 つのテーマについて学び、理解を深める。

【到達目標】

- ①健康のマネジメント：自身の日常生活に役立てることができるよう、健康に関する様々な問題について調べ、その理解を深める。
②スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ストレス社会と称される現代において、ストレスに起因する生活習慣病が深刻な社会問題となっている。そこで、われわれが心身の健康を保持・増進するに当たり、運動や食事（栄養）、休息（睡眠）、あるいは喫煙が身体に及ぼす影響といった身近な問題を取り上げ、生涯健康であるためにはどうしたら良いかを考え、興味のある問題について調べ上げて各自に発表してもらい、皆で検討する。

また、スポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。

以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想的リーダー像（3 年生）および健康の維持（4 年生）に関するレポートを作成し、提出してもらう。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、役員決定	ガイダンスとゼミ長等の役員を決定する。
第 2 回	時事トピックス、教員による健康講義①	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康に関する講義を行う。
第 3 回	時事トピックス、教員による健康講義②	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康に関する講義を行う。
第 4 回	時事トピックス、教員によるスポーツ団体等の講義	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員によるスポーツ団体等に関する講義を行う。
第 5 回	発表（健康）・ディスカッション①	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 6 回	発表（健康）・ディスカッション②	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 7 回	発表（健康）・ディスカッション③	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 8 回	発表（健康）・ディスカッション④	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 9 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション①	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 10 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション②	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 11 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション③	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 12 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション④	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 13 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション⑤	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 14 回	春学期総括、秋学期課題設定	春学期の総括と秋学期の課題設定を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 50 %、個人発表 20 %、レポート 30 % の配分として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べるような体制づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

- ・学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。ついては、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。
- ・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてスポーツリーダーシップの授業を行う。

【オフィス・アワー】

授業後に質問等を受け付ける。

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about two themes of health management and leadership in sports and deepen their understanding.

【Learning Objectives】

1. Deepen your understanding of various health issues so that you can use them in your own daily life.

2. Pick up an interested sports leader, find out about that person, and establish an ideal leader image.

【Learning activities outside of classroom】

Make an effort to collect knowledge with an interest in health and sports on a daily basis, and prepare materials so that you can make presentations in the spring and fall semesters. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/policy】

Comprehensive evaluation will be made as 50% of participation in activities during class, 20% of individual presentation, and 30% of reports.

MAN400FA

演習 6

吉田 康伸

演習選択_演習 4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康のマネジメント、スポーツにおけるリーダーシップという 2 つのテーマについて学び、理解を深める。

【到達目標】

①健康のマネジメント：自身の日常生活に役立てることができるよう、健康に関する様々な問題について調べ、その理解を深める。

②スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ストレス社会と称される現代において、ストレスに起因する生活習慣病が深刻な社会問題となっている。そこで、われわれが心身の健康を保持・増進するに当たり、運動や食事（栄養）、休息（睡眠）、あるいは喫煙が身体に及ぼす影響といった身近な問題を取り上げ、生涯健康であるためにはどうしたら良いかを考え、興味のある問題について調べ上げて各自に発表してもらい、皆で検討する。

また、スポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。

以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想のリーダー像（3 年生）および健康の維持（4 年生）に関するレポートを作成し、提出してもらう。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期授業ガイダンス	秋学期授業ガイダンスを行う中で、レポートの概要を発表する。
第 2 回	スポーツ界における問題定義・ディスカッション①	教員よりスポーツに関する問題定義をした後、全体でディスカッションをする。
第 3 回	スポーツ界における問題定義・ディスカッション②	教員よりスポーツに関する問題定義をした後、全体でディスカッションをする。
第 4 回	スポーツ界における問題定義・ディスカッション③	教員よりスポーツに関する問題定義をした後、全体でディスカッションをする。
第 5 回	発表（トップアスリート）・ディスカッション①	4 年生のトップアスリートに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 6 回	発表（トップアスリート）・ディスカッション②	4 年生のトップアスリートに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 7 回	発表（トップアスリート）・ディスカッション③	4 年生のトップアスリートに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 8 回	発表（トップアスリート）・ディスカッション④	4 年生のトップアスリートに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 9 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション①	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 10 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション②	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 11 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション③	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 12 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション④	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。

第 13 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション⑤	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 14 回	授業総括とレポート提出	授業の総括を行った後、レポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 50 %、個人発表 20 %、レポート 30 % の配分として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べるような体制づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

・学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。については、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。

・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてスポーツリーダーシップの授業を行う。

【オフィス・アワー】

授業後に質問等を受け付ける。

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about two themes of health management and leadership in sports and deepen their understanding.

【Learning Objectives】

1.Deepen your understanding of various health issues so that you can use them in your own daily life.

2.Pick up an interested sports leader, find out about that person, and establish an ideal leader image.

【Learning activities outside of classroom】

Make an effort to collect knowledge with an interest in health and sports on a daily basis, and prepare materials so that you can make presentations in the spring and fall semesters. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/policy】

Comprehensive evaluation will be made as 50% of participation in activities during class, 20% of individual presentation, and 30% of reports.

MAN200FA

演習 1

李 瑞雪

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業のロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）の基礎的な理論と管理手法、分析手法を学びます。

【到達目標】

1. 文献輪読と討論を通じて企業のロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）に関する基礎知識を習得します。
2. ロジスティクスのマネジメントとオペレーションの現場に対する観察と実地調査を通じて、理論・概念の理解を深めるとともに、実態に対する把握力と分析力を養います。
3. 「真理の探究」に努めると同時に、ゼミ仲間の友情を涵養し、将来にわたるネットワークを築きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期においては、ロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）の専門書と事例集をステップ・バイ・ステップで輪読し、討論します。また、フィールド調査の基本技法を学び、また調査企画を行います。秋学期では、企業のロジスティクス組織、ロジスティクス施設を対象とするフィールド調査を実施します。そして、中間報告、追加調査、最終報告というプロセスを踏んで調査レポートを仕上げていきます。なお、この一連の活動はグループ研究の形をとります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方を説明し、輪読の担当割り当て、スケジュールの策定、グループ編成を行い、資料（教科書・専門書など）を準備します。
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法、データベース利用などを学び、文献引用のルールを理解します。
第 3 回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	ビジネス・ロジスティクス・マネジメントの基本理論を学びます。
第 4 回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	輸送管理の基礎知識を学びます。
第 5 回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	保管と在庫管理の基礎知識を学びます。
第 6 回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	ロジスティクス・ネットワーク設計の基礎知識を学びます。
第 7 回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーン戦略論を学びます。
第 8 回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの組織と人材に関する理論を学びます。
第 9 回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの統合的オペレーション計画（integrated operations planning）の基礎知識を学びます。
第 10 回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの業績測定（performance measurement）の基礎知識を学びます。
第 11 回	企業見学	企業のロジスティクス・センターを見学し、物流・ロジスティクスの現場を観察することを通じて、物流管理・サプライチェーンマネジメントについての理解を深めます。

第 12 回 フィールドリサーチ方法の習得

フィールドリサーチ手法の基本を学びます。とりわけ調査計画の策定、調査対象の選定、聞き取りの作法について学習します。

第 13 回 フィールドリサーチ方法の習得

フィールドリサーチで得た情報の整理・分析の手法を学びます。

第 14 回 企業調査の計画作り

秋学期に実施する企業調査の具体的な計画を設計・検討し、グループごとに企画書をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 指定された文献内容は必ず事前に読んでおいてください。
2. 割り当てられる部分は必ず発表レジュメを作成しておいてください。
3. 企業調査の実施と並行して、調査対象に関連する既存文献を積極的に収集しレビューしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読文献はゼミの 1 回目で提示します。

【参考書】

Supply Chain Logistics Management, 3rd edition, by D. J. Bowersox, D. J. Closs, and M. B. Cooper, McGraw-Hill Irwin
Supply Chain Strategy, by E. H. Frazelle, The McGraw-Hill Companies, Inc.

『業界別 物流管理と SCM の実践』李瑞雪・安藤康行編著、ミネルヴァ書房
『ロジスティクス概論：基礎から学ぶシステムと経営』苦瀬博仁編著、白桃書房
『ケース・スタディの方法』（第 2 版）Robert K. Yin 著、千倉書房
『月刊 ロジスティクス・ビジネス』各号

【成績評価の方法と基準】

輪読の発表とディスカッション参加（30 %）、企業調査の参加・貢献（30 %）、調査レポートの水準（40 %）を総合して評価します。3 回以上の無断欠席者には成績をつけません。

【学生の意見等からの気づき】

就活繁忙期に柔軟かつ効果的なゼミ運営を行います。

【学生が準備すべき機器他】

輪読の発表資料と企業調査の発表資料は PPT（パワーポイント）にしたうえで、プロジェクターを使用してプレゼンを行います。

【その他の重要事項】

各グループの企業調査とは別途に、ゼミ全体の企業見学を実施します。ゼミ合宿や国内のインカレ、海外の大学と合同ゼミなどの機会を利用して、論文を発表することを予定しています。主な関連科目として、経営戦略論 I/II、日本の物流と企業経営、国際経営戦略論 I/II、戦略的意思決定論 I/II、経営分析 I/II、III/IV、日本経営論 I/II、経営組織論 I/II、マーケティング論 I/II、経営管理論 I/IIなどが挙げられます。

【合宿】

国内合宿と海外合宿を 1 回ずつ行います。

【合同論文発表会】

海外大学のゼミと合同論文発表会を行います。

【Outline (in English)】

In this class, we will learn the fundamental theories, management method, and analytical method related with business logistics strategy, business logistics management, and supply chain management (SCM). Your overall grade in the class will be decided based on the following. Contribution to the presentation and discussion: 30%, contribution to the field research: 30%, contribution to the final research report: 40%.

MAN200FA

演習 2

李 瑞雪

演習選択_演習 2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今学期のゼミでは、日本における共同物流とロジスティクス・クラスターについて調査研究を進める。この二つのトピックに関する文献レビューと事例研究を通して、日本企業の共同物流事業の実態と課題を把握し、ソリューションを検討する。また、先行研究の関連理論に依拠して、日本におけるロジスティクス・クラスターの発展状況と役割を分析し、クラスター活用のビジネスモデルを検討する。

【到達目標】

共同物流とロジスティクス・クラスターについての調査研究を通して、以下の学習目標に到達することを旨とする。

1. 企業のロジスティクス/サプライチェーンの戦略、組織、オペレーションを理解し、一定の分析能力とソリューション考案能力を有する。
2. 経済と企業経営におけるロジスティクスの重要性を理解する。
3. 企業間の業務提携・水平的コラボレーション、物流企業と物流施設の集積などに関わる概念や理論を把握する。
4. 特定の課題をめぐる文献を調べ、まとめることができるようになる。
5. フィールド調査の基本的な作法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

共同物流班とロジスティクス・クラスター班の2チームに分けて調査研究を進める。前半の数週間では先行文献（論文、報告書、記事、事例など）を調べゼミでの発表とディスカッションによって具体的な研究課題を抽出する。後半では、フィールド調査を計画・実施し、他大学との合同ゼミ等の場で調査発見を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の活動の振り返り、夏休みの読書ノーとの確認と情報交換、秋学期の活動計画の検討と決定、グループ分け
第 2 回	先行文献の調べ、発表、討論	共同物流とロジスティクスクラスターに関わる既存論文や報告書、報道記事などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第 3 回	先行文献の調べ、発表、討論	共同物流とロジスティクスクラスターに関わる既存論文や報告書、報道記事などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第 4 回	先行文献の調べ、発表、討論	共同物流とロジスティクスクラスターに関わる既存論文や報告書、報道記事などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第 5 回	先行文献の調べ、発表、討論	共同物流とロジスティクスクラスターに関わる事例研究を収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第 6 回	先行文献の調べ、発表、討論	共同物流とロジスティクスクラスターに関わる事例研究を収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第 7 回	研究課題の具体化と調査計画の策定	先行研究のレビューを踏まえて、各班の具体的な研究課題をディスカッションする。
第 8 回	研究課題の具体化と調査計画の策定	各班の具体的な研究課題を選定し、フィールド調査の計画を検討する。
第 9 回	フィールド調査の準備と実施	各班のフィールド調査の準備状況と実施状況を報告し、アドバイスを受ける。
第 10 回	フィールド調査の準備と実施	各班のフィールド調査の準備状況と実施状況を報告し、アドバイスを受ける。
第 11 回	フィールド調査の実施	各班のフィールド調査の実施状況を報告し、アドバイスを受ける。
第 12 回	フィールド調査の実施	各班のフィールド調査による発見を発表し、追加調査の計画を検討する。
第 13 回	フィールド調査からの発見事実の分析	調査の発見事実の分析結果を発表し、レポート作成に向けてアドバイスを受ける。

第 14 回 レポートのドラフト発表 各班の調査レポートのドラフトを発表し、アドバイスを受ける。春休み期間に予定する他大学との合同ゼミでの研究発表に向けて準備する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミの時間では文献サーベイやフィールド調査の進捗状況を確認し、ディスカッションを行うとともに、アドバイスを受けるが、大半の作業はゼミ時間外で遂行しなければならない。そのための十分な時間を確保することが必須である。なお、各班は毎週、ゼミ時間以外に適宜打ち合わせの機会を設けることを強く勧める。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業資料を HOPPII にアップロードする。

【参考書】

ゼミで適宜参考文献を案内する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの発表・ディスカッションへの貢献（40%）、最終レポートへの貢献（60%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII を利用するため、パソコン等を準備してください。

【その他の重要事項】

なし

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

In the fall semester seminar, research on joint logistics and logistics clusters in Japan will be carried out. Through the survey of previous literature and case studies related to these two topics, students will be expected to understand the actual situation and challenges of the joint logistics of Japanese companies and logistics clusters in Japan. This course will also help students have basic literature survey skills and use basic field-research methodology. By the end of the fall semester, students will be required to complete research reports based on their previous literature survey and fieldwork. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Contribution to the presentation and discussion: 40%, Contribution to the research report: 60%.

MAN300FA

演習 3

李 瑞雪

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業のロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）の基礎的な理論と管理手法、分析手法を学びます。

【到達目標】

1. 文献輪読と討論を通じて企業のロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）に関する基礎知識を習得します。
2. ロジスティクスのマネジメントとオペレーションの現場に対する観察と実地調査を通じて、理論・概念の理解を深めるとともに、実態に対する把握力と分析力を養います。
3. 「真理の探究」に努めると同時に、ゼミ仲間の友情を涵養し、将来にわたるネットワークを築きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期においては、ロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）の専門書と事例集をステップ・バイ・ステップで輪読し、討論します。また、フィールド調査の基本技法を学び、また調査企画を行います。秋学期では、企業のロジスティクス組織、ロジスティクス施設を対象とするフィールド調査を実施します。そして、中間報告、追加調査、最終報告というプロセスを踏んで調査レポートを仕上げていきます。なお、この一連の活動はグループ研究の形をとります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方を説明し、輪読の担当割り当て、スケジュールの策定、グループ編成を行い、資料（教科書・専門書など）を準備します。
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法、データベース利用などを学び、文献引用のルールを理解します。
第 3 回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	ビジネス・ロジスティクス・マネジメントの基本理論を学びます。
第 4 回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	輸送管理の基礎知識を学びます。
第 5 回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	保管と在庫管理の基礎知識を学びます。
第 6 回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	ロジスティクス・ネットワーク設計の基礎知識を学びます。
第 7 回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーン戦略論を学びます。
第 8 回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの組織と人材に関する理論を学びます。
第 9 回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの統合的オペレーション計画（integrated operations planning）の基礎知識を学びます。
第 10 回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの業績測定（performance measurement）の基礎知識を学びます。
第 11 回	企業見学	企業のロジスティクス・センターを見学し、物流・ロジスティクスの現場を観察することを通じて、物流管理・サプライチェーンマネジメントについての理解を深めます。

第 12 回 フィールドリサーチ方法の習得

フィールドリサーチ手法の基本を学びます。とりわけ調査計画の策定、調査対象の選定、聞き取りの作法について学習します。

第 13 回 フィールドリサーチ方法の習得

フィールドリサーチで得た情報の整理・分析の手法を学びます。

第 14 回 企業調査の計画作り

企業調査の計画作り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 指定された文献内容は必ず事前に読んでおいてください。
2. 割り当てられる部分は必ず発表レジュメを作成しておいてください。
3. 企業調査の実施と並行して、調査対象に関連する既存文献を積極的に収集しレビューしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読文献はゼミの 1 回目で提示します。

【参考書】

Supply Chain Logistics Management, 3rd edition, by D. J. Bowersox, D. J. Closs, and M. B. Cooper, McGraw-Hill Irwin

Supply Chain Strategy, by E. H. Frazelle, The McGraw-Hill Companies, Inc.

『業界別 物流管理と SCM の実践』李瑞雪・安藤康行編著、ミネルヴァ書房

『ロジスティクス概論：基礎から学ぶシステムと経営』苦瀬博仁編著、白桃書房

『ケース・スタディの方法』（第 2 版）Robert K. Yin 著、千倉書房

『月刊 ロジスティクス・ビジネス』各号

【成績評価の方法と基準】

輪読の発表とディスカッション参加（30 %）、企業調査の参加・貢献（30 %）、調査レポートの水準（40 %）を総合して評価します。3 回以上の無断欠席者には成績をつけません。

【学生の意見等からの気づき】

就活繁忙期に柔軟かつ効果的なゼミ運営を行います。

【学生が準備すべき機器他】

輪読の発表資料と企業調査の発表資料は PPT（パワーポイント）にしたうえで、プロジェクターを使用してプレゼンを行います。

【その他の重要事項】

各グループの企業調査とは別途に、ゼミ全体の企業見学を実施します。ゼミ合宿や国内のインカレ、海外の大学と合同ゼミなどの機会を利用して、論文を発表することを予定しています。

主な関連科目として、経営戦略論 I/II、日本の物流と企業経営、国際経営戦略論 I/II、戦略的意思決定論 I/II、経営分析 I/II、III/IV、日本経営論 I/II、経営組織論 I/II、マーケティング論 I/II、経営管理論 I/IIなどが挙げられます。

【合宿】

国内合宿と海外合宿を 1 回ずつ行います。

【合同論文発表会】

海外大学のゼミと合同論文発表会を行います。

【Outline (in English)】

In this class, we will learn the fundamental theories, management method, and analytical method related with business logistics strategy, business logistics management, and supply chain management (SCM). Your overall grade in the class will be decided based on the following. Contribution to the presentation and discussion: 30%, contribution to the field research: 30%, contribution to the final research report: 40%.

MAN300FA

演習 4

李 瑞雪

演習選択_演習 3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今学期のゼミでは、日本における共同物流とロジスティクス・クラスターについて調査研究を進める。この二つのトピックに関する文献レビューと事例研究を通して、日本企業の共同物流事業の実態と課題を把握し、ソリューションを検討する。また、先行研究の関連理論に依拠して、日本におけるロジスティクス・クラスターの発展状況と役割を分析し、クラスター活用のビジネスモデルを検討する。

【到達目標】

共同物流とロジスティクス・クラスターについての調査研究を通して、以下の学習目標に到達することを旨とする。

1. 企業のロジスティクス/サプライチェーンの戦略、組織、オペレーションを理解し、一定の分析能力とソリューション考案能力を有する。
2. 経済と企業経営におけるロジスティクスの重要性を理解する。
3. 企業間の業務提携・水平的コラボレーション、物流企業と物流施設の集積などに関わる概念や理論を把握する。
4. 特定の課題をめぐり文献を調べ、まとめることができるようになる。
5. フィールド調査の基本的な作法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

共同物流班とロジスティクス・クラスター班の2チームに分けて調査研究を進める。前半の数週間では先行文献（論文、報告書、記事、事例など）を調べゼミでの発表とディスカッションによって具体的な研究課題を抽出する。後半では、フィールド調査を計画・実施し、他大学との合同ゼミ等の場で調査発見を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の活動の振り返り、夏休みの読書ノーとの確認と情報交換、秋学期の活動計画の検討と決定、グループ分け
第 2 回	先行文献の調べ、発表、討論	共同物流とロジスティクスクラスターに関わる既存論文や報告書、報道記事などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第 3 回	先行文献の調べ、発表、討論	共同物流とロジスティクスクラスターに関わる既存論文や報告書、報道記事などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第 4 回	先行文献の調べ、発表、討論	共同物流とロジスティクスクラスターに関わる既存論文や報告書、報道記事などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第 5 回	先行文献の調べ、発表、討論	共同物流とロジスティクスクラスターに関わる事例研究を収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第 6 回	先行文献の調べ、発表、討論	共同物流とロジスティクスクラスターに関わる事例研究を収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第 7 回	研究課題の具体化と調査計画の策定	先行研究のレビューを踏まえて、各班の具体的な研究課題をディスカッションする。
第 8 回	研究課題の具体化と調査計画の策定	各班の具体的な研究課題を選定し、フィールド調査の計画を検討する。
第 9 回	フィールド調査の準備と実施	各班のフィールド調査の準備状況と実施状況を報告し、アドバイスを受ける。
第 10 回	フィールド調査の準備と実施	各班のフィールド調査の準備状況と実施状況を報告し、アドバイスを受ける。
第 11 回	フィールド調査の実施	各班のフィールド調査の実施状況を報告し、アドバイスを受ける。
第 12 回	フィールド調査の実施	各班のフィールド調査による発見を発表し、追加調査の計画を検討する。
第 13 回	フィールド調査からの発見事実の分析	調査の発見事実の分析結果を発表し、レポート作成に向けてアドバイスを受ける。

第 14 回 レポートのドラフト発表 各班の調査レポートのドラフトを発表し、アドバイスを受ける。春休み期間に予定する他大学との合同ゼミでの研究発表に向けて準備する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミの時間では文献サーベイやフィールド調査の進捗状況を確認し、ディスカッションを行うとともに、アドバイスを受けるが、大半の作業はゼミ時間外で遂行しなければならない。そのための十分な時間を確保することが必須である。なお、各班は毎週、ゼミ時間以外に適宜打ち合わせの機会を設けることを強く勧める。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業資料を HOPPII にアップロードする。

【参考書】

ゼミで適宜参考文献を案内する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの発表・ディスカッションへの貢献（40%）、最終レポートへの貢献（60%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII を利用するため、パソコン等を準備してください。

【その他の重要事項】

なし

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

In the fall semester seminar, research on joint logistics and logistics clusters in Japan will be carried out. Through the survey of previous literature and case studies related to these two topics, students will be expected to understand the actual situation and challenges of the joint logistics of Japanese companies and logistics clusters in Japan. This course will also help students have basic literature survey skills and use basic field-research methodology. By the end of the fall semester, students will be required to complete research reports based on their previous literature survey and fieldwork. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Contribution to the presentation and discussion: 40%, Contribution to the research report: 60%.

MAN400FA

演習 5

李 瑞雪

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業のロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）の基礎的な理論と管理手法、分析手法を学びます。

【到達目標】

1. 文献輪読と討論を通じて企業のロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）に関する基礎知識を習得します。
2. ロジスティクスのマネジメントとオペレーションの現場に対する観察と実地調査を通じて、理論・概念の理解を深めるとともに、実態に対する把握力と分析力を養います。
3. 「真理の探究」に努めると同時に、ゼミ仲間の友情を涵養し、将来にわたるネットワークを築きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期においては、ロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）の専門書と事例集をステップ・バイ・ステップで輪読し、討論します。また、フィールド調査の基本技法を学び、また調査企画を行います。秋学期では、企業のロジスティクス組織、ロジスティクス施設を対象とするフィールド調査を実施します。そして、中間報告、追加調査、最終報告というプロセスを踏んで調査レポートを仕上げていきます。なお、この一連の活動はグループ研究の形をとります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方を説明し、輪読の担当割り当て、スケジュールの策定、グループ編成を行い、資料（教科書・専門書など）を準備します。
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法、データベース利用などを学び、文献引用のルールを理解します。
第 3 回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	ビジネス・ロジスティクス・マネジメントの基本理論を学びます。
第 4 回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	輸送管理の基礎知識を学びます。
第 5 回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	保管と在庫管理の基礎知識を学びます。
第 6 回	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	ロジスティクス・ネットワーク設計の基礎知識を学びます。
第 7 回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーン戦略論を学びます。
第 8 回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの組織と人材に関する理論を学びます。
第 9 回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの統合的オペレーション計画（integrated operations planning）の基礎知識を学びます。
第 10 回	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの業績測定（performance measurement）の基礎知識を学びます。
第 11 回	企業見学	企業のロジスティクス・センターを見学し、物流・ロジスティクスの現場を観察することを通じて、物流管理・サプライチェーンマネジメントについての理解を深めます。

第 12 回 フィールドリサーチ方法の習得

フィールドリサーチ手法の基本を学びます。とりわけ調査計画の策定、調査対象の選定、聞き取りの作法について学習します。

第 13 回 フィールドリサーチ方法の習得

フィールドリサーチで得た情報の整理・分析の手法を学びます。

第 14 回 企業調査の計画作り

企業調査の計画を設計・検討し、グループごとに企画書をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 指定された文献内容は必ず事前に読んでおいてください。
2. 割り当てられる部分は必ず発表レジュメを作成しておいてください。
3. 企業調査の実施と並行して、調査対象に関連する既存文献を積極的に収集しレビューしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読文献はゼミの 1 回目で提示します。

【参考書】

Supply Chain Logistics Management, 3rd edition, by D. J. Bowersox, D. J. Closs, and M. B. Cooper, McGraw-Hill Irwin

Supply Chain Strategy, by E. H. Frazelle, The McGraw-Hill Companies, Inc.

『業界別 物流管理と SCM の実践』李瑞雪・安藤康行編著、ミネルヴァ書房

『ロジスティクス概論：基礎から学ぶシステムと経営』苦瀬博仁編著、白桃書房

『ケース・スタディの方法』（第 2 版）Robert K. Yin 著、千倉書房

『月刊 ロジスティクス・ビジネス』各号

【成績評価の方法と基準】

輪読の発表とディスカッション参加（30 %）、企業調査の参加・貢献（30 %）、調査レポートの水準（40 %）を総合して評価します。3 回以上の無断欠席者には成績をつけません。

【学生の意見等からの気づき】

就活繁忙期に柔軟かつ効果的なゼミ運営を行います。

【学生が準備すべき機器他】

輪読の発表資料と企業調査の発表資料は PPT（パワーポイント）にしたうえで、プロジェクターを使用してプレゼンを行います。

【その他の重要事項】

各グループの企業調査とは別途に、ゼミ全体の企業見学を実施します。ゼミ合宿や国内のインカレ、海外の大学と合同ゼミなどの機会を利用して、論文を発表することを予定しています。

主な関連科目として、経営戦略論 I/II、日本の物流と企業経営、国際経営戦略論 I/II、戦略的意思決定論 I/II、経営分析 I/II、III/IV、日本経営論 I/II、経営組織論 I/II、マーケティング論 I/II、経営管理論 I/IIなどが挙げられます。

【合宿】

国内合宿と海外合宿を 1 回ずつ行います。

【合同論文発表会】

海外大学のゼミと合同論文発表会を行います。

【Outline (in English)】

In this class, we will learn the fundamental theories, management method, and analytical method related with business logistics strategy, business logistics management, and supply chain management (SCM). Your overall grade in the class will be decided based on the following. Contribution to the presentation and discussion: 30%, contribution to the field research: 30%, contribution to the final research report: 40%.

MAN400FA

演習 6

李 瑞雪

演習選択_演習 4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今学期のゼミでは、日本における共同物流とロジスティクス・クラスターについて調査研究を進める。この二つのトピックに関する文献レビューと事例研究を通して、日本企業の共同物流事業の実態と課題を把握し、ソリューションを検討する。また、先行研究の関連理論に依拠して、日本におけるロジスティクス・クラスターの発展状況と役割を分析し、クラスター活用のビジネスモデルを検討する。

【到達目標】

共同物流とロジスティクス・クラスターについての調査研究を通して、以下の学習目標に到達することを旨とする。

1. 企業のロジスティクス/サプライチェーンの戦略、組織、オペレーションを理解し、一定の分析能力とソリューション考案能力を有する。
2. 経済と企業経営におけるロジスティクスの重要性を理解する。
3. 企業間の業務提携・水平的コラボレーション、物流企業と物流施設の集積などに関わる概念や理論を把握する。
4. 特定の課題をめぐり文献を調べ、まとめることができるようになる。
5. フィールド調査の基本的な作法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

共同物流班とロジスティクス・クラスター班の2チームに分けて調査研究を進める。前半の数週間では先行文献（論文、報告書、記事、事例など）を調べゼミでの発表とディスカッションによって具体的な研究課題を抽出する。後半では、フィールド調査を計画・実施し、他大学との合同ゼミ等の場で調査発見を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の活動の振り返り、夏休みの読書ノーとの確認と情報交換、秋学期の活動計画の検討と決定、グループ分け
第 2 回	先行文献の調べ、発表、討論	共同物流とロジスティクスクラスターに関わる既存論文や報告書、報道記事などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第 3 回	先行文献の調べ、発表、討論	共同物流とロジスティクスクラスターに関わる既存論文や報告書、報道記事などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第 4 回	先行文献の調べ、発表、討論	共同物流とロジスティクスクラスターに関わる既存論文や報告書、報道記事などを収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第 5 回	先行文献の調べ、発表、討論	共同物流とロジスティクスクラスターに関わる事例研究を収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第 6 回	先行文献の調べ、発表、討論	共同物流とロジスティクスクラスターに関わる事例研究を収集し、ゼミで内容の発表と討論を行う。
第 7 回	研究課題の具体化と調査計画の策定	先行研究のレビューを踏まえて、各班の具体的な研究課題をディスカッションする。
第 8 回	研究課題の具体化と調査計画の策定	各班の具体的な研究課題を選定し、フィールド調査の計画を検討する。
第 9 回	フィールド調査の準備と実施	各班のフィールド調査の準備状況と実施状況を報告し、アドバイスを受ける。
第 10 回	フィールド調査の準備と実施	各班のフィールド調査の準備状況と実施状況を報告し、アドバイスを受ける。
第 11 回	フィールド調査の実施	各班のフィールド調査の実施状況を報告し、アドバイスを受ける。
第 12 回	フィールド調査の実施	各班のフィールド調査による発見を発表し、追加調査の計画を検討する。
第 13 回	フィールド調査からの発見事実の分析	調査の発見事実の分析結果を発表し、レポート作成に向けてアドバイスを受ける。

第 14 回 レポートのドラフト発表 各班の調査レポートのドラフトを発表し、アドバイスを受ける。春休み期間に予定する他大学との合同ゼミでの研究発表に向けて準備する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミの時間では文献サーベイやフィールド調査の進捗状況を確認し、ディスカッションを行うとともに、アドバイスを受けるが、大半の作業はゼミ時間外で遂行しなければならない。そのための十分な時間を確保することが必須である。なお、各班は毎週、ゼミ時間以外に適宜打ち合わせの機会を設けることを強く勧める。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業資料を HOPPII にアップロードする。

【参考書】

ゼミで適宜参考文献を案内する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの発表・ディスカッションへの貢献（40%）、最終レポートへの貢献（60%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII を利用するため、パソコン等を準備してください。

【その他の重要事項】

なし

【関連科目】

特になし。

【Outline (in English)】

In the fall semester seminar, research on joint logistics and logistics clusters in Japan will be carried out. Through the survey of previous literature and case studies related to these two topics, students will be expected to understand the actual situation and challenges of the joint logistics of Japanese companies and logistics clusters in Japan. This course will also help students have basic literature survey skills and use basic field-research methodology. By the end of the fall semester, students will be required to complete research reports based on their previous literature survey and fieldwork. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Contribution to the presentation and discussion: 40%, Contribution to the research report: 60%.

PRI100FA

プログラミング言語 I (C 言語) (2019 年度以降入学者)

寺脇 由紀

情報関係科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

C 言語を通して、ソフトウェアをつくる技術であるプログラミングについて学びます。またプログラミングを学習することを通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を醸成します。

【到達目標】

C 言語を使って、自ら考え簡単なプログラムが作成できるようになる。
C 言語による学習を通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

C 言語を習得し、プログラミングの基礎概念である変数、関数、制御構造、基礎的なデータ構造を理解します。

講義と実習によって進めます。一つの要素をゆっくり確実に解説します。その後、教員とともに、プログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、PC 上で挙動を確認します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基礎知識	コンピュータの特徴、プログラミングの考え方などコンピュータ独自の考え方を説明します。
第 2 回	プログラミングの基礎知識	プログラミングの基礎知識と、プログラムの実行までの流れを学習します。
第 3 回	プログラムの書き方	多くのプログラマーが利用している慣習を紹介しながら、好ましいプログラムの書き方を学びます。
第 4 回	画面への出力	画面に情報を表示する処理の書き方を学びます。
第 5 回	数値の表示と計算	整数や小数を使った計算を習得します。また、C 言語での小数と整数を扱う際の注意点も学習します。
第 6 回	数値の記憶と計算	計算結果を保存したり、他の計算に利用したりする方法を学びます。
第 7 回	変数	変数を扱う方法を学びます。
第 8 回	式と演算子	関係演算子、論理演算子など演算子と優先順位について学びます。
第 9 回	制御構造とアルゴリズム	3 つの制御構造と代表的なアルゴリズムを学びます。
第 10 回	流れ図とプログラム	代表的なアルゴリズムをフローチャートにて表現し、フローチャートの基づいてプログラムを作成することを学びます。
第 11 回	条件分岐	if 文による条件分岐の書き方を学びます。
第 12 回	複雑な条件分岐	switch 文による条件分岐の書き方や、複雑な条件分岐の書き方を学びます。
第 13 回	回数が決まっている繰り返し	for 文による指定回数の繰り返し処理を書く方法を学びます。
第 14 回	回数がわからない繰り返し	while 文による繰り返し処理を書く方法を学びます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

プログラミングの知識や経験は不要です。

しかしコンピュータの扱い、特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須となります。キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行っておくことが望ましいです。1 分間に 150 文字以上の入力できることを目安に練習しておいてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業中に完成できなかったことは、授業終了後に配布される教材を見直して復習しましょう。

【テキスト (教科書)】

教員の作成する教材で進めます。教材は、授業開始前 (または、教材の性質によっては授業終了後) に授業支援システムによって配布します。

【参考書】

1) 株式会社アネク著、C の絵本 第 2 版 C 言語が好きになる新しい 9 つの扉、翔泳社、2016、ISBN-10: 479815038X。

2) David Griffiths, Dawn Griffiths 著、中田秀基監訳、木下哲也訳: Head First C - 頭とからだで覚える C の基本-, オライリージャパン, 2013, ISBN-10: 4873116090。

次に挙げるのは定番の教科書です。少し難しいので、余裕のある人向けです。
3) B.W. カーニハン, D.M. リッチー著、石田 晴久訳: プログラミング言語 C 第 2 版, 共立出版, 1989, ISBN-10: 4320026926。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う例題、期限を設けて行う課題やレポートの提出状況と出来栄 (60%)、授業内に作成するプログラムへの取り組み態度・授業に対する取り組み態度 (40%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎年度、多くの学生から好評いただいたように、今年度も一つの要素をゆっくり確実に解説します。また、なるべく多くの学生からの質問を受け付けて、初めてプログラミングに挑戦する方にも最初の一步を踏み出しやすいように配慮して講義を進めています。上記は便利なツールやソフトウェアを作成できるようなプログラミングができるようになるために大切なことです。このため場合によっては、授業の進行が前後することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

実習教室の PC を使います。

授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業内容についてわからない点は、質問をする、自ら調べるといった主体的な学習態度を心がけてください。

学生自身のスマートフォンで授業と関係ない操作をしたりコンテンツを閲覧をしたり、さらに過度な私語をしたり等、授業に参加していない学生は退席させる場合があります。

他の学生が作成したプログラムをコピー&ペーストする、あるいは、自己努力をしない学生は評価できません。

新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン講義を実施することがあります。

ハイブリッド形式による講義は実施しません。

【関連科目】

なし

【オフィスアワー】

授業時間の終了後および授業支援システムを活用して質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Outline】

We will learn about programming which is a technology for making software using the C language.

We will practice the computational thinking using C language.

【Goal】

To be able to create simple programs using C language.

Through learning in C, the students will be able to understand what the problem is and practice thinking to solve the problem appropriately.

【Work to be done outside of class】

No programming knowledge or experience is required.

However, familiarity with computers, especially keyboard typing, is required. It is recommended that students who are not familiar with keyboarding practice typing with typing software in advance.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

If you were not able to complete the exercises during the class, please review the materials distributed to you after the class.

【Grading criteria】

The evaluation will be based on the submission of examples, and reports (60%), as well as on the student's attitude toward the program and the class (40%).

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ（C言語）（2019年度以降入学者）

寺脇 由紀

情報関係科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

C言語を通して、ソフトウェアをつくる技術であるプログラミングについて学びます。またプログラミングを学習することを通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を醸成します。

【到達目標】

C言語を使って、自ら考えプログラムが作成できるようになる。
C言語による学習を通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を実践できるようになる。また、いくつかの重要なアルゴリズムについて、その構造と実現方法も学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

C言語を用いて、プログラミングの基礎概念である変数、関数、制御構造、基礎的なデータ構造を理解します。

講義と実習によって進めます。一つの要素をゆっくり確実に解説します。その後、教員とともに、プログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、PC上で挙動を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	データ構造	代表的なデータ構造について学習します。
第2回	配列の基礎	配列の宣言とその利用といった配列の扱い方の基礎を学びます。
第3回	配列の活用	配列を活用したプログラムの作り方を学びます。
第4回	文字列	文字型配列の宣言や初期化、文字型配列の入出力について学びます。
第5回	構造体の基礎	構造体、構造体変数を使ったプログラムについて学びます。
第6回	構造体の活用	構造体配列を使ったプログラムの作り方を学びます。
第7回	関数の作成	ユーザ定義関数について学びます。
第8回	関数の活用	関数の呼び出し、戻り値の受け取り、プロトタイプ宣言など、関数を活用したプログラムについて学びます。
第9回	ポインタの基礎	ポインタ変数の宣言とアドレスの格納など、ポインタについて学びます。
第10回	配列のアドレス操作	配列のポインタ渡しを使ったプログラムについて学びます。
第11回	構造体のアドレス操作	構造体変数のポインタ渡しを使ったプログラムについて学びます。
第12回	ファイル入出力の基礎	ファイルを使ったプログラムについて学びます。
第13回	ファイルの扱い	ファイルオープンチェック、強制終了、データの格納方式やレコードなどを学びます。
第14回	まとめ	総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミングの知識や経験は不要です。
しかしコンピュータの扱い、特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須です。キーボードでの文字入力に慣れているとは、1分間に150文字以上の入力ができることを目安としてください。キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行ってください。授業中に完成できなかったことは、授業で配布する教材を見直して復習しましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
新型コロナウイルスの感染状況によって、オンライン講義にて実施する可能性があります。
ハイブリッド形式による講義は実施しません。

【テキスト（教科書）】

教員の作成する教材で進めます。教材は、授業開始前（または、教材の性質によっては授業終了後）に授業支援システムによって配布します。

【参考書】

B.W.カーニハン,D.M.リッチー著,石田晴久訳:プログラミング言語C第2版,共立出版,1989,ISBN-10: 4320026926.

上記の参考書の購入の必要はありません。また、少し難しいですので余裕のある方向け、または、本講座を受講後に参考にするをお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う例題、期限を設けて行う課題やレポートの提出状況と出来栄（60%）、授業内に作成するプログラムへの取り組み態度・授業に対する取り組み態度（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎年度、多くの学生から好評いただいたように、今年度も一つの要素をゆっくり確実に解説します。また、なるべく多くの学生からの質問を受け、初めてプログラミングに挑戦する方にも最初の一步を踏み出しやすいように配慮して講義を進めています。

上記は便利なツールやソフトウェアを作成できるようなプログラミングができるようになるために大切なことです。このため場合によっては、授業の進捗が前後することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業内容についてわからない点は、質問をする、自ら調べるといった主体的な学習態度を心がけてください。

学生自身のスマートフォンで授業と関係ない操作をしたり、コンテンツを閲覧をしたり、さらに過度な私語をしたり等、授業に参加していない学生は退席させる場合があります。他の学生が作成したプログラムをコピー&ペーストする、あるいは、自己努力をしていない学生は評価できません。

【関連科目】

なし

【オフィスアワー】

授業時間の終了後および授業支援システムを活用して質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

We will learn about programming which is a technology for making software using the C language.

We will practice the computational thinking using c language. We will also learn the structure of some important algorithms and how to realize them.

Before/ after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

the performance of Short reports and the assignments : 60%, learning attitude towards programming and the in class contribution: 40%

PRI100FA

プログラミング言語 I (C 言語) (2019 年度以降入学者)

寺脇 由紀

情報関係科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

C 言語を通して、ソフトウェアをつくる技術であるプログラミングについて学びます。またプログラミングを学習することを通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を醸成します。

【到達目標】

C 言語を使って、自ら考え簡単なプログラムが作成できるようになる。
C 言語による学習を通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

C 言語を習得し、プログラミングの基礎概念である変数、関数、制御構造、基礎的なデータ構造を理解します。

講義と実習によって進めます。一つの要素をゆっくり確実に解説します。その後、教員とともに、プログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、PC 上で挙動を確認します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基礎知識	コンピュータの特徴、プログラミングの考え方などコンピュータ独自の考え方を説明します。
第 2 回	プログラミングの基礎知識	プログラミングの基礎知識と、プログラムの実行までの流れを学習します。
第 3 回	プログラムの書き方	多くのプログラマーが利用している慣習を紹介しながら、好ましいプログラムの書き方を学びます。
第 4 回	画面への出力	画面に情報を表示する処理の書き方を学びます。
第 5 回	数値の表示と計算	整数や小数を使った計算を習得します。また、C 言語での小数と整数を扱う際の注意点も学習します。
第 6 回	数値の記憶と計算	計算結果を保存したり、他の計算に利用したりする方法を学びます。
第 7 回	変数	変数を扱う方法を学びます。
第 8 回	式と演算子	関係演算子、論理演算子など演算子と優先順位について学びます。
第 9 回	制御構造とアルゴリズム	3 つの制御構造と代表的なアルゴリズムを学びます。
第 10 回	流れ図とプログラム	代表的なアルゴリズムをフローチャートにて表現し、フローチャートの基づいてプログラムを作成することを学びます。
第 11 回	条件分岐	if 文による条件分岐の書き方を学びます。
第 12 回	複雑な条件分岐	switch 文による条件分岐の書き方や、複雑な条件分岐の書き方を学びます。
第 13 回	回数が決まっている繰り返し	for 文による指定回数の繰り返し処理を書く方法を学びます。
第 14 回	回数がわからない繰り返し	while 文による繰り返し処理を書く方法を学びます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

プログラミングの知識や経験は不要です。

しかしコンピュータの扱い、特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須となります。キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行っておくことが望ましいです。1 分間に 150 文字以上の入力できることを目安に練習しておいてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業中に完成できなかったことは、授業終了後に配布される教材を見直して復習しましょう。

【テキスト (教科書)】

教員の作成する教材で進めます。教材は、授業開始前 (または、教材の性質によっては授業終了後) に授業支援システムによって配布します。

【参考書】

1) 株式会社アネク著、C の絵本 第 2 版 C 言語が好きになる新しい 9 つの扉、翔泳社、2016、ISBN-10: 479815038X。

2) David Griffiths, Dawn Griffiths 著、中田秀基監訳、木下哲也訳: Head First C - 頭とからだで覚える C の基本-, オライリージャパン, 2013, ISBN-10: 4873116090。

次に挙げるのは定番の教科書です。少し難しいので、余裕のある人向けです。
3) B.W. カーニハン, D.M. リッチー著、石田 晴久訳: プログラミング言語 C 第 2 版, 共立出版, 1989, ISBN-10: 4320026926。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う例題、期限を設けて行う課題やレポートの提出状況と出来栄 (60%)、授業内に作成するプログラムへの取り組み態度・授業に対する取り組み態度 (40%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎年度、多くの学生から好評いただいたように、今年度も一つの要素をゆっくり確実に解説します。また、なるべく多くの学生からの質問を受け付けて、初めてプログラミングに挑戦する方にも最初の一步を踏み出しやすいように配慮して講義を進めています。上記は便利なツールやソフトウェアを作成できるようなプログラミングができるようになるために大切なことです。このため場合によっては、授業の進行が前後することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

実習教室の PC を使います。

授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業内容についてわからない点は、質問をする、自ら調べるといった主体的な学習態度を心がけてください。

学生自身のスマートフォンで授業と関係ない操作をしたりコンテンツを閲覧をしたり、さらに過度な私語をしたり等、授業に参加していない学生は退席させる場合があります。

他の学生が作成したプログラムをコピー&ペーストする、あるいは、自己努力をしない学生は評価できません。

新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン講義を実施することがあります。

ハイブリッド形式による講義は実施しません。

【関連科目】

なし

【オフィスアワー】

授業時間の終了後および授業支援システムを活用して質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Outline】

We will learn about programming which is a technology for making software using the C language.

We will practice the computational thinking using C language.

【Goal】

To be able to create simple programs using C language.

Through learning in C, the students will be able to understand what the problem is and practice thinking to solve the problem appropriately.

【Work to be done outside of class】

No programming knowledge or experience is required.

However, familiarity with computers, especially keyboard typing, is required. It is recommended that students who are not familiar with keyboarding practice typing with typing software in advance.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

If you were not able to complete the exercises during the class, please review the materials distributed to you after the class.

【Grading criteria】

The evaluation will be based on the submission of examples, and reports (60%), as well as on the student's attitude toward the program and the class (40%).

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ（C言語）（2019年度以降入学者）

寺脇 由紀

情報関係科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

C言語を通して、ソフトウェアをつくる技術であるプログラミングについて学びます。またプログラミングを学習することを通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を醸成します。

【到達目標】

C言語を使って、自ら考えプログラムが作成できるようになる。
C言語による学習を通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を実践できるようになる。また、いくつかの重要なアルゴリズムについて、その構造と実現方法も学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

C言語を用いて、プログラミングの基礎概念である変数、関数、制御構造、基礎的なデータ構造を理解します。

講義と実習によって進めます。一つの要素をゆっくり確実に解説します。その後、教員とともに、プログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、PC上で挙動を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	データ構造	代表的なデータ構造について学習します。
第2回	配列の基礎	配列の宣言とその利用といった配列の扱い方の基礎を学びます。
第3回	配列の活用	配列を活用したプログラムの作り方を学びます。
第4回	文字列	文字型配列の宣言や初期化、文字型配列の入出力について学びます。
第5回	構造体の基礎	構造体、構造体変数を使ったプログラムについて学びます。
第6回	構造体の活用	構造体配列を使ったプログラムの作り方を学びます。
第7回	関数の作成	ユーザ定義関数について学びます。
第8回	関数の活用	関数の呼び出し、戻り値の受け取り、プロトタイプ宣言など、関数を活用したプログラムについて学びます。
第9回	ポインタの基礎	ポインタ変数の宣言とアドレスの格納など、ポインタについて学びます。
第10回	配列のアドレス操作	配列のポインタ渡しを使ったプログラムについて学びます。
第11回	構造体のアドレス操作	構造体変数のポインタ渡しを使ったプログラムについて学びます。
第12回	ファイル入出力の基礎	ファイルを使ったプログラムについて学びます。
第13回	ファイルの扱い	ファイルオープンチェック、強制終了、データの格納方式やレコードなどを学びます。
第14回	まとめ	総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミングの知識や経験は不要です。
しかしコンピュータの扱い、特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須です。キーボードでの文字入力に慣れているとは、1分間に150文字以上の入力ができることを目安としてください。キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行ってください。授業中に完成できなかったことは、授業で配布する教材を見直して復習しましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
新型コロナウイルスの感染状況によって、オンライン講義にて実施する可能性があります。
ハイブリッド形式による講義は実施しません。

【テキスト（教科書）】

教員の作成する教材で進めます。教材は、授業開始前（または、教材の性質によっては授業終了後）に授業支援システムによって配布します。

【参考書】

B.W.カーニハン,D.M.リッチー著、石田晴久訳:プログラミング言語C第2版、共立出版,1989,ISBN-10: 4320026926。

上記の参考書の購入の必要はありません。また、少し難しいですので余裕のある方向け、または、本講座を受講後に参考にするをお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う例題、期限を設けて行う課題やレポートの提出状況と出来栄（60%）、授業内に作成するプログラムへの取り組み態度・授業に対する取り組み態度（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎年度、多くの学生から好評いただいたように、今年度も一つの要素をゆっくり確実に解説します。また、なるべく多くの学生からの質問を受け、初めてプログラミングに挑戦する方にも最初の一步を踏み出しやすいように配慮して講義を進めています。

上記は便利なツールやソフトウェアを作成できるようなプログラミングができるようになるために大切なことです。このため場合によっては、授業の進捗が前後することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業内容についてわからない点は、質問をする、自ら調べるといった主体的な学習態度を心がけてください。

学生自身のスマートフォンで授業と関係ない操作をしたり、コンテンツを閲覧をしたり、さらに過度な私語をしたり等、授業に参加していない学生は退席させる場合があります。他の学生が作成したプログラムをコピー&ペーストする、あるいは、自己努力をしていない学生は評価できません。

【関連科目】

なし

【オフィスアワー】

授業時間の終了後および授業支援システムを活用して質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

We will learn about programming which is a technology for making software using the C language.

We will practice the computational thinking using c language. We will also learn the structure of some important algorithms and how to realize them.

Before/ after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

the performance of Short reports and the assignments : 60%, learning attitude towards programming and the in class contribution: 40%

PRI100FA

プログラミング言語 I (JAVA) (2019 年度以降入学者)

飯塚 康至

情報関係科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を学習する。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通り。

- (1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。

講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成する。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認する。この学習と演習によって Java の基礎を身につけていきます。なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Java の基礎知識	基本的なプログラムの記述方法や変数の利用について学びます。
第 2 回	図形の描画	図形を描画する方法について学びます。
第 3 回	繰り返しと条件判断	処理の繰り返しと条件を判断し処理を分岐する方法について学びます。
第 4 回	アニメーション	繰り返し処理を利用してアニメーションを作成する方法について学びます。
第 5 回	クラス・オブジェクト	効率良くアニメーションを作成する方法について学びます。
第 6 回	配列・Vector	効率良くたくさんの図形をアニメーションする方法について学びます。
第 7 回	継承	似たような図形を効率良く描画する方法について学びます。
第 8 回	イベント	キーボードからのイベント処理について学びます。
第 9 回	ゲームを作ろう (プレイヤーの作成 1)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 10 回	ゲームを作ろう (プレイヤーの作成 2)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 11 回	ゲームを作ろう (敵の作成 1)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 12 回	ゲームを作ろう (敵の作成 2)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 13 回	ゲームを作ろう (衝突判定)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。弾丸や自機と敵の衝突判定を行います。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

初級 Java 一やさしい Java, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

つまづきやすいポイントを解説しながら演習を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は Google クラウドを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer (オラクル認定 Java プログラマー)

演習系の授業になるので遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】

データ処理論 I (データ可視化)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

[Course Outline].

Students will learn Java, a leading object-oriented language. The goal is to be able to create simple programs on your own, and to be able to explain what object-oriented programming is using the Java language.

[Learning Objectives].

The objectives of this course are as follows.

- (1) To understand and be able to explain the basic functions and syntax of the Java language.
- (2) To be able to define and use classes.
- (3) To be able to perform object-oriented programming.
- (4) To be able to create simple programs by oneself.

[Learning outside the class]

After understanding the examples and basic programs in the lecture, students will create programs for exercises by applying the examples. Students will actually use a PC to create programs and check their operation. Through this study and exercises, students will learn the basics of Java.

In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.

[Grading Criteria/Policies]

Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ (JAVA) (2019年度以降入学者)

飯塚 康至

情報関係科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を文法を中心に学ぶ。自力で簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通り。

- (1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力で簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。

授業は、実習室において講義と実習を行います。講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認します。この学習によって Java の基礎を身につけていきます。

なお、受講にあたってはプログラミングに関するの予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。

授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クラス定義とオブジェクトの生成、使用	クラスを定義し別のクラスから生成、使用方法について理解する。
第 2 回	オーバーロードメソッドの作成と使用	メソッドのオーバーロードを実装し、利用し理解する。
第 3 回	コンストラクタの定義	コンストラクタとは何かを理解し、定義し利用する。
第 4 回	アクセス修飾子の適用とカプセル化	アクセス修飾子について理解し、カプセル化を実装する。
第 5 回	static 変数および static メソッドの定義と使用	static とは何かを理解し、定義し利用する。
第 6 回	API の利用	API(Application Programming Interface) を利用してプログラミングする方法について理解する。
第 7 回	オブジェクト指向コンセプト	オブジェクト指向とはどのようなものか概念について理解する。
第 8 回	サブクラスの定義と使用	サブクラスの役割について理解し、実装する。
第 9 回	インターフェースと抽象クラス	インターフェースや抽象クラスがどのようなものか理解し、実装する。
第 10 回	ポリモフィズムについて説明と適用	ポリモフィズム (多態性) がどのようなものか理解し、実装する。
第 11 回	入出力と例外処理、ガベージコレクション	ストリームを利用した入出力について理解する。実行時のエラーである例外と例外処理について理解する。
第 12 回	パッケージ宣言とインポート	パッケージとは何か理解し、インポート部分の実装について理解する。
第 13 回	スレッドの定義と利用	並列処理であるスレッドについて理解し、利用する。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

前期はグラフィカルなプログラムを作成しプログラムの理解に努め、後期は文法中心に解説しプログラムの理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer (オラクル認定 Java プログラマー)

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

データ処理論Ⅰ (コンピューターグラフィックス)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

Learn the grammar of the Java language. Java language is the main object-oriented. The goal is to create a simple program on its own. And purpose is you can be able to explain what is object-oriented.

【Goal】

The objectives of this course are as follows

- (1) Understand and explain basic Java language functions and syntax.
- (2) To be able to define and use classes.
- (3) To be able to perform object-oriented programming.
- (4) Be able to create simple programs on their own.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Make time to touch the computer on a daily basis. Ask questions and research on the Internet if you don't understand something. Program and verify what you have researched. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grading will be based on the assignments and reflection sheets for each class, with a maximum score of 100 points, 50 points for each reflection sheet and 50 points for each in-class assignment.

PRI100FA

プログラミング言語 I (JAVA) (2019 年度以降入学者)

飯塚 康至

情報関係科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を学習する。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通り。

- (1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。

講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成する。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認する。この学習と演習によって Java の基礎を身につけていきます。なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Java の基礎知識	基本的なプログラムの記述方法や変数の利用について学びます。
第 2 回	図形の描画	図形を描画する方法について学びます。
第 3 回	繰り返しと条件判断	処理の繰り返しと条件を判断し処理を分岐する方法について学びます。
第 4 回	アニメーション	繰り返し処理を利用してアニメーションを作成する方法について学びます。
第 5 回	クラス・オブジェクト	効率良くアニメーションを作成する方法について学びます。
第 6 回	配列・Vector	効率良くたくさんの図形をアニメーションする方法について学びます。
第 7 回	継承	似たような図形を効率良く描画する方法について学びます。
第 8 回	イベント	キーボードからのイベント処理について学びます。
第 9 回	ゲームを作ろう (プレイヤーの作成 1)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 10 回	ゲームを作ろう (プレイヤーの作成 2)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 11 回	ゲームを作ろう (敵の作成 1)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 12 回	ゲームを作ろう (敵の作成 2)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 13 回	ゲームを作ろう (衝突判定)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。弾丸や自機と敵の衝突判定を行います。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

初級 Java 一やさしい Java, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

つまづきやすいポイントを解説しながら演習を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は Google クラウドを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer (オラクル認定 Java プログラマー)

演習系の授業になるので遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】

データ処理論 I (データ可視化)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

[Course Outline].

Students will learn Java, a leading object-oriented language. The goal is to be able to create simple programs on your own, and to be able to explain what object-oriented programming is using the Java language.

[Learning Objectives].

The objectives of this course are as follows.

- (1) To understand and be able to explain the basic functions and syntax of the Java language.
- (2) To be able to define and use classes.
- (3) To be able to perform object-oriented programming.
- (4) To be able to create simple programs by oneself.

[Learning outside the class]

After understanding the examples and basic programs in the lecture, students will create programs for exercises by applying the examples. Students will actually use a PC to create programs and check their operation. Through this study and exercises, students will learn the basics of Java.

In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.

[Grading Criteria/Policies]

Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ (JAVA) (2019年度以降入学者)

飯塚 康至

情報関係科目 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を文法を中心に学ぶ。自力で簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通り。

- (1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力で簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。

授業は、実習室において講義と実習を行います。講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認します。この学習によって Java の基礎を身につけていきます。

なお、受講にあたってはプログラミングに関するの予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。

授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クラス定義とオブジェクトの生成、使用	クラスを定義し別のクラスから生成、使用方法について理解する。
第 2 回	オーバーロードメソッドの作成と使用	メソッドのオーバーロードを実装し、利用し理解する。
第 3 回	コンストラクタの定義	コンストラクタとは何かを理解し、定義し利用する。
第 4 回	アクセス修飾子の適用とカプセル化	アクセス修飾子について理解し、カプセル化を実装する。
第 5 回	static 変数および static メソッドの定義と使用	static とは何かを理解し、定義し利用する。
第 6 回	API の利用	API(Application Programming Interface) を利用してプログラミングする方法について理解する。
第 7 回	オブジェクト指向コンセプト	オブジェクト指向とはどのようなものか概念について理解する。
第 8 回	サブクラスの定義と使用	サブクラスの役割について理解し、実装する。
第 9 回	インターフェースと抽象クラス	インターフェースや抽象クラスがどのようなものか理解し、実装する。
第 10 回	ポリモフィズムについて説明と適用	ポリモフィズム (多態性) がどのようなものか理解し、実装する。
第 11 回	入出力と例外処理、ガベージコレクション	ストリームを利用した入出力について理解する。実行時のエラーである例外と例外処理について理解する。
第 12 回	パッケージ宣言とインポート	パッケージとは何か理解し、インポート部分の実装について理解する。
第 13 回	スレッドの定義と利用	並列処理であるスレッドについて理解し、利用する。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

前期はグラフィカルなプログラムを作成しプログラムの理解に努め、後期は文法中心に解説しプログラムの理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer (オラクル認定 Java プログラマー)

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

データ処理論Ⅰ (コンピューターグラフィックス)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

Learn the grammar of the Java language. Java language is the main object-oriented. The goal is to create a simple program on its own. And purpose is you can be able to explain what is object-oriented.

【Goal】

The objectives of this course are as follows

- (1) Understand and explain basic Java language functions and syntax.
- (2) To be able to define and use classes.
- (3) To be able to perform object-oriented programming.
- (4) Be able to create simple programs on their own.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Make time to touch the computer on a daily basis. Ask questions and research on the Internet if you don't understand something. Program and verify what you have researched. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grading will be based on the assignments and reflection sheets for each class, with a maximum score of 100 points, 50 points for each reflection sheet and 50 points for each in-class assignment.

PRI100FA

プログラミング言語 I (JAVA) (2019 年度以降入学者)

寺脇 由紀

情報関係科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Java 言語を通して、ソフトウェアをつくる技術であるプログラミングについて学びます。またプログラミングを学習することを通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を醸成します。

【到達目標】

Java 言語を使って、自ら考え簡単なプログラムが作成できるようになる。Java 言語による学習を通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

Java 言語を習得し、プログラミングの基礎概念と、基礎的なアルゴリズムを理解します。

講義と実習によって進めます。一つの要素をゆっくり確実に解説しします。その後、教員とともに、プログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、PC 上で挙動を確認します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プログラミングの基礎知識	プログラミングの基礎知識と、プログラムの実行までの流れを学習します。
第 2 回	Java とは	プログラミング言語 Java、実行環境、開発環境の 3 つの側面を学習します。
第 3 回	プログラムの書き方	Java アプリケーションの作成から実行までを学びます。
第 4 回	画面への出力	画面に情報を表示する処理の書き方を学びます。
第 5 回	識別子・予約語・命名規約	基本文法や、Java の命名規約の学習からプログラムをわかりやすく書くことについて学びます。
第 6 回	変数	変数を扱う方法を学びます。
第 7 回	式と演算子	関係演算子、論理演算子など演算子と優先順位について学びます。
第 8 回	リテラル	各種リテラルについて学びます。
第 9 回	制御構造とアルゴリズム	3 つの制御構造と代表的なアルゴリズムを学びます。
第 10 回	条件分岐	条件式の真偽による 2 分岐および多分岐について学びます。
第 11 回	複雑な条件分岐	2 つ以上の条件式を結合や、switch 文による条件分岐の書き方を学びます。
第 12 回	回数がわからない繰り返し	条件式の真偽による繰り返し処理を学びます。
第 13 回	回数が決まっている繰り返し	指定回数の繰り返し処理を書く方法を学びます。
第 14 回	制御構造まとめ	後判定による繰り返しや、入れ子構造、制御構造のスキップや強制終了などを学びます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

プログラミングの知識や経験は不要です。しかしコンピュータの扱い、特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須となります。キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行っておくことが望ましいです。1 分間に 150 文字以上の入力できることを目安に練習しておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業中に完成できなかったことは、授業終了後に配布される教材を見直して復習しましょう。

【テキスト (教科書)】

教員の作成する教材で進めます。教材は、授業開始前 (または、教材の性質によっては授業終了後) に授業支援システムによって配布します。

【参考書】

Joshua Bloch 著、柴田芳樹訳:Effective Java 第 3 版、丸善出版、第 3 版 (2018/10/30)、ISBN-10: 4621303252。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う例題、期限を設けて行う課題やレポートの提出状況と出来栄 (60%)、授業内に作成するプログラムへの取り組み態度・授業に対する取り組み態度 (40%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2023 年度より担当するため気づきはありません。

【学生が準備すべき機器他】

実習教室の PC を使います。授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業内容についてわからない点は、質問をする、自ら調べるといった主体的な学習態度を心がけてください。

学生自身のスマートフォンで授業と関係ない操作をしたりコンテンツを閲覧をしたり、さらに過度な私語をしたり等、授業に参加していない学生は退席させる場合があります。

他の学生が作成したプログラムをコピー&ペーストする、あるいは、自己努力をしていない学生は評価できません。

新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン講義を実施することがあります。

ハイブリッド形式による講義は実施しません。

【関連科目】

なし

【オフィスアワー】

授業時間の終了後および授業支援システムを活用して質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Outline】

We will learn about programming which is a technology for making software using the Java language. We will practice the computational thinking using Java language.

【Goal】

Students will be able to create simple programs using the Java language. Through learning Java language, the students should be able to practice thinking to solve the problem appropriately.

【Work to be done outside of class】

No programming knowledge or experience is required.

However, familiarity with computers, especially keyboard typing, is required. It is recommended that students who are not familiar with keyboarding practice typing with typing software in advance.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

If you were not able to complete the exercises during the class, please review the materials distributed to you after the class.

【Grading criteria】

The evaluation will be based on the submission of examples, and reports (60%), as well as on the student's attitude toward the class (40%).

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ (JAVA) (2019年度以降入学者)

寺脇 由紀

情報関係科目 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

オブジェクト指向プログラミング言語である Java を使い、オブジェクト指向の三大要素である継承、カプセル化、ポリモーフィズムを理解し、それらをプログラミングする技術を学びます。

【到達目標】

オブジェクト指向の三大要素である継承、カプセル化、ポリモーフィズムを習得する。

Java 言語を用いたオブジェクト指向プログラムの構築を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オブジェクト指向の三大要素である継承、カプセル化、ポリモーフィズムを理解し、そのプログラミングテクニックを学び、実践します。

講義と実習によって進めます。一つの要素をゆっくり確実に解説しします。その後、教員とともに、プログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、PC 上で挙動を確認します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オブジェクト指向の基本概念	オブジェクト指向を用いたソフトウェア開発について学びます。
第 2 回	オブジェクト指向と図的表現	オブジェクト指向プログラミングにおいて特に重要度の高い UML 記法について紹介します。
第 3 回	クラスとメソッド	メンバ変数やメソッドの定義、オブジェクトの生成について学びます。
第 4 回	オブジェクトの利用	メンバ変数およびメソッドの呼び出し方について学びます。
第 5 回	カプセル化と情報隠蔽	メンバ変数へのアクセス制限について学びます。
第 6 回	メンバ変数の初期化	コンストラクタの使い方について学びます。
第 7 回	オーバーロード	メソッドやコンストラクタの多重定義について学びます。
第 8 回	継承	オブジェクト抽象化のメカニズムについて学びます。
第 9 回	オーバーライド・抽象クラス・抽象メソッド	メソッドの再定義や、抽象クラス・抽象メソッドについて学びます。
第 10 回	インタフェース	メソッドの使い方の統一について学びます。
第 11 回	ポリモーフィズム	ポリモーフィズム (多態性) の意義について理解し、ポリモーフィズムの活用例について学びます。
第 12 回	例外処理	提供されている例外クラスについて学び、ユーザー定義例外を実践します。
第 13 回	パッケージとコレクションフレームワーク	クラスの整理整頓や、コレクションフレームワークの実装クラスについて学びます。
第 14 回	まとめ	これまでに習得した技法を概観し、総合演習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

プログラミングの知識や経験は不要です。

しかしコンピュータの扱い、特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須となります。キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行っておくことが望ましいです。1 分間に 150 文字以上の入力できることを目安に練習しておいてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業中に完成できなかったことは、授業終了後に配布される教材を見直して復習しましょう。

【テキスト (教科書)】

教員の作成する教材で進めます。教材は、授業開始前 (または、教材の性質によっては授業終了後) に授業支援システムによって配布します。

【参考書】

Joshua Bloch 著、柴田芳樹訳:Effective Java 第 3 版、丸善出版、第 3 版 (2018/10/30)、ISBN-10: 4621303252。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う例題、期限を設けて行う課題やレポートの提出状況と出来栄え (60%)、授業内に作成するプログラムへの取り組み態度・授業に対する取り組み態度 (40%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2023 年度より担当するため気づきはありません。

【学生が準備すべき機器他】

実習教室の PC を使います。
授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

講義で説明する知識と技術をしっかりと消化していただき、知識に基づいてプログラミングしてみるということが重要となります。知識が欠けてしまうと、教員の入力した文字を真似して入力しているだけとなります。講義内容を聞き逃さないという姿勢で授業に臨むこと、講義で説明した技術や知識を復習し確実に自分の中に積み上げていくことを徹底してください。

学生自身のスマートフォンで授業と関係ない操作をしたりコンテンツを閲覧をしたり、さらに過度な私語をしたり等、授業に参加していない学生は退席させる場合があります。

新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン講義を実施することがあります。

ハイブリッド形式による講義は実施しません。

【関連科目】

なし

【オフィスアワー】

授業時間の終了後および授業支援システムを活用して質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Outline】

We will understand the three major elements of object-oriented programming: inheritance, encapsulation, and polymorphism, and learn techniques for programming them.

【Goal】

To master the three major elements of object-oriented programming: inheritance, encapsulation, and polymorphism. Understand how to construct object-oriented programs using the Java language.

【Work to be done outside of class】

No programming knowledge or experience is required.

However, familiarity with computers, especially keyboard typing, is required. It is recommended that students who are not familiar with keyboarding practice typing with typing software in advance.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

If you were not able to complete the exercises during the class, please review the materials distributed to you after the class.

【Grading criteria】

The evaluation will be based on the submission of examples, and reports (60%), as well as on the student's attitude toward the class (40%).

PRI100FA

プログラミング言語 I (VBA) (2019 年度以降入学者)

高田 美樹

情報関係科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications (以下、VBA という) を用いて、プログラミングの基礎とデータ処理について学ぶ。Excel の特徴を生かしたプログラミングを行う。

【到達目標】

プログラミングの考え方を理解し、表計算ソフトウェア Excel に入力されているデータを自動で集計するためのプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド動画による事前学習とオンラインまたは対面講義の組み合わせで講義を行う。予習用に、Microsoft Excel が動作する Windows または Mac パソコンを使用できることが望ましい。ない場合は、大学のカフェテリアが利用できる。

コンピュータ上で様々な処理を実行することができる表計算ソフトウェア Excel の使い方を解説し、そのマクロ言語としての VBA を解説する。Excel マクロ VBA の文法とアルゴリズムを理解し、プログラミングの基本を実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	1 年を通じた計画を把握し、マクロとは、プログラミングとは、という概念を学ぶ。
第 2 回	サブルーチン	マクロ自動記録を用いて、サブルーチンの呼び出しと実行順序について学ぶ。
第 3 回	値と式、および書式の設定	マクロで値や式、書式を自動的に設定する方法を学ぶ。
第 4 回	繰り返し処理 (1)	Excel シートの全行に同じ処理を行う構文を学ぶ。
第 5 回	範囲選択	変更部分の範囲を指定して元に戻す処理を行う。範囲が上下しても対応できる方法を学ぶ。
第 6 回	繰り返し (2)	集計処理を学ぶ。
第 7 回	選択	条件による二者択一を学ぶ。
第 8 回	繰り返しと選択の組み合わせ	最大値をはじめとした簡単なアルゴリズムを学ぶ。
第 9 回	多肢選択 (1)	3 択以上の中から条件により選択する方法を学ぶ。
第 10 回	多肢選択 (2)	範囲のある条件分岐を学ぶ。
第 11 回	配列的な考え方	インデックスを用いてデータを指定する方法を学ぶ。
第 12 回	配列 (1)	配列を用いた大量のデータ処理を学ぶ。
第 13 回	繰り返し (3)	回数がわかっている場合の繰り返し処理の構文を学ぶ。
第 14 回	総合演習	自分でアプリケーションを制作する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に提供した動画を視聴し、予習を行う。講義の時間に知識を定着させる演習を行う。

その日に学んだことを復習し、次週までにプログラムを完成させる。

本授業の予習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Google Classroom 上に講義資料を提示する。

【参考書】

適宜、講義の中で提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義で行った実習結果と小テスト 60%

総合演習 (最終課題) 40%

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ず行ったオンデマンドの講義で、動画による学習は、自分にペースで繰り返し学習ができることから、効果があったことを受け、予習に取り入れる。対面授業でコミュニケーションを図る。

【学生が準備すべき機器他】

予習用に、Microsoft Excel が動作できる Windows または Mac パソコンが利用できることよい。古くても家族と共用でも可能。

【その他の重要事項】

法政大学のメールアドレスにメールを送ることがあるので、メールの確認を怠らないこと。

【関連科目】

情報学入門

【オフィス・アワー】

講義の後、およびメールで対応する。

miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Master programming skill and data mining skill with Visual Basic Applications (VBA) on Microsoft Excel.

You will be able to program for spreadsheets.

The goal is to understand the concept of programming and to create a program to automatically tabulate data entered into the Excel spreadsheet software.

Before the lecture, please watch the video to prepare for the lecture.

After the lecture, complete the week's programming assignments.

It takes about 2 hours.

Grading criteria :

Weekly quizzes 60%

Comprehensive Exercises 40%

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ (VBA) (2019年度以降入学者)

高田 美樹

情報関係科目 1~4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications (以下、VBA という) を用いて、プログラミングの基礎とデータ処理について学ぶ。Excel の特徴を生かしたプログラミングを行う。

【到達目標】

代表的なアルゴリズムを理解し、プログラムに実装することができる。また、誤り箇所を自ら発見して修正できるようになる。画面を伴った簡単なアプリケーションの仕様を考案し、制作することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド動画を視聴して予習してから、オンラインまたは対面講義に参加する。対面では、予習の知識を定着させる演習を行う。

予習用に、Microsoft Excel が動作できる Windows パソコンが利用できるとよい。ない場合は、大学の自習室が利用できる。(講義の後半は Mac では実習できません)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと春学期の復習	秋学期の計画を把握し、春学期の復習をする。
第 2 回	日付の取り扱い	日付を取り扱い、エラーが発生したときの対処を学ぶ。
第 3 回	2次元配列	2次元配列の概念と使い方を学ぶ。
第 4 回	文字列	文字列にまつわる関数の使いかたと文字列の扱いを学ぶ。
第 5 回	シートの扱い	複数のシートのまたがって記録されている情報を一括して処理する方法を学ぶ。
第 6 回	探索 (1)	シート上に記載されている情報から探索する方法を学ぶ。
第 7 回	探索 (2)	サブルーチンや Function を利用して探索を行う。
第 8 回	探索 (3)	エラーが発生した時の対処法を学ぶ。
第 9 回	ユーザフォーム (1)	イベントドリブンなマクロを学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム (2)	ユーザの操作を想定したマクロを学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム (3)	例外処理を含むマクロの実装を学ぶ。
第 12 回	ユーザフォーム (4)	多彩なユーザフォーム部品の実装を学ぶ。
第 13 回	総合制作 (1)	興味あるデータを収集して可視化するアプリケーションを設計する。
第 14 回	総合制作 (2)	興味あるデータを収集して可視化するアプリケーションを制作する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

オンデマンドの動画で予習をしてから講義に参加すること。講義では、予習した知識を定着させるために演習を行う。復習して次週までにプログラムを完成させる。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Google Classroom 上に講義資料を提示する。

【参考書】

適宜、講義の中で提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義で行った実習結果と小テスト 60%

制作課題提出 40%

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ず行ったオンデマンド動画が、自分のペースで何度でも視聴でき、効果があったことを受け、予習に取り入れる。一方、学習の様子がわからなかったことから、対面と組み合わせることとする。

【学生が準備すべき機器他】

予習用に、Microsoft Windows が動作する Windows パソコンがあるとよい。家族との共用、古くても可。

【その他の重要事項】

法政大学のメールアドレスにメールを送ることがあるので、メールの確認を怠らないこと。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目
プログラミング言語 VBA 1

【オフィス・アワー】

講義の後、メールでも対応する。
miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Master programming skill and data mining skill with Visual Basic Applications (VBA) on Microsoft Excel.

You will be able to program for spreadsheets.

You will be able to understand typical algorithms and implement them in your programs. You will also be able to find and correct errors in the program yourself.

Before the lecture, please watch the video to prepare for the lecture.

After the lecture, complete the week's programming assignments.

It takes about 2 hours.

Grading criteria :

Weekly quizzes 60%

Comprehensive Exercises 40%

PRI100FA

プログラミング言語 I (スクリプト言語) (2019 年度以降入学者)

入戸野 健

情報関係科目 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では Python によるプログラミングの基礎を学習します。プログラミングの初歩から基本文法を学んで行き、授業の後半ではいくつかの応用事例を学習します。

【到達目標】

まず、プログラミングの考え方を身につけることを目標とします。次に、解決したい問題に対して、簡単なプログラムを自分で作成し、直接あるいは間接的に解決に役立てられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に PC を使って実習形式で進めます。まずテキストの解説などで基本的な考え方や文法を理解した上で、例題の入力と実行確認を行います。さらに関連した練習問題のプログラム作成に取り組みます。

授業は原則として対面で行いますが、状況によってはオンライン形式へ移行することもあります。

課題等についての講評は適宜、授業内あるいは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	Python の特徴を概観し、エディタなどのプログラミング環境の準備を行います。
第 2 回	簡単な計算	簡単な四則演算の計算を行い、プログラミングの操作に慣れます。
第 3 回	数値と変数	数値の計算、変数への値の代入について学習します。
第 4 回	文字列の操作	文字の表示、文字の結合、一部分の文字の取り出しなどを学びます。
第 5 回	関数を使う	関数の利用の仕方、予め用意されている各種の関数について理解します。
第 6 回	条件分岐	if 文で条件によって実行する処理を変える方法を学習します。
第 7 回	繰り返し	for 文を使って処理を繰り返し実行する方法を学びます。
第 8 回	リストとタプル	複数のデータをまとめて扱うためのリストとタプルについて学習します。
第 9 回	セットと辞書	データの集まりを集合や辞書のように扱う方法を学びます。
第 10 回	関数の作成	自分で関数を作り利用する方法について学びます。
第 11 回	ソート・検索・抽出	データを並べ換えたり、指定したデータを探し出す方法を学びます。
第 12 回	例外処理	実行中に発生するエラーに対処するプログラムの書き方について理解します。
第 13 回	イテレータと内包表記	データの集まりから次々に要素を取り出したり、繰り返しデータを作成する方法を学習します。
第 14 回	基礎プログラム作成演習	各自で基礎的なオリジナルプログラムを作成する演習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回で指定した目標まで到達できなかった場合は、次の回までに各自で完了させておくことが推奨されます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に提示します。

【参考書】

「Python チュートリアル 第 3 版」Guido van Rossum、2016、オライリージャパン

「Python 言語によるプログラミング イントロダクション 第 2 版」John V. Guttag、2017、近代科学社

【成績評価の方法と基準】

平常点 (25%) : 実習が中心のため、毎回の実習をこなしてスキルをきちんと蓄積して行くことが重要になります。

課題レポート (15%) : 授業内容に沿った課題を 1~2 回程度出題します。

課題演習 (60%) : 終盤に授業内で行う課題演習で作成した成果物を提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

授業内での実習の時間を十分に確保できるよう留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の実習は情報実習室の PC で行います。

作成したプログラムやデータを保存するための USB メモリーを必要に応じて各自持参してください (詳細は授業内で説明します)。

【関連科目】

情報学発展 (情報通信ネットワーク) I / II

【Outline (in English)】

(Course outline) This course focuses on Python as a scripting language. The course aims to provide understanding of elementary programming techniques. In the latter part of the course, it also focuses on some application cases.

(Learning Objectives) The first goal is to learn the basic concept of programming. The next goal is to be able to create your own programs in Python for the problems you want to solve.

(Learning activities outside of classroom) If you are not able to reach the assigned goal in class, it is recommended that you complete it on your own before the next week's class.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on in-class contribution (25%), mid-term reports (15%), and term-end outcomes of the exercise (60%).

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ（スクリプト言語）（2019年度以降入学者）

入戸野 健

情報関係科目 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では Python によるプログラミングの基礎を学習します。プログラミングの初歩から基本文法を学んで行き、授業の後半ではいくつかの応用事例を学習します。

【到達目標】

まず、プログラミングの考え方を身につけることを目標とします。次に、解決したい問題に対して、簡単なプログラムを自分で作成し、直接あるいは間接的に解決に役立てられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に PC を使って実習形式で進めます。まずテキストの解説などで基本的な考え方や文法を理解した上で、例題の入力と実行確認を行います。さらに関連した練習問題のプログラム作成に取り組みます。

授業は原則として対面で行いますが、状況によってはオンライン形式へ移行することもあります。

課題等についての講評は適宜、授業内あるいは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ファイル処理	ファイルからデータ読み込んだり、処理結果をファイルへ書き出す方法を学びます。
第 2 回	配列の計算	配列 (NumPy) を利用して数の並びを高速に計算する方法を学習します。
第 3 回	データのグラフ化	データを折れ線グラフや棒グラフなどで表現 (可視化) する方法を学びます。
第 4 回	グラフの編集	軸や凡例などの様々なグラフの部分を編集する方法を学習します。
第 5 回	オブジェクトとクラス	オブジェクト指向プログラミングの考え方について理解します。
第 6 回	クラスの定義	オブジェクトを定義するクラスの作成方法について学習します。
第 7 回	メソッドの作成	オブジェクトを操作するメソッドの書き方について学びます。
第 8 回	プロパティの利用	オブジェクト内にあるデータの扱いについて理解します。
第 9 回	クラスの継承	既存のクラスを基にして新たなクラスを作成する方法を学習します。
第 10 回	事例 1: Web データ処理	Web サイトからデータを収集 (スクレイピング) して集計処理を実行します。
第 11 回	事例 2: データサイエンス入門	Python による基礎的な統計的データ分析を行います。
第 12 回	事例 3: AI (人工知能) 入門	AI の手法により手書き文字を認識する処理を実行します。
第 13 回	応用プログラム作成演習 (1)	いくつかのテーマの中から各自で問題を選び、プログラムを作成する演習を行います。
第 14 回	応用プログラム作成演習 (2)	作成したプログラムの動作確認を行い処理効率の改善を試みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で指定した目標まで到達できなかった場合は、次の回までに各自で完了させておくことが推奨されます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。

【参考書】

「Python チュートリアル 第 3 版」Guido van Rossum、2016、オライリージャパン

「Python 言語によるプログラミング イントロダクション 第 2 版」John V. Guttag、2017、近代科学社

【成績評価の方法と基準】

平常点 (25%) : 実習が中心のため、毎回の実習をこなしてスキルをきちんと蓄積して行くことが重要になります。

課題レポート (15%) : 授業内容に沿った課題を 1～2 回程度出題します。

課題演習 (60%) : 終盤に授業内で行う課題演習で作成した成果物を提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

授業内での実習の時間を十分に確保できるよう留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の実習は情報実習室の PC で行います。

作成したプログラムやデータを保存するための USB メモリーを必要に応じて各自持参してください (詳細は授業内で説明します)。

【関連科目】

情報学発展 (情報通信ネットワーク) I / II

【Outline (in English)】

(Course outline) This course focuses on Python as a scripting language. The course aims to provide understanding of elementary programming techniques. In the latter part of the course, it also focuses on some application cases.

(Learning Objectives) The first goal is to learn the basic concept of programming. The next goal is to be able to create your own programs in Python for the problems you want to solve.

(Learning activities outside of classroom) If you are not able to reach the assigned goal in class, it is recommended that you complete it on your own before the next week's class.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on in-class contribution (25%), mid-term reports (15%), and term-end outcomes of the exercise (60%).

PRI100FA

プログラミング言語 I (C 言語) (2018 年度入学者)

寺脇 由紀

選択_情報関係 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

C 言語を通して、ソフトウェアをつくる技術であるプログラミングについて学びます。またプログラミングを学習することを通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を醸成します。

【到達目標】

C 言語を使って、自ら考え簡単なプログラムが作成できるようになる。
C 言語による学習を通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

C 言語を習得し、プログラミングの基礎概念である変数、関数、制御構造、基礎的なデータ構造を理解します。

講義と実習によって進めます。一つの要素をゆっくり確実に解説します。その後、教員とともに、プログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、PC 上で挙動を確認します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基礎知識	コンピュータの特徴、プログラミングの考え方などコンピュータ独自の考え方を説明します。
第 2 回	プログラミングの基礎知識	プログラミングの基礎知識と、プログラムの実行までの流れを学習します。
第 3 回	プログラムの書き方	多くのプログラマーが利用している慣習を紹介しながら、好ましいプログラムの書き方を学びます。
第 4 回	画面への出力	画面に情報を表示する処理の書き方を学びます。
第 5 回	数値の表示と計算	整数や小数を使った計算を習得します。また、C 言語での小数と整数を扱う際の注意点も学習します。
第 6 回	数値の記憶と計算	計算結果を保存したり、他の計算に利用したりする方法を学びます。
第 7 回	変数	変数を扱う方法を学びます。
第 8 回	式と演算子	関係演算子、論理演算子など演算子と優先順位について学びます。
第 9 回	制御構造とアルゴリズム	3 つの制御構造と代表的なアルゴリズムを学びます。
第 10 回	流れ図とプログラム	代表的なアルゴリズムをフローチャートにて表現し、フローチャートの基づいてプログラムを作成することを学びます。
第 11 回	条件分岐	if 文による条件分岐の書き方を学びます。
第 12 回	複雑な条件分岐	switch 文による条件分岐の書き方や、複雑な条件分岐の書き方を学びます。
第 13 回	回数が決まっている繰り返し	for 文による指定回数の繰り返し処理を書く方法を学びます。
第 14 回	回数がわからない繰り返し	while 文による繰り返し処理を書く方法を学びます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

プログラミングの知識や経験は不要です。

しかしコンピュータの扱い、特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須となります。キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行っておくことが望ましいです。1 分間に 150 文字以上の入力できることを目安に練習しておいてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業中に完成できなかったことは、授業終了後に配布される教材を見直して復習しましょう。

【テキスト (教科書)】

教員の作成する教材で進めます。教材は、授業開始前 (または、教材の性質によっては授業終了後) に授業支援システムによって配布します。

【参考書】

1) 株式会社アंक著、C の絵本 第 2 版 C 言語が好きになる新しい 9 つの扉、翔泳社、2016、ISBN-10: 479815038X。

2) David Griffiths, Dawn Griffiths 著、中田秀基監訳、木下哲也訳: Head First C - 頭とからだで覚える C の基本-, オライリー・ジャパン、2013、ISBN-10: 4873116090。

次に挙げるのは定番の教科書です。少し難しいので、余裕のある人向けです。
3) B.W. カーニハン、D.M. リッチー著、石田 晴久訳: プログラミング言語 C 第 2 版、共立出版、1989、ISBN-10: 4320026926。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う例題、期限を設けて行う課題やレポートの提出状況と出来栄 (60%)、授業内に作成するプログラムへの取り組み態度・授業に対する取り組み態度 (40%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎年度、多くの学生から好評いただいたように、今年度も一つの要素をゆっくり確実に解説します。また、なるべく多くの学生からの質問を受け付けて、初めてプログラミングに挑戦する方にも最初の一步を踏み出しやすいように配慮して講義を進めています。上記は便利なツールやソフトウェアを作成できるようなプログラミングができるようになるために大切なことです。このため場合によっては、授業の進行が前後することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

実習教室の PC を使います。

授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業内容についてわからない点は、質問をする、自ら調べるといった主体的な学習態度を心がけてください。

学生自身のスマートフォンで授業と関係ない操作をしたりコンテンツを閲覧をしたり、さらに過度な私語をしたり等、授業に参加していない学生は退席させる場合があります。

他の学生が作成したプログラムをコピー&ペーストする、あるいは、自己努力をしない学生は評価できません。

新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン講義を実施することがあります。

ハイブリッド形式による講義は実施しません。

【関連科目】

なし

【オフィスアワー】

授業時間の終了後および授業支援システムを活用して質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Outline】

We will learn about programming which is a technology for making software using the C language.

We will practice the computational thinking using C language.

【Goal】

To be able to create simple programs using C language.

Through learning in C, the students will be able to understand what the problem is and practice thinking to solve the problem appropriately.

【Work to be done outside of class】

No programming knowledge or experience is required.

However, familiarity with computers, especially keyboard typing, is required. It is recommended that students who are not familiar with keyboarding practice typing with typing software in advance.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

If you were not able to complete the exercises during the class, please review the materials distributed to you after the class.

【Grading criteria】

The evaluation will be based on the submission of examples, and reports (60%), as well as on the student's attitude toward the program and the class (40%).

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ（C言語）（2018年度入学者）

寺脇 由紀

選択_情報関係 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

C言語を通して、ソフトウェアをつくる技術であるプログラミングについて学びます。またプログラミングを学習することを通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を醸成します。

【到達目標】

C言語を使って、自ら考えプログラムが作成できるようになる。
C言語による学習を通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を実践できるようになる。また、いくつかの重要なアルゴリズムについて、その構造と実現方法も学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

C言語を用いて、プログラミングの基礎概念である変数、関数、制御構造、基礎的なデータ構造を理解します。

講義と実習によって進めます。一つの要素をゆっくり確実に解説します。その後、教員とともに、プログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、PC上で挙動を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	データ構造	代表的なデータ構造について学習します。
第2回	配列の基礎	配列の宣言とその利用といった配列の扱い方の基礎を学びます。
第3回	配列の活用	配列を活用したプログラムの作り方を学びます。
第4回	文字列	文字型配列の宣言や初期化、文字型配列の入出力について学びます。
第5回	構造体の基礎	構造体、構造体変数を使ったプログラムについて学びます。
第6回	構造体の活用	構造体配列を使ったプログラムの作り方を学びます。
第7回	関数の作成	ユーザ定義関数について学びます。
第8回	関数の活用	関数の呼び出し、戻り値の受け取り、プロトタイプ宣言など、関数を活用したプログラムについて学びます。
第9回	ポインタの基礎	ポインタ変数の宣言とアドレスの格納など、ポインタについて学びます。
第10回	配列のアドレス操作	配列のポインタ渡しを使ったプログラムについて学びます。
第11回	構造体のアドレス操作	構造体変数のポインタ渡しを使ったプログラムについて学びます。
第12回	ファイル入出力の基礎	ファイルを使ったプログラムについて学びます。
第13回	ファイルの扱い	ファイルオープンチェック、強制終了、データの格納方式やレコードなどを学びます。
第14回	まとめ	総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミングの知識や経験は不要です。
しかしコンピュータの扱い、特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須です。キーボードでの文字入力に慣れているとは、1分間に150文字以上の入力ができることを目安としてください。キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行ってください。授業中に完成できなかったことは、授業で配布する教材を見直して復習しましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
新型コロナウイルスの感染状況によって、オンライン講義にて実施する可能性があります。
ハイブリッド形式による講義は実施しません。

【テキスト（教科書）】

教員の作成する教材で進めます。教材は、授業開始前（または、教材の性質によっては授業終了後）に授業支援システムによって配布します。

【参考書】

B.W.カーニハン,D.M.リッチー著、石田晴久訳:プログラミング言語C第2版、共立出版,1989,ISBN-10: 4320026926。

上記の参考書の購入の必要はありません。また、少し難しいですので余裕のある方向け、または、本講座を受講後に参考にするをお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う例題、期限を設けて行う課題やレポートの提出状況と出来栄（60%）、授業内に作成するプログラムへの取り組み態度・授業に対する取り組み態度（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎年度、多くの学生から好評いただいたように、今年度も一つの要素をゆっくり確実に解説します。また、なるべく多くの学生からの質問を受け、初めてプログラミングに挑戦する方にも最初の一步を踏み出しやすいように配慮して講義を進めています。

上記は便利なツールやソフトウェアを作成できるようなプログラミングができるようになるために大切なことです。このため場合によっては、授業の進捗が前後することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業内容についてわからない点は、質問をする、自ら調べるといった主体的な学習態度を心がけてください。

学生自身のスマートフォンで授業と関係ない操作をしたり、コンテンツを閲覧をしたり、さらに過度な私語をしたり等、授業に参加していない学生は退席させる場合があります。他の学生が作成したプログラムをコピー&ペーストする、あるいは、自己努力をしていない学生は評価できません。

【関連科目】

なし

【オフィスアワー】

授業時間の終了後および授業支援システムを活用して質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

We will learn about programming which is a technology for making software using the C language.

We will practice the computational thinking using c language. We will also learn the structure of some important algorithms and how to realize them.

Before/ after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
the performance of Short reports and the assignments : 60%, learning attitude towards programming and the in class contribution: 40%

PRI100FA

プログラミング言語 I (C 言語) (2018 年度入学)

寺脇 由紀

選択_情報関係 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

C 言語を通して、ソフトウェアをつくる技術であるプログラミングについて学びます。またプログラミングを学習することを通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を醸成します。

【到達目標】

C 言語を使って、自ら考え簡単なプログラムが作成できるようになる。
C 言語による学習を通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

C 言語を習得し、プログラミングの基礎概念である変数、関数、制御構造、基礎的なデータ構造を理解します。

講義と実習によって進めます。一つの要素をゆっくり確実に解説します。その後、教員とともに、プログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、PC 上で挙動を確認します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基礎知識	コンピュータの特徴、プログラミングの考え方などコンピュータ独自の考え方を説明します。
第 2 回	プログラミングの基礎知識	プログラミングの基礎知識と、プログラムの実行までの流れを学習します。
第 3 回	プログラムの書き方	多くのプログラマーが利用している慣習を紹介しながら、好ましいプログラムの書き方を学びます。
第 4 回	画面への出力	画面に情報を表示する処理の書き方を学びます。
第 5 回	数値の表示と計算	整数や小数を使った計算を習得します。また、C 言語での小数と整数を扱う際の注意点も学習します。
第 6 回	数値の記憶と計算	計算結果を保存したり、他の計算に利用したりする方法を学びます。
第 7 回	変数	変数を扱う方法を学びます。
第 8 回	式と演算子	関係演算子、論理演算子など演算子と優先順位について学びます。
第 9 回	制御構造とアルゴリズム	3 つの制御構造と代表的なアルゴリズムを学びます。
第 10 回	流れ図とプログラム	代表的なアルゴリズムをフローチャートにて表現し、フローチャートの基づいてプログラムを作成することを学びます。
第 11 回	条件分岐	if 文による条件分岐の書き方を学びます。
第 12 回	複雑な条件分岐	switch 文による条件分岐の書き方や、複雑な条件分岐の書き方を学びます。
第 13 回	回数が決まっている繰り返し	for 文による指定回数の繰り返し処理を書く方法を学びます。
第 14 回	回数がわからない繰り返し	while 文による繰り返し処理を書く方法を学びます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

プログラミングの知識や経験は不要です。
しかしコンピュータの扱い、特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須となります。キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行っておくことが望ましいです。1 分間に 150 文字以上の入力できることを目安に練習しておいてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業中に完成できなかったことは、授業終了後に配布される教材を見直して復習しましょう。

【テキスト (教科書)】

教員の作成する教材で進めます。教材は、授業開始前 (または、教材の性質によっては授業終了後) に授業支援システムによって配布します。

【参考書】

1) 株式会社アंक著、C の絵本 第 2 版 C 言語が好きになる新しい 9 つの扉、翔泳社、2016、ISBN-10: 479815038X。

2) David Griffiths, Dawn Griffiths 著、中田秀基監訳、木下哲也訳: Head First C - 頭とからだで覚える C の基本-, オライリージャパン, 2013, ISBN-10: 4873116090。

次に挙げるのは定番の教科書です。少し難しいので、余裕のある人向けです。
3) B.W. カーニハン, D.M. リッチー著、石田 晴久訳: プログラミング言語 C 第 2 版, 共立出版, 1989, ISBN-10: 4320026926。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う例題、期限を設けて行う課題やレポートの提出状況と出来栄 (60%)、授業内に作成するプログラムへの取り組み態度・授業に対する取り組み態度 (40%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎年度、多くの学生から好評いただいたように、今年度も一つの要素をゆっくり確実に解説します。また、なるべく多くの学生からの質問を受け付けて、初めてプログラミングに挑戦する方にも最初の一步を踏み出しやすいように配慮して講義を進めています。上記は便利なツールやソフトウェアを作成できるようなプログラミングができるようになるために大切なことです。このため場合によっては、授業の進行が前後することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

実習教室の PC を使います。
授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業内容についてわからない点は、質問をする、自ら調べるといった主体的な学習態度を心がけてください。

学生自身のスマートフォンで授業と関係ない操作をしたりコンテンツを閲覧をしたり、さらに過度な私語をしたり等、授業に参加していない学生は退席させる場合があります。

他の学生が作成したプログラムをコピー&ペーストする、あるいは、自己努力をしない学生は評価できません。

新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン講義を実施することがあります。

ハイブリッド形式による講義は実施しません。

【関連科目】

なし

【オフィスアワー】

授業時間の終了後および授業支援システムを活用して質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Outline】

We will learn about programming which is a technology for making software using the C language.

We will practice the computational thinking using C language.

【Goal】

To be able to create simple programs using C language.

Through learning in C, the students will be able to understand what the problem is and practice thinking to solve the problem appropriately.

【Work to be done outside of class】

No programming knowledge or experience is required.

However, familiarity with computers, especially keyboard typing, is required. It is recommended that students who are not familiar with keyboarding practice typing with typing software in advance.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

If you were not able to complete the exercises during the class, please review the materials distributed to you after the class.

【Grading criteria】

The evaluation will be based on the submission of examples, and reports (60%), as well as on the student's attitude toward the program and the class (40%).

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ（C言語）（2018年度入学者）

寺脇 由紀

選択_情報関係 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

C言語を通して、ソフトウェアをつくる技術であるプログラミングについて学びます。またプログラミングを学習することを通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を醸成します。

【到達目標】

C言語を使って、自ら考えプログラムが作成できるようになる。
C言語による学習を通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を実践できるようになる。また、いくつかの重要なアルゴリズムについて、その構造と実現方法も学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

C言語を用いて、プログラミングの基礎概念である変数、関数、制御構造、基礎的なデータ構造を理解します。

講義と実習によって進めます。一つの要素をゆっくり確実に解説します。その後、教員とともに、プログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、PC上で挙動を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	データ構造	代表的なデータ構造について学習します。
第2回	配列の基礎	配列の宣言とその利用といった配列の扱い方の基礎を学びます。
第3回	配列の活用	配列を活用したプログラムの作り方を学びます。
第4回	文字列	文字型配列の宣言や初期化、文字型配列の入出力について学びます。
第5回	構造体の基礎	構造体、構造体変数を使ったプログラムについて学びます。
第6回	構造体の活用	構造体配列を使ったプログラムの作り方を学びます。
第7回	関数の作成	ユーザ定義関数について学びます。
第8回	関数の活用	関数の呼び出し、戻り値の受け取り、プロトタイプ宣言など、関数を活用したプログラムについて学びます。
第9回	ポインタの基礎	ポインタ変数の宣言とアドレスの格納など、ポインタについて学びます。
第10回	配列のアドレス操作	配列のポインタ渡しを使ったプログラムについて学びます。
第11回	構造体のアドレス操作	構造体変数のポインタ渡しを使ったプログラムについて学びます。
第12回	ファイル入出力の基礎	ファイルを使ったプログラムについて学びます。
第13回	ファイルの扱い	ファイルオープンチェック、強制終了、データの格納方式やレコードなどを学びます。
第14回	まとめ	総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミングの知識や経験は不要です。
しかしコンピュータの扱い、特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須です。キーボードでの文字入力に慣れているとは、1分間に150文字以上の入力ができることを目安としてください。キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行ってください。授業中に完成できなかったことは、授業で配布する教材を見直して復習しましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
新型コロナウイルスの感染状況によって、オンライン講義にて実施する可能性があります。
ハイブリッド形式による講義は実施しません。

【テキスト（教科書）】

教員の作成する教材で進めます。教材は、授業開始前（または、教材の性質によっては授業終了後）に授業支援システムによって配布します。

【参考書】

B.W.カーニハン,D.M.リッチー著、石田晴久訳:プログラミング言語C第2版、共立出版,1989,ISBN-10: 4320026926。

上記の参考書の購入の必要はありません。また、少し難しいので余裕のある方向け、または、本講座を受講後に参考にするをお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う例題、期限を設けて行う課題やレポートの提出状況と出来栄（60%）、授業内に作成するプログラムへの取り組み態度・授業に対する取り組み態度（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎年度、多くの学生から好評いただいたように、今年度も一つの要素をゆっくり確実に解説します。また、なるべく多くの学生からの質問を受け、初めてプログラミングに挑戦する方にも最初の一步を踏み出しやすいように配慮して講義を進めています。

上記は便利なツールやソフトウェアを作成できるようなプログラミングができるようになるために大切なことです。このため場合によっては、授業の進捗が前後することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業内容についてわからない点は、質問をする、自ら調べるといった主体的な学習態度を心がけてください。

学生自身のスマートフォンで授業と関係ない操作をしたり、コンテンツを閲覧をしたり、さらに過度な私語をしたり等、授業に参加していない学生は退席させる場合があります。他の学生が作成したプログラムをコピー&ペーストする、あるいは、自己努力をしていない学生は評価できません。

【関連科目】

なし

【オフィスアワー】

授業時間の終了後および授業支援システムを活用して質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

We will learn about programming which is a technology for making software using the C language.

We will practice the computational thinking using c language. We will also learn the structure of some important algorithms and how to realize them.

Before/ after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

the performance of Short reports and the assignments : 60%, learning attitude towards programming and the in class contribution: 40%

PR1100FA

プログラミング言語 I (JAVA) (2018 年度入学者)

飯塚 康至

選択_情報関係 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を学習する。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通り。

- (1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。

講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成する。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認する。この学習と演習によって Java の基礎を身につけていきます。なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Java の基礎知識	基本的なプログラムの記述方法や変数の利用について学びます。
第 2 回	図形の描画	図形を描画する方法について学びます。
第 3 回	繰り返しと条件判断	処理の繰り返しと条件を判断し処理を分岐する方法について学びます。
第 4 回	アニメーション	繰り返し処理を利用してアニメーションを作成する方法について学びます。
第 5 回	クラス・オブジェクト	効率良くアニメーションを作成する方法について学びます。
第 6 回	配列・Vector	効率良くたくさんの図形をアニメーションする方法について学びます。
第 7 回	継承	似たような図形を効率良く描画する方法について学びます。
第 8 回	イベント	キーボードからのイベント処理について学びます。
第 9 回	ゲームを作ろう (プレイヤーの作成 1)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 10 回	ゲームを作ろう (プレイヤーの作成 2)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 11 回	ゲームを作ろう (敵の作成 1)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 12 回	ゲームを作ろう (敵の作成 2)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 13 回	ゲームを作ろう (衝突判定)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。弾丸や自機と敵の衝突判定を行います。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

初級 Java 一やさしい Java, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

つまづきやすいポイントを解説しながら演習を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は Google クラウドを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer (オラクル認定 Java プログラマー)

演習系の授業になるので遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】

データ処理論 I (データ可視化)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

[Course Outline].

Students will learn Java, a leading object-oriented language. The goal is to be able to create simple programs on your own, and to be able to explain what object-oriented programming is using the Java language.

[Learning Objectives].

The objectives of this course are as follows.

- (1) To understand and be able to explain the basic functions and syntax of the Java language.
- (2) To be able to define and use classes.
- (3) To be able to perform object-oriented programming.
- (4) To be able to create simple programs by oneself.

[Learning outside the class]

After understanding the examples and basic programs in the lecture, students will create programs for exercises by applying the examples. Students will actually use a PC to create programs and check their operation. Through this study and exercises, students will learn the basics of Java.

In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.

[Grading Criteria/Policies]

Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ (JAVA) (2018年度入学者)

飯塚 康至

選択_情報関係 1~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を文法を中心に学ぶ。自力で簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通り。

- (1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力で簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。

授業は、実習室において講義と実習を行います。講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認します。この学習によって Java の基礎を身につけていきます。

なお、受講にあたってはプログラミングに関するの予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。

授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クラス定義とオブジェクトの生成、使用	クラスを定義し別のクラスから生成、使用する方法について理解する。
第 2 回	オーバーロードメソッドの作成と使用	メソッドのオーバーロードを実装し、利用し理解する。
第 3 回	コンストラクタの定義	コンストラクタとは何かを理解し、定義し利用する。
第 4 回	アクセス修飾子の適用とカプセル化	アクセス修飾子について理解し、カプセル化を実装する。
第 5 回	static 変数および static メソッドの定義と使用	static とは何かを理解し、定義し利用する。
第 6 回	API の利用	API(Application Programming Interface) を利用してプログラミングする方法について理解する。
第 7 回	オブジェクト指向コンセプト	オブジェクト指向とはどのようなものか概念について理解する。
第 8 回	サブクラスの定義と使用	サブクラスの役割について理解し、実装する。
第 9 回	インターフェースと抽象クラス	インターフェースや抽象クラスがどのようなものか理解し、実装する。
第 10 回	ポリモフィズムについて説明と適用	ポリモフィズム (多態性) がどのようなものか理解し、実装する。
第 11 回	入出力と例外処理、ガベージコレクション	ストリームを利用した入出力について理解する。実行時のエラーである例外と例外処理について理解する。
第 12 回	パッケージ宣言とインポート	パッケージとは何か理解し、インポート部分の実装について理解する。
第 13 回	スレッドの定義と利用	並列処理であるスレッドについて理解し、利用する。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

前期はグラフィカルなプログラムを作成しプログラムの理解に努め、後期は文法中心に解説しプログラムの理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer (オラクル認定 Java プログラマー)

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

データ処理論Ⅰ (コンピューターグラフィックス)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

Learn the grammar of the Java language. Java language is the main object-oriented. The goal is to create a simple program on its own. And purpose is you can be able to explain what is object-oriented.

【Goal】

The objectives of this course are as follows

- (1) Understand and explain basic Java language functions and syntax.
- (2) To be able to define and use classes.
- (3) To be able to perform object-oriented programming.
- (4) Be able to create simple programs on their own.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Make time to touch the computer on a daily basis. Ask questions and research on the Internet if you don't understand something. Program and verify what you have researched. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grading will be based on the assignments and reflection sheets for each class, with a maximum score of 100 points, 50 points for each reflection sheet and 50 points for each in-class assignment.

PR1100FA

プログラミング言語 I (JAVA) (2018 年度入学者)

飯塚 康至

選択_情報関係 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を学習する。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通り。

- (1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。

講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成する。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認する。この学習と演習によって Java の基礎を身につけていきます。なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Java の基礎知識	基本的なプログラムの記述方法や変数の利用について学びます。
第 2 回	図形の描画	図形を描画する方法について学びます。
第 3 回	繰り返しと条件判断	処理の繰り返しと条件を判断し処理を分岐する方法について学びます。
第 4 回	アニメーション	繰り返し処理を利用してアニメーションを作成する方法について学びます。
第 5 回	クラス・オブジェクト	効率良くアニメーションを作成する方法について学びます。
第 6 回	配列・Vector	効率良くたくさんの図形をアニメーションする方法について学びます。
第 7 回	継承	似たような図形を効率良く描画する方法について学びます。
第 8 回	イベント	キーボードからのイベント処理について学びます。
第 9 回	ゲームを作ろう (プレイヤーの作成 1)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 10 回	ゲームを作ろう (プレイヤーの作成 2)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 11 回	ゲームを作ろう (敵の作成 1)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 12 回	ゲームを作ろう (敵の作成 2)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 13 回	ゲームを作ろう (衝突判定)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。弾丸や自機と敵の衝突判定を行います。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

初級 Java 一やさしい Java, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

つまづきやすいポイントを解説しながら演習を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は Google クラウドを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer (オラクル認定 Java プログラマー)

演習系の授業になるので遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】

データ処理論 I (データ可視化)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

[Course Outline].

Students will learn Java, a leading object-oriented language. The goal is to be able to create simple programs on your own, and to be able to explain what object-oriented programming is using the Java language.

[Learning Objectives].

The objectives of this course are as follows.

- (1) To understand and be able to explain the basic functions and syntax of the Java language.
- (2) To be able to define and use classes.
- (3) To be able to perform object-oriented programming.
- (4) To be able to create simple programs by oneself.

[Learning outside the class]

After understanding the examples and basic programs in the lecture, students will create programs for exercises by applying the examples. Students will actually use a PC to create programs and check their operation. Through this study and exercises, students will learn the basics of Java.

In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.

[Grading Criteria/Policies]

Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ (JAVA) (2018年度入学者)

飯塚 康至

選択_情報関係 1~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を文法を中心に学ぶ。自力で簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通り。

- (1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力で簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。

授業は、実習室において講義と実習を行います。講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認します。この学習によって Java の基礎を身につけていきます。

なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。

授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クラス定義とオブジェクトの生成、使用	クラスを定義し別のクラスから生成、使用方法について理解する。
第 2 回	オーバーロードメソッドの作成と使用	メソッドのオーバーロードを実装し、利用し理解する。
第 3 回	コンストラクタの定義	コンストラクタとは何かを理解し、定義し利用する。
第 4 回	アクセス修飾子の適用とカプセル化	アクセス修飾子について理解し、カプセル化を実装する。
第 5 回	static 変数および static メソッドの定義と使用	static とは何かを理解し、定義し利用する。
第 6 回	API の利用	API(Application Programming Interface) を利用してプログラミングする方法について理解する。
第 7 回	オブジェクト指向コンセプト	オブジェクト指向とはどのようなものか概念について理解する。
第 8 回	サブクラスの定義と使用	サブクラスの役割について理解し、実装する。
第 9 回	インターフェースと抽象クラス	インターフェースや抽象クラスがどのようなものか理解し、実装する。
第 10 回	ポリモフィズムについて説明と適用	ポリモフィズム(多態性)がどのようなものか理解し、実装する。
第 11 回	入出力と例外処理、ガベージコレクション	ストリームを利用した入出力について理解する。実行時のエラーである例外と例外処理について理解する。
第 12 回	パッケージ宣言とインポート	パッケージとは何か理解し、インポート部分の実装について理解する。
第 13 回	スレッドの定義と利用	並列処理であるスレッドについて理解し、利用する。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

前期はグラフィカルなプログラムを作成しプログラムの理解に努め、後期は文法中心に解説しプログラムの理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer (オラクル認定 Java プログラマー)

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

データ処理論Ⅰ(コンピューターグラフィックス)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

Learn the grammar of the Java language. Java language is the main object-oriented. The goal is to create a simple program on its own. And purpose is you can be able to explain what is object-oriented.

【Goal】

The objectives of this course are as follows

- (1) Understand and explain basic Java language functions and syntax.
- (2) To be able to define and use classes.
- (3) To be able to perform object-oriented programming.
- (4) Be able to create simple programs on their own.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Make time to touch the computer on a daily basis. Ask questions and research on the Internet if you don't understand something. Program and verify what you have researched. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grading will be based on the assignments and reflection sheets for each class, with a maximum score of 100 points, 50 points for each reflection sheet and 50 points for each in-class assignment.

PRI100FA

プログラミング言語 I (JAVA) (2018 年度入学者)

寺脇 由紀

選択_情報関係 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Java 言語を通して、ソフトウェアをつくる技術であるプログラミングについて学びます。またプログラミングを学習することを通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を醸成します。

【到達目標】

Java 言語を使って、自ら考え簡単なプログラムが作成できるようになる。Java 言語による学習を通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

Java 言語を習得し、プログラミングの基礎概念と、基礎的なアルゴリズムを理解します。

講義と実習によって進めます。一つの要素をゆっくり確実に解説しします。その後、教員とともに、プログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、PC 上で挙動を確認します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プログラミングの基礎知識	プログラミングの基礎知識と、プログラムの実行までの流れを学習します。
第 2 回	Java とは	プログラミング言語 Java、実行環境、開発環境の 3 つの側面を学習します。
第 3 回	プログラムの書き方	Java アプリケーションの作成から実行までを学びます。
第 4 回	画面への出力	画面に情報を表示する処理の書き方を学びます。
第 5 回	識別子・予約語・命名規約	基本文法や、Java の命名規約の学習からプログラムをわかりやすく書くことについて学びます。
第 6 回	変数	変数を扱う方法を学びます。
第 7 回	式と演算子	関係演算子、論理演算子など演算子と優先順位について学びます。
第 8 回	リテラル	各種リテラルについて学びます。
第 9 回	制御構造とアルゴリズム	3 つの制御構造と代表的なアルゴリズムを学びます。
第 10 回	条件分岐	条件式の真偽による 2 分岐および多分岐について学びます。
第 11 回	複雑な条件分岐	2 つ以上の条件式を結合や、switch 文による条件分岐の書き方を学びます。
第 12 回	回数がわからない繰り返し	条件式の真偽による繰り返し処理を学びます。
第 13 回	回数が決まっている繰り返し	指定回数の繰り返し処理を書く方法を学びます。
第 14 回	制御構造まとめ	後判定による繰り返しや、入れ子構造、制御構造のスキップや強制終了などを学びます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

プログラミングの知識や経験は不要です。しかしコンピュータの扱い、特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須となります。キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行っておくことが望ましいです。1 分間に 150 文字以上の入力できることを目安に練習しておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業中に完成できなかったことは、授業終了後に配布される教材を見直して復習しましょう。

【テキスト (教科書)】

教員の作成する教材で進めます。教材は、授業開始前 (または、教材の性質によっては授業終了後) に授業支援システムによって配布します。

【参考書】

Joshua Bloch 著、柴田芳樹訳:Effective Java 第 3 版、丸善出版、第 3 版 (2018/10/30)、ISBN-10: 4621303252。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う例題、期限を設けて行う課題やレポートの提出状況と出来栄 (60%)、授業内に作成するプログラムへの取り組み態度・授業に対する取り組み態度 (40%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2023 年度より担当するため気づきはありません。

【学生が準備すべき機器他】

実習教室の PC を使います。授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業内容についてわからない点は、質問をする、自ら調べるといった主体的な学習態度を心がけてください。

学生自身のスマートフォンで授業と関係ない操作をしたりコンテンツを閲覧をしたり、さらに過度な私語をしたり等、授業に参加していない学生は退席させる場合があります。

他の学生が作成したプログラムをコピー&ペーストする、あるいは、自己努力をしていない学生は評価できません。

新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン講義を実施することがあります。

ハイブリッド形式による講義は実施しません。

【関連科目】

なし

【オフィスアワー】

授業時間の終了後および授業支援システムを活用して質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Outline】

We will learn about programming which is a technology for making software using the Java language. We will practice the computational thinking using Java language.

【Goal】

Students will be able to create simple programs using the Java language. Through learning Java language, the students should be able to practice thinking to solve the problem appropriately.

【Work to be done outside of class】

No programming knowledge or experience is required.

However, familiarity with computers, especially keyboard typing, is required. It is recommended that students who are not familiar with keyboarding practice typing with typing software in advance.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

If you were not able to complete the exercises during the class, please review the materials distributed to you after the class.

【Grading criteria】

The evaluation will be based on the submission of examples, and reports (60%), as well as on the student's attitude toward the class (40%).

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ (JAVA) (2018年度入学者)

寺脇 由紀

選択_情報関係 1~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

オブジェクト指向プログラミング言語である Java を使い、オブジェクト指向の三大要素である継承、カプセル化、ポリモーフィズムを理解し、それらをプログラミングする技術を学びます。

【到達目標】

オブジェクト指向の三大要素である継承、カプセル化、ポリモーフィズムを習得する。

Java 言語を用いたオブジェクト指向プログラムの構築を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オブジェクト指向の三大要素である継承、カプセル化、ポリモーフィズムを理解し、そのプログラミングテクニックを学び、実践します。

講義と実習によって進めます。一つの要素をゆっくり確実に解説しします。その後、教員とともに、プログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、PC 上で挙動を確認します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オブジェクト指向の基本概念	オブジェクト指向を用いたソフトウェア開発について学びます。
第 2 回	オブジェクト指向と図的表現	オブジェクト指向プログラミングにおいて特に重要度の高い UML 記法について紹介します。
第 3 回	クラスとメソッド	メンバ変数やメソッドの定義、オブジェクトの生成について学びます。
第 4 回	オブジェクトの利用	メンバ変数およびメソッドの呼び出し方について学びます。
第 5 回	カプセル化と情報隠蔽	メンバ変数へのアクセス制限について学びます。
第 6 回	メンバ変数の初期化	コンストラクタの使い方について学びます。
第 7 回	オーバーロード	メソッドやコンストラクタの多重定義について学びます。
第 8 回	継承	オブジェクト抽象化のメカニズムについて学びます。
第 9 回	オーバーライド・抽象クラス・抽象メソッド	メソッドの再定義や、抽象クラス・抽象メソッドについて学びます。
第 10 回	インタフェース	メソッドの使い方の統一について学びます。
第 11 回	ポリモーフィズム	ポリモーフィズム (多態性) の意義について理解し、ポリモーフィズムの活用例について学びます。
第 12 回	例外処理	提供されている例外クラスについて学び、ユーザー定義例外を実践します。
第 13 回	パッケージとコレクションフレームワーク	クラスの整理整頓や、コレクションフレームワークの実装クラスについて学びます。
第 14 回	まとめ	これまでに習得した技法を概観し、総合演習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

プログラミングの知識や経験は不要です。

しかしコンピュータの扱い、特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須となります。キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行っておくことが望ましいです。1分間に 150 文字以上の入力できることを目安に練習しておいてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業中に完成できなかったことは、授業終了後に配布される教材を見直して復習しましょう。

【テキスト (教科書)】

教員の作成する教材が進めます。教材は、授業開始前 (または、教材の性質によっては授業終了後) に授業支援システムによって配布します。

【参考書】

Joshua Bloch 著、柴田芳樹訳:Effective Java 第 3 版、丸善出版、第 3 版 (2018/10/30)、ISBN-10: 4621303252。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う例題、期限を設けて行う課題やレポートの提出状況と出来栄 (60%)、授業内に作成するプログラムへの取り組み態度・授業に対する取り組み態度 (40%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2023 年度より担当するため気づきはありません。

【学生が準備すべき機器他】

実習教室の PC を使います。
授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

講義で説明する知識と技術をしっかりと消化していただき、知識に基づいてプログラミングしてみるということが重要となります。知識が欠けてしまうと、教員の入力した文字を真似して入力しているだけとなります。講義内容を聞き逃さないという姿勢で授業に臨むこと、講義で説明した技術や知識を復習し確実に自分の中に積み上げていくことを徹底してください。

学生自身のスマートフォンで授業と関係ない操作をしたりコンテンツを閲覧をしたり、さらに過度な私語をしたり等、授業に参加していない学生は退席させる場合があります。

新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン講義を実施することがあります。

ハイブリッド形式による講義は実施しません。

【関連科目】

なし

【オフィスアワー】

授業時間の終了後および授業支援システムを活用して質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Outline】

We will understand the three major elements of object-oriented programming: inheritance, encapsulation, and polymorphism, and learn techniques for programming them.

【Goal】

To master the three major elements of object-oriented programming: inheritance, encapsulation, and polymorphism. Understand how to construct object-oriented programs using the Java language.

【Work to be done outside of class】

No programming knowledge or experience is required.

However, familiarity with computers, especially keyboard typing, is required. It is recommended that students who are not familiar with keyboarding practice typing with typing software in advance.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

If you were not able to complete the exercises during the class, please review the materials distributed to you after the class.

【Grading criteria】

The evaluation will be based on the submission of examples, and reports (60%), as well as on the student's attitude toward the class (40%).

PRI100FA

プログラミング言語 I (BASIC) (2018 年度入学者)

高田 美樹

選択_情報関係 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications (以下、VBA という) を用いて、プログラミングの基礎とデータ処理について学ぶ。Excel の特徴を生かしたプログラミングを行う。

【到達目標】

プログラミングの考え方を理解し、表計算ソフトウェア Excel に入力されているデータを自動で集計するためのプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド動画による事前学習とオンラインまたは対面講義の組み合わせで講義を行う。予習用に、Microsoft Excel が動作する Windows または Mac パソコンを使用できることが望ましい。ない場合は、大学のカフェテリアが利用できる。

コンピュータ上で様々な処理を実行することができる表計算ソフトウェア Excel の使い方を解説し、そのマクロ言語としての VBA を解説する。Excel マクロ VBA の文法とアルゴリズムを理解し、プログラミングの基本を実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	1 年を通じた計画を把握し、マクロとは、プログラミングとは、という概念を学ぶ。
第 2 回	サブルーチン	マクロ自動記録を用いて、サブルーチンの呼び出しと実行順序について学ぶ。
第 3 回	値と式、および書式の設定	マクロで値や式、書式を自動的に設定する方法を学ぶ。
第 4 回	繰り返し処理 (1)	Excel シートの全行に同じ処理を行う構文を学ぶ。
第 5 回	範囲選択	変更部分の範囲を指定して元に戻す処理を行う。範囲が上下しても対応できる方法を学ぶ。
第 6 回	繰り返し (2)	集計処理を学ぶ。
第 7 回	選択	条件による二者択一を学ぶ。
第 8 回	繰り返しと選択の組み合わせ	最大値をはじめとした簡単なアルゴリズムを学ぶ。
第 9 回	多肢選択 (1)	3 択以上の中から条件により選択する方法を学ぶ。
第 10 回	多肢選択 (2)	範囲のある条件分岐を学ぶ。
第 11 回	配列的な考え方	インデックスを用いてデータを指定する方法を学ぶ。
第 12 回	配列 (1)	配列を用いた大量のデータ処理を学ぶ。
第 13 回	繰り返し (3)	回数がわかっている場合の繰り返し処理の構文を学ぶ。
第 14 回	総合演習	自分でアプリケーションを制作する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に提供した動画を視聴し、予習を行う。講義の時間に知識を定着させる演習を行う。

その日に学んだことを復習し、次週までにプログラムを完成させる。

本授業の予習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Google Classroom 上に講義資料を提示する。

【参考書】

適宜、講義の中で提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義で行った実習結果と小テスト 60%

総合演習 (最終課題) 40%

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ず行ったオンデマンドの講義で、動画による学習は、自分にペースで繰り返し学習ができることから、効果があったことを受け、予習に取り入れる。対面授業でコミュニケーションを図る。

【学生が準備すべき機器他】

予習用に、Microsoft Excel が動作できる Windows または Mac パソコンが利用できることよい。古くても家族と共用でも可能。

【その他の重要事項】

法政大学のメールアドレスにメールを送ることがあるので、メールの確認を怠らないこと。

【関連科目】

情報学入門

【オフィス・アワー】

講義の後、およびメールで対応する。

miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Master programming skill and data mining skill with Visual Basic Applications (VBA) on Microsoft Excel.

You will be able to program for spreadsheets.

The goal is to understand the concept of programming and to create a program to automatically tabulate data entered into the Excel spreadsheet software.

Before the lecture, please watch the video to prepare for the lecture.

After the lecture, complete the week's programming assignments.

It takes about 2 hours.

Grading criteria :

Weekly quizzes 60%

Comprehensive Exercises 40%

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ (BASIC) (2018年度入学者)

高田 美樹

選択_情報関係 1~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications (以下、VBA という) を用いて、プログラミングの基礎とデータ処理について学ぶ。Excel の特徴を生かしたプログラミングを行う。

【到達目標】

代表的なアルゴリズムを理解し、プログラムに実装することができる。また、誤り箇所を自ら発見して修正できるようになる。画面を伴った簡単なアプリケーションの仕様を考案し、制作することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド動画を視聴して予習してから、オンラインまたは対面講義に参加する。対面では、予習の知識を定着させる演習を行う。

予習用に、Microsoft Excel が動作できる Windows パソコンが利用できるとよい。ない場合は、大学の自習室が利用できる。(講義の後半は Mac では実習できません)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと春学期の復習	秋学期の計画を把握し、春学期の復習をする。
第2回	日付の取り扱い	日付を取り扱い、エラーが発生したときの対処を学ぶ。
第3回	2次元配列	2次元配列の概念と使い方を学ぶ。
第4回	文字列	文字列にまつわる関数の使いかたと文字列の扱いを学ぶ。
第5回	シートの扱い	複数のシートのまたがって記録されている情報を一括して処理する方法を学ぶ。
第6回	探索 (1)	シート上に記載されている情報から探索する方法を学ぶ。
第7回	探索 (2)	サブルーチンや Function を利用して探索を行う。
第8回	探索 (3)	エラーが発生した時の対処法を学ぶ。
第9回	ユーザフォーム (1)	イベントドリブンなマクロを学ぶ。
第10回	ユーザフォーム (2)	ユーザの操作を想定したマクロを学ぶ。
第11回	ユーザフォーム (3)	例外処理を含むマクロの実装を学ぶ。
第12回	ユーザフォーム (4)	多彩なユーザフォーム部品の実装を学ぶ。
第13回	総合制作 (1)	興味あるデータを収集して可視化するアプリケーションを設計する。
第14回	総合制作 (2)	興味あるデータを収集して可視化するアプリケーションを制作する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

オンデマンドの動画で予習をしてから講義に参加すること。講義では、予習した知識を定着させるために演習を行う。復習して次週までにプログラムを完成させる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Google Classroom 上に講義資料を提示する。

【参考書】

適宜、講義の中で提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義で行った実習結果と小テスト 60%

制作課題提出 40%

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ず行ったオンデマンド動画が、自分のペースで何度でも視聴でき、効果があったことを受け、予習に取り入れる。一方、学習の様子がわからなかったことから、対面と組み合わせることとする。

【学生が準備すべき機器他】

予習用に、Microsoft Windows が動作する Windows パソコンがあるとよい。家族との共用、古くても可。

【その他の重要事項】

法政大学のメールアドレスにメールを送ることがあるので、メールの確認を怠らないこと。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目
プログラミング言語 VBA 1

【オフィス・アワー】

講義の後、メールでも対応する。
miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Master programming skill and data mining skill with Visual Basic Applications (VBA) on Microsoft Excel.

You will be able to program for spreadsheets.

You will be able to understand typical algorithms and implement them in your programs. You will also be able to find and correct errors in the program yourself.

Before the lecture, please watch the video to prepare for the lecture.

After the lecture, complete the week's programming assignments.

It takes about 2 hours.

Grading criteria :

Weekly quizzes 60%

Comprehensive Exercises 40%

PRI100FA

プログラミング言語 I (2016~2017 年度入学者)

寺脇 由紀

選択_情報関係 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

C 言語を通して、ソフトウェアをつくる技術であるプログラミングについて学びます。またプログラミングを学習することを通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を醸成します。

【到達目標】

C 言語を使って、自ら考え簡単なプログラムが作成できるようになる。
C 言語による学習を通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

C 言語を習得し、プログラミングの基礎概念である変数、関数、制御構造、基礎的なデータ構造を理解します。

講義と実習によって進めます。一つの要素をゆっくり確実に解説します。その後、教員とともに、プログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、PC 上で挙動を確認します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基礎知識	コンピュータの特徴、プログラミングの考え方などコンピュータ独自の考え方を説明します。
第 2 回	プログラミングの基礎知識	プログラミングの基礎知識と、プログラムの実行までの流れを学習します。
第 3 回	プログラムの書き方	多くのプログラマーが利用している慣習を紹介しながら、好ましいプログラムの書き方を学びます。
第 4 回	画面への出力	画面に情報を表示する処理の書き方を学びます。
第 5 回	数値の表示と計算	整数や小数を使った計算を習得します。また、C 言語での小数と整数を扱う際の注意点も学習します。
第 6 回	数値の記憶と計算	計算結果を保存したり、他の計算に利用したりする方法を学びます。
第 7 回	変数	変数を扱う方法を学びます。
第 8 回	式と演算子	関係演算子、論理演算子など演算子と優先順位について学びます。
第 9 回	制御構造とアルゴリズム	3 つの制御構造と代表的なアルゴリズムを学びます。
第 10 回	流れ図とプログラム	代表的なアルゴリズムをフローチャートにて表現し、フローチャートの基づいてプログラムを作成することを学びます。
第 11 回	条件分岐	if 文による条件分岐の書き方を学びます。
第 12 回	複雑な条件分岐	switch 文による条件分岐の書き方や、複雑な条件分岐の書き方を学びます。
第 13 回	回数が決まっている繰り返し	for 文による指定回数の繰り返し処理を書く方法を学びます。
第 14 回	回数がわからない繰り返し	while 文による繰り返し処理を書く方法を学びます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

プログラミングの知識や経験は不要です。

しかしコンピュータの扱い、特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須となります。キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行っておくことが望ましいです。1 分間に 150 文字以上の入力できることを目安に練習しておいてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業中に完成できなかったことは、授業終了後に配布される教材を見直して復習しましょう。

【テキスト (教科書)】

教員の作成する教材で進めます。教材は、授業開始前 (または、教材の性質によっては授業終了後) に授業支援システムによって配布します。

【参考書】

1) 株式会社アネク著、C の絵本 第 2 版 C 言語が好きになる新しい 9 つの扉、翔泳社、2016、ISBN-10: 479815038X。

2) David Griffiths, Dawn Griffiths 著、中田秀基監訳、木下哲也訳: Head First C - 頭とからだで覚える C の基本-, オライリージャパン, 2013, ISBN-10: 4873116090。

次に挙げるのは定番の教科書です。少し難しいので、余裕のある人向けです。
3) B.W. カーニハン, D.M. リッチー著、石田 晴久訳: プログラミング言語 C 第 2 版, 共立出版, 1989, ISBN-10: 4320026926。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う例題、期限を設けて行う課題やレポートの提出状況と出来栄 (60%)、授業内に作成するプログラムへの取り組み態度・授業に対する取り組み態度 (40%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎年度、多くの学生から好評いただいたように、今年度も一つの要素をゆっくり確実に解説します。また、なるべく多くの学生からの質問を受け付けて、初めてプログラミングに挑戦する方にも最初の一步を踏み出しやすいように配慮して講義を進めています。上記は便利なツールやソフトウェアを作成できるようなプログラミングができるようになるために大切なことです。このため場合によっては、授業の進行が前後することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

実習教室の PC を使います。

授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業内容についてわからない点は、質問をする、自ら調べるといった主体的な学習態度を心がけてください。

学生自身のスマートフォンで授業と関係ない操作をしたりコンテンツを閲覧をしたり、さらに過度な私語をしたり等、授業に参加していない学生は退席させる場合があります。

他の学生が作成したプログラムをコピー&ペーストする、あるいは、自己努力をしていない学生は評価できません。

新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン講義を実施することがあります。

ハイブリッド形式による講義は実施しません。

【関連科目】

なし

【オフィスアワー】

授業時間の終了後および授業支援システムを活用して質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Outline】

We will learn about programming which is a technology for making software using the C language.

We will practice the computational thinking using C language.

【Goal】

To be able to create simple programs using C language.

Through learning in C, the students will be able to understand what the problem is and practice thinking to solve the problem appropriately.

【Work to be done outside of class】

No programming knowledge or experience is required.

However, familiarity with computers, especially keyboard typing, is required. It is recommended that students who are not familiar with keyboarding practice typing with typing software in advance.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

If you were not able to complete the exercises during the class, please review the materials distributed to you after the class.

【Grading criteria】

The evaluation will be based on the submission of examples, and reports (60%), as well as on the student's attitude toward the program and the class (40%).

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ（2016～2017年度入学者）

寺脇 由紀

選択_情報関係 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

C言語を通して、ソフトウェアをつくる技術であるプログラミングについて学びます。またプログラミングを学習することを通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を醸成します。

【到達目標】

C言語を使って、自ら考えプログラムが作成できるようになる。
C言語による学習を通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を実践できるようになる。また、いくつかの重要なアルゴリズムについて、その構造と実現方法も学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

C言語を用いて、プログラミングの基礎概念である変数、関数、制御構造、基礎的なデータ構造を理解します。

講義と実習によって進めます。一つの要素をゆっくり確実に解説します。その後、教員とともに、プログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、PC上で挙動を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	データ構造	代表的なデータ構造について学習します。
第2回	配列の基礎	配列の宣言とその利用といった配列の扱い方の基礎を学びます。
第3回	配列の活用	配列を活用したプログラムの作り方を学びます。
第4回	文字列	文字型配列の宣言や初期化、文字型配列の入出力について学びます。
第5回	構造体の基礎	構造体、構造体変数を使ったプログラムについて学びます。
第6回	構造体の活用	構造体配列を使ったプログラムの作り方を学びます。
第7回	関数の作成	ユーザ定義関数について学びます。
第8回	関数の活用	関数の呼び出し、戻り値の受け取り、プロトタイプ宣言など、関数を活用したプログラムについて学びます。
第9回	ポインタの基礎	ポインタ変数の宣言とアドレスの格納など、ポインタについて学びます。
第10回	配列のアドレス操作	配列のポインタ渡しを使ったプログラムについて学びます。
第11回	構造体のアドレス操作	構造体変数のポインタ渡しを使ったプログラムについて学びます。
第12回	ファイル入出力の基礎	ファイルを使ったプログラムについて学びます。
第13回	ファイルの扱い	ファイルオープンチェック、強制終了、データの格納方式やレコードなどを学びます。
第14回	まとめ	総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミングの知識や経験は不要です。
しかしコンピュータの扱い、特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須です。キーボードでの文字入力に慣れているとは、1分間に150文字以上の入力ができることを目安としてください。キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行ってください。授業中に完成できなかったことは、授業で配布する教材を見直して復習しましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
新型コロナウイルスの感染状況によって、オンライン講義にて実施する可能性があります。
ハイブリッド形式による講義は実施しません。

【テキスト（教科書）】

教員の作成する教材で進めます。教材は、授業開始前（または、教材の性質によっては授業終了後）に授業支援システムによって配布します。

【参考書】

B.W.カーニハン,D.M.リッチー著、石田晴久訳:プログラミング言語C第2版、共立出版,1989,ISBN-10: 4320026926。

上記の参考書の購入の必要はありません。また、少し難しいですので余裕のある方向け、または、本講座を受講後に参考にするをお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う例題、期限を設けて行う課題やレポートの提出状況と出来栄（60%）、授業内に作成するプログラムへの取り組み態度・授業に対する取り組み態度（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎年度、多くの学生から好評いただいたように、今年度も一つの要素をゆっくり確実に解説します。また、なるべく多くの学生からの質問を受け、初めてプログラミングに挑戦する方にも最初の一步を踏み出しやすいように配慮して講義を進めています。

上記は便利なツールやソフトウェアを作成できるようなプログラミングができるようになるために大切なことです。このため場合によっては、授業の進捗が前後することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業内容についてわからない点は、質問をする、自ら調べるといった主体的な学習態度を心がけてください。

学生自身のスマートフォンで授業と関係ない操作をしたり、コンテンツを閲覧をしたり、さらに過度な私語をしたり等、授業に参加していない学生は退席させる場合があります。他の学生が作成したプログラムをコピー&ペーストする、あるいは、自己努力をしていない学生は評価できません。

【関連科目】

なし

【オフィスアワー】

授業時間の終了後および授業支援システムを活用して質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

We will learn about programming which is a technology for making software using the C language.

We will practice the computational thinking using c language. We will also learn the structure of some important algorithms and how to realize them.

Before/ after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

the performance of Short reports and the assignments : 60%, learning attitude towards programming and the in class contribution: 40%

PRI100FA

プログラミング言語 I (2016~2017 年度入学者)

寺脇 由紀

選択_情報関係 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

C 言語を通して、ソフトウェアをつくる技術であるプログラミングについて学びます。またプログラミングを学習することを通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を醸成します。

【到達目標】

C 言語を使って、自ら考え簡単なプログラムが作成できるようになる。
C 言語による学習を通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

C 言語を習得し、プログラミングの基礎概念である変数、関数、制御構造、基礎的なデータ構造を理解します。

講義と実習によって進めます。一つの要素をゆっくり確実に解説します。その後、教員とともに、プログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、PC 上で挙動を確認します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基礎知識	コンピュータの特徴、プログラミングの考え方などコンピュータ独自の考え方を説明します。
第 2 回	プログラミングの基礎知識	プログラミングの基礎知識と、プログラムの実行までの流れを学習します。
第 3 回	プログラムの書き方	多くのプログラマーが利用している慣習を紹介しながら、好ましいプログラムの書き方を学びます。
第 4 回	画面への出力	画面に情報を表示する処理の書き方を学びます。
第 5 回	数値の表示と計算	整数や小数を使った計算を習得します。また、C 言語での小数と整数を扱う際の注意点も学習します。
第 6 回	数値の記憶と計算	計算結果を保存したり、他の計算に利用したりする方法を学びます。
第 7 回	変数	変数を扱う方法を学びます。
第 8 回	式と演算子	関係演算子、論理演算子など演算子と優先順位について学びます。
第 9 回	制御構造とアルゴリズム	3 つの制御構造と代表的なアルゴリズムを学びます。
第 10 回	流れ図とプログラム	代表的なアルゴリズムをフローチャートにて表現し、フローチャートの基づいてプログラムを作成することを学びます。
第 11 回	条件分岐	if 文による条件分岐の書き方を学びます。
第 12 回	複雑な条件分岐	switch 文による条件分岐の書き方や、複雑な条件分岐の書き方を学びます。
第 13 回	回数が決まっている繰り返し	for 文による指定回数の繰り返し処理を書く方法を学びます。
第 14 回	回数がわからない繰り返し	while 文による繰り返し処理を書く方法を学びます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

プログラミングの知識や経験は不要です。
しかしコンピュータの扱い、特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須となります。キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行っておくことが望ましいです。1 分間に 150 文字以上の入力できることを目安に練習しておいてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業中に完成できなかったことは、授業終了後に配布される教材を見直して復習しましょう。

【テキスト (教科書)】

教員の作成する教材で進めます。教材は、授業開始前 (または、教材の性質によっては授業終了後) に授業支援システムによって配布します。

【参考書】

1) 株式会社アネク著、C の絵本 第 2 版 C 言語が好きな新しい 9 つの扉、翔泳社、2016、ISBN-10: 479815038X。

2) David Griffiths, Dawn Griffiths 著、中田秀基監訳、木下哲也訳: Head First C - 頭とからだで覚える C の基本-, オライリージャパン, 2013, ISBN-10: 4873116090。

次に挙げるのは定番の教科書です。少し難しいので、余裕のある人向けです。
3) B.W. カーニハン, D.M. リッチー著、石田 晴久訳: プログラミング言語 C 第 2 版, 共立出版, 1989, ISBN-10: 4320026926。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う例題、期限を設けて行う課題やレポートの提出状況と出来栄 (60%)、授業内に作成するプログラムへの取り組み態度・授業に対する取り組み態度 (40%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎年度、多くの学生から好評いただいたように、今年度も一つの要素をゆっくり確実に解説します。また、なるべく多くの学生からの質問を受け付けて、初めてプログラミングに挑戦する方にも最初の一步を踏み出しやすいように配慮して講義を進めています。上記は便利なツールやソフトウェアを作成できるようなプログラミングができるようになるために大切なことです。このため場合によっては、授業の進行が前後することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

実習教室の PC を使います。
授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業内容についてわからない点は、質問をする、自ら調べるといった主体的な学習態度を心がけてください。

学生自身のスマートフォンで授業と関係ない操作をしたりコンテンツを閲覧をしたり、さらに過度な私語をしたり等、授業に参加していない学生は退席させる場合があります。

他の学生が作成したプログラムをコピー&ペーストする、あるいは、自己努力をしていない学生は評価できません。

新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン講義を実施することがあります。

ハイブリッド形式による講義は実施しません。

【関連科目】

なし

【オフィスアワー】

授業時間の終了後および授業支援システムを活用して質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Outline】

We will learn about programming which is a technology for making software using the C language.

We will practice the computational thinking using C language.

【Goal】

To be able to create simple programs using C language.

Through learning in C, the students will be able to understand what the problem is and practice thinking to solve the problem appropriately.

【Work to be done outside of class】

No programming knowledge or experience is required.

However, familiarity with computers, especially keyboard typing, is required. It is recommended that students who are not familiar with keyboarding practice typing with typing software in advance.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

If you were not able to complete the exercises during the class, please review the materials distributed to you after the class.

【Grading criteria】

The evaluation will be based on the submission of examples, and reports (60%), as well as on the student's attitude toward the program and the class (40%).

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ（2016～2017年度入学者）

寺脇 由紀

選択_情報関係 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

C言語を通して、ソフトウェアをつくる技術であるプログラミングについて学びます。またプログラミングを学習することを通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を醸成します。

【到達目標】

C言語を使って、自ら考えプログラムが作成できるようになる。
C言語による学習を通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を実践できるようになる。また、いくつかの重要なアルゴリズムについて、その構造と実現方法も学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

C言語を用いて、プログラミングの基礎概念である変数、関数、制御構造、基礎的なデータ構造を理解します。

講義と実習によって進めます。一つの要素をゆっくり確実に解説します。その後、教員とともに、プログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、PC上で挙動を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	データ構造	代表的なデータ構造について学習します。
第2回	配列の基礎	配列の宣言とその利用といった配列の扱い方の基礎を学びます。
第3回	配列の活用	配列を活用したプログラムの作り方を学びます。
第4回	文字列	文字型配列の宣言や初期化、文字型配列の入出力について学びます。
第5回	構造体の基礎	構造体、構造体変数を使ったプログラムについて学びます。
第6回	構造体の活用	構造体配列を使ったプログラムの作り方を学びます。
第7回	関数の作成	ユーザ定義関数について学びます。
第8回	関数の活用	関数の呼び出し、戻り値の受け取り、プロトタイプ宣言など、関数を活用したプログラムについて学びます。
第9回	ポインタの基礎	ポインタ変数の宣言とアドレスの格納など、ポインタについて学びます。
第10回	配列のアドレス操作	配列のポインタ渡しを使ったプログラムについて学びます。
第11回	構造体のアドレス操作	構造体変数のポインタ渡しを使ったプログラムについて学びます。
第12回	ファイル入出力の基礎	ファイルを使ったプログラムについて学びます。
第13回	ファイルの扱い	ファイルオープンチェック、強制終了、データの格納方式やレコードなどを学びます。
第14回	まとめ	総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミングの知識や経験は不要です。
しかしコンピュータの扱い、特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須です。キーボードでの文字入力に慣れているとは、1分間に150文字以上の入力ができることを目安としてください。キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行ってください。授業中に完成できなかったことは、授業で配布する教材を見直して復習しましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
新型コロナウイルスの感染状況によって、オンライン講義にて実施する可能性があります。
ハイブリッド形式による講義は実施しません。

【テキスト（教科書）】

教員の作成する教材で進めます。教材は、授業開始前（または、教材の性質によっては授業終了後）に授業支援システムによって配布します。

【参考書】

B.W.カーニハン,D.M.リッチー著、石田晴久訳:プログラミング言語C第2版、共立出版,1989,ISBN-10: 4320026926。

上記の参考書の購入の必要はありません。また、少し難しいので余裕のある方向け、または、本講座を受講後に参考にするをお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う例題、期限を設けて行う課題やレポートの提出状況と出来栄（60%）、授業内に作成するプログラムへの取り組み態度・授業に対する取り組み態度（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎年度、多くの学生から好評いただいたように、今年度も一つの要素をゆっくり確実に解説します。また、なるべく多くの学生からの質問を受け、初めてプログラミングに挑戦する方にも最初の一步を踏み出しやすいように配慮して講義を進めています。

上記は便利なツールやソフトウェアを作成できるようなプログラミングができるようになるために大切なことです。このため場合によっては、授業の進捗が前後することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業内容についてわからない点は、質問をする、自ら調べるといった主体的な学習態度を心がけてください。

学生自身のスマートフォンで授業と関係ない操作をしたり、コンテンツを閲覧をしたり、さらに過度な私語をしたり等、授業に参加していない学生は退席させる場合があります。他の学生が作成したプログラムをコピー&ペーストする、あるいは、自己努力をしていない学生は評価できません。

【関連科目】

なし

【オフィスアワー】

授業時間の終了後および授業支援システムを活用して質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

We will learn about programming which is a technology for making software using the C language.

We will practice the computational thinking using c language. We will also learn the structure of some important algorithms and how to realize them.

Before/ after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

the performance of Short reports and the assignments : 60%, learning attitude towards programming and the in class contribution: 40%

PR1100FA

プログラミング言語 I (2016~2017 年度入学者)

飯塚 康至

選択_情報関係 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を学習する。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通り。

- (1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。

講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成する。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認する。この学習と演習によって Java の基礎を身につけていきます。なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Java の基礎知識	基本的なプログラムの記述方法や変数の利用について学びます。
第 2 回	図形の描画	図形を描画する方法について学びます。
第 3 回	繰り返しと条件判断	処理の繰り返しと条件を判断し処理を分岐する方法について学びます。
第 4 回	アニメーション	繰り返し処理を利用してアニメーションを作成する方法について学びます。
第 5 回	クラス・オブジェクト	効率良くアニメーションを作成する方法について学びます。
第 6 回	配列・Vector	効率良くたくさんの図形をアニメーションする方法について学びます。
第 7 回	継承	似たような図形を効率良く描画する方法について学びます。
第 8 回	イベント	キーボードからのイベント処理について学びます。
第 9 回	ゲームを作ろう (プレイヤーの作成 1)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 10 回	ゲームを作ろう (プレイヤーの作成 2)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 11 回	ゲームを作ろう (敵の作成 1)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 12 回	ゲームを作ろう (敵の作成 2)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 13 回	ゲームを作ろう (衝突判定)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。弾丸や自機と敵の衝突判定を行います。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

初級 Java 一やさしい Java, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

つまづきやすいポイントを解説しながら演習を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は Google クラウドを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer (オラクル認定 Java プログラマー)

演習系の授業になるので遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】

データ処理論 I (データ可視化)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

[Course Outline].

Students will learn Java, a leading object-oriented language. The goal is to be able to create simple programs on your own, and to be able to explain what object-oriented programming is using the Java language.

[Learning Objectives].

The objectives of this course are as follows.

- (1) To understand and be able to explain the basic functions and syntax of the Java language.
- (2) To be able to define and use classes.
- (3) To be able to perform object-oriented programming.
- (4) To be able to create simple programs by oneself.

[Learning outside the class]

After understanding the examples and basic programs in the lecture, students will create programs for exercises by applying the examples. Students will actually use a PC to create programs and check their operation. Through this study and exercises, students will learn the basics of Java.

In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.

[Grading Criteria/Policies]

Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ（2016～2017年度入学者）

飯塚 康至

選択_情報関係 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を文法を中心に学ぶ。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通り。

- (1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。

授業は、実習室において講義と実習を行います。講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認します。この学習によって Java の基礎を身につけていきます。

なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。

授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クラス定義とオブジェクトの生成、使用	クラスを定義し別のクラスから生成、使用方法について理解する。
第 2 回	オーバーロードメソッドの作成と使用	メソッドのオーバーロードを実装し、利用し理解する。
第 3 回	コンストラクタの定義	コンストラクタとは何かを理解し、定義し利用する。
第 4 回	アクセス修飾子の適用とカプセル化	アクセス修飾子について理解し、カプセル化を実装する。
第 5 回	static 変数および static メソッドの定義と使用	static とは何かを理解し、定義し利用する。
第 6 回	API の利用	API(Application Programming Interface) を利用してプログラミングする方法について理解する。
第 7 回	オブジェクト指向コンセプト	オブジェクト指向とはどのようなものか概念について理解する。
第 8 回	サブクラスの定義と使用	サブクラスの役割について理解し、実装する。
第 9 回	インターフェースと抽象クラス	インターフェースや抽象クラスがどのようなものか理解し、実装する。
第 10 回	ポリモフィズムについて説明と適用	ポリモフィズム（多態性）がどのようなものか理解し、実装する。
第 11 回	入出力と例外処理、ガベージコレクション	ストリームを利用した入出力について理解する。実行時のエラーである例外と例外処理について理解する。
第 12 回	パッケージ宣言とインポート	パッケージとは何か理解し、インポート部分の実装について理解する。
第 13 回	スレッドの定義と利用	並列処理であるスレッドについて理解し、利用する。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

前期はグラフィカルなプログラムを作成しプログラムの理解に努め、後期は文法中心に解説しプログラムの理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定 Java プログラマー）

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

データ処理論Ⅰ（コンピューターグラフィックス）

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

Learn the grammar of the Java language. Java language is the main object-oriented. The goal is to create a simple program on its own. And purpose is you can be able to explain what is object-oriented.

【Goal】

The objectives of this course are as follows

- (1) Understand and explain basic Java language functions and syntax.
- (2) To be able to define and use classes.
- (3) To be able to perform object-oriented programming.
- (4) Be able to create simple programs on their own.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Make time to touch the computer on a daily basis. Ask questions and research on the Internet if you don't understand something. Program and verify what you have researched. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grading will be based on the assignments and reflection sheets for each class, with a maximum score of 100 points, 50 points for each reflection sheet and 50 points for each in-class assignment.

PR1100FA

プログラミング言語 I (2016~2017 年度入学者)

飯塚 康至

選択_情報関係 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を学習する。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通り。

- (1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。

講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成する。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認する。この学習と演習によって Java の基礎を身につけていきます。なお、受講にあたってはプログラミングに関する予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Java の基礎知識	基本的なプログラムの記述方法や変数の利用について学びます。
第 2 回	図形の描画	図形を描画する方法について学びます。
第 3 回	繰り返しと条件判断	処理の繰り返しと条件を判断し処理を分岐する方法について学びます。
第 4 回	アニメーション	繰り返し処理を利用してアニメーションを作成する方法について学びます。
第 5 回	クラス・オブジェクト	効率良くアニメーションを作成する方法について学びます。
第 6 回	配列・Vector	効率良くたくさんの図形をアニメーションする方法について学びます。
第 7 回	継承	似たような図形を効率良く描画する方法について学びます。
第 8 回	イベント	キーボードからのイベント処理について学びます。
第 9 回	ゲームを作ろう (プレイヤーの作成 1)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 10 回	ゲームを作ろう (プレイヤーの作成 2)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 11 回	ゲームを作ろう (敵の作成 1)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 12 回	ゲームを作ろう (敵の作成 2)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 13 回	ゲームを作ろう (衝突判定)	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。弾丸や自機と敵の衝突判定を行います。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

初級 Java 一やさしい Java, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1), 4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

つまづきやすいポイントを解説しながら演習を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は Google クラウドを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer (オラクル認定 Java プログラマー)

演習系の授業になるので遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】

データ処理論 I (データ可視化)

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

[Course Outline].

Students will learn Java, a leading object-oriented language. The goal is to be able to create simple programs on your own, and to be able to explain what object-oriented programming is using the Java language.

[Learning Objectives].

The objectives of this course are as follows.

- (1) To understand and be able to explain the basic functions and syntax of the Java language.
- (2) To be able to define and use classes.
- (3) To be able to perform object-oriented programming.
- (4) To be able to create simple programs by oneself.

[Learning outside the class]

After understanding the examples and basic programs in the lecture, students will create programs for exercises by applying the examples. Students will actually use a PC to create programs and check their operation. Through this study and exercises, students will learn the basics of Java.

In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.

[Grading Criteria/Policies]

Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ（2016～2017年度入学者）

飯塚 康至

選択_情報関係 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を文法を中心に学ぶ。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通り。

- (1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。

授業は、実習室において講義と実習を行います。講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認します。この学習によって Java の基礎を身につけていきます。

なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。

授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クラス定義とオブジェクトの生成、使用	クラスを定義し別のクラスから生成、使用方法について理解する。
第 2 回	オーバーロードメソッドの作成と使用	メソッドのオーバーロードを実装し、利用し理解する。
第 3 回	コンストラクタの定義	コンストラクタとは何かを理解し、定義し利用する。
第 4 回	アクセス修飾子の適用とカプセル化	アクセス修飾子について理解し、カプセル化を実装する。
第 5 回	static 変数および static メソッドの定義と使用	static とは何かを理解し、定義し利用する。
第 6 回	API の利用	API(Application Programming Interface) を利用してプログラミングする方法について理解する。
第 7 回	オブジェクト指向コンセプト	オブジェクト指向とはどのようなものか概念について理解する。
第 8 回	サブクラスの定義と使用	サブクラスの役割について理解し、実装する。
第 9 回	インターフェースと抽象クラス	インターフェースや抽象クラスがどのようなものか理解し、実装する。
第 10 回	ポリモフィズムについて説明と適用	ポリモフィズム（多態性）がどのようなものか理解し、実装する。
第 11 回	入出力と例外処理、ガベージコレクション	ストリームを利用した入出力について理解する。実行時のエラーである例外と例外処理について理解する。
第 12 回	パッケージ宣言とインポート	パッケージとは何か理解し、インポート部分の実装について理解する。
第 13 回	スレッドの定義と利用	並列処理であるスレッドについて理解し、利用する。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

前期はグラフィカルなプログラムを作成しプログラムの理解に努め、後期は文法中心に解説しプログラムの理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定 Java プログラマー）

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

データ処理論Ⅰ（コンピューターグラフィックス）

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

Learn the grammar of the Java language. Java language is the main object-oriented. The goal is to create a simple program on its own. And purpose is you can be able to explain what is object-oriented.

【Goal】

The objectives of this course are as follows

- (1) Understand and explain basic Java language functions and syntax.
- (2) To be able to define and use classes.
- (3) To be able to perform object-oriented programming.
- (4) Be able to create simple programs on their own.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Make time to touch the computer on a daily basis. Ask questions and research on the Internet if you don't understand something. Program and verify what you have researched. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grading will be based on the assignments and reflection sheets for each class, with a maximum score of 100 points, 50 points for each reflection sheet and 50 points for each in-class assignment.

PRI100FA

プログラミング言語 I (2016~2017 年度入学者)

寺脇 由紀

選択_情報関係 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Java 言語を通して、ソフトウェアをつくる技術であるプログラミングについて学びます。またプログラミングを学習することを通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を醸成します。

【到達目標】

Java 言語を使って、自ら考え簡単なプログラムが作成できるようになる。Java 言語による学習を通じて、課題が何であるかを理解し、課題を適切に解決する思考を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

Java 言語を習得し、プログラミングの基礎概念と、基礎的なアルゴリズムを理解します。

講義と実習によって進めます。一つの要素をゆっくり確実に解説しします。その後、教員とともに、プログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、PC 上で挙動を確認します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プログラミングの基礎知識	プログラミングの基礎知識と、プログラムの実行までの流れを学習します。
第 2 回	Java とは	プログラミング言語 Java、実行環境、開発環境の 3 つの側面を学習します。
第 3 回	プログラムの書き方	Java アプリケーションの作成から実行までを学びます。
第 4 回	画面への出力	画面に情報を表示する処理の書き方を学びます。
第 5 回	識別子・予約語・命名規約	基本文法や、Java の命名規約の学習からプログラムをわかりやすく書くことについて学びます。
第 6 回	変数	変数を扱う方法を学びます。
第 7 回	式と演算子	関係演算子、論理演算子など演算子と優先順位について学びます。
第 8 回	リテラル	各種リテラルについて学びます。
第 9 回	制御構造とアルゴリズム	3 つの制御構造と代表的なアルゴリズムを学びます。
第 10 回	条件分岐	条件式の真偽による 2 分岐および多分岐について学びます。
第 11 回	複雑な条件分岐	2 つ以上の条件式を結合や、switch 文による条件分岐の書き方を学びます。
第 12 回	回数がわからない繰り返し	条件式の真偽による繰り返し処理を学びます。
第 13 回	回数が決まっている繰り返し	指定回数の繰り返し処理を書く方法を学びます。
第 14 回	制御構造まとめ	後判定による繰り返しや、入れ子構造、制御構造のスキップや強制終了などを学びます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

プログラミングの知識や経験は不要です。しかしコンピュータの扱い、特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須となります。キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行っておくことが望ましいです。1 分間に 150 文字以上の入力できることを目安に練習しておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業中に完成できなかったことは、授業終了後に配布される教材を見直して復習しましょう。

【テキスト (教科書)】

教員の作成する教材で進めます。教材は、授業開始前 (または、教材の性質によっては授業終了後) に授業支援システムによって配布します。

【参考書】

Joshua Bloch 著、柴田芳樹訳:Effective Java 第 3 版、丸善出版、第 3 版 (2018/10/30)、ISBN-10: 4621303252。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う例題、期限を設けて行う課題やレポートの提出状況と出来栄 (60%)、授業内に作成するプログラムへの取り組み態度・授業に対する取り組み態度 (40%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2023 年度より担当するため気づきはありません。

【学生が準備すべき機器他】

実習教室の PC を使います。授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業内容についてわからない点は、質問をする、自ら調べるといった主体的な学習態度を心がけてください。

学生自身のスマートフォンで授業と関係ない操作をしたりコンテンツを閲覧をしたり、さらに過度な私語をしたり等、授業に参加していない学生は退席させる場合があります。

他の学生が作成したプログラムをコピー&ペーストする、あるいは、自己努力をしていない学生は評価できません。

新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン講義を実施することがあります。

ハイブリッド形式による講義は実施しません。

【関連科目】

なし

【オフィスアワー】

授業時間の終了後および授業支援システムを活用して質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Outline】

We will learn about programming which is a technology for making software using the Java language. We will practice the computational thinking using Java language.

【Goal】

Students will be able to create simple programs using the Java language. Through learning Java language, the students should be able to practice thinking to solve the problem appropriately.

【Work to be done outside of class】

No programming knowledge or experience is required.

However, familiarity with computers, especially keyboard typing, is required. It is recommended that students who are not familiar with keyboarding practice typing with typing software in advance.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

If you were not able to complete the exercises during the class, please review the materials distributed to you after the class.

【Grading criteria】

The evaluation will be based on the submission of examples, and reports (60%), as well as on the student's attitude toward the class (40%).

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ（2016～2017年度入学者）

寺脇 由紀

選択_情報関係 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オブジェクト指向プログラミング言語である **Java** を使い、オブジェクト指向の三大要素である継承、カプセル化、ポリモーフィズムを理解し、それらをプログラミングする技術を学びます。

【到達目標】

オブジェクト指向の三大要素である継承、カプセル化、ポリモーフィズムを習得する。

Java 言語を用いたオブジェクト指向プログラムの構築を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オブジェクト指向の三大要素である継承、カプセル化、ポリモーフィズムを理解し、そのプログラミングテクニックを学び、実践します。

講義と実習によって進めます。一つの要素をゆっくり確実に解説しします。その後、教員とともに、プログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、PC 上で挙動を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オブジェクト指向の基本概念	オブジェクト指向を用いたソフトウェア開発について学びます。
第 2 回	オブジェクト指向と図的表現	オブジェクト指向プログラミングにおいて特に重要度の高い UML 記法について紹介します。
第 3 回	クラスとメソッド	メンバ変数やメソッドの定義、オブジェクトの生成について学びます。
第 4 回	オブジェクトの利用	メンバ変数およびメソッドの呼び出し方について学びます。
第 5 回	カプセル化と情報隠蔽	メンバ変数へのアクセス制限について学びます。
第 6 回	メンバ変数の初期化	コンストラクタの使い方について学びます。
第 7 回	オーバーロード	メソッドやコンストラクタの多重定義について学びます。
第 8 回	継承	オブジェクト抽象化のメカニズムについて学びます。
第 9 回	オーバーライド・抽象クラス・抽象メソッド	メソッドの再定義や、抽象クラス・抽象メソッドについて学びます。
第 10 回	インタフェース	メソッドの使い方の統一について学びます。
第 11 回	ポリモーフィズム	ポリモーフィズム（多態性）の意義について理解し、ポリモーフィズムの活用例について学びます。
第 12 回	例外処理	提供されている例外クラスについて学び、ユーザー定義例外を実践します。
第 13 回	パッケージとコレクションフレームワーク	クラスの整理整頓や、コレクションフレームワークの実装クラスについて学びます。
第 14 回	まとめ	これまでに習得した技法を概観し、総合演習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミングの知識や経験は不要です。

しかしコンピュータの扱い、特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須となります。キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行っておくことが望ましいです。1分間に 150 文字以上の入力できることを目安に練習しておいてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業中に完成できなかったことは、授業終了後に配布される教材を見直して復習しましょう。

【テキスト（教科書）】

教員の作成する教材が進めます。教材は、授業開始前（または、教材の性質によっては授業終了後）に授業支援システムによって配布します。

【参考書】

Joshua Bloch 著、柴田芳樹訳:Effective Java 第 3 版、丸善出版、第 3 版 (2018/10/30)、ISBN-10: 4621303252。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う例題、期限を設けて行う課題やレポートの提出状況と出来栄え (60%)、授業内に作成するプログラムへの取り組み態度・授業に対する取り組み態度 (40%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2023 年度より担当するため気づきはありません。

【学生が準備すべき機器他】

実習教室の PC を使います。
授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

講義で説明する知識と技術をしっかりと消化していただき、知識に基づいてプログラミングしてみるということが重要となります。知識が欠けてしまうと、教員の入力した文字を真似して入力しているだけとなります。講義内容を聞き逃さないという姿勢で授業に臨むこと、講義で説明した技術や知識を復習し確実に自分の中に積み上げていくことを徹底してください。

学生自身のスマートフォンで授業と関係ない操作をしたりコンテンツを閲覧をしたり、さらに過度な私語をしたり等、授業に参加していない学生は退席させる場合があります。

新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン講義を実施することがあります。

ハイブリッド形式による講義は実施しません。

【関連科目】

なし

【オフィスアワー】

授業時間の終了後および授業支援システムを活用して質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Outline】

We will understand the three major elements of object-oriented programming: inheritance, encapsulation, and polymorphism, and learn techniques for programming them.

【Goal】

To master the three major elements of object-oriented programming: inheritance, encapsulation, and polymorphism. Understand how to construct object-oriented programs using the Java language.

【Work to be done outside of class】

No programming knowledge or experience is required.

However, familiarity with computers, especially keyboard typing, is required. It is recommended that students who are not familiar with keyboarding practice typing with typing software in advance.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

If you were not able to complete the exercises during the class, please review the materials distributed to you after the class.

【Grading criteria】

The evaluation will be based on the submission of examples, and reports (60%), as well as on the student's attitude toward the class (40%).

PRI100FA

プログラミング言語 I (2016~2017 年度入学者)

高田 美樹

選択_情報関係 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications (以下、VBA という) を用いて、プログラミングの基礎とデータ処理について学ぶ。Excel の特徴を生かしたプログラミングを行う。

【到達目標】

プログラミングの考え方を理解し、表計算ソフトウェア Excel に入力されているデータを自動で集計するためのプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド動画による事前学習とオンラインまたは対面講義の組み合わせで講義を行う。予習用に、Microsoft Excel が動作する Windows または Mac パソコンを使用できることが望ましい。ない場合は、大学のカフェテリアが利用できる。

コンピュータ上で様々な処理を実行することができる表計算ソフトウェア Excel の使い方を解説し、そのマクロ言語としての VBA を解説する。Excel マクロ VBA の文法とアルゴリズムを理解し、プログラミングの基本を実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	1 年を通じた計画を把握し、マクロとは、プログラミングとは、という概念を学ぶ。
第 2 回	サブルーチン	マクロ自動記録を用いて、サブルーチンの呼び出しと実行順序について学ぶ。
第 3 回	値と式、および書式の設定	マクロで値や式、書式を自動的に設定する方法を学ぶ。
第 4 回	繰り返し処理 (1)	Excel シートの全行に同じ処理を行う構文を学ぶ。
第 5 回	範囲選択	変更部分の範囲を指定して元に戻す処理を行う。範囲が上下しても対応できる方法を学ぶ。
第 6 回	繰り返し (2)	集計処理を学ぶ。
第 7 回	選択	条件による二者択一を学ぶ。
第 8 回	繰り返しと選択の組み合わせ	最大値をはじめとした簡単なアルゴリズムを学ぶ。
第 9 回	多肢選択 (1)	3 択以上の中から条件により選択する方法を学ぶ。
第 10 回	多肢選択 (2)	範囲のある条件分岐を学ぶ。
第 11 回	配列的な考え方	インデックスを用いてデータを指定する方法を学ぶ。
第 12 回	配列 (1)	配列を用いた大量のデータ処理を学ぶ。
第 13 回	繰り返し (3)	回数がわかっている場合の繰り返し処理の構文を学ぶ。
第 14 回	総合演習	自分でアプリケーションを制作する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に提供した動画を視聴し、予習を行う。講義の時間に知識を定着させる演習を行う。

その日に学んだことを復習し、次週までにプログラムを完成させる。

本授業の予習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Google Classroom 上に講義資料を提示する。

【参考書】

適宜、講義の中で提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義で行った実習結果と小テスト 60%

総合演習 (最終課題) 40%

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ず行ったオンデマンドの講義で、動画による学習は、自分にペースで繰り返し学習ができることから、効果があったことを受け、予習に取り入れる。対面授業でコミュニケーションを図る。

【学生が準備すべき機器他】

予習用に、Microsoft Excel が動作できる Windows または Mac パソコンが利用できることよい。古くても家族と共用でも可能。

【その他の重要事項】

法政大学のメールアドレスにメールを送ることがあるので、メールの確認を怠らないこと。

【関連科目】

情報学入門

【オフィス・アワー】

講義の後、およびメールで対応する。

miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Master programming skill and data mining skill with Visual Basic Applications (VBA) on Microsoft Excel.

You will be able to program for spreadsheets.

The goal is to understand the concept of programming and to create a program to automatically tabulate data entered into the Excel spreadsheet software.

Before the lecture, please watch the video to prepare for the lecture.

After the lecture, complete the week's programming assignments.

It takes about 2 hours.

Grading criteria :

Weekly quizzes 60%

Comprehensive Exercises 40%

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ（2016～2017年度入学者）

高田 美樹

選択_情報関係 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications（以下、VBA という）を用いて、プログラミングの基礎とデータ処理について学ぶ。Excel の特徴を生かしたプログラミングを行う。

【到達目標】

代表的なアルゴリズムを理解し、プログラムに実装することができる。また、誤り箇所を自ら発見して修正できるようになる。画面を伴った簡単なアプリケーションの仕様を考案し、制作することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド動画を視聴して予習してから、オンラインまたは対面講義に参加する。対面では、予習の知識を定着させる演習を行う。

予習用に、Microsoft Excel が動作できる Windows パソコンが利用できるとよい。ない場合は、大学の自習室が利用できる。（講義の後半は Mac では実習できません）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと春学期の復習	秋学期の計画を把握し、春学期の復習をする。
第 2 回	日付の取り扱い	日付を取り扱い、エラーが発生したときの対処を学ぶ。
第 3 回	2次元配列	2次元配列の概念と使い方を学ぶ。
第 4 回	文字列	文字列にまつわる関数の使いかかと文字列の扱いを学ぶ。
第 5 回	シートの扱い	複数のシートのまたがって記録されている情報を一括して処理する方法を学ぶ。
第 6 回	探索（1）	シート上に記載されている情報から探索する方法を学ぶ。
第 7 回	探索（2）	サブルーチンや Function を利用して探索を行う。
第 8 回	探索（3）	エラーが発生した時の対処法を学ぶ。
第 9 回	ユーザフォーム（1）	イベントドリブンなマクロを学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（2）	ユーザの操作を想定したマクロを学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（3）	例外処理を含むマクロの実装を学ぶ。
第 12 回	ユーザフォーム（4）	多彩なユーザフォーム部品の実装を学ぶ。
第 13 回	総合制作（1）	興味あるデータを収集して可視化するアプリケーションを設計する。
第 14 回	総合制作（2）	興味あるデータを収集して可視化するアプリケーションを制作する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オンデマンドの動画で予習をしてから講義に参加すること。講義では、予習した知識を定着させるために演習を行う。復習して次週までにプログラムを完成させる。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google Classroom 上に講義資料を提示する。

【参考書】

適宜、講義の中で提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義で行った実習結果と小テスト 60%

制作課題提出 40%

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ず行ったオンデマンド動画が、自分のペースで何度でも視聴でき、効果があったことを受け、予習に取り入れる。一方、学習の様子がわからなかったことから、対面と組み合わせることとする。

【学生が準備すべき機器他】

予習用に、Microsoft Windows が動作する Windows パソコンがあるとよい。家族との共用、古くても可。

【その他の重要事項】

法政大学のメールアドレスにメールを送ることがあるので、メールの確認を怠らないこと。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目
プログラミング言語 VBA 1

【オフィス・アワー】

講義の後、メールでも対応する。
miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Master programming skill and data mining skill with Visual Basic Applications (VBA) on Microsoft Excel.

You will be able to program for spreadsheets.

You will be able to understand typical algorithms and implement them in your programs. You will also be able to find and correct errors in the program yourself.

Before the lecture, please watch the video to prepare for the lecture.

After the lecture, complete the week's programming assignments.

It takes about 2 hours.

Grading criteria :

Weekly quizzes 60%

Comprehensive Exercises 40%

COT200FA

情報学応用 I (データベース) (2019 年度以降入学者)

木村 昌史

情報関係科目 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

研究活動、社会で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術の修得

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC、ネットワーク、Excel、Access、SQLite などの活用法を学びながら、次の 4 つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【補足】

原則として対面授業で行う予定だが、情勢によってはオンライン授業になる場合もある。その場合には学習支援システム (Hoppii) 等で提示するので参照のこと。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第 2 回	ネットワークの仕組み	ネットワークの仕組みと各種 Web サービスについて
第 3 回	情報の検索・収集方法	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第 4 回	情報の蓄積と管理	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
第 5 回	表計算ソフトとは	ワークシートの編集・加工について
第 6 回	表計算ソフトの活用	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
第 7 回	データベースの基本概念	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
第 8 回	Excel によるデータベース的処理 (1)	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第 9 回	Excel によるデータベース的処理 (2)	データベース関数の活用と条件設定について
第 10 回	Excel によるデータベース的処理 (3)	クロス集計とピボットテーブルの活用について
第 11 回	Excel によるデータ分析	Excel の分析ツールの活用と R との連携によるデータ分析への応用
第 12 回	データベースソフトとは	Access の起動・データ読み込みとテーブルの作成
第 13 回	Access の基本操作	Excel ファイルのエクスポート データの検索方法と検索条件の指定について
第 14 回	春学期のまとめ	クエリとは何か ソフトウェア活用法のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 学内 PC 環境、自宅のネットワーク環境の確認 (予習)
 2. ネットワークの仕組みについて調べる (予習)
 3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習 (予習と復習)
 - 4.~14. 配布資料や配布データの予習、配布資料の復習
 - 15.~28. 配布資料の予習・復習 データ検索の復習
- 予習と復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】

参考書やオンライン資料については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %、各回授業での演習課題 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。

実習室において PC に向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。

法政大学からライセンス利用できる Office 365 ProPlus を自宅 PC などに導入することも推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、広くすべての学部生に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学の入門を中心とした情報関係科目全般

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】

実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society. This course introduces Applied Informatics to students taking this course. As an introduction to Applied Informatics we first learn methods of data processing and data analysis. Next in this course we learn the concept of database and ways of database's operation using some database management systems.

The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

COT200FA

情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）

木村 昌史

情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究活動、社会で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術の修得

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC、ネットワーク、Excel、Access、SQLite の活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【補足】

原則として対面授業で行う予定だが、情勢によってはオンライン授業になる場合もある。その場合には学習支援システム（Hoppii）等で提示するので参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リレーショナルデータベースとは	データベースのしくみとデータベース管理システムについて
第2回	データベースの操作言語とは	データベースの基本操作の射影、選択、結合と SQL について
第3回	データベースのスキーマ	データベースの基本設計と Access のテーブル作成と編集
第4回	Access によるデータ編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
第5回	テーブルの操作 (1)	選択クエリ、アクションクエリの作成について
第6回	テーブルの操作 (2)	テーブル作成クエリの利用と SQL による操作について
第7回	データベースの設計 (1)	データベースの設計とデータの正規化について
第8回	データベースの設計 (2)	リレーションシップと高度なクエリの活用について
第9回	SQL とデータベース (1)	SQL によるデータベース作成とテーブル作成
第10回	SQL とデータベース (2)	SQL によるデータベース検索やデータの追加・更新
第11回	SQLite データベース	テーブルのインポートやエクスポートの実行
第12回	外部クラウドとデータベース	Google Colaboratory によるデータベース操作
第13回	総合演習 (1) データベースの設計	基礎的なデータベースの作成と活用
第14回	総合演習 (2) データベースの応用	実用的なデータベースの作成と活用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の配布資料の予習・復習 データ検索の復習
予習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】

参考書やオンライン資料については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %、各回授業での演習課題 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。

実習室において PC に向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。

法政大学からライセンス利用できる Office 365 ProPlus を自宅 PC などに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、広くすべての学部生に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学の入門を中心とした情報関係科目全般

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】

実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society. This course introduces Applied Informatics to students taking this course. As an introduction to Applied Informatics we first learn methods of data processing and data analysis. Next in this course we learn the concept of database and ways of database's operation using some database management systems.

The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

COT200FA

情報学応用 I (データベース) (2019 年度以降入学者)

木村 昌史

情報関係科目 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

研究活動、社会で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術の修得

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC、ネットワーク、Excel、Access、SQLite などの活用法を学びながら、次の 4 つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【補足】

原則として対面授業で行う予定だが、情勢によってはオンライン授業になる場合もある。その場合には学習支援システム (Hoppii) 等で提示するので参照のこと。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第 2 回	ネットワークの仕組み	ネットワークの仕組みと各種 Web サービスについて
第 3 回	情報の検索・収集方法	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第 4 回	情報の蓄積と管理	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
第 5 回	表計算ソフトとは	ワークシートの編集・加工について
第 6 回	表計算ソフトの活用	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
第 7 回	データベースの基本概念	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
第 8 回	Excel によるデータベース的処理 (1)	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第 9 回	Excel によるデータベース的処理 (2)	データベース関数の活用と条件設定について
第 10 回	Excel によるデータベース的処理 (3)	クロス集計とピボットテーブルの活用について
第 11 回	Excel によるデータ分析	Excel の分析ツールの活用と R との連携によるデータ分析への応用
第 12 回	データベースソフトとは	Access の起動・データ読み込みとテーブルの作成
第 13 回	Access の基本操作	Excel ファイルのエクスポート データの検索方法と検索条件の指定について
第 14 回	春学期のまとめ	クエリとは何か ソフトウェア活用法のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 学内 PC 環境、自宅のネットワーク環境の確認 (予習)
 2. ネットワークの仕組みについて調べる (予習)
 3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習 (予習と復習)
 4. ~14. 配布資料や配布データの予習、配布資料の復習
 15. ~28. 配布資料の予習・復習 データ検索の復習
- 予習と復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】

参考書やオンライン資料については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %、各回授業での演習課題 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。

実習室において PC に向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。

法政大学からライセンス利用できる Office 365 ProPlus を自宅 PC などに導入することも推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、広くすべての学部生に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学の入門を中心とした情報関係科目全般

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】

実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society. This course introduces Applied Informatics to students taking this course. As an introduction to Applied Informatics we first learn methods of data processing and data analysis. Next in this course we learn the concept of database and ways of database's operation using some database management systems.

The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

COT200FA

情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）

木村 昌史

情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究活動、社会で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術の修得

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC、ネットワーク、Excel、Access、SQLite の活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【補足】

原則として対面授業で行う予定だが、情勢によってはオンライン授業になる場合もある。その場合には学習支援システム（Hoppii）等で提示するので参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リレーショナルデータベースとは	データベースのしくみとデータベース管理システムについて
第2回	データベースの操作言語とは	データベースの基本操作の射影、選択、結合と SQL について
第3回	データベースのスキーマ	データベースの基本設計と Access のテーブル作成と編集
第4回	Access によるデータ編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
第5回	テーブルの操作 (1)	選択クエリ、アクションクエリの作成について
第6回	テーブルの操作 (2)	テーブル作成クエリの利用と SQL による操作について
第7回	データベースの設計 (1)	データベースの設計とデータの正規化について
第8回	データベースの設計 (2)	リレーションシップと高度なクエリの活用について
第9回	SQL とデータベース (1)	SQL によるデータベース作成とテーブル作成
第10回	SQL とデータベース (2)	SQL によるデータベース検索やデータの追加・更新
第11回	SQLite データベース	テーブルのインポートやエクスポートの実行
第12回	外部クラウドとデータベース	Google Colaboratory によるデータベース操作
第13回	総合演習 (1) データベースの設計	基礎的なデータベースの作成と活用
第14回	総合演習 (2) データベースの応用	実用的なデータベースの作成と活用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の配布資料の予習・復習 データ検索の復習
予習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】

参考書やオンライン資料については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %、各回授業での演習課題 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。

実習室において PC に向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。

法政大学からライセンス利用できる Office 365 ProPlus を自宅 PC などに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、広くすべての学部生に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学の入門を中心とした情報関係科目全般

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】

実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society. This course introduces Applied Informatics to students taking this course. As an introduction to Applied Informatics we first learn methods of data processing and data analysis. Next in this course we learn the concept of database and ways of database's operation using some database management systems.

The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

COT200FA

情報学応用 I (データベース) (2019 年度以降入学者)

三宅 修平

情報関係科目 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生は、研究活動や社会活動で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術を修得することができる。

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Access の活用法を学びながら、次の 4 つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

[補足] 学習支援システム (Hoppii) 及び学習管理システム (Classroom) を利用する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第 2 回	ネットワークの仕組み 各種 Web サービスの理解	ネットワークの仕組み、Web サービスの活用について
第 3 回	情報の検索・収集方法 Web による情報収集	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第 4 回	情報の蓄積と管理 ファイルやフォルダ、ストレージ	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
第 5 回	表計算ソフトとは Excel の基本操作	ワークシートの編集・加工について
第 6 回	表計算ソフトの活用 Excel の関数	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
第 7 回	データベースの基本概念 データベースの考え方と位置づけ	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
第 8 回	Excel によるデータベース的処理 (1) 検索やフィルタ	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第 9 回	Excel によるデータベース的処理 (2) データベース関数	データベース関数の活用と条件設定について
第 10 回	Excel によるデータベース的処理 (3) ピボットテーブル	クロス集計とピボットテーブルの活用について
第 11 回	Excel によるデータ分析 統計ソフト R との連携	Excel の分析ツールの活用と統計ソフト R との連携によるデータ分析について
第 12 回	統計ソフト R の応用 (1) 判別分析	統計ソフト R による判別分析とその例題について
第 13 回	統計ソフト R の応用 (2) 各種の分析	統計ソフト R によるクラスター分析、主成分分析の例題について
第 14 回	総合演習 春学期のまとめ	春学期中の講義・実習内容について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 学内 PC 環境、自宅のネットワーク環境、の確認
2. ネットワークの仕組みについて調べる
3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習
4. ~14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の復習

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

タイトル：実習データベース ~Excel と Access で学ぶ基本と活用~

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016 年 1 月 10 日

タイトル：30 時間でマスター Access2013

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

発行日：2014 年 09 月 20 日

【参考書】

タイトル：30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2016

タイトル：30 時間でマスター パーフェクト演習 Excel2016

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

他の参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 20 %、演習課題 80 %とする。

期末レポートはこの授業を通じて得られたデータ処理技術およびデータベース技術を利用して、自らテーマを設定し関係するデータを収集、加工、分析、データベース化、検索を行い、考察を加えた上でレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できる Office365 ProPlus を自宅 PC などに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination:50%,Short reports:50%.

COT200FA

情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）

三宅 修平

情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、研究活動や社会活動で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術を修得することができる。

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Accessの活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

[補足] 学習支援システム (Hoppii) 及び学習管理システム (Classroom) を利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リレーショナルデータベースとは	データベースのしくみ データベース管理システムについて
第2回	データベースソフトとAccessの位置づけ Excelとの関係	Accessの起動・データ読み込みとテーブルの作成 Excelファイルのエクスポートについて
第3回	Accessの基本操作 データの検索方法 クエリの作成	データの検索方法と検索、条件の指定、クエリ、入力フォームと出力フォームについて
第4回	データベースの操作言語とは SQLの基本	データベースの基本操作の射影、選択、結合について SQLによる操作
第5回	データベースのスキーマとは テーブルの作成	データベースの基本設計について Accessのテーブルの作成と編集
第6回	Accessのデータ編集(1) レコードとフィールドの編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
第7回	Accessのデータ編集(2) 画像データの扱い	画像データの扱いとフォームの作成について
第8回	テーブルの操作(1) 各種クエリの理解	選択クエリ、クエリ、アクションクエリの作成について
第9回	テーブルの操作(2) 各種クエリの作成と実行	テーブル作成クエリの利用とSQLによる操作について
第10回	データベースの設計(1) データベースの設計の考え方	データベースの設計とデータの正規化について
第11回	データベースの設計(2) リレーションシップの考え方	リレーションシップと高度なクエリの活用について
第12回	Accessのマクロとは マクロの活用	Access VBAとデータベース操作の自動化について
第13回	総合演習(1) 基本テーブルの作成とフォームの設計	基本テーブルとフォームの設計、フォーム上での計算式について
第14回	総合演習(2) フォームとレポートのデザイン・総まとめ	フォームとレポートのデザインについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1.～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の予習・復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

タイトル：実習データベース～ExcelとAccessで学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016年1月10日

タイトル：30時間でマスター Access2013

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

発行日：2014年09月20日

【参考書】

タイトル：30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016

タイトル：30時間でマスター パーフェクト演習 Excel2016

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

他の参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート20%、演習課題80%とする。

期末レポートはこの授業を通じて得られたデータ処理技術およびデータベース技術を利用して、自らテーマを設定し関係するデータを収集、加工、分析、データベース化、検索を行い、考察を加えた上でレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できるOffice365 ProPlusを自宅PCなどに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:50%,Short reports:50%.

COT200FA

情報学応用 I (データベース) (2019 年度以降入学者)

三宅 修平

情報関係科目 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生は、研究活動や社会活動で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術を修得することができる。

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Access の活用法を学びながら、次の 4 つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

[補足] 学習支援システム (Hoppii) 及び学習管理システム (Classroom) を利用する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第 2 回	ネットワークの仕組み 各種 Web サービスの理解	ネットワークの仕組み、Web サービスの活用について
第 3 回	情報の検索・収集方法 Web による情報収集	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第 4 回	情報の蓄積と管理 ファイルやフォルダ、ストレージ	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
第 5 回	表計算ソフトとは Excel の基本操作	ワークシートの編集・加工について
第 6 回	表計算ソフトの活用 Excel の関数	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
第 7 回	データベースの基本概念 データベースの考え方と位置づけ	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
第 8 回	Excel によるデータベース的処理 (1) 検索やフィルタ	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第 9 回	Excel によるデータベース的処理 (2) データベース関数	データベース関数の活用と条件設定について
第 10 回	Excel によるデータベース的処理 (3) ピボットテーブル	クロス集計とピボットテーブルの活用について
第 11 回	Excel によるデータ分析 統計ソフト R との連携	Excel の分析ツールの活用と統計ソフト R との連携によるデータ分析について
第 12 回	統計ソフト R の応用 (1) 判別分析	統計ソフト R による判別分析とその例題について
第 13 回	統計ソフト R の応用 (2) 各種の分析	統計ソフト R によるクラスター分析、主成分分析の例題について
第 14 回	総合演習 春学期のまとめ	春学期中の講義・実習内容について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 学内 PC 環境、自宅のネットワーク環境、の確認
2. ネットワークの仕組みについて調べる
3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習
4. 4~14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の復習

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

タイトル：実習データベース～Excel と Access で学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016 年 1 月 10 日

タイトル：30 時間でマスター Access2013

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

発行日：2014 年 09 月 20 日

【参考書】

タイトル：30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2016

タイトル：30 時間でマスター パーフェクト演習 Excel2016

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

他の参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 20 %、演習課題 80 %とする。

期末レポートはこの授業を通じて得られたデータ処理技術およびデータベース技術を利用して、自らテーマを設定し関係するデータを収集、加工、分析、データベース化、検索を行い、考察を加えた上でレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できる Office365 ProPlus を自宅 PC などに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination:50%,Short reports:50%.

COT200FA

情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）

三宅 修平

情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、研究活動や社会活動で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術を修得することができる。

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Accessの活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

[補足] 学習支援システム (Hoppii) 及び学習管理システム (Classroom) を利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リレーショナルデータベースとは	データベースのしくみ データベース管理システムについて
第2回	データベースソフトとは	Accessの起動・データ読み込みとテーブルの作成
	Accessの位置づけ	Excelファイルのエクスポートについて
	Excelとの関係	
第3回	Accessの基本操作	データの検索方法と検索、条件の指定、クエリ、入力フォームと出力
	データの検索方法	フォームについて
	クエリの作成	データベースの基本操作の射影、選択、結合について
第4回	データベースの操作言語とは	SQLによる操作
第5回	SQLの基本	データベースの基本設計について
第6回	データベースのスキーマとは	Accessのテーブルの作成と編集
	テーブルの作成	
第7回	Accessのデータ編集(1)	レコードとフィールドの追加、型の変更について
	Accessのデータ編集(2)	画像データの扱いとフォームの作成について
第8回	画像データの扱い	
第9回	テーブルの操作(1)	選択クエリ、クエリ、アクションクエリの作成について
	各種クエリの理解	テーブル作成クエリの利用とSQLによる操作について
第10回	テーブルの操作(2)	データベースの設計とデータの正規化について
	各種クエリの作成と実行	
第11回	データベースの設計(1)	リレーションシップと高度なクエリの活用について
	データベースの設計の考え方	
第12回	データベースの設計(2)	
	リレーションシップとは	Access VBAとデータベース操作の自動化について
第13回	Accessのマクロとは	
	マクロの活用	基本テーブルとフォームの設計、フォーム上での計算式について
第14回	総合演習(1)	
	総合演習(2)	フォームとレポートのデザインについて
	基本テーブルの作成とフォームの設計	
	フォームとレポートのデザイン・総まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1.～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の予習・復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

タイトル：実習データベース～ExcelとAccessで学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016年1月10日

タイトル：30時間でマスター Access2013

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

発行日：2014年09月20日

【参考書】

タイトル：30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016

タイトル：30時間でマスター パーフェクト演習 Excel2016

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

他の参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート20%、演習課題80%とする。

期末レポートはこの授業を通じて得られたデータ処理技術およびデータベース技術を利用して、自らテーマを設定し関係するデータを収集、加工、分析、データベース化、検索を行い、考察を加えた上でレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できるOffice365 ProPlusを自宅PCなどに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination:50%,Short reports:50%.

COT200FA

情報学応用 I (データ可視化) (2019 年度以降入学者)

田中 元一朗

情報関係科目 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

- 本講義では、複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で可視化するデータビジュアライゼーションについてさまざまな技法を演習形式で学びます。
- ビジュアルプログラミングを通してプログラミングの基礎を学び、データビジュアライゼーションに活用する方法を身につけます。
- データの可視化や情報の表現方法について理解することで、目的に応じて適切な表現や情報の発信方法をはじめ、複雑な情報をどのように整理して理解や相手に伝えていくことができるようになることが目標です。

【到達目標】

- 自分が発信したい内容に合わせて情報の視覚表現ができるようになる
- 表計算ソフトを用いてデータをさまざまな形で可視化することができる。
- Processing(p5.js)を用いたビジュアルプログラミングで可視化の表現やデータの表現ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- 初回の授業にアクセスするための情報は学習支援システム Hoppii に掲載します。
- 授業は演習形式で説明と実習を交えながら進めていきます。授業の詳細は開講時に学習支援システム Hoppii に公開します。
- 前半は様々なソフトを用いて、データに応じたグラフや図表の作成および情報の整理や表現手法について学びます。
- 後半は processing を用いてビジュアルプログラミングの基礎を学び、プログラミングを通してデータ可視化の基本を学びます。
- 演習や課題のフィードバックは授業の開始時、もしくは学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	データビジュアライゼーションの概要	- データビジュアライゼーションとは何か、様々な事例を通して概要を理解する
第 2 回	情報のリサーチと整理の手法	- インターネット上から必要な情報をリサーチ、収集する方法について学ぶ - 収集した情報を整理する手法 (ロジックツリー、KJ 法、マインドマップなど) について学ぶ
第 3 回	プレゼンソフトを使った図表の作成 (1)	- 代表的な図表 (フローチャート、ピラミッド図、概念図など) の作成方法、使い方について学ぶ
第 4 回	表計算ソフトを使ったグラフの作成 (1)	- 円グラフや棒グラフ、積算グラフなど目的に応じたグラフやチャートの作成方法、読み取り方を学ぶ
第 5 回	表計算ソフトを使ったグラフの作成 (2)	- 複合グラフや散布図の作成方法について学ぶ
第 6 回	プレゼンソフトを使った図表の作成 (2)	- 表計算ソフトで作成したデータをプレゼンソフトなどと連携させる方法を学ぶ - オフィスソフト間でのデータの連携について学ぶ
第 7 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (1)	- Processing の概要と環境構築、簡単な図形の描画を行う
第 8 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (2)	- 変数やデータの型の定義、変数を用いて基本的な命令を実行できるようになる - 条件分岐や繰り返しなどプログラムの制御構造について学ぶ
第 9 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (3)	- 簡単なアニメーションをプログラミングできるようになる - 自作の関数を作成して、プログラムに利用する方法を学ぶ
第 10 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (4)	- キーボード操作など外部入力によって変化するビジュアル作成を行う - 配列やその他の必要な文法について学ぶ

第 11 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (5)	- 外部データを読み込み、そのデータを元に可視化する方法を学ぶ
第 12 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (6)	- 外部ライブラリや入力を用いて、可視化表現の幅を広げる方法を学ぶ - インターネットからデータを取得してプログラムに取り込む方法について学ぶ
第 13 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (7)	- ここまで学んだプログラミング手法を用いて複雑なビジュアル表現を制作
第 14 回	春学期のまとめ	- 半年間のまとめを行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本講義前半ではオフィス系ソフトを用いるため、PC の操作 (ファイル・フォルダ作成・データ保存) およびキーボードの操作、基本的な使い方はできる前提で進めていきます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

授業時に随時紹介

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、平常点 50 点、授業内・期末課題 50 点の課題で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドルームを利用します。また学生が所有するノート PC でも構いません。

【その他の重要事項】

- 本講義は可視化がテーマの授業なので、PC やソフトウェアの操作、プログラミングの文法などの詳細について細かく説明しない事があります。必要に応じて各自で練習や書籍などで補完しながら授業に臨んでください。
- 演習形式の授業なので、遅刻をしないようにお願いします。

【関連科目】

プログラミング言語 I / II [Java コース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける

【Outline (in English)】

In this lecture, students will learn various data visualization methods for analyzing, organizing, and visualizing complex data in a visually understandable form.

Learning Objectives:

- How to visualize and organize complex information using office software.

- Basic visual programming with Processing(p5.js).

Learning activities outside of classroom:

- Students will need to understand PC operation.

- Coursework and self practice.

Grading Criteria /Policy:

Attendance and Coursework:50% / Final Assignment:50%

COT200FA

情報学応用Ⅱ（データ可視化）（2019年度以降入学者）

田中 元一郎

情報関係科目 2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 本講義では、複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で可視化するデータビジュアライゼーションについてさまざまな技法を演習形式で学びます。
- 秋学期は、より高度な表計算ソフトの使いこなしを通して、データ分析を行いグラフ化や図表の作成を行う方法を学びます。後半は **python** を用いて数式的可視化、機械学習、AI のモデル作成を行い、データの可視化の手法について学びます。

【到達目標】

- 表計算ソフトを用いてデータをさまざまな形で可視化することができる。
- **Python** とライブラリを用いて、機械学習のモデルの作成と実行ができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- 初回の授業にアクセスするための情報は学習支援システム **Hoppii** に掲載します。
- 授業は演習形式で説明と実習を交えながら進めていきます。授業の詳細は開講時に学習支援システム **Hoppii** にて公開します。
- 前半は複雑な分析を可視化する方法について表計算ソフトを用いて演習を行います。
- 後半は **python** を用いて数式的可視化や機械学習のためのモデル作成を行い、データ可視化の手法について演習を行います。
- 演習や課題のフィードバックは授業の開始時、もしくは学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ビジネスデータ分析の概要	- ビジネスデータ分析の概要について学ぶ
第 2 回	表計算ソフトを使った高度な分析	- ビボットテーブルの使った集計と可視化の方法について紹介 - 相関関係についての分析と可視化の方法について紹介
第 3 回	ビジネスデータ分析の方法 (1)	- PPM 分析を行い製品や自社の立ち位置について分析する方法について紹介 - ファンチャートの作成を通して基準点からの変化の可視化について学ぶ
第 4 回	ビジネスデータ分析の方法 (2)	- 重点分析について理解できるようになる - 構成比やパレート図を作成できるようになる
第 5 回	Python の文法 (1)	- Python の概要について理解する - 変数や値、関数の実行などができるようになる - 条件分岐や繰り返しなど制御構造について理解する
第 6 回	Python の文法 (2)	- 配列など高度なデータ構造について理解する - クイックソートアルゴリズムについて学ぶ - 外部ライブラリのインストール、読み込みができるようになる
第 7 回	Matplotlib を利用してグラフを作成する (1)	- Python のライブラリである Matplotlib を利用し数式等を可視化する方法について学ぶ。
第 8 回	Matplotlib を利用してグラフを作成する (2)	- Python のライブラリである Matplotlib を利用し数式等を可視化する方法について学ぶ。
第 9 回	Python と人工知能	- 機械学習や AI に使われている技術や仕組み、アルゴリズムについて理解する - Generative AI の可能性と限界について理解する
第 10 回	機械学習 (1)	- scikit-learn を利用し画像データの分類方法と可視化について学ぶ。

第 11 回 機械学習 (2)

- **scikit-learn** を利用し画像データの分類方法と可視化について学ぶ。

- インターネット上のデータをスクレイピングする方法について学ぶ

第 12 回 ディープラーニング (1)

- **Keras** を利用し画像判定するモデルを作成する方法について学ぶ。

第 13 回 ディープラーニング (2)

- **Keras** を利用し画像判定するモデルを作成する方法について学ぶ。

第 14 回 秋学期のまとめ

- 半年間のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 本講義は PC の操作 (ファイル・フォルダ作成・データ保存) およびキーボードの操作、OS やアプリの基本的な使い方、関連ソフトのインストール作業等はできる前提で進めていきます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。

- データ分析や AI は身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。

- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業時に随時紹介

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、平常点 50 点、授業内・期末課題 50 点の課題で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等は **Google** クラウドルームを利用します。また自分が所有するノート PC でも構いません。

【その他の重要事項】

- 本講義は可視化がテーマの授業なので、PC やソフトウェアの操作、プログラミングの文法などの詳細について細かく説明しない事があります。必要に応じて各自で練習や書籍などで補完しながら授業に臨んでください。
- 演習形式の授業なので、遅刻をしないようにお願いします。

【関連科目】

プログラミング言語Ⅰ / Ⅱ [Java コース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける

【Outline (in English)】

In this course, students will learn various data visualization methods for analyzing, organizing, and visualizing complex data in a visually understandable form.

Learning Objectives:

- The fall semester, students will learn about visualizing and analyzing data using spreadsheet software in the first part of this course.

- In the second part, students will learn visualization of a mathematical formula using matplotlib, studying about Machine Learning and AI technology.

Learning activities outside of classroom:

- Students will need to understand PC operation.

- Coursework and self practice.

Grading Criteria /Policy:

Attendance and Coursework:50% / Final Assignment:50%

COT200FA

情報学応用 I (データ可視化) (2019 年度以降入学者)

飯塚 康至

情報関係科目 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では次の項目を可視化する方法について学ぶ。

- 1) プログラミングの可視化 (C 言語を利用してプログラミングを可視化する方法について学ぶ)
- 2) データの可視化・分析 (エクセルを利用してデータを可視化し分析する方法について学ぶ)
- 3) グラフ化・機械学習・深層学習 (AI や機械学習で利用する数式やモデルの可視化の方法について学ぶ)

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. C 言語を利用して簡単な可視化プログラミングを行うことができるようになる
2. エクセルを利用しデータを可視化し分析できるようになる
3. Python を利用し数式等を可視化できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。

前期は C 言語を利用してプログラムを可視化する方法について学びます。これにより C 言語のプログラミングの基礎を身につけます。

後期はエクセルを利用してデータをグラフ化し分析する手法と AI や機械学習で利用されることが多い Python を利用し、数式の可視化や機械学習のためのモデルの作成を行い、データの可視化の手法について学びます。

演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。授業の詳細は開講時に学習支援システム Hoppii にて公開します。授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プログラミングの基本	変数等プログラムの基本を学び可視化します。
第 2 回	図形の描画～制御構造～	図形描画を行いながら制御構造について学びます。
第 3 回	独自の図形描画～関数とランダムな数値～	独自の図形を描画しながら効率よくプログラムを作成する方法について学びます。
第 4 回	図解を動かす (アニメーション)	プログラミングで図形を描画しアニメーションさせる方法について学びます。
第 5 回	たくさんの図形を効率よく動かす	繰り返し文を使い図解を効率よくアニメーションさせる方法について学びます。
第 6 回	【シューティングゲームの作成】 キーボードからの動きとプレイヤーの作成	キーボードの入力値を受け付ける方法について学びます。
第 7 回	【シューティングゲームの作成】 敵の描画とあたり判定	敵の描画方法と当たり判定について学びます。
第 8 回	【シューティングゲームの作成】 弾の描画とあたり判定	弾の描画と当たり判定について学びます。
第 9 回	【シューティングゲームの作成】 ゲームを完成させよう	得点の表示やランキングなどそのほかのゲームの要素について学びます。
第 10 回	プログラムの基本 (その 2-1)	そのほかの条件分岐や繰り返し文、配列などの文法を学びます。
第 11 回	プログラムの基本 (その 2-2)	ポインターといった C 言語特有の文法について学びます。
第 12 回	アルゴリズムと関数の再帰呼び出し (1)	ソートアルゴリズムを可視化しアルゴリズムによる動作の違いを確認します。
第 13 回	アルゴリズムと関数の再帰呼び出し (2)	関数の再帰呼び出しを可視化しフラクタル図形を作成します。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

キー入力や基本的な PC の操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。データ分析や AI は身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

楽しく学ぶ C 言語, 飯塚 康至、長 慎也, 技術評論社 (2020/1/18), 4297110571

【参考書】

後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は Google クラウドを利用します。

【その他の重要事項】

演習系の授業になるので遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】

プログラミング言語 I / II [Java コース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will learn how to visualize the following items.

- (1) Visualization of programming (learn how to visualize programming using C language)
- (2) Data analysis (learn how to visualize and analyze data using Excel)
- (3) Graphing, Machine Learning, and Deep Learning (Learn how to visualize formulas and models used in AI and machine learning.

【Learning Objectives】

The objectives of this class are as follows: 1.

1. To be able to perform simple visualization programming using the C language
2. To be able to visualize and analyze data using Excel
To be able to visualize mathematical expressions using Python
[Learning activities outside of classroom]

The class will be conducted in the form of exercises. The class will be conducted in an exercise style, with repetition of explanations and exercises.

In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

COT200FA

情報学応用Ⅱ（データ可視化）（2019年度以降入学者）

飯塚 康至

情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では次の項目を可視化する方法について学ぶ。

- 1) プログラミングの可視化（C言語を利用してプログラミングを可視化する方法について学ぶ）
- 2) データ可視化・分析（エクセルを利用してデータを可視化し分析する方法について学ぶ）
- 3) グラフ化・機械学習・深層学習（AIや機械学習で利用する数式やモデルの可視化の方法について学ぶ）

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. C言語を利用して簡単な可視化プログラミングを行うことができるようになる
2. エクセルを利用してデータを可視化し分析できるようになる
3. Pythonを利用して数式等を可視化できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。

前期はC言語を利用してプログラムを可視化する方法について学びます。これによりC言語のプログラミングの起訴を身につけます。

後期はエクセルを利用してデータをグラフ化し分析する手法とAIや機械学習で利用されることが多いPythonを利用し、数式の可視化や機械学習のためのモデルの作成を行い、データの可視化の手法について学びます。演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。

授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ビジネスデータ分析とは	ビジネスデータ分析とはエクセルを利用したビジネスデータ分析の概要について学ぶ。
第2回	表の使いこなしとピボットテーブル	表を使いデータを可視化する手法と集計の手法を学ぶ。
第3回	PPM分析	エクセルでPPM分析を行い製品や会社の立ち位置を可視化する方法について学ぶ。
第4回	ファンチャート	エクセルでファンチャートを作成し基準点からの変化の具合を可視化する方法について学ぶ。
第5回	相関関係	2つの独立した値の関係の強さを示す相関関係を可視化する方法について学ぶ。
第6回	ABC分析	構成の偏りをABC分析を利用し可視化する方法について学ぶ。
第7回	Pythonでできること	AIや機械学習で利用されるPythonの概要について学ぶ。
第8回	Matplotlibを利用したグラフの作成(1)	PythonのライブラリであるMatplotlibを利用し数式等を可視化する方法について学ぶ。
第9回	Matplotlibを利用したグラフの作成(2)	Matplotlibを利用してデータを可視化する方法について学ぶ。
第10回	機械学習(1)	機械学習の概要について学ぶ。
第11回	機械学習(2)	K近傍法を利用した分類手法について学ぶ。
第12回	深層学習(1)	画像認識ライブラリの利用方法について学ぶ。
第13回	深層学習(2)	画像認識ライブラリに学習を行い独自のAIを作る方法について学ぶ。
第14回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キー入力や基本的なPCの操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。データ分析やAIは身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】

後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに100点満点とし振り返りシートの記述内容50点、授業内課題50点で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習系の授業になるので、遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】

プログラミング言語Ⅰ／Ⅱ [Java コース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will learn how to visualize the following items.

- (1) Visualization of programming (learn how to visualize programming using C language)
- (2) Data analysis (learn how to visualize and analyze data using Excel)
- (3) Graphing, Machine Learning, and Deep Learning (Learn how to visualize formulas and models used in AI and machine learning.

【Learning Objectives】

The objectives of this class are as follows: 1.

1. To be able to perform simple visualization programming using the C language

2. To be able to visualize and analyze data using Excel

To be able to visualize mathematical expressions using Python

[Learning activities outside of classroom]

The class will be conducted in the form of exercises. The class will be conducted in an exercise style, with repetition of explanations and exercises.

In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

COT200FA

情報学応用 I (プレゼンテーション) (2019 年度以降入学者)

上野 京子

情報関係科目 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。

本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる

・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える

・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する

・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

■春学期

(1) 表現能力を高めるため、Word での文書作成の機能を学ぶ

(2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するために Excel の機能を学ぶ

(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。

(4) A4 文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ

(5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第 2 回	Word 復習	Word 機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2 段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第 3 回	Excel 復習 1 回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第 4 回	Excel 復習 2 回目	簡単な統計 IF 関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第 5 回	Excel 復習 3 回目	目的に合わせたグラフ作成
第 6 回	Excel 復習 4 回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第 7 回	PowerPoint 復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第 8 回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 9 回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 10 回	自己 PR	Word の機能を駆使して、 自己 PR 文書の作成
第 11 回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうにするか 何を目的に プレゼンするかを企画する
第 12 回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作

第 13 回 プレゼン発表

各自、

制限時間内で発表

第 14 回 相互評価

相互評価の結果を受けて

レポート作成

最終レポートの作成

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office 系のアプリケーションソフト (Word、Excel、PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)

「伝え方が 9 割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション 15 のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、授業の中で行う演習 50% を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

・ You Can give a logical presentation that understands the situation.

・ You can Create accurate content and create clear materials.

・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria / Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）

上野 京子

情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC等を活用したプレゼンテーション能力（表現能力）を高めるための科目である。

本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる

・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える

・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する

・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第2回	失敗しないプレゼンテーション 1 －導入－	聞き手をつかむ 結論から見せる 目標を示す 序論で動機づけ
第3回	失敗しないプレゼンテーション 2 －可視化－	百聞は一見に如かず 見える形に具現化する 喻えてみせる 表現の段階化
第4回	失敗しないプレゼンテーション 3 －内容に適した表現素材－	スライドデザイン
第5回	失敗しないプレゼンテーション 4 －構造や関係－	分類と包含 階層構造 流れの構造 連続的な関係 合流・複合の関係
第6回	失敗しないプレゼンテーション 5 －伝え方－	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第7回	比較的簡単な演習（グループ演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第8回	比較的簡単な演習（個人演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第9回	プレゼンテーション作成演習 1	プレゼン用スライドの鑑賞 計画・要素収集
第10回	プレゼンテーション作成演習 2	プレゼンテーション作成
第11回	プレゼンテーション作成演習 3	プレゼンテーション作成、提出
第12回	プレゼンテーション聴講と相互評価 1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第13回	プレゼンテーション聴講と相互評価 2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第14回	秋学期まとめ	レポート作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣（日本実業出版）

「伝え方が9割」佐々木圭一（ダイヤモンド社）

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業の中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class.

Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

情報学応用 I (プレゼンテーション) (2019 年度以降入学者)

上野 京子

情報関係科目 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。

本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる

・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える

・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する

・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

■春学期

(1) 表現能力を高めるため、Word での文書作成の機能を学ぶ

(2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するために Excel の機能を学ぶ

(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。

(4) A4 文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ

(5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第 2 回	Word 復習	Word 機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2 段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第 3 回	Excel 復習 1 回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第 4 回	Excel 復習 2 回目	簡単な統計 IF 関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第 5 回	Excel 復習 3 回目	目的に合わせたグラフ作成
第 6 回	Excel 復習 4 回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第 7 回	PowerPoint 復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第 8 回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 9 回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 10 回	自己 PR	Word の機能を駆使して、 自己 PR 文書の作成
第 11 回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうにするかを 何を目的に プレゼンするかを企画する
第 12 回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作

第 13 回 プレゼン発表

各自、

制限時間内で発表

第 14 回 相互評価

相互評価の結果を受けて

レポート作成

最終レポートの作成

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office 系のアプリケーションソフト (Word、Excel、PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)

「伝え方が 9 割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション 15 のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、授業の中で行う演習 50% を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

・ You Can give a logical presentation that understands the situation.

・ You can Create accurate content and create clear materials.

・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria / Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）

上野 京子

情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC等を活用したプレゼンテーション能力（表現能力）を高めるための科目である。

本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる

・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える

・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する

・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第2回	失敗しないプレゼンテーション1 －導入－	聞き手をつかむ 結論から見せる 目標を示す 序論で動機づけ
第3回	失敗しないプレゼンテーション2 －可視化－	百聞は一見に如かず 見える形に具現化する 喩えてみせる 表現の段階化
第4回	失敗しないプレゼンテーション3 －内容に適した表現素材－	スライドデザイン
第5回	失敗しないプレゼンテーション4 －構造や関係－	分類と包含 階層構造 流れの構造 連続的な関係 合流・複合の関係
第6回	失敗しないプレゼンテーション5 －伝え方－	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第7回	比較的簡単な演習 (グループ演習)	指定のプレゼン資料の作成・提出
第8回	比較的簡単な演習 (個人演習)	指定のプレゼン資料の作成・提出
第9回	プレゼンテーション作成演習1	プレゼン用スライドの鑑賞 計画・要素収集
第10回	プレゼンテーション作成演習2	プレゼンテーション作成
第11回	プレゼンテーション作成演習3	プレゼンテーション作成、提出
第12回	プレゼンテーション聴講と相互評価1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第13回	プレゼンテーション聴講と相互評価2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第14回	秋学期まとめ	レポート作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣（日本実業出版）

「伝え方が9割」佐々木圭一（ダイヤモンド社）

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業中での演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class.

Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

情報学応用 I (プレゼンテーション) (2019 年度以降入学者)

上野 京子

情報関係科目 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。

本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる

・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える

・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する

・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

■春学期

(1) 表現能力を高めるため、Word での文書作成の機能を学ぶ

(2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するために Excel の機能を学ぶ

(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。

(4) A4 文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ

(5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第 2 回	Word 復習	Word 機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2 段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第 3 回	Excel 復習 1 回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第 4 回	Excel 復習 2 回目	簡単な統計 IF 関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第 5 回	Excel 復習 3 回目	目的に合わせたグラフ作成
第 6 回	Excel 復習 4 回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第 7 回	PowerPoint 復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第 8 回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 9 回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 10 回	自己 PR	Word の機能を駆使して、 自己 PR 文書の作成
第 11 回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうにするか 何を目的にするか プレゼンするかを企画する
第 12 回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作

第 13 回 プレゼン発表

各自、

制限時間内で発表

第 14 回 相互評価

相互評価の結果を受けて

レポート作成

最終レポートの作成

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office 系のアプリケーションソフト (Word、Excel、PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)

「伝え方が 9 割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション 15 のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、授業の中で行う演習 50% を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

・ You Can give a logical presentation that understands the situation.

・ You can Create accurate content and create clear materials.

・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria / Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）

上野 京子

情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC等を活用したプレゼンテーション能力（表現能力）を高めるための科目である。

本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

・プレゼンテーションの状況を確認にとらえることができる

・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える

・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する

・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第2回	失敗しないプレゼンテーション 1 －導入－	聞き手をつかむ 結論から見せる 目標を示す 序論で動機づけ
第3回	失敗しないプレゼンテーション 2 －可視化－	百聞は一見に如かず 見える形に具現化する 喩えてみせる 表現の段階化
第4回	失敗しないプレゼンテーション 3 －内容に適した表現素材－	スライドデザイン
第5回	失敗しないプレゼンテーション 4 －構造や関係－	分類と包含 階層構造 流れの構造 連続的な関係 合流・複合の関係
第6回	失敗しないプレゼンテーション 5 －伝え方－	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第7回	比較的簡単な演習（グループ演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第8回	比較的簡単な演習（個人演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第9回	プレゼンテーション作成演習 1	プレゼン用スライドの鑑賞 計画・要素収集
第10回	プレゼンテーション作成演習 2	プレゼンテーション作成
第11回	プレゼンテーション作成演習 3	プレゼンテーション作成、提出
第12回	プレゼンテーション聴講と相互評価 1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第13回	プレゼンテーション聴講と相互評価 2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第14回	秋学期まとめ	レポート作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣（日本実業出版）

「伝え方が9割」佐々木圭一（ダイヤモンド社）

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業の中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class.

Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

情報学応用 I (空間情報) (2019 年度以降入学者)

沼尻 治樹

情報関係科目 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、G 空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。

空間情報システムの発達とともに、商圏分析や立地分析、災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく、地図アプリケーションなども web を通じて日常生活に普及してきた。一方、地理空間情報活用推進基本法の制定により、行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って、空間情報に関する知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また、東日本大震災後、行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集積し利用していることから、「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

【到達目標】

社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用、また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して、資料の配付、課題の提出、質疑の受け付けを行う。実習は、配付資料と解説が進める。また、適宜動画資料も利用する。

授業では、初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ、まず空間情報システムの構造や考え方、空間情報 (デジタルデータ) の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション、データを使用して授業を進める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	空間情報システムとは何か?	空間情報システムについて具体的な事例を交えながら紹介する
第 2 回	空間情報システムの歴史と応用事例	空間情報システムの歴史を簡単に述べ事例とともに解説する
第 3 回	空間情報 (デジタルデータ) について	空間情報システムで取り扱うデジタルデータについて解説する
第 4 回	空間情報のマッピング 1	国土数値情報を利用しながらアプリケーションの操作を学ぶ
第 5 回	空間情報のマッピング 2	基盤地図情報を利用しながらアプリケーションでのレイアウトを変更・編集する
第 6 回	空間情報と統計データ 1	統計データに合致したレイアウトの考え方を学ぶ
第 7 回	空間情報と統計データ 2	レイアウトの応用と主題図作成を学ぶ
第 8 回	空間情報の統計演算 1	統計データの新規追加を学ぶ
第 9 回	空間情報の統計演算 2	統計データの変換を学ぶ
第 10 回	空間情報の統計演算 3	統計データの演算を学ぶ
第 11 回	空間情報の保存・変換	空間情報の保存と投影 (座標系) 変換
第 12 回	ジオプロセッシングと空間解析	簡単な空間解析法 (バッファリング・空間結合・属性結合・距離と面積の測定) を学ぶ
第 13 回	空間情報の分析と考察 1	課題に対して空間情報を選択する
第 14 回	空間情報の分析と考察 2	空間情報の処理を行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また、使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから、受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

自作テキストを利用する。

【参考書】

「地理情報学入門」(野上道男ほか、東京大学出版会、2001 年)

「国土を測る技術の基礎 ―地理空間情報技術者を目指す人のために―」(高木方隆、(公社)日本測量協会、2014 年)

その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから、平常点を重視する。その他、学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。

成績評価の配分は、平常点を 60 %、レポート課題を 40 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに、空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し、授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では、学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布、課題提出、受講生向けの連絡、掲示板での質問対応である。また、PC を使って実習を行う。私物のポータブル PC を利用してもよい。Windows 環境での実習を想定しているが、Linux 環境等の PC での実習も認める。ただし、十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。

課題やデータの保存に USB メモリ等の外部記憶装置があるとよい。

【その他の重要事項】

本授業では、講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ、コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア、無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。

なお本授業は応用科目であるから、Windows の基本操作については解説しない。十分に Windows の操作を理解している必要がある。

【オフィス・アワー】

授業時に質問を受け付ける。また、学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目
情報学応用 II (空間情報)

【Outline (in English)】

[Course outline]

The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.

【Learning objectives】

Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%、in class contribution: 60%

COT200FA

情報学応用Ⅱ（空間情報）（2019年度以降入学者）

沼尻 治樹

情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、G空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。

空間情報システムの発達とともに、商圏分析や立地分析、災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく、地図アプリケーションなどもwebを通して日常生活に普及してきた。一方、地理空間情報活用推進基本法の制定により、行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って、空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また、東日本大震災後、行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集積し利用していることから、「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

【到達目標】

社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用、また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して、資料の配付、課題の提出、質疑の受け付けを行う。実習は、操作資料と解説が進める。また、適宜動画資料も利用する。

授業では、初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ、まず空間情報システムの構造や考え方、空間情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション、データを使用して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アドレスマッチングの利用	ジオコーディングを学びポイントデータを自作する
第2回	GNSS (GPS) を用いた位置情報の取得と表示	GNSS で取得した座標からポイントデータを自作する
第3回	ラスターデータの利用とベクトルデータの作成 1	オルソ化空中写真の表示を学びラインデータを自作する
第4回	ラスターデータの利用とベクトルデータの作成 2	ポリゴンデータを自作しさらにラインデータおよびポリゴンデータの形状を編集する
第5回	ラスターデータの利用とベクトルデータの作成 3	地理院地図を使いながらベクトルデータを作成しラスターデータへ変換する
第6回	ジオリファレンス（幾何補正）の実施	位置情報を持たない画像データに位置情報を与え空間情報を取得する
第7回	数値標高モデル (DEM) による空間分析 1	DEM について解説し簡単な地形解析を行う
第8回	数値標高モデル (DEM) による空間分析 2	地形解析を行い空間情報を取得する
第9回	空間解析の実践 1	空間補間（空間内挿）を行い空間情報の推定を行う
第10回	空間解析の実践 2	リモートセンシングデータを利用する
第11回	空間情報プログラミング超入門	Python3 (PyQGIS) を使った空間情報処理の基礎
第12回	空間情報の作成・分析と考察 1	課題とデータ処理の方法を設定する
第13回	空間情報の作成・分析と考察 2	課題に対してデータ処理を実践する
第14回	空間情報の作成・分析と考察 3	データ処理の結果を分析する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また、使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから、受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

自作テキストを利用する。

【参考書】

「地理情報学入門」（野上道男ほか、東京大学出版会、2001年）

「国土を測る技術の基礎 — 地理空間情報技術者をめざす人のために —」（高木方隆、(公社)日本測量協会、2014年）

その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから、平常点を重視する。その他、学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。

成績評価の配分は、平常点を60%、レポート課題を40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに、空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し、授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では、学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布、課題提出、受講生向けの連絡、掲示板での質問対応である。また、PCを使って実習を行う。私物のポータブルPCを利用してもよい。Windows環境での実習を想定しているが、Linux環境等のPCでの実習も認める。ただし、十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。

課題やデータの保存にUSBメモリ等の外部記憶装置があるとよい。

【その他の重要事項】

本授業では、講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ、コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア、無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。なお本授業は応用科目であるから、Windowsの基本操作については解説しない。十分にWindowsの操作を理解している必要がある。

【オフィス・アワー】

授業時に質問を受け付ける。また、学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目
情報学応用Ⅰ（空間情報）

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.

【Learning objectives】

Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

COT200FA

データ処理論 I (データベース) (2018 年度入学者)

木村 昌史

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

研究活動、社会で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術の修得

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC、ネットワーク、Excel、Access、SQLite などの活用法を学びながら、次の 4 つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【補足】

原則として対面授業で行う予定だが、情勢によってはオンライン授業になる場合もある。その場合には学習支援システム (Hoppii) 等で提示するので参照のこと。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第 2 回	ネットワークの仕組み	ネットワークの仕組みと各種 Web サービスについて
第 3 回	情報の検索・収集方法	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第 4 回	情報の蓄積と管理	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
第 5 回	表計算ソフトとは	ワークシートの編集・加工について
第 6 回	表計算ソフトの活用	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
第 7 回	データベースの基本概念	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
第 8 回	Excel によるデータベース的処理 (1)	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第 9 回	Excel によるデータベース的処理 (2)	データベース関数の活用と条件設定について
第 10 回	Excel によるデータベース的処理 (3)	クロス集計とピボットテーブルの活用について
第 11 回	Excel によるデータ分析	Excel の分析ツールの活用と R との連携によるデータ分析への応用
第 12 回	データベースソフトとは	Access の起動・データ読み込みとテーブルの作成
第 13 回	Access の基本操作	Excel ファイルのエクスポート データの検索方法と検索条件の指定について
第 14 回	春学期のまとめ	クエリとは何か ソフトウェア活用法のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 学内 PC 環境、自宅のネットワーク環境の確認 (予習)
 2. ネットワークの仕組みについて調べる (予習)
 3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習 (予習と復習)
 - 4.~14. 配布資料や配布データの予習、配布資料の復習
 - 15.~28. 配布資料の予習・復習 データ検索の復習
- 予習と復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】

参考書やオンライン資料については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %、各回授業での演習課題 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。

実習室において PC に向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。

法政大学からライセンス利用できる Office 365 ProPlus を自宅 PC などに導入することも推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、広くすべての学部生に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学の入門を中心とした情報関係科目全般

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】

実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society. This course introduces Applied Informatics to students taking this course. As an introduction to Applied Informatics we first learn methods of data processing and data analysis. Next in this course we learn the concept of database and ways of database's operation using some database management systems.

The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（データベース）（2018年度入学者）

木村 昌史

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究活動、社会で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術の修得

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC、ネットワーク、Excel、Access、SQLite の活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【補足】

原則として対面授業で行う予定だが、情勢によってはオンライン授業になる場合もある。その場合には学習支援システム（Hoppii）等で提示するので参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リレーショナルデータベースとは	データベースのしくみとデータベース管理システムについて
第2回	データベースの操作言語とは	データベースの基本操作の射影、選択、結合と SQL について
第3回	データベースのスキーマ	データベースの基本設計と Access のテーブル作成と編集
第4回	Access によるデータ編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
第5回	テーブルの操作 (1)	選択クエリ、アクションクエリの作成について
第6回	テーブルの操作 (2)	テーブル作成クエリの利用と SQL による操作について
第7回	データベースの設計 (1)	データベースの設計とデータの正規化について
第8回	データベースの設計 (2)	リレーションシップと高度なクエリの活用について
第9回	SQL とデータベース (1)	SQL によるデータベース作成とテーブル作成
第10回	SQL とデータベース (2)	SQL によるデータベース検索やデータの追加・更新
第11回	SQLite データベース	テーブルのインポートやエクスポートの実行
第12回	外部クラウドとデータベース	Google Colaboratory によるデータベース操作
第13回	総合演習 (1) データベースの設計	基礎的なデータベースの作成と活用
第14回	総合演習 (2) データベースの応用	実用的なデータベースの作成と活用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の配布資料の予習・復習 データ検索の復習
予習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】

参考書やオンライン資料については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %、各回授業での演習課題 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。

実習室において PC に向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。

法政大学からライセンス利用できる Office 365 ProPlus を自宅 PC などに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、広くすべての学部生に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学の入門を中心とした情報関係科目全般

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】

実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society. This course introduces Applied Informatics to students taking this course. As an introduction to Applied Informatics we first learn methods of data processing and data analysis. Next in this course we learn the concept of database and ways of database's operation using some database management systems.

The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

COT200FA

データ処理論 I (データベース) (2018 年度入学者)

木村 昌史

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

研究活動、社会で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術の修得

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC、ネットワーク、Excel、Access、SQLite などの活用法を学びながら、次の 4 つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【補足】

原則として対面授業で行う予定だが、情勢によってはオンライン授業になる場合もある。その場合には学習支援システム (Hoppii) 等で提示するので参照のこと。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第 2 回	ネットワークの仕組み	ネットワークの仕組みと各種 Web サービスについて
第 3 回	情報の検索・収集方法	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第 4 回	情報の蓄積と管理	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
第 5 回	表計算ソフトとは	ワークシートの編集・加工について
第 6 回	表計算ソフトの活用	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
第 7 回	データベースの基本概念	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
第 8 回	Excel によるデータベース的処理 (1)	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第 9 回	Excel によるデータベース的処理 (2)	データベース関数の活用と条件設定について
第 10 回	Excel によるデータベース的処理 (3)	クロス集計とピボットテーブルの活用について
第 11 回	Excel によるデータ分析	Excel の分析ツールの活用と R との連携によるデータ分析への応用
第 12 回	データベースソフトとは	Access の起動・データ読み込みとテーブルの作成
第 13 回	Access の基本操作	Excel ファイルのエクスポート データの検索方法と検索条件の指定について
第 14 回	春学期のまとめ	クエリとは何か ソフトウェア活用法のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 学内 PC 環境、自宅のネットワーク環境の確認 (予習)
 2. ネットワークの仕組みについて調べる (予習)
 3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習 (予習と復習)
 - 4.~14. 配布資料や配布データの予習、配布資料の復習
 - 15.~28. 配布資料の予習・復習 データ検索の復習
- 予習と復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】

参考書やオンライン資料については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %、各回授業での演習課題 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。

実習室において PC に向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。

法政大学からライセンス利用できる Office 365 ProPlus を自宅 PC などに導入することも推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、広くすべての学部生に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学の入門を中心とした情報関係科目全般

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】

実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society. This course introduces Applied Informatics to students taking this course. As an introduction to Applied Informatics we first learn methods of data processing and data analysis. Next in this course we learn the concept of database and ways of database's operation using some database management systems.

The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（データベース）（2018年度入学者）

木村 昌史

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究活動、社会で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術の修得

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC、ネットワーク、Excel、Access、SQLite の活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【補足】

原則として対面授業で行う予定だが、情勢によってはオンライン授業になる場合もある。その場合には学習支援システム（Hoppii）等で提示するので参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リレーショナルデータベースとは	データベースのしくみとデータベース管理システムについて
第2回	データベースの操作言語とは	データベースの基本操作の射影、選択、結合と SQL について
第3回	データベースのスキーマ	データベースの基本設計と Access のテーブル作成と編集
第4回	Access によるデータ編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
第5回	テーブルの操作 (1)	選択クエリ、アクションクエリの作成について
第6回	テーブルの操作 (2)	テーブル作成クエリの利用と SQL による操作について
第7回	データベースの設計 (1)	データベースの設計とデータの正規化について
第8回	データベースの設計 (2)	リレーションシップと高度なクエリの活用について
第9回	SQL とデータベース (1)	SQL によるデータベース作成とテーブル作成
第10回	SQL とデータベース (2)	SQL によるデータベース検索やデータの追加・更新
第11回	SQLite データベース	テーブルのインポートやエクスポートの実行
第12回	外部クラウドとデータベース	Google Colaboratory によるデータベース操作
第13回	総合演習 (1) データベースの設計	基礎的なデータベースの作成と活用
第14回	総合演習 (2) データベースの応用	実用的なデータベースの作成と活用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の配布資料の予習・復習 データ検索の復習
予習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】

参考書やオンライン資料については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %、各回授業での演習課題 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。

実習室において PC に向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。

法政大学からライセンス利用できる Office 365 ProPlus を自宅 PC などに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、広くすべての学部生に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学の入門を中心とした情報関係科目全般

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】

実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society. This course introduces Applied Informatics to students taking this course. As an introduction to Applied Informatics we first learn methods of data processing and data analysis. Next in this course we learn the concept of database and ways of database's operation using some database management systems.

The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

COT200FA

データ処理論 I (データベース) (2018 年度入学者)

三宅 修平

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生は、研究活動や社会活動で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術を修得することができる。

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Access の活用法を学びながら、次の 4 つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

[補足] 学習支援システム (Hoppii) 及び学習管理システム (Classroom) を利用する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第 2 回	ネットワークの仕組み 各種 Web サービスの理解	ネットワークの仕組み、Web サービスの活用について
第 3 回	情報の検索・収集方法 Web による情報収集	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第 4 回	情報の蓄積と管理 ファイルやフォルダ、ストレージ	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
第 5 回	表計算ソフトとは Excel の基本操作	ワークシートの編集・加工について
第 6 回	表計算ソフトの活用 Excel の関数	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
第 7 回	データベースの基本概念 データベースの考え方と位置づけ	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
第 8 回	Excel によるデータベース的処理 (1) 検索やフィルタ	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第 9 回	Excel によるデータベース的処理 (2) データベース関数	データベース関数の活用と条件設定について
第 10 回	Excel によるデータベース的処理 (3) ピボットテーブル	クロス集計とピボットテーブルの活用について
第 11 回	Excel によるデータ分析 統計ソフト R との連携	Excel の分析ツールの活用と統計ソフト R との連携によるデータ分析について
第 12 回	統計ソフト R の応用 (1) 判別分析	統計ソフト R による判別分析とその例題について
第 13 回	統計ソフト R の応用 (2) 各種の分析	統計ソフト R によるクラスター分析、主成分分析の例題について
第 14 回	総合演習 春学期のまとめ	春学期中の講義・実習内容について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 学内 PC 環境、自宅のネットワーク環境、の確認
2. ネットワークの仕組みについて調べる
3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習
4. ~14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の復習

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

タイトル：実習データベース～Excel と Access で学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016 年 1 月 10 日

タイトル：30 時間でマスター Access2013

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

発行日：2014 年 09 月 20 日

【参考書】

タイトル：30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2016

タイトル：30 時間でマスター パーフェクト演習 Excel2016

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

他の参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 20 %、演習課題 80 %とする。

期末レポートはこの授業を通じて得られたデータ処理技術およびデータベース技術を利用して、自らテーマを設定し関係するデータを収集、加工、分析、データベース化、検索を行い、考察を加えた上でレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できる Office365 ProPlus を自宅 PC などに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination:50%,Short reports:50%.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（データベース）（2018年度入学者）

三宅 修平

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、研究活動や社会活動で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術を修得することができる。

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Accessの活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

[補足] 学習支援システム (Hoppii) 及び学習管理システム (Classroom) を利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リレーショナルデータベースとは	データベースのしくみ データベース管理システムについて
第2回	データベースソフトとAccessの位置づけ Excelとの関係	Accessの起動・データ読み込みと テーブルの作成 Excelファイルのエクスポートについて
第3回	Accessの基本操作 データの検索方法 クエリの作成	データの検索方法と検索、条件の指定、クエリ、入力フォームと出力 フォームについて
第4回	データベースの操作言語とは SQLの基本	データベースの基本操作の 射影、選択、結合について SQLによる操作
第5回	データベースのスキーマとは テーブルの作成	データベースの基本設計について Accessのテーブルの作成と編集
第6回	Accessのデータ編集(1) レコードとフィールドの編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
第7回	Accessのデータ編集(2) 画像データの扱い	画像データの扱いとフォームの作成について
第8回	テーブルの操作(1) 各種クエリの理解	選択クエリ、クエリ、アクションクエリの作成について
第9回	テーブルの操作(2) 各種クエリの作成と実行	テーブル作成クエリの利用とSQLによる操作について
第10回	データベースの設計(1) データベースの設計の考え方	データベースの設計とデータの正規化について
第11回	データベースの設計(2) リレーションシップの考え方	リレーションシップと高度なクエリの活用について
第12回	Accessのマクロとは マクロの活用	Access VBAとデータベース操作の自動化について
第13回	総合演習(1) 基本テーブルの作成と フォームの設計	基本テーブルとフォームの設計、 フォーム上での計算式について
第14回	総合演習(2) フォームとレポートのデザイン・総まとめ	フォームとレポートのデザインについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1.～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の予習・復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

タイトル：実習データベース～ExcelとAccessで学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原文史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016年1月10日

タイトル：30時間でマスター Access2013

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

発行日：2014年09月20日

【参考書】

タイトル：30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016

タイトル：30時間でマスター パーフェクト演習 Excel2016

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

他の参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート20%、演習課題80%とする。

期末レポートはこの授業を通じて得られたデータ処理技術およびデータベース技術を利用して、自らテーマを設定し関係するデータを収集、加工、分析、データベース化、検索を行い、考察を加えた上でレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できるOffice365 ProPlusを自宅PCなどに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:50%,Short reports:50%.

COT200FA

データ処理論 I (データベース) (2018 年度入学者)

三宅 修平

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生は、研究活動や社会活動で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術を修得することができる。

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Access の活用法を学びながら、次の 4 つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

[補足] 学習支援システム (Hoppii) 及び学習管理システム (Classroom) を利用する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第 2 回	ネットワークの仕組み 各種 Web サービスの理解	ネットワークの仕組み、Web サービスの活用について
第 3 回	情報の検索・収集方法 Web による情報収集	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第 4 回	情報の蓄積と管理 ファイルやフォルダ、ストレージ	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
第 5 回	表計算ソフトとは Excel の基本操作	ワークシートの編集・加工について
第 6 回	表計算ソフトの活用 Excel の関数	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
第 7 回	データベースの基本概念 データベースの考え方と位置づけ	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
第 8 回	Excel によるデータベース的処理 (1) 検索やフィルタ	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第 9 回	Excel によるデータベース的処理 (2) データベース関数	データベース関数の活用と条件設定について
第 10 回	Excel によるデータベース的処理 (3) ピボットテーブル	クロス集計とピボットテーブルの活用について
第 11 回	Excel によるデータ分析 統計ソフト R との連携	Excel の分析ツールの活用と統計ソフト R との連携によるデータ分析について
第 12 回	統計ソフト R の応用 (1) 判別分析	統計ソフト R による判別分析とその例題について
第 13 回	統計ソフト R の応用 (2) 各種の分析	統計ソフト R によるクラスター分析、主成分分析の例題について
第 14 回	総合演習 春学期のまとめ	春学期中の講義・実習内容について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 学内 PC 環境、自宅のネットワーク環境、の確認
2. ネットワークの仕組みについて調べる
3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習
4. ~14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の復習

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

タイトル：実習データベース～Excel と Access で学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016 年 1 月 10 日

タイトル：30 時間でマスター Access2013

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

発行日：2014 年 09 月 20 日

【参考書】

タイトル：30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2016

タイトル：30 時間でマスター パーフェクト演習 Excel2016

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

他の参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 20 %、演習課題 80 %とする。

期末レポートはこの授業を通じて得られたデータ処理技術およびデータベース技術を利用して、自らテーマを設定し関係するデータを収集、加工、分析、データベース化、検索を行い、考察を加えた上でレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できる Office365 ProPlus を自宅 PC などに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination:50%,Short reports:50%.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（データベース）（2018年度入学者）

三宅 修平

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、研究活動や社会活動で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術を修得することができる。

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Accessの活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

[補足] 学習支援システム (Hoppii) 及び学習管理システム (Classroom) を利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リレーショナルデータベースとは	データベースのしくみ データベース管理システムについて
第2回	データベースソフトとは Accessの位置づけ Excelとの関係	Accessの起動・データ読み込みと テーブルの作成 Excelファイルのエクスポートについて
第3回	Accessの基本操作 データの検索方法 クエリの作成	データの検索方法と検索、条件の指定、クエリ、入力フォームと出力フォームについて
第4回	データベースの操作言語とは SQLの基本	データベースの基本操作の 射影、選択、結合について SQLによる操作
第5回	データベースのスキーマとは テーブルの作成	データベースの基本設計について Accessのテーブルの作成と編集
第6回	Accessのデータ編集(1) レコードとフィールドの編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
第7回	Accessのデータ編集(2) 画像データの扱い	画像データの扱いとフォームの作成について
第8回	テーブルの操作(1) 各種クエリの理解	選択クエリ、クエリ、アクションクエリの作成について
第9回	テーブルの操作(2) 各種クエリの作成と実行	テーブル作成クエリの利用とSQLによる操作について
第10回	データベースの設計(1) データベースの設計の考え方	データベースの設計とデータの正規化について
第11回	データベースの設計(2) リレーションシップの考え方	リレーションシップと高度なクエリの活用について
第12回	Accessのマクロとは マクロの活用	Access VBAとデータベース操作の自動化について
第13回	総合演習(1) 基本テーブルの作成と フォームの設計	基本テーブルとフォームの設計、 フォーム上での計算式について
第14回	総合演習(2) フォームとレポートのデザイン・総まとめ	フォームとレポートのデザインについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1.～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の予習・復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

タイトル：実習データベース～ExcelとAccessで学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原文史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016年1月10日

タイトル：30時間でマスター Access2013

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

発行日：2014年09月20日

【参考書】

タイトル：30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016

タイトル：30時間でマスター パーフェクト演習 Excel2016

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

他の参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート20%、演習課題80%とする。

期末レポートはこの授業を通じて得られたデータ処理技術およびデータベース技術を利用して、自らテーマを設定し関係するデータを収集、加工、分析、データベース化、検索を行い、考察を加えた上でレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できるOffice365 ProPlusを自宅PCなどに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:50%,Short reports:50%.

COT200FA

データ処理論 I (CG) (2018 年度入学者)

田中 元一朗

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

- 本講義では、複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で可視化するデータビジュアライゼーションについてさまざまな技法を演習形式で学びます。
- ビジュアルプログラミングを通してプログラミングの基礎を学び、データビジュアライゼーションに活用する方法を身につけます。
- データの可視化や情報の表現方法について理解することで、目的に応じて適切な表現や情報の発信方法をはじめ、複雑な情報をどのように整理して理解や相手に伝えていくことができるようになることが目標です。

【到達目標】

- 自分が発信したい内容に合わせて情報の視覚表現ができるようになる
- 表計算ソフトを用いてデータをさまざまな形で可視化することができる。
- Processing(p5.js)を用いたビジュアルプログラミングで可視化の表現やデータの表現ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- 初回の授業にアクセスするための情報は学習支援システム Hoppii に掲載します。
- 授業は演習形式で説明と実習を交えながら進めていきます。授業の詳細は開講時に学習支援システム Hoppii に公開します。
- 前半は様々なソフトを用いて、データに応じたグラフや図表の作成および情報の整理や表現手法について学びます。
- 後半は processing を用いてビジュアルプログラミングの基礎を学び、プログラミングを通してデータ可視化の基本を学びます。
- 演習や課題のフィードバックは授業の開始時、もしくは学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	データビジュアライゼーションの概要	- データビジュアライゼーションとは何か、様々な事例を通して概要を理解する
第 2 回	情報のリサーチと整理の手法	- インターネット上から必要な情報をリサーチ、収集する方法について学ぶ - 収集した情報を整理する手法 (ロジックツリー、KJ 法、マインドマップなど) について学ぶ
第 3 回	プレゼンソフトを使った図表の作成 (1)	- 代表的な図表 (フローチャート、ピラミッド図、概念図など) の作成方法、使い方について学ぶ
第 4 回	表計算ソフトを使ったグラフの作成 (1)	- 円グラフや棒グラフ、積算グラフなど目的に応じたグラフやチャートの作成方法、読み取り方を学ぶ
第 5 回	表計算ソフトを使ったグラフの作成 (2)	- 複合グラフや散布図の作成方法について学ぶ
第 6 回	プレゼンソフトを使った図表の作成 (2)	- 表計算ソフトで作成したデータをプレゼンソフトなどと連携させる方法を学ぶ - オフィスソフト間でのデータの連携について学ぶ
第 7 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (1)	- Processing の概要と環境構築、簡単な図形の描画を行う
第 8 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (2)	- 変数やデータの型の定義、変数を用いて基本的な命令を実行できるようになる - 条件分岐や繰り返しなどプログラムの制御構造について学ぶ
第 9 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (3)	- 簡単なアニメーションをプログラミングできるようになる - 自作の関数を作成して、プログラムに利用する方法を学ぶ
第 10 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (4)	- キーボード操作など外部入力によって変化するビジュアル作成を行う - 配列やその他の必要な文法について学ぶ

第 11 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (5)	- 外部データを読み込み、そのデータを元に可視化する方法を学ぶ
第 12 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (6)	- 外部ライブラリや入力を用いて、可視化表現の幅を広げる方法を学ぶ - インターネットからデータを取得してプログラムに取り込む方法について学ぶ
第 13 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (7)	- ここまで学んだプログラミング手法を用いて複雑なビジュアル表現を制作
第 14 回	春学期のまとめ	- 半年間のまとめを行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本講義前半ではオフィス系ソフトを用いるため、PC の操作 (ファイル・フォルダ作成・データ保存) およびキーボードの操作、基本的な使い方はできる前提で進めていきます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

授業時に随時紹介

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、平常点 50 点、授業内・期末課題 50 点の課題で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドルームを利用します。また学生が所有するノート PC でも構いません。

【その他の重要事項】

- 本講義は可視化がテーマの授業なので、PC やソフトウェアの操作、プログラミングの文法などの詳細について細かく説明しない事があります。必要に応じて各自で練習や書籍などで補完しながら授業に臨んでください。
- 演習形式の授業なので、遅刻をしないようにお願いします。

【関連科目】

プログラミング言語 I / II [Java コース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける

【Outline (in English)】

In this lecture, students will learn various data visualization methods for analyzing, organizing, and visualizing complex data in a visually understandable form.

Learning Objectives:

- How to visualize and organize complex information using office software.

- Basic visual programming with Processing(p5.js).

Learning activities outside of classroom:

- Students will need to understand PC operation.

- Coursework and self practice.

Grading Criteria /Policy:

Attendance and Coursework:50% / Final Assignment:50%

COT200FA

データ処理論Ⅱ (CG) (2018年度入学者)

田中 元一郎

選択_情報関係 2~4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

- 本講義では、複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で可視化するデータビジュアライゼーションについてさまざまな技法を演習形式で学びます。
- 秋学期は、より高度な表計算ソフトの使いこなしを通して、データ分析を行いグラフ化や図表の作成を行う方法を学びます。後半は **python** を用いて数式の可視化、機械学習、AI のモデル作成を行い、データの可視化の手法について学びます。

【到達目標】

- 表計算ソフトを用いてデータをさまざまな形で可視化することができる。
- **Python** とライブラリを用いて、機械学習のモデルの作成と実行ができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- 初回の授業にアクセスするための情報は学習支援システム **Hoppii** に掲載します。
- 授業は演習形式で説明と実習を交えながら進めていきます。授業の詳細は開講時に学習支援システム **Hoppii** にて公開します。
- 前半は複雑な分析を可視化する方法について表計算ソフトを用いて演習を行います。
- 後半は **python** を用いて数式の可視化や機械学習のためのモデル作成を行い、データ可視化の手法について演習を行います。
- 演習や課題のフィードバックは授業の開始時、もしくは学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ビジネスデータ分析の概要	- ビジネスデータ分析の概要について学ぶ
第 2 回	表計算ソフトを使った高度な分析	- ビボットテーブルの使った集計と可視化の方法について紹介 - 相関関係についての分析と可視化の方法について紹介
第 3 回	ビジネスデータ分析の方法 (1)	- PPM 分析を行い製品や自社の立ち位置について分析する方法について紹介 - ファンチャートの作成を通して基準点からの変化の可視化について学ぶ
第 4 回	ビジネスデータ分析の方法 (2)	- 重点分析について理解できるようになる - 構成比やパレート図を作成できるようになる
第 5 回	Python の文法 (1)	- Python の概要について理解する - 変数や値、関数の実行などができるようになる - 条件分岐や繰り返しなど制御構造について理解する
第 6 回	Python の文法 (2)	- 配列など高度なデータ構造について理解する - クイックソートアルゴリズムについて学ぶ - 外部ライブラリのインストール、読み込みができるようになる
第 7 回	Matplotlib を利用してグラフを作成する (1)	- Python のライブラリである Matplotlib を利用し数式等を可視化する方法について学ぶ。
第 8 回	Matplotlib を利用してグラフを作成する (2)	- Python のライブラリである Matplotlib を利用し数式等を可視化する方法について学ぶ。
第 9 回	Python と人工知能	- 機械学習や AI に使われている技術や仕組み、アルゴリズムについて理解する - Generative AI の可能性と限界について理解する
第 10 回	機械学習 (1)	- scikit-learn を利用し画像データの分類方法と可視化について学ぶ。

第 11 回 機械学習 (2)

- **scikit-learn** を利用し画像データの分類方法と可視化について学ぶ。

- インターネット上のデータをスクレイピングする方法について学ぶ

第 12 回 ディープラーニング (1)

- **Keras** を利用し画像判定するモデルを作成する方法について学ぶ。

第 13 回 ディープラーニング (2)

- **Keras** を利用し画像判定するモデルを作成する方法について学ぶ。

- 半年間のまとめを行う

第 14 回 秋学期のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 本講義は PC の操作 (ファイル・フォルダ作成・データ保存) およびキーボードの操作、OS やアプリの基本的な使い方、関連ソフトのインストール作業等はできる前提で進めていきます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。

- データ分析や AI は身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。

- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

授業時に随時紹介

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、平常点 50 点、授業内・期末課題 50 点の課題で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等は **Google** クラウドルームを利用します。また自分が所有するノート PC でも構いません。

【その他の重要事項】

- 本講義は可視化がテーマの授業なので、PC やソフトウェアの操作、プログラミングの文法などの詳細について細かく説明しない事があります。必要に応じて各自で練習や書籍などで補完しながら授業に臨んでください。
- 演習形式の授業なので、遅刻をしないようにお願いします。

【関連科目】

プログラミング言語Ⅰ / Ⅱ [Java コース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける

【Outline (in English)】

In this course, students will learn various data visualization methods for analyzing, organizing, and visualizing complex data in a visually understandable form.

Learning Objectives:

- The fall semester, students will learn about visualizing and analyzing data using spreadsheet software in the first part of this course.

- In the second part, students will learn visualization of a mathematical formula using matplotlib, studying about Machine Learning and AI technology.

Learning activities outside of classroom:

- Students will need to understand PC operation.

- Coursework and self practice.

Grading Criteria /Policy:

Attendance and Coursework:50% / Final Assignment:50%

COT200FA

データ処理論 I (CG) (2018 年度入学者)

飯塚 康至

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では次の項目を可視化する方法について学ぶ。

- 1) プログラミングの可視化 (C 言語を利用してプログラミングを可視化する方法について学ぶ)
- 2) データの可視化・分析 (エクセルを利用してデータを可視化し分析する方法について学ぶ)
- 3) グラフ化・機械学習・深層学習 (AI や機械学習で利用する数式やモデルの可視化の方法について学ぶ)

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. C 言語を利用して簡単な可視化プログラミングを行うことができるようになる
2. エクセルを利用しデータを可視化し分析できるようになる
3. Python を利用し数式等を可視化できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。

前期は C 言語を利用してプログラムを可視化する方法について学びます。これにより C 言語のプログラミングの基礎を身につけます。

後期はエクセルを利用してデータをグラフ化し分析する手法と AI や機械学習で利用されることが多い Python を利用し、数式の可視化や機械学習のためのモデルの作成を行い、データの可視化の手法について学びます。

演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。授業の詳細は開講時に学習支援システム Hoppii にて公開します。授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プログラミングの基本	変数等プログラムの基本を学び可視化します。
第 2 回	図形の描画～制御構造～	図形描画を行いながら制御構造について学びます。
第 3 回	独自の図形描画～関数とランダムな数値～	独自の図形を描画しながら効率よくプログラムを作成する方法について学びます。
第 4 回	図解を動かす (アニメーション)	プログラミングで図形を描画しアニメーションさせる方法について学びます。
第 5 回	たくさんの図形を効率よく動かす	繰り返し文を使い図解を効率よくアニメーションさせる方法について学びます。
第 6 回	【シューティングゲームの作成】 キーボードからの動きとプレイヤーの作成	キーボードの入力値を受け付ける方法について学びます。
第 7 回	【シューティングゲームの作成】 敵の描画とあたり判定	敵の描画方法と当たり判定について学びます。
第 8 回	【シューティングゲームの作成】 弾の描画とあたり判定	弾の描画と当たり判定について学びます。
第 9 回	【シューティングゲームの作成】 ゲームを完成させよう	得点の表示やランキングなどそのほかのゲームの要素について学びます。
第 10 回	プログラムの基本 (その 2-1)	そのほかの条件分岐や繰り返し文、配列などの文法を学びます。
第 11 回	プログラムの基本 (その 2-2)	ポインターといった C 言語特有の文法について学びます。
第 12 回	アルゴリズムと関数の再帰呼び出し (1)	ソートアルゴリズムを可視化しアルゴリズムによる動作の違いを確認します。
第 13 回	アルゴリズムと関数の再帰呼び出し (2)	関数の再帰呼び出しを可視化しフラクタル図形を作成します。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

キー入力や基本的な PC の操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。データ分析や AI は身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

楽しく学ぶ C 言語, 飯塚 康至、長 慎也, 技術評論社 (2020/1/18), 4297110571

【参考書】

後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は Google クラウドを利用します。

【その他の重要事項】

演習系の授業になるので遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】

プログラミング言語 I / II [Java コース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will learn how to visualize the following items.

- (1) Visualization of programming (learn how to visualize programming using C language)
- (2) Data analysis (learn how to visualize and analyze data using Excel)
- (3) Graphing, Machine Learning, and Deep Learning (Learn how to visualize formulas and models used in AI and machine learning.

【Learning Objectives】

The objectives of this class are as follows: 1.

1. To be able to perform simple visualization programming using the C language
 2. To be able to visualize and analyze data using Excel
- To be able to visualize mathematical expressions using Python
 【Learning activities outside of classroom】
 The class will be conducted in the form of exercises. The class will be conducted in an exercise style, with repetition of explanations and exercises.

In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

COT200FA

データ処理論Ⅱ (CG) (2018年度入学者)

飯塚 康至

選択_情報関係 2~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では次の項目を可視化する方法について学ぶ。

- 1) プログラミングの可視化 (C 言語を利用してプログラミングを可視化する方法について学ぶ)
- 2) データ可視化・分析 (エクセルを利用してデータを可視化し分析する方法について学ぶ)
- 3) グラフ化・機械学習・深層学習 (AI や機械学習で利用する数式やモデルの可視化の方法について学ぶ)。

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. C 言語を利用して簡単な可視化プログラミングを行うことができるようになる
2. エクセルを利用しデータを可視化し分析できるようになる
3. Python を利用し数式等を可視化できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。

前期は C 言語を利用してプログラムを可視化する方法について学びます。これにより C 言語のプログラミングの起訴を身につけます。

後期はエクセルを利用してデータをグラフ化し分析する手法と AI や機械学習で利用されることが多い Python を利用し、数式の可視化や機械学習のためのモデルの作成を行います。データの可視化の手法について学びます。

演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。

授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ビジネスデータ分析とは	ビジネスデータ分析とはエクセルを利用したビジネスデータ分析の概要について学ぶ。
第 2 回	表の使いこなしとピボットテーブル	表を使いデータを可視化する手法と集計の手法を学ぶ。
第 3 回	PPM 分析	エクセルで PPM 分析を行い製品や会社の立ち位置を可視化する方法について学ぶ。
第 4 回	ファンチャート	エクセルでファンチャートを作成し基準点からの変化の具合を可視化する方法について学ぶ。
第 5 回	相関関係	2 つの独立した値の関係の強さを示す相関関係を可視化する方法について学ぶ。
第 6 回	ABC 分析	構成の偏りを ABC 分析を利用し可視化する方法について学ぶ。
第 7 回	Python でできること	AI や機械学習で利用される Python の概要について学ぶ。
第 8 回	Matplotlib を利用したグラフの作成 (1)	Python のライブラリである Matplotlib を利用し数式等を可視化する方法について学ぶ。
第 9 回	Matplotlib を利用したグラフの作成 (2)	Matplotlib を利用しデータを可視化する方法について学ぶ。
第 10 回	機械学習 (1)	機械学習の概要について学ぶ。
第 11 回	機械学習 (2)	K 近傍法を利用した分類手法について学ぶ。
第 12 回	深層学習 (1)	画像認識ライブラリの利用方法について学ぶ。
第 13 回	深層学習 (2)	画像認識ライブラリに学習を行い独自の AI を作る方法について学ぶ。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

キー入力や基本的な PC の操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。データ分析や AI は身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】

後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は Google クラウドを利用します。

【その他の重要事項】

演習系の授業になるので、遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】

プログラミング言語Ⅰ / Ⅱ [Java コース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will learn how to visualize the following items.

- (1) Visualization of programming (learn how to visualize programming using C language)
- (2) Data analysis (learn how to visualize and analyze data using Excel)
- (3) Graphing, Machine Learning, and Deep Learning (Learn how to visualize formulas and models used in AI and machine learning.

【Learning Objectives】

The objectives of this class are as follows: 1.

1. To be able to perform simple visualization programming using the C language

2. To be able to visualize and analyze data using Excel

To be able to visualize mathematical expressions using Python

[Learning activities outside of classroom]

The class will be conducted in the form of exercises. The class will be conducted in an exercise style, with repetition of explanations and exercises.

In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

COT200FA

データ処理論 I (プレゼンテーション) (2018 年度入学者)

上野 京子

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。

本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる

・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える

・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する

・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

■春学期

(1) 表現能力を高めるため、Word での文書作成の機能を学ぶ

(2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するために Excel の機能を学ぶ

(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。

(4) A4 文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ

(5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第 2 回	Word 復習	Word 機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2 段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第 3 回	Excel 復習 1 回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第 4 回	Excel 復習 2 回目	簡単な統計 IF 関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第 5 回	Excel 復習 3 回目	目的に合わせたグラフ作成
第 6 回	Excel 復習 4 回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第 7 回	PowerPoint 復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第 8 回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 9 回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 10 回	自己 PR	Word の機能を駆使して、 自己 PR 文書の作成
第 11 回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうにするか 何を目的にするか プレゼンするかを企画する
第 12 回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作

第 13 回 プレゼン発表

各自、

制限時間内で発表

第 14 回 相互評価

相互評価の結果を受けて

レポート作成

最終レポートの作成

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office 系のアプリケーションソフト (Word、Excel、PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)

「伝え方が 9 割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション 15 のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、授業の中で行う演習 50% を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

・ You Can give a logical presentation that understands the situation.

・ You can Create accurate content and create clear materials.

・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria / Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（プレゼンテーション）（2018年度入学者）

上野 京子

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC等を活用したプレゼンテーション能力（表現能力）を高めるための科目である。

本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる

・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える

・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する

・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第2回	失敗しないプレゼンテーション 1 －導入－	聞き手をつかむ 結論から見せる 目標を示す 序論で動機づけ
第3回	失敗しないプレゼンテーション 2 －可視化－	百聞は一見に如かず 見える形に具現化する 喻えてみせる 表現の段階化
第4回	失敗しないプレゼンテーション 3 －内容に適した表現素材－	スライドデザイン
第5回	失敗しないプレゼンテーション 4 －構造や関係－	分類と包含 階層構造 流れの構造 連続的な関係 合流・複合の関係
第6回	失敗しないプレゼンテーション 5 －伝え方－	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第7回	比較的簡単な演習（グループ演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第8回	比較的簡単な演習（個人演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第9回	プレゼンテーション作成演習 1	プレゼン用スライドの鑑賞 計画・要素収集
第10回	プレゼンテーション作成演習 2	プレゼンテーション作成
第11回	プレゼンテーション作成演習 3	プレゼンテーション作成、提出
第12回	プレゼンテーション聴講と相互評価 1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第13回	プレゼンテーション聴講と相互評価 2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第14回	秋学期まとめ	レポート作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣（日本実業出版）

「伝え方が9割」佐々木圭一（ダイヤモンド社）

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class.

Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論 I (プレゼンテーション) (2018 年度入学者)

上野 京子

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。

本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる

・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える

・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する

・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

■春学期

(1) 表現能力を高めるため、Word での文書作成の機能を学ぶ

(2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するために Excel の機能を学ぶ

(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。

(4) A4 文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ

(5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第 2 回	Word 復習	Word 機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2 段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第 3 回	Excel 復習 1 回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第 4 回	Excel 復習 2 回目	簡単な統計 IF 関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第 5 回	Excel 復習 3 回目	目的に合わせたグラフ作成
第 6 回	Excel 復習 4 回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第 7 回	PowerPoint 復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第 8 回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 9 回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 10 回	自己 PR	Word の機能を駆使して、 自己 PR 文書の作成
第 11 回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうにするか 何を目的にするか プレゼンするかを企画する
第 12 回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作

第 13 回 プレゼン発表

各自、

制限時間内で発表

第 14 回 相互評価

相互評価の結果を受けて

レポート作成

最終レポートの作成

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office 系のアプリケーションソフト (Word、Excel、PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)

「伝え方が 9 割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション 15 のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、授業の中で行う演習 50% を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

・ You Can give a logical presentation that understands the situation.

・ You can Create accurate content and create clear materials.

・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria / Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（プレゼンテーション）（2018年度入学者）

上野 京子

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC等を活用したプレゼンテーション能力（表現能力）を高めるための科目である。

本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる

・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える

・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する

・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第2回	失敗しないプレゼンテーション1 －導入－	聞き手をつかむ 結論から見せる 目標を示す 序論で動機づけ
第3回	失敗しないプレゼンテーション2 －可視化－	百聞は一見に如かず 見える形に具現化する 喻えてみせる 表現の段階化
第4回	失敗しないプレゼンテーション3 －内容に適した表現素材－	スライドデザイン
第5回	失敗しないプレゼンテーション4 －構造や関係－	分類と包含 階層構造 流れの構造 連続的な関係 合流・複合の関係
第6回	失敗しないプレゼンテーション5 －伝え方－	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第7回	比較的簡単な演習 (グループ演習)	指定のプレゼン資料の作成・提出
第8回	比較的簡単な演習 (個人演習)	指定のプレゼン資料の作成・提出
第9回	プレゼンテーション作成演習1	プレゼン用スライドの鑑賞 計画・要素収集
第10回	プレゼンテーション作成演習2	プレゼンテーション作成
第11回	プレゼンテーション作成演習3	プレゼンテーション作成、提出
第12回	プレゼンテーション聴講と相互評価1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第13回	プレゼンテーション聴講と相互評価2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第14回	秋学期まとめ	レポート作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣（日本実業出版）

「伝え方が9割」佐々木圭一（ダイヤモンド社）

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業の中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class.

Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論 I (プレゼンテーション) (2018 年度入学者)

上野 京子

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。

本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる

・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える

・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する

・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

■春学期

(1) 表現能力を高めるため、Word での文書作成の機能を学ぶ

(2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するために Excel の機能を学ぶ

(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。

(4) A4 文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ

(5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第 2 回	Word 復習	Word 機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2 段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第 3 回	Excel 復習 1 回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第 4 回	Excel 復習 2 回目	簡単な統計 IF 関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第 5 回	Excel 復習 3 回目	目的に合わせたグラフ作成
第 6 回	Excel 復習 4 回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第 7 回	PowerPoint 復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第 8 回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 9 回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 10 回	自己 PR	Word の機能を駆使して、 自己 PR 文書の作成
第 11 回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうにするか 何を目的にするか プレゼンするかを企画する
第 12 回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作

第 13 回 プレゼン発表

各自、

制限時間内で発表

第 14 回 相互評価

相互評価の結果を受けて

レポート作成

最終レポートの作成

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office 系のアプリケーションソフト (Word、Excel、PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)

「伝え方が 9 割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション 15 のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、授業の中で行う演習 50% を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

・ You Can give a logical presentation that understands the situation.

・ You can Create accurate content and create clear materials.

・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria / Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（プレゼンテーション）（2018年度入学者）

上野 京子

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC等を活用したプレゼンテーション能力（表現能力）を高めるための科目である。

本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

・プレゼンテーションの状況を確認にとらえることができる

・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える

・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する

・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第2回	失敗しないプレゼンテーション1 －導入－	聞き手をつかむ 結論から見せる 目標を示す 序論で動機づけ
第3回	失敗しないプレゼンテーション2 －可視化－	百聞は一見に如かず 見える形に具現化する 喩えてみせる 表現の段階化
第4回	失敗しないプレゼンテーション3 －内容に適した表現素材－	スライドデザイン
第5回	失敗しないプレゼンテーション4 －構造や関係－	分類と包含 階層構造 流れの構造 連続的な関係 合流・複合の関係
第6回	失敗しないプレゼンテーション5 －伝え方－	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第7回	比較的簡単な演習 (グループ演習)	指定のプレゼン資料の作成・提出
第8回	比較的簡単な演習 (個人演習)	指定のプレゼン資料の作成・提出
第9回	プレゼンテーション作成演習1	プレゼン用スライドの鑑賞 計画・要素収集
第10回	プレゼンテーション作成演習2	プレゼンテーション作成
第11回	プレゼンテーション作成演習3	プレゼンテーション作成、提出
第12回	プレゼンテーション聴講と相互評価1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第13回	プレゼンテーション聴講と相互評価2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第14回	秋学期まとめ	レポート作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣（日本実業出版）

「伝え方が9割」佐々木圭一（ダイヤモンド社）

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論 I (空間情報システム) (2018 年度入学者)

沼尻 治樹

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、G 空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。

空間情報システムの発達とともに、商圏分析や立地分析、災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく、地図アプリケーションなども web を通して日常生活に普及してきた。一方、地理空間情報活用推進基本法の制定により、行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って、空間情報に関する知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また、東日本大震災後、行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集積し利用していることから、「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

【到達目標】

社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用、また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して、資料の配付、課題の提出、質疑の受け付けを行う。実習は、配付資料と解説が進める。また、適宜動画資料も利用する。

授業では、初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ、まず空間情報システムの構造や考え方、空間情報 (デジタルデータ) の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション、データを使用して授業を進める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	空間情報システムとは何か?	空間情報システムについて具体的な事例を交えながら紹介する
第 2 回	空間情報システムの歴史と応用事例	空間情報システムの歴史を簡単に述べ事例とともに解説する
第 3 回	空間情報 (デジタルデータ) について	空間情報システムで取り扱うデジタルデータについて解説する
第 4 回	空間情報のマッピング 1	国土数値情報を利用しながらアプリケーションの操作を学ぶ
第 5 回	空間情報のマッピング 2	基盤地図情報を利用しながらアプリケーションでのレイアウトを変更・編集する
第 6 回	空間情報と統計データ 1	統計データに合致したレイアウトの考え方を学ぶ
第 7 回	空間情報と統計データ 2	レイアウトの応用と主題図作成を学ぶ
第 8 回	空間情報の統計演算 1	統計データの新規追加を学ぶ
第 9 回	空間情報の統計演算 2	統計データの変換を学ぶ
第 10 回	空間情報の統計演算 3	統計データの演算を学ぶ
第 11 回	空間情報の保存・変換	空間情報の保存と投影 (座標系) 変換
第 12 回	ジオプロセッシングと空間解析	簡単な空間解析法 (バッファリング・空間結合・属性結合・距離と面積の測定) を学ぶ
第 13 回	空間情報の分析と考察 1	課題に対して空間情報を選択する
第 14 回	空間情報の分析と考察 2	空間情報の処理を行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また、使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから、受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

自作テキストを利用する。

【参考書】

「地理情報学入門」(野上道男ほか、東京大学出版会、2001 年)

「国土を測る技術の基礎 —地理空間情報技術者を目指す人のために—」(高木方隆、(公社)日本測量協会、2014 年)

その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから、平常点を重視する。その他、学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。

成績評価の配分は、平常点を 60 %、レポート課題を 40 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに、空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し、授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では、学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布、課題提出、受講生向けの連絡、掲示板での質問対応である。また、PC を使って実習を行う。私物のポータブル PC を利用してもよい。Windows 環境での実習を想定しているが、Linux 環境等の PC での実習も認める。ただし、十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。

課題やデータの保存に USB メモリ等の外部記憶装置があるとよい。

【その他の重要事項】

本授業では、講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ、コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア、無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。

なお本授業は応用科目であるから、Windows の基本操作については解説しない。十分に Windows の操作を理解している必要がある。

【オフィス・アワー】

授業時に質問を受け付ける。また、学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目
情報学応用 II (空間情報)

【Outline (in English)】

[Course outline]

The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.

[Learning objectives]

Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%、in class contribution: 60%

COT200FA

データ処理論Ⅱ（空間情報システム）（2018年度入学者）

沼尻 治樹

選択_情報関係 2~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、G空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。

空間情報システムの発達とともに、商圏分析や立地分析、災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく、地図アプリケーションなどもwebを通して日常生活に普及してきた。一方、地理空間情報活用推進基本法の制定により、行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って、空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また、東日本大震災後、行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集積し利用していることから、「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

【到達目標】

社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用、また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して、資料の配付、課題の提出、質疑の受け付けを行う。実習は、操作資料と解説が進める。また、適宜動画資料も利用する。

授業では、初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ、まず空間情報システムの構造や考え方、空間情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション、データを使用して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アドレスマッチングの利用	ジオコーディングを学びポイントデータを自作する
第2回	GNSS (GPS) を用いた位置情報の取得と表示	GNSS で取得した座標からポイントデータを自作する
第3回	ラスターデータの利用とベクトルデータの作成 1	オルソ化空中写真の表示を学びラインデータを自作する
第4回	ラスターデータの利用とベクトルデータの作成 2	ポリゴンデータを自作しさらにラインデータおよびポリゴンデータの形状を編集する
第5回	ラスターデータの利用とベクトルデータの作成 3	地理院地図を使いながらベクトルデータを作成しラスターデータへ変換する
第6回	ジオリファレンス（幾何補正）の実施	位置情報を持たない画像データに位置情報を与え空間情報を取得する
第7回	数値標高モデル (DEM) による空間分析 1	DEM について解説し簡単な地形解析を行う
第8回	数値標高モデル (DEM) による空間分析 2	地形解析を行い空間情報を取得する
第9回	空間解析の実践 1	空間補間（空間内挿）を行い空間情報の推定を行う
第10回	空間解析の実践 2	リモートセンシングデータを利用する
第11回	空間情報プログラミング超入門	Python3 (PyQGIS) を使った空間情報処理の基礎
第12回	空間情報の作成・分析と考察 1	課題とデータ処理の方法を設定する
第13回	空間情報の作成・分析と考察 2	課題に対してデータ処理を実践する
第14回	空間情報の作成・分析と考察 3	データ処理の結果を分析する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また、使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから、受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

自作テキストを利用する。

【参考書】

「地理情報学入門」（野上道男ほか、東京大学出版会、2001年）

「国土を測る技術の基礎 — 地理空間情報技術者をめざす人のために —」（高木方隆、(公社)日本測量協会、2014年）

その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから、平常点を重視する。その他、学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。

成績評価の配分は、平常点を60%、レポート課題を40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに、空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し、授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では、学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布、課題提出、受講生向けの連絡、掲示板での質問対応である。また、PCを使って実習を行う。私物のポータブルPCを利用してもよい。Windows環境での実習を想定しているが、Linux環境等のPCでの実習も認める。ただし、十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。

課題やデータの保存にUSBメモリ等の外部記憶装置があるとよい。

【その他の重要事項】

本授業では、講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ、コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア、無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。なお本授業は応用科目であるから、Windowsの基本操作については解説しない。十分にWindowsの操作を理解している必要がある。

【オフィス・アワー】

授業時に質問を受け付ける。また、学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目
情報学応用Ⅰ（空間情報）

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.

【Learning objectives】

Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

COT200FA

データ処理論 I (2016～2017 年度入学者)

木村 昌史

選択_情報関係 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

研究活動、社会で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術の修得

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC、ネットワーク、Excel、Access、SQLite などの活用法を学びながら、次の 4 つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【補足】

原則として対面授業で行う予定だが、情勢によってはオンライン授業になる場合もある。その場合には学習支援システム (Hoppii) 等で提示するので参照のこと。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第 2 回	ネットワークの仕組み	ネットワークの仕組みと各種 Web サービスについて
第 3 回	情報の検索・収集方法	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第 4 回	情報の蓄積と管理	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
第 5 回	表計算ソフトとは	ワークシートの編集・加工について
第 6 回	表計算ソフトの活用	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
第 7 回	データベースの基本概念	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
第 8 回	Excel によるデータベース的処理 (1)	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第 9 回	Excel によるデータベース的処理 (2)	データベース関数の活用と条件設定について
第 10 回	Excel によるデータベース的処理 (3)	クロス集計とピボットテーブルの活用について
第 11 回	Excel によるデータ分析	Excel の分析ツールの活用と R との連携によるデータ分析への応用
第 12 回	データベースソフトとは	Access の起動・データ読み込みとテーブルの作成
第 13 回	Access の基本操作	Excel ファイルのエクスポート データの検索方法と検索条件の指定について
第 14 回	春学期のまとめ	クエリとは何か ソフトウェア活用法のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 学内 PC 環境、自宅のネットワーク環境の確認 (予習)
 2. ネットワークの仕組みについて調べる (予習)
 3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習 (予習と復習)
 - 4.～14. 配布資料や配布データの予習、配布資料の復習
 - 15.～28. 配布資料の予習・復習 データ検索の復習
- 予習と復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】

参考書やオンライン資料については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %、各回授業での演習課題 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。

実習室において PC に向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。

法政大学からライセンス利用できる Office 365 ProPlus を自宅 PC などに導入することも推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、広くすべての学部生に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学の入門を中心とした情報関係科目全般

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】

実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society. This course introduces Applied Informatics to students taking this course. As an introduction to Applied Informatics we first learn methods of data processing and data analysis. Next in this course we learn the concept of database and ways of database's operation using some database management systems.

The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）

木村 昌史

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究活動、社会で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術の修得

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC、ネットワーク、Excel、Access、SQLite の活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【補足】

原則として対面授業で行う予定だが、情勢によってはオンライン授業になる場合もある。その場合には学習支援システム（Hoppii）等で提示するので参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リレーショナルデータベースとは	データベースのしくみとデータベース管理システムについて
第2回	データベースの操作言語とは	データベースの基本操作の射影、選択、結合と SQL について
第3回	データベースのスキーマ	データベースの基本設計と Access のテーブル作成と編集
第4回	Access によるデータ編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
第5回	テーブルの操作 (1)	選択クエリ、アクションクエリの作成について
第6回	テーブルの操作 (2)	テーブル作成クエリの利用と SQL による操作について
第7回	データベースの設計 (1)	データベースの設計とデータの正規化について
第8回	データベースの設計 (2)	リレーションシップと高度なクエリの活用について
第9回	SQL とデータベース (1)	SQL によるデータベース作成とテーブル作成
第10回	SQL とデータベース (2)	SQL によるデータベース検索やデータの追加・更新
第11回	SQLite データベース	テーブルのインポートやエクスポートの実行
第12回	外部クラウドとデータベース	Google Colaboratory によるデータベース操作
第13回	総合演習 (1) データベースの設計	基礎的なデータベースの作成と活用
第14回	総合演習 (2) データベースの応用	実用的なデータベースの作成と活用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の配布資料の予習・復習 データ検索の復習
予習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】

参考書やオンライン資料については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %、各回授業での演習課題 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。

実習室において PC に向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。

法政大学からライセンス利用できる Office 365 ProPlus を自宅 PC などに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、広くすべての学部生に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学の入門を中心とした情報関係科目全般

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】

実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society. This course introduces Applied Informatics to students taking this course. As an introduction to Applied Informatics we first learn methods of data processing and data analysis. Next in this course we learn the concept of database and ways of database's operation using some database management systems.

The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

COT200FA

データ処理論 I (2016～2017 年度入学者)

木村 昌史

選択_情報関係 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

研究活動、社会で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術の修得

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC、ネットワーク、Excel、Access、SQLite などの活用法を学びながら、次の 4 つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【補足】

原則として対面授業で行う予定だが、情勢によってはオンライン授業になる場合もある。その場合には学習支援システム (Hoppii) 等で提示するので参照のこと。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第 2 回	ネットワークの仕組み	ネットワークの仕組みと各種 Web サービスについて
第 3 回	情報の検索・収集方法	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第 4 回	情報の蓄積と管理	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
第 5 回	表計算ソフトとは	ワークシートの編集・加工について
第 6 回	表計算ソフトの活用	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
第 7 回	データベースの基本概念	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
第 8 回	Excel によるデータベース的処理 (1)	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第 9 回	Excel によるデータベース的処理 (2)	データベース関数の活用と条件設定について
第 10 回	Excel によるデータベース的処理 (3)	クロス集計とピボットテーブルの活用について
第 11 回	Excel によるデータ分析	Excel の分析ツールの活用と R との連携によるデータ分析への応用
第 12 回	データベースソフトとは	Access の起動・データ読み込みとテーブルの作成
第 13 回	Access の基本操作	Excel ファイルのエクスポート データの検索方法と検索条件の指定について
第 14 回	春学期のまとめ	クエリとは何か ソフトウェア活用法のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 学内 PC 環境、自宅のネットワーク環境の確認 (予習)
 2. ネットワークの仕組みについて調べる (予習)
 3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習 (予習と復習)
 - 4.～14. 配布資料や配布データの予習、配布資料の復習
 - 15.～28. 配布資料の予習・復習 データ検索の復習
- 予習と復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】

参考書やオンライン資料については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %、各回授業での演習課題 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。

実習室において PC に向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。

法政大学からライセンス利用できる Office 365 ProPlus を自宅 PC などに導入することも推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、広くすべての学部生に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学の入門を中心とした情報関係科目全般

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】

実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society. This course introduces Applied Informatics to students taking this course. As an introduction to Applied Informatics we first learn methods of data processing and data analysis. Next in this course we learn the concept of database and ways of database's operation using some database management systems.

The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）

木村 昌史

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究活動、社会で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術の修得

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

PC、ネットワーク、Excel、Access、SQLite の活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【補足】

原則として対面授業で行う予定だが、情勢によってはオンライン授業になる場合もある。その場合には学習支援システム（Hoppii）等で提示するので参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リレーショナルデータベースとは	データベースのしくみとデータベース管理システムについて
第2回	データベースの操作言語とは	データベースの基本操作の射影、選択、結合と SQL について
第3回	データベースのスキーマ	データベースの基本設計と Access のテーブル作成と編集
第4回	Access によるデータ編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
第5回	テーブルの操作 (1)	選択クエリ、アクションクエリの作成について
第6回	テーブルの操作 (2)	テーブル作成クエリの利用と SQL による操作について
第7回	データベースの設計 (1)	データベースの設計とデータの正規化について
第8回	データベースの設計 (2)	リレーションシップと高度なクエリの活用について
第9回	SQL とデータベース (1)	SQL によるデータベース作成とテーブル作成
第10回	SQL とデータベース (2)	SQL によるデータベース検索やデータの追加・更新
第11回	SQLite データベース	テーブルのインポートやエクスポートの実行
第12回	外部クラウドとデータベース	Google Colaboratory によるデータベース操作
第13回	総合演習 (1) データベースの設計	基礎的なデータベースの作成と活用
第14回	総合演習 (2) データベースの応用	実用的なデータベースの作成と活用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の配布資料の予習・復習 データ検索の復習
予習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】

参考書やオンライン資料については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %、各回授業での演習課題 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。

実習室において PC に向かいながら学習する。学習管理システム Classroom も利用し効率的な授業を行う。

法政大学からライセンス利用できる Office 365 ProPlus を自宅 PC などに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、広くすべての学部生に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学の入門を中心とした情報関係科目全般

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】

実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society. This course introduces Applied Informatics to students taking this course. As an introduction to Applied Informatics we first learn methods of data processing and data analysis. Next in this course we learn the concept of database and ways of database's operation using some database management systems.

The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40% and in class contribution: 60%.

COT200FA

データ処理論 I (2016～2017 年度入学者)

三宅 修平

選択_情報関係 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生は、研究活動や社会活動で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術を修得することができる。

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Access の活用法を学びながら、次の 4 つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

[補足] 学習支援システム (Hoppii) 及び学習管理システム (Classroom) を利用する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第 2 回	ネットワークの仕組み 各種 Web サービスの理解	ネットワークの仕組み、Web サービスの活用について
第 3 回	情報の検索・収集方法 Web による情報収集	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第 4 回	情報の蓄積と管理 ファイルやフォルダ、ストレージ	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
第 5 回	表計算ソフトとは Excel の基本操作	ワークシートの編集・加工について
第 6 回	表計算ソフトの活用 Excel の関数	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
第 7 回	データベースの基本概念 データベースの考え方と位置づけ	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
第 8 回	Excel によるデータベース的処理 (1) 検索やフィルタ	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第 9 回	Excel によるデータベース的処理 (2) データベース関数	データベース関数の活用と条件設定について
第 10 回	Excel によるデータベース的処理 (3) ピボットテーブル	クロス集計とピボットテーブルの活用について
第 11 回	Excel によるデータ分析 統計ソフト R との連携	Excel の分析ツールの活用と統計ソフト R との連携によるデータ分析について
第 12 回	統計ソフト R の応用 (1) 判別分析	統計ソフト R による判別分析とその例題について
第 13 回	統計ソフト R の応用 (2) 各種の分析	統計ソフト R によるクラスター分析、主成分分析の例題について
第 14 回	総合演習 春学期のまとめ	春学期中の講義・実習内容について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 学内 PC 環境、自宅のネットワーク環境、の確認
2. ネットワークの仕組みについて調べる
3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習
4. 4～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の復習

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

タイトル：実習データベース～Excel と Access で学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016 年 1 月 10 日

タイトル：30 時間でマスター Access2013

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

発行日：2014 年 09 月 20 日

【参考書】

タイトル：30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2016

タイトル：30 時間でマスター パーフェクト演習 Excel2016

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

他の参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 20 %、演習課題 80 %とする。

期末レポートはこの授業を通じて得られたデータ処理技術およびデータベース技術を利用して、自らテーマを設定し関係するデータを収集、加工、分析、データベース化、検索を行い、考察を加えた上でレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できる Office365 ProPlus を自宅 PC などに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination:50%,Short reports:50%.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）

三宅 修平

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、研究活動や社会活動で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術を修得することができる。

【到達目標】

データベースの考え方や、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Accessの活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

[補足] 学習支援システム (Hoppii) 及び学習管理システム (Classroom) を利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リレーショナルデータベースとは	データベースのしくみ データベース管理システムについて
第2回	データベースソフトとは Accessの位置づけ Excelとの関係	Accessの起動・データ読み込みと テーブルの作成 Excelファイルのエクスポートについて
第3回	Accessの基本操作 データの検索方法 クエリの作成	データの検索方法と検索、条件の指定、クエリ、入力フォームと出力 フォームについて
第4回	データベースの操作言語とは SQLの基本	データベースの基本操作の 射影、選択、結合について SQLによる操作
第5回	データベースのスキーマとは テーブルの作成	データベースの基本設計について Accessのテーブルの作成と編集
第6回	Accessのデータ編集(1) レコードとフィールドの編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
第7回	Accessのデータ編集(2) 画像データの扱い	画像データの扱いとフォームの作成について
第8回	テーブルの操作(1) 各種クエリの理解	選択クエリ、クエリ、アクションクエリの作成について
第9回	テーブルの操作(2) 各種クエリの作成と実行	テーブル作成クエリの利用とSQLによる操作について
第10回	データベースの設計(1) データベースの設計の考え方	データベースの設計とデータの正規化について
第11回	データベースの設計(2) リレーションシップの考え方	リレーションシップと高度なクエリの活用について
第12回	Accessのマクロとは マクロの活用	Access VBAとデータベース操作の自動化について
第13回	総合演習(1) 基本テーブルの作成と フォームの設計	基本テーブルとフォームの設計、 フォーム上での計算式について
第14回	総合演習(2) フォームとレポートのデザイン・総まとめ	フォームとレポートのデザインについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1.～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の予習・復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

タイトル：実習データベース～ExcelとAccessで学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016年1月10日

タイトル：30時間でマスター Access2013

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

発行日：2014年09月20日

【参考書】

タイトル：30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016

タイトル：30時間でマスター パーフェクト演習 Excel2016

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

他の参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート20%、演習課題80%とする。

期末レポートはこの授業を通じて得られたデータ処理技術およびデータベース技術を利用して、自らテーマを設定し関係するデータを収集、加工、分析、データベース化、検索を行い、考察を加えた上でレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できるOffice365 ProPlusを自宅PCなどに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:50%,Short reports:50%.

COT200FA

データ処理論 I (2016～2017 年度入学者)

三宅 修平

選択_情報関係 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生は、研究活動や社会活動で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術を修得することができる。

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Access の活用法を学びながら、次の 4 つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

[補足] 学習支援システム (Hoppii) 及び学習管理システム (Classroom) を利用する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第 2 回	ネットワークの仕組み 各種 Web サービスの理解	ネットワークの仕組み、Web サービスの活用について
第 3 回	情報の検索・収集方法 Web による情報収集	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第 4 回	情報の蓄積と管理 ファイルやフォルダ、ストレージ	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
第 5 回	表計算ソフトとは Excel の基本操作	ワークシートの編集・加工について
第 6 回	表計算ソフトの活用 Excel の関数	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
第 7 回	データベースの基本概念 データベースの考え方と位置づけ	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
第 8 回	Excel によるデータベース的処理 (1) 検索やフィルタ	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第 9 回	Excel によるデータベース的処理 (2) データベース関数	データベース関数の活用と条件設定について
第 10 回	Excel によるデータベース的処理 (3) ピボットテーブル	クロス集計とピボットテーブルの活用について
第 11 回	Excel によるデータ分析 統計ソフト R との連携	Excel の分析ツールの活用と統計ソフト R との連携によるデータ分析について
第 12 回	統計ソフト R の応用 (1) 判別分析	統計ソフト R による判別分析とその例題について
第 13 回	統計ソフト R の応用 (2) 各種の分析	統計ソフト R によるクラスター分析、主成分分析の例題について
第 14 回	総合演習 春学期のまとめ	春学期中の講義・実習内容について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 学内 PC 環境、自宅のネットワーク環境、の確認
2. ネットワークの仕組みについて調べる
3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習
4. 4～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の復習

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

タイトル：実習データベース～Excel と Access で学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016 年 1 月 10 日

タイトル：30 時間でマスター Access2013

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

発行日：2014 年 09 月 20 日

【参考書】

タイトル：30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2016

タイトル：30 時間でマスター パーフェクト演習 Excel2016

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

他の参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 20 %、演習課題 80 %とする。

期末レポートはこの授業を通じて得られたデータ処理技術およびデータベース技術を利用して、自らテーマを設定し関係するデータを収集、加工、分析、データベース化、検索を行い、考察を加えた上でレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習と自宅での PC と Office の利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できる Office365 ProPlus を自宅 PC などに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination:50%,Short reports:50%.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）

三宅 修平

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、研究活動や社会活動で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術を修得することができる。

【到達目標】

データベースの考え方や、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とする。

PC、ネットワーク、Excel、Accessの活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

[補足] 学習支援システム (Hoppii) 及び学習管理システム (Classroom) を利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リレーショナルデータベースとは	データベースのしくみ データベース管理システムについて
第2回	データベースソフトとAccessの位置づけ Excelとの関係	Accessの起動・データ読み込みとテーブルの作成 Excelファイルのエクスポートについて
第3回	Accessの基本操作 データの検索方法 クエリの作成	データの検索方法と検索、条件の指定、クエリ、入力フォームと出力フォームについて
第4回	データベースの操作言語とは SQLの基本	データベースの基本操作の射影、選択、結合について SQLによる操作
第5回	データベースのスキーマとは テーブルの作成	データベースの基本設計について Accessのテーブルの作成と編集
第6回	Accessのデータ編集(1) レコードとフィールドの編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
第7回	Accessのデータ編集(2) 画像データの扱い	画像データの扱いとフォームの作成について
第8回	テーブルの操作(1) 各種クエリの理解	選択クエリ、クエリ、アクションクエリの作成について
第9回	テーブルの操作(2) 各種クエリの作成と実行	テーブル作成クエリの利用とSQLによる操作について
第10回	データベースの設計(1) データベースの設計の考え方	データベースの設計とデータの正規化について
第11回	データベースの設計(2) リレーションシップの考え方	リレーションシップと高度なクエリの活用について
第12回	Accessのマクロとは マクロの活用	Access VBAとデータベース操作の自動化について
第13回	総合演習(1) 基本テーブルの作成とフォームの設計	基本テーブルとフォームの設計、フォーム上での計算式について
第14回	総合演習(2) フォームとレポートのデザイン・総まとめ	フォームとレポートのデザインについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1.～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の予習・復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

タイトル：実習データベース～ExcelとAccessで学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016年1月10日

タイトル：30時間でマスター Access2013

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

発行日：2014年09月20日

【参考書】

タイトル：30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016

タイトル：30時間でマスター パーフェクト演習 Excel2016

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

他の参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート20%、演習課題80%とする。

期末レポートはこの授業を通じて得られたデータ処理技術およびデータベース技術を利用して、自らテーマを設定し関係するデータを収集、加工、分析、データベース化、検索を行い、考察を加えた上でレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。

法政大学からライセンス利用できるOffice365 ProPlusを自宅PCなどに導入することを推奨する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではメールを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students can acquire database technology for processing and analyzing various information and data required for research activities and social activities.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B, and C.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:50%,Short reports:50%.

COT200FA

データ処理論 I (2016~2017 年度入学者)

田中 元一朗

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

- 本講義では、複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で可視化するデータビジュアライゼーションについてさまざまな技法を演習形式で学びます。
 - ビジュアルプログラミングを通してプログラミングの基礎を学び、データビジュアライゼーションに活用する方法を身につけます。
 - データの可視化や情報の表現方法について理解することで、目的に応じて適切な表現や情報の発信方法をはじめ、複雑な情報をどのように整理して理解や相手に伝えていくことができるようになることが目標です。

【到達目標】

- 自分が発信したい内容に合わせて情報の視覚表現ができるようになる
 - 表計算ソフトを用いてデータをさまざまな形で可視化することができる。
 - Processing(p5.js)を用いたビジュアルプログラミングで可視化の表現やデータの表現ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- 初回の授業にアクセスするための情報は学習支援システム Hoppii に掲載します。
 - 授業は演習形式で説明と実習を交えながら進めていきます。授業の詳細は開講時に学習支援システム Hoppii に公開します。
 - 前半は様々なソフトを用いて、データに応じたグラフや図表の作成および情報の整理や表現手法について学びます。
 - 後半は processing を用いてビジュアルプログラミングの基礎を学び、プログラミングを通してデータ可視化の基本を学びます。
 - 演習や課題のフィードバックは授業の開始時、もしくは学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	データビジュアライゼーションの概要	- データビジュアライゼーションとは何か、様々な事例を通して概要を理解する
第 2 回	情報のリサーチと整理の手法	- インターネット上から必要な情報をリサーチ、収集する方法について学ぶ - 収集した情報を整理する手法 (ロジックツリー、KJ 法、マインドマップなど) について学ぶ
第 3 回	プレゼンソフトを使った図表の作成 (1)	- 代表的な図表 (フローチャート、ピラミッド図、概念図など) の作成方法、使い方について学ぶ
第 4 回	表計算ソフトを使ったグラフの作成 (1)	- 円グラフや棒グラフ、積算グラフなど目的に応じたグラフやチャートの作成方法、読み取り方を学ぶ
第 5 回	表計算ソフトを使ったグラフの作成 (2)	- 複合グラフや散布図の作成方法について学ぶ
第 6 回	プレゼンソフトを使った図表の作成 (2)	- 表計算ソフトで作成したデータをプレゼンソフトなどと連携させる方法を学ぶ - オフィスソフト間でのデータの連携について学ぶ
第 7 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (1)	- Processing の概要と環境構築、簡単な図形の描画を行う
第 8 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (2)	- 変数やデータの型の定義、変数を用いて基本的な命令を実行できるようにする - 条件分岐や繰り返しなどプログラムの制御構造について学ぶ
第 9 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (3)	- 簡単なアニメーションをプログラミングできるようにする - 自作の関数を作成して、プログラムに利用する方法を学ぶ
第 10 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (4)	- キーボード操作など外部入力によって変化するビジュアル作成を行う - 配列やその他の必要な文法について学ぶ

第 11 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (5)	- 外部データを読み込み、そのデータを元に可視化する方法を学ぶ
第 12 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (6)	- 外部ライブラリや入力を用いて、可視化表現の幅を広げる方法を学ぶ - インターネットからデータを取得してプログラムに取り込む方法について学ぶ
第 13 回	Processing を用いたビジュアルプログラミング (7)	- ここまで学んだプログラミング手法を用いて複雑なビジュアル表現を制作
第 14 回	春学期のまとめ	- 半年間のまとめを行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本講義前半ではオフィス系ソフトを用いるため、PC の操作 (ファイル・フォルダ作成・データ保存) およびキーボードの操作、基本的な使い方はできる前提で進めていきます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

授業時に随時紹介

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、平常点 50 点、授業内・期末課題 50 点の課題で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドルームを利用します。また学生が所有するノート PC でも構いません。

【その他の重要事項】

- 本講義は可視化がテーマの授業なので、PC やソフトウェアの操作、プログラミングの文法などの詳細について細かく説明しない事があります。必要に応じて各自で練習や書籍などで補完しながら授業に臨んでください。
 - 演習形式の授業なので、遅刻をしないようにお願いします。

【関連科目】

プログラミング言語 I / II [Java コース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける

【Outline (in English)】

In this lecture, students will learn various data visualization methods for analyzing, organizing, and visualizing complex data in a visually understandable form.

Learning Objectives:

- How to visualize and organize complex information using office software.

- Basic visual programming with Processing(p5.js).

Learning activities outside of classroom:

- Students will need to understand PC operation.

- Coursework and self practice.

Grading Criteria /Policy:

Attendance and Coursework:50% / Final Assignment:50%

COT200FA

データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）

田中 元一郎

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 本講義では、複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で可視化するデータビジュアライゼーションについてさまざまな技法を演習形式で学びます。
- 秋学期は、より高度な表計算ソフトの使いこなしを通して、データ分析を行いグラフ化や図表の作成を行う方法を学びます。後半は **python** を用いて数式的可視化、機械学習、AI のモデル作成を行い、データの可視化の手法について学びます。

【到達目標】

- 表計算ソフトを用いてデータをさまざまな形で可視化することができる。
- **Python** とライブラリを用いて、機械学習のモデルの作成と実行ができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- 初回の授業にアクセスするための情報は学習支援システム **Hoppii** に掲載します。
- 授業は演習形式で説明と実習を交えながら進めていきます。授業の詳細は開講時に学習支援システム **Hoppii** にて公開します。
- 前半は複雑な分析を可視化する方法について表計算ソフトを用いて演習を行います。
- 後半は **python** を用いて数式的可視化や機械学習のためのモデル作成を行い、データ可視化の手法について演習を行います。
- 演習や課題のフィードバックは授業の開始時、もしくは学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ビジネスデータ分析の概要	- ビジネスデータ分析の概要について学ぶ
第 2 回	表計算ソフトを使った高度な分析	- ビボットテーブルの使った集計と可視化の方法について紹介 - 相関関係についての分析と可視化の方法について紹介
第 3 回	ビジネスデータ分析の方法 (1)	- PPM 分析を行い製品や自社の立ち位置について分析する方法について紹介 - ファンチャートの作成を通して基準点からの変化の可視化について学ぶ
第 4 回	ビジネスデータ分析の方法 (2)	- 重点分析について理解できるようにする - 構成比やパレート図を作成できるようにする
第 5 回	Python の文法 (1)	- Python の概要について理解する - 変数や値、関数の実行などができるようになる - 条件分岐や繰り返しなど制御構造について理解する
第 6 回	Python の文法 (2)	- 配列など高度なデータ構造について理解する - クイックソートアルゴリズムについて学ぶ - 外部ライブラリのインストール、読み込みができるようになる
第 7 回	Matplotlib を利用してグラフを作成する (1)	- Python のライブラリである Matplotlib を利用し数式等を可視化する方法について学ぶ。
第 8 回	Matplotlib を利用してグラフを作成する (2)	- Python のライブラリである Matplotlib を利用し数式等を可視化する方法について学ぶ。
第 9 回	Python と人工知能	- 機械学習や AI に使われている技術や仕組み、アルゴリズムについて理解する - Generative AI の可能性と限界について理解する
第 10 回	機械学習 (1)	- scikit-learn を利用し画像データの分類方法と可視化について学ぶ。

第 11 回 機械学習 (2)

- **scikit-learn** を利用し画像データの分類方法と可視化について学ぶ。
- インターネット上のデータをスクレイピングする方法について学ぶ

第 12 回 ディープラーニング (1)

- **Keras** を利用し画像判定するモデルを作成する方法について学ぶ。

第 13 回 ディープラーニング (2)

- **Keras** を利用し画像判定するモデルを作成する方法について学ぶ。

第 14 回 秋学期のまとめ

- 半年間のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 本講義は PC の操作 (ファイル・フォルダ作成・データ保存) およびキーボードの操作、OS やアプリの基本的な使い方、関連ソフトのインストール作業等はできる前提で進めていきます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。
- データ分析や AI は身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業時に随時紹介

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、平常点 50 点、授業内・期末課題 50 点の課題で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等は **Google** クラウドルームを利用します。また自分が所有するノート PC でも構いません。

【その他の重要事項】

- 本講義は可視化がテーマの授業なので、PC やソフトウェアの操作、プログラミングの文法などの詳細について細かく説明しない事があります。必要に応じて各自で練習や書籍などで補完しながら授業に臨んでください。
- 演習形式の授業なので、遅刻をしないようにお願いします。

【関連科目】

プログラミング言語Ⅰ／Ⅱ [Java コース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける

【Outline (in English)】

In this course, students will learn various data visualization methods for analyzing, organizing, and visualizing complex data in a visually understandable form.

Learning Objectives:

- The fall semester, students will learn about visualizing and analyzing data using spreadsheet software in the first part of this course.
- In the second part, students will learn visualization of a mathematical formula using matplotlib, studying about Machine Learning and AI technology.

Learning activities outside of classroom:

- Students will need to understand PC operation.
- Coursework and self practice.

Grading Criteria /Policy:

Attendance and Coursework:50% / Final Assignment:50%

COT200FA

データ処理論 I (2016～2017 年度入学者)

飯塚 康至

選択_情報関係 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では次の項目を可視化する方法について学ぶ。

- 1) プログラミングの可視化 (C 言語を利用してプログラミングを可視化する方法について学ぶ)
- 2) データの可視化・分析 (エクセルを利用してデータを可視化し分析する方法について学ぶ)
- 3) グラフ化・機械学習・深層学習 (AI や機械学習で利用する数式やモデルの可視化の方法について学ぶ)。

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. C 言語を利用して簡単な可視化プログラミングを行うことができるようになる
2. エクセルを利用しデータを可視化し分析できるようになる
3. Python を利用し数式等を可視化できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。

前期は C 言語を利用してプログラムを可視化する方法について学びます。これにより C 言語のプログラミングの基礎を身につけます。

後期はエクセルを利用してデータをグラフ化し分析する手法と AI や機械学習で利用されることが多い Python を利用し、数式の可視化や機械学習のためのモデルの作成を行い、データの可視化の手法について学びます。

演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。授業の詳細は開講時に学習支援システム Hoppii にて公開します。授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プログラミングの基本	変数等プログラムの基本を学び可視化します。
第 2 回	図形の描画～制御構造～	図形描画を行いながら制御構造について学びます。
第 3 回	独自の図形描画～関数とランダムな数値～	独自の図形を描画しながら効率よくプログラムを作成する方法について学びます。
第 4 回	図解を動かす (アニメーション)	プログラミングで図形を描画しアニメーションさせる方法について学びます。
第 5 回	たくさんの図形を効率よく動かす	繰り返し文を使い図解を効率よくアニメーションさせる方法について学びます。
第 6 回	【シューティングゲームの作成】 キーボードからの動きとプレイヤーの作成	キーボードの入力値を受け付ける方法について学びます。
第 7 回	【シューティングゲームの作成】 敵の描画とあたり判定	敵の描画方法と当たり判定について学びます。
第 8 回	【シューティングゲームの作成】 弾の描画とあたり判定	弾の描画と当たり判定について学びます。
第 9 回	【シューティングゲームの作成】 ゲームを完成させよう	得点の表示やランキングなどそのほかのゲームの要素について学びます。
第 10 回	プログラムの基本 (その 2-1)	そのほかの条件分岐や繰り返し文、配列などの文法を学びます。
第 11 回	プログラムの基本 (その 2-2)	ポインターといった C 言語特有の文法について学びます。
第 12 回	アルゴリズムと関数の再帰呼び出し (1)	ソートアルゴリズムを可視化しアルゴリズムによる動作の違いを確認します。
第 13 回	アルゴリズムと関数の再帰呼び出し (2)	関数の再帰呼び出しを可視化しフラクタル図形を作成します。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

キー入力や基本的な PC の操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。データ分析や AI は身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

楽しく学ぶ C 言語, 飯塚 康至、長 慎也, 技術評論社 (2020/1/18), 4297110571

【参考書】

後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は Google クラウドを利用します。

【その他の重要事項】

演習系の授業になるので遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】

プログラミング言語 I / II [Java コース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will learn how to visualize the following items.

- (1) Visualization of programming (learn how to visualize programming using C language)
- (2) Data analysis (learn how to visualize and analyze data using Excel)
- (3) Graphing, Machine Learning, and Deep Learning (Learn how to visualize formulas and models used in AI and machine learning.

【Learning Objectives】

The objectives of this class are as follows: 1.

1. To be able to perform simple visualization programming using the C language
 2. To be able to visualize and analyze data using Excel
- To be able to visualize mathematical expressions using Python
[Learning activities outside of classroom]
- The class will be conducted in the form of exercises. The class will be conducted in an exercise style, with repetition of explanations and exercises.

In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）

飯塚 康至

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では次の項目を可視化する方法について学ぶ。

- 1) プログラミングの可視化（C言語を利用してプログラミングを可視化する方法について学ぶ）
- 2) データ可視化・分析（エクセルを利用してデータを可視化し分析する方法について学ぶ）
- 3) グラフ化・機械学習・深層学習（AIや機械学習で利用する数式やモデルの可視化の方法について学ぶ）

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. C言語を利用して簡単な可視化プログラミングを行うことができるようになる
2. エクセルを利用しデータを可視化し分析できるようになる
3. Pythonを利用して数式等を可視化できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。

前期は C 言語を利用してプログラムを可視化する方法について学びます。これにより C 言語のプログラミングの起訴を身につけます。

後期はエクセルを利用してデータをグラフ化し分析する手法と AI や機械学習で利用されることが多い Python を利用し、数式の可視化や機械学習のためのモデルの作成を行います。データの可視化の手法について学びます。

演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。

授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ビジネスデータ分析とは	ビジネスデータ分析とはエクセルを利用したビジネスデータ分析の概要について学ぶ。
第 2 回	表の使いこなしとピボットテーブル	表を使いデータを可視化する手法と集計の手法を学ぶ。
第 3 回	PPM 分析	エクセルで PPM 分析を行い製品や会社の立ち位置を可視化する方法について学ぶ。
第 4 回	ファンチャート	エクセルでファンチャートを作成し基準点からの変化の具合を可視化する方法について学ぶ。
第 5 回	相関関係	2 つの独立した値の関係の強さを示す相関関係を可視化する方法について学ぶ。
第 6 回	ABC 分析	構成の偏りを ABC 分析を利用し可視化する方法について学ぶ。
第 7 回	Python でできること	AI や機械学習で利用される Python の概要について学ぶ。
第 8 回	Matplotlib を利用したグラフの作成 (1)	Python のライブラリである Matplotlib を利用し数式等を可視化する方法について学ぶ。
第 9 回	Matplotlib を利用したグラフの作成 (2)	Matplotlib を利用しデータを可視化する方法について学ぶ。
第 10 回	機械学習 (1)	機械学習の概要について学ぶ。
第 11 回	機械学習 (2)	K 近傍法を利用した分類手法について学ぶ。
第 12 回	深層学習 (1)	画像認識ライブラリの利用方法について学ぶ。
第 13 回	深層学習 (2)	画像認識ライブラリに学習を行い独自の AI を作る方法について学ぶ。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キー入力や基本的な PC の操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。データ分析や AI は身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】

後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は Google クラウドを利用します。

【その他の重要事項】

演習系の授業になるので、遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】

プログラミング言語Ⅰ／Ⅱ [Java コース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will learn how to visualize the following items.

- (1) Visualization of programming (learn how to visualize programming using C language)
- (2) Data analysis (learn how to visualize and analyze data using Excel)
- (3) Graphing, Machine Learning, and Deep Learning (Learn how to visualize formulas and models used in AI and machine learning.)

【Learning Objectives】

The objectives of this class are as follows: 1.

1. To be able to perform simple visualization programming using the C language

2. To be able to visualize and analyze data using Excel

To be able to visualize mathematical expressions using Python

[Learning activities outside of classroom]

The class will be conducted in the form of exercises. The class will be conducted in an exercise style, with repetition of explanations and exercises.

In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

COT200FA

データ処理論 I (2016~2017 年度入学者)

上野 京子

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。

本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる

・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える

・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する

・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

■春学期

(1) 表現能力を高めるため、Word での文書作成の機能を学ぶ

(2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するために Excel の機能を学ぶ

(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。

(4) A4 文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ

(5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第 2 回	Word 復習	Word 機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2 段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第 3 回	Excel 復習 1 回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第 4 回	Excel 復習 2 回目	簡単な統計 IF 関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第 5 回	Excel 復習 3 回目	目的に合わせたグラフ作成
第 6 回	Excel 復習 4 回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第 7 回	PowerPoint 復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第 8 回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 9 回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 10 回	自己 PR	Word の機能を駆使して、 自己 PR 文書の作成
第 11 回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうにするかを 何を目的に プレゼンするかを企画する
第 12 回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作

第 13 回 プレゼン発表

各自、

制限時間内で発表

第 14 回 相互評価

相互評価の結果を受けて

レポート作成

最終レポートの作成

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office 系のアプリケーションソフト (Word、Excel、PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)

「伝え方が 9 割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション 15 のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、授業の中で行う演習 50% を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

・ You Can give a logical presentation that understands the situation.

・ You can Create accurate content and create clear materials.

・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria / Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）

上野 京子

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC等を活用したプレゼンテーション能力（表現能力）を高めるための科目である。

本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

・プレゼンテーションの状況を確認にとらえることができる

・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える

・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する

・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第2回	失敗しないプレゼンテーション1 ー導入ー	聞き手をつかむ 結論から見せる 目標を示す 序論で動機づけ
第3回	失敗しないプレゼンテーション2 ー可視化ー	百聞は一見に如かず 見える形に具現化する 喩えてみせる 表現の段階化
第4回	失敗しないプレゼンテーション3 ー内容に適した表現素材ー	スライドデザイン
第5回	失敗しないプレゼンテーション4 ー構造や関係ー	分類と包含 階層構造 流れの構造 連続的な関係 合流・複合の関係
第6回	失敗しないプレゼンテーション5 ー伝え方ー	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第7回	比較的簡単な演習 (グループ演習)	指定のプレゼン資料の作成・提出
第8回	比較的簡単な演習 (個人演習)	指定のプレゼン資料の作成・提出
第9回	プレゼンテーション作成演習1	プレゼン用スライドの鑑賞 計画・要素収集
第10回	プレゼンテーション作成演習2	プレゼンテーション作成
第11回	プレゼンテーション作成演習3	プレゼンテーション作成、提出
第12回	プレゼンテーション聴講と相互評価1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第13回	プレゼンテーション聴講と相互評価2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第14回	秋学期まとめ	レポート作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣（日本実業出版）

「伝え方が9割」佐々木圭一（ダイヤモンド社）

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業中での演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class.

Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論 I (2016～2017 年度入学者)

上野 京子

選択_情報関係 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。

本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる

・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える

・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する

・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

■春学期

(1) 表現能力を高めるため、Word での文書作成の機能を学ぶ

(2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するために Excel の機能を学ぶ

(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。

(4) A4 文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ

(5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第 2 回	Word 復習	Word 機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2 段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第 3 回	Excel 復習 1 回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第 4 回	Excel 復習 2 回目	簡単な統計 IF 関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第 5 回	Excel 復習 3 回目	目的に合わせたグラフ作成
第 6 回	Excel 復習 4 回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第 7 回	PowerPoint 復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第 8 回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 9 回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 10 回	自己 PR	Word の機能を駆使して、 自己 PR 文書の作成
第 11 回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうにするか 何を目的にするか プレゼンするかを企画する
第 12 回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作

第 13 回 プレゼン発表

各自、

制限時間内で発表

第 14 回 相互評価

相互評価の結果を受けて

レポート作成

最終レポートの作成

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office 系のアプリケーションソフト (Word、Excel、PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)

「伝え方が 9 割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション 15 のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、授業の中で行う演習 50% を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

・ You Can give a logical presentation that understands the situation.

・ You can Create accurate content and create clear materials.

・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria / Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）

上野 京子

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC等を活用したプレゼンテーション能力（表現能力）を高めるための科目である。

本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

・プレゼンテーションの状況を確認にとらえることができる

・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える

・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する

・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第2回	失敗しないプレゼンテーション 1 －導入－	聞き手をつかむ 結論から見せる 目標を示す 序論で動機づけ
第3回	失敗しないプレゼンテーション 2 －可視化－	百聞は一見に如かず 見える形に具現化する 喻えてみせる 表現の段階化
第4回	失敗しないプレゼンテーション 3 －内容に適した表現素材－	スライドデザイン
第5回	失敗しないプレゼンテーション 4 －構造や関係－	分類と包含 階層構造 流れの構造 連続的な関係 合流・複合の関係
第6回	失敗しないプレゼンテーション 5 －伝え方－	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第7回	比較的簡単な演習（グループ演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第8回	比較的簡単な演習（個人演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第9回	プレゼンテーション作成演習 1	プレゼン用スライドの鑑賞 計画・要素収集
第10回	プレゼンテーション作成演習 2	プレゼンテーション作成
第11回	プレゼンテーション作成演習 3	プレゼンテーション作成、提出
第12回	プレゼンテーション聴講と相互評価 1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第13回	プレゼンテーション聴講と相互評価 2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第14回	秋学期まとめ	レポート作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣（日本実業出版）

「伝え方が9割」佐々木圭一（ダイヤモンド社）

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class.

Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論 I (2016～2017 年度入学者)

上野 京子

選択_情報関係 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。

本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる

・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える

・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する

・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

■春学期

(1) 表現能力を高めるため、Word での文書作成の機能を学ぶ

(2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するために Excel の機能を学ぶ

(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。

(4) A4 文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ

(5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第 2 回	Word 復習	Word 機能の復習 (文字列段落の修飾、ワードアート、2 段組、ルビ、脚注、図形描画、その他)
第 3 回	Excel 復習 1 回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第 4 回	Excel 復習 2 回目	簡単な統計 IF 関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第 5 回	Excel 復習 3 回目	目的に合わせたグラフ作成
第 6 回	Excel 復習 4 回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第 7 回	PowerPoint 復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第 8 回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 9 回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 10 回	自己 PR	Word の機能を駆使して、 自己 PR 文書の作成
第 11 回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうにするか 何を目的にするか プレゼンするかを企画する
第 12 回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作

第 13 回 プレゼン発表

各自、

制限時間内で発表

第 14 回 相互評価

相互評価の結果を受けて

レポート作成

最終レポートの作成

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Office 系のアプリケーションソフト (Word、Excel、PowerPoint) の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣 (日本実業出版)

「伝え方が 9 割」 佐々木圭一 (ダイヤモンド社)

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション 15 のルール 藤沢浩司 (ブルーバックス)

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、授業の中で行う演習 50% を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

・ You Can give a logical presentation that understands the situation.

・ You can Create accurate content and create clear materials.

・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

・ It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

・ If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria / Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）

上野 京子

選択_情報関係 2～4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC等を活用したプレゼンテーション能力（表現能力）を高めるための科目である。

本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる

・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える

・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する

・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第2回	失敗しないプレゼンテーション1 ー導入ー	聞き手をつかむ 結論から見せる 目標を示す 序論で動機づけ
第3回	失敗しないプレゼンテーション2 ー可視化ー	百聞は一見に如かず 見える形に具現化する
第4回	失敗しないプレゼンテーション3 ー内容に適した表現素材ー	聴えてみせる 表現の段階化 スライドデザイン
第5回	失敗しないプレゼンテーション4 ー構造や関係ー	分類と包含 階層構造 流れの構造 連続的な関係 合流・複合の関係
第6回	失敗しないプレゼンテーション5 ー伝え方ー	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第7回	比較的簡単な演習 (グループ演習)	指定のプレゼン資料の作成・提出
第8回	比較的簡単な演習 (個人演習)	指定のプレゼン資料の作成・提出
第9回	プレゼンテーション作成演習1	プレゼン用スライドの鑑賞 計画・要素収集
第10回	プレゼンテーション作成演習2	プレゼンテーション作成
第11回	プレゼンテーション作成演習3	プレゼンテーション作成、提出
第12回	プレゼンテーション聴講と相互評価1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第13回	プレゼンテーション聴講と相互評価2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第14回	秋学期まとめ	レポート作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣（日本実業出版）

「伝え方が9割」佐々木圭一（ダイヤモンド社）

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

Learning Objectives

- ・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
- ・ You can give a logical presentation that understands the situation.
- ・ You create accurate content and create clear materials.
- ・ You can give a practical presentation.

Learning activities outside of classroom

It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).

If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.

Grading Criteria /Policy

Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class.

Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論 I (2016～2017 年度入学者)

沼尻 治樹

選択_情報関係 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、G 空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。

空間情報システムの発達とともに、商圏分析や立地分析、災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく、地図アプリケーションなども web を通して日常生活に普及してきた。一方、地理空間情報活用推進基本法の制定により、行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って、空間情報に関する知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また、東日本大震災後、行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集積し利用していることから、「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

【到達目標】

社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用、また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して、資料の配付、課題の提出、質疑の受け付けを行う。実習は、配付資料と解説が進める。また、適宜動画資料も利用する。

授業では、初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ、まず空間情報システムの構造や考え方、空間情報 (デジタルデータ) の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション、データを使用して授業を進める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	空間情報システムとは何か?	空間情報システムについて具体的な事例を交えながら紹介する
第 2 回	空間情報システムの歴史と応用事例	空間情報システムの歴史を簡単に述べ事例とともに解説する
第 3 回	空間情報 (デジタルデータ) について	空間情報システムで取り扱うデジタルデータについて解説する
第 4 回	空間情報のマッピング 1	国土数値情報を利用しながらアプリケーションの操作を学ぶ
第 5 回	空間情報のマッピング 2	基盤地図情報を利用しながらアプリケーションでのレイアウトを変更・編集する
第 6 回	空間情報と統計データ 1	統計データに合致したレイアウトの考え方を学ぶ
第 7 回	空間情報と統計データ 2	レイアウトの応用と主題図作成を学ぶ
第 8 回	空間情報の統計演算 1	統計データの新規追加を学ぶ
第 9 回	空間情報の統計演算 2	統計データの変換を学ぶ
第 10 回	空間情報の統計演算 3	統計データの演算を学ぶ
第 11 回	空間情報の保存・変換	空間情報の保存と投影 (座標系) 変換
第 12 回	ジオプロセッシングと空間解析	簡単な空間解析法 (バッファリング・空間結合・属性結合・距離と面積の測定) を学ぶ
第 13 回	空間情報の分析と考察 1	課題に対して空間情報を選択する
第 14 回	空間情報の分析と考察 2	空間情報の処理を行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また、使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから、受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

自作テキストを利用する。

【参考書】

「地理情報学入門」(野上道男ほか、東京大学出版会、2001 年)

「国土を測る技術の基礎 ―地理空間情報技術者を目指す人のために―」(高木方隆、(公社)日本測量協会、2014 年)

その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから、平常点を重視する。その他、学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。

成績評価の配分は、平常点を 60 %、レポート課題を 40 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに、空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し、授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では、学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布、課題提出、受講生向けの連絡、掲示板での質問対応である。また、PC を使って実習を行う。私物のポータブル PC を利用してもよい。Windows 環境での実習を想定しているが、Linux 環境等の PC での実習も認める。ただし、十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。

課題やデータの保存に USB メモリ等の外部記憶装置があるとよい。

【その他の重要事項】

本授業では、講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ、コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア、無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。

なお本授業は応用科目であるから、Windows の基本操作については解説しない。十分に Windows の操作を理解している必要がある。

【オフィス・アワー】

授業時に質問を受け付ける。また、学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目
情報学応用 II (空間情報)

【Outline (in English)】

[Course outline]

The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.

[Learning objectives]

Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%、in class contribution: 60%

COT200FA

データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）

沼尻 治樹

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、G空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。

空間情報システムの発達とともに、商圏分析や立地分析、災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく、地図アプリケーションなどもwebを通して日常生活に普及してきた。一方、地理空間情報活用推進基本法の制定により、行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って、空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また、東日本大震災後、行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集積し利用していることから、「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

【到達目標】

社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用、また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して、資料の配付、課題の提出、質疑の受け付けを行う。実習は、操作資料と解説が進める。また、適宜動画資料も利用する。

授業では、初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ、まず空間情報システムの構造や考え方、空間情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション、データを使用して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アドレスマッチングの利用	ジオコーディングを学びポイントデータを自作する
第2回	GNSS (GPS) を用いた位置情報の取得と表示	GNSS で取得した座標からポイントデータを自作する
第3回	ラスターデータの利用とベクトルデータの作成 1	オルソ化空中写真の表示を学びラインデータを自作する
第4回	ラスターデータの利用とベクトルデータの作成 2	ポリゴンデータを自作しさらにラインデータおよびポリゴンデータの形状を編集する
第5回	ラスターデータの利用とベクトルデータの作成 3	地理院地図を使いながらベクトルデータを作成しラスターデータへ変換する
第6回	ジオリファレンス（幾何補正）の実施	位置情報を持たない画像データに位置情報を与え空間情報を取得する
第7回	数値標高モデル (DEM) による空間分析 1	DEM について解説し簡単な地形解析を行う
第8回	数値標高モデル (DEM) による空間分析 2	地形解析を行い空間情報を取得する
第9回	空間解析の実践 1	空間補間（空間内挿）を行い空間情報の推定を行う
第10回	空間解析の実践 2	リモートセンシングデータを利用する
第11回	空間情報プログラミング超入門	Python3 (PyQGIS) を使った空間情報処理の基礎
第12回	空間情報の作成・分析と考察 1	課題とデータ処理の方法を設定する
第13回	空間情報の作成・分析と考察 2	課題に対してデータ処理を実践する
第14回	空間情報の作成・分析と考察 3	データ処理の結果を分析する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また、使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから、受講生は自宅での復習・学習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

自作テキストを利用する。

【参考書】

「地理情報学入門」（野上道男ほか、東京大学出版会、2001年）

「国土を測る技術の基礎 — 地理空間情報技術者を指す人のために —」（高木方隆、(公社)日本測量協会、2014年）

その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから、平常点を重視する。その他、学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。

成績評価の配分は、平常点を 60%、レポート課題を 40% とする。

【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに、空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し、授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では、学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布、課題提出、受講生向けの連絡、掲示板での質問対応である。また、PC を使って実習を行う。私物のポータブル PC を利用してもよい。Windows 環境での実習を想定しているが、Linux 環境等の PC での実習も認める。ただし、十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。

課題やデータの保存に USB メモリ等の外部記憶装置があるとよい。

【その他の重要事項】

本授業では、講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ、コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア、無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。なお本授業は応用科目であるから、Windows の基本操作については解説しない。十分に Windows の操作を理解している必要がある。

【オフィス・アワー】

授業時に質問を受け付ける。また、学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目
情報学応用Ⅰ（空間情報）

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.

【Learning objectives】

Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end report: 40%、in class contribution: 60%

COT200FA

情報学発展 I (情報通信ネットワーク) (2019 年度以降入学者)

入戸野 健

情報関係科目 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この科目では JavaScript によるプログラミングについて実習を通じて基礎から学習します。合わせて連携する Web ページの作成に必要な HTML と CSS について学びます。

【到達目標】

受講生が JavaScript によるプログラミングの考え方を基礎から理解し、HTML、CSS、JavaScript を利用した Web ページを作成できるようになることを目標とします。同時に、情報通信を行うためのインターネットの仕組みを理解することで、自ら作成した Web ページで情報発信できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に毎回、各自でソースコードの入力や実行結果の確認等を行う実習形式で進めます。インターネットや通信ネットワークに関する知識については、部分的にスライド等を使って解説して行くこともあります。

授業は原則として対面で行いますが、状況の変化に対応してオンライン形式へ移行することがあります。

課題等についての講評は適宜、授業内あるいは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	JavaScript の特徴を概観し、エディタなどのプログラミング環境の準備を行います。
第 2 回	Web サイトの仕組み	Web ページ表示の仕組みを理解し、HTML や CSS の役割について学習します。
第 3 回	Web ページ作成の基礎	基本的な構成の Web ページを HTML を使って作る方法を学びます。
第 4 回	ページの装飾	Web ページを CSS で装飾する方法の基礎を学びます。
第 5 回	JavaScript の入力と実行の基本	基礎的な JavaScript のソースコードを入力してコンソールに実行結果を表示するまでの基本操作を学びます。
第 6 回	ボタンとダイアログボックスの利用	プログラムを起動するボタンと実行結果を表示するダイアログボックスを利用する方法を学習します。
第 7 回	ページ内容の書換え	JavaScript のプログラムから Web ページの内容を取得したり、ページ内容を書き換えたりする方法を学びます。
第 8 回	データと変数	数値データの計算、変数へのデータの代入について学習します。
第 9 回	条件分岐	if 文で条件によって実行する処理を変える方法を習得します。
第 10 回	繰り返し	while や for を使って指定した処理を繰り返し実行する方法を学びます。
第 11 回	関数の使い方	既存の関数を利用したり、自分で関数を作って実行する方法を学習します。
第 12 回	配列の利用	多数のデータをまとめて扱うための配列の使い方について学びます。
第 13 回	JavaScript と Web ページ制作の基礎 (1)	JavaScript を利用したオリジナルな Web ページを各自で立案し構成を検討します。
第 14 回	JavaScript と Web ページ制作の基礎 (2)	設計した Web ページを入力して作成し動作確認を行って完成させます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の実習で目標とするところまで作成できなかった場合は、各自で次の回までに進めておくことが推奨されます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に提示します。必要に応じて補助教材を適宜提示します。

【参考書】

「JavaScript 第 7 版」David Flanagan 著、2021、オライリージャパン
さらに講義の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (25%) : 実習を伴うので、毎回授業に参加してスキルをきちんと蓄積して行くことが重要になります。

課題レポート (15%) : 状況に応じ、授業内容に沿った課題を出題することがあります。

課題演習 (60%) : 後半に授業内で実施する演習で作成した成果物を提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

例題・練習問題等の実習時間を長く取れるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の実習は情報実習室の PC で行います。

作成したファイルやデータを保存するための USB メモリーを必要に応じて各自持参してください (詳細は授業内で説明します)。

【関連科目】

プログラミング言語 (スクリプト言語) I / II

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is designed to provide skills to construct web pages using JavaScript, HTML and CSS and also provide a fundamental understanding of information and communication network.

(Learning Objectives) The goal is to be able to create a website by editing JavaScript, HTML and CSS.

(Learning activities outside of classroom) If you are not able to reach the assigned goal in class, it is recommended that you complete it on your own before the next week's class.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on in-class contribution (25%), mid-term reports (15%), and term-end outcomes of the exercise (60%).

COT200FA

情報学発展Ⅱ（情報通信ネットワーク）（2019年度以降入学者）

入戸野 健

情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では JavaScript によるプログラミングについて実習を通じて基礎から学習します。合わせて連携する Web ページの作成に必要な HTML と CSS について学びます。

【到達目標】

受講生が JavaScript によるプログラミングの考え方を基礎から理解し、HTML、CSS、JavaScript を利用した Web ページを作成できるようになることを目標とします。同時に、情報通信を行うためのインターネットの仕組みを理解することで、自ら作成した Web ページで情報発信できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に毎回、各自でソースコードの入力や実行結果の確認等を行う実習形式で進めます。インターネットや通信ネットワークに関する知識については、部分的にスライド等を使って解説して行くこともあります。

授業は原則として対面で行いますが、状況の変化に対応してオンライン形式へ移行することがあります。

課題等についての講評は適宜、授業内あるいは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Web サイト構成の基礎	実用的な Web サイトのページ構成やページのレイアウトの作り方について学習します。
第2回	データ入力用のページ作成	HTML でページ内にデータ入力用のフォームを作る方法を学びます。
第3回	データの取り込み	ページ内のフォームに入力されたデータを JavaScript で利用する方法を学習します。
第4回	数値計算	数学的な関数を利用して様々な計算を行う方法を学びます。
第5回	文字列の処理	文字列の連結、部分切り出し、置換え等の処理について学習します。
第6回	日付の計算	日数や時刻の表示や、それらのデータをもとにした時間や日数の計算について学びます。
第7回	画像処理	画像を読み込んで表示したり、複数の画像を切替えて表示するといった方法を学びます。
第8回	アニメーション	Web ページのメニューなどを動的にアニメーションで表示するやり方について学習します。
第9回	jQuery の利用	jQuery を利用してよりシンプルに JavaScript のコードを記述する方法を学びます。
第10回	データファイルの読み書き	JSON 形式等のファイルからデータを読み込んだりデータを書き出す方法について学習します。
第11回	API の利用	API を使って他のページからデータを取得して利用する方法を習得します。
第12回	JavaScript の応用と Web ページ制作 (1)	いくつかのテーマの中から、各自で JavaScript を活用した Web ページを立案しサイトの構成を検討します。
第13回	JavaScript の応用と Web ページ制作 (2)	ソースコードを入力して作成し、ページのレイアウトや装飾などを行ってブラッシュアップします。
第14回	JavaScript の応用と Web ページ制作 (3)	作成した Web サイトの動作確認を行い、さらなる改善点があるか等について検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の実習で目標とするところまで作成できなかった場合は、各自で次の回までに進めておくことが推奨されます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。必要に応じて補助教材を適宜提示します。

【参考書】

「JavaScript 第 7 版」David Flanagan 著、2021、オライリー・ジャパン
さらに講義の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (25%) : 実習を伴うので、毎回授業に参加してスキルをきちんと蓄積して行くことが重要になります。

課題レポート (15%) : 状況に応じ、授業内容に沿った課題を出題することがあります。

課題演習 (60%) : 後半に授業内で実施する演習で作成した成果物を提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

例題・練習問題等の実習時間を長く取れるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の実習は情報実習室の PC で行います。

作成したファイルやデータを保存するための USB メモリーを必要に応じて各自持参してください（詳細は授業内で説明します）。

【関連科目】

プログラミング言語（スクリプト言語）I / II

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is designed to provide skills to construct web pages using JavaScript, HTML and CSS and also provide a fundamental understanding of information and communication network.

(Learning Objectives) The goal is to be able to create a website by editing JavaScript, HTML and CSS.

(Learning activities outside of classroom) If you are not able to reach the assigned goal in class, it is recommended that you complete it on your own before the next week's class.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on in-class contribution (25%), mid-term reports (15%), and term-end outcomes of the exercise (60%).

COT200FA

情報学発展 I (情報通信ネットワーク) (2019 年度以降入学者)

飯塚 康至

情報関係科目 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みと HTML や PHP を利用した Web アプリケーションの作成手法についても学びます。また情報セキュリティについても理解し適切な対応がとれるスキルを身につけることを目標とします。

インターネットのサービスである Monaca を利用してスマートフォン (iPhone/Android) 向けのアプリケーション開発手法も学びます。

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新 ICT 技術について理解する。
5. 基本的な Web 技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。

授業はハイフレックス方式を予定しています。

インターネットを中心としたコンピュータネットワークはすでにインフラとなりわれわれの生活に深く浸透しています。

講義前半では主にコンピュータネットワークの基本的な知識と技術と情報セキュリティについて学びます。授業は演習形式で実際に作成や確認を行いながら進めていきます。

授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	通信技術の発展と現在	情報通信技術の変遷と現在の姿について理解します。
第 2 回	コンピュータの構成	ネットワークの理解に入る前にネットワークに利用するコンピュータの構成について理解します。
第 3 回	IP ネットワークの理解	インターネットを支えるインターネットプロトコルについて理解します。
第 4 回	LAN の仕組みと構成	LAN の仕組みと構成を理解します。
第 5 回	ドメインの理解	名前解決であるドメインの仕組みについて理解します。
第 6 回	TCP とパケットの理解	インターネット上のサービスを実現するための TCP とパケットについて理解します。
第 7 回	インターネットサービスとアプリケーション	主要なインターネットのサービスとアプリケーションについて理解します。
第 8 回	情報セキュリティ 1	インターネットを利用した情報セキュリティについて学びます。
第 9 回	情報セキュリティ 2	インターネットを利用した情報セキュリティについて学びます。
第 10 回	HTML の基礎知識	Web ページを作成するための HTML の歴史や現在の基礎知識について理解します。
第 11 回	HTML の基本文法	HTML の基本的な文法について理解します。
第 12 回	ホームページ作成の基礎 ①	見出を作成したり文字装飾を行う方法を理解します。
第 13 回	ホームページ作成の基礎 ②	リスト、テーブル、リンク等を作成する方法を理解します。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

現在の個人活動や企業活動ではコンピュータネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

PowerPoint 等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】

授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思えます。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピュータおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業です。遅刻をしないようにしてください。授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】

情報科学実習 I / II (f コース)

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The theme of this lesson is to understand the computer network system and web applications and information security.

You will also learn how to develop applications for smartphone (iPhone / Android) using Monaca.

【Goal】

The objectives of this class are as follows

1. To understand how the Internet works.
2. To understand the major technologies that support the Internet.
3. To understand information security.
4. To understand the current state-of-the-art ICT technologies.
5. To understand basic web technologies.
6. To understand client-side dynamic technologies.
7. To understand server-side dynamic technologies

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

The use of computer networks is indispensable in today's personal and corporate activities. Students are encouraged to prepare for the class by imagining themselves as the person in charge after they actually find a job. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grading will be based on the assignments and reflection sheets for each class, with a maximum score of 100 points, 50 points for each reflection sheet and 50 points for each in-class assignment.

COT200FA

情報学発展Ⅱ（情報通信ネットワーク）（2019年度以降入学者）

飯塚 康至

情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みと HTML や PHP を利用した Web アプリケーションの作成手法についても学びます。また情報セキュリティについても理解し適切な対応がとれるスキルを身につけることを目標とします。

インターネットのサービスである Monaca を利用してスマートフォン (iPhone/Android) 向けのアプリケーション開発手法も学びます。

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新 ICT 技術について理解する。
5. 基本的な Web 技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。インターネットを中心としたコンピュータネットワークはすでにインフラとなりわれわれの生活に深く浸透しています。前期に学んだネットワークや HTML の技術を生かし、サーバーサイド技術を中心に Web サイトの構築方法やスマートフォンアプリ作成について学習します。授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フォームと画像の貼付け	フォームや画像を扱う方法について理解します。
第2回	CSS とデザイン	CSS を利用したデザインについて学びます。
第3回	サーバーサイド技術の概念	サーバーサイド技術である PHP を利用しサーバーサイド技術の概念を学びます。
第4回	PHP の基本文法（変数、関数）	PHP の基本的な文法について学びます。
第5回	PHP の基本文法（条件分岐、繰り返し）	PHP の基本的な文法について学びます。
第6回	練習用フォームの作成	練習用フォームを作成し POST や GET データを送信します。
第7回	メールフォームの作成	メールフォームを作成し Session でデータを保持します。
第8回	メールフォームからのメールの送信	メールフォームからメールを送信する方法について学びます。
第9回	画像アップローダーの作成1	画像をサーバーにアップロードするフォームを作成します。
第10回	画像アップローダーの作成2	画像をサーバーにアップロードするロジックを作成します。
第11回	画像アップローダーの作成3	アップロードした画像を表示する方法について学びます。
第12回	スマートフォンアプリの作成1	Monaca を利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。
第13回	スマートフォンアプリの作成2	Monaca を利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。
第14回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在の個人活動や企業活動ではコンピュータネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint 等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】

授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思います。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は Google クラウドを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】

情報科学実習Ⅰ／Ⅱ（f コース）

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this course, students will learn about the structure of computer networks, especially the Internet, and how to create web applications using HTML and PHP. This course also aims to help students understand information security and acquire the skills to take appropriate measures.

Students will also learn how to develop applications for smart phones (iPhone/Android) using Monaca, an Internet service.

[Learning Objectives]

The objectives of this class are as follows

- Understand the structure of the Internet.
- Understand the major technologies that support the Internet.
- To understand information security.
- To understand the latest ICT technologies.
- To understand the basic web technologies.
- To understand the dynamic technologies on the client side.
- To understand the dynamic technologies on the server side.

[Learning activities outside of classroom]

The class will be conducted in the form of exercises with actual creation and confirmation.

In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

COT200FA

情報学発展 I (ホームページ) (2019 年度以降入学者)

上野 京子

情報関係科目 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。

- (1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。
- (2) Web を支える技術を理解する。
- (3) ホームページの作成を行う。
- (4) Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第 2 回	ホームページと HTML の仕組み	Web ページが見える仕組み、HTML の基本構造、公開時に必要な事柄など基本的な知識を習得する
第 3 回	基本のテキストの入力と様々な文字表現	日記や読書メモを作成する強調、略語・定義語、ルビ・下付き・上付き文字などの知識を学習する
第 4 回	画像の表示	画像ファイルを利用するための知識を学習する
第 5 回	リンクの指定	基本的なリンクの指定方法を学習する
第 6 回	相対パスと絶対パス	相対パス、絶対パスを理解してリンクを張る技術を習得する
第 7 回	CSS の役割	CSS の必要性を学び、基本的な記述方法を習得する
第 8 回	背景・文字の装飾	背景色・文字色の変更、位置の変更、文字のサイズ変更、囲み線、余白の調整などの知識を習得する
第 9 回	リストを作る	箇条書きリスト、順番のついたリスト、定義リストを作成する
第 10 回	ファイルの埋め込み	HTML ファイルや PDF ファイルの埋め込み、動画や音声の取り扱いの知識を習得する
第 11 回	テーブルの作成 (1)	テーブルの基本構造を理解する
第 12 回	テーブルの作成 (2)	表のヘッダーとフッター、見出しセルの方向と列のグループ化などの知識を習得する
第 13 回	テーブルの作成 (3)	表に罫線や色をつけ、見やすく整える
第 14 回	春学期のまとめと、課題 A	HTML と CSS を使って、課題 A で示されたホームページを作成する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独自などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 % として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報学入門 I / II」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

Grading Criteria / Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019年度以降入学者）

上野 京子

情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。

(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。

(2) Web を支える技術を理解する。

(3) ホームページの作成を行う。

(4) Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第 2 回	フォームの作成と 便利なフォーム機能	form の基本構造を理解する ふりがな、パスワード、検索ワード、 日付入力欄を作成する
第 3 回	課題 B	HTML と CSS、フォームを使って、 課題 B で示されたホームページを作成する
第 4 回	カテゴリとコンテンツ モデル	カテゴリとコンテンツモデルを理解 する
第 5 回	アウトラインとセクション	文章を内容で分割する
第 6 回	ナビゲーション	ナビゲーションを追加する
第 7 回	課題 C	HTML と CSS、フォーム、セクション、 ナビゲーションを使って、課題 C で示されたホームページを作成する
第 8 回	ページの設計	要素を上下や左右に並べたり、位置を 調整する方法を習得する
第 9 回	ページを飾る	CSS を利用して、動きのある表現の 方法を習得する
第 10 回	課題 D(1)	課題 D では、与えられた要件を満た す Web サイトを設計・作成する
第 11 回	課題 D(2)	課題 D の Web サイトを完成する
第 12 回	スマートフォンや SNS の対応	スマートフォン向けの CSS を設定す る方法を習得する
第 13 回	課題 E(1)	各自、自由なテーマで Web サイトを 作成する
第 14 回	課題 E(2)	課題 E の Web サイトを授業内で発表 する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 % として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

Grading Criteria /Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

情報学発展 I (ホームページ) (2019 年度以降入学者)

高田 美樹

情報関係科目 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピューターネットワークの仕組みを理解し、情報発信手段としての Web サイト制作の技術と知識を習得することを目的とする。

【到達目標】

到達目標は、以下のとおりです。

- 1) インターネットの仕組みを理解する。
- 2) オリジナル Web ページを企画し、制作する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド動画配信により予習してから講義に参加する。講義は対面で行う。予習用にインターネットに接続できる Windows または Mac パソコンがあることが望ましい。家族などとの共用も可能。古くてもよい。クライアント側で動作するホームページの制作を行う。各自で素材を収集し、オリジナルサイトを制作する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ホームページの全体像	ホームページが社会にもたらしている影響から全体像を学習する。
第 2 回	HTML の記述と仕組み	ホームページを制作するための HTML とは何か、どのように記述するのかを学ぶ。
第 3 回	HTML と CSS による静的なページ	ホームページがどのように表示されるのかについて、実際にページを制作して学習する。
第 4 回	HTML・CSS 各論 (1)	HTML と CSS を使ったページの記述を具体的に学習する。
第 5 回	HTML・CSS 各論 (2)	HTML と CSS を使ったページの記述を具体的に学習する。
第 6 回	class と ID	ページの中の一部だけに設定を行う方法を学ぶ。
第 7 回	画面レイアウトの設計	HTML と CSS を組み合わせたページを企画、制作する。
第 8 回	フォームの作成	入力することのできるページを制作する。
第 9 回	画像の加工	ホームページで利用できるように画像を加工する。
第 10 回	JavaScript による動的なページの作成 (1)	マウス操作などで変化するページを制作する。
第 11 回	JavaScript による動的なページの作成 (2)	入力データをチェックしてエラーを表示するページを制作する。
第 12 回	jQuery の利用	jQuery を利用した変化のあるページを制作する。
第 13 回	サイト制作 1 (1)	オリジナルページを制作する。
第 14 回	サイト制作 1 (2)	オリジナルページを制作する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

オンデマンド動画で予習学習を行い、講義ではオリジナルサイトの制作を行う。次週までに指定箇所のサイトを完成させる。本授業の予習・復習は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

授業支援システムに講義資料を掲載する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の成果を積み上げて制作したオリジナルサイトにより評価する 100%

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ずオンデマンド講義を行ったところ、動画による配信での学習は自分のペースで動画を止めたり、見直したりできるメリットがあることがわかったので、予習に取り入れ、対面講義と組み合わせる。

【学生が準備すべき機器他】

予習用にインターネットに接続された Windows または Mac パソコンがあるとよい。

【その他の重要事項】

法政大学のメールアドレスにメールを送ることがあるので、メールのチェックをしてください。

【関連科目】

情報学入門

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。メールでも受け付ける。
miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The objective of this course is to understand the structure of computer networks centered on the Internet and to acquire the skills and knowledge to create websites as a means of disseminating information. The goals are as follows

- 1) understand the structure of computer networks.
- 2) Plan and create an original web page.

Before the lecture, please watch the video to prepare for the lecture. After the lecture, Weekly site buildup.

It takes about 2 hours.

Grading criteria :

Evaluation will be based on the original site created, including the progress of the project.

COT200FA

情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019年度以降入学者）

高田 美樹

情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピューターネットワークの仕組みを理解し、情報発信手段としての Web サイト制作の技術と知識を習得する。データベース技術と組み合わせた Web サイトの全容を理解し、実際にサイトを制作する。

【到達目標】

到達目標は、以下のとおりです。

- 1) データベースを利用する知識として SQL を記述できる。
- 2) Web データベースシステムの仕組みを理解し、サーバサイドプログラムを利用した web サイトを企画、制作する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド動画により予習してからオンラインまたは対面講義に参加する。講義ではオリジナルホームページを制作する。予習ようにインターネットに接続された Windows または Mac パソコンがあるとよい。古くても家族などと共用でも可。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	web データベースシステムの全体像	ホームページの裏側の仕組みの全体像を把握する。
第 2 回	エコーバック	フォームから入力された情報の取得方法を学ぶ。
第 3 回	変数	情報を保存しておき、必要な場面で利用することを学ぶ。
第 4 回	配列	多くの情報を一括管理する方法を学ぶ。
第 5 回	繰返し	一括管理された多くの情報を一括して処理する方法を学ぶ。
第 6 回	選択	状況に応じて処理を選択することも学ぶ。
第 7 回	データベースとは	データベースとは何か、どのような利点があるのかを学ぶ。
第 8 回	SQL 文（1）	データベースを用いてデータを管理するための規格化された言語を学ぶ。
第 9 回	SQL 文（2）	データベースのテーブルを設計し、複数のテーブルの連携の仕方を学ぶ。
第 10 回	SQL とホームページとの連携（1）	データベースに蓄積されたデータをホームページに掲載する方法を学ぶ。
第 11 回	SQL とホームページとの連携（2）	履歴ほか、ホームページから収集するデータをデータベースに蓄積する方法を学ぶ。
第 12 回	ユーザ登録	ユーザ登録機能を実装する。
第 13 回	セッション	連続したページ遷移を実現する方法を学ぶ。
第 14 回	発表会	ほかの学生の作品から学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オンデマンド動画配信で予習をしてから、オンラインまたは対面の講義に参加する。講義ではオリジナルサイトを制作する。次回までに指定箇所のサイトを仕上げる。

Before the lecture, please watch the video to prepare for the lecture.

After the lecture, Weekly site buildup.

It takes about 2 hours.

【テキスト（教科書）】

授業支援システムに講義資料を提供する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の成果を積み上げて制作したオリジナルサイトにより評価する 100%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、やむを得ず対面授業ができなかったが、その分動画が威力を發揮した。講義は消えてしまうが、動画は自分のペースで、何度でも戻って見直すことができるという利点があることがわかった。これを予習に活用し、対面講義と組み合わせる。

【学生が準備すべき機器他】

予習用にインターネットに接続された Windows または Mac パソコンがあるとよい。古くても、家族と共用でも可。

【その他の重要事項】

法政大学のメールアドレスにメールを送ることがあるので、メールのチェックを怠らないこと。

【関連科目】

情報学入門

情報学発展（ホームページコース）1

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。メールでも受け付けます。

miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The objective of this course is to understand the structure of computer networks centered on the Internet and to acquire the skills and knowledge to create websites.

The objectives are as follows

- (1) To be able to write SQL as knowledge to use database.
- (2) Understand how web database systems work, and plan and create websites using server-side programs.

Before the lecture, please watch the video to prepare for the lecture.

After the lecture, Weekly site buildup.

It takes about 2 hours.

Grading criteria :

Evaluation will be based on the original site created, including the progress of the project.

COT200FA

情報学発展 I (ホームページ) (2019 年度以降入学者)

上野 京子

情報関係科目 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。

- (1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。
- (2) Web を支える技術を理解する。
- (3) ホームページの作成を行う。
- (4) Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第 2 回	ホームページと HTML の仕組み	Web ページが見える仕組み、HTML の基本構造、公開時に必要な事柄など
第 3 回	基本のテキストの入力と様々な文字表現	基本的な知識を習得する 日記や読書メモを作成する強調、略語・定義語、ルビ・下付き・上付き文字などの知識を学習する
第 4 回	画像の表示	画像ファイルを利用するための知識を学習する
第 5 回	リンクの指定	基本的なリンクの指定方法を学習する
第 6 回	相対パスと絶対パス	相対パス、絶対パスを理解してリンクを張る技術を習得する
第 7 回	CSS の役割	CSS の必要性を学び、基本的な記述方法を習得する
第 8 回	背景・文字の装飾	背景色・文字色の変更、位置の変更、文字のサイズ変更、囲み線、余白の調整などの知識を習得する
第 9 回	リストを作る	箇条書きリスト、順番のついたリスト、定義リストを作成する
第 10 回	ファイルの埋め込み	HTML ファイルや PDF ファイルの埋め込み、動画や音声の取り扱いの知識を習得する
第 11 回	テーブルの作成 (1)	テーブルの基本構造を理解する
第 12 回	テーブルの作成 (2)	表のヘッダーとフッター、見出しセルの方向と列のグループ化などの知識を習得する
第 13 回	テーブルの作成 (3)	表に罫線や色をつけ、見やすく整える
第 14 回	春学期のまとめと、課題 A	HTML と CSS を使って、課題 A で示されたホームページを作成する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独自などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報学入門 I / II」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

Grading Criteria / Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019年度以降入学者）

上野 京子

情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。

(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。

(2) Web を支える技術を理解する。

(3) ホームページの作成を行う。

(4) Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第 2 回	フォームの作成と 便利なフォーム機能	form の基本構造を理解する ふりがな、パスワード、検索ワード、 日付入力欄を作成する
第 3 回	課題 B	HTML と CSS、フォームを使って、 課題 B で示されたホームページを作成する
第 4 回	カテゴリとコンテンツ モデル	カテゴリとコンテンツモデルを理解 する
第 5 回	アウトラインとセクション	文章を内容で分割する
第 6 回	ナビゲーション	ナビゲーションを追加する
第 7 回	課題 C	HTML と CSS、フォーム、セクション、 ナビゲーションを使って、課題 C で示されたホームページを作成する
第 8 回	ページの設計	要素を上下や左右に並べたり、位置を 調整する方法を習得する
第 9 回	ページを飾る	CSS を利用して、動きのある表現の 方法を習得する
第 10 回	課題 D(1)	課題 D では、与えられた要件を満た す Web サイトを設計・作成する
第 11 回	課題 D(2)	課題 D の Web サイトを完成する
第 12 回	スマートフォンや SNS の対応	スマートフォン向けの CSS を設定す る方法を習得する
第 13 回	課題 E(1)	各自、自由なテーマで Web サイトを 作成する
第 14 回	課題 E(2)	課題 E の Web サイトを授業内で発表 する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまにせよ、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 % として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

Grading Criteria /Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

情報学発展 I (システム科学) (2019 年度以降入学者)

高田 美樹

情報関係科目 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

プログラミング言語 Python を利用してデータ分析の基礎を学ぶ。データの収集・可視化・分析・レポートに至る一連の流れを実習する。

【到達目標】

- 1) プログラミングの考え方を理解し、利用できるようになる。
- 2) Python を用いてデータ処理の基本を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

対面講義で解説しながら実習を行う。その後、演習により知識の定着とより深い理解を促す。次週の講義までに、演習を通して復習してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	プログラミングで何ができるのか。とりあえずやってみる。
第 2 回	Python の基礎 (1)	簡単な計算と変数
第 3 回	Python の基礎 (2)	リスト
第 4 回	Python の基礎 (3)	リストと演算
第 5 回	Python の基礎 (4)	リストと繰り返し
第 6 回	Python の基礎 (5)	リストのメソッド
第 7 回	Python の基礎 (6)	リストのスライス
第 8 回	Python の基礎 (7)	条件による選択処理
第 9 回	Python の基礎 (8)	条件による多肢選択
第 10 回	Python の基礎 (9)	辞書
第 11 回	可視化	matplotlib を利用して、各種グラフを作成する。
第 12 回	アルゴリズム (1)	最大値
第 13 回	アルゴリズム (2)	探索
第 14 回	データ処理	本物のデータ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義で行った演習を復習し、次回までに演習を提出する。予習・復習各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Google Classroom 上に講義資料を提示する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義で実習した内容と確認テストで評価する。積み上げ科目であり、毎回の学習が重要である。

毎回の課題 7 点 × 12 回 = 84 点

最終回 16 点

【学生の意見等からの気づき】

演習の難易度が少し高めだった。段階的に難易度を上げていくように心がける。

【学生が準備すべき機器他】

復習用に、インターネットに接続されている Windows または Mac パソコンがあるとよい。

ブラウザは Google Chrome を推奨する。

【その他の重要事項】

法政大学のメールアドレスにメールを送ることがあるので、メールの確認を怠らないこと。

【関連科目】

情報学入門

【オフィス・アワー】

授業時間内に質問を受け付ける。

メールでも対応する。

miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Learn Data Science with Python programming. Practice From Collecting Data, visualization, analysis, to report.

The goals are as follows

- 1) Understand and be able to use programming concepts.
- 2) Learn the basics of data processing using Python.

Before the lecture, please watch the video to prepare for the lecture.

After the lecture, Weekly site buildup.

It takes about 2 hours.

Grading criteria :

The evaluation will be based on the content of each lecture, practical training, and confirmation test.

It is important to study each time.

COT200FA

情報学発展Ⅱ（システム科学）（2019年度以降入学者）

高田 美樹

情報関係科目 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング言語 Python とそのライブラリを利用して大量のデータを分析する手法を学ぶ。機械学習を利用したデータ分析を経験する。

【到達目標】

1) Python とそのライブラリを用いて、大量のデータを扱う手法を理解し、実行できる。
2) 実データを機械学習し、分類・予測を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

対面の講義で解説しながら実習を行い、その後、演習で知識の定着とより深い理解を促す。演習は次の講義までに提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	春学期の復習
第2回	Numpy の基礎（1）	Numpy を使ってデータを扱う方法を学ぶ。
第3回	Numpy の基礎（2）	Numpy を使ってデータを扱う方法を学ぶ。
第4回	Pandas の基礎（1）	Pandas を利用して大量のデータを扱う方法を学ぶ。
第5回	Pandas の基礎（2）	Pandas を利用して大量のデータを扱う方法を学ぶ。
第6回	可視化	matplotlib を用いて可視化する方法を学ぶ。
第7回	大量のデータの集計	Pandas を利用して大量のデータを処理し、matplotlib で可視化する。
第8回	機械学習とは	機械学習の概要を知り、機械学習を行う環境を整える。
第9回	分類	線形分類器を利用して分類を行う。
第10回	分類器のチューニング	パラメータを変更して最適化する方法を学ぶ。
第11回	画像の分類	手書き数字の分類に挑戦する。
第12回	機械学習による予測（1）	大量のデータから機械学習で予測を行い、実際のとの差異を検討する。
第13回	機械学習による予測（2）	正規化してから機械学習を行う方法を学ぶ。
第14回	1年のまとめ	分析結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の講義までに、演習を提出すること。

2時間の予習復習を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google Classroom 上に講義資料を提示する。

【参考書】

適宜、講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義ので実習した内容と確認テストで評価する。

積み上げ科目であり、毎回の学習が重要である。

毎回の課題 7点 × 12回 = 84点

最終回 16点

【学生の意見等からの気づき】

機械学習はブラックボックス的なところが少なからずあり、なぜそうなるのか、かみくだいた理論を提示するように心がけたい

【学生が準備すべき機器他】

復習用にインターネットに接続された Windows または Mac のパソコンがあることが望ましい。古くても家族と共用でも可。

【その他の重要事項】

法政大学のメールアドレスにメールを送ることがあるので、メールの確認を怠らないこと。

【関連科目】

情報学入門

情報学発展（システム科学）1

【オフィス・アワー】

授業時間内に質問を受け付ける。メールでも対応する。

miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Learn Data Science with Python programming. Practice From big data and machine learning.

The goals are as follows

1) Understand and execute methods for handling large amounts of data using Python and its libraries.

2) Be able to use machine learning, classification, and prediction on real data.

Before the lecture, please watch the video to prepare for the lecture.

In the lectures, students will do exercises.

After the lecture, complete the week's programming assignments.

It takes about 2 hours.

Grading criteria :

The evaluation will be based on the content of each lecture, practical training, and confirmation test.

It is important to study each time.

COT200FA

ネットワーク論 I (通信ネットワーク) (2018 年度入学者)

入野 健

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この科目では JavaScript によるプログラミングについて実習を通じて基礎から学習します。合わせて連携する Web ページの作成に必要な HTML と CSS について学びます。

【到達目標】

受講生が JavaScript によるプログラミングの考え方を基礎から理解し、HTML、CSS、JavaScript を利用した Web ページを作成できるようになることを目標とします。同時に、情報通信を行うためのインターネットの仕組みを理解することで、自ら作成した Web ページで情報発信できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に毎回、各自でソースコードの入力や実行結果の確認等を行う実習形式で進めます。インターネットや通信ネットワークに関する知識については、部分的にスライド等を使って解説して行くこともあります。

授業は原則として対面で行いますが、状況の変化に対応してオンライン形式へ移行することがあります。

課題等についての講評は適宜、授業内あるいは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	JavaScript の特徴を概観し、エディタなどのプログラミング環境の準備を行います。
第 2 回	Web サイトの仕組み	Web ページ表示の仕組みを理解し、HTML や CSS の役割について学習します。
第 3 回	Web ページ作成の基礎	基本的な構成の Web ページを HTML を使って作る方法を学びます。
第 4 回	ページの装飾	Web ページを CSS で装飾する方法の基礎を学びます。
第 5 回	JavaScript の入力と実行の基本	基礎的な JavaScript のソースコードを入力してコンソールに実行結果を表示するまでの基本操作を学びます。
第 6 回	ボタンとダイアログボックスの利用	プログラムを起動するボタンと実行結果を表示するダイアログボックスを利用する方法を学習します。
第 7 回	ページ内容の書換え	JavaScript のプログラムから Web ページの内容を取得したり、ページ内容を書き換えたりする方法を学びます。
第 8 回	データと変数	数値データの計算、変数へのデータの代入について学習します。
第 9 回	条件分岐	if 文で条件によって実行する処理を変える方法を習得します。
第 10 回	繰り返し	while や for を使って指定した処理を繰り返し実行する方法を学びます。
第 11 回	関数の使い方	既存の関数を利用したり、自分で関数を作って実行する方法を学習します。
第 12 回	配列の利用	多数のデータをまとめて扱うための配列の使い方について学びます。
第 13 回	JavaScript と Web ページ制作の基礎 (1)	JavaScript を利用したオリジナルな Web ページを各自で立案し構成を検討します。
第 14 回	JavaScript と Web ページ制作の基礎 (2)	設計した Web ページを入力して作成し動作確認を行って完成させます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の実習で目標とするところまで作成できなかった場合は、各自で次の回までに進めておくことが推奨されます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に提示します。必要に応じて補助教材を適宜提示します。

【参考書】

「JavaScript 第 7 版」David Flanagan 著、2021、オライリージャパン
さらに講義の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (25%) : 実習を伴うので、毎回授業に参加してスキルをきちんと蓄積して行くことが重要になります。

課題レポート (15%) : 状況に応じ、授業内容に沿った課題を出題することがあります。

課題演習 (60%) : 後半に授業内で実施する演習で作成した成果物を提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

例題・練習問題等の実習時間を長く取れるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の実習は情報実習室の PC で行います。

作成したファイルやデータを保存するための USB メモリーを必要に応じて各自持参してください (詳細は授業内で説明します)。

【関連科目】

プログラミング言語 (スクリプト言語) I / II

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is designed to provide skills to construct web pages using JavaScript, HTML and CSS and also provide a fundamental understanding of information and communication network.

(Learning Objectives) The goal is to be able to create a website by editing JavaScript, HTML and CSS.

(Learning activities outside of classroom) If you are not able to reach the assigned goal in class, it is recommended that you complete it on your own before the next week's class.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on in-class contribution (25%), mid-term reports (15%), and term-end outcomes of the exercise (60%).

COT200FA

ネットワーク論Ⅱ（通信ネットワーク）（2018年度入学者）

入戸野 健

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では JavaScript によるプログラミングについて実習を通じて基礎から学習します。合わせて連携する Web ページの作成に必要な HTML と CSS について学びます。

【到達目標】

受講生が JavaScript によるプログラミングの考え方を基礎から理解し、HTML、CSS、JavaScript を利用した Web ページを作成できるようになることを目標とします。同時に、情報通信を行うためのインターネットの仕組みを理解することで、自ら作成した Web ページで情報発信できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に毎回、各自でソースコードの入力や実行結果の確認等を行う実習形式で進めます。インターネットや通信ネットワークに関する知識については、部分的にスライド等を使って解説して行くこともあります。

授業は原則として対面で行いますが、状況の変化に対応してオンライン形式へ移行することがあります。

課題等についての講評は適宜、授業内あるいは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Web サイト構成の基礎	実用的な Web サイトのページ構成やページのレイアウトの作り方について学習します。
第 2 回	データ入力用のページ作成	HTML でページ内にデータ入力用のフォームを作る方法を学びます。
第 3 回	データの取り込み	ページ内のフォームに入力されたデータを JavaScript で利用する方法を学習します。
第 4 回	数値計算	数学的な関数を利用して様々な計算を行う方法を学びます。
第 5 回	文字列の処理	文字列の連結、部分切り出し、置換え等の処理について学習します。
第 6 回	日付の計算	日数や時刻の表示や、それらのデータをもとにした時間や日数の計算について学びます。
第 7 回	画像処理	画像を読み込んで表示したり、複数の画像を切替えて表示するといった方法を学びます。
第 8 回	アニメーション	Web ページのメニューなどを動的にアニメーションで表示するやり方について学習します。
第 9 回	jQuery の利用	jQuery を利用してよりシンプルに JavaScript のコードを記述する方法を学びます。
第 10 回	データファイルの読み書き	JSON 形式等のファイルからデータを読み込んだりデータを書き出す方法について学習します。
第 11 回	API の利用	API を使って他のページからデータを取得して利用する方法を習得します。
第 12 回	JavaScript の応用と Web ページ制作 (1)	いくつかのテーマの中から、各自で JavaScript を活用した Web ページを立案しサイトの構成を検討します。
第 13 回	JavaScript の応用と Web ページ制作 (2)	ソースコードを入力して作成し、ページのレイアウトや装飾などを行ってブラッシュアップします。
第 14 回	JavaScript の応用と Web ページ制作 (3)	作成した Web サイトの動作確認を行い、さらなる改善点があるか等について検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の実習で目標とするところまで作成できなかった場合は、各自で次の回までに進めておくことが推奨されます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。必要に応じて補助教材を適宜提示します。

【参考書】

「JavaScript 第 7 版」David Flanagan 著、2021、オライリー・ジャパン
さらに講義の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (25%) : 実習を伴うので、毎回授業に参加してスキルをきちんと蓄積して行くことが重要になります。

課題レポート (15%) : 状況に応じ、授業内容に沿った課題を出題することがあります。

課題演習 (60%) : 後半に授業内で実施する演習で作成した成果物を提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

例題・練習問題等の実習時間を長く取れるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の実習は情報実習室の PC で行います。

作成したファイルやデータを保存するための USB メモリーを必要に応じて各自持参してください（詳細は授業内で説明します）。

【関連科目】

プログラミング言語（スクリプト言語）I / II

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is designed to provide skills to construct web pages using JavaScript, HTML and CSS and also provide a fundamental understanding of information and communication network.

(Learning Objectives) The goal is to be able to create a website by editing JavaScript, HTML and CSS.

(Learning activities outside of classroom) If you are not able to reach the assigned goal in class, it is recommended that you complete it on your own before the next week's class.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on in-class contribution (25%), mid-term reports (15%), and term-end outcomes of the exercise (60%).

COT200FA

ネットワーク論 I (通信ネットワーク) (2018 年度入学者)

飯塚 康至

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みと HTML や PHP を利用した Web アプリケーションの作成手法についても学びます。また情報セキュリティについても理解し適切な対応がとれるスキルを身につけることを目標とします。

インターネットのサービスである Monaca を利用してスマートフォン (iPhone/Android) 向けのアプリケーション開発手法も学びます。

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新 ICT 技術について理解する。
5. 基本的な Web 技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。

インターネットを中心としたコンピュータネットワークはすでにインフラとなりわれわれの生活に深く浸透しています。

講義前半では主にコンピュータネットワークの基本的な知識と技術と情報セキュリティについて学びます。授業は演習形式で実際に作成や確認を行いながら進めていきます。

授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	通信技術の発展と現在	情報通信技術の変遷と現在の姿について理解します。
第 2 回	コンピュータの構成	ネットワークの理解に入る前にネットワークに利用するコンピュータの構成について理解します。
第 3 回	IP ネットワークの理解	インターネットを支えるインターネットプロトコルについて理解します。
第 4 回	LAN の仕組みと構成	LAN の仕組みと構成を理解します。
第 5 回	ドメインの理解	名前解決であるドメインの仕組みについて理解します。
第 6 回	TCP とパケットの理解	インターネット上のサービスを実現するための TCP とパケットについて理解します。
第 7 回	インターネットサービスとアプリケーション	主要なインターネットのサービスとアプリケーションについて理解します。
第 8 回	情報セキュリティ 1	インターネットを利用した情報セキュリティについて学びます。
第 9 回	情報セキュリティ 2	インターネットを利用した情報セキュリティについて学びます。
第 10 回	HTML の基礎知識	Web ページを作成するための HTML の歴史や現在の基礎知識について理解します。
第 11 回	HTML の基本文法	HTML の基本的な文法について理解します。
第 12 回	ホームページ作成の基礎 ①	見出を作成したり文字装飾を行う方法を理解します。
第 13 回	ホームページ作成の基礎 ②	リスト、テーブル、リンク等を作成する方法を理解します。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

現在の個人活動や企業活動ではコンピュータネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

PowerPoint 等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】

授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思います。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピュータおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業です。遅刻をしないようにしてください。授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】

情報科学実習 I / II (f コース)

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The theme of this lesson is to understand the computer network system and web applications and information security.

You will also learn how to develop applications for smartphone (iPhone / Android) using Monaca.

【Goal】

The objectives of this class are as follows

1. To understand how the Internet works.
2. To understand the major technologies that support the Internet.
3. To understand information security.
4. To understand the current state-of-the-art ICT technologies.
5. To understand basic web technologies.
6. To understand client-side dynamic technologies.
7. To understand server-side dynamic technologies

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

The use of computer networks is indispensable in today's personal and corporate activities. Students are encouraged to prepare for the class by imagining themselves as the person in charge after they actually find a job. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grading will be based on the assignments and reflection sheets for each class, with a maximum score of 100 points, 50 points for each reflection sheet and 50 points for each in-class assignment.

COT200FA

ネットワーク論Ⅱ（通信ネットワーク）（2018年度入学者）

飯塚 康至

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みと HTML や PHP を利用した Web アプリケーションの作成手法についても学びます。また情報セキュリティについても理解し適切な対応がとれるスキルを身につけることを目標とします。

インターネットのサービスである Monaca を利用してスマートフォン (iPhone/Android) 向けのアプリケーション開発手法も学びます。

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新 ICT 技術について理解する。
5. 基本的な Web 技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。

授業はハイフレックス方式を予定しています。

インターネットを中心としたコンピュータネットワークはすでにインフラとなりわれわれの生活に深く浸透しています。

前期に学んだネットワークや HTML の技術を生かし、サーバーサイド技術を中心に Web サイトの構築方法やスマートフォンアプリ作成について学習します。

授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フォームと画像の貼付け	フォームや画像を扱う方法について理解します。
第2回	CSS とデザイン	CSS を利用したデザインについて学びます。
第3回	サーバーサイド技術の概念	サーバーサイド技術である PHP を利用しサーバーサイド技術の概念を学びます。
第4回	PHP の基本文法（変数、関数）	PHP の基本的な文法について学びます。
第5回	PHP の基本文法（条件分岐、繰り返し）	PHP の基本的な文法について学びます。
第6回	練習用フォームの作成	練習用フォームを作成し POST や GET データを送信します。
第7回	メールフォームの作成	メールフォームを作成し Session でデータを保持します。
第8回	メールフォームからのメールの送信	メールフォームからメールを送信する方法について学びます。
第9回	画像アップローダーの作成1	画像をサーバーにアップロードするフォームを作成します。
第10回	画像アップローダーの作成2	画像をサーバーにアップロードするロジックを作成します。
第11回	画像アップローダーの作成3	アップロードした画像を表示する方法について学びます。
第12回	スマートフォンアプリの作成1	Monaca を利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。
第13回	スマートフォンアプリの作成2	Monaca を利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。
第14回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在の個人活動や企業活動ではコンピュータネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint 等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】

授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思います。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は Google クラウドを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】

情報科学実習Ⅰ／Ⅱ（f コース）

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this course, students will learn about the structure of computer networks, especially the Internet, and how to create web applications using HTML and PHP. This course also aims to help students understand information security and acquire the skills to take appropriate measures.

Students will also learn how to develop applications for smart phones (iPhone/Android) using Monaca, an Internet service.

[Learning Objectives]

The objectives of this class are as follows

Understand the structure of the Internet.

Understand the major technologies that support the Internet.

To understand information security.

To understand the latest ICT technologies.

To understand the basic web technologies.

To understand the dynamic technologies on the client side.

To understand the dynamic technologies on the server side.

[Learning activities outside of classroom]

The class will be conducted in the form of exercises with actual creation and confirmation.

In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

COT200FA

ネットワーク論 I (ホームページ) (2018 年度入学者)

上野 京子

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。

(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。

(2) Web を支える技術を理解する。

(3) ホームページの作成を行う。

(4) Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第 2 回	ホームページと HTML の仕組み	Web ページが見える仕組み、HTML の基本構造、公開時に必要な事柄など基本的な知識を習得する
第 3 回	基本のテキストの入力と様々な文字表現	日記や読書メモを作成する強調、略語・定義語、ルビ・下付き・上付き文字などの知識を学習する
第 4 回	画像の表示	画像ファイルを利用するための知識を学習する
第 5 回	リンクの指定	基本的なリンクの指定方法を学習する
第 6 回	相対パスと絶対パス	相対パス、絶対パスを理解してリンクを張る技術を習得する
第 7 回	CSS の役割	CSS の必要性を学び、基本的な記述方法を習得する
第 8 回	背景・文字の装飾	背景色・文字色の変更、位置の変更、文字のサイズ変更、囲み線、余白の調整などの知識を習得する
第 9 回	リストを作る	箇条書きリスト、順番のついたリスト、定義リストを作成する
第 10 回	ファイルの埋め込み	HTML ファイルや PDF ファイルの埋め込み、動画や音声の取り扱いの知識を習得する
第 11 回	テーブルの作成 (1)	テーブルの基本構造を理解する
第 12 回	テーブルの作成 (2)	表のヘッダーとフッター、見出しセルの方向と列のグループ化などの知識を習得する
第 13 回	テーブルの作成 (3)	表に罫線や色をつけ、見やすく整える
第 14 回	春学期のまとめと、課題 A	HTML と CSS を使って、課題 A で示されたホームページを作成する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独自などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 % として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報学入門 I / II」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

Grading Criteria / Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

ネットワーク論Ⅱ（ホームページ）（2018年度入学者）

上野 京子

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。

(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。

(2) Web を支える技術を理解する。

(3) ホームページの作成を行う。

(4) Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第 2 回	フォームの作成と 便利なフォーム機能	form の基本構造を理解する ふりがな、パスワード、検索ワード、 日付入力欄を作成する
第 3 回	課題 B	HTML と CSS、フォームを使って、 課題 B で示されたホームページを作成する
第 4 回	カテゴリとコンテンツ モデル	カテゴリとコンテンツモデルを理解 する
第 5 回	アウトラインとセクション	文章を内容で分割する
第 6 回	ナビゲーション	ナビゲーションを追加する
第 7 回	課題 C	HTML と CSS、フォーム、セクション、 ナビゲーションを使って、課題 C で示されたホームページを作成する
第 8 回	ページの設計	要素を上下や左右に並べたり、位置を 調整する方法を習得する
第 9 回	ページを飾る	CSS を利用して、動きのある表現の 方法を習得する
第 10 回	課題 D(1)	課題 D では、与えられた要件を満た す Web サイトを設計・作成する
第 11 回	課題 D(2)	課題 D の Web サイトを完成する
第 12 回	スマートフォンや SNS の対応	スマートフォン向けの CSS を設定す る方法を習得する
第 13 回	課題 E(1)	各自、自由なテーマで Web サイトを 作成する
第 14 回	課題 E(2)	課題 E の Web サイトを授業内で発表 する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 % として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

Grading Criteria /Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

ネットワーク論 I (ホームページ) (2018 年度入学者)

高田 美樹

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピューターネットワークの仕組みを理解し、情報発信手段としての Web サイト制作の技術と知識を習得することを目的とする。

【到達目標】

到達目標は、以下のとおりです。

- 1) インターネットの仕組みを理解する。
- 2) オリジナル Web ページを企画し、制作する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド動画配信により予習してから講義に参加する。講義は対面で行う。予習用にインターネットに接続できる Windows または Mac パソコンがあることが望ましい。家族などとの共用も可能。古くてもよい。クライアント側で動作するホームページの制作を行う。各自で素材を収集し、オリジナルサイトを制作する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ホームページの全体像	ホームページが社会にもたらしている影響から全体像を学習する。
第 2 回	HTML の記述と仕組み	ホームページを制作するための HTML とは何か、どのように記述するのかを学ぶ。
第 3 回	HTML と CSS による静的なページ	ホームページがどのように表示されるのかについて、実際にページを制作して学習する。
第 4 回	HTML・CSS 各論 (1)	HTML と CSS を使ったページの記述を具体的に学習する。
第 5 回	HTML・CSS 各論 (2)	HTML と CSS を使ったページの記述を具体的に学習する。
第 6 回	class と ID	ページの中の一部だけに設定を行う方法を学ぶ。
第 7 回	画面レイアウトの設計	HTML と CSS を組み合わせたページを企画、制作する。
第 8 回	フォームの作成	入力することのできるページを制作する。
第 9 回	画像の加工	ホームページで利用できるように画像を加工する。
第 10 回	JavaScript による動的なページの作成 (1)	マウス操作などで変化するページを制作する。
第 11 回	JavaScript による動的なページの作成 (2)	入力データをチェックしてエラーを表示するページを制作する。
第 12 回	jQuery の利用	jQuery を利用した変化のあるページを制作する。
第 13 回	サイト制作 1 (1)	オリジナルページを制作する。
第 14 回	サイト制作 1 (2)	オリジナルページを制作する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

オンデマンド動画で予習学習を行い、講義ではオリジナルサイトの制作を行う。次週までに指定箇所のサイトを完成させる。本授業の予習・復習は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

授業支援システムに講義資料を掲載する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の成果を積み上げて制作したオリジナルサイトにより評価する 100%

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ずオンデマンド講義を行ったところ、動画による配信での学習は自分のペースで動画を止めたり、見直したりできるメリットがあることがわかったので、予習に取り入れ、対面講義と組み合わせる。

【学生が準備すべき機器他】

予習用にインターネットに接続された Windows または Mac パソコンがあることよい。

【その他の重要事項】

法政大学のメールアドレスにメールを送ることがあるので、メールのチェックをしてください。

【関連科目】

情報学入門

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。メールでも受け付ける。

miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The objective of this course is to understand the structure of computer networks centered on the Internet and to acquire the skills and knowledge to create websites as a means of disseminating information. The goals are as follows

1) understand the structure of computer networks.

2) Plan and create an original web page.

Before the lecture, please watch the video to prepare for the lecture.

After the lecture, Weekly site buildup.

It takes about 2 hours.

Grading criteria :

Evaluation will be based on the original site created, including the progress of the project.

COT200FA

ネットワーク論Ⅱ（ホームページ）（2018年度入学者）

高田 美樹

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピューターネットワークの仕組みを理解し、情報発信手段としての Web サイト制作の技術と知識を習得する。データベース技術と組み合わせた Web サイトの全容を理解し、実際にサイトを制作する。

【到達目標】

到達目標は、以下のとおりです。

- 1) データベースを利用する知識として SQL を記述できる。
- 2) Web データベースシステムの仕組みを理解し、サーバサイドプログラムを利用した web サイトを企画、制作する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド動画により予習してからオンラインまたは対面講義に参加する。講義ではオリジナルホームページを制作する。予習ようにインターネットに接続された Windows または Mac パソコンがあるとよい。古くても家族などと共用でも可。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	web データベースシステムの全体像	ホームページの裏側の仕組みの全体像を把握する。
第 2 回	エコーバック	フォームから入力された情報の取得方法を学ぶ。
第 3 回	変数	情報を保存しておき、必要な場面で利用することを学ぶ。
第 4 回	配列	多くの情報を一括管理する方法を学ぶ。
第 5 回	繰返し	一括管理された多くの情報を一括して処理する方法を学ぶ。
第 6 回	選択	状況に応じて処理を選択することも学ぶ。
第 7 回	データベースとは	データベースとは何か、どのような利点があるのかを学ぶ。
第 8 回	SQL 文（1）	データベースを用いてデータを管理するための規格化された言語を学ぶ。
第 9 回	SQL 文（2）	データベースのテーブルを設計し、複数のテーブルの連携の仕方を学ぶ。
第 10 回	SQL とホームページとの連携（1）	データベースに蓄積されたデータをホームページに掲載する方法を学ぶ。
第 11 回	SQL とホームページとの連携（2）	履歴ほか、ホームページから収集するデータをデータベースに蓄積する方法を学ぶ。
第 12 回	ユーザ登録	ユーザ登録機能を実装する。
第 13 回	セッション	連続したページ遷移を実現する方法を学ぶ。
第 14 回	発表会	ほかの学生の作品から学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オンデマンド動画配信で予習をしてから、オンラインまたは対面の講義に参加する。講義ではオリジナルサイトを制作する。次回までに指定箇所のサイトを仕上げる。

Before the lecture, please watch the video to prepare for the lecture.

After the lecture, Weekly site buildup.

It takes about 2 hours.

【テキスト（教科書）】

授業支援システムに講義資料を提供する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の成果を積み上げて制作したオリジナルサイトにより評価する 100%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、やむを得ず対面授業ができなかったが、その分動画が威力を發揮した。講義は消えてしまうが、動画は自分のペースで、何度でも戻って見直すことができるという利点があることがわかった。これを予習に活用し、対面講義と組み合わせる。

【学生が準備すべき機器他】

予習用にインターネットに接続された Windows または Mac パソコンがあるとよい。古くても、家族と共用でも可。

【その他の重要事項】

法政大学のメールアドレスにメールを送ることがあるので、メールのチェックを怠らないこと。

【関連科目】

情報学入門

情報学発展（ホームページコース）1

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。メールでも受け付けます。

miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The objective of this course is to understand the structure of computer networks centered on the Internet and to acquire the skills and knowledge to create websites.

The objectives are as follows

(1) To be able to write SQL as knowledge to use database.

(2) Understand how web database systems work, and plan and create websites using server-side programs.

Before the lecture, please watch the video to prepare for the lecture.

After the lecture, Weekly site buildup.

It takes about 2 hours.

Grading criteria :

Evaluation will be based on the original site created, including the progress of the project.

COT200FA

ネットワーク論 I (ホームページ) (2018 年度入学者)

上野 京子

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。

- (1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。
- (2) Web を支える技術を理解する。
- (3) ホームページの作成を行う。
- (4) Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第 2 回	ホームページと HTML の仕組み	Web ページが見える仕組み、HTML の基本構造、公開時に必要な事柄など基本的な知識を習得する
第 3 回	基本のテキストの入力と様々な文字表現	日記や読書メモを作成する強調、略語・定義語、ルビ・下付き・上付き文字などの知識を学習する
第 4 回	画像の表示	画像ファイルを利用するための知識を学習する
第 5 回	リンクの指定	基本的なリンクの指定方法を学習する
第 6 回	相対パスと絶対パス	相対パス、絶対パスを理解してリンクを張る技術を習得する
第 7 回	CSS の役割	CSS の必要性を学び、基本的な記述方法を習得する
第 8 回	背景・文字の装飾	背景色・文字色の変更、位置の変更、文字のサイズ変更、囲み線、余白の調整などの知識を習得する
第 9 回	リストを作る	箇条書きリスト、順番のついたリスト、定義リストを作成する
第 10 回	ファイルの埋め込み	HTML ファイルや PDF ファイルの埋め込み、動画や音声の取り扱いの知識を習得する
第 11 回	テーブルの作成 (1)	テーブルの基本構造を理解する
第 12 回	テーブルの作成 (2)	表のヘッダーとフッター、見出しセルの方向と列のグループ化などの知識を習得する
第 13 回	テーブルの作成 (3)	表に罫線や色をつけ、見やすく整える
第 14 回	春学期のまとめと、課題 A	HTML と CSS を使って、課題 A で示されたホームページを作成する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独自などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 % として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報学入門 I / II」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

Grading Criteria / Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

ネットワーク論Ⅱ（ホームページ）（2018年度入学者）

上野 京子

選択_情報関係 2~4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。

(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。

(2) Web を支える技術を理解する。

(3) ホームページの作成を行う。

(4) Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第 2 回	フォームの作成と 便利なフォーム機能	form の基本構造を理解する ふりがな、パスワード、検索ワード、 日付入力欄を作成する
第 3 回	課題 B	HTML と CSS、フォームを使って、 課題 B で示されたホームページを作成する
第 4 回	カテゴリとコンテンツ モデル	カテゴリとコンテンツモデルを理解 する
第 5 回	アウトラインとセクション	文章を内容で分割する
第 6 回	ナビゲーション	ナビゲーションを追加する
第 7 回	課題 C	HTML と CSS、フォーム、セクション、 ナビゲーションを使って、課題 C で示されたホームページを作成する
第 8 回	ページの設計	要素を上下や左右に並べたり、位置を 調整する方法を習得する
第 9 回	ページを飾る	CSS を利用して、動きのある表現の 方法を習得する
第 10 回	課題 D(1)	課題 D では、与えられた要件を満た す Web サイトを設計・作成する
第 11 回	課題 D(2)	課題 D の Web サイトを完成する
第 12 回	スマートフォンや SNS の対応	スマートフォン向けの CSS を設定す る方法を習得する
第 13 回	課題 E(1)	各自、自由なテーマで Web サイトを 作成する
第 14 回	課題 E(2)	課題 E の Web サイトを授業内で発表 する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を 40%、授業中の課題の結果を 60% として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

Grading Criteria /Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

ネットワーク論 I (2016~2017 年度入学者)

入野 健

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この科目では JavaScript によるプログラミングについて実習を通じて基礎から学習します。合わせて連携する Web ページの作成に必要な HTML と CSS について学びます。

【到達目標】

受講生が JavaScript によるプログラミングの考え方を基礎から理解し、HTML、CSS、JavaScript を利用した Web ページを作成できるようになることを目標とします。同時に、情報通信を行うためのインターネットの仕組み理解することで、自ら作成した Web ページで情報発信できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に毎回、各自でソースコードの入力や実行結果の確認等を行う実習形式で進めます。インターネットや通信ネットワークに関する知識については、部分的にスライド等を使って解説して行くこともあります。

授業は原則として対面で行いますが、状況の変化に対応してオンライン形式へ移行することがあります。

課題等についての講評は適宜、授業内あるいは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	JavaScript の特徴を概観し、エディタなどのプログラミング環境の準備を行います。
第 2 回	Web サイトの仕組み	Web ページ表示の仕組みを理解し、HTML や CSS の役割について学習します。
第 3 回	Web ページ作成の基礎	基本的な構成の Web ページを HTML を使って作る方法を学びます。
第 4 回	ページの装飾	Web ページを CSS で装飾する方法の基礎を学びます。
第 5 回	JavaScript の入力と実行の基本	基礎的な JavaScript のソースコードを入力してコンソールに実行結果を表示するまでの基本操作を学びます。
第 6 回	ボタンとダイアログボックスの利用	プログラムを起動するボタンと実行結果を表示するダイアログボックスを利用する方法を学習します。
第 7 回	ページ内容の書換え	JavaScript のプログラムから Web ページの内容を取得したり、ページ内容を書き換えたりする方法を学びます。
第 8 回	データと変数	数値データの計算、変数へのデータの代入について学習します。
第 9 回	条件分岐	if 文で条件によって実行する処理を変える方法を習得します。
第 10 回	繰り返し	while や for を使って指定した処理を繰り返し実行する方法を学びます。
第 11 回	関数の使い方	既存の関数を利用したり、自分で関数を作って実行する方法を学習します。
第 12 回	配列の利用	多数のデータをまとめて扱うための配列の使い方について学びます。
第 13 回	JavaScript と Web ページ制作の基礎 (1)	JavaScript を利用したオリジナルな Web ページを各自で立案し構成を検討します。
第 14 回	JavaScript と Web ページ制作の基礎 (2)	設計した Web ページを入力して作成し動作確認を行って完成させます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の実習で目標とするところまで作成できなかった場合は、各自で次の回までに進めておくことが推奨されます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に提示します。必要に応じて補助教材を適宜提示します。

【参考書】

「JavaScript 第 7 版」David Flanagan 著、2021、オライリージャパン
さらに講義の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (25%) : 実習を伴うので、毎回授業に参加してスキルをきちんと蓄積して行くことが重要になります。

課題レポート (15%) : 状況に応じ、授業内容に沿った課題を出題することがあります。

課題演習 (60%) : 後半に授業内で実施する演習で作成した成果物を提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

例題・練習問題等の実習時間を長く取れるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の実習は情報実習室の PC で行います。

作成したファイルやデータを保存するための USB メモリーを必要に応じて各自持参してください (詳細は授業内で説明します)。

【関連科目】

プログラミング言語 (スクリプト言語) I / II

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is designed to provide skills to construct web pages using JavaScript, HTML and CSS and also provide a fundamental understanding of information and communication network.

(Learning Objectives) The goal is to be able to create a website by editing JavaScript, HTML and CSS.

(Learning activities outside of classroom) If you are not able to reach the assigned goal in class, it is recommended that you complete it on your own before the next week's class.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on in-class contribution (25%), mid-term reports (15%), and term-end outcomes of the exercise (60%).

COT200FA

ネットワーク論Ⅱ（2016～2017年度入学者）

入戸野 健

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では JavaScript によるプログラミングについて実習を通じて基礎から学習します。合わせて連携する Web ページの作成に必要な HTML と CSS について学びます。

【到達目標】

受講生が JavaScript によるプログラミングの考え方を基礎から理解し、HTML、CSS、JavaScript を利用した Web ページを作成できるようになることを目標とします。同時に、情報通信を行うためのインターネットの仕組みを理解することで、自ら作成した Web ページで情報発信できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に毎回、各自でソースコードの入力や実行結果の確認等を行う実習形式で進めます。インターネットや通信ネットワークに関する知識については、部分的にスライド等を使って解説して行くこともあります。

授業は原則として対面で行いますが、状況の変化に対応してオンライン形式へ移行することがあります。

課題等についての講評は適宜、授業内あるいは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Web サイト構成の基礎	実用的な Web サイトのページ構成やページのレイアウトの作り方について学習します。
第2回	データ入力用のページ作成	HTML でページ内にデータ入力用のフォームを作る方法を学びます。
第3回	データの取り込み	ページ内のフォームに入力されたデータを JavaScript で利用する方法を学習します。
第4回	数値計算	数学的な関数を利用して様々な計算を行う方法を学びます。
第5回	文字列の処理	文字列の連結、部分切り出し、置換え等の処理について学習します。
第6回	日付の計算	日数や時刻の表示や、それらのデータをもとにした時間や日数の計算について学びます。
第7回	画像処理	画像を読み込んで表示したり、複数の画像を切替えて表示するといった方法を学びます。
第8回	アニメーション	Web ページのメニューなどを動的にアニメーションで表示するやり方について学習します。
第9回	jQuery の利用	jQuery を利用してよりシンプルに JavaScript のコードを記述する方法を学びます。
第10回	データファイルの読み書き	JSON 形式等のファイルからデータを読み込んだりデータを書き出す方法について学習します。
第11回	API の利用	API を使って他のページからデータを取得して利用する方法を習得します。
第12回	JavaScript の応用と Web ページ制作 (1)	いくつかのテーマの中から、各自で JavaScript を活用した Web ページを立案しサイトの構成を検討します。
第13回	JavaScript の応用と Web ページ制作 (2)	ソースコードを入力して作成し、ページのレイアウトや装飾などを行ってブラッシュアップします。
第14回	JavaScript の応用と Web ページ制作 (3)	作成した Web サイトの動作確認を行い、さらなる改善点があるか等について検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の実習で目標とするところまで作成できなかった場合は、各自で次の回までに進めておくことが推奨されます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。必要に応じて補助教材を適宜提示します。

【参考書】

「JavaScript 第 7 版」David Flanagan 著、2021、オライリー・ジャパン
さらに講義の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (25%) : 実習を伴うので、毎回授業に参加してスキルをきちんと蓄積して行くことが重要になります。

課題レポート (15%) : 状況に応じ、授業内容に沿った課題を出題することがあります。

課題演習 (60%) : 後半に授業内で実施する演習で作成した成果物を提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

例題・練習問題等の実習時間を長く取れるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の実習は情報実習室の PC で行います。

作成したファイルやデータを保存するための USB メモリーを必要に応じて各自持参してください（詳細は授業内で説明します）。

【関連科目】

プログラミング言語（スクリプト言語）Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is designed to provide skills to construct web pages using JavaScript, HTML and CSS and also provide a fundamental understanding of information and communication network.

(Learning Objectives) The goal is to be able to create a website by editing JavaScript, HTML and CSS.

(Learning activities outside of classroom) If you are not able to reach the assigned goal in class, it is recommended that you complete it on your own before the next week's class.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on in-class contribution (25%), mid-term reports (15%), and term-end outcomes of the exercise (60%).

COT200FA

ネットワーク論 I (2016~2017 年度入学者)

飯塚 康至

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みと HTML や PHP を利用した Web アプリケーションの作成手法についても学びます。また情報セキュリティについても理解し適切な対応がとれるスキルを身につけることを目標とします。

インターネットのサービスである Monaca を利用してスマートフォン (iPhone/Android) 向けのアプリケーション開発手法も学びます。

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新 ICT 技術について理解する。
5. 基本的な Web 技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。授業はハイフレックス方式を予定しています。

インターネットを中心としたコンピュータネットワークはすでにインフラとなりわれわれの生活に深く浸透しています。

講義前半では主にコンピュータネットワークの基本的な知識と技術と情報セキュリティについて学びます。授業は演習形式で実際に作成や確認を行いながら進めていきます。

授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	通信技術の発展と現在	情報通信技術の変遷と現在の姿について理解します。
第 2 回	コンピュータの構成	ネットワークの理解に入る前にネットワークに利用するコンピュータの構成について理解します。
第 3 回	IP ネットワークの理解	インターネットを支えるインターネットプロトコルについて理解します。
第 4 回	LAN の仕組みと構成	LAN の仕組みと構成を理解します。
第 5 回	ドメインの理解	名前解決であるドメインの仕組みについて理解します。
第 6 回	TCP とパケットの理解	インターネット上のサービスを実現するための TCP とパケットについて理解します。
第 7 回	インターネットサービスとアプリケーション	主要なインターネットのサービスとアプリケーションについて理解します。
第 8 回	情報セキュリティ 1	インターネットを利用した情報セキュリティについて学びます。
第 9 回	情報セキュリティ 2	インターネットを利用した情報セキュリティについて学びます。
第 10 回	HTML の基礎知識	Web ページを作成するための HTML の歴史や現在の基礎知識について理解します。
第 11 回	HTML の基本文法	HTML の基本的な文法について理解します。
第 12 回	ホームページ作成の基礎 ①	見出を作成したり文字装飾を行う方法を理解します。
第 13 回	ホームページ作成の基礎 ②	リスト、テーブル、リンク等を作成する方法を理解します。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

現在の個人活動や企業活動ではコンピュータネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

PowerPoint 等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】

授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思えます。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピュータおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業です。遅刻をしないようにしてください。授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】

情報科学実習 I / II (f コース)

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The theme of this lesson is to understand the computer network system and web applications and information security.

You will also learn how to develop applications for smartphone (iPhone / Android) using Monaca.

【Goal】

The objectives of this class are as follows

1. To understand how the Internet works.
2. To understand the major technologies that support the Internet.
3. To understand information security.
4. To understand the current state-of-the-art ICT technologies.
5. To understand basic web technologies.
6. To understand client-side dynamic technologies.
7. To understand server-side dynamic technologies

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

The use of computer networks is indispensable in today's personal and corporate activities. Students are encouraged to prepare for the class by imagining themselves as the person in charge after they actually find a job. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grading will be based on the assignments and reflection sheets for each class, with a maximum score of 100 points, 50 points for each reflection sheet and 50 points for each in-class assignment.

COT200FA

ネットワーク論Ⅱ（2016～2017年度入学者）

飯塚 康至

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みと HTML や PHP を利用した Web アプリケーションの作成手法についても学びます。また情報セキュリティについても理解し適切な対応がとれるスキルを身につけることを目標とします。

インターネットのサービスである Monaca を利用してスマートフォン (iPhone/Android) 向けのアプリケーション開発手法も学びます。

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについても理解し適切な対応がとれるスキルを身につける。
4. 現在の最新 ICT 技術について理解する。
5. 基本的な Web 技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。

授業はハイフレックス方式を予定しています。

インターネットを中心としたコンピュータネットワークはすでにインフラとなりわれわれの生活に深く浸透しています。

前期に学んだネットワークや HTML の技術を生かし、サーバーサイド技術を中心に Web サイトの構築方法やスマートフォンアプリ作成について学習します。

授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フォームと画像の貼付け	フォームや画像を扱う方法について理解します。
第2回	CSS とデザイン	CSS を利用したデザインについて学びます。
第3回	サーバーサイド技術の概念	サーバーサイド技術である PHP を利用しサーバーサイド技術の概念を学びます。
第4回	PHP の基本文法（変数、関数）	PHP の基本的な文法について学びます。
第5回	PHP の基本文法（条件分岐、繰り返し）	PHP の基本的な文法について学びます。
第6回	練習用フォームの作成	練習用フォームを作成し POST や GET データを送信します。
第7回	メールフォームの作成	メールフォームを作成し Session でデータを保持します。
第8回	メールフォームからのメールの送信	メールフォームからメールを送信する方法について学びます。
第9回	画像アップローダーの作成1	画像をサーバーにアップロードするフォームを作成します。
第10回	画像アップローダーの作成2	画像をサーバーにアップロードするロジックを作成します。
第11回	画像アップローダーの作成3	アップロードした画像を表示する方法について学びます。
第12回	スマートフォンアプリの作成1	Monaca を利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。
第13回	スマートフォンアプリの作成2	Monaca を利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。
第14回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在の個人活動や企業活動ではコンピュータネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint 等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】

授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思います。学度であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等は Google クラウドを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】

情報科学実習Ⅰ／Ⅱ（f コース）

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this course, students will learn about the structure of computer networks, especially the Internet, and how to create web applications using HTML and PHP. This course also aims to help students understand information security and acquire the skills to take appropriate measures.

Students will also learn how to develop applications for smart phones (iPhone/Android) using Monaca, an Internet service.

[Learning Objectives]

The objectives of this class are as follows

Understand the structure of the Internet.

Understand the major technologies that support the Internet.

To understand information security.

To understand the latest ICT technologies.

To understand the basic web technologies.

To understand the dynamic technologies on the client side.

To understand the dynamic technologies on the server side.

[Learning activities outside of classroom]

The class will be conducted in the form of exercises with actual creation and confirmation.

In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

COT200FA

ネットワーク論 I (2016~2017 年度入学者)

上野 京子

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。

- (1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。
- (2) Web を支える技術を理解する。
- (3) ホームページの作成を行う。
- (4) Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第 2 回	ホームページと HTML の仕組み	Web ページが見える仕組み、HTML の基本構造、公開時に必要な事柄など
第 3 回	基本のテキストの入力と様々な文字表現	基本的な知識を習得する 日記や読書メモを作成する強調、略語・定義語、ルビ・下付き・上付き文字などの知識を学習する
第 4 回	画像の表示	画像ファイルを利用するための知識を学習する
第 5 回	リンクの指定	基本的なリンクの指定方法を学習する
第 6 回	相対パスと絶対パス	相対パス、絶対パスを理解してリンクを張る技術を習得する
第 7 回	CSS の役割	CSS の必要性を学び、基本的な記述方法を習得する
第 8 回	背景・文字の装飾	背景色・文字色の変更、位置の変更、文字のサイズ変更、囲み線、余白の調整などの知識を習得する
第 9 回	リストを作る	箇条書きリスト、順番のついたリスト、定義リストを作成する
第 10 回	ファイルの埋め込み	HTML ファイルや PDF ファイルの埋め込み、動画や音声の取り扱いの知識を習得する
第 11 回	テーブルの作成 (1)	テーブルの基本構造を理解する
第 12 回	テーブルの作成 (2)	表のヘッダーとフッター、見出しセルの方向と列のグループ化などの知識を習得する
第 13 回	テーブルの作成 (3)	表に罫線や色をつけ、見やすく整える
第 14 回	春学期のまとめと、課題 A	HTML と CSS を使って、課題 A で示されたホームページを作成する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独自などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 % として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報学入門 I / II」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

Grading Criteria / Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

ネットワーク論Ⅱ（2016～2017年度入学者）

上野 京子

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。

(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。

(2) Web を支える技術を理解する。

(3) ホームページの作成を行う。

(4) Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第 2 回	フォームの作成と 便利なフォーム機能	form の基本構造を理解する ふりがな、パスワード、検索ワード、 日付入力欄を作成する
第 3 回	課題 B	HTML と CSS、フォームを使って、 課題 B で示されたホームページを作成する
第 4 回	カテゴリとコンテンツ モデル	カテゴリとコンテンツモデルを理解 する
第 5 回	アウトラインとセクション	文章を内容で分割する
第 6 回	ナビゲーション	ナビゲーションを追加する
第 7 回	課題 C	HTML と CSS、フォーム、セクション、 ナビゲーションを使って、課題 C で示されたホームページを作成する
第 8 回	ページの設計	要素を上下や左右に並べたり、位置を 調整する方法を習得する
第 9 回	ページを飾る	CSS を利用して、動きのある表現の 方法を習得する
第 10 回	課題 D(1)	課題 D では、与えられた要件を満た す Web サイトを設計・作成する
第 11 回	課題 D(2)	課題 D の Web サイトを完成する
第 12 回	スマートフォンや SNS の対応	スマートフォン向けの CSS を設定す る方法を習得する
第 13 回	課題 E(1)	各自、自由なテーマで Web サイトを 作成する
第 14 回	課題 E(2)	課題 E の Web サイトを授業内で発表 する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまにせよ、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 % として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

Grading Criteria /Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

ネットワーク論 I (2016~2017 年度入学者)

高田 美樹

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピューターネットワークの仕組みを理解し、情報発信手段としての Web サイト制作の技術と知識を習得することを目的とする。

【到達目標】

到達目標は、以下のとおりです。

- 1) インターネットの仕組みを理解する。
- 2) オリジナル Web ページを企画し、制作する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド動画配信により予習してから講義に参加する。講義は対面で行う。予習用にインターネットに接続できる Windows または Mac パソコンがあることが望ましい。家族などとの共用も可能。古くてもよい。クライアント側で動作するホームページの制作を行う。各自で素材を収集し、オリジナルサイトを制作する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ホームページの全体像	ホームページが社会にもたらしている影響から全体像を学習する。
第 2 回	HTML の記述と仕組み	ホームページを制作するための HTML とは何か、どのように記述するのかを学ぶ。
第 3 回	HTML と CSS による静的なページ	ホームページがどのように表示されるのかについて、実際にページを制作して学習する。
第 4 回	HTML・CSS 各論 (1)	HTML と CSS を使ったページの記述を具体的に学習する。
第 5 回	HTML・CSS 各論 (2)	HTML と CSS を使ったページの記述を具体的に学習する。
第 6 回	class と ID	ページの中の一部だけに設定を行う方法を学ぶ。
第 7 回	画面レイアウトの設計	HTML と CSS を組み合わせたページを企画、制作する。
第 8 回	フォームの作成	入力することのできるページを制作する。
第 9 回	画像の加工	ホームページで利用できるように画像を加工する。
第 10 回	JavaScript による動的なページの作成 (1)	マウス操作などで変化するページを制作する。
第 11 回	JavaScript による動的なページの作成 (2)	入力データをチェックしてエラーを表示するページを制作する。
第 12 回	jQuery の利用	jQuery を利用した変化のあるページを制作する。
第 13 回	サイト制作 1 (1)	オリジナルページを制作する。
第 14 回	サイト制作 1 (2)	オリジナルページを制作する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

オンデマンド動画で予習学習を行い、講義ではオリジナルサイトの制作を行う。次週までに指定箇所のサイトを完成させる。本授業の予習・復習は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

授業支援システムに講義資料を掲載する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の成果を積み上げて制作したオリジナルサイトにより評価する 100%

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ずオンデマンド講義を行ったところ、動画による配信での学習は自分のペースで動画を止めたり、見直したりできるメリットがあることがわかったので、予習に取り入れ、対面講義と組み合わせる。

【学生が準備すべき機器他】

予習用にインターネットに接続された Windows または Mac パソコンがあることよい。

【その他の重要事項】

法政大学のメールアドレスにメールを送ることがあるので、メールのチェックをしてください。

【関連科目】

情報学入門

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。メールでも受け付ける。

miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The objective of this course is to understand the structure of computer networks centered on the Internet and to acquire the skills and knowledge to create websites as a means of disseminating information. The goals are as follows

1) understand the structure of computer networks.

2) Plan and create an original web page.

Before the lecture, please watch the video to prepare for the lecture.

After the lecture, Weekly site buildup.

It takes about 2 hours.

Grading criteria :

Evaluation will be based on the original site created, including the progress of the project.

COT200FA

ネットワーク論Ⅱ（2016～2017年度入学者）

高田 美樹

選択_情報関係 2～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピューターネットワークの仕組みを理解し、情報発信手段としての Web サイト制作の技術と知識を習得する。データベース技術と組み合わせた Web サイトの全容を理解し、実際にサイトを制作する。

【到達目標】

到達目標は、以下のとおりです。

- 1) データベースを利用する知識として SQL を記述できる。
- 2) Web データベースシステムの仕組みを理解し、サーバサイドプログラムを利用した web サイトを企画、制作する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド動画により予習してからオンラインまたは対面講義に参加する。講義ではオリジナルホームページを制作する。予習ようにインターネットに接続された Windows または Mac パソコンがあるとよい。古くても家族などと共用でも可。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	web データベースシステムの全体像	ホームページの裏側の仕組みの全体像を把握する。
第 2 回	エコーバック	フォームから入力された情報の取得方法を学ぶ。
第 3 回	変数	情報を保存しておき、必要な場面で利用することを学ぶ。
第 4 回	配列	多くの情報を一括管理する方法を学ぶ。
第 5 回	繰返し	一括管理された多くの情報を一括して処理する方法を学ぶ。
第 6 回	選択	状況に応じて処理を選択することも学ぶ。
第 7 回	データベースとは	データベースとは何か、どのような利点があるのかを学ぶ。
第 8 回	SQL 文（1）	データベースを用いてデータを管理するための規格化された言語を学ぶ。
第 9 回	SQL 文（2）	データベースのテーブルを設計し、複数のテーブルの連携の仕方を学ぶ。
第 10 回	SQL とホームページとの連携（1）	データベースに蓄積されたデータをホームページに掲載する方法を学ぶ。
第 11 回	SQL とホームページとの連携（2）	履歴ほか、ホームページから収集するデータをデータベースに蓄積する方法を学ぶ。
第 12 回	ユーザ登録	ユーザ登録機能を実装する。
第 13 回	セッション	連続したページ遷移を実現する方法を学ぶ。
第 14 回	発表会	ほかの学生の作品から学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オンデマンド動画配信で予習をしてから、オンラインまたは対面の講義に参加する。講義ではオリジナルサイトを制作する。次回までに指定箇所のサイトを仕上げる。

Before the lecture, please watch the video to prepare for the lecture.

After the lecture, Weekly site buildup.

It takes about 2 hours.

【テキスト（教科書）】

授業支援システムに講義資料を提供する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の成果を積み上げて制作したオリジナルサイトにより評価する 100%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、やむを得ず対面授業ができなかったが、その分動画が威力を發揮した。講義は消えてしまうが、動画は自分のペースで、何度でも戻って見直すことができるという利点があることがわかった。これを予習に活用し、対面講義と組み合わせる。

【学生が準備すべき機器他】

予習用にインターネットに接続された Windows または Mac パソコンがあるとよい。古くても、家族と共用でも可。

【その他の重要事項】

法政大学のメールアドレスにメールを送ることがあるので、メールのチェックを怠らないこと。

【関連科目】

情報学入門

情報学発展（ホームページコース）1

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。メールでも受け付けます。

miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The objective of this course is to understand the structure of computer networks centered on the Internet and to acquire the skills and knowledge to create websites.

The objectives are as follows

(1) To be able to write SQL as knowledge to use database.

(2) Understand how web database systems work, and plan and create websites using server-side programs.

Before the lecture, please watch the video to prepare for the lecture.

After the lecture, Weekly site buildup.

It takes about 2 hours.

Grading criteria :

Evaluation will be based on the original site created, including the progress of the project.

COT200FA

ネットワーク論 I (2016~2017 年度入学者)

上野 京子

選択_情報関係 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。

- (1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。
- (2) Web を支える技術を理解する。
- (3) ホームページの作成を行う。
- (4) Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第 2 回	ホームページと HTML の仕組み	Web ページが見える仕組み、HTML の基本構造、公開時に必要な事柄など基本的な知識を習得する
第 3 回	基本のテキストの入力と様々な文字表現	日記や読書メモを作成する強調、略語・定義語、ルビ・下付き・上付き文字などの知識を学習する
第 4 回	画像の表示	画像ファイルを利用するための知識を学習する
第 5 回	リンクの指定	基本的なリンクの指定方法を学習する
第 6 回	相対パスと絶対パス	相対パス、絶対パスを理解してリンクを張る技術を習得する
第 7 回	CSS の役割	CSS の必要性を学び、基本的な記述方法を習得する
第 8 回	背景・文字の装飾	背景色・文字色の変更、位置の変更、文字のサイズ変更、囲み線、余白の調整などの知識を習得する
第 9 回	リストを作る	箇条書きリスト、順番のついたリスト、定義リストを作成する
第 10 回	ファイルの埋め込み	HTML ファイルや PDF ファイルの埋め込み、動画や音声の取り扱いの知識を習得する
第 11 回	テーブルの作成 (1)	テーブルの基本構造を理解する
第 12 回	テーブルの作成 (2)	表のヘッダーとフッター、見出しセルの方向と列のグループ化などの知識を習得する
第 13 回	テーブルの作成 (3)	表に罫線や色をつけ、見やすく整える
第 14 回	春学期のまとめと、課題 A	HTML と CSS を使って、課題 A で示されたホームページを作成する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独自などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 % として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報学入門 I / II」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

Grading Criteria / Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

ネットワーク論Ⅱ（2016～2017年度入学者）

上野 京子

選択_情報関係 2～4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。

(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。

(2) Web を支える技術を理解する。

(3) ホームページの作成を行う。

(4) Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第 2 回	フォームの作成と 便利なフォーム機能	form の基本構造を理解する ふりがな、パスワード、検索ワード、 日付入力欄を作成する
第 3 回	課題 B	HTML と CSS、フォームを使って、 課題 B で示されたホームページを作成する
第 4 回	カテゴリとコンテンツ モデル	カテゴリとコンテンツモデルを理解 する
第 5 回	アウトラインとセクション	文章を内容で分割する
第 6 回	ナビゲーション	ナビゲーションを追加する
第 7 回	課題 C	HTML と CSS、フォーム、セクション、 ナビゲーションを使って、課題 C で示されたホームページを作成する
第 8 回	ページ的设计	要素を上下や左右に並べたり、位置を 調整する方法を習得する
第 9 回	ページを飾る	CSS を利用して、動きのある表現の 方法を習得する
第 10 回	課題 D(1)	課題 D では、与えられた要件を満た す Web サイトを設計・作成する
第 11 回	課題 D(2)	課題 D の Web サイトを完成する
第 12 回	スマートフォンや SNS の対応	スマートフォン向けの CSS を設定す る方法を習得する
第 13 回	課題 E(1)	各自、自由なテーマで Web サイトを 作成する
第 14 回	課題 E(2)	課題 E の Web サイトを授業内で発表 する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまにせよ、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 % として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.

A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

Learning Objectives

The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.

Learning activities outside of classroom

The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.

Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.

Grading Criteria /Policy

Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

LAW200FA

民法

松田 佳久

連環科目連環科目_法律関係 2～4 年次 / 4 単位 [年間授業/Yearly]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法は市民生活に関連する法律の中で最も基本的かつ重要な法律である。民法は取引を中心とする財産法と家族の生活を中心とする家族法に大別されるが、本講義は経営学部の学生を対象とすることから、前者の財産法を中心に扱うことにしたい。

具体的には、私たちの生活に直接に関係してくる事項（売買契約などの契約関係や所有権などの物権関係）について勉強をする。

【到達目標】

取引を中心とする生活関係についての基本的な法制度を十分に理解し、経営学部の専門的知識がより一層効果を発揮するような背景を築くことである。

具体的には、①契約の有効な成立のための要件、②契約によって成立する債権の内容、③債権の効力、④物権変動と対抗要件、⑤債権担保の手段、とりわけ抵当権と保証債務について十分な法的知識を修得することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」、「DP5」、「法律」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

2023 年度はオンデマンドでの開講となります。

学習支援システムの「教材」に各回の参考図、判例等をUPしておきます。それを印刷して、学習支援システムの「オンデマンド」から該当の録画を見付、視聴してください。各自で計28回の視聴時間を確保し視聴してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 民法典とその構成	講義を始めるに際しての諸注意 民法典 民法典の構成 物権と債権
第 2 回	売買契約の有効な成立 1	契約の成立要件
第 3 回	売買契約の有効な成立 2	契約の有効要件
第 4 回	売買契約の有効な成立 3	無効原因 取消しと無効
第 5 回	売買契約の有効な成立 4	代理
第 6 回	売買契約の有効な成立 5	無権代理 条件と期限 物の引渡し
第 7 回	売主の義務と買主の義務 1	
第 8 回	売主の義務と買主の義務 2	代金の支払い
第 9 回	売主の義務と買主の義務 3	購入資金の借入れ
第 10 回	売主の義務と買主の義務 4	債権関係の終了
第 11 回	売主の義務と買主の義務 5	現実的履行の強制
第 12 回	売主の義務と買主の義務 6	損害賠償請求 契約の解除
第 13 回	売買契約による所有権の移転 1	物権変動の基本原則
第 14 回	売買契約による所有権の移転 2	動産取引における公示の原則と公信の原則
第 15 回	所有権と占有権 1	物権の客体 物権の本質 物権の効力 所有権の性質と効力
第 16 回	所有権と占有権 2	相隣関係 所有権の特別な取得原因 所有権の成立と態様 占有権の効力
第 17 回	債権の回収と債権の担保 1	債権回収の基本原則、責任財産の保全（債権者代位権）
第 18 回	債権の回収と債権の担保 2	詐害行為取消権
第 19 回	責任財産の拡大による債権の担保	連帯債務 保証債務
第 20 回	優先弁済権による債権の担保 1	担保物権の基本原則 抵当権

第 21 回	優先弁済権による債権の担保 2 物の貸借契約 1	非典型担保 総説 賃貸借契約（基本的な法律関係）
第 22 回	物の貸借契約 2	賃貸借関係（賃貸借の効力、第三者との関係、当事者の変更、賃借権の譲渡・転貸、賃貸借契約の終了） 借地借家法（借地関係、借家関係）
第 23 回	物の貸借契約 3	
第 24 回	他人の労務を目的とする契約 1	総説、 雇用契約 請負契約
第 25 回	他人の労務を目的とする契約 2 法律の規定に基づいて生ずる債権 1	委任契約 総説 事務管理
第 26 回	法律の規定に基づいて生ずる債権 2	不当利得
第 27 回	法律の規定に基づいて生ずる債権 3	一般的不法行為
第 28 回	法律の規定に基づいて生ずる債権 4	特殊的不法行為

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○教科書に事前に目を通してから授業を視聴すること
○視聴後に各自で内容を復習すること
○学習した内容を踏まえて社会を法的な視点から眺めてみることにしてください。
○本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
わからないところがあったら担当教員の大学メールアドレス（yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）に質問などをして、疑問を残さないようにしてください。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『ワンステップ民法』2022 年 3 月 嵯峨野書院

【参考書】

1. 潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選Ⅰ総則・物権』（有斐閣、第 8 版、2018 年）
2. 窪田充見＝森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ債権』（有斐閣、第 8 版、2018 年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、中間試験（50 点満点）と期末試験（50 点満点）の合計により行います。
中間試験を受験しない人がいますが、受験しないとこの講座の単位取得はできません。

2023 年度は、中間試験・期末試験は教室では実施しません。
学習支援システムの「レポート」に試験の問題を掲載しますので、試験の所定の期間内に添付の解答用紙に解答し、授業支援システムの「レポート」に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には、計 28 回の講義をしっかりと視聴することが必要になります。
わからないところがありましたら、いつでもメールで質問をしてください（担当教員のメールアドレス：yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの「教材」に参考図、判例等をUPしておきますので、教材を印刷し、学習支援システムの「オンデマンド」に合録画を視聴できるパソコン等が必要になります。

【その他の重要事項】

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

常時、メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Outline】

Civil law is the most fundamental and important law in civil life. Civil law is broadly divided into property law, which centers on transactions, and family law, which centers on family life. Since this lecture is aimed at students in the business administration department, I will focus on the former property law.

Specifically, we will study matters that are directly related to our lives (contractual relationships such as sales contracts and property rights such as ownership).

【Goal】

It is necessary to fully understand the basic legal system related to living relations centered on transactions, and to build a background in which the specialized knowledge of the Faculty of Business Administration is even more effective.

Specifically, it is necessary to acquire sufficient legal knowledge about the following. (1) Requirements for effective conclusion of contract, (2) Contents of claims established by contract, (3) Effectiveness of claims, (4) Changes in property rights and perfection requirements, (5) Means of collateral for claims, especially mortgages and guarantee obligations.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading criteria]

Grades will be evaluated based on the total of the mid-term exam (out of 50 points) and the final exam (out of 50 points).

Some people do not take the mid-term exam. If you do not take the exam, you will not be able to earn credits for this course.

In 2022, mid-term and final exams will not be held in the classroom.

The exam questions will be posted in the "Report" of the learning support system. Please answer the attached answer sheet within the specified period of the exam and submit it to the "Report" of the employment support system.

The Civil Code was significantly revised in April 2020. Along with this, the textbook was also revised and updated (Kenzo Miyamoto, "New Conduct Civil Code", May 2020, Sagano Shoin).

Even if you use an old version of the textbook, you will not be able to understand the content of the lecture, and you will not be able to handle the mid-term and final exams, so please prepare the above textbook.

LAW200FA

会社法

鬼頭 俊泰

連環科目連環科目_法律関係 2～4 年次 / 4 単位 [年間授業/Yearly]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、会社法が規定する株式会社を中心に講義する。履修学生は、会社に関する制度や基礎概念、ひいては会社法が会社関係者の利害をどのように調整・規律しているのか、会社の利益をどのように分配するのかなど、会社法が定める制度の全体像を理解することを目的とする。本講義は、かかる理解に基づきながら、実際に問題となった紛争事例やその解決への道筋、すなわち制度の運用面において妥当な解決策を導き出すための能力を涵養する。

【到達目標】

本講義では、履修学生が、
①講義内で取り上げた会社法の各制度を説明できるようになること、
②会社法が関係する具体的な事例に対して、関連する条文や制度に基づきながら、一定の妥当な結論を導き出せるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルスの感染状況によるが、オンデマンド（映像・資料配信型）での実施を予定している。各回の授業計画・実施方法に変更が生じた際は、学習支援システムでその都度連絡する。オンライン講義を行うにあたっては、難解な専門用語やわかりづらい制度について平易な言葉で説明することで講義内容の理解を促す。また、適宜、学生からのリアクションペーパーの提出を求めることで学生の講義内容に対する理解状況の把握に努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation・会社法総論	全体の講義計画・各回講義概要・成績評価方法、基準等を説明したうえで、会社法の意義や株式会社制度について説明する。
第 2 回	会社の種類とその性質	会社法が規定する会社の種類（株式会社・持分会社）とそれぞれの会社の特徴を説明し、それぞれの会社の長所・短所などを比較・検討する。
第 3 回	会社の資金調達方法	会社による資金調達の必要性と会社法が規定する資金調達方法を概括的に説明する。
第 4 回	株式会社の設立方法・設立手続き	会社法が規定する株式会社の設立方法（発起設立・募集設立）および設立手続きを説明する。
第 5 回	株式会社の設立過程における法的問題点	会社設立時の法律問題のうち、仮装払込みを取り上げ説明・検討するとともに、かかる問題に対する会社法の規律を整理する。
第 6 回	株式の意義	株式とは何か、どのような機能を有しているのかを説明する。
第 7 回	株主の地位と株主間の利害調整	株主個人の権利義務と他の株主との関係をどのように調整するのか、会社法の規律を整理したうえで、事例を用いて検討する。
第 8 回	種類株式とその活用法	特殊な種類の株式の内容とその活用法につき、会社法の規律をもとに説明・検討する。
第 9 回	募集株式発行手続き	株式はどのような手続きに従い発行されるのか、発行時の法的問題（有利発行・不正発行等）とともに、整理・検討する。
第 10 回	株式の譲渡手続き	株主の投下資本回収方法としての譲渡手続きは会社法上どのように設定されているのか、事例も交えて説明する。
第 11 回	自己株式の意義と機能	自己株式とは何か、どのような機能を有しているのか・会社法が一定程度規制を課している理由はどこにあるのか、会社による払い戻しや関連事例を取り上げながら説明・検討する。
第 12 回	新株予約権の意義と機能	新株予約権とは何か、どのような機能・問題点を有しているのか、株式の内容と比較しながら説明・検討する。

第 13 回	社債・新株予約権付社債の意義と機能	社債・新株予約権付社債とは何か、どのような機能・問題点を有しているのか、株式・新株予約権と比較しながら説明・検討する。
第 14 回	春学期のまとめと理解度チェック	1 回～13 回の講義内容を振り返るとともに、学生の理解度をテストによりチェックする。
第 15 回	株式会社の機関設計	株式会社の内部は会社法によってどのように組織することができるのか、会社法が許容する機関設計を総論的に説明する。
第 16 回	株主総会の意義と機能	株主総会とは何か、どのような機能を有しているのか、会社法の規定をもとに説明する。
第 17 回	株主総会の瑕疵	株主総会に関する法的問題のうち、いわゆる瑕疵ある株主総会に対して会社法がどのような規律を定めているのか、関連事案とともに整理・検討する。
第 18 回	取締役・取締役会の意義と機能	取締役・取締役会とは何か、どのような機能を有しているのかにつき、会社法の規定を中心に整理説明する。
第 19 回	取締役の法的義務	取締役の会社・株主に対する法的義務につき、善管注意義務・忠実義務の説明を土台とした上で、内部統制システム構築義務・競業禁止義務・利益相反取引規制に関する法的問題を関連事案を取り上げながら説明・検討する。
第 20 回	監査役・監査役会・会計監査人・会計参与の意義と内容	会社法が定める、監査役・監査役会・会計監査人・会計参与の内容につき、整理・説明する。
第 21 回	役員の実務と責任追及のための仕組み	役員の実務（対会社責任・対第三者責任など）および、同責任に違反した役員への責任追及方法につき、それぞれ会社法がどのような規定を置いているのか関連事例をもとに説明・検討する。
第 22 回	委員会設置会社（監査等委員会設置会社・指名委員会等設置会社）の意義と概要	監査役・監査役会を置く従来型の株式会社以外の会社類型につき、会社法の規定をもとに説明する。
第 23 回	役員報酬	会社法が役員報酬に対して各種規定を置き規律している理由と、役員報酬が問題となった事例を説明・検討する。
第 24 回	株式会社の計算	株式会社の計算に関する会社法上の規定について、①財務情報開示、②剰余金分配規制との関係から説明する。
第 25 回	株式会社の組織再編	会社法が定める組織再編行為（組織変更・合併・分割・株式交換・株式移転）について、会社法の規定をもとに内容・手続きを説明する。
第 26 回	M&A に対する法規制	会社組織再編時に発生する各種法的問題（具体的には、反対株主による株式買取請求時の「公正な価格」の算定方法など）を説明・検討する。
第 27 回	持分会社の意義と概要	会社法が定める持分会社（合名・合資・合同会社）につき、株式会社と比較しつつ会社法の規定内容を説明する。
第 28 回	秋学期のまとめと理解度チェック	15 回～27 回の講義内容を振り返るとともに、学生の理解度をテストによりチェックする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料配信時に次回の講義内容を連絡するので、テキスト該当箇所を予習しておく。本講義の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

商事法講義 1 会社法、松嶋隆弘・大久保拓也編、中央経済社、2020 年

【参考書】

会社法判例百選（第 4 版）、神作裕之ほか編、有斐閣、2021 年

【成績評価の方法と基準】

新型コロナウイルスの感染状況によって変更が生じる可能性はあるが、成績評価の方法と基準は以下を予定している。
試験（80%）、平常点（20%）により成績を評価する。
※いずれもレポート課題を予定。
※※具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
※※※新型コロナウイルスの感染状況も考慮に入れつつ、なるべく学生の状況に配慮したうえで採点を行う予定である。

【学生の意見等からの気づき】

履修学生から、講義の理解度を高めるための措置を講義内に設けてほしいとの意見をもらった。

かかる意見に対応すべく、配信レジュメ内に小問や空欄を設けることとした。履修学生が講義内で問題に解答・空欄に補充をし、その直後に該当部分を教員が解説することで、履修学生の理解度を自身で把握してもらうとともに、理解不足であった場合には、解説を聞くことでその場ですぐ補完できるように改善した。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom などを利用した双方向型のオンライン授業は予定していない。ただ、学習支援システムを利用した映像・情報資料の配信を行う予定なので、同資料を視聴・ダウンロードあるいは閲覧できる情報環境（PC・スマートフォンなど問わず）は整えておいてください。

【その他の重要事項】

履修にあたって何か不都合が生じた場合は、気兼ねすることなく、教員や事務局まで問い合わせてください。

【関連科目】

民法・労働法

【Outline (in English)】

(Course outline)

Topics include the promotion and formation of corporations; the distribution of power between management and shareholders; the limitations on management powers imposed by corporate law etc.

Students who take this course aim to understand about the above points.

And, based on this understanding, students develop legal problem-solving skills, that is, "legal mind".

(Learning Objectives)

The goals of this course are, students will be able to (1)explain each system of the Company Act, (2)draw certain reasonable conclusions for specific cases related to the Company Act.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be informed of the content of the next lecture when the materials are uploaded, so prepare for the relevant part of the textbook.

The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be evaluated by examination (80%) and normal score (20%).

MAN100FA

広告論

宮井 弘之

特殊講義選択_特殊講義 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「広告」は、「マーケティング」の中でも実際に顧客との接点をつくる活動となるため、企業の成長に決定的な役割を演じることがあり、大変重要な活動である。本講義では、「広告」に関する基本的な概念や理論を解説した上で、近年中心となっているデジタル広告などの最新の動向も解説する。また、実際に広告業に従事する様々な社会人の方に来ていただき、講義をしてもらう。以上を通じて広告に関する理論と実践論を網羅的に把握してもらうことを目的とする。

【到達目標】

広告とはどういった活動で、経営のなかでどのように役立っているかを理解し、説明できる
学術的な広告論における基本的な概念について理解し、説明できる
広告戦略や広告の計画、実施の手順について理解し、説明できる
広告ビジネスに関わる会社の業種や働くひとの職種について理解し、説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

教室による対面での授業を前提とする。ただし、ゲストスピーカーをお呼びする場合はキャンパスまで来ていただくのが難しいことがあるため、その場合 ZOOM となる可能性が高い。

何度かグループワークを通じて、リアクションペーパーを書いてもらう
広告業界に従事する主要な業種から実務家を招き、講話をいただく
実務家からいただいた講話に関して質問を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【Outline (in English)】

【Outline】 In this lecture, we will explain the basic concepts and theories of "advertising" and the latest trends in digital advertising. In addition, we will have various working people who are actually engaged in the advertising industry come and give lectures. Through the above, the course aims to provide students with a comprehensive understanding of the theory and practice of advertising.

【Goal】

1. understand and explain what advertising is and how it is useful in management.
2. understand and explain basic concepts in academic advertising theory.
3. understand and explain advertising strategies and procedures for planning and implementing advertising

4. understand and explain the types of companies involved in the advertising business and the types of people who work there.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

As a preparatory study, students will be asked to collect specific advertising case studies. Students are expected to analyze real-life advertising activities based on the knowledge and theories they have acquired. Students are expected to spend 1-2 hours per class for preparation and review.

【Grading criteria】

No final exam will be given.

1. reaction paper through group work in each class (60%)

2. final report assignment (40%)

No private conversation is allowed during class, so students who cannot listen quietly should not take this course.

Group work will be incorporated into the class. No credit will be given to students who cannot participate in group work.

国際経済協力論 I

特殊講義選択_特殊講義 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進展する世界において、国と国の間に所得だけではなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】

本講義を通じて獲得を目指す基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取り組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりなし得ることについて、受講生が自分なりの意見や考えを持ち、人に伝えられるようになることが期待される。加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

国際経済協力論 I においては、講師の経済協力の実務経験の紹介も交えながら、日本の取り組みを中心に、経済協力の歴史や背景、その仕組みについての理解を深めるための講義を進める。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：国際経済協力（開発協力）とは？	国際経済協力（開発協力）とはどのような仕組みか、またなぜそのような仕組みが必要とされているのかについて理解する。
第 2 回	開発途上国とは？	開発途上国と呼ばれる国や地域はどのようにとらえられ、どのように生まれたのかを理解し、われわれが途上国をみる際の視点を再考する。
第 3 回	国際社会と開発協力の歴史（1）（1945 年～1960 年代）：戦後世界と南北問題	第二次世界大戦後の国際秩序形成の過程と南北問題の登場、初期の開発協力の取り組みについて概観する。
第 4 回	国際社会と開発協力の歴史（2）（1970 年～1980 年代）：経済協力への失望と変化の兆し	開発協力の初期の取り組みへの反省と幻滅、その後の変化につながる新たな考え方の登場を概観する。

第 5 回 国際社会と開発協力の歴史（3）（1990 年代～現在）：冷戦後の世界とグローバル化

冷戦終結後の国際秩序と、グローバル化下における開発協力の位置づけを概観する。

第 6 回 日本の開発協力の歩み（1）：被援助国から援助国へ

第二次世界大戦後の日本は援助を受ける国であったこと、その経験がその後の日本の開発協力に与えた影響について理解する。

第 7 回 日本の開発協力の歩み（2）：援助国としてのスタート

日本の援助国としての取り組みについて、1950 年代～1970 年代までの社会経済の変化とあわせ概観する。

第 8 回 日本の開発協力の歩み（3）：援助大国と日本の責任

日本の援助国としての取り組みについて 1980 年代～2000 年以降の社会経済の変化とあわせ概観する。

第 9 回 開発協力の仕組みと方法

日本の開発協力の仕組みと現状（特徴）につき、統計資料などをとらえて理解する。

第 10 回 開発協力の現場に関わる人々：政府、援助機関、企業、NGO(NPO)

日本の開発協力はどのような人々に担われているのかを理解する。特に政府（「官」）ではなく、「民」の果たしている役割の大きさについて理解する。

第 11 回 開発協力をめぐる議論の大きな流れ（1）：経済成長と人間開発

開発協力の基本的な目標の変遷について大きな流れとして理解する。「経済」重視から「人間」重視に移り変わる様子を、具体的な戦略（アプローチ）の変遷および SDGs のような国際目標を通じて理解する。

第 12 回 開発協力をめぐる議論の大きな流れ（2）：持続可能な開発と環境

開発協力の分野で環境をめぐる問題がとりあげられてきた経緯を知り、時代ごとに異なる環境問題の様相について理解する。

第 13 回 開発協力の評価と効果をめぐる議論

これまでの開発協力には効果があったのか、という問いに対する答えを概観する。そのうえでこれからの開発協力について考えるための材料を得る。

第 14 回 日本が開発協力を行う理由

日本は途上国への開発協力を続けるべきか、そうだとすればその理由は何か、日本国民がそれらの問いをどう考えているかを知る。そのうえで自分なりの答えを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。受講生は各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は利用せず、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

斎藤文彦（2005 年）『国際開発論』（日本評論社）
勝間靖編著（2012 年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
牧田東一編著（2013 年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力入門』（学陽書房）

外務省（毎年発行）『日本の開発協力』（ODA 白書）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（20%）と期末試験（80%）による。リアクションペーパーは加点要素とする場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどの対応の充実を目指す。また、提供される情報が多いため、理解しやすい形でメリハリをつけるよう留意する。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【その他の重要事項】

担当者は、途上国への経済協力を携わっている経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

This is the first part of the course on economic cooperation for developing countries putting an emphasis on Japanese Official Development Assistance (ODA). Students will be able to understand basic concept and background of economic cooperation for developing countries.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students are required to prepare for and review the lectures by using the materials introduced in each lecture. Students are required to refer to the appropriate sections of the references and reference books designated for each lecture as necessary before/after the lecture to deepen their understanding of the lecture content.

Grading will be based on the mid-term report (20%) and the final examination (80%). Reaction papers, if any, may be considered as an additional point factor.

国際経済協力論Ⅱ

特殊講義選択_特殊講義 2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけではなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】

本講義を通じて獲得する基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取り組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、受講生は自分なりの意見や考えを持てるようになることが期待される。加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

国際経済協力論Ⅱにおいては、国際経済協力の取り組みにおいて近年注目を浴びているテーマについてより深く解説する。特に、誰が、なぜ経済協力をを行うのか、経済協力の目的とされている「開発」とは一体何を意味するのか、という点を中心に各テーマにアプローチする。

必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：国際経済協力論Ⅰの復習と国際経済協力をめぐる課題の俯瞰	春学期講義の簡単な概括とあわせ、秋学期にとりあげるテーマについて「持続可能な開発目標（SDGs）」とあわせて全体像を紹介する。
第 2 回	開発と文化：経済協力の目的を問い直す視点	開発の目標がいかに歴史的に形作られてきたかを知り、多様な文化／社会と開発の関係を概観する。
第 3 回	新たな主体による開発協力（1）NGO(NPO)と市民社会	近年、開発協力において主たるアクターとなっている NGO(NPO)の活動について概観する。
第 4 回	新たな主体による開発協力（2）民間企業	一般に営利を追求すると思われる民間企業が、開発協力の分野で行っている活動を紹介し、その背景を概観する。
第 5 回	開発とジェンダー／マイクロクレジットという試み	ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行（バングラデシュ）を事例に、開発とジェンダーの関係について概観する。

第 6 回	人間の安全保障と開発協力	近年注目される「人間の安全保障」という考え方を知り、国際社会による「人間の安全保障」実現に向けた行動を概観する。
第 7 回	紛争と平和構築：テロとの戦いと脆弱国家の復興支援	開発協力と紛争／平和の関係について、近年の新たな取り組みをもとに考える。
第 8 回	アフリカ（1）：アフリカの苦悩 激しい貧困と機能しない国家	アフリカ諸国とそこに暮らす人々がおかれている厳しい状況について概観する。
第 9 回	アフリカ（2）：アフリカに対して何ができるのか	これまでのアフリカ支援の評価と今後の課題について概観する。
第 10 回	フェア・トレード（1）：なぜ今、フェア・トレードが重要か？	フェア・トレードとよばれる取り組みがなぜ必要とされているのかについて理解する。
第 11 回	フェア・トレード（2）：フェア・トレードの試みとその評価	具体的なフェア・トレードの取り組みを紹介し、その課題や現状について概観する。
第 12 回	国際経済協力や開発による自然・社会環境への影響	開発による環境への影響はどのようなものか概観し、環境への影響を回避／最小限にするためにとられる対策について理解する。
第 13 回	地球環境問題と経済協力：気候変動（地球温暖化）を中心に	気候変動（地球温暖化）を事例に、国際社会における環境と開発のバランスの議論を概観する。
第 14 回	まとめ：持続可能な開発目標（SDGs）と支援、パートナーシップ	さまざまな国際協力の課題や現状を踏まえて、これからの支援やパートナーシップのあり方について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。受講生は各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は利用せず、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

斎藤文彦（2005 年）『国際開発論』（日本評論社）
 勝間靖編著（2012 年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
 牧田東一編著（2013 年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力入門』（学陽書房）
 外務省（毎年発行）『日本の国際協力』（ODA 白書）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（20%）と期末試験（80%）による。リアクションペーパーは加点要素とする場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどの対応の充実を目指す。また、提供される情報が多いため、理解しやすい形でメリハリをつけるように授業運営に留意する。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【その他の重要事項】

担当者は、途上国への経済協力に携わっている経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

This is the second part of the course on economic cooperation for developing countries putting an emphasis on Japanese Official Development Assistance (ODA). Students will be able to understand basic concept and background of economic cooperation for developing countries.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students are required to prepare for and review the lectures by using the materials introduced in each lecture. Students are required to refer to the appropriate sections of the references and reference books designated for each lecture as necessary before/after the lecture to deepen their understanding of the lecture content.

Grading will be based on the mid-term report (20%) and the final examination (80%). Reaction papers, if any, may be considered as an additional point factor.

MAN200FA

寄附講座・資本市場の役割と証券投資

原 宏敏

特殊講義選択_特殊講義 2～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融資本市場の役割及び証券投資における重要なテーマについて、野村証券社員として豊富な実務経験を重ねた講師陣が 14 回の講義を通じてリレー形式で解説を行う。生きた経済や実践的な金融知識について学び、実生活において金融リテラシーを活用した行動がとれるようになる。
※講義テーマ、順番、講義形態等変更可能性あり。

【到達目標】

- 金融資本市場の役割や経済との関りを理解・習得できる。
- 「株式」「債券」「投資信託」「外国為替」などの証券市場・投資における各特徴や、分散投資の効用などが理解できる。
- 自身のライフプランニングや資産形成に必要な金融リテラシーが習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

- 野村グループ各講師による講義を進めていきます。
- 適宜授業中に質問を行ったり、計算問題を解いて頂くなど双方向でのやり取りが発生することもあります。
- 感染症対策などにより、対面授業が困難な場合、オンライン（Zoom、Webex 等）によるリアルタイム非対面授業や教材並びに音声ファイルの提供によるオンデマンド型の授業となる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「ガイダンス・経済情報の捉え方」	金融リテラシーを身につけることの重要性、本講座で学習する意義を理解する。我々の周りにおける様々な経済情報を通じて、どのように経済というものが成り立っているかを理解する。
第 2 回	「金融資本市場の役割とその変化」	重要性が高まっている金融市場への理解を深める為、金融の仕組み、我が国の資金循環の状況、経済と関連した最近の構造的変化などを学習し、金融市場の役割を理解する。
第 3 回	「債券市場の役割と投資の考え方」	債券と預貯金の違い、利回りと単価の関係などの基礎知識を踏まえた上で、債券価格（＝金利）の変動と景気・政策・需給などとの関連について理解を深める。また、債券投資に伴う投資リスクについても学習する。
第 4 回	「株式市場の役割と投資の考え方」	株式の誕生からその意義、原則などの基礎知識と、株式投資の魅力や株式市場について学習した後、株値の分析、評価方法を踏まえた銘柄選択の考え方などについて理解を深める。
第 5 回	「投資信託の役割とその仕組み」	「貯蓄から投資へ」と資産の流れが強まる中、その先導役として期待される投資信託の理解を深める。投資信託という言葉の意味から、特徴、仕組みなどについて学習する。また、投資信託の選び方や最近注目されている投資信託についても、具体的に学ぶ。

第 6 回 「リスク・リターンとポートフォリオ分析」

「リスクとは」「リターンとは」という基礎知識と、「リスク・リターン」の関係について学習し、ポートフォリオ構築の際の重要な要因である「分散投資」の考え方について学習する。

第 7 回 「外国為替相場とその変動要因について」

「外国為替」の基礎知識と、外国為替レートの変動要因について学習する。また世界の外国為替の状況を知る。

第 8 回 「グローバル化する世界と資本主義の果たす役割」

野村ホールディングス名物講師である池上シニア・コミュニケーションズ・オフィサーより、「グローバル化とフラット化の進展による世界の変化と、この新たな時代に何が求められるのか」について学ぶ。

第 9 回 「ライフプランニングと資産形成」

なぜライフプランが必要なのか、ライフプランを踏まえた資産管理の重要性、そしてその方法を具体的に紹介する。特に、資産形成制度を詳しく取り上げ、いま話題の少額投資非課税制度（NISA、ニーサ）についても紹介する。

第 10 回 「公的年金制度について」

この講義では、公的年金制度の仕組みや制度などの基礎知識、年金制度を取り巻く変化や、改正への動きを学習する。年金制度を正しく理解し、さらに自助努力も続けることは、ライフプランの充実につながる。

第 11 回 「確定拠出年金（DC）について」

この講義では、比較的に新しい年金制度である「確定拠出年金」について詳しく学ぶ。加入者が増えている現状を把握しながら、「企業型」と「個人型」の違いや「運用の仕組み」また「税制メリット」などを学び、最後に、社会人になって実際に確定拠出年金を活用する際にイメージできるように、具体的な運用商品のラインアップの例も含めて学習する。

第 12 回 「DC ポートフォリオの作成」

この講義では確定拠出年金制度を活用するにおいて、学んだ知識を活かしながら、実際に拠出金をどのような資産の組み合わせとし、自身の年金ポートフォリオを構築するかを模擬練習も交えて考えていく。

第 13 回 「マネープランの作成」

この講義では、自らの『マネープランの作成』を通じ、全体の講義のまとめとしていく。自らの資金管理がとて大切な時代であり、皆さんがこれから社会人となるにあたり、特にしっかりと対応すべき課題と考えるべきだろう。主体的な模擬体験を通じ、この講義で得た知識を自らの将来に生かしていただきたい。

第 14 回 試験

試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

金融資本市場・経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日頃から目を通しておくことが望ましい。各回の講義用資料による事後学習が望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、各回の講義資料を授業支援システムにて事前に配信予定。

【参考書】

「入門証券論 第3版」

榊原茂樹、城下賢吾、姜喜永、福田司文、岡村秀夫著／有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、平常点等 30 %

This course will be evaluated through:

- Term end examination : 70%.

- Participation and performance in classroom activities : 30%

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な事柄を重視しつつも、より現場感覚を盛り込んだ講義内容にするなど、資本市場をより身近なものと感じられる工夫をしております。

【学生が準備すべき機器他】

講義の1週間前を目途に、授業支援システムにて講義資料を配布予定です。

【その他の重要事項】

全講義の講師が証券業界・あるいはアセットマネジメント業界において勤務しています。

証券投資提案、ライフプランニング、アセットマネジメントなど各分野で活躍中の人材が最前線で起きている経済事象についての事例を交えながら講義を行います。

【関連科目】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【Outline (in English)】

Lecturers with abundant practical experience as Nomura Securities employees will explain the role of the financial and capital markets and important themes in securities investment in a relay format through 14 lectures.

MAN100FA

寄附講座・日本の物流と企業経営

李 瑞雪

特殊講義選択_特殊講義 1~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は一般社団法人日本物流団体連合会の寄附講座で、物流・ロジスティクスに関する概論的授業です。日本通運や日立物流、ヤマト運輸などの日本の代表的な物流企業の上級マネジャー、国土交通省の企画官、物流団体連合会の常任役員によるオムニバス方式をとります。レクチャーの受講によって物流・ロジスティクスの機能と活動を理解し、日本物流の実態と重要性を認識するのが主たる狙いです。

【到達目標】

本講義の受講によって、日本の物流産業を構成する海運業、宅配業、航空輸送業、陸運業、鉄道輸送業、倉庫業、システム物流業（3PL）、国際物流業などの各業界の特徴や概況、基礎知識を学習し理解します。また、製造企業や流通企業のロジスティクス・マネジメントに関する基礎概念や原理を知り、国の物流政策を理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

物流企業、国交省、物流団体連合会から 10 名以上の講師を招いて講義をしていただきます。講師の所属企業・組織は以下の予定です（登壇順）。社団法人日本物流団体連合会、ヤマト運輸株式会社、株式会社商船三井内航、SG ホールディングス株式会社、株式会社 ANA カーゴ、株式会社日新、株式会社日立物流、三菱倉庫株式会社、株式会社ニチレイロジグループ、日本郵船株式会社、国土交通省総合政策局、日本貨物鉄道株式会社。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要やスケジュールについての説明。授業で使われる重要な概念や専門用語の解説。
第 2 回	物流総論	日本物流団体連合会の役員による講演。日本の物流産業、企業経営と物流・ロジスティクス機能の関係についての全般的解説。
第 3 回	鉄道貨物輸送	日本貨物鉄道株式会社（JR 貨物）の役員による講演。鉄道貨物輸送の仕組み、特徴、現状、国際比較、将来の展望などについて解説。
第 4 回	外航海運	外航海運大手企業の上級マネジャーによる講演。外航海運の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第 5 回	内航海運	内航海運企業の上級マネジャーによる講演。内航海運の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第 6 回	トラック運送	大手陸運企業の経営者による講演。陸運の仕組み、特徴、現状、課題、将来展望などについて解説。
第 7 回	航空貨物輸送	航空貨物大手企業の上級マネジャーによる講演。航空貨物輸送の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第 8 回	宅配便	宅配便大手企業の上級マネジャーによる講演。宅配便の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第 9 回	国際物流	大手国際フォワーダー企業の上級マネジャーによる講演。国際物流の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第 10 回	サードパーティロジスティクス（3PL）	大手 3PL 企業の上級マネジャーによる講演。企業経営とロジスティクス機能との関係、日本におけるシステム物流（3PL）の仕組み、特徴、現状、国際比較、将来展望などについて解説。
第 11 回	倉庫	大手倉庫企業の上級マネジャーによる講演。営業倉庫の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第 12 回	食品物流	低温物流大手企業の上級マネジャーによる講演。食品物流の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第 13 回	物流政策	国土交通省の企画官による講演。日本政府の物流政策について解説。

第 14 回 物流と環境問題

大手物流企業の CSR 担当上級マネジャーによる講演。物流活動と環境問題の関係、モーダルシフトや共同物流といった環境にやさしい取組みについて解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当内容および授業システムにアップロードされた講義資料を事前に予習しておきます。物流・ロジスティクスに関する新聞記事に留意し、授業で学んだ知識と結びつけながら、記事の内容を理解し思考します。

【テキスト（教科書）】

『業界別 物流管理と SCM の実践』ミネルヴァ書房、2022 年

【参考書】

教科書の巻末付録を参照されたい。

【成績評価の方法と基準】

課題レポートなどの平常点（40 %）、期末試験（60 %）、授業参加（+ a）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答など講師との交流時間が作れるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムでの配布資料は必ず各自印刷して授業に持参すること。

【関連科目】

『経営戦略論』、『日本経済論』、『中小企業論』、『流通論』

【Outline (in English)】

This course is a basic lecture on the logistics industry and logistics management sponsored by Japan Association for Logistics and Transport (JALoT). The main objectives include understanding the importance, structure, functions, and basic activities of the logistics industry. Senior managers coming from more than ten big logistics firms will serve as lecturers, delivering basic and practical knowledge related to main logistics sectors including ocean freight, coastal freight, courier, warehousing, railway freight, air freight, packaging, 3PL, etc. Students will be expected to have completed the required assignments and feedback after each class meeting. Questions and active participation in the class will be welcomed. Your overall grade in the class will be determined based on the following: Term-end examination (50%), Short tests (30%), Class contribution (20%).

MAN200FA

寄附講座・上場会社におけるディスクロージャー制度

谷口 義幸

特殊講義選択_特殊講義 2~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、上場会社による企業情報の開示（ディスクロージャー）の主要なツールである有価証券報告書に代表される金融商品取引法に基づくディスクロージャー制度を中心に、会社法に基づくディスクロージャーや証券取引所規則に基づくディスクロージャーのほか、上場会社による自主的なディスクロージャーの趣旨・概要等について、事例を見ながら学習する。

【到達目標】

金融商品取引法・会社法に基づくディスクロージャー制度の趣旨・概要、証券取引所のディスクロージャー・ルールの趣旨・概要及びサステナビリティ報告書、統合報告書等による自主的なディスクロージャー（IR）の現状等について理解するとともに、実際の開示書類・開示情報を分析することによって、上場会社におけるディスクロージャー実務について理解を深めることを目標とする。加えて、上場会社に関する情報収集・分析・活用能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

授業は対面での講義形式で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	上場会社によるディスクロージャー概観	上場会社によるディスクロージャーの意義や各制度の概要について学ぶ。
第 2 回	金融商品取引法に基づくディスクロージャー（継続開示制度①）	有価証券報告書の提出義務・記載内容等について学ぶ。
第 3 回	金融商品取引法に基づくディスクロージャー（継続開示制度②）	有価証券報告書の開示事例の分析を行う。
第 4 回	金融商品取引法に基づくディスクロージャー（継続開示制度③）	有価証券報告書以外の継続開示書類の提出義務・記載内容等について学ぶ。
第 5 回	金融商品取引法に基づくディスクロージャー（発行開示制度）	有価証券の発行時のディスクロージャーについて学ぶ。
第 6 回	金融商品取引法に基づくディスクロージャー（公開買付制度・大量保有報告制度）	M&A の一手段である公開買付制度及び上場株券の大量保有に関する報告制度について学ぶ。
第 7 回	金融商品取引法に基づくディスクロージャー（開示不正・エンフォースメント）	開示不正事例（粉飾決算等による有価証券報告書の虚偽記載等）の分析を行うとともに、開示不正に対するエンフォースメントについて学ぶ。
第 8 回	会社法に基づくディスクロージャー（株主総会招集通知①）	株主総会招集通知に関する制度の趣旨・概要について学ぶ。
第 9 回	会社法に基づくディスクロージャー（株主総会招集通知②）	株主総会招集通知の事例の分析を行う。

第 10 回	証券取引所規則に基づくディスクロージャー（タイムリーディスクロージャー）	東京証券取引所が上場会社に義務づけるタイムリーディスクロージャーの制度概要について学んだ上で、事例について分析を行う。
第 11 回	証券取引所規則に基づくディスクロージャー（上場要件）	東京証券取引所の上場審査制度の概要を学ぶとともに、上場に際しての金融商品取引法上のディスクロージャーについても学ぶ。
第 12 回	上場会社のインベスター・リレーションズ（IR）	上場会社が自主的に行う IR（Investor Relations）について、その目的、具体的な開示方法、開示内容等を学んだ上で、IR の事例について分析を行う。
第 13 回	海外のディスクロージャー制度	海外（米国・英国）のディスクロージャー制度について、我が国のディスクロージャー制度との違いを踏まえながら学ぶ。
第 14 回	企業情報の入手方法とその活用	企業情報の入手方法について学んだ上で、実際の上場会社を取り上げ、開示情報をもとにその上場会社のビジネスモデルを分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・準備学習：事前に配付するレジュメを授業前に読んでおくことが望ましい。

・復習：授業において学習したディスクロージャー制度における複数の上場会社の開示情報を自ら入手し、比較・分析等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、毎回、事前にレジュメを配布する。

【参考書】

第 1 回目の授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業での学習状況や参加度による平常点（20 点）及び第 7 回・第 14 回の授業において提示するレポート課題の成績（各 40 点）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎授業終了後に「授業感想・質問等」の提出を求め、その内容を踏まえて授業内容の改善に努める。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【なし】

なし

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course introduces the purpose and outline of disclosures of corporate information by listed companies to students taking this course. It includes the disclosure system under the Financial Instruments and Exchange Act, represented by the securities report; the disclosure system under the Companies Act; the disclosure system under the stock exchange regulations; and voluntary disclosures by listed companies.

【到達目標（Learning Objectives）】

The objective of this course is to deepen understanding of disclosure practices of listed companies through analysis of actual disclosure documents and information, as well as understanding the purpose and outline of disclosure systems under the Financial Instruments and Exchange Law and Companies Act, the purpose and outline of disclosure rules of stock exchanges, and the current status of voluntary disclosure (IR) through sustainability reports, integrated reports, and other forms of disclosure. In addition, the course aims to improve students' ability to collect, analyze, and utilize information on listed companies.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students will be expected to read the resume distributed prior to the class.

After the class, students will be expected to obtain, compare, and analyze the disclosure information of multiple listed companies under the disclosure system studied in the class.

The standard preparation and review time for this class is one hour each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be decided based on in class contribution (20%) and short reports assigned twice (80%).

